高等専門学校機関別認証評価

# 自 己 評 価 書

平成２２年６月

沖縄工業高等専門学校

# 目　　次

Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ　目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

基準２　教育組織（実施体制） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

基準３　教員及び教育支援者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86

基準４　学生の受入 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 143

基準５　教育内容及び方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 173

基準６　教育の成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 385

基準７　学生支援等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 419

基準８　施設・設備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 633

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 667

基準10　財務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 761

基準11　管理運営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 781

# Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴

## １　現況

**（１）高等専門学校名**

沖縄工業高等専門学校

**（２）所在地**

沖縄県名護市

**（３）学科等の構成**

学　科：機械システム工学科
情報通信システム工学科
メディア情報工学科
生物資源工学科

専攻科：創造システム工学専攻

**（４）学生数及び教員数（平成22年５月１日現在）**

学生数：学科　830人
専攻科　65人

専任教員数：66人（校長を含む）

助手数：０人

## ２　特徴

（１）沿革

沖縄工業高等専門学校（以下，沖縄高専あるいは本校と略す）は地元産業界の強い要望を受け平成14年10月に55校目（設立当時）の国立高専として沖縄県に設置された。平成16年４月に第１回入学式を挙行し，平成20年に５期生の入学により，準学士課程５カ年の教育課程として完成した。平成21年４月に社会からの要請や準学士課程の進学意欲を持つ学生からの要望を受け，創造システム工学専攻の１専攻４コースからなる専攻科が設置された。なお，平成21年４月に国立高等専門学校機構に所属する留学生交流促進センターが本校に設置された。

（２）教育課程

本校は「人々に信頼され，開拓精神あふれる技術者の育成により，社会の発展に寄与する」を理念として教育を行っている。

本校は準学士課程の１，２年次に「規律・責任感・相互尊重の精神」を身につけさせることを目的として全寮制を採るほか，異なる学科の学生と交友を持つことにより，幅広い視野を持つ人材の育成を目指し，専門４学科の学生がほぼ均等となるよう混合学級を編成し教育を行っている。

また，４年次にインターンシップを必修科目とし，夏季休業中に２週間を目安に県内外の企業・大学・研究所等での実習を通した実践教育と職業意識の涵養を主としたキャリア教育を行っている。

情報化社会に対応するため実践的な情報リテラシーの獲得を目的に入学時にノートパソコンの購入を義務付け，本校のLAN設備を活用した電子メールによる連絡や課題提出，ファイルサーバーによる教材の提示など，日常的な教育の場での実践的な教育を行っている。また，多くの科目でPBL教育を実践しており，ひとつの課題をグループで取り組ませることで協調性，創造性，コミュニケーション能力の向上を図るとともに，パソコンを用いた実践的なプレゼンテーション能力を身につけさせている。

専攻科課程では工学における複合融合教育を目的として準学士課程の４学科に対応させた４つのコースからなる１つの創造システム工学専攻を設置している。４コース共通の必修科目を設定することにより，専門分野にとらわれない人材の育成を目指している。

（３）学生支援

各種コンテストに参加を希望している学生の課外活動を積極的に支援し，ほとんど全ての教員が部活動の顧問を務めるなど，学生の人間性涵養に務めている。高専ロボコンでは４年目には地区大会準優勝，５年目には全国優勝を果たし，高専プロコンでは３年目に審査委員特別賞を受賞するなど学生支援が有効に機能している。

また，学生や保護者からの要望を受け資格取得の支援も行っている。情報処理技術者試験では団体受験を行うとともに，学校から遠い受験会場へ交通手段を確保するなど支援を行っている。

（４）地域連携

本校では地域共同テクノセンターを平成19年度に設置し，沖縄県内を中心とした企業等から構成された沖縄高専産学連携協力会と協力しながら密接に地域連携を図っている。例えば，産学交流の場として年２回沖縄高専フォーラムを開催するほか，本校の設備を活用した3D-CADの技術講習会の実施，「OKINAWA型・実践的高度溶接技術者の育成事業」，「沖縄健康ブランド確立を目指した生産・管理技術者の育成事業」を実施した実績がある。また，地元産業界との共同研究の実施にも力をいれている。

さらに，小中学校に対する理工系の出前授業や学校開放授業，及び各種イベント等を通して地元からの教育ニーズなどに応えている。

# Ⅱ　目的

## １．沖縄工業高等専門学校の理念

本校では学則第１条において準学士課程，学士課程共通の理念を下記のように定めている。

「人々に信頼され，開拓精神あふれる技術者の育成により，社会の発展に寄与する」

## ２．準学士課程の目的及び目標

２．１　目的

学則第１条で定められた理念を達成するため，準学士課程の目的を学則第１条の２において下記のように定めている。

「本校は，教育基本法，学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。」

２．２　教育目標

学則で定められた理念・目的を達成するため，「沖縄工業高等専門学校に置く学科の人材養成上の目的及び教育目標に関する規程」において，準学士課程の各学科共通教育目標を下記のように定めている。

（１）各学科共通の教育目標

(1)　技術者に必要な基礎知識を備え，実践力のある人材を育成する

(2)　創造性を備え，自らの考え方を表現できる人材を育成する

(3)　専門的基礎知識を理解し，自ら学ぶことのできる人材を育成する

(4)　広い視野と倫理観を備えた人材を育成する

（２）学科毎の目的及び教育目標

【機械システム工学科】

（人材養成上の目的）

「モノ」の創造・設計・生産に必要な知識・技術をシステムとして統合した教育研究を行い，地球的視点での「モノづくり」を支える実践力の高い技術者を育成する。

（教育目標）

① 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力

② 材料・加工学等の要素技術やCAD・CAM・CAE等のコンピュータを使用した生産技術力

③ 各種力学，熱・流体工学等の要素技術や機械製品に関する設計技術力

④ 電気・電子工学，制御・メカトロニクス工学等を用いたシステム化技術力

【情報通信システム工学科】

（人材養成上の目的）

環境と技術の調和と社会的責任を考え，産業界の発展に寄与すべく，電気・電子工学と情報通信工学の基本技術を修得させ，情報通信機器などの設計・開発・運用のできる実践的・創造的技術者を育成する。

（教育目標）

① 総合科学分野情報通信技術を社会的視点で捉え，多面的に物事を考え，論理的に思考・説明できる能力

② コンピュータのハードウェアとソフトウェアの基礎知識を備え，通信を含む社会の様々な問題をシステムとして解決できる基本技術力

③ 通信システム設計，通信ネットワーク運用に必要となる通信工学と情報セキュリティなどの基本技術力

④ 情報通信技術の基礎となる電子工学の基礎知識とデジタル及びアナログの集積回路設計の基本技術力

【メディア情報工学科】

（人材養成上の目的）

数学や自然科学の基礎知識とメディア情報工学の専門的基礎知識をもとにして，産業界の発展に寄与し，社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。

（教育目標）

① 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力

② コンピュータのハードウェア，ソフトウェアの基礎技術を理解し，ネットワーク分野，コンテンツ分野に適用できる能力

③ モバイル通信，ネットワークとセキュリティの基礎技術を理解し，応用するための基本的な能力

④ 種々の情報を加工，表現する技術の基礎を理解し，表現できる能力

【生物資源工学科】

（人材養成上の目的）

環境に配慮し，生物資源の利用に必要な生物化学工学，環境科学，微生物学，食品系工学，バイオテクノロジーの基礎能力と専門技術を身につけ，産業界の要請に対応できる実践的・創造的技術者を育成する。

（教育目標）

① 生命科学の基礎となる自然・人文科学の基礎知識を活かし論理的に思考できる能力

② 地球環境保全の調査・分析に必要な基礎的技術力

③ 微生物学・食品科学の基礎技術を理解し，産業規模で実践できる技術力

④ 生物資源を利用した食品・化粧品などの開発に必要な基礎的技術力

## ３．学士課程の目的及び目標

### ３．１　目的

学則第１条で定められた理念を達成するため,学士課程の目的は学則第 59 条において下記のように定めている。

「専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工学に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し，豊かな人間性と国際性を持ち，実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけ，課題設定・解決能力に優れ柔軟な思考ができる高度開発型の技術者を育成することを目的とする。」

### ３．２　教育目標及び養成しようとする技術者像

【教育目標】

(1)知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する

(2)創造力を備え，自ら創造したものを表現できる人材を育成する

(3)専門知識を基にした応用力を持ち，自ら成長できる人材を育成する

(4)地球的視野と倫理観を備え，社会に貢献できる人材を育成する

【養成しようとする技術者像】

① 実践性と創造性を兼ね備えた技術者

② 社会や環境，人類の福祉などを地球的視点から考えられる技術者

③ グローバル化時代に対応する国際性豊かな技術者

④ コミュニケーション能力と統率力を兼ね備えた指導的技術者

⑤ 新技術・新産業創出を担う高度な専門技術力を持つ研究開発型技術者

⑥ 地域産業を担う起業家精神旺盛な技術者

## Ⅲ　基準ごとの自己評価

### 基準１　高等専門学校の目的

#### （１）観点ごとの分析

**観点１－１－①:　目的として，高等専門学校の使命，教育研究活動を実施する上での基本方針，及び，養成しようとする人材像を含めた，達成しようとしている基本的な成果等が，明確に定められているか。**

（観点に係る状況）

本校は開校に合わせて平成 16 年４月１日に学則を制定し,本校の理念及び目的を定めた。しかし，開校後，社会の変化と要請に対応するため平成 22 年３月 17 日に運営企画会議において学則の改正を行い(資料１－１－①－１),本校の学校としての理念と目的を定め直した(資料１－１－①－２)。学則に定めた目的を果たすために沖縄工業高等専門学校に置く学科の人材養成上の目的及び教育目標に関する規程に準学士課程の各学科共通の教育目標と学科毎の人材養成上の目的ならびに学生に習得させるべき能力を定めている（資料１－１－①－３)。

学士課程においては，平成 21 年４月の専攻科設置時に合わせて，平成 21 年２月 18 日に学則を改正し準学士課程の目的を定めた（資料１－１－①－４)。専攻科教育理念，育成しようとする技術者像，創造システム工学専攻の教育方針，各コースの教育方針を定め，学生生活の手引きに明記している（資料１－１－①－５，資料１－１－①－６)。

資料１－１－①－１

資料3

沖縄工業高等専門学校学則等の一部改正等について

【学　則】
沖縄工業高等専門学校学則（一部改正案）

【規　則】
沖縄工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則（一部改正案）
沖縄工業高等専門学校動物実験等に関する規則（制定案）
沖縄工業高等専門学校入試委員会規則（一部改正案）

【規　程】
沖縄工業高等専門学校学生相談室規程（一部改正案）

資料3−1

# 沖縄工業高等専門学校学則（一部改正案）

平成１６年４月１日
学　則　第１号
改正　平成１９年３月３０日
学　則　第１号
平成２０年３月３１日
学　則　第１号
平成２０年８月２０日
学　則　第２号
平成２１年２月１８日
学　則　第１号
平成２２年　月　日
学　則　第１号

目次

第１章　本校の理念及び目的（第１条−第１条の２）
第２章　教育研究水準の向上（第２条−第４条）
第３章　組織（第５条−第１１条の４）
第４章　修業年限、学年、学期、休業日及び授業終始の時刻（第１２条−第１６条）
第５章　教育課程等（第１７条−第２３条）
第６章　入学、転科、休学、転学、留学及び卒業（第２４条−第４０条）
第７章　検定料、入学料、授業料及び寄宿料（第４１条−第４９条）
第８章　外国人留学生（第５０条）
第９章　研究生、聴講生及び科目等履修生（第５１条−第５３条）
第10章　学生準則及び賞罰（第５４条−第５７条）
第11章　専攻科（第５８条−第６８条）
第12章　学生寮（第６９条）
第13章　公開講座（第７０条）
附則

## 第１章　本校の理念及び目的

（理念）

**第１条**　沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与することを理念とする。

（目的）

**第１条の２**　本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

## 第２章　教育研究水準の向上

（自己評価等）

**第２条**　本校の目的及び社会的使命を達成するため、本校における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

２　前項の点検及び評価の実施に関し必要な事項は、別に定める。

３　本校は、第１項の点検及び評価の結果について、本校の職員以外の者による検証を行うも

沖縄工業高等専門学校学則一部改正新旧対照表（抜粋）

| 新 | 旧 |
|---|---|
| （略） | （略） |
| 目次<br>第１章　本校の理念及び目的（第１条ー第１条の２）<br>第２章　教育研究水準の向上（第２条ー第４条）<br>第３章　組織（第５条ー第１１条の４）<br>第４章　修業年限、学年、学期、休業日及び授業終始の時刻（第１２条ー第１６条）<br>第５章　教育課程等（第１７条ー第２３条）<br>第６章　入学、転科、休学、転学、留学及び卒業（第２４条ー第４０条）<br>第７章　検定料、入学料、授業料及び寄宿料（第４１条ー第４９条）<br>第８章　外国人留学生（第５０条）<br>第９章　研究生、聴講生及び科目等履修生（第５１条ー第５３条）<br>第10章　学生準則及び賞罰（第５４条ー第５７条）<br>第11章　専攻科（第５８条ー第６８条）<br>第12章　学生寮（第６９条）<br>第13章　公開講座（第７０条）<br>附則 | 目次<br>第１章　本校の理念及び目的（第１条ー第１条の２）<br>第２章　教育研究水準の向上（第２条ー第４条）<br>第３章　組織（第５条ー第１１条の４）<br>第４章　修業年限、学年、学期、休業日及び授業終始の時刻（第１２条ー第１６条）<br>第５章　教育課程等（第１７条ー第２３条）<br>第６章　入学、転科、休学、転学、留学及び卒業（第２４条ー第４０条）<br>第７章　検定料、入学料、授業料及び寄宿料（第４１条ー第４９条）<br>第８章　外国人留学生（第５０条）<br>第９章　研究生、聴講生及び科目等履修生（第５１条ー第５３条）<br>第10章　学生準則及び賞罰（第５４条ー第５７条）<br>第11章　専攻科（第５８条ー第６８条）<br>第12章　学生寮（第６９条）<br>第13章　公開講座（第７０条）<br>附則 |
| 第１章　本校の理念及び目的 | 第１章　本校の理念及び目的 |
| （理念）<br>第１条　沖縄工業高等専門学校（以下、「本校」という。）は、人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与することを理念とする。 | （理念）<br>第１条　沖縄工業高等専門学校（以下、「本校」という。）は、人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与することを理念とする。 |
| （目的）<br>第１条の２　本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 | （目的）<br>第１条の２　本校は、豊かな人間性及び確固たる基礎能力と専門技術を身につけ、経済産業界の要請に的確に対応しつつ、国際的にも活躍できる創造的実践技術者を育成することを目的とする。 |

（出典　平成 21 年度第 11 回運営企画会議配付資料　抜粋）

資料１－１－①－２

**第１章**　本校の理念及び目的

（理念）

**第１条**　沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与することを理念とする。

（目的）

**第１条の２**　本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

（出典　沖縄工業高等専門学校学則　抜粋）

資料１－１－①－３

**沖縄工業高等専門学校に置く学科の人材養成上の目的及び教育目標に関する規程（一部改正案）**

平成２０年３月２５日
規　程　第　１　号
**改正**　平成２２年６月１６日
規　程　第　３　号

（趣旨）

第１条　この規程は、沖縄工業高等専門学校学則（平成１６年学則第１号。以下「学則」という。）第５条第４項の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）に置く学科の人材養成上の目的及び教育目標等に関し、必要な事項について定めるものとする。

（教育研究の明確化）

第２条　この規程においては、学則第１章に定める本校の理念及び目的のもとに、学則第５条第１項に定める４つの学科の人材養成上の目的及び学生に修得させるべき能力等の教育目標について示すものとする。

２　この規程に基づき、各学科ごとに体系的な教育課程を当該学生に提供するとともに、人的、組織的体制、物的環境等の整備に資するものとする。

３　第１項に定める人材養成上の目的及び教育目標については、本校ホームページ等により広く社会に公表するものとする。

（各学科共通の教育目標）

第３条　本校の各学科共通の教育目標については、次のとおりとする。

(1)　技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する
(2)　創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する
(3)　専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する
(4)　広い視野と倫理観を備えた人材を育成する

（機械システム工学科）

第４条　機械システム工学科の人材養成上の目的及び教育目標については、次のとおりとする。

(1) 人材養成上の目的

「モノ」の創造・設計・生産に必要な知識・技術をシステムとして統合した教育研究を行い、地球的視点での「モノづくり」を支える実践力の高い技術者を育成する。

(2) 学生に修得させるべき能力（教育目標）

① 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
② 材料・加工学等の要素技術やCAD・CAM・CAE等のコンピュータを使用した生産技術力
③ 各種力学、熱・流体工学等の要素技術や機械製品に関する設計技術力
④ 電気・電子工学、制御・メカトロニクス工学等を用いたシステム化技術力

（情報通信システム工学科）

第５条　情報通信システム工学科の人材養成上の目的及び教育目標については、次のとおりとする。

(1) 人材養成上の目的

環境と技術の調和と社会的責任を考え、産業界の発展に寄与すべく、電気・電子工学と情報通信工学の基本

技術を修得させ、情報通信機器などの設計・開発・運用のできる実践的・創造的技術者を育成する。

(2) 学生に修得させるべき能力（教育目標）

① 総合科学分野情報通信技術を社会的視点で捉え、多面的に物事を考え、論理的に思考・説明できる能力

② コンピュータのハードウェアとソフトウェアの基礎知識を備え、通信を含む社会の様々な問題をシステムとして解決できる基本技術力

③ 通信システム設計、通信ネットワーク運用に必要となる通信工学と情報セキュリティなどの基本技術力

④ 情報通信技術の基礎となる電子工学の基礎知識とデジタル及びアナログの集積回路設計の基本技術力

（メディア情報工学科）

第６条　メディア情報工学科の人材養成上の目的及び教育目標については、次のとおりとする。

(1) 人材養成上の目的

数学や自然科学の基礎知識とメディア情報工学の専門的基礎知識をもとにして、産業界の発展に寄与し、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。

(2) 学生に修得させるべき能力（教育目標）

① 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力

② コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの基礎技術を理解し、ネットワーク分野、コンテンツ分野に適用できる能力

③ モバイル通信、ネットワークとセキュリティの基礎技術を理解し、応用するための基本的な能力

④ 種々の情報を加工、表現する技術の基礎を理解し、表現できる能力

（生物資源工学科）

第７条　生物資源工学科の人材養成上の目的及び教育目標については、次のとおりとする。

(1) 人材養成上の目的

環境に配慮し、生物資源の利用に必要な生物化学工学、環境科学、微生物学、食品系工学、バイオテクノロジーの基礎能力と専門技術を身につけ、産業界の要請に対応できる実践的・創造的技術者を育成する。

(2) 学生に修得させるべき能力（教育目標）

① 生命科学の基礎となる自然・人文科学の基礎知識を活かし論理的に思考できる能力

② 地球環境保全の調査・分析に必要な基礎的技術力

③ 微生物学・食品科学の基礎技術を理解し、産業規模で実践できる技術力

④ 生物資源を利用した食品・化粧品などの開発に必要な基礎的技術力

（雑則）

第８条　この規程に定めるもののほか、学科の人材養成上の目的及び教育目標等に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この規程は、平成２０年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成２２年６月１６日から施行し、平成２２年４月１日から適用する。

（出典　沖縄工業高等専門学校に置く学科の人材養成上の目的及び教育目標に関する規程）

資料１－１－①－４

**第１１章**　専攻科

（設置）

**第５８条**　本校に、専攻科を置く。

（目的）

**第５９条**　専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工学に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、豊かな人間性と国際性を持ち、実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけ、課題設定・解決能力に優れ柔軟な思考ができる高度開発型の技術者を育成することを目的とする。

（出典　沖縄工業高等専門学校学則　抜粋）

資料１－１－①－５

# Ⅰ　沖縄高専の教育目標

本校は，学則第１条の２において次のように目的を定めています。

「本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」

この目標を達成するために、本科及び専攻科の教育目標を次のように定めています。

＜本科教育目標＞

１．　技術者に必要な基礎知識を備え実践力のある人材を育成する
２．　創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する
３．　専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する
４．　広い視野と倫理観を備えた人材を育成する

＜専攻科教育目標＞

１．　知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する
２．　想像力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する
３．　専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する
４．　地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する

日本技術者教育認定機構（JABEE）では，自立した技術者の育成を目的として以下に掲げる教育目標を設定しています。

(a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
(b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果，および技術者が社会に対して負っている責任に関す

る理解（技術者倫理）
(c) 数学，自然科学および情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力
(d) 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを応用できる能力
(e) 種々の科学，技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
(f) 日本語による論理的な記述力，口頭発表力，討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション能力
(g) 自主的，継続的に学習できる能力
(h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め，まとめる能力

（出典　学生生活の手引き　P. 1）

資料１－１－①－６

沖縄高専　専攻科学生便覧

１．　専攻科概要

・専攻科の制度と特色

高専の専攻科は学校教育法（第 10 章第 119 条）の条文「高等専門学校には、専攻科を置くことができる」に基づいて設置されており、その内容は同条文２において、「高等専門学校の専攻科は、高等専門学校を卒業した者又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者に対して、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的とし、その修業年限は、１年以上とする」となっています。また、認定専攻科を修了した学生は大学評価・学位授与機構による所定の審査に合格することで学士の学位を取得することができます。沖縄高専は平成２１年２月に認定専攻科として認められました。大学評価・学位授与機構による短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定に関する規則の第２条において、認定専攻科の要件として「教育課程は、大学教育に相当する水準を有するものであること」が明記されています。従って，高専本科と大きく異なる点は、専攻科では大学と同等水準の教育を行うことがあげられます。さらに、教育水準の維持、向上のために活発な研究活動も位置づけられており、大学院の修士課程なみの教育が含まれているのも特長です。
近年、産業界では、複合専門分野における課題をシステム的、かつ創造的に解決する能力が求められています。沖縄高専では、実践性・創造性を兼ね備え、複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけたリーダーシップのある技術者、豊かな人間性と国際性をもつ技術者、課題設定・解決能力を持ち柔軟な思考ができる技術者の育成を目指して、専攻科名を「創造システム工学専攻」としています。創造システム工学専攻は、本科の関連科目と学位取得専門区分に対応するように、機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースの４コースから構成されています。

２．　専攻科の理念、目的、技術者像、教育目標、教育方針

学校教育法の精神に則り、社会の要請に応えるために、沖縄高専専攻科は以下の理念、目的、技術者像、教育目標、教育方針を掲げています。

・理念：　人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する。

・目的：　高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工学に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、豊かな人間性と国際性を持ち、実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけ、課題設定・解決能力に優れ柔軟な思考ができる高度開発型の技術者を育成する。

・育成しようとする技術者像：
①　実践性と創造性を兼ね備えた技術者
②　社会や環境、人類の福祉などを地球的視点で考えられる技術者
③　グローバル化時代に対応する国際性豊かな技術者
④　コミュニケーション能力と統率力を兼ね備えた指導的技術者
⑤　新技術・新産業創出を担う高度な専門技術力を持つ研究開発型技術者
⑥　地域産業を担う起業家精神旺盛な技術者

・教育目標：
①　知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する。
②　創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する。
③　専門知識を基にした応用力をもち、自ら成長できる人材を育成する。
④　地球的視野と倫理観を備え社会に貢献できる人材を育成する。

・教育方針：　本科５年間の専門基礎教育の上に、更に２年間のより高度な専門教育を行います。専門教育では実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけたリーダーシップのある技術者、豊かな人間性と国際性をもつ技術者、課題設定・解決能力をもち柔軟な思考ができる技術者の育成を目指します。機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースと関連の深い本科の教育課程を基礎として、それぞれの専門性を更に高めながら、異なる専門分野にも対応し、実践的な研究の課題設定・解決を目指す教育課程を編成します。経済産業界における実践的な技術応用を学ぶために、企業等と連携した共同教育を推進します。

＜機械システム工学コース＞
本コースでは、マイクロマシンのような微細システムから、航空宇宙産業といった巨大システムまで、あらゆるモノづくりの基本となる機械工学の分野において、創造・開発・設計・生産に必要な知識・技術をシステムとして統合した教育・研究を行い、環境と共生できる「モノ作り」を支える研究・開発型の技術者を育成する。

＜電子通信システム工学コース＞

本コースでは、情報通信分野の要素技術である、デバイス、集積回路、光・無線通信、マイクロ波、信号処理、アルゴリズム、シミュレーションといった知識を修得し、先端的な情報通信技術分野で活躍できる研究・開発型の創造的実践的技術者を育成します。本コースの特長は、電子工学・情報工学・通信工学の３分野を総合的に学ぶことができる融合・複合型の教育課程を編成することであり、関連分野における多角的な知識や実践力を身につけることを目標とします。

＜情報工学コース＞
本コースでは、コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア)、ネットワーク（有線ネットワーク、モバイル通信ネットワーク、光ファイバー通信ネットワーク)、メディアコンテンツ（画像、映像、音声）などの先端的なメディア・情報・通信技術分野での研究開発において活躍できる豊かな創造性と実践能力を有する技術者を育成する。不足する優秀な IT 技術者を排出するため情報工学分野のより高度な技能を深める教育を行う。

＜生物資源工学コース＞
近年、環境問題、新型インフルエンザ等の医療問題など生命科学の分野に関わる重要な問題が多出し、この分野に属する技術者の活躍が期待されています。
　本コースでは、本科（生物資源工学科）で履修した「生物化学工学群」、「環境・微生物学群」、「食品化学工学群」の３つの柱を基盤に、より高度で創造的な技術力と問題解決能力を持った技術者を育成します。
　また、沖縄の地域性を活かし、併せて、国際的にも調和していける実践力を身につけることを目標とします。

（出典　学生生活の手引き　P.59-61）

（分析結果とその根拠理由）
本校では，高等専門学校としての使命を果たすため，理念，目的を明確に定めている。また，準学士課程においては学科共通の教育目標を定めているほか，学科毎に人材養成上の目的ならびに学生に習得させるべき能力を定めている。学士課程においても教育理念，教育方針等を明確にするとともに，教育目標を定めている。
以上のことから，本校は，高等専門学校として目的を明確に定めている。

**観点１－１－②：　目的が，学校教育法第115条に規定された，高等専門学校一般に求められる目的から，はずれるものでないか。**

（観点に係る状況）

学校教育法第 115 条に高等専門学校の目的として「高等専門学校は，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と掲げられている。学則に定めた本校の目的は，学校教育法第 115 条で規定された高等専門学校の目的を踏まえて定めたものである（資料１－１－②－１）。さらに学則に定めた目的では「教育基本法，学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づく」ことを明確に掲げている。

また，本校の学士課程と準学士課程の教育目標は学校教育法第 115 条に定められた目的を達成するよう定められており対応付けできる（資料１－１－②－２）。

資料１－１－②－１

**第１章**　本校の理念及び目的

（理念）

**第１条**　沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）は，人々に信頼され，開拓精神あふれる技術者の育成により，社会の発展に寄与することを理念とする。

（目的）

**第１条の２**　本校は，教育基本法，学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

（出典　沖縄工業高等専門学校学則）

資料１－１－②－２

学校教育法第 115 条に定められた高等専門学校の目的と本校の教育目標の対応

学校教育法第 115 条において、以下のように高等専門学校の目的が規定されている。

「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」

この規定においては「深く専門の学芸を教授」することと「職業に必要な能力を育成する」ことの２つの項目を目的とすることと解釈できる。

それぞれの項目と本校の本科と専攻科の教育目標は下記の様に対応付けがなされていることから、本校の教育目標は学校教育法第 115 条の定める高等専門学校の目的から外れるものではない。

| 「深く専門の学芸を教授」に対応した教育目標 |
| --- |
| 【本科教育目標】<br>目標１　技術者に必要な基礎知識を備え実践力のある人材を育成する<br>目標３　専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 【専攻科教育目標】<br>目標１　知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する<br>目標３　専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する |

| 「職業に必要な能力を育成する」に対応した教育目標 |
| --- |
| 【本科教育目標】<br>目標２　創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する<br>目標４　広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |
| 【専攻科教育目標】<br>目標２　想像力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する<br>目標４　地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する |

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校は，学校教育法第 115 条に規定された目的に沿って「学則第１章第１条」に目的を定めており，高等専門学校一般に求められる目的からはずれるものではない。

**観点１－２－①：　目的が，学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。**

（観点に係る状況）

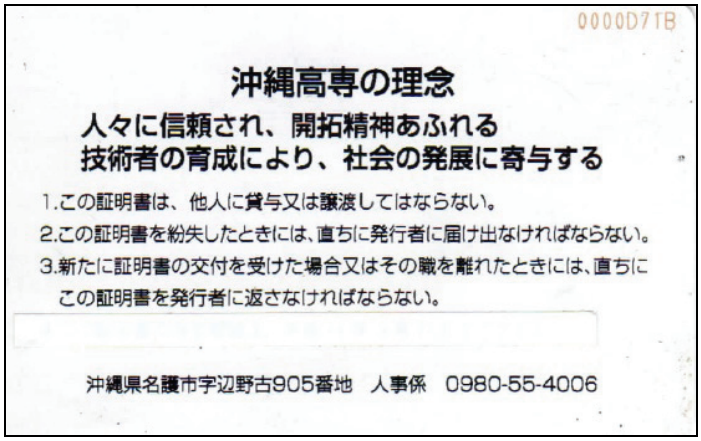
本校の理念は全ての教職員に発行されている身分証明書ならびに全ての学生に発行されている学生証の裏面に明記されており（資料１－２－①－１），常時携帯することを求めている。

本校の目的は学生生活の手引き（資料１－２－①－２）に掲載している。本科学生の新入生に対しては入学時のガイダンスで説明（資料１－２－①－３）を行っている。学生に対する周知は学生生活の手引きを全学生に配布している他，本科在校生，専攻科生に対しては平成 22 年３月 17 日の学則の改正に伴う目的の変更に伴い，LHR や空き時間をつかって説明（資料１－２－①－４，１－２－①－５）するなど，周知を行い学生自身の学習の方向付けを図っている。

教員に対しても，全教員に対して学生生活の手引きを配布する他，平成 22 年３月 17 日の学則の改正に伴う目的の変更の内容について全教員が出席する教員会議において説明を行っている（資料１－２－①－６，資料１－２－①－７）。非常勤講師については本校の目的やアドミッションポリシーを明記した文書を全員に配布することによって周知を図っている（資料１－２－①－８）。

職員に対しては，本校の目的やアドミッションポリシーを明記した文書を全部署に対して回覧することによって周知している（資料１－２－①－９，資料１－２－①－10）。

資料１－２－①－１



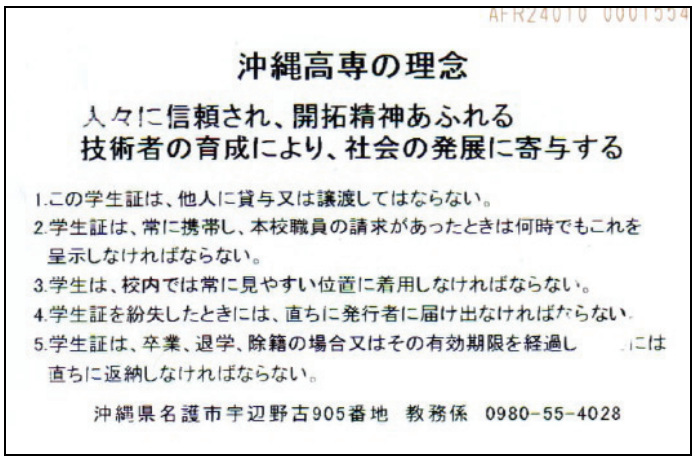
0000D71B

**沖縄高専の理念**

**人々に信頼され、開拓精神あふれる**
**技術者の育成により、社会の発展に寄与する**

1.この証明書は、他人に貸与又は譲渡してはならない。
2.この証明書を紛失したときには、直ちに発行者に届け出なければならない。
3.新たに証明書の交付を受けた場合又はその職を離れたときには、直ちに
この証明書を発行者に返さなければならない。

沖縄県名護市字辺野古905番地　人事係　0980-55-4006



**沖縄高専の理念**

**人々に信頼され、開拓精神あふれる**
**技術者の育成により、社会の発展に寄与する**

1.この学生証は、他人に貸与又は譲渡してはならない。
2.学生証は、常に携帯し、本校職員の請求があったときは何時でもこれを
呈示しなければならない。
3.学生は、校内では常に見やすい位置に着用しなければならない。
4.学生証を紛失したときには、直ちに発行者に届け出なければならない。
5.学生証は、卒業、退学、除籍の場合又はその有効期限を経過し　　には
直ちに返納しなければならない。

沖縄県名護市字辺野古905番地　教務係　0980-55-4028

（出典　身分証明書の裏面（上），学生証の裏面（下））

資料１－２－①－２

# Ⅰ　沖縄高専の教育目標

本校は，学則第１条の２において次のように目的を定めています。

「本校は，教育基本法，学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。」

この目標を達成するために，本科及び専攻科の教育目標を次のように定めています。

＜本科教育目標＞

１．　技術者に必要な基礎知識を備え実践力のある人材を育成する
２．　創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する
３．　専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する
４．　広い視野と倫理観を備えた人材を育成する

＜専攻科教育目標＞

１．　知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する
２．　想像力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する
３．　専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する
４．　地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する

日本技術者教育認定機構（JABEE）では，自立した技術者の育成を目的として以下に掲げる教育目標を設定しています。

(a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
(b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果，および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解（技術者倫理）
(c) 数学，自然科学および情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力
(d) 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを応用できる能力
(e) 種々の科学，技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
(f) 日本語による論理的な記述力，口頭発表力，討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション能力
(g) 自主的，継続的に学習できる能力
(h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め，まとめる能力

（出典　学生生活の手引き　P. １）

資料１－２－①－３

## 高等専門学校の目的
（国立高専機構法での目的）

職業に必要な実践的＊1かつ専門的な知識及び技術を有する創造的＊2な人材を育成するとともに，我が国の高等教育＊3の水準の向上と均衡ある発展を図ること

＊1：実践的とは・・・自分で行動にうつせる事。
＊2：創造的とは・・・新しいものを、自分の考えで造り出すこと。
＊3：高等教育機関とは・・・大学，短期大学，高専など
・・・・（注） 高等学校は後期中等教育機関

3

## 沖縄高専の教育理念

人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する。

4

## 教育目標

1. 技術者に必要な基礎知識を備え実践力ある人材を育成する
   技術者として必要な基礎知識と技術力、自ら必要な行動ができる力
2. 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する
   価値あるものを新たに作り出す能力、物事や自己の考えを表現できる力
3. 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する
   科学技術の原理や本質を理解できる力、自らを啓発できる力
4. 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する
   地球的視点及び共生の視点で思考できる力、他者を尊重し，協調して取り組む力

5

（出典　総務主事による新入生オリエンテーション資料　P．３－５）

資料１－２－①－４

2,3,4,5 年担任および専攻科コース長各位殿
cc:正木自己点検・評価委員長，総務係

沖縄高専機械システムの松栄です。
いつもお世話になっております。

4 月の教員会議にてお願い致しました「沖縄高専の目的，目標改訂の説明」
を各クラス，学科およびコースにおいて実施頂きますようお願い致します。

１．別紙「沖縄高専の目的目標改定」について学生に説明
　目的
　　沖縄高専の目的の法的根拠を追加したこと
　　旧目的の内容を「深く専門の・・・・を育成することに」凝縮したこと
　目標
　　旧目標の 8 つの目標を 4 つにまとめ，旧目標を踏襲した上で表現を変えた
　　旧目標と新目標の対比
　　目標に専攻科教育目標を追加したこと
　　専攻科目標は本科教育目標を踏襲しつつ高度化した（専攻科のみ）

　　旧目的・目標について，学生は新入生オリエンテーションにて説明を受
　　けていますが，簡単に解説頂ければより内容が理解できるかと思います

２．実施
　　6 月末までに実施して下さい
　　2，3 年は LHR で機会を捉えて実施下さい（担任が説明）
　　4，5 年，専攻科 1,2 年は学科相談の上，説明者，実施時を決めて下さい
３．実施後の連絡依頼
　　説明実施後，実施した日時と時限を松栄までご連絡下さい
　　本科生の出席確認はキャンパスメイトにて実施します
　　専攻科生の出席は松栄まで出席簿コピーご提出下さい
　　欠席者には，松栄の研究室まで説明を受けに来るように後日指導下さい

以上，宜しくお願いいたします。
**********
松栄　準治
MATSUE, Junji

沖縄工業高等専門学校
Okinawa National College of Technology

905-2192　沖縄県名護市辺野古 905
905　Henoko, Nago City, Okinawa 905-2192, Japan

[redacted]

（出典　総務主事が 2010 年 5 月 12 日に送信したメール本文）

資料１－２－①－５

沖縄高専の目的目標改定

【沖縄高専の理念】
人々に信頼され，開拓精神あふれる技術者の育成により，社会の発展に寄与する。

【沖縄高専の目的】
（現状）
本校は，豊かな人間性及び確固たる基礎能力と専門技術を身につけ，経済産業界の要請に的確に対応しつつ，国際的にも活躍できる創造的実践技術者を育成することを目的とする。（学則第１条の２）

（改定）
本校は，教育基本法，学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

【教育目標】

| （現状） | （改定） |
|---|---|
| 沖縄工業高等専門学校は，本科 5 年間にわたる一貫教育をとおして，「以下に掲げる八つの力と高い専門知識を身に付けた，創造性豊かな実践的技術者の育成」を教育理念とし，これに加えて，豊かな人間性，倫理観，国際性をそなえ，社会に貢献できる人材を育成することを目的としています。<br><br>１．地球的思考力<br>地球的視点及び共生の視点に立ってものごとを理解し，思考できる力 | ＜本科教育目標＞<br>１．技術者に必要な基礎知識を備え，実践力のある人材を育成する<br>旧８つの力の４と７<br>２．創造性を備え，自らの考え方を表現できる人材を育成する<br>旧８つの力の３と８<br>３．専門的基礎知識を理解し，自ら学ぶことのできる人材を育成する<br>旧８つの力の５と６<br>４．広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

| | |
|---|---|
| ２．協調性・理解力<br>　　他者及び他文化を尊重し，協調してものごとに取り組むことができる<br>　　力<br>３．表現力<br>　　ものごとや自己の考えを表現できる力<br>４．実践力<br>　　社会や組織における自己の位置と責任を自覚し，自ら必要な行動ができる力<br>５．自己学習力<br>　　技術に対する興味や関心を持続しつつ，自らを啓発できる力<br>６．本質理解力<br>　　科学技術の原理や本質を理解できる力<br>７．基礎知識・理解力<br>　　技術者として必要な基盤的知識と技術力<br>８．創造性<br>　　価値あるものを新たに作り出す能力 | 旧８つの力の１と２<br><br>＜専攻科教育目標＞<br>１．知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する<br>本科教育目標の１に対応<br>２．創造力を備え，自ら創造したものを表現できる人材を育成する<br>本科教育目標の２に対応<br>３．専門知識を基にした応用力を持ち，自ら成長できる人材を育成する<br>本科教育目標の３に対応<br>４．地球的視野と倫理観を備え，社会に貢献できる人材を育成する<br>本科教育目標の４に対応 |

（出典　総務主事が 2010 年 5 月 12 日に送信したメールの添付資料）

資料１－２－①－６

**平成２２年度第１回沖縄工業高等専門学校教員会議**

１．日　　時　　平成２２年　４　月２８日（水）　　判定会議終了後

２．場　　所　　メディア棟３階　視聴覚ホール

３．議　　題

（１）報告事項等
- 沖縄工業高等専門学校平成２２年度年度計画の策定について
- 沖縄工業高等専門学校の目的・目標の改定について
- 平成２２年度沖縄工業高等専門学校各種委員会等委員について
- 教員との個人面談の実施について
- 学生寮における行き過ぎた指導等について
- 専攻科生の指導等について

・美ら島沖縄総体について
・高校総体について
・沖縄工業高等専門学校における特別支援について

（２）その他
・その他

４．資　　料
① 沖縄工業高等専門学校平成２２年度年度計画の策定について
② 沖縄高専の目的目標改定
③ 平成２２年度沖縄工業高等専門学校各種委員会等一覧　（案）
④ 沖縄高専における特別支援 ビジョンと具体案

（出典　平成 22 年度第１回沖縄工業高等専門学校教員会議議事次第）

資料１－２－①－７

沖縄高専の目的目標改定

【沖縄高専の理念】
人々に信頼され，開拓精神あふれる技術者の育成により，社会の発展に寄与する。

【沖縄高専の目的】
（現状）
本校は，豊かな人間性及び確固たる基礎能力と専門技術を身につけ，経済産業界の要請に的確に対応しつつ，国際的にも活躍できる創造的実践技術者を育成することを目的とする。（学則第１条の２）

（改定）
本校は，教育基本法，学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

【教育目標】

| （現状） | （改定） |
|---|---|
| 沖縄工業高等専門学校は，本科 5 年間にわた | ＜本科教育目標＞ |

| | |
|---|---|
| る一貫教育をとおして，「以下に掲げる八つの力と高い専門知識を身に付けた，創造性豊かな実践的技術者の育成」を教育理念とし，これに加えて，豊かな人間性，倫理観，国際性をそなえ，社会に貢献できる人材を育成することを目的としています。<br><br>１．地球的思考力<br>地球的視点及び共生の視点に立ってものごとを理解し，思考できる力<br>２．協調性・理解力<br>他者及び他文化を尊重し，協調してものごとに取り組むことができる<br>力<br>３．表現力<br>ものごとや自己の考えを表現できる力<br>４．実践力<br>社会や組織における自己の位置と責任を自覚し，自ら必要な行動ができる力<br>５．自己学習力<br>技術に対する興味や関心を持続しつつ，自らを啓発できる力<br>６．本質理解力<br>科学技術の原理や本質を理解できる力<br>７．基礎知識・理解力<br>技術者として必要な基盤的知識と技術力<br>８．創造性<br>価値あるものを新たに作り出す能力 | １．技術者に必要な基礎知識を備え，実践力のある人材を育成する<br>旧８つの力の４と７<br>２．創造性を備え，自らの考え方を表現できる人材を育成する<br>旧８つの力の３と８<br>３．専門的基礎知識を理解し，自ら学ぶことのできる人材を育成する<br>旧８つの力の５と６<br>４．広い視野と倫理観を備えた人材を育成する<br>旧８つの力の１と２<br><br>＜専攻科教育目標＞<br>１．知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する<br>本科教育目標の１に対応<br>２．創造力を備え，自ら創造したものを表現できる人材を育成する<br>本科教育目標の２に対応<br>３．専門知識を基にした応用力を持ち，自ら成長できる人材を育成する<br>本科教育目標の３に対応<br>４．地球的視野と倫理観を備え，社会に貢献できる人材を育成する<br>本科教育目標の４に対応 |

（出典　平成 22 年度第１回沖縄工業高等専門学校教員会議　資料）

資料１－２－①－８

非常勤講師各位

沖縄工業高等専門学校
教務主事　平山　けい

本校の理念・目的・教育目標・アドミッションポリシー
に対する御理解のお願い

平素から本校の教育に対する御支援と御理解を頂き，ありがとうございます。
本校は開校時から教育理念を掲げ，その理念を実現するための教育目的や教育目標を定め，それに従った教育活動をしております。　この教育目的や目標は本科と専攻科ではそれぞれ別のものを定めております。
さらに，この教育目的や目標に従った教育をするために，アドミッションポリシーを定め，それに従った入学者選抜を実施しております。
貴殿におかれては本校の教育方針を御理解いただいた上で，学生に対する教育を行っておられるとは存じますが，今一度，別紙の本校の理念・目的・教育目標・アドミッションポリシーを御一読頂き，御理解の上，本校学生に対する教育に当たって頂きますようよろしくお願いします。

（出典　教務主事よりの依頼文）

資料１－２－①－９

職員各位

沖縄工業高等専門学校
事務部長　川　満　信　男

本校の理念・目的・教育目標・アドミッションポリシーについて

職員の皆様におかれては本校の教育方針を御理解いただいた上で，業務を行っておられるとは思いますが，今一度，別紙の本校の理念・目的・教育目標・アドミッションポリシーを御一読頂き，御理解の上，業務に当たって頂きますようよろしくお願いします。

（出典　事務部長よりの依頼文）

資料１－２－①－10

技術支援室職員各位

技術支援室長　松栄　準治

本校の理念・目的・教育目標・アドミッションポリシーについて

技術支援室職員の皆様におかれては本校の教育方針を御理解いただいた上で，業務を行っておられるとは思いますが，今一度，別紙の本校の理念・目的・教育目標・アドミッションポリシーを御一読頂き，御理解の上，業務に当たって頂きますようよろしくお願いします。

（出典　技術支援室長よりの依頼文）

（分析結果とその根拠理由）

本校の目的は学生に対しては学生生活の手引きを配布するとともに，入学時のガイダンスやLHR，空き時間を使用して説明を行い，教員に対しては学生生活の手引きの配布と教員会議での説明，非常勤講師へは文書を配布し，職員に対しては文書の回覧を行っている。

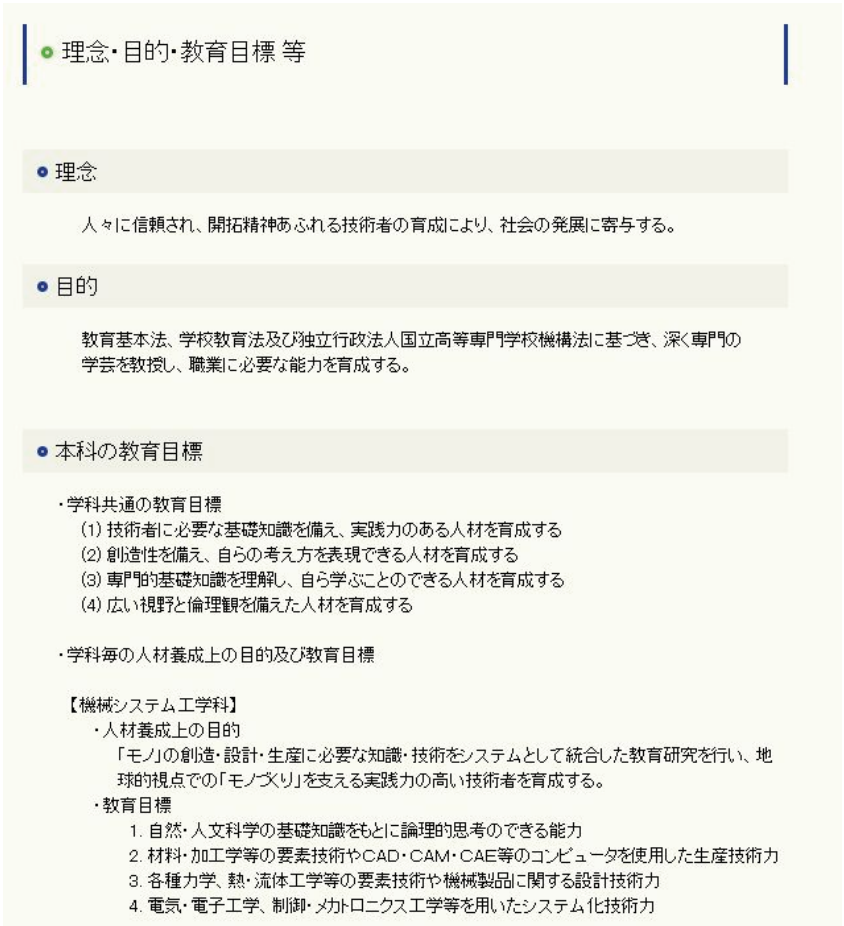
以上のことから，本校では目的が，学校の構成員におおむね周知されている。

**観点１－２－②：　目的が，社会に広く公表されているか。**

（観点に係る状況）

本校の目的はウェブサイトに掲載することによって，社会に広く公表している（資料１－２－②－１，資料１－２－②－２）。また，学校要覧にも目的を記載している（資料１－２－②－３）。学校要覧は関係機関に配布する（資料１－２－②－４）とともに，中学校訪問にも持参し説明を行い，企業が本校を見学や採用のために訪れた際には適宜配布しており目的の公表に努めている。新しい目的の記載された学校要覧の完成後は，ただちに配布するとともに説明を行う予定である。また，中学生対象とした学校説明会では，本校の教育方針等について学則等に書かれたものを直接明記するのではなく，中学生に分かりやすい形で説明をしている（資料１－２－②－５）。

資料１－２－②－１



理念・目的・教育目標 等

理念

人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する。

目的

教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する。

本科の教育目標

・学科共通の教育目標
(1) 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する
(2) 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する
(3) 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する
(4) 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する

・学科毎の人材養成上の目的及び教育目標

【機械システム工学科】
・人材養成上の目的
「モノ」の創造・設計・生産に必要な知識・技術をシステムとして統合した教育研究を行い、地球的視点での「モノづくり」を支える実践力の高い技術者を育成する。
・教育目標
1. 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
2. 材料・加工学等の要素技術やCAD・CAM・CAE等のコンピュータを使用した生産技術力
3. 各種力学、熱・流体工学等の要素技術や機械製品に関する設計技術力
4. 電気・電子工学、制御・メカトロニクス工学等を用いたシステム化技術力

【情報通信システム工学科】
・人材養成上の目的
環境と技術の調和と社会的責任を考え、産業界の発展に寄与すべく、電気・電子工学と情報通信工学の基本技術を修得させ、情報通信機器などの設計・開発・運用のできる実践的・創造的技術者を育成する。
・教育目標
1. 総合科学分野情報通信技術を社会的視点で捉え、多面的に物事を考え、論理的に思考・説明できる能力
2. コンピュータのハードウェアとソフトウェアの基礎知識を備え、通信を含む社会の様々な問題をシステムとして解決できる基本技術力
3. 通信システム設計、通信ネットワーク運用に必要となる通信工学と情報セキュリティなどの基本技術力
4. 情報通信技術の基礎となる電子工学の基礎知識とデジタル及びアナログの集積回路設計の基本技術力

【メディア情報工学科】
・人材養成上の目的
数学や自然科学の基礎知識とメディア情報工学の専門的基礎知識をもとにして、産業界の発展に寄与し、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。
・教育目標
1. 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
2. コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの基礎技術を理解し、ネットワーク分野、コンテンツ分野に適用できる能力
3. モバイル通信、ネットワークとセキュリティの基礎技術を理解し、応用するための基本的な能力
4. 種々の情報を加工、表現する技術の基礎を理解し、表現できる能力

【生物資源工学科】
・人材養成上の目的
環境に配慮し、生物資源の利用に必要な生物化学工学、環境科学、微生物学、食品系工学、バイオテクノロジーの基礎能力と専門技術を身につけ、産業界の要請に対応できる実践的・創造的技術者を育成する。
・教育目標
1. 生命科学の基礎となる自然・人文科学の基礎知識を活かし論理的に思考できる能力
2. 地球環境保全の調査・分析に必要な基礎的技術力
3. 微生物学・食品科学の基礎技術を理解し、産業規模で実践できる技術力
4. 生物資源を利用した食品・化粧品などの開発に必要な基礎的技術力

## ● 専攻科の目的

高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工学に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、豊かな人間性と国際性を持ち、実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけ、課題設定・解決能力に優れ柔軟な思考ができる高度開発型の技術者を育成する。

## ● 専攻科における養成しようとする技術者像と教育目標

・教育目標
(1)知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する
(2)創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する
(3)専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する
(4)地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する

・養成しようとする技術者像
1. 実践性と創造性を兼ね備えた技術者
2. 社会や環境、人類の福祉などを地球的視点から考えられる技術者
3. グローバル化時代に対応する国際性豊かな技術者
4. コミュニケーション能力と統率力を兼ね備えた指導的技術者
5. 新技術・新産業創出を担う高度な専門技術力を持つ研究開発型技術者
6. 地域産業を担う起業家精神旺盛な技術者

・コース毎の教育方針

【機械システム工学コース】
本コースでは、マイクロマシンのような微細システムから、航空宇宙産業といった巨大システムまで、あらゆるモノづくりの基本となる機械工学の分野において、創造・開発・設計・生産に必要な知識・技術をシステムとして統合した教育・研究を行い、環境と共生できる「モノ作り」を支える研究・開発型の技術者を育成する。

【電子通信システム工学コース】
本コースでは、情報通信分野の要素技術である、デバイス、集積回路、光・無線通信、マイクロ波、信号処理、アルゴリズム、シミュレーションといった知識を修得し、先端的な情報通信技術分野で活躍できる研究・開発型の創造的実践的技術者を育成する。本コースの特長は、電子工学・情報工学・通信工学の3分野を総合的に学ぶことができる融合・複合型の教育課程を編成することであり、関連分野における多角的な知識や実践力を身につけることを目標とする。

【情報工学コース】
本コースでは、コンピュータ(ソフトウェア、ハードウェア)、ネットワーク(有線ネットワーク、モバイル通信ネットワーク、光ファイバー通信ネットワーク)、メディアコンテンツ(画像、映像、音声)などの先端的なメディア・情報・通信技術分野での研究開発において活躍できる豊かな創造性と実践能力を有する技術者を育成する。不足する優秀なIT技術者を輩出するため情報工学分野のより高度な技能を深める教育を行う。

【生物資源工学コース】
本コースでは、有用資源生物を材料に用い、バイオテクノロジー技術を駆使し、基礎から食品等の応用分野で創造的・実践的な技術力と研究開発担当能力を有する技術者を育成する。地元の生物資源を用いた研究については、研究成果を地元に還元することにも取組み、地域との連携を深めていくこととする。

（出典　本校ウェブページ）

資料１－２－②－２

本校 Web ページの「教育理念・入学者受入方針」ページビュー

| | 2008 年 | 2009 年 | 2010 年 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 1月 | | 271 | 179 | 450 |
| 2月 | | 263 | 155 | 418 |
| 3月 | | 253 | 147 | 400 |
| 4月 | | 187 | 154 | 341 |
| 5月 | | 157 | 138 | 295 |
| 6月 | | 147 | | 147 |
| 7月 | | 168 | | 168 |
| 8月 | | 92 | | 92 |
| 9月 | | 119 | | 119 |
| 10月 | | 99 | | 99 |
| 11月 | 257 | 142 | | 399 |
| 12月 | 205 | 118 | | 323 |
| 合計 | 462 | 2016 | 773 | 3251 |

URL:http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=6827&pageStart=0&menuid=2977&funcid=2)

※調査は Web ページリニューアル後の 2008 年 11 月から月ごとの
アクセス数を求めた

（出典　広報委員会資料）

資料１－２－②－３

※ここに記載した資料は平成２１年度に作成したものであり，作成当時の目的目標が記されている。現在作成中の平成２２年度版の学校要覧は目的目標が改定されたものとなる。

## 教育理念　Philosophy of Education

人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する。

To contribute to the development of the society by training trusted innovative-minded engineers.

### 目的　Goal of Education

豊かな人間性及び確固たる基礎能力と専門技術を身につけ、経済産業界の要請に的確に対応しつつ、国際的にも活躍できる創造的実践技術者を育成する。

To train engineers to be creative and practical and play an active role in the international society by precisely meeting requests from the economic and industrial fields,with well-rounded characters,firm basic abilities and specialized skills.

## 入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）　Admission Policy

### 本　科　Departments

沖縄工業高等専門学校は、本科５年間にわたる一貫教育をとおして、「以下に掲げる八つの力と高い専門知識を身に付けた、創造性豊かな実践的技術者の育成」を教育理念とし、これに加えて、豊かな人間性、倫理観、国際性をそなえ、社会に貢献できる人材を育成することを目的としています。

The educational philosophy of Okinawa National College of Technology is to train creative and capable engineers with the following eight abilities and special knowledge through a five-year program for consistent education. In addition to this, we aim to develop internationally-minded human resources with a great character and morality, capable of contributing to society.

① 地球的思考力：地球的視点及び共生の視点に立ってものごとを理解し、思考できる力
Global way of thinking: The ability to think about and understand things from global and co-existent viewpoints

② 協調性・理解力：他者及び他文化を尊重し、協調してものごとに取り組むことができる力
Cooperativeness/Understanding: The ability to respect others and other cultures and to act in harmony

③ 表現力：ものごとや自己の考えを表現できる力
Expressiveness: The ability to express things and one's own thoughts

④ 実践力：社会や組織における自己の位置と責任を自覚し、自ら必要な行動ができる力
Practicability: The ability to be aware of one's own position in society and in organizations and to willingly take necessary action

⑤ 自己学習力：技術に対する興味や関心を持続しつつ、自らを啓発できる力
Self learning: The ability to maintain an interest in technologies and to educate oneself

⑥ 本質理解力：科学技術の原理や本質を理解できる力
Understanding of essence: The ability to understand the principle and essence of scientific technologies

⑦ 基礎知識・理解力：技術者として必要な基盤的知識と技術力
Basic knowledge/Comprehensibility: Basic knowledge and technical skills needed for engineers

⑧ 創造性：価値あるものを新たに作り出す能力
Creativity: The ability to invent valuable things

2

このため、沖縄高専は、次のような人に入学してほしいと考えています。
Therefore,Okinawa National College of Technology wants the following candidates

## I. 全学科共通の入学者受け入れ方針　Admission Policy for All Departments

・理数系分野に興味があり、それらの科目に基礎学力を有している人
Those who are interested in the fields of science and mathematics and who have basic scholastic ability for those subjects

・責任感や忍耐力があり、多くの人とコミュニケーションが取れる人
Those who have a sense of responsibility and perseverance and who can communicate with many people

・規則正しい生活と、自発的勉強のできる人
Those who can lead a regular life and who can study of their own accord

## II. 各学科独自の入学者受け入れ方針　Admission Policy for Each Department

### 1. 機械システム工学科　Department of Mechanical Systems Engineering

・自動車、飛行機、ロボットなどの機械に興味のある人
Those who are interested in machines such as automobiles,airplanes and robots

・自ら考え、自ら工夫し新しいものを創造する意欲のある人
Those who are eager to think and to invent things of their own accord

・ものづくりを通して社会に貢献したい人
Those who want to contribute to society through creation

### 2. 情報通信システム工学科　Department of Information and Communication Systems Engineering

・コンピュータ、インターネットなどに興味を持っている人
Those who are interested in computers and the Internet

・携帯電話、ディジタルテレビなどの新しい電気製品や電子工作に興味のある人
Those who are interested in new electronic products such as the cellular phone and the digital TV and in electronic construction

・情報や通信の技術を身につけて、社会に貢献したい人
Those who want to contribute to society with their skills in information and communication technology

### 3. メディア情報工学科　Department of Media Information Engineering

・メディア情報工学科の教育内容を理解している人
Those who understand the educational curriculum of the Department of Media Information Engineering

・メディア情報工学科に入学したい強い意思を持っている人
Those who have a strong will to enter the Department of Media Information Engineering

・メディア情報工学科の以下の３つの分野に興味を持っている人
＜コンピュータ分野、ネットワーク分野、コンテンツ分野＞
Those who are interested in the following three fields of the Department of Media Information Engineering: computer,network and contents

### 4. 生物資源工学科　Department of Bioresources Engineering

・生物化学、環境学、微生物学、食品化学に興味があり、探究心の強い人
Those who are interested in biotechnology,ecology,microbiology and food technology and who have a strong inquiring mind

・自ら学ぶ意欲を持ち、何にでもチャレンジしようという意思のある人
Those who are motivated to study of their own accord and who have a will to give anything a try

・バイオテクノロジー関連の技術者や研究者として社会に貢献したい人
Those who want to contribute to society as engineers or scholars of biotechnology related fields

3

# 入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）　Admission Policy

## 専　攻　科　Advanced course

沖縄工業高等専門学校では、「人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する」ことを教育理念とし、専攻科の教育目的を、「高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工学に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、豊かな人間性と国際性を持ち、実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけ、課題設定・解決能力に優れ柔軟な思考ができる高度開発型の技術者を育成する」こととしています。

Okinawa National College of Technology's educational philosophy is to make positive contribution to society by developing responsible and trustworthy engineers with pioneering spirit. The educational goal of the Advanced Course is to give students an opportunity to build on the knowledge they acquired in the basic course and explore deeper into various highly advanced and technical issues in the field of engineering. The institution intends to develop practical and creative engineers with a broad vision and leadership skills who are capable of adopting to the complex nature of the industrial world today; students will learn to identify and solve problems on their own, and be flexible in their thinking. They also learn to observe issues from a global perspective.

本専攻科で育成しようとする技術者像は次の６つです。
We aim to develop engineers with the following six traits:

①実践性と創造性を兼ね備えた技術者
Be practical and creative

②社会や環境、人類の福祉などを地球的視点で考えられる技術者
Be practical and creative

③グローバル化時代に対応する国際性豊かな技術者
Excel in the world of globalization

④コミュニケーション能力と統率力を兼ね備えた指導的技術者
Communicate well and demonstrate leadership

⑤新技術・新産業創出を担う高度な専門技術力を持つ研究開発型技術者
Possess highly technical research, development, and application skills necessary to inspire development of new technology and industries

⑥地域産業を担う起業家精神旺盛な技術者
Possess entrepreneurial spirit that energizes local industries

このため、専攻科では、次のような人に入学してほしいと考えています。
Therefore students who wish to enroll in the Advanced Course should ideally have:

・技術者として地域社会、国際社会の発展に寄与したいと考えている人
Desire to contribute to the development of local community and international society as an engineer

・専門分野に関連する基礎知識、基礎技術を身につけている人
Basic knowledge and skills in the specialized field of their choice

・基礎的な、コミュニケーション能力、倫理観を身につけている人
Basic communication skills and a sense of ethics

・新技術、新産業の創出に高い意欲を持つ人
Strong desire to develop new technology and industry

・複合的視野をもち実践的応用能力を身につけることに意欲を持つ人
Strong desire to acquire practical application skills and an ability to observe issues from various angles

4

# 教育方針と特色　Policies and Features of Education

## 本　科 Departments

### 教育の方針　Basic Policies of Education

1. 個性と能力を伸長させるとともに、自立の精神、主体的な態度、幅広い豊かな教養を身につけさせ、国際社会の一員としての人間形成を促す。
   To promote individual characteristics as will as competence and to foster independent-minded spirits and attitudes with cultural enrichment,prompting character formation to become a member of the international society

2. 技術の進展や産業構造の変革など今後の社会の変化に柔軟に対応できるよう、専門知識と技術の修得のほか、自己学習能力をはじめ技術者に必要な各種の基礎能力の開発と伸長に重点を置く。
   To put emphasis on self-learning ability and well-rounded basic knowledge necessary for engineers in addition to specialized knowledge and technology.As the students develop this ability,they will be able to cope with the change of future society,the development of technology and the industrial structure.

### 教育の特色　Features

1. 授業時間は 100 分を基本とし、知識を学問の体系として把握できるよう、講義と演習や実験・実習を組み合わせることにより、学生を積極的に授業に参加させる。
   To let students systematically grasp academic concepts based on one hundred minute classes. The students are encouraged to combine the lecture portion and experiments for the development of independent thinking and to actively participate in class.

2. 英語教育を重視し、CALL 教室や教材の充実を通して、多読・多聴の新しい試みにより、本科卒業時点で TOEIC400 点以上の獲得を目指す。
   To put emphasis on English education. Through variety of materials such as utilization of the CALL lab and the new teaching method of extensive reading and listening,students aim to score 400 points on the TOEIC test upon graduating from the college.

3. 全科目において以下に示すいずれかの PBL の手法（通常の定義に対して、本校では三つに区分した）を導入し、学生が授業へ主体的に参加することで、問題解決力、自己学習力、コミュニケーション能力、表現･発表力、個人でもチームでも活躍できる能力、リーダーシップ力などの諸能力を身につけさせる。
   To introduce one of the following three PBL methods in every subject for students to actively participate in class.Through this method students will develop problem-solving,self-learning,communication,presentation,individual or team-work,and leadership abilities.

| | |
|---|---|
| PBL 1 | 基礎知識の有機的理解、応用力の育成 |
| PBL 2 | 問題解決能力、幅広い統合化能力の育成 |
| PBL 3 | 創造力の育成 |

| | |
|---|---|
| PBL 1 | (process-based Learning):To foster the ability to link understanding of basic knowledge and to apply that ability to other concepts. |
| PBL 2 | (problem-based Learning):To foster problem-solving and integrating abilities in a wide capacity. |
| PBL 3 | (Project-based Learning):To foster creative ability. |

4. 企業見学、産業創造セミナー講師、インターンシップ等、産業界の協力を得て、教育・研究の両面で、産学連携を積極的に推進する。
   To promote active business-academia collaboration both in education and research the college will have visiting instructors from various industries for the Industry Creation Seminar course and students will take field trips and complete internships at those various industries.

5. 専門を異にする学生を混在させて教育を行う混合学級を 1・2 年次において実施する。
   To promote effective education students from all four departments will have combined classes in the first and second years.

6. 基本的な生活態度や社会性を学ぶための教育寮（学生寮）を置き、1･2年次は全寮制、3年次以上は希望制とする。
   To have a dormitory where peer counseling and advising takes place to learn basic attitudes and develop socializing skills.It is mandatory to live in the dormitory for first and second-year students with the third-year and up being optional.

5

# 専　攻　科 Advanced course

## 教育の方針　Basic Policies of Education

### 創造システム工学専攻　Creative Systems Engineering Major

本科５年間の専門基礎教育の上に、更に２年間のより高度な専門教育を行う。
専門教育では実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけたリーダーシップのある技術者、豊かな人間性と国際性をもつ技術者、課題設定・解決能力をもち柔軟な思考ができる技術者の育成を目指す。
機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースと関連の深い本科の教育課程を基礎として、それぞれの専門性を更に高めながら、異なる専門分野にも対応し、実践的な研究の課題設定・解決を目指す教育課程を編成する。

This course will provide 2 years of advanced, highly specialized education in addition to the 5 years of basic education.
The institution is committed to developing practical and creative engineers with a broad vision and leadership skills. Students will learn to identify and solve problems on their own, and be flexible in their thinking; they will also learn to observe issues from a global perspective.
The courses offered are: Mechanical Systems Engineering, Electronic Communication Systems Engineering, Information Engineering, and Bioresource Engineering. Curricula are structured such that students will acquire a deeper understanding of the material in the specialized field of their choice, as well as in other fields, by setting practical research goals.

経済産業界における実践的な技術応用を学ぶために、企業等と連携した共同教育を推進する各コースの教育方針は以下のとおりである。

Students in all courses will work with private entities in order to learn practical application of technology in the business world. Educational principles are as follows:

#### 1. 機械システム工学コース　Mechanical Systems Engineering Course

本コースでは、マイクロマシンのような微細システムから、航空宇宙産業といった巨大システムまで、あらゆるモノづくりの基本となる機械工学の分野において、創造・開発・設計・生産に必要な知識・技術をシステムとして統合した教育・研究を行い、環境と共生できる「モノ作り」を支える研究・開発型の技術者を育成する。

The course provides education and research opportunities as an integrated package of knowledge and skills necessary to “create, develop, design, and produce.” It aims to develop engineers who are mindful of the environment that they live in and able to reflect that in their work in the field of mechanical engineering, which is the very root of all engineering creation including minute micro machines and enormous space aeronautic systems.

#### 2. 電子通信システム工学コース　Electronic Communication Systems Engineering Course

本コースでは、情報通信分野の要素技術である、デバイス、集積回路、光・無線通信、マイクロ波、信号処理、アルゴリズム、シミュレーションといった知識を修得し、先端的な情報通信技術分野で活躍できる研究・開発型の創造的実践的技術者を育成する。本コースの特長は、電子工学・情報工学・通信工学の３分野を総合的に学ぶことができる融合・複合型の教育課程を編成することであり、関連分野における多角的な知識や実践力を身につけることを目標とする。

The course provides education and training in core technology in the information technology field, such as basic devices, integrated circuits, optical/wireless communication, microwave, signal processing, algorithm, and simulation, and aims to develop creative and practical engineers who will be able to lead the progress in the information communication technology field that is constantly making breakthroughs.
What makes this course special is that students will be able to learn electronic engineering, information engineering, and communication engineering, comprehensively, thereby acquiring diverse knowledge and practical skills in related fields.

#### 3. 情報工学コース　Information Engineering Course

本コースでは、コンピュータ（ソフトウェア、ハードウェア）、ネットワーク（有線ネットワーク、モバイル通信ネットワーク、光ファイバー通信ネットワーク）、メディアコンテンツ（画像、映像、音声）などの先端的なメディア・情報・通信技術分野での研究開発において活躍できる豊かな創造性と実践能力を有する技術者を育成する。不足する優秀なＩＴ技術者を輩出するため情報工学分野のより高度な技能を深める教育を行う。

The course will develop creative and practical engineers who will be able to lead the research and development in the frontline of media, information, and information technology, such as computers (software and hardware), networks (wire network, mobile communication network, optical fiber communication network), and other media contents (images, video, audio).
Students of this course will learn advanced skills in the information engineering field to become proficient IT engineers which are in high demand.

#### 4. 生物資源工学コース　Bioresource Engineering Course

本コースでは、有用資源生物を材料に用い、バイオテクノロジー技術を駆使し、基礎から食品等の応用分野で創造的・実践的な技術力と研究開発担当能力を有する技術者を育成する。地元の生物資源を用いた研究については、研究成果を地元に還元することにも取組み、地域との連携を深めていくこととする。

The course will develop creative and practical engineers with an ability to research and develop on their own using various bioresources and biotechnology, and cover basic fields as well as applied fields such as food.
Students will conduct research activities using local bioresources, and the results will be utilized for community betterment.

## 教育の特色　Features

本校専攻科では、実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけたリーダーシップのある技術者、豊かな人間性と国際性をもつ技術者、課題設定・解決能力をもち柔軟な思考ができる技術者の育成を目指しています。

Advanced Course is designed to develop practical and creative engineers with a broad vision and leadership skills. Students will learn to identify and solve problems on their own, and be flexible in their thinking; they will also learn to observe issues from a global perspective.

### 各コースの特色は次のとおりです。

Here are the features of each course:

#### 1. 機械システム工学コース　Mechanical Systems Engineering Course

本コースでは、「創造的にモノ作りができる技術力」、「多面的視点で把握し、システム化できる技術力」、「環境と共生できるモノ作りができる技術力」の修得を目指している。「材料」、「設計」、「システム制御」の各分野に科目を設けバランスのとれた技術力を修得させる。それぞれの学生の希望に応じた各分野の選択科目や共通科目、さらに他コースの専門科目を学修することにより、幅広い分野の産業界で活躍が可能な人材を育成する。

特別研究の内容充実に力点を置き専門学会での発表を目標とする。この特別研究をとおして、自身による課題発見、設定、解決という研究・開発能力を育成する。

The course will teach students how to 1) create with originality, 2) observe from multiple angles and systemize, and 3) create in a way that is environmentally-friendly. In subjects like Material, Design, and System Control, students will learn a wide range of skills in a balanced manner. Students will be required to take selective classes as well as compulsory classes, and a number of classes in other fields of specialty, and as a result will develop into leaders who will be expected to excel in a variety of industries.

Focus is placed on the quality of special research as the ultimate goal is to give a presentation at an academic conference in the respective field. Students will learn through the research how to identify problems, propose hypotheses, and eventually solve the problems.

#### 2. 電子通信システム工学コース　Electronic Communication Systems Engineering Course

本コースの特長は、情報通信工学分野と電気・電子分野を学ぶことができ、両分野ともバランスよく修得することができる点である。本コースでは、デバイス、集積回路、光・無線通信、マイクロ波、信号処理、アルゴリズム、シミュレーションなど専門分野を多角的・横断的に学ぶことで、高い専門知識をもちながら広い視野と柔軟性をもつ問題解決型の技術者を育成することを目的とし、特別研究において課題設定、問題解決の最適プロセス策定、高度な結果分析など自主的な研究・開発遂行能力を育成する。

Students of this course will learn both information communication engineering and electric/electronic engineering in a balanced manner. The course aims to develop highly specialized engineers with a broad vision and flexible thinking by covering in rigorous detail items like basic devices, integrated circuits, optical/wireless communication, microwave, signal processing, algorithm, and simulation, and how all the items are linked together. In special research, students will learn to identify problems, decide on the most suitable process of problem solving, and perform advanced result analysis; in essence, they will learn to research and develop on their own.

#### 3. 情報工学コース　Information Engineering Course

本コースの特長は、情報系産業分野で活躍できる技術者を育成するカリキュラム編成を行っていることである。

情報系産業分野で必須の技術となるコンピュータとネットワーク、光ファイバー通信とモバイル通信、メディアコンテンツなど専門分野を多角的・横断的に教育することで、高い専門知識を修得し、問題解決型の情報技術者を育成する。

また、特別研究において課題設定、分析、問題解決の過程をゼミ、演習など効率的な教育を行うことにより、自主的な研究・開発遂行能力を育成する。

The course offers a curriculum designed to develop proficient engineers in the field of information industry.
Students will acquire advanced skills to use core technology in this field such as computers and networks, optical communication and mobile communication, and media contents, and use them in creative and collaborating ways to solve whatever problems they may encounter.

In special research, students will learn to identify, analyze, and solve problems through various seminars and exercises; they will acquire learn to research and develop on their own.

#### 4. 生物資源工学コース　Bioresource Engineering Course

本コースの特長は、化学・バイオ・医薬・食品系産業等で活躍できる技術者の育成を目標とし、基礎から専門分野までを幅広く学修することができる点にある。

専門科目では、遺伝子、タンパク質、生理活性物質等の解析・分析手法を学び、有用動植物から得られた物質の機能性評価や製品化までを視野に入れ、地域資源の有効利用と産業への貢献が可能な課題解決型技術者を育成する。

特別研究においては課題設定、最適手法の検討、分析および評価等の一連の作業を遂行する過程を通して、高度な技術の習得ならびに自主的な研究・開発能力を育成する。

The course offers a wide range of topics to develop engineers with an ability to excel in industrial fields such as chemical engineering, biotechnology, pharmaceuticals, and food.

In specialized subjects, students will learn how to map/analyze genes, proteins, physiologically active substances, and perform functional evaluation on substances extracted from plants and animals, which may very well be commercialized. The course aims to develop engineers problem solvers who are capable of using local resources effectively to contribute to the industry.

In special research, students will learn to identify problems, discuss and determine the best method, and perform analysis and evaluation; through this series of processes they will acquire advanced skills and learn to research and develop on their own.

7

（出典　学校要覧　P.2-7）

資料１－２－②－４

平成21年度学校要覧送付先一覧

| 機関名 | 配布数 |
|---|---|
| 高等専門学校 | 61校 |
| 技術科学大学 | 2校 |
| 県内中学校 | 162校 |
| 県内市役所・図書館 | 72施設 |
| 県内教育事務所・委員会 | 47カ所 |
| 青少年の家 | 6施設 |
| 報道機関（県内） | 20社 |
| 都道府県教育委員会 | 59カ所 |
| その他 | 13カ所 |
| 合計 | 442カ所 |

（出典　総務課資料）

資料１－２－②－５

## 国立沖縄工業高等専門学校

本校は、人々に信頼され開拓精神あふれる技術者の育成により社会の発展に寄与することを理念としています。



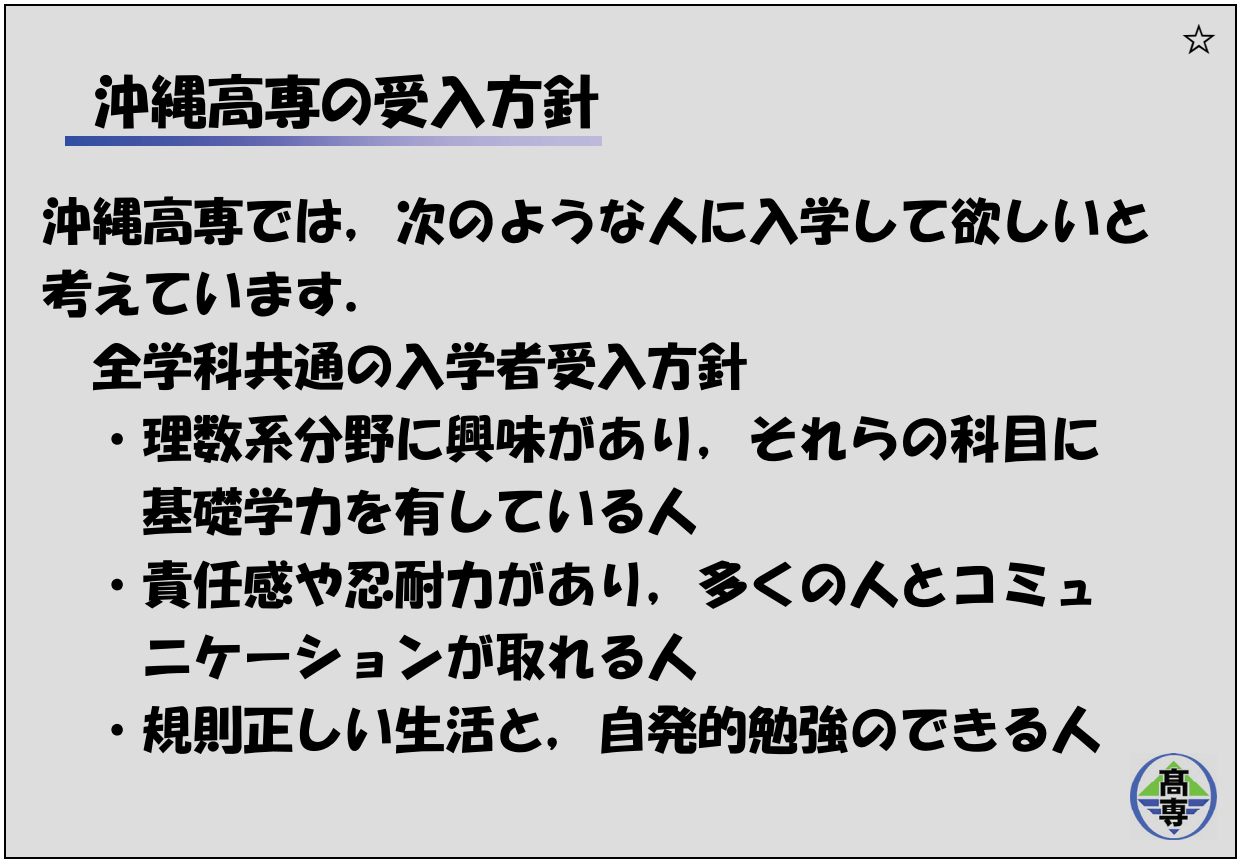

☆

## 沖縄高専の目的と目標

深く専門知識を学び、職業に必要な知識や技術力を身につけることを目的としています。

全学科共通の教育目標

- 技術者に必要な基礎的知識を持ち，それらを使いこなせる人
- 創造性を持ち、自分の考え方きちんと伝えられる人
- 専門的な基礎知識があり、自ら学ぶことの出来る人
- 広い視野と倫理感を備えた人




（出典　学校説明会資料　P. 1，16，17）

（分析結果とその根拠理由）

本校の目的はウェブサイトに掲載して広く社会に公表している。また，学校要覧に目的，アドミッションポリシーを記載し配布に努めている。また，中学生を対象とした学校説明会では，本校の教育方針等について中学生に分かりやすい形で説明をしている。

以上のことから，本校の目的を，社会に対して広く公表している。

### （２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校の高等専門学校としての目的及び教育目標を明確に定めているだけではなく，社会の変化や要請に柔軟に対応するため，平成 21 年度に学校教育法第 115 条から外れることなく目的，教育目標を改定した。このように本校は常に広く社会や地域の要請に応えうる高等教育機関となるような取組みを図っており，優れている。

（改善を要する点）

本校の目的及び教育目標は，教職員，学生へ広く周知されているが，その周知度合いを把握する必要がある。また，目的等の社会への周知について，中学生，企業，地域社会に対して今以上に幅広く周知することができるか検討し，実施することが必要である。

### （３）基準１の自己評価の概要

本校は開校時に学校教育法第 115 条に規定されている高等専門学校一般に求められる目的に沿った理念，目的，教育目標を定め，それに従い，高等教育機関として社会から要請される高等専門学校としての役割を果たしてきた。しかし，社会の変化や要請に柔軟に対応するため，平成 21 年度に学校教育法第 115 条から外れることなく準学士課程，学士課程ともに目的，教育目標を改定した。改定された新たな目的，目標は学校教育法上の高等専門学校の目的との関連を明確にして策定しており，本校の目的は学校教育法の規定からはずれるものではない。

また，本校の非常勤講師を含む教職員，学生に対して目的，目標の周知に努めている。特に新入生に対しては新入生オリエンテーションにおいて説明をし，学生自身の学習の方向付けを図っている。さらに，本校の目的はウェブサイトに掲載して広く社会に公表している。また，学校要覧に目的，アドミッションポリシーを記載し配布に努めている。また，中学生を対象とした学校説明会では，本校の教育方針等について中学生に分かりやすい形で説明をしている。

ただし，本校の目的及び教育目標は，教職員，学生へ広く周知されているが，その周知度合いを把握する必要がある。また，目的等の社会への周知について，中学生，企業，地域社会に対して今以上に幅広く周知することができるか検討し，実施することが必要である。

## 基準２　教育組織（実施体制）

### （１）観点ごとの分析

**観点２－１－①：　学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。**

（観点に係る状況）

本校は基準１に示した本校教育目的を達成するため，学校教育法第116条，高等専門学校設置基準　第４条，第５条に準拠し，準学士課程として機械システム工学科，情報通信システム工学科，メディア情報工学科，生物資源工学科の４学科（各学科定員40名）を設置している（資料２－１－①－１）。準学士課程では全学科共通の教育目標を定め，その教育目標に沿って育成しようとする技術者像を学科ごとに定めて教育を実践している（資料２－１－①－２，資料２－１－①－３）。

準学士課程ではまた，一般科目を教育する総合科学科を設置しており，専門学科と連携しながら専門と一般のバランスの良い教育を実施している。

資料２－１－①－１

**（学科、学級、入学定員及び収容定員）**

**第５条**　本校に、次の学科を置く。

機械システム工学科
情報通信システム工学科
メディア情報工学科
生物資源工学科

２　前項の学科の１学年の学級数、入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

| 学　　科 | 学 級 数 | 入 学 定 員 | 収 容 定 員 |
|---|---|---|---|
| 機械システム工学科 | 1 | 40 人 | 200 人 |
| 情報通信システム工学科 | 1 | 40 人 | 200 人 |
| メディア情報工学科 | 1 | 40 人 | 200 人 |
| 生物資源工学科 | 1 | 40 人 | 200 人 |
| 計 | 4 | 160 人 | 800 人 |

３　前項の規定にかかわらず、教育上有益と認めるときには、異なる学科の学生をもって学級を編成することができる。

４　本校に置く各学科の人材の養成に関する目的その他の教育上の目的については、別に定める。

（出典　沖縄工業高等専門学校学則　抜粋）

資料２－１－①－２

本校は，学則第１条の２において次のように目的を定めています。

「本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」

この目標を達成するために、本科及び専攻科の教育目標を次のように定めています。

＜本科教育目標＞
５．　技術者に必要な基礎知識を備え実践力のある人材を育成する
６．　創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する
７．　専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する
８．　広い視野と倫理観を備えた人材を育成する
（出典　平成 22 年度学生生活の手引き　P. １）

資料２－１－①－３

## １　各学科の案内
## （１）　機械システム工学科

### ②　育成する人材像と学習内容
本学科では，材料・加工・機構・強度・熱流体などの機械の要素工学を基盤とし，さらに，システム制御・生産管理技術など「モノ」の設計・生産・開発・創造に必要な知識・技術を統合した教育を行い，創造的に「モノ」づくりができ，生産システム全般も担当できる実践的技術者の育成を目指しています。
本学科での学習内容は，これらの専門知識を体系的に学習することができるように，三つの大きな柱からなる専門科目群で構成しています。
Ⅰ．　材料システム群：材料と加工の基礎から最先端まで学ぶ分野
Ⅱ．　設計システム群：機械の原理からコンピュータを用いた先端設計法まで学ぶ分野
Ⅲ．　システム制御群：電気・電子回路から高度なシステム制御まで学ぶ分野

## （２）　情報通信システム工学科

-世界で活躍できる人材を目指して-

情報化社会，IT 社会，ユビキタス社会などという言葉が使われていますが，これらの土台が情報通信技術です。爆発的にインターネットが普及し，さらに携帯電話も浸透しました。携帯電話でテレビを見ることもできますし，相手の顔を見ながら通話することもできるようになっています。一方，世界ではアメリカ，ヨーロッパはもちろん，アジア諸国も情報通信産業の発達はめざましいものがあり，情報通信産業を考えるときには世界の動向もきちんと見据えなければなりません。
このような背景を踏まえながら，本学科では情報化社会を支えている技術について学びます。具体的には，コンピュータを構成する集積回路（ハード）技術や，プログラミング（ソフト）を学びます。また携帯電話に代表されるような通信・ネットワーク技術も学びます。これらの技術を組み合わせることにより各種機器への応用やロボット制御などのシステム構築が可能となります。このような技術はコンピュータだけではなく，身の回りの電子製品，電化製品には欠かせません。
低学年でコンピュータの仕組み，プログラミング，電気回路，電子回路，電磁気などの基礎技術を学びます。高学年で集積回路設計技術，通信・ネットワーク技術やいろいろな応用ソフトウェアを実習・演習を通じて学びます。

情報通信システム工学科を卒業していく学生が国内のみにとどまらず，海外でも多くの分野で活躍できる創造的実践技術者の育成を目指します。

**（３）メディア情報工学科**

物質，エネルギーと並んで，情報は人間活動にとって最も大切な要素のひとつです。私達は情報を音声，文字，画像など色々なメディア（媒体）で表現して人に伝えています。情報処理技術の驚異的な発展と普及のおかげで，情報のディジタル処理が可能となり，異なるメディア情報を統合的に扱うマルチメディアが現実のものとなってきています。一方，モバイル通信技術と光通信技術の急速な発展に支えられ，人間社会のあらゆる場所でブロードバンド情報の伝達・共有が可能なユビキタスネットワークが形成されつつあります。本学科では，マルチメディアとユビキタスの二つの言葉で代表される今日の情報通信産業で活躍できる技術者の育成をめざしています。

**（４）生物資源工学科**

沖縄県は，亜熱帯域にある海洋県であり，さまざまな亜熱帯性の動物や植物に恵まれています。生物資源工学科は，これらの動植物を貴重な資源ととらえ，これらを活用すること（＝工学）を目指します。このため，生物学・化学などの基礎的な分野を土台に，生物化学・微生物学・遺伝子工学などに関連したバイオテクノロジー技術，食品加工学などの製品化技術，さらに環境の保全・修復の技術に関連した環境科学を学びます。これらの技術により，各種の生物資源の実践的利用ができ，かつ環境に配慮しつつ，資源の再利用にも対応できる能力の修得を目指します。

（出典　平成 22 年度学生生活の手引き　P.10-13　抜粋））

（分析結果とその根拠理由）

本学の準学士課程における４つの専門学科は高等専門学校設置基準に適合したものであり，各学科が育成しようとする人物像は学校の掲げる教育の目的と適合し，目的を達成するうえで適切なものになっている。

**観点２－１－②：　専攻科を設置している場合には，専攻科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。**

（観点に係る状況）

本校では学校教育法第119条に準拠して，創造システム工学専攻（入学定員24人）というひとつの専攻科を設置している。産業界での複合専門分野における課題をシステム的，かつ創造的に解決する能力が求められることを鑑み，ひとつの複合分野として専攻科を設置しているが，準学士課程の関連科目と学位取得専門区分に対応するように，機械システム工学コース，電子通信システム工学コース，情報工学コース，生物資源工学コースの４コースから構成されている（資料２－１－②－１）。専攻科の理念，目的，育成しようとする技術者像を定め，それにそった教育目標，教育方針を定めるとともにコース毎に目標とする技術者像を掲げ,教育を実践している(資料２－１－②－２)。

資料２－１－②－１

**（専攻及び入学定員）**

**第６０条　専攻科の専攻及び入学定員は、次のとおりとする。**

| 専　　攻 | 入学定員 |
|---|---|
| 創造システム工学専攻 | ２４人 |

**２　前項の専攻に学位申請区分に対応した「機械システム工学」、「電子通信システム工学」、「情報工学」及び「生物資源工学」のコースを置く。**

**３　専攻科に在籍する学生は、前項に規定するコースのうちいずれか一つのコースに所属しなければならない。**

（出典　沖縄工業高等専門学校学則　抜粋）

資料２－１－②－２

１．　専攻科概要

・専攻科の制度と特色

高専の専攻科は学校教育法（第 10 章第 119 条）の条文「高等専門学校には、専攻科を置くことができる」に基づいて設置されており、その内容は同条文２において、「高等専門学校の専攻科は、高等専門学校を卒業した者又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者に対して、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的とし、その修業年限は、１年以上とする」となっています。また、認定専攻科を修了した学生は大学評価・学位授与機構による所定の審査に合格することで学士の学位を取得することができます。沖縄高専は平成２１年２月に認定専攻科として認められました。大学評価・学位授与機構による短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定に関する規則の第２条において、認定専攻科の要件として「教育課程は、大学教育に相当する水準を有するものであること」が明記されています。従って，高専本科と大きく異なる点は、専攻科では大学と同等水準の教育を行うことがあげられます。さらに、教育水準の維持、向上のために活発な研究活動も位置づけられており、大学院の修

士課程なみの教育が含まれているのも特長です。

近年、産業界では、複合専門分野における課題をシステム的、かつ創造的に解決する能力が求められています。沖縄高専では、実践性・創造性を兼ね備え、複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけたリーダーシップのある技術者、豊かな人間性と国際性をもつ技術者、課題設定・解決能力を持ち柔軟な思考ができる技術者の育成を目指して、専攻科名を「創造システム工学専攻」としています。創造システム工学専攻は、本科の関連科目と学位取得専門区分に対応するように、機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースの４コースから構成されています。

２．　専攻科の理念、目的、技術者像、教育目標、教育方針

学校教育法の精神に則り、社会の要請に応えるために、沖縄高専専攻科は以下の理念、目的、技術者像、教育目標、教育方針を掲げています。

・理念：　人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する。

・目的：　高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工学に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、豊かな人間性と国際性を持ち、実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけ、課題設定・解決能力に優れ柔軟な思考ができる高度開発型の技術者を育成する。

・育成しようとする技術者像：

①　実践性と創造性を兼ね備えた技術者
②　社会や環境、人類の福祉などを地球的視点で考えられる技術者
③　グローバル化時代に対応する国際性豊かな技術者
④　コミュニケーション能力と統率力を兼ね備えた指導的技術者
⑤　新技術・新産業創出を担う高度な専門技術力を持つ研究開発型技術者
⑥　地域産業を担う起業家精神旺盛な技術者

・教育目標：

①　知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する。
②　創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する。
③　専門知識を基にした応用力をもち、自ら成長できる人材を育成する。
④　地球的視野と倫理観を備え社会に貢献できる人材を育成する。

・教育方針：　本科５年間の専門基礎教育の上に、更に２年間のより高度な専門教育を行います。専門教育では実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけたリーダーシップのある技術者、豊かな人間性と国際性をもつ技術者、課題設定・解決能力をもち柔軟な思考ができる技術者の育成を目指します。機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物

資源工学コースと関連の深い本科の教育課程を基礎として、それぞれの専門性を更に高めながら、異なる専門分野にも対応し、実践的な研究の課題設定・解決を目指す教育課程を編成します。経済産業界における実践的な技術応用を学ぶために、企業等と連携した共同教育を推進します。

＜機械システム工学コース＞

本コースでは、マイクロマシンのような微細システムから、航空宇宙産業といった巨大システムまで、あらゆるモノづくりの基本となる機械工学の分野において、創造・開発・設計・生産に必要な知識・技術をシステムとして統合した教育・研究を行い、環境と共生できる「モノ作り」を支える研究・開発型の技術者を育成する。

＜電子通信システム工学コース＞

本コースでは、情報通信分野の要素技術である、デバイス、集積回路、光･無線通信、マイクロ波、信号処理、アルゴリズム、シミュレーションといった知識を修得し、先端的な情報通信技術分野で活躍できる研究･開発型の創造的実践的技術者を育成します。本コースの特長は、電子工学･情報工学･通信工学の 3 分野を総合的に学ぶことができる融合･複合型の教育課程を編成することであり、関連分野における多角的な知識や実践力を身につけることを目標とします。

＜情報工学コース＞

本コースでは、コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア）、ネットワーク（有線ネットワーク、モバイル通信ネットワーク、光ファイバー通信ネットワーク）、メディアコンテンツ（画像、映像、音声）などの先端的なメディア・情報・通信技術分野での研究開発において活躍できる豊かな創造性と実践能力を有する技術者を育成する。不足する優秀な IT 技術者を排出するため情報工学分野のより高度な技能を深める教育を行う。

＜生物資源工学コース＞

近年、環境問題、新型インフルエンザ等の医療問題など生命科学の分野に関わる重要な問題が多出し、この分野に属する技術者の活躍が期待されています。

本コースでは、本科（生物資源工学科）で履修した「生物化学工学群」、「環境・微生物学群」、「食品化学工学群」の３つの柱を基盤に、より高度で創造的な技術力と問題解決能力を持った技術者を育成します。

また、沖縄の地域性を活かし、併せて、国際的にも調和していける実践力を身につけることを目標とします。

上記の教育目標、教育方針に基づいた教育課程の編成方針は次の通りです。

① 一般科目においては、豊かな人間性と国際性を涵養するための科目を設ける。
② 専門共通科目においては、専攻科の高度な専門科目と効果的に連携する数学、物理、化学等の専門基礎科目を置き、産業・環境・技術などの複合分野で視野を広げるため

の科目を設ける。学生が共通に取り組む融合・複合的な内容で実践的・体験的に学ぶ科目を設ける。また、学外における企業実習の科目を設け、課題解決型の長期間実習や国際性を身につける実習が行えるようにする。

③　本科５年間の専門基礎科目を発展・深化させた専門科目を設け、いくつかの専門基礎科目をもとに学際的・複合的な専門科目を設けて、幅広い分野に対応できる技術教育を行う。

④　本専攻科は、機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースの４コースで構成し、それぞれの専門分野で、本科の基礎技術教育の上に、更に２年間のより高度な専門技術教育を行う。

⑤　講義を主としながらも実験・実習・実技・演習などを効果的に取り入れた実践・体験的な科目を設け、研究・開発分野で活躍できる課題設定・解決能力をもつ技術者を育成するために特別研究に多くの時間を配分する。他の異なるコースの専門科目についても履修できるようにする。

（出典　平成 22 年度学生生活の手引き P.59-61）

（分析結果とその根拠理由）

本学の専攻科は学校教育法の規定に適合したものであり，創造システム工学専攻の育成しようとする技術者像，各準学士に対応するコース毎に定める育成しようとする技術者像，いずれも学校の掲げる教育の目的と適合性が取れている。

**観点２－１－③：　全学的なセンター等を設置している場合には，それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。**

（観点に係る状況）

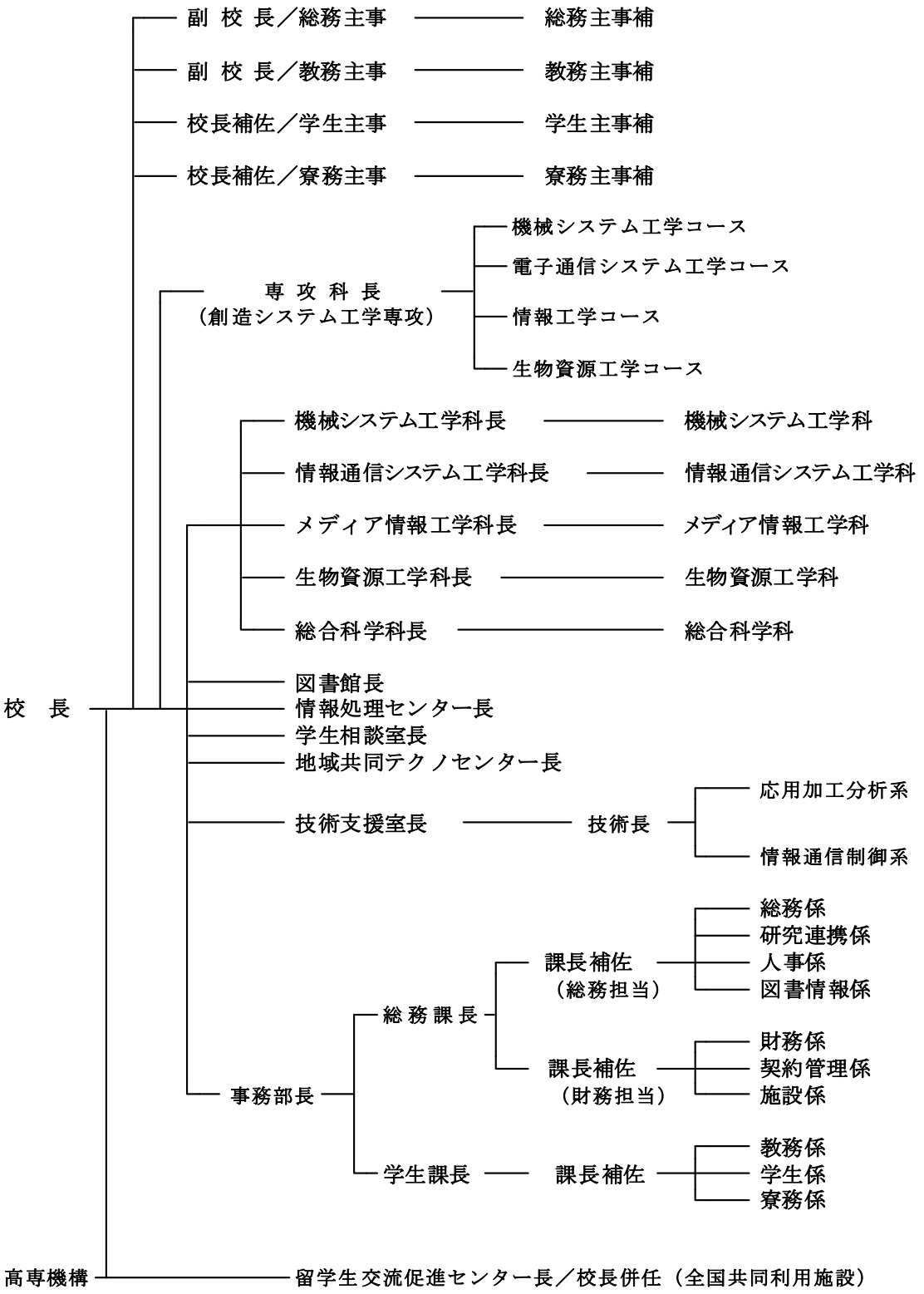
本校には全学的なセンターとして情報処理センター，地域共同テクノセンターのほか，学生，教職員に対して技術支援を行う技術支援室，高専機構が設置する全国共同利用施設の留学生交流促進センターが設置されている（資料２－１－③－１）。留学生交流促進センターは高専機構本部の所属となるため，ここでは除外する。

情報処理センターは，学生寮を含む校内で学生が自由に利用できるネットワークシステムの維持・管理を行うほかに，IT教室を設置して情報処理ネットワークを利用した情報処理教育の支援等を行っている（資料２－１－③－２）。また本校では，IT教育を活用するため，学生には入学時にノートパソコンの購入を義務づけているが，その設定やメンテナンス，メールアドレスのアカウント管理，ソフトのライセンス管理など重要な役割を担っている（資料２－１－③－３，資料２－１－③－４）。情報処理センターの通常業務は後述する技術支援室に所属する情報担当技術員が担当するが，情報処理センターの管理運営に関する審議は専門４学科からの代表教員を含む情報処理センター運営委員会によって行われ，全学的な運営体制となっている（資料２－１－③－５）。

技術支援室は，本校における技術に関する教育研究活動を支援し，教育の充実を諮ることを目的として設置されている。技術支援室は応用加工分析系及び情報通信制御系の２つの技術分野を置き，専門の職員が常駐している（資料２－１－③－６）。技術支援室の支援業務は多岐にわたり，本科５年生の卒業研究，専攻科生の特別研究に関する教育上の支援はもちろんのほか，通常の講義に関しても支援を行っている（資料２－１－③－７）。情報通信制御系職員は主として情報処理センターの支援業務を担当し，応用加工分析系の職員は各種化学分析機器の取り扱いに関する学生への支援と夢工場における機械加工の支援業務を担当している（資料２－１－③－８，資料２－１－③－９）。技術支援室の管理運営に関する審議は情報処理センターと同様に専門４学科からの代表教員を含む技術支援室運営委員会によって行われ，全学的な運営体制となっている（資料２－１－③－10）。

地域共同テクノセンターは，地域の企業，地方公共団体，学校等との連携・交流を推進することにより，地域社会の産業，教育文化の振興に資するとともに，本校における総合技術開発能力のある学生の育成を主たる目的として設置されている（資料２－１－③－11）。業務内容は本校と地場産業との産学連携に係る支援であるが，その支援活動が準学士課程の必修科目であるインターンシップにおける学生受入の協力に与える影響は多大である。学生も対象とした各種セミナー・講演会の開催（資料２－１－③－12，資料２－１－③－13），各種フォーラムなどを開催して専攻科生に研究成果の発表の場を設けさせるなど，学生の教育支援も行っている。地域共同テクノセンターの管理運営に関する審議は総合科学科を含めた５学科からの代表教員，技術支援室長を含む地域共同テクノセンター運営委員会によって行われ，全学的な運営体制となっている（資料２－１－③－14）。

資料２－１－③－１




（出典　平成 22 年度　学生生活の手引き　P. 7）

資料２－１－③－２

# 沖縄工業高等専門学校情報処理センター規則

平成１６年４月１日
規　則　第　１６　号
改正　平成１８年３月３１日
規　則　第　１３　号
平成１９年３月３０日
規　則　第　３　号
平成２０年７月１６日
規　則　第　１０　号
平成２１年１０月２１日
規　則　第　１７　号

（趣旨）
第１条　この規則は、沖縄工業高等専門学校学則（平成16年学則第1号）第１１条の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校情報処理センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（目的）
第２条　センターは、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育・研究のための共同利用施設として、情報ネットワークを利用した情報処理教育、学術研究及び学務事務等に供するとともに、学校内外への情報提供、情報収集等の共同利用のために必要な支援を行うことを目的とする。

（情報ネットワークの構成）
第３条　情報ネットワークは、基幹ネットワーク（以下「基幹部分」という。）及び本校の各学科等に配置した支線ネットワーク（以下「支線部分」という。）の構成とする。

（施設）
第４条　センターに、ＩＴ教室（ＩＴ準備室を含む。）を置く。

（業務）
第５条　センターは、第２条に掲げる目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。
(1) 情報ネットワークに関すること。
(2) コンピュータ支援に関すること。
(3) 学校外情報ネットワークとの連絡、調整に関すること。
(4) 本校のサーバ及びネットワークセキュリティに関すること。
(5) 前条に掲げる施設及び設置されている設備の管理運営に関すること。
(6) その他センターに関すること。

（組織）
第６条　センターに、次の各号に掲げる職員を置く。
(1) センター長
(2) 副センター長　１名
(3) センター管理員
(4) 情報担当技術員
(5) その他校長が任命した者

- 1 -

（出典　沖縄工業高等専門学校情報処理センター規則　抜粋）

資料２－１－③－３

[IPC] 新入生のノートPC設定のためのご協力依頼について　Page 1/1

教職員各位

情報処理センター長の伊波です。
日頃から情報処理センター業務にご協力いただきまして誠にありがとうございます。

さて、今年も1年生を迎えるにあたり、以下のようにノートパソコンの設定や利用についての説明会を行います。初めて自分のパソコンを手にする学生が多く、手厚いサポートが必要になります。
2年生以上の授業が始まっており、また当日はLHRや専門の授業等もございますのでお忙しいとは存じますが、お手伝いいただきますようお願いいたします。

実施日：平成22年4月6日(火)
時　間：13:00～16:30
場　所：視聴覚ホール
内　容：1年生に対する、ノートPCの初期設定と注意事項の説明
(13:00より推奨PCの引き渡しを行います。受け取り後に1年生全員が着席したら開始します)

お手伝いいただく内容は、ノートパソコンやネットワーク設定の補助です。
当日は、正面のスクリーンを使用して説明しますので、学生の進行状況の確認や学生への追加説明などをお願いいたします。なお、当日はスクリーンに表示する内容をプリントしてお渡しする予定です。

ご協力いただける先生は伊波までメールにてご連絡下さい。

よろしくお願いいたします。

―
□●□ 伊波靖(IHA Yasushi) [redacted]
□□● 国立沖縄工業高等専門学校 メディア情報工学科
●●● 〒905-2192 沖縄県名護市辺野古905番地　TEL [redacted]

## 設定の流れ

1. 本体や付属品の確認
2. ACアダプタを接続
3. 電源を入れて起動するかどうか確認
4. パスワードの設定
5. 有線認証接続の設定
6. Internet Explorerで学内のWebページが見られるか確認
7. ウィルス対策ソフトの説明
8. プリンタの設定
9. 共有フォルダへのショートカットの作成
10. OSの認証
11. 無線LANの設定
12. 電子メールメールソフトウェアを設定する
13. バックアップソフトウェアの認証

（出典　新入生のノート PC 設定の初期設定と注意事項の説明案内と説明スライド　抜粋）

資料２－１－③－４

## 沖縄高専情報処理センター　PC 関連　トラブル対応依頼書　(書式 Ver24)

| | | | |
|---|---|---|---|
| (必須)持ち込み日西暦 2010 年　　月　　日　トラブル発生日西暦 20　　年　　月　　日 | | | |
| ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ (必須) | @edu.okinawa-ct.ac.jp | 携帯番号(推奨) | |
| 依頼者名(必須) | | 携帯メール(任意) | |

*すべてボールペンで記入してください　**PC を預ける前に電源を切ってください。***PC を預ける前にログインパスワードを切ってください。

使用機種名等 (必須)　シリーズ(　　)　TYPE・型番(　　)

シリアル No・製造番号(必須)　　推奨機？(必須)　推奨機　・非推奨機

利用 OS (必須)：　XP Pro　・VistaBusiness　・7 Enterprise　その他(　　)

トラブル及び依頼の内容　○をつけて下さい

１．AC アダプターが壊れた　　２．CD を読み取らない　　３．キーボードが壊れた

４．起動しない(HDD・その他)　５．ネットワークにつながらない(無線・有線)

６．充電しない　　７．ヒンジが壊れた　　８．ファンの異常(FAN Error・異音)

９．リカバリーをしてほしい　　10.液晶パネル不良(縦線・割れ・その他)

11．その他（　　）

●トラブルの際のエラーメッセージを具体的に記入して下さい。

＊依頼者、上部太枠を記入。

トラブル及び依頼への対応（情報処理センター作業者記入）

代替機番号　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　＿＿月＿＿日　代替機受領サイン

| | | | |
|---|---|---|---|
| 対　応 | 西暦 20　　年　　月　　日 | 担当者 | |
| 完　了 | 西暦 20　　年　　月　　日 | | |

動作確認をし、受領サインを下さい　→　　引渡者＿＿＿＿＿＿＿＿

（出典　情報処理センタートラブル対応書）

資料２－１－③－５

# 沖縄工業高等専門学校情報処理センター運営委員会規程

［平成１６年 ４ 月 １ 日
規　　程　　第 ８ 号］
改正　平成１９年 ３ 月３０日
規　　程　　第 ３ 号
平成２１年１０月２１日
規　　程　　第１１号

（設置）
第１条　この規程は、沖縄工業高等専門学校情報処理センター規則（平成16年規則第16号）第１１条第２項の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校情報処理センター運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（審議事項）
第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
(1) 情報処理センター（以下「センター」という。）の管理運営の基本計画に関すること
(2) センターの利用計画に関すること
(3) センターの施設設備の維持管理及び整備に関すること
(4) センターの予算に関すること
(5) その他センターに関する重要事項

（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) センター長
(2) 副センター長
(3) 各学科代表教員　各１名
(4) 総務課長
(5) 技術支援室代表職員　１名
２　前項第３号の委員の任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、副センター長がその職務を代行する。

（委員以外の者の出席）
第５条　委員長は、必要があると認めた場合は委員以外の者を出席させ、意見を求めることができる。

（事務）
第６条　委員会の事務は、総務課において処理する。

（雑則）
第７条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員会が別に定める。

（出典　沖縄工業高等専門学校情報処理センター運営委員会規則　抜粋）

資料２－１－③－６

# 沖縄工業高等専門学校技術支援室規則

（平成２０年　３月２５日
規　　則　第　６　号）
改正　平成２１年１１月１８日
規　　則　第　１９　号

（趣旨）
第１条　この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（規則第４号）第１２条第９項及び沖縄工業高等専門学校学則（平成１６年学則第１号）第１１条の２第２項の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校技術支援室（以下「技術支援室」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（目的）
第２条　技術支援室は、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）における技術に関する教育研究活動等を支援し、教育研究等に関する技術的専門業務を組織的かつ効率的・効果的に処理するとともに、技術職員（施設系技術職員を除く。以下同じ。）の能力及び資質の向上を図り、もって教育研究支援体制の充実に資することを目的とする。

（組織）
第３条　技術支援室に、次の各号に掲げる職員を置く。
(1) 室長
(2) 技術長
(3) 技術主査
(4) 技術専門職員及び技術職員
２ 前項に定める職員のほか、技術専門員を置くことができる。

（室長）
第４条　室長は、校長の命を受け、技術支援室の管理運営に関する業務を統括する。
２ 室長の任命に関し必要な事項は、別に定める。

（技術長）
第４条の２　技術長は、上司の命を受け、室長の職務を補佐し、技術支援室の業務及び運営を総括する。
２ 技術長は本校の技術専門員又は技術専門職員の中から実務経験、業務実績等に基づき、校長が任命する。

（技術主査）
第４条の３ 技術主査は、上司の命を受け、技術長の職務を補佐し、第５条に定める当該分野の業務及び運営を総括する。

（出典　沖縄工業高等専門学校技術支援室規則　抜粋）

資料２－１－③－７

平成22年度　前学期　時間割　（更新：平成22年4月5日版）

SHR 8:30~8:40、1限目 8:40~10:20、2限目 10:30~12:10、3限目 13:00~14:40、4限目 14:50~16:30

| | | 月 | | | | 火 | | | | 水 | | | | 木 | | | | 金 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1 8:40~10:20 | 2 10:30~12:10 | 3 13:00~14:40 | 4 14:50~16:30 | 1 8:40~10:20 | 2 10:30~12:10 | 3 13:00~14:40 | 4 14:50~16:30 | 1 8:40~10:20 | 2 10:30~12:10 | 3 13:00~14:40 | 4 14:50~16:30 | 1 8:40~10:20 | 2 10:30~12:10 | 3 13:00~14:40 | 4 14:50~16:30 | 1 8:40~10:20 | 2 10:30~12:10 | 3 13:00~14:40 | 4 14:50~16:30 |
| 1年 | 1 | | 情報技術の基礎<br>バイティガ<br>IT教室 | | | | | （機械）<br>材料加工システムⅠ<br>吉永・松栄・屋良・具志・宮藤<br>夢工場 | | | | | | 情報技術の基礎<br>バイティガ<br>IT教室 | | | | | | | |
| | 2 | | | 沖縄高専セミナー<br>高木・杉本・重城・金城(伊)・神里<br>佐竹・比嘉修<br>情報通信工学実験室、講義室 | | | 情報技術の基礎<br>バイティガ<br>IT教室 | | | 情報技術の基礎<br>バイティガ<br>IT教室 | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | 情報技術の基礎<br>佐藤<br>IT教室 | | | | | | | | | （メディア）<br>プログラミングⅠ<br>正木・釣<br>メディア・プログラミング演習室 | | |
| | 4 | | | | | | | | | | 情報技術の基礎<br>佐藤<br>IT教室 | | | | | | | 情報技術の基礎<br>佐藤<br>IT教室 | | | |
| 2年 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | （機械）<br>材料加工システムⅡ<br>政木・下嶋・屋良・具志・宮藤<br>夢工場 | | |
| | 2 | | | | | （情報）<br>計算機工学Ⅱ<br>山田(眞)・佐竹<br>講義室3-1、ソフトウェア演習室 | | | | | | | | | | | | | （情報）情報通信工学実験Ⅰ<br>石本・野口・津堅<br>山田(眞)・金城(伊)<br>佐竹・比嘉修<br>情報通信工学実験室、制御システム実習室 | （情報）<br>創造演習<br>知念(潤)・比嘉(康)・佐竹・比嘉修<br>情報通信工学実験室 | |
| | 3 | | | | | | （メディア）<br>プログラミングⅡ<br>正木・釣<br>メディア・プログラミング演習室 | | | | （メディア）<br>プログラミングⅡ<br>正木・釣<br>メディア・プログラミング演習室 | | | | | | | | | | |
| 3年 | 機械システム | | | CAD<br>吉永・具志<br>CAD・CAM室 | | 材料加工システムⅢ<br>真鍋・下嶋・屋良・具志・宮藤<br>講義室2-4、夢工場 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 情報通信システム | | 情報通信工学実験Ⅱ<br>野口・山田(眞)<br>金城(伊)・神里<br>佐竹・比嘉修<br>情報通信工学実験室、制御システム実習室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | メディア情報 | メディア情報工学実験Ⅱ<br>太田・釣<br>メディアコンテンツ演習室 | | | | | | | | | | | | | | | | | メディア情報工学実験Ⅲ<br>姉崎・釣<br>メディア・プログラミング演習室 | | |
| 4年 | 機械システム | | | | | | （選択）<br>平良(淳)・工藤・<br>當眞<br>微生物学実験室 | | | | | | | | | | | | 総合構造設計<br>比嘉(吉)・松栄・具志<br>講義室1-4、CAD・CAM室 | | |
| | 情報通信システム | | | | | | | | | | | | | | | | | 情報通信工学実験Ⅲ<br>石本・比嘉(康)・金城(伊)・佐竹・比嘉修<br>情報通信工学実験室 | | | |
| | メディア情報 | | | | | メディア情報工学実験Ⅳ<br>鈴木・比嘉修<br>メディア・プログラミング演習室 | | | | コンピュータグラフィックスⅠ<br>太田・釣<br>メディアコンテンツ演習室 | | | | | | | | | | | |
| 5年 | メディア情報 | | | （選択）<br>制御とロボット<br>姉崎・比嘉修<br>制御システム実習室<br>講義室 1-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 専攻科1年 | 生物資源工学 | | | （選択）資源生物機能形態学<br>山城(秀)・渡邊<br>講義室 2-5 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

（出典　平成 22 年度　時間割前期　抜粋）

資料２－１－③－８

# 夢工場 Dream Factory

夢工場（実習工場）には、旋盤・アーク溶接などの材料加工の基礎から、高速マシニングセンター、ロボット、レーザー加工機などの最先端加工装置まで設置しており、「夢をカタチに」する実践の場です。

また、本工場は創造・実践棟と LAN で結ばれており、最先端の３次元 CAD ／ CAM ／ CAE 統合システムとリンクして、複雑形状部品を高能率に設計・性能予測・製作することができます。

これらの設備・システムを有機的に活用して、本工場では材料加工の基礎から最先端までの高度教育が行えると同時に、産業界のニーズに応じて試作を行うことも可能であり、地域産業活性化と新産業創成支援を狙った産学連携のキーステーションとしての役割を果たすことが可能です。

The Dream Factory has various machine tools such as lathes,milling machines,drilling machines,surface and cylindrical grinding machines, a high frequency melting furnace and TIG/MAG welders.
Furthermore, the latest machine tools such as a five-axis control machining center, a CNC lathe, a high power YAG laser processing system and six-axis robot manipulation systems are also set in the Dream Factory. The aims of the Dream Factory are to educate the students and to support research and development for local manufacturers.



工場風景と実習状況　Dream Factory Training



５軸制御マシニングセンター　Five-Axis Control Machining Center

## 施設と設備 Facilities and Equipments

■ CNC 加工室　CNC Processing Room
- ５軸制御マシニングセンター　Five – Axis Control Machining Center
- 大出力 YAG レーザー加工ロボット　High Power YAG Laser Processing Robot
- 微細レーザー加工機　Laser Micro Processing Machine
- CNC 旋盤　CNC Lathe

■機能膜創成室 Advanced Coating Room
- 雰囲気可変溶射システム
  Variable Atmosphere Thermal Spraying System

■運転・解析室 Operating and Analyzing Room
- 粗さ測定器 Roughness Gage
- 工具顕微鏡 Tool Marker´s Micro Scope

■熱機関性能試験室 Heat Engine Testing Room

■汎用工作機械工場 General Purpose Machinery Shop
- 旋盤　Lathe
- 立フライス盤 Vertical Milling Machine
- 複合フライス盤 Composition Milling Machine
- NC フライス盤 NC Milling Machine
- 平面研削盤 Surface Grinder
- NC 円筒研削盤 NC Cylindrical Grinder
- ラジアルボール盤 Radial Drilling Machine
- 帯鋸盤 Band Saw
- 高周波溶解炉　High-frequency Melting Furnace
- TIG、MAG アーク溶接システム TIG, MAG Arc Welding System

■実習用講義室 Lecture Room
- AV システム AV System



材料加工システム I の授業　Material Processing Systems I Class

（出典　2009 年 学校要覧　P. 28）

資料２－１－③－９

| 科目名 | 材料加工システムⅠ | 英文表記 | Material Processing Systems Ⅰ | 作成 22.3.11 |
|---|---|---|---|---|

**教員名：** 吉永文雄　　**改訂** 22.4.21

**技術支援職員名：屋良朝康・具志孝・宮藤義孝**

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業方法 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 機械システム工学科 | １年 | 必修 | 履修 | ３単位 | 通年 | 実習 |

| | |
|---|---|
| **目　標** | ① ものづくり・機械工作法の基本として位置付けられる溶接・機械加工，測定・手仕上げ、及び電気電子回路について、実習を主体にして加工の原理・方法及び装置工具の構造・操作法を理解し習得する。<br>② PBL を交えた実習発表で各自の理解を深め，自主学習能力を養う。 |
| **高専目標** | １　２　３　４　**JABEE プログラム名称**<br>○　　◎　**JABEE プログラム教育目標** |
| **授業概要、方針、履修上の注意** | 授業では，まず実習の意義や安全など基本的なことを理解してから各種加工法の原理・方法と，装置工具の構造・操作法を学習する。また，危険予知トレーニング（PBL1形式）により安全確保の考え方を学び，技術の理解を深めるための PBL2 課題を提示する。…（PBL2課題については自己調査・学習が求められる）<br>この後，実習作業を行い加工技術・技能を習得する。各加工法の実習の最終週では作品の結果と，PBL2課題の調査結果について発表・討議を行い，種々の視点から技術を深く理解する。 実習日誌は（毎週）提出し，各実習テーマ完了後には最終報告書と PBL2の調査報告書をまとめる。…（日誌・報告書は個人の実習・調査結果と考察が示されていること。）<br>実習は数人ごとの５班にわかれて教員・技術職員の指導のもとに行う。実習テーマは５テーマで、各テーマを５～６週で実習を行う。<br>本講義では、作業服・作業帽・安全靴を必ず着用するとともに、安全作業に心がけること。 |
| **評価方法** | 各実習コースの作品及び日誌・報告書（含むＰＢＬ報告書）と定期試験とで評価する。評価ウェイトは作品２０%、日誌・報告書５０%、定期試験３０%とし、６０%以上で単位を認定する。本人以外の日誌・報告書をコピーして提出した場合は０点とする。 |
| **教科書・教材**<br>**参考図書** | 基礎シリーズ機械実習（上・中・下）、教職員作成の実習指導書<br>機械工学便覧、機械加工・溶接・鋳造に関する参考図書 |
| **関連科目（学年）** | 材料加工システムⅡ・Ⅲ（２年・３年），機械材料（３年），機械設計基礎学Ⅰ・Ⅱ（１・２年），総合構造設計（４年），CAM(4年)，卒業研究(5年) |

**授　業　計　画**

| 授業項目 | 時間 | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1. 授業内容の説明<br>測定・手仕上げ実習 | 3 | 授業全体の内容及びＫＹＴを説明し、理解させる。<br>測定機器の原理、使用方法について学習する。 |
| 2. 測定・手仕上げ実習 | 3 | 長さ測定（ノギス、マイクロメータ）について実習する。<br>文鎮材料のケガキ、切断、やすりがけについて学習する。 |
| 3. 測定・手仕上げ実習 | 3 | 文鎮の底面の平面部分のヤスリがけ、上面部分のケガキ・ヤスリがけについて学習する。 |
| 4. 測定・手仕上げ実習 | 3 | 穴あけ、ねじ切り、端面の曲面仕上げについて学習する。 |
| 5. 測定・手仕上げ実習 | 3 | 仕上げ作業について学習する。 |
| 6. 測定・手仕上げ実習 | 3 | ＰＢＬ討議、仕上げ状態の評価法について学習する。 |
| 7. 旋盤実習 | 3 | 機械の操作説明・使用練習　外径加工・端面加工について学習する。 |
| 8. 旋盤実習 | 3 | 外径加工と自動送りを使った外径加工について学習する。 |

（出典　シラバス　抜粋）

資料２－１－③－10

# 沖縄工業高等専門学校技術支援室運営委員会規程

［平成２０年３月２５日
規　程　第　２　号］

（設置）
第１条　この規程は、沖縄工業高等専門学校技術支援室規則（平成２０年規則第６号。以下「規則」という。）第６条第２項の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校技術支援室運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（審議事項）
第２条　委員会は、校長の命を受け、次の各号に掲げる事項を審議する。
(1) 技術支援室（以下「支援室」という。）の管理運営の基本方針に関する事項
(2) 支援室の業務及び年間業務計画に関する事項
(3) 技術職員の研修に関する事項
(4) その他支援室に関する重要事項

（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 室長
(2) 技術長及び技術主査
(3) 各学科（総合科学科を含む。）所属教員　各１名
(4) 総務課長及び学生課長
(5) その他校長が指名する者
２　前項第３号及び第５号の委員の任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き、室長をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した者がその職務を代行する。

（委員以外の者の出席）
第５条　委員長は、必要があると認めた場合は委員以外の者を出席させ、意見を求めることができる。

（事務）
第６条　委員会の事務は、総務課において処理する。

（雑則）
第７条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員会が別に定める。

附　則
１　この規程は、平成２０年４月１日から施行する。
２　沖縄工業高等専門学校技術支援センター運営委員会規程（平成１８年規程第２号）は廃止する。

（出典　沖縄工業高等専門学校技術支援室運営委員会規程　抜粋）

資料２－１－③－11

# 沖縄工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則

（平成１９年３月３０日 規則第６号）
改正　平成２１年７月１５日 規則第１３号

（趣旨）
第１条　この規則は、沖縄工業高等専門学校学則（平成１６年学則第１号）第１１条の２第２項の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校地域共同テクノセンター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（目的）
第２条　センターは、地域の企業、地方公共団体、学校等との連携・交流を推進することにより、地域社会の産業、教育文化の振興に資するとともに、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）における総合技術開発能力のある学生の育成並びに教育研究活動の充実・活性化を図ることを目的とする。

（業務）
第３条　センターは、校長の命を受け、次の各号に掲げる業務を行う。
(1) 企業等との共同研究及び受託研究に関すること。
(2) 企業等からの技術相談に関すること。
(3) 企業等の技術者に対する技術教育及び研修に関すること。
(4) 知的財産の管理・運用に関すること。
(5) 総合技術開発能力のある学生の育成に関すること。
(6) 小学校、中学校及び高等学校への出前授業や教材開発等の協力に関すること。
(7) 公開講座に関すること。
(8) その他地域社会との連携・交流の推進に関すること。

（組織）
第４条　センターに、次の各号に掲げるセンター長及びセンター職員を置く。
(1) センター長
(2) 副センター長
(3) 技術支援室長
(4) 各学科から選出された教員　各１名
(5) 技術支援室から選出された職員　１名
(6) その他校長が任命した者

（センター長）
第５条　センター長は、校長の命を受け、センターの管理運営に関する業務を統括する。
２　センター長の任命に関し必要な事項は、別に定める。

（副センター長）
第５条の２　副センター長は本校の教員とし、第４条第３号に定める者の中からセンター長が指名する。
２　副センター長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（出典　沖縄工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則　抜粋）

資料２－１－③－12

【開催通知】平成２０年度沖縄高専知的財産セミナー　Page 1/1

平成２１年１月１４日

教職員各位

地域共同テクノセンター長
松栄　準治

下記のとおり沖縄高専知的財産セミナーを開催しますのでご参加方よろしくお願いします。

記

講演目的：　企業や大学・高専における知的財産（権）については、産学の付加価値と競争力を高めるためにますます重要なものとして取り扱われてきている。特に企業においては、商品開発や研究活動が商品の差別化や研究業績を示すうえで重要な要素となり、これら開発研究により得られた成果を工業所有権として保護することが大切である。このように工業所有権（知的財産権）は、企業戦略の大きな柱となっていて、本年度企業に就職する学生にとって実社会で直面する技術である。そこで、工業所有権について権利獲得に繋がる技術はどのようなものかを分かり易く解説していただく特許セミナー（講演会）を開催し、本年度卒業予定者及び教職員に対して周知するものである。
　なお、講演会の開催に当たっては、学外の企業等関係者（産学連携協力会会員など）に聴講者として参加いただくよう併せて案内することとする。

講　　師：　山口大学教授
産学公連携・イノベーション推進機構　知的財産部門長　佐田洋一郎

演　　題：　「特許入門」

日　　時：　平成２１年１月２９日（木）　１２：５５～１４：４５

場　　所：　視聴覚ホール

※ご出席される方は、資料等の確認がありますので、１月２６日（月）までに研究連携係までご連絡下さい。

☆☆☆★★☆☆☆★★☆☆☆★★☆☆☆★★☆☆☆★★
国立沖縄工業高等専門学校
総務課研究連携係　崎山・末吉
〒905-2192
[redacted]
★★★☆☆★★★☆☆★★★☆☆★★★☆☆★★★☆☆

（出典　【開催通知】平成 20 年度沖縄高専知的財産セミナーのメール）

資料２－１－③－13

「知的財産セミナー」を開催しました | 国立　沖縄工業高等専門学校　1/2 ページ

受験生の方へ　在学生・保護者の方へ　企業の方へ　地域の方へ
アクセスマップ　お問い合せ　English

トップページ > トピックス

トップページ
学校紹介(About ONCT)
学科紹介(Departments)
教育・学生生活(College Life)
進学・就職状況(Employment Situation)
入試情報(Entrance Examination)
沖縄高専の活動(Academic Activities)
教員紹介(Faculty)
教職員公募(Job Listings)
企業の方へ(入札情報他)
アクセスマップ(Visitor Information)
リンク集
お問い合わせ先一覧

検索

カレンダー

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | 31 | | | | | |

2010年05月

K-tai Campus

授業変更・休講情報

## 「知的財産セミナー」を開催しました

本校では、工業所有権（知的財産権）や特許獲得のポイントについて理解を深めることを目的として、山口大学産学公連携・イノベーション推進機構知的財産部門長の佐田洋一郎氏（同大学教授）を講師に招き、本校学生・教職員、企業の方々を対象に、1月6日（水）知的財産セミナーを開催しました。
「ゼロから学べる知的財産～高専学生が知っておきたい知的財産権の知識～」と題したセミナーでは、工業所有権の重要性や特許取得のためのポイント等、分かりやすい解説が行われ、参加した学生からは「知らなかったこと、誤解していた部分が分かって良かった。発想の心得が大変参考になった。」と感想があり、知的財産権制度等について理解を深める良い機会となりました。



講演の様子

このページのトップへ

トップページ > トピックス

国立　沖縄工業高等専門学校
〒905-2192　沖縄県名護市辺野古905

http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=15752&type=TopicsTopPage&select=&funcid=2&ed...　2010/05/13

（出典　本校ウェブページ）

資料２－１－③－14

# 沖縄工業高等専門学校地域共同テクノセンター運営委員会規程

平成１９年３月３０日
規　程　第４号
改正　平成２０年７月１６日
規　程　第９号

（設置）
第１条　この規程は、沖縄工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則（平成19年規則第６号。以下「規則」という。）第８条第２項の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校地域共同テクノセンター運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（審議事項）
第２条　委員会は、校長の命を受け、次の各号に掲げる事項を審議する。
(1) 運営方針に関する事項
(2) 事業計画に関する事項
(3) その他地域との連携・交流に関する重要事項

（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) センター長（規則第４条に規定するものをいう。次号以下同じ。）
(2) 副センター長
(3) 技術支援室長
(4) 各学科（総合科学科を含む。）所属教員　各１名
(5) 総務課長
(6) その他校長が指名する者

（委員長）
第４条　委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長はセンター長を、副委員長は副センター長をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときはその職務を代行する。

（委員以外の者の出席）
第５条　委員長は、必要があると認めた場合は委員以外の者を出席させ、意見を求めることができる。

（事務）
第６条　委員会の事務は、総務課において処理する。

（雑則）
第７条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員会が別に定める。

附　則
１　この規程は、平成１９年４月１日から施行する。

（出典　沖縄工業高等専門学校地域共同テクノセンター運営委員会規程　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

本校に設置されている情報処理センターは，学生の情報処理ネットワークを利用した技術のスキルアップに大きく貢献し，技術支援室においては学生の高度な専門技術の習得に大きく貢献している。地域共同テクノセンターにおいては，学生と社会・企業との橋渡し的な役割を担っており，学生へのキャリア教育などに有効に機能している。以上のことから，本校の全学的なセンターは教育の目的を達成する上で，適切なものになっている。

**観点２－２－①：　教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。**

（観点に係る状況）

本校における教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制として，運営企画会議が設置されている（資料２－２－①－１）。運営企画会議は本校の運営全体を審議する機関であり，教育課程全体を企画調整するための検討も重要な部分を占めており，各種の事項が審議・報告されている（資料２－２－①－２）。

また，教育課程を有効に展開するために重点的に検討・運営を行う組織は，教務委員会が中心となっている（資料２－２－①－３）。教務委員会では準学士課程・専攻科課程の両課程について検討が行われている（資料２－２－①－４）。教務委員会は教務主事，主事補５名（各学科から１名ずつ），学生課長で構成され，教育活動に関わる事項の審議を行っている（資料２－２－①－５）。なお本校では，準学士課程設置の段階で専攻科設置を前提とした教員選考と教員採用が行われている（資料２－２－①－６）。

資料２－２－①－１

# 沖縄工業高等専門学校運営企画会議規則

［平成１６年４月１日
規　則　第　３　号］
改正　平成１７年４月１日
規　則　第　２　号
平成１８年３月３１日
規　則　第１４号
平成１９年３月３０日
規　則　第　３　号
平成２０年７月１６日
規　則　第１０号
平成２２年３月１７日
規　則　第　５　号

（設置）
第１条　沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、運営企画会議を置く。

（目的）
第２条　運営企画会議は、本校の管理運営に関する諸問題について検討し、校務の円滑なる運営を図ることを目的とする。

（構成員）
第３条　運営企画会議の構成員は、次の各号に掲げる者とする。
(1) 校長
(2) 副校長
(3) 総務主事、教務主事、学生主事及び寮務主事
(4) 専攻科長
(5) 機械システム工学科長、情報通信システム工学科長、メディア情報工学科長、生物資源工学科長及び総合科学科長
(6) 図書館長
(7) 地域共同テクノセンター長、情報処理センター長及び技術支援室長
(8) 学生相談室長
(9) 事務部長
(10) 総務課長及び学生課長
２　校長が必要と認めたときは、前項各号に掲げた者以外の者が出席できるものとする。

（会議）
第４条　運営企画会議は、校長が招集し、主宰する。
２　運営企画会議は、原則として毎月１回開催するものとする。

（事務）
第５条　運営企画会議に関する事務は、総務課において処理する。

（出典　沖縄工業高等専門学校運営企画会議規則　抜粋）

資料２－２－①－２

平成２０年度第１０回沖縄工業高等専門学校運営企画会議議事次第

１．日　　時　　平成２１年　２月１８日（水）　　１６：００ ～

２．場　　所　　メディア棟２階　大会議室

３．議　　題

（１）平成２０年度第９回運営企画会議議事要旨の確認について（資料１）

（２）沖縄工業高等専門学校専攻科の運営について（資料２）

（３）平成２０年度沖縄工業高等専門学校卒業式について（資料３）

（４）マイクロソフト包括ライセンスについて（資料４）

（５）沖縄工業高等専門学校退学者の再入学について（資料５）

（６）沖縄工業高等専門学校学則等の一部改正等について（資料６）

（７）平成２０年度沖縄工業高等専門学校教育・研究情報交流会の実施について（資料７）

（８）沖縄工業高等専門学校各種委員会等報告（資料８）

（９）その他
① 沖縄工業高等専門学校キャンパス・ハラスメントの防止等について（資料９）

② 留学生交流促進センターについて

③ 平成２１年度沖縄工業高等専門学校入学式について（資料１０）

④ 卒業研究等に伴う施設の使用について

（出典　平成20年度第10回運営企画会議議事次第）

資料２－２－①－３

# 沖縄工業高等専門学校教務委員会規則

［平成１６年 ４ 月 １ 日
規　　則　　第 ７ 号］

（設置）
第１条　沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校の教務に関する事項を審議するため、沖縄工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。
(1) 教育課程及び授業時間割の編成及び実施に関する事項
(2) 学生の教科履修に関する事項
(3) 指導要録等教務記録に関する事項
(4) 学校行事に関する事項
(5) 学生の休学、退学、転学及び転科等に関する事項
(6) 学生の進学及び卒業に関する事項
(7) その他教務に関する重要事項

（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 教務主事
(2) 教務主事補
(3) 学生課長
(4) その他校長が必要と認めた者
２　前項第４号に規定する委員の任期は１年とし、再任を妨げない。
３　前項の委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の在任期間とする。

（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した者がその職務を代行する。

（開催）
第５条　委員会は、毎月１回開催することを原則とする。ただし、委員長が必要があると認めた場合は、臨時に開催することができる。

（出典　沖縄工業高等専門学校教務委員会規則　抜粋）

資料２－２－①－４

# 沖縄工業高等専門学校専攻科の運営について（案）

本校専攻科については、平成２１年度政府予算案の国会審議通過をもって平成２１年４月１日に設置されることとなります。

専攻科設置及び学生の受け入れに伴い、学則を含めた各種規則の制定あるいは改訂、募集要項の作成、「専攻科学生の手引き（学生便覧・授業要目）」の作成、時間割やシラバスの作成、入試準備、学生受け入れのための施設の準備、などなど多くの作業を伴いますので、各所での準備方をお願いいたします。

なお、専攻科設置後の組織や運営方法については、以下のように計画しています。

【役職者】

専攻科を円滑に運営するため、専攻科に以下の者を置く。

（１）専攻科長
（２）コース主任（各専門学科の学科長をもって充てる。）
（３）コース副主任（各コースから選出された教員各１名）

専攻科長は、専攻科に関する業務を掌理する。

コース主任及びコース副主任は、次の事項に関し当該コースの連絡調整を担当する。

（１）当該コースの教育課程及び厚生補導等に関すること。
（２）その他、当該コースの運営に関すること。

【運営方法】

専攻科を運営するにあたり次のような事項について、検討（審議）が必要となる。

（１）専攻科の入学者選抜に関すること。
（２）専攻科の教育課程の編成及び教育計画の立案に関すること。
（３）専攻科の施設及び設備に関すること。
（４）学生の学籍に関すること。
（５）学生の進路に関すること。
（６）学生の厚生補導に関すること。
（７）その他専攻科の運営に関すること。

他高専では、「専攻科運営委員会」を設置し上記のような事項について検討（審議）しているが、次の事由により本校は専攻科運営委員会を設置せず、従前から設置されている教務委員会、学生委員会及び学生寮委員会等において専攻科（生）に関する事項について検討（審議）することとする。

（１）本校は、全教員が専攻科担当教員となっていること。
（２）専攻科の教育課程の編成及び教育計画の立案については、技術者教育プログラムを考慮すれば、ある意味で７年一貫の教育課程等の編成（立案）が必要なこと。

ただし、専攻科の将来構想等について審議を必要とする場合は、運営企画会議において審議する。

なお、専攻科長は、運営企画会議の構成員とはせず、審議に加わる必要がある場合にのみ運営企画会議に出席するものとする。

また、専攻科に関し打ち合せ等を必要とする場合は、専攻科の役職者等（校長、専攻科長、コース主任、コース副主任）により、専攻科会議を行うものとする。

（出典　平成20年度第10回運営企画会議配布資料）

資料２－２－①－５

# 第１回　教務委員会議事要旨（案）

日　　時　　平成２２年４月９日（金）　　１７：００　～　１８：１０

場　　所　　創造実践棟２階　テクノセンター会議室

出 席 者　　委員長（平山教授）、政木准教授、野口准教授、タンスリヤボン准教授、
田邊准教授、木村講師、学生課長

列 席 者　　学生課長補佐

配付資料　　資料１　　沖縄工業高等専門学校教務委員会規則
資料２　　平成２２年度沖縄工業高等専門学校教務委員会名簿
資料３　　平成２１年度第１２回教務委員会議事要旨
資料４　　一般科目教育課程表
資料５　　平成２２年度シラバス様式
資料６　　平成２２年度シラバス記入例及び教員便覧抜粋
資料７　　高専機構第２期中期目標/中期計画/平成２２事業年度計画
資料８　　平成２２年度沖縄工業高等専門学校行事予定表
資料９　　学生写真表作成メール

【確認事項】

（１）　沖縄工業高等専門学校教務委員会規則
（２）　平成２２年度沖縄工業高等専門学校教務委員会名簿
（３）　平成２１年度第１２回教務委員会議事要旨

委員長から、資料１から３に基づき各委員に確認要請があった。教務委員会名簿の職名欄に一部誤りがあり修正することとなり、その他については疑義がなく確認された。

【審議事項】

１．　本年度の役割分担案について

委員長から、議事次第により次ぎのとおり本年度の役割分担案について説明があり、審議の結果、承認された。

| ◆主な業務 | 担当者 |
|---|---|
| ・議事録、各種支援、資料提供、規則のチェック等 | 教務係 |
| ・ＦＤ関係 | 平山 |
| ・ＪＡＢＥＥ、認証評価 | 全委員 |
| ・公開授業週間（６月２８日～７月２日）、保護者懇談会<br>※資料を教務係から担当委員へ渡す。 | 野口、教務係 |
| ・オープンキャンパス（７月４日） | 田邊、 |

（出典　平成22年度第１回教務委員会議事要旨）

資料２－２－①－６

資料2
18. 6.14

# 沖縄工業高等専門学校専攻科のモデル案

１．本科に各専攻を積み上げた４専攻コースとする。

沖縄工業高等専門学校　　専攻科
- 機械システム工学専攻
- 情報通信システム工学専攻
- メディア情報工学専攻
- 生物資源工学専攻

２．理由

１）　沖縄高専の本科設置の段階で、既に専攻科設置を前提にした教員選考と教員採用が行われており、他高専に比較して、専攻科を担当する教員数が十分確保されている。他高専では教員と開設単位数を確保するために複合・融合専攻としたところも多い。

２）　本科の教育課程において、既に、複合、融合的な科目編成がなされている学科があり、専攻科においては、他専攻の単位を修得する教育課程を編成することができるため、本科に比べてさらに柔軟な科目選択が可能となる。

３）　研究開発型の技術者の育成を理念にかかげた場合、専攻科においては、本科に比べて、より専門性の高い教育課程を編成する必要があり、その場合は単独専攻が望ましい。

４）　学位取得、JABEE 受審を考慮した場合、専門区分、専門性を明確にする場合は（ためには）単独専攻が望ましい。

５）　単独の４専攻コースを設置する専攻科は全国でもまれであり、沖縄高専の教員組織の層の厚さをアピールすることになる（ことができる）。

（出典　平成18年度第1回沖縄工業高等専門学校専攻科設置検討委員会資料　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

教育課程全体を企画調整するために運営企画会議が設置されている。また，準学士課程・専攻科課程の具体的な検討・運営体制として教務委員会が設置されている。これらの委員会は総合科学科およびすべての専門学科から選出された委員などから構成されており，教育課程に関わる様々な事項について活動を行っている。

したがって，教育課程の企画調整および有効な実施に必要な検討・運営体制が整備され，教育活動などにかかる重要事項を審議するなどの必要な活動が行われている。

**観点２－２－②:　一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われているか。**

（観点に係る状況）

本校では各委員会において一般科目を担当する総合科学科と専門学科の教員が名を連ねており，日常的に必要に応じて連携が取られている（資料２－２－②－１）。また，平成21年度FD委員会の活動として，教育改善のための討論会が行われている（資料２－２－②－２）。一般科目教員と専門科目教員との間で成績不振者への指導方法，キャリア教育，混合学級についてなど活発な議論がなされている（資料２－２－②－３，資料２－２－②－４，資料２－２－②－５）。

資料２－２－②－１

平成２２年度沖縄工業高等専門学校各種委員会等一覧（案）

平成22年4月30日現在

| 委員会等名 | 校長 | 総務主事 | 教務主事 | 学生主事 | 寮務主事 | 専攻科長 | 機械 | 情報 | メディア | 生物資源 | 総合 | 図書館長 | 情報処理センター | 地域テクノ | 技術支援室 | 学生相談室 | 事務部長 | 事務部 | 機関長及び校長指名者 | 学外者 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 運営企画会議 | ◎伊東（繁） | 松栄 | 平山 | 眞喜志（隆） | 網谷 | 知念 | 宮田 | 高木 | 角田（正） | 三枝 | 小池 | 山城（光） | 伊波 | 池松 | 松栄 | 西村 | 川満 | 真志喜<br>南部 | | | |
| 総務委員会 | | ◎松栄 | | | | | 宮田 | 知念 | 正木 | 濱田 | 小池 | | | | | | | 真志喜 | | | 各学科所属教員各１名選出<br>主事補 |
| 広報委員会 | | 松栄 | 平山 | 眞喜志（隆） | 網谷 | | 眞喜志（治） | 山田 | 正木 | 工藤 | 青木<br>武田 | | ◎伊波 | | | | | 真志喜<br>南部 | | | 委員長（◎）は校長指名<br>各学科校長指名者<br>(H22.4.1～H23.3.31) |
| 教務委員会 | | | ◎平山 | | | | 政木 | 野口 | タンスリヤポン | 田邊 | 木村 | | | | | | | 南部 | | | 各学科所属教員各１名選出<br>主事補 |
| FD委員会 | ◎伊東（繁） | 松栄 | 平山 | 眞喜志（隆） | 網谷 | | 宮田 | 高木 | 角田（正） | 三枝 | 小池 | | | | | | 川満 | 真志喜<br>南部 | | | |
| 授業評価に関する検討部会<br>教育方法等の改善に関する検討部会 | | | ◎平山 | | | | 山城（光） | 高木<br>比嘉（勝） | 角田（正） | 平山 | 網谷<br>成田 | | | | | | | | | | FD委員会専門部会 |
| 入試委員会 | | | ◎平山 | | | | ○山城（光） | 山田 | 佐藤 | 工藤 | 木村<br>名嘉山 | | | | | | | 南部 | | | 委員長（◎）は校長指名<br>各学科教員(H22.4.1～H23.3.31) |
| 学生委員会 | | | | ◎眞喜志（隆） | 網谷 | | 武村（史） | 神里 | 玉城（龍） | 三宮 | 下部<br>飯田 | | | | | | | 南部 | | | 各学科所属教員各１名選出<br>主事補 |
| 学生寮委員会 | | | | 眞喜志（隆） | ◎網谷 | | 下嶋 | 金城 | バイティガ | 山城（秀） | 澤井<br>古屋 | | | | | | | 南部 | | | 各学科所属教員各１名選出<br>主事補 |
| 図書委員会 | | | | | | | 下嶋 | 神里 | 玉城（龍） | 磯村 | 澤井<br>古屋 | ◎山城（光） | | | 具志 | | | 真志喜<br>南部 | | | 各学科教員、技術支援室所属職員<br>(H22.4.1～H23.3.31) |
| 施設・環境マネジメント委員会 | | 松栄 | 平山 | 眞喜志（隆） | 網谷 | | 宮田 | 高木 | 角田（正） | 三枝 | 小池 | ◎山城（光） | 伊波 | 池松 | 松栄 | | 川満 | 真志喜<br>南部 | | | 委員長（◎）は校長指名 |
| 安全衛生委員会 | | | | | | | 吉永 | 兼城 | バイティガ | 山城（秀） | | | | | | | ◎川満 | 真志喜<br>（安全管理者） | 武村（ク） | 山城<br>（産業医） | H22.4.1～H24.3.31 |
| 研究推進委員会 | | | | | | | 中本 | ◎杉本 | 姉崎 | 玉城（康） | 下部 | | | 池松 | 松栄<br>宮藤 | | | 真志喜 | | | 委員長（◎）は校長指名、副委員長は委員の互選<br>各学科教員、技術支援室所属職員(H22.4.1～H24.3.31) |
| 専攻科会議 | | | | | | ◎知念 | ○宮田<br>△比嘉（吉） | ○高木<br>△兼城 | ○角田（正）<br>△タンスリヤポン | ○三枝<br>△平良 | ○小池 | | | | | | | | コース副主任４名 | | ※専攻科長<br>※コース主任（○：各学科長、△：コース副主任） |
| JABEE対応委員会 | | 松栄 | | | | | 政木<br>武村（史） | ◎比嘉<br>兼城<br>山田 | 姉崎<br>佐藤 | 伊東（昌）<br>三宮 | 下部<br>（※）<br>大石 | | | | | | | 真志喜 | | | 各学科教員(H22.4.1～H24.3.31)<br>※の委員の任期(H21.4.1～H23.3.31) |
| 自己点検・評価委員会 | | 松栄 | | | | | 武村<br>（史）<br>政木 | 神里<br>野口 | ◎正木<br>太田<br>鈴木 | 濱田<br>玉城<br>（康） | 成田<br>滝(※) | | | | | | | 真志喜 | | | 各学科教員(H22.4.1～H24.3.31)<br>※の委員の任期(H21.4.1～H23.3.31) |
| 職員レクリエーション委員会 | | | | | | | 鳥羽 | 金城 | バイティガ | 山城（秀） | 飯田 | | | | 佐竹 | | | 真志喜 | | | 委員長（◎）、副委員長は委員の互選<br>各学科教員、技術支援室所属職員<br>(H22.4.1～H23.3.31) |
| 知的財産委員会 | | | | | | | 吉永 | 杉本 | 姉崎 | 伊東（昌） | | | | ◎池松 | 松栄 | | 川満 | 真志喜 | | | 各学科教員(H22.4.1～H23.3.31) |
| 外部資金受入委員会 | | 松栄 | 平山 | | | | | | | | | | | ◎池松 | 松栄 | | 川満 | 真志喜 | | | |
| 進路委員会 | | | 平山 | | | | 眞鍋 | 知念 | ◎伊波 | 三枝 | 成田 | | | | | | | 南部 | | | 委員長（◎）は委員の互選<br>各学科教員 (H22.1.1～H22.12.31) |

（出典　平成22年度各種委員会一覧）

資料２－２－②－２

**本部会において実施した「教育改善のための討論会」及び「卒業生アンケート」について、実施結果等を報告する。**

【教育改善のための討論会】

１　平成 22 年１月 22 日開催の部会において次の事項を確認した。
- ３月４日の午後に教育改善のための討論会を開催すること。
- 討論会のテーマは、各委員の意見を聴取した上で、全教員にアンケートをとり、上位の３テーマについて実施すること。
- 今回実施しなかったテーマについては、次回以降順次開催すること。

２　１月２８日にテーマに関するアンケートを実施した。２月１２日に取りまとめた結果は資料１のとおりである。

３　２月２４日付けで教育改善のための討論会を開催する旨を通知した。テーマは次のとおりである。
（１）成績不振の学生に対して、留年と早期の進路変更とどちらの選択を進めるべきか。またその判断材料には何が必要か。保護者との懇談の適切なあり方。
（２）１年生から５年生までのキャリア教育のあり方。
（３）混合学級制度における、総合科学科と専門学科の連携のしかた。混合学級により学科をまたがった学生の交流にメリットある一方、学生の専門学科への意識が弱くなる、あるいは、専門学科から学生の把握がしにくいという意見もある。混合学級制のメリットを生かしつつ、問題点を軽減するにはどうしたらよいか？

４　３月４日１４時から１６時の間「教育改善のための討論会」を開催した。
各テーマ別の討論会の内容については、資料２－１～３のとおりである。

５　討論会開催後、今後のＦＤ活動をよりよく行うため参加教員から意見を聴取した。その結果については、本日現在で、資料３のとおりである。

【卒業生アンケート】

１　１２月９日開催の部会において、卒業生（現５年生）を対象としたアンケートを実施することを確認した。

２　運営企画会議の議を経た後、２月１日から１０日の間に、ＨＲ等においてブラックボードを利用したアンケートを実施した。なお、ブラックボードの利用については、兼城先生のご好意によるものである。

３　アンケートの結果は、資料４のとおりである。

（出典　FD委員会資料　抜粋）

資料２－２－②－３

教育改善討論会　　2010/03/05　討論会メモ　平山

成績不振の学生に対して、留年と早期の進路変更とどちらの選択を進めるべきか。またその判断材料には何が必要か。保護者との懇談の適切なあり方。

出席者：　小池、滝、武田、山本、真鍋、吉永、磯村、西村、山城（光）、平山　（10名）

- 学生により成績不振の理由が異なるため、学生により異なった指導が必要。　個別の対応が必要。
- 1、２年生で進路変更の場合、県立高校で受け入れてもらえるところは少なくなってきている。県立高校側では1～３期生の時とは異なる対応をしている。転入を断る高校が多くなってきている。
- 他高専ではもともと高校への転出という選択肢は無い。3年生までなんとか頑張らせて、ついていけない学生には退学を勧めていた。
- 専門学科の勉強についていけない学生や明らかに進路選択の間違いで入学してきた学生等に対しては、3年生まで何とか頑張らせて、高校卒業程度（大学受験資格）で退学を勧める方が良いのではないか？その意味でもダブルスタンダードにはなるが、JBEEには関わりの無い１～3年生は、合格ラインを60点に置くのではなく30点くらいでも良いのでは？
- 3年生での指導が非常に重要！3年生から4年生　何故ここで未修得単位が4単位で留年になるのかを考え直す必要がある。　学生を救いたい？　卒業生のレベルの確保？　どちらが大切か　全ての学生を判定会議後の追認で救う必要は無いはず。
- 学校の方針はどちらなのかをはっきりさせる必要がある
- 成績不振の理由は何か？　高専の勉強に向いていない？単に学習不足？寮でゲームばかりやって学習の習慣が身についていない？
- 一生懸命真面目に努力してもついて来られない学生もいる。学力・質の低下？
- 成績不振の学生ほど、授業中に眠っている学生が非常に多い。全ての授業で眠っている学生もいる。
- 沖縄高専の学生の成績は全国的に見てどの程度なのか知りたい。小中学校での沖縄県のレベルが全国で最下位なことを考えるとかなり低いのではないか？　学習到達度テストは学内の順位のみしかわからない。入学試験で沖縄高専のレベルは把握できないのか？
- 成績不振な学生に対しては、後期中間試験後に、留年の可能性や進路変更等の警告　担任警告、主事警告などを出している高専もある。試験ごとに成績会議を行っている高専もある。
- 成績不振者へのサポート体制が必要
- 留年または進路変更の指導を考える際に、今までのデータが必要　低学年で留年した学生はほとんど退学しているように見えるが、実質どうなのか把握できていない。
- 1,2期生では、留年後退学した学生でも、その後きちんとした道に進んでいる学生が多い。
- 留年して辞めていった学生ほど高専を訪ねてくる機会が多いのは何故でしょう？高専がやっぱり懐かしい？ほっとしている？自分が頑張っているところを見て欲しい。
- 高学年で留年した学生についてはやる気になれば卒業も可能で、低学年での留年生とは違った指導や対応が必要ではないか？
- 3年生までと４，５年生での留年生への対応は異なる。
- 保護者への連絡は早期にするべき。留年が確定してからの連絡では遅すぎる。少しでも成績不振が

（出典　FD委員会資料　抜粋）

資料２－２－②－４

教育改善のための討論会

―― １年生から５年生までのキャリア教育のあり方 ――

実施日時：2010 年 3 月 4 日　14:30～16:00
参加教員：網谷、眞喜志（隆）、伊波、鈴木、角田、正木、田邊
記録係：角田

１．本校のキャリア教育と課題について意見交換を行った。主な、意見は次のとおりである。

・エントリーシート等に自己アッピール点を書く際になって分からない学生がおり、１年生から指導する必要がある。
・企業の業績や将来の姿を読み取る力の指導も大事。
・キャリア選択枝を考えるための情報提供のしくみを低学年から整備する必要がある。
・２年次に普通高校に進学した友人と話をし、高専生としてのアイデンティティを失う例があり、低学年からのキャリア教育が必要と思う。
・これまでキャリア教育は、主に、インターンシップ、その後の就職指導のように高学年で行ってきたが、２年担任からの意見があり低学年から必要だと思っている。
・インターンシップに向けてのマニュアルはあるが、就職に向けてのマニュアルがない。
・キャリア教育は専門教員が自分の授業時間で個々に行われているのが現状で、学校全体としての体系化・マニュアル化、実施時間の確保（ＬＨＲ利用）が必要である。
・授業科目、学習内容のキャリアパスの中での位置づけを明確にする必要がある。
・自分が将来何になりたいのかが分からない学生が多い。
・将来の夢を描くことができても、実現に向けた筋道の明確化、具体化ができない。
・１年生に進路指導をしても自分の問題として受け取ることができないようである。低学年から継続的な指導が必要である。
・先輩（卒業生、上級生）の実体験に基づく話を聞くのは大変有効である。
・進学でも、希望大学に入るための基準（成績）を理解していない。また、教員側もやっとこのあたりの情報が分かり始めたところである。
・総合科学科の教員、専門学科でも大学出身の教員は企業情報が不足気味であり、教員にも企業情報を得る仕組みが必要である。

２．以上の意見交換により、本校のキャリア教育に次の課題があることが示された。

(1) キャリア教育の体系化・マニュアル化
(2) 早期（低学年）からの実施
(3) 低学年担任と専門教員との連携

（出典　FD委員会資料　抜粋）

資料２－２－②－５

**教育改善のための討論会**

**2010 年 3 月 4 日（木）14:00-16:00**

**テーマ：混合学級制度における総合科学科と専門学科の連携の仕方**

参加者(敬称略)：

金城(情報)、工藤(生物)、佐藤(メディア)、澤井(総合)、下郡(総合)、濱田(生物)、宮田(機械)

司会：比嘉勝也(情報)、書記：成田(総合)

**混合学級制度のデメリット：**

・学生は 3 年生までは高校生という認識（高専生の自覚欠如）

・自分の専門が何なのか疑問に思うのでは?

・将来(進路)を考えることをしない

・クラス担任が進路指導できない（しかし、学科担任ならば対応可能。また学生が就職および進路情報の閲覧も可能）

・学科内の学生で知らない者がいる(2 年終了時)

・保護者も自分の子は“高校生”と思っている

**混合学級制度のメリット：**

・他学科との交流(しかし、寮生活があるから不要ではないか?)

・寮での交流はご近所程度、これでは不十分

・学科間の成績の差を無くす

**解決策(連携方法)：**

・LHR(特別活動)の活用：

・学科別 LHR の評判がよい(アンケートより)

・上級生、下級生との交流が可能(縦の繋がりの重要性)

・進路が見え易い

・懇談会を前半クラス単位、後半学科単位の 2 部構成にしては?

・学科別 LHR で新入生歓迎会を開く

・1 年生から専門学級、2 年生だけ混合学級する

・高専祭、PBL などで団結

**その他：**

・　禁句(広報)：「きめ（または木目）細やかなサポート」

(全寮制であることに対する学校と保護者との間での意識のギャップが生まれるリスク＝＞

学校側：自立性や協調性の育成を目的。サポートはあくまで勉強面に関して。

保護者側：朝学生を起こす事から何でも学校が全てを行ってくれる)

（出典　FD委員会資料　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，特定教員間において一般科目と専門科目の連携を図るための話し合いは持たれているが，全学的に行われている状況ではなく，学科間における共通の問題点の抽出，科目間の教育事項に関する流れを検討する定期的な話し合いなどは行われていない。したがって，一般科目教員と専門科目教員間の連携は十分とられているとは言えないが，平成21年度FD委員会による議論により，一般科目教員と専門科目教員との連携を深める取り組みを進めている。

**観点２－２－③：　教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。**

（観点に係る状況）

本校では，準学士課程１・２年生を混合学級とし，学級運営のために学級担任を置き，その支援のために学級副担任を置いている。また，１～５年生の各専門学科においては学科担任・副担任を配置している（資料２－２－③－１，資料２－２－③－２）。学級担任に対しての支援として，教務委員会はクラスの運営，学習指導，進路指導，教育活動の企画・実施にあたっての支援を行っている（資料２－２－③－３）。学生の生活指導に関しては学生委員会が支援している（資料２－２－③－４）。学生の半数以上が生活している学生寮においては学生寮委員会の学生寮委員ならびに指導員が寮生の日常生活に関する指導を行っており，学習・生活指導の両面からの支援を行っている（資料２－２－③－５）。学年内でも他学科教員と定期的に情報の交換がなされており，各学年での教員間支援体制は整っている（資料２－２－③－６）。

また，毎週各学科別で開かれる学科会議において，学生生活・授業や成績に関する報告が必要に応じてなされ（資料２－２－③－７），学科長をはじめとする学科内での支援体制が機能している。インターンシップ・進路に関しては進路委員会が中心となって支援を行っている（資料２－２－③－８）。

専攻科課程においては，専攻科長を置き，各コースにコース主任（学科長兼任）・副主任を配置している（資料２－２－③－１）。専攻科における学生指導は関連する委員会や教員が協力してコース主任を支援し，入学前に専攻科オリエンテーションなどを行っている（資料２－２－③－９）。

クラブ活動の顧問には，各専門学科，総合科学科区別無く複数の教員を割り当てて，学生委員会がその支援を行っている（資料２－２－③－10）。

資料２－２－③－１

（コース主任及びコース副主任）

第９条の２　専攻科の各コースごとに、専攻科長の職務を補佐するため、コース主任及びコース副主任を置く。

２　コース主任は、各コースの基礎となる学科の学科長をもって充てる。

３　コース副主任は、各コースの基礎となる学科の教授又は准教授若しくは専任講師をもって充てる。

４　コース副主任の任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、コース副主任に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

（学年主任、学科担任及び学級担任）

第１０条　本校の各学年、各学科（総合科学科を除く、各学年ごとに編成する各学科をいう。以下同じ。）及び各学級（第１学年及び第２学年において編成する学級をいう。以下同じ。）ごとに、それぞれ学年主任、学科担任及び学級担任（以下「学年主任等」という。）を置く。

２　学年主任は、当該学年の運営に関し、主事、学科長、学級担任、学科担任及び他の学年主任との連絡調整を行う。

３　学科担任は、主事、学科長、学年主任、学級担任及び他の学科担任との密接な連携のもとに、当該学科の学生の学習指導、生活指導に関することを行う。

４　学級担任は、主事、学科長、学年主任、学科担任及び他の学級担任との密接な連携のもとに、当該学級の学生の学習指導、生活指導その他学級運営に関することを行う。

５　学年主任等は、教授又は准教授若しくは専任講師をもって充てる。

６　学年主任等の任期については、校長が別に定める。

（出典　沖縄工業高等専門学校運営組織規則　抜粋）

資料２－２－③－２

## 学 科 担 任

| | | 機械システム | 情報通信システム | メディア情報 | 生物資源 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1年次 | 担任 | 松栄 | 石田 | バイティガ | 田邊 |
| 2年次 | 担任 | 下嶋 | 神里 | 正木 | 磯村 |
| 3年次 | 担任 | 鳥羽 | 金城 | 鈴木 | 伊東 |
| | 副担任 | 眞鍋 | 野口 | 太田 | 工藤 |
| 4年次 | 担任 | 真喜志治 | 山田 | 佐藤 | 平良 |
| | 副担任 | 武村 | 杉本 | 西村 | 山城(秀) |
| 5年次 | 担任 | 比嘉(吉) | 比嘉(勝) | 姉崎 | 三枝 |
| | 副担任 | 中本 | 知念 | 伊波 | 三宮 |

## クラス担任

| | | 1組 | 2組 | 3組 | 4組 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1年次 | 担任 | 大石 | 武田 | 名嘉山 | 青木 |
| | 副担任 | 宮城 | 澤井 | 木村 | 古屋 |
| 2年次 | 担任 | 山本 | 角田 | 成田 | 滝 |
| | 副担任 | 吉川 | 新川 | 下郡 | 小池 |

## 主 事 補

| | 総務主事補 | 教務主事補 | 学生主事補 | 寮務主事補 |
|---|---|---|---|---|
| 機械システム | 宮田 | 政木 | 武村 | 下嶋 |
| 情報通信 | 知念 | 野口 | 神里 | 金城 |
| メディア情報 | 正木 | タンスリヤポン | 玉城(龍) | バイティガ |
| 生物資源 | 濱田 | 田邊 | 三宮 | 山城 |
| 総合 | 小池 | 木村 | 下郡 | 澤井 |
| | | | 飯田 | 古屋 |

（出典　平成22年度学級・学科担任一覧）

資料２－２－③－３

# 第１回　教務委員会議事要旨（案）

日　　時　　平成２２年４月９日（金）　　１７：００　～　１８：１０

場　　所　　創造実践棟２階　テクノセンター会議室

出 席 者　　委員長（平山教授）、政木准教授、野口准教授、タンスリヤポン准教授、
田邊准教授、木村講師、学生課長

列 席 者　　学生課長補佐

配付資料　　資料１　　沖縄工業高等専門学校教務委員会規則
資料２　　平成２２年度沖縄工業高等専門学校教務委員会名簿
資料３　　平成２１年度第１２回教務委員会議事要旨
資料４　　一般科目教育課程表
資料５　　平成２２年度シラバス様式
資料６　　平成２２年度シラバス記入例及び教員便覧抜粋
資料７　　高専機構第２期中期目標/中期計画/平成２２事業年度計画
資料８　　平成２２年度沖縄工業高等専門学校行事予定表
資料９　　学生写真表作成メール

【確認事項】

（１）　沖縄工業高等専門学校教務委員会規則
（２）　平成２２年度沖縄工業高等専門学校教務委員会名簿
（３）　平成２１年度第１２回教務委員会議事要旨

委員長から、資料１から３に基づき各委員に確認要請があった。教務委員会名簿の職名欄に一部誤りがあり修正することとなり、その他については疑義がなく確認された。

【審議事項】

１．　本年度の役割分担案について

委員長から、議事次第により次ぎのとおり本年度の役割分担案について説明があり、審議の結果、承認された。

| ◆主な業務 | 担当者 |
|---|---|
| ・議事録、各種支援、資料提供、規則のチェック等 | 教務係 |
| ・ＦＤ関係 | 平山 |
| ・ＪＡＢＥＥ、認証評価 | 全委員 |
| ・公開授業週間（６月２８日～７月２日）、保護者懇談会<br>※資料を教務係から担当委員へ渡す。 | 野口、教務係 |
| ・オープンキャンパス（７月４日） | 田邊、 |

（出典　平成22年度第1回教務委員会議事要旨）

資料２－２－③－４

# 第１回学生委員会議事要旨

日　　時　　平成２２年４月６日（火）　１３：００～１３：２５
場　　所　　大会議室
出 席 者　　眞喜志教授（委員長、学生主事）、網谷教授（寮務主事）、神里准教授（学生主事補）、玉城准教授（〃）、三宮准教授（〃）、下郡准教授（〃）、飯田講師（〃）、南部学生課長
欠 席 者　　武村准教授（学生主事補）
列 席 者　　銘苅学生係長
配布資料　　（資料１）沖縄工業高等専門学校学生委員会規則一部改正案、新旧対照表
（資料２）学生委員会委員の時間割表

審議事項

１．学生主事補の担当業務について

委員長から学生主事補の担当業務内容について説明の後、以下のとおり学生主事補の各担当を決定した。

・学生会担当・・・三宮准教授
・部・同好会担当・・・下郡准教授
・車輌通学担当・・・武村准教授
・高専祭担当・・・玉城准教授
・美ら島総体（カヌー）担当・・・飯田講師
・美ら島総体（剣道）担当・・・神里准教授

美ら島総体終了後は、飯田講師は主に平成２３年度に開催される九州地区高専体育大会（野球競技）運営担当、神里準教授は高専際担当のサポートに回ることとなった。

２．沖縄工業高等専門学校学生委員会規則の一部改正について

委員長が資料１に基づき、規則の改正理由及び内容について説明を行い、原案どおり承認された。

※条文の文言は学生課内（決裁）で確認の上、以下のとおり訂正した。

第７条　第３条第３号、第４号及び第５号に掲げる委員は、やむを得ない理由で委員会に出席できないときは、第３号及び第４号の委員については当該委員が所属する学科の教員、また、第５号の委員については学生課の職員を代理として出席させることができる。代理人は委員と同様に発言し、議決に参加することができる。

３．その他

・学生委員会の定例開催日について

学生委員会の定例開催日を前期は火曜日の１３時とし、緊急の議題がある場合はその都度委員の日程を調整し臨時で開催することが確認された。また、後期の定例開催日は、委員の授業時間割で空いている時間帯がないため、適宜日程を調整し開催する。

第２回の学生委員会は４月１６日（金）の１６時４５分から開催するとの連絡があった。

（出典　平成22年度第１回学生委員会議事要旨）

資料２－２－③－５

第１回学生寮委員会議事要旨

日　　時：　平成２２年４月２日（金）１５時００分～１６時００分
場　　所：　創造実践棟２階コミュニティールーム１
出 席 者：　網谷教授（委員長・寮務主事），下嶋助教（寮務主事補），金城助教（〃），バイティガ助教（〃），山城教授（〃），澤井准教授（〃），古屋講師（〃），多和田学生課長補佐（南部学生課長代理）
欠 席 者：　眞喜志教授（学生主事）
列 席 者：　稲福寮務係長（記）
議　　題：　（１）入学式の役割分担について
　　（２）寮務の役割分担について
　　（３）その他

配布資料：　資料１－１　平成 22 年度入学式当日の動向
　　資料２－１　学生寮委員会規程
　　２－２　学生寮管理運営規則
　　２－３　寮生心得
　　資料３　平成 21 年度学生寮委員会総括
　　資料４　平成 22 年度宿日直要領緊急連絡先ページ
　　資料５　平成 22 年度前期検食当番表（案）
　　資料６　指導寮生・寮生会役員の皆さんへ（依頼）

審議事項：
（１）平成２２年度入学式当日の動向について
　委員長から、資料１－１に基づき平成 22 年度入学式の寮関係者の動向について説明があった。メディア棟ピロティ、学生寮５階ブリッジ、学生寮内のそれぞれの担当の役割及び、流れについて確認した。また、午後の入寮式・開寮式・対面式には、各寮務主事補、寮務係、レストラン業者の紹介を行う旨説明があった。

（２）寮務の役割分担について
　委員長から、寮務主事補の担当について、寮生会、行事、男子寮、女子寮、開寮・閉寮、につきそれぞれ一人あたり２つ程担当してもらいたい旨発言があった。
　委員から、寮生会担当の内容についてよくわからないので、寮生会の各委員会で行っていることの概要等を知りたいということと、担当案を作成してもらい、それを提示してもらうほうが検討しやすいとの発言があった。委員長から、担当を割り振った案及び寮生会各委員会の開催状況を作成して提示する旨発言があった。
　また、委員長から、寮務主事が出張等で職務が遂行できない場合、山城寮務主事補を代理としたい旨発言があり、了承を得た。

（３）その他
　委員長から、資料５に基づき平成 22 年度前期検食当番表（案）について、昨年度と同様の態勢でお昼の検食を行うこととなる旨説明があった。検食の交替についても昨年度と同様、当事者

（出典　平成22年度第１回学生寮委員会議事要旨）

資料２－２－③－６

Subject: キャリアセンターの面接について

インターンシップ担当各位殿

眞喜志治です.
沖縄県キャリアセンターから，県外インターンシップ助成金制度にエントリーした学生のリストが届きました．エントリーした学生数は，機械６名，情報１４名，メディア１１名，生物１１名の計４２名のようです.
先日ご連絡したとおり，本件に関する面接を，６月２日(水)１３時より，本校にて行います.

面接はグループ面接となりますので，１グループ５名を基本として，授業等を考慮に入れて，グループ及びスケジュールを作成してみました.
(情報の学生は，教務係が作成した選択科目の履修一覧表を元に，
３時間目を受講していない学生を前の方に持ってきています.
誤りが無いかどうか，杉本先生にはご確認いただきたいと思います)

添付ファイルをご確認いただき，ご意見等ありましたらご連絡ください.

グループ分け，面接スケジュールに関する，キャリアセンターへの連絡は木曜日を予定しています.

では.

（出典　平成22年度本科４年担任メーリングリストへのメール　抜粋）

資料２－２－③－７

学科別 LHR（機シス１，２年合同開催）について（下嶋助教）
ドッジボール大会を行う.

（出典　機械システム工学科平成22年度第５回学科会議議事録　抜粋）

資料２－２－③－８

平成 22 年　第２回進路委員会議事要旨

日　時：平成 22 年３月１日（月）14:50～18:30
場　所：メディア棟２階　小会議室
出席者：真鍋教授、知念教授、伊波教授（委員長）、三枝教授、成田教授、高木教授
　　南部学生課長
列席者：大里学生係員

＊配付資料
［資料 1］学内合同企業説明会のご提案（(株)SFC より）
［資料 2］沖縄工業高等専門学校学内合同企業説明会収支報告書　他
［資料 3］学校行事予定表（案）

○議題

(1)　学内合同企業説明会について［資料 1］～［資料 3］
(2)　その他
　・（就職）推薦の基準について

◆審議事項等

(1)　学内合同企業説明会について
伊波委員長から沖縄高専学内で行う合同企業説明会について、現在「求人おきなわ」および「(株)SFC」の２社より開催の提案を受けていることについて説明があり、開催の要否、開催日時、主催業者の選定、学生の参加形態等について審議した。
開催の要否については、学生の意識付けや学校としての取り組みの実績などの観点から、開催することで承認された。
開催日時については、学校行事とのスケジュールを勘案し、４月 14 日（水）が開催可能な最も早い日程であるとして、同日の 3,4 限目開催で提案業者と検討を進めることで承認された。なお、４月開催では就活の時機を逸していることも否めないので、来年度も開催するのであれば、２月下旬または３月上旬開催を検討すべき、との意見もあった。
提案業者２社（「求人おきなわ」「(株)SFC」）のうち、どちらの提案を受け入れるかについては、昨年は「求人おきなわ」主催で開催したこと、特定の企業に偏ることを避けることなどから、今回は(株)SCF の提案を受け入れることとなった。（なお「求人おきなわ」へは伊波教授より連絡、「(株)SFC」へは大里学生係員より連絡し、今後進めていくこととなった。）

（出典　平成22年度第２回進路委員会議事要旨）

資料２－２－③－９

平成 22 年 2 月 19 日

専攻科オリエンテーション　配布資料一覧表

下記の資料が揃っているかご確認ください。資料に不備や質問等がありましたら、学生課教務係までご連絡ください。

| 資料番号 | 資料名 | 提出期限 |
|---|---|---|
| 資料 1 | ・沖縄工業高等専門学校専攻科オリエンテーション | |
| 資料 1-1 | ・履修科目登録について | |
| 別紙 1 | ・科目登録申請書（１年次） | 4 月 16 日（金） |
| 別紙 1 | ・科目登録申請書（２年次） | 4 月 16 日（金） |
| 資料 2-1 | ・平成２２年度学生に係る納入金について | |
| 資料 2-2 | ・平成２２年度振替予定日及び振替額一覧表（専攻科生） | |
| 資料 3 | ・入学料の納入について（新入生のみ） | 3 月 9 日（火） |
| 資料 4 | ・入学料免除・徴収猶予について（新入生のみ） | |
| | ・入学料免除願（新入生のみ） | 3 月 9 日（火） |
| | ・入学料徴収猶予願（新入生のみ） | 3 月 9 日（火） |
| 資料 5 | ・独立行政法人日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度への加入について | |
| | ・同意書 | 4 月 16 日（金） |
| 資料 6 | ・TOEIC テスト受験料徴収について（新入生のみ） | |
| | ・誓約書（新入生のみ） | 4 月 16 日（金） |
| | ・身上書（新入生のみ） | 4 月 16 日（金） |

【問い合わせ先】
沖縄工業高等専門学校
学生課　教務係
TEL [redacted]

（出典　平成22年度専攻科オリエンテーション資料）

資料２－２－③－10

平成22年度顧問配置

| | 団体名 | 区分 | 局 | H22顧問(案) | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ハンドボール部 | 部 | 体育局 | 三枝 | 三宮 | | |
| 2 | 弓道部 | 部 | 体育局 | 兼城 | 眞喜志隆 | | |
| 3 | 水泳部 | 部 | 体育局 | 知念 | 澤井 | 杉本 | 大石 |
| 4 | 男子バレー部 | 部 | 体育局 | 下郡 | 山城光 | | |
| 5 | ダンス部 | 部 | 体育局 | 武田 | | | |
| 6 | 女子バスケ部 | 部 | 体育局 | 金城 | 神里 | | |
| 7 | 硬式テニス部(男女) | 部 | 体育局 | 下嶋 | 野口 | 鈴木 | 玉城龍洋 |
| 8 | 男子バスケ部 | 部 | 体育局 | 鳥羽 | 伊波 | 比嘉勝也 | 山城秀 |
| 9 | サッカー部 | 部 | 体育局 | バイティガ | 眞喜志治 | | |
| 10 | 陸上競技部 | 部 | 体育局 | 磯村 | 濱田 | | |
| 11 | 硬式野球部 | 部 | 体育局 | 比嘉吉一 | 山田 | 池松 | 飯田 |
| 12 | 卓球部 | 部 | 体育局 | 玉城康智 | 成田 | 田邊 | |
| 13 | バドミントン部 | 部 | 体育局 | 工藤 | 政木 | 木村 | 宮田 |
| 14 | ソフトテニス同好会 | 同好会 | 体育局 | 平良 | | | |
| 15 | 剣道同好会 | 同好会 | 体育局 | 滝 | 伊東 | | |
| 16 | アメフト同好会 | 同好会 | 体育局 | 小池 | | | |
| 17 | フットサル同好会 | 同好会 | 体育局 | ジョンソン | | | |
| 18 | 文芸部 | 部 | 文化局 | 網谷 | | | |
| 19 | デジタルアート部 | 部 | 文化局 | スリヨン | | | |
| 20 | 総合美術部 | 部 | 文化局 | 青木 | | | |
| 21 | 軽音楽部 | 部 | 文化局 | 山本 | | | |
| 22 | 吹奏楽部 | 部 | 文化局 | 西村 | | | |
| 23 | 航空宇宙同好会 | 同好会 | 文化局 | 古屋 | | | |
| 24 | 映画研究同好会 | 同好会 | 文化局 | 名嘉山 | | | |
| 25 | サイエンスサークル | 同好会 | 文化局 | 平山 | | | |
| 26 | ロボット制作委員会 | 委員会 | | 武村 | 姉崎 | | |
| 27 | ICT委員会 | 委員会 | | 正木 | 佐藤 | | |

（出典　平成22年度顧問配置一覧）

（分析結果とその根拠理由）

副担任制が機能しており，担任の教育活動支援が行われている。各種委員会も活動し，学級担任への支援体制は機能している。混合学級を置く学年においては学級担任と学科担任を併設し，学級担任に対してキャリア教育などの学科が実施する教育を協力して行う体制ができている。学年主任を置いているため，各方面との調整も円滑に行われている。ただし各種委員会と学級担任，学科担任との連携については今後とも検討と支援体制の確認が必要である。

クラブ顧問に対しては，複数顧問指導体制とクラブ活動安全指導体制の支援が行われているが，今後ともよりよい支援体制の検討が必要である。

### （２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校の準学士課程では特色ある専門４学科と一般科目の総合科学科をあわせた５学科，そして専攻科課程では１専攻４コースの専攻科を設置している。低学年では混合学級を取り入れ，総合科学科から学級担任，副担任，専門学科から学科担任を配置し，またクラブ顧問も専門学科・総合科学科問わず複数顧問指導体制をとっている。専攻科課程においても全教員が教育に携わり，準学士課程から専攻科課程まで,全学科が一体となって教育目標に沿った技術者像の育成に取り組んでいる。これに加えて全学共通の情報処理センター，技術支援室，地域共同テクノセンターが全面的にバックアップする体制を取っており，本校の教育の目的を達成する上で適切なものとなっており，優れている。

（改善を要する点）

専門学科と総合科学科が一体となって学生の教育に取り組んでいるが，教育活動を支援する各種委員会と学級・学科担任間の連携，そして各学科共通の問題点を認識するための教員間の連携が必要であり，改善を要する。

### （３）基準２の自己評価の概要

本学の準学士課程における機械システム工学科,情報通信システム工学科,メディア情報工学科,生物資源工学科の４つの専門学科は高等専門学校設置基準に適合し，各専門学科に対応して設置された機械システム工学コース，電子通信システム工学コース，情報工学コース，生物資源工学コースの４つのコースを擁する創造システム工学専攻は，学校教育法の規定に適合したものである。それぞれの育成しようとする技術者像は学校の掲げる教育の目的と適合性が取れており，目的を達成する上で適切なものとなっている。

また本校に設置されている情報処理センター，技術支援室においては学生の高度な専門技術の習得支援を行っており，地域共同テクノセンターにおいては学生へのキャリア教育などの支援を行っているなど，有効に機能している。

教育課程全体を企画調整するために運営企画会議が設置され，準学士課程・専攻科課程の教育内容を具体的に検討し，運営する体制として教務委員会が設置されている。これらの委員会は全ての専門学科と総合科学科から選出された委員，そして事務職員から構成されており，全学が一体となって教育課程について企画調整し，検討・運営を行う体制が整備され，有効に機能している。

教育の目的を達成する手段として準学士課程の低学年では混合学級を取り入れ，学級担任と副担任には総合科学科から，学科担任には専門学科より教員を配し，一般科目教員と専門科目教員との連携を深めるものとなっている。さらに専攻科課程でも全教員が専攻科担当教員となっており，準学士課程から専攻科課程まで，全学一体となった教育体制となっている。さらに教育活動支援のための各種委員会においても専門学科と総合科学科から委員を配し，クラブ顧問においては総合科学科・専門学科関係なく複数顧問指導体制をとっており，専門学科と総合科学科の教員は連携をとりながら運営にあたっている。しかし総合科学科と専門学科の教員間の連携を図るための話し合いは充分とは言えず，学科間での共通の問題点を認識し，科目間の教育事項に関して検討するための定期的な話し合いが行われていないなど，教員間の連携に関しては改善が必要と判断される。

## 基準３　教員及び教育支援者

### （１）観点ごとの分析

**観点３－１－①：　教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。**

（観点に係る状況）

本校の理念，目的，教育目標を設定し，担当教員はこれを達成すべく各科目を担当している。

一般科目を担当する総合科学科の専任教員は，高等専門学校設置基準の18名（入学定員４学級編成）を満たす18名により構成され（資料３－１－①－１），その内訳は国語３名，英語６名，社会科学２名，数学５名，物理１名，健康科学１名である。内訳は教授４名，准教授４名，講師９名，助教１名であり，高等専門学校設置基準の第６条第２項を満たしている。

各教員は各一般科目に対し専門分野を考慮し配置されている。これら専任教員に経験や専門分野の見識を考慮して選ばれた17名の非常勤講師を加え（資料３－１－①－２，資料３－１－①－３），さらに，専門科目担当教員も一般科目の一部を担当している。本校の教育の目的を達成するために，一般科目担当教員を適切に配置している。

資料３－１－①－１

## 沖縄工業高等専門学校教職員名簿（平成２２年５月１日）

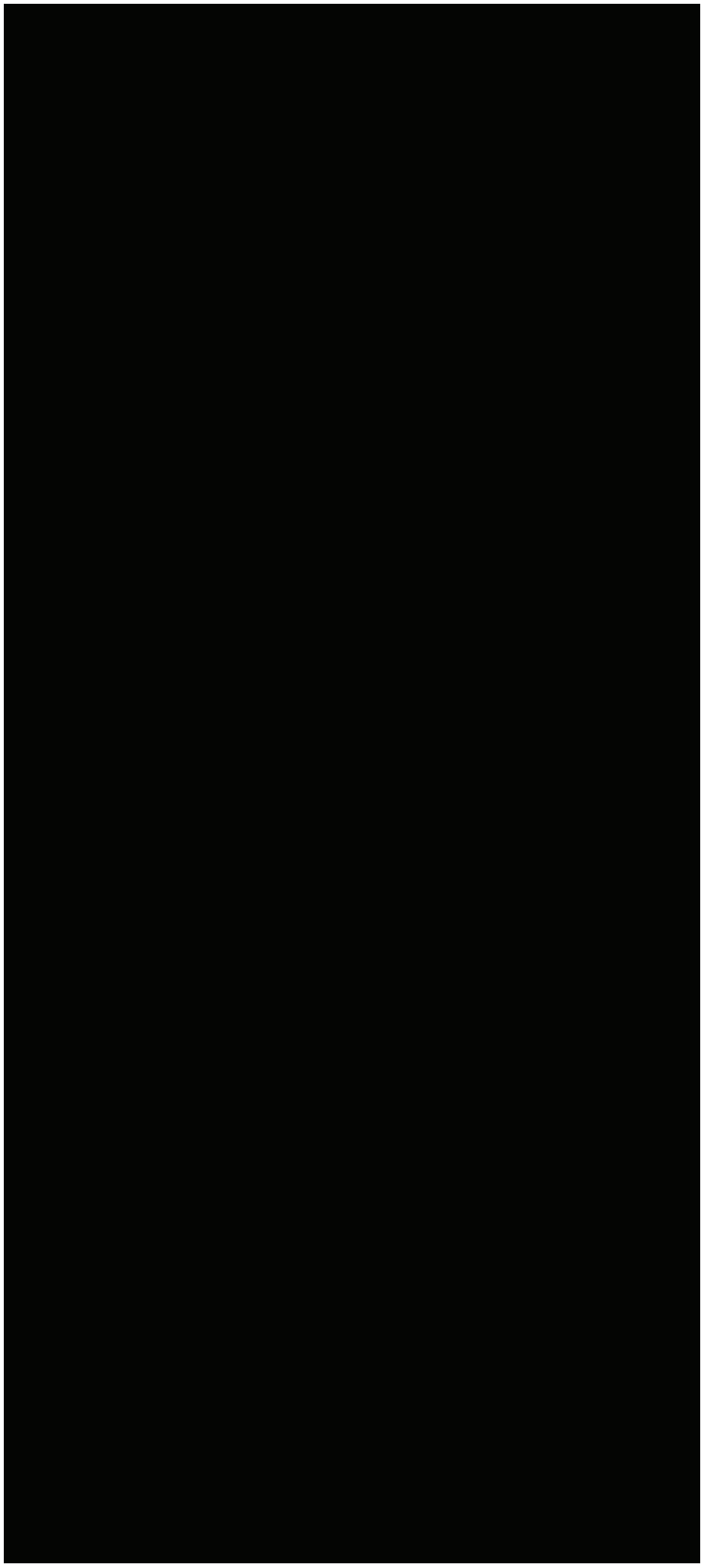
| | 職　名 | 氏　名 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 機械システム工学科 13名 | 教授 | 中本　正一朗 | |
| | 教授 | 眞喜志　隆 | |
| | 教授 | 松栄　準治 | |
| | 教授 | 真鍋　幸男 | |
| | 教授 | 宮田　恵守 | |
| | 教授 | 山城　光 | |
| | 准教授 | 武村　史朗 | |
| | 准教授 | 鳥羽　弘康 | |
| | 准教授 | 比嘉　吉一 | |
| | 准教授 | 眞喜志　治 | |
| | 准教授 | 政木　清孝 | |
| | 准教授 | 吉永　文雄 | |
| | 助教 | 下嶋　賢 | |
| | 非常勤講師 | 上里　英輔 | |
| | 非常勤講師 | 大城　尚紀 | |
| 情報通信システム工学科 10名 | 教授 | 石田　修己 | |
| | 教授 | 杉本　和英 | |
| | 教授 | 高木　茂 | |
| | 教授 | 知念　幸勇 | |
| | 教授 | 比嘉　勝也 | |
| | 准教授 | 兼城　千波 | |
| | 准教授 | 神里　志穂子 | |
| | 准教授 | 野口　健太郎 | |
| | 准教授 | 山田　親稔 | |
| | 助教 | 金城　伊智子 | |
| | 非常勤講師 | 長堂　勤 | |
| | 非常勤講師 | 吉田　たけお | |
| | 非常勤講師 | 山田　孝治 | |
| メディア情報工学科 11名 | 教授 | 姉崎　隆 | |
| | 教授 | 伊波　靖 | |
| | 教授 | 角田　正豊 | |
| | 教授 | 正木　忠勝 | |
| | 准教授 | 太田　佐栄子 | |
| | 准教授 | 玉城　龍洋 | |
| | 准教授 | ﾀﾝｽﾘﾔﾎﾞﾝ　ｽﾘﾖﾝ | |
| | 准教授 | 西村　篤 | |
| | 講師 | 鈴木　大作 | |
| | 助教 | 佐藤　尚 | |
| | 助教 | ﾊﾞｲﾃｨｶﾞ　ｻﾞｶﾘ | |
| | 非常勤講師 | 具志堅　翔 | |
| 生物資源工学科 12名 | 教授 | 池松　真也 | |
| | 教授 | 濱田　泰輔 | |
| | 教授 | 平山　けい | |
| | 教授 | 三枝　隆裕 | |
| | 教授 | 山城　秀之 | |
| | 准教授 | 伊東　昌章 | |
| | 准教授 | 三宮　一宰 | |
| | 准教授 | 平良　淳誠 | |
| | 准教授 | 田邊　俊朗 | |
| | 准教授 | 玉城　康智 | |
| | 助教 | 磯村　尚子 | |
| | 助教 | 工藤　雄博 | |
| 留学生交流促進センター 1名 | 准教授 | 吉川　友子 | |

外国籍教員

| | 職　名 | 氏　名 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 総合科学科 18名 | 教授 | 網谷　厚子 | |
| | 教授 | 新川　智清 | |
| | 教授 | 小池　寿俊 | |
| | 教授 | 成田　誠 | |
| | 准教授 | 青木　久美 | |
| | 准教授 | 大石　敏広 | |
| | 准教授 | 澤井　万七美 | |
| | 准教授 | 下郡　剛 | |
| | 講師 | 飯田　智行 | |
| | 講師 | 木村　和雄 | |
| | 講師 | 角田　ｷｬﾃｨｰ | |
| | 講師 | 高嶺　司 | |
| | 講師 | 滝　雅士 | |
| | 講師 | 武田　ひとみ | |
| | 講師 | 名嘉山　リサ | |
| | 講師 | 古屋　淳 | |
| | 講師 | 山本　寛 | |
| | 助教 | 宮城　元 | |
| | 非常勤講師 | 比嘉　久明 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 平安名　常儀 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 末吉　つねみ | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | ﾆｭｳｴﾙ　ﾃｨﾓｼｰ　ﾗｲｱ | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 川木　アリス | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 伊芸　久美子 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 吉井　巧一 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 又吉　元亮 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 上江洲　安彦 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 田仲　康嗣 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 中西　利文 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 仲松　貴子 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 玉城　あゆみ | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 西里　壽雄 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 鈴木　伸子 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 真喜志　満 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 小波津　フェルナンド | 一般科目 |

（出典　総務課資料）

資料３－１－①－２



（出典　学生課資料）

資料３－１－①－３

■ 教員（現員）Faculty (Present Members)

| 職名 Title | 学位・資格 Degree・Certificate | 氏名 Name | 専門分野および研究テーマ |
|---|---|---|---|
| 教授 Professor | 修士（文学） M.A. in Literature | 網谷　厚子 AMITANI,Atsuko | 平安朝物語文学、国語教育 |
| 教授 Professor | 修士（言語学） M.A. in Linguistics | 新川　智清 ARAKAWA, Tomokiyo | 英語教授法（多読・多聴）、言語学（沖縄方言） |
| 教授 Professor | 博士（理学） Doctor of Science | 小池　寿俊 KOIKE, Kazutoshi | 環論 |
| 教授 Professor | 博士（理学） Doctor of Science | 成田　誠 NARITA, Makoto | 一般相対論、非線型偏微分方程式 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（学術） Ph.D. | 青木　久美 AOKI, Kumi | 宗教哲学 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（文学） Doctor of Literature | 澤井　万七美 SAWAI, Manami | 芸能史、演劇学 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（文学） Doctor of Literature | 下郡　剛 SHIMOGORI, Takeshi | 日本中世史、近世琉球史、古文書学 |
| 講師 Senior Assistant rofessor | 博士（健康科学） Doctor of Health Science | 飯田　智行 IIDA, Tomoyuki | 健康科学、スポーツバイオメカニクス |
| 講師 Senior ssistant Professor | 博士（文学） Ph.D. in Literature | 大石　敏広 OHISHI, Toshihiro | 英米分析哲学、倫理学 |
| 講師 Senior Assistant rofessor | 博士（理学） Doctor of Science | 木村　和雄 KIMURA, Kazuo | 地理学、地形学 |
| 講師 Senior Assistant rofessor | 修士（教育学） M.Ed. in TEFL | ジョンソン・キャティー JOHNSON, Kathy | 英語教育法、e-ラーニング教育法 |
| 講師 Senior Assistant rofessor | 博士（政治学） Ph.D. in Political Science | 高嶺　司 TAKAMINE, Tsukasa | 国際政治学 |
| 講師 Senior Assistant rofessor | 修士（文学） M.A. in Literature | 滝　雅士 TAKI, Masashi | 平安朝物語文学、国語教育 |
| 講師 Senior Assistant rofessor | 修士（アメリカ研究） M.A. in American Studies | 名嘉山　リサ NAKAYAMA, Risa | 映画研究、アメリカ研究 |
| 講師 Senior Assistant rofessor | 博士（数理学） Doctor of Mathematical Science | 古屋　淳 FURUYA, Jun | 解析的整数論 |
| 講師 Senior Assistant rofessor | 博士（理学） Ph. D. in Science | 山本　寛 YAMAMOTO, Hiroshi | 複素解析学 |
| 講師 Senior Assistant rofessor | 博士（理学） Ph. D. in Science | 武田　ひとみ TKEDA, Hitomi | 複素幾何、可積分系 |

（出典　平成21年度学校要覧　P. 16抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

一般科目担当専任教員の構成は，高等専門学校設置基準を満たしつつ，教育課程における科目構成と比してバランスがとれている。また，各教員の専門分野を考慮した配置となっており，本校の教育目標に沿った適切な担当配置を行っている。

以上のことから，教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されている。

**観点３－１－②：　教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。**

（観点に係る状況）

本校の理念，目的，教育目標を設定し，担当教員はこれを達成すべく各科目を担当している。

専門科目担当の教員は専任教員46名，内訳は教授20名，准教授19名，講師１名，助教６名である。専任教員については高等専門学校設置基準の第６条第３項を満たしている。

専門科目を担当する専任の教授および准教授は39名であり，一般科目を担当する専任教員数と専門科目を担当する専任教員数の合計64名に対して２分の１を上回っており，高等専門学校設置基準の第８条を満たしている（資料３－１－②－１）。

教員は各専門科目に対し専門分野を考慮し，本科教育目標に対応した配置にするとともに，非常勤講師６名を加えて配置している（資料３－１－②－２，資料３－１－②－３）。

特に，本校の目的に掲げる「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成する」に対して，修士または博士の学位を取得した教員および企業経験者を各学科に配置（全体で博士53名，修士８名，企業経験15名）している（資料３－１－②－４）。

資料３－１－②－１

## 沖縄工業高等専門学校教職員名簿（平成２２年５月１日）

| | 職　名 | 氏　名 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 機械システム工学科 13名 | 教授 | 中本　正一朗 | |
| | 教授 | 眞喜志　隆 | |
| | 教授 | 松栄　準治 | |
| | 教授 | 真鍋　幸男 | |
| | 教授 | 宮田　恵守 | |
| | 教授 | 山城　光 | |
| | 准教授 | 武村　史朗 | |
| | 准教授 | 鳥羽　弘康 | |
| | 准教授 | 比嘉　吉一 | |
| | 准教授 | 眞喜志　治 | |
| | 准教授 | 政木　清孝 | |
| | 准教授 | 吉永　文雄 | |
| | 助教 | 下嶋　賢 | |
| | 非常勤講師 | 上里　英輔 | |
| | 非常勤講師 | 大城　尚紀 | |
| 情報通信システム工学科 10名 | 教授 | 石田　修己 | |
| | 教授 | 杉本　和英 | |
| | 教授 | 高木　茂 | |
| | 教授 | 知念　幸勇 | |
| | 教授 | 比嘉　勝也 | |
| | 准教授 | 兼城　千波 | |
| | 准教授 | 神里　志穂子 | |
| | 准教授 | 野口　健太郎 | |
| | 准教授 | 山田　親稔 | |
| | 助教 | 金城　伊智子 | |
| | 非常勤講師 | 長堂　勤 | |
| | 非常勤講師 | 吉田　たけお | |
| | 非常勤講師 | 山田　孝治 | |
| メディア情報工学科 11名 | 教授 | 姉崎　隆 | |
| | 教授 | 伊波　靖 | |
| | 教授 | 角田　正豊 | |
| | 教授 | 正木　忠勝 | |
| | 准教授 | 太田　佐栄子 | |
| | 准教授 | 玉城　龍洋 | |
| | 准教授 | ﾀﾝｽﾘﾔﾎﾞﾝ　ｽﾘﾖﾝ | |
| | 准教授 | 西村　篤 | |
| | 講師 | 鈴木　大作 | |
| | 助教 | 佐藤　尚 | |
| | 助教 | ﾊﾞｲﾃｨｶﾞ　ｻﾞｶﾘ | |
| | 非常勤講師 | 具志堅　翔 | |
| 生物資源工学科 12名 | 教授 | 池松　真也 | |
| | 教授 | 濱田　泰輔 | |
| | 教授 | 平山　けい | |
| | 教授 | 三枝　隆裕 | |
| | 教授 | 山城　秀之 | |
| | 准教授 | 伊東　昌章 | |
| | 准教授 | 三宮　一宰 | |
| | 准教授 | 平良　淳誠 | |
| | 准教授 | 田邊　俊朗 | |
| | 准教授 | 玉城　康智 | |
| | 助教 | 磯村　尚子 | |
| | 助教 | 工藤　雄博 | |
| 留学生交流促進センター 1名 | 准教授 | 吉川　友子 | |

外国籍教員

| | 職　名 | 氏　名 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 総合科学科 18名 | 教授 | 網谷　厚子 | |
| | 教授 | 新川　智清 | |
| | 教授 | 小池　寿俊 | |
| | 教授 | 成田　誠 | |
| | 准教授 | 青木　久美 | |
| | 准教授 | 大石　敏広 | |
| | 准教授 | 澤井　万七美 | |
| | 准教授 | 下郡　剛 | |
| | 講師 | 飯田　智行 | |
| | 講師 | 木村　和雄 | |
| | 講師 | 角田　ｷｬﾃｨｰ | |
| | 講師 | 高嶺　司 | |
| | 講師 | 滝　雅士 | |
| | 講師 | 武田　ひとみ | |
| | 講師 | 名嘉山　リサ | |
| | 講師 | 古屋　淳 | |
| | 講師 | 山本　寛 | |
| | 助教 | 宮城　元 | |
| | 非常勤講師 | 比嘉　久明 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 平安名　常儀 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 末吉　つねみ | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | ﾆｭｳｴﾙ　ﾃｨﾓｼｰ　ﾗｲｱ | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 川木　アリス | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 伊芸　久美子 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 吉井　巧一 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 又吉　元亮 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 上江洲　安彦 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 田仲　康嗣 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 中西　利文 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 仲松　貴子 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 玉城　あゆみ | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 西里　壽雄 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 鈴木　伸子 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 真喜志　満 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 小波津　フェルナンド | 一般科目 |

（出典　総務課資料）

資料３－１－②－２

■ 教員（現員）Faculty (Present Members)

| 職名 Title | 学位・資格 Degree・Certificate | 氏名 Name | 専門分野および研究テーマ |
|---|---|---|---|
| 教授 Professor | 博士（理学） Ph.D. in Science | 中本　正一朗 NAKAMOTO, Shoichiro | 専門分野：環境物理学、環境数学<br>1. 気候の数学模型と気候の予測　2. 分子拡散と乱流拡散の数学<br>3. 無効電力から動力をとりだせるか |
| 教授 Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 眞喜志　隆 MAKISHI, Takashi | 専門分野：表面改質、機械材料<br>1. 金属材料の表面改質に関する研究　2. 表面改質と疲労強度に関する研究 |
| 教授 Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 松栄　準治 MATSUE, Junji | 専門分野：機械設計、エネルギ変換、振動工学<br>1. スターリングサイクル機器の研究<br>2. 内燃機関が与える振動に関する研究（ねじり振動含む） |
| 教授 Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 真鍋　幸男 MANABE, Yukio | 専門分野：溶接・接合、溶射、レーザ加工、生産自動化<br>1. 電磁力を用いた高機能溶接法の研究<br>2. プラズマ熱源による機能膜の創成技術<br>3. ＹＡＧレーザによる精密溶接・加工技術 |
| 教授 Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 宮田　恵守 MIYATA, Yoshimori | 専門分野：材料環境学、金属材料の腐食・防食<br>1. 金属材料の腐食・防食に関する研究　2. 電子部品・機器の腐食に関する研究<br>3. マイクロバブルに関する研究 |
| 教授 Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 山城　光 YAMASHIRO, Hikaru | 専門分野：熱工学、熱流体計測工学<br>1. 有機・無機水素貯蔵材料の研究<br>2. 炭素繊維触媒界面における有機液滴の熱化学的相互作用に関する研究<br>3. 膜沸騰蒸気膜の安定性と固液接触機構 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 武村　史朗 TAKEMURA, Fumiaki | 専門分野：ロボティクス、制御工学<br>1. 海中ロボットの操作に関する研究　2. 振動駆動移動機構の研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 島羽　弘康 TOBA, Hiroyasu | 専門分野：生産管理、生産制御、生産計画<br>1. 生産計画立案支援シミュレーション・生産工程スケジューリングの研究<br>2. システムシミュレーションによる大規模システムの挙動予測、性能予測の研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 比嘉　吉一 HIGA, Yoshikazu | 専門分野：材料力学、計算固体力学<br>1. マルチスケール計算固体力学関連分野の研究<br>2. 原子間力顕微鏡を用いた超微小材料試験法に関する研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 眞喜志　治 MAKISHI, Osamu | 専門分野：熱工学<br>1. レーザ加工に伴う熱現象に関する研究　2. マイクロチャンネル内の気液二相流に関する研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 政木　清孝 MASAKI, Kiyotaka | 専門分野：材料強度、疲労、フラクログラフィ、ＣＴ<br>1. 機械構造部材の疲労信頼性評価に関する研究　2. 表面処理による疲労特性向上に関する研究 |
| 准教授 Associate Professor | 技術士(機械、総合技術監理) Professional Engineer (JPN) | 吉永　文雄 YOSHINAGA, Fumio | 専門分野：材料機械加工組立、生産管理<br>1. ものづくり実学（技術・技能・管理・経営・倫理）<br>2. 高速高精度加工（ＣＡＤ・ＣＡＭ・ＣＡＥ・ＮＣ加工） |
| 助教 Assistant Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 下嶋　賢 SIMOJIMA, Ken | 専門分野：加工学、計測工学<br>1. 機械システムの高精度化　2. 機械加工現象の解析 |

■ 教員（現員）Faculty (Present Members)

| 職名 Title | 学位・資格 Degree・Certificate | 氏名 Name | 専門分野および研究テーマ |
|---|---|---|---|
| 教授 Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 石田　修己 ISHIDA, Osami | 専門分野：高周波回路，アンテナ，電磁干渉，無線通信，電波応用<br>1. 電波伝搬に関する研究<br>2. 高周波発振回路や高周波シールド構造に関する研究 |
| 教授 Professor | 工学博士 Doctor of Engineering | 高木　茂 TAKAGI, Shigeru | 専門分野：応用プログラミング、教育工学<br>1. Java 応用プログラミングに関する研究<br>2. パターン認識、バーチャルリアリティに関する研究 |
| 教授 Professor | 工学博士 Doctor of Engineering | 知念　幸勇 CHINEN, Koyu | 専門分野：光通信工学，　半導体工学<br>1. 光通信デバイスに関する研究<br>2. RoF（光無線，　WiMAX）に関する研究 |
| 教授 Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 比嘉　勝也 HIGA, Katsuya | 専門分野：半導体工学，電子機器工学<br>1. 微小電子源に関する研究<br>2. マイクロマシニングに関する研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 兼城　千波 KANESHIRO, Chinami | 専門分野：半導体工学、電子工学<br>1. センシングシステムに関する研究<br>2. 半導体に関する教育教材の開発研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Ph.D in Engineering | 神里　志穂子 KAMISATO, Shihoko | 専門分野：感性工学、運動計測、データ解析<br>1. 観察者のスキルと注視情報を考慮した舞踊動作相承システムの構築<br>2. 動作解析によるスキルの定量化と感性情報の抽出に関する研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Ph.D in Engineering | 野口　健太郎 NOGUCHI, Kentaro | 専門分野：信号処理，教育工学，計測工学<br>1. 技術伝承のためのｅラーニングを活用した工学教育手法の研究開発<br>2. 楽器演奏における動きと音の解析に基づく教育手法の研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 山田　親稔 YAMADA, Chikatoshi | 専門分野：計算機工学，論理設計，形式的設計検証<br>1. システムLSI 設計・機能検証に関する研究<br>2. LSI 設計教育に関する研究 |
| 助教 Assistant Professor | 博士（工学） Ph.D in Engineering | 金城　伊智子 KINJOU, Ichiko | 専門分野：意思決定、ファジィ解析、観光情報<br>1. 意思決定支援システムの構築<br>2. ファジィ理論を用いた観光情報システムに関する研究 |

■ 教員（現員）Faculty (Present Members)

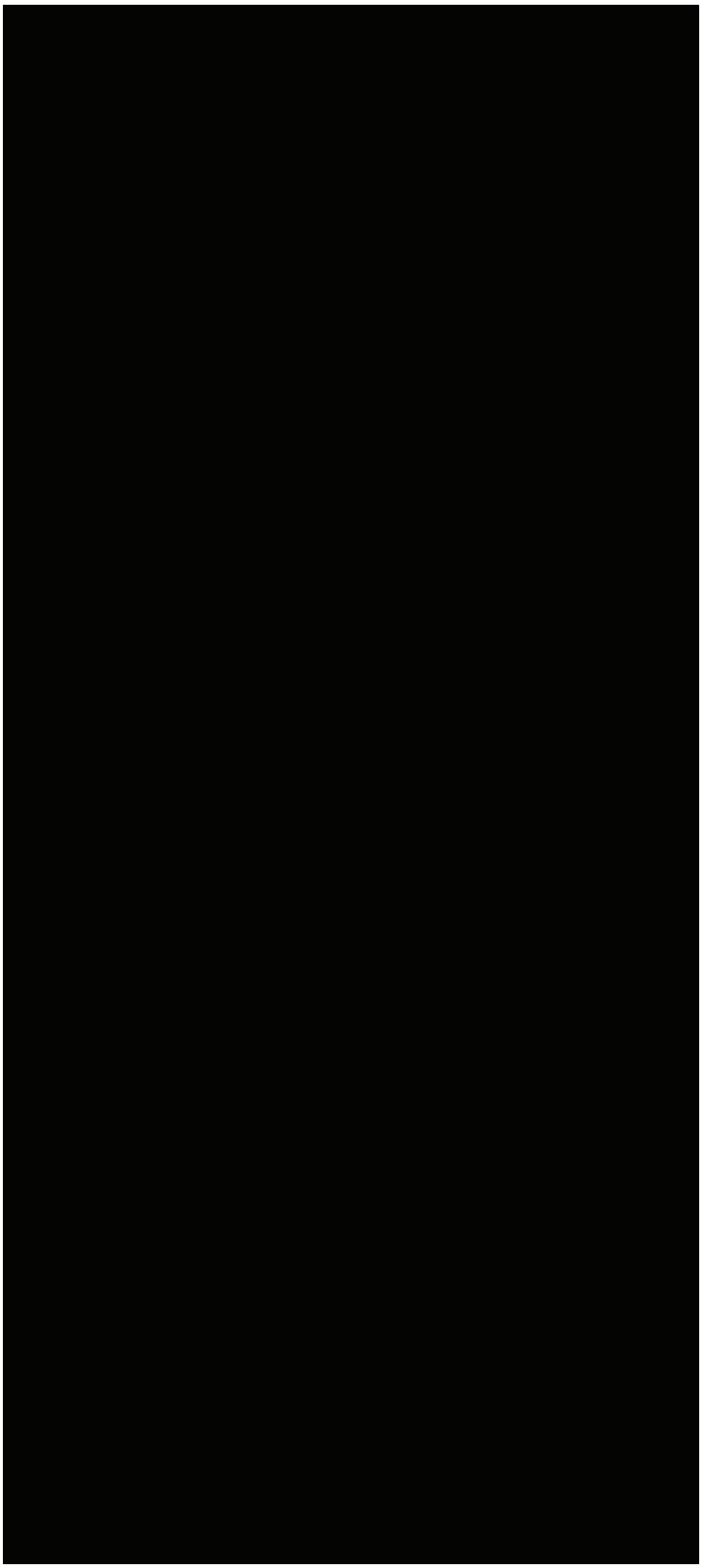
| 職名 Title | 学位・資格 Degree・Certificate | 氏名 Name | 専門分野および研究テーマ |
|---|---|---|---|
| 教授 Professor | 修士（工学） M.S. in Engineering. | 姉崎　隆 ANEZAKI, Takashi | 専門分野：ロボットビジョン、ロボット情報学、画像処理<br>1. 移動ロボットを用いた、広域監視システムおよび移動作業システムの開発<br>2. 群移動ロボットを用いた協調作業システムの開発<br>3. 目視検査自動化のための画像処理システムの開発 |
| 教授 Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 角田　正豊 SUMIDA, Masatoyo | 専門分野：コンピューターネットワーク、光通信システム<br>1. 非対称波長多重光リンク　2. 波長多重光通信システム監視方式<br>3. 光通信システム障害探査技術 |
| 教授 Professor | 修士（理学） M.S. in Biology | 正木　忠勝 MASAKI, Tadakatsu | 専門分野：リアルタイムＯＳ、組み込みシステム<br>1. リアルタイム OS（μ ITRON）の開発　2. 携帯電話 OS の開発<br>3. 非接触 IC カード OS 開発　4. SD メモリカード開発 |
| 准教授 Associate Professor | 修士（工学） M.S. in Engineering. | 伊波　靖 IHA, Yasushi | 専門分野：情報セキュリティ、音声言語処理<br>1. サーバをセキュアにするための要塞化に関する設定<br>2. セキュリティポリシー策定に関するアドバイス<br>3. 不正アクセス発生時におけるログ解析等のインシデントレスポンス |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 太田　佐栄子 OHTA, Saeko | 専門分野：画像解析、数理統計学<br>1. 統計的手法を用いた画像解析アルゴリズムの開発<br>2. LANDSAT 画像の水域のノイズ除去　3. LANDSAT 画像の熱画像の高解像度化<br>4. データフュージョン |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | タンスリヤポン スリヨン TANSURIYAVONG, Suriyon | 専門分野：画像処理・認識・圧縮、ディジタル信号処理<br>1. 高速画像処理・認識ソフトウェアの開発<br>2. 遠隔モニタリングのための映像圧縮及び通信方式の研究<br>3. ビデオセンシングによる防犯・防災システムの研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（家政学） Doctor of Home Economics | 西村　篤 NISHIMURA, Atsushi | 専門分野：サウンドスケープデザイン・メディアコンテンツ<br>1. サウンドスケープデザインにおける住民の参加と主体性に関する理論構築<br>2. メディアコンテンツ制作とその社会的応用における対話的手法の開発<br>3. 技術者養成課程における芸術教育の基礎理論構築とその展開 |
| 講師 Senior Assistant Professor | 学士（工学） Bachelor of Engineering | 鈴木　大作 SUZUKI, Taisaku | 専門分野：情報工学、ソフトウェア工学<br>1. 組込みソフトウェア技術、開発手法、開発管理<br>2. ソフトウェア開発におけるプロジェクトマネジメントに関する研究<br>3. モバイルインターネットアクセス技術に関する研究・開発 |
| 助教 Assistant Professor | 博士（知識科学） Ph.D in Knowledge Science | 佐藤　尚 SATOU, Takashi | 専門分野：複雑系、人工生命、進化言語学、進化論的計<br>1. 生命・認知・言語・社会などの自律的に発展・進化する「複雑系」に関する構成論的研究<br>2.「複雑系」における創発現象の解析 |
| 助教 Assistant Professor | 博士（工学） Ph.D in Engineering | バイティガ　ザカリ MBA TIGA, Zacharie | 専門分野：制御工学・画像処理<br>1. 解析関数への複数積分の適用　2. ゼータ関数（The Riemann Zeta Function）<br>3. 知的ロボットによるアシスタンス　4. 適応共鳴理論（ART1）の研究 |

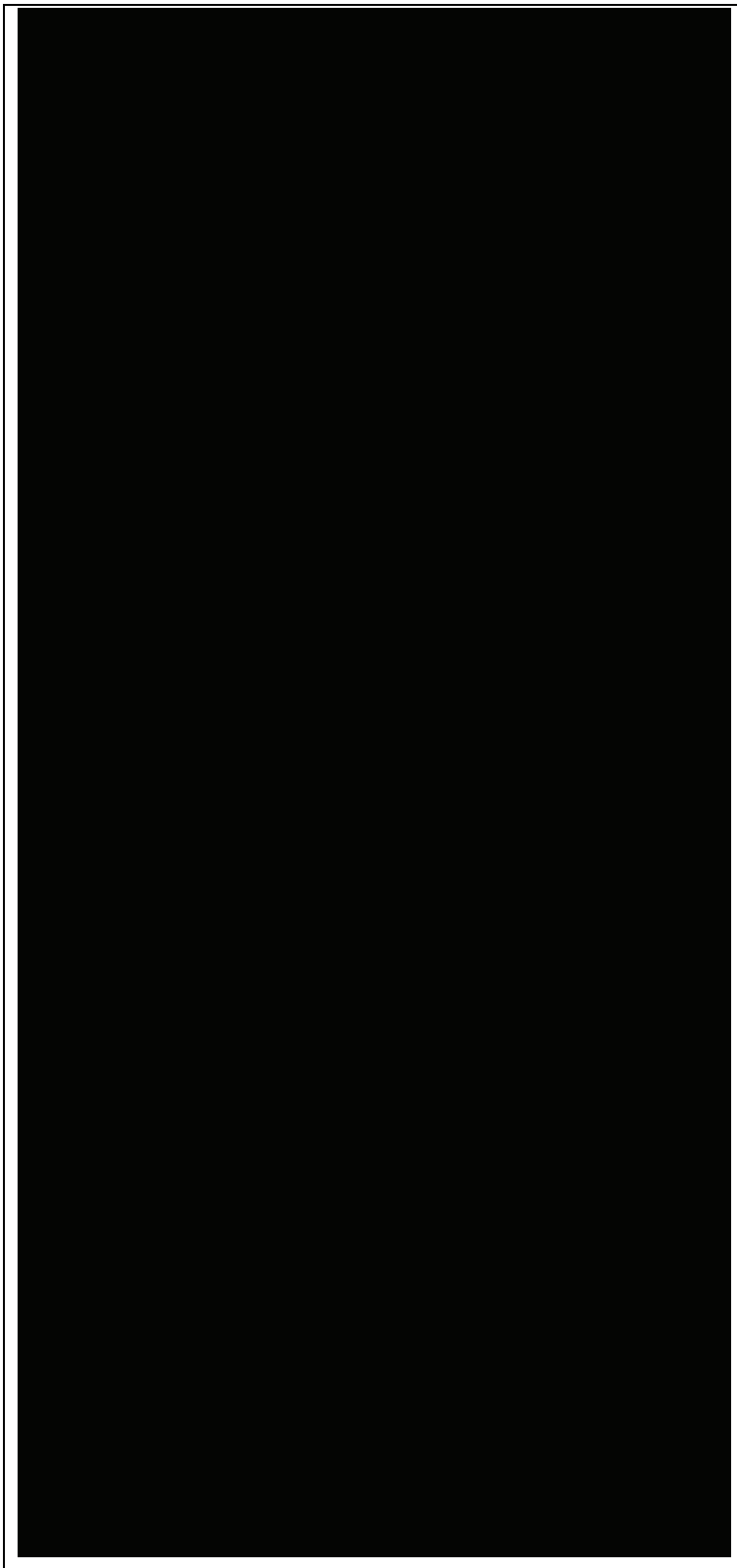
■ 教員（現員）Faculty (Present Members)

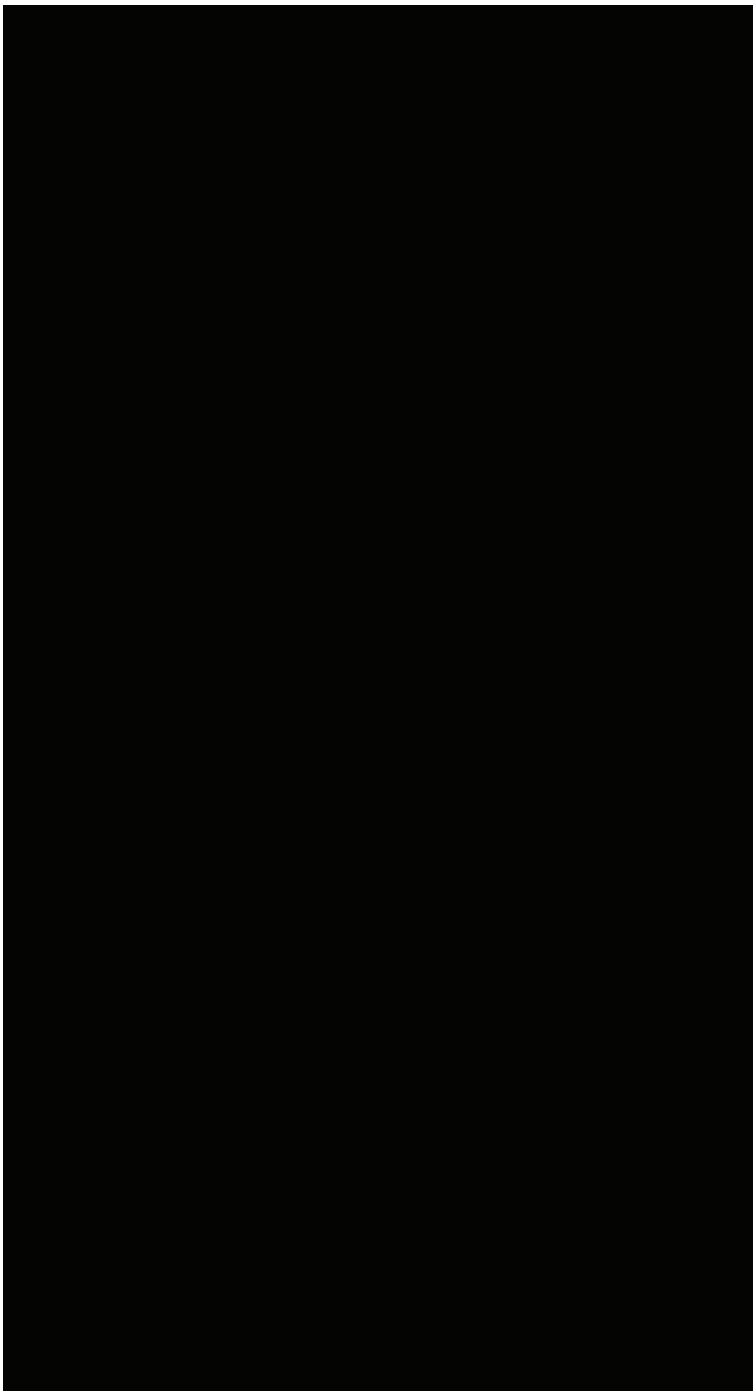
| 職名 Title | 学位・資格 Degree・Certificate | 氏名 Name | 専門分野および研究テーマ |
|---|---|---|---|
| 教授 Professor | 博士（医学） Ph. D. in Medicine | 池松　真也 IKEMATSU, Shinya | 専門分野：生化学、分子発生生物科学、がんの発生<br>1. 天然物由来生理活性物質の評価系構築およびその物質を主体とした商品の開発<br>2. 製品の安全管理システムにおける沖縄独特の微生物管理法の開発<br>3. 製品の安全管理システムにおける沖縄独特の微生物管理法の開発 |
| 教授 Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 濱田　泰輔 HAMADA, Taisuke | 専門分野：物理化学、光化学、有機化学<br>1. 天然物色素などの化学反応を含む事項について、特に光と色が関わる事柄に関する事項 |
| 教授 Professor | 博士（歯学） Ph. D. | 平山　けい HIRAYAMA, Kei | 専門分野：脳・神経科学、遺伝子工、分子細胞生物科学<br>1. 脳細胞・神経細胞の神経伝達に関わる因子や遺伝子の研究<br>2. 沖縄の植物が持つ生理活性物質の評価とその３次機能性食品開発への活用 |
| 教授 Professor | 博士（農学） Ph. D. in Agriculture | 三枝　隆裕 MITSUE, Takahiro | 専門分野：微生物学、生物学、食品プロセス工学<br>1. 植物、天然物原料の有効性評価を基に医薬部外品・化粧品・食品素材の開発<br>2. 微生物培養液からの新素材の開発 |
| 教授 Professor | 博士（学術） Ph. D. | 山城　秀之 YAMASHIRO, Hideyuki | 専門分野：環境学、サンゴ礁学<br>1. サンゴ礁保全に関する共同研究<br>2. 沖縄の野生生物（資源生物）に関する研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（学術） Ph. D. | 伊東　昌章 ITO, Masaaki | 専門分野：タンパク質工学、酵素化学<br>1. 有用物質を蓄積させた組換え作物の開発<br>2. 昆虫無細胞タンパク質合成系の高度化に関する研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（農学） Ph. D. in Agriculture | 三宮　一寧 SANMIYA, Kazutsuka | 専門分野：植物分子生物学<br>1. 有用物質を蓄積させた組換え作物の開発<br>2. 耐暑性・耐乾性・耐塩性・耐虫性・耐病性を向上させた組換え作物の開発 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（学術） Ph. D. | 平良　淳誠 TAIRA, Junsei | 専門分野：生物有機化学、生物資源化学、食糧化学<br>1. 有用生物資源の探索、評価法に関する共同研究<br>2. 有用化粧品素材（美白剤、他）の探索・評価に関する共同研究・開発 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（農学） Ph. D. in Agricultural Sciences | 田邊　俊朗 TANABE, Toshiaki | 専門分野：生物資源利用科学、生物資源化学、食糧科学<br>1. キチン・キトサンからの生理活性物質生産、関連酵素の新規探索<br>2. リグノセルロース系バイオマスの前処理技術開発 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（農学） Ph. D. in Agriculture | 玉城　康智 TAMAKI, Yasutomo | 専門分野：発酵学、微生物学<br>1. 泡盛に関する研究全般への対応と研究成果の商品化<br>2. 微生物を利用した有用成分の生産とその利用に関する研究 |
| 助教 Assistant Professor | 博士（食品栄養科学） Doctor of Food Nutrition Science | 工藤　雄博 KUDO, Katsuhiro | 専門分野：食品化学、食品栄養学<br>1. 沖縄県特有の原材料を用いた新規食品の開発<br>2. 既存食品および新規食品の食品機能性に関する調査 |
| 助教 Assistant Professor | 博士（理学） Ph. D. in Science | 磯村　尚子 ISOMURA, Naoko | 専門分野：環境生物学、分子生態学、集団遺伝学<br>1. 海洋生物の分散機構の解明<br>2. 造礁サンゴにおける遺伝的集団構造の解明 |

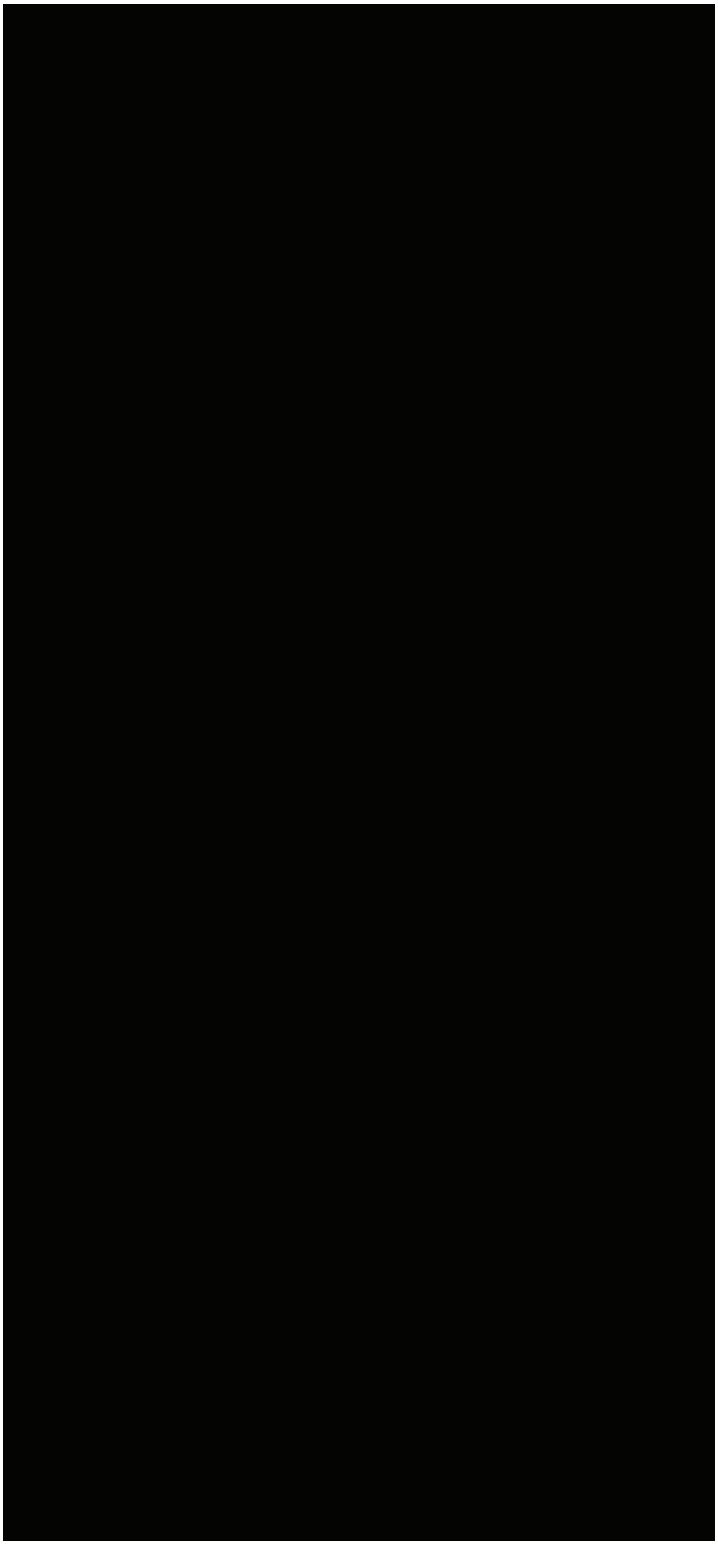
（出典　平成21年度学校要覧　P. ８，10，12，14抜粋）

資料３－１－②－３









（出典　学生課資料）

資料３－１－②－４

（H22.5.1現在）

| | 学位等 | | | 企業経験者 |
|---|---|---|---|---|
| | 博士 | 修士 | その他 | |
| 校　　長 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 機械システム工学科 | 12 | 0 | 1 | 4 |
| 情報通信システム工学科 | 10 | 0 | 0 | 4 |
| メディア情報工学科 | 7 | 3 | 1 | 4 |
| 生物資源工学科 | 12 | 0 | 0 | 2 |
| 総合科学科 | 12 | 5 | 1 | 0 |
| 留学生交流促進センター | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 合　　計 | 55 | 8 | 3 | 15 |

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

専門科目担当教員の構成は，高等専門学校設置基準を満たしつつ，各教員の専門分野を考慮し，バランスよく配置している。また，学位取得者や企業経験者を各学科に多数配置するなど，教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員を適切に配置している。

**観点３－１－③：　専攻科を設置している場合には，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。**

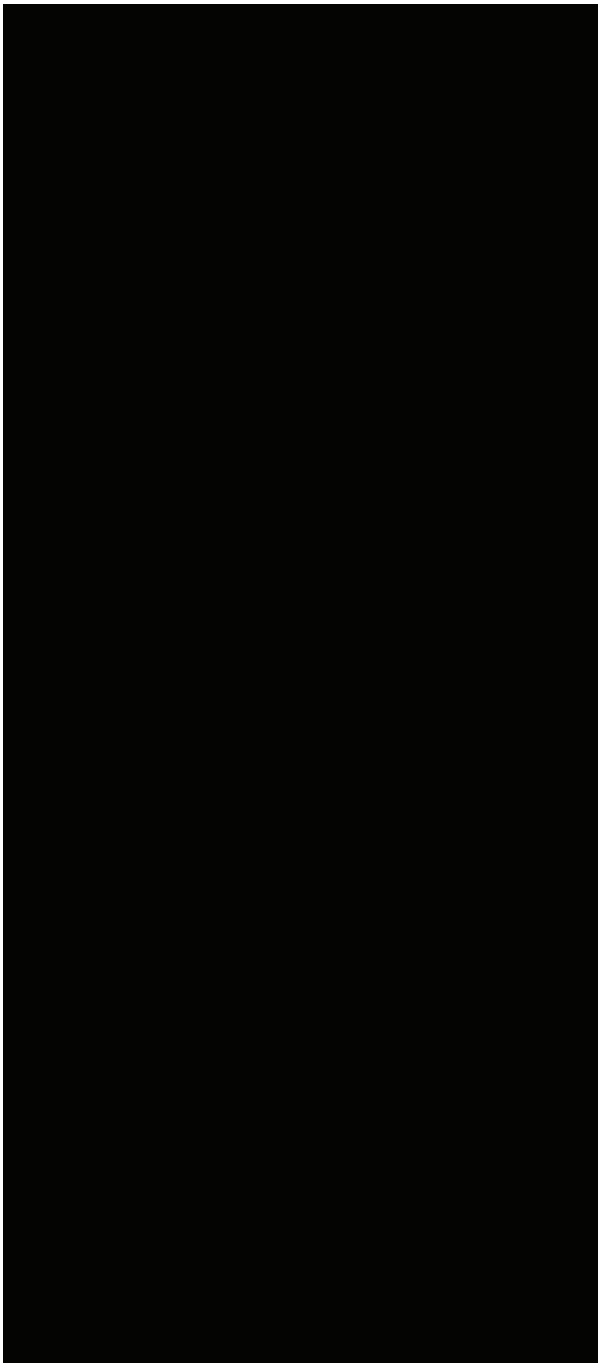
（観点に係る状況）

本校では専攻科に創造システム工学専攻の１専攻を設置している。専攻科の一般科目では，より深い一般基礎知識を教授するために，修士または博士の学位を取得している教員を中心に，専門分野と担当科目に対応させて適切に配置している（資料３－１－③－１）。

各教員は専門分野を考慮し，専門科目に対し配置されている（資料３－１－③－２，資料３－１－③－３）。

特に，本校の目的に掲げる「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成する」に対して，修士または博士の学位を取得した教員および企業経験者を各学科に配置（全体で博士53名，修士８名，企業経験15名）している（資料３－１－③－４）。

資料３－１－③－１



（出典　学生課資料）

資料３－１－③－２

■ 教員（現員）Faculty (Present Members)

| 職名 Title | 学位・資格 Degree・Certificate | 氏名 Name | 専門分野および研究テーマ |
|---|---|---|---|
| 教授 Professor | 博士（理学） Ph.D. in Science | 中本　正一朗 NAKAMOTO, Shoichiro | 専門分野：環境物理学、環境数学<br>1. 気候の数学模型と気候の予測　2. 分子拡散と乱流拡散の数学<br>3. 無効電力から動力をとりだせるか |
| 教授 Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 眞喜志　隆 MAKISHI, Takashi | 専門分野：表面改質、機械材料<br>1. 金属材料の表面改質に関する研究　2. 表面改質と疲労強度に関する研究 |
| 教授 Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 松栄　準治 MATSUE, Junji | 専門分野：機械設計、エネルギ変換、振動工学<br>1. スターリングサイクル機器の研究<br>2. 内燃機関が与える振動に関する研究（ねじり振動含む） |
| 教授 Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 眞鍋　幸男 MANABE, Yukio | 専門分野：溶接・接合、溶射、レーザ加工、生産自動化<br>1. 電磁力を用いた高機能溶接法の研究<br>2. プラズマ無酸による機能膜の創成技術<br>3. ＹＡＧレーザによる精密溶接・加工技術 |
| 教授 Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 宮田　恵守 MIYATA, Yoshimori | 専門分野：材料環境学、金属材料の腐食・防食<br>1. 金属材料の腐食・防食に関する研究　2. 電子部品・機器の腐食に関する研究<br>3. マイクロハブルに関する研究 |
| 教授 Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 山城　光 YAMASHIRO, Hikaru | 専門分野：熱工学、熱流体計測工学<br>1. 有機・無機水素貯蔵材料の研究<br>2. 炭素繊維触媒界面における有機液滴の熱化学的相互作用に関する研究<br>3. 膜沸騰蒸気膜の安定性と固液接触機構 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 武村　史朗 TAKEMURA, Fumiaki | 専門分野：ロボティクス、制御工学<br>1. 海中ロボットの操作に関する研究　2. 振動駆動移動機構の研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 島羽　弘康 TOBA, Hiroyasu | 専門分野：生産管理、生産制御、生産計画<br>1. 生産計画立案支援シミュレーション・生産工程スケジューリングの研究<br>2. システムシミュレーションによる大規模システムの挙動予測、性能予測の研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 比嘉　吉一 HIGA, Yoshikazu | 専門分野：材料力学、計算固体力学<br>1. マルチスケール計算固体力学関連分野の研究<br>2. 原子間力顕微鏡を用いた超微小材料試験法に関する研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 眞喜志　治 MAKISHI, Osamu | 専門分野：熱工学<br>1. レーザ加工に伴う熱現象に関する研究　2. マイクロチャンネル内の気液二相流に関する研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 政木　清孝 MASAKI, Kiyotaka | 専門分野：材料強度、疲労、フラクログラフィ、ＣＴ<br>1. 機械構造部材の疲労信頼性評価に関する研究　2. 表面処理による疲労特性向上に関する研究 |
| 准教授 Associate Professor | 技術士（機械、総合技術監理） Professional Engineer (JPN) | 吉永　文雄 YOSHINAGA, Fumio | 専門分野：材料機械加工組立、生産管理<br>1. ものづくり実学（技術・技能・管理・経営・倫理）<br>2. 高速高精度加工（ＣＡＤ・ＣＡＭ・ＣＡＥ・ＮＣ加工） |
| 助教 Assistant Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 下嶋　賢 SIMOJIMA, Ken | 専門分野：加工学、計測工学<br>1. 機械システムの高精度化　2. 機械加工現象の解析 |

■ 教員（現員）Faculty (Present Members)

| 職名 Title | 学位・資格 Degree・Certificate | 氏名 Name | 専門分野および研究テーマ |
|---|---|---|---|
| 教授 Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 石田　修己 ISHIDA, Osami | 専門分野：高周波回路、アンテナ、電磁干渉、無線通信、電波応用<br>1. 電波伝播に関する研究<br>2. 高周波発振回路や高周波シールド構造に関する研究 |
| 教授 Professor | 工学博士 Doctor of Engineering | 高木　茂 TAKAGI, Shigeru | 専門分野：応用プログラミング、教育工学<br>1. Java 応用プログラミングに関する研究<br>2. パターン認識、バーチャルリアリティに関する研究 |
| 教授 Professor | 工学博士 Doctor of Engineering | 知念　幸勇 CHINEN, Koyu | 専門分野：光通信工学、半導体工学<br>1. 光通信デバイスに関する研究<br>2. RoF（光無線、 WiMAX）に関する研究 |
| 教授 Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 比嘉　勝也 HIGA, Katsuya | 専門分野：半導体工学、電子機器工学<br>1. 微小電子波に関する研究<br>2. マイクロマシニングに関する研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 兼城　千波 KANESHIRO, Chinami | 専門分野：半導体工学、電子工学<br>1. センシングシステムに関する研究<br>2. 半導体に関する教育教材の開発研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Ph.D in Engineering | 神里　志穂子 KAMISATO, Shihoko | 専門分野：感性工学、運動計測、データ解析<br>1. 観察者のスキルと注意情報を考慮した舞踊動作相承システムの構築<br>2. 動作解析によるスキルの定量化と感性情報の抽出に関する研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Ph.D in Engineering | 野口　健太郎 NOGUCHI, Kentaro | 専門分野：信号処理、教育工学、計測工学<br>1. 技術伝承のための ｅラーニングを活用した工学教育手法の研究開発<br>2. 楽器演奏における動きと音の解析に基づく教育手法の研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 山田　親稔 YAMADA, Chikatoshi | 専門分野：計算機工学、論理設計、形式的設計検証<br>1. システムLSI 設計・機能検証に関する研究<br>2. LSI 設計教育に関する研究 |
| 助教 Assistant Professor | 博士（工学） Ph.D in Engineering | 金城　伊智子 KINJOU, Ichiko | 専門分野：意思決定、ファジィ解析、観光情報<br>1. 意思決定支援システムの構築<br>2. ファジィ理論を用いた観光情報システムに関する研究 |

■ 教員（現員）Faculty (Present Members)

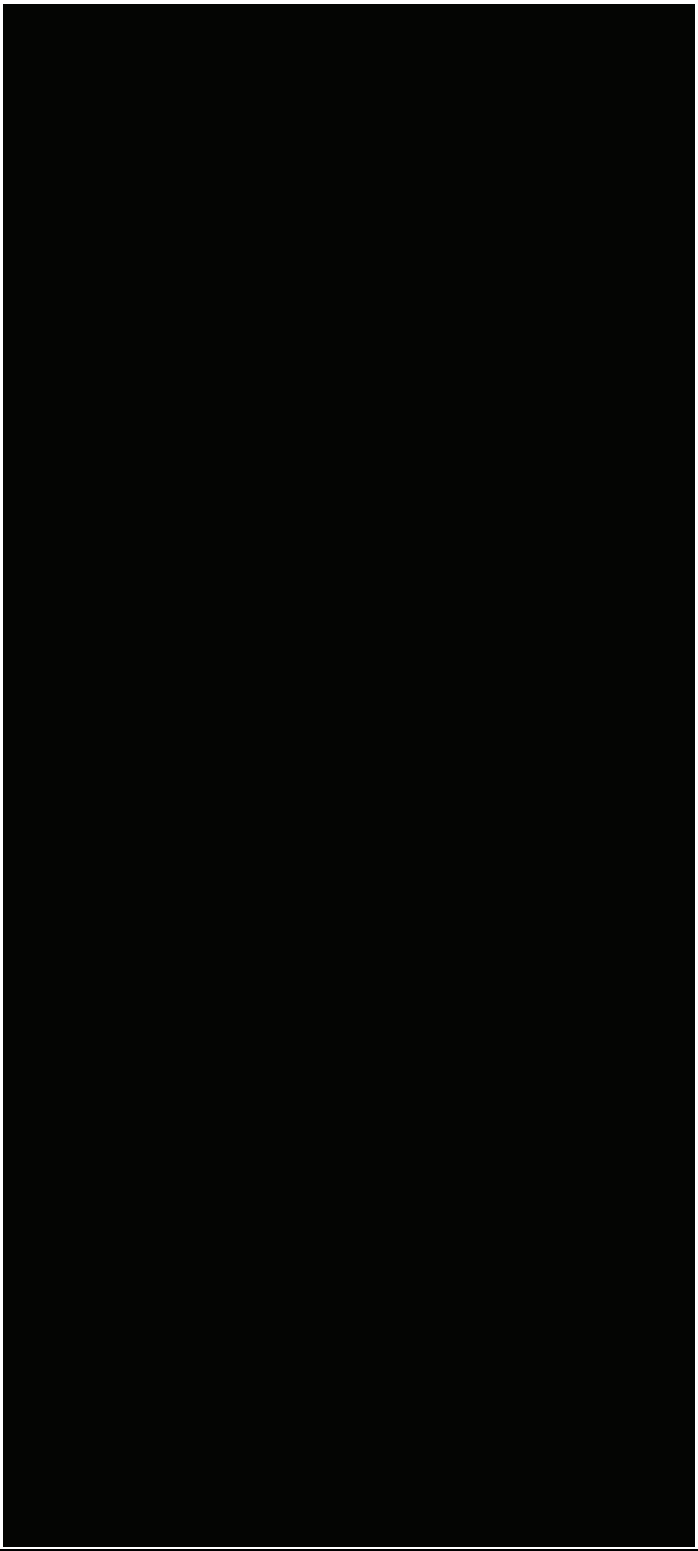
| 職名 Title | 学位・資格 Degree・Certificate | 氏名 Name | 専門分野および研究テーマ |
|---|---|---|---|
| 教授 Professor | 修士（工学） M.S. in Engineering. | 姉崎　隆 ANEZAKI, Takashi | 専門分野：ロボットビジョン、ロボット情報学、画像処理<br>1. 移動ロボットを用いた、広域監視システムおよび移動作業システムの開発<br>2. 群移動ロボットを用いた協調作業システムの開発<br>3. 目視検査自動化のための画像処理システムの開発 |
| 教授 Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 角田　正豊 SUMIDA, Masatoyo | 専門分野：コンピューターネットワーク、光通信システム<br>1. 非対称波長多重光リンク　2. 波長多重光通信システム監視方式<br>3. 光通信システム障害探査技術 |
| 教授 Professor | 修士（理学） M.S. in Biology | 正木　忠勝 MASAKI, Tadakatsu | 専門分野：リアルタイムＯＳ、組み込みシステム<br>1. リアルタイムOS（μ ITRON）の開発　2. 携帯電話 OS の開発<br>3. 非接触 IC カード OS 開発　4. SD メモリカード開発 |
| 准教授 Associate Professor | 修士（工学） M.S. in Engineering. | 伊波　靖 IHA, Yasushi | 専門分野：情報セキュリティ、音声言語処理<br>1. サーバセキュアにするための要素化に関する設定<br>2. セキュリティポリシー策定に関するアドバイス<br>3. 不正アクセス発生時におけるログ解析等のインシデントレスポンス |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 太田　佐栄子 OHTA, Saeko | 専門分野：画像解析、数理統計学<br>1. 統計的手法を用いた画像解析アルゴリズムの開発<br>2. LANDSAT 画像の水域のノイズ除去　3. LANDSAT 画像の熱画像の高解像度化<br>4. データフュージョン |
| 准教授 Associate Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | タンスリヤポン スリヨン TANSURIYAVONG, Suryon | 専門分野：画像処理・認識・圧縮、ディジタル信号処理<br>1. 高速画像処理・認識ソフトウェアの開発<br>2. 遠隔モニタリングのための映像圧縮及び通信方式の研究<br>3. ビデオセンシングによる防犯・防災システムの研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（家政学） Doctor of Home Economics | 西村　篤 NISHIMURA, Atsushi | 専門分野：サウンドスケープデザイン・メディアコンテンツ<br>1. サウンドスケープデザインにおける住民の参加と主体性に関する理論構築<br>2. メディアコンテンツ制作とその社会的応用における対話的手法の開発<br>3. 技術者養成課程における芸術教育の基礎理論構築とその展開 |
| 講師 Senior Assistant Professor | 学士（工学） Bachelor of Engineering | 鈴木　大作 SUZUKI, Taisaku | 専門分野：情報工学、ソフトウェア工学<br>1. 組込みソフトウェア技術、開発手法、開発管理<br>2. ソフトウェア開発におけるプロジェクトマネジメントに関する研究<br>3. モバイルインターネットアクセス技術に関する研究・開発 |
| 助教 Assistant Professor | 博士（知識科学） Ph.D in Knowledge Science | 佐藤　尚 SATOU, Takashi | 専門分野：複雑系、人工生命、進化言語学、進化論的計<br>1. 生命・認知・言語・社会などの自律的に発展・進化する「複雑系」に関する構成論的研究<br>2. 「複雑系」における創発現象の解析 |
| 助教 Assistant Professor | 博士（工学） Ph.D in Engineering | バイティガ　ザカリ MBA TIGA, Zacharie | 専門分野：制御工学・画像処理<br>1. 解析関数への複数積分の適用　2. ゼータ関数（The Riemann Zeta Function）<br>3. 知的ロボットによるアシスタンス　4. 適応共鳴理論（ART1）の研究 |

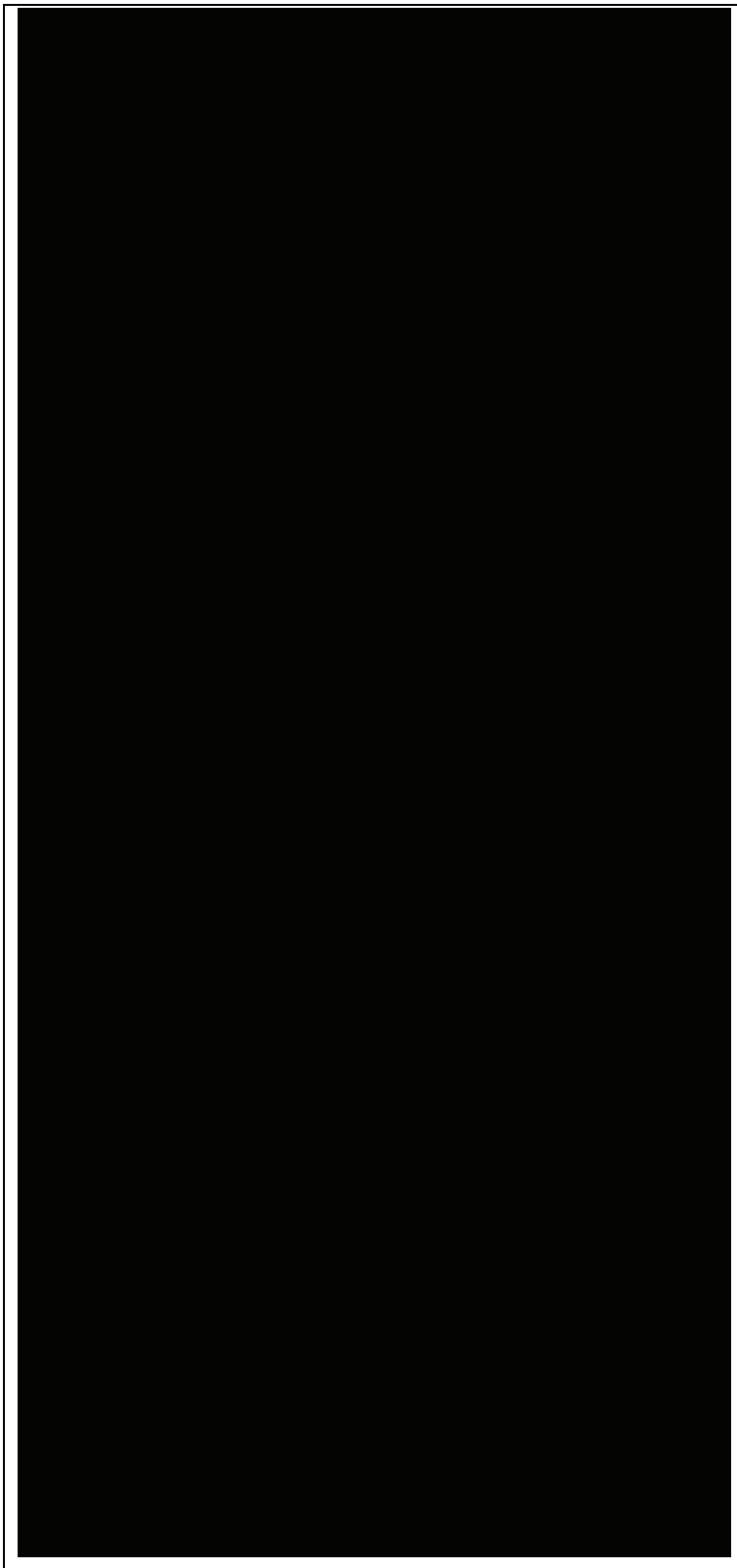
■ 教員（現員）Faculty (Present Members)

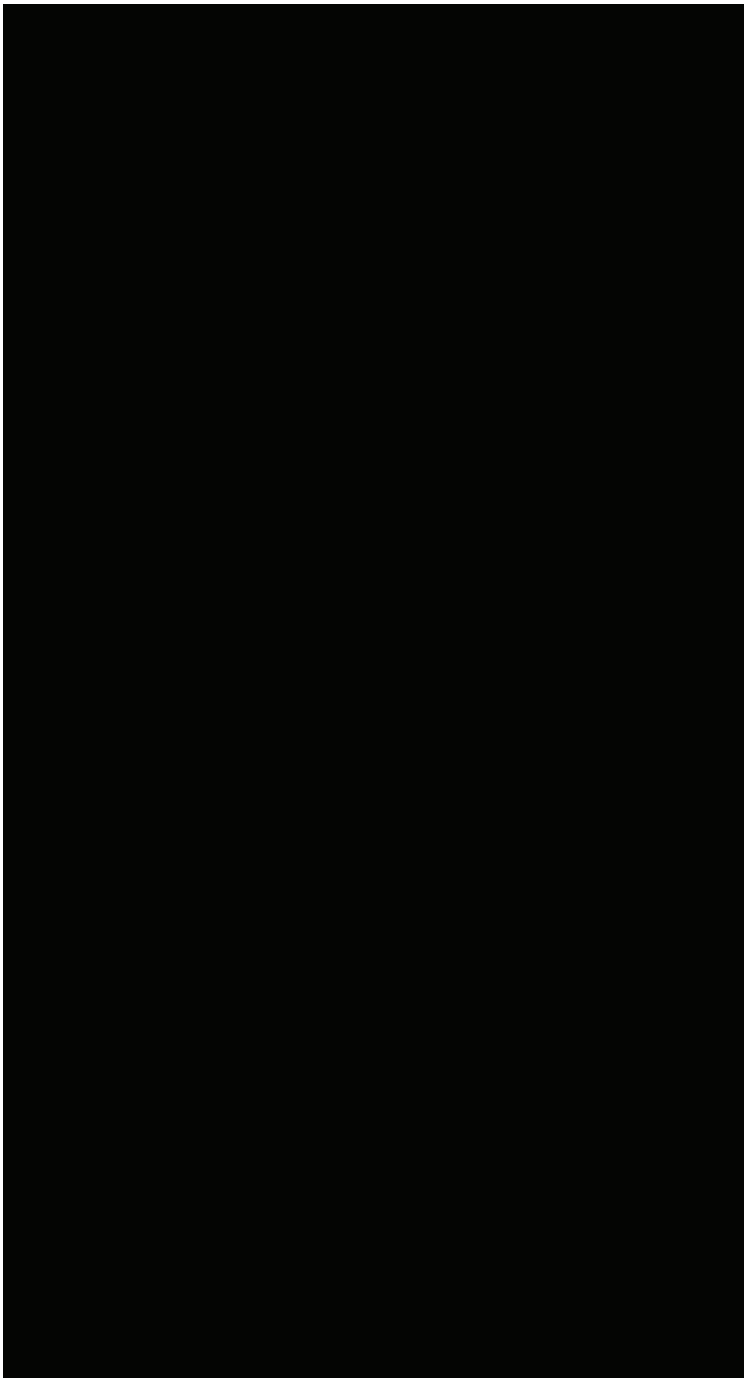
| 職名 Title | 学位・資格 Degree・Certificate | 氏名 Name | 専門分野および研究テーマ |
|---|---|---|---|
| 教授 Professor | 博士（医学） Ph. D. in Medicine | 池松　真也 IKEMATSU, Shinya | 専門分野：生化学、分子発生生物科学、がんの発生<br>1. 天然物由来生理活性物質の評価系構築およびその物質を主体とした商品の開発<br>2. 製品の安全管理システムにおける沖縄独特の微生物管理法の開発<br>3. 製品の安全管理システムにおける沖縄独特の微生物管理法の開発 |
| 教授 Professor | 博士（工学） Doctor of Engineering | 濱田　泰輔 HAMADA, Taisuke | 専門分野：物理化学、光化学、有機化学<br>1. 天然物色素などの化学反応を含む事項について、特に光と色が関わる事柄に関する事項 |
| 教授 Professor | 博士（歯学） Ph. D. | 平山　けい HIRAYAMA, Kei | 専門分野：脳・神経科学、遺伝子工、分子細胞生物科学<br>1. 脳細胞・神経細胞の神経伝達に関わる因子や遺伝子の研究<br>2. 沖縄の植物が持つ生理活性物質の評価とその３次機能性食品開発への活用 |
| 教授 Professor | 博士（農学） Ph. D. in Agriculture | 三枝　隆裕 MITSUE, Takahiro | 専門分野：微生物学、生物学、食品プロセス工学<br>1. 植物、天然物原料の有効性評価を基に医薬部外品・化粧品・食品素材の開発<br>2. 微生物発酵法からの新素材の開発 |
| 教授 Professor | 博士（学術） Ph. D. | 山城　秀之 YAMASHIRO, Hideyuki | 専門分野：環境学、サンゴ礁学<br>1. サンゴ礁保全に関する共同研究<br>2. 沖縄の野生生物（資源生物）に関する研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（学術） Ph. D. | 伊東　昌章 ITO, Masaaki | 専門分野：タンパク質工学、酵素化学<br>1. 有用物質を蓄積させた組換え作物の開発<br>2. 昆虫無細胞タンパク質合成系の高度化に関する研究 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（農学） Ph. D. in Agriculture | 三宮　一寧 SANMIYA, Kazunishi | 専門分野：植物分子生物学<br>1. 有用物質を蓄積させた組換え作物の開発<br>2. 耐暑性・耐乾性・耐塩性・耐虫性・耐病性を向上させた組換え作物の開発 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（学術） Ph. D. | 平良　淳誠 TAIRA, Jatsuri | 専門分野：生物有機化学、生物資源化学、食糧化学<br>1. 有用生物資源の探索、評価法に関する共同研究<br>2. 有用化粧品素材（美白剤、他）の探索・評価に関する共同研究・開発 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（農学） Ph. D. in Agricultural Sciences | 田邊　俊朗 TANABE, Toshiaki | 専門分野：環境資源利用科学、生物資源化学、食糧科学<br>1. キチン・キトサンからの生理活性物質生産、関連酵素の新規探索<br>2. リグノセルロース系バイオマスの前処理技術開発 |
| 准教授 Associate Professor | 博士（農学） Ph. D. in Agriculture | 玉城　康智 TAMAKI, Yasutomo | 専門分野：発酵学、微生物学<br>1. 泡盛に関する研究全般への対応と研究成果の商品化<br>2. 微生物を利用した有用成分の生産とその利用に関する研究 |
| 助教 Assistant Professor | 博士（食品栄養科学） Doctor of Food Nutrition Science | 工藤　雄博 KUDO, Katsuhiro | 専門分野：食品化学、食品栄養学<br>1. 沖縄県特有の原材料を用いた新規食品の開発<br>2. 既存食品および新規食品の食品機能性に関する調査 |
| 助教 Assistant Professor | 博士（理学） Ph. D. in Science | 磯村　尚子 ISOMURA, Naoko | 専門分野：環境生物学、分子生態学、集団遺伝学<br>1. 海洋生物の分散機構の解明<br>2. 造礁サンゴにおける遺伝的集団構造の解明 |

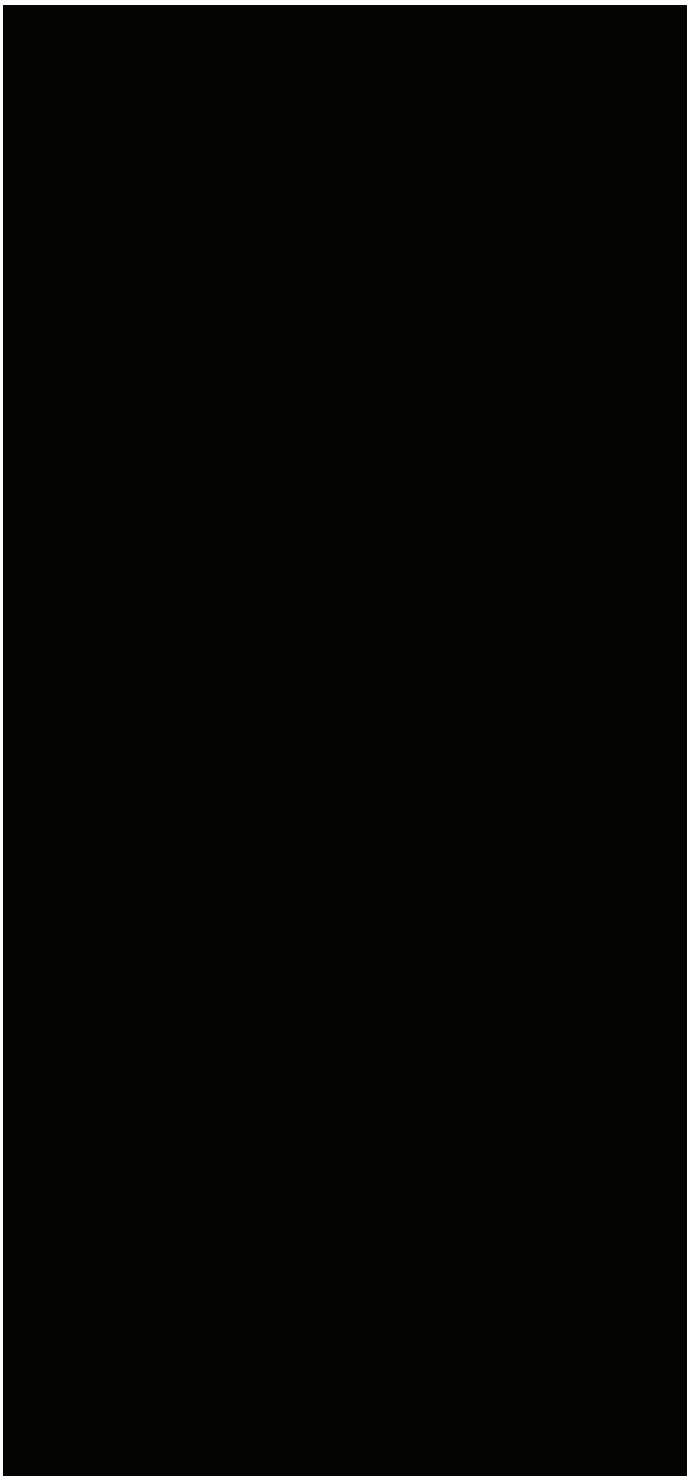
（出典　平成21年度学校要覧　P. ８，10，12，14抜粋）

資料３－１－③－３









（出典　学生課資料）

資料３－１－③－４

（H22.5.1現在）

| | 学位等 | | | 企業経験者 |
|---|---|---|---|---|
| | 博士 | 修士 | その他 | |
| 校　　長 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 機械システム工学科 | 12 | 0 | 1 | 4 |
| 情報通信システム工学科 | 10 | 0 | 0 | 4 |
| メディア情報工学科 | 7 | 3 | 1 | 4 |
| 生物資源工学科 | 12 | 0 | 0 | 2 |
| 総合科学科 | 12 | 5 | 1 | 0 |
| 留学生交流促進センター | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 合　　計 | 55 | 8 | 3 | 15 |

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の専攻科では，各科目とも各教員の専門分野を考慮し，バランスよく配置している。また，学位取得者や企業経験者を専攻科各コースに多数配置するなど，教育の目的を達成するために必要な各コースの専門科目担当教員を適切に配置している。

これらのことから，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員を適切に配置している。

**観点３－１－④:　学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば，均衡ある年齢構成への配慮，教育経歴や実務経験への配慮等が考えられる。）が講じられているか。**

（観点に係る状況）

本校の教員の年齢は，40代の占める割合が最も大きく（45.5%），逆に20代が１人もいない（0.0%）という構成となっているが（資料３－１－④－１），特に教育に対する支障は生じていない。

本校専任教員全体の男女比は，男性80.3%に対して女性19.7%である（資料３－１－④－２）。内訳は，「情報通信システム工学科」，「総合科学科」で女性の割合が30%を超える一方，「機械システム工学科」では，0.0%（０人）である。また，職階別では，24名の准教授のうち女性が25.0%（６名）の割合であるのに対して，24名の教授の中で女性の占める割合は8.3%（２名）である。

本校における専任の外国人教員として「メディア情報工学」に２名（内１名は帰化された）と「総合科学科」に１名が在籍している。また，非常勤講師１名も外国人教員である。合計４名が在籍している（資料３－１－④－３）。

本校教員の大半が学位取得者であり，本校には学位取得に対する支援を定める規程や制度は設けられていなかった。今後，検討する必要がある。そのほか，「国際会議発表支援制度」が設けられており，派遣を積極的に進め，教育活動活性化を推進している（資料３－１－④－４，資料３－１－④－５，資料３－１－④－６）。

教員の採用においては，「沖縄工業高等専門学校教員選考規則」が制定されている。「公募制の原則」が規定され，公募する教員の年齢，教育経歴，実務経験などを考慮して教員選考委員会で審議される（資料３－１－④－７，資料３－１－④－８）。本校専任教員は，教育経歴を有する者と実務経験などを有している者をバランス良く採用している（資料３－１－④－９）。

資料３－１－④－１

（H22.5.1現在）

| | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 校　　長 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 機械システム工学科 | 0 | 4 | 4 | 1 | 4 | 13 |
| 情報通信システム工学科 | 0 | 4 | 3 | 1 | 2 | 10 |
| メディア情報工学科 | 0 | 3 | 6 | 2 | 0 | 11 |
| 生物資源工学科 | 0 | 3 | 6 | 3 | 0 | 12 |
| 総合科学科 | 0 | 4 | 10 | 2 | 2 | 18 |
| 留学生交流促進センター | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 合　　計 | 0 | 18 | 30 | 9 | 9 | 66 |

（出典　総務課資料）

資料３－１－④－２

（H22.5.1現在）

| | 男 | 女 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 校　　長 | 1 | 0 | 1 |
| 機械システム工学科 | 13 | 0 | 13 |
| 情報通信システム工学科 | 7 | 3 | 10 |
| メディア情報工学科 | 10 | 1 | 11 |
| 生物資源工学科 | 10 | 2 | 12 |
| 総合科学科 | 12 | 6 | 18 |
| 留学生交流促進センター | 0 | 1 | 1 |
| 合　　計 | 53 | 13 | 66 |

（H22.5.1現在）

| 教　授 | 准教授 | 講　師 | 助　教 |
|---|---|---|---|
| 24名 | 24名 | 10名 | 7名 |
| （うち女性2名） | （うち女性6名） | （うち女性3名） | （うち女性2名） |

（出典　総務課資料）

資料３－１－④－３

## 沖縄工業高等専門学校教職員名簿（平成２２年５月１日）

| | 職　名 | 氏　名 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 機械システム工学科 13名 | 教授 | 中本　正一朗 | |
| | 教授 | 眞喜志　隆 | |
| | 教授 | 松栄　準治 | |
| | 教授 | 真鍋　幸男 | |
| | 教授 | 宮田　恵守 | |
| | 教授 | 山城　光 | |
| | 准教授 | 武村　史朗 | |
| | 准教授 | 鳥羽　弘康 | |
| | 准教授 | 比嘉　吉一 | |
| | 准教授 | 眞喜志　治 | |
| | 准教授 | 政木　清孝 | |
| | 准教授 | 吉永　文雄 | |
| | 助教 | 下嶋　賢 | |
| | 非常勤講師 | 上里　英輔 | |
| | 非常勤講師 | 大城　尚紀 | |
| 情報通信システム工学科 10名 | 教授 | 石田　修己 | |
| | 教授 | 杉本　和英 | |
| | 教授 | 高木　茂 | |
| | 教授 | 知念　幸勇 | |
| | 教授 | 比嘉　勝也 | |
| | 准教授 | 兼城　千波 | |
| | 准教授 | 神里　志穂子 | |
| | 准教授 | 野口　健太郎 | |
| | 准教授 | 山田　親稔 | |
| | 助教 | 金城　伊智子 | |
| | 非常勤講師 | 長堂　勤 | |
| | 非常勤講師 | 吉田　たけお | |
| | 非常勤講師 | 山田　孝治 | |
| メディア情報工学科 11名 | 教授 | 姉崎　隆 | |
| | 教授 | 伊波　靖 | |
| | 教授 | 角田　正豊 | |
| | 教授 | 正木　忠勝 | |
| | 准教授 | 太田　佐栄子 | |
| | 准教授 | 玉城　龍洋 | |
| | 准教授 | ﾀﾝｽﾘﾔﾎﾞﾝ　ｽﾘﾖﾝ | |
| | 准教授 | 西村　篤 | |
| | 講師 | 鈴木　大作 | |
| | 助教 | 佐藤　尚 | |
| | 助教 | ﾊﾞｲﾃｨｶﾞ　ｻﾞｶﾘ | |
| | 非常勤講師 | 具志堅　翔 | |
| 生物資源工学科 12名 | 教授 | 池松　真也 | |
| | 教授 | 濱田　泰輔 | |
| | 教授 | 平山　けい | |
| | 教授 | 三枝　隆裕 | |
| | 教授 | 山城　秀之 | |
| | 准教授 | 伊東　昌章 | |
| | 准教授 | 三宮　一宰 | |
| | 准教授 | 平良　淳誠 | |
| | 准教授 | 田邊　俊朗 | |
| | 准教授 | 玉城　康智 | |
| | 助教 | 磯村　尚子 | |
| | 助教 | 工藤　雄博 | |
| 留学生交流促進センター 1名 | 准教授 | 吉川　友子 | |

外国籍教員

| | 職　名 | 氏　名 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 総合科学科 18名 | 教授 | 網谷　厚子 | |
| | 教授 | 新川　智清 | |
| | 教授 | 小池　寿俊 | |
| | 教授 | 成田　誠 | |
| | 准教授 | 青木　久美 | |
| | 准教授 | 大石　敏広 | |
| | 准教授 | 澤井　万七美 | |
| | 准教授 | 下郡　剛 | |
| | 講師 | 飯田　智行 | |
| | 講師 | 木村　和雄 | |
| | 講師 | 角田　ｷｬﾃｨｰ | |
| | 講師 | 高嶺　司 | |
| | 講師 | 滝　雅士 | |
| | 講師 | 武田　ひとみ | |
| | 講師 | 名嘉山　リサ | |
| | 講師 | 古屋　淳 | |
| | 講師 | 山本　寛 | |
| | 助教 | 宮城　元 | |
| | 非常勤講師 | 比嘉　久明 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 平安名　常儀 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 末吉　つねみ | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | ﾆｭｳｴﾙ　ﾃｨﾓｼｰ　ﾗｲｱ | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 川木　アリス | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 伊芸　久美子 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 吉井　巧一 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 又吉　元亮 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 上江洲　安彦 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 田仲　康嗣 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 中西　利文 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 仲松　貴子 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 玉城　あゆみ | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 西里　壽雄 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 鈴木　伸子 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 真喜志　満 | 一般科目 |
| | 非常勤講師 | 小波津　フェルナンド | 一般科目 |

（出典　総務課資料）

資料３－１－④－４

**沖縄工業高等専門学校国際会議発表支援制度実施要項**

（平成１８年７月１日校長裁定）
改正 平成１８年 ９ 月 ４ 日
平成１９年 ３ 月３０日
平成２０年 ８ 月２６日
平成２２年 １ 月２０日

（趣旨）

第１条　この要項は、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）に所属する教職員の教育研究活動の推進を図るとともに、国際的に活躍できる教職員を育成するため、国内外で開催される国際的な活動等で単独又は共同研究の責任者として発表する場合の支援制度について定めるものとする。

（出典　沖縄工業高等専門学校国際会議発表支援制度実施要項　抜粋）

資料資３－１－④－５

**「沖縄工業高等専門学校国際会議発表支援制度実施要項」に関する申合せ**

（平成１８年８月３１日制定）
改正　平成１９年３月３０日
平成２０年８月２６日
平成２２年１月２０日

この申合せは、沖縄工業高等専門学校国際会議発表支援制度実施要項（平成１８年７月１日校長裁定。以下「実施要項」という。）の運用に関し、必要な事項について定めるものとする。

（出典　「沖縄工業高等専門学校国際会議発表支援制度実施要項」に関する申合せ　抜粋）

資料３－１－④－６

平成21年度国際会議発表支援額台帳

| | 学科名 | 職名 | 氏名 | 開催地 | 開催期間 | 申請日 | 選考委員会開催日 | 選考可否 | 決定通知日 | 旅費 ※1 | 参加料 ※2 | 支援額 | 備考 | 国際会議等名 | 主催団体等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 情報通信システム工学科 | 教授 | 知念 幸勇 | カナダ | 21. 7. 6~7. 8 | 21. 2. 26 | 21. 3. 18 | 可 | | 200, 000円<br>(292, 096円) | 75, 150円 | 275, 150円 | | The 9th IASTED International Conference on Wireless and Optical Communications (WOC) | International Association of Science and Technology for Development (WOC 2009) |
| 2 | 総合科学科 | 講師 | 高嶺 司 | オーストラリア | 21. 7. 13~7. 16 | 21. 3. 5 | 21. 3. 18 | 可 | | 200, 000円<br>(235, 680円) | 44, 442円 | 244, 442円 | | The JSAA-IGJLE 2009 International Conference | Japanese Studies Association of Australia(オーストラリア日本研究学会) |
| 3 | 総合科学科 | 教授 | 成田 誠 | チェコ | 21. 8. 3~8. 8 | 21. 3. 10 | 21. 3. 18 | 可 | | 200, 000円<br>(393, 020円) | 40, 026円 | 240, 026円 | | XVI International Congress on Mathematical Physics | International Association of Mathematical Physics |
| 4 | 技術支援室 | 技術専門職員 | 宮城 義孝 | 韓国 | 21. 9. 8~9. 11 | 21.5. 20 | 21. 5. 25 | 可 | | 126, 926円 | 49, 542円 | 176, 468円 | | Proceedings of the 9th International Symposium on Experimental and Computational Aerothermodynamics of Internal Flowe(ISAIF9) | The International Symposium on Experimental and Computational Aerothermodynamics of Internal Flowe(ISAIF) |
| 5 | メディア情報工学科 | 助教 | バイティガ ザカリ | 中国 | 21. 12. 17~12. 19 | 21. 9. 3 | 21. 10. 6 | 可 | | 161, 690円 | 24, 084円 | 185, 774円 | | The 14th Asian Technology Conference in Mathematics(ATCM2009) | Electronic Journal of Mathematics and Technology(USA),International Education&Software(Japan),Caso Computer Co.Ltd |
| | 合計 | | | | | | | | | 888, 616円 | 233, 243円 | 1, 121, 859円 | | | |

（出典　平成21年度国際会議発表支援額台帳）

資料３－１－④－７

# 沖縄工業高等専門学校教員選考規則

平成２１年１０月２１日
規　則　　第　１５　号

（趣旨）

**第１条**　この規則は、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員の選考に関し、高等専門学校設置基準（昭和３６年文部省令第２３号）によるもののほか、必要な事項について定めるものとする。

（定義）

**第２条**　この規則において「教員」とは、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則（平成１６年規則第６号）第３条第２号に掲げるものをいう。

２　この規則において「選考」とは、教員の定員増又は退職等による欠員補充のための教員採用及び昇任又は配置換するために行われる選考をいう。

（公募の原則）

**第３条**　教員の選考は、原則として公募によるものとする。ただし、前条第２項に定める昇任及び配置換の場合を除くことができる。

（教員の選考手続）

第４条　学科長（沖縄工業高等専門学校運営組織規則（平成１６年規則第１号）第５条に定める総合科学科を含む。以下同じ。）は、当該学科に所属する教員に欠員が生じたとき又は生じることが予期されるときは、速やかに校長に教員の選考について別紙様式により申し出るものとする。

２　学科長は、当該学科に所属する教員が定年により退職する場合は、その予期される退職の１０ヶ月前までに校長に教員の選考について別紙様式により申し出るものとする。

３　第１項及び前項によらない選考については校長が発議する。

（教員の選考）

第５条　教員の選考は、校長が行う。

２　校長は、教員の選考に当たっては、当該教員候補適任者の資格審査及び推薦を沖縄工業高等専門学校教員選考委員会（以下「選考委員会」という。）に付託するものとする。

３　選考委員会について必要な事項は、別に定める。

（選考基準）

**第６条**　教員の採用及び昇任に関する選考は、第７条から第１１条までに掲げる資格を有する者について、人格、識見、教育研究業績等を総合的に審査して行うものとする。

２　前項の審査においては、原則として面接及び模擬授業により人格、識見等の審査を行うものとする。

（教授の資格）

**第７条**　教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

(1) 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者

(2) 学位規則（昭和２８年文部省令第９号）第５条の２に規定する専門職学位（外国におい

て授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する業務についての実績を有する者

(3) 大学（短期大学を含む。以下同じ。）又は高等専門学校において教授、准教授又は専任の講師の経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者

(4) 学校、研究所、試験所、調査所等に在職し、教育若しくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在職し、技術に関する業務についての実績を有する者

(5) 特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者

(6) 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

（准教授の資格）

**第８条**　准教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

(1) 前条各号のいずれかに該当する者

(2) 大学又は高等専門学校において助教又はこれに準ずる職員としての経歴（外国におけるこれらに相当する職員としての経歴を含む。）のある者

(3) 修士の学位又は学位規則第５条の２に規定する専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）を有する者

(4) 特定の分野について、優れた知識及び経験を有すると認められる者

(5) 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

（講師の資格）

**第９条**　講師となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 第７条又は前条に規定する教授又は准教授となることのできる者

(2) 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）において教諭の経歴のある者で、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者

(3) 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

（助教の資格）

**第１０条**　助教となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

(1) 第７条各号又は第８条各号のいずれかに該当する者

(2)　修士の学位（医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を修了した者については、学士の学位）又は学位規則第５条の２に規定する専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）を有する者

(3) 特定の分野について、知識及び経験を有すると認められる者

（助手の資格）

**第１１条**　助手となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 学士若しくは短期大学士の学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）又は準学士の称号（外国におけるこれらに相当する称号を含む。）を有する者

(2) 前号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

（専攻科における特別研究等担当者の資格）

**第１２条**　専攻科における特別研究及び授業を担当できる教員の資格については、別に定める。

（雑則）

**第１３条**　この規則に定めるもののほか、教員の選考に関し必要な事項は、別に定める。

**附　則**

この規則は、平成２１年１０月２１日から施行する。

**（別紙様式）**

平成　　年　　月　　日

**沖縄工業高等専門学校長　　殿**

学科長　　印

**教　員　選　考　申　出　書**

**教員の選考について、下記のとおり学科で協議いたしましたので、よろしくお取り計らい願います。**

**記**

**１．職名及び人員**

**２．所　属　学　科**

**３．専　門　分　野**

**４．主な担当科目**

**５．採用希望日**　　**平成　　年　　月　　日以降の早い時期**

**６．特　記　事　項**

**７．学科選出の選考委員**

**（学科長を除いた１名の教員。ただし被選考教員の職種より上位であること。）**

**職・氏名**

**記　入　例**

（別紙様式）

平成　　年　　月　　日

沖縄工業高等専門学校長　　殿

情報通信システム工学科長　　沖工　専太郎　　印

# 教　員　選　考　申　出　書

教員の選考について、下記のとおり学科で協議いたしましたので、よろしくお取り計らい願います。

記

１．職名及び人員　　教授　１名

２．所　属　学　科　　情報通信システム工学科

３．専　門　分　野　　電子情報通信工学の分野

４．主な担当科目　　情報通信工学実験，プログラミング，計算機工学，コンピュータアーキテクチャ，通信工学などの中から数科目担当

５．採 用 希 望 日　　平成２１年　９月　１日以降の早い時期

６．特　記　事　項　　海外経験（欧米、中国など）があり，グローバルインターンシップをリード出来る方（英語の他，中国語が堪能であれば更に望ましい）

７．学科選出の選考委員

（学科長を除いた１名の教員。ただし被選考教員の職種より上位であること。）

職・氏名　　教授・○○　○○

＊　副校長に任命されている教員については、副校長として別途選考委員に選出される可能性があるため、別の方を選んで下さい。

（出典　沖縄工業高等専門学校教員選考規則）

資料３－１－④－８




（出典　本校ホームページ　抜粋）

資料３－１－④－９

| 区　　分 | 校　長 | 教　授 | 准教授 | 講　師 | 助　教 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育経歴 | 1 | 9 | 15 | 6 | 5 | 36 |
| 実務経験 | 0 | 11 | 2 | 1 | 1 | 15 |
| その他研究員等 | 0 | 4 | 7 | 3 | 1 | 15 |
| 合　　計 | 1 | 24 | 24 | 10 | 7 | 66 |

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の専任教員の年齢構成には偏りがあるものとなっており，今後の採用で是正する必要がある。

性別構成については，全学的にはバランスが取れているものの，専門学科においての偏りが見られるため，配慮が必要である。

外国人教員の確保については，一般科目（語学系）の教員ばかりでなく，専門科目においても採用しており，出身国も，北米，アジア，アフリカであり幅広いものとなっている。

学位取得に対する支援がなくその制定が望まれるが，すでに博士の学位の取得者が多数を占めているうえに「国際会議発表支援制度」があり，平成21年度の支援実績から見ても教育活動の活性化の機能を果たしていると言える。

本校の教員採用については,「沖縄工業高等専門学校教員選考規則」において公募制の原則および教育経歴，実務経験を持つ者の採用が明記され，選考委員会で審議されている。

これらのことから，今後，検討が必要な事項もあるが，本校の目的に応じた教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられている。

**観点３－２－①：　教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ，適切に運用がなされているか。**

（観点に係る状況）

専任教員の採用や昇格等については「沖縄工業高等専門学校教員選考規則」に明確に規定されており（資料３－２－①－１），選考委員会が審査し，最終候補者を校長に推薦する。

審査にあたっては同規則「選考基準」第６条に記されるように，各職階の資格（教育上の能力を含む）を有する者について，書類審査，面接，模擬授業などが適宜行われ，総合的に審査されている。この採用方針は高等専門学校設置基準に沿ったものである。

なお，具体的な教員採用の実施は，研究者人材データベースなどを用いて公募している（資料３－２－①－２）。

非常勤講師の採用に関しては，規則は制定されていないが，担当科目に関連した専任教員が採用候補者の専門性を考慮して，最終候補者を校長に推薦している。

資料３－２－①－１

**沖縄工業高等専門学校教員選考規則**

平成２１年１０月２１日
規　則　　第　１５　号

（趣旨）

**第１条**　この規則は、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員の選考に関し、高等専門学校設置基準（昭和３６年文部省令第２３号）によるもののほか、必要な事項について定めるものとする。

（定義）

**第２条**　この規則において「教員」とは、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則（平成１６年規則第６号）第３条第２号に掲げるものをいう。

２　この規則において「選考」とは、教員の定員増又は退職等による欠員補充のための教員採用及び昇任又は配置換するために行われる選考をいう。

（公募の原則）

**第３条**　教員の選考は、原則として公募によるものとする。ただし、前条第２項に定める昇任及び配置換の場合を除くことができる。

（教員の選考手続）

第４条　学科長（沖縄工業高等専門学校運営組織規則（平成１６年規則第１号）第５条に定める総合科学科を含む。以下同じ。）は、当該学科に所属する教員に欠員が生じたとき又は生じることが予期されるときは、速やかに校長に教員の選考について別紙様式により申し出るものとする。

２　学科長は、当該学科に所属する教員が定年により退職する場合は、その予期される退職の１０ヶ月前までに校長に教員の選考について別紙様式により申し出るものとする。

３　第１項及び前項によらない選考については校長が発議する。

（教員の選考）

第５条　教員の選考は、校長が行う。

２　校長は、教員の選考に当たっては、当該教員候補適任者の資格審査及び推薦を沖縄工業高等専門学校教員選考委員会（以下「選考委員会」という。）に付託するものとする。

３　選考委員会について必要な事項は、別に定める。

（選考基準）

**第６条**　教員の採用及び昇任に関する選考は、第７条から第１１条までに掲げる資格を有する者について、人格、識見、教育研究業績等を総合的に審査して行うものとする。

２　前項の審査においては、原則として面接及び模擬授業により人格、識見等の審査を行うものとする。

（教授の資格）

**第７条**　教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

(1) 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者

(2) 学位規則（昭和２８年文部省令第９号）第５条の２に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する業務についての実績

（出典　沖縄工業高等専門学校教員選考規則　抜粋）

資料３－２－①－２

求人公募情報検索：研究者人材データベース JREC-IN　　1/2 ページ

JREC-IN
研究者人材データベース

国立研究開発法人 科学技術振興機構

| | |
|---|---|
| データ番号 | D110050845 |
| 公開開始日 | 2010年05月31日 |
| 更新日 | 2010年05月31日 |
| タイトル | 教員の公募について（専攻科　教授） |
| 機関名 | 沖縄工業高等専門学校 |
| 機関URL | http://www.okinawa-ct.ac.jp/index.jsp |
| 部署URL | http://www.okinawa-ct.ac.jp/list_typeA.jsp?menuid=3050&funcid=2 |
| 機関種別 | 高等専門学校 |
| 公募のURL | http://www.okinawa-ct.ac.jp/list_typeA.jsp?menuid=3078&funcid=2 |
| 機関の説明<br>（募集の背景） | 部署名：<br>①機械システム,②情報通信,③メディア情報,④生物資源　各工学科の何れか（任用決定後に調整） |
| 仕事内容 | 【専門分野】<br>下記分野のうち，産学連携に携われる方<br>①機械システム工学科　関連<br>機械工学，電気工学（パワーエレクトロニクス），材料工学<br>（有機材料工学）<br>②情報通信システム工学科 及び ③メディア情報工学科 関連<br>情報工学（組込ソフトウェア，ソフトウェア工学，ロボティ　クス，アルゴリズム，ユビキタスシステム　など）<br>④生物資源工学科　関連<br>生物学，食品化学，生物資源利用学，技術者倫理<br><br>【主な担当科目】<br>産学連携（地域共同テクノセンター組織あり），本科，専攻科における専門分野関連の授業科目（任用決定後に調整），<br>本科の卒業研究，専攻科の特別研究 |
| 研究分野 | 1.大分類　工学<br>小分類　機械工学，電気工学（パワーエレクトロニクス），材料工学（有機材料工学）<br>2.大分類　総合領域<br>小分類　情報学<br>3.大分類　その他<br>小分類　生物学，食品化学，生物資源利用学，技術者倫理 |
| 職種 | 1.研究職A |
| 勤務形態 | 常勤（任期なし） |
| 勤務地 | 九州・沖縄 － 沖縄県 |
| 勤務地住所等 | 沖縄県名護市字辺野古905番地 |
| 募集人員 | 1名 教授 |
| 応募資格 | 高等専門学校設置基準の教員の資格に拠るほか，次の各項を全<br>て満たす方<br>(1) 博士の学位を有する方（採用までに学位取得見込みを含<br>む）<br>(2) 高等専門学校における教育研究に意欲があり，学生指導（学級担任をはじめ寮生指導，課外活動等）に理解と熱意<br>がある方<br>(3) 当該専門分野に精通し，本高等専門学校の基本方針に基づき，運営等に協調して参画できる方 |
| 募集期間 | 2010年06月30日まで<br>必着 |
| 着任時期 | 2010年10月01日から<br>以降の可能な限り早い時期 |
| 応募書類<br>（送付先を含む） | (1) 履歴書（様式1）※<br>(2) 教育研究業績一覧（様式2）※<br>(3) 主要論文・特許等（5件以内）の別刷（各5部，コピー<br>可）<br>(4) 推薦書（応募者を評価できる方の推薦書，自薦の際は<br>省略可）<br>(5) 高等専門学校における教育，研究及び学生指導に対する<br>抱負（2,000字以内）<br><br>※様式1及び2は，沖縄工業高等専門学校ホームページからも<br>ダウンロード出来ます。<br><br>【書類送付先】<br>〒905-2192　沖縄県名護市字辺野古905番地<br>沖縄工業高等専門学校総務課人事係<br>※封筒に「「専攻科　教授（専門分野名）　応募書類在中」」と朱記し，書留にて郵送のこと。なお，応募書類は原則とし<br>て<br>返却いたしません。返却を希望される場合は，返信用封筒を<br>同封してください。 |
| 添付書類 | 01 専攻科・教授公募（沖縄高専）.pdf<br>02-1 履歴書（様式1）.doc<br>03-1 教育研究業績一覧（様式2）.doc<br>04-1(ver2) 教員応募書類作成にあたっての注意事項.pdf |
| 選考内容 | 第1次選考：書類審査<br>第2次選考：面接（宿泊交通費等は自己負担） |

http://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?fn=0&id=D110050845&ln_jor=0&print=1　　2010/06/21

（出典　研究者人材データベース）

（分析結果とその根拠理由）

専任教員の採用や昇格等に関する規則が明確かつ適切に定められている。また，公募の資料には「高等専門学校設置基準の教員の資格に拠る」ことが明記され，これをもとに模擬授業などで候補者の教育指導力の独自の評価も行っており，適切に運用がなされている。しかし，非常勤講師に関しては，規則の制定の必要がある。

**観点３－２－②：　教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され，実際に評価が行われているか。また，その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。**

（観点に係る状況）

詳しくは基準９で述べることになるが，教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制の一つとして，FD委員会が組織されている。

定期的な評価として，各科目において各学期の終了時点で「授業改善のためのアンケート」を実施している。学生がWebによる入力後，アンケート結果が授業ごとに集計され科目担当者に渡される（資料３－２－②－１）。各科目担当者はその結果に対する「授業実施報告書」を作成することとなっており，次年度以降の教育改善に活用される（資料３－２－②－２）。

教員の教育活動の評価として「教員顕彰」のシステムがある。教育能力の評価は自己点検・評価委員会主導で行われる自己点検書の提出，学生による投票，教員相互による投票により行われる（資料３－２－②－３）。まだ始められたばかりであり，今後，積極的に取組む必要がある。

資料３－２－②－１

アセスメントの統計: 後期:授業改善のためのアンケート(座学用)　[redacted]

プログラミングI-MI (091231105) > コントロールパネル > 成績センタ > 項目オプション > アセスメントの統計: 後期:授業改善のためのアンケート(座学用)

## アセスメントの統計: 後期:授業改善のためのアンケート(座学用)

統計は採点オプション (最終作業、最初の作業、最終得点の作業、平均得点) で使用した試行回数のみに基づいて算出されます。[平均得点] が採点オプションの場合、すべての試行回数が統計に含まれます。

**名前**　後期:授業改善のためのアンケート(座学用)

**試行回数**　23 (このアセスメントの24試行の合計回数)

**手順**

**問題1　評価尺度/リッカート**

あなたの理解度は以下のどれにあてはまると思いますか？

| 解答 | パーセント解答 |
|---|---|
| 1. 90%以上 | 34.783% |
| 2. 90%から80% | 52.174% |
| 3. 80%から70% | 13.043% |
| 4. 70%から60% | 0% |
| 5. 60%未満 | 0% |
| *未解答* | 0% |

**問題2　評価尺度/リッカート**

予習・復習，課題提出などやるべきことをきちんとやりましたか？

| 解答 | パーセント解答 |
|---|---|
| 1. 全てできた | 39.13% |
| 2. ほとんどできた | 43.478% |
| 3. 時々できていない | 17.391% |
| 4. あまりできていない | 0% |
| 5. 全くできていない | 0% |
| *未解答* | 0% |

**問題3　評価尺度/リッカート**

居眠り・雑談などせず説明に集中し，分らない箇所は質問するなど意欲的に努力しましたか？

| 解答 | パーセント解答 |
|---|---|
| 1. 全てできた | 30.435% |
| 2. まあまあできた | 60.87% |
| 3. どちらともいえない | 8.696% |
| 4. ややできていない | 0% |
| 5. 全くできていない | 0% |
| *未解答* | 0% |

**問題4　複数解答**

授業で何を向上できたと思いますか？ (複数選択可)

https://learn.okinawa-ct.ac.jp/webapps/assessment/stats/stats.jsp?gradebook2Return=true&course_id=_...

（出典　授業改善のためのアンケート結果　抜粋）

資料３－２－②－２

**沖縄工業高等専門学校　授業実施報告書（例）　提出年月日：＊＊年＊月＊＊日**

| 期間：**年*月～**年*月 | 授業名：　授業名（学科・学年） | 教員名：代表者 |
|---|---|---|

**授業の理念：シラバスを参考に授業の狙いや方法を記述する**

プログラミング言語 java の構造と文法について以下の項目を理解する。
(1)　データ型, (2)条件分岐等の制御構造, (3)ファイル入出力、(4)オブジェクト指向プログラミング。
これらに基づき簡単なプログラムが作れるようになる。

**授業実施の経過：授業の経過について記述する**

ほぼシラバス通り進めることができた。実践力と自主性を高めるために、授業毎に課題を出し、課題の達成度を達成度表で自己管理できるよう工夫した。

**授業改善のためのアンケート結果：主なアンケート項目について集計する。**

**主な項目の集計結果を示す。（講義用、回答数：＊＊　回収率：＊＊%）**

| 授業は定時か | | 授業の理解度 | | 向上できたもの | | 質問しやすく、質問にきちんと対応したか | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 90%以上 | 79.2% | 90%以上 | 12.5% | 基礎知識 | 87.5% | とてもそう思う | 25% |
| 80-90% | 20.8% | 90～80% | 20.8% | 応用力 | 20.8% | そう思う | 54.2% |
| 70-80% | 0 | 80～70% | 37.5% | スキル | 37.5% | どちらでもない | 16.7＆ |
| 70-60% | 0 | 70%～60% | 25% | 視野の広がり | 25% | あまりそう思わない | 0 |
| 60%未満 | 0 | 60%未満 | 4.2% | 何もない | 4.2% | 全くそう思わない | 0 |

| .シラバスに沿って行われたか | | 授業は理解しやすかったか | | 授業のレベルはどうでしたか | |
|---|---|---|---|---|---|
| シラバス通り | 37.5% | 理解しやすい | 25% | 高すぎる | 16.7% |
| まあシラバス通り | 50% | まあ理解しやすい | 25% | 少し高い | 58.3% |
| なんともいえない | 12.5% | 普通 | 46% | ちょうど良い | 25% |
| 少し異なる | 0 | やや理解しにくい | 4.2% | 少し低い | 0 |
| 全く違う | 0 | 理解しにくい | 0 | 低すぎる | 0 |
| 1 回の授業の進み具合 | | 授業内容の豊富さ | | .講義と実践の割合 | |
| 速すぎる | 8.3% | 多すぎる | 4.2% | 講義をもっと多く | 21% |
| 少し速い | 50% | やや多い | 37.5% | ちょうど良い | 79.2% |
| ちょうど良い | 41.7% | ちょうど良い | 58.3% | 実践をもっと多く | 0 |
| 少し遅い | 0 | やや少ない | 0 | | |
| 遅すぎる | 0 | 少なすぎる | 0 | | |

| | |
|---|---|
| 良かった点 | 問題が多く知識が身につく。演習の豊富さ。応用力がついた。色々できて面白かった。PPTによる説明がわかりやすかった。質問にしっかり答えてくれた。自分の力量にあわせて課題を進めることができた。文法がおぼえやすい。講義と演習のバランスが良く理解しやすい。 |
| 改善して欲しい点 | 課題が多い。課題を例を解きながら教えて欲しい。難易度が高すぎる。課題を解説して欲しい。演習8ができなかった。 |

**成績分布データ：成績分布データを記述する**

前期得点の最高点は 99 点、最低点は 35 点、平均は 84.7 点であった。分布は以下の通りである。

S:１８人　　A:１３人　　B：４人　　C:２人　　F:２人

**分析：成績分布データとアンケートに対する分析を行う**

実践力を養うため、授業項目毎に、多数の課題を出し、それを達成させる方法をとった。課題は易しいものから高度なものまで準備し、課題毎に難易度を表示した。学生の力量にだんだん差がでてくるため、レベルの設定がむずかしい。アンケート結果と前期成績からみると、課題のレベル設定は少し高めではあるが、妥当な範囲と考えられる。

アンケートからすると、勉学（あるいはプログラミング？）へのモチベーションがあまり強くない学生がいると思われる。対策を考える必要がある。

**次年度についての展望：次年度に向け、どのように授業改善を行うか述べる。**

プログラムが不得手の学生もいるので、課題のいくつかについては、解説を交えながら、どのようにプログラムを作成していくかという手順も加えるようにしたい。

次年度に向けて、出来るだけ簡単な課題から、難しい課題までの間を埋めるような課題を追加していく予定である。

（出典　総務課資料「授業実施報告書」記入例）

資料３－２－②－３

# 平成２０年度国立高等専門学校教員顕彰実施要項

平成２０年９月３０日
独立行政法人国立高等専門学校機構理事長裁定

## １．顕彰要項

（１）趣旨

高等専門学校教員は主として教育者の面を持つが，一方で研究者の面を持つとともに高等専門学校の管理運営にも果たすべき役割がある。高等専門学校教員個々に対する業績評価は，これらを総合して行われるべきものであるが，現状においては，ともすれば専門の研究業績のみが重視され，学生教育や管理運営に係る業績が適正に評価されていないおそれがある。このような観点から，管理運営やＦＤ活動を含み，学生教育を中心とする分野において顕著な業績を上げている教員を顕彰するとともに，顕彰を通じて国立高等専門学校における教育の充実・向上を目指すものである。

（２）顕彰基準

国立高等専門学校における教育活動，学生生活指導，地域社会への貢献等において顕著な功績があったと認められる者とする。

（３）賞の名称

国立高等専門学校教育業績賞とし，以下の賞を設ける。

| | |
|---|---|
| 文部科学大臣賞 | １名 |
| 独立行政法人国立高等専門学校機構理事長賞 | 若干名 |
| 独立行政法人国立高等専門学校機構理事長奨励賞 | 若干名 |
| 独立行政法人国立高等専門学校機構教員顕彰選考委員会委員特別賞 | 若干名 |

（４）候補者の推薦

下記２の候補者推薦要領により，各国立高等専門学校校長が行う。

（５）顕彰対象者の決定

上記によって推薦された候補者の中から，下記３の顕彰対象者選考要領に基づいて選考委員会が顕彰教員を選考・決定し，文部科学省へ表彰の依頼をする。

（６）表彰の時期

平成２１年３月開催予定の校長会議の席上で行う。

## ２．候補者推薦要領

（１）推薦基準

①別に定める教員による自己評価（第１部），教員による相互評価（第２部），学生による教員の評価（第３部）の総合評価に基づき候補者の選考を行う。

②教員による自己評価（第１部）の点数集計を行う際に，一般教科担当教員で卒業研究，留学生を担当しない場合は，「Ａ．５卒業論文指導の状況等」及び「Ａ．６留学生の指導等」を自己採点しないので合計点（満点）が変わることとなり，不利になるため，この場合の取扱いを次のようにする。

※　当該学校における全専門学科教員のＡ．５（満点11点），Ａ．６（満点６点），合計

（満点17点）の自己採点結果の平均点（例えば，Ａ．５（７点），Ａ．６（２点），合計（９点））を，当該学校における一般教科担当教員全員の共通の点数とする。なお，合計点（満点170点）は，変更しないこととする。

③教員による自己評価，教員による相互評価及び学生による教員評価の結果がすべて良好で，かつ，文部科学大臣賞等の表彰をするにふさわしい候補者を推薦する。（必ずしも最高点の者でなくてもよい。）

（２）推薦人員

各国立高等専門学校から１名とする。ただし，過去に本顕彰により文部科学大臣賞又は機構理事長賞を受賞したことのある者は除く。

（３）提出書類

①教員顕彰申請書（様式１）

当該教員の自己評価集計表を添付

※顕彰題目及び顕彰内容は受賞後に公表されることを前提に記入すること。

②自己申請書（Ａ４版３枚，様式２）

※この申請書以外の資料の添付は禁止。なお，記載内容は受賞後に公表されることを前提に記入すること。

③校長の所見（Ａ４版１枚，任意書式）

④教員の教育業績等評価実績資料（様式３）

**３．顕彰対象者選考要領**

（１）選考委員会の構成

①独立行政法人国立高等専門学校機構教育・ＦＤ委員会委員３名及び長岡及び豊橋技術科学大学等の教授２名の計５名で構成する。

（注：委員となった校長は当該学校の教員の審査には加わらない。）

②委員会に委員長を置き，教育・ＦＤ委員会委員の中から互選する。

（２）選考方法

審査項目及び配点は下記のとおりとし，選考委員が採点を行う。

採点結果を踏まえ，提出書類を総合的に審査し，選考する。

| | |
|---|---|
| ①教員の自己申請書の内容 | ５０点 |
| ②当該教員の教育業績自己採点 | １０点 |
| ③教員の相互評価結果 | ２０点 |
| ④学生の評価結果 | ２０点 |
| 合計 | １００点 |

**４．日程**

９月下旬　候補者募集

１１月中旬　候補者締め切り

１月中旬　選考委員会開催，顕彰教員を決定

２月下旬　文部科学省へ顕彰教員への表彰を依頼

３月下旬　校長会議において表彰

- 2 -

（出典　平成20年度国立高等専門学校教員顕彰実施要項）

（分析結果とその根拠理由）

FD委員会や「授業改善のためのアンケート」，「授業実施報告書」など教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備されつつある。

**観点３－３－①：　学校において編成された教育課程を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。**

（観点に係る状況）

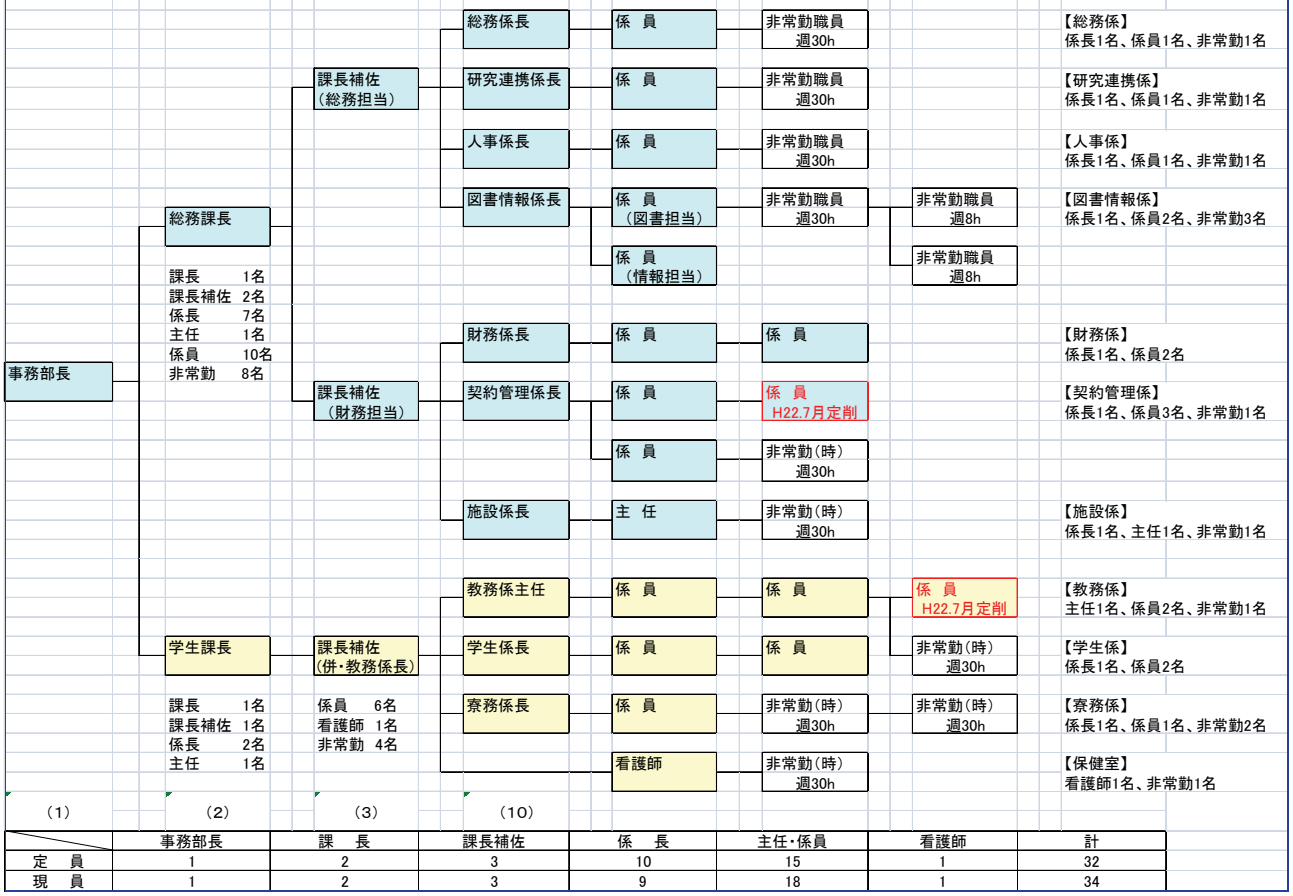
本校の事務は総務課，学生課の２課から編成されている（資料３－３－①－１）。教育課程を展開する事務職員は教務係で，主任以下４名が配置されている。また，学生の教育に必要な図書館は総務課に属し，図書情報係（６名）が管轄する。そのほか，財務係（３名），契約管理係（５名），施設係（３名）が教育に関連する予算，備品等の購入・管理，施設管理等を行っている。

その職務は,「沖縄工業高等専門学校事務組織規則」および「沖縄工業高等専門学校事務分掌規程」に規定されている（資料３－３－①－２，資料３－３－①－３）。

本校の技術職員は技術支援室に10名配置されている（資料３－３－①－４）。その職務は,「沖縄工業高等専門学校技術支援室規則」に規定されている（資料３－３－①－５）。応用加工分析系（６名），情報通信制御系（４名）の２系統に配置され，それぞれ実験・実習などの授業において教育支援活動を行っている（資料３－３－①－６）。

資料３－３－①－１

## 沖縄工業高等専門学校事務部組織図（平成22年5月1日）




| | 事務部長 | 課　長 | 課長補佐 | 係　長 | 主任・係員 | 看護師 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 定　員 | 1 | 2 | 3 | 10 | 15 | 1 | 32 |
| 現　員 | 1 | 2 | 3 | 9 | 18 | 1 | 34 |

（出典　総務課資料）

資料３－３－①－２

# 沖縄工業高等専門学校事務組織規則

平成１６年　４　月　１　日
規　　則　　第　２　号
改正　平成１８年　３　月３１日
規　　則　　第　５　号
平成１９年　３　月３０日
規　　則　　第　２　号
平成２０年　８　月２０日
規　　則　　第　１３　号

（目的）

第１条　この規則は、沖縄工業高等専門学校学則（平成16年学則第1号）第１１条の４の規定　に基づき、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）事務部の事務組織及び課の所掌　事務について定めるものとする。

（組織）

第２条　本校事務部に総務課及び学生課を置く。

２　総務課に次の７係を置く。

(1) 総務係
(2) 研究連携係
(3) 人事係
(4) 図書情報係
(5) 財務係
(6) 契約管理係
(7) 施設係

３　学生課に次の３係を置く。

(1) 教務係
(2) 学生係
(3) 寮務係

（事務部長）

第３条　事務部に事務部長を置き、事務職員をもって充てる。

２　事務部長は、校長の命を受け、事務部の事務を処理する。

（課長）

第４条　課に課長を置き、事務職員をもって充てる。

２　課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。

（課長補佐）

第５条　課に課長補佐を置くことができる。

２　課長補佐は事務職員をもって充てる。

３　課長補佐は、上司の命を受け、校務の連絡調整及び課の事務を処理する。

（専門員）

第５条の２　課に専門員を置くことができる。

２　専門員は事務職員をもって充てる。

３　専門員は、上司の命を受け、特に高度の専門的知識若しくは経験を必要とする特定の分野　の事務を直接処理するとともに、専門的見地から課長を補佐する。

（専門職員）

第５条の３　課に専門職員を置くことができる。

２　専門職員は事務職員又は技術職員をもって充てる。

３　専門職員は、上司の命を受け、特に高度の専門的知識若しくは経験を必要とする特定又は　一定範囲の分野の事務を処理する。

（係長）

第６条　係に係長を置き、事務職員又は技術職員をもって充てる。

２　係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

（主任）

第７条　係に主任を置くことができる。

２　主任は、事務職員又は技術職員をもって充てる。

３　主任は、上司の命を受け、係の事務のうち特定の事務を処理する。

（総務課の所掌事務）

第８条　総務課においては、次の事務をつかさどる。

(1) 本校の事務に関し、総括し及び連絡調整すること。
(2) 将来計画及び自己点検・評価に関すること。
(3) 儀式、その他の会議に関すること。
(4) 渉外事務に関すること。
(5) 公印の管守に関すること。
(6) 公文書類の接受、発送及び整理保管に関すること。
(7) 調査統計その他諸報告及び記録の作成に関すること。
(8) 情報公開に関すること。
(9) 学術助成及び研究協力に関すること。
(10) 共同研究、受託研究及び外部資金の受入れ及び経理に関すること。
(11) 科学研究費補助金の申請、報告及び経理に関すること。
(12) 地域連携、公開講座等に関すること。
(13) 職員の任免、分限、懲戒、服務等に関すること。
(14) 職員の給与に関すること。
(15) 職員の定員に関すること。
(16) 職員の出張、研修及び勤務評定に関すること。
(17) 職員の健康管理、福祉及び災害補償に関すること。
(18) 共済組合及び退職手当に関すること。
(19) 栄典及び表彰に関すること。
(20) 人事記録に関すること。

(21) 海外渡航に関すること。
(22) 図書館資料の受入並びに整理及び保存等に関すること。
(23) 図書館資料の閲覧、貸出等利用に関すること。
(24) 図書館資料の検索指導及び読書相談等参考奉仕に関すること。
(25) 事務用電子計算機の管理及び運用に関すること。
(26) 事務情報化の推進に関すること。
(27) 会計経理に関する法令等の適用に関すること。
(28) 予算決算に関すること。
(29) 収入支出に関すること。
(30) 債権に関すること。
(31) 旅費及び謝金に関すること。
(32) 帳簿及び証拠書類に関すること。
(33) 物品の管理等に関すること。
(34) 契約に関すること。
(35) 土地建物の借入に関すること。
(36) 職員宿舎に関すること。
(37) 施設整備の計画に関すること。
(38) 営繕工事に関すること。
(39) 土地、建物及び工作物等の維持保全に関すること。
(40) 学校環境の整備保全に関すること。
(41) 財産の貸付に関すること。
(42) その他、他の課の所掌に属さない事務に関すること。

（学生課の所掌事務）

第９条　学生課においては、次の事務をつかさどる。
(1) 入学者の選抜に関すること。
(2) 学生の修学指導に関すること。
(3) 教育課程の編成及び授業に関すること。
(4) 学生の学業成績の整理及び記録に関すること。
(5) 学生の学籍に関すること。
(6) 学生の実習に関すること。
(7) 学生の課外教育に関すること。
(8) 学生及び学生団体の指導監督に関すること。
(9) 学生に対する奨学金、授業料の減免、猶予及び経済援助に関すること。
(10) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関すること。
(11) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。
(12) 学生に対する職業相談及び就職あっせんに関すること。
(13) 学生旅客運賃割引証に関すること。
(14) 学生寮の管理運営に関すること。
(15) 学生の入退寮に関すること。
(16) 寮生の生活相談に関すること。
(17) その他教務、学生補導及び寮務の事務に関すること。

（事務の分掌）

第１０条　課の事務分掌については、別に定める。

附　則

１　この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

２　沖縄工業高等専門学校事務組織規則（平成１４年規則第２号）は、廃止する。

附　則（平１８．３．３１規則第５号）

この規則は、平成１８年４月１日から施行する。

附　則（平１９．３．３０規則第２号）

この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則（平２０．８．２０規則第１３号）

この規則は、平成２０年８月２０日から施行し、平成２０年７月１日から適用する。

（出典　沖縄工業高等専門学校事務組織規則）

資料３－３－①－３

# 沖縄工業高等専門学校事務分掌規程

平成１９年　３　月３０日
規　程　第　２　号
改正　平成２０年　８　月２０日
規　程　第１３号

沖縄工業高等専門学校事務分掌規程（平成１６年規程第１号）の全部を改正する。

（趣旨）
第１条　この規程は、沖縄工業高等専門学校事務組織規則（平成16年規則第2号。以下「規則」　という。）第１０条の規定に基づき、各課に置く係等の事務分掌を次のとおり定める。

（総務課）
第２条　総務課に、その課の事務を分掌させるため、課長、課長補佐（総務担当）、課長補佐（財務担当）及び規則第２条第２項に定める７係を置く。
２　課長においては、次の事務をつかさどる。
(1) 総務事務（総務、財務）の総括に関すること。
(2) 将来計画に関すること。
３　課長補佐（総務担当）については、次の事務をつかさどる。
(1) 校務事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。
(2) 総務事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。
(3) 自己点検・評価及び外部評価に関すること。
(4) ＪＡＢＥＥ受審に関すること。
(5) 事務改善及び事務情報化の推進に関すること。
(6) その他課の所掌事務のうち、特に上司の命を受けた事項に関すること。
４　課長補佐（財務担当）については、次の事務をつかさどる。
(1) 財務事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。
(2) 予算及び決算に関すること。
(3) 資産及び物品の管理に関すること。
(4) 施設計画に関すること。
(5) その他課の所掌事務のうち、特に上司の命を受けた事項に関すること。
５　総務係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 儀式、その他諸行事に関すること。
(2) 会議等に関すること。
(3) 渉外事務に関すること。
(4) 公印の管守（財務係の所掌に属するものを除く。）に関すること。
(5) 公文書類の接受、発送及び整理保管に関すること。
(6) 学則その他諸規則等の制定及び改廃に関すること。
(7) 広報及び情報公開に関すること。

(8) 事務職員及び技術職員の宿日直に関すること。
(9) 学校要覧及び職員録等の発行に関すること。
(10) 共用車の維持及び運用に関すること。
(11) 調査統計その他諸報告及び記録の作成に関すること。
(12) その他、他の課及び総務課事務で他の係の所掌に属さない事務に関すること。

6　研究連携係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 共同研究、受託研究及び外部資金に関すること。
(2) 科学研究費補助金の申請及び報告に関すること。
(3) 学術研究助成金の申請に関すること。
(4) 産学官及び地域との連携事業の推進及び実施に関すること。
(5) 知的財産権に関すること。
(6) 学術団体等との連絡・調整に関すること。
(7) 地域共同テクノセンターの事務に関すること。
(8) 公開講座及び学校開放事業等の企画・立案に関すること。
(9) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
(10) その他研究協力に関すること。

7　人事係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 職員の任免、分限及び懲戒に関すること。
(2) 職員の服務、勤務時間及び休暇に関すること。
(3) 職員の給与に関すること。
(4) 職員の定員に関すること。
(5) 職員の出張及び研修に関すること。
(6) 職員の勤務評定に関すること。
(7) 職員の能率及び健康管理に関すること。
(8) 職員の福祉及び災害補償に関すること。
(9) 共済組合及び退職手当に関すること。
(10) 栄典及び表彰に関すること。
(11) 人事記録に関すること。
(12) 海外渡航に関すること。
(13) 職員の身分証明等に関すること。
(14) 職員団体に関すること。
(15) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
(16) その他人事に関すること。

8　図書情報係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 図書館資料（以下「図書」という。）の選定、受入及び管理に関すること。
(2) 図書の目録、分類及び記録に関すること。
(3) 図書の整備及び保全に関すること。
(4) 図書の閲覧、貸出及び保存に関すること。
(5) 情報検索案内及び図書の利用・検索法等の相談・指導に関すること。
(6) 図書の複写及び相互貸借等、他図書館との相互利用に関すること。
(7) 寄贈図書に関すること。
(8) 紀要の編集及び配布に関すること。
(9) 事務用電子計算機の管理及び運用に関すること。

(10) 事務用電子計算機による事務処理に必要なシステムの開発・支援に関すること。
(11) 事務用電子計算機に係る知識及び技術の普及に関すること。
(12) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
(10) その他図書館に関すること。
9　財務係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 財務経理に関する法令等の適用に関すること。
(2) 財務会計の諸規程に関すること
(3) 財務に属する公印の管守に関すること。
(4) 予算に関すること。
(5) 財務諸表及び決算報告書の作成、その他決算に関すること。
(6) 収入及び支出に関すること。
(7) 債権の管理に関すること。
(8) 教職員等の給与の支払いに関すること。
(9) 退職手当の支払いに関すること。
(10) 現金、小切手、預貯金通帳及び有価証券等の保管に関すること。
(11) 科学研究費補助金等外部資金の経理に関すること。
(12) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
(13) その他財務事務で、他の係の所掌に属さない事務に関すること。
１０　施設係
(1) 施設整備の計画に関すること。
(2) 営繕工事の企画及び設計に関すること。
(3) 営繕工事等の契約及び施行に関すること。
(4) 学校環境の整備保全に関すること。
(5) 土地建物の借入に関すること。
(6) 職員宿舎の入退去に関すること。
(7) 不動産の管理に関すること。
(8) 電気、ガス、水道、電話、空調機等附帯設備の管理に関すること。
(9) 建物及び附帯設備等の保守契約に関すること。
(10) 不動産の貸付に関すること。
(11) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
(12) その他施設に関すること。
１１　契約管理係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 物品の管理に関すること。
(2) 物品の貸付に関すること。
(3) 物品の購入、役務及び売払いの契約に関すること。
(4) 購入物品及び役務の検収に関すること。
(5) 物品の寄付採納（図書館資料を除く。）に関すること。
(6) 旅費の経理に関すること。
(7) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
(8) その他契約管理に関すること。

（学生課）
第３条　学生課に、その課の事務を分掌させるため、課長、課長補佐及び規則第２条第３項に　定める３係を置く。

2　課長においては、次の事務をつかさどる。
(1) 学生事務の総括に関すること。
(2) 教育課程、入試改善の将来構想に関すること。
3　課長補佐については、次の事務をつかさどる。
(1) 学生事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。
(2) 入学者選抜に関する企画、立案及び実施に関すること。
(3) 教育課程の編成に関すること。
(4) 就職及び進路指導に関すること。
(5) その他課の所掌事務のうち、特に上司の命を受けた事項に関すること。
4　教務係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 学生の募集及び入学者の選抜に関すること。
(2) 学生の修学指導に関すること。
(3) 教育課程に関すること。
(4) 授業及び試験に関すること。
(5) 学生の学業成績及び学籍簿の整理・保管に関すること。
(6) 学生の入学、卒業、休学、除籍、転学、退学等に関すること。
(7) 学生の身分、学業成績及び卒業等の諸証明に関すること。
(8) 学生便覧の作成及び配布に関すること。
(9) 教科書及び教材に関すること。
(10) 入学料及び授業料の債権の発生通知に関すること。
(11) 各学科及び教室事務に関すること。
(12) 学生の出欠簿に関すること。
(13) 学生の学外実習に関すること。
(14) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
(15) その他学生課事務で、他の係の所掌に属さない事務に関すること。
5　学生係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 学生の課外教育に関すること。
(2) 学生の表彰及び懲戒に関すること。
(3) 学生及び学生団体の指導監督に関すること。
(4) 学生の入学料及び授業料の減免、徴収猶予等に関すること。
(5) 奨学生に関すること。
(6) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関すること。
(7) 学生に対する職業相談及び就職あっせんに関すること。
(8) 学生のアルバイト及び下宿あっせんに関すること。
(9) 学生の旅客運賃割引証及び通学証明書に関すること。
(10) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
(11) その他学生の厚生補導に関すること。
6　寮務係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 学生寮の管理運営に関すること。
(2) 学生の入退寮に関すること。
(3) 寮生の生活相談に関すること。
(4) 寮生の異動に係る諸証明に関すること。
(5) 寮生の厚生事業に関すること。

(6) 寮生の保健衛生及び給食・栄養管理に関すること。
(7) 寄宿料の債権発生通知に関すること。
(8) 寄宿料の免除に関すること。
(9) 学生寮の宿日直（他の課の所掌に属するものを除く。）に関すること。
(10) 学生の生活相談に関すること。
(11) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。
(12) 独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度及び傷害保険に関すること。
(13) 外国人留学生に関すること。
(14) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
(15) その他学生の生活相談及び学生寮に関すること。

附　則

この規程は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則（平２０．８．２０規程第１３号）

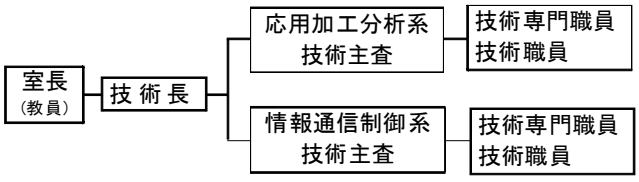
この規程は、平成２０年８月２０日から施行し、平成２０年７月１日から適用する。

（出典　沖縄工業高等専門学校事務分掌規程）

資料３－３－①－４

## 技術支援室組織図

応用加工分析系　6名
情報通信制御系　4名




（出典　技術支援室資料）

資料３－３－①－５

# 沖縄工業高等専門学校技術支援室規則

平成２０年　３月２５日
規　　則　第　６　号
改正　平成２１年１１月１８日
規　　則　第　１９　号

（趣旨）

第１条　この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（規則第４号）第１２条第９項及び沖縄工業高等専門学校学則（平成１６年学則第１号）第１１条の２第２項の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校技術支援室（以下「技術支援室」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第２条　技術支援室は、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）における技術に関する教育研究活動等を支援し、教育研究等に関する技術的専門業務を組織的かつ効率的・効果的に処理するとともに、技術職員（施設系技術職員を除く。以下同じ。）の能力及び資質の向上を図り、もって教育研究支援体制の充実に資することを目的とする。

（組織）

第３条　技術支援室に、次の各号に掲げる職員を置く。

(1) 室長
(2) 技術長
(3) 技術主査
(4) 技術専門職員及び技術職員

２ 前項に定める職員のほか、技術専門員を置くことができる。

（室長）

第４条　室長は、校長の命を受け、技術支援室の管理運営に関する業務を統括する。

２ 室長の任命に関し必要な事項は、別に定める。

（技術長）

第４条の２　技術長は、上司の命を受け、室長の職務を補佐し、技術支援室の業務及び運営を総括する。

２ 技術長は本校の技術専門員又は技術専門職員の中から実務経験、業務実績等に基づき、校長が任命する。

（技術主査）

第４条の３ 技術主査は、上司の命を受け、技術長の職務を補佐し、第５条に定める当該分野の業務及び運営を総括する。

２ 技術主査は、各分野相互の連絡調整に当たるとともに、当該分野所属の技術職員に対して技術的な指導及び育成に当たる。

３ 技術主査は技術専門職員をもって充て、本校の技術専門職員の中から技術長が推薦し、校長が任命する。
４ 技術主査の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（技術専門職員及び技術職員）
第４条の４ 技術専門職員及び技術職員は、第５条に定める当該分野に係る業務を行う。
２ 技術専門職員は、技術職員のうち高度の専門的な技術を有することが客観的に明らかなものについて選考する。
３ 技術専門職員の選考に関し必要な事項は、別に定める。

（業務）
第５条　技術支援室に、応用加工分析系及び情報通信制御系の２つの技術分野を置き、次に掲げる業務を分担して行う。
(1) 教育研究等に関する技術支援の年間業務計画の策定に関すること。
(2) 学生の実験・実習及び卒業研究・特別研究等の技術的指導に関すること。
(3) 教育教材に関する技術開発及び技術支援に関すること。
(4) 教員の教育研究活動への技術支援に関すること。
(5) 学生の課外活動の技術的支援に関すること。
(6) 校内共同利用施設の維持管理に関すること。
(7) 実験室等の設備・備品等の維持管理の支援に関すること。
(8) 技術の継承及び保存、技術向上、技術教育及び技術研究に関すること。
(9) 産学官及び地域との連携、公開講座、体験入学等に関する技術支援及び技術協力に関すること。
(10) その他本校の学校業務及び技術業務に関すること。

（運営委員会）
第６条　技術支援室に、技術支援室の運営に関する事項を審議するため、沖縄工業高等専門学校技術支援室運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。
２ 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

（業務報告）
第７条　室長は、技術支援室の活動実績、技術の向上、技術の継承の状況、及び技術職員の活動結果を、毎年度末に校長に報告するものとする。

（研修の実施）
第８条　技術専門職員及び技術職員に、その職務と責任の遂行に必要な知識技術等を習得させ、その他その遂行に必要な技術職員の能力、資質等を向上させるため、研修を実施するものとする。

（事務）
第９条　技術支援室に関する事務は、事務部において処理する。

（雑則）
第１０条　この規則に定めるもののほか、技術支援室に関し必要な事項は、別に定める。

附　則
１　この規則は、平成２０年４月１日から施行する。
２　沖縄工業高等専門学校技術支援センター規則（平成１８年規則第４号）は廃止する。

附　則（平２１．１１．１８規則第１９号）
この規則は、平成２１年１１月１８日から施行し、平成２１年４月１日から適用する。

（出典　沖縄工業高等専門学校技術支援室規則）

資料３－３－①－６

2010年時間割（前期）

| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 専攻科 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 屋良 | 具志 | 宮藤 | 大嶺 | 藏屋 | 渡邊 | 釣 | 新田 | 佐竹 | 比嘉修 |
| 月 | 1 | | | | | 生物（2BR） | | メディア工学実験Ⅲ（3MI） | | | |
| | 2 | | | | | | | ネットワーキングⅠ（4MI） | | 情報通信工学実験Ⅱ（3IC） | 情報通信工学実験Ⅱ（3IC） |
| | 3 | | CAD（3MS） | | | | 資源生物機能形態学（1BR専攻） | 制御とロボット（5MI） | | 高専セミナー | 高専セミナー |
| | 4 | | | | | | 生物工学実験（4BR） | | | （1IC,1MI） | （1IC） |
| 火 | 1 | 材料加工システムI 3/15（3MS） | CAM（4MS） 3/15 | | | | | メディア工学実験Ⅳ（3MI） | | 計算機工学Ⅱ 6/15(2IC) | |
| | 2 | | | | | 化学実験（4MI/IC） | | プログラミングⅡ（2MI） | | | |
| | 3 | 材料加工システムI | 材料加工システムI | 材料加工システムI | 材料加工システムI | | | | | | |
| | 4 | （1MS） | （1MS） | （1MS） | （1MS） | | | | | | |
| 水 | 1 | | | | | 生理学実験（4BR） | | コンピュータグラフィックスⅠ（4MI） | | | |
| | 2 | | | | | | | プログラミングⅡ（2MI） | | | |
| | 3 | 卒業研究 | 卒業研究 | 卒業研究 | 卒業研究 | 卒業研究 | 卒業研究 | | | 卒業研究 | 卒業研究 |
| | 4 | （5MS） | （5MS） | （5MS） | （5MS） | （5BR） | （5BR） | | | （5IC） | （5IC） |
| 木 | 1 | 機械システム実験I 8/15（4MS） | | | | 生物（2BR） | | | | | |
| | 2 | | | | | 環境分析学（4BR） | | | | | |
| | 3 | 卒業研究 | 卒業研究 | 卒業研究 | 卒業研究 | 卒業研究 | 卒業研究 | | | 卒業研究 | 卒業研究 |
| | 4 | （5MS） | （5MS） | （5MS） | （5MS） | （5BR） | （5BR） | | | （5IC） | （5IC） |
| 金 | 1 | | | | | | 遺伝子工学実験（4BR） | | | 情報通信工学実験Ⅲ（4IC） | 情報通信工学実験Ⅲ（4IC） |
| | 2 | | | | | | | メディア工学実験Ⅲ（3MI） | | 情報通信工学実験I（2IC） | 情報通信工学実験I（2IC） |
| | 3 | 材料加工システムII | 材料加工システムII | 材料加工システムII | 材料加工システムII | 創造演習（2BR） | 生化学実験（藏屋・渡邊で分担） | プログラミングⅠ（1MI） | | 創造演習（2IC） | 創造演習（2IC） |
| | 4 | （2MS） | （2MS） | （2MS） | （2MS） | 生化学実験（3BR） | | | | | |

2010年時間割（後期）

| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 専攻科 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 屋良 | 具志 | 宮藤 | 大嶺 | 藏屋 | 渡邊 | 釣 | 新田 | 佐竹 | 比嘉修 |
| 月 | 1 | | | | | | 遺伝子工学実験（4BR） | | | | |
| | 2 | | | | | 情報通信工学実験Ⅱ（3IC） | | | | | |
| | 3 | | CAD（3MS） | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | 生物（2BR） | | | | | |
| 火 | 1 | | CAM（4MS） | 材料加工システムIII | | | | | | | |
| | 2 | | | （3MS） | | | | | | | |
| | 3 | 材料加工システムI | 材料加工システムI | 材料加工システムI | 材料加工システムI | | | | | | |
| | 4 | （1MS） | （1MS） | （1MS） | （1MS） | | | | | | |
| 水 | 1 | | | | | 生物（2BR） | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | |
| | 3 | 卒業研究 | 卒業研究 | 卒業研究 | 卒業研究 | 卒業研究 | 卒業研究 | | | | |
| | 4 | （5MS） | （5MS） | （5MS） | （5MS） | （5BR） | （5BR） | | | | |
| 木 | 1 | 機械システム実験I（7／15） | | | | 生物（2BR） | 生化学実験（3BR） | | | | |
| | 2 | （4MS） | | | | | （藏屋・渡邊で分担） | | | | |
| | 3 | 卒業研究 | 卒業研究 | 卒業研究 | 卒業研究 | 卒業研究 | 卒業研究 | | | | |
| | 4 | （5MS） | （5MS） | （5MS） | （5MS） | （5BR） | （5BR） | | | | |
| 金 | 1 | | 総合構造設計（4MS） | | | | 環境学実験（3BR） | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | |
| | 3 | 材料加工システムII | 材料加工システムII | 材料加工システムII | 材料加工システムII | | 生物工学実験（4BR） | | | | |
| | 4 | （2MS） | （2MS） | （2MS） | （2MS） | 化学・化学実験（4MI/IC） | | | | | |

（出典　技術支援室資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の事務は総務課，学生課の２課から編成されている。その職務は，「沖縄工業高等専門学校事務組織規則」および「沖縄工業高等専門学校事務分掌規程」に規定されている。

本校の技術職員は技術支援室に10名配置されている。その職務は，「沖縄工業高等専門学校技術支援室規則」に規定されている。

以上のことから，学校において編成された教育課程を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されている。

### （２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

修士または博士の学位を取得した教員および企業経験者を各学科にバランスよく配置し,「沖縄高専の目的」である「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成する」ための教育体制が作られている。

新たな教員の採用については，高等専門学校設置基準に則した「沖縄工業高等専門学校教員選考規則」において規定されており，選考委員会で審議されている。

教育活動の活性化として「国際会議発表支援制度」があり，機能している。

（改善を要する点）

教員組織の活動をより活発化するために,「均衡ある年齢構成および性別構成への配慮」,「学位取得の支援制度の設立」について改善が必要である。

教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制づくりが必要である。

非常勤講師の採用に関しては，規則は制定されていないため，規則の制定の必要がある。

### （３）基準３の自己評価の概要

一般科目担当専任教員，専門科目担当専任教員は，高等専門学校設置基準を満たし，本校の教育の目的に沿った適切な配置されている。また，各教員の専門分野を考慮し，学位取得者や企業経験者を各学科に配置するなど教育の目的を達成するための体制が整えられている。専攻科課程も同様である。

教員の年齢構成は，40代に偏る傾向が見られ，均衡ある構成に改善の余地がある。外国人教員の確保については，一般科目（語学系）の教員ばかりでなく，専門科目においても採用しており，幅広く受け入れている。

教員組織の活動をより活発化するための適切な措置は,「国際会議発表支援制度」があり，機能を果たしているが，学位取得に対する支援については，制度がなくその制定が望まれる。

教員の採用や昇格等については,「沖縄工業高等専門学校教員選考規則」で明確かつ適切に定められており，適切に運用がなされている。

教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制については,FD委員会や「授業改善のためのアンケート」,「授業実施報告書」などが整備されつつある。

教育課程を遂行するために必要な教育支援者として事務職員，技術職員が適切に配置されている。

## 基準４　学生の受入

### （１）観点ごとの分析

**観点４－１－①：　教育の目的に沿って，求める学生像や入学者選抜（例えば，準学士課程入学者選抜，編入学生選抜，留学生選抜，専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載された入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ，学校の教職員に周知されているか。また，将来の学生を含め社会に公表されているか。**

（観点に係る状況）

本校の入学者受入方針は明確に定められ，本科入学者選抜（資料４－１－①－１），編入学生選抜（資料４－１－①－２），専攻科入学者選抜（資料４－１－①－３）の各募集要項に記載されている。これらは，対象とする受験生にわかりやすい表現で記載し，県内の中学校162校，県内の高等学校67校，他の国立高専，高専機構，沖縄県教育庁，県内教育事務所，県内教育委員会，鹿児島県教育庁，文部科学省に配布している。また，本校ウェブページ（資料４－１－①－４）にも掲載しており，入試説明会や中学校訪問で説明に利用するスライド（資料４－１－①－５）にも示して説明を行っている。

この入学者受入方針は,本校の理念および本科教育目標と専攻科教育目標に沿って制定された。その後，メディア情報工学科のアドミッションポリシーが中学生には理解が困難だという意見があり，それに対応する形で改定（資料４－１－①－６）を行い，それらも含めて教職員に周知を徹底するために，教員には各学科での学科会議（資料４－１－①－７），事務職員および技術職員に回覧資料（資料４－１－①－８，資料４－１－①－９），非常勤講師にも回覧資料（資料４－１－①－10）として周知されている。

資料４－１－①－１

※ここに記載した資料は平成 21 年度に作成したものであり，作成当時の目的目標が記されている。現在作成中の学生募集要項は受け入れ方針が改定されたものとなる。

平　成　22　年　度

# 沖縄工業高等専門学校学生募集要項

## Ⅰ　沖縄工業高等専門学校における入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）

沖縄工業高等専門学校は，本科５年間にわたる一貫教育をとおして，「以下に掲げる八つの力と高い専門知識を身に付けた，創造性豊かな実践的技術者の育成」を教育理念とし，これに加えて，豊かな人間性，倫理観，国際性をそなえ，社会に貢献できる人材を育成することを目的としています。

①地球的思考力：地球的視点及び共生の視点に立ってものごとを理解し，思考できる力
②協調性・理解力：他者及び他文化を尊重し，協調してものごとに取り組むことができる力
③表現力：ものごとや自己の考えを表現できる力
④実践力：社会や組織における自己の位置と責任を自覚し，自ら必要な行動ができる力
⑤自己学習力：技術に対する興味や関心を持続しつつ，自らを啓発できる力
⑥本質理解力：科学技術の原理や本質を理解できる力
⑦基礎知識・理解力：技術者として必要な基盤的知識と技術力
⑧創造性：価値あるものを新たに作り出す能力

このため，沖縄高専は，次のような人に入学してほしいと考えています。

Ⅰ．全学科共通の入学者受け入れ方針
・理数系分野に興味があり，それらの科目に基礎学力を有している人
・責任感や忍耐力があり，多くの人とコミュニケーションが取れる人
・規則正しい生活と，自発的勉強のできる人

Ⅱ．各学科独自の入学者受け入れ方針

１．機械システム工学科
・自動車，飛行機，ロボットなどの機械に興味のある人
・自ら考え，自ら工夫し新しいものを創造する意欲のある人
・ものづくりを通して社会に貢献したい人

２．情報通信システム工学科
・コンピュータ，インターネットなどに興味を持っている人
・携帯電話，ディジタルテレビなどの新しい電気製品や電子工作に興味のある人
・情報や通信の技術を身につけて，社会に貢献したい人

３．メディア情報工学科
・メディア情報工学科の教育内容を理解している人
・メディア情報工学科に入学したい強い意志を持っている人
・メディア情報工学科の以下の３つの分野に興味を持っている人
＜コンピュータ分野，ネットワーク分野，コンテンツ分野＞

４．生物資源工学科
・生物化学，環境学，微生物学，食品化学に興味があり，探究心の強い人
・自ら学ぶ意欲を持ち，何にでもチャレンジしようという意志のある人
・バイオテクノロジー関連の技術者や研究者として社会に貢献したい人

（出典　平成22年度学生募集要項　P. １）

資料４－１－①－２

※ここに記載した資料は平成 21 年度に作成したものであり，作成当時の目的目標が記されている。現在作成中の編入学生募集要項は受け入れ方針が改定されたものとなる。

平成２２年度

# 編入学生募集要項

## 入　学　案　内

（出願書類添付）

| 出　願　期　間 | 試　験　日 | 合　格　発　表 |
|---|---|---|
| 平成21年7月27日(月)～7月31日(金) | 平成21年8月28日(金) | 平成21年9月3日(木) |

国　立

沖 縄 工 業 高 等 専 門 学 校

〒905-2192　沖縄県名護市字辺野古９０５番地
TEL　0980-55-4028（学生課教務係）
FAX　0980-55-4012
E-mail　gkyoumu@okinawa-ct.ac.jp
ホームページアドレス　http://www.okinawa-ct.ac.jp

受験生の皆さんへ

**沖縄工業高等専門学校における入学者受入方針（アドミッションポリシー）**

沖縄工業高等専門学校は、本科５年間にわたる一貫教育をとおして、「以下に掲げる八つの力と高い専門知識を身に付けた、創造性豊かな実践的技術者の育成」を教育理念とし、これに加えて、豊かな人間性、倫理観、国際性をそなえ、社会に貢献できる人材を育成することを目的としています。

①地球的思考力：地球的視点及び共生の視点に立ってものごとを理解し、思考できる力
②協調性・理解力：他者及び他文化を尊重し、協調してものごとに取り組むことができる力
③表現力：ものごとや自己の考えを表現できる力
④実践力：社会や組織における自己の位置と責任を自覚し、自ら必要な行動ができる力
⑤自己学習力：技術に対する興味や関心を持続しつつ、自らを啓発できる力
⑥本質理解力：科学技術の原理や本質を理解できる力
⑦基礎知識・理解力：技術者として必要な基盤的知識と技術力
⑧創造性：価値あるものを新たに作り出す能力

このため、沖縄高専は、次のような人に入学してほしいと考えています。

Ⅰ．全学科共通の入学者受け入れ方針
・理数系分野に興味があり、それらの科目に基礎学力を有している人
・責任感や忍耐力があり、多くの人とコミュニケーションが取れる人
・規則正しい生活と、自発的勉強のできる人

Ⅱ．各学科独自の入学者受け入れ方針
１．機械システム工学科
・自動車、飛行機、ロボットなどの機械に興味のある人
・自ら考え、自ら工夫し新しいものを創造する意欲のある人
・ものづくりを通して社会に貢献したい人

２．情報通信システム工学科
・コンピュータ、インターネットなどに興味を持っている人
・携帯電話、ディジタルテレビなどの新しい電気製品や電子工作に興味のある人
・情報や通信の技術を身につけて、社会に貢献したい人

３．メディア情報工学科
・メディア情報工学科の教育内容を理解している人
・メディア情報工学科に入学したい強い意思を持っている人
・メディア情報工学科の以下の３つの分野に興味を持っている人
　コンピュータ分野、ネットワーク分野、コンテンツ分野

４．生物資源工学科
・生物化学、環境学、微生物学、食品化学に興味があり、探究心の強い人
・自ら学ぶ意欲を持ち、何にでもチャレンジしようという意思のある人
・バイオテクノロジー関連の技術者や研究者として社会に貢献したい人

－1－

（出典　平成22年度編入学募集要項　表紙，P.1）

資料４－１－①－３

# 平成23年度　専攻科学生募集要項

## Ⅰ　入学者受入方針

専攻科では、次のような人に入学してほしいと考えています。
・技術者として地域社会、国際社会の発展に寄与したいと考えている人
・専門分野に関連する基礎知識、基礎技術を身につけている人
・基礎的な、コミュニケーション能力、倫理観を身につけている人
・新技術、新産業の創出に高い意欲を持つ人
・複合的視野をもち実践的応用能力を身につけることに意欲を持つ人

（出典　平成23年度専攻科募集要項　P．１　抜粋）

資料４－１－①－４

受験生の方へ　在学生・保護者の方へ　企業の方へ　地域の方へ

国立 沖縄高専
Okinawa National College of Technology

アクセスマップ　お問い合せ

独立行政法人　国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校

トップページ > 学校紹介(About ONCT) > 入学者受け入れ方針(アドミッションポリシー)

Contents Menu | コンテンツメニュー

- トップページ
- 学校紹介(About ONCT)
- 学科紹介(Departments)
- 教育・学生生活(College Life)
- 進学・就職状況(Employment Situation)
- 入試情報(Entrance Examination)
- 沖縄高専の活動(Academic Activities)
- 教員紹介(Faculty)
- 教職員公募(Job Listings)
- 企業の方へ(入札情報他)
- アクセスマップ(Visitor Information)
- リンク集
- お問い合わせ先一覧

Search | サイト内検索

検索

Calendar | カレンダー

カレンダー

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 27 | 28 | 29 | 30 | | | |

# 入学者受け入れ方針(アドミッションポリシー)

## 全学科共通の入学者受け入れ方針

- 理数系分野に興味があり、それらの科目に基礎学力を有している人
- 責任感や忍耐力があり、多くの人とコミュニケーションが取れる人
- 規則正しい生活と、自発的勉強のできる人

## 各学科独自の入学者受け入れ方針

1. 機械システム工学科
   - 自動車、飛行機、ロボットなどの機械に興味のある人
   - 自ら考え、自ら工夫し新しいものを創造する意欲のある人
   - ものづくりを通して社会に貢献したい人
2. 情報通信システム工学科
   - コンピュータ、インターネットなどに興味を持っている人
   - 携帯電話、ディジタルテレビなどの新しい電気製品や電子工作に興味のある人
   - 情報や通信を身につけて、社会に貢献したい人
3. メディア情報工学科
   - コンピュータ、インターネットなどに興味を持っている人
   - コンピュータを使って新しいものをつくり出す意欲のある人
   - コンピュータを使った技術によって社会に貢献したい人
4. 生物資源工学科
   - 生物化学、環境学、微生物学、食品化学に興味があり、探究心の強い人
   - 自ら学ぶ意欲を持ち、何にでもチャレンジしようという意思のある人
   - バイオテクノロジー関連の技術者や研究者として社会に貢献したい人

K-tai Campus

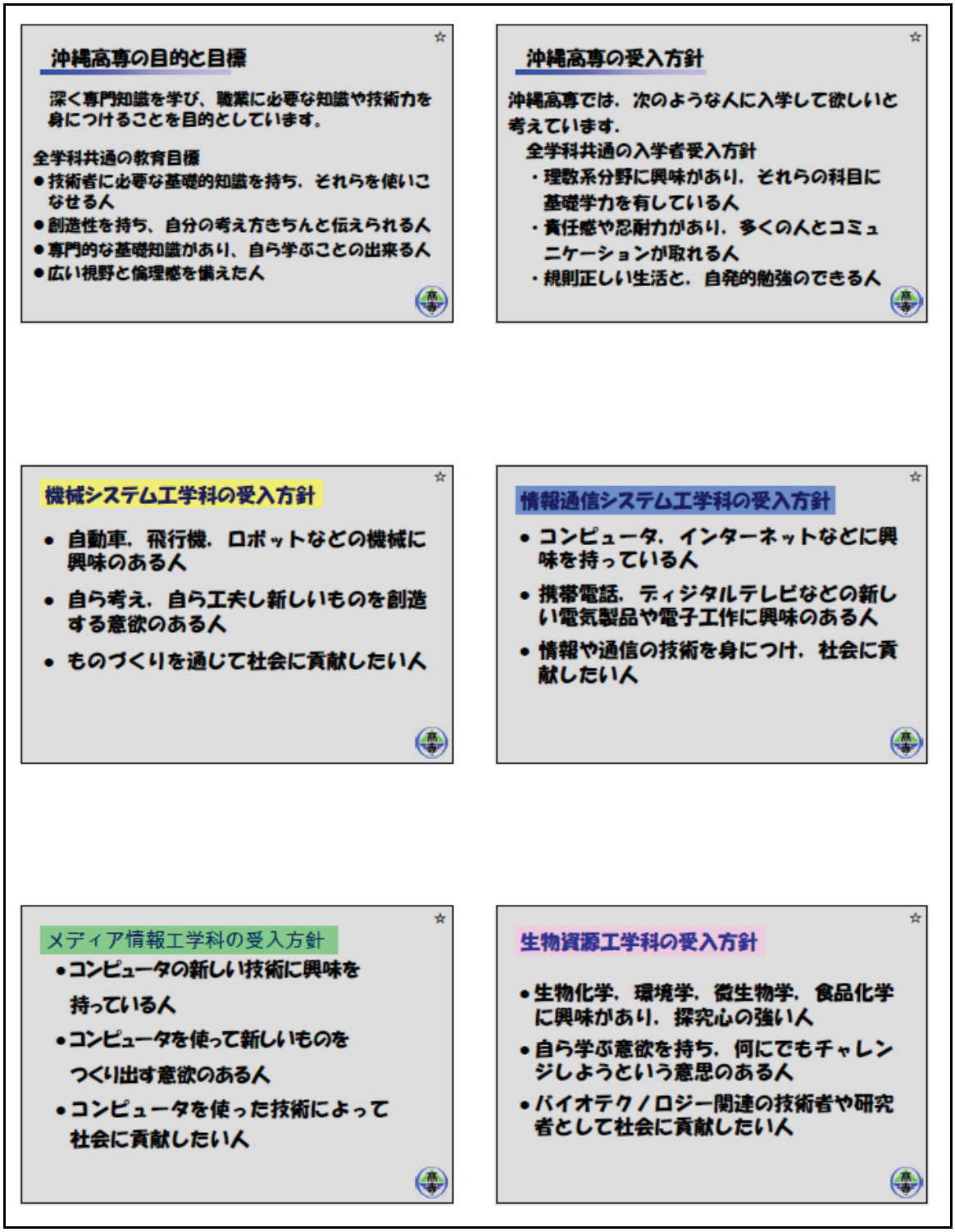
授業変更・休講情報

## 専攻科の入学者受け入れ方針

- 技術者として地域社会、国際社会の発展に寄与したいと考えている人
- 専門分野に関連する基礎知識、基礎技術を身につけている人
- 基礎的な、コミュニケーション能力、倫理観を身につけている人
- 新技術、新産業の創出に高い意欲を持つ人
- 複合的視野をもち実践的応用能力を身につけることに意欲を持つ人

（出典　本校ウェブページ　抜粋）

資料４－１－①－５




（出典　学校説明会スライド　P.16，17，19，21，23，26）

資料４－１－①－６

## Ⅰ　沖縄工業高等専門学校の入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

沖縄工業高等専門学校は、本科５年間にわたる一貫教育をとおして、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし、以下の４つの教育目標を掲げています。

(1)　技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する
(2)　創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する
(3)　専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する
(4)　広い視野と倫理観を備えた人材を育成する

このため、沖縄高専は、次のような人に入学してほしいと考えています。

１．全学科共通の入学者受け入れ方針

・理数系分野に興味があり、それらの科目に基礎学力を有している人
・責任感や忍耐力があり、多くの人とコミュニケーションが取れる人
・規則正しい生活と、自発的勉強のできる人

２．各学科独自の入学者受け入れ方針

機械システム工学科

・自動車、飛行機、ロボットなどの機械に興味のある人
・自ら考え、自ら工夫し新しいものを創造する意欲のある人
・ものづくりを通して社会に貢献したい人

情報通信システム工学科

・コンピュータ、インターネットなどに興味を持っている人
・携帯電話、ディジタルテレビなどの新しい電気製品や電子工作に興味のある人
・情報や通信の技術を身につけて、社会に貢献したい人

メディア情報工学科

・コンピュータの新しい技術に興味を持っている人
・コンピュータを使って新しいものをつくり出す意欲のある人
・コンピュータを使った技術によって社会に貢献したい人

生物資源工学科

・生物化学、環境学、微生物学、食品化学に興味があり、探究心の強い人
・自ら学ぶ意欲を持ち、何にでもチャレンジしようという意志のある人
・バイオテクノロジー関連の技術者や研究者として社会に貢献したい人

（出典　平成22年度第３回入試委員会資料　抜粋）

資料４－１－①－７

学科会議議事録(案)20100525

差出人：兼城　千波(情報通信システム工学科) 2010/5/25(火) 19:41
宛先　：高木　茂, 知念　幸勇, 石田　修己, 野口　健太郎, 神里　志穂子, 兼城　千波
(11人)

5月25日の学科会議議事録（案）です。
加筆・修正などありましたら、お願いいたします。

--------（ここから）-------

日時：2010年5月25日(火) 17：00-18：30
場所：４F学科会議室
出席者：石田、高木、知念、比嘉（勝）、兼城、野口、神里、金城、佐竹（敬称略）
欠席者：杉本、山田
議事録担当：兼城

1．アドミッションポリシーの確認（野口先生）資料あり
【連絡事項】
・本科・専攻科のアドミッションポリシーを確認しておいてください。

学科会議議事録(案)20100615

差出人：兼城　千波(情報通信システム工学科) 2010/6/15(火) 19:50
宛先　：高木　茂, 知念　幸勇, 石田　修己, 野口　健太郎, 神里　志穂子, 兼城　千波,
(11人)

6月15日の学科会議議事録（案）です。
加筆・修正などありましたら、お願いいたします。

--------（ここから）-------
日時：2010年6月15日(火) 17：00-18：45
場所：４F学科会議室
出席者：石田、高木、知念、杉本、比嘉（勝）、兼城、野口、山田、金城、佐竹（敬称略）
欠席者：神里
議事録担当：兼城

1．教務委員会報告（野口先生）資料あり
【連絡事項】

2．入試委員会報告（山田先生）資料あり
【報告・検討事項】
・メディア情報工学科、アドミッションポリシー変更あり。

（出典　情報通信システム工学科会議議事録　抜粋）

資料４－１－①－８

職員各位

沖縄工業高等専門学校
事務部長　川　満　信　男

本校の理念・目的・教育目標・アドミッションポリシーについて

職員の皆様におかれては本校の教育方針を御理解いただいた上で、業務を行っておられるとは思いますが、今一度、別紙の本校の理念・目的・教育目標・アドミッションポリシーを御一読頂き、御理解の上、業務に当たって頂きますようよろしくお願いします。

（出典　事務部資料　抜粋）

資料４－１－①－９

技術支援室職員各位

技術支援室長　松栄　準治

本校の理念・目的・教育目標・アドミッションポリシーについて

技術支援室職員の皆様におかれては本校の教育方針を御理解いただいた上で、業務を行っておられるとは思いますが、今一度、別紙の本校の理念・目的・教育目標・アドミッションポリシーを御一読頂き、御理解の上、業務に当たって頂きますようよろしくお願いします。

（出典　技術支援室資料　抜粋）

資料４－１－①－10

非常勤講師各位

沖縄工業高等専門学校
教務主事　平山　けい

本校の理念・目的・教育目標・アドミッションポリシー
に対する御理解のお願い

平素から本校の教育に対する御支援と御理解を頂き、ありがとうございます。

本校は開校時から教育理念を掲げ、その理念を実現するための教育目的や教育目標を定め、それに従った教育活動をしております。　この教育目的や目標は本科と専攻科ではそれぞれ別のものを定めております。

さらに、この教育目的や目標に従った教育をするために、アドミッションポリシーを定め、それに従った入学者選抜を実施しております。

貴殿におかれては本校の教育方針を御理解いただいた上で、学生に対する教育を行っておられるとは存じますが、今一度、別紙の本校の理念・目的・教育目標・アドミッションポリシーを御一読頂き、御理解の上、本校学生に対する教育に当たって頂きますようよろしくお願いします。

（出典　学生課資料　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

本校の理念および目的に沿って入学者受入方針は定められており，わかりやすい平易な文章となっている。これらは本校の教職員に対して周知が行われている。学生募集要項，編入学生募集要項および専攻科学生募集要項に入学者受入方針を記載し，中学校を主とする様々な機関に配布することで，社会へ周知している。さらに，本校ホームページで公開し，入試説明会や中学校訪問でも説明している。

以上のことから，本校の入学者受入方針は明確に定められ，本校の教職員への周知および将来の学生を含む社会に周知されていると言える。

**観点４－２－①：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に実施されているか。**

（観点に係る状況）

本校の入学者選抜は，準学士課程については学力選抜と推薦選抜を行っている（資料４－２－①－１，資料４－２－①－２）。これに加えてメディア情報工学科では推薦選抜のもう一つの選抜方法として専門実習選抜を行っている（資料４－２－①－３）。学力選抜は，入学者受入方針に従って，５教科の学力試験の評価と調査書の数学と理科の評定を２倍の傾斜配点を行い，それらの合計を３倍した評価と特活点の評価の総合評価により適切に学生の受入を行っている。推薦選抜は，調査書の評価と入学者受入方針に従った面接の評価をほぼ１対１の割合に特活点を加味した総合評価により適切に受験生の受入を行っている。専門実習選抜は調査書により１次選抜を行い，本校において受験生に専門実習（専門に関する２分野の授業を受け，その後すぐにその２分野に関わる試験を行う）の試験および面接により，各分野の総合評価の上位受験生から順に定員を充足するまで受入を行っている。

編入学生選抜は，入学者受入方針に従い，学力試験や口頭試問の評価と入学者受入方針に従った面接の総合評価により適切に受験生の受入を行っている（資料４－２－①－４）。学力試験では，編入した後の４年生の授業についていけるかどうかの観点で作成された試験内容となっており，特に機械システム工学科では総合評価の結果によっては３年生への編入学としている（資料４－２－①－５）。

専攻科学生選抜は，学力選抜と推薦選抜を行っている（資料４－２－①－６，資料４－２－①－７）。学力選抜は，入学者受入方針に従って，英語，数学の他，入学を希望しているコースに関する専門科目の評価と面接の評価の総合評価により適切に学生の受け入れを行っている。推薦選抜は，調査書の評価と入学者受入方針に従った面接の総合評価により適切に学生の受け入れを行っている。

資料４－２－①－１

## ５　選抜の方法

入学者の選抜は，学力検査及び在学(出身)学校長から提出された調査書により総合判定を行います。

### (1)　学力検査の日時及び教科

| 検　査　日 | 時　　間 | 教　科 | 検　査　方　法 |
|---|---|---|---|
| 平成 22 年<br>２月 21 日（日） | 9:10 | (入　室) | 筆　記　試　験 |
| | 9:30～10:20 | 理　科 | |
| | 10:40～11:30 | 英　語 | |
| | 11:50～12:40 | 数　学 | |
| | 昼　　食 | | |
| | 13:30～14:20 | 国　語 | |
| | 14:40～15:30 | 社　会 | |

### (2)　学力検査の実施場所

| | | |
|---|---|---|
| 名護検査場 | 沖縄工業高等専門学校 | 沖縄県名護市字辺野古 905 番地 |
| 西原検査場 | 琉球大学 | 沖縄県中頭郡西原町字千原１番地 |
| 宮古検査場 | 宮古合同庁舎一階会議室<br>（旧：宮古支庁） | 沖縄県宮古島市平良字西里 1125 番地 |
| 八重山検査場 | 八重山農林高校 | 沖縄県石垣市大川 477 番地の１ |

※　受験地は，上記４会場のうち希望する検査場を選択してください。

※　**駐車場の確保ができませんので，入学試験当日は公共の交通機関をご利用ください。**

### (3)　評価方法

①　学力検査

各教科とも１００点満点とし、合計５００点満点とします。

②　調査書

提出された調査書を本校の規定に基づいて点数に換算するとともに，能力，適性等を判定するための基礎資料とします。

また，各学年の数学と理科の評定値に対して，他の教科の２倍の傾斜配点を行います。

| 評価の対象 | 配点 |
|---|---|
| ３年間９科目の内申点を３倍 | ４９５満点 |
| 【特活点】数検・漢検・英検・理検　準２級以上 | 最大４点 |

（出典　平成22年度学生募集要項　P.12　抜粋）

資料４－２－①－２

**５　選抜の方法**

入学者の選抜は，提出された書類及び面接により総合判定を行います。

(1)　**面接の日時及び場所**

日　時　　平成 22 年 1 月 9 日（土）９：00～（詳細は受験票発送時にお知らせします）

場　所　　沖縄工業高等専門学校　　沖縄県名護市字辺野古 905 番地

(2)　調査書等の評価方法

提出された調査書等を本校の規定に基づいて点数に換算するとともに，能力，適性等を判定するための基礎資料とします。なお、調査書、面接点は約１：１の割合で点数に換算し、そのうち特別活動等の点数は約３％を占めます。

（出典　平成22年度学生募集要項　P. 4　抜粋）

資料４－２－①－３

**５　選抜の方法**

一次選考（書類選考）及び二次選考（専門実習等）により選抜します。

(1)　一次選考（書類選考）

二次選考（専門実習等）の定員を超える応募があった場合は，提出された調査書の「学習の記録」における２年，３年での評価と取得資格，志望理由書を総合して判定します。

一次選抜（書類選考）の結果については，**平成 21 年 12 月 24 日（木）付けの文書で受験者本人に**判定の結果を通知します。

また，同日 13 時にインターネット上の沖縄高専ホームページhttp://www.okinawa-ct.ac.jp/に一次選考合格者の受験番号を掲載します。（電話等による判定結果の照会には一切応じません）

二次選考（専門実習等）の定員は以下のとおりです。

| 学　　科　　名 | 二次選考（専門実習等）の定員 |
|---|---|
| メディア情報工学科 | 16 名 |

(2)　二次選考（専門実習等）

本校で専門実習と面接を実施します。専門実習は 80 分間の実習を２回行います。また，面接は，個人毎に実施します。

選考は専門実習での成績，適性と面接及び提出された調査書により総合判定を行います。

（出典　平成22年度学生募集要項　P. 8　抜粋）

資料４－２－①－４

## ６．選考方法

編入学者の選考は、学力試験の成績、出身高等学校長からの調査書及び面接等の結果を総合して行います。

(1) 学力試験の教科名、出題範囲
ア　学力試験は、筆記試験を行います。ただし情報通信システム工学科は、口頭試問を行います。
イ　出題する教科及びその範囲は、次のとおりとします。

| 学科名 | | 教科名 | 出題範囲 |
|---|---|---|---|
| 専門科目 | 機械システム工学科 | 専門(工業数理、機械設計、機械加工、電子／電気回路に関する科目) | 機械構造物にはたらく力、機械設計にともなう強度計算、機械加工法（機械材料）、直流・交流回路の基礎、電気電磁気学：電流と磁界／電界、電圧と静電容量／電磁誘導とインダクタンス |
| | | 小論文 | 工学一般の知識に関する出題 |
| | 情報通信システム工学科 | 口頭試問 | プログラミング（C、BASIC または JAVA のプログラミング基礎）、フローチャート<br>コンピュータの基礎（基本構成、動作原理、データ表現）<br>電気回路（各種法則、ベクトル・複素数による計算）<br>電子回路（トランジスタ回路、OP アンプ、論理回路） |
| | メディア情報工学科 | 専門Ⅰ | プログラミング（C 言語のプログラミング基礎）、フローチャート<br>コンピュータの基礎（基本構成、データ表現、インターネットの仕組み、セキュリティ） |
| | | 専門Ⅱ | 基本論理回路、組み合わせ回路、正論理・負論理、論理式の公理・定理<br>離散数学 |
| | 生物資源工学科 | 生物 | 生物Ⅰ、Ⅱ |
| | | 化学 | 化学Ⅰ、Ⅱ |
| 一般科目 | 各学科共通 | 数学 | 数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ｂの「ベクトル」、数学Ｃの「行列とその応用」及び「式と曲線」 |
| | | 英語 | 長文読解、英文法（辞書持込不可） |

(2)　学力試験、面接の日時

ア　試験日　平成21年８月28日（金）
イ　各学科の試験当日の時間割は、次のとおりとします。

| 学科名 | 事項 | 時間 |
|---|---|---|
| 機械システム工学科 | 受験者集合 | ９：００ |
| | 数学 | ９：３０－１０：３０ |
| | 英語 | １０：５０－１１：５０ |
| | 小論文 | １３：００－１４：３０ |
| | 専門 | １４：５０－１６：５０ |
| | 面接 | １７：００－ |
| 情報通信システム工学科 | 受験者集合 | ９：００ |
| | 数学 | ９：３０－１０：３０ |
| | 英語 | １０：５０－１１：５０ |
| | 面接及び口頭試問 | １３：００－ |
| メディア情報工学科 | 専門Ⅱ | ９：００ |
| | 数学 | ９：３０－１０：３０ |
| | 英語 | １０：５０－１１：５０ |
| | 専門Ⅰ | １３：００－１４：００ |
| | 専門Ⅱ | １４：２０－１５：２０ |
| | 面接 | １５：３０－ |
| 生物資源工学科 | 受験者集合 | ９：００ |
| | 数学 | ９：３０－１０：３０ |
| | 英語 | １０：５０－１１：５０ |
| | 生物 | １３：００－１４：００ |
| | 化学 | １４：２０－１５：２０ |
| | 面接 | １５：３０－ |

(3) 試験場
沖縄工業高等専門学校　沖縄県名護市字辺野古９０５番地

## ７．受験上の留意事項

(1) 午前９時００分までに検査室に入室し、係員の指示に従ってください。なお、試験開始後２０分以上遅刻した場合は、その教科の受験を認めません。
(2) 受験票及び筆記用具を必ず持参してください。
机上には受験票、筆記用具（ＨＢ程度の黒鉛筆またはシャープペンシル）、消しゴム、鉛筆削り、時計（計時機能だけのもの）以外は置けません。
(3) 機械システム工学科の受験者は、関数電卓を持参してください。ただし、ポケットコンピュータは使用できません。
(4) 携帯電話、ＰＨＳなどの通信機器類の持ち込みを禁止します。
(5) 検査時間中は、やむを得ない場合を除き、検査室から退室できません。
(6) 昼食は各自ご用意ください。上履きは不要です。
(7) 受験のための宿舎のあっせんはしません。

（出典　平成22年度編入学生募集要項　P．４，５）

資料４－２－①－５

# 平成 22 年度　編入学生募集要項

## １．募集学科・学年・人員

| 学科名 | 編入学年次 | 募集人員 |
|---|---|---|
| 機械システム工学科<br>情報通信システム工学科<br>メディア情報工学科<br>生物資源工学科 | (注)<br>第４学年 | 若干名 |

(注) 機械システム工学科の編入学年次は、４ページの「６．選考方法」により選抜を行った結果により、第３学年になることがあります。

（出典　平成22年度編入学生募集要項　P．２　抜粋）

資料４－２－①－６

**４ 選抜方法**

入学者の選抜は、学力検査、提出された書類及び面接の総合判定により行います。

(1) 学力検査の出題科目

| 試験科目 | | 出題の範囲 |
|---|---|---|
| 英語 | | 長文読解、英文法（辞書持込不可） |
| 数学 | | 微分積分、線形代数 |
| 専門科目 | 機械システム工学コース | 次のA～C群より各１科目を選択<br>A群　機械材料学、機械工作法、材料力学<br>B群　熱力学、水力学<br>C群　応用数学（微分方程式を含む）、工業力学（機械力学） |
| | 電子通信システム工学コース | 電気回路、プログラミング基礎、電子回路 |
| | 情報工学コース | アルゴリズムとデータ構造、プログラミング（C言語）、コンピュータアーキテクチャ、情報ネットワーク、離散数学、論理回路、確率・統計 |
| | 生物資源工学コース | 有機物理化学、生物分析化学、生物有機化学、生化学、遺伝子工学、生物工学、微生物学、発酵学、環境学、環境分析学、生物資源利用用学Ⅰ、生理学 |

(2) 専攻科英語学力試験免除申請書

TOEIC テスト（(財)国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会実施、IP 試験を含む。）において、TOEICスコア131点以上を取得している者は、試験科目「英語」を免除することができます。ただし、学力選抜試験日を基準に、２年以内に取得したスコアとします。

この制度の適用を希望する人は、専攻科英語学力試験免除申請書を提出してください。

なお、英語点への換算は以下のとおりです。

【換算方法】（小数点以下は四捨五入）

| TOEICスコア | 英語点への換算 |
|---|---|
| 450点以上 | 100点 |
| 351点～449点 | 60点＋0.4×（TOEICスコアー350点） |
| 350点 | 60点 |
| 349点～131点 | 60点－{(350点－TOEICスコア)÷5} |

また、TOEICスコアが131点以上である場合でも、英語学力試験の受験は可能ですが、その場合は、英語の試験の成績は、学力試験の成績とTOEICスコアのうち高い方を採用します。

(3) 選抜期日・学力検査、面接会場

| 選抜期日 | 時間 | 科目等 | 会場 |
|---|---|---|---|
| 平成２２年５月２２日（土） | ９：30～10：30<br>10：50～11：50<br>13：00～15：00<br>15：30～ | 英語<br>数学<br>専門科目<br>面接 | 沖縄工業高等専門学校 |

① 選抜当日は「受験票」を必ず持参してください。
② 平成２２年５月２０日（木）までに受験票が到着しない場合は、本校学生課教務係に問い合わせてください。
③ 入学願書提出後に、住所（郵便受取先）を変更したときは、直ちに本校学生課教務係に届け出てください。
④ 開始３０分前までに本校の指定する場所に集合してください。
⑤ 英語を免除された場合は、１０時２０分までに本校の指定する場所に集合してください。
⑥ 検査室に時計はありませんので、時計を持参してください。

**５ 合格者の発表**

(1) 日時

平成２２年５月２８日（金）１１時

(2) 場所

沖縄工業高等専門学校　　沖縄県名護市字辺野古９０５番地

(3) 発表方法

合格者の受験番号を本校のメディア棟玄関前に掲示します。
受験者には、合否の結果を通知します。
なお、電話、メール等での合否に関する問い合わせには、一切応じません。
また、合格者の受験番号を本校のホームページに掲載します。

沖縄工業高等専門学校のホームページアドレス
http://www.okinawa-ct.ac.jp/

**６ 入学確約書の提出**

合格通知を受けた者は、平成２２年９月３０日（木）17時（郵送の場合も同じ）までに「入学確約書」を学生課教務係へ提出してください。

なお、期限までに「入学確約書」を提出しない者は、本校に入学の意志がないものとして取り扱います。

**７ 入学手続き**

入学確約書提出者に別途通知します。ただし、所定の期限内に入学手続きを完了しない者は、入学の意志がないものとして取り扱います。

（出典　平成23年度専攻科募集要項　P．６，７）

資料４－２－①－７

**４ 選抜方法**

入学者の選抜は、提出された書類及び面接（専門科目に関する口頭試問を含む。）の総合判定で行います。

| 面接期日 | 時間 | 会場 |
|---|---|---|
| 平成２２年４月２４日(土) | １３：００ ～ | 沖縄工業高等専門学校 |

① 選抜当日は「受験票」を必ず持参してください。
② 平成２２年４月２２日（木）までに受験票が到着しない場合は、本校学生課教務係に問い合わせてください。
③ 入学願書提出後に、住所（郵便受取先）を変更したときは、直ちに本校学生課教務係に届け出てください。
④ 開始３０分前までに本校の指定する場所に集合してください。

（出典　平成23年度専攻科募集要項　P．３　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

本校の入学者受入は，準学士課程については入学者受入方針に従って選抜をしている。学力試験および調査書に基づいた学力選抜，面接および調査書に基づいた推薦選抜，調査書と専門実習の試験および面接に基づいた専門実習選抜を行っている。編入学生選抜では，入学者受入方針に従って学力試験や口頭試問および面接により選抜を行っている。専攻科の入学選抜では，入学者受入方針に従って選抜をしている。学力試験および面接に基づいた学力選抜，面接および調査書に基づいた推薦選抜を行っている。

以上のことから，本校では入学者受入方針に沿った学生の受入方法が採用され，実際の入学者選抜が実施されていると言える。

**観点４－２－②：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。**

（観点に係る状況）

入学者受入方針に沿った学生の受入の検証および入学者選抜の改善のために，二つの視点から検証を実施している。一つは，受験者の視点であり，もう一つは入学後の視点である。

まず，受験者の視点からの検証として，準学士課程の学力選抜および推薦選抜の際にアンケートを実施している（資料４－２－②－１，資料４－２－②－２）。そして，選抜試験実施後の入試委員会でアンケートをまとめたものを報告し，教員間で意見交換を行って次回の選抜試験の改善に役立てている（資料４－２－②－３）。

次に，入学後の視点からの検証として，成績の追跡調査や様々な観点での調査を実施している（資料４－２－②－４，資料４－２－②－５）。

このような２つの視点に基づき，これまでに準学士課程の学力選抜や推薦選抜では判定基準の見直しを行っている。推薦選抜の面接は，入学者が受入方針に沿っているかを判定するために集団面接から個人面接へ変更し（資料４－２－②－６），また，幅広い観点から受験生を判定するために専門学科の教員だけでなく総合科学科の教員も面接教員に加わるように変更している（資料４－２－②－７）。さらに，メディア情報工学科では，特徴のある学生の受入と受験者数確保を目的とし，専門実習選抜を平成19年度より実施するなど多様な試験制度を用意している（資料４－２－②－８）。これらの選抜方法のいずれも，選抜試験実施後に教員から意見聴取を行い，入試委員会で報告を行い，次回の選抜試験の改善に役立てている。

編入学選抜はこれまでに２回，専攻科選抜はこれまでに３回実施されており，これらの選抜も毎回判定基準の見直し等を実施している。

資料４－２－②－１

## 沖縄工業高等専門学校 学力選抜アンケート（案）

このアンケートは平成23年度の学生募集に参考にさせていただくもので、みなさんの合否には一切関係ありません。

下の質問に対して、該当する□印にチェックしてください。（例：☑ 沖縄高専Webページ）

1. あなたの受験学科は何処ですか？

□ 機械システム工学科　□ 情報通信システム工学科　□ メディア情報工学科　□ 生物資源工学科

2. 沖縄高専の受験を決めた時期はいつ頃ですか？

□ 小学校　□ 中学1年　□ 中学2年　□ 中学3年の春
□ 中学3年の夏休み前　□ 中学3年の夏休み後　□ 直前

3. あなたは沖縄高専をどのようにして知りましたか？（複数チェックしてもかまいません）

□ 沖縄高専Webページを見て　□ 沖縄高専学校説明会から　□ パンフレットから
□ テレビを見て　□ 高専教員の中学校訪問　□ 先輩の中学校訪問
□ 出前授業やイベント（イベント名：　）
□ 中学校の先生から　□ 塾の先生から　□ 友達から
□ 家族から
□ その他（　）

4. 沖縄高専を受けることに決めた理由は何ですか？（複数チェックしてもかまいません）

□ 就職が良いから　□ 大学に編入学できるから　□ 新しい学校だから、設備が良いから
□ 寮があるから　□ 勉強したいこと、やりたいことがあるから（具体的に：　）

5. 志望学科を決める時にどの情報が役に立ちましたか？（複数チェックしてもかまいません）

□ 沖縄高専Webページを見て　□ 沖縄高専学校説明会から　□ パンフレットから
□ テレビを見て　□ 高専教員の中学校訪問　□ 先輩の中学校訪問
□ 出前授業やイベント（イベント名：　）
□ 中学校の先生から　□ 塾の先生から　□ 友達から
□ 家族から
□ その他（　）

6. 最終的に沖縄高専を受けることをどうして決めたのですか？

□ 自分の意志　□ 中学の先生からの薦め　□ 塾の先生からの薦め
□ 家族からの薦め　□ 友達からの薦め　□ その他（　）

（出典　平成21年度第10回入試委員会資料　抜粋）

資料４－２－②－２

## 沖縄工業高等専門学校 推薦選抜アンケート

下の質問に対して、該当する□印にチェックしてください。(例: □ 沖縄高専Webページ)

1. あなたの受験学科は何処ですか？

□ 機械システム工学科　□ 情報通信システム工学科　□ メディア情報工学科　□ 生物資源工学科

2. 沖縄高専の受験を決めた時期はいつですか？

□ 小学校　□ 中学1年　□ 中学2年　□ 中学3年の春
□ 中学3年の夏休み前　□ 中学3年の夏休み後　□ 直前

3. あなたは沖縄高専をどのようにして知りましたか？(複数チェックしてもかまいません)

□ 沖縄高専Webページを見て　□ 沖縄高専学校説明会から　□ 中学校の先生から
□ 塾の先生から　□ 友達から　□ 家族から
□ その他(　　)

4. 沖縄高専を受けることに決めた理由は何ですか？(複数チェックしてもかまいません)

□ 就職が良いから　□ 大学に編入学できるから　□ 新しい学校だから、設備が良いから
□ 寮があるから　□ 勉強したいこと、やりたいことがあるから(具体的に:　　)

5. 志望学科を決める時にどの情報が役に立ちましたか？(複数チェックしてもかまいません)

□ 沖縄高専Webページ情報　□ 沖縄高専学校説明会での情報　□ 中学の先生からの情報
□ 塾の先生からの情報　□ 友達からの情報　□ 家族からの情報
□ その他(　　)

6. 最終的に推薦を受けることをどうして決めたのですか？

□ 自分の意志　□ 中学の先生からの薦め　□ 塾の先生からの薦め
□ 家族からの薦め　□ 友達からの薦め　□ その他(　　)

(出典　平成21年度第９回入試委員会資料　抜粋)

資料４－２－②－３

平成２１年度第１１回入試委員会議事次第

１．日時　平成２２年3月１１日（木）１５：００～

２．場所　メディア棟２階　大会議室

３．確認事項

（１）第１０回入試委員会議事要旨の確認

４．審議事項

（１）平成２３年度専攻科推薦・学力選抜について

資料１　平成２１年度　第１１回入試委員会　審議・報告事項

資料２　平成２２年度専攻科推薦・学力選抜試験判定資料

資料３　専攻科学力選抜における反省点

（２）沖縄工業高等専門学校入試委員会規則（一部改正案）について

資料４　沖縄工業高等専門学校入試委員会規則（一部改正案）

（３）平成２２年度沖縄工業高等専門学校行事予定表（案）について

資料５　平成２２年度沖縄工業高等専門学校行事予定表（案）

（４）学力検査追試験に関する機構への要望

（５）沖縄高専社会予備問題作成に関して

資料６　平成２２年度入学者選抜学力検査における追試験の実施状況等について

（６）本年度の入試委員会改善点に関して

資料７

（７）入試アンケート集計結果

資料８　学力選抜アンケート集約結果

（出典　平成21年度第11回入試委員会議事次第　抜粋）

資料４－２－②－４

**入試制度を検討する際に使用したデータ類**

2006 年度とそれ以前

| 資料 | 概要 |
|---|---|
| H15 面接入試アンケート統計結果.xls | H15 年度面接入試アンケート集計結果 |
| H15 学校説明会アンケート集計.xls | H15 年度学校説明会アンケート集計結果 |
| H16 学校説明会アンケート集計結果.doc | H16 学校説明会アンケート集計結果 |
| H16 学校説明会アンケート集計.xls | H16 学校説明会アンケート集計結果 |
| 2005 アンケート調査(集計)【オープンキャンパス】.xls | 2005 オープンキャンパスアンケート集計結果 |
| 平成１７年　アンケート集計【学校説明会】.xls | H17 学校説明会アンケート集計結果 |
| H18 面接入試アンケート統計結果.xls | H18 面接入試アンケート集計結果 |
| H18 入学者入学動機アンケート.xls | H18 入学者入学動機アンケート集計結果 |
| 0530 中学校が必要としている情報.doc | 中学校が沖縄高専について何を知りたいかのアンケート集計結果 |
| サマースクール報告.doc | H18 サマースクールの実施結果 |
| サマースクール　中学生アンケート回答.xls | H18 サマースクールの中学生アンケート集計結果 |
| 主なアンケート調査結果.doc | 主なアンケートの集計結果 |
| 入試(1 期生).pdf | １期生の入学時成績（内申点・学力点）と学年末平均点の追跡調査 |
| 入試(2 期生).pdf | ２期生の入学時成績（内申点・学力点）と学年末平均点の追跡調査 |
| 平成１８年度沖縄高専自己点検・評価(教務・入試・広報).doc | 入試方法の自己点検結果 |
| (資料 1)入試改善に向けて.doc | 受験志望者減の原因と対応策のリストアップ |

2007 年度

| 資料 | 概要 |
|---|---|
| （参考）志願者推移及び対策 H1803（まとめ）.pdf | 全国５５高専が実施している、入学者確保のための施策と、その効果（全年度比の受験倍率の増減）の集計結果 |
| 志願者数が増加した高専の対策.doc | H18 年度の志願者数が、対前年度比、または対 15 年比、10%以上増加した高専の対策状況 |
| 入学動機アンケートの集計結果.xls | 入学動機アンケートの集計結果 |
| 2007 年度サマースクールアンケート（教職員）.xls | サマースクールアンケートの集計結果（教職員） |
| 2007 年度サマースクールアンケート(来校者).xls | サマースクールアンケートの集計結果（来校者） |
| 入学者選抜方法の例.doc | 全国高校における入試方法とその特徴の分析 |
| 絶対評価について.doc | 中学で絶対評価を導入による入試への影響の分析 |
| 評定分布の例.doc | 絶対評価の地域、学校によるバラツキの分析 |
| 入試方法の見直しについて | 入試方法の見直し案 |
| 学力選抜方法について.doc | 学力選抜における内申点と調査書の重みの検討 |
| 入学時成績と学年末成績との相関.doc | １期生、２期生の入学時成績（学力、推薦）と学年末成績との相関分析 |
| 学力選抜を学力点重視にすることに対する論点整理.doc | 学力選抜を学力点重視にすることに対する論点整理 |
| 20 年度たき台のシミュレーション結果.doc | 学力選抜で学力重視した場合の入学者の範囲の変化のシミュレーション |
| 追跡調査例.doc | 情報通信一期生、二期生の入学後の成績の個別追跡結果 |
| (資料 7)沖縄県高校受験情報.doc | 沖縄県の高校受験に関する情報 |
| 平成 16 年度入試教科別の得点分布.doc | H16 学力選抜における、沖縄高専と他高専の得点の比較 |
| 平成 17 年度入試教科別の得点分布.doc | H17 学力選抜における、沖縄高専と他高専の得点の比較 |
| 平成 18 年度入試教科別の得点分布.doc | H17 学力選抜における、沖縄高専と他高専の得点の比較 |

2008 年度

| 資料 | 概要 |
|---|---|
| 推薦選抜アンケート集計（平成１５年－２０年）-1.xls | |
| 推薦選抜面接アンケート統計結果-1.xls | |
| 推薦選抜面接アンケート統計結果-2.xls | |
| 推薦入試アンケート(2009IC)-2.xls | |
| 平成２１年度推薦選抜試験アンケート集計-1.doc | |
| 090122 推薦選抜改善点洗い出し.doc | 推薦選抜に総合科学科教員が参加したことの意見・感想 |
| 沖縄高専入試志願者数の推移に関する考察.doc | 入学志願者数の推移を分析している。 |
| 2009 年度推薦入試の内申と学年席次に関するデータ.doc | 推薦選抜において、学生に学年順位を聞き、内申と学年順位の相関を調べたデータ |

（出典　学生課資料）

資料４－２－②－５

平成２１年度第６回入試委員会議事次第

１．日時　平成２１年１０月１日（木）１７：００～

２．場所　メディア棟２階　小会議室

３．確認事項
（１）第５回入試委員会議事要旨の確認

４．審議事項
（１）本科専門実習選抜判定基準に関して
資料　１　入試委員長資料
資料　２　専門実習（自己推薦）選抜　一次選考採点票
資料　３　専門実習（自己推薦）選抜　志望理由書採点票
資料　４　専門実習（自己推薦）選抜　二次選考採点票
資料　５　専門実習（自己推薦）選抜　実習採点票
資料　６　専門実習（自己推薦）選抜　実習採点基準
資料　７　面接採点票
資料　８　専門実習（自己推薦）選抜　面接採点基準
資料　９　面接試験要領（面接員用）
（２）専攻科入試募集要項に関して
資料１０　平成２３年度専攻科学生募集要項（案）
（３）平成２２年度入学者選抜における新型インフルエンザへの対応に関して
資料１１　平成２２年度入学者選抜における新型インフルエンザへの対応について（依頼）
（４）留学生の受入（編入試験）に関して
資料１２　第３学年編入学生募集について（照会）
（５）中学校訪問の実施状況に関して
（６）本科推薦選抜で入学してきた学生の成績に関して
資料１３　平成１８年度推薦合格者
資料１４　平成１９年度推薦合格者
資料１５　平成２０年度推薦合格者
（７）推薦選抜の面接教員に関して
資料１６　平成２１年度推薦選抜実施後（６期生）の面接担当教員等からの意見・感想
（８）その他

（出典　平成21年度第６回入試委員会議事次第　抜粋）

資料４－２－②－６

# 第６回 入試委員会議事要旨

日　　時　　平成２０年９月２９日（月）　　１５：００ ～ １６：００

場　　所　　メディア棟２階　小会議室

出 席 者　　委員長（平山教授）、眞喜志（治）准教授、高木教授、野口准教授、
水野教授、網谷教授、知念（直）准教授、南部学生課長

列 席 者　　課長補佐、教務係長、青柳教務係員

配付資料　　資料１　議題及び報告事項
資料２　入学試験の判定基準について（機械システム工学科20080731）
資料３　入試判定基準について（情報）
資料４　平成２０年度サマースクール（報告）
資料５　国立高等専門学校の入学者選抜に係る入試成績の簡便な方法による開示について（通知）
資料６　国立高等専門学校入学者選抜学力検査「監督者業務要領」及び「採点業務要領」について（通知）

※確認事項

（１）第５回入試委員会議事要旨の確認

委員長より各委員へ確認要請が行われた。

Ｉ審議事項

（１）入試判定基準に関して

委員長より資料１～３に基づき説明が行われ、審議の結果、以下のことが決定した。

・推薦選抜については集団面接から個人面接に変更する。

・学力選抜の要審査事項の学力点を項目から外す。

また、推薦選抜の面接点の付け方の見直しについては各学科に持ち帰り次回委員会で報告することとなった。

学力選抜の判定基準についてはホームページで公開する方向で検討することとなった。

（出典　平成20年度第６回入試委員会議事要旨　抜粋）

資料４－２－②－７

# 第７回　入試委員会議事要旨

日　　時　　平成２０年１０月２７日（月）　　１７：００　～　１８：００

場　　所　　メディア棟２階　小会議室

出 席 者　　委員長（平山教授）、眞喜志（治）准教授、高木教授、野口准教授(途中退室)、水野教授(途中入室)、綱谷教授、知念（直）准教授、南部学生課長(途中入室)

列 席 者　　課長補佐、教務係長、青柳教務係員

配付資料　　資料１　議題及び報告事項
資料２　入試委員会の回答（情報）
資料３　平成２１年度の学力検査による入学者選抜を受験した者の入試成績の開示について(案)
資料４　入試における事故の場合

※確認事項

（１）第６回入試委員会議事要旨の確認

委員長より各委員へ確認要請が行われた。

Ⅰ審議事項

（１）推薦入試判定基準、面接教員等に関して

委員長より資料１及び２に基づき説明が行われ、審議の結果、以下のことが決定した。

・推薦選抜について面接点、内申点、判定基準案については資料１の原案どおりとする。
・項目の１は資料１の原案どおり。２は「コミュニケーション能力と自発的勉学能力はあるか」に修正。３～５についてはアドミッションポリーに沿った学科質問項目とし、次回委員会で質問の内容を各学科報告することとなった。
・面接教員に関しては、入試委員会としては総合科学科の教員に入ってほしい意向があるので、１１月１４日(金)までに総合科学科より回答を戴き、各専門学科は１２月１日(月)までに面接教員を提示してもらうこととなった。

（出典　平成20年度第７回入試委員会議事要旨　抜粋）

資料４－２－②－８

メディア情報工学科におけるＡＯ入試の導入の検討について

07/07/10

１．メディア情報工学科における AO 入試の狙い

（１）特徴のある学生を受け入れたい

（２）入試方法の多様化により志願者数の減少に歯止めをかけたい

（３）志願資格に内申点に要件を付加することによって、いわゆる一芸入試ではなく基礎学力のある者のみを対象とする

２．メディア情報工学科のアドミッションポリシー（検討中）

（１）十分な基礎学力を有し

（２）メディア情報工学科の教育内容を理解した上で

（３）メディア情報工学科に入学したい強い意思を持ち

（４）メディア情報工学科の３つの分野に十分なポテンシャルをもつこと。

コンピュータ分野

ネットワーク分野

コンテンツ分野

３．アドミッションポリシーと選抜方法

| | （１） | （２） | （３） | （４） |
|---|---|---|---|---|
| 推薦選抜 | 調査書 | 面接 | 面接 | － |
| 学力選抜 | 調査書・学力検査 | － | － | － |
| ＡＯ選抜 | 調査書 | 面接･志望理由書 | 面接・志望理由書 | 実習・レポート |

３．選抜方法毎の合格者数

合格者数は４０～４２名とする。

推薦選抜（定員の３０%程度）　１２～１４名

学力選抜（定員の６０%程度）　２４名

ＡＯ選抜（定員の１０%程度）　４～６名

４．併願

推薦選抜とＡＯ選抜　×

推薦選抜と学力選抜　○

ＡＯ選抜と学力選抜　○

（出典　平成19年度第４回入試委員会資料　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

入学者受入方針に沿った学生を受け入れできたか，受験者へのアンケート結果，成績の追跡調査結果，各選抜試験実施後の教員からの意見聴取結果などを踏まえて入試委員会で検証し，次年度の選抜試験の改善を行っている。その結果，準学士課程の学力選抜の判定基準の見直しや，面接方法の変更などを行った。また専門実習選抜も改善を実施している。

以上のことから，本校では入学者受入方針に沿った学生の受入の検証が行われ，入学者選抜方法の改善に役立てられている。

**観点４－３－①：　実入学者数が，入学定員を大幅に超える，又は大幅に下回る状況になっていないか。また，その場合には，これを改善するための取組が行われるなど，入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。**

（観点に係る状況）

本校の準学士課程の入学者選抜者数は，４学科160名の定員に対し，過去５年間では163名から167名の間で推移している（資料４－３－①－１，資料４－３－①－２）。これまで定員を下回る状況にはなっていない（資料４－３－①－２）。

編入学生の選抜は，平成21年度編入学試験に情報通信システム工学科およびメディア情報工学科にそれぞれ１名受験，平成22年度編入学試験に機械システム工学科に１名受験しているが，いずれも合格していない。

専攻科の入学者選抜数は，定員の24名を上回る状況である（資料４－３－①－３，資料４－３－①－４）。

資料４－３－①－１

○合格者

平成16年度

| 学科名 | 受験者（志望学科変更後） | 合格者 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 推薦 | 学力 | 計 |
| 機械システム工学科 | 204 | 15 | 28 | 43 |
| 情報通信システム工学科 | 92 | 12 | 32 | 44 |
| メディア情報工学科 | 242 | 16 | 28 | 44 |
| 生物資源工学科 | 143 | 16 | 28 | 44 |
| 計 | 681 | 59 | 116 | 175 |

平成17年度

| 学科名 | 受験者（志望学科変更後） | 合格者 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 推薦 | 学力 | 計 |
| 機械システム工学科 | 124 | 13 | 28 | 41 |
| 情報通信システム工学科 | 100 | 14 | 26 | 40 |
| メディア情報工学科 | 135 | 15 | 25 | 40 |
| 生物資源工学科 | 107 | 16 | 27 | 43 |
| 計 | 466 | 58 | 106 | 164 |

平成18年度

| 学科名 | 受験者（志望学科変更後） | 合格者 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 推薦 | 学力 | 計 |
| 機械システム工学科 | 80 | 13 | 27 | 40 |
| 情報通信システム工学科 | 78 | 16 | 25 | 41 |
| メディア情報工学科 | 82 | 12 | 32 | 44 |
| 生物資源工学科 | 86 | 15 | 27 | 42 |
| 計 | 326 | 56 | 111 | 167 |

平成19年度

| 学科名 | 受験者（志望学科変更後） | 合格者 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 推薦 | 学力 | 計 |
| 機械システム工学科 | 59 | 12 | 28 | 40 |
| 情報通信システム工学科 | 64 | 16 | 26 | 42 |
| メディア情報工学科 | 79 | 16 | 26 | 42 |
| 生物資源工学科 | 64 | 14 | 28 | 42 |
| 計 | 266 | 58 | 108 | 166 |

平成20年度

| 学科名 | 受験者（志望学科変更後） | 合格者 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 専門実習 | 推薦 | 学力 | 計 |
| 機械システム工学科 | 50 | | 12 | 28 | 40 |
| 情報通信システム工学科 | 54 | | 10 | 32 | 42 |
| メディア情報工学科 | 60 | 6 | 12 | 23 | 41 |
| 生物資源工学科 | 58 | | 13 | 27 | 40 |
| 計 | 222 | 6 | 47 | 110 | 163 |

平成21年度

| 学科名 | 受験者（志望学科変更後） | 合格者 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 専門実習 | 推薦 | 学力 | 計 |
| 機械システム工学科 | 70 | | 12 | 28 | 40 |
| 情報通信システム工学科 | 65 | | 16 | 26 | 42 |
| メディア情報工学科 | 83 | 6 | 12 | 25 | 43 |
| 生物資源工学科 | 74 | | 14 | 28 | 42 |
| 計 | 292 | 6 | 54 | 107 | 167 |

※本校は，合格者＝入学者数となる。
※合格者における受験者数は，合格学科を考慮して志望学科を変更した後の最終のもの。

（出典　平成21年度第８回入試委員会資料　抜粋）

資料４－３－①－２

平成22年度

| 学科名 | 受験者（志望学科変更後） | 合格者 | | | | 推薦倍率 | 専門実習 | 学力 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 専門実習 | 推薦 | 学力 | 計 | | | |
| 機械システム工学科 | 61 | | 12 | 28 | 40 | 1.6 | | 1.8 |
| 情報通信システム工学科 | 70 | | 15 | 27 | 42 | 1.8 | | 2 |
| メディア情報工学科 | 85 | 7 | 12 | 23 | 42 | 2 | 3.9 | 2.7 |
| 生物資源工学科 | 58 | | 13 | 27 | 40 | 1.5 | | 1.7 |
| 計 | 274 | 7 | 52 | 105 | 164 | 1.7 | | 2.1 |

（出典　学生課資料　抜粋）

資料４－３－①－３

平成 21 年 5 月 1 日現在　As of May 1, 2009

専攻科　Advanced Course

| 専攻 Course | | 募集定員 Admission Capacity | 志願者数 Applicants | 入学者数 Enrollments |
|---|---|---|---|---|
| 創造システム工学専攻 Creative Systems Engineering major | 機械システム工学コース Mechanical Systems Engineering | 24 | 5 (0) | 5 (0) |
| | 電子通信システム工学コース Electronic Communication Systems Engineering | | 9 (1) | 9 (1) |
| | 情報工学コース Information Engineering | | 5 (2) | 5 (2) |
| | 生物資源工学コース Bioresources Engineering | | 9 (6) | 9 (6) |
| 計 Total | | 24 | 28 (9) | 28 (9) |

※(注)(　　) は女子で内数。(　):Number of Females within Total

（出典　平成21年度学校要覧　抜粋）

資料４－３－①－４

専攻科／Advanced Course

| 専攻 Course | 募集定員 Admission Capacity | 志願者数 Applicants | 入学者数 Enrollments |
|---|---|---|---|
| 機械システム工学コース Mechanical Systems Engineering | 24 | 14 | 12 |
| | | (0) | (0) |
| 電子通信システム工学コース Electronic Communication Systems Engineering | | 10 | 10 |
| | | (2) | (2) |
| 情報工学コース Information Engineering | | 5 | 4 |
| | | (1) | (0) |
| 生物資源工学コース Bioresources Engineering | | 12 | 11 |
| | | (5) | (5) |
| 計 Total | 24 | 41 | 37 |
| | | (8) | (7) |

(注)　(　　)は女子で内数。( ):Number of Females within Total

（出典　平成22年度学校要覧用学生課資料　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程では適正な入学定員の確保ができている。専攻科では入学者が定員を上回る状況である。 以上のことから，本校での準学士課程の入学定員に対する実入学者数の関係は適正であるが，専攻科課程の入学定員に対する実入学者数の関係は必ずしも適切とは言えない。

### （２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

入学者受入方針が募集要項，学校要覧，ホームページ，学校説明会等で各方面に周知されている。また，選抜方法の検証を行い，毎年その結果を次年度の入学者選抜の改善に役立てている。さらに，準学士課程の入学定員に対する実入学者数の関係は適切なものとなっている。

（改善を要する点）

専攻科課程において入学者数の適正人数を検討する必要がある。

### （３）基準４の自己評価の概要

本校の理念および目的に沿って入学者受入方針が定められており，募集要項，学校要覧，ホームページ，学校説明会等を通じて，社会に公表している。本校の入学者受入は，準学士課程については入学者受入方針に従って選抜をしている。学力試験および調査書に基づいた学力選抜，面接および調査書に基づいた推薦選抜，調査書と専門実習の試験および面接に基づいた専門実習選抜を行っている。編入学生選抜では，入学者受入方針に従って学力試験や口頭試問および面接により選抜を行っている。専攻科の入学選抜では，入学者受入方針に従って選抜をしている。学力試験および面接に基づいた学力選抜，面接および調査書に基づいた推薦選抜を行っている。

これらの入学者選抜については，受験者へのアンケート結果，成績の追跡調査結果，各選抜試験実施後の教員からの意見聴取結果などを踏まえて入試委員会で検証し，次年度の選抜試験の改善を行っている。その結果，準学士課程の学力選抜の判定基準の見直しや，面接方法の変更などを行った。また専門実習選抜も改善を実施している。

実入学者数と定員との関係は，準学士課程は適正であるが，専攻科課程において入学者数の適正人数を検討する必要がある。

## 基準５　教育内容及び方法

### （１）観点ごとの分析

＜準学士課程＞

**観点５－１－①：　教育の目的に照らして，授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば，一般科目及び専門科目のバランス，必修科目，選択科目等の配当等が考えられる。）され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものになっているか。**

（観点に係る状況）

教育課程は全学科で低学年に一般科目を多く配置し，学年が進むにつれて専門科目の比重が高まるくさび型の配置で編成されている。各学科の教育課程は低学年に一般科目と専門基礎科目を多く配置し，高学年に専門科目を多く配置している（資料５－１－①－１，資料５－１－①－２）。

本校の目的（資料５－１－①－３）を達成するために，本科教育目標を掲げ（資料５－１－①－４），一般科目と専門科目はこれら目標の達成を念頭において，基礎的な内容から発展・応用的内容へと体系的に配置されている（資料５－１－①－５）。

必修科目と選択科目については，低学年では一般科目の選択科目が配置され，高学年では専門科目と一般科目について選択科目が配置されている（資料５－１－①－１，資料５－１－①－２）。

授業の内容は，本科教育目標のいずれかの項目に沿うものとなっており，シラバスにその科目が対応する目標の番号や関連する他の科目が記されている（資料５－１－①－６，資料５－１－①－７）。

資料５－１－①－１

別表第1
(1)一般科目

| 授業科目 | | | 単位数 | 学年別配当 | | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | |
| 必修 | 国語 | 国語Ⅰ | 4 | 2 | 2 | | | | |
| | | 国語Ⅱ | 2 | | | 2 | | | |
| | | 文学概論Ⅰ | 1 | | | | 1 | | |
| | | 文学概論Ⅱ | 1 | | | | | 1 | |
| | | 科学技術文章 | 2 | | | | 1 | 1 | |
| | 英語 | 英語 | 9 | 3 | 3 | 2 | 1 | | |
| | | 実用英語(TOEIC) | 10 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | |
| | | 科学技術英語 | 6 | | | 1 | 2 | 3 | |
| | 社会科学 | 歴史学概論 | 2 | | 2 | | | | |
| | | 地理学概論 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 地域文化論 | 1 | | | | 1 | | |
| | | 技術者倫理 | 1 | | | | | 1 | |
| | 数学 | 基礎数学Ⅰ | 4 | 4 | | | | | |
| | | 基礎数学Ⅱ | 4 | 4 | | | | | |
| | | 微積分Ⅰ | 4 | | 4 | | | | |
| | | 微積分Ⅱ | 4 | | | 4 | | | |
| | | 線形代数 | 2 | | 2 | | | | |
| | | 確率・統計 | 1 | | | | 1 | | |
| | 自然科学 | 物理 | 4 | 2 | 2 | | | | |
| | | 化学 | 2 | 2 | | | | | |
| | | 生物 | 2 | | 2 | | | | |
| | | 地球科学 | 1 | | | | 1 | | |
| | | 環境科学 | 1 | | | 1 | | | |
| | 健康科学 | スポーツ実技Ⅰ | 5 | 2 | 2 | 1 | | | |
| | | 健康科学 | 1 | | | 1 | | | |
| | 修得単位計 | | 76 | 21 | 21 | 16 | 10 | 8 | |
| 選択 | 中国語Ⅰ | | 1 | 1 | | | | | |
| | 中国語Ⅱ | | 1 | | 1 | | | | |
| | 韓国語Ⅰ | | 1 | 1 | | | | | |
| | 韓国語Ⅱ | | 1 | | 1 | | | | |
| | フランス語Ⅰ | | 1 | | | 1 | | | |
| | フランス語Ⅱ | | 1 | | | | 1 | | |
| | ドイツ語Ⅰ | | 1 | | | 1 | | | |
| | ドイツ語Ⅱ | | 1 | | | | 1 | | |
| | スペイン語Ⅰ | | 1 | | | 1 | | | |
| | スペイン語Ⅱ | | 1 | | | | 1 | | |
| | 沖縄方言Ⅰ | | 1 | 1 | | | | | |
| | 沖縄方言Ⅱ | | 1 | | 1 | | | | |
| | 日本語 | | | | 2 | 2 | 1 | 1 | ※外国人留学生科目 |
| | 日本事情 | | | | 2 | 2 | 1 | 1 | |
| | 英語演習 | | 1 | | | | 1 | | |
| | 英会話Ⅰ | | 1 | | | 1 | | | |
| | 英会話Ⅱ | | 1 | | | | 1 | | |
| | 数学演習 | | 1 | | | | 1 | | |
| | 生命科学 | | 1 | | | | 1 | | |
| | 音楽 | | 1 | 1 | | | | | |
| | 美術 | | 1 | 1 | | | | | |
| | デザイン | | 1 | | 1 | | | | |
| | 特許法・法学 | | 1 | | | | | 1 | |
| | スポーツ実技Ⅱ | | 2 | | | | 1 | 1 | |
| | 開設単位計 | | 35 | 5 | 8 | 8 | 10 | 4 | |
| | 修得単位計 | | 4 | 1 | 1 | | 1 | 1 | |
| 開設単位合計 | | | 111 | 26 | 29 | 24 | 20 | 12 | |
| 修得単位合計 | | | 80 | 22 | 22 | 16 | 11 | 9 | |

別表第2
（1）機械システム工学科

| 授業科目 | | | 単位数 | 学年別配当 | | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | |
| 必修 | 全学共通専門科目 | 沖縄高専セミナー | 4 | 4 | | | | | |
| | | 情報技術の基礎 | 3 | 3 | | | | | |
| | | 創造演習 | 2 | | 2 | | | | |
| | | 産業創造セミナー | 2 | | | 2 | | | |
| | | インターンシップ | 3 | | | | 3 | | |
| | 基礎科目群 | プログラミングⅠ | 2 | | 2 | | | | |
| | | 応用数学Ⅰ | 2 | | | | 2 | | |
| | | 応用数学Ⅱ | 2 | | | | | 2 | |
| | | 応用物理 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 機械力学 | 3 | | | | 3 | | |
| | 材料システム群 | 材料加工システムⅠ | 3 | 3 | | | | | |
| | | 材料加工システムⅡ | 3 | | 3 | | | | |
| | | 材料加工システムⅢ | 3 | | | 3 | | | |
| | | 機械材料 | 3 | | | 3 | | | |
| | | CAD | 2 | | | 2 | | | |
| | | CAM | 2 | | | | 2 | | |
| | | 材料科学 | 2 | | | | 2 | | |
| | 設計システム群 | 機械設計基礎学Ⅰ | 2 | 2 | | | | | |
| | | 機械設計基礎学Ⅱ | 3 | | 3 | | | | |
| | | 材料力学設計Ⅰ | 2 | | 2 | | | | |
| | | 材料力学設計Ⅱ | 2 | | | 2 | | | |
| | | 総合構造設計 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 熱工学 | 3 | | | | 3 | | |
| | | 流体工学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 熱流体機器 | 2 | | | | | 2 | |
| | 制御システム群 | 電気・電子工学 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 制御工学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | メカトロニクス工学 | 3 | | | | | 3 | |
| | | 計測工学 | 2 | | | | | 2 | |
| | 共通群 | 機械システム工学実験Ⅰ | 3 | | | | 3 | | |
| | | 機械システム工学実験Ⅱ | 3 | | | | | 3 | |
| | | 卒業研究 | 6 | | | | | 6 | |
| | 修得単位計 | | 82 | 12 | 12 | 16 | 24 | 18 | |
| 選択 | 基礎科目群 | プログラミングⅡ | 2 | | | 2 | | | |
| | | 化学及び化学実験法 | 2 | | | 2 | | | |
| | 材料システム群 | CAE | 2 | | | | | 2 | |
| | 設計システム群 | エネルギー変換工学 | 2 | | | | | 2 | |
| | 制御システム群 | 生産工学 | 2 | | | | | 2 | |
| | | システム制御論 | 1 | | | | | 1 | |
| | | 知能制御論 | 1 | | | | | 1 | |
| | 共通群 | 創造研究* | 5 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | ＊ 各学年毎に単位取得可（最大5単位）。 |
| | 開設単位計 | | 17 | 1 | 1 | 5 | 1 | 9 | |
| | 修得単位計 | | 5 | | | 2 | | 3 | |
| 開設単位合計 | | | 99 | 13 | 13 | 21 | 25 | 27 | |
| 修得単位合計 | | | 87 | 12 | 12 | 18 | 24 | 21 | |

（2）情報通信システム工学科

| | | 授業科目 | 単位数 | 学年別配当 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 必修 | 全学共通専門科目 | 沖縄高専セミナー | 4 | 4 | | | | | |
| | | 情報技術の基礎 | 3 | 3 | | | | | |
| | | 創造演習 | 2 | | 2 | | | | |
| | | 産業創造セミナー | 2 | | | 2 | | | |
| | | インターンシップ | 3 | | | | 3 | | |
| | 基礎科目群 | 離散数学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 応用数学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 応用物理 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 情報通信工学実験基礎 | 1 | 1 | | | | | |
| | | 情報通信工学実験Ⅰ | 2 | | 2 | | | | |
| | | 情報通信工学実験Ⅱ | 2 | | | 2 | | | |
| | | 情報通信工学実験Ⅲ | 2 | | | | 2 | | |
| | | 計算機工学Ⅰ | 2 | 2 | | | | | |
| | | 計算機工学Ⅱ | 2 | | 2 | | | | |
| | | コンピュータアーキテクチャ | 2 | | | 2 | | | |
| | | プログラミング基礎Ⅰ | 2 | 2 | | | | | |
| | | プログラミング基礎Ⅱ | 2 | | 2 | | | | |
| | | 応用プログラミングⅠ | 2 | | | | 2 | | |
| | | 応用プログラミングⅡ | 4 | | | | | 4 | |
| | | 電気回路Ⅰ | 2 | | 2 | | | | |
| | | 電気回路Ⅱ | 2 | | | 2 | | | |
| | | 電磁気学Ⅰ | 2 | | | | 2 | | |
| | 情報通信工学群 | ネットワーク概論 | 2 | | 2 | | | | |
| | | 信号処理 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 情報理論 | 2 | | | | | 2 | |
| | | 通信工学Ⅰ | 2 | | | | 2 | | |
| | | 通信工学Ⅱ | 2 | | | | | 2 | |
| | 電子回路・集積工学群 | 半導体工学 | 1 | | | 1 | | | |
| | | 電子回路Ⅰ | 2 | | | 2 | | | |
| | | 電子回路Ⅱ | 2 | | | 2 | | | |
| | | 集積回路Ⅰ | 4 | | | | 4 | | |
| | | 集積回路Ⅱ | 4 | | | | | 4 | |
| | 計算機ソフトウェア群 | 計測工学 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 制御工学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | アルゴリズムとデータ構造 | 2 | | | 2 | | | |
| | 共通群 | 卒業研究 | 6 | | | | | 6 | |
| | 修得単位計 | | 84 | 12 | 12 | 17 | 25 | 18 | |
| 選択 | 基礎科目群 | 化学及び化学実験法 | 2 | | | | 2 | | |
| | 情報通信工学群 | 情報通信総合演習 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 電波電送学 | 2 | | | | | 2 | |
| | | 通信法規 | 1 | | | | | 1 | |
| | 計算機ソフトウェア群 | IT応用 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 人工知能 | 2 | | | | | 2 | |
| | | データベース | 2 | | | | | 2 | |
| | | 組込みシステム | 2 | | | | | 2 | |
| | | オペレーティングシステム | 2 | | | 2 | | | |
| | 電子回路・集積工学群 | 電磁気学Ⅱ | 2 | | | | | 2 | |
| | 共通群 | 創造研究* | 5 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | ＊ 各学年毎に単位取得可（最大5単位）。 |
| | 開設単位計 | | 24 | 1 | 1 | 5 | 5 | 12 | |
| | 修得単位計 | | 3 | | | 1 | | 2 | |
| 開設単位合計 | | | 108 | 13 | 13 | 22 | 30 | 30 | |
| 修得単位合計 | | | 87 | 12 | 12 | 18 | 25 | 20 | |

(3)メディア情報工学科

| 授業科目 | | | 単位数 | 学年別配当 | | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | |
| 必修 | 全学共通専門科目 | 沖縄高専セミナー | 4 | 4 | | | | | |
| | | 情報技術の基礎 | 3 | 3 | | | | | |
| | | 創造演習 | 2 | | 2 | | | | |
| | | 産業創造セミナー | 2 | | | 2 | | | |
| | | インターンシップ | 3 | | | | 3 | | |
| | 基礎科目群 | 離散数学 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 応用数学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 応用物理 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 情報理論 | 2 | | | | | 2 | |
| | | プログラミングⅠ | 2 | 2 | | | | | |
| | | コンピュータアーキテクチャ | 2 | | | 2 | | | |
| | メディア・コンテンツ群 | メディアコンテンツ基礎 | 3 | 3 | | | | | |
| | | メディア情報工学実験Ⅰ | 4 | | 4 | | | | |
| | | コンピュータグラフィックスⅠ | 4 | | | | 4 | | |
| | | コンピュータグラフィックスⅡ | 2 | | | | | 2 | |
| | | メディア情報工学実験Ⅱ | 2 | | | 2 | | | |
| | ソフトウェア群 | プログラミングⅡ | 4 | | 4 | | | | |
| | | プログラミングⅢ | 2 | | | 2 | | | |
| | | アルゴリズムとデータ構造 | 2 | | | 2 | | | |
| | | メディア情報工学実験Ⅳ | 2 | | | | 2 | | |
| | | OSとコンパイラ | 4 | | | | 4 | | |
| | ハードウェア群 | ディジタル回路 | 2 | | 2 | | | | |
| | | メディア情報工学実験Ⅲ | 2 | | | 2 | | | |
| | ネットワーク群 | 通信工学 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 情報セキュリティ | 2 | | | | | 2 | |
| | | コンピュータネットワークⅠ | 2 | | | 2 | | | |
| | | コンピュータネットワークⅡ | 2 | | | | | 2 | |
| | 共通群 | 卒業研究 | 6 | | | | | 6 | |
| | 修得単位計 | | 73 | 12 | 12 | 18 | 17 | 14 | |
| 選択 | 基礎科目群 | 化学及び化学実験法 | 2 | | | | 2 | | |
| | コンテンツ群 | メディアコンテンツ応用 | 2 | | | | | 2 | |
| | ソフトウェア群 | データベース | 2 | | | | | 2 | |
| | | オブジェクト指向言語Ⅰ | 2 | | | | 2 | | |
| | | オブジェクト指向言語Ⅱ | 2 | | | | | 2 | |
| | | 組み込みソフトウェア | 2 | | | | | 2 | |
| | | 計算機科学 | 2 | | | | 2 | | |
| | ハードウェア群 | ディジタルシステム設計 | 2 | | | | 2 | | |
| | | アナログ回路 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 制御とロボット | 2 | | | | | 2 | |
| | ネットワーク群 | 光通信方式 | 2 | | | | | 2 | |
| | | ネットワーキングⅠ | 2 | | | | 2 | | |
| | | ネットワーキングⅡ | 2 | | | | 2 | | |
| | | 信号処理とメディア通信 | 2 | | | | | 2 | |
| | 共通群 | 創造研究＊ | 5 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | ＊ 各学年毎に単位取得可(最大5単位)。 |
| | 開設単位計 | | 33 | 1 | 1 | 1 | 15 | 15 | |
| | 修得単位計 | | 14 | | | | 6 | 8 | |
| 開設単位合計 | | | 106 | 13 | 13 | 19 | 32 | 29 | |
| 修得単位合計 | | | 87 | 12 | 12 | 18 | 23 | 22 | |

（4）生物資源工学科

| 授業科目 | | | 単位数 | 学年別配当 | | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | |
| 必修 | 全学共通専門科目 | 沖縄高専セミナー | 4 | 4 | | | | | |
| | | 情報技術の基礎 | 3 | 3 | | | | | |
| | | 創造演習 | 2 | | 2 | | | | |
| | | 産業創造セミナー | 2 | | | 2 | | | |
| | | インターンシップ | 3 | | | | 3 | | |
| | 基礎科目群 | 応用物理 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 応用数学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | プログラミングⅠ | 2 | 2 | | | | | |
| | 生物化学工学群 | 有機・物理化学 | 4 | | 4 | | | | |
| | | 生物分析化学 | 2 | | 2 | | | | |
| | | 生物有機化学 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 生化学 | 3 | | | 3 | | | |
| | | 生化学実験 | 1 | | | 1 | | | |
| | | 遺伝子工学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 遺伝子工学実験 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 生物工学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 生物工学実験 | 2 | | | | 2 | | |
| | 環境・微生物学群 | 微生物学 | 3 | | 3 | | | | |
| | | 微生物学実験 | 1 | | 1 | | | | |
| | | 発酵学 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 環境学 | 1 | | | 1 | | | |
| | | 環境学実験 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 環境分析学 | 2 | | | | 2 | | |
| | 食品化学工学群 | 生物資源利用学Ⅰ | 2 | | | | 2 | | |
| | | 生理学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 生理学実験 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 食品プロセス工学 | 4 | | | | | 4 | |
| | | 食品製造学 | 2 | | | | | 2 | |
| | 共通群 | バイオテクノロジー基礎実験 | 3 | 3 | | | | | |
| | | 卒業研究 | 6 | | | | | 6 | |
| | 修得単位計 | | 72 | 12 | 12 | 15 | 21 | 12 | |
| 選択 | 基礎科目群 | IT応用 | 2 | | | 2 | | | |
| | | プログラミングⅡ | 2 | | | 2 | | | |
| | 生物化学工学群 | 分子生物学 | 2 | | | | | 2 | |
| | | 細胞工学 | 2 | | | | | 2 | |
| | | 同位元素利用学 | 2 | | | | | 2 | |
| | 環境・微生物学群 | 環境保全学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 生物資源保護管理学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 資源リサイクル学 | 2 | | | | | 2 | |
| | 食品化学工学群 | 生物資源利用学Ⅱ | 2 | | | | | 2 | |
| | | タンパク質工学 | 2 | | | | | 2 | |
| | 共通群 | 創造研究* | 5 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | * 各学年毎に単位取得可（最大5単位）。 |
| | 開設単位計 | | 25 | 1 | 1 | 5 | 5 | 13 | |
| | 修得単位計 | | 15 | | | 3 | 3 | 9 | |
| 開設単位合計 | | | 97 | 13 | 13 | 20 | 26 | 25 | |
| 修得単位合計 | | | 87 | 12 | 12 | 18 | 24 | 21 | |

（出典　沖縄工業高等専門学校学則　抜粋）

資料５－１－①－２

学年別修得単位数
各学科の修得単位数について、専門科目の率は以下のとおりである

| | 一般科目 | | 機械システム工学科 | | | 情報通信システム工学科 | | | メディア情報工学科 | | | 生物資源工学科 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 必修 | 選択 | 必修 | 選択 | 専門率 | 必修 | 選択 | 専門率 | 必修 | 選択 | 専門率 | 必修 | 選択 | 専門率 |
| | (a) | (b) | (c) | (d) | (★) | (c) | (d) | (★) | (c) | (d) | (★) | (c) | (d) | (★) |
| 第1学年 | 21 | 1 | 12 | 0 | 35.3 | 12 | 0 | 35.3 | 12 | 0 | 35.3 | 12 | 0 | 35.3 |
| 第2学年 | 21 | 1 | 12 | 0 | 35.3 | 12 | 0 | 35.3 | 12 | 0 | 35.3 | 12 | 0 | 35.3 |
| 第3学年 | 16 | 0 | 16 | 2 | 52.9 | 17 | 1 | 52.9 | 18 | 0 | 52.9 | 15 | 3 | 52.9 |
| 第4学年 | 10 | 1 | 24 | 0 | 68.6 | 25 | 0 | 69.4 | 17 | 6 | 67.6 | 21 | 3 | 68.6 |
| 第5学年 | 8 | 1 | 18 | 3 | 70.0 | 18 | 2 | 69.0 | 14 | 8 | 71.0 | 12 | 9 | 70.0 |

★専門率 ＝ $\frac{c+d}{a+b+c+d}\times 100$

（出典　自己点検・評価委員会資料）

資料５－１－①－３

# 沖 縄 工 業 高 等 専 門 学 校 学 則

平成１６年 ４ 月 １ 日
学　　則　　第 １ 号
改正　平成１９年 ３ 月３０日
学　　則　　第 １ 号
平成２０年 ３ 月３１日
学　　則　　第 １ 号
平成２０年 ８ 月２０日
学　　則　　第 ２ 号
平成２１年 ２ 月１８日
学　　則　　第 １ 号
平成２２年 ３ 月１７日
学　　則　　第 １ 号

目次

第１章　本校の理念及び目的（第１条－第１条の２）
第２章　教育研究水準の向上（第２条－第４条）
第３章　組織（第５条－第１１条の４）
第４章　修業年限、学年、学期、休業日及び授業終始の時刻（第１２条－第１６条）
第５章　教育課程等（第１７条－第２３条）
第６章　入学、転科、休学、転学、留学及び卒業（第２４条－第４０条）
第７章　検定料、入学料、授業料及び寄宿料（第４１条－第４９条）
第８章　外国人留学生（第５０条）
第９章　研究生、聴講生及び科目等履修生（第５１条－第５３条）
第 10 章　学生準則及び賞罰（第５４条－第５７条）
第 11 章　専攻科（第５８条－第６８条）
第 12 章　学生寮（第６９条）
第 13 章　公開講座（第７０条）
附則

## 第１章　本校の理念及び目的

（理念）

**第１条**　沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与することを理念とする。

（目的）

**第１条の２**　本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

## 第２章　教育研究水準の向上

（自己評価等）

**第２条**　本校の目的及び社会的使命を達成するため、本校における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

２　前項の点検及び評価の実施に関し必要な事項は、別に定める。

３　本校は、第１項の点検及び評価の結果について、本校の職員以外の者による検証を行うも

（出典　沖縄工業高等専門学校学則　抜粋）

資料５－１－①－４

## Ⅰ　沖縄高専の教育目標

本校は，学則第１条の２において次のように目的を定めています。

「本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」

この目標を達成するために、本科及び専攻科の教育目標を次のように定めています。

＜本科教育目標＞

１．　技術者に必要な基礎知識を備え実践力のある人材を育成する
２．　創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する
３．　専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する
４．　広い視野と倫理観を備えた人材を育成する

＜専攻科教育目標＞

１．　知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する
２．　想像力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する
３．　専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する
４．　地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する

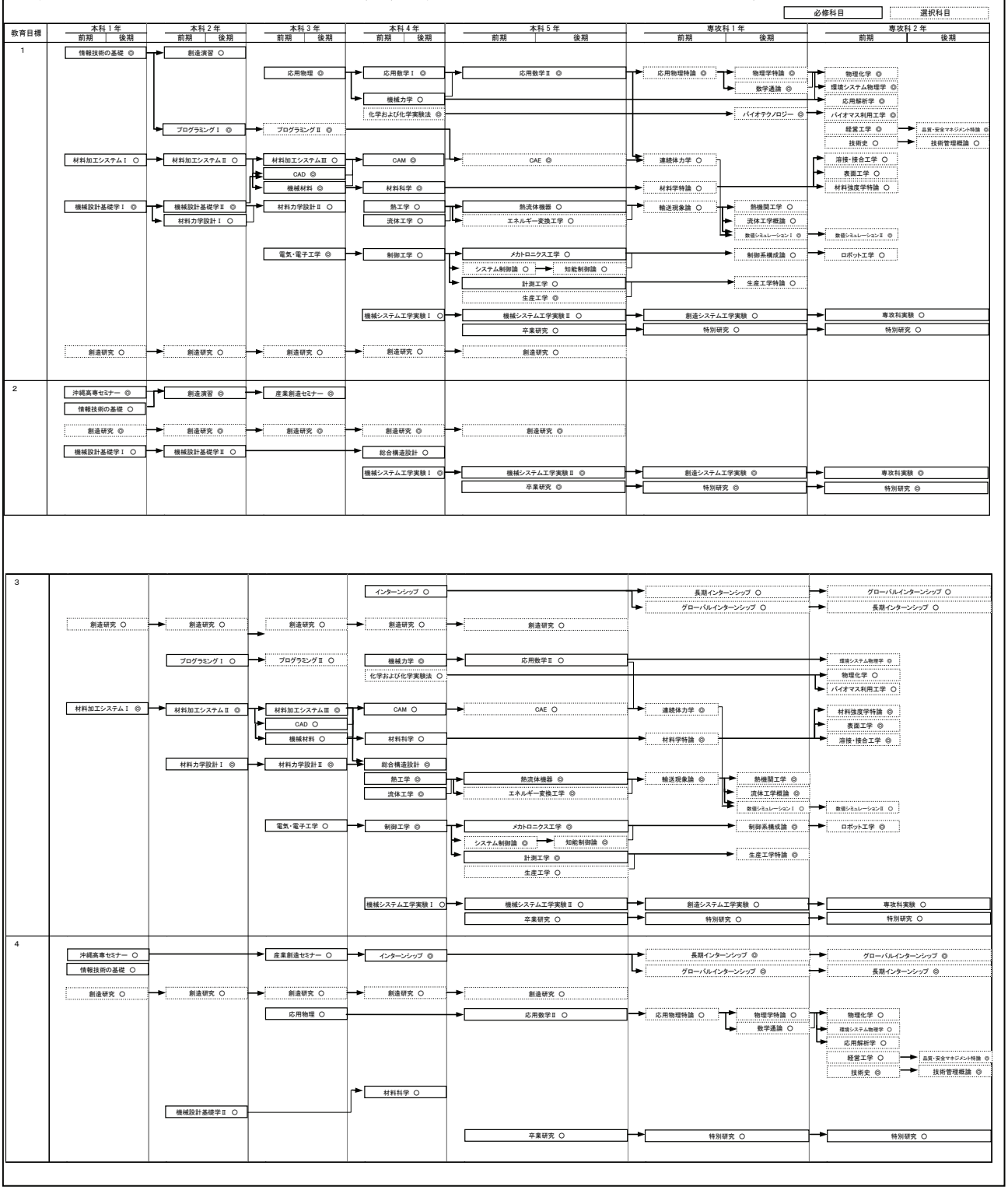
（出典　学生生活の手引き　P. １抜粋）

資料５－１－①－５

教育目標と専門科目の関連図【機械システム工学科、機械システム工学コース】

| 本科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する |
| 2 | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 4 | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

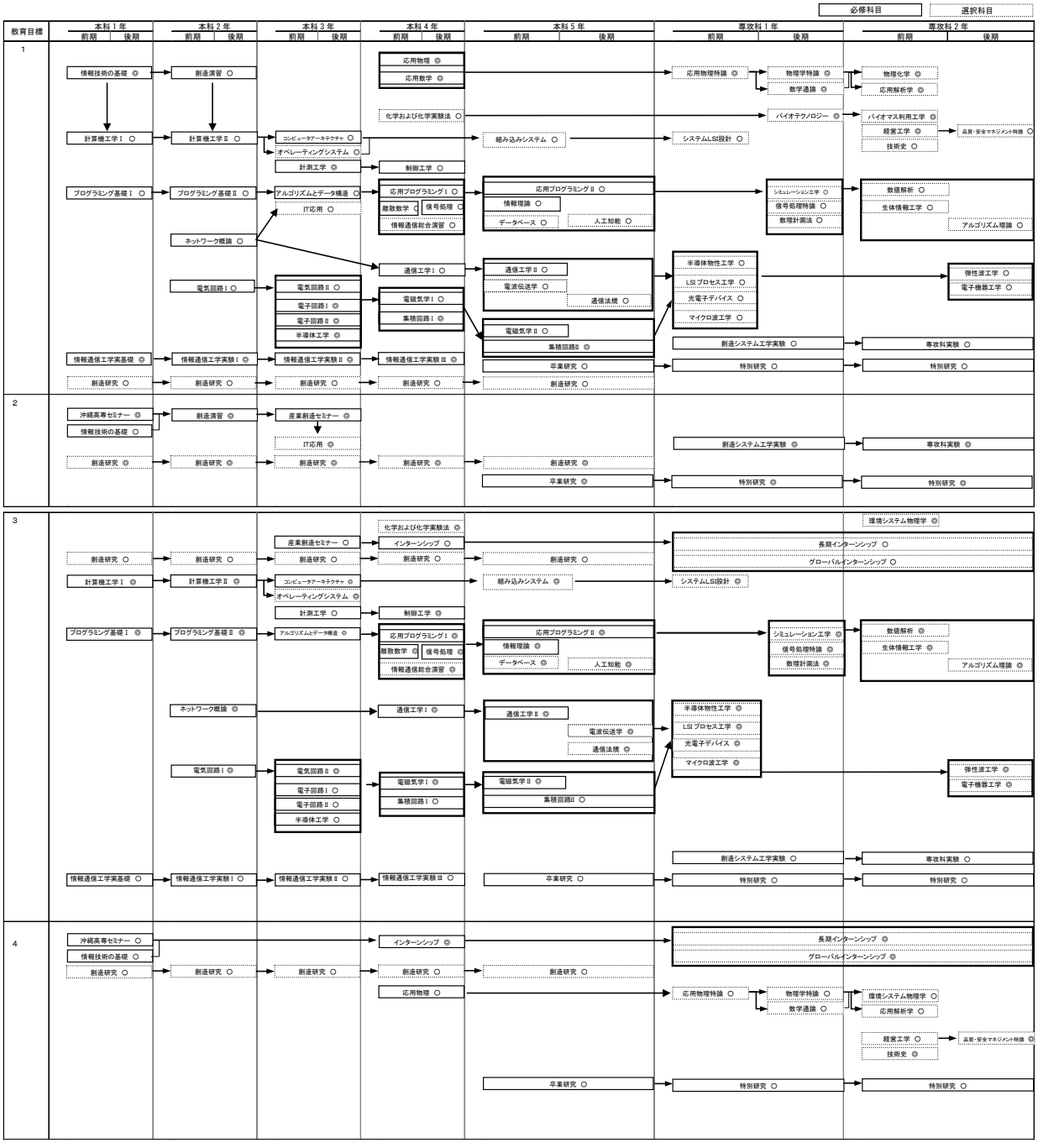
| 専攻科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する |
| 2 | 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する |
| 4 | 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する |



教育目標と専門科目の関連図【情報通信システム工学科、電子通信システム工学コース】

| 本科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する |
| 2 | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 4 | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

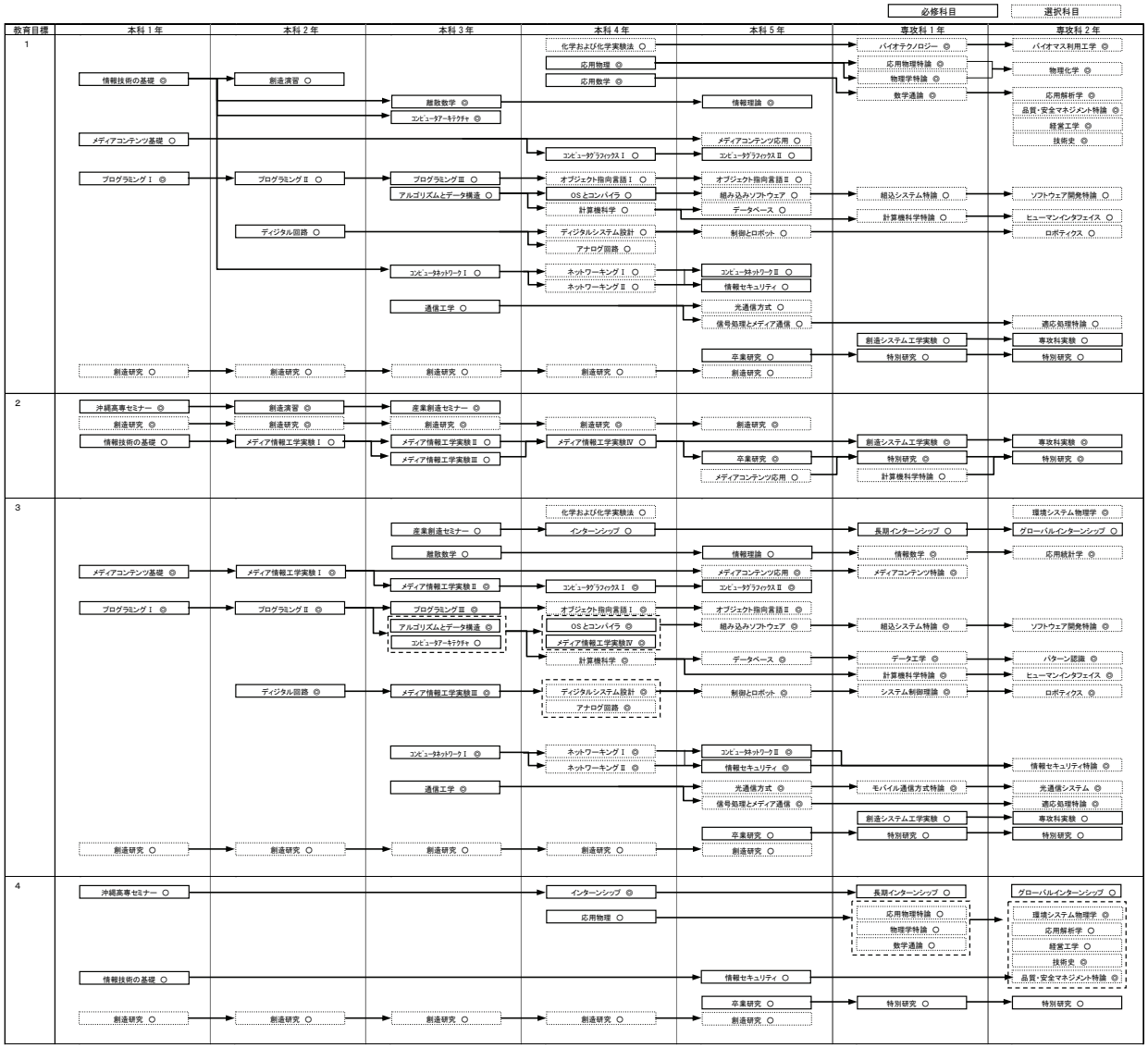
| 専攻科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する |
| 2 | 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する |
| 4 | 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する |



教育目標と専門科目の関連図【メディア情報工学科、情報工学コース】

| 本科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する |
| 2 | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 4 | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

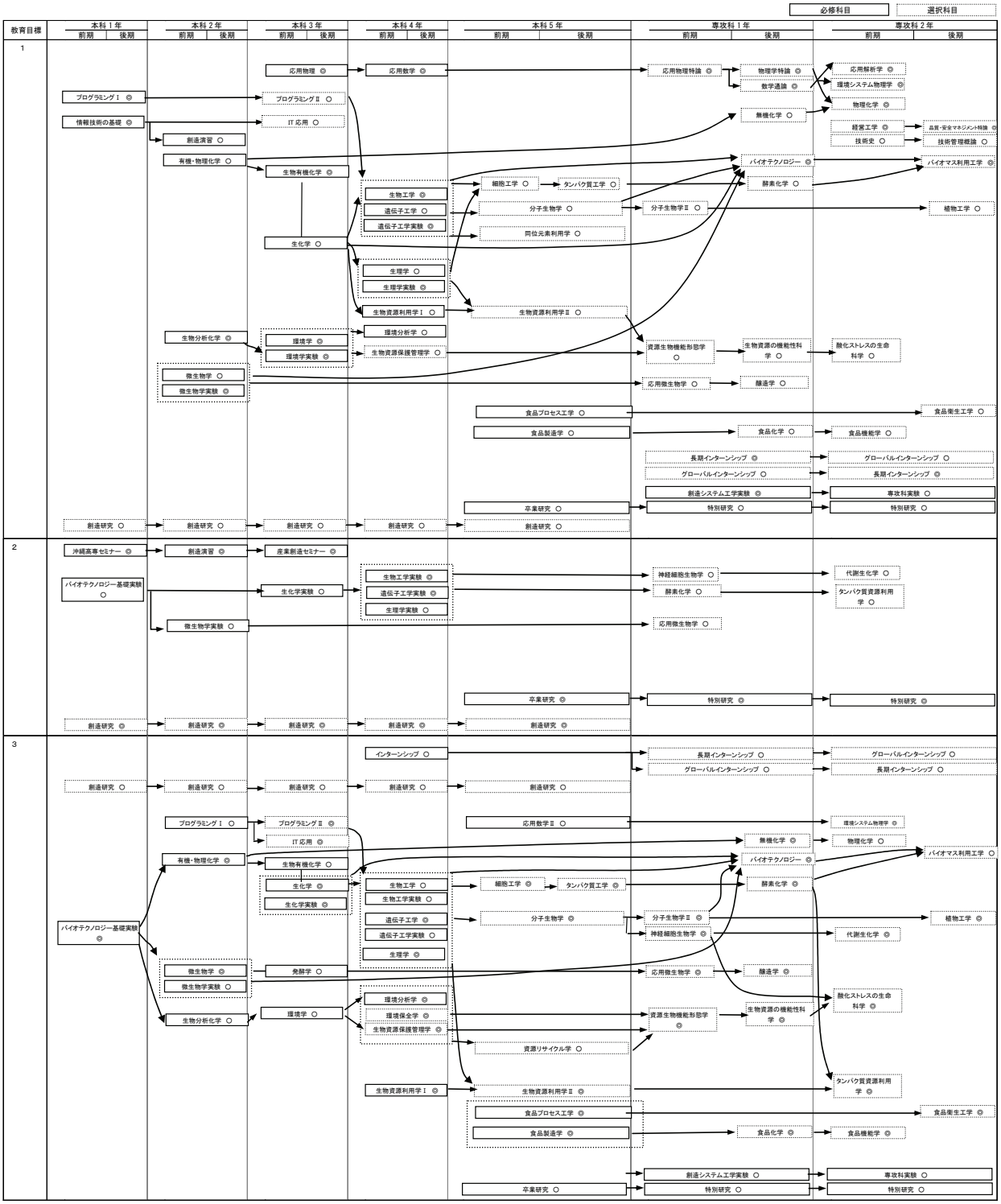
| 専攻科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する |
| 2 | 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する |
| 4 | 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する |

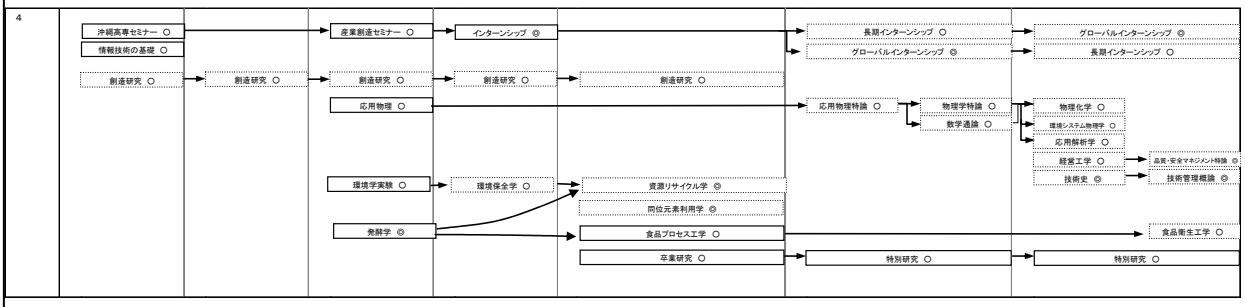


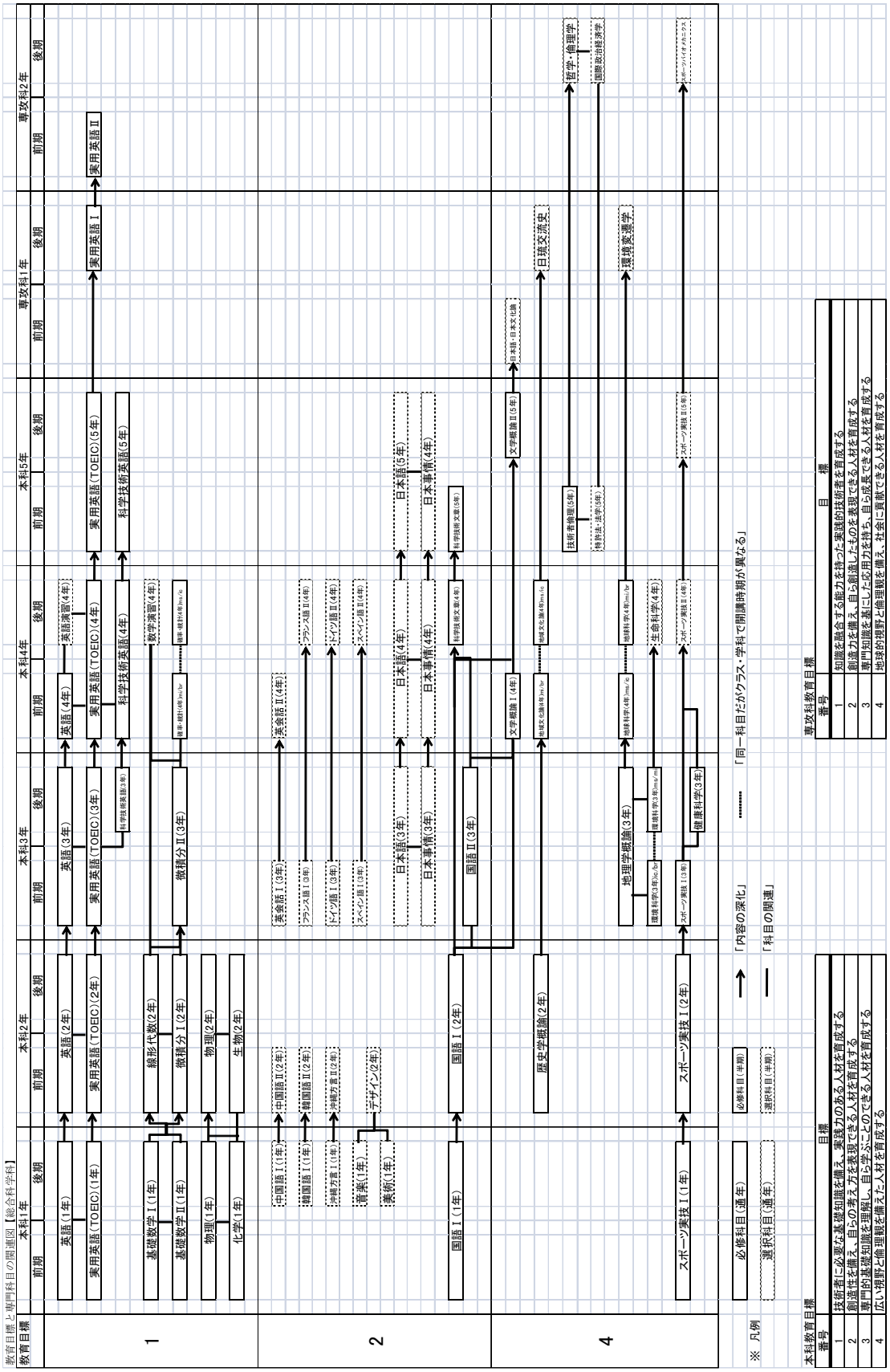
教育目標と専門科目の関連図【生物資源工学科、生物資源工学コース】

| 本科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する |
| 2 | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 4 | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

| 専攻科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する |
| 2 | 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する |
| 4 | 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する |




4
沖縄高専セミナー ○
情報技術の基礎 ○
創造研究 ○
創造研究 ○
産業創造セミナー ○
創造研究 ○
応用物理 ○
環境学実験 ○
発酵学 ◎
インターンシップ ◎
創造研究 ○
環境保全学 ○
創造研究 ○
資源リサイクル学 ◎
同位元素利用学 ◎
食品プロセス工学 ○
卒業研究 ○
長期インターンシップ ○
グローバルインターンシップ ◎
応用物理特論 ○
物理学特論 ○
数学通論 ○
特別研究 ○
グローバルインターンシップ ◎
長期インターンシップ ○
物理化学 ○
環境システム物理学 ○
応用解析学 ○
経営工学 ○
技術史 ◎
品質・安全マネジメント特論 ◎
技術管理概論 ◎
食品衛生工学 ○
特別研究 ○


教育目標と専門科目の関連図【総合科学科】
教育目標
本科1年
本科2年
本科3年
本科4年
本科5年
専攻科1年
専攻科2年
前期
後期
1
2
4
英語（1年）
実用英語（TOEIC）(1年)
基礎数学Ⅰ(1年)
基礎数学Ⅱ(1年)
物理(1年)
化学(1年)
国語Ⅰ(1年)
沖縄方言Ⅰ(1年)
書道(1年)
美術(1年)
スポーツ実技Ⅰ(1年)
英語（2年）
実用英語（TOEIC）(2年)
線形代数(2年)
微積分Ⅰ(2年)
物理(2年)
生物(2年)
デザイン(2年)
国語Ⅰ(2年)
歴史学概論(2年)
スポーツ実技Ⅰ(2年)
中国語Ⅰ(2年)
韓国語Ⅰ(2年)
沖縄方言Ⅱ(2年)
英語（3年）
実用英語（TOEIC）(3年)
科学技術英語(3年)
微積分Ⅱ(3年)
国語Ⅱ(3年)
日本語(3年)
日本事情(3年)
地理学概論(3年)
環境科学3年
国際科学3年
健康科学3年
英会話Ⅰ(3年)
フランス語Ⅰ(3年)
ドイツ語Ⅰ(3年)
スペイン語Ⅰ(3年)
英語（4年）
実用英語（TOEIC）(4年)
科学技術英語(4年)
数学演習(4年)
微積・線形4年
日本語(4年)
日本事情(4年)
科学技術英文章(4年)
文学概論Ⅰ(4年)
地域文化論4年
地球科学4年
生命科学(4年)
スポーツ実技Ⅱ(4年)
英会話Ⅱ(4年)
フランス語Ⅱ(4年)
ドイツ語Ⅱ(4年)
スペイン語Ⅱ(4年)
日本語(5年)
日本事情(4年)
科学技術英文章(5年)
文学概論Ⅱ(5年)
地域文化論5年
技術者倫理(5年)
情報化法・法学(5年)
スポーツ実技Ⅱ(5年)
実用英語Ⅰ
科学技術英語(5年)
実用英語Ⅱ
日本語・日本文化論
日琉交流史
環境変遷学
哲学・倫理学
国際政治経済学
必修科目（通年）
選択科目（通年）
必修科目（半期）
選択科目（半期）
「内容の深化」
「科目の関連」
「同一科目だがクラス・学科で開講時期が異なる」
※　凡例
本科教育目標
番号
目標
1
技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する
2
創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する
3
専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する
4
広い視野と倫理観を備えた人材を育成する
専攻科教育目標
番号
目標
1
知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する
2
創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する
3
専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する
4
地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する

(出典　教務委員会資料)

資料５－１－①－６

本科教育目標と専門科目との対応表 【機械システム工学科】

本科教育目標

| 番号 | 目標 |
|---|---|
| 1 | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する |
| 2 | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 4 | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

機械システム工学科(平成22年度入学用)

| 授業科目 | | | 教育目標 番号 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 必修 | 全学共通専門科目 | **沖縄高専セミナー(1年)** | | ◎ | | ○ |
| | | **情報技術の基礎(1年)** | ◎ | ○ | | ○ |
| | | **創造演習(2年)** | ○ | ◎ | | |
| | | **産業創造セミナー(3年)** | | ◎ | | ○ |
| | | **インターンシップ(4年)** | | | ○ | ◎ |
| | 基礎科目群 | プログラミングⅠ(2年) | ◎ | | ○ | |
| | | 応用数学Ⅰ(4年) | ◎ | | | |
| | | 応用数学Ⅱ(5年) | ◎ | | ○ | ○ |
| | | 応用物理(3年) | ◎ | | | ○ |
| | | 機械力学(4年) | ○ | | ◎ | |
| | 材料システム群 | 材料加工システムⅠ(1年) | ○ | | ◎ | |
| | | 材料加工システムⅡ(2年) | ○ | | ◎ | |
| | | 材料加工システムⅢ(3年) | ○ | | ◎ | |
| | | 機械材料(3年) | ◎ | | ○ | |
| | | CAD(3年) | ◎ | | ○ | |
| | | CAM(4年) | ◎ | | ○ | |
| | | 材料科学(4年) | ◎ | | ○ | ○ |
| | 設計システム群 | 機械設計基礎学Ⅰ(1年) | ◎ | ○ | | |
| | | 機械設計基礎学Ⅱ(2年) | ◎ | ○ | | ○ |
| | | 材料力学設計Ⅰ(2年) | ○ | | ◎ | |
| | | 材料力学設計Ⅱ(3年) | ○ | | ◎ | |
| | | 総合構造設計(4年) | | ○ | ◎ | |
| | | 熱工学(4年) | ○ | | ◎ | |
| | | 流体工学(4年) | ○ | | ◎ | |
| | | 熱流体機器(5年) | ○ | | ◎ | |
| | システム制御群 | 電気・電子工学(3年) | ◎ | | ○ | |
| | | 制御工学(4年) | ○ | | ◎ | |
| | | メカトロニクス工学(5年) | ○ | | ◎ | |
| | | 計測工学(5年) | ○ | | ◎ | |
| | 共通群 | 機械システム工学実験Ⅰ(4年) | ○ | ◎ | ○ | |
| | | 機械システム工学実験Ⅱ(5年) | ○ | ◎ | ○ | |
| | | **卒業研究(5年)** | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 選択 | 基礎科目群 | プログラミングⅡ(3年) | ◎ | | ○ | |
| | | 化学及び化学実験法(3年) | ○ | | ◎ | |
| | 材料システム群 | CAE(5年) | ◎ | | ○ | |
| | 設計システム群 | エネルギー変換工学(5年) | ○ | | ◎ | |
| | システム制御群 | 生産工学(5年) | ◎ | | ○ | |
| | | システム制御論(5年) | ○ | | ◎ | |
| | | 知能制御論(5年) | ○ | | ◎ | |
| | 共通群 | **創造研究(1～5年)** | ○ | ◎ | ○ | ○ |

本科教育目標と専門科目との対応表【情報通信システム】

本科教育目標

| 番号 | 目標 |
|---|---|
| 1 | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する |
| 2 | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 4 | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

情報通信システム工学科（平成22年度入学用）

| 授業科目 | | | 教育目標 番号 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 必修 | 全科目共通専門 | **沖縄高専セミナー（1年）** | | ◎ | | ○ |
| | | **情報技術の基礎（1年）** | ◎ | ○ | | ○ |
| | | **創造演習（2年）** | ○ | ◎ | | |
| | | **産業創造セミナー（3年）** | | ◎ | ○ | |
| | | **インターンシップ（4年）** | | | ○ | ◎ |
| | 基礎科目群 | 離散数学(4年) | ○ | | ◎ | |
| | | 応用数学(4年) | ◎ | | | |
| | | 応用物理(4年) | ◎ | | | ○ |
| | | 情報通信工学実験基礎(1年) | ◎ | | ○ | |
| | | 情報通信工学実験Ⅰ(2年) | ◎ | | ○ | |
| | | 情報通信工学実験Ⅱ(3年) | ◎ | | ○ | |
| | | 情報通信工学実験Ⅲ(4年) | ◎ | | ○ | |
| | | 計算機工学Ⅰ(1年) | ○ | | ◎ | |
| | | 計算機工学Ⅱ(2年) | ○ | | ◎ | |
| | | コンピュータアーキテクチャ(3年) | ○ | | ◎ | |
| | | プログラミング基礎Ⅰ(1年) | ○ | | ◎ | |
| | | プログラミング基礎Ⅱ(2年) | ○ | | ◎ | |
| | | 応用プログラミングⅠ(4年) | ○ | | ◎ | |
| | | 応用プログラミングⅡ(5年) | ○ | | ◎ | |
| | | 電気回路Ⅰ(2年) | ○ | | ◎ | |
| | | 電気回路Ⅱ(3年) | ○ | | ◎ | |
| | | 電磁気学Ⅰ(4年) | ○ | | ◎ | |
| | 情報通信工学群 | ネットワーク概論(2年) | ○ | | ◎ | |
| | | 信号処理(4年) | ○ | | ◎ | |
| | | 情報理論(5年) | ○ | | ◎ | |
| | | 通信工学Ⅰ(4年) | ○ | | ◎ | |
| | | 通信工学Ⅱ(5年) | ○ | | ◎ | |
| | 電子回路・集積回路工学群 | 半導体工学(3年) | ◎ | | ○ | |
| | | 電子回路Ⅰ(3年) | ◎ | | ○ | |
| | | 電子回路Ⅱ(3年) | ◎ | | ○ | |
| | | 集積回路Ⅰ(4年) | ◎ | | ○ | |
| | | 集積回路Ⅱ(5年) | ◎ | | ○ | |
| | 計算機ソフトウェア群 | 計測工学(3年) | ◎ | | ○ | |
| | | 制御工学(4年) | ○ | | ◎ | |
| | | アルゴリズムとデータ構造(3年) | ○ | | ◎ | |
| | 共通群 | **卒業研究（5年）** | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 選択 | 基礎科目 | 化学及び化学実験法(4年) | ○ | | ◎ | |
| | 情報通信工学群 | 情報通信総合演習(4年) | ○ | | ◎ | |
| | | 電波電送学(5年) | ○ | | ◎ | |
| | | 通信法規(5年) | ○ | | ◎ | |
| | 計算機ソフトウェア群 | IT応用(3年) | ○ | ◎ | | |
| | | 人工知能(5年) | ○ | | ◎ | |
| | | データベース(5年) | ○ | | ◎ | |
| | | 組込みシステム(5年) | ○ | | ◎ | |
| | | オペレーティングシステム(3年) | ○ | | ◎ | |
| | 電子回路・集積回路工学群 | 電磁気学Ⅱ(5年) | | | | |
| | 共通群 | **創造研究（1～5年）** | ○ | ◎ | ○ | ○ |

本科教育目標と専門科目との対応表 【メディア情報工学科】

本科教育目標

| 番号 | 目標 |
|---|---|
| 1 | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する |
| 2 | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 4 | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

メディア情報工学科(平成22年度入学用)

| 授業科目 | | | 教育目標 番号 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 必修 | 全学共通科目 | 沖縄高専セミナー(1年) | | ◎ | | ○ |
| | | 情報技術の基礎(1年) | ◎ | ○ | | ○ |
| | | 創造演習(2年) | ○ | ◎ | | |
| | | 産業創造セミナー(3年) | | ◎ | ○ | |
| | | インターンシップ(4年) | | | ○ | ◎ |
| | 基礎科目群 | 離散数学(3年) | ◎ | | ○ | |
| | | 応用数学(4年) | ◎ | | | |
| | | 応用物理(4年) | ◎ | | | ○ |
| | | 情報理論(5年) | ◎ | | ○ | |
| | | プログラミングⅠ(1年) | ◎ | | ○ | |
| | | コンピュータアーキテクチャ(3年) | ◎ | | ○ | |
| | メディア・コンテンツ群 | メディアコンテンツ基礎(1年) | ○ | | ◎ | |
| | | メディア情報工学実験Ⅰ(2年) | | ○ | ◎ | |
| | | コンピュータグラフィックスⅠ(4年) | ○ | | ◎ | |
| | | コンピュータグラフィックスⅡ(5年) | ○ | | ◎ | |
| | | メディア情報工学実験Ⅱ(3年) | | ○ | ◎ | |
| | ソフトウェア群 | プログラミングⅡ(2年) | ○ | | ◎ | |
| | | プログラミングⅢ(3年) | ○ | | ◎ | |
| | | アルゴリズムとデータ構造(3年) | ○ | | ◎ | |
| | | メディア情報工学実験Ⅳ(4年) | | ○ | ◎ | |
| | | OSとコンパイラ(4年) | ○ | | ◎ | |
| | ハードウェア群 | ディジタル回路(2年) | ○ | | ◎ | |
| | | メディア情報工学実験Ⅲ(3年) | | ○ | ◎ | |
| | ネットワーク群 | 通信工学(3年) | ○ | | ◎ | |
| | | 情報セキュリティ(5年) | ○ | | ◎ | ○ |
| | | コンピュータネットワークⅠ(3年) | ○ | | ◎ | |
| | | コンピュータネットワークⅡ(5年) | ○ | | ◎ | |
| | 共通群 | 卒業研究(5年) | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 選択 | 基礎科目群 | 化学及び化学実験法(4年) | ○ | | ◎ | |
| | メディア・コンテンツ群 | メディアコンテンツ応用(5年) | | ○ | ◎ | |
| | ソフトウェア群 | データベース(5年) | ○ | | ◎ | |
| | | オブジェクト指向言語Ⅰ(4年) | ○ | | ◎ | |
| | | オブジェクト指向言語Ⅱ(5年) | ○ | | ◎ | |
| | | 組み込みソフトウェア(5年) | ○ | | ◎ | |
| | | 計算機科学(4年) | ○ | | ◎ | |
| | ハードウェア群 | ディジタルシステム設計(4年) | ○ | | ◎ | |
| | | アナログ回路(4年) | ○ | | ◎ | |
| | | 制御とロボット(5年) | ○ | | ◎ | |
| | ネットワーク群 | 光通信方式(5年) | ○ | | ◎ | |
| | | ネットワーキングⅠ(4年) | ○ | | ◎ | |
| | | ネットワーキングⅡ(4年) | ○ | | ◎ | |
| | | 信号処理とメディア通信(5年) | ○ | | ◎ | |
| | 共通群 | 創造研究(1～5年) | ○ | ◎ | ○ | ○ |

本科教育目標と専門科目との対応表 【生物資源工学科】

本科教育目標

| 番号 | 目標 |
|---|---|
| 1 | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する |
| 2 | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 4 | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

生物資源工学科(平成22年度入学用)

| 授業科目 | | | 教育目標 番号 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 必修 | 全学共通専門科目 | **沖縄高専セミナー(1年)** | | ◎ | | ○ |
| | | **情報技術の基礎(1年)** | ◎ | ○ | | ○ |
| | | **創造演習(2年)** | ○ | ◎ | | |
| | | **産業創造セミナー(3年)** | | ○ | ◎ | |
| | | **インターンシップ(4年)** | | | ○ | ◎ |
| | 基礎科目群 | 応用物理(3年) | ◎ | | | ○ |
| | | 応用数学(4年) | ◎ | | | |
| | | プログラミングⅠ(1年) | ◎ | | ○ | |
| | 生物化学工学群 | 有機・物理化学(2年) | ○ | | ◎ | |
| | | 生物分析化学(2年) | ◎ | | ○ | |
| | | 生物有機化学(3年) | ◎ | | ○ | |
| | | 生化学(3年) | ○ | | ◎ | |
| | | 生化学実験(3年) | | ○ | ◎ | |
| | | 遺伝子工学(4年) | ○ | | ◎ | |
| | | 遺伝子工学実験(4年) | ◎ | ○ | ○ | |
| | | 生物工学(4年) | ◎ | | ○ | |
| | | 生物工学実験(4年) | ◎ | ○ | ○ | |
| | 環境・微生物学群 | 微生物学(2年) | ○ | | ◎ | |
| | | 微生物学実験(2年) | ◎ | ○ | ○ | |
| | | 発酵学(3年) | | | ○ | ◎ |
| | | 環境学(3年) | ◎ | | ○ | |
| | | 環境学実験(3年) | ◎ | | | ○ |
| | | 環境分析学(4年) | ○ | | ◎ | |
| | 食品化学工学群 | 生物資源利用学(4年)Ⅰ | ○ | | ◎ | |
| | | 生理学(4年) | ○ | | ◎ | |
| | | 生理学実験(4年) | ◎ | ○ | | |
| | | 食品プロセス工学(5年) | ○ | | ◎ | ○ |
| | | 食品製造学(5年) | ○ | | ◎ | |
| | 共通群 | バイオテクノロジー基礎実験(1年) | | ○ | ◎ | |
| | | **卒業研究(5年)** | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 選択 | 基礎科目群 | ＩＴ応用(3年) | ○ | | ◎ | |
| | | プログラミングⅡ(3年) | ○ | | ◎ | |
| | 生物化学工学群 | 分子生物学(5年) | ○ | | ◎ | |
| | | 細胞工学(5年) | ○ | | ◎ | |
| | | 同位元素利用学(5年) | ○ | | | ◎ |
| | 環境・微生物学群 | 環境保全学(4年) | | | ◎ | ○ |
| | | 生物資源保護管理学(4年) | ○ | | ◎ | |
| | | 資源リサイクル学(5年) | | | ○ | ◎ |
| | 食品化学工学群 | 生物資源利用学Ⅱ(5年) | ○ | | ◎ | |
| | | タンパク質工学(5年) | ○ | | ◎ | |
| | 共通群 | **創造研究(1～5年)** | ○ | ◎ | ○ | ○ |

本科教育目標と専門科目との対応表【総合科学科】

本科教育目標

| 番号 | 目標 |
|---|---|
| 1 | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する |
| 2 | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 4 | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

総合科学科(平成22年度入学用)

| 授業科目 | | | 教育目標 番号 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 必修 | 国語 | 国語Ⅰ(1年) | ○ | ◎ | | ○ |
| | | 国語Ⅰ(2年) | ○ | ◎ | | ○ |
| | | 国語Ⅱ(3年) | ○ | ◎ | | ○ |
| | | 文学概論Ⅰ(4年) | ○ | ○ | | ◎ |
| | | 文学概論Ⅱ(5年) | ○ | ○ | | ◎ |
| | | 科学技術文章(4年) | ○ | ◎ | | ○ |
| | | 科学技術文章(5年) | ○ | ◎ | | ○ |
| | 英語 | 英語(1年) | ◎ | ○ | ○ | |
| | | 英語(2年) | ◎ | ○ | ○ | |
| | | 英語(3年) | ◎ | ○ | ○ | |
| | | 英語(4年) | ◎ | ○ | ○ | |
| | | 実用英語(TOEIC)(1年) | ◎ | ○ | ○ | |
| | | 実用英語(TOEIC)(2年) | ◎ | ○ | ○ | |
| | | 実用英語(TOEIC)(3年) | ◎ | ○ | ○ | |
| | | 実用英語(TOEIC)(4年) | ◎ | ○ | ○ | |
| | | 実用英語(TOEIC)(5年) | ◎ | ○ | ○ | |
| | | 科学技術英語(1年) | ◎ | ○ | | |
| | | 科学技術英語(2年) | ◎ | ○ | | |
| | | 科学技術英語(3年) | ◎ | ○ | | |
| | 社会科学 | 歴史学概論(2年) | ○ | ○ | ○ | ◎ |
| | | 地理学概論(3年) | | ○ | ○ | ◎ |
| | | 地域文化論(4年) | ○ | ○ | ○ | ◎ |
| | | 技術者倫理(5年) | ○ | | | ◎ |
| | 数学 | 基礎数学Ⅰ(1年) | ◎ | | ○ | |
| | | 基礎数学Ⅱ(1年) | ◎ | | ○ | |
| | | 微積分Ⅰ(2年) | ◎ | | ○ | |
| | | 微積分Ⅱ(3年) | ◎ | | ○ | |
| | | 線形代数(2年) | ◎ | | ○ | |
| | | 確率・統計(4年) | ◎ | | ○ | |
| | 自然科学 | 物理(1年) | ◎ | | ○ | |
| | | 物理(2年) | ◎ | | ○ | |
| | | 化学(1年) | ◎ | ○ | ○ | |
| | | 生物(2年) | ◎ | | ○ | ○ |
| | | 地球科学(4年) | | ○ | ○ | ◎ |
| | | 環境科学(3年) | ○ | | ○ | ◎ |
| | 健康科学 | スポーツ実技Ⅰ(1年) | | ○ | | ◎ |
| | | スポーツ実技Ⅰ(2年) | | | | ◎ |
| | | スポーツ実技Ⅰ(3年) | | | | ◎ |
| | | 健康科学(3年) | | ○ | | ◎ |
| 選択 | | 中国語Ⅰ(1年) | | ◎ | | |
| | | 中国語Ⅱ(2年) | ○ | ◎ | | ○ |
| | | 韓国語Ⅰ(1年) | | ◎ | | |
| | | 韓国語Ⅱ(2年) | | ◎ | | |
| | | フランス語Ⅰ(3年) | | ◎ | | |
| | | フランス語Ⅱ(4年) | | ◎ | | |
| | | ドイツ語Ⅰ(3年) | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| | | ドイツ語Ⅱ(4年) | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| | | スペイン語Ⅰ(3年) | | ◎ | | |
| | | スペイン語Ⅱ(4年) | | ◎ | | |
| | | 沖縄方言Ⅰ(1年) | | ◎ | | |
| | | 沖縄方言Ⅱ(2年) | | ◎ | | |
| | | 日本語(3年) | | ◎ | | |
| | | 日本語(4年) | | ◎ | | |
| | | 日本語(5年) | | ◎ | | |
| | | 日本事情(3年) | ○ | ◎ | ○ | |
| | | 日本事情(4年) | ○ | ◎ | ○ | |
| | | 英語演習(4年) | | ◎ | | |
| | | 英会話Ⅰ(3年) | | ◎ | | |
| | | 英会話Ⅱ(4年) | | ◎ | | |
| | | 数学演習(4年) | ◎ | | ○ | |
| | | 生命科学(4年) | | | | ◎ |
| | | 音楽(1年) | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| | | 美術(1年) | | ◎ | ○ | |
| | | デザイン(2年) | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| | | 特許法・法学(5年) | | | | ◎ |
| | | スポーツ実技Ⅱ(1年) | | | | ◎ |
| | | スポーツ実技Ⅱ(2年) | | | | ◎ |
| | | 創造研究(1～5年) | ○ | ◎ | ○ | ○ |

（出典　教務委員会資料）

資料５－１－①－７

| 科目名 | 生命科学 | 英文表記 | Life Sciences | 2010年06月04日 |
|---|---|---|---|---|
| 教員名：平山　けい | | | | 更新 |

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業形態 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 生物資源 | ４年 | 選 | 履習 | １単位 | 講義 | 半期 |

| | |
|---|---|
| 目　標 | 「生きるため」・「死ぬため」に備わっている生物のからだのしくみを学ぶ。<br>ヒトのからだにおける免疫のしくみを理解する。<br>生命を護るために備わっているしくみを理解することにより、いのちの尊厳について自分の考えを持つことができる。 |

| 高専目標 | 1 | 2 | 3 | 4 | JABEE プログラム名称 | 生物資源工学 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | ○ | | ◎ | JABEE プログラム教育目標 | A-1,A-3,B-2 |

| | |
|---|---|
| 授業概要、方針、履修上の注意 | **授業は一方通行でなく、対面通行で行なう。そのため、下記に掲げるキーワードによる文献検索と参考図書を利用した予習が必要。学生の積極的な講義への参加を求める。定期試験は、期末試験のみ行なう。** |
| 評価方法 | 期末試験 60%、レポート 40%の割合で総合的に評価する。 |
| 教科書・教材 | PPT およびプリント |
| 参考図書 | Discover BIOLOGY (Sinauer)、『生物講義』大学生のための生命理学入門（裳華房）、いまを解く生命科学 生物学への招待（羊土社）、生命科学と人間（NHK ブックス）、神経・免疫・内分泌系へ拡がるメンブレントラフィック：実験医学（羊土社）（参考図書を探す場合のキーワード：江上不二夫、中村桂子、生命科学、カドヘリン、アポトーシス、テロメア、NK 細胞、T 細胞、サイトカイン、マクロファージ、パーキンソン病、ドーパミン、） |
| 関連科目（学年） | 生物（2 年）、環境科学、生化学（3 年）生理学、生物工学、遺伝子工学（4 年）、分子生物学（5 年） |

**授　業　計　画**

| 授業項目 | 時間 | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1. ガイダンス　生命科学 | 2 | ガイダンス、生命科学とは |
| 2. 生きるためのシステム | 2 | 多細胞生物の「雌・雄」と「性」 |
| 3. 生命を護るしくみⅠ | 2 | 生体防御にかかわる細胞・マクロファージ |
| 4. 生命を護るしくみⅡ | 2 | 自律神経系とホルモン調節 |
| 5. 生命を護るしくみⅢ | 2 | NK/T 細胞、B 細胞、免疫組織 |
| 6. 恒常性と情報伝達 【実験】 | 2 | 受容体とリガンド、神経伝達物質 |
| 7. 生きるための「死」 | 2 | 細胞の老化、アポトーシスとネクローシス |
| 8. 生命の終わり | 2 | 「死」のプログラム、テロメア |
| 9. バイオテクノロジー | 2 | Biotechnology 「食物」・「健康」・「環境」 |
| 10. 生命の誕生と死について考えるⅠ | 2 | 生命の誕生から老化・死について【PBL】 |
| 11. 生命の誕生と死について考えるⅡ | 2 | 生命の誕生から老化・死について【PBL】 |
| 12. ヒトは生命を操って良いか？Ⅰ | 2 | 遺伝子操作、クローンについて【PBL】 |
| 13. ヒトは生命を操って良いか？Ⅱ | 2 | 遺伝子操作、クローンについて【PBL】 |
| 14. Biotechinology をどう活かすかⅠ | 2 | Biotechnology のあるべきすがたについて【PBL】 |
| 15. Biotechinology をどう活かすかⅡ | 2 | Biotechnology のあるべきすがたについて【PBL】 |
| 前期期末試験 | 【2】 | |
| 学習時間合計 | ３０ | 実時間　２５ |

（出典　シラバス）

（分析結果とその根拠理由）

準学士教育課程は本校の目的，本科教育目標が達成されるように授業科目を設定し，学年進行に伴って段階的に履修ができるように適切に配置されている。低学年には主に一般科目や基礎的な専門科目が配置され，高学年では専門科目が多く配置されており，一般科目と専門科目がバランスよく編成されている。本科教育目標と科目の授業内容との関係を示す対応表や関連図，シラバスによって，授業の内容が，教育の目的を達成するために適切であると言える。

**観点５－１－②：　学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他学科の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施，専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。**

（観点に係る状況）

学生の多様なニーズに応えるため，他の高等専門学校や大学における学修で修得した単位を本校における授業科目の履修により修得したこととみなす仕組みがある（資料５－１－②－１）。また，在学中の転科については第３学年まで可能であり（資料５－１－②－２），転科の規定によって補充教育の計画をたて，転科後の学修に支障をきたさない仕組みがある（資料５－１－②－３）。

第１学年から第５学年に選択科目「創造研究」（資料５－１－②－４）がある。この科目は教員が提示したテーマを学生が選択し，担当教員の指導のもとで計画的に実習・実験・研究を行うものである。学生は所属する学科の専門分野にとらわれず，低学年から幅広いテーマで活動をしている。単位は１年間の活動を担当教員が評価し「合格」か「不合格」で認定している（資料５－１－②－５，資料５－１－②－６）。

第４学年で「インターンシップ」を必修科目とし（資料５－１－②－４），企業活動・ビジネスマナー等についての事前学習と実習報告会を含めて３単位を認定している（資料５－１－②－７）。

留学生に対して第２学年から第５学年の各学年に「日本語」「日本語事情」を開講している（資料５－１－②－４）。

資料５－１－②－１

（他の高等専門学校における授業科目の履修）
**第２０条**　校長は、教育上有益と認めるときは、別に定めるところにより、学生が他の高等専門学校において履修した授業科目について修得した単位を、３０単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

（高等専門学校以外の教育施設等における学修等）
**第２１条**　校長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う大学における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本校における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより、単位の修得を認定することができる。
２　前項により認定することができる単位数は、前条により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて３０単位を超えないものとする。
３　第１項の規定は、学則第３７条に定める留学をする場合に準用する。

（出典　沖縄工業高等専門学校学則　抜粋）

資料５－１－②－２

（転科）
**第２９条**　転科を希望する者があるときは、校長は、学年の始めにおいて選考の上、第３学年までに限り、転科を許可することがある。

（出典　沖縄工業高等専門学校学則　抜粋）

資料５－１－②－３

# 沖縄工業高等専門学校転科生規程

平成２０年４月１６日
規　程　第　８　号

（趣旨）
第１条　この規程は、沖縄工業高等専門学校学則（平成16年学則第1号。以下「学則」という。）第２９条及び沖縄工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則（平成16年規則第22号）第１４条の５第２項の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）における転科の取扱い並びに転科生の課程の修了及び卒業の認定等に関し必要な事項を定めるものとする。

（転科学年）
第２条　転科を希望する者があるときは、校長は、選考の上、第３学年までに限り、転科を許可することがある。

（転科資格）
第３条　転科を希望できる者は、第１学年、第２学年又は第３学年の学生とし、次の各号の条件を全て満たす者とする。
(1) 転科希望学科の収容数に余裕があること
(2) 転科直前における学年成績が学科で上位１０位以内であること
(3) 本校に入学後、転科したことがない者であること

（転科の申し込み）
第４条　転科を希望する者は、１月末までに、第１学年又は第２学年にあっては学級担任及び学科担任、第３学年にあっては学科担任の承認を得て、転科願（別紙様式）を校長に提出しなければならない。

（選考の方法）
第５条　転科の選考は、書類審査とする。ただし、特に必要がある場合には、面接及び試験等を実施することがある。
２　前項の書類審査で、転科希望学科の必修とされている授業科目のうち、学修を必要と認める未修得科目がある場合には、次の各号に掲げる事項を考慮の上、転科の可否を決定するものとする。
(1) 当該未修得科目に対し、実施可能な開設計画又は学修計画が適切に立案できること
(2) 当該未修得科目への対応に必要な基礎学力と意志が備わっていること

（転科の許可）
第６条　校長は、前条の選考によって合格し、かつ、現学年を修了した者に対して転科を許可するものとする。ただし、未修得科目の内容、選考結果又は本人の希望により、転科前の学科において修了した学年よりも下の学年に転科させることがある。
２　前項の許可にあたっては、第３学年の学生に限っては第３学年以下の学年にのみ転科を許可するものとする。

（転科の時期）
第７条　転科を許可された者は、次年度の学年の始めに転科するものとする。

（学修計画）

**第８条　転科生が、転科時において、転科後に履修する通常のカリキュラムでは、学則第３８条第２項に規定する別表第３に定める卒業時に必要な修得単位数を充足できないと認められる場合には、当該転科生の受入学科は必要な科目の開設計画を作成し、単位を修得させるものとする。**

**２　前項に規定するもののほか、受入学科が当該転科生に学修の必要があると認める科目又は分野等がある場合には、その学修計画を作成し、指導するものとする。**

**３　前２項に規定する開設計画及び学修計画は、当該転科生の選考にあたって、学科長から校長に提出して承認を得るものとする。**

別紙様式

| 学級担任 | 学科担任 |
|---|---|
| | |

平成　　年　　月　　日

## 転　　科　　願

沖縄工業高等専門学校長　　殿

学　　科　　工学科

学年・学籍番号　第　　学年・　　番

氏名（自署）

保証人氏名（自署）

下記により転科したいので，ご許可くださるようお願いします。

記

**１　転科希望学科**

**２　転科の理由**

**備考　第１学年又は第２学年にあっては学級担任、第３学年以上にあっては学科担任に印をもらってから提出すること。**
**（提出先・・・学生課教務係）**

（出典　沖縄工業高等専門学校転科生規定　抜粋）

資料５－１－②－４

別表第2
（1）機械システム工学科

| 授業科目 | | | 単位数 | 学年別配当 | | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | |
| 必修 | 全学共通専門科目 | 沖縄高専セミナー | 4 | 4 | | | | | |
| | | 情報技術の基礎 | 3 | 3 | | | | | |
| | | 創造演習 | 2 | | 2 | | | | |
| | | 産業創造セミナー | 2 | | | 2 | | | |
| | | インターンシップ | 3 | | | | 3 | | |
| | 基礎科目群 | プログラミングⅠ | 2 | | 2 | | | | |
| | | 応用数学Ⅰ | 2 | | | | 2 | | |
| | | 応用数学Ⅱ | 2 | | | | | 2 | |
| | | 応用物理 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 機械力学 | 3 | | | | 3 | | |
| | 材料システム群 | 材料加工システムⅠ | 3 | 3 | | | | | |
| | | 材料加工システムⅡ | 3 | | 3 | | | | |
| | | 材料加工システムⅢ | 3 | | | 3 | | | |
| | | 機械材料 | 3 | | | 3 | | | |
| | | CAD | 2 | | | 2 | | | |
| | | CAM | 2 | | | | 2 | | |
| | | 材料科学 | 2 | | | | 2 | | |
| | 設計システム群 | 機械設計基礎学Ⅰ | 2 | 2 | | | | | |
| | | 機械設計基礎学Ⅱ | 3 | | 3 | | | | |
| | | 材料力学設計Ⅰ | 2 | | 2 | | | | |
| | | 材料力学設計Ⅱ | 2 | | | 2 | | | |
| | | 総合構造設計 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 熱工学 | 3 | | | | 3 | | |
| | | 流体工学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 熱流体機器 | 2 | | | | | 2 | |
| | 制御システム群 | 電気・電子工学 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 制御工学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | メカトロニクス工学 | 3 | | | | | 3 | |
| | | 計測工学 | 2 | | | | | 2 | |
| | 共通群 | 機械システム工学実験Ⅰ | 3 | | | | 3 | | |
| | | 機械システム工学実験Ⅱ | 3 | | | | | 3 | |
| | | 卒業研究 | 6 | | | | | 6 | |
| | 修得単位計 | | 82 | 12 | 12 | 16 | 24 | 18 | |
| 選択 | 基礎科目群 | プログラミングⅡ | 2 | | | 2 | | | |
| | | 化学及び化学実験法 | 2 | | | 2 | | | |
| | 材料システム群 | CAE | 2 | | | | | 2 | |
| | 設計システム群 | エネルギー変換工学 | 2 | | | | | 2 | |
| | システム制御群 | 生産工学 | 2 | | | | | 2 | |
| | | システム制御論 | 1 | | | | | 1 | |
| | | 知能制御論 | 1 | | | | | 1 | |
| | 共通群 | 創造研究* | 5 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | * 各学年毎に単位取得可（最大5単位）。 |
| | 開設単位計 | | 17 | 1 | 1 | 5 | 1 | 9 | |
| | 修得単位計 | | 5 | | | 2 | | 3 | |
| 開設単位合計 | | | 99 | 13 | 13 | 21 | 25 | 27 | |
| 修得単位合計 | | | 87 | 12 | 12 | 18 | 24 | 21 | |

（2）情報通信システム工学科

| | | 授業科目 | 単位数 | 学年別配当 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 必修 | 全学共通専門科目 | 沖縄高専セミナー | 4 | 4 | | | | | |
| | | 情報技術の基礎 | 3 | 3 | | | | | |
| | | 創造演習 | 2 | | 2 | | | | |
| | | 産業創造セミナー | 2 | | | 2 | | | |
| | | インターンシップ | 3 | | | | 3 | | |
| | 基礎科目群 | 離散数学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 応用数学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 応用物理 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 情報通信工学実験基礎 | 1 | 1 | | | | | |
| | | 情報通信工学実験Ⅰ | 2 | | 2 | | | | |
| | | 情報通信工学実験Ⅱ | 2 | | | 2 | | | |
| | | 情報通信工学実験Ⅲ | 2 | | | | 2 | | |
| | | 計算機工学Ⅰ | 2 | 2 | | | | | |
| | | 計算機工学Ⅱ | 2 | | 2 | | | | |
| | | コンピュータアーキテクチャ | 2 | | | 2 | | | |
| | | プログラミング基礎Ⅰ | 2 | 2 | | | | | |
| | | プログラミング基礎Ⅱ | 2 | | 2 | | | | |
| | | 応用プログラミングⅠ | 2 | | | | 2 | | |
| | | 応用プログラミングⅡ | 4 | | | | | 4 | |
| | | 電気回路Ⅰ | 2 | | 2 | | | | |
| | | 電気回路Ⅱ | 2 | | | 2 | | | |
| | | 電磁気学Ⅰ | 2 | | | | 2 | | |
| | 情報通信工学群 | ネットワーク概論 | 2 | | 2 | | | | |
| | | 信号処理 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 情報理論 | 2 | | | | | 2 | |
| | | 通信工学Ⅰ | 2 | | | | 2 | | |
| | | 通信工学Ⅱ | 2 | | | | | 2 | |
| | 電子回路・集積回路工学群 | 半導体工学 | 1 | | | 1 | | | |
| | | 電子回路Ⅰ | 2 | | | 2 | | | |
| | | 電子回路Ⅱ | 2 | | | 2 | | | |
| | | 集積回路Ⅰ | 4 | | | | 4 | | |
| | | 集積回路Ⅱ | 4 | | | | | 4 | |
| | 計算機ソフトウェア群 | 計測工学 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 制御工学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | アルゴリズムとデータ構造 | 2 | | | 2 | | | |
| | 共通群 | 卒業研究 | 6 | | | | | 6 | |
| | 修得単位計 | | 84 | 12 | 12 | 17 | 25 | 18 | |
| 選択 | 基礎科目群 | 化学及び化学実験法 | 2 | | | | 2 | | |
| | 情報通信工学群 | 情報通信総合演習 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 電波電送学 | 2 | | | | | 2 | |
| | | 通信法規 | 1 | | | | | 1 | |
| | 計算機ソフトウェア群 | IT応用 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 人工知能 | 2 | | | | | 2 | |
| | | データベース | 2 | | | | | 2 | |
| | | 組込みシステム | 2 | | | | | 2 | |
| | | オペレーティングシステム | 2 | | | 2 | | | |
| | 電子回路・集積回路工学群 | 電磁気学Ⅱ | 2 | | | | | 2 | |
| | 共通群 | 創造研究* | 5 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | ＊ 各学年毎に単位取得可（最大5単位）。 |
| | 開設単位計 | | 24 | 1 | 1 | 5 | 5 | 12 | |
| | 修得単位計 | | 3 | | | 1 | | 2 | |
| 開設単位合計 | | | 108 | 13 | 13 | 22 | 30 | 30 | |
| 修得単位合計 | | | 87 | 12 | 12 | 18 | 25 | 20 | |

(3)メディア情報工学科

| 授業科目 | | | 単位数 | 学年別配当 | | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | |
| 必修 | 全学共通専門科目 | 沖縄高専セミナー | 4 | 4 | | | | | |
| | | 情報技術の基礎 | 3 | 3 | | | | | |
| | | 創造演習 | 2 | | 2 | | | | |
| | | 産業創造セミナー | 2 | | | 2 | | | |
| | | インターンシップ | 3 | | | | 3 | | |
| | 基礎科目群 | 離散数学 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 応用数学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 応用物理 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 情報理論 | 2 | | | | | 2 | |
| | | プログラミングⅠ | 2 | 2 | | | | | |
| | | コンピュータアーキテクチャ | 2 | | | 2 | | | |
| | メディア・コンテンツ群 | メディアコンテンツ基礎 | 3 | 3 | | | | | |
| | | メディア情報工学実験Ⅰ | 4 | | 4 | | | | |
| | | コンピュータグラフィックスⅠ | 4 | | | | 4 | | |
| | | コンピュータグラフィックスⅡ | 2 | | | | | 2 | |
| | | メディア情報工学実験Ⅱ | 2 | | | 2 | | | |
| | ソフトウェア群 | プログラミングⅡ | 4 | | 4 | | | | |
| | | プログラミングⅢ | 2 | | | 2 | | | |
| | | アルゴリズムとデータ構造 | 2 | | | 2 | | | |
| | | メディア情報工学実験Ⅳ | 2 | | | | 2 | | |
| | | OSとコンパイラ | 4 | | | | 4 | | |
| | ハードウェア群 | ディジタル回路 | 2 | | 2 | | | | |
| | | メディア情報工学実験Ⅲ | 2 | | | 2 | | | |
| | ネットワーク群 | 通信工学 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 情報セキュリティ | 2 | | | | | 2 | |
| | | コンピュータネットワークⅠ | 2 | | | 2 | | | |
| | | コンピュータネットワークⅡ | 2 | | | | | 2 | |
| | 共通群 | 卒業研究 | 6 | | | | | 6 | |
| | 修得単位計 | | 73 | 12 | 12 | 18 | 17 | 14 | |
| 選択 | 基礎科目群 | 化学及び化学実験法 | 2 | | | | 2 | | |
| | コンテンツ群 | メディアコンテンツ応用 | 2 | | | | | 2 | |
| | ソフトウェア群 | データベース | 2 | | | | | 2 | |
| | | オブジェクト指向言語Ⅰ | 2 | | | | 2 | | |
| | | オブジェクト指向言語Ⅱ | 2 | | | | | 2 | |
| | | 組み込みソフトウェア | 2 | | | | | 2 | |
| | | 計算機科学 | 2 | | | | 2 | | |
| | ハードウェア群 | ディジタルシステム設計 | 2 | | | | 2 | | |
| | | アナログ回路 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 制御とロボット | 2 | | | | | 2 | |
| | ネットワーク群 | 光通信方式 | 2 | | | | | 2 | |
| | | ネットワーキングⅠ | 2 | | | | 2 | | |
| | | ネットワーキングⅡ | 2 | | | | 2 | | |
| | | 信号処理とメディア通信 | 2 | | | | | 2 | |
| | 共通群 | 創造研究＊ | 5 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | ＊　各学年毎に単位取得可(最大5単位)。 |
| | 開設単位計 | | 33 | 1 | 1 | 1 | 15 | 15 | |
| | 修得単位計 | | 14 | | | | 6 | 8 | |
| 開設単位合計 | | | 106 | 13 | 13 | 19 | 32 | 29 | |
| 修得単位合計 | | | 87 | 12 | 12 | 18 | 23 | 22 | |

（4）生物資源工学科

| 授業科目 | | | 単位数 | 学年別配当 | | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | |
| 必修 | 全学共通専門科目 | 沖縄高専セミナー | 4 | 4 | | | | | |
| | | 情報技術の基礎 | 3 | 3 | | | | | |
| | | 創造演習 | 2 | | 2 | | | | |
| | | 産業創造セミナー | 2 | | | 2 | | | |
| | | インターンシップ | 3 | | | | 3 | | |
| | 基礎科目群 | 応用物理 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 応用数学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | プログラミングⅠ | 2 | 2 | | | | | |
| | 生物化学工学群 | 有機・物理化学 | 4 | | 4 | | | | |
| | | 生物分析化学 | 2 | | 2 | | | | |
| | | 生物有機化学 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 生化学 | 3 | | | 3 | | | |
| | | 生化学実験 | 1 | | | 1 | | | |
| | | 遺伝子工学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 遺伝子工学実験 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 生物工学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 生物工学実験 | 2 | | | | 2 | | |
| | 環境・微生物学群 | 微生物学 | 3 | | 3 | | | | |
| | | 微生物学実験 | 1 | | 1 | | | | |
| | | 発酵学 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 環境学 | 1 | | | 1 | | | |
| | | 環境学実験 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 環境分析学 | 2 | | | | 2 | | |
| | 食品化学工学群 | 生物資源利用学Ⅰ | 2 | | | | 2 | | |
| | | 生理学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 生理学実験 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 食品プロセス工学 | 4 | | | | | 4 | |
| | | 食品製造学 | 2 | | | | | 2 | |
| | 共通群 | バイオテクノロジー基礎実験 | 3 | 3 | | | | | |
| | | 卒業研究 | 6 | | | | | 6 | |
| | 修得単位計 | | 72 | 12 | 12 | 15 | 21 | 12 | |
| 選択 | 基礎科目群 | IT応用 | 2 | | | 2 | | | |
| | | プログラミングⅡ | 2 | | | 2 | | | |
| | 生物化学工学群 | 分子生物学 | 2 | | | | | 2 | |
| | | 細胞工学 | 2 | | | | | 2 | |
| | | 同位元素利用学 | 2 | | | | | 2 | |
| | 環境・微生物学群 | 環境保全学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 生物資源保護管理学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 資源リサイクル学 | 2 | | | | | 2 | |
| | 食品化学工学群 | 生物資源利用学Ⅱ | 2 | | | | | 2 | |
| | | タンパク質工学 | 2 | | | | | 2 | |
| | 共通群 | 創造研究* | 5 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | * 各学年毎に単位取得可（最大5単位）。 |
| | 開設単位計 | | 25 | 1 | 1 | 5 | 5 | 13 | |
| | 修得単位計 | | 15 | | | 3 | 3 | 9 | |
| 開設単位合計 | | | 97 | 13 | 13 | 20 | 26 | 25 | |
| 修得単位合計 | | | 87 | 12 | 12 | 18 | 24 | 21 | |

（出典　沖縄工業高等専門学校学則　抜粋）

資料５－１－②－５

**機械システム工学科**

| 氏　名 | 研究室 | 「創造研究」担当可能分野 |
|---|---|---|
| 中本　正一朗 | 3-16 | インド国立海洋研究所が進める海洋生態系観測データの統計解析と乱流拡散過程を勉強する |
| 眞喜志　隆 | 2-16 | 鍛造・鍛接と組織観察（熱間加工の実際と応用） |
| 松栄　準治 | 2-17 | レーシングカート（既にエントリー学生決定済み） |
| 真鍋　幸男 | 2-18 | 溶接現象の観察技術（ビデオ撮影）に関する研究 |
| 宮田　恵守 | 3-15 | 1. 物理学に関する事項<br>2. マイクロバブルに関する事項（生物飼育への応用、食品への応用）<br>3. 金属の腐食に関する事項 |
| 山城　光 | 1-18 | 島嶼エネルギー政策の課題と展望について |
| 武村　史朗 | 1-16 | ロボット・メカトロニクスに関するテーマ |
| 鳥羽　弘康 | 1-15 | 生産工程やロジスティクスのシミュレーションに関する技術支援（具体的には、改善活動の有効性検証、事前評価・予測、在庫管理、工程管理、等々） |
| 比嘉　吉一 | 2-15 | 電気炉（垂直ブリッジマン炉）の設計・製作 |
| 眞喜志　治 | 3-18 | 冷却装置の製作 |
| 政木　清孝 | 1-17 | 学生のものつくり支援. テーマは学生との協議により決定する. |
| 吉永　文雄 | 3-17 | 3次元立体形状の創製（ドリームコンテスト作品のCAD・CAM・NC加工検討） |
| 下嶋　賢 | 2-14 | 省エネルギー技術を取り入れたものつくり技術に関するテーマ |

**情報通信システム工学科**

| 氏　名 | 研究室 | 「創造研究」担当可能分野 |
|---|---|---|
| 石田　修己 | 1-4 | 高周波回路や無線機などに関する製作・実験 |
| 高木　茂 | 3-2 | javaを用いた各種プログラム(3年以上) |
| 知念　幸勇 | 2-3 | ①衛星受信研究、②光・無線の研究、③高性能ラジオ、④犬猫センサ、⑤インンテリジェントライントレーサ |
| 比嘉　勝也 | 1-5 | 電子素子の製作 |
| 兼城　千波 | 2-1 | 1. センサに関する実験・研究<br>2. 工学教材製作 |
| 野口健太郎 | 2-2 | インターフェース技術の開発（野口，神里） |
| 神里 志穂子 | 3-1 | インターフェース技術の開発（野口，神里） |
| 山田　親稔 | 2-4 | LSI設計に関する研究 |
| 金城　伊智子 | 3-3 | 意思決定に関する研究 |

**メディア情報工学科**

| 氏　名 | 研究室 | 「創造研究」担当可能分野 |
|---|---|---|
| 姉崎　隆 | 1-7 | RoboCup向け小型ロボット群制御<br>FPGAを用いた画像・映像ハードウェア設計 |
| 角田　正豊 | 3-6 | 光ファイバを伝搬する光波の非線形現象 |
| 正木　忠勝 | 3-7 | プログラミング |
| 伊波　靖 | 2-7 | 関数型プログラミング言語 |
| 太田　佐栄子 | 3-8 | 今年度は受付ていません |
| タンスリヤボン　スリヨン | 1-8 | 画像処理応用分野 |
| 西村　篤 | 3-9 | メディアコンテンツの社会的応用 |
| 鈴木　大作 | 3-4 | プログラミング |
| 佐藤　尚 | 3-5 | ●分野：複雑系科学、人工生命、進化言語学、進化論的計算<br>●内容：生命・認知・言語・社会などの自律的に進化・発展する「複雑系」に関する構成論的研究<br>●キーワード：マルチエージェント・システム、内部ダイナミクス、ルールダイナミクス、起源、進化、学習、相互作用、ミクロマクロ・ループ<br>●向いている人：やる気がある人、プログラムを書ける人、英語が嫌いではない人、面倒くさがらない人 |
| バイティガ　ザカリ | 2-5 | 知的なアシスタントロボット |

**生物資源工学科**

| 氏　名 | 研究室 | 「創造研究」担当可能分野 |
|---|---|---|
| 池松　真也 | 2-11 | 亜熱帯果実・野菜の高度利用とその応用、Midkineに関する基盤研究、遺伝子や細胞を利用した研究、その他 |
| 濱田　泰輔 | 2-13 | 化学に関する研究。光化学に関する研究。 |
| 平山　けい | 4-10 | 1. 培養細胞を用いた研究　2. 脳・神経に関わる研究　3. ヒトの身体の内で起こる出来事を解明する。 |
| 三枝　隆裕 | 4-12 | ①新原料・製品開発（化粧品、食品）に関する分野、②微生物の応用分野 |
| 山城　秀之 | 2-12 | 辺野古周辺の動植物調査、辺野古周辺の環境調査、サンゴに関する研究、その他 |
| 伊東　昌章 | 2-13 | 1. カイコに関する研究　2. タンパク質合成、生産に関する研究　3. 酵素に関する研究 |
| 三宮　一宰 | 1-12 | 植物ストレス応答遺伝子の単離・発現解析 |
| 平良　淳誠 | 1-11 | 薬用植物類の資源利用に向けた機能性評価 |
| 田邊　俊朗 | 2-10 | キノコ探索、新しい酵素を作る細菌の探索、植物色素で太陽電池、香りの良い植物から精油抽出、<br>細胞融合で食用キノコの新品種を作る、細胞融合でピリ辛ナスビを作る、等 |
| 玉城　康智 | 3-12 | 発酵分野全般 |
| 磯村　尚子 | 1-14 | 土壌・干潟の生物相調査、サンゴに関する研究（注：安全確保のため海には連れて行きません）、その他 |
| 工藤　雄博 | 1-13 | 食品機能性に関する分野、新規食品の開発、食品廃棄物の有効利用に関する研究 |

**総合科学科**

| 氏　名 | 研究室 | 「創造研究」担当可能分野 |
|---|---|---|
| 新川　智清 | 4-17 | 沖縄方言に関する分野 |
| 青木　久美 | 4-18 | 宗教哲学に関する分野(主に仏教) |
| 大石　敏広 | 4-15 | メタ倫理学的分析を媒介とした技術者倫理の研究 |
| ｼﾞｮﾝｿﾝ ｷｬﾃｨｰ | 4-16 | 今年度は受付ていません |
| 高嶺　司 | 4-14 | 国際政治学(英語による研究) |
| 名嘉山　リサ | 4-13 | アメリカの映画や文化に関する研究 |
| 小池　寿俊 | 4-4 | 代数学（群、環、体の理論）を中心とした数学 |
| 成田　誠 | 4-11 | 一般相対性理論、偏微分方程式 |
| 武田　ひとみ | 4-5 | パンルヴェ方程式の幾何学的側面についての研究。リー環、ルート系、特異点などの絡む数学 |
| 古屋　淳 | 4-7 | 完全数や双子素数などの整数の性質に関すること、素数分布などの整数論一般分野 |
| 山本　寛 | 4-6 | 複素多様体 |
| 網谷　厚子 | 4-3 | 源氏物語研究 |
| 澤井　万七美 | 4-1 | 戯曲分析 |
| 滝　雅士 | 4-2 | 日本古典文学に関する研究<br>(特に古典文学作品のテキスト本文データベースの共同制作ができればと思う) |
| 下郡　剛 | 4-9 | 日本史一般か、琉球史一般に関する分野。名護･辺野古地区の地域史。 |
| 木村　和雄 | 4-8 | 地理学、地質学、第四紀学 |
| 飯田　智行 | 1-9 | 健康と運動に関する分野・運動時のからだの動き、からだの変化に関する分野 |

(出典　学生課資料)

資料５－１－②－６

平成21年度「創造研究」合格者数

| 学年 | 人数 |
|---|---|
| 1年 | 2 |
| 2年 | 50 |
| 3年 | 61 |
| 4年 | 74 |
| 5年 | 32 |

(出典　学生課資料)

資料５－１－②－７

1　インターンシップ実施要項

沖縄高専の各学科で学んだ理論、考え方を実際の社会において応用、実践することにより社会に貢献できる人材の育成を目指す。インターンシップには次のような目的とメリットがある。

1-1 インターンシップの目的

1　コミュニケーションの訓練を行う。
2　企業等の実態を理解する。
3　実践を通して、製造・開発・品質管理やサービスの内容等を理解する。
4　企業等における経営の仕組みと運営方法について理解する。
5　企業が求めている人材とは何かを探る。

そのことによって学生には次のメリットがある。

(1) 学習目的の明確化
(2) 就業意識の向上
(3) 職業の適性および雇用のミスマッチによる離職の軽減
(4) 就職のための情報源
(5) 責任感、自立心の育成

1-2 受講条件

1　インターンシップ等賠償責任保険に加入している者
2　４年次の者
3　事前学習に出席すること
　（事前学習には、全学科対象と学科個別のものがある）

1-3 インターンシップの主な流れ

・学生の実習先企業の希望と学習成績をもとに実習先企業を割り振る。
・事前学習として内外の講師をお招きし、企業活動・ビジネスマナー等について学習する。
・インターンシップ前に課題レポート、「インターンシップに向けて」、「企業研究　実習先企業について」を提出。インターンシップ後は「インターンシップ報告書」を提出。なお、インターンシップの成果を企業にフィードバックするために「インターンシップに向けて」と「インターンシップ報告書」は企業に提出するので、そのつもりで書くこと。

1-4 提出物とその内容

| 提出物 | 内容と要点 |
|---|---|
| 履歴書と履歴書のコピー | スーツ等の正装及び頭髪を整えた写真を貼る。 |
| 課題レポート１　（2 部準備する）<br>「インターンシップに向けて」 | インターンシップに向けての決意とインターンシップ先で何をしたいか、どういうことを学びたいか等、自らの問題意識、目的意識を明確にし、企業への挨拶と要望等について述べる。 |
| 課題レポート 2<br>「企業研究：実習先企業について」 | 実習先企業の概要、職務内容、組織構造等についてレポートし、企業をとりまく経済・社会環境について自分なりの考えをまとめる。 |
| 課題レポート 3（2 部準備する）<br>「インターンシップ報告書」 | 実習先での体験を通して得たこと、考えたことについて述べ、実習経験をどのように活かしていくか等、今後の課題と就職活動に向けての抱負について述べる。 |
| インターンシップ記録簿 | インターンシップ期間中報告ノートを付け、担当者にコメント等を書いてもらう。 |

1-5 単位と評価

① 単位　**3 単位（必修）**

② 評価：・インターンシップ記録簿・実習先指導担当者の実習評価
・課題レポートの提出と、報告発表の結果を総合評価する。

1-6 実施期間

**平成 22 年 8 月 23 日(月)　～　9 月 30 日(木)**

期間内の原則として 2 週間

1-7 報酬について

基本的に全て個人負担・無報酬である。交通費等は参加企業によって対応が異なるため、参加企業の要項（一覧表）を確認すること。

5　インターンシップスケジュール

平成 22 年度沖縄工業高等専門学校インターンシップ日程

水曜日の4時間目をインターンシップに関する事前学習･事後報告時間に充てる。授業時間は 50 分を基本とするが、100 分あるいはそれ以上となる場合がる。詳細については、後日連絡する。

4 月 7 日(水)：インターンシップ説明会（各学科単位）
4 月 14 日(水)：参加企業リスト提示(予定)
4 月 28 日(水)：希望調査票提出（8-1　インターンシップ先希望調査票　提出）
5 月 12 日(水)：インターンシップ説明会（体育館アリーナ）
5 月中旬：キャリアセンター県外インターンシップ説明会（予定）
6 月 2 日(水)：学生割振り終了（目標）
6 月 16 日(水)：企業への受入最終確認終了（目標）・受入先企業との調整開始

事前学習として、次の内容を行う
①身だしなみ講習
②ビジネスマナー講習
③課題レポート作成

8 月 23 日(月)　～　9 月 30 日(木)：インターンシップ実施

10 月以降：
①報告発表会
②報告書作成

（出典　インターンシップの手引　P.２，３，６）

（分析結果とその根拠理由）

本校以外の教育機関で履修した単位の認定や転科制度がある。インターンシップを必修科目としている。留学生には補充教育の科目を実施している。

よって，学生の多様なニーズ，社会からの要請等に対応した教育課程の編成に配慮している。

**観点５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば，教材の工夫，少人数授業，対話・討論型授業，フィールド型授業，情報機器の活用，基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。）**

（観点に係る状況）

一般科目と各専門科目は本科教育目標に対応するように配置され（資料５－２－①－１），講義，演習，実験，実習の授業形態をバランスよく配置している（資料５－２－①－２）。一般科目では英語系の科目などで演習形式をとり，その他の科目は講義形式である。専門科目は演習，実験，実習の授業形態が多くなり，実験室や演習室を使った学習指導が行われている。また，多くの講義科目でPBLを導入しているため，講義科目においても演習・実験的な授業形態も含んでいる。

英語教育では，全学年で週１コマの授業についてCALLシステムを有するIT教室やCALL教室を利用した授業を行っている（資料５－２－①－３）。ほとんどの講義室，実験室，演習室にはプロジェクタとスクリーンが常設され，授業で活用されている。また，第１学年必修科目「情報技術の基礎」では，常設の学生用コンピュータを講師用コンピュータから制御したり，ディジタル教材を学生用コンピュータに配布･回収する授業支援システムを備えたIT教室を使い，システムを活用している。

学生にはノートパソコンを持つことを義務付けており（資料５－２－①－４），パソコンを使ったプレゼンテーションや電子ファイルでの課題提出，電子メールによる連絡等に利用している。また，全学生と教職員がアクセスできるファイルサーバがあり，電子ファイルの教材や資料を教員と科目履修者で共有している（資料５－２－①－５）。

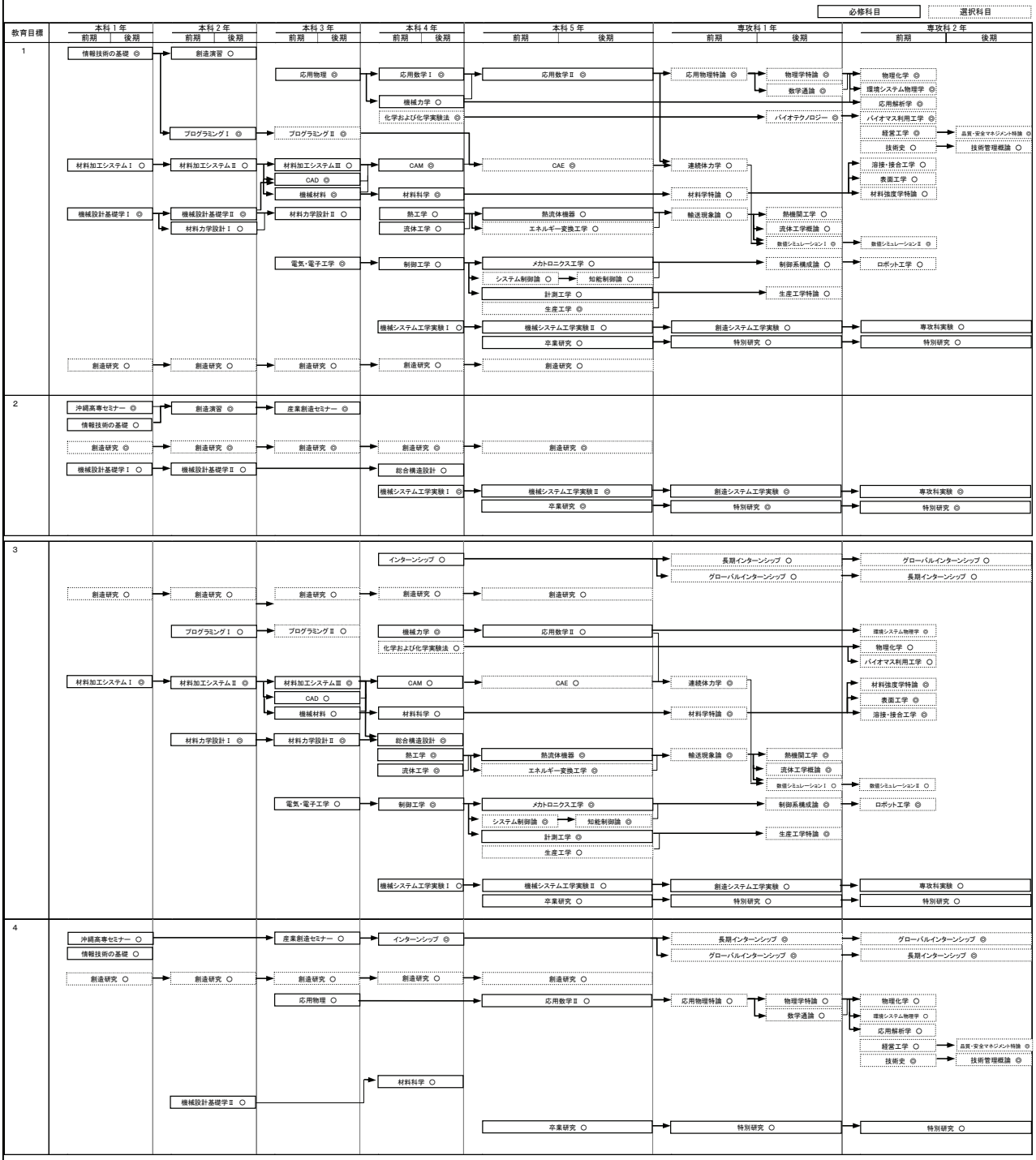
全教員がオフィスアワーを設定し，教員室で学生の相談･質問に応じられるよう待機している（資料５－２－①－６）。

資料５－２－①－１

教育目標と専門科目の関連図【機械システム工学科、機械システム工学コース】

| 本科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する |
| 2 | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 4 | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

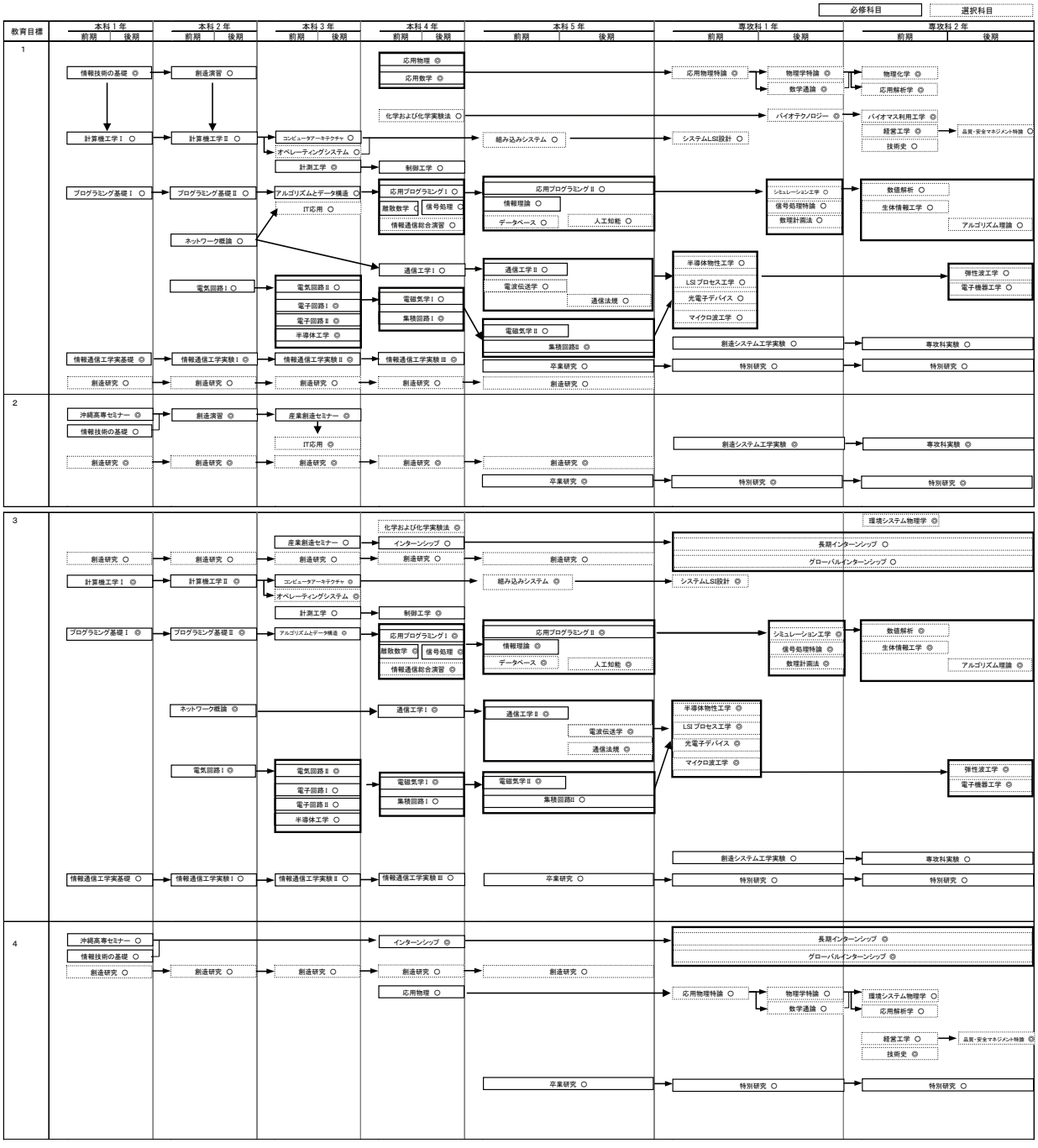
| 専攻科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する |
| 2 | 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する |
| 4 | 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する |



教育目標と専門科目の関連図【情報通信システム工学科、電子通信システム工学コース】

| 本科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する |
| 2 | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 4 | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

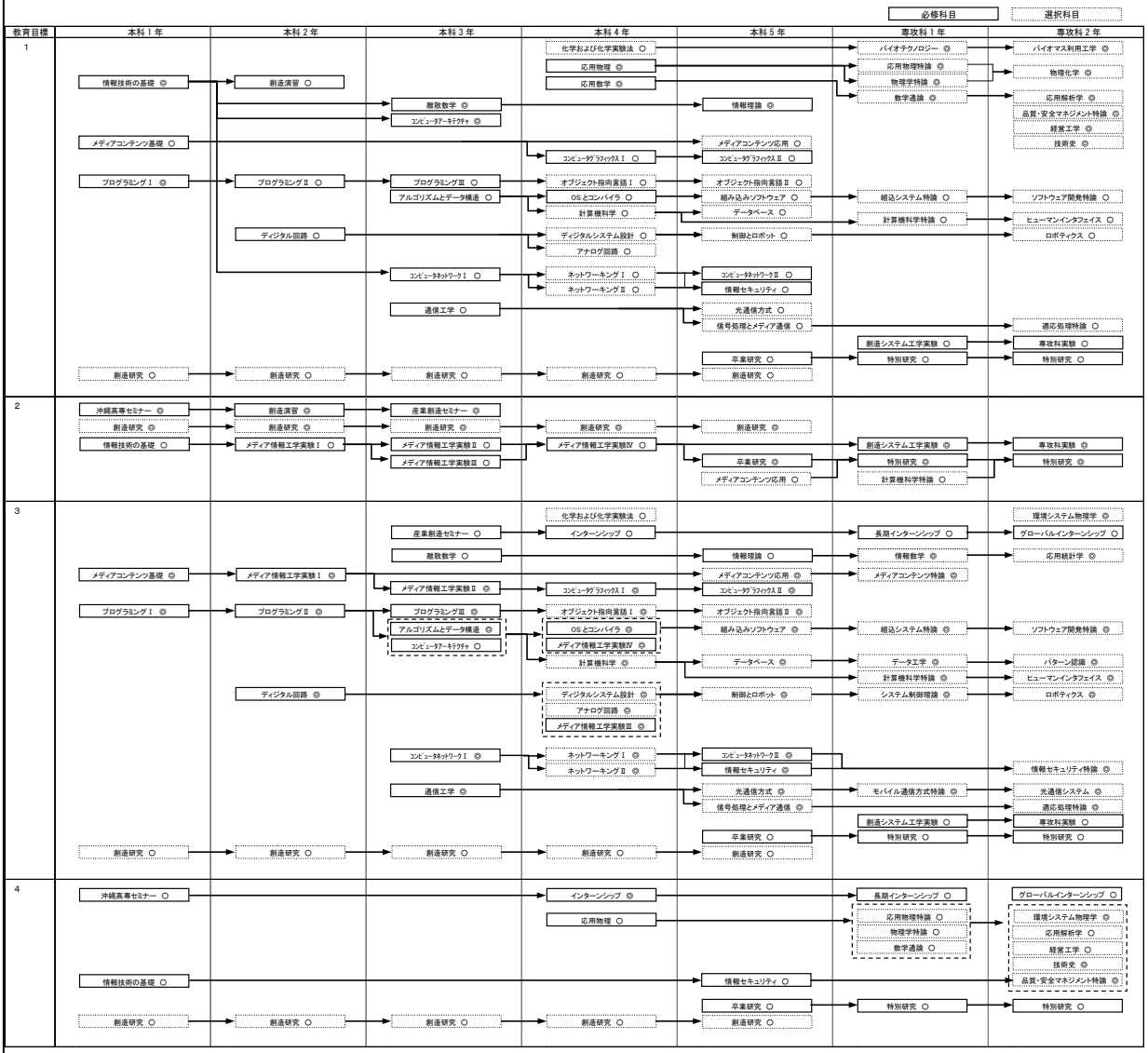
| 専攻科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する |
| 2 | 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する |
| 4 | 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する |



教育目標と専門科目の関連図【メディア情報工学科、情報工学コース】

| 本科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する |
| 2 | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 4 | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

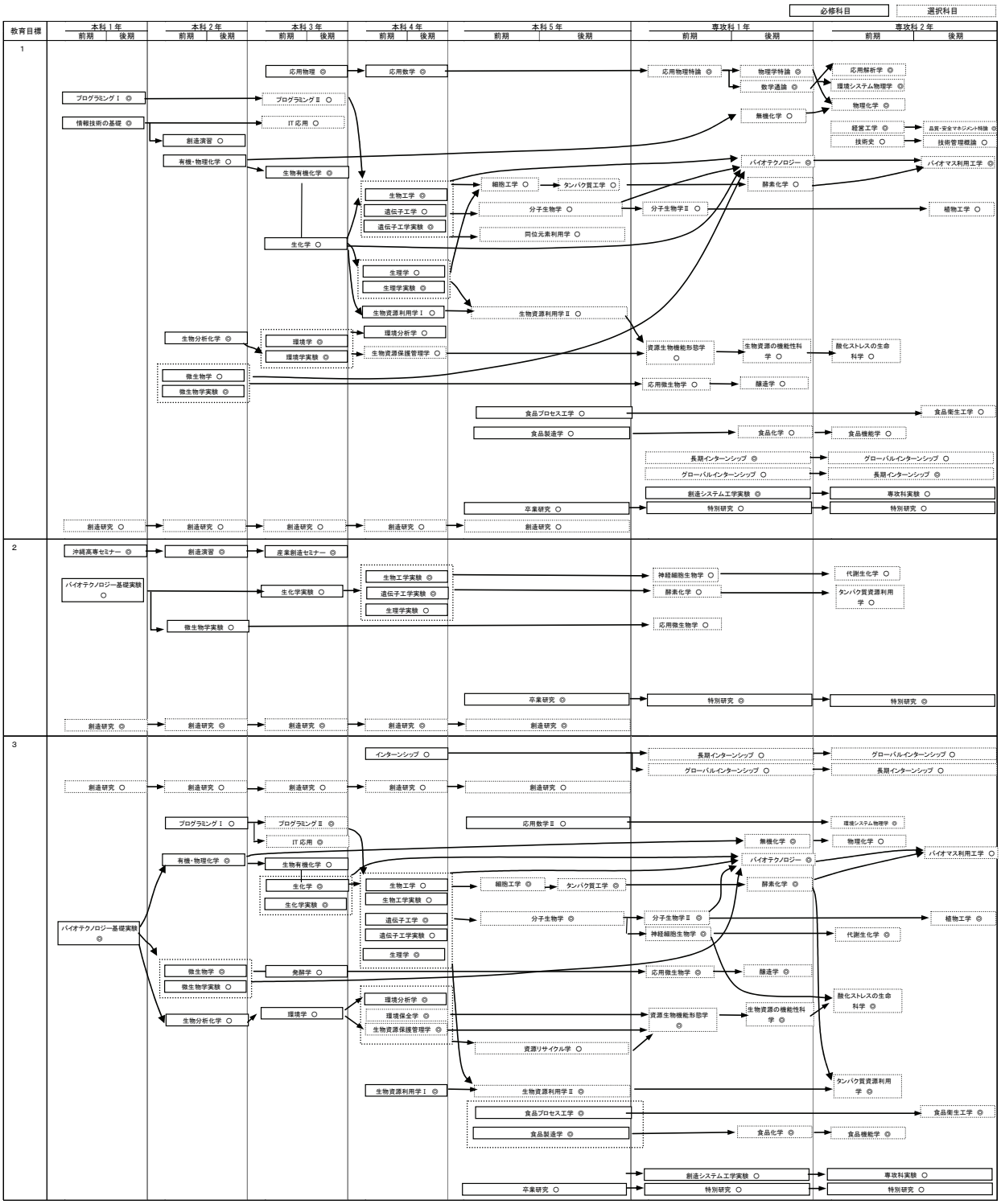
| 専攻科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する |
| 2 | 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する |
| 4 | 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する |

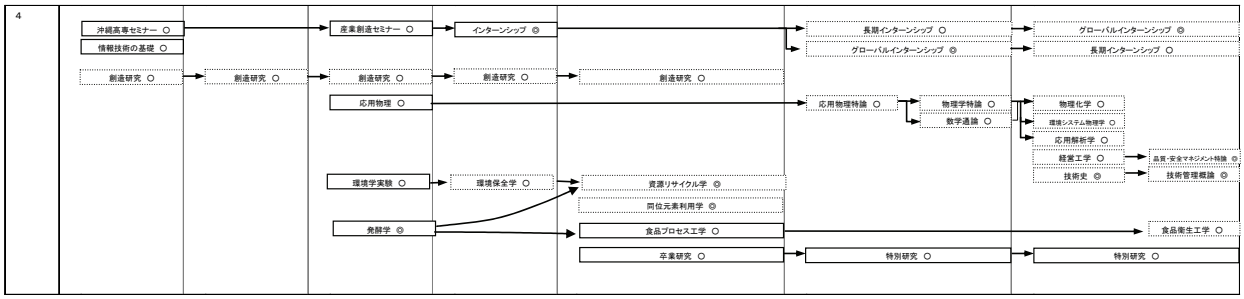


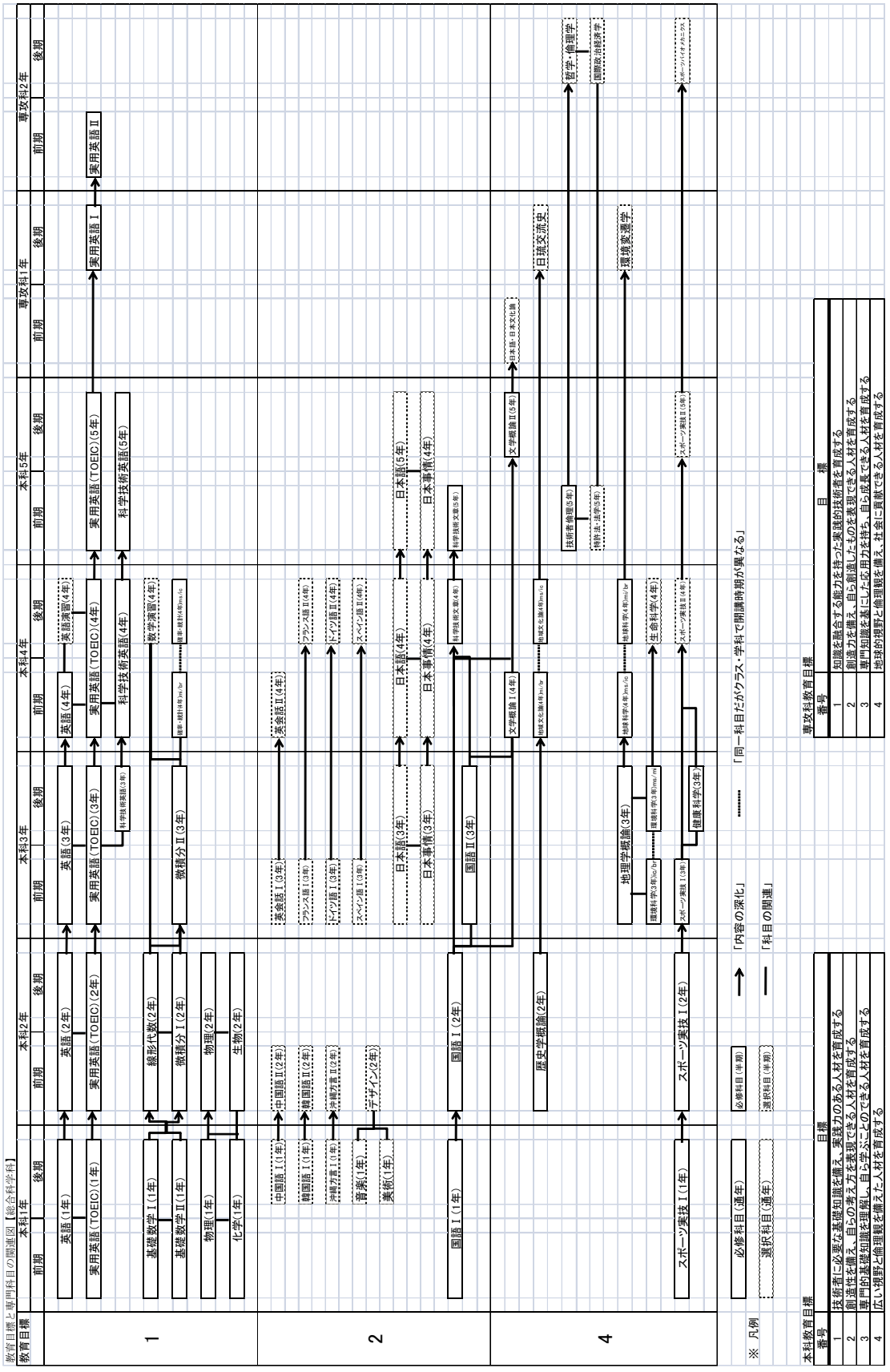
教育目標と専門科目の関連図【生物資源工学科、生物資源工学コース】

| 本科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する |
| 2 | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 4 | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

| 専攻科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する |
| 2 | 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する |
| 4 | 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する |




4
沖縄高専セミナー ○
情報技術の基礎 ○
創造研究 ○
創造研究 ○
産業創造セミナー ○
創造研究 ○
応用物理 ○
インターンシップ ◎
創造研究 ○
長期インターンシップ ○
グローバルインターンシップ ◎
応用物理特論 ○
物理学特論 ○
数学通論 ○
グローバルインターンシップ ◎
長期インターンシップ ○
物理化学 ○
環境システム物理学 ○
応用解析学 ○
経営工学 ○
技術史 ◎
品質・安全マネジメント特論 ◎
技術管理概論 ◎
環境学実験 ○
環境保全学 ○
資源リサイクル学 ◎
同位元素利用学 ◎
発酵学 ◎
食品プロセス工学 ○
卒業研究 ○
特別研究 ○
食品衛生工学 ○
特別研究 ○


教育目標と専門科目の関連図【総合科学科】
教育目標
本科1年
本科2年
本科3年
本科4年
本科5年
専攻科1年
専攻科2年
前期
後期
1
2
4
英語Ⅰ(1年)
実用英語(TOEIC)Ⅰ(1年)
基礎数学Ⅰ(1年)
基礎数学Ⅱ(1年)
物理(1年)
化学(1年)
国語Ⅰ(1年)
スポーツ実技Ⅰ(1年)
英語(2年)
実用英語(TOEIC)Ⅱ(2年)
線形代数(2年)
微積分Ⅰ(2年)
物理(2年)
生物(2年)
国語Ⅰ(2年)
スポーツ実技Ⅰ(2年)
中国語Ⅰ(1年)
韓国語Ⅰ(1年)
沖縄方言Ⅰ(1年)
音楽(1年)
美術(1年)
中国語Ⅱ(2年)
韓国語Ⅱ(2年)
沖縄方言Ⅱ(2年)
デザイン(2年)
歴史学概論(2年)
英語(3年)
実用英語(TOEIC)(3年)
科学技術英語(3年)
微積分Ⅱ(3年)
国語Ⅱ(3年)
英会話Ⅰ(3年)
フランス語Ⅰ(3年)
ドイツ語Ⅰ(3年)
スペイン語Ⅰ(3年)
日本語(3年)
日本事情(3年)
地理学概論(3年)
環境科学(3年)
健康科学(3年)
英語(4年)
実用英語(TOEIC)(4年)
科学技術英語(4年)
数学演習(4年)
英会話Ⅱ(4年)
フランス語Ⅱ(4年)
ドイツ語Ⅱ(4年)
スペイン語Ⅱ(4年)
日本語(4年)
日本事情(4年)
文学概論Ⅰ(4年)
地域文化論(4年)
地球科学(4年)
生命科学(4年)
スポーツ実技Ⅱ(4年)
英語演習(4年)
実用英語(TOEIC)(5年)
科学技術英語(5年)
日本語(5年)
日本事情(4年)
文学概論Ⅱ(5年)
技術者倫理(5年)
特許法・法学(5年)
環境変遷学
スポーツ実技Ⅲ(5年)
日琉交流史
哲学・倫理学
国際政治経済学
本科教育目標
番号
目標
1
技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する
2
創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する
3
専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する
4
広い視野と倫理観を備えた人材を育成する
専攻科教育目標
番号
目標
1
知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する
2
創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する
3
専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する
4
地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する
必修科目(通年)
必修科目(半期)
「内容の深化」
「同一科目だがクラス・学科で開講時期が異なる」
※ 凡例
選択科目(通年)
選択科目(半期)
「科目の関連」

(出典　教務委員会資料)

資料５－２－①－２

学年別の授業形態の割合

(a)各学科が開設する科目の主な授業形態別の単位数
(b)学年の総開設科目単位数に対する主な授業形態の単位数割合

総合科学科(一般科目)

| | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 5年 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | a | b | a | b | a | b | a | b | a | b |
| 講義 | 17 | 65.4% | 17 | 68.0% | 13 | 65.0% | 9 | 50.0% | 4 | 40.0% |
| 実験 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 実習 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 演習 | 9 | 34.6% | 8 | 32.0% | 7 | 35.0% | 9 | 50.0% | 6 | 60.0% |

機械システム工学科

| | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 5年 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | a | b | a | b | a | b | a | b | a | b |
| 講義 | 9 | 69.2% | 7 | 53.8% | 14 | 66.7% | 18 | 72.0% | 17 | 63.0% |
| 実験 | 1 | 7.7% | 1 | 7.7% | 1 | 4.8% | 4 | 16.0% | 10 | 37.0% |
| 実習 | 3 | 23.1% | 3 | 23.1% | 4 | 19.0% | 3 | 12.0% | 0 | 0.0% |
| 演習 | 0 | 0.0% | 2 | 15.4% | 2 | 9.5% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

情報通信システム工学科

| | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 5年 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | a | b | a | b | a | b | a | b | a | b |
| 講義 | 11 | 84.6% | 8 | 61.5% | 17 | 77.3% | 20 | 66.7% | 23 | 76.7% |
| 実験 | 2 | 15.4% | 5 | 38.5% | 3 | 13.6% | 3 | 10.0% | 7 | 23.3% |
| 実習 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 2 | 9.1% | 5 | 16.7% | 0 | 0.0% |
| 演習 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 2 | 6.7% | 0 | 0.0% |

メディア情報工学科

| | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 5年 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | a | b | a | b | a | b | a | b | a | b |
| 講義 | 9 | 69.2% | 6 | 46.2% | 12 | 63.2% | 24 | 75.0% | 22 | 75.9% |
| 実験 | 1 | 7.7% | 5 | 38.5% | 5 | 26.3% | 3 | 9.4% | 7 | 24.1% |
| 実習 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 2 | 10.5% | 5 | 15.6% | 0 | 0.0% |
| 演習 | 3 | 23.1% | 2 | 15.4% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

生物資源工学科

| | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 5年 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | a | b | a | b | a | b | a | b | a | b |
| 講義 | 9 | 69.2% | 9 | 69.2% | 14 | 70.0% | 16 | 61.5% | 18 | 72.0% |
| 実験 | 4 | 30.8% | 2 | 15.4% | 4 | 20.0% | 7 | 26.9% | 7 | 28.0% |
| 実習 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 2 | 10.0% | 3 | 11.5% | 0 | 0.0% |
| 演習 | 0 | 0.0% | 2 | 15.4% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

(出典　学生課資料)

資料５－２－①－３

## 平成22年度 前学期 IT教室、CALL教室 時間割

| | 月 | | | | 火 | | | | 水 | | | | 木 | | | | 金 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1<br>8:40～10:20 | 2<br>10:30～12:10 | 3<br>13:00～14:40 | 4<br>14:50～16:30 | 1<br>8:40～10:20 | 2<br>10:30～12:10 | 3<br>13:00～14:40 | 4<br>14:50～16:30 | 1<br>8:40～10:20 | 2<br>10:30～12:10 | 3<br>13:00～14:40 | 4<br>14:50～16:30 | 1<br>8:40～10:20 | 2<br>10:30～12:10 | 3<br>13:00～14:40 | 4<br>14:50～16:30 | 1<br>8:40～10:20 | 2<br>10:30～12:10 | 3<br>13:00～14:40 | 4<br>14:50～16:30 |
| IT教室 | | 情報技術の基礎<br>1年1組 | 実用英語（TOEIC）<br>4年IC | | | 情報技術の基礎<br>1年2組 | 実用英語（TOEIC）<br>2年2組 | （選択）<br>フランス語Ⅰ<br>バイティガ | 情報技術の基礎<br>1年3組 | 情報技術の基礎<br>1年4組 | 実用英語（TOEIC）<br>2年2組 | | 情報技術の基礎<br>1年2組 | 情報技術の基礎<br>1年1組 | 実用英語（TOEIC）<br>1年3組 | 実用英語（TOEIC）<br>3年MS | 情報技術の基礎<br>1年4組 | 情報技術の基礎<br>1年3組 | コンピュータネットワーク<br>3年M1 | 実用英語（TOEIC）<br>1年1組 |
| | 実用英語（TOEIC）<br>1年4組 | 実用英語（TOEIC）<br>4年MS | 実用英語（TOEIC）<br>3年BR | 英語<br>3年MS | 実用英語（TOEIC）<br>5年IC | 実用英語（TOEIC）<br>3年MI | 実用英語（TOEIC）<br>5年BR | 実用英語（TOEIC）<br>2年1組 | 実用英語（TOEIC）<br>5年MS | 英語<br>3年IC | 実用英語（TOEIC）<br>2年3組 | | 実用英語（TOEIC）<br>2年4組 | 実用英語（TOEIC）<br>3年IC | 実用英語（TOEIC）<br>4年BR | | 実用英語（TOEIC）<br>4年MI | 実用英語（TOEIC）<br>1年2組 | | 実用英語（TOEIC）<br>5年MI |

（出典　学生課資料）

資料５－２－①－４



国立 沖縄高専
Okinawa National College of Technology

アクセスマップ　お問い合せ　English
独立行政法人　国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校

トップページ > 入試情報(Entrance Examination) > 学生用ノートパソコンについて

Contents Menu | コンテンツメニュー
- トップページ
- 学校紹介(About ONCT)
- 学科紹介(Departments)
- 教育・学生生活(College Life)
- 進学・就職状況(Employment Situation)
- 入試情報(Entrance Examination)
- 沖縄高専の活動(Academic Activities)
- 教員紹介(Faculty)
- 教職員公募(Job Listings)
- 企業の方へ(入札情報他)
- アクセスマップ(Visitor Information)
- リンク集
- お問い合わせ先一覧

Search | サイト内検索
検索

Calendar | カレンダー
カレンダー

## 学生用ノートパソコンについて

**はじめに**

本校では入学に際して全ての学生にノートパソコンを用意してもらっています。ノートパソコンを使った授業、レポートの作成、メールでの連絡など、授業から寮での生活まで、ノートパソコンは沖縄高専の学生に欠かせない学用品です。その仕様については学校からの指定がありますので、必ず学校の仕様に適合したノートパソコンを用意して下さい。本校では、標準仕様を満たした推奨機種の斡旋も行なっています。

**重要なお知らせ**

自分でノートパソコンを用意する場合は、以下の点にご注意下さい。

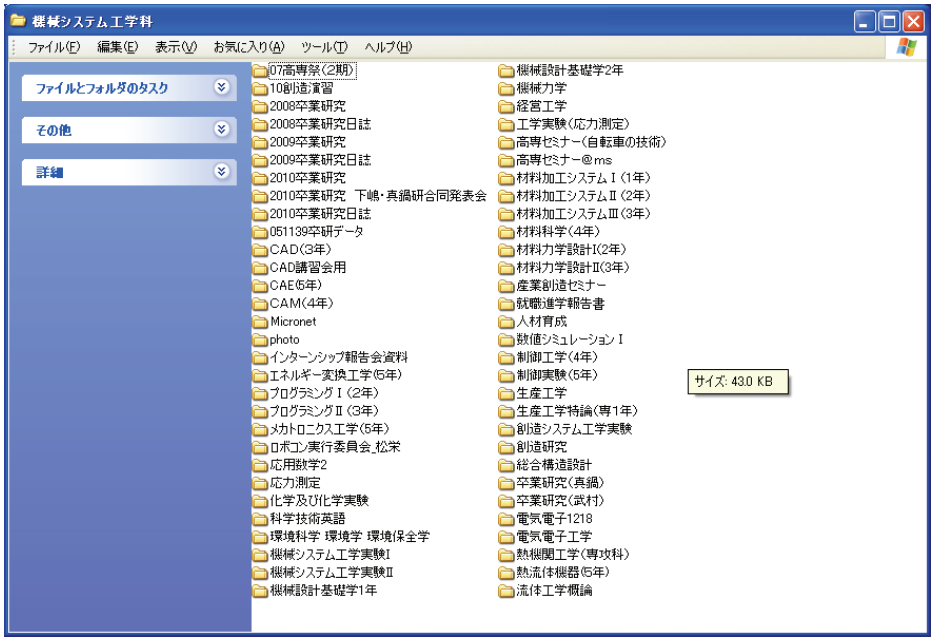
授業等でノートパソコンを使用する際、OSとしてはWindows Vista Ultimateが動作している必要があります。自分で用意するノートパソコンにWindows Vista Ultimate以外のWindows系OSがインストールされている場合は、本校入学後、マイクロソフト社の包括ライセンスによりWindows Vista Ultimateへのアップグレードが可能です。ただし、その場合は、Windows Vista Ultimate以外のWindows系OSのライセンスが予め付属されていることが条件となります。必要なライセンスについては別途ご相談下さい。

Mac OS Xがインストールされているノートパソコンにつきましては、BootCamplによりWindows Vista Ultimateを動作できる状態にする必要があります。Windows Vista Ultimateは、本校入学後にマイクロソフト社の包括ライセンスを用いて導入していただきますので、別途用意する必要はありませんが、BootCampの設定は各自であらかじめ行っておく必要があります。なお、Mac OS Xのトラブル等につきましては、本校ではサポート対象外としておりますので、Mac OS Xがインストールされているノートパソコンの使用につきましては、自己責任でお願いいたします。

Mac OS XおよびWindows系OS以外の他のOSについては、マイクロソフト社の包括ライセンスにより、Windows Vista Ultimateへアップグレードすることが出来ません。よって、Windows Vista Ultimateを別途用意し、持参されるノートパソコン上で事前に動作するようにしておく必要があります。なお、Windows系OS以外のOSのトラブル等につきましては、本校ではサポート対象外としておりますので、そのようなその他のOSがインストールされているノートパソコンの使用につきましては、自己責任でお願いいたします。

(出典　本校ウェブページ)

資料５－２－①－５




(出典　ファイルサーバのファイル一覧)

資料５－２－①－６

# 平成22年度　前期オフィスアワー

| 学科 | 氏　名 | 曜日 | 研究室 |
|---|---|---|---|
| 機械システム工学科 | 宮田　恵守 | 月 | 3-15 |
| | 眞喜志　隆 | | 2-16 |
| | 松栄　準治 | | 2-17 |
| | 眞喜志　治 | | 3-18 |
| | 山城　光 | | 1-18 |
| | 吉永　文雄 | | 3-17 |
| | 武村　史朗 | 火 | 1-16 |
| | 真鍋　幸男 | | 2-18 |
| | 比嘉　吉一 | | 2-15 |
| | 中本　正一朗 | 木 | 3-16 |
| | 政木　清孝 | | 1-17 |
| | 鳥羽　弘康 | 金 | 1-15 |
| | 下嶋　賢 | | 2-14 |
| | | | |
| 情報通信システム工学科 | 杉本　和英 | 月 | 1-6 |
| | 石田　修己 | | 1-4 |
| | 比嘉　勝也 | | 1-5 |
| | 兼城　千波 | | 2-1 |
| | 神里　志穂子 | | 3-1 |
| | 知念　幸勇 | 木 | 2-3 |
| | 野口　健太郎 | | 2-2 |
| | 山田　親稔 | | 2-4 |
| | 金城　伊智子 | | 3-3 |
| | 高木　茂 | 金 | 3-2 |
| メディア情報工学科 | 正木　忠勝 | 月 | 3-7 |
| | バイティガ　ザカリ | | 2-5 |
| | 玉城　龍洋 | | 2-6 |
| | 太田　佐栄子 | 火 | 3-8 |
| | 角田　正豊 | 木 | 3-6 |
| | 伊波　靖 | | 2-7 |
| | 西村　篤 | | 3-9 |
| | 鈴木　大作 | | 3-4 |
| | 佐藤　尚 | | 3-5 |
| | 姉崎　隆 | 金 | 1-7 |
| | タンスリヤポン　スリヨン | | 1-8 |

| 学科 | 氏　名 | 曜日 | 研究室 |
|---|---|---|---|
| 生物資源工学科 | 山城　秀之 | 月 | 2-12 |
| | 池松　真也 | | 2-11 |
| | 平良　淳誠 | | 1-11 |
| | 田邊　俊朗 | | 2-10 |
| | 伊東　昌章 | | 2-13 |
| | 濱田　泰輔 | 火 | 3-13 |
| | 玉城　康智 | | 3-12 |
| | 磯村　尚子 | | 1-14 |
| | 三宮　一宰 | 木 | 1-12 |
| | 工藤　雄博 | | 1-13 |
| | 三枝　隆裕 | 金 | 4-12 |
| | 平山　けい | | 4-10 |
| 総合科学科 | 新川　智清 | 月 | 4-17 |
| | 青木　久美 | | 4-18 |
| | 下郡　剛 | | 4-9 |
| | 角田 ｷｬﾃｨｰ | | 4-16 |
| | 飯田　智行 | | 1-9 |
| | 成田　誠 | 火 | 4-11 |
| | 網谷　厚子 | | 4-3 |
| | 滝　雅士 | | 4-2 |
| | 木村　和雄 | | 4-8 |
| | 宮城　元 | | 3-14 |
| | 澤井　万七美 | 木 | 4-1 |
| | 名嘉山　リサ | | 4-13 |
| | 武田　ひとみ | | 4-5 |
| | 小池　寿俊 | 金 | 4-4 |
| | 大石　敏広 | | 4-15 |
| | 古屋　淳 | | 4-7 |
| | 山本　寛 | | 4-6 |
| 留学生交流促進センター | 吉川　友子 | 火 | 1-10 |

表に示された曜日の16時30分～17時15分までは，先生方が研究室に在室しています。相談等がある学生は，気軽に来室してください。ただし，教員が寮の宿直に当たっている場合には，15分程度前には部屋を後にしますので注意してください。　※この曜日には，必ず在室しているということで，その他の曜日にはいないということではありません。

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

各専門学科において授業形態のバランスは適切である。

一般科目や専門科目で実験室や演習室を利用した学習指導，情報機器を活用した指導，教材の電子化の工夫がなされている。また，学生の相談・質問に応じる仕組みがある。よって，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

**観点５－２－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って，適切なシラバスが作成され，活用されているか。**

（観点に係る状況）

準学士課程の全授業科目についてシラバスが作成され,授業が対応する本科教育目標の対応関係,授業の目標，他の科目との関連，評価方法，授業内容が明記されている（資料５－２－②－１）。

シラバスの作成については，毎年度，教務委員会で様式と記入要領が策定され，それを教員便覧に示し全教員に周知している（資料５－２－②－２）。

シラバスは各科目の最初の授業で，その内容を学生に周知している。授業進行とともにシラバスの内容を変更する必要があるときには，その都度変更内容を学生に周知している。また，授業評価アンケートではシラバスの活用の質問項目を設け，各科目におけるシラバスの利用状況を学生の目線で確認している（資料５－２－②－３，資料５－２－②－４）。

資料５－２－②－１

| 科目名 | 生命科学 | 英文表記 | Life Sciences | 2010年06月04日 |
|---|---|---|---|---|
| 教員名：平山　けい | | | | 更新 |

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業形態 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 生物資源 | ４年 | 選 | 履習 | １単位 | 講義 | 半期 |

| | |
|---|---|
| 目　標 | 「生きるため」・「死ぬため」に備わっている生物のからだのしくみを学ぶ。<br>ヒトのからだにおける免疫のしくみを理解する。<br>生命を護るために備わっているしくみを理解することにより、いのちの尊厳について自分の考えを持つことができる。 |

| 高専目標 | 1 | 2 | 3 | 4 | JABEE プログラム名称 | 生物資源工学 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | ○ | | ◎ | JABEE プログラム教育目標 | A-1,A-3,B-2 |

| | |
|---|---|
| 授業概要、方針、履修上の注意 | **授業は一方通行でなく、対面通行で行なう。そのため、下記に掲げるキーワードによる文献検索と参考図書を利用した予習が必要。学生の積極的な講義への参加を求める。定期試験は、期末試験のみ行なう。** |
| 評価方法 | 期末試験 60%、レポート 40%の割合で総合的に評価する。 |
| 教科書・教材 | PPT およびプリント |
| 参考図書 | Discover BIOLOGY (Sinauer)、『生物講義』大学生のための生命理学入門（裳華房）、いまを解く生命科学 生物学への招待（羊土社）、生命科学と人間（NHK ブックス）、神経・免疫・内分泌系へ拡がるメンブレントラフィック：実験医学（羊土社）（参考図書を探す場合のキーワード：江上不二夫、中村桂子、生命科学、カドヘリン、アポトーシス、テロメア、NK 細胞、T 細胞、サイトカイン、マクロファージ、パーキンソン病、ドーパミン、） |
| 関連科目（学年） | 生物（2 年）、環境科学、生化学（3 年）生理学、生物工学、遺伝子工学（4 年）、分子生物学（5 年） |

**授　業　計　画**

| 授業項目 | 時間 | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1.　ガイダンス　生命科学 | 2 | ガイダンス、生命科学とは |
| 2.　生きるためのシステム | 2 | 多細胞生物の「雌・雄」と「性」 |
| 3.　生命を護るしくみⅠ | 2 | 生体防御にかかわる細胞・マクロファージ |
| 4.　生命を護るしくみⅡ | 2 | 自律神経系とホルモン調節 |
| 5.　生命を護るしくみⅢ | 2 | NK/T 細胞、B 細胞、免疫組織 |
| 6.　恒常性と情報伝達 【実験】 | 2 | 受容体とリガンド、神経伝達物質 |
| 7.　生きるための「死」 | 2 | 細胞の老化、アポトーシスとネクローシス |
| 8.　生命の終わり | 2 | 「死」のプログラム、テロメア |
| 9.　バイオテクノロジー | 2 | Biotechnology 「食物」・「健康」・「環境」 |
| 10.　生命の誕生と死について考えるⅠ | 2 | 生命の誕生から老化・死について【PBL】 |
| 11.　生命の誕生と死について考えるⅡ | 2 | 生命の誕生から老化・死について【PBL】 |
| 12.　ヒトは生命を操って良いか？Ⅰ | 2 | 遺伝子操作、クローンについて【PBL】 |
| 13.　ヒトは生命を操って良いか？Ⅱ | 2 | 遺伝子操作、クローンについて【PBL】 |
| 14.　Biotechinology をどう活かすかⅠ | 2 | Biotechnology のあるべきすがたについて【PBL】 |
| 15.　Biotechinology をどう活かすかⅡ | 2 | Biotechnology のあるべきすがたについて【PBL】 |
| 前期期末試験 | 【2】 | |
| 学習時間合計 | ３０ | 実時間　２５ |

（出典　シラバス）

資料５－２－②－２

## 第２章　教科担当業務

### （1）　シラバスの作成

シラバスは各授業科目の授業の目標、内容、スケジュール等を記述し、学生、他教員、および外部へ公開する重要な文章です。作成にあたっては以下の点を配慮して下さい。

- ✧　授業内容が明確に把握できるよう具体的に記述する
- ✧　自科目のみに目を奪われず、他科目との協調や連携を考慮する
- ✧　授業経験をもとに不断に改良を考えておく

シラバスを印刷し、最初の授業で学生に配布し、説明を行うこと。

### (A)　作成スケジュール

- ✧　各学科長は２月末までに各学科のシラバス案をまとめ教務係に提出する。
- ✧　科目間でシラバスの調整が必要なときは、教務委員会が調整のための会議を開催する。
- ✧　３月末を目途に最終原稿を作成し、教務係に提出する。

### (B)　シラバスの形式及び記入要領

シラバスの学習単位時間合計をその科目の年間総授業時間数とする。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 日本語表記で科目名を書く | **英文表記** | 英文表記で科目名を書く | 平成　年　月　日<br>作　成<br>修　正<br>改定情報を記載する |
| **教員名**：担当教員名を書く。複数教員で担当する場合、成績評価責任者を筆頭に全員を書く。<br>**技術支援職員名**：授業で技術支援を行う職員名を書く。 | | | | |

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業形態 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科名を記入<br>専攻科は「創造システム工学専攻」と記入 | 対象学年を記入 | 必修、選択のどちらかを記入 | 履修単位（高専単位）、学修単位のどちらかを記入 | 左記の履修・学修で区別した単位数を記入 | 講義、演習、実験のどれかを記入 | 半期・通年のどれかを記入 |

| | |
|---|---|
| **目　標** | ３～５の目標を箇条書きで記入。この授業を履修し終えた時、学生がどのようなことができるようになっているか、何を学んだと言えるかを書く。<br>推奨表現：～～を理解する。～～ができる。<br>例１：@@@についてその概念と基礎理論を理解する。<br>例２：＊＊＊の？？？法についてその技術を習得する。<br>例３：＃＃＃技術を実践的に応用することができる。<br><br>（枠の大きさは変更可能） |

8

（出典　平成 22 年度教員便覧　P. 8）

資料５－２－②－３

# 授業改善のためのアンケート（座学用）

このアンケートは、今後の授業改善に生かされるもので、回答結果は皆さんの成績には関与しません。より良い授業のためにみなさんのご協力をお願いします。以下の設問に、まじめに回答を選択し、率直な意見を記入してください。

設問

《学生の自己分析》

１．　あなたの理解度は以下のどれにあてはまると思いますか？

（１．90%以上、２．90～80%、３．80～70%、４．70～60%、５．60%未満）

２．　予習・復習、課題提出などやるべきことをきちんとやりましたか？

（１．全てできた、2.ほとんどできた、３．時々できていない、４．あまりできていない、５．全くできていない）

３．　居眠り・雑談をせず説明に集中し、分らない箇所は質問するなど意欲的に努力しましたか？

（１．全てできた、2.まあまあできた、３．どちらともいえない、４．ややできていない、５．全くできていない）

４．　授業で何を向上できたと思いますか？（複数選択可）

（１．基礎知識　２．応用力　３．スキル　４．視野の広がり　５．何もない）

５．　授業を受けるのに必要な事前学力を備えていたと思いますか？

（１．充分持っていた　２．まあまあ持っていた　３．何ともいえない　４．やや不足　５．全く不足していた）

《授業の進め方について》

６．　授業は定時に始まり、定時に終わりましたか？

（１．90%以上定時、2. 90～80%定時、３．80～70%定時、４．70～60%定時、５．60%未満）

７．　私語や授業態度などを教員は注意しましたか？

（１．した、２．まあした　３．どちらともいえない　４．あまりしなかった、５．しなかった）

８．　質問しやすく発言しやすい雰囲気で、質問にもきちんと対応してくれましたか？

（１．とてもそう思う　2.そう思う　３．どちらでもない、４．あまりそう思わない５．全くそう思わない）

９　PPT、パソコン等の IT 系教育機材の使い方について、どう感じましたか？

（１．もっと使った方が分かりやすい　２．　３．　ちょうど良い　４．　５．もっと板書の方が分かりやすい）

《授業内容について》

１０．　授業はシラバスに沿って計画的に行われましたか？

（１．シラバス通り、2. まあシラバス通り、３．なんともいえない、４．少し異なる、５．全く違う）

１１．　教員の説明は、言葉や論理が明瞭で、あなたにとって、理解しやすかったですか？

（１．理解しやすい、2.まあ理解しやすい　３．普通、４．やや理解しにくい　５．理解しにくい）

１２．　授業のレベルはあなたにとってどうでしたか？

（1．高すぎる、2.少し高い、３．ちょうど良い、４．少し低い、５．低すぎる）

１３．　１回の授業の進み具合はあなたにとってどうでしたか？

（1．速すぎる、2.少し速い、３．ちょうど良い、４．少し遅い、５．遅すぎる）

１４．　授業内容の豊富さはあなたにとってどうでしたか？

（1．多すぎる、２．やや多い、３．ちょうど良い、４．やや少ない、５．少なすぎる）

１５．　あなたにとって、講義と実践の割合はどう感じましたか？

(1.もっと講義が多い方が力が付く　２．　3.ちょうど良い　　４．　5.もっと実践が多い方が力が付く）

《自由記述》

上の質問に関すること、またはこの授業で自由に要望、コメントなどを書いてください。

１．　よかったところ

| |
|---|
| |

２．　改善して欲しいところ

| |
|---|
| |

## 授業改善のためのアンケート（実験・実習用）

このアンケートは、今後の授業改善に生かされるもので、回答結果は皆さんの成績には関与しません。より良い授業のためにみなさんのご協力をお願いします。以下の設問に、まじめに回答を選択し、率直な意見を記入してください。

設問

《学生の自己分析》

１．　この授業について、あなたの理解度は以下のどれにあてはまると思いますか？

（１．90%以上、２．90～80%、３．80～70%、４．70～60%、５．60%未満）

２．　予習復習、課題提出など、やるべきことをきちんとやりましたか？

（１．全てできた、2.ほとんどできた、３．時々できていない、４．あまりできていない、５．全くできていない）

３．　居眠り・雑談・人任せにしない、分らない箇所は質問する、など意欲的に取り組みましたか？

（１．全てできた、2.まあまあできた、３．どちらともいえない、４．ややできていない、５．全くできていない）

４．　授業で何を向上できたと思いますか？（複数選択可）

（１．基礎知識　２．実験技術　３．理論と実際の対応　４．視野の広がり　５．何もない）

《授業の進め方について》

５．　授業は定時に始まり、定時に終わりましたか？

（１．90%以上定時、2. 90～80%定時、３．80～70%定時、４．70～60%定時、５．60%未満）

６．　実験機器や資材の数量について、どう感じましたか？

（１．充分であり満足できた　２．　３．どちらともいえない　４．　５．不足のため、遊び時間があった）

７．充分や説明や実験マニュアルが整備されていましたか？

（１．充分あった　２．あった　３．どちらともいえない　４．　あまりなかった　５．無かった）

８．授業中は質問しやすく発言しやすい雰囲気で、質問にもきちんと対応してくれましたか？

（１．とてもそう思う　2.そう思う　３．どちらでもない、４．あまりそう思わない５．全くそう思わない）

９．実験・実習の中で安全性についての説明や対策は確保されていましたか？

（１．とてもそう思う　2.そう思う　３．どちらでもない、４．あまりそう思わない５．全くそう思わない）

《授業内容について》

１０．　授業はシラバスに沿って計画的に行われましたか？

（１．シラバス通り、2. まあシラバス通り、３．なんともいえない、４．少し異なる、５．全く違う）

１１．教員の説明は、言葉や論理が明瞭で、あなたにとって、理解しやすかったですか？

（１．理解しやすい、2.まあ理解しやすい　３．普通、４．やや理解しにくい　５．理解しにくい）

１２．　授業のレベルはあなたにとってどうでしたか？

（１．高すぎる、2.少し高い、３．ちょうど良い、４．少し低い、５．低すぎる）

１３．　１回の授業の進み具合はあなたにとってどうでしたか？

（１．速すぎる、2.少し速い、３．ちょうど良い、４．少し遅い、５．遅すぎる）

１４．　授業内容の豊富さはあなたにとってどうでしたか？
（1．多すぎる、2．やや多い、3．ちょうど良い、4．やや少ない、5．少なすぎる）
１５．　理論的な（講義系）科目との関連が感じられましたか？
（1．関連が良く分かった　2．　3．どちらともいえない　4．　5．どの科目と関連するのか不明だった）

《自由記述》
上の質問に関すること、またはこの授業で自由に要望、コメントなどを書いてください。
1．　よかったところ

| |
|---|
| |

2．　改善して欲しいところ

| |
|---|
| |

## 授業改善のためのアンケート　（実技（体育・美術・音楽）用）

このアンケートは、今後の授業改善に生かされるもので、回答結果は皆さんの成績には関与しません。より良い授業のためにみなさんのご協力をお願いします。以下の設問に、まじめに回答を選択し、率直な意見を記入してください。

設問

《学生の自己分析》

１．　居眠り・雑談をせず実技理論の説明に集中し、分らない箇所は質問するなど意欲的に努力しましたか？

（１．全てできた、2.まあまあできた、３．どちらともいえない、４．ややできていない、５．全くできていない）

２．　サボらずに、積極的に練習を行いましたか？

（１．積極的できた、2.ほとんどできた、３．時々できていない、４．あまりできていない、５．全くできていない）

３．　授業で何を向上できたと思いますか？（複数選択可）

（１．実技理論・ルールに関する知識　２．実技そのもの　３．楽しさ　４．何もない）

《授業の進め方について》

４．　授業は定時に始まり、定時に終わりましたか？

（１．90%以上定時、2. 90～80%定時、３．80～70%定時、４．70～60％定時、５．60％未満）

５．　私語や授業態度などを教員は注意しましたか？

（１．した、２．まあした　３．どちらともいえない　４．あまりしなかった、５．しなかった）

６．　質問しやすく発言しやすい雰囲気で、質問にもきちんと対応してくれましたか？

（１．とてもそう思う　2.そう思う　３．どちらでもない、４．あまりそう思わない５．全くそう思わない）

７．　実技用機器や資材の数量について、どう感じましたか？

（１．充分であり満足できた　２．　３．どちらともいえない　４．　５．不足のため、遊び時間があった）

《授業内容について》

８．　授業はシラバスに沿って計画的に行われましたか？

（１．シラバス通り、2. まあシラバス通り、３．なんともいえない、４．少し異なる、５．全く違う）

９．　教員の説明は、言葉や論理が明瞭で、あなたにとって、理解しやすかったですか？

（１．理解しやすい、2.まあ理解しやすい　３．普通、４．やや理解しにくい　５．理解しにくい）

１０．　授業のレベルはあなたにとってどうでしたか？

（１．高すぎる、2.少し高い、３．ちょうど良い、４．少し低い、５．低すぎる）

１１．　１回の授業の進み具合はあなたにとってどうでしたか？

（１．速すぎる、2.少し速い、３．ちょうど良い、４．少し遅い、５．遅すぎる）

１２．　授業内容の豊富さはあなたにとってどうでしたか？

（１．多すぎる、２．やや多い、３．ちょうど良い、４．やや少ない、５．少なすぎる）

１３．実技試験・作品提出など、成果に基づいて成績がつけられたと思いましたか？

（1．とてもそう思う　2.そう思う　3．どちらでもない、4．あまりそう思わない５．全くそう思わない）

《自由記述》

上の質問に関すること、またはこの授業で自由に要望、コメントなどを書いてください。

1．　よかったところ

| |
|---|
| |

2．　改善して欲しいところ

| |
|---|
| |

(出典　授業改善のためのアンケート)

資料５－２－②－４

**問題10　評価尺度/リッカート**
授業はシラバスに沿って計画的に行われましたか？

| 解答 | パーセント解答 |
|---|---|
| 1. シラバス通り | 34.783% |
| 2. まあシラバス通り | 52.174% |
| 3. なんともいえない | 13.043% |
| 4. 少し異なる | 0% |
| 5. 全く違う | 0% |
| *未解答* | 0% |

(出典　授業改善のためのアンケート結果　抜粋)

（分析結果とその根拠理由）

授業が対応する本科教育目標の対応関係，授業の目標，他の科目との関連，評価方法，授業内容が明記されたシラバスが作成され，その内容が学生に周知され，活用されている。

**観点５－２－③：　創造性を育む教育方法（ＰＢＬなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。**

（観点に係る状況）

第１学年全学共通専門科目「高専セミナー」の前期では混合学級において，各専門学科に関連する身近な工業製品を分解・組立または解析し，その構造と構成技術を理解させている。さらに，企業調査や見学で社会構造と産業の実態を理解させ幅広い視野を育成している(資料５－２－③－１)。第２学年全学共通専門科目「創造演習」では学科ごとに課題解決型の学習を通して創造性を育む教育を行っている。例えば，機械システム工学科では「学科内ロボコン」を，情報通信システム工学科では「回路の製作」を，メディア情報工学科では「マインドストームロボットの作成」を，生物資源工学科では「タンパク質に関する実験」を通して与えられた課題を解決するための情報収集・実験・考察・発表に取り組ませている（資料５－２－③－２)。

本校の教育の特色のひとつとして,独自に定義した３つの区分のPBLを多くの科目で導入することを謳っている。科目の配当学年や授業内容の特徴により，基礎知識の有機的理解や応用力の育成を目的としたProcess-based Learning，問題解決能力や幅広い統合化能力の育成を目的としたProblem-based Learning，創造力の育成を目的としたProject-based Learningの教育方法を導入している（資料５－２－③－３)。

第４学年専門必修科目「インターンシップ」では事前・事後学習も含めて単位認定されている（資料５－２－③－４)。全員がインターンシップを経験し，単位認定されている。

資料５－２－③－１

| 科目名 | 沖縄高専セミナー | 英文表記 | ONCT　Seminar | H22 年<br>4 月 9 日<br><br>修正 |
|---|---|---|---|---|
| **教員名：**機械【山城（光），眞喜志（治），比嘉（吉），鳥羽】,情報【高木，杉本，兼城】，メディア【伊波，鈴木，太田，正木，角田，タンスリヤボン】，生物【伊東，三宮、工藤】<br>**技術指導：**佐竹卓彦，比嘉修, | | | | |

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業形態 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 全学科 | １年 | 必修 | 履修 | ４単位 | 講義 | 通年 |

| | |
|---|---|
| **目　標** | 1.全学科の概要を理解する事により，専門の異なる人の考え方を理解する。<br>2.各専門学科に関連する身近な商品（工業製品）の考え方を学び，技術に対する幅広い興味と視点を醸成し，今後学習する授業科目の意義と位置づけを理解する。<br>3.企業見学などを通じて産業社会を理解する。<br>4.PBL 授業を通じて自己学習力，発表能力を身につける。 |

| **高専目標** | 1 | 2 | 3 | 4 | **JABEE プログラム名称** | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | ◎ | | ○ | **JABEE プログラム教育目標** | |

| | |
|---|---|
| **授業概要、方針、履修上の注意** | 各専門学科で学ぶ授業科目の構成と概要を理解する。<br>各専門学科に関連する身近な商品を分解（一部は組立）または解析しながら，その構造と構成技術を理解する。<br>各自が興味を感じた技術を調査し，その結果を発表する。<br>異分野を含めた沖縄県の企業を調査・見学し，社会構造と産業の実態を理解し，幅広い視野を育成する。　（＊各学級及び各学科同時開講方式） |
| **評価方法** | ミニ概論レポート：５%、企業見学レポート：１０%、各学科固有技術に関するレポート・発表：８５%（前期３５%、後期５０%）。（試験は実施しない。） |
| **教科書・教材** | 各学科にて作成のテキスト、電子ファイル |
| **参考図書** | サイクル・サイエンス（小島千明著，コロナ社），これでわかる自転車技術（特許庁編，出版社：発明協会），デジカメ解体新書（東陽一著，CQ 出版社），インターネット（出版社：岩波書店　岩波新書） |
| **関連科目（学年）** | 情報技術の基礎（本科１年） |

**授　業　計　画**

| 授　業　項　目 | 時間 | 授　業　内　容 |
|---|---|---|
| 【前期】混合クラス<br>全体ガイダンス(ミニ概論) | 4 | 高専セミナーおよび各学科のガイダンスと学科見学 |
| 技術を支える基礎科学<br>（機械システム工学科） | 12 | ・自動車にみる“システム化技術”について映像を交えて紹介<br>・人力自転車からエンジン，電気，ハイブリッド，水素エネへと<br>・電流，磁界，モータの仕組みについて説明の後，演習により電磁気学とエネルギー工学の基礎知識（理科）を再確認<br>・電動アシスト自転車の試乗体験および自転車の分解組立を予定 |
| デジタルカメラの技術<br>（情報通信システム工学科） | 12 | ・授業の狙い，従来カメラと情報機器としてのデジタルカメラの説明<br>・デジタルカメラの構造と構成1(入力，出力部)の講義、デジカメ実習<br>・構成2(CPU,LSI,画像処理部)の講義、技術調査、デジカメ実習<br>・構成3(周辺装置)の講義，新商品の仕様書作成，デジカメ実習<br>・発表準備，発表会，講評 |
| 第１回企業調査，見学 | 4 | 授業内容に関連する企業の事前調査と見学を行い，レポートを提出。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| **情報を伝える技術**<br>**（メディア情報工学科）** | 12 | ・授業の狙いの説明<br>・コンテンツ制作、コンピュータの構成、インターネットの仕組みなど情報を伝えるための最新技術を理解する。<br>・レポート作成 | |
| **食品製造の技術**<br>**（生物資源工学科）** | 12 | ・授業の狙いの説明<br>・オリオンビール名護工場の見学<br>・食品製造を対象として、グループ別に製造手法、製造機械等興味をもった項目を調査課題として設定する。文献調査の方法を学び、設定課題について多面的に調査を行う。<br>・グループ毎に最終発表を実施する。 | |
| 第２回企業調査，見学<br>レポート作成 | 4 | 授業内容に関連する企業の事前調査と見学を行い，レポート提出。また，これまでの授業で興味有る技術と企業調査・見学結果を総合レポートとしてまとめ，提出する。 | |
| 【後期】学科別クラス<br><br>(機械システム工学科)<br>工業力学の基礎<br>施設見学 | 60 | ・質点系の力学に関する授業および演習<br>・剛体の力学に関する授業および演習<br>・熱工学に関する実験<br>・機械工学関連の施設見学 | |
| (情報通信システム工学科)<br>電気・電子回路の基礎 | | ・　電気数学の基礎の講義と演習<br>・　素子・単位系<br>・　電気・電子回路の構成と測定法の演習 | |
| (メディア情報工学科)<br>プログラミングの基礎<br>IT 技術者資格 | | ・プログラミングに関する授業および演習<br>・応用情報技術者試験の映像教材制作 | |
| (生物資源工学科)<br>生物の基礎 | | ・植物学の基礎に関する授業<br>・遺伝学の基礎に関する授業 | |
| **学習時間合計** | **120** | **実時間** | **100** |
| **学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など）** | | | |

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。（５０分＝１、１００分＝２）
通年は２ページ、半期は１ページ以内におさめる。

（出典　シラバス）

資料５－２－③－２

| 科目名 | 創造演習 | 英文表記 | Creative Seminar | 2010 年 6 月 1 日 |
|---|---|---|---|---|
| 教員名： 眞喜志隆、政木清孝、下嶋賢 | | | | 修正 |

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業形態 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 機械システム工学科 | ２年 | 必 | 履修 | 2 | 演習 | 通年 |

| | |
|---|---|
| 目　標 | ①課題に対する疑問点に対して自らの発想で解答を見つけ出す自主学習能力を習得する<br>②課題に対して，調査結果や実験結果を利用して説明を展開する方法を習得する。<br>③疑問点を見つける能力・解答を導くための発想力・結果をまとめる方法・わかりやすい説明を行う能力を習得する。<br>④チームワークで問題を解決する能力を習得する |

| 高専目標 | 1 | 2 | 3 | 4 | JABEE プログラム名称 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ○ | ◎ | | | JABEE プログラム教育目標 | |

| | |
|---|---|
| 授業概要、方針、履修上の注意 | 初めの 6 回の講義では，与えられたテーマに対しての、学生個人による情報収集・検討・実験・討論・考察・まとめ・発表の演習を行う．後半の 24 回の講義では，学生を数人ずつのグループに分け、学科内ロボコンを行わせる。グループで情報収集・検討・実験・討論・考察・まとめ・発表を行う．各演習テーマの詳細は担当教員で決定する．PBL2の形式で講義を進めるため，学生自らの調査研究・討論が主体となり，担当教員は適宜指導・助言を行う．調査レポートの内容について発表・討議を行い，種々の視点より技術を深く理解する．最終的に，調査検討した内容をレポートで提出する．中間発表・成果発表は進捗に応じ，適宜実施する． |
| 評価方法 | 各時間での調査・討議・作業内容を日誌として提出する。また、各テーマごとに中間発表・最終発表を行う。評価は，作業日誌と製作品 40%，中間および最終発表と最終報告 30%，学生間での相互評価 30%とし，合計点の 60%以上取得のとき単位を認定する． |
| 教科書・教材 | 教員作成のパワーポイント資料 |
| 参考図書 | 特に指定はないが、ロボコンや機構学関連図書が参考になる<br>（他にも参考図書を探す場合のキーワード：ロボコン、、ロボット、機構学　） |
| 関連科目（学年） | 沖縄高専セミナー（１年)、産業創造セミナー（３年)、機械システム工学実験（４，５年) |

**授　業　計　画**

| 授　業　項　目 | 時間 | 授　業　内　容 |
|---|---|---|
| 1. 講義概要説明 | 2 | 講義の進め方の説明・個人テーマ設定の説明・講義内容を理解させる |
| 2. 個人テーマ自主調査 | 2 | 調査項目の設定・調査計画作成・調査開始・調査方法とまとめ方を学習する |
| 3. 個人テーマ自主作業 | 2 | 課題製作・試作設計と問題点抽出法の概要を学習する |
| 4. 個人テーマ自主作業 | 2 | 課題製作・モデル改善方法を学習する |
| 5. 個人テーマ自主作業 | 2 | 課題製作・モデル改善方法を学習する |
| 6. 競技 | 2 | 個人テーマ競技と成績発表・競技結果を基に問題解決方法を学習する |
| 7. 学科内ロボコン | 2 | 学科内ロボコン・競技内容解説・班分け・講義内容を理解させる |
| 8.　班による自主研究 | 2 | 各班での調査・検討・企画書製作・班での討議方法、議事の進め方、結果のまとめ方を学習する |
| 9. 班による自主研究 | 2 | 各班での調査・検討・企画書製作・企画書や設計書のまとめ方を学習する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10. 中間発表 | 2 | 中間発表･プレゼンテーション方法を学習する。 | |
| 11. 班による自主研究 | 2 | ロボット設計･設計方法の概要を学習する。 | |
| 12. 班による自主研究 | 2 | ロボット設計･設計方法の概要を学習する | |
| 13. 班による自主研究 | 2 | ロボット設計･部品発注書製作･部品と予算の見積り方法を学習する。 | |
| 14. 班による自主製作 | 2 | ロボット製作･班での作業分担、製作途中での問題点抽出方法を学習する | |
| 15 班による自主製作 | 2 | ロボット製作･問題点抽出と解決法について学習する。 | |
| 前期末試験 | | 実施しない | |
| 16. 班による自主製作 | 2 | ロボット製作･問題点抽出と解決法について学習する。 | |
| 17. 班による自主製作 | 2 | ロボット製作･問題点抽出と解決法について学習する。 | |
| 18. 班による自主製作 | 2 | ロボット製作･問題点抽出と解決法について学習する。 | |
| 19. 班による自主製作 | 2 | ロボット製作･問題点抽出と解決法について学習する。 | |
| 20. 班による自主製作 | 2 | ロボット製作･問題点抽出と解決法について学習する。 | |
| 21.中間発表 | 2 | 中間発表・プレゼンテーション方法を学習する。 | |
| 22. 班による自主製作 | 2 | ロボット調整・改造･問題点抽出と解決法について学習する。 | |
| 23. 班による自主製作 | 2 | ロボット調整・改造･問題点抽出と解決法について学習する。 | |
| 24. 班による自主製作 | 2 | ロボット調整・改造･問題点抽出と解決法について学習する。 | |
| 25. 班による自主製作 | 2 | ロボット調整・改造･問題点抽出と解決法について学習する。 | |
| 26. 班による自主製作 | 2 | ロボット調整・改造･問題点抽出と解決法について学習する。 | |
| 27. 班による自主製作 | 2 | ロボット調整・改造･問題点抽出と解決法について学習する。 | |
| 28.競技 | 2 | 競技・結果からの改善点抽出方法を学習する | |
| 29.最終報告会 | 2 | 最終発表・プレ先手―ション方法を学習する | |
| 30.最終報告書の製作 | 2 | 最終報告書まとめ・報告書の表現法を学習する | |
| 学年末試験 | | 実施しない | |
| **学習時間合計** | **60** | **実時間** | **50** |

**学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など）**

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。（５０分＝１、１００分＝２）
通年は２ページ、半期は１ページ以内におさめる。

| 科目名 | 創造演習 | 英文表記 | Creative　Seminar | H22 年 6 月 17 日 |
|---|---|---|---|---|
| 教員名：高木茂、知念幸勇、石田修己、比嘉勝也<br>技術支援：佐竹卓彦、比嘉修 | | | | 修正 |

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業形態 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 情報通信システム工学科 | 2 年 | 必修 | 履修 | 2 単位 | 実験 | 通年 |

| | |
|---|---|
| 目　標 | ①論理回路と LED 表示回路を題材に、回路の製作を通じて、モノ作りに対する興味と、創造力の育成を図る。<br>②異なる光源を使って感度の違いを測ることで光センサーの原理を理解し、新しいセンサーと応用を創造してみる。<br>③外界から情報を収集し、処理を行い、外界に対して作用を及ぼすという情報処理の基本サイクルを理解するとともに、そのための基本技術について習得する。<br>④通信モデルを例題とし，想像と実践の繰り返しにより，創意工夫することを学ぶ. |

| 高専目標 | 1 | 2 | 3 | 4 | JABEE プログラム名称 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ○ | ◎ | | | JABEE プログラム教育目標 | |

| | |
|---|---|
| 授業概要、方針、履修上の注意 | ①簡単な論理回路と表示回路との組み合わせ回路をブレッドボード上に試作する。<br>基本回路と自由課題の２つのテーマで実施する。<br>②数種類のＬＥＤと簡単な光／電気回路を用いて、光源・回路・測定方法の違いからセンサーの原理と応用を考える。<br>③PIC-BASIC を用いて、外界（発光ダイオード、モーター等）を制御する方法、および、AD 変換機能で外部データ（電圧）を測定する方法を修得する。<br>④教室の両端に別れたグループ間で情報伝達する身近な手段を考え，試行し，改善する. |
| 評価方法 | レポートで評価（試験は実施しない） |
| 教科書・教材 | プリント教材（電子ファイル）で提供 |
| 参考図書 | |
| 関連科目（学年） | 計算機工学Ⅰ，Ⅱ（1，2年）、情報通信工学実験基礎（1年），電気回路Ⅰ（2年），電気回路ＩＩ（3年），電子回路Ⅰ，ＩＩ（3年），集積回路Ⅰ，ＩＩ（4，5年），通信工学Ⅰ,ＩＩ（4，5年） |

**授　業　計　画**

| 授　業　項　目 | 時間 | 授　業　内　容 |
|---|---|---|
| 1. 年間のガイダンス<br>電子部品の基礎 | 2 | 授業の概要、進め方、他教科との位置付けについて講義<br>回路工作に必要な抵抗・ダイオード・LED などの主要電子部品について講義 |
| 2. 論理回路の設計 | 2 | 回路工作に必要な抵抗・ダイオード・LED などの主要電子部品について講義 |
| 3. 論理回路の設計（基本回路）１ | 2 | LED,ダイオード,トランジスタを用いた回路実験をブレッドボード上に試作、まとめ、レポート作成 |
| 4. 論理回路の設計（基本回路）２ | 2 | 〃 |
| 5. 論理回路の設計（基本回路）３ | 2 | 〃 |
| 6. 論理回路の設計（自由課題）１ | 2 | LED,ダイオード,トランジスタおよび IC 等を用いた回路による実験、まとめ、レポート作成 |
| 7. 論理回路の設計（自由課題）２ | 2 | 〃 |
| 8. 論理回路の設計（自由課題）３ | 2 | 〃 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 9.　光素子と増幅回路 | | LED 光源とフォトトランジスタの構成，動作原理 | |
| 10. トランジスタ増幅回路 | | トランジスタ増幅回路の組み立て | |
| 11. 光センサ測定１ | | LED 光源とトランジスタ増幅回路を用いた測定 | |
| 12. オペアンプ増幅回路 | | オペアンプ増幅回路の組み立て | |
| 13. 光センサ測定２ | | LED 光源とオペアンプ増幅回路を用いた測定 | |
| 14. 光センサ測定３ | | 遠赤外線センサを用いた熱測定 | |
| 15　まとめ | | センサの応用についてのアイデア発表会 | |
| 16-18.<br>PIC-BASIC の<br>ベースボードを使った演習 | 6 | • PIC-BASIC の概要説明。<br>• ノート PC への開発環境のインストール。<br>• PIC-BASIC の命令実行時間の計測。<br>• LED による目のチラつき特性の計測。<br>• パルス幅変調による LED の明るさ制御。<br>• AD 変換機能を利用した､コンデンサの放電の測定。<br>レポート作成。 | |
| 19-23.<br>拡張基板の作成とそれを用いた演習 | 10 | • 拡張基板の作成<br>• 3 色 LED の制御。<br>• モーターの制御。<br>• レポート作成。 | |
| 24. 通信手段の基礎 | 2 | 音声，振動，電気，光などによる通信手段を抽出する. | |
| 25. 音声による情報伝達 | 2 | 音声による直接的な通信手段を試行し，問題点と改善法を確認する. | |
| 26. 振動による情報伝達 | 2 | 振動を利用した糸電話による通信手段を試作・試行し，問題点と改善法を確認する. | |
| 27. 電気による情報伝達（1） | 2 | 電気信号と導線による情報伝達手段を試作・試行し，問題点と改善法を確認する. | |
| 28. 電気による情報伝達（2） | 2 | 〃 | |
| 29. 光による情報伝達 | 2 | 光による情報伝達手段を試作・試行し，問題点と改善法を確認する. | |
| 30. まとめ | 2 | 各種通信手段を比較し，問題点と改善策をまとめる. | |
| 学習時間合計 | 60 | 実時間 | 50 |
| 学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など） | | | |

| 科目名 | 創造演習 | 英文表記 | Creative Seminar | 年 月 日 |
|---|---|---|---|---|
| 教員名：伊波靖 | | | | 作　成 2010.3.12<br>修　正 |

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業方法 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| メディア情報工学科 | 2 | 必修 | 履修 | 2 単位 | 演習 | 通年 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 目　標 | ・理系のレポートの書き方について理解する<br>・ゲームのアイディアを考案し、プログラミングによって実現する<br>・アイディアをロボットとして実現する | | | | | |
| 高専目標 | (1) | (2) | (3) | (4) | JABEE プログラム名称 | |
| | ○ | ◎ | | | JABEE プログラム教育目標 | |
| 授業概要、方針、履修上の注意 | まず、理系の学生として必要なレポートの書き方について学ぶ。次にグループでゲームのアイディアを考案し、プログラミングによって実装する。実装したゲームをプレゼンテーションする。また、レゴマインドストームによるロボット工作とそのプログラミングにより、機能実現の基礎を演習する。最後に画像編集ツール等を使い、作成したロボット動画を題材にしたプレゼンテーションを制作する。 | | | | | |
| 評価方法 | レポート作成法に基づいたレポートの提出(20%)<br>ゲーム作成で創造的な作品ができたかを評価(30%)<br>上記作品を題材にした、表現力豊かなプレゼンテーションが制作できたか（10%）<br>ロボット作成で、創造的な作品やプログラムができたかを評価（30%）<br>上記作品を題材にした、表現力豊かなプレゼンテーションが制作できたか（10%） | | | | | |
| 教科書・教材 | 自作教材及びスライド | | | | | |
| 参考図書 | 適宜紹介する<br>（他にも参考図書を探す場合のキーワード：Perl スクリプト言語） | | | | | |
| 関連科目（学年） | 情報技術の基礎（本科 1 年)、メディア情報工学実験 I （本科 2 年)、プログラミング I(本科 1 年)、メディアコンテンツ基礎(本科 1 年)、プログラミング II(本科 2 年) | | | | | |

**授　業　計　画**

| 授業項目 | 時間 | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1.ガイダンス | 2 | 授業内容、演習およびレポート内容の概要説明 |
| 2.理系のレポートの作成法(1) | 2 | 理系のレポートの書き方について学ぶ |
| 3.理系のレポートの作成法(2) | 2 | |
| 4.理系のレポートの作成法(3) | 2 | |
| 5.理系のレポートの作成法(4) | 2 | |
| 6.理系のレポートの作成法(5) | 2 | |
| 7. Scratch の使い方(1) | 2 | Scratch の使い方を学ぶ |
| 8. Scratch の使い方(2) | 2 | |
| 9.ゲームの開発(1) | 2 | グループでゲームのアイディアを出し合って、Scratch を用いてプログラムを作成する |
| 10.ゲームの開発(2) | 2 | |
| 11.ゲームの開発(3) | 2 | |
| 12.ゲームの開発(4) | 2 | |
| 13.ゲームの開発(5) | 2 | |
| 14.プレゼンテーション(1) | 2 | 作成したゲームについてプレゼンテーションする |
| 15.プレゼンテーション(2) | 2 | |
| 16.ロボット作成基礎(1) | 2 | トライボットを作成する |
| 17.ロボット作成基礎(2) | 2 | トライボットを拡張する |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 18.ロボット作成基礎(3) | 2 | サウンドボットを作成する | |
| 19.ロボット作成基礎(4) | 2 | サウンドボットを拡張する | |
| 20.ロボット作成基礎(5) | 2 | 鳩時計を作成する | |
| 21.ロボット作成(1) | 2 | グループでロボットのアイディアを出し合って課題ロボットを作成する | |
| 22.ロボット作成(2) | 2 | | |
| 23.ロボット作成(3) | 2 | | |
| 24.ロボット作成(4) | 2 | | |
| 25.ロボット作成(5) | 2 | | |
| 26.ロボット作成(6) | 2 | | |
| 27.ロボット作成(7) | 2 | | |
| 28.プレゼンテーション(1) | 2 | ロボット作成のまとめとプレゼンテーション制作を行い、プレゼンテーションによる報告を行う。 | |
| 29.プレゼンテーション(2) | 2 | | |
| 30.プレゼンテーション(3) | 2 | | |
| **学習単位時間合計** | **60** | **実時間合計** | **50** |

**学修単位における自学自習時間の使い方**

| 科目名 | 創造演習 | 英文表記 | Creative Seminar | 2010 年 6月6日 作　成 |
|---|---|---|---|---|
| 教員名： 伊東昌章、磯村尚子、工藤雄博<br>技術支援： | | | | 修　正 |

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業形態 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 生物資源工学科 | 2 年 | 必修 | 履修 | 2 単位 | 演習 | 通年 |

| | |
|---|---|
| 目　標 | ①課題に興味を持ち、それを解決するための調査する能力を習得する。<br>②調査や実験の結果をまとめ資料を作成する過程で、情報収集力、総活力及び考察する能力を習得する。<br>③得られた結果や考察をわかりやすく説明する能力を習得する。<br>④チームワークで問題を解決する能力を習得する。<br>⑤生物資源利用に関する基礎的な創造力を養う。 |

| 高専目標 | 1 | 2 | 3 | 4 | JABEE プログラム名称 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ○ | ◎ | | | JABEE プログラム教育目標 | |

| | |
|---|---|
| 授業概要、方針、履修上の注意 | 生物資源とその利用法について、基礎知識を提示した上で課題を与え、個人、グループでの調査、考察、討議を行い、まとめ及び資料の作成と発表を行うことで、調査能力、問題解決能力、統合化能力、プレゼンテーション能力を育成する。また、演習（PBL 形式）を通して創造する能力を養う。 |
| 評価方法 | 演習への取り組み姿勢および演習成果発表（６０％）、レポート（４０％）の割合で評価する。定期試験は行わない。 |
| 教科書・教材 | 教員作成資料 |
| 参考図書 | マクマリー有機化学概説第６版（東京化学同人） |
| 関連科目（学年） | 生物資源工学セミナー（本科１年）、沖縄高専セミナー（本科１年） |

授　業　計　画

| 授　業　項　目 | 時間 | 授　業　内　容 |
|---|---|---|
| 1. ガイダンス<br>サンゴおよびサンゴ礁の基礎 | 2 | 授業の概要、進め方、提示される課題と目標について理解する。<br>サンゴおよびサンゴ礁の基礎を学ぶ。 |
| 2. サンゴ礁生物飼育についての講演 | 2 | 美ら海水族館スタッフより、水族館の役割について講演していただく。 |
| 3. サンゴ礁の調査及び発表資料作成（3～6） | 2 | 調査に当たり、目的、調査法、資料作成法などのガイダンスを実施する。カルタヘナ法と遺伝子組換え実験のルールを学ぶ |
| 4. サンゴ礁に関する調査（1） | 2 | インターネット、文献、図書等を用いて調査を行なう。 |
| 5. サンゴ礁に関する調査（2） | 2 | 引き続き調査を行ない、不足分はグループ内で話し合い補足する。 |
| 6. サンゴ礁に関する調査のまとめと発表資料作成 | 2 | グループによる調査結果のまとめを行ない、PPT を用いて発表資料作成を行なう。 |
| 7. 調査結果の発表 | 2 | PPT でグループ毎に発表を行なう。 |
| 8. データの取り扱い1 | 2 | 実験で得られたデータの取り扱いについて学ぶ。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 9. データの取り扱い２ | 2 | 実際に実験を行い、得られたデータについて検討する。 | |
| 10. 検量線の作成１ | 2 | 検量線の作成法と必要な数値の算出法を学ぶ。 | |
| 11. 検量線の作成２ | 2 | 実験により検量線を実際に作成し、検量線の作成と利用法を学ぶ。 | |
| 12. 酵素活性の測定１ | 2 | 与えられた情報を基にグループ毎で検討し、実験計画を立てる。 | |
| 13. 酵素活性の測定２ | 2 | 与えられた情報を基にグループ毎で検討し、実験計画を立てる。 | |
| 14. 酵素活性の測定３ | 2 | グループ毎に立てた実験計画にしたがって実験を行う。 | |
| 15. 酵素活性の測定４ | 2 | 得られた実験結果についてグループ毎に考察する。 | |
| 前期末試験 | [0] | 実施しない | |
| 16. 生体高分子化合物の基礎 | 2 | 生物資源に含まれる生体高分子化合物の基礎を理解する。 | |
| 17. 企業研究者による講演 | 2 | 民間企業の研究者より、企業活動における創造の部分に関して講演いただく。 | |
| 18. 講演をもとにしたレポート作成 | 2 | 講演内容をもとに企業活動における創造の部分に関するレポートを作成する。 | |
| 19. タンパク質に関する演習Ⅰ | 2 | 提示されたタンパク質に関する課題について、各自で図書・文献・インターネットなどを用い調査する。 | |
| 20. タンパク質に関する演習Ⅱ | 2 | グループで、個人で得られた情報をもとに不足している事項を調査する。 | |
| 21. タンパク質に関する演習Ⅲ | 2 | グループで得られた調査結果をまとめ考察する。 | |
| 22. タンパク質に関する演習Ⅳ | 2 | グループで発表資料を作成する。 | |
| 23. タンパク質に関する演習Ⅴ | 2 | 作成した資料をもとにグループ毎に発表し、全体で討議する。 | |
| 24. タンパク質に関する実験Ⅰ | 2 | タンパク質に関する実験を行い、実験結果を考察することで演習の理解度を高める。 | |
| 25. タンパク質に関する実験Ⅱ | 2 | 実験結果について、各自でレポートを作成し、レポート作成法を学ぶ。 | |
| 26. 炭水化物、食物繊維に関する演習Ⅰ | 2 | 提示された炭水化物、食物繊維に関する課題について、各自で図書･文献･インターネットなどを用い調査する。 | |
| 27. 炭水化物、食物繊維に関する演習Ⅱ | 2 | グループで、個人で得られた情報をもとに不足している事項を調査する。 | |
| 28. 炭水化物、食物繊維に関する演習Ⅲ | 2 | グループで得られた調査結果をまとめ考察する。 | |
| 29. 炭水化物、食物繊維に関する演習Ⅳ | 2 | グループで発表資料を作成する。 | |
| 30. 炭水化物、食物繊維に関する演習Ⅴ | 2 | 作成した資料をもとにグループ毎に発表し、全体で討議する。 | |
| 学年末試験 | [0] | 実施しない | |
| **学習時間合計** | **60** | **実時間** | **50** |

**学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など）**

（出典　シラバス）

資料５－２－③－３

# 教育方針と特色　Policies and Features of Education

## 本　科 Departments

### 教育の方針　Basic Policies of Education

1. 個性と能力を伸長させるとともに、自立の精神、主体的な態度、幅広い豊かな教養を身につけさせ、国際社会の一員としての人間形成を促す。
To promote individual characteristics as will as competence and to foster independent-minded spirits and attitudes with cultural enrichment,prompting character formation to become a member of the international society

2. 技術の進展や産業構造の変革など今後の社会の変化に柔軟に対応できるよう、専門知識と技術の修得のほか、自己学習能力をはじめ技術者に必要な各種の基礎能力の開発と伸長に重点を置く。
To put emphasis on self-learning ability and well-rounded basic knowledge necessary for engineers in addition to specialized knowledge and technology.As the students develop this ability,they will be able to cope with the change of future society,the development of technology and the industrial structure.

### 教育の特色　Features

1. 授業時間は 100 分を基本とし、知識を学問の体系として把握できるよう、講義と演習や実験・実習を組み合わせることにより、学生を積極的に授業に参加させる。
To let students systematically grasp academic concepts based on one hundred minute classes. The students are encouraged to combine the lecture portion and experiments for the development of independent thinking and to actively participate in class.

2. 英語教育を重視し、CALL 教室や教材の充実を通して、多読・多聴の新しい試みにより、本科卒業時点で TOEIC400 点以上の獲得を目指す。
To put emphasis on English education. Through variety of materials such as utilization of the CALL lab and the new teaching method of extensive reading and listening,students aim to score 400 points on the TOEIC test upon graduating from the college.

3. 全科目において以下に示すいずれかの PBL の手法（通常の定義に対して、本校では三つに区分した）を導入し、学生が授業へ主体的に参加することで、問題解決力、自己学習力、コミュニケーション能力、表現･発表力、個人でもチームでも活躍できる能力、リーダーシップ力などの諸能力を身につけさせる。
To introduce one of the following three PBL methods in every subject for students to actively participate in class.Through this method students will develop problem-solving,self-learning,communication,presentation,individual or team-work,and leadership abilities.

| | |
|---|---|
| PBL 1 | 基礎知識の有機的理解、応用力の育成 |
| PBL 2 | 問題解決能力、幅広い統合化能力の育成 |
| PBL 3 | 創造力の育成 |

| | |
|---|---|
| PBL 1 | (process-based Learning):To foster the ability to link understanding of basic knowledge and to apply that ability to other concepts. |
| PBL 2 | (problem-based Learning):To foster problem-solving and integrating abilities in a wide capacity. |
| PBL 3 | (Project-based Learning):To foster creative ability. |

4. 企業見学、産業創造セミナー講師、インターンシップ等、産業界の協力を得て、教育・研究の両面で、産学連携を積極的に推進する。
To promote active business-academia collaboration both in education and research the college will have visiting instructors from various industries for the Industry Creation Seminar course and students will take field trips and complete internships at those various industries.

5. 専門を異にする学生を混在させて教育を行う混合学級を１・２年次において実施する。
To promote effective education students from all four departments will have combined classes in the first and second years.

6. 基本的な生活態度や社会性を学ぶための教育寮（学生寮）を置き、1･2年次は全寮制、3年次以上は希望制とする。
To have a dormitory where peer counseling and advising takes place to learn basic attitudes and develop socializing skills.It is mandatory to live in the dormitory for first and second-year students with the third-year and up being optional.

5

（出典　2009 学校要覧　P. 5）

資料５－２－③－４

平成２２年度

# インターンシップの手引き

（学生用）

沖縄工業高等専門学校

目　　次

はじめに　・・・・1
1　インターンシップ実施要綱　・・・・2
1-1　インターンシップの目的
1-2 受講条件
1-3 インターンシップの主な流れ
1-4 提出物とその内容
1-5　単位と評価
1-6　実施期間
1-7　報酬について
2　保険（インターンシップ保険）の加入について　・・・・4
3　インターンシップの心得　・・・・5
3-1 出勤
3-2 身だしなみ・服装
3-3 態度
3-4 業務
4　留意事項　・・・・6
5　インターンシップスケジュール　・・・・6
6　企業の学生受入状況　・・・・7
7　受入先企業一覧　・・・・7
8　インターンシップ実習報告ノート　・・・・7
8-1　インターンシップ先希望調査票（別紙資料 1）　・・・・8
8-2　履歴書記入の注意　・・・・9
8-3　インターンシップ学生評価書（別紙資料 2）　・・・・10
別紙資料 3　実習報告ノート　・・・・11
別紙資料 4　履歴書（説明用）　・・・・12

## はじめに

沖縄工業高等専門学校（沖縄高専）における「インターンシップ」は、４年次対象で**３単位の必修科目**である。インターンシップ制度は広く社会に認知されるようになり、その教育効果の期待から多くの教育機関（中学校から大学まで）において実施されるようになってきた。

インターンシップには座学での学習効果の向上を主目的にした理論実践型、職業観形成や雇用のミスマッチ防止を目的とした職業意識醸成型、および現場体験型と様々な種類があり、そのほとんどがそれぞれをミックスした形での運営を行っている。また、欧米では既にインターンシップを採用の手段として活用しており、日本においても、採用直結型のインターンシップを導入する企業が現れる等、時代の変化とともにインターンシップの形態・目的も変化してきている。

インターンシップの実施には産官学の協力なしには成り立たないし、インターンシップの教育効果を最大限に発揮することはできない。なぜなら、グローバル化、情報化、産業構造の変化等、社会を取り巻く環境は大きく、しかも急速に変化しており、そうした状況において社会、企業のニーズに応える人材を沖縄高専だけで育てることは困難だからである。

社会の発展を担う人材を地域で教育し、地域社会に定着させていく、あるいは地域にとらわれず優秀な人材を送り出すためには産官学の連携が必要である。起業家精神を持った人材を多く蓄積することによって地域が発展し、さらに優秀な人材が蓄積されると言う好循環を創り出すことが求められているのである。

また、学生諸君にとってインターンシップ成功の鍵は、インターンシップの目的を明確にし、それに向かって邁進する意気込みである。この機会を将来に活かし、社会に貢献できる人材に育つことを希望する。

平成 22 年度インターンシップ担当教員
第 4 学年学科担任

1　インターンシップ実施要項

沖縄高専の各学科で学んだ理論、考え方を実際の社会において応用、実践することにより社会に貢献できる人材の育成を目指す。インターンシップには次のような目的とメリットがある。

1-1 インターンシップの目的

1　コミュニケーションの訓練を行う。
2　企業等の実態を理解する。
3　実践を通して、製造・開発・品質管理やサービスの内容等を理解する。
4　企業等における経営の仕組みと運営方法について理解する。
5　企業が求めている人材とは何かを探る。

そのことによって学生には次のメリットがある。

(1) 学習目的の明確化
(2) 就業意識の向上
(3) 職業の適性および雇用のミスマッチによる離職の軽減
(4) 就職のための情報源
(5) 責任感、自立心の育成

1-2 受講条件

1　インターンシップ等賠償責任保険に加入している者
2　４年次の者
3　事前学習に出席すること
（事前学習には、全学科対象と学科個別のものがある）

1-3 インターンシップの主な流れ

・学生の実習先企業の希望と学習成績をもとに実習先企業を割り振る。
・事前学習として内外の講師をお招きし、企業活動・ビジネスマナー等について学習する。
・インターンシップ前に課題レポート、「インターンシップに向けて」、「企業研究　実習先企業について」を提出。インターンシップ後は「インターンシップ報告書」を提出。なお、インターンシップの成果を企業にフィードバックするために「インターンシップに向けて」と「インターンシップ報告書」は企業に提出するので、そのつもりで書くこと。

1-4 提出物とその内容

| 提出物 | 内容と要点 |
|---|---|
| 履歴書と履歴書のコピー | スーツ等の正装及び頭髪を整えた写真を貼る。 |
| 課題レポート１　（2 部準備する）<br>「インターンシップに向けて」 | インターンシップに向けての決意とインターンシップ先で何をしたいか、どういうことを学びたいか等、自らの問題意識、目的意識を明確にし、企業への挨拶と要望等について述べる。 |
| 課題レポート 2<br>「企業研究：実習先企業について」 | 実習先企業の概要、職務内容、組織構造等についてレポートし、企業をとりまく経済・社会環境について自分なりの考えをまとめる。 |
| 課題レポート 3（2 部準備する）<br>「インターンシップ報告書」 | 実習先での体験を通して得たこと、考えたことについて述べ、実習経験をどのように活かしていくか等、今後の課題と就職活動に向けての抱負について述べる。 |
| インターンシップ記録簿 | インターンシップ期間中報告ノートを付け、担当者にコメント等を書いてもらう。 |

1-5 単位と評価

① 単位　**３単位（必修）**

② 評価：・インターンシップ記録簿・実習先指導担当者の実習評価
・課題レポートの提出と、報告発表の結果を総合評価する。

1-6 実施期間

**平成 22 年 8 月 23 日(月)　～　9 月 30 日(木)**

期間内の原則として 2 週間

1-7 報酬について

基本的に全て個人負担・無報酬である。交通費等は参加企業によって対応が異なるため、参加企業の要項（一覧表）を確認すること。

をしてしまったりする事故への対応のための保険である。もちろん、事故を起こさないように細心の注意が必要であるし、受け入れ側からも指導していただくが、万が一事故が起きた場合には保障問題が発生するのでその為の備えである。

そこで、このような事態に備えて全員が保険に加入するので、学校の指示に従って手続きをする。保険に加入していない場合は、実習先にも受け入れてもらえないので注意すること。手続き方法は別途説明する。

なお、万が一事故が起きた場合は、以下のように対処する。

① 通勤途中の事故が発生した場合には、まず適切な事故処理を考える。そして実習先企業の担当者および沖縄高専（学生課教務係）に報告する。

② 実習先での事故の場合には、実習担当者の指示に従い行動する。この場合にも沖縄高専（学生課教務係）に連絡する。

③ 実習先での事故の場合には、「学生教育研究災害障害者保険」が適応されるので、実習先から「事故証明」を発行してもらうこと。

④ 実習先に何らかの損害を与えた場合には「インターンシップ賠償責任保険」適用されるので、自分で示談等の交渉をせずに、沖縄高専（学生課教務係）に必ず連絡すること。

＊万一のトラブルについて

不慮の事故に対しての対応のあり方を「保険への加入について」の項目で述べたが、とにかく一人で悩まずに実習担当者へ正直に話しアドバイスを求める事と、そしてすばやく沖縄高専（教務課）へ連絡すること。

**沖縄工業高等専門学校学生課教務係**
TEL [redacted]
FAX

3　インターンシップの心得

企業実習期間中は、沖縄高専学生としての誇りを持ち、恥ずかしくない行動をするよう心がけること。

3-1 出　勤

① 出勤時間を厳守し、遅刻、早退、欠勤をしないこと。
（上司（実習担当者）よりも早めに出勤する方が望ましい。）

② やむをえない理由で遅刻、早退、欠勤をする場合は、できるだけ早く本人が上司（実習担当者）に連絡すること。（学校にも必ず報告すること。）

③ 病気や傷害で欠勤の場合は医師の診断書を提出すること。（診断書が提出されない場合は単位を与えない。）

3-2 身だしなみ・服装

①男性は背広、ネクタイ着用。＊ジーパン・長髪厳禁、染毛厳禁、ピアス厳禁＊

②女性はスーツ、ワンピース等。染毛厳禁。

③清潔で感じの良い服装を心掛けること。

④実習先指定の制服がある場合は指示に従うこと。

⑤受け入れ先の条件があればそれに従うこと。

3-3 態　度

①明るくハキハキと。

②挨拶は大きな声でする。

③明るく返事をする。

3-4 業　務

① 会社、工場などは、営業活動上、一般に公開しない情報・業務・施設などがある。守秘義務を守ること。

② 報告・連絡・相談を欠かさない（略して、ホウ・レン・ソウ）

③ どんな仕事でもその社会の機能として重要なことばかりである。積極的に正確にそして迅速に誠意を持って仕事をすること。

④ 指示された仕事が終了次第、命令を受けた上司（実習担当者）に報告する。

⑤ 失敗を恐れずに、失敗は隠さずに。失敗した場合も必ず上司（実習担当者）に報告し、指示をうけること。同じ失敗は２度と繰り返さないこと。

⑥ 金銭の扱いには、十分に注意すること。

⑦ 会社、工場などには、多くの危険な業務や場所がある。独断行動や安易な判断などは厳に慎むこと。

4　留意事項

① 実習先企業に関して、事前に十分な企業研究を行うこと（課題レポート有り）

② 世間話（small talk）ができるように日頃から新聞、雑誌等に目と通す習慣を身につける。

③ 職場には、他の大学生や高校生等が実習に来ている場合もある。沖縄高専の学生としての誇りを持ち、協調の精神を持って行動すること。

④ 履歴書は、必ず黒の万年筆またはボールペンを用い、楷書で丁寧に記入する。

⑤ インターンシップ終了後、1 週間以内に実習先指導担当者や上司に礼状を書くこと。

⑥ 音楽をイヤホーン等で聴きながら勤務しないこと。

5　インターンシップスケジュール

平成 22 年度沖縄工業高等専門学校インターンシップ日程

水曜日の4時間目をインターンシップに関する事前学習･事後報告時間に充てる。授業時間は 50 分を基本とするが、100 分あるいはそれ以上となる場合がる。詳細については、後日連絡する。

4 月 7 日(水)：インターンシップ説明会（各学科単位）
4 月 14 日(水)：参加企業リスト提示(予定)
4 月 28 日(水)：希望調査票提出（8-1　インターンシップ先希望調査票　提出）
5 月 12 日(水)：**インターンシップ説明会（体育館アリーナ）**
5 月中旬：キャリアセンター県外インターンシップ説明会（予定）
6 月 2 日(水)：学生割振り終了（目標）
6 月 16 日(水)：企業への受入最終確認終了（目標）・受入先企業との調整開始

事前学習として、次の内容を行う
①身だしなみ講習
②ビジネスマナー講習
③課題レポート作成

**8 月 23 日(月)　～　9 月 30 日(木)**：インターンシップ実施

10 月以降：
①報告発表会
②報告書作成

6　企業の学生受入状況

企業名、受入人数リスト（4 月 14 日配布予定）

7　受入先企業データ詳細

応募要項ファイル・各学科で閲覧

実習先（担当者）　代表者　所在地情報（〒、住所、電話・ファックス）

実習条件等

8　インターンシップ実習報告ノート

別紙資料 3

実習報告ノートは、インターンシップ中は毎日記録し、担当者の印またはサインをもらうこと。

別紙資料１

8-1　インターンシップ先希望調査票

企業実習先希望調査表

| | |
|---|---|
| フリガナ | |
| 氏名 | |
| 学科 | |
| 学生番号 | |
| 担当教員(*) | |

＊：各学科の４年次担任またはインターンシップ担当教員

1.　希望する企業名を３つ記入して下さい。

| 第１希望 | 第２希望 | 第３希望 |
|---|---|---|
| | | |

1　希望の動機、意欲について記入して下さい。

| |
|---|
| |

8-2　履歴書記入の注意（一般的な注意）

1. 証明写真は３ヶ月以内に撮影したもので、大きさは縦 36～40㎜、横 24～30㎜。きちんとした服装で､胸から上がはっきり写っているものを使う｡(写真の裏に、名前と生年月日を記入しておく)。
2. 鉛筆以外の黒の筆記用具で記入する。
3. 数字はアラビア数字で、文字はくずさず正確に書く。
4. 学歴は中学校入学の年から記入する。
5. 入学・卒業（見込）については、学科名を記入する
6. 修正液、訂正印は使用してはいけない。コピーは絶対使ってはいけない。できるだけ空白を作らない、書ける所は書く。
7. 「ふりがな」の時はひらがなで、「フリガナ」の時はカタカナで書く。
8. 一行目の中央に「学歴」と書き、正式名称で中学校の「入学」から記入する。高専は「入学」記入し、入学した学科名まで記入する。
9. 学歴のあと一行あけて､次の行の中央に｢職歴｣と書き､古い順に記入する。 職歴がない場合は「なし」と書く。最後の行の右寄りに「以上」と記入する。
10. 免許・資格： 取得した順に正式名称で書く。取得予定や、取得に向けて勉強している場合も記入し、熱意をアピールする。
11. 得意な学科、スポーツ、趣味、健康状態は、自己アピールのため、できるだけ具体的に内容を書く。趣味が読書・映画鑑賞であれば、ジャンルも書いた方がよい。健康状態は「良好」と書くのが一般的。
12. 志望動機には、会社を選んだ理由・働く意欲やチャレンジ精神をアピール・仕事に活かしたい、活かせそうな自分の経験や特徴を考えて書く。
13. 本人希望記入欄にはインターンシップで経験したい職種や勤務地、条件などの希望があれば記入する。

別紙資料２

8-3　インターンシップ学生評価書

沖縄工業高等専門学校インターンシップ学生評価書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 学生番号 | | 氏名 | |
| 実習先名 | | | |
| 実習担当者名 | | 住所<br><br>TEL　　FAX | |

＊学生に対する項目別評価

| | 大変良い | 良い | 普通 | やや劣る | 劣る |
|---|---|---|---|---|---|
| (1) 言葉づかい | | | | | |
| (2) 挨拶 | | | | | |
| (3) 返事 | | | | | |
| (4) 笑顔 | | | | | |
| (5) 服装 | | | | | |
| (6) 向上心 | | | | | |
| (7) 積極性 | | | | | |
| (8) 協調性 | | | | | |
| (9) 機転 | | | | | |
| (10) 勤務態度 | | | | | |
| (11) 仕事の理解度 | | | | | |
| (12) 全体評価 | | | | | |

＊学生の勤務状況に対するコメント

| |
|---|
| |

別紙資料３

# 実習報告ノート

| 月　　日　　曜日　配属先： |
| --- |
| 本日の実習内容（業務内容、学んだこと、質問、意見、反省等） |
| 指導担当者のコメント<br><br>担当者印 |

別紙資料４

# 履 歴 書（沖縄工業高等専門学校）

平成　　年　　月　　日現在

写真を貼る位置
①写真の裏に高専名と氏名記入
②縦 4cm×横 3cm
③単身胸から上
④裏面糊付け

| | | |
|---|---|---|
| ふりがな | | |
| 氏　名 | | ㊞ |
| 昭<br>和　　年　　月　　日生（満　　歳） | 性別　男　女 | |

| | | |
|---|---|---|
| ふりがな | 電話 | 市外局番（　　） |
| 現住所　〒　　－ | | － |
| E-mail | 携帯 | － |
| ふりがな | 電話 | 市外局番（　　） |
| 連絡先　〒　　－　（現住所以外に連絡を必要とする場合のみ記入） | | － |

| | | 学　　歴 |
|---|---|---|
| 中学卒業 | 平成　　年　月 | |
| 高専入学 | 平 成　　年 | |
| | | |
| 留学履歴 | 平成　　年　月 | |

| 取得年月 | 免許・資格等（運転免許や資格等,TOEIC 等スコア含む） |
|---|---|
| 平 成　　年 | |
| 平 成　　年 | |
| 平 成　　年 | |

| 課外活動（部、同好会、ボランティア活動等） |
|---|
| |
| |
| |

記入上の注意　インクは黒または青インクで、文字は楷書、算用数字を使用。学科名を記載すること。

# 自己紹介書

| |
|---|
| 私の志望動機および志望に際し重視したこと（経営方針や仕事内容等） |
| |
| 私が学生生活（学内・学外）で最も感動または努力したことと、そのことから得たもの |
| |
| 私が採用されたら取り組んでみたい仕事とその理由、そのことについて私自身が活かせると思う事 |
| |
| 私について知ってもらいたいこと、私から伝えたいこと（自己ＰＲを含む） |
| |

（出典　インターンシップの手引き）

（分析結果とその根拠理由）

第１学年「高専セミナー」や第２学年「創造演習」で創造性を育む教育方法の工夫がなされている。科目の配当学年や授業内容の特徴に応じてPBLを実施している。インターンシップは全学科で第４学年の必修科目と設定している。

以上のことから，創造性を育む教育方法を実施している。

**観点５－３－①：　成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に実施されているか。**

（観点に係る状況）

成績評価，単位認定，進級・卒業認定については学則および「沖縄工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則」で，追認試験については「沖縄工業高等専門学校追認試験に関する規定」で定められている。これらの規則は「学生生活の手引き」に掲載し，学生に周知している（資料５－３－①－１，資料５－３－①－２，資料５－３－①－３）。

教員はこの規則に則して成績評価方法を決定し，それに従って成績評価を適切に実施している。全授業科目の評価方法はシラバスに明記され，学生に周知されている（資料５－３－①－４）。

成績評価は科目担当教員がシラバスに記載された方法で行っており，成績評価に用いた答案などの資料は保存している（資料５－３－①－５，資料５－３－①－６）。

また,各試験の答案などは学生に返却し,試験の点数について学生の異議申立期間を定めている。長期休業直前の期末試験についても，期末試験後に試験返却日を設け，定められた期間内に学生が異議を申し立てる機会を設けている（資料５－３－①－７）。

進級認定・卒業認定はそれぞれ進級認定会議，卒業認定会議において，規則に則して審議されている（資料５－３－①－８，資料５－３－①－９）。審議の結果は成績通知書として全学生に送付されている。

資料５－３－①－１

# 沖縄工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則

平成１６年４月１日
規　則　第２２号

改正　平成１８年１０月２３日
規　則　第２０号
平成２０年２月２０日
規　則　第１号
平成２０年３月３１日
規　則　第９号
平成２０年１２月１７日
規　則　第１７号

## 第１章　総則

（趣旨）

第１条　この規則は、沖縄工業高等専門学校学則（平成16年学則第1号。以下「学則」という。）第22条第2項の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校における試験、学業成績の評価、学年の課程の修了及び卒業の認定等について必要な事項を定めるものとする。

## 第２章　試験

（試験）

第２条　試験は、学業成績の評価を行う際の資料として、必要な授業科目（以下「科目」という。）について、定期又は随時に実施するものとする。

２　試験は、定期試験、中間試験、追試験、再試験及び追認試験とする。

（定期試験及び中間試験）

第３条　定期試験は、前学期末及び後学期末に実施する。

２　必要のある科目については、各学期の中間に中間試験を実施することがある。

３　平素の成績で評価し得る科目については、定期試験の全部又は一部を実施しないことがある。

（追試験）

第４条　公認欠席、病気、忌引、その他やむを得ない理由で定期試験又は中間試験の全部又は一部を受験できなかった者については、追試験を実施することがある。

２　追試験を受けようとする者は、当該試験期間の終了後、速やかに追試験受験願（様式第１号）を科目担当教員及び第１学年又は第２学年にあっては学級担任、第３学年以上にあっては学科担任を経て校長に提出し、その許可を受けなければならない。

（再試験）

第５条　定期試験又は中間試験の成績が６０点未満の者については、再試験を実施することがある。

２　再試験を受けようとする者は、速やかに再試験受験願（様式第２号）を科目担当教員及び第１学年又は第２学年にあっては学級担任、第３学年以上にあっては学科担任を経て校長に提出し、その許可を受けなければならない。

（追認試験）

第６条　未修得科目を持つ者の当該科目については、追認試験を実施することがある。

２　追認試験に関し必要な事項は別に定める。

第３章　成績の評価及び単位の認定

（学業成績の評価）

第７条　学業成績は、科目ごとに、試験による成績と平素の成績とを総合した学年成績によって評価する。

（試験の成績の評価）

第８条　試験の成績の評価は、その試験の結果に基づき１００点法による。

（学年成績の評価）

第９条　学年成績は、その年度における各学期の試験の成績、提出物、出席状況及び学習態度等を総合して１００点法により評価し、次の区分により「S」、「A」、「B」、「C」又は「F」の評語で表わすものとする。ただし、インターンシップ、創造研究及び特別活動の評価の区分は、「合格」又は「不合格」とする。

| 学業成績の評価 | 評　語 |
|---|---|
| １００点 ～　９０点 | S |
| ８９点 ～　８０点 | A |
| ７９点 ～　７０点 | B |
| ６９点 ～　６０点 | C |
| ５９点 ～　　０点 | F |

２　学年成績を指導要録及び学業成績証明書に記載する場合には、評語及び「合格」又は「不合格」によるものとする。

（正当な理由なく試験を欠席した場合）

第１０条　正当な理由なく試験を欠席したと認められた者の当該試験科目の成績は０点とし、再試験は受験できないものとする。

（不正行為を行った場合）

第１１条　試験中に不正行為を行った者に対しては、その時以降の受験を停止させ、当該試験期間中の全科目の成績を０点とするとともに、学則第５６条の規定により、懲戒を加えるものとし、再試験は受験できないものとする。

（履修科目の認定）

第１２条　出席時間数が、年間総授業時間数の３分の２以上の科目については、当該科目を履修したものと認定する。ただし、校長が特に認めた海外留学生として派遣されるため年度をまたがって休学する学生の出席時間数については、休学期間以外の当該年度の出席時間数に前年度の出席時間数を加えたものとし、年間総授業時間数については、休学時間以外の当該年度と前年度の授業時間数を合算したものとする。

（単位修得の認定）

第１３条　前条の規定により認定した履修科目の学年成績の評価が６０点以上の科目については、単位を修得したものと認定する。

第４章　学年の課程の修了及び卒業の認定

（学年の課程の修了及び卒業の認定）

第１４条　学年の課程の修了及び卒業の認定は、課程の修了及び卒業に関する認定会議（以下「認定会議」という。）の議を経て校長がこれを行う。

２　学年の課程の修了及び卒業の認定にあたっては、授業科目及び特別活動（第１学年から第３学年のみ）の履修状況並びに次の各号に掲げる条件をすべて満たしていることを基準とする。ただし、校長が特に認めた海外留学生として派遣されるため年度をまたがって休学する学生の学年の課程及び卒業の認定にあたっては、休学期間以外の当該年度と前年度の授業日数を合算して年間総授業日数を算出するものとする。

(1) 学則別表第１及び別表第２に定める科目を履修していること。

(2) 学則に定める当該学年における修得すべき科目の単位を全て修得していること。

(3) 出席日数が年間総授業日数の３分の２以上であること。ただし、第４学年及び第５学年において原級留置となった学生のうち、それぞれの学年の原級留置決定年度において修得科目のあった者を除く。

(4) 特別活動が「合格」であること。

３　前項各号の条件を満たさない者で特別な理由があると校長が認めた者については、認定会議において審議した上で、校長が総合的に判定する。

４　卒業に必要な修得単位数は、学則別表第１に定める科目から８０単位以上及び別表第２に定める科目から８７単位以上の合わせて１６７単位以上とする。

（編入学生の学年の課程の修了及び卒業の認定）

第１４条の２　学則第２６条の規定に基づき入学した学生（以下「編入学生」という。）の学年の課程の修了及び卒業の認定は、認定会議の議を経て校長がこれを行う。

２　編入学生の学年の課程の修了及び卒業の認定その他必要な事項は、別に定める。

（転入生の学年の課程の修了及び卒業の認定）

第１４条の３　学則第２７条の規定に基づき入学した学生（以下「転入生」という。）の学年の課程の修了及び卒業の認定は、認定会議の議を経て校長がこれを行う。

２　転入生の学年の課程の修了及び卒業の認定その他必要な事項は、別に定める。

（外国人留学生の学年の課程の修了及び卒業の認定）

第１４条の４　学則第５０条の規定に基づき入学した学生（以下「外国人留学生」という。）の学年の課程の修了及び卒業の認定は、認定会議の議を経て校長がこれを行う。

２　外国人留学生の学年の課程の修了及び卒業の認定その他必要な事項は、別に定める。

（転科生の学年の課程の修了及び卒業の認定）

第１４条の５　学則第２９条の規定に基づき転科した学生（以下「転科生」という。）の学年の学年の課程の修了及び卒業の認定は、認定会議の議を経て校長がこれを行う。

２　転科生の学年の課程の修了及び卒業の認定その他必要な事項は、別に定める。

（仮進級）

第１５条 前条第２項第２号に該当しない者で、次の各号に掲げる条件を満たした者については、次学年に仮進級させる。

(1) 第１学年、第２学年及び第４学年においては、未修得の科目の単位数が１０単位以内の者。

(2) 第３学年においては、第２学年まで修了し、未修得の科目の単位数が４単位以内の者。

（原級留置）

第１６条　認定会議において進級及び仮進級を認定されない者は、原級留置とする。

２　第３学年以下において原級留置になった場合は、前年度の修得単位を無効とし、その学年の授業科目及び特別活動の全てを再履修しなければならない。ただし、現学年に留められた者が他の教育機関等へ進路変更するために退学を希望する場合には、前学年の修得単位を有効とする。

３　前項において、新たに単位を修得した場合の評価は、次年度のものとする。

４　第４学年又は第５学年において原級留置になった場合は、前学年の修得単位を有効とし、当該学年における未修得科目を履修しなければならない。ただし、当該学年で修得した科目についても聴講することができるものとする。

（勧奨退学）
第１７条　２年連続して原級留置になった場合には、その者に対し校長が退学を勧奨する。ただし、休学による原級留置の場合は、この限りではない。

第５章　雑　則

（雑則）
第１８条　この規則の実施について必要な事項は、別に定める。

附　則
この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則（平１８．１０．２３規則第２０号）
この規則は、平成１８年１０月２３日から施行する。

附　則（平２０．２．２０規則第１号）
この規則は、平成２０年２月２０日から施行し、平成１９年４月１日から適用する。

附　則（平２０．３．３１規則第９号）
この規則は、平成２０年３月３１日から施行し、平成１９年４月１日から適用する。

附　則（平２０．１２．１７規則第１７号）
この規則は、平成２０年１２月１７日から施行し、平成２０年４月１日から適用する。

－ 4 －

（出典　沖縄工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則）

資料５－３－①－２

# 沖縄工業高等専門学校追認試験に関する規程

平成１６年４月１日
規　程　第１３号
改正　平成１８年１２月２５日
規　程　第８号

（趣旨）
第１条　この規程は、沖縄工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則（平成16年規則第22号。以下「規則」という。）第６条第２項の規定に基づき、追認試験の円滑かつ適正な運用を図るために必要な事項を定めるものとする。

（追認試験の申出等）
第２条　追認試験を受験することができる者は、未修得科目を持つ者とする。

第３条　追認試験は、原則として受験の機会を年度内２回とする。ただし、第３学年及び第５学年その他特別な理由のある場合は、当該学年における課程の修了及び卒業の認定会議（以下「認定会議」という。）後の学年末に受験する機会を与えることができるものとする。

第４条　追認試験の科目担当教員は、原則として当該科目の前科目担当教員を学科長が指名する。

第５条　追認試験を受験しようとする者は、「追認試験受験願」を、当該各号に定める提出期限までに科目担当教員及び第１学年又は第２学年にあっては学級担任、第３学年以上にあっては学科担任の承認を得て校長に提出し、その許可を受けなければならない。
(1) 第１回目　　４月末日
(2) 第２回目　１０月末日
２　第３学年及び第５学年その他特別な理由のある場合は、前項各号の規定にかかわらず、認定会議後３日以内に科目担当教員及び学科担任の承認を得て校長に提出し、その許可を受けなければならない。

第６条　追認試験の科目担当教員は、校長が許可した者に対して追認試験を実施するものとする。

（追認試験の実施時期）
第７条　追認試験は、次の各号に定める時期に実施するものとする。
(1) 第１回目　　５月から１０月
(2) 第２回目　１１月から１月
２　第３学年及び第５学年その他特別な理由のある場合は、前項各号の規定にかかわらず、認定会議後から３月末の間に実施するものとする。

（追認試験の成績評価、報告等）
第８条　追認試験による成績の評価については、規則第９条の規定を準用するものとする。ただし、百点法においては６０点を上限とする。
２　試験を実施せずに、他のもので評価を実施することができるものとする。

第９条　科目担当教員は、原則として、追認試験を実施した日の１０日後までに、その評価を「追認試験報告書」により校長へ報告するものとする。

２　第３学年及び第５学年その他特別な理由のある場合は、前項の規定にかかわらず、３月末までに報告するものとする。

第１０条　校長は、前条の規定による報告に基づき、単位の修得を認定するものとする。

第１１条　追認試験において新たに単位を修得した場合の評価は、沖縄工業高等専門学校学則（平成16年学則第１号）別表１及び別表２の該当年度のものとする。

附　則

この規程は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成１８年１２月２５日から施行し、平成１８年１０月４日から適用する。

（出典　沖縄工業高等専門学校追認試験に関する規定）

資料５－３－①－３

様式第１号

| 学級担任 | 学科担任 | 担当教員 |
|---|---|---|
| | | |

平成　　年　　月　　日

# 追 認 試 験 受 験 願

沖縄工業高等専門学校長　　殿

学　　科　　工学科

学年・学籍番号　第　　学年・　　番

氏名（自署）

下記のとおり，未修得科目の追認試験をお願いしたいので，ご許可くださるようお願いします。

記

**○学生記入**

| | |
|---|---|
| 履修学年 | 年 |
| 科目名 | |
| 単位数 | 単位 |
| 担当教員名 | |

**○担当教員記入**

| | |
|---|---|
| 評価方法 | □試験 |
| | □その他　（　　） |

**備考　科目担当教員及び第１学年又は第２学年にあっては学級担任、第３学年以上にあっては学科担任に印をもらってから提出すること。**
**（提出先・・・学生課教務係）**

## ＸⅢ　学生のための規則集

１沖縄工業高等専門学校学則
　別表第１
　　○一般科目
　別表第２
　　○機械システム工学科
　　○情報通信システム工学科
　　○メディア情報工学科
　　○生物資源工学科
　別表第３
　　○卒業に必要な修得単位数
　別表第４
　　○創造システム工学専攻
２沖縄工業高等専門学校学生準則
３沖縄工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に
　関する規則
４沖縄工業高等専門学校追認試験に関する規程
５転科生規則
６出欠席等に関する内規
７公認欠席に関する申合せ
８暴風警報発令に伴う授業の取扱いに関する申合せ
９沖縄工業高等専門学校学生の懲戒に関する規程
１０学生の処分基準内規
１１　沖縄工業高等専門学校課外活動部室使用内規
１２　沖縄工業高等専門学校体育館トレーニング場の取扱いについて
１３対外試合又は校外部活動について
１４沖縄工業高等専門学校学生の車両等使用に関する内規
１５沖縄工業高等専門学校学生のアルバイトに関する内規
１６定期試験及び中間試験期間に係る部及び同好会の活動の取扱いについて
１７沖縄工業高等専門学校における部及び同好会活動の朝練習の取扱いについて
１８沖縄工業高等専門学校における休業日の部・同好会活動の取扱いについて
１９沖縄工業高等専門学校水泳プール使用要項
２０沖縄工業高等専門学校学生表彰規程
２１沖縄工業高等専門学校学生会会則
２２沖縄工業高等専門学校学生会部及び同好会に関する細則

（出典　学生生活の手引き　P.51，65）

資料５－３－①－４

| 科目名 | 生命科学 | 英文表記 | Life Sciences | 2010年06月04日 |
|---|---|---|---|---|
| 教員名： 平山　けい | | | | 更新 |

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業形態 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 生物資源 | ４年 | 選 | 履習 | １単位 | 講義 | 半期 |

| | |
|---|---|
| 目　標 | 「生きるため」・「死ぬため」に備わっている生物のからだのしくみを学ぶ。<br>ヒトのからだにおける免疫のしくみを理解する。<br>生命を護るために備わっているしくみを理解することにより、いのちの尊厳について自分の考えを持つことができる。 |

| 高専目標 | 1 | 2 | 3 | 4 | JABEE プログラム名称 | 生物資源工学 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | ○ | | ◎ | JABEE プログラム教育目標 | A-1,A-3,B-2 |

| | |
|---|---|
| 授業概要、方針、履修上の注意 | **授業は一方通行でなく、対面通行で行なう。そのため、下記に掲げるキーワードによる文献検索と参考図書を利用した予習が必要。学生の積極的な講義への参加を求める。定期試験は、期末試験のみ行なう。** |
| 評価方法 | 期末試験 60%、レポート 40%の割合で総合的に評価する。 |
| 教科書・教材 | PPT およびプリント |
| 参考図書 | Discover BIOLOGY (Sinauer)、『生物講義』大学生のための生命理学入門（裳華房）、いまを解く生命科学 生物学への招待（羊土社）、生命科学と人間（NHK ブックス）、神経・免疫・内分泌系へ拡がるメンブレントラフィック：実験医学（羊土社）（参考図書を探す場合のキーワード：江上不二夫、中村桂子、生命科学、カドヘリン、アポトーシス、テロメア、NK 細胞、T 細胞、サイトカイン、マクロファージ、パーキンソン病、ドーパミン、） |
| 関連科目（学年） | 生物（2 年）、環境科学、生化学（3 年）生理学、生物工学、遺伝子工学（4 年）、分子生物学（5 年） |

**授　業　計　画**

| 授業項目 | 時間 | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1. ガイダンス　生命科学 | 2 | ガイダンス、生命科学とは |
| 2. 生きるためのシステム | 2 | 多細胞生物の「雌・雄」と「性」 |
| 3. 生命を護るしくみⅠ | 2 | 生体防御にかかわる細胞・マクロファージ |
| 4. 生命を護るしくみⅡ | 2 | 自律神経系とホルモン調節 |
| 5. 生命を護るしくみⅢ | 2 | NK/T 細胞、B 細胞、免疫組織 |
| 6. 恒常性と情報伝達 【実験】 | 2 | 受容体とリガンド、神経伝達物質 |
| 7. 生きるための「死」 | 2 | 細胞の老化、アポトーシスとネクローシス |
| 8. 生命の終わり | 2 | 「死」のプログラム、テロメア |
| 9. バイオテクノロジー | 2 | Biotechnology 「食物」・「健康」・「環境」 |
| 10. 生命の誕生と死について考えるⅠ | 2 | 生命の誕生から老化・死について【PBL】 |
| 11. 生命の誕生と死について考えるⅡ | 2 | 生命の誕生から老化・死について【PBL】 |
| 12. ヒトは生命を操って良いか？Ⅰ | 2 | 遺伝子操作、クローンについて【PBL】 |
| 13. ヒトは生命を操って良いか？Ⅱ | 2 | 遺伝子操作、クローンについて【PBL】 |
| 14. Biotechinology をどう活かすかⅠ | 2 | Biotechnology のあるべきすがたについて【PBL】 |
| 15. Biotechinology をどう活かすかⅡ | 2 | Biotechnology のあるべきすがたについて【PBL】 |
| 前期期末試験 | 【2】 | |
| 学習時間合計 | ３０ | 実時間　２５ |

（出典　シラバス）

資料５－３－①－５

平成 21 年 8 月 28 日

成績評価資料保存方法

自己点検評価委員会

１　定期試験

実施した中間試験・期末試験全てについて、以下のものを電子化した上保存してください

・試験問題
・模範解答
・答案（全学生のもの）

２　小テスト

実施した全ての小テストについて、以下のものを電子化した上保存してください
複数回、小テストを実施した場合は、適宜フォルダを作成してください

・試験問題
・模範解答
・答案（全学生のもの）

３　レポート

実施したすべてのレポートについて、以下のものを電子化した上保存してください
複数回、レポートを実施した場合は、適宜フォルダを作成してください

・レポート課題
・全ての学生のレポート

CAD のようにファイル内容の確認に特別な環境（ソフト）が必要な場合は、
保存の対象から除外し、点数化した成績表（書式は特に定めない）のみを「成績評価表」
フォルダに保存してください（様式自由）。

４　ノート（ノートを成績評価に用いる場合）

当該ノートが反映される成績（前期期末、後期期末など）が確定した時点で、
最上位２名、ボーダーの前後それぞれ２名（60 点以上で最も点数の低い 2 名と 59 点
以下で最も点数の高い 2 名）の 6 名分のノートを電子化した上、「その他」フォルダに
保存してください。成績に 60 点以下の者がいない場合は 4 名分となります。
その他の学生については保存の必要はありません。点数化した成績表（書式は特に定めない）を
「成績評価表」フォルダに保存してください。

5　成績一覧表

各科目の「成績評価表」フォルダに予め用意してある成績一覧表.xls に必要事項を記入してください。

6　成績評価資料保存チェックシート

各科目毎に要してある「成績評価資料保存チェックシート.xls」に保存状況を記入してください。

7　シラバス

すべての授業が終了した時点で授業の実施実績に修正したシラバスを保存してください。

（出典　自己点検評価委員会資料）

資料５－３－①－６

教員各位　(CC.総務係，教務係)

比嘉@情報通信_JABEE委員です。

平成22年度の成績保存のファルダを下記のところに作成いたしました。

¥¥Aquarius.ad.okinawa-ct.ac.jp¥public¥FD¥成績評価資料¥平成22年度

中間試験を実施された教員の方は，上記の担当科目のフォルダに成績等の
資料の保存をお願いいたします。

保存は7月末までにお願いいたします。

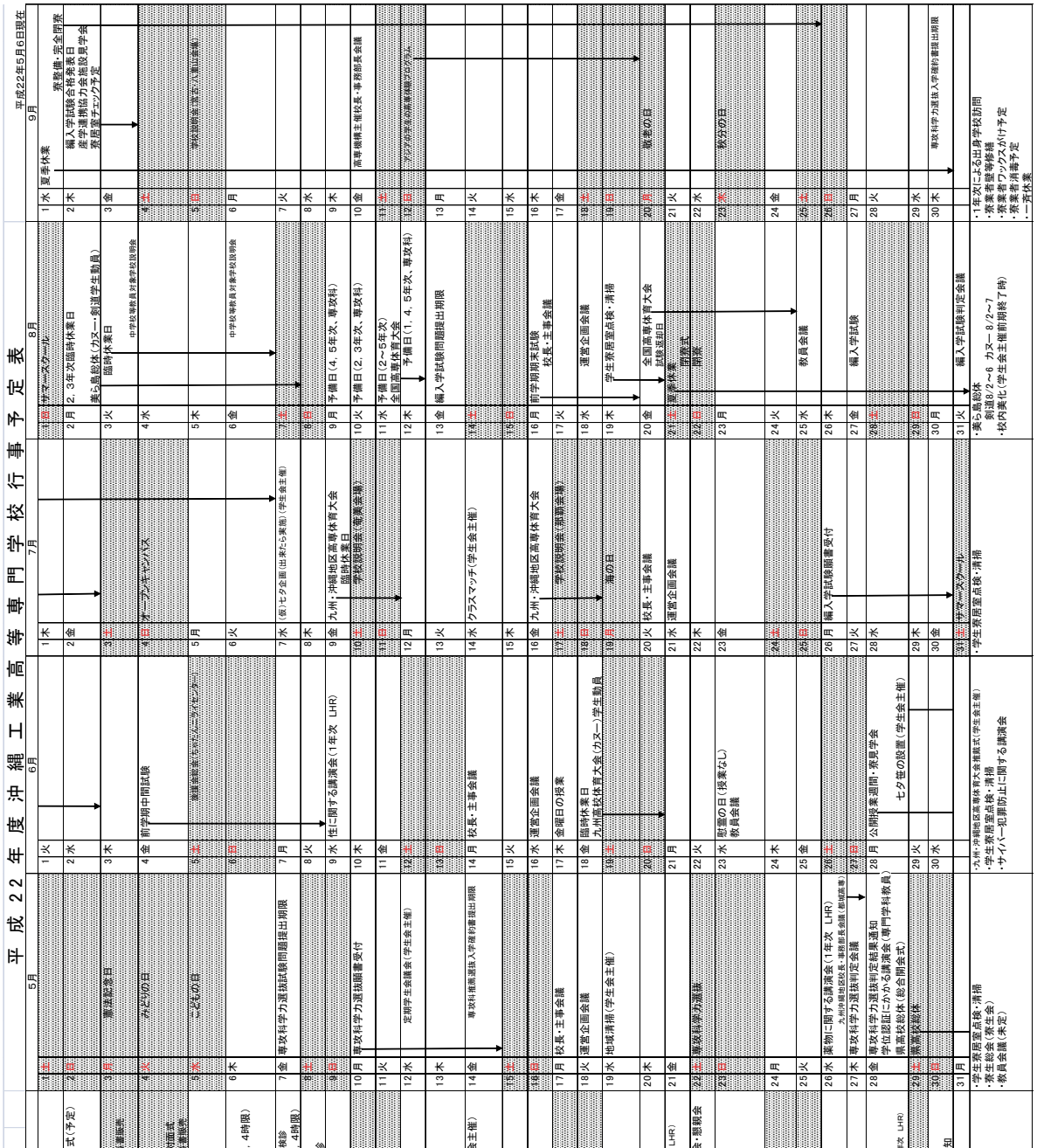
本年度は認証評価、来年度はJABEE審査受審の年となっております。

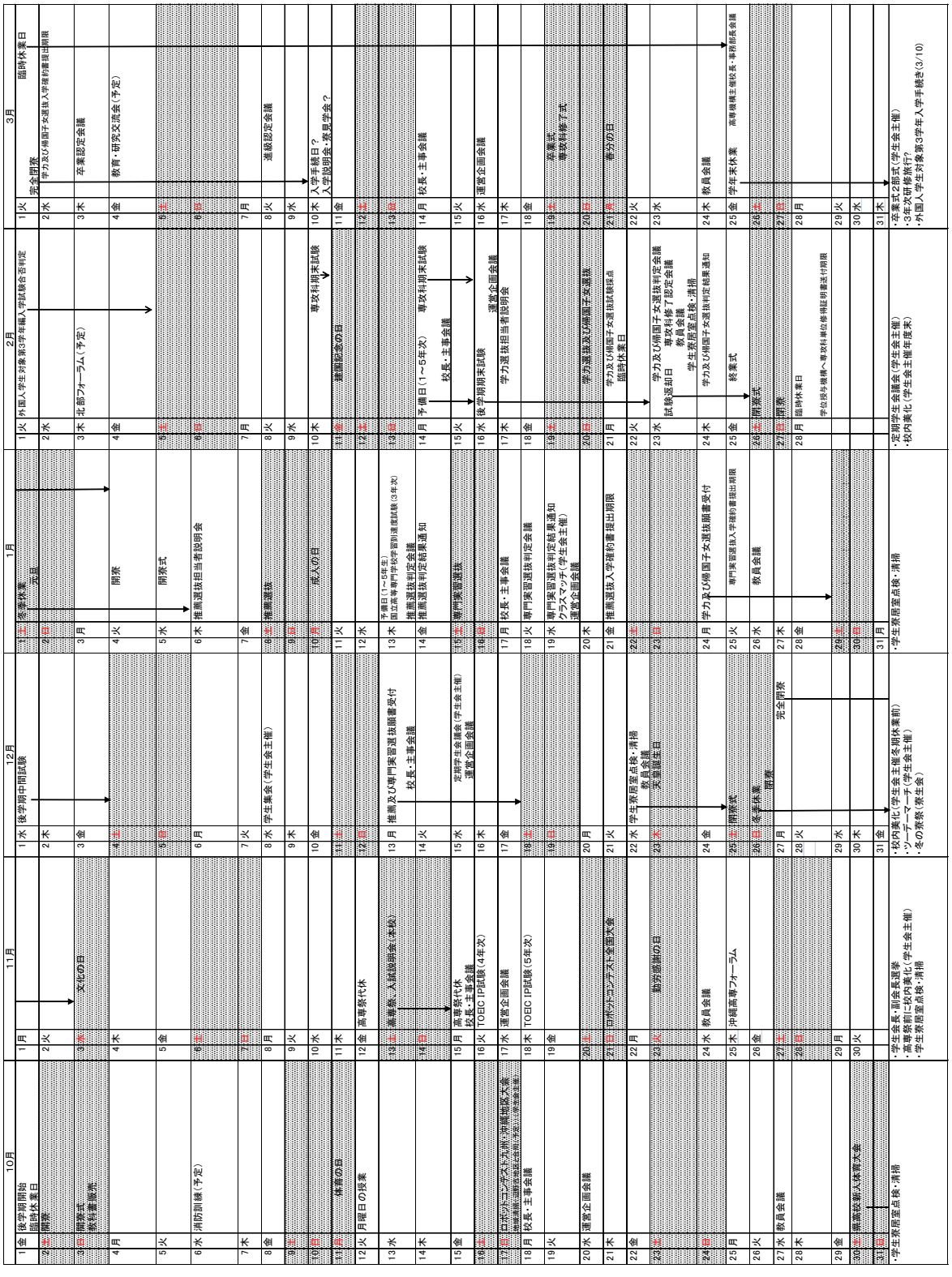
両審査とも成績保存は重要な審査項目となっております。教員の皆さんの
ご協力が必要となっております。

何卒よろしくお願いいたします。

_/_/_/

資料５－３－①－７


平成22年度沖縄工業高等専門学校行事予定表
平成22年5月6日現在
4月
5月
6月
7月
8月
9月
学マーキスケール
春季休業
校長・事務部長着任式（予定）
授業開始
みどりの日
こどもの日
前学期中間試験
前学期末試験
夏季休業
美ら島総体（カヌー・剣道 学生動員）
臨時休業日
中学校等教員対象学校説明会
オープンキャンパス
編入学試験合格発表日
産学連携協力会施設見学会
寮居室チェック予定
寮整備・完全閉寮
・学生寮居室点検・清掃
・美ら島総体
・学生寮居室点検・清掃
・校内美化（学生会主催前期終了時）
・寮生帰省
・寮生帰省ワックスがけ予定
・寮生帰洲
・一斉休業




（出典　平成22年度学校行事予定表）

資料５－３－①－８

# 平成２１年度進級認定会議議事要旨

日　時：平成２２年3月４日（木）１１：０５～１４：００
場　所：視聴覚ホール
主席者：
校長、教務主事（高木教授）
総　　合　小池教授、成田教授、網谷教授、青木准教授、澤井准教授、下郡准教授
角田（キ）講師、高嶺講師、大石講師、名嘉山講師、古屋講師、山本講師、滝講師、飯田講師、武田講師
機　　械　眞喜志（隆）教授、松栄教授、真鍋教授、中本教授、宮田教授、山城（光）教授、比嘉（吉）准教授、吉永准教授、眞喜志（治）准教授、武村准教授、政木准教授、鳥羽準教授、下嶋教授
吉永准教授
情　　報　知念教授、石田教授、比嘉（勝）教授、杉本教授、兼城准教授、金城助教
メディア　正木教授、角田（正）教授、姉崎教授、伊波教授、西村准教授、タンスリヤボン准教授、鈴木講師、佐藤助教、バイティガ助教
生物資源　平山教授、濱田教授、三枝教授、池松教授、山城（秀）教授、玉城准教授、邊准教授、平良准教授、三宮准教授、伊東准教授、工藤助教、磯村助教
欠席者：
総　　合　新川教授、木村講師
情　　報　野口准教授、神里准教授、山田准教授
メディア　太田准教授

列席者：事務部長、学生課長、学生課長補佐、城間教務係員、

○　審議内容

教務主事の進行のもと資料に基づき判定が行われた。

１年生
進級認定対象者数　１７１名
そのうち
除籍該当者数　　３名

原級留置該当者数　　１名
仮進級該当者数　　１７名
進級該当者数　　１５０名

教務主事から上記内容について資料に基づき説明が行われ、特に各教員からは疑義はなく了承された。

２年生
進級認定対象者数　１５６名
そのうち
除籍該当者数　　１名
原級留置該当者数　　３名
仮進級該当者数　　１５名
進級該当者数数　１３７名

教務主事から上記内容について資料に基づき説明が行われた。
知念教授から、電気回路Ⅰ（必修）は平成２１年度から単位数が３単位から２単位に変更されたとの指摘があり同科目の受講者全員の履修単位数が１単位減ることになり、訂正することとなった。（原級留置該当者数、仮進級該当者数、進級該当者数に変更はない。）
その他各教員からは疑義はなく了承された。

３年生
進級認定対象者数　１６２名
そのうち
除籍該当者数　　６名
原級留置該当者数　１３名
仮進級該当者　　１７名
進級該当者数　　１２６名

教務主事から上記内容について資料に基づき説明が行われた。
比嘉（吉）准教授から、機械システム工学科のNO1の学生とNO５の学生の未修得単位合計数に誤りがあり、原級留置該当者となっているが仮進級該当者であるとの指摘がなされ訂正することとなった。
その他各教員からは疑義はなく了承された。
指摘事項
NO１：専門選択は３科目開設され修得単位は２単位以上である。
プログラミングⅡ(2単位)は６０点未満であるが化学及び化学実験法(２単位）は６０点以上で専門選択の修得単位は満たすので未修得単位数は

３となり仮進級となる。

NO５：専門選択は３科目開設され修得単位は２単位以上である。
プログラミングⅡ（2単位）は６０点未満であるが創造研究（１単位）が「合格」となっているので２単位以下の専門選択の修得単位数は１単位とカウントされ、未修得単位数合計は４単位となり、仮進級該当者となる。ただし、追認試験や進級年次で専門の選択科目で未修得科目を受講する場合は、２単位の科目（プログラミングⅡ）を受講し単位を修得する必要がある。
その他各教員からは疑義はなく了承された。

４年生

進級認定対象者数　　１７８名
そのうち
除籍該当者数　　７名
原級留置該当者数　　３名
仮進級該当者数　　３６名
進級該当者数　　１３４名

教務主事から上記内容について資料に基づき説明が行われた。

教員から、以下の学生について未修得単位数合計に誤りがあるとの指摘があり、訂正することとなった。

・機械システム工学科

NO１６：未修得単位数合計が１となっているが、一般選択科目では、開設科目５科目の中で１単位修得しておけばよいので未修得単位数合計は０となり、仮進級該当者ではない。

・メディア情報工学科

NO１８：未修得単位数合計が４となっているが、一般選択科目では、開設科目５科目の中で１単位修得しておけばよいので選択科目は修得できており、未修得単位数合計は３となる。

NO２９：未修得単位数合計が４となっているが、専門選択科目では、開設科目５科目の中で３単位以上修得しておけばよいので選択科目３科目の内１科目は合格しており、残りは1単位不足しているので、未修得単位数合計は４となる。ネットワーキングⅠ、ネットワーキングⅡの少なくとも一方は追認で単位を修得する必要がある。

・生物資源工学科

NO１９：未修得単位数合計が１０となっているが、一般選択科目では、開設科目５科目の中で１単位以上修得しておけばよいので選択科目２科目の内１科目は合格しているので、未修得単位数合計は９となる。

※上記の、メディア情報工学科NO１８、NO２９の学生と生物資源工学科NO１９の学生はいずれも未修得単位数合計が１０単位以内であるので、仮進級該当者である。

その他各教員に疑義はなく了承された。

※以上の審議により、各学年の課程の修了認定について了承された。

３年生の追認試験及び除籍該当者の対応については教務係で事務的に行うことが了承された。

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－９

# 平成２１年度卒業認定会議議事要旨

日　時：平成２２年3月1日（月）１６：３０～１７：００
場　所：視聴覚ホール
出席者：
校長、教務主事（高木教授）
総　　合　新川教授、小池教授、成田教授、網谷教授、青木准教授、澤井准教授、下郡准教授、高嶺講師、大石講師、名嘉山講師、古屋講師、山本講師、滝講師、飯田講師、武田講師
機　　械　眞喜志（隆）教授、松栄教授、真鍋教授、中本教授、宮田教授、山城（光）教授、比嘉（吉）准教授、吉永准教授、眞喜志治准教授、武村准教授、政木准教授、鳥羽准教授、下嶋助教
情　　報　知念教授、石田教授、比嘉（勝）教授、神里准教授、兼城准教授、金城助教
メディア　正木教授、角田（正）教授、姉崎教授、伊波教授、西村准教授、タンスリヤボン准教授、鈴木講師、バイティガ助教、佐藤助教
生　　物　平山教授、濱田教授、三枝教授、山城（秀）教授、玉城准教授、田邊准教授、平良准教授、三宮准教授、伊東准教授、工藤助教
磯村助教
留学生センター　吉川センター

欠席者：
角田（キ）講師、木村講師、杉本教授、野口准教授、山田准教授、池松教授

列席者：
事務部長、学生課長、学生課長補佐（記録）、城間教務係員

※ 教務主事から平成２１年度卒業認定会議資料により、卒業認定判定方法について説明が行われ審議された結果、次のとおり了承された。

１．沖縄工業高等専門学校学則第５７条第４号該当者について（授業料未納者）

・機械システム工学科　　・・・１名（学籍番号[redacted]）
・情報通信システム工学科・・・２名（学籍番号[redacted]）
・生物資源工学科　　・・・１名（学籍番号[redacted]）
計　　４名

※　校長から、３月１９日（金）までに該当者が授業料を納付すれば２０日の卒業式で卒業証書を授与できるが、未納の場合は、支払いを待って授与することとなる。
　去年も同様な事例があり、卒業式前までに沖縄高専奨学基金貸与により授業料を納付し卒業した。今回は、早期に授業料を払ってもらうよう学生課教務係から督促することとし、納付困難な学生については再考する旨説明があった。

２．原級留置
沖縄工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則第１４条第４項の条件を満たさない者として原級留置となった者

・機械システム工学科　　・・・１名（学籍番号[redacted]
・メディア情報工学科　　・・・２名（学籍番号[redacted]）
　　計　　３名

○平成２１年度卒業予定者
・機械システム工学科　　・・・・　　３５名
・情報通信システム工学科　・・・・　　３５名
・メディア情報工学科　　・・・・　　３３名
・生物資源工学科　　・・・・　　３９名
　　計　　１４２名

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が策定され，全学生に周知されている。また，定期試験後に答案返却を行い，採点の質疑に応じる仕組みがある。科目の評価はシラバスに明記された方法で適切に行われている。進級認定・卒業認定はそれぞれ進級認定会議，卒業認定会議において，規則に則して適切に実施されている。

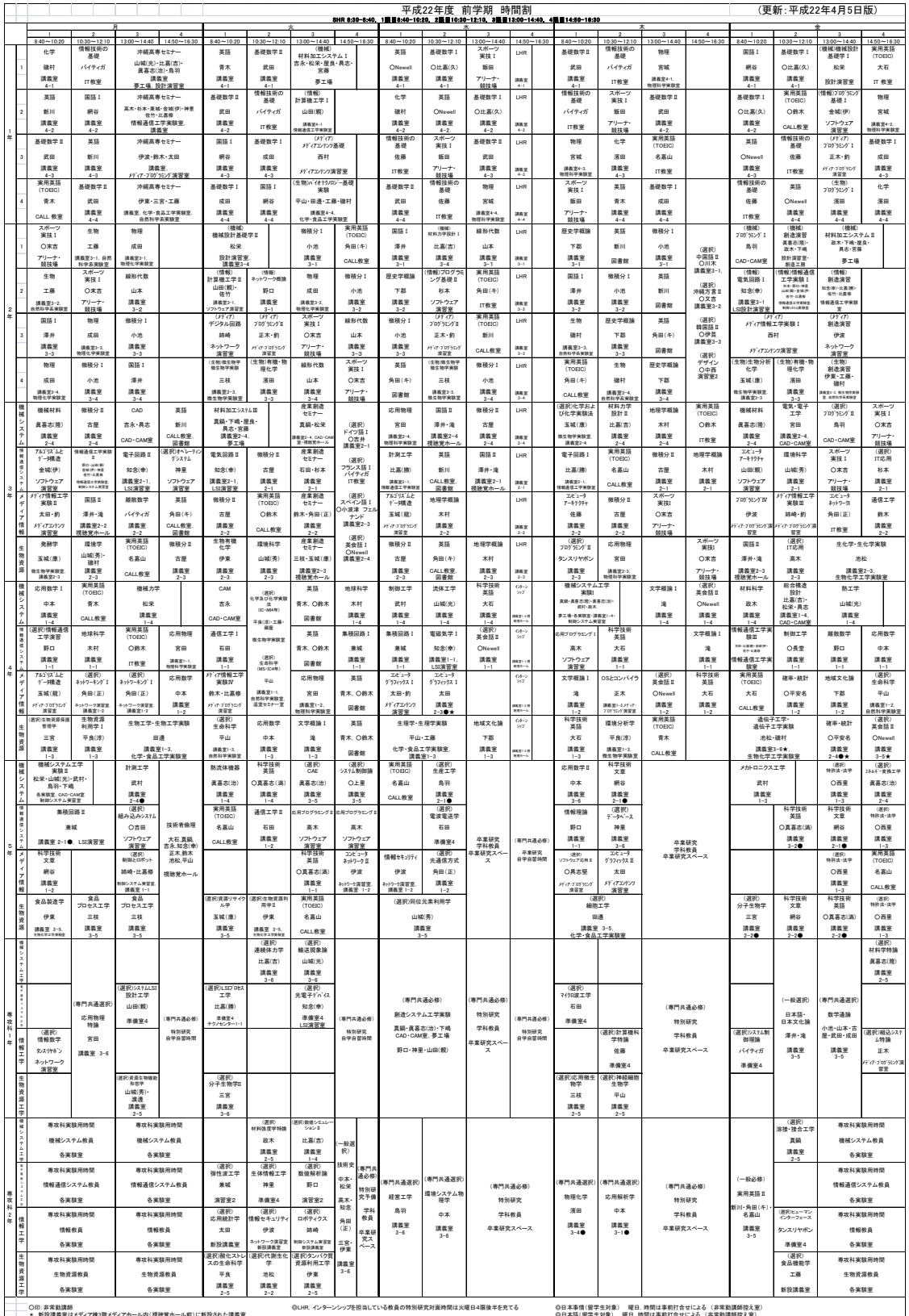
**観点５－４－①：　教育課程の編成において，特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。**

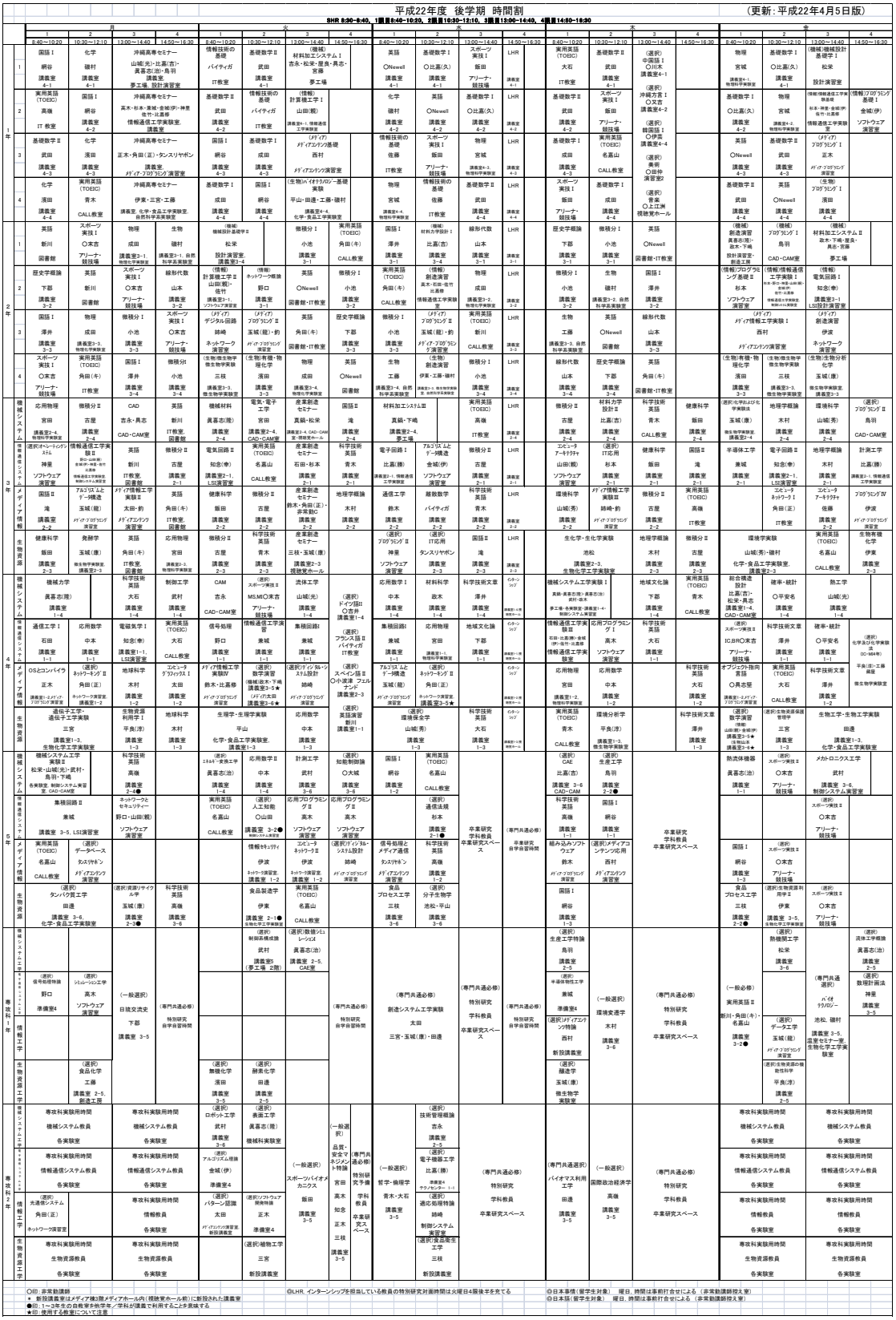
（観点に係る状況）

高等専門学校設置基準第17条７項では，特別活動を90単位時間以上実施することが卒業の要件として定められている。本校では，１年生から３年生に対し週１時間（50分）の特別活動（LHR）の時間を割り当て（資料５－４－①－１），年間30単位時間，合計90単位時間実施するよう定め，この特別活動の合格をそれぞれの学年での進級の要件及び卒業の要件として定めている（資料５－４－①－２）。また，特別活動の意義や，特別活動の運営を担う担任の役割，実施形態とテーマ例などが，教員便覧に定められている（資料５－４－①－３）。

特別活動の活動内容は，各学年の担任が計画立案している（資料５－４－①－４）。特別活動は単位認定されないが，前記の所定時間の実施が進級および卒業の要件として定められており，担任が出欠報告を行い合否判定基準の一つとしている。

資料５－４－①－１


平成22年度　前学期　時間割
（更新：平成22年4月5日版）
SHR 8:30~8:40，1限目 8:40~10:20，2限目 10:30~12:10，3限目 13:00~14:40，4限目 14:50~16:30
月
火
木
金
1年
2年
3年
4年
5年
専攻科1年
専攻科2年
機械システム
情報通信システム
メディア情報
生物資源
専攻科
情報工学
生物資源工学
○印：非常勤講師
＊：新設講義室は4メディア棟3階メディアホール内（視聴覚ホール前）に新設された講義室
●印：1～3年生の自教室を他学年／学科が講義で利用することを意味する
★印：使用する教室について注意
◎LHR：インターンシップを担当している教員の特別研究対面時間は火曜日4限後半を充てる
◎日本事情（留学生対象）　曜日、時間は事前打合せによる（非常勤講師授与室）
◎日本語（留学生対象）　曜日、時間は事前打合せによる（非常勤講師授与室）




（出典　平成22年度時間割）

資料５－４－①－２

第４章　学年の課程の修了及び卒業の認定

（学年の課程の修了及び卒業の認定）

第１４条　学年の課程の修了及び卒業の認定は、課程の修了及び卒業に関する認定会議（以下「認定会議」という。）の議を経て校長がこれを行う。

２　学年の課程の修了及び卒業の認定にあたっては、授業料目及び特別活動（第１学年から第３学年のみ）の履修状況並びに次の各号に掲げる条件をすべて満たしていることを基準とする。ただし、校長が特に認めた海外留学生として派遣されるため年度をまたがって休学する学生の学年の課程及び卒業の認定にあたっては、休学期間以外の当該年度と前年度の授業日数を合算して年間総授業日数を算出するものとする。

(1) 学則別表第１及び別表第２に定める科目を履修していること。

(2) 学則に定める当該学年における修得すべき科目の単位を全て修得していること。

(3) 出席日数が年間総授業日数の３分の２以上であること。ただし、第４学年及び第５学年において原級留置となった学生のうち、それぞれの学年の原級留置決定年度において修得科目のあった者を除く。

(4) 特別活動が「合格」であること。

３　前項各号の条件を満たさない者で特別な理由があると校長が認めた者については、認定会議において審議した上で、校長が総合的に判定する。

４　卒業に必要な修得単位数は、学則別表第１に定める科目から８０単位以上及び別表第２に定める科目から８７単位以上の合わせて１６７単位以上とする。

（出典　沖縄工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則　抜粋）

資料５－４－①－３

## 第４章　特別活動(ロングホームルーム　ＬＨＲ)

### （１）　特別活動の意義

高専では特別活動を９０単位時間以上実施することが卒業の要件と定められている。(高等専門学校設置基準第１７条第７項)　沖縄高専では、１年生から３年生に対し週１時間（５０分）の特別活動（ＬＨＲ）の時間を割り当て、特別活動の合格を進級のこれらの学年での要件としている。

特別活動の目標は、望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。(高等学校学習指導要領の第１目標より抜粋)

その活動内容は大きく分けて、次の３つである。(高等学校学習指導要領の第２内容より抜粋)

(A)　ホームルーム活動

ホームルームや学校の生活への適応を図るとともに、その充実と向上、学生が当面する諸課題への対応及び健全な生活態度の育成に資する活動を行うこと。

(B)　学生会活動

学校生活の充実や改善向上を図る活動、学生の諸活動についての連絡調整に関する活動、学校行事への協力に関する活動、ボランティア活動などを行うこと。

(C)　学校行事

学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと。

### （２）　担任の役割

担任教員は、特に次の事項に注意しながらＬＨＲの運営にあたり、その指導的役割を果たし、教育効果の向上を目指すべきである。１，２年の混合クラスにあっては、進路指導等、専門学科に強く関係する項目にあっては、学科担任等と協力して行うこともある。

(A)　青年期の特質の理解に基づいて指導すること

青年期の特質をよく理解して、個々の学生に対しては常に共感的理解を深めながら、その発達過程を暖かく見守る態度を保持することが必要である。

(B)　継続的・計画的な指導を図ること

全校的な指導計画と密接な関連を保って、ＬＨＲ全体にわたる指導計画を作成しておく必要がある。例えば、学生会活動や学校行事等の計画、学生理解のための各種の意識調査等の実施計画、読書指導、進路指導、健康と安全の指導、生活指導等の種々の分野についての諸計画を、全校的な指導計画の中で位置づけることが必要である。

(C)　好ましい学級集団の育成を目指すこと

集団生活を営む場として、教員と学生の信頼感及び学生相互の連帯感によって支えられた伸び伸びとし和やかな雰囲気をもった学級集団を育成することを期することが必要である。

(D)　個別指導のための配慮を行うこと

学生の個性や個人差に応じた適切な指導の徹底を図るため、教育相談や学生理解の方策を計画的に進めてゆく必要がある。

**（３）　実施形式とテーマ例**

実施形式として、次のような形式が考えられる。①講義式話合い、②円卓式話合い、③パネルディスカッション、④シンポジウム、⑤フォーラム、⑥バズ・セッション、⑦ブレーン・ストーミング、⑧レクリエーション的行事、⑨テレビやビデオ等の視聴、⑩講演会

また、教室以外の場所も事前に調整することにより利用してもよい。

テーマ例を以下に挙げる。

(A) ホームルームとしての共同生活の充実に関するテーマ

オリエンテーション、ホームルームの任務、役員選出、ホームルーム年間計画、学校行事(工場見学・合宿研修・講演会・式典など)、学生会行事(体育祭・高専~~際~~祭・球技大会・学生総会など)、自己紹介、親睦会、学期はじめや終了にあたって

(B) 個人の生き方に関するテーマ

友情、思いやり、信頼、自由と規律、自由と自立、自由と自律、自由と責任、エチケット、恋愛、結婚、男女交際、青年期の特質、悪への誘惑、人間の強さと弱さ、ユーモア、反抗と主張、正しい自己主張、正義、誇り、独立心、理想と夢、人生の試練、人生の矛盾、人生観、宗教と人間、豊かな人間性、幸福、目標のある生活、ものの見方考え方、高専生のあり方、技術者としての理想像、新年の抱負、親の立場と子の立場、尊敬する人、趣味、読書のすすめ

(C) 集団の一員としての生き方のテーマ

家庭生活、寮生活、学校生活、クラブ活動、先輩後輩、共通の責任、個人と集団、家庭と社会、勤労と奉仕、自分の立場と相手の立場、人間関係、勤労とレジャー、政治と暮らし、交通安全、マスコミの功罪、ネットと社会、新聞の読み方、公害、教育

(D) 学業生活および進路決定に関するテーマ

勉強のしかた、自分の成績と反省、試験を前にして、個性の発見、進路の確認、職業観、職業と人生、学問のあり方、学生気質、進学と就職、職場について、面接の仕方

(E) その他

講話（校長・主事・学年主任・学科主任・特定教員・担任・カウンセラー・その他)、担任の思い出話、学生心得、休暇中の注意、演芸、音楽鑑賞、テーブルスピーチ、コーラス、Ｘへの手紙、学科オリエンテーション、有志の話、茶話会、球技大会

（出典　平成22年度教員便覧　P.20,21）

資料５－４－①－４

## 2009年度　2年LHR計画

★前期　進路に関する講演会（外部講師　1回、内部　1回）、学科別LHR（卒業までの道のり・専攻科生による卒研モデル）、学生主事講話
★後期　＜案＞進路に関する講演会（OBまたは5年生　2回）、卒業までの道のり（学科別　上級生との懇談会）、教務主事講話

【前期】

| 回 | 月 | 日 | 曜 | 内容 | 担当者 | 場所 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 4 | 2 | | 担任会議（担任団顔合わせ、旧1年担任からの申し送り） | | | |
| 1 | 4 | 8 | 水 | 役員選出・役割分担、生活諸注意 | 主担任 | 各HR | |
| 2 | 4 | 9 | 木 | 健診場所・図書館にて出欠把握 | 主担任 | | 健康診断・歯科検診・図書館講習会 |
| 3 | 4 | 15 | 水 | 体育祭（4／29）話し合い | 主担任 | 各HR | 放課後：合同企業説明会（上級生向け） |
| 4 | 4 | 22 | 水 | 交通安全講習会 | 外部講師 | アリーナ | |
| 5 | 5 | 8 | 金 | 進路に関する講話（インターンシップとは　等） | 進路委員会（正木先生） | 視聴覚ホール | 水曜日の授業 |
| 6 | 5 | 13 | 水 | （案：学科別①　卒業までの道のり） | （学科担任） | | 1年生：薬物に関する講習会／4年生：インターンシップ企業説明会／放課後：学生会議会 |
| 7 | 5 | 20 | 水 | （案：1・2組合同レクリエーション／3・4組　担任裁量） | 主担任 | 体育館（予約済） | 1年生：性に関する講習会／地域清掃 |
| 8 | 5 | 27 | 水 | （案：3・4組合同レクリエーション／1・2組　担任裁量） | 主担任 | 体育館（予約済） | 放課後：AED講習会 |
| 9 | 6 | 3 | 水 | クラス対応（試験前につき自習など） | 主担任 | 各HR | 定期試験前／4年生：性に関する講習会 |
| | | | | **前学期中間試験** | | | |
| 10 | 6 | 17 | 水 | （案：学科別②　専攻科生による卒研モデル披露） | （学科担任） | | 視聴覚ホール1年使用 |
| | | | | 担任会議（中間試験・追認試験の結果を踏まえた情報交換、学科別LHRでの学生の反応、7月保護者懇談会に向けて） | | | |
| 11 | 6 | 24 | 水 | クラスマッチ（7／22）話し合い<br>（この日までに種目がわかれば） | 主担任 | 各HR | 視聴覚ホール1年使用 |
| | 7 | 1 | 水 | 学級懇談会（必要に応じ保護者面談） | | | 寮祭・公開授業週間 |
| 12 | 7 | 15 | 水 | 進路に関する講演会 | 外部講師 | 視聴覚ホール | 毎日コミュニケーションズ（昨年度も依頼、無料） |
| 13 | 7 | 22 | 水 | 学生主事講話　夏休みを控えて | 学生主事 | 視聴覚ホール | 放課後：クラスマッチ |
| 14 | 7 | 29 | 水 | 高専祭準備（役割分担など話し合い） | 主担任 | 各HR | 視聴覚ホール1年使用 |
| 15 | 8 | 5 | 水 | クラス対応（試験前につき自習など） | 主担任 | 各HR | 定期試験前 |
| | | | | **前学期期末試験** | | | |
| | | | | 担任会議（保護者呼び出し・進路変更推奨要の学生などについて情報交換） | | | |

【後期】

| 回 | 月 | 日 | 曜 | 内容 | 担当者 | 場所 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 担任会議（後期LHR擦り合わせ、学生などについて情報交換） | | | |
| 16 | 9 | 30 | 水 | 役員改選・高専祭準備 | 主担任 | 各HR | |
| 17 | 10 | 7 | 水 | 高専祭準備 | 主担任 | 各HR | |
| 18 | 10 | 21 | 水 | 高専祭準備 | 主担任 | 各HR | |
| 19 | 10 | 28 | 水 | 高専祭準備 | 主担任 | 各HR | |
| 20 | 11 | 4 | 水 | 高専祭準備 | 主担任 | 各HR | 校内美化 |
| 21 | 11 | 11 | 水 | 高専祭準備 | 主担任 | 各HR | |
| | 11 | 14 | 土 | 高専祭準備 | | | |
| | 11 | 15 | 日 | 高専祭 | | | |
| 22 | 11 | 18 | 水 | （案：高専祭振り返り） | 主担任 | 各HR | 学生会選挙 |
| 23 | 11 | 25 | 水 | クラス対応（試験前につき自習など） | 主担任 | 各HR | 定期試験前 |
| | | | | **後学期中間試験** | | | |
| 24 | 12 | 3 | 木 | | | 視聴覚ホール | 水曜日の授業 |
| | | | | 担任会議（中間試験・追認試験の結果を踏まえた情報交換） | | | |
| 25 | 12 | 9 | 水 | 学科別③　上級生（4or5年生）に聞く：就職／進学の決め手、親睦会など | （学科担任） | | 学生集会 |
| 26 | 12 | 16 | 水 | クラスマッチ（1／13）話し合い<br>（この日までに種目がわかれば） | 主担任 | 各HR教室 | 学生会議会 |
| 27 | 1 | 6 | 水 | | | | |
| | 1 | 13 | 水 | | | | 予備日・クラスマッチ |
| 28 | 1 | 20 | 水 | 交流戦 | | | |
| 29 | 1 | 27 | 水 | 交流戦 | | | |
| | | | | 担任会議（保護者呼び出し・進路変更推奨要の学生などについて情報交換） | | | |
| 30 | 2 | 3 | 水 | クラス対応（試験前につき自習など） | 主担任 | 各HR教室 | 定期試験前／学生会議会 |
| | | | | **後学期期末試験** | | | |
| 31 | 2 | 19 | 水 | 1年間の振り返り・1人暮らしや自動車通学等に関する注意など | 主担任 | 各HR教室 | 後学期　試験返却　最終日にLHRを入れる？ |
| | | | | 担任会議（担任からの申し送り） | | | |

（出典　２学年担任資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，高等専門学校設置基準第17条７項に定められた特別活動の実施基準に基づき，特別活動を90単位時間以上実施するよう定め，各担任が指導的役割を果たし，その運営を行っている。各担任は特別活動の実施に際し，教員便覧で定められた実施形態とテーマ例を参考に，人間の素養の涵養がなされるように配慮した内容を計画し実施している。

**観点５－４－②：　教育の目的に照らして，生活指導面や課外活動等において，人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。**

（観点に係る状況）

本校では，学則第１条の２に目的を定めている（資料５－４－②－１）。更に，本目的を達成するために，本科教育目標，専攻科教育目標を掲げている（資料５－４－②－２）。

本校では「学生生活の手引き」に学生として望ましい学校生活のあり方を示して，学生の人間性の涵養に努めている（資料５－４－②－３）。また，沖縄工業高等専門学校学生準則を策定し，学生として留意すべき学校生活及び登下校における服装等について明記している(資料５－４－②－４)。

生活指導は学生主事の総括のもと学生委員会を中心として組織的に行われている。学生委員会は，各学科から選出された学生主事補等により構成される（資料５－４－②－５）。学生委員会は，本校の学生全員をもって構成する学生会の指導的役割を担い,学生会では別途定められる学生会会則(資料５－４－②－６）に基づき，学生の自発的な活動を通して，その人間形成を助長し，本校の目標の達成に努めることを定めている。また，学級担任・副担任は，学生との個別面談や保護者との個別面談を通し生活指導を行っている（資料５－４－②－７，資料５－４－②－８）。

課外活動に関しては，各部・同好会・委員会を指導する顧問によって，人間の素養の涵養が図られるよう配慮されており，平成22年度は原則全教員が顧問として学生の指導にあたることになっている（資料５－４－②－９）。

また，各種学校行事によっても，人間の素養の涵養が図られるように配慮されている（資料５－４－②－10)。例えば，毎年５月には学生会主催で地域清掃を実施しており，学生と教職員で学校周辺のゴミ拾いを行い，地域清掃を行うと共に，地域住民との交流を通し，人間の素養の涵養が図られている（資料５－４－②－11)。また，毎年開催される地域の平和学習イベントへの参加を通し，平和の大切さを学ぶと共に，人間の素養の涵養が図られている（資料５－４－②－12)。

資料５－４－②－１

# 沖 縄 工 業 高 等 専 門 学 校 学 則

平成１６年 ４ 月 １ 日
学　　則　　第 １ 号
改正　平成１９年 ３ 月３０日
学　　則　　第 １ 号
平成２０年 ３ 月３１日
学　　則　　第 １ 号
平成２０年 ８ 月２０日
学　　則　　第 ２ 号
平成２１年 ２ 月１８日
学　　則　　第 １ 号
平成２２年 ３ 月１７日
学　　則　　第 １ 号

目次

第１章　本校の理念及び目的（第１条ー第１条の２）
第２章　教育研究水準の向上（第２条ー第４条）
第３章　組織（第５条ー第１１条の４）
第４章　修業年限、学年、学期、休業日及び授業終始の時刻（第１２条ー第１６条）
第５章　教育課程等（第１７条ー第２３条）
第６章　入学、転科、休学、転学、留学及び卒業（第２４条ー第４０条）
第７章　検定料、入学料、授業料及び寄宿料（第４１条ー第４９条）
第８章　外国人留学生（第５０条）
第９章　研究生、聴講生及び科目等履修生（第５１条ー第５３条）
第10章　学生準則及び賞罰（第５４条ー第５７条）
第11章　専攻科（第５８条ー第６８条）
第12章　学生寮（第６９条）
第13章　公開講座（第７０条）
附則

## 第１章　本校の理念及び目的

（理念）

第１条　沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与することを理念とする。

（目的）

第１条の２　本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

## 第２章　教育研究水準の向上

（自己評価等）

第２条　本校の目的及び社会的使命を達成するため、本校における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

２　前項の点検及び評価の実施に関し必要な事項は、別に定める。

３　本校は、第１項の点検及び評価の結果について、本校の職員以外の者による検証を行うも

（出典　沖縄工業高等専門学校学則　抜粋）

資料５－４－②－２

# Ⅰ　沖縄高専の教育目標

本校は，学則第１条の２において次のように目的を定めています。

「本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」

この目標を達成するために、本科及び専攻科の教育目標を次のように定めています。

＜本科教育目標＞

１．　技術者に必要な基礎知識を備え実践力のある人材を育成する
２．　創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する
３．　専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する
４．　広い視野と倫理観を備えた人材を育成する

＜専攻科教育目標＞

１．　知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する
２．　想像力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する
３．　専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する
４．　地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する

（出典　学生生活の手引き　P.1）

資料５－４－②－３

# Ⅶ　学生生活に関すること

## １　学校行事

高等専門学校は「専門の学芸」を深く学び，「職業に必要な能力」を修得する高等教育機関です。そして同時に学生の皆さんが「全人格的に発達する」生活空間としての役目も担っています。そのために，沖縄高専では，日々の学習の他に学校行事が多く実施され，心身ともに健康な発達ができるように工夫されています。高専祭（中学校の文化祭に相当）を始めとする校内行事の多くは学習活動の一環であり「特別活動」に含まれるものとして出席の確認もしています。日常の授業と同等の大切な学習活動ですから，各行事の趣旨をよく理解して積極的に参加してください。

また，それぞれの学校行事は，学生全員が参加するもの，ある特定の学年だけが参加するもの，ある学科だけで行われるものなどに分かれています。詳しくは学校行事が近づくと担任から連絡があります。

## ２　掲示板・連絡方法

学生への連絡は，原則として**掲示板、電子メールもしくは「沖縄高専ポータルサイト」**（http://portal.okinawa-ct.ac.jp/）によって行います。大事なことは必ず掲示しますので，うっかり見落として後に支障をきたすことのないよう，毎日確認する習慣をつけてください。特に緊急を要する連絡事項等は電子メールで通知することがありますので，注意してください。

掲示板は，**創造・実践棟１階及び２階講義室の横**に設置されています。１階の掲示板は，教職員から学生への連絡として使用し，２階の掲示板は，基本的には学生からの連絡用としますが，教職員からの連絡用として使用する場合もありますので注意してください。必要に応じてホームルームに掲示することもあります。掲示板で確認してもわからないことは直接担当窓口で尋ねてください。

また，本校では電話での学生個人の呼び出しは緊急時以外応じられません。保護者にもそのように説明しておいてください。

## ３　保健室

メディア棟２階にあり，以下の項目に関する業務を行っています。

・通学途中や校内におけるけがや病気の応急処置
・定期健康診断
・健康診断証明書の発行（進学、就職、スポーツ大会の参加）
・環境安全衛生検査（飲料水、プール、空気、照度等）
・健康相談，学生相談窓口
・日本スポーツ振興センター災害共済給付請求手続き
・その他

## ４　学生相談室

学生相談室は，一人一人が充実した学生生活を送れるようにサポートしていくところです。場所はメディア棟２階の保健室の隣で，そこから入ることができます。メンバーは各学科の相談員の先生方，保健室の看護師さん，臨床心理士の資格をもつ非常勤のカウンセラーの先生方（２名）です。困ったことがありましたら，気軽に話に来てください。

誰かに相談や話をするだけで，悩みが解消したり気持ちが楽になったりするものです。話の内容は，

・勉強がよく分からない
・なんとなくやる気がでない
・将来が不安，進路に迷っている
・最近体調がすぐれない
・好きな人ができて気になる
・家族や友達とうまくいかない
・友達のことが心配
・無性におしゃべりがしたい

など，なんでもかまいません。

相談員やカウンセラーの先生方の情報や来校予定日は，保健室前に掲示してあります。カウンセラーの先生に話を聞いてもらいたい人は，保健室の看護師さんに声をかけてみてください。

## ５　オフィスアワーについて

**オフィスアワー**とは，各教員が学生のために確保する時間帯のことで，学習はもちろん生活に関する事などの相談に応じます。この制度を積極的に利用して教員とコミュニケーションを図り，学生が大きく成長することを願っています。

オフィスアワーの時間帯は各教員によって異なりますので，教員研究室入り口や掲示板などで，オフィスアワーの時間帯を確認してください。もちろん、オフィスアワーの時間帯以外でも相談に訪れても構いません。

## ６　独立行政法人日本スポーツ振興センター「災害共済給付制度」について

学校管理下において学生が災害（負傷，疾病，障害又は死亡）にあった場合，その医療費や見舞金の給付を行う制度です。本校では実験・実習が多くあるため，全学生が加入することとしています。災害に遭い，医療機関を受診した場合は，保健室までお問い合わせください。

※　学校管理下とは
①　授業中（特別活動中を含む）
②　学校の教育計画に基づく課外指導中
③　休憩時間中及び学校の定めた特定時間中
④　通常の経路及び方法による通学（登下校）中
⑤　寄宿舎にあるとき
⑥　技能教育のための施設で教育を受けているとき

## ７　学校生活上のきまり・注意点

皆さんは，本校に入学したその日から「沖縄高専の学生」として社会の人々から扱われます。一人一人が全く違った人格を持った人間であることは当然ですが，それと同時に，学ぶことを自分の生き方として選択した「**学生**」である本校の一員になったわけです。小学生を「児童」と呼び，中学・高校生を「生徒」と呼んで，ほぼ全面的に学校の保護下におくこととは全く異なった世界が，皆さんの所属する「高等専門学校」です。本校では皆さん一人一人が「学生」として，自分自身の行動に責任を持つことになります。

言うまでもなく，学校は学生のために存在します。そして，主たる構成員である学生の行動によって，その学校の評価は決まります。沖縄高専は皆さんのための学校であると同時に，これから入学してくる後輩達のための学校でもあります。ここでは，沖縄高専の学生として日常の学校生活のなかで最低限注意してほしいことを説明します。

ここに書かれていることは，学生として必ず守るべき**最低限度のマナー**です。

### ○服装について

沖縄高専では特に制服を定めていません。これは，学生である皆さんを一人の大人として扱っているからです。そのため皆さんの行動には責任が伴います。**常に沖縄高専の学生にふさわしい服装や頭髪等の身だしなみを心がけ、過度な毛染めや化粧はやめましょう。**

なお，学外を訪問（見学）する際は，**清潔感があり端正な服装**を心がけてください。半ズボンやサンダル履きなど，相手への礼儀を失し不快感を与える格好はしてはいけません。また，場所によっては安全に配慮した服装を心がけましょう。

### ○礼儀について

学生は，教職員に対してはもちろん学生相互間においても礼儀正しくしてください。特に，学外を訪問（見学）する際や高専来校者に対しては，礼儀を失しないよう心がけてください。

### ○学生証について

学生証は，校内において，つりさげ名札などを利用して**常に見やすい位置に着用**しなければなりません。また，学生の身分を証明するものですから，**校外でも常時携帯**しなければなりません。学生証のＩＣチップは寮を含む校舎入退館のセキュリティシステム認証に使用しますし，バーコードは図書館での図書の貸出に使用します。このように，学生証は学校生活の様々な場面で使用しますので，取扱に十分注意し紛失しないように気を付けてください。万が一，紛失したり，使用できなくなった場合には，すみやかに学生課教務係へ届け出て，学生証の再発行を受けてください。ただし，その費用は**個人負担**になりますので注意してください。

### ○通学について

①自動車等による通学（許可制）

車両（普通乗用車，自動二輪車及び原動機付自転車）を運転して通学することを希望する３年次以上の学生（寮生を除く）は，年度ごとに「車両通学許可願」を、学科担任を経て学生課学生係に提出し，校長の許可を得なければなりません。

車両通学に関する詳細については，「沖縄工業高等専門学校学生の車両等使用に関する内規」に定められています。また，許可申請の手続きについては，学生課学生係に問い合わせてください。

② 自転車による通学（届出制）

自転車で通学することを希望する３年次以上の学生（寮生を除く）は，年度ごとに「自転車通学届」を，学科担任を経て学生課学生係に提出し，校長の承認を得なければなりません。

自転車通学に関する詳細については，「沖縄工業高等専門学校学生の車両等使用に関する内規」に定められています。また，届出の手続きについては，学生課学生係に問い合わせてください。

③バスによる通学

バスターミナル等で定期券を購入する場合，学生証を提示のうえ学割定期券・回数券を購入することができます。

④保護者による送迎，徒歩での通学

交通安全，身の安全に十分気をつけて登下校してください。保護者等による送迎の場合、交通の妨げにならないように校内駐車場において、乗降車してください。

**〇校舎への入退館について**

皆さんの安全を守るため，沖縄高専の寮を含む校舎の出入り口は，**セキュリティシステムによって管理**されています。開放時間が決まっている出入り口や，教職員・学生の区分によって入退館が制限されている出入り口，赤外線センサーが稼働している出入り口があります。常にセキュリティシステムの認証に用いられる**学生証を携帯**し，定められた出入り口を利用してください。

**〇教室及び共同施設を使用するには…**

授業以外で教室，体育館，グラウンドなどの校内の施設を学生が使用する場合，事故があったときの対処や校内施設の利用状況の把握のため，**「施設・設備等使用許可願」**を学生課学生係に提出してください。**教室は原則１７時に施錠します**ので、１７時以降に教室を使用する学生団体は必ず使用許可を得て使用してください。

**〇施設等の借用について**

体育館の格技場や伝統芸能道場，視聴覚ホール付属のピアノを収納している部屋（通称：ピアノ室）等の施設は授業や課外活動、行事等で使用していない場合，学生も利用することができます。以下のルールを守って施設を活用してください。

・格技場や伝統芸能道場を使用する場合は、「施設・設備等使用許可願」を学生係に提出し
　事前に使用許可をもらう必要があります。
・学生課学生係で「鍵貸出簿」に氏名、所属，貸出・返却時間等を記入し鍵を借りる。
・返却時間を守って、借りた本人（名簿に記載した者）が責任を持って学生係へ鍵を返却する。
・**鍵の又貸しは固く禁じます。**
・施設内の備品は持ち出さない。

※上記のルールを守らなかった場合は、２週間施設等の使用を禁止します。

※鍵を紛失した場合は、施設内の器物破損及び盗難予防のために鍵を取り替えますので、取り替えにかかる鍵（シリンダー一式）の代金は紛失した者の負担となります。

**〇飲酒と喫煙**

未成年者の飲酒・喫煙は，法律によって禁止されています。学内・学外を問わず違法行為（タバコ・酒類の所持を含め）が認められた場合は，**学則をもって指導，処分**します。

また，**既に成人に達している学生であっても，他の学生への影響を考慮して，学内はもちろん，学校近隣，登下校時，部活動の遠征時などでも飲酒・喫煙は厳禁です。**

成人に達した学生であろうとなかろうと，「学生」が飲酒・喫煙している姿は，周囲の児童・生徒にも多大な悪影響を及ぼします。このことが理解できない学生は，たとえ年齢が達していても，成人として認められません。厳重に指導の上，自らの立場をしっかりと自覚してもらいます。

沖縄高専は，全学生に対して，年齢を問わず，すべての学校生活の場において，飲酒・喫煙をいっさい認めません。

**〇校内での飲食**

校内では，レストランで飲食できますが、寮生と通学生では飲食エリアと時間が異なりますので、注意してください。

また、売店では昼食時に弁当を販売しています。５年生は卒研室での飲食が認められていますが、教室、演習室及び実験室での飲食は禁止しています。昼食時間や休憩時間に飲食する場合は、創造ホールやＩＴラウンジ等をご利用ください。

なお、寮生は，学生寮補食室で飲食が可能です。

①寮生（寮食エリア）

朝食時間帯　　７：３０～　８：２０

昼食時間帯　１２：１０～１３：００（休業日は１２：００～１３：００）

夕食時間帯　１８：００～２０：００

②通学生（一般食エリア）

朝食時間帯　　７：３０～　８：２０

昼食時間帯　１２：００～１３：００

夕食時間帯　１８：００～１９：００

※休業日は営業しません。

**〇所持品の管理**

本校では，個人の所持品の管理は，一人一人の学生が責任を持って行うことになっています。そのために，各講義室前の廊下に学生用ロッカーが設置されています。残念なことですが、本校でも盗難が発生しています。以下の点に注意してそれぞれの所持品の管理を行ってください。

①多額の現金や貴重品を学校に持ってこないでください。

②授業で使う以外の所持品は，ロッカーに入れて施錠してください。

特に，実験・実習やスポーツ科学の授業などで教室を離れるときにはこまめにロッカーを使用してください。くれぐれも貴重品を机の中や鞄の中，机の上などに放置しないでください。なお，この時使用するカギは，ナンバー錠ではなくシリンダー錠が望ましいです。

③万が一盗難の被害にあった場合には，すぐに担任及び学生係に連絡してください。

※教室は原則として１７時以降施錠されます。所持品を放置しておかないよう注意してください。

**○遺失物・拾得物について**

学校内で物品を紛失、拾得した時は、学生課学生係へ届け出てください。拾得物は、学生係窓口または**「沖縄高専ポータルサイト」**に掲載されている「拾得物リスト」で確認してください。拾得物は３ヶ月間学生課で保管しますが、３ヶ月を経過して持ち主が判明しない物は処分します。

**○アルバイトについて**

アルバイトをすることは,勤労体験や社会参加の観点から見れば必ずしも悪いこととは言えません。しかし，アルバイトのために遅刻や欠席が多くなったり，授業がおろそかになり，成績の低下を招くことはよくあることです。特に低学年の学生は，まず勉学を中心とした学生生活を送るべきです。学生がアルバイトをする際には，次のことに十分注意してください。

なお，詳しくは「沖縄工業高等専門学校学生のアルバイトに関する内規」を参照してください。

①アルバイトをするときは，事前にアルバイトの内容や時間等について，保護者や学級担任又は学科担任とよく話し合った上で無理のないようにし，**「アルバイト許可願」**を学生課学生係へ提出してください。

②試験直前や試験期間中はアルバイトを休むなど，勉学を優先するように留意してください。

③成績が著しく低下するなど，学生生活上好ましくない状況が起きたときは，一時アルバイトを停止してください。

④深夜に及ぶアルバイト，風俗営業，遊技場，酒類を供するような飲食店などでの仕事，寮の日課に支障をきたすアルバイトは禁止します。

**○下校時間について**

①部活動の合宿などの特別な場合を除いて，**２０時までには下校**してください。

②卒業研究等のために２０時以降に校内に残る場合，又は土曜日，日曜日及び祝日などに，部活動などで教室や体育館などを使用する場合は，監督者となる指導教員等の許可を得て（教員等が学内にいて安全管理を行なう必要がある）、事前に「施設・設備使用許可願」を学生課学生係に提出してください。創造実践棟を使用する場合は「創造実践棟入館カード借用願」も併せて提出してください。

**○学生会について**

本校では，「学校の指導のもとに，学生の自主的な活動を通して，会員それぞれの人間形成を助長し，高等専門教育の目的達成に資することを目的」として，学生全員で構成する学生会を設置しています。学生会の活動には，会長をはじめとする執行委員会の活動及びそれぞれの目的を持った部会、各種委員会の活動があります。

これらの活動で重要なことは，いずれも学生の主体性が期待されていることです。学生の自主・自律に基づいた有意義な活動となるよう努めてください。

**○課外活動について**

沖縄高専にはいくつかの部や同好会があります。それらに入って活動するのもよいですし、また自分たちで設立することもできます。設立の際には所定の手続きが必要となりますので，学生会部会担当者まで問い合わせてください。

部・同好会へ入部（入会）する際には、顧問の承認を得て「部・同好会入部願」を学生係へ提出してください。入部願は随時受付けますが、年度内有効となっておりますので、毎年度提出してください。

**〇セクシャル・ハラスメント等の防止について**

一般に，相手を不快にさせる性的な言動のことをセクシャル・ハラスメントと言います。このような行為は，単に相手を不快にさせるだけでなく，個人の尊厳や名誉を著しく傷つけることにもつながります。

皆さんが，卑猥な雑誌，写真、記事等を学校内に持ち込んで見たり，又は他人に見せたりすることなども，セクシャル・ハラスメントに相当する行為となります。

また，暴力やいじめなども絶対に許されない行為であり，これらについても，学校として学生を厳しく指導します。学生諸君は，このような行為を行うことのないよう十分に留意して，楽しい学校生活を送ることを期待しています。

万が一、嫌がらせ（ハラスメント）行為を受けた場合は、一人で悩まず、担任や学生相談室に相談しましょう。

**〇事故防止・災害防止**

〔放課後・クラブ活動〕

放課後やクラブ活動中，あるいは休日における施設，設備の利用については，規則を遵守し，安全，事故防止に留意してください。

〔火災・地震発生時の注意〕

以下の事項に注意してください。

【火　災】

①非常放送（火災の発生現場・状況・避難指示等）をよく聞いたのち，教員（放課後はクラブ指導教員又はクラブ部長等）の指示に従って避難する。

②窓を閉め，障害物は撤去する。

③火災発生場所から遠ざかり風上へ避難する。

④あわてずに，私語を発せず，身体の弱い学生や女子学生を先に避難させる。

⑤煙を吸わないようにハンカチ等を口にあて，姿勢を低くする。

⑥避難場所（グランド）に避難し，点呼を受ける。

【地　震】

①地震発生時の指示（非常放送）をよく聞く。

②避難の際は，カバン等で頭部を保護する。

③大きな地震の場合は，教員の指示に従って避難する。

## ８　授業料等の減免及び各種奨学金制度について

授業料等の減免や各種奨学金の申請は、所定の期間内に行なう必要があり、期間を過ぎると受付けできません。申請方法・受付期間の案内は、電子メール、掲示等で通知しますので、見落としのないように注意してください。

**〇入学料について**

(1) 入学料の免除

入学前１年以内において，入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し，又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合，その他特別な事情により入学料の納付が著しく困難であると認められる場合には，本人の申請に基づき選考の上，**入学料の全額若しくは半額を免除**することがあります。

（出典　学生生活の手引き　P.25-31）

資料５－４－②－４

ただし、やむを得ない事由により事前に提出できないときは、その理由を明記して、事後直ちに提出しなければならない。
２　学生が公認欠席しようとするときは、事前に理由を明記して、公認欠席願（様式第１０の２号）を、担当教員及び第１学年又は第２学年にあっては学級担任、第３学年以上にあっては学科担任を経て校長に提出して、その許可を受けなければならない。ただし、やむを得ない事由により事前に提出することができないときは、その理由を明記して、事後直ちに提出しなければならない。
３　学校保健法施行規則（昭和33年文部省令第18号）に定める伝染病及びこれに準ずる疾病により公認欠席する場合は、医師の診断書を添付するものとする。
４　公認欠席に関する事項は、別に定める。

第１６条　父母近親者の喪に服するときは、忌引願（様式第１１号）を、第１学年又は第２学年にあっては学級担任、第３学年以上にあっては学科担任を経て校長に提出して、その許可を受けなければならない。ただし、やむを得ない事由により事前に提出することができないときは、その理由を明記して、事後直ちに提出しなければならない。
２　忌引の期間は、父母７日、祖父母・兄弟姉妹３日、曾祖父母・伯叔父母・従兄弟従姉妹１日とする。ただし、葬儀のため遠隔の地に赴く場合は、往復日数を加えた日数とする。

## 第５章　服装

（服装）
第１７条　学生は、学校生活及び登下校における服装について、本校学生としての品位を保つように留意しなければならない。

## 第６章　健康診断

（健康診断）
第１８条　学生は、毎年の定期又は臨時の健康診断及び予防接種を受けなければならない。

（治療）
第１９条　校長は、必要に応じて学生に治療を命ずることがある。

## 第７章　学生会等

（設置）
第２０条　本校に学生全員をもって構成する学生会を置く。
２　学生は、入学と同時に学生会の会員となるものとする。

（目的）
第２１条　学生会は、学校の指導のもとに、学生の自主的な活動を通して、会員それぞれの人間形成を助長し、高等専門教育の目的達成に資することを目的とする。

（目標）
第２２条　学生会は、前条の目的を実現するために、次の各号に掲げる目標の達成に努めなければならない。
(1) 学生生活を楽しく、豊かで規律正しいものにし、よい校風をつくる態度を養う。
(2) 健全な趣味や豊かな教養を養い、個性の伸長を図る。
(3) 心身の健康を助長し、余暇を活用する態度を養う。
(4) 学校生活における集団の活動に積極的に参加し、自主性を育てるとともに、集団生活に

おいて協力し、民主的に行動する態度を養う。
(5) 学校生活において自治的能力を養うとともに、公民としての資質を向上させる。

（遵守事項）
第２３条　学生会活動を行うにあたっては、次の各号を遵守するとともに、法令及び学則、準則その他学校の定める諸規則に違反してはならない。
(1) 学生会は、学校の教育方針に則り、学校の教育使命の達成に寄与すること。
(2) 学生会は、本来の目的使命に則り、その目的を逸脱し、学園の秩序を乱す活動を行わないこと。
(3) 学生は、学生会の運営について、常に深い関心をはらい、その活動に積極的に参加すること。
(4) 学生会は、会員の総意に基づいて運営され、また、いかなる場合においても、個人の思想、良心等に関する基本的な自由を侵さないこと。
(5) 学生会は、学外活動を行うにあたっては学校の承認と指導を受け、学生会の目的の範囲内において行動すること。
(6) 学生会は、その目的使命の達成上必要があり、かつ、学生会の自主性が阻害されないと認めて学校が承認した場合に限り校外団体に加盟することができる。

（規約）
第２４条　学生会は、規約を制定して学校の承認を受けるものとする。規約の変更についても同様とする。
２　規約中には、少なくとも次の事項を記載しなければならない。
（１）名称、目的、構成及び組織に関すること。
（２）役員の種類、人数、任務及びその任期に関すること。
（３）総会、評議会等会議の機能と権限に関すること。
（４）局及び部の種類とそれらの機能に関すること。
（５）会費及び会計に関すること。
（６）担当教員の指導に関すること。
（７）会議の招集に関すること。
（８）部活動の連絡調整に関すること。
（９）選挙に関すること。
(10) 事業計画及び予算決算に関すること。
(11) 規約の改正に関すること。
(12) 規約発効の期日に関すること。

（事業計画等）
第２５条　学生会は、毎年度、事業計画書及び収支予算書について学校の承認を受け、また事業報告書、収支決算書及び役員等の名簿を学校に提出するものとする。
２　臨時の事業計画についても、同様の手続きを受けるものとする。
３　学生会の決議事項を実施する場合には、学校の許可を受けるものとする。

（指導）
第２６条　学生会の指導については、校長の命を受けて、学生主事が総括する。
２　各局及び各部にそれぞれ指導教員を置く。
３　指導教員は校長が命じ、学生主事の総括の下に、局又は部の活動の指導にあたる。

（団体の結成等）



（出典　沖縄工業高等専門学校学生準則　抜粋）

資料５－４－②－５

平成２２年度　沖縄工業高等専門学校学生委員会委員（９人）

| 所　　属 | 職　　名 | 氏　　名 | 任　期 | 内線番号 | 区 分 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 機　　械 | 教　　授 | 眞喜志　隆 | 22 .4～23.3 | [redacted] | [redacted] | 委員長 |
| 総合科学 | 教　　授 | 網谷　厚子 | 22 .4～23.3 | [redacted] | [redacted] | |
| 機　　械 | 准 教 授 | 武村　史朗 | 22 .4～23.3 | [redacted] | [redacted] | |
| 情報通信 | 准 教 授 | 神里　志穂子 | 22 .4～23.3 | [redacted] | [redacted] | |
| メディア | 准 教 授 | 玉城　龍洋 | 22 .4～23.3 | [redacted] | [redacted] | |
| 生物資源 | 准 教 授 | 三宮　一宰 | 22 .4～23.3 | [redacted] | [redacted] | |
| 総合科学 | 准 教 授 | 下郡　剛 | 22 .4～23.3 | [redacted] | [redacted] | |
| 総合科学 | 講　　師 | 飯田　智行 | 22 .4～23.3 | [redacted] | [redacted] | |
| 事 務 部 | 学生課長 | 南部　元義 | 22 .4～23.3 | [redacted] | [redacted] | |

（担当）

武村・・・車両通学担当、　神里・・・美ら島総体（剣道）担当、　玉城・・・高専祭担当、

三宮・・・学生回担当、　下郡・・・部・同好会担当、　飯田・・・美ら島総体（カヌー）担当

（出典　学生課資料）

資料５－４－②－６

沖縄工業高等専門学校学生会会則

平成 19 年 1 月 31 日制定

第 1 章総則

（名称）

第 1 条　本会は，沖縄工業高等専門学校学生会（以下「学生会」）と称す。

（所在地）

第 2 条　本会は，沖縄県名護市字辺野古 905 番地沖縄工業高等専門学校に所在する。

（趣旨）

第 3 条　この会則は，沖縄工業高等専門学校（以下「沖縄高専」）学生準則第 20 条に基づき，学生会に関し必要な事項を定める。

（目的）

第 4 条　学生会は，学校の指導のもとに，学生の自発的な活動を通して，その人間形成を助長し，次の各号に掲げる事項を目標としてその達成に努めることを目的とする。

（1）　学生生活を楽しく豊かで規律正しいものにし，良い校風をつくる態度を養う。

（2）　健全な趣味や豊かな教養を養い，個性の伸長を図る。

（3）　心身の健康を助長し，余暇を活用する態度を養う。

（4）　学校生活における集団の活動に積極的に参加し，自主性を育てるとともに集団生活において協力し，民主的に行動する態度を養う。

（5）　学校生活において自治的能力を養うとともに，公民としての生活を向上させる。

（組織）

第 5 条　学生会は，次の各号に掲げる沖縄高専に在学する学生（以下「会員」）で組織する。

（1）　本科会員:本科の 1 年生から 5 年生

2　休学する会員は，休学期間中会員資格を停止する。

（遵守）

第 6 条　学生会の活動を行うにあたっては，学生準則第 23 条に定める遵守事項に違反することなく会を運営する。

（細則）

第 7 条　この会則の施行に必要な細則は別に定めることができるものとする。

第 2 章　組織

（機関）

第 8 条　本会則第 3 条の目的を達成するため，次の各号に掲げる機関をおく。

（1）　議決機関

1. 学生会議会

（2）　執行機関

1. 執行委員会
2. 部会（文化部会・体育部会）
3. 部及び同好会
4. 高専祭実行委員会
5. ロボット製作委員会
6. ICT 委員会

（出典　沖縄工業高等専門学校学生会会則　抜粋）

資料５－４－②－７

# 個人面談メモ

クラス･出席番号:　　年　　組　　番　学科: 機械・情報・メディア・生物

氏名:　　学級担任:　　先生

学籍番号:　　学級副担任:　　先生

面談日:平成　　年　　月　　日　学科担任:　　先生

･志望動機･卒業後の希望進路

･勉強･試験について

好きな科目:

苦手科目:

その他:

･クラブ活動について

興味のある部活(所属している部活):

その他:

･混合クラスについて

･学科別クラスについて

･寮生活について

･その他､学校生活について

･気付き

（出典　２学年担任資料）

資料５－４－②－８

平成 22 年 5 月 21 日

メディア情報工学科
保護者のみなさま

国立沖縄工業高等専門学校
メディア情報工学科
3 年学科担任　鈴木大作

## 個別面談のご案内

メディア情報工学科 3 年学科担任と保護者との個別面談を下記のとおり行います。面談は、進学や就職について主にお話させていただく予定です。つきましては、別紙回答用紙にて 6 月 18 日（金）までに担任宛お返事くださいますようお願いいたします。回答用紙の提出は①郵送、②メール、③学生に託す、のいずれかでお願いいたします。面談日時が決まりましたら、学生を通じてご連絡いたします。

また、今回の個別面談時期に限らず、随時、保護者との個別面談に応じますので、進路や成績、学校生活などで心配事がありましたら担任までご相談ください。

記

面談可能日程：

個別面談回答用紙に記載されている表の白い部分の時間帯（灰色部分の時間帯は講義やゼミのため面談することができません。）

面談場所：

創造実践棟 3 階 3-4 研究室

担任連絡先（回答用紙提出先・問い合わせ先）：

〒905-2192　沖縄県名護市字辺野古 905 番地
沖縄工業高等専門学校　メディア情報工学科
3 年学科担任　鈴木　大作
電話　　：
メール　　：

以上

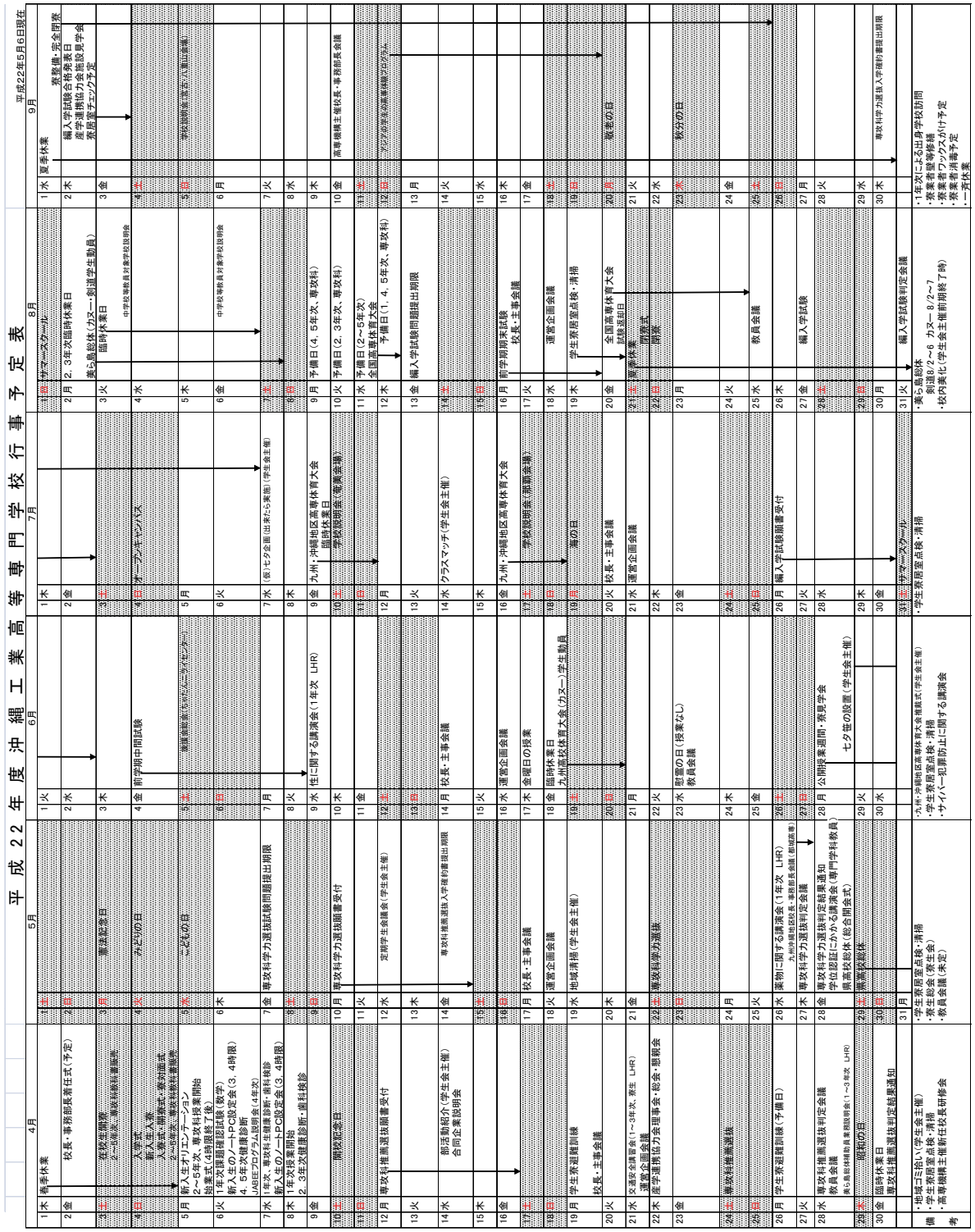
（出典　メディア情報工学科資料）

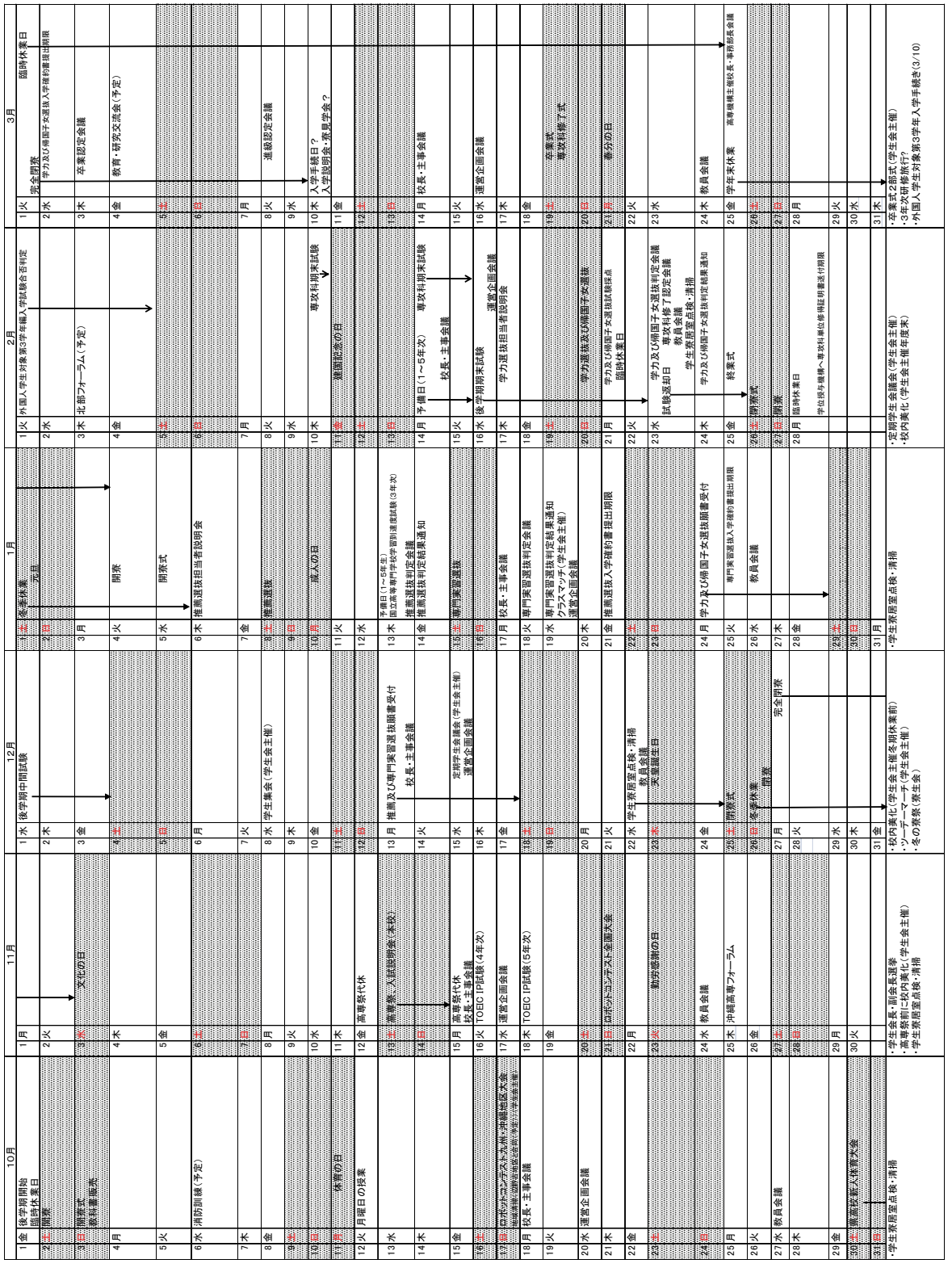
資料５－４－②－９

| | 平成22年度顧問配置 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 団体名 | 区分 | 局 | H22顧問（案） | | | |
| 1 | ハンドボール部 | 部 | 体育局 | 三枝 | 三宮 | | |
| 2 | 弓道部 | 部 | 体育局 | 兼城 | 眞喜志隆 | | |
| 3 | 水泳部 | 部 | 体育局 | 知念 | 澤井 | 杉本 | 大石 |
| 4 | 男子バレー部 | 部 | 体育局 | 下郡 | 山城光 | | |
| 5 | ダンス部 | 部 | 体育局 | 武田 | | | |
| 6 | 女子バスケ部 | 部 | 体育局 | 金城 | 神里 | | |
| 7 | 硬式テニス部（男女） | 部 | 体育局 | 下嶋 | 野口 | 鈴木 | 玉城龍洋 |
| 8 | 男子バスケ部 | 部 | 体育局 | 鳥羽 | 伊波 | 比嘉勝也 | 山城秀 |
| 9 | サッカー部 | 部 | 体育局 | バイティガ | 眞喜志治 | | |
| 10 | 陸上競技部 | 部 | 体育局 | 磯村 | 濱田 | | |
| 11 | 硬式野球部 | 部 | 体育局 | 比嘉吉一 | 山田 | 池松 | 飯田 |
| 12 | 卓球部 | 部 | 体育局 | 玉城康智 | 成田 | 田邊 | |
| 13 | バドミントン部 | 部 | 体育局 | 工藤 | 政木 | 木村 | 宮田 |
| 14 | ソフトテニス同好会 | 同好会 | 体育局 | 平良 | | | |
| 15 | 剣道同好会 | 同好会 | 体育局 | 滝 | 伊東 | | |
| 16 | アメフト同好会 | 同好会 | 体育局 | 小池 | | | |
| 17 | フットサル同好会 | 同好会 | 体育局 | ジョンソン | | | |
| 18 | 文芸部 | 部 | 文化局 | 網谷 | | | |
| 19 | デジタルアート部 | 部 | 文化局 | スリヨン | | | |
| 20 | 総合美術部 | 部 | 文化局 | 青木 | | | |
| 21 | 軽音楽部 | 部 | 文化局 | 山本 | | | |
| 22 | 吹奏楽部 | 部 | 文化局 | 西村 | | | |
| 23 | 航空宇宙同好会 | 同好会 | 文化局 | 古屋 | | | |
| 24 | 映画研究同好会 | 同好会 | 文化局 | 名嘉山 | | | |
| 25 | サイエンスサークル | 同好会 | 文化局 | 平山 | | | |
| 26 | ロボット制作委員会 | 委員会 | | 武村 | 姉崎 | | |
| 27 | ICT委員会 | 委員会 | | 正木 | 佐藤 | | |

（出典　学生課資料）

資料５－４－②－10


平成22年度沖縄工業高等専門学校行事予定表
平成22年5月6日現在
4月
5月
6月
7月
8月
9月
学マーキスクール
美ら島総体（カヌー・剣道 学生動員）
臨時休業日
2、3年次臨時休業日
編入学試験合格発表日
産学連携協力会施設見学会
寮居室チェック予定
寮整備・完全閉寮
春季休業
校長・事務部長着任式（予定）
在校生開寮
2～5年次、専攻科教科書販売
事業起本日
入学式
新入生入寮
入寮式・開講式・寮対面式
2～5年次、専攻科教科書販売
こどもの日
新入生オリエンテーション
2～5年次、専攻科授業開始
始業式（4時間終了後）
1年次課題確認試験（数学）
新入生のノートPC設定会（3、4時限）
4、5年次健康診断
JABEEプログラム説明会（4年次）
新入生のノートPC設定会（3、4時限）
1年次授業開始
2、3年次健康診断・歯科検診
開校記念日
専攻科学力選抜願書受付
部活動紹介（学生会主催）
合同企業説明会
交通安全講習会（1～3年次、寮生 LHR）
運営企画会議
産学連携協力会理事会・総会・懇親会
学生寮避難訓練
校長・主事会議
専攻科推薦選抜
専攻科学力選抜
学生寮避難訓練（予備日）
専攻科学力選抜判定会議
専攻科推薦選抜判定結果通知
教員会議
美ら島おきなわ総体（総合開会式）
振替休業日
専攻科推薦選抜判定結果通知
・地域に活きる（学生会主催）
・学生寮居室点検・清掃
・高専機構ご推薦在校長研修会
・九州・沖縄地区高専体育大会兼開会式（学生主催）
・学生寮居室点検・清掃
・サイバー犯罪防止に関する講演会
・学生寮居室点検・清掃
・美ら島総体
前週8/2～6 カヌー 8/2～7
・校内美化（学生会主催前期終了時）
・九州・沖縄地区高専体育大会兼開会式（学生主催）
・学生総会（第1回）
・教員会議（第1回）
・学生寮居室点検・清掃
・学生総会（第2回）
・教員会議（未定）
・専攻科学力選抜入学確約書提出期限
・専攻科学力選抜入学確約書提出期限
・寮生帰省（冬季）入寮日案内
・冬休業
・寮生帰省（冬季）入寮日案内
・寮生帰省壁等修繕
・寮生者ワックスがけ予定
・寮生者洲毒予定
・一斉休業
・1年次による出身学校訪問
備考




（出典　平成 22 年度学校行事予定表）

資料５－４－②－11

## ＜2010 年度第 5 回辺野古区ごみ拾い＞実施計画書

2010 年 4 月 14 日

[redacted]

1. 企画について

1.1 目的

(1) 執行委員、学生会員、教職員が一緒になってゴミ拾いをすることで、友好関係、結束力を高める。

(2) 辺野古区の方たちと交流を深める

(3) 高専の PR のため辺野古近隣の小中学生を中心とした親子を呼んで、交流を深めるとともに高専についての周知を図る。

1.2 内容詳細

(1) 参加者約 7 名 1 班で構成する。班長は事前に執行委員から決めておく。

(2) 集合時間および集合場所を連絡する。ごみを拾う前に分別できるようゴミ袋を渡す

(3) 各班の代表者は、集合時間に遅れないように注意しながら、各班に任意で行動してもらう。このとき、できるだけ他の班とは違う場所を歩き、広範囲を清掃する。

(4) 集合時間までに戻ってきてもらい、その場でごみ分別をしてもらう。

(5) 終了後飲み物を配布。

(6) ごみ拾い終了後、参加した各小中学生の皆さんに簡単なアンケートに答えてもらう

(7) 集合場所は、辺野古交流プラザとし、学生は学校で事前に班になってそこへ向かう。

1.3 日時

2010 年 5 月 8 日（土）　9 時 00 分～12 時 00 分（雨天中止）

1.4 場所

集合場所　交流プラザ

辺野古区周辺区域(図に示す範囲)もっと広範囲にする予定。

（出典　学生会資料）

資料５－４－②－12

平成２２年５月１９日

１～３年次学生諸君

学生課学生係

「高校生とともに考えるやんばるの沖縄戦」参加学生募集について

このことについて，高校生とともにやんばるであった沖縄戦を一緒に考えるという主旨で，名護市内の慰霊碑・戦跡のフィールドワークが下記のとおり行われます。

内容等は添付ファイルのとおりとなっており，参加者については学校で取りまとめて名護市に申し込みを行うことになっていますので，参加希望学生は６月３日（木）までに氏名・年齢・連絡先を学生係に連絡してください。

記

日　　時：平成２２年６月１２日（土）８時３０分～１７時００分

集合場所：名護市民会館前

内 容 等：添付ファイルのとおり

注意事項：・参加者は保険代として１００円を当日支払ってもらいます。
・学校からの送迎はありませんので，参加者は路線バス等を利用して集合場所に向かうことになります。
・寮生については，当日の朝食と昼食を欠食することができます。（欠食届の提出については，後日学生係から連絡します。）
・午前のフィールドワーク中に食料品店に寄る時間帯がありますので，昼食はその際に購入することができます。

※この件に関して質問等があれば，気軽に学生係まで問い合わせてください。

以上

（出典　学生課送信メール）

（分析結果とその根拠理由）

生活指導に関しては,「学生生活の手引き」に学生として望ましい学校生活のあり方を示すと共に,学生委員会や担任･副担任による学生や保護者との個別面談を実施している。課外活動に関しては,適切な人数の顧問を配置している。また，地域清掃や平和学習イベントなどの各種学校行事を行っている。

以上により，生活指導面や課外活動等において，人間の素養の涵養がなされるよう配慮されている。

＜専攻科課程＞

**観点５－５－①：　準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。**

（観点に係る状況）

専攻科創造システム工学専攻は本科の関連科目と学位取得専門区分に対応するように，機械システム工学コース，電子通信システム工学コース，情報工学コース，生物資源工学コースの４コースから構成される（資料５－５－①－１）。４コースは関連の深い本科の教育課程を基礎とし，それぞれの専門性を高めながら異なるコースの専門分野にも対応する教育課程（資料５－５－①－２）を編成している。さらに，専攻科教育目標と，各コースの教育方針（資料５－５－①－３）を定め，目標を達成するために準学士課程を含めて系統的に科目を配置している（資料５－５－①－４）。

(3) 正当の理由がなくて出席常でない者
(4) 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

（除籍）
**第５７条**　次の各号の一に該当する者は、校長がこれを除籍する。
(1) 長期間にわたり行方不明の者
(2) 第３０条に規定する休学期間を超えてなお修学できない者
(3) 特別な理由なく第３４条に規定する勧奨に従わない者
(4) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
(5) 第４７条に規定する入学料免除又は徴収猶予の申請書を受理され、免除又は徴収猶予を不許可とされた者並びに半額免除又は徴収猶予を許可された者で、所定の期日までに入学料を納付しない者

## 第１１章　専攻科

（設置）
**第５８条**　本校に、専攻科を置く。

（目的）
**第５９条**　専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工学に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、豊かな人間性と国際性を持ち、実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけ、課題設定・解決能力に優れ柔軟な思考ができる高度開発型の技術者を育成することを目的とする。

（専攻及び入学定員）
**第６０条**　専攻科の専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

| 専　　攻 | 入学定員 |
|---|---|
| 創造システム工学専攻 | ２４人 |

２　前項の専攻に学位申請区分に対応した「機械システム工学」、「電子通信システム工学」、「情報工学」及び「生物資源工学」のコースを置く。
３　専攻科に在籍する学生は、前項に規定するコースのうちいずれか一つのコースに所属しなければならない。

（修業年限及び在学期間）
**第６１条**　専攻科の修業年限は、２年とする。ただし、４年を超えて在学することはできない。

（入学資格）
**第６２条**　専攻科に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。
(1) 高等専門学校を卒業した者
(2) 短期大学を卒業した者
(3) 専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第１３２条の規定により大学に編入学することができるもの
(4) 外国において、学校教育における１４年の課程を修了した者
(5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における１４年の課程を修了した者
(6) 我が国において、外国の短期大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における１４年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制

度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
(7) その他専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（入学者の選抜、入学の許可）
**第６３条** 校長は、専攻科の入学志願者について、別に定めるところにより選抜を行う。
２　校長は、前項により選抜した者で、第４２条に規定する入学料を納付した者又は入学料免除又は徴収猶予の申請書を受理された者に対して、入学を許可する。

（教育課程）
**第６４条** 専攻科の授業科目及び単位数は、別表第４のとおりとする。
２　授業科目の単位計算方法は、１単位の履修時間を教室内及び教室外をあわせて４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の各号の基準によるものとする。
(1) 講義及び演習については、１５時間から３０時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって１単位とする。
(2) 実験及び実習については、３０時間から４５時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって１単位とする。

（休学の期間）
**第６５条** 専攻科学生の休学の期間は、通算して２年を超えることができない。
２ 休学の期間は、第６１条に定める修業年限及び在学期間に算入しない。

（修了）
**第６６条** 専攻科に２年以上在学し、所定の授業科目を履修し、６２単位以上を修得した者については、修了を認定する。
２ 校長は、修了を認定した者に対し、所定の修了証書を授与する。

（準用規定）
**第６７条** 専攻科学生については、第１３条から第１７条まで、第２０条、第２１条、第２８条、第３０条第１項及び第２項、第３１条から第３３条、第３５条、第３７条、第４１条から第４９条、第５１条から第５６条、第５７条第１号、第２号、第４号及び第５号までの規定を準用する。この場合において、第２０条中「３０単位」とあるのは「８単位」と、第２１条第２項中「３０単位」とあるのは「８単位」と、第３７条第１項及び第２項中「外国の高等学校又は大学」とあるのは「外国の大学等」と、同条第２項中「３０単位」とあるのは「８単位」と、第５７条第２号中「第３０条」とあるのは「第６５条」とそれぞれ読み替えるものとする。

（その他）
**第６８条** 本章に定めるもののほか、専攻科に関する必要な事項は別に定める。

## 第１２章　学生寮

（学生寮）
**第６９条**　本校に、学生寮を置く。
２　第１学年及び第２学年の学生は、校長が特に認めた者を除き学生寮に入寮しなければならない。
３　学生寮の運営その他必要な事項は、別に定める。

（出典　沖縄工業高等専門学校学則　抜粋）

資料５－５－①－２

別表第4

創造システム工学専攻

| 種別 | コース | 必修・選択の別 | 科目名 | 区分 | 単位数 | 学年別配当単位数 1年 | 学年別配当単位数 2年 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一般科目 | 全コース | 必修 | 実用英語Ⅰ | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 実用英語Ⅱ | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | 選択 | 日本語・日本文化論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 哲学・倫理学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 日琉交流史 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 国際政治経済学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 環境変遷学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | スポーツバイオメカニクス | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 修得単位計 | | 8 | 4 | 4 | |
| | | | 開設単位計 | | 16 | 8 | 8 | |
| 専門共通科目 | 全コース | 必修 | 特別研究 | 実験 | 14 | 6 | 8 | |
| | | | 創造システム工学実験 | 実験 | 4 | 4 | | |
| | | | 専攻科実験 | 実験 | 4 | | 4 | |
| | | 選択 | 物理学特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 数学通論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 応用解析学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 応用物理特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 物理化学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | バイオテクノロジー | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | バイオマス利用工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 品質・安全マネジメント特論 | 講義 | 1 | | 1 | |
| | | | 技術史 | 講義 | 1 | | 1 | |
| | | | 環境システム物理学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 経営工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 長期インターンシップ | 実習 | 4 | 4 | | 2年次選択可 |
| | | | グローバルインターンシップ | 実習 | 2 | | 2 | 1年次選択可 |
| | | | 修得単位計 | | 34 | 16 | 18 | |
| | | | 開設単位計 | | 48 | 22 | 26 | |
| 専門科目 | 機械システム工学コース | 選択 | 材料学特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 溶接・接合工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 連続体力学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 材料強度学特論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 数値シミュレーション　Ⅰ | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 数値シミュレーション　Ⅱ | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 生産工学特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 制御系構成論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 表面工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 輸送現象論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 流体工学概論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 熱機関工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | ロボット工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 技術管理概論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | 電子通信システム工学コース | | シミュレーション工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 数理計画法 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 生体情報工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 数値解析論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 信号処理特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | アルゴリズム理論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | マイクロ波工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | システムLSI設計工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 光電子デバイス | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 半導体物性工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 弾性波工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 電子機器工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | LSIプロセス工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| 専門科目 | 情報工学コース | 選択 | 情報数学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | メディアコンテンツ特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 応用統計学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 組込システム特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | データ工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 情報セキュリティ特論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | ソフトウェア開発特論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 計算機科学特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | ロボティクス | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | ヒューマンインタフェイス | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | パターン認識 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | モバイル通信方式特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | システム制御理論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 光通信システム | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 適応処理特論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | 生物資源工学コース | | 神経細胞生物学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 資源生物機能形態学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 分子生物学II | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 植物工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 無機化学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 代謝生化学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 応用微生物学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 食品衛生工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 酵素化学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 醸造学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 生物資源の機能性科学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 酸化ストレスの生命科学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | タンパク質資源利用学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 食品化学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 食品機能学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 他コースの選択科目 | | | | | 6単位まで認める |
| | | | 修得単位計 | | 20 | 10 | 10 | |
| | | | 開設単位計 | | 114 | 64 | 50 | |
| | | | 修得単位計 | | 62 | 30 | 32 | |
| | | | 開設単位計 | | 178 | 94 | 84 | |

（出典　沖縄工業高等専門学校学則　抜粋）

資料５－５－①－３

④　コミュニケーション能力と統率力を兼ね備えた指導的技術者
⑤　新技術・新産業創出を担う高度な専門技術力を持つ研究開発型技術者
⑥　地域産業を担う起業家精神旺盛な技術者

・教育目標：
①　知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する。
②　創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する。
③　専門知識を基にした応用力をもち、自ら成長できる人材を育成する。
④　地球的視野と倫理観を備え社会に貢献できる人材を育成する。

・教育方針：　本科５年間の専門基礎教育の上に、更に２年間のより高度な専門教育を行います。専門教育では実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけたリーダーシップのある技術者、豊かな人間性と国際性をもつ技術者、課題設定・解決能力をもち柔軟な思考ができる技術者の育成を目指します。機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースと関連の深い本科の教育課程を基礎として、それぞれの専門性を更に高めながら、異なる専門分野にも対応し、実践的な研究の課題設定・解決を目指す教育課程を編成します。経済産業界における実践的な技術応用を学ぶために、企業等と連携した共同教育を推進します。

＜機械システム工学コース＞
本コースでは、マイクロマシンのような微細システムから、航空宇宙産業といった巨大システムまで、あらゆるモノづくりの基本となる機械工学の分野において、創造・開発・設計・生産に必要な知識・技術をシステムとして統合した教育・研究を行い、環境と共生できる「モノ作り」を支える研究・開発型の技術者を育成する。

＜電子通信システム工学コース＞
本コースでは､情報通信分野の要素技術である､デバイス､集積回路､光･無線通信､マイクロ波､信号処理､アルゴリズム､シミュレーションといった知識を修得し､先端的な情報通信技術分野で活躍できる研究･開発型の創造的実践的技術者を育成します｡本コースの特長は､電子工学･情報工学･通信工学の3分野を総合的に学ぶことができる融合･複合型の教育課程を編成することであり､関連分野における多角的な知識や実践力を身につけることを目標とします。

＜情報工学コース＞
本コースでは、コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア)、ネットワーク（有線ネットワーク、モバイル通信ネットワーク、光ファイバー通信ネットワーク)、メディアコンテンツ（画像、映像、音声）などの先端的なメディア・情報・通信技術分野での研究開発において活躍できる豊かな創造性と実践能力を有する技術者を育成する。不足する優秀な IT 技術者を排出するため情報工学分野のより高度な技能を深める教育を行う。

＜生物資源工学コース＞
近年、環境問題、新型インフルエンザ等の医療問題など生命科学の分野に関わる重要な問題が多出し、この分野に属する技術者の活躍が期待されています。

本コースでは、本科（生物資源工学科）で履修した「生物化学工学群」、「環境・微生物学群」、「食品化学工学群」の３つの柱を基盤に、より高度で創造的な技術力と問題解決能力を持った技術者を育成します。
また、沖縄の地域性を活かし、併せて、国際的にも調和していける実践力を身につけることを目標とします。

上記の教育目標、教育方針に基づいた教育課程の編成方針は次の通りです。

① 一般科目においては、豊かな人間性と国際性を涵養するための科目を設ける。
② 専門共通科目においては、専攻科の高度な専門科目と効果的に連携する数学、物理、化学等の専門基礎科目を置き、産業・環境・技術などの複合分野で視野を広げるための科目を設ける。学生が共通に取り組む融合・複合的な内容で実践的・体験的に学ぶ科目を設ける。また、学外における企業実習の科目を設け、課題解決型の長期間実習や国際性を身につける実習が行えるようにする。
③ 本科５年間の専門基礎科目を発展・深化させた専門科目を設け、いくつかの専門基礎科目をもとに学際的・複合的な専門科目を設けて、幅広い分野に対応できる技術教育を行う。
④ 本専攻科は、機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースの４コースで構成し、それぞれの専門分野で、本科の基礎技術教育の上に、更に２年間のより高度な専門技術教育を行う。
⑤ 講義を主としながらも実験・実習・実技・演習などを効果的に取り入れた実践・体験的な科目を設け、研究・開発分野で活躍できる課題設定・解決能力をもつ技術者を育成するために特別研究に多くの時間を配分する。他の異なるコースの専門科目についても履修できるようにする。

４．履修について

（１）単位と時間数

各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を３０時間の学習とする内容をもって構成することを基準としています。

（２）履修方法

授業科目の履修に当たっては、前学期開設科目に関しては前学期授業開始日から２週間以内、後学期開設科目に関しては８月の所定の期間に、別に定める「受講科目履修届」を学生課教務係まで提出してください。

（３）試験

試験は、定期試験（前学期期末試験と後学期期末試験）、追試験及び再試験があります。

（４）成績評価と単位認定

成績は授業科目ごとに、定期試験、追試験、再試験の成績及び平素の学習状況等を総合して評価します。

（５）再履修

必ず履修しなければならない科目が６０点未満（F）の評価だった場合、次年度に履修し直さなければなりません。

（６）インターンシップ

長期インターンシップ：期間（4 週間）、内容（課題解決型、特別研究との関連等）、受け入れ先企業、などを確定してから、履修届けを出し、単位認定されるかどうかについてインターンシップ担当教員の判断を仰いでください。

グローバルインターンシップ：国、受け入れ機関、実習プログラム、などを確定してから履修届けを出し、単位認定されるかどうかについてインターンシップ担当教員の判断を仰いでください。

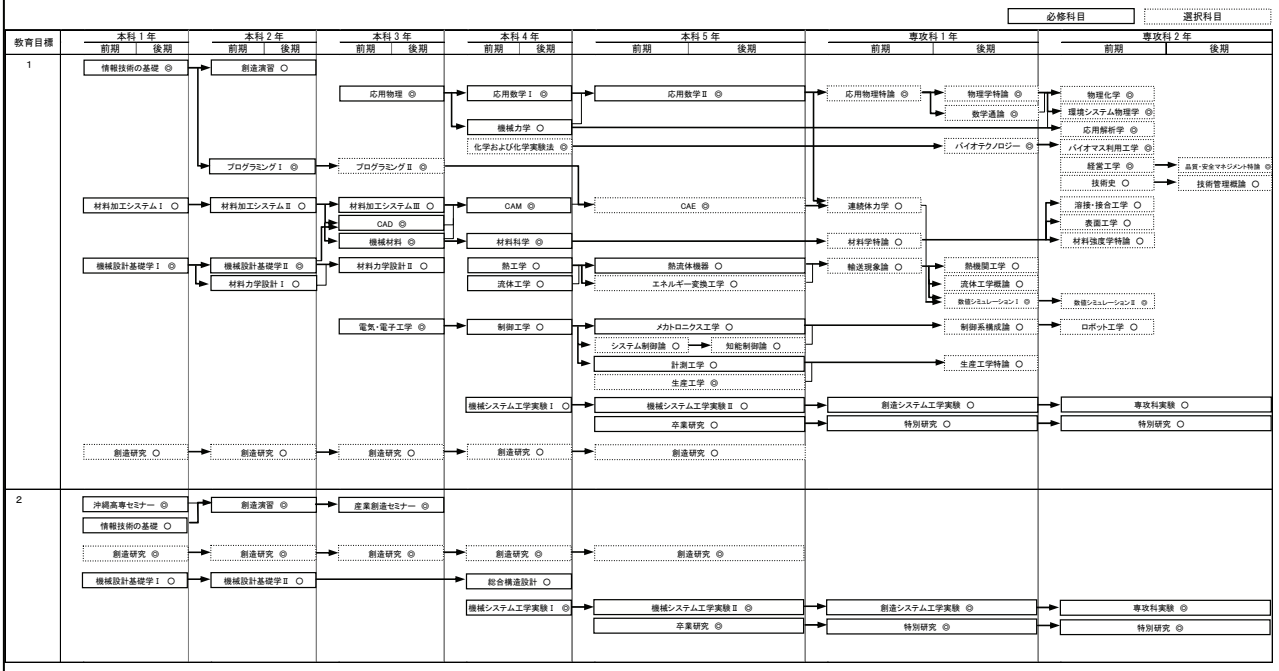
（出典　学生生活の手引き　P.60-61）

資料５－５－①－４

教育目標と専門科目の関連図【機械システム工学科、機械システム工学コース】

| 本科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する |
| 2 | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 4 | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

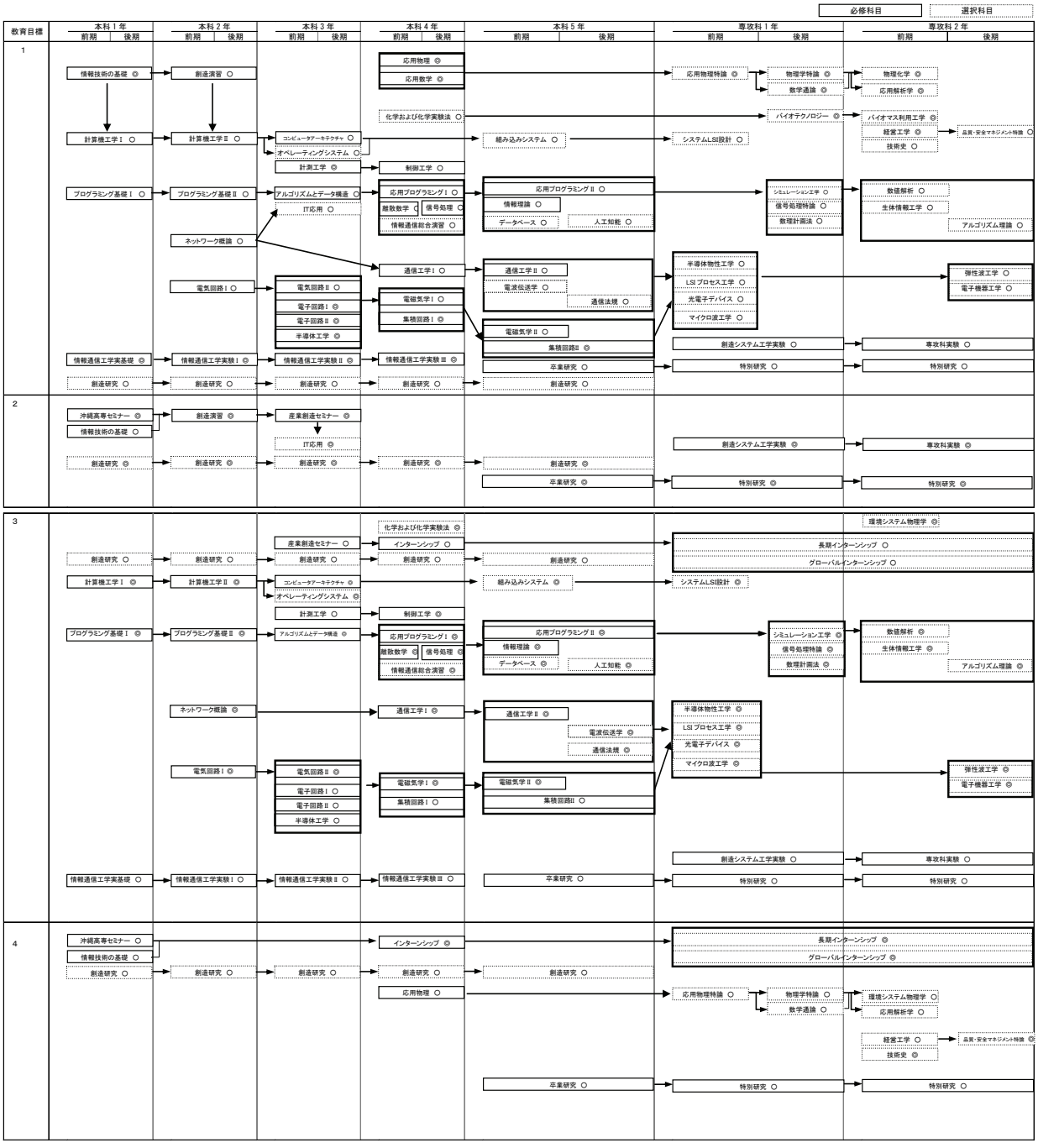
| 専攻科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する |
| 2 | 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する |
| 4 | 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する |



教育目標と専門科目の関連図【情報通信システム工学科、電子通信システム工学コース】

| 本科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する |
| 2 | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 4 | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

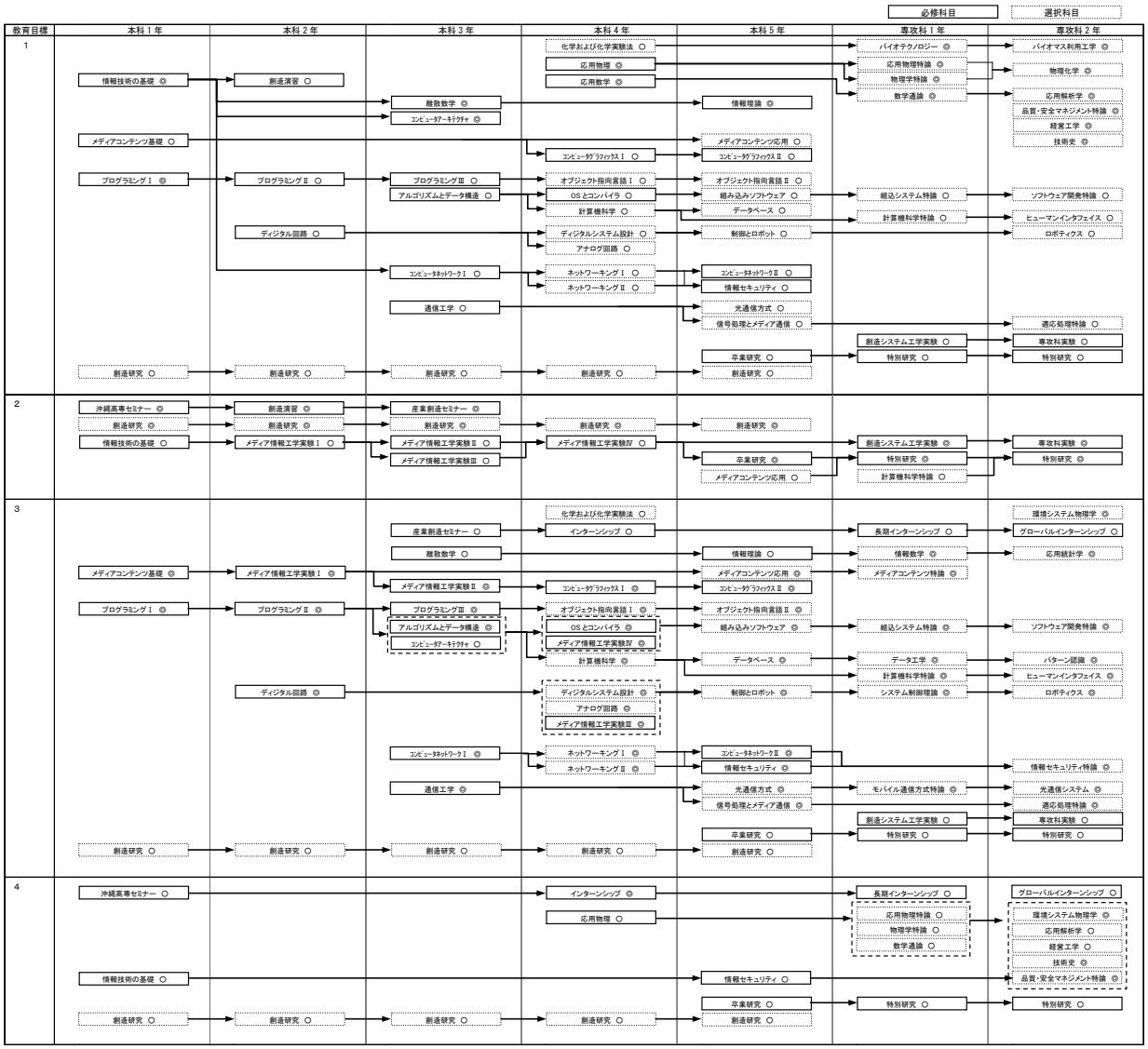
| 専攻科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する |
| 2 | 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する |
| 4 | 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する |



教育目標と専門科目の関連図【メディア情報工学科、情報工学コース】

| 本科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する |
| 2 | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 4 | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

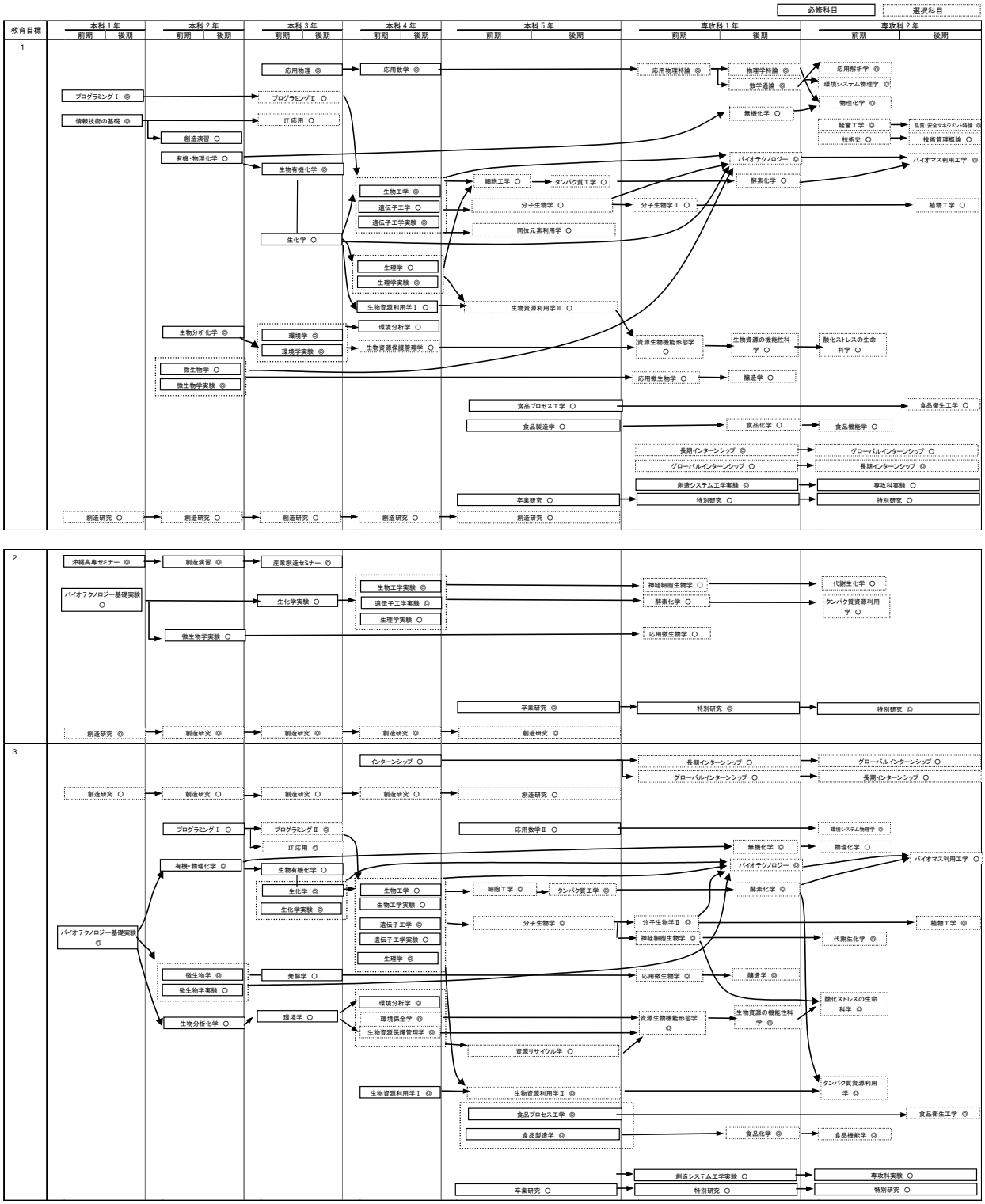
| 専攻科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する |
| 2 | 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する |
| 4 | 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する |

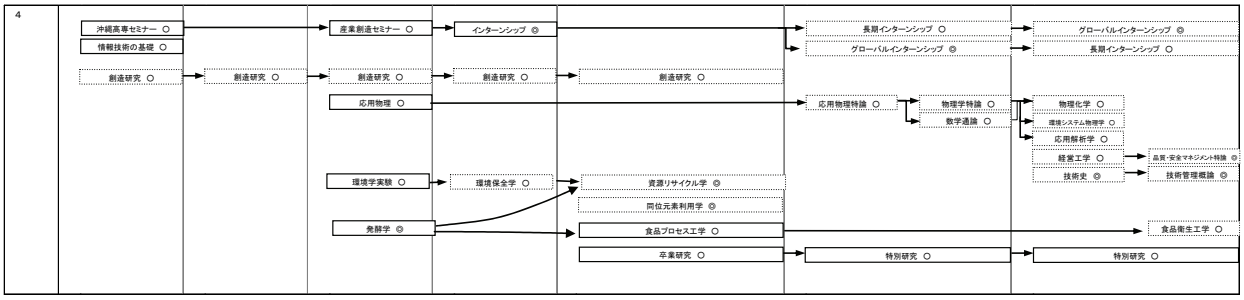


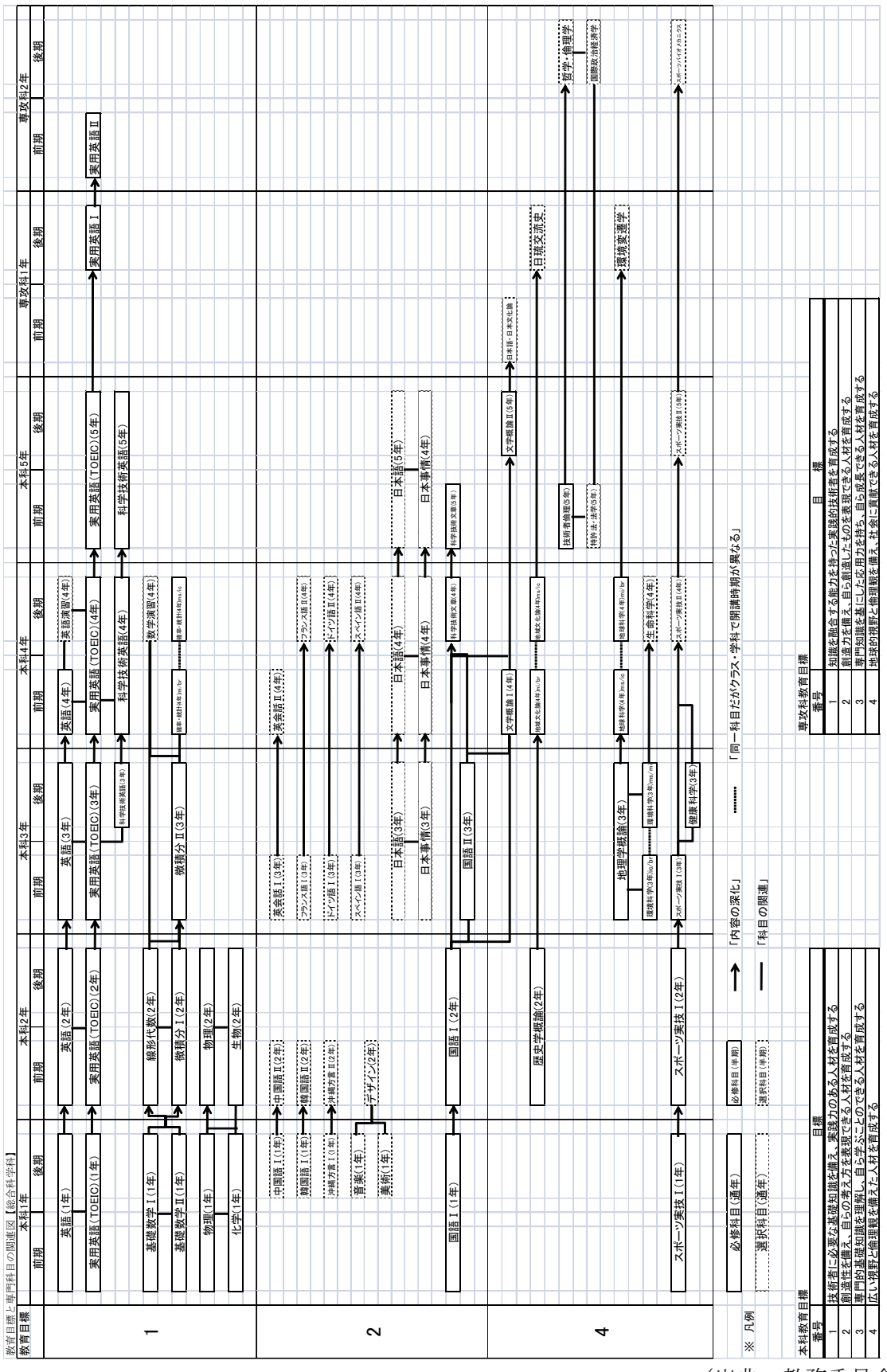
教育目標と専門科目の関連図【生物資源工学科、生物資源工学コース】

| 本科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する |
| 2 | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 4 | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

| 専攻科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する |
| 2 | 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する |
| 4 | 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する |




4
沖縄高専セミナー ○
情報技術の基礎 ○
創造研究 ○
創造研究 ○
産業創造セミナー ○
創造研究 ○
応用物理 ○
インターンシップ ◎
創造研究 ○
環境学実験 ○
環境保全学 ○
発酵学 ◎
創造研究 ○
資源リサイクル学 ◎
同位元素利用学 ◎
食品プロセス工学 ○
卒業研究 ○
長期インターンシップ ○
グローバルインターンシップ ◎
応用物理特論 ○
特別研究 ○
グローバルインターンシップ ◎
長期インターンシップ ○
物理学特論 ○
数学通論 ○
物理化学 ○
環境システム物理学 ○
応用解析学 ○
経営工学 ○
技術史 ◎
品質・安全マネジメント特論 ◎
技術管理概論 ◎
食品衛生工学 ○
特別研究 ○


教育目標と専門科目の関連図【総合科学科】
教育目標
本科1年
本科2年
本科3年
本科4年
本科5年
専攻科1年
専攻科2年
前期
後期
1
2
4
英語（1年）
実用英語（TOEIC)(1年)
基礎数学Ⅰ(1年)
基礎数学Ⅱ(1年)
物理(1年)
化学(1年)
英語（2年）
実用英語（TOEIC)(2年)
線形代数(2年)
微積分Ⅰ(2年)
物理(2年)
生物(2年)
中国語Ⅰ(1年)
韓国語Ⅰ(1年)
沖縄方言Ⅰ(1年)
音楽(1年)
美術(1年)
中国語Ⅱ(2年)
韓国語Ⅱ(2年)
沖縄方言Ⅱ(2年)
デザイン(2年)
国語Ⅰ(2年)
スポーツ実技Ⅰ(2年)
歴史学概論(2年)
英語（3年）
実用英語（TOEIC)(3年)
科学技術英語(3年)
微積分Ⅱ(3年)
英会話Ⅰ(3年)
フランス語Ⅰ(3年)
ドイツ語Ⅰ(3年)
スペイン語Ⅰ(3年)
日本語(3年)
日本事情(3年)
国語Ⅱ(3年)
地理学概論(3年)
環境科学(3年)
健康科学(3年)
スポーツ実技Ⅰ(3年)
英語（4年）
実用英語（TOEIC)(4年)
科学技術英語(4年)
英語演習(4年)
数学演習(4年)
環境・経済(4年)
英会話Ⅱ(4年)
フランス語Ⅱ(4年)
ドイツ語Ⅱ(4年)
スペイン語Ⅱ(4年)
日本語(4年)
日本事情(4年)
科学技術文章(4年)
文学概論Ⅰ(4年)
地域文化論(4年)
地球科学(4年)
生命科学(4年)
スポーツ実技Ⅱ(4年)
日本語(5年)
日本事情(5年)
科学技術文章(5年)
文学概論Ⅱ(5年)
地域文化論(5年)
技術者倫理(5年)
特許法・法律(5年)
地球科学(5年)
スポーツ実技Ⅱ(5年)
実用英語Ⅰ
実用英語Ⅱ
日本語・日本文化論
日琉交流史
環境変遷学
哲学・倫理学
国際政治経済学
スポーツバイオメカニクス
必修科目（通年）
選択科目（通年）
必修科目（半期）
選択科目（半期）
「内容の深化」
「科目の関連」
「同一科目だがクラス・学科で開講時期が異なる」
※ 凡例
本科教育目標
番号
目標
1
技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する
2
創造性を備え、自らの考えを表現できる人材を育成する
3
専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する
4
広い視野と倫理観を備えた人材を育成する
専攻科教育目標
番号
目標
1
知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する
2
創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する
3
専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する
4
地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する

（出典　教務委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科課程は準学士課程の専門学科を母体とした４コースから構成され，準学士課程を含めて系統的に授業科目が配置されている。

**観点５－５－②：　教育の目的に照らして，授業科目が適切に配置（例えば，必修科目，選択科目等の配当等が考えられる。）され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものになっているか。**

（観点に係る状況）

専攻科教育課程は一般科目と専門共通科目，専門科目に分類される。専攻科教育目標と教育方針（資料５－５－②－１）に基づき，一般科目は豊かな人間性と国際性を涵養するための科目が，専門共通科目は専門科目と効果的に連携する自然科学分野と複合分野で視野を広げるための科目が，専門科目では専門性を深める科目が配置されている（資料５－５－②－２）。さらに，一般科目と専門科目は本科から続くカリキュラムとして体系的に編成され（資料５－５－②－３），バランスよく修得するために必修科目を設け，専門科目で多くの選択科目を設けている（資料５－５－②－４）。

教育目標を達成するための，授業科目個々の「目標」をシラバスに明記し，専攻科教育目標との対応関係を示している（資料５－５－②－５）。

専攻科担当教員の資格に関しては，平成21年４月の専攻科設置にあたり平成20年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構の教員資格審査を受審しており，各教員の講義内容等を含め適切であると判断されている（現地閲覧資料参照）。

資料５－５－②－１

④　コミュニケーション能力と統率力を兼ね備えた指導的技術者
⑤　新技術・新産業創出を担う高度な専門技術力を持つ研究開発型技術者
⑥　地域産業を担う起業家精神旺盛な技術者

・教育目標：
①　知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する。
②　創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する。
③　専門知識を基にした応用力をもち、自ら成長できる人材を育成する。
④　地球的視野と倫理観を備え社会に貢献できる人材を育成する。

・教育方針：　本科５年間の専門基礎教育の上に、更に２年間のより高度な専門教育を行います。専門教育では実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけたリーダーシップのある技術者、豊かな人間性と国際性をもつ技術者、課題設定・解決能力をもち柔軟な思考ができる技術者の育成を目指します。機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースと関連の深い本科の教育課程を基礎として、それぞれの専門性を更に高めながら、異なる専門分野にも対応し、実践的な研究の課題設定・解決を目指す教育課程を編成します。経済産業界における実践的な技術応用を学ぶために、企業等と連携した共同教育を推進します。

＜機械システム工学コース＞
本コースでは、マイクロマシンのような微細システムから、航空宇宙産業といった巨大システムまで、あらゆるモノづくりの基本となる機械工学の分野において、創造・開発・設計・生産に必要な知識・技術をシステムとして統合した教育・研究を行い、環境と共生できる「モノ作り」を支える研究・開発型の技術者を育成する。

＜電子通信システム工学コース＞
本コースでは､情報通信分野の要素技術である､デバイス､集積回路､光･無線通信､マイクロ波､信号処理､アルゴリズム､シミュレーションといった知識を修得し､先端的な情報通信技術分野で活躍できる研究･開発型の創造的実践的技術者を育成します｡本コースの特長は､電子工学･情報工学･通信工学の3分野を総合的に学ぶことができる融合･複合型の教育課程を編成することであり､関連分野における多角的な知識や実践力を身につけることを目標とします。

＜情報工学コース＞
本コースでは、コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア)、ネットワーク（有線ネットワーク、モバイル通信ネットワーク、光ファイバー通信ネットワーク)、メディアコンテンツ（画像、映像、音声）などの先端的なメディア・情報・通信技術分野での研究開発において活躍できる豊かな創造性と実践能力を有する技術者を育成する。不足する優秀な IT 技術者を排出するため情報工学分野のより高度な技能を深める教育を行う。

＜生物資源工学コース＞
近年、環境問題、新型インフルエンザ等の医療問題など生命科学の分野に関わる重要な問題が多出し、この分野に属する技術者の活躍が期待されています。

本コースでは、本科（生物資源工学科）で履修した「生物化学工学群」、「環境・微生物学群」、「食品化学工学群」の３つの柱を基盤に、より高度で創造的な技術力と問題解決能力を持った技術者を育成します。
また、沖縄の地域性を活かし、併せて、国際的にも調和していける実践力を身につけることを目標とします。

上記の教育目標、教育方針に基づいた教育課程の編成方針は次の通りです。

① 一般科目においては、豊かな人間性と国際性を涵養するための科目を設ける。
② 専門共通科目においては、専攻科の高度な専門科目と効果的に連携する数学、物理、化学等の専門基礎科目を置き、産業・環境・技術などの複合分野で視野を広げるための科目を設ける。学生が共通に取り組む融合・複合的な内容で実践的・体験的に学ぶ科目を設ける。また、学外における企業実習の科目を設け、課題解決型の長期間実習や国際性を身につける実習が行えるようにする。
③ 本科５年間の専門基礎科目を発展・深化させた専門科目を設け、いくつかの専門基礎科目をもとに学際的・複合的な専門科目を設けて、幅広い分野に対応できる技術教育を行う。
④ 本専攻科は、機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースの４コースで構成し、それぞれの専門分野で、本科の基礎技術教育の上に、更に２年間のより高度な専門技術教育を行う。
⑤ 講義を主としながらも実験・実習・実技・演習などを効果的に取り入れた実践・体験的な科目を設け、研究・開発分野で活躍できる課題設定・解決能力をもつ技術者を育成するために特別研究に多くの時間を配分する。他の異なるコースの専門科目についても履修できるようにする。

４．履修について

（１）単位と時間数

各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を３０時間の学習とする内容をもって構成することを基準としています。

（２）履修方法

授業科目の履修に当たっては、前学期開設科目に関しては前学期授業開始日から２週間以内、後学期開設科目に関しては８月の所定の期間に、別に定める「受講科目履修届」を学生課教務係まで提出してください。

（３）試験

試験は、定期試験（前学期期末試験と後学期期末試験）、追試験及び再試験があります。

（４）成績評価と単位認定

成績は授業科目ごとに、定期試験、追試験、再試験の成績及び平素の学習状況等を総合して評価します。

（５）再履修

必ず履修しなければならない科目が６０点未満（F）の評価だった場合、次年度に履修し直さなければなりません。

（６）インターンシップ

長期インターンシップ：期間（4 週間）、内容（課題解決型、特別研究との関連等）、受け入れ先企業、などを確定してから、履修届けを出し、単位認定されるかどうかについてインターンシップ担当教員の判断を仰いでください。

グローバルインターンシップ：国、受け入れ機関、実習プログラム、などを確定してから履修届けを出し、単位認定されるかどうかについてインターンシップ担当教員の判断を仰いでください。

（出典　学生生活の手引き　P.60-61）

資料５－５－②－２

専攻科教育目標と科目との対応表

専攻科教育目標

| 番号 | 目　標 |
|---|---|
| 1 | 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する |
| 2 | 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する |
| 4 | 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する |

平成21，22年度入学者用

| 種別 | コース | 必修・選択の別 | 科　目　名 | 教育目標　番号 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 一般科目 | 全コース | 必修 | 実用英語Ⅰ | ◎ | | | |
| | | | 実用英語Ⅱ | ◎ | | | |
| | | 選択 | 日本語・日本文化論 | | | | ◎ |
| | | | 哲学・倫理学 | | | | ◎ |
| | | | 日琉交流史 | | | | ◎ |
| | | | 国際政治経済学 | | | | ◎ |
| | | | 環境変遷学 | | | ○ | ◎ |
| | | | スポーツバイオメカニクス | | | | ◎ |
| 専門共通科目 | 全コース | 必修 | 特別研究（機械システム工学コース） | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| | | | 特別研究（電子通信システム工学コース） | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| | | | 特別研究（情報工学コース） | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| | | | 特別研究（生物資源工学コース） | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| | | | 創造システム工学実験 | ○ | ◎ | ○ | |
| | | | 専攻科実験（機械システム工学コース） | ○ | ◎ | ○ | |
| | | | 専攻科実験（電子通信システム工学コース） | ○ | ◎ | ○ | |
| | | | 専攻科実験（情報工学コース） | ○ | ◎ | ○ | |
| | | | 専攻科実験（生物資源工学コース） | ○ | ◎ | ○ | |
| | | 選択 | 物理学特論 | ◎ | | | ○ |
| | | | 数学通論 | ◎ | | | ○ |
| | | | 応用解析学 | ◎ | | | ○ |
| | | | 応用物理特論 | ◎ | | | ○ |
| | | | 物理化学 | ◎ | | | |
| | | | バイオテクノロジー | ◎ | | | |
| | | | バイオマス利用工学 | ◎ | | | |
| | | | 品質・安全マネジメント特論 | ○ | | | ◎ |
| | | | 技術史 | ○ | | | ◎ |
| | | | 環境システム物理学 | | | ◎ | ○ |
| | | | 経営工学 | ◎ | | | ○ |
| | | | 長期インターンシップ | | | ○ | ◎ |
| | | | グローバルインターンシップ | | | ○ | ◎ |
| 専門科目 | 機械システム工学コース | 選択 | 材料学特論 | ○ | | ◎ | |
| | | | 溶接・接合工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 連続体力学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 材料強度学特論 | ○ | | ◎ | |
| | | | 数値シミュレーション　Ⅰ | ◎ | | ○ | |
| | | | 数値シミュレーション　Ⅱ | ◎ | | ○ | |
| | | | 生産工学特論 | ○ | | ◎ | |
| | | | 制御系構成論 | ○ | | ◎ | |
| | | | 表面工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 輸送現象論 | ○ | | ◎ | |
| | | | 流体工学概論 | ○ | | ◎ | |
| | | | 熱機関工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | ロボット工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 技術管理概論 | ○ | | | ◎ |
| | 電子通信システム工学コース | | シミュレーション工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 数理計画法 | ○ | | ◎ | |
| | | | 生体情報工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 数値解析論 | ○ | | ◎ | |
| | | | 信号処理特論 | ○ | | ◎ | |
| | | | アルゴリズム理論 | ○ | | ◎ | |
| | | | マイクロ波工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | システムLSI設計工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 光電子デバイス | ○ | | ◎ | |
| | | | 半導体物性工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 弾性波工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 電子機器工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | LSIプロセス工学 | ○ | | ◎ | |
| 専門科目 | 情報工学コース | 選択 | 情報数学 | | | ◎ | |
| | | | メディアコンテンツ特論 | | | ◎ | |
| | | | 応用統計学 | | | ◎ | |
| | | | 組込システム特論 | ○ | | ◎ | |
| | | | データ工学 | | | ◎ | |
| | | | 情報セキュリティ特論 | ○ | | ◎ | |
| | | | ソフトウェア開発特論 | ○ | | ◎ | |
| | | | 計算機科学特論 | ○ | ○ | ◎ | |
| | | | ロボティクス | ○ | | ◎ | |
| | | | ヒューマンインタフェイス | | | ◎ | |
| | | | パターン認識 | | | ◎ | |
| | | | モバイル通信方式特論 | | | ◎ | |
| | | | システム制御理論 | | | ◎ | |
| | | | 光通信システム | | | ◎ | |
| | | | 適応処理特論 | ○ | | ◎ | |
| | 生物資源工学コース | | 神経細胞生物学 | | ○ | ◎ | |
| | | | 資源生物機能形態学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 分子生物学II | ○ | | ◎ | |
| | | | 植物工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 無機化学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 代謝生化学 | | ○ | ◎ | |
| | | | 応用微生物学 | ○ | ○ | ◎ | |
| | | | 食品衛生工学 | ○ | | ◎ | ○ |
| | | | 酵素化学 | | ○ | ◎ | |
| | | | 醸造学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 生物資源の機能性科学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 酸化ストレスの生命科学 | ○ | | ◎ | |
| | | | タンパク質資源利用学 | | ○ | ◎ | |
| | | | 食品化学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 食品機能学 | ○ | | ◎ | |

（出典　教務委員会資料）

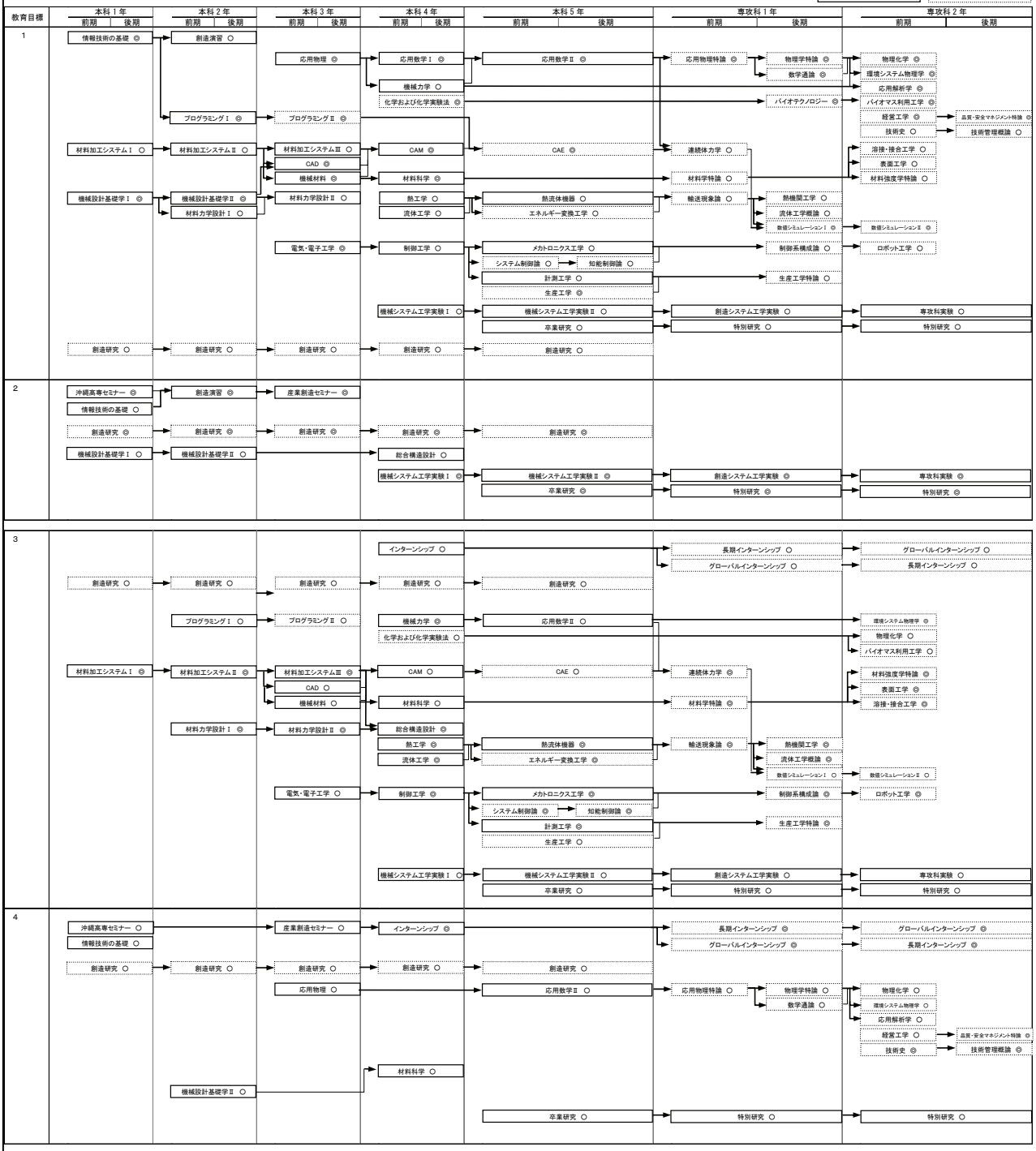
資料５－５－②－３

教育目標と専門科目の関連図【機械システム工学科、機械システム工学コース】

| 本科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する |
| 2 | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 4 | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

| 専攻科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する |
| 2 | 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する |
| 4 | 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する |

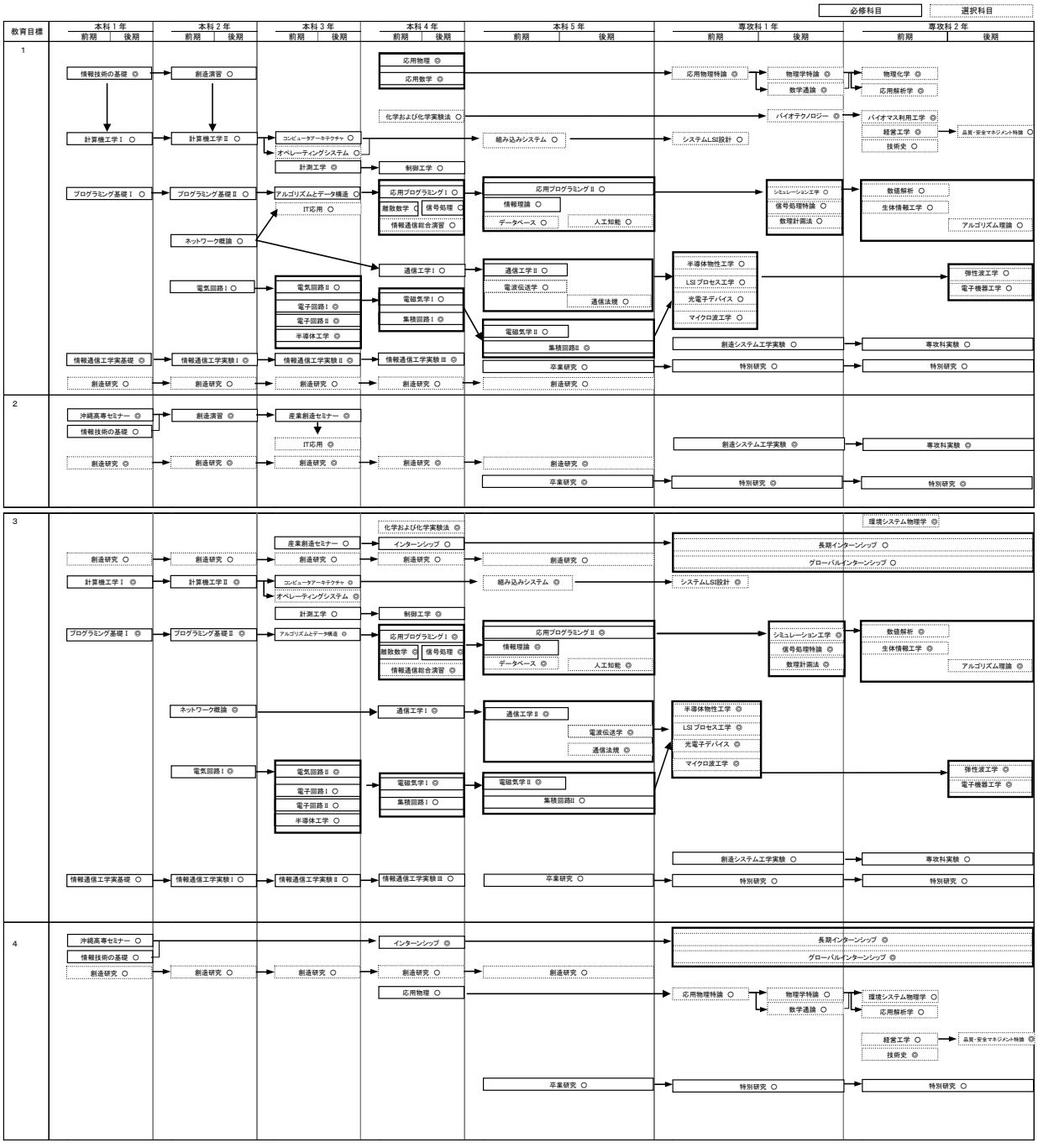
必修科目　選択科目



教育目標と専門科目の関連図【情報通信システム工学科、電子通信システム工学コース】

| 本科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する |
| 2 | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 4 | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

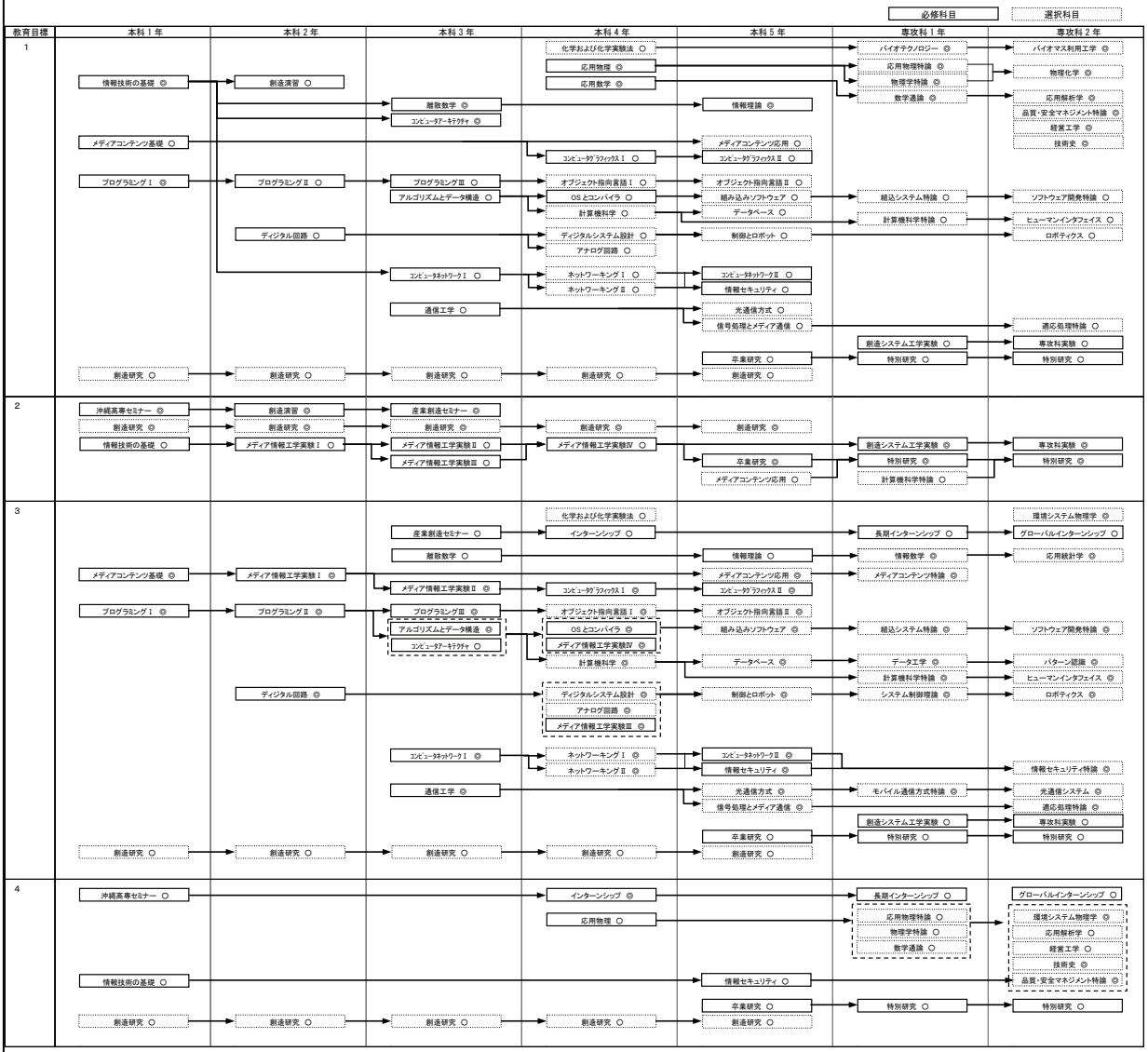
| 専攻科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する |
| 2 | 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する |
| 4 | 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する |



教育目標と専門科目の関連図【メディア情報工学科、情報工学コース】

| 本科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する |
| 2 | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 4 | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

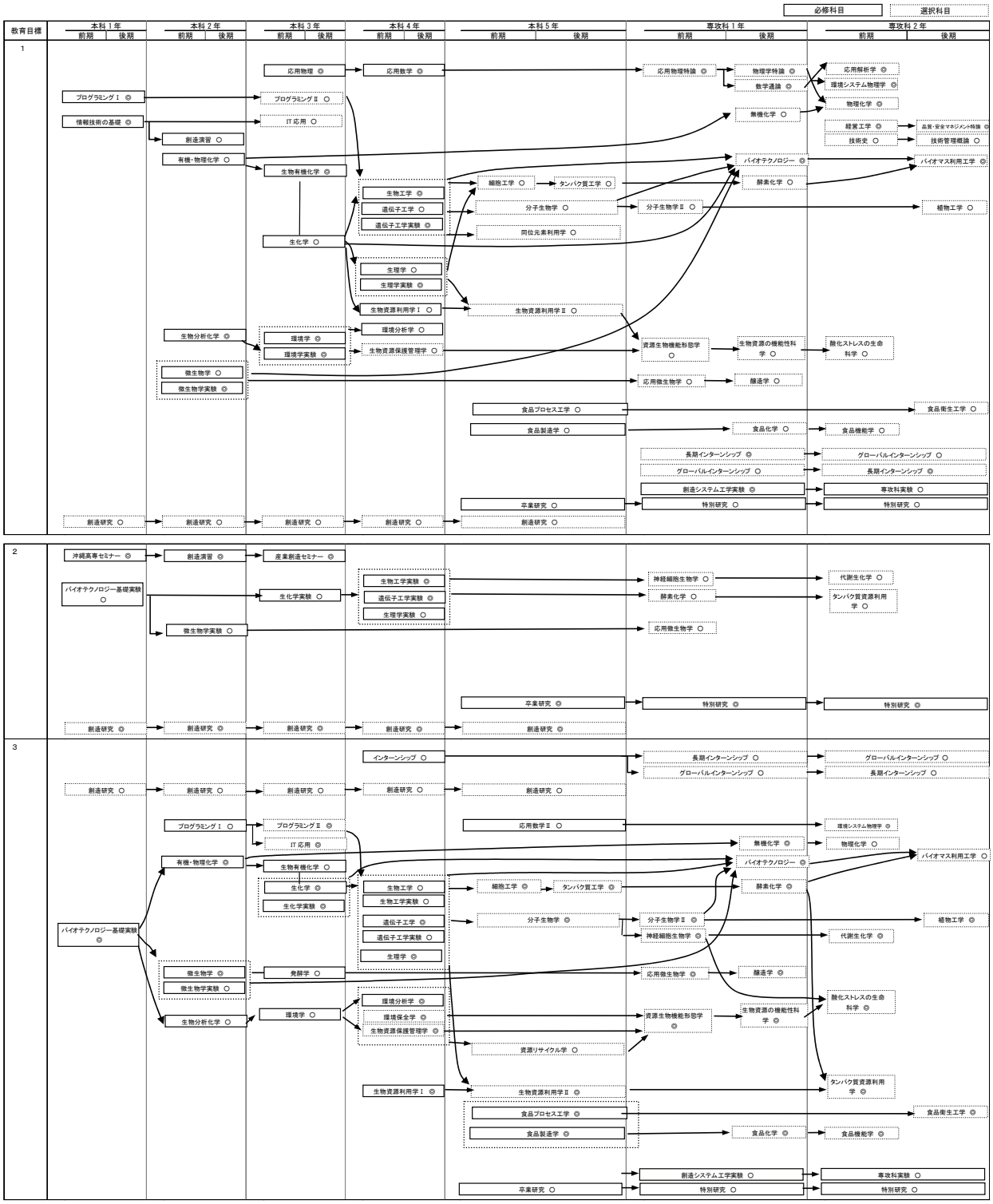
| 専攻科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する |
| 2 | 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する |
| 4 | 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する |

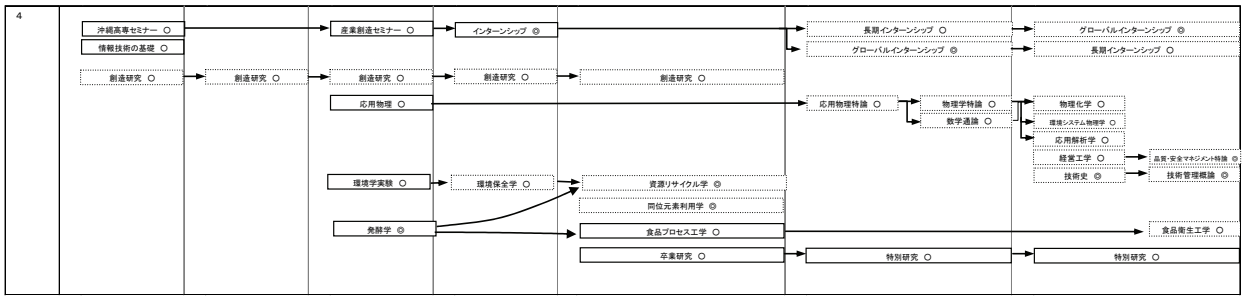


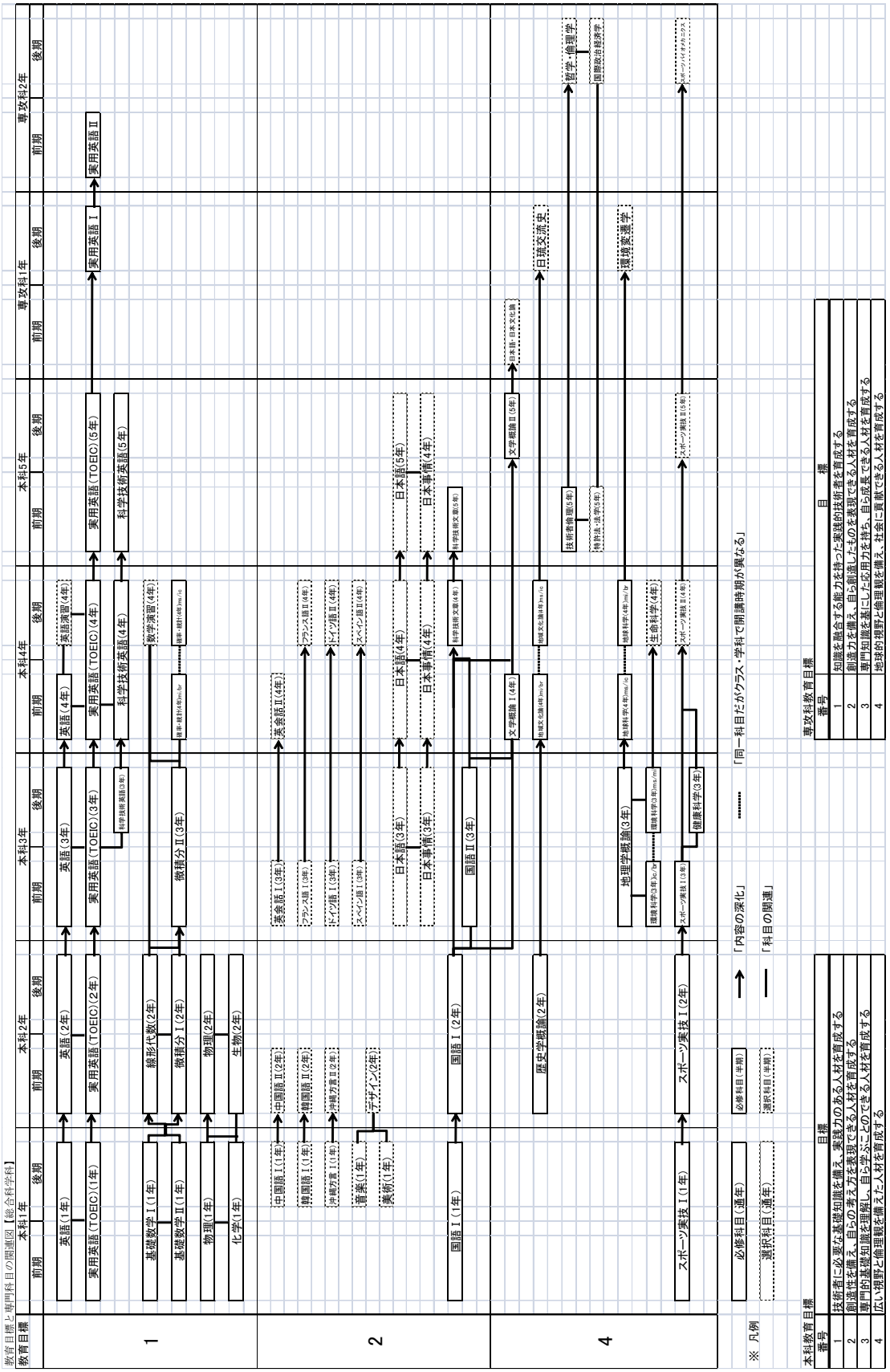
教育目標と専門科目の関連図【生物資源工学科、生物資源工学コース】

| 本科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する |
| 2 | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する |
| 4 | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する |

| 専攻科教育目標 | |
|---|---|
| 番号 | 目標 |
| 1 | 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する |
| 2 | 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する |
| 4 | 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する |




4
沖縄高専セミナー ○
情報技術の基礎 ○
創造研究 ○
創造研究 ○
産業創造セミナー ○
創造研究 ○
応用物理 ○
環境学実験 ○
発酵学 ◎
インターンシップ ◎
創造研究 ○
環境保全学 ○
創造研究 ○
資源リサイクル学 ◎
同位元素利用学 ◎
食品プロセス工学 ○
卒業研究 ○
長期インターンシップ ○
グローバルインターンシップ ◎
応用物理特論 ○
特別研究 ○
グローバルインターンシップ ◎
長期インターンシップ ○
物理学特論 ○
数学通論 ○
物理化学 ○
環境システム物理学 ○
応用解析学 ○
経営工学 ○
技術史 ◎
品質・安全マネジメント特論 ◎
技術管理概論 ◎
食品衛生工学 ○
特別研究 ○


教育目標と専門科目の関連図【総合科学科】
教育目標
本科1年
本科2年
本科3年
本科4年
本科5年
専攻科1年
専攻科2年
前期
後期
1
2
4
英語(1年)
実用英語(TOEIC)(1年)
基礎数学Ⅰ(1年)
基礎数学Ⅱ(1年)
物理(1年)
化学(1年)
国語Ⅰ(1年)
スポーツ実技Ⅰ(1年)
中国語Ⅰ(1年)
韓国語Ⅰ(1年)
沖縄方言Ⅰ(1年)
音楽(1年)
美術(1年)
英語(2年)
実用英語(TOEIC)(2年)
線形代数(2年)
微積分Ⅰ(2年)
物理(2年)
生物(2年)
ラテン語(2年)
国語Ⅰ(2年)
スポーツ実技Ⅰ(2年)
歴史学概論(2年)
英語(3年)
実用英語(TOEIC)(3年)
科学技術英語(3年)
微積分Ⅱ(3年)
中国語Ⅱ(2年)
韓国語Ⅱ(2年)
沖縄方言Ⅱ(2年)
英会話Ⅰ(3年)
フランス語Ⅰ(3年)
ドイツ語Ⅰ(3年)
スペイン語Ⅰ(3年)
日本語(3年)
日本事情(3年)
国語Ⅱ(3年)
地理学概論(3年)
環境科学Ⅰ(2年)
環境科学Ⅱ(3年)
健康科学(3年)
英語(4年)
実用英語(TOEIC)(4年)
科学技術英語(4年)
英語演習(4年)
数学演習(4年)
理科一般Ⅰ(4年)
英会話Ⅱ(4年)
フランス語Ⅱ(4年)
ドイツ語Ⅱ(4年)
スペイン語Ⅱ(4年)
日本語(4年)
日本事情(4年)
科学技術英語(4年)
文学概論Ⅰ(4年)
地域文化論Ⅰ(4年)
地球科学Ⅰ(4年)
生命科学Ⅰ(4年)
スポーツ実技Ⅱ(4年)
実用英語(TOEIC)(5年)
科学技術英語(5年)
日本語(5年)
日本事情(4年)
科学技術英文章(5年)
文学概論Ⅱ(5年)
地域文化論Ⅱ(5年)
地球科学Ⅱ(5年)
生命科学Ⅱ(5年)
スポーツ実技Ⅱ(5年)
実用英語Ⅰ
実用英語Ⅱ
科学技術英語(5年)
技術者倫理(5年)
特別活動(5年)
日本語・日本文化論
日琉交流史
環境変遷学
哲学・倫理学
国際政治経済学
スポーツバイオメカニクス
必修科目(通年)
選択科目(通年)
必修科目(半期)
選択科目(半期)
「内容の深化」
「科目の関連」
「同一科目だがクラス・学科で開講時期が異なる」
※ 凡例
本科教育目標
番号
目標
1 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する
2 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する
3 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する
4 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する
専攻科教育目標
番号
目標
1 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する
2 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する
3 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する
4 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する

（出典　教務委員会資料）

資料５－５－②－４

別表第4

## 創造システム工学専攻

| 種別 | コース | 必修・選択の別 | 科目名 | 区分 | 単位数 | 学年別配当単位数 1年 | 学年別配当単位数 2年 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一般科目 | 全コース | 必修 | 実用英語Ⅰ | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 実用英語Ⅱ | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | 選択 | 日本語・日本文化論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 哲学・倫理学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 日琉交流史 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 国際政治経済学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 環境変遷学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | スポーツバイオメカニクス | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | 修得単位計 | | | 8 | 4 | 4 | |
| | | 開設単位計 | | | 16 | 8 | 8 | |
| 専門共通科目 | 全コース | 必修 | 特別研究 | 実験 | 14 | 6 | 8 | |
| | | | 創造システム工学実験 | 実験 | 4 | 4 | | |
| | | | 専攻科実験 | 実験 | 4 | | 4 | |
| | | 選択 | 物理学特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 数学通論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 応用解析学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 応用物理特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 物理化学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | バイオテクノロジー | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | バイオマス利用工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 品質・安全マネジメント特論 | 講義 | 1 | | 1 | |
| | | | 技術史 | 講義 | 1 | | 1 | |
| | | | 環境システム物理学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 経営工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 長期インターンシップ | 実習 | 4 | 4 | | 2年次選択可 |
| | | | グローバルインターンシップ | 実習 | 2 | | 2 | 1年次選択可 |
| | | 修得単位計 | | | 34 | 16 | 18 | |
| | | 開設単位計 | | | 48 | 22 | 26 | |
| 専門科目 | 機械システム工学コース | 選択 | 材料学特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 溶接・接合工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 連続体力学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 材料強度学特論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 数値シミュレーション　Ⅰ | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 数値シミュレーション　Ⅱ | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 生産工学特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 制御系構成論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 表面工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 輸送現象論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 流体工学概論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 熱機関工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | ロボット工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 技術管理概論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | 電子通信システム工学コース | | シミュレーション工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 数理計画法 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 生体情報工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 数値解析論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 信号処理特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | アルゴリズム理論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | マイクロ波工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | システムLSI設計工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 光電子デバイス | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 半導体物性工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 弾性波工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 電子機器工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | LSIプロセス工学 | 講義 | 2 | 2 | | |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 専門科目 | 情報工学コース | 選択 | 情報数学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | メディアコンテンツ特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 応用統計学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 組込システム特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | データ工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 情報セキュリティ特論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | ソフトウェア開発特論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 計算機科学特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | ロボティクス | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | ヒューマンインタフェイス | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | パターン認識 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | モバイル通信方式特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | システム制御理論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 光通信システム | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 適応処理特論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | 生物資源工学コース | | 神経細胞生物学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 資源生物機能形態学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 分子生物学II | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 植物工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 無機化学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 代謝生化学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 応用微生物学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 食品衛生工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 酵素化学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 醸造学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 生物資源の機能性科学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 酸化ストレスの生命科学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | タンパク質資源利用学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 食品化学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 食品機能学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | 他コースの選択科目 | | | | | | | 6単位まで認める |
| | 修得単位計 | | | | 20 | 10 | 10 | |
| | 開設単位計 | | | | 114 | 64 | 50 | |
| 修得単位計 | | | | | 62 | 30 | 32 | |
| 開設単位計 | | | | | 178 | 94 | 84 | |

（出典　沖縄工業高等専門学校学則　抜粋）

資料５－５－②－５

| 科目名 | 応用統計学 | 英文表記 | Applied Statistics | 22 年 6 月 11 日 |
|---|---|---|---|---|
| 教員名：太田　佐栄子<br>技術支援： | | | | 修　正 |

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業形態 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 情報工学コース | 2 | 選択 | 学修 | 2 | 講義 | 半期 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 目　標 | ・多変量解析の考え方と基本知識を習得する<br>・重回帰分析、主成分分析、因子分析、正準相関分析、判別分析の手法を理解する<br>・多変量データについて目的にあった分析方法を選択でき、計算ができる | | | | | | |
| 高専目標 | (1) | (2) | (3) | (4) | JABEE プログラム名称 | メディア情報工学 | |
| | | | ◎ | | JABEE プログラム教育目標 | A-1,B-1,B-2,B-3,C-4 | |
| 授業概要、方針、履修上の注意 | 複数の項目について同時に調査が行われた資料の分析に有効な多変量解析について学ぶ。代表的な５つの手法について考え方と基本知識を学び、多変量データに手法を適用する。<br>授業は講義形式で行う。復習用プリントを配布する。単元の終わりにごとにデータを分析するレポートを課す。 | | | | | | |
| 評価方法 | 復習プリント 20%、６回のレポート 80%で評価する。 | | | | | | |
| 教科書・教材 | 「図解でわかる多変量解析」（日本実業出版社） | | | | | | |
| 参考図書 | 「R で学ぶデータサイエンス２　多次元データ解析法」（共立出版） | | | | | | |
| 関連科目（学年） | 「確率・統計」（本科４年）、「パターン認識」（専攻科２年） | | | | | | |

授　業　計　画

| 授業項目 | 時間 | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1. 多変量解析とは | 2 | 授業ガイダンス。多変量データの特徴について学ぶ |
| 2. 多変量解析の準備 | 2 | 共分散、相関係数、データの標準化、正規分布について確認する |
| 3. 重回帰分析（1） | 2 | 回帰方程式について学ぶ |
| 4. 重回帰分析（2） | 2 | 重回帰分析の評価について学ぶ |
| 5. 主成分分析（1） | 2 | 主成分の意味と計算方法を学ぶ |
| 6. 主成分分析（2） | 2 | 寄与率について学ぶ |
| 7. 因子分析（1） | 2 | 因子モデルについて学ぶ |
| 8. 因子分析（2） | 2 | ＳＭＣ法による因子分析について学ぶ |
| 9. 因子分析（3） | 2 | 回転の不定性、因子分析と主成分分析との関係について学ぶ |
| 10. 正準相関分析（1） | 2 | 正準相関係数について学ぶ |
| 11. 正準相関分析（2） | 2 | 寄与率と冗長性係数について学ぶ |
| 12. 判別分析（1） | 2 | 線形判別関数について学ぶ |
| 13. 判別分析（2） | 2 | 誤判別確率について学ぶ |
| 14. 多変量解析の適用 | 2 | 目的にあった分析を行うことについて学ぶ |
| 15. まとめ | 2 | 代表的な分析手法について知識を確認する |
| 学習時間合計 | 30 | 実時間　25 |

学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など）

・復習プリント

・単元の終わり（第４、６、９、１１、１３、１４回）にレポートを課す

（出典　シラバス）

（分析結果とその根拠理由）

授業科目は専攻科教育目標と教育方針に基づき配置され，各コースで準学士課程と専攻科課程を含めた７年間で体系的な教育課程が編成されている。授業科目では目標や専攻科教育目標との対応関係がシラバスに明記され，授業の内容が教育の目的を達成するために適切なものになっている。

**観点５－５－③：　学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他専攻の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。**

（観点に係る状況）

学生の多様なニーズに応えるため，他コースの専門科目を６単位まで修得可能な仕組みがある（５－５－③－１）。他高専専攻科や大学で修得した単位は，８単位を超えない範囲で本校での授業科目により修得したものとみなすことができる（資料５－５－③－２）。社会からの要請等に対応するため，本校専攻科設置時に企業に対してアンケートを行い（資料５－５－③－３），その結果を考慮した教育課程を編成している。

インターンシップについては，国外での企業研修などについて単位認定する「グローバルインターンシップ」と４週間程度の課題解決型インターンシップについて単位認定する「長期インターンシップ」がある（資料５－５－③－４，資料５－５－③－５）。

資料５－５－③－１

別表第4

## 創造システム工学専攻

| 種別 | コース | 必修・選択の別 | 科目名 | 区分 | 単位数 | 学年別配当単位数 1年 | 2年 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一般科目 | 全コース | 必修 | 実用英語Ⅰ | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 実用英語Ⅱ | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | 選択 | 日本語・日本文化論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 哲学・倫理学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 日琉交流史 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 国際政治経済学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 環境変遷学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | スポーツバイオメカニクス | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 修得単位計 | | 8 | 4 | 4 | |
| | | | 開設単位計 | | 16 | 8 | 8 | |
| 専門共通科目 | 全コース | 必修 | 特別研究 | 実験 | 14 | 6 | 8 | |
| | | | 創造システム工学実験 | 実験 | 4 | 4 | | |
| | | | 専攻科実験 | 実験 | 4 | | 4 | |
| | | 選択 | 物理学特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 数学通論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 応用解析学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 応用物理特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 物理化学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | バイオテクノロジー | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | バイオマス利用工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 品質・安全マネジメント特論 | 講義 | 1 | | 1 | |
| | | | 技術史 | 講義 | 1 | | 1 | |
| | | | 環境システム物理学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 経営工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 長期インターンシップ | 実習 | 4 | 4 | | 2年次選択可 |
| | | | グローバルインターンシップ | 実習 | 2 | | 2 | 1年次選択可 |
| | | | 修得単位計 | | 34 | 16 | 18 | |
| | | | 開設単位計 | | 48 | 22 | 26 | |
| 専門科目 | 機械システム工学コース | 選択 | 材料学特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 溶接・接合工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 連続体力学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 材料強度学特論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 数値シミュレーション Ⅰ | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 数値シミュレーション Ⅱ | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 生産工学特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 制御系構成論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 表面工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 輸送現象論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 流体工学概論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 熱機関工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | ロボット工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 技術管理概論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | 電子通信システム工学コース | | シミュレーション工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 数理計画法 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 生体情報工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 数値解析論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 信号処理特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | アルゴリズム理論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | マイクロ波工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | システムLSI設計工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 光電子デバイス | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 半導体物性工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 弾性波工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 電子機器工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | LSIプロセス工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| 専門科目 | 情報工学コース | 選択 | 情報数学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | メディアコンテンツ特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 応用統計学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 組込システム特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | データ工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 情報セキュリティ特論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | ソフトウェア開発特論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 計算機科学特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | ロボティクス | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | ヒューマンインタフェイス | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | パターン認識 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | モバイル通信方式特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | システム制御理論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 光通信システム | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 適応処理特論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | 生物資源工学コース | | 神経細胞生物学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 資源生物機能形態学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 分子生物学II | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 植物工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 無機化学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 代謝生化学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 応用微生物学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 食品衛生工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 酵素化学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 醸造学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 生物資源の機能性科学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 酸化ストレスの生命科学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | タンパク質資源利用学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 食品化学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 食品機能学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 他コースの選択科目 | | | | | 6単位まで認める |
| | | | 修得単位計 | | 20 | 10 | 10 | |
| | | | 開設単位計 | | 114 | 64 | 50 | |
| | | | 修得単位計 | | 62 | 30 | 32 | |
| | | | 開設単位計 | | 178 | 94 | 84 | |

（出典　沖縄工業高等専門学校学則　抜粋）

資料５－５－③－２

度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
(7) その他専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（入学者の選抜、入学の許可）
**第６３条** 校長は、専攻科の入学志願者について、別に定めるところにより選抜を行う。
２　校長は、前項により選抜した者で、第４２条に規定する入学料を納付した者又は入学料免除又は徴収猶予の申請書を受理された者に対して、入学を許可する。

（教育課程）
**第６４条** 専攻科の授業科目及び単位数は、別表第４のとおりとする。
２　授業科目の単位計算方法は、１単位の履修時間を教室内及び教室外をあわせて４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の各号の基準によるものとする。
(1) 講義及び演習については、１５時間から３０時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって１単位とする。
(2) 実験及び実習については、３０時間から４５時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって１単位とする。

（休学の期間）
**第６５条** 専攻科学生の休学の期間は、通算して２年を超えることができない。
２ 休学の期間は、第６１条に定める修業年限及び在学期間に算入しない。

（修了）
**第６６条** 専攻科に２年以上在学し、所定の授業科目を履修し、６２単位以上を修得した者については、修了を認定する。
２ 校長は、修了を認定した者に対し、所定の修了証書を授与する。

（準用規定）
**第６７条** 専攻科学生については、第１３条から第１７条まで、第２０条、第２１条、第２８条、第３０条第１項及び第２項、第３１条から第３３条、第３５条、第３７条、第４１条から第４９条、第５１条から第５６条、第５７条第１号、第２号、第４号及び第５号までの規定を準用する。この場合において、第２０条中「３０単位」とあるのは「８単位」と、第２１条第２項中「３０単位」とあるのは「８単位」と、第３７条第１項及び第２項中「外国の高等学校又は大学」とあるのは「外国の大学等」と、同条第２項中「３０単位」とあるのは「８単位」と、第５７条第２号中「第３０条」とあるのは「第６５条」とそれぞれ読み替えるものとする。

（その他）
**第６８条** 本章に定めるもののほか、専攻科に関する必要な事項は別に定める。

## **第１２章**　学生寮

（学生寮）
**第６９条**　本校に、学生寮を置く。
２　第１学年及び第２学年の学生は、校長が特に認めた者を除き学生寮に入寮しなければならない。
３　学生寮の運営その他必要な事項は、別に定める。

（出典　沖縄工業高等専門学校学則　抜粋）

資料５－５－③－３

# 沖縄工業高等専門学校の専攻科設置に関する調査

— 業種別集計 —

**設問１** 本校の専攻科設置については、どのようにお考えですか？

| | 製造業 | 鉱業 | 建設業 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 情報通信業 | 運輸業 | 卸売・小売業 | 管理サービス | 金融・保険業 | 飲食店・宿泊業 | その他のサービス業 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １．設置すべき | 22 | 0 | 24 | 2 | 6 | 6 | 18 | 11 | 6 | 1 | 13 | 23 | 132 |
| ２．設置すべきでない | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| ３．どちらともいえない | 3 | 0 | 4 | 1 | 2 | 0 | 4 | 1 | 3 | 0 | 2 | 3 | 23 |
| ４．その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合　計 | 27 | 0 | 28 | 3 | 8 | 6 | 22 | 12 | 9 | 1 | 15 | 26 | 157 |

**設問２** 現在、各高専の専攻科定員は１専攻あたり４名ですが、この専攻科の定員についてどう思われますか？

| | 製造業 | 鉱業 | 建設業 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 情報通信業 | 運輸業 | 卸売・小売業 | 管理サービス | 金融・保険業 | 飲食店・宿泊業 | その他のサービス業 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １．適当である | 8 | 0 | 5 | 2 | 2 | 2 | 8 | 3 | 2 | 0 | 6 | 3 | 41 |
| ２．多い | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ３．少ない | 8 | 0 | 12 | 0 | 3 | 4 | 9 | 7 | 4 | 0 | 6 | 15 | 68 |
| ４．どちらとも言えない | 11 | 0 | 10 | 1 | 3 | 0 | 5 | 2 | 3 | 1 | 3 | 8 | 47 |
| 合　計 | 27 | 0 | 27 | 3 | 8 | 6 | 22 | 12 | 9 | 1 | 15 | 26 | 156 |

**設問３** 本校の専攻科の教育方針としては、どのようにあるべきだと思われますか？

| | 製造業 | 鉱業 | 建設業 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 情報通信業 | 運輸業 | 卸売・小売業 | 管理サービス | 金融・保険業 | 飲食店・宿泊業 | その他のサービス業 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １．より専門性を高める | 17 | 0 | 17 | 2 | 7 | 5 | 11 | 9 | 7 | 0 | 9 | 15 | 99 |
| ２．幅広い知識・技能を身に付ける | 12 | 0 | 12 | 1 | 1 | 1 | 10 | 3 | 4 | 1 | 8 | 11 | 64 |
| ３．少ない | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 | 2 | 10 |
| ４．どちらとも言えない | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 合　計 | 30 | 0 | 31 | 3 | 8 | 6 | 23 | 14 | 12 | 1 | 18 | 28 | 174 |

**設問４** 専攻科での学生のインターンシップ（約１カ月間の課題解決型の企業研修）について、
貴社では受入れすることが可能でしょうか？

| | 製造業 | 鉱業 | 建設業 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 情報通信業 | 運輸業 | 卸売・小売業 | 管理サービス | 金融・保険業 | 飲食店・宿泊業 | その他のサービス業 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １．ぜひ受入れたい | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 5 |
| ２．受入れてもよい | 6 | 0 | 3 | 0 | 1 | 1 | 3 | 5 | 1 | 0 | 3 | 6 | 26 |
| ３．受入れできない | 2 | 0 | 8 | 1 | 1 | 1 | 7 | 2 | 3 | 0 | 4 | 5 | 34 |
| ４．現段階では分からない | 19 | 0 | 16 | 2 | 5 | 4 | 12 | 4 | 4 | 1 | 7 | 10 | 84 |
| ５．その他 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 4 | 6 |
| 合　計 | 27 | 0 | 28 | 3 | 8 | 6 | 22 | 13 | 9 | 1 | 15 | 26 | 159 |

**設問５** 専攻科でとりくむ特別研究テーマ（同封のパンフレットをご参照ください。）について、
貴社との共同研究の可能性も含め、どう思われますか？

| | 製造業 | 鉱業 | 建設業 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 情報通信業 | 運輸業 | 卸売・小売業 | 管理サービス | 金融・保険業 | 飲食店・宿泊業 | その他のサービス業 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １．ぜひ推進したい | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 5 |
| ２．推進してもよい | 6 | 0 | 3 | 1 | 1 | 1 | 0 | 3 | 1 | 0 | 2 | 4 | 22 |
| ３．推進できない | 2 | 0 | 12 | 1 | 0 | 1 | 3 | 3 | 4 | 0 | 4 | 4 | 34 |
| ４．わからない | 17 | 0 | 13 | 1 | 7 | 4 | 14 | 4 | 4 | 1 | 9 | 16 | 90 |
| 合　計 | 26 | 0 | 28 | 3 | 8 | 6 | 19 | 11 | 9 | 1 | 15 | 25 | 151 |

**設問６** 専攻科には技術者の再教育や生涯教育の一端を担うことが期待されています。
企業技術系社員等に対する再教育の場として、どのようにお考えですか？

| | 製造業 | 鉱業 | 建設業 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 情報通信業 | 運輸業 | 卸売・小売業 | 管理サービス | 金融・保険業 | 飲食店・宿泊業 | その他のサービス業 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １．現在のところ再教育を実施しない | 4 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 2 | 3 | 1 | 0 | 3 | 4 | 20 |
| ２．将来検討するかもしれない | 11 | 0 | 5 | 0 | 1 | 1 | 4 | 4 | 0 | 0 | 3 | 6 | 35 |
| ３．現段階では分からない | 12 | 0 | 19 | 2 | 7 | 4 | 12 | 4 | 5 | 1 | 8 | 9 | 83 |
| ４．実施すると結構忙しい | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 3 | 1 | 2 | 0 | 1 | 5 | 15 |
| ５．その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| 合　計 | 27 | 0 | 28 | 3 | 8 | 6 | 21 | 12 | 8 | 1 | 15 | 26 | 155 |

**設問７** 専攻科での教育について、重視してほしい教育内容は何だとお考えですか？
該当する番号を全てお選びください。

| | 製造業 | 鉱業 | 建設業 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 情報通信業 | 運輸業 | 卸売・小売業 | 管理サービス | 金融・保険業 | 飲食店・宿泊業 | その他のサービス業 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １．一般教養・知識 | 11 | 0 | 10 | 1 | 3 | 3 | 8 | 2 | 3 | 1 | 6 | 10 | 58 |
| ２．理系一般科目 | 3 | 0 | 4 | 1 | 0 | 3 | 3 | 1 | 0 | 0 | 5 | 3 | 23 |
| ３．語学力（英語） | 4 | 0 | 11 | 1 | 1 | 3 | 12 | 4 | 1 | 0 | 4 | 10 | 51 |
| ４．専門科目の基礎 | 13 | 0 | 5 | 2 | 2 | 2 | 7 | 3 | 3 | 0 | 7 | 14 | 58 |
| ５．専門科目の実験・実習 | 18 | 0 | 21 | 3 | 4 | 4 | 11 | 5 | 3 | 0 | 7 | 15 | 91 |
| ６．特別研究 | 2 | 0 | 8 | 1 | 1 | 2 | 4 | 0 | 0 | 0 | 4 | 7 | 29 |
| ７．企業研修（インターンシップ） | 2 | 0 | 5 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 6 | 17 |
| ８．情報技術（プログラミング、システム構成） | 6 | 0 | 7 | 1 | 4 | 3 | 6 | 9 | 2 | 1 | 3 | 11 | 53 |
| ９．情報技術（ＣＡＤ、ＰＬＣ、ＮＣ） | 4 | 0 | 10 | 1 | 1 | 3 | 8 | 0 | 2 | 0 | 5 | 6 | 40 |
| 10．各種資格取得 | 3 | 0 | 11 | 0 | 2 | 0 | 5 | 0 | 3 | 0 | 5 | 7 | 36 |
| 11．その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| 合　計 | 66 | 0 | 92 | 11 | 19 | 23 | 65 | 24 | 17 | 3 | 48 | 90 | 458 |

**設問８** 専攻科の修了者が、身に付けておくべき資質・能力は何だと思いますか？
該当する番号を全て選んでください。

| | 製造業 | 鉱業 | 建設業 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 情報通信業 | 運輸業 | 卸売・小売業 | 管理サービス | 金融・保険業 | 飲食店・宿泊業 | その他のサービス業 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １．積極性 | 17 | 0 | 19 | 2 | 4 | 2 | 9 | 4 | 2 | 1 | 6 | 15 | 81 |
| ２．主体性 | 6 | 0 | 11 | 1 | 3 | 3 | 4 | 0 | 4 | 1 | 2 | 10 | 51 |
| ３．創造性 | 12 | 0 | 23 | 3 | 4 | 7 | 16 | 6 | 6 | 1 | 11 | 21 | 110 |
| ４．責任感 | 16 | 0 | 21 | 1 | 3 | 3 | 15 | 3 | 4 | 1 | 6 | 16 | 89 |
| ５．協調性 | 7 | 0 | 12 | 1 | 3 | 2 | 6 | 2 | 3 | 0 | 4 | 12 | 52 |
| ６．行動力・実行力 | 13 | 0 | 19 | 1 | 2 | 3 | 9 | 3 | 3 | 1 | 4 | 14 | 72 |
| ７．チャレンジ精神 | 14 | 0 | 10 | 2 | 3 | 5 | 11 | 4 | 1 | 1 | 10 | 10 | 71 |
| ８．論理的思考力 | 5 | 0 | 7 | 1 | 2 | 1 | 10 | 6 | 4 | 0 | 4 | 9 | 49 |
| ９．学問知識 | 14 | 0 | 18 | 3 | 6 | 6 | 15 | 6 | 8 | 0 | 9 | 13 | 103 |
| 10．一般常識 | 11 | 0 | 9 | 2 | 3 | 1 | 12 | 1 | 2 | 0 | 4 | 8 | 53 |
| 11．語学力 | 1 | 0 | 11 | 0 | 2 | 2 | 10 | 2 | 0 | 0 | 1 | 12 | 41 |
| 12．リーダーシップ | 4 | 0 | 10 | 0 | 2 | 0 | 6 | 1 | 2 | 0 | 2 | 8 | 35 |
| 13．コミュニケーション力 | 7 | 0 | 13 | 2 | 3 | 2 | 6 | 6 | 3 | 1 | 4 | 12 | 59 |
| 14．プレゼンテーション力 | 4 | 0 | 11 | 0 | 3 | 3 | 4 | 3 | 1 | 0 | 0 | 10 | 39 |
| 15．コンピュータ活用能力 | 3 | 0 | 9 | 0 | 4 | 0 | 9 | 3 | 1 | 0 | 2 | 8 | 39 |
| 16．その他 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 |
| 合　計 | 134 | 0 | 204 | 19 | 47 | 40 | 143 | 56 | 44 | 7 | 70 | 163 | 947 |

**設問９** 専攻科の修了者は、今後どのような分野又は部署で活躍してほしいとお考えですか？
該当する番号を全てお選びください。

| | 製造業 | 鉱業 | 建設業 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 情報通信業 | 運輸業 | 卸売・小売業 | 管理サービス | 金融・保険業 | 飲食店・宿泊業 | その他のサービス業 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １．研究・開発 | 21 | 0 | 21 | 3 | 5 | 7 | 21 | 6 | 5 | 1 | 10 | 21 | 121 |
| ２．設計 | 9 | 0 | 16 | 1 | 0 | 3 | 3 | 1 | 2 | 0 | 3 | 8 | 46 |
| ３．製造・施工 | 9 | 0 | 11 | 2 | 0 | 5 | 9 | 1 | 1 | 0 | 6 | 12 | 56 |
| ４．品質管理 | 9 | 0 | 9 | 1 | 1 | 3 | 9 | 1 | 1 | 1 | 4 | 8 | 47 |
| ５．生産管理 | 8 | 0 | 7 | 2 | 0 | 2 | 4 | 1 | 0 | 1 | 1 | 6 | 32 |
| ６．購買 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| ７．営業・セールス | 1 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 8 |
| ８．サービスエンジニア | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 2 | 3 | 10 |
| ９．システムエンジニア | 6 | 0 | 13 | 2 | 5 | 4 | 13 | 9 | 3 | 0 | 5 | 13 | 73 |
| 10．プログラマ | 4 | 0 | 4 | 1 | 2 | 3 | 7 | 4 | 1 | 0 | 1 | 5 | 32 |
| 11．企画 | 2 | 0 | 5 | 0 | 2 | 1 | 4 | 2 | 2 | 0 | 0 | 6 | 24 |
| 12．プロジェクトマネジメント | 2 | 0 | 7 | 2 | 3 | 1 | 6 | 7 | 0 | 0 | 3 | 13 | 44 |
| 13．その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 合　計 | 72 | 0 | 97 | 14 | 20 | 29 | 81 | 32 | 16 | 3 | 42 | 104 | 510 |

**設問10** 本校に専攻科が設置された場合、専攻科修了者の採用についてどのようにお考えですか？

| | 製造業 | 鉱業 | 建設業 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 情報通信業 | 運輸業 | 卸売・小売業 | 管理サービス | 金融・保険業 | 飲食店・宿泊業 | その他のサービス業 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １．ぜひ採用したい | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 3 | 1 | 14 |
| ２．採用したい | 7 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 3 | 3 | 1 | 0 | 0 | 2 | 18 |
| ３．現段階ではわからない | 19 | 0 | 26 | 3 | 7 | 7 | 22 | 2 | 5 | 1 | 12 | 18 | 122 |
| ４．採用を見合わせたい | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| ５．その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 5 | 6 |
| 合　計 | 28 | 0 | 29 | 3 | 8 | 7 | 26 | 12 | 8 | 1 | 16 | 26 | 164 |

**設問11** 専攻科修了者を採用した場合の処遇（給与等）について、どのようにお考えですか？

| | 製造業 | 鉱業 | 建設業 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 情報通信業 | 運輸業 | 卸売・小売業 | 管理サービス | 金融・保険業 | 飲食店・宿泊業 | その他のサービス業 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １．大学卒業未経者と同じ | 22 | 0 | 22 | 3 | 7 | 5 | 15 | 11 | 3 | 1 | 9 | 18 | 116 |
| ２．高専大学卒業者と同等 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 | 11 |
| ３．専攻修了者と同等 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 6 |
| ４．その他 | 4 | 0 | 4 | 0 | 1 | 0 | 3 | 1 | 4 | 0 | 1 | 3 | 21 |
| 合　計 | 27 | 0 | 29 | 3 | 8 | 5 | 24 | 12 | 9 | 1 | 14 | 22 | 154 |

（出典　総務課資料）

資料５－５－③－４

| 科目名 | グローバルインターンシップ | 英文表記 | Global Internship | H22 年<br>6 月 15 日 |
|---|---|---|---|---|
| 教員名：【機械システム】中本正一郎，真鍋幸男【電子通信】石田修己，杉本和英 比嘉勝也，兼城千波<br>【情報】タンスリヤボンスリヨン、バイティガザカリ【生物資源】平山けい，平良淳誠<br>技術支援： | | | | 修　正 |

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業形態 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 創造システム工学専攻 | 1 又は 2 年 | 選択 | 学修 | 2 単位 | 実習 | 通年 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 目　標 | ① 海外での研修（企業・語学研修など）を通じて実践的な技術・語学力を身につける。<br>② 異文化理解に必要な基礎的な素養・協調性・能力・価値観を身につける。<br>③ 海外での研究・学習を通して、グローバルな視点で物事を考え、研究を遂行できる能力を身につける。 | | | | | |
| 高専目標 | 1 | 2 | 3 | 4 | JABEE プログラム名称 | 機械システム工学<br>情報通信システム工学<br>メディア情報工学<br>生物資源工学 |
| | ◎ | | | ○ | JABEE プログラム教育目標 | 【機械システム工学】<br>A-1,B-1,B-2,B-3,C-1,C-4,C-5<br>【情報通信システム工学】<br>A-1,A-3,A-4,B-1,B-2,B-3,C-1,C-2,C-3<br>【メディア情報工学】A-2, A-3, B-1, B-2, C-1, C-2, C-3<br>【生物資源工学】A-3,B-2,B-3,C-3 |
| 授業概要、方針、履修上の注意 | 1. 履修を希望する学生は、各コース科目担当教員に申し出て，その指導を受けながら、下記に示す授業計画に基づいて、インターンシップを実施すること。<br>2. 海外における研修や研究活動を通して、異文化理解に必要な協調性・理解力・語学力を体験・自覚させ、国際社会で活躍する場合に必要な基礎知識を身につける。<br>3. 海外における研修活動や異文化体験を通じて、海外生活や活動に必要な知識・能力（語学力、コミュニケーション能力、計画力、実行力、情報管理能力など）を体得して、国際社会への応用力を身につける。 | | | | | |
| 評価方法 | 1. インターンシップ先からの評価書、各学生が作成するインターンシップ報告書およびインターンシップ報告発表を各 100 点満点で評価し、評価書 50%・報告書 50%の配分で、合計点が 60%以上で合と評価する。<br>2. 合否の判定は各コースの科目担当教員が行う。 | | | | | |
| 教科書・教材 | 教員作成資料、企業作成資料 | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 関連科目（学年） | インターンシップ（本科 4 年）長期インターンシップ（専攻科 1 年）各コース専門科目（専攻科 1,2 年） | | | | | |

**授　業　計　画**

| 授　業　項　目 | 時間 | 授　業　内　容 |
|---|---|---|
| 1. 講義内容説明・ガイダンス | 1 | インターンシップの意義と講義の進め方についてガイダンスする（インターシップ先でのガイダンスを含む） |
| 2. インターンシップ | 60 | 長期休暇期間中、約 14 日間程度、海外受入機関（大学・企業）において、研修活動を実施する |
| 3. 成果報告まとめ | 29 | インターンシップ報告資料を作成し、提出する。 |
| 学習時間合計 | 90 | 実時間　50 |

**学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など）**

企業調査、報告書作成（30 時間）を含め、総合計時間を 90 時間以上とする。

（出典　シラバス）

資料５－５－③－５

| 科目名 | 長期インターンシップ | 英文表記 | Long Term Internship | H22 年 6 月 18 日 修　正 |
|---|---|---|---|---|
| 教員名：【機械システム】眞喜志治，政木清孝【電子通信】石田修己，杉本和英，比嘉勝也，兼城千波【情報】伊波靖【生物資源】池松真也，山城秀之 | | | | |

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 単位数 | 授業形態 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| 創造システム工学専攻科 | 1 又は 2 年 | 選択 | 4 単位 | 実習 | 通年 |

| | |
|---|---|
| 目　標 | ① 実際の現場で長期にわたって業務を体験することで、実践的な技術を理解する。<br>② 社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につける。<br>③ 共同研究や受託研究を通して、研究開発の意義を学び、遂行することができる。 |

| 高専目標 | 1 | 2 | 3 | 4 | JABEE プログラム名称 | 機械システム工学<br>情報通信システム工学<br>メディア情報工学<br>生物資源工学 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ◎ | | | ○ | JABEE プログラム教育目標 | 【機械システム工学】A-1,B-1,B-2,B-3,C-1,C-4,C-5<br>【情報通信システム工学】A-1,A-3,A-4,B-1,B-2,B-3,B-4,C-2,C-3,C-4<br>【メディア情報工学】A-2,A-3,B-1,B-2,B-3,C-1,C-2,C-4<br>【生物資源工学】A-1,A-3,B-1,B-2,B-3,C-2,C-3 |

| | |
|---|---|
| 授業概要、方針、履修上の注意 | 1. 履修を希望する学生は、各コース科目担当教員の指導を受け、授業計画に基づいて、インターンシップを実施する。<br>2. 実際の現場で長期にわたって業務を体験することで、実践的な技術を理解する。<br>3. 長期間にわたる実務経験を通して、職業意識を向上させ、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につける。<br>4. 学校教育と就業体験の結合により、より高い職業意識を育成し、自主性・創造性溢れる専門性高い人材生成を目指す。<br>5. 習得した専門知識を生かし、学外における実務研修により、実社会で必要な要素・能力（企画力、計画性、実行力、労働・契約の意義、コミュニケーション能力、情報管理など）を実践レベルで身につける。 |
| 評価方法 | 1. インターンシップ先企業からの評価書、各学生の製作するインターンシップ報告書およびインターンシップ報告発表を各 100 点満点で評価し、評価書 50%・報告書 50%、合計点が 60%以上で合と評価する。<br>2. 合否の判定は各コースの科目担当教員が行う。 |
| 教科書・教材 | 教員作成資料、企業作成資料 |
| 参考図書 | |
| 関連科目（学年） | |

**授　業　計　画**

| 授業項目 | 時間 | 授業内容 | |
|---|---|---|---|
| 1. 講義内容説明・ガイダンス | 1 | インターンシップの意義と講義の進め方についてガイダンスする。 | |
| 2. インターンシップ先企業研究 | 9 | 企業調査、マッチング | |
| 3. インターンシップ | 160 | 長期休暇期間中､約 1 か月日間程度企業研修を実施する | |
| 4. 成果報告まとめ | 10 | インターンシップ報告資料を作成し、提出する。 | |
| 学年末試験 | | 試験は実施しない | |
| 学習時間合計 | 180 | 実時間 | 180 |

**学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など）**
企業調査、報告書作成（20 時間）を含め、180 時間以上とする。

（出典　シラバス）

（分析結果とその根拠理由）

学生の多様なニーズに応えるために，他コースの専門科目が修得可能であり，他高専専攻科や大学での単位を認定している。さらに企業に対するアンケートの結果を考慮し教育課程を編成している。

**観点５－６－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば，教材の工夫，少人数授業，対話・討論型授業，フィールド型授業，情報機器の活用等が考えられる。）**

（観点に係る状況）

専攻科教育目標を達成するために体系的に編成された授業科目は，講義または演習，実験，実習のいずれかの形態をとり，２年間を通じてバランスよく配置されている（資料５－６－①－１）。授業の履修者数から，ほとんどの科目で少人数授業といえる（資料５－６－①－２）。

全学生と教職員がアクセスできるファイルサーバがあり，電子ファイルの教材や資料を教員と科目履修者で共有できる仕組みがある（資料５－６－①－３）。また，一部の授業ではe-learningとしてBlackboardを導入し，小テストの実施，教材・資料の配布・課題提出先などの目的で活用している（資料５－６－①－４）。

資料５－６－①－１

学年別の授業形態の割合

(a)開設科目の主な授業形態別の単位数
(b)学年の総開設科目単位数に対する主な授業形態の単位数割合

創造システム工学専攻

| | 1年 | | 2年 | |
|---|---|---|---|---|
| | a | b | a | b |
| 講義 | 80 | 85.1% | 70 | 83.3% |
| 実験 | 10 | 10.6% | 12 | 14.3% |
| 実習 | 4 | 4.3% | 2 | 2.4% |
| 演習 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

（出典　学生課資料）

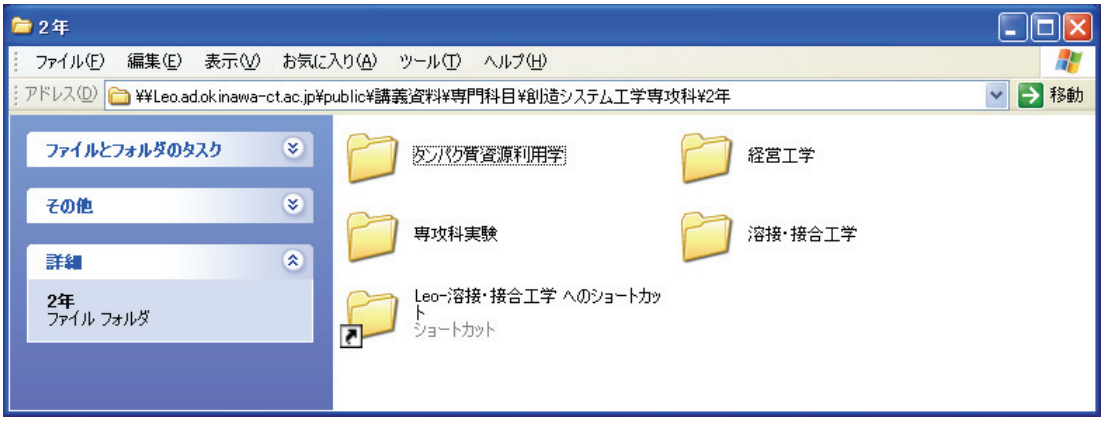
資料５－６－①－２

平成21年度 専攻科履修者数 （教務係資料）

| 種別 | コース | 必修・選択の別 | 科目名 | 学年別履修者数 1年 | 学年別履修者数 2年 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 一般科目 | 全コース | 必修 | 実用英語Ⅰ | 28 | | |
| | | | 実用英語Ⅱ | | | |
| | | 選択 | 日本語・日本文化論 | 13 | | |
| | | | 哲学・倫理学 | | | |
| | | | 日琉交流史 | 4 | | |
| | | | 国際政治経済学 | | | |
| | | | 環境変遷学 | 13 | | |
| | | | スポーツバイオメカニクス | | | |
| 専門共通科目 | 全コース | 必修 | 特別研究（機械システム工学コース） | 5 | | |
| | | | 特別研究（電子通信システム工学コース） | 9 | | |
| | | | 特別研究（情報工学コース） | 5 | | |
| | | | 特別研究（生物資源工学コース） | 9 | | |
| | | | 創造システム工学実験 | 28 | | |
| | | | 専攻科実験（機械システム工学コース） | | | |
| | | | 専攻科実験（電子通信システム工学コース） | | | |
| | | | 専攻科実験（情報工学コース） | | | |
| | | | 専攻科実験（生物資源工学コース） | | | |
| | | 選択 | 物理学特論 | 10 | | |
| | | | 数学通論 | 22 | | |
| | | | 応用解析学 | | | |
| | | | 応用物理特論 | 26 | | |
| | | | 物理化学 | | | |
| | | | バイオテクノロジー | 20 | | |
| | | | バイオマス利用工学 | | | |
| | | | 品質・安全マネジメント特論 | | | |
| | | | 技術史 | | | |
| | | | 環境システム物理学 | | | |
| | | | 経営工学 | | | |
| | | | 長期インターンシップ | 9 | | 2年次選択可 |
| | | | グローバルインターンシップ | 2 | | 1年次選択可 |
| 専門科目 | 機械システム工学コース | 選択 | 材料学特論 | 5 | | |
| | | | 溶接・接合工学 | | | |
| | | | 連続体力学 | 5 | | |
| | | | 材料強度学特論 | | | |
| | | | 数値シミュレーション　Ⅰ | 5 | | |
| | | | 数値シミュレーション　Ⅱ | | | |
| | | | 生産工学特論 | 5 | | |
| | | | 制御系構成論 | 0 | | |
| | | | 表面工学 | | | |
| | | | 輸送現象論 | 2 | | |
| | | | 流体工学概論 | 5 | | |
| | | | 熱機関工学 | 3 | | |
| | | | ロボット工学 | | | |
| | | | 技術管理概論 | | | |
| | 電子通信システム工学コース | | シミュレーション工学 | 3 | | |
| | | | 数理計画法 | 6 | | |
| | | | 生体情報工学 | | | |
| | | | 数値解析論 | | | |
| | | | 信号処理特論 | 4 | | |
| | | | アルゴリズム理論 | | | |
| | | | マイクロ波工学 | 8 | | |
| | | | システムLSI設計工学 | 10 | | |
| | | | 光電子デバイス | 6 | | |
| | | | 半導体物性工学 | 3 | | |
| | | | 弾性波工学 | | | |
| | | | 電子機器工学 | | | |
| | | | LSIプロセス工学 | 8 | | |
| 専門科目 | 情報工学コース | 選択 | 情報数学 | 6 | | |
| | | | メディアコンテンツ特論 | 4 | | |
| | | | 応用統計学 | | | |
| | | | 組込システム特論 | 5 | | |
| | | | データ工学 | 0 | | |
| | | | 情報セキュリティ特論 | | | |
| | | | ソフトウェア開発特論 | | | |
| | | | 計算機科学特論 | 5 | | |
| | | | ロボティクス | | | |
| | | | ヒューマンインタフェイス | | | |
| | | | パターン認識 | | | |
| | | | モバイル通信方式特論 | 0 | | |
| | | | システム制御理論 | 5 | | |
| | | | 光通信システム | | | |
| | | | 適応処理特論 | | | |
| | 生物資源工学コース | | 神経細胞生物学 | 6 | | |
| | | | 資源生物機能形態学 | 4 | | |
| | | | 分子生物学II | 1 | | |
| | | | 植物工学 | | | |
| | | | 無機化学 | 9 | | |
| | | | 代謝生化学 | | | |
| | | | 応用微生物学 | 4 | | |
| | | | 食品衛生工学 | | | |
| | | | 酵素化学 | 9 | | |
| | | | 醸造学 | 10 | | |
| | | | 生物資源の機能性科学 | 8 | | |
| | | | 酸化ストレスの生命科学 | | | |
| | | | タンパク質資源利用学 | | | |
| | | | 食品化学 | 2 | | |
| | | | 食品機能学 | | | |

（出典　学生課資料）

資料５－６－①－３




（出典　ファイルサーバのファイル一覧）

資料５－６－①－４







（出典　Blackboard e-learning システム）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科教育目標を達成するために体系的に編成された授業の形態のバランスは適切である。

ほとんどの科目で少人数教育である。また，情報機器を活用するのに適した教材の工夫がなされている。よって，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

**観点５－６－②：　創造性を育む教育方法（ＰＢＬなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。**

専門共通科目「創造システム工学実験」では，知識を融合する能力や企画構成力，プレゼンテーションでの表現力を養うことを目標に，４コース合同で４分野の実験を扱う（資料５－６－②－１）。履修する学生は３つの他コースの実験を行い，自コースの実験では指導的立場で実験に参加する。この授業で扱う実験テーマは本科の実験と同レベルであるが，指導的立場の学生は他コースの学生にわかりやすく原理や手順の説明を行うことが求められ，担当教員の指導の下で自コースの実験準備を行っている。

本科で「インターンシップ」を必修科目としているため，専攻科でのインターンシップはより実践的な実習について単位認定している。国外での研修や実習を行う「グローバルインターンシップ」は，第１学年または第２学年で単位認定可能である。平成21年度には第１学年２名のシンガポールポリテクニクでの英語研修について単位認定した。また，専攻科進学予定者が高専機構海外インターンシップを利用して国外研修を行った（資料５－６－②－２）が，入学前だったため「グローバルインターンシップ」の単位認定には至らなかった。「長期インターンシップ」は課題解決型の４週間程度の実習や他機関との共同研究について単位認定している。これについては，平成21年度に９名単位認定した（資料５－６－②－３）。

資料５－６－②－１

| 科目名 | 創造システム工学実験 | 英文表記 | Creative system engineering experiment | 22年4月28日 |
|---|---|---|---|---|
| 教員名：【機械システム】真鍋幸男，眞喜志治，下嶋　賢【電子通信システム】野口健太郎，神里志穂子，山田親稔【情報】太田佐栄子【生物資源】田邊俊朗，三宮一宰，玉城康智<br>技術支援： | | | | 修　正 |

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業形態 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 創造システム工学専攻 | １年 | 必修 | 学修 | ４単位 | 実験 | 通年 |

| | |
|---|---|
| 目　標 | １．融合・複合分野における基礎技術力を身につける．<br>２．学生の企画力・指導力を育成する．<br>３．学生の自主性・主体性・コミュニケーション能力を育成する． |

| 高専目標 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | JABEE プログラム名称 | 機械システム工学<br>情報通信システム工学<br>メディア情報工学<br>生物資源工学 |
| ○ | ◎ | ○ | | JABEE プログラム教育目標 | 【機械システム工学】A-1,A-2,B-1,B-2,B-3,C-1,C-2,C-4<br>【情報通信システム工学】A-1,A-3,A-4,B-1,B-2,B-3,B-4,C-2,C-3,C-4<br>【メディア情報工学】B-1,B-2, B-3,C-1,C-4<br>【生物資源工学】A-2.A-3,B-2,B-3,C-2 |

| | |
|---|---|
| 授業概要、方針、履修上の注意 | １．専門とは異なる技術分野の知識を習得できるように、異なるコースの専門実験を体験する。<br>２．授業形態は、全コース合同とし、実験内容ごとに各コースの担当教員が実施する。<br>３．担当教員が準備した専門基礎実験に関する指針とマニュアルに沿って，出身学科の学生がチュータとなり、他コースの学生の実験を補助する。<br>４．学生の企画力・指導力を育成するために、学生の主体的・自主的な実験プログラム編成も考慮しながらすすめる。 |
| 評価方法 | １．実験レポートによる実験内容の理解力について評価する。<br>２．チュータの学生については、実施プログラム企画力と指導力について評価する。<br>３．評点はチュータとしての役割遂行力について６１点，実験レポートの内容について３９点の配点で行なう。 |
| 教科書・教材 | 各コース実験マニュアル |
| 参考図書 | |
| 関連科目（学年） | |

授　業　計　画

| 授業項目 | 時間 | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1.　(4/14 3F ﾒﾃﾞｨｱｺﾝﾃﾝﾂ演習室)<br>全体オリエンテーション<br>遺伝子組換え実験講習<br>各コース別チューター準備 | 4 | 実験の全体スケジュールの概要説明<br>カルタヘナ法と遺伝子組換え実験のルールを学ぶ。<br>各コース別の実験指針とマニュアルを確認する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2. (4/21　1F 情報通信工学実験室)<br>(電子通信システム工学コース)<br>アナログ回路実験１ | 4 | 基本的なアナログ回路を題材として、計測技術の習得を行う。 | |
| 3. (4/28 )<br>アナログ回路実験２ | 4 | 基本的なアナログ回路を題材として、計測技術の習得を行う。 | |
| 4. (5/12 )プログラム実験１ | 4 | 設定課題に基づいたプログラム作成技術に関する実験を行う。 | |
| 5. (5/19 )プログラム実験２ | 4 | 設定課題に基づいたプログラム作成技術に関する実験を行う。 | |
| 6. (5/26 )<br>デジタル回路実験１ | 4 | 基本的なデジタル回路を題材として、計測技術の習得を行う。 | |
| 7.(6/2)<br>デジタル回路実験２ | 4 | 基本的なデジタル回路を題材として、計測技術の習得を行う。 | |
| 8.(6/9) デジタル回路実験３ | 4 | 基本的なデジタル回路を題材として、計測技術の習得を行う。 | |
| 9. (6/16 3F CAD・CAM 室)<br>(機械システム工学コース)<br>機械工学概論 | 4 | 機械工学の概要紹介と、本実験で学ぶ技術が機械工学分野でどのように応用されているかを学ぶ。 | |
| 10. (6/30)CAD システム１ | 4 | コンピュータを活用した設計に関する実験を行う。 | |
| 11. (7/7)CAD システム２ | 4 | コンピュータを活用した設計に関する実験を行う。 | |
| 12. (7/14)CAD システム３ | 4 | コンピュータを活用した設計に関する実験を行う。 | |
| 13. (7/21)切削加工実験１ | 4 | ＮＣフライス盤を用いた切削加工に関する実験を行う。 | |
| 14. (7/28)切削加工実験２ | 4 | ＮＣフライス盤を用いた切削加工に関する実験を行う。 | |
| 15. (8/11)切削加工実験３ | 4 | ＮＣフライス盤を用いた切削加工に関する実験を行う。 | |
| 16. (10/6 2F 生物化学工学実験室)<br>(生物資源工学コース)<br>遺伝子工学実験１ | 4 | 遺伝子の本体 DNA の抽出他に関する実験を行う | |
| 17. (10/13)遺伝子工学実験２ | 4 | 遺伝子の本体 DNA の抽出他に関する実験を行う | |
| 18. (10/20)発酵学実験１ | 4 | 微生物を用いて、発酵食品を製造する実験を行う。 | |
| 19. (10/27)発酵学実験２ | 4 | 微生物を用いて、発酵食品を製造する実験を行う。 | |
| 20. (11/10)生物工学実験１ | 4 | 大腸菌の遺伝子組換え実験を行う。 | |
| 21. (11/17)生物工学実験２ | 4 | 組換えタンパク質を精製する実験を行う。 | |
| 22. (11/24)生物工学実験３ | 4 | 組換えタンパク質の電気泳動実験を行う。 | |
| 23. (12/8 3F ﾒﾃﾞｨｱｺﾝﾃﾝﾂ演習室)<br>(情報工学コース)<br>画像処理実験１ | 4 | 画像処理の概要について理解し、応用分野について学ぶ。<br>実験を行うためのコンピュータ環境を準備する。 | |
| 24. (12/15)画像処理実験２ | 4 | 画像データや画像ファイルの扱いを学ぶ。 | |
| 25. (12/22)画像処理実験３ | 4 | トーンカーブによる画像の変換について実験を行う。 | |
| 26. (1/12)画像処理実験４ | 4 | トーンカーブによる画像の変換について実験を行う。 | |
| 27. (1/19)画像処理実験５ | 4 | 平滑化フィルタによる画像のノイズ除去について実験を行う。 | |
| 28. (1/26)画像処理実験６ | 4 | 微分フィルタによる画像の鮮鋭化について実験を行う。 | |
| 29. (2/2)画像処理実験７ | 4 | 微分フィルタによる画像の鮮鋭化について実験を行う。 | |
| 30. (2/9 3F ﾒﾃﾞｨｱｺﾝﾃﾝﾂ演習室)<br>全体まとめ | 4 | 全体を通して習得した内容や課題についてコース毎に発表 | |
| **学習時間合計** | **120** | **実時間** | **100** |

**学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など）**

実験レポートの作成、チュータ指導マニュアルの整備、資料調査など（通年 60 時間）

（出典　シラバス）

資料５－６－②－２

# 海外インターンシップニュース

## 専攻科生（進学予定者含む）を6社5カ国に派遣

国立高専機構が実施する海外インターンシップは、平成21年度で第2回目となります。

新たに民間企業4社と協定を締結し、昨年度からの継続企業と併せて6社に受入れてもらいます。派遣人数も学生16人、教職員6名と昨年より派遣人数を拡大しましたが、経費の一部を本人負担とし、予算規模としては、昨年度と同程度としました。

募集を11月30日で締め切り、12月初旬に選考委員会を開催し、派遣者を決定しました。企業により実施時期が若干異なりますが、3月1日の出発を皮切りに海外に派遣します。1月19日～20日には事前研修を行い、準備を着々と進めております。

**≪新規協力4社と調印式≫**

平成21年12月9日に三井物産㈱本店において、次の各企業と「海外インターンシップに関する協定書」の調印式を実施しました。

東亞合成㈱　東京都港区
トヨタ自動車㈱　愛知県豊田市
㈱森精機製作所　愛知県名古屋市中村区
ヤマハ発動機㈱　静岡県磐田市


協力各社の代表による調印式

**≪受入れ企業（事業所）、国、期間≫**

昨年度からの継続企業を含めて、平成21年度は6社5カ国に学生、教職員を派遣します。

| | |
|---|---|
| ツネイシホールディングス㈱<br>Tsuneishi Heavy Industries (Cebu) Inc | フィリピン<br>H22.3.8 ～ H22.3.27 |
| 東亞合成㈱<br>Toagosei Singapore Pte Ltd | シンガポール<br>H22.3.7 ～ H22.3.22 |
| 東洋エンジニアリング㈱<br>Toyo Engineering & Construction Sdn Bhd | マレーシア<br>H22.3.2 ～ H22.3.28 |
| トヨタ自動車㈱<br>Toyota Motor Thailand Co. Ltd | タイ<br>H22.3.7 ～ H22.3.28 |
| ㈱森精機製作所<br>Dixi machines | スイス<br>H22.3.1 ～ H22.3.21 |
| ヤマハ発動機㈱<br>Thai YAMAHA MOTOR Co. Ltd | タイ<br>H22.3.7 ～ H22.3.28 |

**≪派遣学生、教職員≫**

多数の応募者の中から、選考委員会で厳正に検討した結果、以下の方々を派遣することを決定しました。

ツネイシホールディングス㈱

| | | | |
|---|---|---|---|
| 広瀬　文絵 | 新居浜高専 | 専攻科1年 | 電子工学専攻 |
| 満蘭　友宏 | 鹿児島高専 | 本科5年 | 電子制御工学科 |
| 奥平進太郎 | 沖縄高専 | 本科5年 | メディア情報工学科 |
| 大橋　慶勲 | 茨城高専 | 技術職員 | 技術教育支援センター |

東亞合成㈱

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山田　知佳 | 八戸高専 | 本科5年 | 物質工学科 |
| 井上　麻美 | 久留米高専 | 専攻科1年 | 物質工学専攻 |
| 青木　優介 | 木更津高専 | 准教授 | 環境都市工学科 |

東洋エンジニアリング㈱

| | | | |
|---|---|---|---|
| 小林　宏輝 | 群馬高専 | 専攻科1年 | 環境工学専攻 |
| 綱川悠一朗 | 東京高専 | 本科5年 | 電子工学科 |
| 堤　博貴 | 東京高専 | 准教授 | 機械工学科 |

トヨタ自動車㈱

| | | | |
|---|---|---|---|
| 田沢　篤 | 苫小牧高専 | 専攻科1年 | 環境システム工学専攻 |
| 森澤　海里 | 香川高専（高松） | 専攻科1年 | 建設工学専攻 |
| 堀瀬　友貴 | 香川高専（詫間） | 専攻科2年 | 電子通信システム工学専攻 |
| 山根　清美 | 松江高専 | 准教授 | 機械工学科 |

㈱森精機製作所

| | | | |
|---|---|---|---|
| 奥山　康平 | 秋田高専 | 本科5年 | 電気情報工学科 |
| 佐藤　竜平 | 豊田高専 | 専攻科1年 | 電子機械工学専攻 |
| 足立麻衣子 | 奈良高専 | 専攻科1年 | 電子情報工学専攻 |
| 奥平　理 | 函館高専 | 准教授 | 一般科目人文系 |

ヤマハ発動機㈱

| | | | |
|---|---|---|---|
| 湯田坂卓人 | 長野高専 | 専攻科1年 | 電気情報システム専攻 |
| 井林　雅樹 | 鈴鹿高専 | 専攻科1年 | 電子機械工学専攻 |
| 岩永　明人 | 徳山高専 | 専攻科1年 | 情報電子工学専攻 |
| 杉本　和英 | 沖縄高専 | 教授 | 情報通信システム工学科 |

**≪事前研修≫**

海外での実務研修が支障なく実施できるよう必要な英語力等の基礎知識、心構え、各国の事情・情報などを学ぶことを目的として、平成22年1月19日、20日の両日、機構本部（田町）、国立オリンピック記念青少年総合センターを会場として、以下の講義、演習が行われました。

- 学生参加型講義　「異文化コミュニケーション」　留学生交流促進センター　吉川准教授
- 演習「チームワークとコミュニケーション」　香川高専（詫間）　森講師
- 演習「チームワークの強化」　茨城高専　奥山講師
- 受入れ企業個別説明
  各社担当者
- 渡航手続き等の説明
  旅行代理店等

後日、海外インターンシップの報告をさせていただきます。


開講式


受入れ企業の個別説明

# 電子制御プロジェクト（オムロン共同教育プロジェクト）を推進

国立高専機構では、多様な実践的・創造的技術者の育成を目的として、オムロン㈱からの寄附教材キット「電子制御技術教材」を活用・発展させる、ユニークなものづくり教育の実践プロジェクトを推進しています（推進経費50万円／1プロジェクト）。

このプロジェクトは、電子制御キットを活用した教育実践（授業方法や評価方法の工夫など）、制御機能を拡張する装置開発、制御関連の公開講座・企業人育成などを推進するもので、外部委員（オムロン社技術者、大学教員）を含む選考委員会は36件の応募から下記8プロジェクトを採択しました（選考基準：①目標・計画が明確であること、②他高専で実践モデルとなる成果が期待できること、③独創的、意欲的であることなど）。この取組みに対しオムロン社側も技術者を採択8校に直接派遣して助言・交流したいとしており、電子制御に係る共同教育がより実践的で創造的な取組みとなることが期待されます。

なお、平成22年8月開催予定のシンポジウム（機構主催　全国高専教育フォーラム：長岡技科大にて開催）にて、これら成果を報告・公開する予定です。

| プロジェクト採択校（代表者） | タイトル |
|---|---|
| 1．函館高専（浜　克己） | 複合型ものづくり人材のための実践的電子制御技術育成プロジェクト |
| 2．釧路高専（千田和範） | 電子制御技術教材のステーション化とその連携によるプロジェクト指向型教育プログラムの開発 |
| 3．仙台高専（矢島邦昭） | 創造性を生かした学生提案型の教材作成と活用 |
| 4．石川高専（八田　潔） | PLC応用機械制御学習システムの構築 |
| 5．明石高専（上　泰） | 産業界の教育ニーズを反映した実践的教育プログラムの開発 |
| 6．奈良高専（登　一） | 展示用アトラクションの製作活動を通した課外活動グループの学生との協同による実験・実習カリキュラムの検討 |
| 7．松江高専（別府俊幸） | 実践的シーケンス制御入門講座（社会人および学生向） |
| 8．鹿児島高専（室屋光宏） | シーケンス制御技術に習熟した開発型技術者育成のための体系的カリキュラムの開発 |

02

# シンガポールのポリテクニック３校と学術交流協定を締結

国立高専機構は、2009年9月22日にシンガポールのポリテクニック3校（リパブリック・ポリテクニック、シンガポール・ポリテクニック、テマセク・ポリテクニック）と学術交流協定を締結いたしました。調印式は、林理事長が9月22日と23日にシンガポールで開催された第3回国際工学教育研究集会に出席のためシンガポールを訪問した機会に合わせて実施しました。

今回、締結した協定は、2006年に九州・沖縄地区10高専とポリテクニック3校とが締結した覚書（MOU）の枠組みを全国の高専に拡げるもので、それぞれの高専とそれぞれのポリテクニックとが、交流企画を創出し、交流活動が活発化することを目的として、包括的な内容となっております。

したがいまして、各高専は各ポリテクニックと共同で具体的な交流プログラムを策定し、改めて協定を締結することなく、交流活動の実施が可能です。また、共同で実施する交流プログラムの具体的な事項について、機構が締結した学術交流協定に階層的に付随する覚書（MOU）を作成し、交流活動を実施するのは更に有効と思われます。



（写真左）調印式場での意見交換の様子
（写真左）左から
リパブリック学長　Mr Yeo Li Pheow、シンガポール学長　Mr Tan Hang Cheong、
国立高専機構理事長　林 勇二郎、テマセク学長　Mr Boo Kheng Hua

## 1 交流の歴史

シンガポールの3ポリテクニックとの協定は前述の九州・沖縄地区高専との協定のほかにも、鳥羽商船高専と大島商船高専が、平成20年度にシンガポール・ポリテクニックのシンガポール・マリタイム・アカデミー（商船学部）と覚書を締結しています。

国立高専機構が交流協定を締結するに至った経緯は、2003年に、熊本電波高専（現熊本高専）が、近年における学生の卒業後の進路、活動状況を鑑て、国際的な通用が強く求められていることから、国際性の涵養、コミュニケーション能力の向上のため、一つの方法として、それまでの関東・関西を中心に行っていた見学旅行の訪問先をシンガポールに変更し、テマセク・ポリテクニックとの交流を中心とした海外研修旅行を実施したことから始まり、教員派遣や学生派遣等の交流を積極的に進めて来ていました。

2005年には、九州・沖縄地区10高専が工学教育事情の視察のためシンガポールを訪問し、意見交換を行いました。その際に、複数のポリテクニックと10高専の包括交流協定について、その有用性、有効性について協議を行い、2006年8月に九州・沖縄地区国立高等専門学校校長会とシンガポールのポリテクニックとの交流協定を締結しました。この協定には、シンガポールのポリテクニックからは、リパブリック・ポリテクニック、シンガポール・ポリテクニック、テマセク・ポリテクニックの3校が参加しています。

## 2 交流活動の事例


講演会場風景

林理事長の講演

**○国際工学教育研究集会の開催**

International Symposium On Advances in Technology Education (ISATE)

2007年テマセク・ポリテクニックを担当校として、高等教育機関における教員らが、工学教育において得られた知見、経験、ツール、新しい教育方法と学校における科学技術に関する科目の指導、教育方法探求に関する知識や経験を提供し共有することを目的として、シンガポールで開催されました。続いて2008年には、熊本電波高専と八代高専が担当校となり熊本で開催、2009年にはシンガポール・ポリテクニックの担当によりシンガポールで開催されました。

2010年は、鹿児島高専と熊本高専が担当となり鹿児島での開催が予定されています。

**○英語キャンプ**

2006年より熊本電波高専が幹事校となり、九州・沖縄地区高専生を対象とした英語研修（2008年より「英語キャンプ」と名称を変更）を毎年8月に実施しています。

プログラムは英語研修だけではなく、現地での工場見学やポリテクニックの学生との交流も含まれ、参加学生は九州沖縄地区だけではなく他地区の高専にも拡がっており、2009年からは鳥羽商船高専も参加しています。


授業風景（英語キャンプ）

現地学生との交流（英語キャンプ）

**○学生の受入**

（平成19年度）
- 八代高専で、シンガポール・ポリテクニックより10名の学生を受け入れ、異文化体験と学生交流を実施

（平成20年度）
- 大島商船高専で、シンガポール・ポリテクニック、マリタイム・アカデミーより学生を受け入れ、課外活動の体験、施設見学、学生交流等を実施
- 有明高専で、シンガポール・ポリテクニックから学生12名を受入れ授業参加、課外活動体験、学寮に宿泊し、寮生との交流を実施
- 北九州高専で、テマセク・ポリテクニックから学生40名を受入れ、文化交流を実施
- 久留米高専で、テマセク・ポリテクニックから学生を受入れ、文化交流を実施
- 熊本電波高専で、テマセク・ポリテクニックより学生を受入れ（同校工学部より35名、情報学部より17名）、異文化体験、学生交流を実施
  また、3名の学生を短期留学生として半年間受入れ
- 大分高専で、シンガポール・ポリテクニックの研修旅行生を受入れ、課外活動体験、工場等の見学、ホームステイ等により異文化体験、学生交流を実施

（平成21年度）
- 鳥羽商船高専で、シンガポール・ポリテクニックのマリンタイム・アカデミーに学生5名を派遣し、客船による海事体験キャンプを実施
- 大分高専で、平成20年度に引き続き、シンガポール・ポリテクニックから学生を受入れ、課外活動体験、工場見学、ホームステイ等により異文化体験、学生交流を実施
- 有明高専で、シンガポール・ポリテクニックから学生12名を受入れ、キャンパスツアー、日本語セミナー、課外活動体験、文化歴史的施設見学、ホームステイ、学寮に宿泊し寮生徒の交流を実施


交流会の様子
船でのパーティは正装？

**○学生の派遣**

（平成18・19年度）
- 北九州高専で、工場見学旅行の一環でリパブリック・ポリテックを訪問し、学生交流を実施

（平成20年度）
- 大島商船高専で、シンガポール・ポリテクニック、マリタイム・アカデミーへ学生を派遣し、実習参加、学生交流等を実施（協定締結時）
- 有明高専で、学生17名が参加する海外研修旅行を実施し、シンガポール・ポリテクニックを訪問し、学校見学、英会話レッスン、課外活動体験、ホームステイ等を実施
- 北九州高専で、工場見学旅行の一環でリパブリック・ポリテックを訪問し、学生交流を実施
- 熊本電波高専で、主な目的を交流とする研修旅行で、テマセク・ポリテクニックを訪問し、1週間の英語研修と1週間の学生交流プログラムを実施
- 八代高専で、主な目的を学生交流とする研修旅行で、シンガポール・ポリテクニックを訪問し、企業訪問、学校見学、授業見学、文化歴史的施設見学などを通じた異文化体験、学生交流を実施
- 大分高専で、シンガポール・ポリテクニックに海外インターンシップとして学生を派遣し、校外実習、授業・実験実習参加、個人研究を実施

（平成21年度）
- 大分高専で、平成20年度に引き続き、シンガポール・ポリテクニックに海外インターンシップとして学生を派遣し、校外実習、授業・実験実習参加、個人研究を実施
- 有明高専で、学生17名をシンガポール・ポリテクニックへ派遣し、キャンパスツアー、英会話レッスン、課外活動体験、ホームステイを実施


交流会参加者多数

説明に聞き入るポリテクニック学生

短期英語研修（海外研修旅行）

交流会昼食風景（海外研修旅行）

何のパフォーマンス？

みんな元気一杯

外国人講師による授業（情報通信工学）

外国人講師による授業（技術英語）

**○教員交流**

熊本高専・熊本キャンパスではテマセク・ポリテクニックより教員を招聘し英語による専門科目の授業を展開しています。4年次、5年次の科目で4科目（各科目1単位）を6月と10月に一週間の集中講義として実施し、学生の英語力向上にも繋がっています。平成20年度の英語による授業科目は電子制御工学演習、技術英語、情報通信工学、ソフトウエア工学でした。

## 3 ポリテクニックの概要

**◎シンガポールのポリテクニック**

シンガポールのポリテクニックは、学位取得レベルの実践的な学問を提供する目的で設立されました。現在、シンガポールには5つのポリテクニックがあります。

ポリテクニックでは、エンジニアリング、ビジネス、マスコミュニケーション、情報通信などにおける広範なコースを提供しています。また、特定のキャリアニーズに応えて、検眼、海洋エンジニアリング、海洋学、看護学、幼児教育、映画などのコースも用意されています。

ポリテクニックの卒業生は、実践的なスキルとニューエコノミーに関係のある経験を身につけているので就職に有利です。

（シンガポール政府HPより引用
http://www.singaporeedu.gov.sg/jp/htm/stu/stu0105.htm）

ポリテクニックは図1で見るように高専の学年で言うと2学年から4学年に該当します。

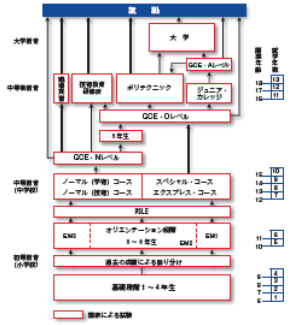


図1　シンガポールの教育体系
（出典：財団法人自治体国際化協会HP
http://www.clair.or.jp/j/forum/forum/gyosei/075/INDEX.HTM）

資料５－６－②－３

平成21年度　専攻科インターシップまとめ

| 科目名 | 学籍番号 | 履修者 | 実習／研修先 | 実習／研修期間 |
|---|---|---|---|---|
| グローバルインターンシップ | [redacted] | | シンガポール英語キャンプ | 2009/8/16-8/25 |
| グローバルインターンシップ | | | シンガポール英語キャンプ | 2009/8/16-8/25 |
| 長期インターンシップ | | | 新日鉄 | 2009/8/17-8/28 |
| 長期インターンシップ | | | 新日鉄 | 2009/8/24-9/11 |
| 長期インターンシップ | | | 豊橋技術科学大学 | 2009/8/31-9/24 |
| 長期インターンシップ | | | 豊橋技術科学大学 | 2009/8/31-9/18 |
| 長期インターンシップ | | | NTT基礎研究所 | 2009/8/24-9/18 |
| 長期インターンシップ | | | 豊橋技術科学大学 | 2009/8/31-9/18 |
| 長期インターンシップ | | | オルタスジャパン | 2010/3/1-3/31 |
| 長期インターンシップ | | | トーセ沖縄 | 2009/8/31-9/18 |
| 長期インターンシップ | | | 琉球大学理学部 | 2009/8/22-9/27 |

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

専門共通科目「創造システム工学実験」で創造性を育む教育方法の工夫がなされている。また，「グローバルインターンシップ」と「長期インターンシップ」が活用されている。

以上から，創造性を育む教育方法の工夫やインターンシップの活用が行われている。

**観点５－６－③：　教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され，活用されているか。**

（観点に係る状況）

準学士課程と同様に，学士課程でもシラバスが作成されている。科目と専攻科教育目標との対応関係や個々の授業目標，評価方法，関連科目，授業内容，自学自習として課す内容などが明記されている（資料５－６－③－１）。授業進行にともない，シラバスを変更する必要がある場合は，シラバスを修正し，学生に周知し，修正したシラバスを保存している。

資料５－６－③－１

| 科目名 | 応用統計学 | 英文表記 | Applied Statistics | 22 年 6 月 11 日 |
|---|---|---|---|---|
| 教員名：太田　佐栄子<br>技術支援： | | | | 修　正 |

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業形態 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 情報工学コース | 2 | 選択 | 学修 | 2 | 講義 | 半期 |

| | |
|---|---|
| 目　標 | ・多変量解析の考え方と基本知識を習得する<br>・重回帰分析、主成分分析、因子分析、正準相関分析、判別分析の手法を理解する<br>・多変量データについて目的にあった分析方法を選択でき、計算ができる |

| 高専目標 | (1) | (2) | (3) | (4) | JABEE プログラム名称 | メディア情報工学 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ◎ | | JABEE プログラム教育目標 | A-1,B-1,B-2,B-3,C-4 |

| | |
|---|---|
| 授業概要、方針、履修上の注意 | 複数の項目について同時に調査が行われた資料の分析に有効な多変量解析について学ぶ。代表的な５つの手法について考え方と基本知識を学び、多変量データに手法を適用する。<br>授業は講義形式で行う。復習用プリントを配布する。単元の終わりにごとにデータを分析するレポートを課す。 |
| 評価方法 | 復習プリント 20%、６回のレポート 80%で評価する。 |
| 教科書・教材 | 「図解でわかる多変量解析」（日本実業出版社） |
| 参考図書 | 「R で学ぶデータサイエンス２　多次元データ解析法」（共立出版） |
| 関連科目（学年） | 「確率・統計」（本科４年）、「パターン認識」（専攻科２年） |

**授　業　計　画**

| 授業項目 | 時間 | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1. 多変量解析とは | 2 | 授業ガイダンス。多変量データの特徴について学ぶ |
| 2. 多変量解析の準備 | 2 | 共分散、相関係数、データの標準化、正規分布について確認する |
| 3. 重回帰分析（1） | 2 | 回帰方程式について学ぶ |
| 4. 重回帰分析（2） | 2 | 重回帰分析の評価について学ぶ |
| 5. 主成分分析（1） | 2 | 主成分の意味と計算方法を学ぶ |
| 6. 主成分分析（2） | 2 | 寄与率について学ぶ |
| 7. 因子分析（1） | 2 | 因子モデルについて学ぶ |
| 8. 因子分析（2） | 2 | ＳＭＣ法による因子分析について学ぶ |
| 9. 因子分析（3） | 2 | 回転の不定性、因子分析と主成分分析との関係について学ぶ |
| 10. 正準相関分析（1） | 2 | 正準相関係数について学ぶ |
| 11. 正準相関分析（2） | 2 | 寄与率と冗長性係数について学ぶ |
| 12. 判別分析（1） | 2 | 線形判別関数について学ぶ |
| 13. 判別分析（2） | 2 | 誤判別確率について学ぶ |
| 14. 多変量解析の適用 | 2 | 目的にあった分析を行うことについて学ぶ |
| 15. まとめ | 2 | 代表的な分析手法について知識を確認する |
| **学習時間合計** | **30** | **実時間** | **25** |

**学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など）**

・復習プリント

・単元の終わり（第４、６、９、１１、１３、１４回）にレポートを課す

（出典　シラバス）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科教育目標との対応関係が明記されたシラバスが作成され，授業目標や授業内容，評価方法，関連科目，自学自習内容が明記されている。

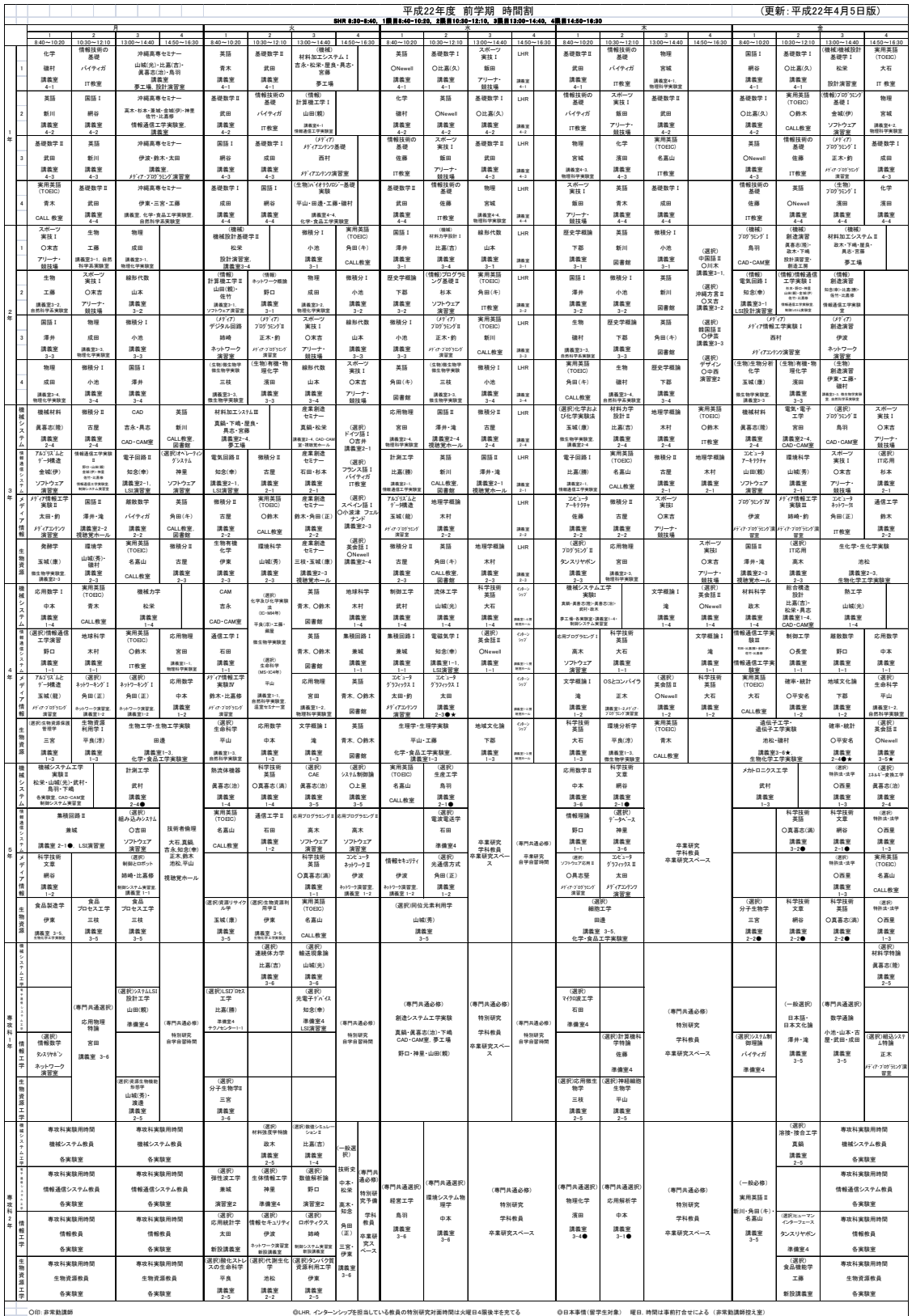
以上から，教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され，活用されている。

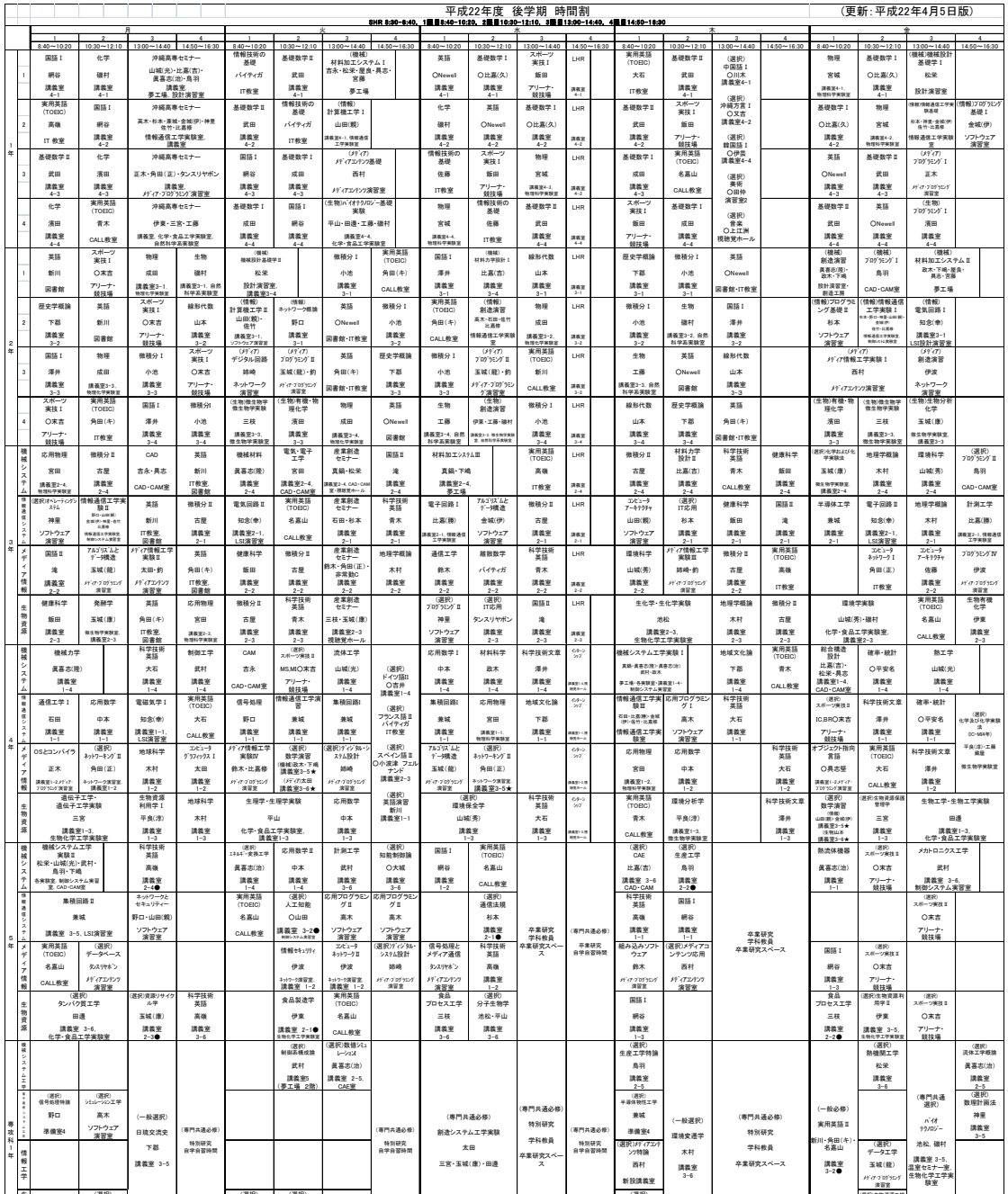
**観点５－７－①：　専攻科で修学するにふさわしい研究指導（例えば，技術職員などの教育的機能の活用，複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。）が行われているか。**

（観点に係る状況）

専攻科での研究指導は「特別研究」で実施している。「特別研究」は，２年間で14単位の必修科目で，時間割上にも第１学年は６単位時間，第２学年は８単位時間を配置し，十分な時間を確保している（資料５－７－①－１）。研究テーマは学生個別に特別研究担当教員の指導のもとで決定し，研究を遂行している（資料５－７－①－２）。また，「特別研究」の中間審査や最終審査などで指導教員以外の教員や技術職員の助言を受ける機会がある（資料５－７－①－３）。

資料５－７－①－１


平成22年度　前学期　時間割
（更新：平成22年4月5日版）
SHR 8:30~8:40，1限目 8:40~10:20，2限目 10:30~12:10，3限目 13:00~14:40，4限目 14:50~16:30
月
火
木
金
1 8:40~10:20
2 10:30~12:10
3 13:00~14:40
4 14:50~16:30
1年
2年
3年
4年
5年
専攻科1年
専攻科2年
機械システム
情報通信システム
メディア情報
生物資源
専攻科1年
情報工学
生物資源工学
専攻科2年
情報工学
生物資源工学
◎印：非常勤講師
★：新設講義室はメディア棟3階メディアホール内（視聴覚ホール前）に新設された講義室
●印：1～3年生の自教室を他学年／学科が講義で利用することを意味する
★印：使用する教室について注意
◎LHR，インターンシップを担当している教員の特別研究対面時間は火曜日4限後半を充てる
◎日本事情（留学生対象）　曜日，時間は事前打合せによる（非常勤講師控え室）
◎日本語（留学生対象）　曜日，時間は事前打合せによる（非常勤講師控え室）




（出典　平成22年度時間割）

資料５－７－①－２

主な研究成果

・　機械システム工学コース

・亀島洋平，レーザピーニング処理した Ti-6Al-4V 合金の回転曲げ疲労特性，日本材料学会　第 14 回破壊力学シンポジウム（2009 年 10 月）

・　情報工学コース

・榮門恒希，形状ベースパターンマッチングを利用した QR コード追跡，電気学会産業システム情報化研究会(2009 年 9 月)

・鈴木裕太，画像処理を用いた三次元移動ロボットの制御に関する研究，電気学会産業システム情報化研究会(2009 年 9 月)

・喜納希美，GPS 情報を用いた海岸清掃ロボットの開発，電気学会産業システム情報化研究会（2009 年 9 月）

・　電子通信システム工学コース

・崎原孫周，強制振動モデルによる発振器の位相雑音解析，2009 年電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会（2009 年 9 月）

・照屋尚樹，コルゲート導波管フィルタの阻止帯域に関する検討，2009 年電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会（2009 年 9 月）

・山城信裕，工学実験における簡便な動画教材作成法の検討，日本 e ラーニング学会 2009 年秋季学術講演会（2009 年 9 月）

・伊波慧，小型組込み機器への暗号システムの実装，平成 21 年度電気学会産業システム情報化研究会，（2009 年 9 月）

・知念輝佳，感性表現の異なる舞踊動作を用いた注視情報の比較，第 19 回インテリジェント・システム・シンポジウム（2009 年 9 月）

・福地賢，グラフコストの逐次更新を用いた映像顕著領域の自動抽出，電子情報通信学会　パターン認識・メディア理解研究会，(2009 年 5 月)

・亀濱博紀，ヘリカル・グリッドパラボラアンテナを用いた WiMAX 送受信リンクの設計と評価，平成 21 年度電気学会・電子情報通信学会合同講演会（2009 年 12 月）

・大嶺貴充、非破壊検査法による実装回路評価の一考察　第 17 回電子情報通信学会九州支部学生会講演会（2009 年 9 月）　　他 14 件

・　生物資源工学コース

・大嶺和可奈，沖縄産カンショ（*Ipomoea batatas L.*）茎葉の抗酸化活性に関する研究，日本薬学会(2009 年 3 月)

・小川和香奈，沖縄県久米島に自生する菌根性担子菌の分離と同定，日本キノコ学会(2009 年 9 月)

・祝嶺愛里，紫外線による C6 細胞の損傷評価および植物抽出液による NO 産生抑制効果，日本皮膚科学会(2009 年 4 月)

・目取真拓人，熱帯果実の高度利用の検討，日本生化学会(2009 年 10 月)

・安間智美，キンミズヒキ（*Agrimonia pilosa Ledab*）のＬＰＳ誘導ＲＡＷ２６４．７マクロファージ系細胞によるＮＯ産生抑制成分，日本薬学会(2009 年 3 月)

（出典　参与の会報告学校概要　P. 49，50，51）

資料５－７－①－３

| 科目名 | 特別研究<br>（電子通信システム工学コース） | 英文表記 | Advanced Research | H22 年<br>6 月 17 日<br>修正 |
|---|---|---|---|---|

**教員名：高木茂、石田修己、知念幸勇、杉本和英、比嘉勝也、兼城千波、野口健太郎、神里志穂子、山田親稔、金城伊智子**
**技術支援：佐竹卓彦、比嘉修**

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業形態 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 創造システム工学専攻<br>（電子通信システム工学コース） | 1 | 必修 | 学修 | 6 単位 | 実験 | 通年 |
| | 2 | 必修 | 学修 | 8 単位 | 実験 | 通年 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **目　標** | 研究テーマに関する調査・課題設定・研究計画・実験・考察などを経て、社会に有用な新規性・独自性のある結論を導き、その成果を論文にまとめるという基礎的な研究能力を養う。関連する専門の基礎学力の向上に努め、最新の応用技術を調査し、研究内容について学術的に論述・発表できる論文作成能力・プレゼンテーション能力を養う。 | | | | | | |
| **専攻科目標** | **1** | **2** | **3** | **4** | **JABEE プログラム名称** | 情報通信システム工学コース | |
| | ○ | ◎ | ○ | ○ | **JABEE プログラム教育目標** | A-1, A-2, A-3,B-1,B-2, B-3,C-1,C-2, C-3 | |
| **授業概要、方針、履修上の注意** | 授業はコースの特別研究指導教員のもとで実施する。<br>授業期間は２年間とし、1 学年においては研究の基礎から中間段階まで取り組み、２学年において研究を完成させる。<br>研究テーマ詳細については、特別研究指導教員のテーマ内容（添付資料）を参照すること。 | | | | | | |
| **評価方法** | (1) １学年：研究テーマに関する取り組み具合の中間審査を実施する。評価は論文（報告書）、ポスター、口述発表　などのいずれか、またはその組み合わせにより行う。審査員は主査と２名の副査で構成し、評点は主査６０点、副査各２０点の配点による合計点とする。合計点６０点以上を合格とする。<br>(2) ２学年：研究テーマに関する取り組み具合の最終審査を実施する。評価は論文と口頭発表により行う。審査員は主査と２名の副査で構成し、評点は主査６０点、副査各２０点の配点による合計点とする。１学年における合計点×０．４と２学年における合計点×０．６を総合点する。総合点６０点以上を合格とする。<br>(3) 年間の特別研究を通じ、学協会での発表（論文、口頭、ポスターなど）を１件以上おこなうこと。また、研究成果を沖縄高専特別研究論文集に掲載すること。 | | | | | | |
| **教科書・教材** | | | | | | | |
| **参考図書** | 特別研究指導教員が提示する参考図書、および自ら検索した研究に関連する図書など | | | | | | |
| **関連科目（学年）** | すべての教科科目 | | | | | | |

**授　業　計　画**

| 授　業　項　目 | 時間 | 授　業　内　容 | |
|---|---|---|---|
| 1 学年特別研究 | 180 | 各特別研究テーマ参照 | |
| 2 学年特別研究 | 240 | 各特別研究テーマ参照 | |
| **学習時間合計** | **420** | **実時間** | **350** |

**学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など）**
1 学年：　図書館・研究室などにおける文献調査・予備実験　（90 時間）
2 学年：　研究室などにおける実験・論文作成　（120 時間）

（出典　シラバス）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科での研究は指導教員のもとで十分な時間を費やして遂行され，指導教員以外の教員や技術職員の助言を受ける機会がある。また，学位認定をめざし，学士にふさわしい研究の指導が行われている。

以上から，専攻科で修学するにふさわしい研究指導が行われている。

**観点５－８－①：　成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，修了認定が適切に実施されているか。**

（観点に係る状況）

成績評価，単位認定に関する規則は「沖縄工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則」（資料５－８－①－１）で，専攻科修了については学則（資料５－８－①－２）で定められている。これらは「学生生活の手引き」に記され周知されている。科目の成績は各担当教員がシラバスに記載した成績評価方法によって算出し，学期末に成績通知書として学生に送付される。また，成績を評価するための資料を保存している（資料５－８－①－３，資料５－８－①－４）。専攻科の科目は学修単位としているが，学習単位の定義は入学前の専攻科生に対しオリエンテーションを実施し周知している（資料５－８－①－５）。

専攻科修了は修了認定会議にて審議されるが，本校は専攻科設置から２年目であり修了認定会議は平成23年２月に初めて開催される予定である（資料５－８－①－６）。

資料５－８－①－１

# 沖縄工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則

（平成２１年２月１８日
規　　則　　第２号）

（趣旨）
第１条　この規則は、沖縄工業高等専門学校学則（平成１６年学則第１号。以下「学則」という。）第６８条の規定に基づき、専攻科の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定等に関し、必要な事項を定めるものとする。
（授業方法）
第２条　専攻科の授業は、講義、演習、実験若しくは実習のいずれか、又はこれらの併用により行うものとする。
（履修方法）
第３条　専攻科に開設する授業科目の履修に当たっては、年度当初に、別に定める「受講申告書」を所定の期日までに校長に、提出しなければならない。
２　前項の規定に基づき提出された「受講申告書」について、校長が必要と認めるときは、「受講申告書」の再提出を求めることができる。
（試験）
第４条　試験は、定期試験、追試験及び再試験とする。
２　定期試験は、前学期末及び後学期末に実施する。
３　追試験は、次の各号の一に掲げる事由により定期試験を受験することができなかった者のうち、別に定める「追試験受験願」を所定の期日までに科目担当教員及び専攻科長を経て校長に提出し、その許可を得た者に対し実施する。
(1) 病気
(2) 忌引
(3) その他やむを得ない事由があると校長が認めた場合
４　再試験は、第５条に定める成績の評点が６０点未満であった者のうち、別に定める「再試験願」を所定の期日までに科目担当教員及び専攻科長を経て校長に提出し、その許可を得た者に対し実施する。
（成績の評価）
第５条　成績は、授業科目ごとに第４条に規定する試験の成績その他を総合して評点で評価する。
２　成績の評語及び評点は、次の区分による。

| 学業成績の評価 | 評語 |
|---|---|
| １００点～　９０点 | S |
| ８９点～　８０点 | A |
| ７９点～　７０点 | B |
| ６９点～　６０点 | C |
| ５９点～　　０点 | F |

３　前項の評価は、各授業科目とも出席すべき授業時間数の３分の２以上の出席をしたものに対して行う。
４　再試験により合格した授業科目の評点は、６０点とする。
（単位の認定）
第６条　前条第２項の規定に基づき、評語がＳ、Ａ、Ｂ及びＣに評価された授業科目については、当該授業科目を修得したものとして、単位を認定する。

（再履修）
第７条　第４条第１項に規定する試験の結果、Ｆに評価された授業科目のうち、修得する必要がある授業科目については、原則として次年度に再履修するものとする。
（修了要件）
第８条　専攻科の修了要件は、学則第６６条第１項に規定するもののほか、一般科目８単位以上、専門共通科目３４単位、専門科目２０単位以上修得しなければならない。
（修了認定）
第９条　専攻科の修了認定は、沖縄工業高等専門学校修了認定会議の議を経て、校長が行う。
（雑則）
第１０条　この規則に定めるもののほか、専攻科の授業科目の履修等に関し必要な事項は、別に定める。

附　則（平２１．２．１８規則第２号）
この規則は、平成２１年４月１日から施行する。



（出典　沖縄工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則）

資料５－８－①－２

と同等以上の学力があると認めた者
(7) その他専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（入学者の選抜、入学の許可）
第６３条 校長は、専攻科の入学志願者について、別に定めるところにより選抜を行う。
２ 校長は、前項により選抜した者で、第４２条に規定する入学料を納付した者又は入学料免除又は徴収猶予の申請書を受理された者に対して、入学を許可する。

（教育課程）
第６４条 専攻科の授業科目及び単位数は、別表第４のとおりとする。
２ 授業科目の単位計算方法は、１単位の履修時間を教室内及び教室外をあわせて４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の各号の基準によるものとする。
(1) 講義及び演習については、１５時間から３０時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって１単位とする。
(2) 実験及び実習については、３０時間から４５時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって１単位とする。

（休学の期間）
第６５条 専攻科学生の休学の期間は、通算して２年を超えることができない。
２ 休学の期間は、第６１条に定める修業年限及び在学期間に算入しない。

（修了）
第６６条 専攻科に２年以上在学し、所定の授業科目を履修し、６２単位以上を修得した者については、修了を認定する。
２ 校長は、修了を認定した者に対し、所定の修了証書を授与する。

（準用規定）
第６７条 専攻科学生については、第１３条から第１７条まで、第２０条、第２１条、第２８条、第３０条第１項及び第２項、第３１条から第３３条、第３５条、第３７条、第４１条から第４９条、第５１条から第５６条、第５７条第１号、第２号、第４号及び第５号までの規定を準用する。この場合において、第２０条中「３０単位」とあるのは「８単位」と、第２１条第２項中「３０単位」とあるのは「８単位」と、第３７条第１項及び第２項中「外国の高等学校又は大学」とあるのは「外国の大学等」と、同条第２項中「３０単位」とあるのは「８単位」と、第５７条第２号中「第３０条」とあるのは「第６５条」とそれぞれ読み替えるものとする。

（その他）
第６８条 本章に定めるもののほか、専攻科に関する必要な事項は別に定める。

## 第１２章　学生寮

（学生寮）
第６９条　本校に、学生寮を置く。
２　第１学年及び第２学年の学生は、校長が特に認めた者を除き学生寮に入寮しなければならない。
３　学生寮の運営その他必要な事項は、別に定める。

（出典　沖縄工業高等専門学校学則　抜粋）

資料５－８－①－３

教員各位　(CC.総務係，教務係)

比嘉@情報通信_JABEE 委員です。

平成 22 年度の成績保存のファルダを下記のところに作成いたしました。

¥¥Aquarius.ad.okinawa-ct.ac.jp¥public¥FD¥成績評価資料¥平成 22 年度

中間試験を実施された教員の方は,上記の担当科目のフォルダに成績等の
資料の保存をお願いいたします。

保存は 7 月末までにお願いいたします。

本年度は認証評価、来年度は JABEE 審査受審の年となっております。

両審査とも成績保存は重要な審査項目となっております。教員の皆さんの
ご協力が必要となっております。

何卒よろしくお願いいたします。

_/_/_/

資料５－８－①－４

平成 21 年 8 月 28 日

成績評価資料保存方法

自己点検評価委員会

1　定期試験

実施した中間試験・期末試験全てについて、以下のものを電子化した上保存してください

・試験問題
・模範解答
・答案（全学生のもの）

2　小テスト

実施した全ての小テストについて、以下のものを電子化した上保存してください
複数回、小テストを実施した場合は、適宜フォルダを作成してください

・試験問題
・模範解答
・答案（全学生のもの）

3　レポート

実施したすべてのレポートについて、以下のものを電子化した上保存してください
複数回、レポートを実施した場合は、適宜フォルダを作成してください

・レポート課題
・全ての学生のレポート

CAD のようにファイル内容の確認に特別な環境（ソフト）が必要な場合は、
保存の対象から除外し、点数化した成績表（書式は特に定めない）のみを「成績評価表」
フォルダに保存してください（様式自由）。

4　ノート（ノートを成績評価に用いる場合）

当該ノートが反映される成績（前期期末、後期期末など）が確定した時点で、
最上位２名、ボーダーの前後それぞれ２名（60 点以上で最も点数の低い 2 名と 59 点
以下で最も点数の高い 2 名）の 6 名分のノートを電子化した上、「その他」フォルダに
保存してください。成績に 60 点以下の者がいない場合は 4 名分となります。
その他の学生については保存の必要はありません。点数化した成績表（書式は特に定めない）を
「成績評価表」フォルダに保存してください。

5　成績一覧表

各科目の「成績評価表」フォルダに予め用意してある成績一覧表.xls に必要事項を記入してください。

6　成績評価資料保存チェックシート

各科目毎に要してある「成績評価資料保存チェックシート.xls」に保存状況を記入してください。

7　シラバス

すべての授業が終了した時点で授業の実施実績に修正したシラバスを保存してください。

（出典　自己点検・評価委員会資料）

資料５－８－①－５

資料　1

# 沖縄工業高等専門学校　専攻科オリエンテーション

日　時：平成 22 年 2 月 19 日（金）
　　10：25～11：30
場　所：視聴覚ホール
対象者：平成 22 年度専攻科入学予定者
　　専攻科生

専攻科オリエンテーション資料１　目次

専攻科の教育目標　・・・P　1
・専攻科の制度と特色
・専攻科の理念、目的、技術者像、教育目標、教育方針

学士の取得について　・・・P　3

JABEE について　・・・P　4
・沖縄高専の教育目標と JABEE 学習・教育目標

習得単位、教育課程表について　・・・P　5
・教育課程表（創造システム専攻科）

科目履修について　・・・P　8
・学修単位の時間
・習得単位
・インターンシップ

# 専攻科の教育方針について

## 専攻科の制度と特色

高専の専攻科は学校教育法（第 10 章第 119 条）の条文「高等専門学校には、専攻科を置くことができる」に基づいて設置されており、その内容は同条文２において、「高等専門学校の専攻科は、高等専門学校を卒業した者又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者に対して、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的とし、その修業年限は、１年以上とする」となっています。また、認定専攻科を修了した学生は大学評価・学位授与機構による所定の審査に合格することで学士の学位を取得することができます。沖縄高専は平成２１年２月に認定専攻科として認められました。大学評価・学位授与機構による短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定に関する規則の第２条において、認定専攻科の要件として「教育課程は、大学教育に相当する水準を有するものであること」が明記されています。従って，高専本科と大きく異なる点は、専攻科では大学と同等水準の教育を行うことがあげられます。さらに、教育水準の維持、向上のために活発な研究活動も位置づけられており、大学院の修士課程なみの教育が含まれているのも特長です。

近年、産業界では、複合専門分野における課題をシステム的、かつ創造的に解決する能力が求められています。沖縄高専では、実践性・創造性を兼ね備え、複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけたリーダーシップのある技術者、豊かな人間性と国際性をもつ技術者、課題設定・解決能力を持ち柔軟な思考ができる技術者の育成を目指して、専攻科名を「創造システム工学専攻」としています。創造システム工学専攻は、本科の関連科目と学位取得専門区分に対応するように、機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースの４コースから構成されています。

## 専攻科の理念、目的、技術者像、教育目標、教育方針

学校教育法の精神に則り、社会の要請に応えるために、沖縄高専専攻科は以下の理念、目的、技術者像、教育目標、教育方針を掲げています。

### 理念

人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する。

### 目的

高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工学に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、豊かな人間性と国際性を持ち、実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけ、課題設定・解決能力に優れ柔軟な思考ができる高度開発型の技術者を育成する。

## 育成しようとする技術者像

① 実践性と創造性を兼ね備えた技術者
② 社会や環境、人類の福祉などを地球的視点で考えられる技術者
③ グローバル化時代に対応する国際性豊かな技術者
④ コミュニケーション能力と統率力を兼ね備えた指導的技術者
⑤ 新技術・新産業創出を担う高度な専門技術力を持つ研究開発型技術者
⑥ 地域産業を担う起業家精神旺盛な技術者

## 教育目標

① 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する。
② 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する。
③ 専門知識を基にした応用力をもち、自ら成長できる人材を育成する。
④ 地球的視野と倫理観を備え社会に貢献できる人材を育成する。

## 教育方針

本科５年間の専門基礎教育の上に、更に２年間のより高度な専門教育を行います。専門教育では実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけたリーダーシップのある技術者、豊かな人間性と国際性をもつ技術者、課題設定・解決能力をもち柔軟な思考ができる技術者の育成を目指します。機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースと関連の深い本科の教育課程を基礎として、それぞれの専門性を更に高めながら、異なる専門分野にも対応し、実践的な研究の課題設定・解決を目指す教育課程を編成します。経済産業界における実践的な技術応用を学ぶために、企業等と連携した共同教育を推進します。

## 教育課程の編成方針

① 一般科目においては、豊かな人間性と国際性を涵養するための科目を設ける。
② 専門共通科目においては、専攻科の高度な専門科目と効果的に連携する数学、物理、化学等の専門基礎科目を置き、産業・環境・技術などの複合分野で視野を広げるための科目を設ける。学生が共通に取り組む融合・複合的な内容で実践的・体験的に学ぶ科目を設ける。また、学外における企業実習の科目を設け、課題解決型の長期間実習や国際性を身につける実習が行えるようにする。
③ 本科５年間の専門基礎科目を発展・深化させた専門科目を設け、いくつかの専門基礎科目をもとに学際的・複合的な専門科目を設けて、幅広い分野に対応できる技術教育を行う。
④ 本専攻科は、機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースの４コースで構成し、それぞれの専門分野で、本科の基礎技術教育の上に、更に２年間のより高度な専門技術教育を行う。
⑤ 講義を主としながらも実験・実習・実技・演習などを効果的に取り入れた実践・体験的な科目を設け、研究・開発分野で活躍できる課題設定・解決能力をもつ技術者を育成するために特別研究に多くの時間を配分する。他の異なるコースの専門科目についても履修できるようにする。

## 学士の取得について

沖縄高専専攻科は認定専攻科として認められており、大学評価・学位授与機構による学位授与を申請することができます。申請手続きについては、機構より出されている「新しい学士への途」という冊子に詳細に記述されています。この冊子の内容は大学評価・学位授与機構のホームページからダウンロードすることができます。　専攻科の学生は必ず機構のホームページにアクセスして入手してください。

学士の取得までのプロセスを下記に示しますので、入学後から計画的な取り組みを始めてください。

① 取得しようとする学位の専門分野、専攻区分を明確にする。

② 修得すべき専門科目と関連科目の単位、および専攻に係る単位以外の単位を計画的に修得する。

③ 学修成果レポートの課題・内容について計画的に準備する。学修成果レポートは、課題について根拠に基づき自分の考察・意見を論述したものです。この趣旨に基づいて、卒業研究や特別研究などをベースに作成します。この学修成果レポートとレポート内容に関する小論文試験（筆答試験）の総合判定で合否が決まります。学修成果レポートの作成にあたっては下記の注意点に留意してください。

1) 学位の取得を希望する専攻の区分に即した特定のテーマ（課題）を設定すること。
2) 設定したテーマ（課題）の目的や意義が明確に示されていること。
3) 設定したテーマについての関連する文献や資料等（先行研究）による学修が踏まえられていること。また、その内容についての十分な知識・理解に基づいて書かれたものであること。
4) 設定したテーマに対して、適切な方法（文献研究,調査,実験など）を用いた学修がなされていること。また、その学修の内容や成果が十分に記述されていること。
5) 学修の成果に基づいて、自身の考察ならびに結論が述べられていること。
6) 結論に至る過程や考察の根拠が明瞭かつ論理的に述べられていること。
7) 文献・資料等の引用が適切になされていること。
8) 文章・図表等を引用する場合は、引用部分を「」等で明示するとともに、出典としてその著者名、文献名、発行年やページを明らかにすること。
9) 自身の意見や考察と参考文献からの引用等の内容とが判別できるように書かれていること。
10) レポートを作成する上で参考にした文献、資料等については、レポートの最後に適切な形式にしたがって参考文献としてまとめて提示すること。
11) 調査対象、調査方法、実験方法、実験材料、事例の選択等が適切であること。文献等から事例や用例を引用する際には、引用の根拠が十分に示されていること。また、調査や実験にあたり倫理的配慮が必要な場合には、十分な倫理的配慮がなされていること。
12) 調査結果の分析、実験結果の解析に適切な方法が用いられていること。（また、その方法を用いることの根拠が示されていること）
13) 用いた分析や解析の方法に対して、ふさわしいデータ（データ数、サンプル数、再現性など）が得られていること。
14) 調査結果、実験結果、開発した装置やプログラムなどについて十分な記述がなされていること。
15) 調査の分析結果や実験結果の解釈が明瞭に述べられていること。
16) 研究グループなどによる共同研究・調査に基づく場合には、そのことをレポート中に明記すること。ただし、自身の問題意識や考察、自身が共同研究・調査のなかで果たした役割が明確に示されていること。
17) 文章が簡潔、明瞭に書かれていること。誤字,脱字がないこと。
18) 図表等の書き方が適切であること。また、それらについての説明が十分なされていること。

学修成果レポートと小論文試験における不合格の理由として、　①学力が定着していない、②テーマ（課題）が不適切、③学修成果レポートの内容が水準に達していない、などがあげられています。専攻分野の基礎学力の定着、学修成果レポートの水準、記述内容の十分な理解、などについて、指導教員ともよく相談しながら準備してください。

# ＪＡＢＥＥについて

本校では、第１期生のプログラム修了後の平成２３年に次の４つの分野でJABEE審査を受けることを目指しています。JABEEにより認定された技術者教育プログラムの修了生は社会の要求水準を満たし、専門技術の知識と能力を備えた実践技術者であることが保証され、「修習技術者」の資格が与えられます。この資格を持っていると「技術士」の第一次試験が免除され、申請により「技術士補」の資格を得ることができます。

また、本校が平成２３年の審査において認定された場合には、第１期生からプログラム修了生となることができます。

| コース名 | ＪＡＢＥＥ受審分野 |
|---|---|
| **機械システム工学コース** | **機械および機械関連分野** |
| **電子通信システム工学コース** | **電気・電子・情報通信およびその関連分野** |
| **情報工学コース** | **情報および情報関連分野** |
| **生物資源工学コース** | **生物工学および生物工学関連分野** |

沖縄高専の教育目標とJABEE学習・教育目標

１．　沖縄高専本科の教育目標

学則第１条　沖縄工業高等専門学校は、豊かな人間性及び確固たる基礎能力と専門技術を身につけ、経済産業界の要請に的確に対応しつつ、国際的にも活躍できる創造的実践技術者を育成することを目標とする。

２．　掲げられた「8つの力」

学生生活の手引きより　本校の育成する人材は、技術者として自ら切り開いていくための「エンジン」、すなわち、社会の技術現場で中核的役割を担い、将来、産業界をリードし、以下に掲げる「力」を持ち、イノベーションを引き起こせる能力を持つ技術者です。

| 「8つの力」 | 対応するJABEE学習・教育目標 |
|---|---|
| ① 地球的思考力 ： 地球的視点及び共生の視点に立って物事を理解し、思考できる力 | (a)、(b) |
| ② 協調性・理解力 ： 他者及び他文化を尊重し強調して物事に取り組むことができる力 | (f) |
| ③ 表現力 ： ものごとや自己の考えを表現できる力 | (e)、(f) |
| ④ 実践力 ： 社会や組織における自己の位置と責任を自覚し、自ら必要な行動ができる力 | (b) |
| ⑤ 自己学習力 ： 技術に対する興味や関心を持続しつつ、自らを啓発できる力 | (g) |
| ⑥ 本質理解力 ： 科学技術の原理や本質を理解できる力 | (c)、(d) |
| ⑦ 基礎知識・理解力 ： 技術者として必要な基礎的知識と技術力 | (d) |
| ⑧ 創造性 ： 価値あるものを新たに作り出す能力 | (e)、(h) |

３．（参照）JABEE プログラムにおける学習・教育目標

（ａ）地球的観点から多面的にものごとを考える能力とその素養

（ｂ）技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解（技術者倫理）

（ｃ）数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力

（ｄ）該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを応用できる力

（ｅ）種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力

（ｆ）日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション能力

（ｇ）自主的、継続的に学習できる能力

（ｈ）与えられた制約の下で計画的に仕事を勧め、まとめる能力

## 修得単位，教育課程表

**各コースにおける履修方法、開設単位数及び修得すべき単位数，教育課程表は以下のとおりです。**

| 区　　分 | 開設単位 | 修得単位 |
|---|---|---|
| 一　般　科　目 | | |
| 必　　修 | ４ | ４ |
| 選　　択 | １２ | ４ |
| 小　　計 | １６ | ８ |
| 専門共通科目 | | |
| 必　　修 | ２２ | ２２ |
| 選　　択 | ２６ | １２ |
| 小　　計 | ４８ | ３４ |
| 専　門　科　目 | | |
| 選　　択 | | |
| （機械システム工学コース） | ２８ | ２０ |
| （電子通信システム工学コース） | ２６ | ２０ |
| （情報工学コース） | ３０ | ２０ |
| （生物資源工学コース） | ３０ | ２０ |
| 小　　計 | ２６～３０ | ２０ |
| 合　　計 | ９０～９４ | ６２以上 |

＊ただし、他コースの科目を６単位まで認める。

創造システム工学専攻

| 種別 | コース | 必修・選択の別 | 科目名 | 区分 | 単位数 | 学年別配当単位数 1年 | 学年別配当単位数 2年 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一般科目 | 全コース | 必修 | 実用英語Ⅰ | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 実用英語Ⅱ | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | 選択 | 日本語･日本文化論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 哲学･倫理学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 日琉交流史 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 国際政治経済学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 環境変遷学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | スポーツバイオメカニクス | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 修得単位計 | | 8 | 4 | 4 | |
| | | | 開設単位計 | | 16 | 8 | 8 | |
| 専門共通科目 | 全コース | 必修 | 特別研究 | 実験 | 14 | 6 | 8 | |
| | | | 創造システム工学実験 | 実験 | 4 | 4 | | |
| | | | 専攻科実験 | 実験 | 4 | | 4 | |
| | | 選択 | 物理学特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 数学通論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 応用解析学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 応用物理特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 物理化学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | バイオテクノロジー | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | バイオマス利用工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 品質･安全マネジメント特論 | 講義 | 1 | | 1 | |
| | | | 技術史 | 講義 | 1 | | 1 | |
| | | | 環境システム物理学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 経営工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 長期インターンシップ | 実習 | 4 | 4 | | 2年次選択可 |
| | | | グローバルインターンシップ | 実習 | 2 | | 2 | 1年次選択可 |
| | | | 修得単位計 | | 34 | 16 | 18 | |
| | | | 開設単位計 | | 48 | 22 | 26 | |
| 専門科目 | 機械システム工学コース | 選択 | 材料学特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 溶接･接合工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 連続体力学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 材料強度学特論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 数値シミュレーション　Ⅰ | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 数値シミュレーション　Ⅱ | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 生産工学特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 制御系構成論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 表面工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 輸送現象論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 流体工学概論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 熱機関工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | ロボット工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 技術管理概論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | 電子通信システム工学コース | | シミュレーション工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 数理計画法 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 生体情報工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 数値解析論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 信号処理特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | アルゴリズム理論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | マイクロ波工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | システムLSI設計工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 光電子デバイス | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 半導体物性工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 弾性波工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 電子機器工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | LSIプロセス工学 | 講義 | 2 | 2 | | |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 専門科目 | 情報工学コース | 選択 | 情報数学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | メディアコンテンツ特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 応用統計学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 組込システム特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | データ工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 情報セキュリティ特論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | ソフトウェア開発特論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 計算機科学特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | ロボティクス | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | ヒューマンインタフェイス | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | パターン認識 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | モバイル通信方式特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | システム制御理論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 光通信システム | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 適応処理特論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | 生物資源工学コース | | 神経細胞生物学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 資源生物機能形態学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 分子生物学II | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 植物工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 無機化学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 代謝生化学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 応用微生物学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 食品衛生工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 酵素化学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 醸造学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 生物資源の機能性科学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 酸化ストレスの生命科学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | タンパク質利用学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 食品化学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 食品機能学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | 他コースの選択科目 | | | | | | | 6単位まで認める |
| | 修得単位計 | | | | 20 | 10 | 10 | |
| | 開設単位計 | | | | 114 | 64 | 50 | |
| 修得単位計 | | | | | 62 | 30 | 32 | |
| 開設単位計 | | | | | 178 | 94 | 84 | |

# 専攻科科目履修について

・ **学修単位の時間**

専攻科の授業は大学と同じ学修単位です。学習時間は本科の場合の 1.5 倍程度にとなっていますので、自学自習時間の確保に注意してください。

15時間の授業時間と30時間の自学自習で1単位とする2単位の科目




30時間の授業時間と15時間の自学自習で1単位とする4単位の科目







16単位取得する場合の時間割の例

・ **修得単位**

学年別配当の修得単位数に従って修得してください.

・ **インターンシップ**

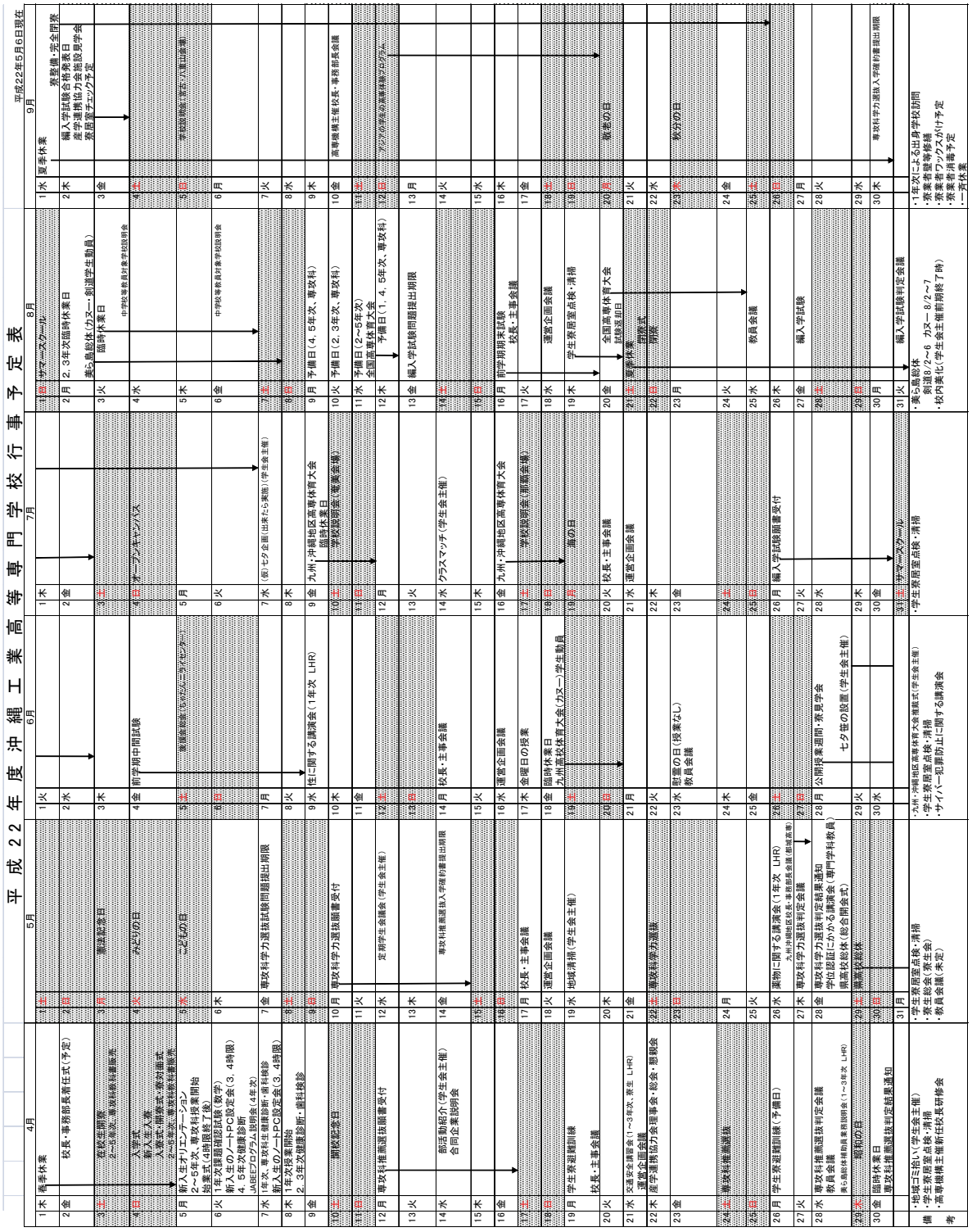
長期インターンシップ：期間（4 週間）、内容（課題解決型、特別研究との関連等）、受け入れ先企業、などを確定してから、履修届けを出し、単位認定されるかどうかについてインターンシップ担当教員の判断を仰いでください。

グローバルインターンシップ：国、受け入れ機関、実習プログラム、などを確定してから履修届けを出し、単位認定されるかどうかについてインターンシップ担当教員の判断を仰いでください。



（出典　学生課資料）

資料５－８－①－６


平成２２年度沖縄工業高等専門学校行事予定表
平成22年5月6日現在
4月
5月
6月
7月
8月
9月
1木 春季休業
2金 校長・事務部長着任式（予定）
3土 創校記念日
2～5年次、専攻科教科書販売
4日 みどりの日
入学式
新入生入寮
入寮式・開寮式・寮対面式
2～5年次、専攻科教科書販売
5月 新入生ガイダンス
2～5年次、専攻科授業開始
始業式（4時間終了後）
6火 1年次健康確認試験（数学）
新入生のノートPC設定会（3．4時間）
4．5年次健康診断
JABEEプログラム説明会（4年次）
7水 1年次、専攻科生健康診断・歯科検診
新入生のノートPC設定会（3．4時間）
8木 1年次授業開始
2．3年次健康診断・歯科検診
9金
10土 開校記念日
10月 専攻科学力選抜願書受付
11火
11日
12月 専攻科推薦選抜願書受付
12水
13火
13木
14水 部活動紹介（学生会主催）
合同企業説明会
15木
15金
16金
17土
17月 校長・主事会議
18火 運営企画会議
18金 臨時休業日
19月 学生寮避難訓練
19水 地域清掃（学生会主催）
校長・主事会議
20火
20木
21水 交通安全講習会（1～3年次、寮生 LHR）
運営企画会議
21金
22木 産学連携協力会理事会・総会・懇親会
22火 専攻科学力選抜
22金
23金
23日
24月 専攻科推薦選抜
24木
24日
25火
25金
26月 学生寮避難訓練（予備日）
26水 薬物に関する講演会（1年次 LHR）
九州沖縄地区校長・事務部長会議（那覇高専）
27木 専攻科学力選抜判定会議
27日
28水 専攻科推薦選抜判定会議
教員会議
28金 専攻科学力選抜結果通知
寮生面談（1～3年次、LHR）
29木 昭和の日
29日
30金 臨時休業日
専攻科推薦選抜判定結果通知
31月
1火
2水
3木
4金 前学期中間試験
5土
5月
6日
6火
7水 （仮）モノ企画（出来たら実施）（学生会主催）
8木
8火
9水 性に関する講演会（1年次 LHR）
9金 九州・沖縄地区高専体育大会
臨時休業日
10土
10月 学校説明会（寮業者様）
11火
11金
12水 定期学生会議会（学生会主催）
12月
13火
13木
14水 クラスマッチ（学生会主催）
14木
15水
15金
16木
16金 九州・沖縄地区高専体育大会
17土
17木 金曜日の授業
学校説明会（清掃業者様）
18土
18金
19日
19月 九州高校体育大会（カヌー）学生動員
19水
19木
20火 校長・主事会議
20木
20金
21水 運営企画会議
21日
21月
22木
22火
23金 梨雪の日（授業なし）
教員会議
23日
23水
24木
24日
24火
25金
25日
25水
26木
26日
26月 編入学試験願書受付
27木
27日
27火
28金 公開授業週間・寮見学会
七夕笹の設置（学生会主催）
28日
28木
28水
29木
29日
29水
30金
30日
30木
31月
31日
31火
学校説明会（寮業者様）
編入学試験判定会議
寮業者・完全閉寮
編入学試験合格発表日
産学連携協力会施設見学会
寮居室チェック予定
中学校等教員対象学校説明会
中学校等教員対象学校説明会
学校説明会（寮業者様）
高専機構主催校長・事務部長会議
九州高校体育大会（カヌー）
・地域に generation 開かれた学生会主催）
・学生寮居室点検・清掃
・高専機構主催新任校長研修会
・九州・沖縄地区高専体育大会開催式（学生会主催）
・学生寮居室点検・清掃
・サイバー犯罪防止に関する講演会
・美ら島総体（カヌー 創progress学生動員）
・学生寮居室点検・清掃
・美ら島総体
創progress 8/2～6　カヌー 8/2～7
・校内美化（学生会主催前期終了時）
・1年次による出身学校訪問
・寮業者壁等修繕
・寮業者ワックスがけ予定
・寮業者消毒予定
・一斉休業

（出典　平成22年度学校行事予定表）

（分析結果とその根拠理由）

成績評価，単位認定に関する規則が定められ，修了については学則で定められている。これらの規則，学則は「学生生活の手引き」に明記され，学生に配布し，周知している。各科目の成績はシラバスに記載した評価方法によって評価され，規則に従って単位認定されている。第１期生の修了認定は今後行われる予定である。

以上から，成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され，学生に周知されている。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されている。修了認定はまだ実施されていない。

### （２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

第１学年全学共通専門科目「高専セミナー」や第２学年全学共通専門科目「創造演習」で創造性を育む教育方法の工夫がなされている。本校の教育の特色のひとつとして，授業にPBLを導入することを謳い，科目の配当学年や授業内容の特徴に応じてPBLを実施している。

専攻科課程について，専門共通科目「創造システム工学実験」で創造性をはぐくむ教育方法の工夫がなされている。

（改善を要する点）

該当なし

### （３）基準５の自己評価の概要

＜準学士課程＞

準学士教育課程は本校の目的，本科教育目標が達成されるように授業科目を設定し，学年進行に伴って段階的に履修ができるように適切に配置されている。本科教育目標と科目との関係は対応表によって示され，シラバスや関連図によって提示されている。

一般科目や専門科目で実験室や演習室を利用した学習指導，情報機器を活用した指導，教材の電子化の工夫がなされている。また，教員はオフィスアワーを設定し学生の質問に応えるしくみがある。よって，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

シラバスは適切に作成され，学生へ周知し，活用されている。さらに，授業評価アンケートでシラバスの活用について確認している。

第１学年専門科目「高専セミナー」や第２学年専門科目「創造演習」で創造性を育む教育方法の工夫がなされている。本校の教育の特色のひとつとして，授業にPBLを導入することを謳い，科目の配当学年や授業内容の特徴に応じてPBLを実施している。インターンシップを必修科目とし，事前・事後学習も含めて活用されている。

科目の評価はシラバスに明記された方法で行われ，成績評価資料は保存されている。また，定期試験後に答案返却を行い，採点の質疑に応じるしくみがある。進級認定・卒業認定はそれぞれ進級認定会議，卒業認定会議において，規則に則して審議されている。

各担任は特別活動の実施に際し，教員便覧で定められた実施形態とテーマ例を参考に内容を計画し実施している。また，担任による学生や保護者との個人面談や，顧問による課外活動の指導，地域清掃や平和学習イベントなどの各種学校行事を通し，人間の素養の涵養がなされるように配慮している。

＜専攻科課程＞

専攻科課程は準学士課程の専門学科を母体とした４コースから構成されている。授業科目は専攻科教育目標と教育方針に基づき配置され，各コースで準学士課程と専攻科課程を含めた７年間で体系的な教育課程が編成されている。専攻科教育目標との対応関係が明記されたシラバスが作成され，活用されている。

専門共通科目「創造システム工学実験」で創造性をはぐくむ教育方法の工夫がなされている。また，「グローバルインターンシップ」と「長期インターンシップ」が活用されている。

専攻科での研究は指導教員のもとで十分な時間を費やして遂行され，学士にふさわしい研究の指導が行われている。

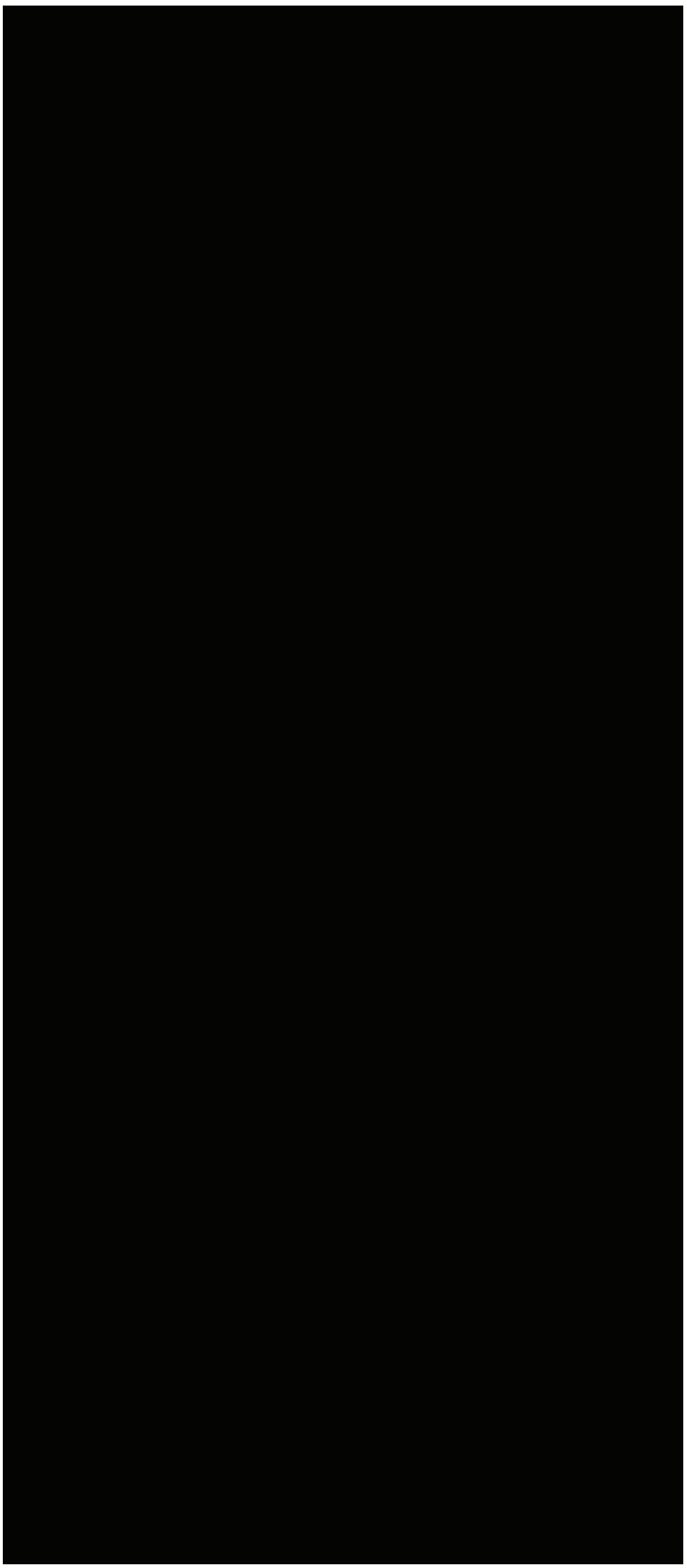
## 基準６　教育の成果

### （１）観点ごとの分析

**観点６－１－①：　高等専門学校として，その目的に沿った形で，課程に応じて，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。**

本校では，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力などの達成状況を把握・評価するため目標と科目との関係をまとめ確認できるようにしている（資料６－１－①－１，資料６－１－①－２)。また，科目ごとのシラバスに目標番号を明記しておくことで，どの目標に関連している科目なのか教員や学生が確認できるようにしている。シラバスの例を示す（資料６－１－①－３)。準学士課程，専攻科課程とも，カリキュラムに設定された科目を履修することにより卒業要件，修了要件を満たし，教育目標が達成できるように設計されており，科目の修得状況によって教育目標の達成状況を把握できる。各科目では到達目標を定めており，その達成度を定期試験，小テスト，レポートなどの方法で評価し，60点以上を合格としている。到達目標と成績評価の方法はシラバスに明記している（資料６－１－①－３，資料６－１－①－４)。達成状況の把握・評価は，学年終了及び卒業認定を行う進級認定会議，卒業認定会議において行われる（資料６－１－①－５，資料６－１－①－６)。各科目の修得状況は，学生の成績一覧表を作成し担任に配布されるが，必要に応じて他の教員も把握できるようになっている。

資料６－１－①－１



専攻科教育目標と科目との対応表

専攻科教育目標

| 番号 | 目　標 |
|---|---|
| 1 | 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する |
| 2 | 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する |
| 3 | 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する |
| 4 | 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する |

平成21，22年度入学者用

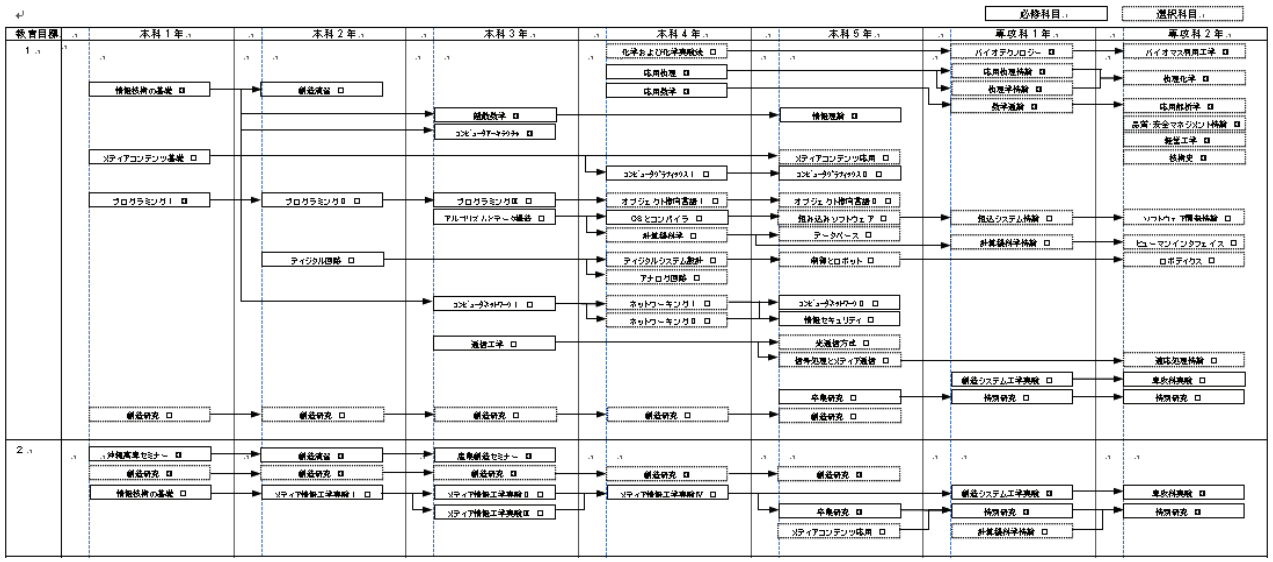
| 種別 | コース | 必修・選択の別 | 科　目　名 | 教育目標 番号 1 | 2 | 3 | 4 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一般科目 | 全コース | 必修 | 実用英語Ⅰ | ◎ | | | |
| | | | 実用英語Ⅱ | ◎ | | | |
| | | 選択 | 日本語・日本文化論 | | | | ◎ |
| | | | 哲学・倫理学 | | | | ◎ |
| | | | 日琉交流史 | | | | ◎ |
| | | | 国際政治経済学 | | | | ◎ |
| | | | 環境変遷学 | | | ○ | ◎ |
| | | | スポーツバイオメカニクス | | | | ◎ |
| 専門共通科目 | 全コース | 必修 | 特別研究（機械システム工学コース） | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| | | | 特別研究（電子通信システム工学コース） | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| | | | 特別研究（情報工学コース） | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| | | | 特別研究（生物資源工学コース） | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| | | | 創造システム工学実験 | ○ | ◎ | ○ | |
| | | | 専攻科実験（機械システム工学コース） | ○ | ◎ | ○ | |
| | | | 専攻科実験（電子通信システム工学コース） | ○ | ◎ | ○ | |
| | | | 専攻科実験（情報工学コース） | ○ | ◎ | ○ | |
| | | | 専攻科実験（生物資源工学コース） | ○ | ◎ | ○ | |
| | | 選択 | 物理学特論 | ◎ | | | ○ |
| | | | 数学通論 | ◎ | | | ○ |
| | | | 応用解析学 | ◎ | | | ○ |
| | | | 応用物理特論 | ◎ | | | ○ |
| | | | 物理化学 | ◎ | | | |
| | | | バイオテクノロジー | ◎ | | | |
| | | | バイオマス利用工学 | ◎ | | | |
| | | | 品質・安全マネジメント特論 | ○ | | | ◎ |
| | | | 技術史 | ○ | | | ◎ |
| | | | 環境システム物理学 | | | ◎ | ○ |
| | | | 経営工学 | ◎ | | | ○ |
| | | | 長期インターンシップ | | | ○ | ◎ |
| | | | グローバルインターンシップ | | | ○ | ◎ |
| 専門科目 | 機械システム工学コース | 選択 | 材料学特論 | ○ | | ◎ | |
| | | | 溶接・接合工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 連続体力学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 材料強度学特論 | ○ | | ◎ | |
| | | | 数値シミュレーション　Ⅰ | ◎ | | ○ | |
| | | | 数値シミュレーション　Ⅱ | ◎ | | ○ | |
| | | | 生産工学特論 | ○ | | ◎ | |
| | | | 制御系構成論 | ○ | | ◎ | |
| | | | 表面工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 輸送現象論 | ○ | | ◎ | |
| | | | 流体工学概論 | ○ | | ◎ | |
| | | | 熱機関工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | ロボット工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 技術管理概論 | ○ | | | ◎ |
| | 電子通信システム工学コース | | シミュレーション工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 数理計画法 | ○ | | ◎ | |
| | | | 生体情報工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 数値解析論 | ○ | | ◎ | |
| | | | 信号処理特論 | ○ | | ◎ | |
| | | | アルゴリズム理論 | ○ | | ◎ | |
| | | | マイクロ波工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | システムLSI設計工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 光電子デバイス | ○ | | ◎ | |
| | | | 半導体物性工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 弾性波工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 電子機器工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | LSIプロセス工学 | ○ | | ◎ | |
| 専門科目 | 情報工学コース | 選択 | 情報数学 | | | ◎ | |
| | | | メディアコンテンツ特論 | | | ◎ | |
| | | | 応用統計学 | | | ◎ | |
| | | | 組込システム特論 | ○ | | ◎ | |
| | | | データ工学 | | | ◎ | |
| | | | 情報セキュリティ特論 | ○ | | ◎ | |
| | | | ソフトウェア開発特論 | ○ | | ◎ | |
| | | | 計算機科学特論 | ○ | ○ | ◎ | |
| | | | ロボティクス | ○ | | ◎ | |
| | | | ヒューマンインタフェイス | | | ◎ | |
| | | | パターン認識 | | | ◎ | |
| | | | モバイル通信方式特論 | | | ◎ | |
| | | | システム制御理論 | | | ◎ | |
| | | | 光通信システム | | | ◎ | |
| | | | 適応処理特論 | ○ | | ◎ | |
| | 生物資源工学コース | | 神経細胞生物学 | | ○ | ◎ | |
| | | | 資源生物機能形態学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 分子生物学II | ○ | | ◎ | |
| | | | 植物工学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 無機化学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 代謝生化学 | | ○ | ◎ | |
| | | | 応用微生物学 | ○ | ○ | ◎ | |
| | | | 食品衛生工学 | ○ | | ◎ | ○ |
| | | | 酵素化学 | | ○ | ◎ | |
| | | | 醸造学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 生物資源の機能性科学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 酸化ストレスの生命科学 | ○ | | ◎ | |
| | | | タンパク質資源利用学 | | ○ | ◎ | |
| | | | 食品化学 | ○ | | ◎ | |
| | | | 食品機能学 | ○ | | ◎ | |

（出典　教務委員会資料　抜粋）

資料６－１－①－２

教育目標と専門科目の関連図【メディア情報工学科、情報工学コース】

| 本科教育目標 | | 専攻科教育目標 | |
|---|---|---|---|
| 番号 | 目標 | 番号 | 目標 |
| １ | 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する。 | １ | 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する。 |
| ２ | 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する。 | ２ | 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する。 |
| ３ | 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する。 | ３ | 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する。 |
| ４ | 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する。 | ４ | 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する。 |




（出典　教務委員会資料　抜粋）

資料６－１－①－３

| 科目名 | データベース | 英文表記 | Database | H22年<br>6月 17日 |
|---|---|---|---|---|
| 教員名：神里 志穂子<br>技術支援： | | | | 修　正 |

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業形態 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 情報通信システム工学科 | 5年 | 選択 | 学修 | 2単位 | 講義 | 半期 |

| | |
|---|---|
| 目　標 | 1. データベースの役割に関して理解することができる。<br>2. データベース管理システムの機能を理解することができる。<br>3. リレーショナル型データベースを理解しSQL言語を習得することができる。<br>4. データベースの設計と管理技術を習得することができる。 |

| 高専目標 | | | | | JABEEプログラム名称 | 情報通信システム工学 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | | |
| | ○ | | ◎ | | JABEEプログラム教育目標 | A-3, B-1, B-3 |

| | |
|---|---|
| 授業概要、方針、履修上の注意 | 講義では，データベースの基本的な概念について理解を深め，データモデル，リレーショナルデータベース，SQL，オブジェクト指向データベース，データベース設計と管理技術、最新データベース関連技術について学習する。 |
| 評価方法 | 中間試験 30%・期末試験 50％とレポート 20％の割合で評価する。 |
| 教科書・教材 | 教員自作のプリント，パワーポイントのプレゼン資料 |
| 参考図書 | 「データベースのすべて」（日本実業出版社）「SQL Server で学ぶデータベース入門」（技術評論社）（他にも参考図書を探す場合のキーワード：データベース，SQL言語） |
| 関連科目（学年） | プログラミング I（本科 1年），II（本科 2年），III（本科 3年），アーキテクチャ（本科 3年），オペレーティングシステム（本科 4年），ソフトウェア工学（本科 4年），ソフトウェア開発実習（本科 5年） |

授　業　計　画

| 授業項目 | 時間 | 授業内容 | |
|---|---|---|---|
| 1. ガイダンス | 2 | 講義の進め方や課題の提出方法を説明する．DBの役割や概念を理解する。 | |
| 2. ファイル編成 | 2 | ファイル編成の基礎に関して学習する。 | |
| 3. DBMS | 4 | DBMSについて学習する。 | |
| 4. RDBMS | 4 | RDBMSについて理解する。 | |
| 5. 中間試験 | 2 | | |
| 6. SQL言語 | 2 | SQL言語を用いたDBの基本操作を学習する。 | |
| 8. データベースの設計と管理 | 2 | 正規化などデータベース設計の基本概念を学習する。 | |
| 9. データベースの設計手法 | 2 | データベースの設計手法に関して学習する。 | |
| 10. 分散型データベース | 2 | 分散型データベースの構造に関して理解する。 | |
| 11. オブジェクト指向データベース | 2 | オブジェクト指向DBの概念に関して理解する。 | |
| 12. Webとデータベース | 2 | Webとデータベースに関して学習する。 | |
| 13. Webデータベースの作成 | 2 | Webデータベースを作成する。 | |
| 14. XMLとデータベース | 2 | XMLとデータベースに関して学習する。 | |
| 学年末試験 | [2] | | |
| 学習時間合計 | 30 | 実時間 | 25 |

**学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など）**
SQL言語の学習及びWebデータベースの講義で課題を課す。

（出典　シラバス）

資料６－１－①－４

## ６　成績評価

成績の評価については，「沖縄工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則」によって規定されています。

**○授業科目の評価**

成績評価の方法は，授業科目や担当の教員によって異なります。シラバスでは，各授業科目の評価方法について，授業担当の教員が具体的に説明しているので，参考にしてください。

**○評価点と評語**

単位の認定は学年末成績によって行い，評価点数によって「Ｓ」から「Ｆ」までの成績がつけられます。成績が５９点以下（評語「Ｆ」）の科目は不合格となり，単位認定されません。

| 評価点（１００点満点） | 評　　語 |
|---|---|
| ９０点以上 | S |
| ８０～８９点 | A |
| ７０～７９点 | B |
| ６０～６９点 | C |
| ５９点以下 | F |

※評価は絶対評価で，どの評価点にも人数の制限はありません。

**○家庭への通知**

定期試験・中間試験が実施されてから約３週間後に，各学生の保護者の方々へ，その学生についての科目別評価点，学級・学科内席次，欠課時数，欠席日数等が記載されている個人別成績表が送付されます。これによって保護者は学生の学習の成果を知ることができます。

（出典　平成22年度学生生活の手引き　P.22，23抜粋）

資料６－１－①－５

## ７　学年の修了及び卒業の認定

**○学年修了の認定**

**当該学年における修得すべき科目の単位を修得（学年末成績がすべて６０点以上（評語「C」以上）であること）すると進級できます。**

また，**５９点以下の科目**がある場合でも，以下の**①～④の条件をすべて満たしている学生**は，進級認定会議の審議結果により**仮進級**が可能になります。

① その学年で修得※1すべき科目をすべて履修※2していること
② 第１学年，第２学年及び第４学年においては，未修得の科目の単位数が１０単位以内であること。第３学年においては，第２学年まで修了し，未修得の科目の単位数が４単位以内であること。
③ 出席日数が，年間に出席すべき日数の３分の２を超えていること
④ 特別活動が合格であること。

※1 科目に合格すること。沖縄高専では学年末成績が６０点以上（「C」以上）で合格と認められる。

※2 授業を受けること。沖縄高専では各科目の総授業時間数の３分の２以上の出席で履修したと認められる。

以上の条件を１つでも満たしていない場合は進級を認められず，原級留置となります。

**○原級留置**

原級留置になると，その学年をもう一度**４月から１年間やり直す**ことになり，全ての授業科目を再度受講し直さなければなりません。ただし，４年生，５年生で原級留置になった場合，前年に修得した単位は認められ，不合格になった授業科目だけを受講することになります。

２年連続して原級留置になった場合は，残念ながら沖縄高専の教育に適性がないものとして，退学を勧奨されます。

**○卒業の認定**

５年生の課程修了が認定されれば，卒業に必要な１６７単位すべてを修得したことになり，卒業が認定されます。

**○試験で不合格点を取っても…**

本校における学年修了の認定は，**学年末の成績**で判断されます。ですから，例えば１回の試験の成績が５９点以下であっても，必ずしも，すぐにその科目が不合格となり，原級留置になるというわけではありません。次の試験の成績等で挽回は可能です。しかし，５９点以下の成績を一度取ってしまうと，次回以降に相当努力しなければ挽回は困難ですので，定期試験や中間試験では常に合格点を取るようにがんばりましょう。もちろん，平常での小テストや課題にしっかりと取り組むことも大事です。

（出典　平成 22 年度学生生活の手引き　P.23 抜粋）

資料６－１－①－６

## 平成２１年度卒業認定会議議事要旨

日　時：平成２２年３月１日（月）１６：３０～１７：００
場　所：視聴覚ホール

※　教務主事から平成２１年度卒業認定会議資料により、卒業認定判定方法について説明が行われ審議された結果、次のとおり了承された。

１．沖縄工業高等専門学校学則第５７条第４号該当者について（授業料未納者）

・機械システム工学科　・・・１名（学籍番号　　）
・情報通信システム工学科・・・２名（学籍番号　　）
・生物資源工学科　・・・１名（学籍番号　　）
計　４名

※　校長から、３月１９日（金）までに該当者が授業料を納付すれば２０日の卒業式で卒業証書を授与できるが、未納の場合は、支払いを待って授与することとなる。
去年も同様な事例があり、卒業式前までに沖縄高専奨学基金貸与により授業料を納付し卒業した。今回は、早期に授業料を払ってもらうよう学生課教務係から督促することとし、納付困難な学生については再考する旨説明があった。

２．原級留置
沖縄工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則第１４条第４項の条件を満たさない者として原級留置となった者

・機械システム工学科　・・・１名（学籍番号　　）
・メディア情報工学科　・・・２名（学籍番号　　）
計　３名

○平成２１年度卒業予定者
・機械システム工学科　・・・・　３５名
・情報通信システム工学科　・・・・　３５名
・メディア情報工学科　・・・・　３３名
・生物資源工学科　・・・・　３９名
計　１４２名

（出典　平成 21 年度卒業認定会議議事要旨　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

学習目標や教育目標は，各科目目標や高専目標としてシラバスに記載し，学生がその科目を履修することによって身につけられる学力や能力を確認できるように配慮している。また，卒業・修了時に身に付ける学力や資質・能力は，教育目標と授業科目の対応表で確認でき，定められた単位を取得することによって，教育目標の達成度が把握できるようになっている。さらに，達成状況の把握に関しては，卒業及び修了判定会議で組織的に行っている。

**観点６－１－②：　各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について，単位修得状況，進級の状況，卒業（修了）時の状況，資格取得の状況等から，あるいは卒業研究，卒業制作などの内容・水準から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。**

（観点に係る状況）

学習・教育目標の達成状況把握のための卒業・進級要件に従い単位修得状況等について，卒業・進級判定会議を年度末に実施している。これにより単位修得，進級，卒業時の成績評価等は適切になされている。進級の状況を確認すると低学年である１，２年生で退学，原級留置の人数が多く，専門科目を勉強する前段階でつまずいてしまう学生がいるということを認識する必要がある（資料６－１－②－１，資料６－１－②－２，資料６－１－②－３，資料６－１－②－４，資料６－１－②－５）。平成22年３月に第１回教育改善のための討論会を学校内で開催し，教員同士で情報交換できる場を設け教育の改善につなげる試みを行っている（資料６－１－②－６）。

卒業研究の成果に関しては，学科別に実施される卒業研究発表会で報告し，卒業研究論文としてまとめている（資料６－１－②－７）。また，各学科で推奨する各種資格試験に積極的に取り組ませている（資料６－１－②－８）。

さらに，ロボットコンテスト，プログラミングコンテスト，パソコン甲子園等各種コンテストに積極的に参加できるよう教員がサポートを行っている（資料６－１－②－９，資料６－１－②－10）。本科５年生や専攻科生に対しては，各学会での研究発表を行うよう担当教員が指導を行っている（資料６－１－②－11）。

資料６－１－②－１

**（除籍）**

**第５７条　次の各号の一に該当する者は、校長がこれを除籍する。**

**(1) 長期間にわたり行方不明の者**
**(2) 第３０条に規定する休学期間を超えてなお修学できない者**
**(3) 特別な理由なく第３４条に規定する勧奨に従わない者**
**(4) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者**
**(5) 第４７条に規定する入学料免除又は徴収猶予の申請書を受理され、免除又は徴収猶予を不許可とされた者並びに半額免除又は徴収猶予を許可された者で、所定の期日までに入学料を納付しない者**

（出典　沖縄工業高等専門学校学則　抜粋）

資料６－１－②－２

２　学年の課程の修了及び卒業の認定にあたっては、授業科目及び特別活動（第１学年から第３学年のみ）の履修状況並びに次の各号に掲げる条件をすべて満たしていることを基準とする。ただし、校長が特に認めた海外留学生として派遣されるため年度をまたがって休学する学生の学年の課程及び卒業の認定にあたっては、休学期間以外の当該年度と前年度の授業日数を合算して年間総授業日数を算出するものとする。
(1) 学則別表第１及び別表第２に定める科目を履修していること。
(2) 学則に定める当該学年における修得すべき科目の単位を全て修得していること。
(3) 出席日数が年間総授業日数の３分の２以上であること。ただし、第４学年及び第５学年において原級留置となった学生のうち、それぞれの学年の原級留置決定年度において修得科目のあった者を除く。
(4) 特別活動が「合格」であること。
３　前項各号の条件を満たさない者で特別な理由があると校長が認めた者については、認定会議において審議した上で、校長が総合的に判定する。
４　卒業に必要な修得単位数は、学則別表第１に定める科目から８０単位以上及び別表第２に定める科目から８７単位以上の合わせて１６７単位以上とする。

（編入学生の学年の課程の修了及び卒業の認定）
第１４条の２　学則第２６条の規定に基づき入学した学生（以下「編入学生」という。）の学年の課程の修了及び卒業の認定は、認定会議の議を経て校長がこれを行う。
２　編入学生の学年の課程の修了及び卒業の認定その他必要な事項は、別に定める。

（転入生の学年の課程の修了及び卒業の認定）
第１４条の３　学則第２７条の規定に基づき入学した学生（以下「転入生」という。）の学年の課程の修了及び卒業の認定は、認定会議の議を経て校長がこれを行う。
２　転入生の学年の課程の修了及び卒業の認定その他必要な事項は、別に定める。

（外国人留学生の学年の課程の修了及び卒業の認定）
第１４条の４　学則第５０条の規定に基づき入学した学生（以下「外国人留学生」という。）の学年の課程の修了及び卒業の認定は、認定会議の議を経て校長がこれを行う。
２　外国人留学生の学年の課程の修了及び卒業の認定その他必要な事項は、別に定める。

（転科生の学年の課程の修了及び卒業の認定）
第１４条の５　学則第２９条の規定に基づき転科した学生（以下「転科生」という。）の学年の学年の課程の修了及び卒業の認定は、認定会議の議を経て校長がこれを行う。
２　転科生の学年の課程の修了及び卒業の認定その他必要な事項は、別に定める。

（仮進級）
第１５条 前条第２項第２号に該当しない者で、次の各号に掲げる条件を満たした者については、次学年に仮進級させる。
(1) 第１学年、第２学年及び第４学年においては、未修得の科目の単位数が１０単位以内の者。
(2) 第３学年においては、第２学年まで修了し、未修得の科目の単位数が４単位以内の者。

（原級留置）
第１６条　認定会議において進級及び仮進級を認定されない者は、原級留置とする。
２　第３学年以下において原級留置になった場合は、前年度の修得単位を無効とし、その学年の授業科目及び特別活動の全てを再履修しなければならない。ただし、現学年に留められた者が他の教育機関等へ進路変更するために退学を希望する場合には、前学年の修得単位を有効とする。
３　前項において、新たに単位を修得した場合の評価は、次年度のものとする。

２　学年の課程の修了及び卒業の認定にあたっては、授業科目及び特別活動（第１学年から第３学年のみ）の履修状況並びに次の各号に掲げる条件をすべて満たしていることを基準とする。ただし、校長が特に認めた海外留学生として派遣されるため年度をまたがって休学する学生の学年の課程及び卒業の認定にあたっては、休学期間以外の当該年度と前年度の授業日数を合算して年間総授業日数を算出するものとする。
(1) 学則別表第１及び別表第２に定める科目を履修していること。
(2) 学則に定める当該学年における修得すべき科目の単位を全て修得していること。
(3) 出席日数が年間総授業日数の３分の２以上であること。ただし、第４学年及び第５学年において原級留置となった学生のうち、それぞれの学年の原級留置決定年度において修得科目のあった者を除く。
(4) 特別活動が「合格」であること。
３　前項各号の条件を満たさない者で特別な理由があると校長が認めた者については、認定会議において審議した上で、校長が総合的に判定する。
４　卒業に必要な修得単位数は、学則別表第１に定める科目から８０単位以上及び別表第２に定める科目から８７単位以上の合わせて１６７単位以上とする。

（編入学生の学年の課程の修了及び卒業の認定）
第１４条の２　学則第２６条の規定に基づき入学した学生（以下「編入学生」という。）の学年の課程の修了及び卒業の認定は、認定会議の議を経て校長がこれを行う。
２　編入学生の学年の課程の修了及び卒業の認定その他必要な事項は、別に定める。

（転入生の学年の課程の修了及び卒業の認定）
第１４条の３　学則第２７条の規定に基づき入学した学生（以下「転入生」という。）の学年の課程の修了及び卒業の認定は、認定会議の議を経て校長がこれを行う。
２　転入生の学年の課程の修了及び卒業の認定その他必要な事項は、別に定める。

（外国人留学生の学年の課程の修了及び卒業の認定）
第１４条の４　学則第５０条の規定に基づき入学した学生（以下「外国人留学生」という。）の学年の課程の修了及び卒業の認定は、認定会議の議を経て校長がこれを行う。
２　外国人留学生の学年の課程の修了及び卒業の認定その他必要な事項は、別に定める。

（転科生の学年の課程の修了及び卒業の認定）
第１４条の５　学則第２９条の規定に基づき転科した学生（以下「転科生」という。）の学年の学年の課程の修了及び卒業の認定は、認定会議の議を経て校長がこれを行う。
２　転科生の学年の課程の修了及び卒業の認定その他必要な事項は、別に定める。

（仮進級）
第１５条 前条第２項第２号に該当しない者で、次の各号に掲げる条件を満たした者については、次学年に仮進級させる。
(1) 第１学年、第２学年及び第４学年においては、未修得の科目の単位数が１０単位以内の者。
(2) 第３学年においては、第２学年まで修了し、未修得の科目の単位数が４単位以内の者。

（原級留置）
第１６条　認定会議において進級及び仮進級を認定されない者は、原級留置とする。
２　第３学年以下において原級留置になった場合は、前年度の修得単位を無効とし、その学年の授業科目及び特別活動の全てを再履修しなければならない。ただし、現学年に留められた者が他の教育機関等へ進路変更するために退学を希望する場合には、前学年の修得単位を有効とする。
３　前項において、新たに単位を修得した場合の評価は、次年度のものとする。

４　第４学年又は第５学年において原級留置になった場合は、前学年の修得単位を有効とし、当該学年における未修得科目を履修しなければならない。ただし、当該学年で修得した科目についても聴講することができるものとする。

（出典　沖縄工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則　抜粋）

資料６－１－②－３

# 沖縄工業高等専門学校追認試験に関する規程

平成１６年４月１日
規　程　第１３号
改正　平成１８年１２月２５日
規　程　第８号

（趣旨）
第１条　この規程は、沖縄工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則（平成16年規則第22号。以下「規則」という。）第６条第２項の規定に基づき、追認試験の円滑かつ適正な運用を図るために必要な事項を定めるものとする。

（追認試験の申出等）
第２条　追認試験を受験することができる者は、未修得科目を持つ者とする。

第３条　追認試験は、原則として受験の機会を年度内２回とする。ただし、第３学年及び第５学年その他特別な理由のある場合は、当該学年における課程の修了及び卒業の認定会議（以下「認定会議」という。）後の学年末に受験する機会を与えることができるものとする。

第４条　追認試験の科目担当教員は、原則として当該科目の前科目担当教員を学科長が指名する。

第５条　追認試験を受験しようとする者は、「追認試験受験願」を、当該各号に定める提出期限までに科目担当教員及び第１学年又は第２学年にあっては学級担任、第３学年以上にあっては学科担任の承認を得て校長に提出し、その許可を受けなければならない。
(1) 第１回目　　４月末日
(2) 第２回目　１０月末日
２　第３学年及び第５学年その他特別な理由のある場合は、前項各号の規定にかかわらず、認定会議後３日以内に科目担当教員及び学科担任の承認を得て校長に提出し、その許可を受けなければならない。

第６条　追認試験の科目担当教員は、校長が許可した者に対して追認試験を実施するものとする。

（追認試験の実施時期）
第７条　追認試験は、次の各号に定める時期に実施するものとする。
(1) 第１回目　　５月から１０月
(2) 第２回目　１１月から１月
２　第３学年及び第５学年その他特別な理由のある場合は、前項各号の規定にかかわらず、認定会議後から３月末の間に実施するものとする。

（追認試験の成績評価、報告等）
第８条　追認試験による成績の評価については、規則第９条の規定を準用するものとする。ただし、百点法においては６０点を上限とする。
２　試験を実施せずに、他のもので評価を実施することができるものとする。

第９条　科目担当教員は、原則として、追認試験を実施した日の１０日後までに、その評価を「追認試験報告書」により校長へ報告するものとする。

（出典　沖縄工業高等専門学校追認試験に関する規定　抜粋）

資料６－１－②－４

平成20年度　進級・卒業・原級留置・退学者数一覧　　平成21年4月1日時点

| 学年 | 学科 | 年度当初在籍者 | 中途転入 | 原級留置 | 退学 | 進級/卒業 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年 | 機械システム工学科 | 40 | 0 | 3 | 0 | 37 | |
| | 情報通信システム工学科 | 42 | 0 | 2 | 1 | 39 | |
| | メディア情報工学科 | 41 | 0 | 0 | 0 | 41 | |
| | 生物資源工学科 | 40 | 0 | 0 | 2 | 38 | |
| 2年 | 機械システム工学科 | 40 | 0 | 2 | 1 | 37 | |
| | 情報通信システム工学科 | 42 | 0 | 1 | 0 | 41 | |
| | メディア情報工学科 | 42 | 0 | 1 | 0 | 41 | |
| | 生物資源工学科 | 41 | 0 | 0 | 0 | 41 | |
| 3年 | 機械システム工学科 | 41 | 0 | 0 | 1 | 40 | |
| | 情報通信システム工学科 | 46 | 0 | 1 | 1 | 44 | |
| | メディア情報工学科 | 45 | 0 | 0 | 0 | 45 | |
| | 生物資源工学科 | 43 | 0 | 1 | 0 | 42 | |
| 4年 | 機械システム工学科 | 44 | 0 | 6 | 2 | 36 | |
| | 情報通信システム工学科 | 37 | 0 | 0 | 2 | 35 | |
| | メディア情報工学科 | 39 | 0 | 3 | 1 | 35 | |
| | 生物資源工学科 | 38 | 0 | 0 | 0 | 38 | |
| 5年 | 機械システム工学科 | 36 | 0 | 0 | 0 | 36 | |
| | 情報通信システム工学科 | 36 | 0 | 0 | 0 | 36 | |
| | メディア情報工学科 | 40 | 0 | 0 | 0 | 40 | |
| | 生物資源工学科 | 36 | 0 | 1 | 0 | 35 | |

（出典　学生課資料）

資料６－１－②－５

平成21年度　進級・卒業・原級留置・退学者数一覧　　平成22年4月1日時点

| 学年 | 学科 | 年度当初在籍者 | 中途転入 | 原級留置 | 退学 | 進級/卒業 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年 | 機械システム工学科 | 43 | 0 | 0 | 0 | 43 | |
| | 情報通信システム工学科 | 44 | 0 | 0 | 0 | 44 | |
| | メディア情報工学科 | 43 | 0 | 1 | 0 | 42 | |
| | 生物資源工学科 | 42 | 0 | 0 | 1 | 41 | |
| 2年 | 機械システム工学科 | 39 | 0 | 0 | 1 | 38 | |
| | 情報通信システム工学科 | 39 | 0 | 2 | 2 | 35 | |
| | メディア情報工学科 | 42 | 0 | 0 | 0 | 42 | |
| | 生物資源工学科 | 38 | 0 | 0 | 0 | 38 | |
| 3年 | 機械システム工学科 | 37 | 0 | 0 | 0 | 37 | |
| | 情報通信システム工学科 | 43 | 0 | 0 | 3 | 46 | |
| | メディア情報工学科 | 42 | 0 | 2 | 0 | 40 | |
| | 生物資源工学科 | 42 | 0 | 0 | 1 | 41 | |
| 4年 | 機械システム工学科 | 46 | 0 | 0 | 2 | 44 | 退学には死亡を含む |
| | 情報通信システム工学科 | 45 | 0 | 0 | 0 | 45 | |
| | メディア情報工学科 | 48 | 0 | 0 | 2 | 46 | |
| | 生物資源工学科 | 42 | 0 | 1 | 1 | 40 | |
| 5年 | 機械システム工学科 | 36 | 0 | 0 | 1 | 35 | |
| | 情報通信システム工学科 | 35 | 0 | 0 | 0 | 35 | |
| | メディア情報工学科 | 35 | 0 | 2 | 0 | 33 | |
| | 生物資源工学科 | 39 | 0 | 0 | 0 | 39 | |

（出典　学生課資料）

資料６－１－②－６

**教育改善のための討論会**

**2010 年 3 月 4 日（木）14:00-16:00**

**テーマ：混合学級制度における総合科学科と専門学科の連携の仕方**

**混合学級制度のデメリット：**

・学生は 3 年生までは高校生という認識（高専生の自覚欠如)

・自分の専門が何なのか疑問に思うのでは?

・将来(進路)を考えることをしない

・クラス担任が進路指導できない（しかし、学科担任ならば対応可能。また学生が就職および進路情報の閲覧も可能）

・学科内の学生で知らない者がいる(2 年終了時)

・保護者も自分の子は“高校生”と思っている

**混合学級制度のメリット：**

・他学科との交流(しかし、寮生活があるから不要ではないか?)

・寮での交流はご近所程度、これでは不十分

・学科間の成績の差を無くす

**解決策(連携方法)：**

・LHR(特別活動)の活用：

・学科別 LHR の評判がよい(アンケートより)

・上級生、下級生との交流が可能(縦の繋がりの重要性)

・進路が見え易い

・懇談会を前半クラス単位、後半学科単位の 2 部構成にしては?

・学科別 LHR で新入生歓迎会を開く

・1 年生から専門学級、2 年生だけ混合学級する

・高専祭、PBL などで団結

**その他：**

・　禁句(広報)：「きめ（または木目）細やかなサポート」

(全寮制であることに対する学校と保護者との間での意識のギャップが生まれるリスク＝＞学校側：自立性や協調性の育成を目的。サポートはあくまで勉強面に関して。

保護者側：朝学生を起こす事から何でも学校が全てを行ってくれる）

・早く専門をやって自分に合うか合わないかを早く決める→転科、転校が可能(3 年生では手遅れ)

・学科別にしても教授する科目はかわらない(内容は多少変わる)→学科別にするメリットが然程あるか?

（出典　FD委員会資料　抜粋）

資料６－１－②－７

# 平成21年度卒業研究発表会プログラム

情報通信システム工学科　　平成22年2月10日(水)

場所:視聴覚ホール

審査時間:発表7分＋質疑3分

| | 学籍番号氏名 | 研究室名 | 論文タイトル | 発表時間 | 審査委員 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 比嘉研 | 単結晶シリコンを用いた太陽電池の製作に関する研究 | 9:00～9:10 | *比嘉、石田、知念、兼城 |
| 2 | | | シリコン針型微小電子源の製作とその電界放射特性に関する研究 | 9:10～9:20 | |
| 3 | | | P型シリコンを用いた多孔質シリコン断面素子からの電子放出に関する研究 | 9:20～9:30 | |
| 4 | | | n型Siによる多孔質Si断面電子放出素子に関する研究 | 9:30～9:40 | |
| 5 | | 知念研 | 反射型 光インターコネクションの研究 | 9:40～9:50 | *知念、石田、比嘉、兼城 |
| 6 | | | GbE光通信送受信機の研究 | 9:50～10:00 | |
| 7 | | | WiMAX光伝送に関するE/O, O/E変換器の研究 | 10:00～10:10 | |
| 8 | | | 光トランスポンダを用いた 光リンク用光送受信器の研究 | 10:10～10:20 | |
| 9 | | | NOAA気象衛星 受信システムの研究 | 10:20～10:30 | |
| | | | 休憩(10分) | | |
| 10 | | 兼城研 | 教育教材のための MOSFET動作の視覚化 | 10:40～10:50 | *兼城、石田、知念、比嘉 |
| 11 | | | センサ追加による二足歩行ロボットの自律行動可能化 | 10:50～11:00 | |
| 12 | | | 位置検出と移動制御に関する研究 | 11:00～11:10 | |
| 13 | | | 弾性波デバイスの特性評価および設計に関する研究 | 11:10～11:20 | |
| 14 | | 石田研 | 建物が電波伝搬に及ぼす影響に関する研究 | 11:20～11:30 | *石田、知念、比嘉、兼城 |
| 15 | | | 半波長アンテナの指向性を考慮した電波伝搬に関する研究 | 11:30～11:40 | |
| 16 | | | 伝搬特性に及ぼすアンテナ指向性の影響に関する検討 | 11:40～11:50 | |
| 17 | | | コルゲート導波管フィルタの阻止帯域の解析 | 11:50～12:00 | |
| | | | お昼休み(60分) | | |
| 18 | | 高木研 | GPUを用いた自動映像顕著領域抽出処理の高速化 | 13:00～13:10 | *高木、野口、神里、金城 |
| 19 | | | Google Androidを用いたユビキタスアプリケーションの開発 | 13:10～13:20 | |
| 20 | | | 教育用物理シミュレータの開発 | 13:20～13:30 | |
| 21 | | | Javaを用いた遠隔制御プログラムの作成 | 13:30～13:40 | |
| 22 | | 金城研 | 囚人のジレンマ戦略シミュレーション | 13:40～13:50 | *金城、高木、野口、神里 |
| 23 | | | ファジィ理論を用いた回路制御に関しての研究 | 13:50～14:00 | |
| 24 | | 神里研 | 絵本のストーリー作成のためのサポートシステムの構築 | 14:00～14:10 | *神里、高木、山田、金城 |
| 25 | | | プロトコル解析を用いた学生実験の思考分析に関する研究 | 14:10～14:20 | |
| 26 | | | PDCAサイクルを適用したジョイスティック型マウスの開発 | 14:20～14:30 | |
| 27 | | | 動作測定を利用したAAC教材の定量的評価に関する研究 | 14:30～14:40 | |
| | | | 休憩(10分) | | |
| 28 | | 野口研 | 特別支援教育のためのタッチスイッチの開発 | 14:50～15:00 | *野口、神里、山田、金城 |
| 29 | | | バイオリン指導における弓動作と音の関係に関する研究 | 15:00～15:10 | |
| 30 | | | 気象データベースの構築と環境教育アプリケーションの開発 | 15:10～15:20 | |
| 31 | | | PC-FPGAの連携による機能分散型システムにおけるミドルウェアの開発 | 15:20～15:30 | |
| 32 | | 山田研 | UMLを用いた機能分散型システムのコード自動生成ツールの開発 | 15:30～15:40 | *山田、比嘉、野口、兼城 |
| 33 | | | FPGAを用いたモーションコントローラの開発に関する研究 | 15:40～15:50 | |
| 34 | | | VHDLによる静止画像の輪郭抽出処理回路の設計 | 15:50～16:00 | |
| 35 | | | 小型組み込み機器を用いた画像の効果的な表示に関する研究 | 16:00～16:10 | |

（出典　情報通信システム工学科資料）

資料６－１－②－８

# 資格取得支援

- 情報処理技術者試験の資格取得を支援
- 学校を通した団体申し込み
- 後援会の支援による受験会場（那覇）まで、バスで送迎

平成20年度　情報処理技術者試験受験実績

| | 受験者数 | 合格者数 |
|---|---|---|
| 初級シスアド | 53 | 13 |
| 基本情報 | 72 | 15 |
| ソフトウェア開発 | 13 | 4 |
| 情報セキュアド | 4 | 1 |
| エンベデッド | 1 | 1 |
| ネットワーク | 1 | 0 |

# 資格取得支援



平成21年春期情報処理技術者試験合格者

（出典　参与の会報告学校概要　P.22，23）

資料６－１－②－９

# 学生の対外活動実績

| | | |
|---|---|---|
| 平成20年 | ロボコン九州沖縄地区大会 | 優勝 |
| | ロボコン全国大会 | 優勝 |
| | パソコン甲子園 | デジタルコンテンツ部門グランプリ |
| | 理工系学生科学技術論文コンクール | 優秀賞 |
| | 九州沖縄地区高専体育大会　女子テニス | シングルス優勝、ダブルス優勝 |
| | 九州沖縄地区高専体育大会　女子バスケット | 優勝 |
| 平成21年 | ロボコン九州沖縄地区大会 | 優勝 |
| | ロボコン全国大会 | 特別賞 |
| | パソコン甲子園 | デジタルコンテンツ部門準グランプリ |
| | MDDロボットチャレンジ2009 | 飛行競技　奨励賞 |
| | 九州沖縄地区高専体育大会　女子バスケット | 準優勝 |
| | 九州沖縄地区高専体育大会　女子テニス | 団体戦準優勝、ダブルス準優勝 |
| | 九州沖縄地区高専体育大会　卓球 | 女子シングルス準優勝 |

# 学生の対外活動実績



平成20年ロボコン全国大会優勝



平成19年パソコン甲子園　グランプリ



平成19年プロコン　競技部門　特別賞

（出典　参与の会報告学校概要　P. 21，22）

資料６－１－②－10

## クラブ活動

- すべての教員が部・同好会の顧問を担当
- 28団体（体育部13、体育系同好会5、文化部4、文化系同好会6）に405名の学生が所属
- ロボコン、プロコンは部とは別組織とし、ロボット製作員会36名、ICT委員会28名が所属

## 学生の対外活動実績

| | | |
|---|---|---|
| 平成16年 | ロボコン九州沖縄地区大会 | 特別賞 |
| 平成17年 | ロボコン九州沖縄地区大会 | 特別賞 |
| 平成18年 | ロボコン九州沖縄地区大会 | アイデア賞、特別賞 |
| | 高専プロコン全国大会 | 課題部門　審査委員特別賞 |
| | 九州沖縄地区高専体育大会　女子バスケット | 優勝 |
| 平成19年 | ロボコン九州沖縄地区大会 | 準優勝 |
| | ロボコン全国大会 | 特別賞 |
| | 高専プロコン全国大会 | 競技部門特別賞 |
| | パソコン甲子園 | デジタルコンテンツ部門グランプリ |
| | 九州沖縄地区高専体育大会　女子テニス | シングルス優勝、ダブルス優勝 |
| | 九州沖縄地区高専体育大会　女子バスケット | 優勝 |

（出典　参与の会報告学校概要　P. 18，19）

資料６－１－②－11

主な研究成果

・　機械システム工学コース

・亀島洋平，レーザピーニング処理した Ti-6Al-4V 合金の回転曲げ疲労特性，日本材料学会　第 14 回破壊力学シンポジウム（2009 年 10 月）

・　情報工学コース

・榮門恒希，形状ベースパターンマッチングを利用した QR コード追跡，電気学会産業システム情報化研究会(2009 年 9 月)

・鈴木裕太，画像処理を用いた三次元移動ロボットの制御に関する研究，電気学会産業システム情報化研究会(2009 年 9 月)

・喜納希美，GPS 情報を用いた海岸清掃ロボットの開発，電気学会産業システム情報化研究会（2009 年 9 月）

・　電子通信システム工学コース

・崎原孫周，強制振動モデルによる発振器の位相雑音解析，2009 年電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会（2009 年 9 月）

・照屋尚樹，コルゲート導波管フィルタの阻止帯域に関する検討，2009 年電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会（2009 年 9 月）

・山城信裕，工学実験における簡便な動画教材作成法の検討，日本 e ラーニング学会 2009 年秋季学術講演会（2009 年 9 月）

・伊波慧，小型組込み機器への暗号システムの実装，平成 21 年度電気学会産業システム情報化研究会,（2009 年 9 月）

・知念輝佳，感性表現の異なる舞踊動作を用いた注視情報の比較，第 19 回インテリジェント・システム・シンポジウム（2009 年 9 月）

・福地賢，グラフコストの逐次更新を用いた映像顕著領域の自動抽出，電子情報通信学会　パターン認識・メディア理解研究会，(2009 年 5 月)

・亀濱博紀，ヘリカル・グリッドパラボラアンテナを用いた WiMAX 送受信リンクの設計と評価，平成 21 年度電気学会・電子情報通信学会合同講演会（2009 年 12 月）

・大嶺貴充、非破壊検査法による実装回路評価の一考察　第 17 回電子情報通信学会九州支部学生会講演会（2009 年 9 月）　　他 14 件

・　生物資源工学コース

・大嶺和可奈，沖縄産カンショ（*Ipomoea batatas L.*）茎葉の抗酸化活性に関する研究，日本薬学会(2009 年 3 月)

・小川和香奈，沖縄県久米島に自生する菌根性担子菌の分離と同定，日本キノコ学会(2009 年 9 月)

・祝嶺愛里，紫外線による C6 細胞の損傷評価および植物抽出液による NO 産生抑制効果，日本皮膚科学会(2009 年 4 月)

・目取真拓人，熱帯果実の高度利用の検討，日本生化学会(2009 年 10 月)
・安間智美，キンミズヒキ（*Agrimonia pilosa Ledab*）のＬＰＳ誘導ＲＡＷ２６４．７マクロファージ系細胞によるＮＯ産生抑制成分，日本薬学会(2009 年 3 月)
（出典　参与の会報告学校概要　P. 49，50，51）

（分析結果とその根拠理由）

退学，原級留置に関して，低学年である１，２年生でその人数が多く，専門科目を勉強する前段階でつまずいてしまう学生がいるということを認識する必要があった。そこで，教員同士で情報交換できる場を設け教育の改善につなげることが必要だと考え，平成22年３月に第１回教育改善のための討論会を学校内で開催している。各資格取得に関しては，受験者数は増加傾向にあり，学習した事を活かし資格取得にチャレンジする学生が増えてきている。これは，資格取得に対するアドバイスと受験申し込みなどのサポート体制を整えてきた効果である。また，卒業研究は，高専の卒業研究としては一定の水準に達している。専攻科では多くの学生が学会や研究会等での発表をしており，十分高いレベルであると言える。これらのことより，教育の成果が上がっていると判断できる。

**観点６－１－③：　教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。**

（観点に係る状況）

これまで求人倍率は例年高倍率で，開校以来これまで２回の卒業生の就職率は 100％であり，就職先は，それぞれの教育を受けた関連分野にほとんど進んでいる（資料６－１－③－１，資料６－１－③－２，資料６－１－③－３，資料６－１－③－４）。また，進学希望者の半数以上は大学の３年次編入を希望しており，大学あるいは専攻科への進学希望者のほぼ全員が進学することができている。

資料６－１－③－１

## 求人状況

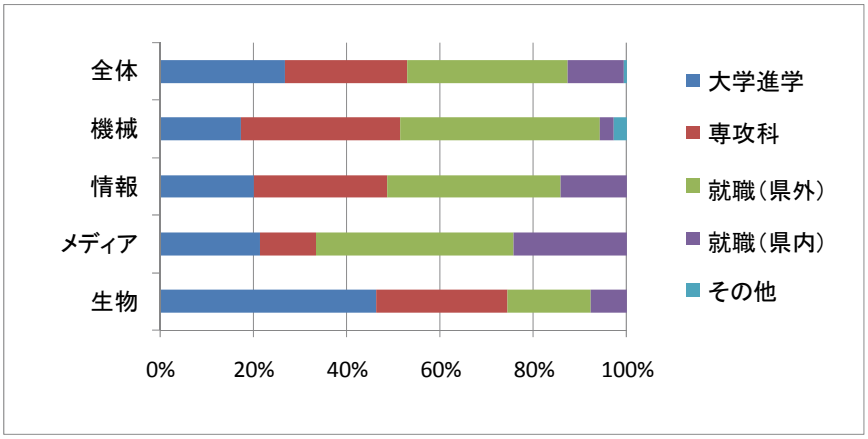
- 平成20年度（1期生）
  - 県内企業　47社
  - 県外企業　356社
    就職希望者75名に対し約18．2倍の求人
- 平成21年度（2期生）
  - 県内企業　44社
  - 県外企業　290社
    就職希望者65名に対し約17．4倍の求人
- 平成22年度（3期生）2月18日現在
  - 県内企業　6社
  - 県外企業　113社
    昨年同時期　県内8社、県外167社

（出典　参与の会報告学校概要　P. 39）

資料６－１－③－２

# 進路状況（2期生）

進学内定率98．7%（75名）
就職内定率100%（66名）




（出典　参与の会報告学校概要　P．40）

資料６－１－③－３

## 平成21年度卒業生就職状況一覧

| | 企業名※ | 機械 | 情報 | メディア | 生物 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 県内企業 | インデックス沖縄 | | 1 | | | 1 |
| | 沖電グローバルシステムズ | | | 1 | | 1 |
| | 沖縄クロスヘッド | | | 1 | | 1 |
| | 沖縄コカ・コーラボトリング | | | | 1 | 1 |
| | 沖縄テクノス | | | 1 | | 1 |
| | 沖縄電力 | | 2 | | | 2 |
| | 沖縄菱電 | | 1 | | | 1 |
| | 開邦工業 | | 1 | | | 1 |
| | サウスプロダクト | | | | 1 | 1 |
| | サンシャイン | 1 | | | | 1 |
| | シュガートレイン | | | 1 | | 1 |
| | ハーベル | | | 2 | | 2 |
| | 沖縄富士通システムエンジニアリング | | | 1 | | 1 |
| | 沖縄日立ネットワークシステムズ | | | 1 | | 1 |
| | EM研究機構 | | | | 1 | 1 |
| 県外企業 | アイエックス・ナレッジ | | | 1 | | 1 |
| | アイシン精機 | 1 | | | | 1 |
| | アプリックス | | | 1 | | 1 |
| | 安藤証券 | | | 1 | | 1 |
| | 出光興産 | | 1 | | | 1 |
| | 岩谷マテリアル | 1 | | | | 1 |
| | 映像センター | | | 1 | | 1 |
| | エヌアイシー・ソフト | | | 1 | | 1 |
| | 大阪ガス | 1 | | | | 1 |
| | 花王 | | | | 2 | 2 |
| | 神崎高級工機製作所 | 1 | | | | 1 |
| | カンメタエンジニアリング | 1 | | | | 1 |
| | 国立印刷局 | | | 1 | | 1 |
| | コベルコシステム | | 1 | | | 1 |
| | サントリープロダクツ | | | | 1 | 1 |
| | 三洋化成 | | | | 2 | 2 |
| | ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング | | | | 1 | 1 |
| | 新日鐵 | | 2 | | | 2 |
| | 大和製罐 | 1 | | | | 1 |
| | タップ | | 1 | | | 1 |
| | 中部電力 | 1 | 1 | | | 2 |
| | 千代田計装 | | 1 | | | 1 |
| | デンソーテクノ | | 1 | | | 1 |
| | 東海鉄工 | | | 2 | | 2 |
| | 東京電力 | 1 | | | | 1 |
| | トヨタコミュニケーションシステム | | | 1 | | 1 |
| | 日本空港テクノ | | 1 | | | 1 |
| | ハンモック | | | 1 | | 1 |
| | ピクシブ株式会社 | | | 1 | | 1 |
| | 日陽エンジニアリング | 1 | | | | 1 |
| | 富士通 | | 1 | | | 1 |
| | 富士通アドバンストソリューションズ | | | 2 | | 2 |
| | 富士通ミッションクリティカルシステムズ | 1 | | | | 1 |
| | 前田道路 | 1 | | | | 1 |
| | 三菱重工神戸造船所 | 1 | | | | 1 |
| | 三菱重工長崎研究所 | 1 | | | | 1 |
| | ムラテックCCS | | 1 | | | 1 |
| | 明治乳業 | 1 | | | | 1 |
| | 安川エンジニアリング | | | 1 | | 1 |
| | 雪印 | | | | 1 | 1 |
| | IHIエアロスペース・エンジニアリング | 1 | | | | 1 |
| | NTTネオメイト(2) | | 2 | | | 2 |
| | 合計 | 16 | 18 | 22 | 10 | 66 |
| | ※企業名は50音順で掲載しています | | | | | |

（出典　学生生活の手引き　P. 36）

資料６－１－③－４

平成21年度大学編入学状況(H22.1.21現在)　　(単位:人)

| | 大学名 | 機械 | 情報 | メディア | 生物 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 国公立 | 茨城大学理学部理学科 | | | | 1 | 1 |
| | 鹿児島大学農学部生物資源化学科 | | | | 1 | 1 |
| | 岐阜大学応用生物科学部食品生命科学科 | | | | 2 | 2 |
| | 岐阜大学工学部生命工学科 | | | | 1 | 1 |
| | 京都工業繊維大学工業科学設計工学域学科 | 1 | | | | 1 |
| | 佐賀大学農学部生命機能科学科 | | | | 2 | 2 |
| | 札幌市立大学デザイン学部デザイン学科 | | | 1 | | 1 |
| | 静岡大学農学部共生バイオサイエンス学科 | | | | 2 | 2 |
| | 筑波大学生命環境学群生物学類 | | | | 1 | 1 |
| | 電気通信大学電気通信学部情報工学科 | | | 1 | | 1 |
| | 豊橋技術科学大学工学部エコロジー工学課程 | | | | 1 | 1 |
| | 豊橋技術科学大学工学部情報工学課程 | | 1 | | | 1 |
| | 豊橋技術科学大学工学部機械システム工学科 | 3 | | | | 3 |
| | 豊橋技術科学大学工学部生産システム工学科 | 2 | | | | 2 |
| | 長岡技術科学大学工学部生物機能工学課程 | | | | 2 | 2 |
| | 長岡技術科学大学工学部電気電子情報工学課程 | | 1 | | | 1 |
| | 奈良女子大学理学部情報科学科 | | 1 | | | 1 |
| | 奈良女子大学理学部生活環境学部生活健康・衣環境学科 | | | | 1 | 1 |
| | 新潟大学理学部生物学科 | | | | 1 | 1 |
| | 福井大学工学部電気電子工学科 | | 1 | | | 1 |
| | 宮崎大学工学部電気電子学科 | | 2 | | | 2 |
| | 琉球大学工学部機械システム工学科 | 1 | | | | 1 |
| | 琉球大学工学部情報工学科 | | | 3 | | 3 |
| | 琉球大学工学部電気電子工学科 | | 1 | | | 1 |
| | 琉球大学農学部生物資源科 | | | | 5 | 5 |
| 私立 | 武蔵野大学環境学部 | | | | 1 | 1 |
| | 合　　計(延べ) | 7 | 7 | 5 | 21 | 40 |

(出典　学生生活の手引き　P.37)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程の就職希望者の就職率は，100%を保っており，就職先は各学科の専門分野にほぼ沿っている。また，準学士課程の進学希望者は関連分野へ進学している。就職や進学の状況から判断して，これら進路先は本校の教育の目的に相応しいものであり，教育の成果や効果が十分上がっていると判断できる。

**観点６－１－④：　学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。**

（観点に係る状況）

卒業生に対して,これまでの５年間を振り返ってもらい,高専生活全般をどのように感じており，どのような点を改善して欲しいのかなどを満足度として調査し，学生一人一人の意見から今後の沖縄高専における教育・研究活動及び管理運営に反映させていくことを目的にアンケートを行っている（資料６－１－④－１，資料６－１－④－２，資料６－１－④－３）。

資料６－１－④－１

第５学年各学科担任　各位

総　　務　　係

平素よりお世話になっております。

先般開催されました授業評価に関する検討部会・教育方法等の改善に関する検討部会において、別添の内容により卒業生へのアンケート調査を実施することとなりました。

なお、卒業時アンケートは、兼城先生のご厚意によりブラックボードを利用した調査が行えることとなりましたので、授業改善アンケートと同様な調査を行います。

つきましては、２月１日から２月１０日の間のＨＲ等において、下記内容をご説明の上、アンケートを実施くださるようお願い申し上げます。

実施期間終了後、アンケート結果を総務係にて取りまとめますので、後日各学科の集計結果をお知らせいたします。

年度末のお忙しい折に申し訳ございませんが、ご協力方よろしくお願いいたします。

【調査目的等】

本アンケートは、本科卒業予定の学生に、これまでの５年間を振り返ってもらい、高専生活全般をどのように感じており、どのような点を改善して欲しいのかなどを満足度として調査し、学生一人一人の意見から今後の沖縄高専における教育・研究活動及び管理運営に反映させていくことを目的に実施するものです。

なお、調査結果については、担当部署で集計後、各種委員会等において分析し、今後の沖縄高専の諸活動に反映させます。

**（アンケート実施手順など）**

**下記のアドレスにアクセスして、アンケートの回答を行って下さい。**

https://learn.okinawa-ct.ac.jp/

ユーザ名：メールのアカウント名（ms 学籍番号、ic 学籍番号、mi 学籍番号、br 学籍番号）
パスワード：各自メールのパスワード

アンケートの入力手順については、授業改善アンケートと同様です。
「科目名：ＳＨＲ（学科名)」＞アンケート＞卒業時アンケート

（出典　総務係からの卒業生アンケート実施に関するメール　抜粋）

資料６－１－④－２

# 平成 22 年 3 月卒業生アンケート（全 2 頁）

学科：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　年月日：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

**各項目ついて、あてはまる番号を右の□内に記入して下さい**

**１．　高専生活全体の満足度はどうでしたか**

大変満足　　どちらともいえない　　全く不満

5----------4----------3----------2----------1　　□

**２．　沖縄高専を後輩にも勧めたいと思いますか**

是非勧めたい　　どちらともいえない　　全く勧められない

5----------4----------3----------2----------1　　□

**３．　沖縄高専に入学してよかったと思っていますか**

大変良かった　　どちらともいえない　　全く良くなかった

5----------4----------3----------2----------1　　□

**４．　専門知識が身についたと思いますか**

大変ついた　　どちらともいえない　　全くつかなかった

5----------4----------3----------2----------1　　□

**５．　語学（英語）力がついたと思いますか**

大変ついた　　どちらともいえない　　全くつかなかった

5----------4----------3----------2----------1　　□

**６．　数学・物理・化学等の技術系基礎知識がついたと思いますか**

大変ついた　　どちらともいえない　　全くつかなかった

5----------4----------3----------2----------1　　□

**７．　社会・国語等の文科系教養が身についたと思いますか**

大変ついた　　どちらともいえない　　全くつかなかった

5----------4----------3----------2----------1　　□

**８．　課外活動（クラブ、コンテスト等）に満足できましたか**

大変満足　　どちらともいえない　　全く不満

5----------4----------3----------2----------1　　□

**９．　寮生活全体の満足度はどうでしたか**

大変満足　　どちらともいえない　　全く不満

5----------4----------3----------2----------1　　□

**１０．　混合学級は有意義でしたか**

大変有意義　　どちらともいえない　　無意義

5----------4----------3----------2----------1　　□

**１１．　進路に満足していますか**

大変満足　　どちらともいえない　　全く不満

5----------4----------3----------2----------1

**１２．　自由記述１　以下の観点から、自由に記述してください**

**沖縄高専で学んだ専門技術を今後どのように活かしていこうと考えていますか？**

**沖縄高専で学んだ専門技術のうち、足りないと思ったものはどのようなことでしょうか？**

**沖縄高専の卒業生として自分が誇れるものは何でしょうか？**

**沖縄高専の後輩にこれだけは伝えたいという『おもい』はありますか？それはどんなことでしょうか？**

**１３．　自由記述２**

**沖縄高専の良いと感じた点はありますか**

**１４．　自由記述３**

**沖縄高専の改善してほしい点はありますか**

（出典　卒業生アンケート　抜粋）

資料６－１－④－３

| | 項目 | 平均 | 機械 | 情報 | メディア | 生物 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 高専生活全体の満足度はどうでしたか | 3.90 | 3.89 | 3.94 | 3.55 | 4.2 |
| 2 | 沖縄高専を後輩にも勧めたいと思いますか | 3.43 | 3.63 | 3.54 | 2.91 | 3.64 |
| 3 | 沖縄高専に入学して上かったと思っていますか | 4.10 | 4.06 | 4.14 | 3.73 | 4.42 |
| 4 | 専門知識が身についたと思いますか | 4.13 | 4.29 | 4.11 | 3.91 | 4.2 |
| 5 | 語学(英語)力がついたと思いますか | 2.37 | 2.37 | 2.77 | 2.33 | 1.9 |
| 6 | 数学・物理・化学等の技術系基礎知識がついたと思いますか | 3.63 | 3.86 | 3.86 | 3.21 | 3.55 |
| 7 | 社会・国語等の文科系教養が身についたと思いますか | 2.79 | 2.80 | 2.86 | 2.91 | 2.58 |
| 8 | 課外活動(クラブ・コンテスト等)に満足できましたか | 3.72 | 3.89 | 3.94 | 3.3 | 3.73 |
| 9 | 寮生活全体の満足度はどうでしたか | 2.84 | 2.94 | 2.71 | 2.83 | 2.82 |
| 10 | 混合学級は有意義でしたか | 4.33 | 4.1 | 4.34 | 4.45 | 4.42 |
| 11 | 進路に満足していますか | 4.03 | 3.97 | 4.23 | 3.73 | 4.18 |

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

卒業時に行った学生アンケートの結果では,「専門知識が身についたと思いますか」という質問に対して,５段階評価のうち平均4.13の高い評価を得ており,「高専生活全体の満足度はどうでしたか」という項目に対しては，3.90という評価を得ている。学生が自己評価のために行う学習達成度評価による達成度状況などをきちんと確認する評価システムがまだ準備できていないのが現状である。学習・教育目標達成度チェック表や修了要件チェック表などを取り入れ，学校が掲げる学習・教育目標を自己評価するシステムを早急に作り，目標達成度と学習内容の確認ができるよう整える必要がある。

**観点６－１－⑤：　卒業（修了）生や進路先などの関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。**

（観点に係る状況）

本校は，平成21年度に２度目の卒業生を出した。現在，進路先などの関係者，及び卒業生へアンケート調査を依頼している（資料６－１－⑤－１，資料６－１－⑤－２，資料６－１－⑤－３）。

資料６－１－⑤－１

平成 22 年 6 月　　日

平成 21 年 3 月卒業生
＜卒業生氏名差込＞　　様

沖縄工業高等専門学校
進路委員長　伊波　靖

「教育方法等に関するアンケート調査」ご協力のお願い

本校を卒業し、はや１年が経過しましたが、新しい環境での生活は順調でしょうか。

この度、本校の教育方法等の改善を目的に、卒業生の皆さんから貴重な意見を頂きたく、アンケート調査を実施することとしました。

つきましては、下記のとおり別紙アンケートへご協力くださいますようお願いします。回答につきましては、集計の関係上、勝手ながら期限を設けさせていただきました。お忙しいところ申し訳ありませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、現住所が不明な卒業生につきましては、本依頼文をご実家に送付していますので、お手数をお掛けいたしますが、本人にお渡しくださいますようお取り計らい願います。

記

【回答方法】下記のいずれかにより回答をお願いします。
（※本校メディア棟１階事務室学生課に直接持参いただいてもかまいません。）
①FAX [redacted]
②電子メールにより回答
メールアドレス：[redacted]
なお、本アンケート用紙は本校ホームページからのダウンロードが可能です.

ホームページ URL　http://www.okinawa-ct.ac.jp/
【回答期限】平成 22 年 7 月 23 日（金）

以上

【本件に関する問い合わせ先】
沖縄工業高等専門学校　学生課学生係
TEL：[redacted]
E-mail：[redacted]

（出典　進路委員会資料）

資料６－１－⑤－２

平成 22 年 6 月　　日

＜大学名差込＞
＜学部名差込＞学部長　　殿

沖縄工業高等専門学校
進路委員長　伊波　靖

「本校卒業生に関するアンケート調査」ご協力のお願い

拝啓　時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。また、本校卒業生の編入学等進学に際しましては格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本校では今年 3 月に第 2 期卒業生を送り出し、第 1 期卒業生においては、貴大学に入学して 1 年が経過し、大学生活にも慣れ、研究に取り組む毎日を過ごしていることと思います。

この度、本校の教育方針や卒業生の能力に関して、卒業生の進路先であります大学様から貴重なご意見を頂戴したいと考え、アンケート調査を実施させて頂くことと致しました。

つきましては、平成 21 年 4 月に貴大学に入学いたしました下記卒業生につきまして、別紙アンケートへご協力くださいますようお願い致します。

なお、回答につきましては、集計の関係上誠に勝手ながら期限を設けさせていただきました。ご多忙のところ甚だ恐縮ではありますが、何とぞご高配賜りますようお願い致します。

敬具

記

【本校卒業生】　＜卒業生氏名差込＞　（平成 21 年 4 月・3 年次編入学）
【回答方法】下記のいずれかによりご回答くださいますようお願いいたします。

①FAX [redacted]
②同封の返信用封筒にて返送
③電子メールにより回答
メールアドレス：[redacted]
なお、本アンケート用紙は本校ホームページからのダウンロードが可能です.
ホームページ URL　http://www.okinawa-ct.ac.jp/

【回答期限】平成 22 年 7 月 23 日（金）

【本件に関する問い合わせ先】
沖縄工業高等専門学校　学生課学生係
TEL [redacted]
E-mail：[redacted]

（出典　進路委員会資料）

資料６－１－⑤－３

平成 22 年 6 月　　日

＜企業名差込＞
人事担当部長　　様

沖縄工業高等専門学校
進路委員長　伊波　靖

「本校卒業生に関するアンケート調査」ご協力のお願い

拝啓　時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。また、本校卒業生の就職採用に際しましては格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本校では今年 3 月に第 2 期卒業生を送り出し、第 1 期卒業生においては、御社に入社させていただて 1 年が経過し、上司の方々のご指導を賜りながら少しずつ社会人としての生活に馴染んできた頃と思います。

この度、本校の教育方針や卒業生の能力に関して、卒業生の進路先であります企業様から貴重なご意見を頂戴したいと考え、アンケート調査を実施させて頂くことと致しました。

つきましては、平成 21 年 4 月に御社に入社いたしました下記卒業生につきまして、別紙アンケートへご協力くださいますようお願い致します。

なお、回答につきましては、集計の関係上誠に勝手ながら期限を設けさせていただきました。ご多忙のところ甚だ恐縮ではありますが、何とぞご高配賜りますようお願い致します。

また、本校の教育方針については卒業生自身からも意見を求めたいと考えております。重ねてお手数をお掛けいたしますが、同封いたしました卒業生あての封筒を、下記卒業生にお渡しくださいますようお取り計らい願えれば幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

敬具

記

【本校卒業生】　＜卒業生氏名差込＞　（平成 21 年 4 月入社）

【回答方法】下記のいずれかによりご回答くださいますようお願いいたします。

①FAX にて送信[redacted]
送信票不要です。
②同封の返信用封筒にて返送
③電子メールにより回答
メールアドレス：[redacted]
なお、本アンケート用紙は本校ホームページからのダウンロードが可能です.
ホームページ URL　http://www.okinawa-ct.ac.jp/

【回答期限】平成 22 年 7 月 23 日（金）

以上

【本件に関する問い合わせ先】
沖縄工業高等専門学校　学生課学生係
TEL [redacted]
E-mail [redacted]

（出典　進路委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

卒業生や進路先などの関係者から，卒業生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組みを始めており，アンケート調査結果を元に学生が身につけた学力や資質・能力がどう評価されているかを把握し，今後の教育に活かす仕組みを構築する必要がある。

## （２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

準学士課程卒業生の就職希望者の内，就職決定者の割合は100％であり，就職先はそれぞれの教育を受けた関連分野に進んでいる。また，進学希望者のほぼ全員が大学あるいは専攻科へ進学している。

卒業生を対象にしたアンケートの結果から，「専門知識が身についたと思いますか」という質問に対して高い自己評価をしている。以上のことから，教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

（改善を要する点）

教育目標の達成度評価は，アンケートを実施するなど構築中であるが，調査結果を改善に結びつける仕組みづくりが不十分である。

## （３）基準６の自己評価の概要

卒業要件，修了要件を満たすように科目を修得することで教育目標を達成できるようにカリキュラムが設計されており，科目の修得状況から教育目標の達成度が把握できるようになっている。

学生は卒業研究や学会などで研究に関する発表を行い，また各コンテストに参加し成果を上げている。

準学士課程卒業生の就職希望者は専門分野の知識・技術を活用できる会社に就職しており，進学希望者は専門知識をさらに発展させることができる大学や専攻科に進学している。卒業生を対象にしたアンケートの結果から，専門知識が身についたかどうかに関して高い評価を得ている。以上のことから，教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

## 基準７　学生支援等

### （１）観点ごとの分析

**観点７－１－①：　学習を進める上でのガイダンスが整備され，適切に実施されているか。また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。**

（観点に係る状況）

準学士課程の新入生に対しては，入学前の入学説明会において保護者とともにオリエンテーションを実施している（資料７－１－①－１）。入学後は入学式翌日から３日間にわたってオリエンテーションを実施し学習・教育目標に関するガイダンスを学生生活全般とあわせて行っている（0資料７－１－①－２）。全学生購入のノートPCの設定も２日目，３日目の２日間にわたっておこなわれ，３日目には図書館研修会により図書館の利用の指導も行っている。

入学前の専攻科生に対してもオリエンテーションを実施している（資料７－１－①－３）。

学生に対する相談・助言に対しては，準学士課程においては担任（正，副），学科担任，学科長，専攻科コース主任による体制をとり（資料７－１－①－４），「教員便覧」（資料７－１－①－５）に従って，丁寧な指導を実施している。科目担当教員による指導体制としては，オフィスアワーが設定され，掲示板に掲示され学生に周知されている（資料７－１－①－６）。専攻科課程においては専攻科の各コース主任が中心となって全般的な指導を行い，各コース主任と特別研究指導教員の協力の下，学生の相談・助言にあたっている。広く一般に対して設けられている公開授業週間に実施される保護者懇談会（資料７－１－①－７）においても，個別に面談し相談・助言を行っている。

また，ポータルサイト（資料７－１－①－８）やメーリングリストを導入して，ネットによる連絡，指導体制も確立している。

資料７－１－①－１

資料１

# 平成２２年度入学手続及び入学説明会日程表

日　　時：　平成２２年３月１０日（水）　9:00～14:15
会　　場：　沖縄工業高等専門学校
受　　付：　9:00～9:30　**［メディア棟３階　メディアホール］**
注意事項：　当日は，学生証用の写真を撮影しますので，合格者本人は**私服（学生らしい服装）を着用**し，出席してください。
提出書類：　提出期限　平成２２年３月９日（火）
・資料　３「入学料徴収猶予願」及び「入学料徴収免除願」　［対象：入学料徴収猶予及び免除希望者］
提出日　　平成２２年３月１０日（水）
・資料　２「入学料振込書　払込通知書（高専用）」
［対象：全員（入学料徴収猶予願・免除願提出者を除く）］
・資料　４「預金口座振替依頼書」　［対象：全員］
・資料　５「進学届・振込口座届」　［対象：日本学生支援機構予約採用候補者］
・資料　６「独立行政法人日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度への加入について　同意書」
［対象：全員］
・資料　９「学生証データ確認票」　［対象：全員］
・資料１０「健康調査票（新入生用）」　［対象：全員］
・資料１１「新入生保護者アンケート」［対象：全員］
・資料１２「入学動機に関するアンケート」　［対象：全員］
・資料１３「沖縄工業高等専門学校後援会（正会員）入会書」［対象：全員］
提出期限　平成２２年３月２５日（木）
・資料　３「入学料免除・徴収猶予のための提出書類」　［対象：入学料徴収猶予及び免除希望者］

**A班：　機械システム工学科，情報通信システム工学科**

| 時　間 | 事　項 | 内　容 | 資料番号 |
|---|---|---|---|
| 9:00～9:30 | 受付（メディア棟３階　メディアホール） | 資料５、６、９、１０、１１、１２の提出 | |
| 9:30～9:40 | 校長挨拶 | 担当：校長 | |
| 9:40～9:50 | 教務関係について | 担当：教務主事 | |
| 9:50～10:10 | 学生生活について | 担当：学生主事 | |
| 10:10～10:40 | 学生寮について | 担当：寮務主事 | |
| 10:40～10:45 | 就職・進学について | 担当：進路委員長 | |
| 10:45～10:50 | ネットワーク利用に関する同意について | 担当：情報処理センター長 | |
| 10:50～10:55 | 平成２２年度各種納付金等について | 担当：学生課長 | |
| 10:55～11:00 | 研修旅行の積立について | 担当：エイチ・アイ・エス　沖縄 | |
| 11:00～11:05 | 給食費について | 担当：レストラン代表者 | |
| 11:05～11:15 | 後援会について | 担当：後援会長 | |
| 11:20～12:00 | ①　入学料の受付<br>学納金口座振替・口座開設手続き | 振込通知書　払込通知書（高専用）を提出<br>口座振替により授業料・寄宿料等を<br>納付するための手続き | 資料２<br>資料４ |
| | ②　寝具のリース申込み手続き | 申込書を寝具リース業者へ提出 | 当日配布 |
| | ③　課題テキスト販売 | 数学のテキスト販売 | 資料７ |
| | ④　写真撮影 | 学生証・身上届用 | |
| | ⑤　ノートパソコンの購入申込み手続き | 購入申込み書類の提出（販売業者との契約） | 資料８ |
| | ⑥　後援会加入手続き | 入会書及び口座振替依頼書を提出 | 資料１３ |
| | ⑦　実習服・安全靴の購入申込み手続き（採寸） | **対象：機械システム工学科** | |
| 12:00～12:45 | 昼食（レストラン） | **対象：希望者のみ，定食￥400** | |
| 12:45～13:45 | 学生寮施設見学（説明時間１０分含む） | **対象：機械システム工学科、情報通信システム工学科**<br>**場所：ピロティ** | |
| 13:45～14:15 | 入学料免除・猶予、「高等学校就学支援金制度」による就学支援（授業料助成）について | **対象：申請者及び希望者** | 資料３ |

**※　①～⑦の手続順については，当日，係員の指示に従ってください。**

資料１

# 平成２２年度入学手続及び入学説明会日程表

日　　時：　平成２２年３月１０日（水）　9:00～14:45
会　　場：　沖縄工業高等専門学校
受　　付：　9:00～9:30　**［創造実践棟１階　創造ホール］**
注意事項：　当日は，学生証用の写真を撮影しますので，合格者本人は**私服（学生らしい服装）を着用**し，出席してください。
提出書類：　提出期限　平成２２年３月９日（火）
・資料　３「入学料徴収猶予願」及び「入学料徴収免除願」　［対象：入学料徴収猶予及び免除希望者］
提出日　　平成２２年３月１０日（水）
・資料　２「入学料振込書　払込通知書（高専用）」
［対象：全員（入学料徴収猶予願・免除願提出者を除く）］
・資料　４「預金口座振替依頼書」　［対象：全員］
・資料　５「進学届・振込口座届」　［対象：日本学生支援機構予約採用候補者］
・資料　６「独立行政法人日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度への加入について　同意書」
［対象：全員］
・資料　９「学生証データ確認票」　［対象：全員］
・資料１０「健康調査票（新入生用）」　［対象：全員］
・資料１１「新入生保護者アンケート」［対象：全員］
・資料１２「入学動機に関するアンケート」　［対象：全員］
・資料１３「沖縄工業高等専門学校後援会（正会員）入会書」［対象：全員］
提出期限　平成２２年３月２５日（木）
・資料　３「入学料免除・徴収猶予のための提出書類」　［対象：入学料徴収猶予及び免除希望者］

**B班：　メディア情報工学科，生物資源工学科**

| 時　間 | 事　項 | 内　容 | 資料番号 |
|---|---|---|---|
| 9:00～9:30 | 受付（創造実践棟１階　創造ホール） | 資料５，６，９，１０，１１，１２の提出 | |
| 9:30～10:30 | ①　入学料の受付<br>学納金口座振替・口座開設手続き | 入学料振込書払込通知書（高専用）の提出，<br>口座振替により授業料・寄宿料等を<br>納付するための手続き | 資料２<br>資料４ |
| | ②　寝具のリース申込み手続き | 申込書を寝具リース業者へ提出 | 当日配布 |
| | ③　課題テキスト販売 | 数学のテキスト販売 | 資料７ |
| | ④　写真撮影 | 学生証・身上届用 | |
| | ⑤　ノートパソコンの購入申込み手続き | 購入申込み書類の提出（販売業者との契約） | 資料８ |
| | ⑥　後援会加入手続き | 入会書及び口座振替依頼書を提出 | 資料１３ |
| | ⑦　白衣の購入申込み手続き（採寸） | **対象：生物資源工学科** | |
| 10:30～11:00 | 入学料免除・猶予，「高等学校就学支援金制度」<br>による就学支援（授業料助成）について | **対象：申請者及び希望者** | 資料３ |
| 11:00～11:45 | 昼食（レストラン） | **対象：希望者のみ，定食￥400** | |
| 12:00～12:10 | 校長挨拶 | 担当：校長 | |
| 12:10～12:20 | 教務関係について | 担当：教務主事 | |
| 12:20～12:40 | 学生生活について | 担当：学生主事 | |
| 12:40～13:10 | 学生寮について | 担当：寮務主事 | |
| 13:10～13:15 | 就職・進学について | 担当：進路委員長 | |
| 13:15～13:20 | ネットワーク利用に関する同意について | 担当：情報処理センター長 | |
| 13:20～13:25 | 平成２２年度各種納付金等について | 担当：学生課長 | |
| 13:25～13:30 | 研修旅行の積立について | 担当：エイチ・アイ・エス　沖縄 | |
| 13:30～13:35 | 給食費について | 担当：レストラン代表者 | |
| 13:35～13:45 | 後援会について | 担当：後援会長 | |
| 13:45～14:45 | 学生寮施設見学（説明時間１０分含む） | **対象：メディア情報工学科、生物資源工学科**<br>**場所：ピロティ** | |

**※　①～⑦の手続順については，当日，係員の指示に従ってください。**

（出典　学生課資料）

資料７－１－①－２

# 平成２２年度新入生オリエンテーション日程

１　日　　時　　平成２２年４月５日（月）　　９：００～１４：０５

２　場　　所　　メディア棟３階　視聴覚ホール

３　日　　程

| 時　　間 | 事　　項 | 講　　師 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 8：55 | 集　　合 | | |
| 9：00～ 9：15 | 挨　　拶 | 校　　長 | |
| 9：15～ 9：45 | 学生相談室の紹介<br>アンケート実施 | 学生相談室長 | |
| 9：45～10：10 | ＪＡＢＥＥについて | JABEE対応委員長 | |
| － 休　憩 － | | | |
| 10：20～10：50 | 学生生活について | 学生主事 | |
| 10：50～11：10 | 図書館の施設と利用案内について | 図書館長<br>図書情報係長 | |
| 11：10～11：50 | 沖縄高専の概要について | 総務主事 | |
| － 昼　食 － | | | |
| 13：00～13：35 | 教務関係について | 教務主事 | |
| 13：45～14：05 | 学内ネットワークとノートパソコンについて | 情報処理センター長 | |
| 14：15～ | 教科書等受け渡し | | （場所）<br>演習室２ |

（出典　学生課資料）

資料７－１－①－３

資料　1

# 沖縄工業高等専門学校　専攻科オリエンテーション

日　時：平成 22 年 2 月 19 日（金）
　　10：25～11：30
場　所：視聴覚ホール
対象者：平成 22 年度専攻科入学予定者
　　専攻科生

専攻科オリエンテーション資料１　目次

専攻科の教育目標　・・・P　1
・専攻科の制度と特色
・専攻科の理念、目的、技術者像、教育目標、教育方針

学士の取得について　・・・P　3

JABEE について　・・・P　4
・沖縄高専の教育目標と JABEE 学習・教育目標

習得単位、教育課程表について　・・・P　5
・教育課程表（創造システム専攻科）

科目履修について　・・・P　8
・学修単位の時間
・習得単位
・インターンシップ

# 専攻科の教育方針について

## 専攻科の制度と特色

高専の専攻科は学校教育法（第 10 章第 119 条）の条文「高等専門学校には、専攻科を置くことができる」に基づいて設置されており、その内容は同条文２において、「高等専門学校の専攻科は、高等専門学校を卒業した者又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者に対して、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的とし、その修業年限は、１年以上とする」となっています。また、認定専攻科を修了した学生は大学評価・学位授与機構による所定の審査に合格することで学士の学位を取得することができます。沖縄高専は平成２１年２月に認定専攻科として認められました。大学評価・学位授与機構による短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定に関する規則の第２条において、認定専攻科の要件として「教育課程は、大学教育に相当する水準を有するものであること」が明記されています。従って，高専本科と大きく異なる点は、専攻科では大学と同等水準の教育を行うことがあげられます。さらに、教育水準の維持、向上のために活発な研究活動も位置づけられており、大学院の修士課程なみの教育が含まれているのも特長です。

近年、産業界では、複合専門分野における課題をシステム的、かつ創造的に解決する能力が求められています。沖縄高専では、実践性・創造性を兼ね備え、複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけたリーダーシップのある技術者、豊かな人間性と国際性をもつ技術者、課題設定・解決能力を持ち柔軟な思考ができる技術者の育成を目指して、専攻科名を「創造システム工学専攻」としています。創造システム工学専攻は、本科の関連科目と学位取得専門区分に対応するように、機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースの４コースから構成されています。

## 専攻科の理念、目的、技術者像、教育目標、教育方針

学校教育法の精神に則り、社会の要請に応えるために、沖縄高専専攻科は以下の理念、目的、技術者像、教育目標、教育方針を掲げています。

### 理念

人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する。

### 目的

高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工学に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、豊かな人間性と国際性を持ち、実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけ、課題設定・解決能力に優れ柔軟な思考ができる高度開発型の技術者を育成する。

## 育成しようとする技術者像

① 実践性と創造性を兼ね備えた技術者
② 社会や環境、人類の福祉などを地球的視点で考えられる技術者
③ グローバル化時代に対応する国際性豊かな技術者
④ コミュニケーション能力と統率力を兼ね備えた指導的技術者
⑤ 新技術・新産業創出を担う高度な専門技術力を持つ研究開発型技術者
⑥ 地域産業を担う起業家精神旺盛な技術者

## 教育目標

① 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する。
② 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する。
③ 専門知識を基にした応用力をもち、自ら成長できる人材を育成する。
④ 地球的視野と倫理観を備え社会に貢献できる人材を育成する。

## 教育方針

本科５年間の専門基礎教育の上に、更に２年間のより高度な専門教育を行います。専門教育では実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけたリーダーシップのある技術者、豊かな人間性と国際性をもつ技術者、課題設定・解決能力をもち柔軟な思考ができる技術者の育成を目指します。機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースと関連の深い本科の教育課程を基礎として、それぞれの専門性を更に高めながら、異なる専門分野にも対応し、実践的な研究の課題設定・解決を目指す教育課程を編成します。経済産業界における実践的な技術応用を学ぶために、企業等と連携した共同教育を推進します。

## 教育課程の編成方針

① 一般科目においては、豊かな人間性と国際性を涵養するための科目を設ける。
② 専門共通科目においては、専攻科の高度な専門科目と効果的に連携する数学、物理、化学等の専門基礎科目を置き、産業・環境・技術などの複合分野で視野を広げるための科目を設ける。学生が共通に取り組む融合・複合的な内容で実践的・体験的に学ぶ科目を設ける。また、学外における企業実習の科目を設け、課題解決型の長期間実習や国際性を身につける実習が行えるようにする。
③ 本科５年間の専門基礎科目を発展・深化させた専門科目を設け、いくつかの専門基礎科目をもとに学際的・複合的な専門科目を設けて、幅広い分野に対応できる技術教育を行う。
④ 本専攻科は、機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースの４コースで構成し、それぞれの専門分野で、本科の基礎技術教育の上に、更に２年間のより高度な専門技術教育を行う。
⑤ 講義を主としながらも実験・実習・実技・演習などを効果的に取り入れた実践・体験的な科目を設け、研究・開発分野で活躍できる課題設定・解決能力をもつ技術者を育成するために特別研究に多くの時間を配分する。他の異なるコースの専門科目についても履修できるようにする。

## 学士の取得について

沖縄高専専攻科は認定専攻科として認められており、大学評価・学位授与機構による学位授与を申請することができます。申請手続きについては、機構より出されている「新しい学士への途」という冊子に詳細に記述されています。この冊子の内容は大学評価・学位授与機構のホームページからダウンロードすることができます。　専攻科の学生は必ず機構のホームページにアクセスして入手してください。

学士の取得までのプロセスを下記に示しますので、入学後から計画的な取り組みを始めてください。

① 取得しようとする学位の専門分野、専攻区分を明確にする。

② 修得すべき専門科目と関連科目の単位、および専攻に係る単位以外の単位を計画的に修得する。

③ 学修成果レポートの課題・内容について計画的に準備する。学修成果レポートは、課題について根拠に基づき自分の考察・意見を論述したものです。この趣旨に基づいて、卒業研究や特別研究などをベースに作成します。この学修成果レポートとレポート内容に関する小論文試験（筆答試験）の総合判定で合否が決まります。学修成果レポートの作成にあたっては下記の注意点に留意してください。

1) 学位の取得を希望する専攻の区分に即した特定のテーマ（課題）を設定すること。
2) 設定したテーマ（課題）の目的や意義が明確に示されていること。
3) 設定したテーマについての関連する文献や資料等（先行研究）による学修が踏まえられていること。また、その内容についての十分な知識・理解に基づいて書かれたものであること。
4) 設定したテーマに対して、適切な方法（文献研究,調査,実験など）を用いた学修がなされていること。また、その学修の内容や成果が十分に記述されていること。
5) 学修の成果に基づいて、自身の考察ならびに結論が述べられていること。
6) 結論に至る過程や考察の根拠が明瞭かつ論理的に述べられていること。
7) 文献・資料等の引用が適切になされていること。
8) 文章・図表等を引用する場合は、引用部分を「」等で明示するとともに、出典としてその著者名、文献名、発行年やページを明らかにすること。
9) 自身の意見や考察と参考文献からの引用等の内容とが判別できるように書かれていること。
10) レポートを作成する上で参考にした文献、資料等については、レポートの最後に適切な形式にしたがって参考文献としてまとめて提示すること。
11) 調査対象、調査方法、実験方法、実験材料、事例の選択等が適切であること。文献等から事例や用例を引用する際には、引用の根拠が十分に示されていること。また、調査や実験にあたり倫理的配慮が必要な場合には、十分な倫理的配慮がなされていること。
12) 調査結果の分析、実験結果の解析に適切な方法が用いられていること。（また、その方法を用いることの根拠が示されていること）
13) 用いた分析や解析の方法に対して、ふさわしいデータ（データ数、サンプル数、再現性など）が得られていること。
14) 調査結果、実験結果、開発した装置やプログラムなどについて十分な記述がなされていること。
15) 調査の分析結果や実験結果の解釈が明瞭に述べられていること。
16) 研究グループなどによる共同研究・調査に基づく場合には、そのことをレポート中に明記すること。ただし、自身の問題意識や考察、自身が共同研究・調査のなかで果たした役割が明確に示されていること。
17) 文章が簡潔、明瞭に書かれていること。誤字,脱字がないこと。
18) 図表等の書き方が適切であること。また、それらについての説明が十分なされていること。

学修成果レポートと小論文試験における不合格の理由として、　①学力が定着していない、②テーマ（課題）が不適切、③学修成果レポートの内容が水準に達していない、などがあげられています。専攻分野の基礎学力の定着、学修成果レポートの水準、記述内容の十分な理解、などについて、指導教員ともよく相談しながら準備してください。

# ＪＡＢＥＥについて

本校では、第１期生のプログラム修了後の平成２３年に次の４つの分野でJABEE審査を受けることを目指しています。JABEEにより認定された技術者教育プログラムの修了生は社会の要求水準を満たし、専門技術の知識と能力を備えた実践技術者であることが保証され、「修習技術者」の資格が与えられます。この資格を持っていると「技術士」の第一次試験が免除され、申請により「技術士補」の資格を得ることができます。

また、本校が平成２３年の審査において認定された場合には、第１期生からプログラム修了生となることができます。

| コース名 | ＪＡＢＥＥ受審分野 |
|---|---|
| **機械システム工学コース** | **機械および機械関連分野** |
| **電子通信システム工学コース** | **電気・電子・情報通信およびその関連分野** |
| **情報工学コース** | **情報および情報関連分野** |
| **生物資源工学コース** | **生物工学および生物工学関連分野** |

沖縄高専の教育目標とJABEE学習・教育目標

１．　沖縄高専本科の教育目標

学則第１条　沖縄工業高等専門学校は、豊かな人間性及び確固たる基礎能力と専門技術を身につけ、経済産業界の要請に的確に対応しつつ、国際的にも活躍できる創造的実践技術者を育成することを目標とする。

２．　掲げられた「8つの力」

学生生活の手引きより　本校の育成する人材は、技術者として自ら切り開いていくための「エンジン」、すなわち、社会の技術現場で中核的役割を担い、将来、産業界をリードし、以下に掲げる「力」を持ち、イノベーションを引き起こせる能力を持つ技術者です。

| 「8つの力」 | 対応するJABEE学習・教育目標 |
|---|---|
| ① 地球的思考力 ： 地球的視点及び共生の視点に立って物事を理解し、思考できる力 | (a)、(b) |
| ② 協調性・理解力 ： 他者及び他文化を尊重し強調して物事に取り組むことができる力 | (f) |
| ③ 表現力 ： ものごとや自己の考えを表現できる力 | (e)、(f) |
| ④ 実践力 ： 社会や組織における自己の位置と責任を自覚し、自ら必要な行動ができる力 | (b) |
| ⑤ 自己学習力 ： 技術に対する興味や関心を持続しつつ、自らを啓発できる力 | (g) |
| ⑥ 本質理解力 ： 科学技術の原理や本質を理解できる力 | (c)、(d) |
| ⑦ 基礎知識・理解力 ： 技術者として必要な基礎的知識と技術力 | (d) |
| ⑧ 創造性 ： 価値あるものを新たに作り出す能力 | (e)、(h) |

３．（参照）JABEE プログラムにおける学習・教育目標

（ａ）地球的観点から多面的にものごとを考える能力とその素養

（ｂ）技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解（技術者倫理）

（ｃ）数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力

（ｄ）該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを応用できる力

（ｅ）種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力

（ｆ）日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション能力

（ｇ）自主的、継続的に学習できる能力

（ｈ）与えられた制約の下で計画的に仕事を勧め、まとめる能力

## 修得単位，教育課程表

**各コースにおける履修方法、開設単位数及び修得すべき単位数，教育課程表は以下のとおりです。**

| 区　　分 | 開設単位 | 修得単位 |
|---|---|---|
| 一　般　科　目 | | |
| 必　　修 | ４ | ４ |
| 選　　択 | １２ | ４ |
| 小　　計 | １６ | ８ |
| 専門共通科目 | | |
| 必　　修 | ２２ | ２２ |
| 選　　択 | ２６ | １２ |
| 小　　計 | ４８ | ３４ |
| 専　門　科　目 | | |
| 選　　択 | | |
| （機械システム工学コース） | ２８ | ２０ |
| （電子通信システム工学コース） | ２６ | ２０ |
| （情報工学コース） | ３０ | ２０ |
| （生物資源工学コース） | ３０ | ２０ |
| 小　　計 | ２６～３０ | ２０ |
| 合　　計 | ９０～９４ | ６２以上 |

＊ただし、他コースの科目を６単位まで認める。

創造システム工学専攻

| 種別 | コース | 必修・選択の別 | 科目名 | 区分 | 単位数 | 学年別配当単位数 1年 | 学年別配当単位数 2年 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一般科目 | 全コース | 必修 | 実用英語Ⅰ | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 実用英語Ⅱ | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | 選択 | 日本語･日本文化論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 哲学･倫理学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 日琉交流史 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 国際政治経済学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 環境変遷学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | スポーツバイオメカニクス | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 修得単位計 | | 8 | 4 | 4 | |
| | | | 開設単位計 | | 16 | 8 | 8 | |
| 専門共通科目 | 全コース | 必修 | 特別研究 | 実験 | 14 | 6 | 8 | |
| | | | 創造システム工学実験 | 実験 | 4 | 4 | | |
| | | | 専攻科実験 | 実験 | 4 | | 4 | |
| | | 選択 | 物理学特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 数学通論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 応用解析学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 応用物理特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 物理化学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | バイオテクノロジー | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | バイオマス利用工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 品質･安全マネジメント特論 | 講義 | 1 | | 1 | |
| | | | 技術史 | 講義 | 1 | | 1 | |
| | | | 環境システム物理学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 経営工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 長期インターンシップ | 実習 | 4 | 4 | | 2年次選択可 |
| | | | グローバルインターンシップ | 実習 | 2 | | 2 | 1年次選択可 |
| | | | 修得単位計 | | 34 | 16 | 18 | |
| | | | 開設単位計 | | 48 | 22 | 26 | |
| 専門科目 | 機械システム工学コース | 選択 | 材料学特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 溶接･接合工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 連続体力学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 材料強度学特論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 数値シミュレーション　Ⅰ | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 数値シミュレーション　Ⅱ | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 生産工学特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 制御系構成論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 表面工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 輸送現象論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 流体工学概論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 熱機関工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | ロボット工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 技術管理概論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | 電子通信システム工学コース | | シミュレーション工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 数理計画法 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 生体情報工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 数値解析論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 信号処理特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | アルゴリズム理論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | マイクロ波工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | システムLSI設計工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 光電子デバイス | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 半導体物性工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 弾性波工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 電子機器工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | LSIプロセス工学 | 講義 | 2 | 2 | | |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 専門科目 | 情報工学コース | 選択 | 情報数学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | メディアコンテンツ特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 応用統計学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 組込システム特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | データ工学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 情報セキュリティ特論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | ソフトウェア開発特論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 計算機科学特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | ロボティクス | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | ヒューマンインタフェイス | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | パターン認識 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | モバイル通信方式特論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | システム制御理論 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 光通信システム | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 適応処理特論 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | 生物資源工学コース | | 神経細胞生物学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 資源生物機能形態学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 分子生物学II | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 植物工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 無機化学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 代謝生化学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 応用微生物学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 食品衛生工学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 酵素化学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 醸造学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 生物資源の機能性科学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 酸化ストレスの生命科学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | タンパク質利用学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | | | 食品化学 | 講義 | 2 | 2 | | |
| | | | 食品機能学 | 講義 | 2 | | 2 | |
| | 他コースの選択科目 | | | | | | | 6単位まで認める |
| | 修得単位計 | | | | 20 | 10 | 10 | |
| | 開設単位計 | | | | 114 | 64 | 50 | |
| 修得単位計 | | | | | 62 | 30 | 32 | |
| 開設単位計 | | | | | 178 | 94 | 84 | |

# 専攻科科目履修について

・ **学修単位の時間**

専攻科の授業は大学と同じ学修単位です。学習時間は本科の場合の 1.5 倍程度にとなっていますので、自学自習時間の確保に注意してください。

15時間の授業時間と30時間の自学自習で1単位とする2単位の科目




30時間の授業時間と15時間の自学自習で1単位とする4単位の科目







16単位取得する場合の時間割の例

・ **修得単位**

学年別配当の修得単位数に従って修得してください.

・ **インターンシップ**

長期インターンシップ：期間（4 週間）、内容（課題解決型、特別研究との関連等）、受け入れ先企業、などを確定してから、履修届けを出し、単位認定されるかどうかについてインターンシップ担当教員の判断を仰いでください。

グローバルインターンシップ：国、受け入れ機関、実習プログラム、などを確定してから履修届けを出し、単位認定されるかどうかについてインターンシップ担当教員の判断を仰いでください。



（出典　学生課資料）

資料７－１－①－４

## 学 科 担 任

| | | 機械システム | 情報通信システム | メディア情報 | 生物資源 | 学年主任 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年次 | 担任 | 松栄 | 石田 | バイティガ | 田邊 | 学年主任 |
| 2年次 | 担任 | 下嶋 | 神里 | 正木 | 磯村 | |
| 3年次 | 担任 | 鳥羽 | 金城 | 鈴木 | 伊東 | 未定 |
| | 副担任 | 眞鍋 | 野口 | 太田 | 工藤 | |
| 4年次 | 担任 | 真喜志治 | 山田 | 佐藤 | 平良 | 真喜志治(予定) |
| | 副担任 | 武村 | 杉本 | 西村 | 山城(秀) | |
| 5年次 | 担任 | 比嘉(吉) | 比嘉(勝) | 姉崎 | 三枝 | 姉崎(予定) |
| | 副担任 | 中本 | 知念 | 伊波 | 三宮 | |

## クラス担任

| | | 1組 | 2組 | 3組 | 4組 | 学年主任 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年次 | 担任 | 大石 | 武田 | 名嘉山 | 青木 | 青木 |
| | 副担任 | 宮城 | 澤井 | 木村 | 古屋 | |
| 2年次 | 担任 | 山本 | 角田 | 成田 | 滝 | 成田 |
| | 副担任 | 吉川 | 新川 | 下郡 | 小池 | |

## 主 事 補

| | 総務主事補 | 教務主事補 | 学生主事補 | 寮務主事補 |
|---|---|---|---|---|
| 機械システム | 宮田 | 政木 | 武村 | 下嶋 |
| 情報通信 | 知念 | 野口 | 神里 | 金城 |
| メディア情報 | 正木 | タンスリヤポン | 玉城(龍) | バイティガ |
| 生物資源 | 濱田 | 田邊 | 三宮 | 山城 |
| 総合 | 小池 | 木村 | 下郡 | 澤井 |
| | | | 飯田 | 古屋 |

3

（出典　平成 21 年度第 10 回運営企画会議資料　抜粋）

資料７－１－①－５

## 第１章　担任業務

本校では，1～２年の学級は混合クラスにより編成されており，各学級に対して１名の学級担任と１名の学級副担任をおく。また，１～２年では各専門学科の学生からなるクラスに対して１名の学科担任をおく。学級担任は各学級とその学生を指導し，学級副担任はそれを補佐する。学科担任は主に専門学科の立場から学生を指導する（進路、専門学科の学修内容等）。３～５年の学級は学科ごとに編成され，各学級に対して１名の学科担任と１名の学科副担任をおく。３～５年では学科担任は１～２年における学級担任の役割も担う。学級副担任はそれを補佐する。以下，担任（１～２年では学級担任、３～５年では学科担任を意味する）の役割や業務について述べる。

担任は，学生と学校側をつなぐ重要なパイプ役であり，学生指導の直接責任を負う。担任は，第２章以下の全てについても熟知し学級指導にあたることが望ましい。常に学級に目を向け適切な指導により学級全体を健全な状態に保つことが重要である。

教務主事，学生主事，寮務主事、学生相談室、事務等とは連絡を密にし，学級あるいは学生に異常が生じた場合は，必要に応じてこれらと連絡を取り合い，速やかに対処しなければならない。また，保護者との連携も重要である。

中間試験や期末試験の終了後，成績一覧表をもとに学生と個別に懇談し，学業面に重点をおいた指導をすることも重要である。

担任の業務は前年度末に新年度の公務分掌として発表された時点から始まる。受け持ち学級に必要な資料，情報を取り入れて準備し，教務係から資料を受け取り，学級担任としても一年間が始まる。

受け持ち学級及びその個々の学生の指導と把握が担任業務の全であるが，以下にその主なものをあげる。

### （１）　学級役員の指導

前学期または後学期早々に，ＬＨＲ等を利用して学級の役員を選出し，それらの役員に対して役目の内容を指導し役割を全うさせなければならない。

入学直後の新入生に対しては，学級の学生間の自薦･他薦では委員が決まらない可能性もあるので，中学校での活動等を参考に担任による指名等も考えておいて良い。

また，１年生の後学期以降の学級委員選出にあたっては選ばれた役員は勿論のこと，選ぶ側の学生の指導も事前にしておかないと，担任が後で苦労することがある。

### （２）　ショートホームルーム（ＳＨＲ）

1～３年までの学級では，担任は毎朝８時３０分から８時４０分まで（定期試験期間中は時間帯が変わる場合もある）の１０分間，ショートホームルーム（ＳＨＲ）を行う。１～２年は学級担任が行い（必要な場合には、学科毎に構成し学科担任が行うことも可能）、３年は学科担任が行う。ＳＨＲでの主な仕事は出欠の確認であるが，学生に学校生活に関する諸連絡や諸注意を伝達する場でもある。なお，必要に応じて，ＳＨＲに来ていない学生について，学生寮事務室や保護者に連絡して異状がないか確認する。

### （３）　出欠状況の把握

担任は１日の最初に行われるＳＨＲで出欠をとる。その後、クラス単位で行われる授業では、科目

担当の教員が電子出席簿(Campusmate の出欠情報登録)に記入を行う。

欠席日数を計算する上での欠席とは、ＳＨＲを含めその日の授業すべてを欠課した場合をいう。授業が全て休講となった場合は、その日は授業日とはするが、SHR は不要である。学生は出席したものと扱う。

出欠状況は学生の生活や勉学の状況を反映するものである。欠席・欠課・遅刻・早退が多い学生については、理由などを把握し適切に指導することが大事である。また、場合によっては科目担当や保護者とも連絡を取る。

欠席・欠課等については，できるだけ事前に担任に連絡するよう指導し，事後になった場合も速やかにこれらの届けを提出するように指導する。

欠課時間数が総授業時間数の 1/３を超えると，その科目は未履修となり，原級留置となる。欠課の多い学生についてはこの点を良く注意しておくこと。特に半期のみに開講される１単位の授業については気を配っておく必要がある。

**（４）　学級日誌の点検**

日直には毎日学級日誌を記入させ，それを点検することによって，その日の学級の動向や授業の様子等を知ることができる。電子出席簿(Campusmate の出欠情報登録)の補助ともなるので，特に授業ごとの出欠状況は正確に記入するように指導する。

**（５）　特別活動指導記録**

本校において，１～３年の特別活動（ＬＨＲ）は進級の要件ともなっている重要な活動である。どのような指導を行ったかを特別活動指導記録として記録しておく必要がある。これは同僚の担任や再び自分が担任となる場合にも役立つ。

**（６）個人面談**

新たに学級を受け持って，できるだけ速やかに行いたい担任の重要業務の一つが，学生との個人面談である。空き時間や放課後を利用してクラス全員と面談するのであるから，２～３週間かけての業務である。１年生の場合４月入学直後は多忙で時間を取るのは難しいが，前学期中間試験頃までには最初の面談を行っておきたい。これによってお互いを知り，理解しあってコミュニケーションを深めることができ，いざと言う場合の指導に効果を発する。はじめに述べたように，試験終了ごとや適宜必要に応じての面談も教育上有効である。労苦と時間のかかる大仕事であるが，ぜひ実行されたい。

**（７）　保護者との学級懇談会・面談**

クラスの保護者全員を対象とした学級懇談会を年に１回実施する。そこでは保護者に対する全体的な注意や学級の様子等を伝え，学校の運営や学生の指導への理解や協力をお願いする。また、学級懇談会は保護者相互の情報交換の場を提供するものでもある。懇談の内容は学年によって変化すると考えられる。例えば低学年においては、生活指導、精神面、進級問題など基本的な問題についての懇談、高学年においては、研修旅行、インターンシップ、進学、就職などについての懇談が入ってくるであろう。懇談のテーマや方法などは担任相互で話し合って、改善していくのが良いであろう。

また同時期に保護者と個別の面談を実施し，主に個々の学生の状況について情報の授受を行う。ここで保護者と良好な関係を築いておくことは，その後の学生に指導においても重要な役割を果たす。このように保護者との面談は非常に重要なものであるから，保護者の希望を調査・調整して面談の計画

を立てる必要がある。

**（８）学生所見の入力，学生指導要録の記入**

各期末試験終了後，教務システムを通じて学級の個々の学生の所見を入力する。この所見は保護者に送付する学生の個人成績表にも記載されるため，後述する保護者との面談と並んで，保護者に個々の学生の様子を伝える貴重な機会となる。年度終了時には，教務システムを通じて学級の個々の学生の指導要録用の所見等と調査書用の所見等を入力する。（検討中）

**（９）諸連絡の伝達**

学級担任は，学生と学校側をつなぐ重要なパイプ役であり，例えば，定期試験に際しての諸注意，学校行事，緊急連絡，その他，学生と学校との間の情報の伝達がスムーズに行くよう配慮すること。

**（１０）諸行事の指導・引率**

高専祭，体育祭，合宿研修等の行事の際には，担任は学生を指導し助言を与え，必要によっては引率を行う。このような教室外での活動の場では，普段は気付きにくい学生の一面を見ることができる機会でもある。こういう時にクラスの手綱を緩めず，そして親しみをプラスするのも担任の重要な責務である。

**（１１）　諸願・諸届の確認**

欠席・欠課届等は必ず提出させる。これら諸願，諸届にはそれぞれ締切日や提出期間が定められているので注意し，それを厳守させる。これらに関しては担任としてももらさずチェック，確認しておく必要がある。

**（１２）　選択科目の履修について**

１～４年までの学生には１１～１月頃，次年度の選択科目履修についての調査が教務委員会を通じて行われる。担任は，調査の確認や人数調整等，関係教科主任や学科主任に協力する。また，留年となった学生に，年度末までに受講科目の決定をさせる。

**（１３）　異常発生時の対応**

クラスに異常が発生したら必要に応じ，教務主事，学生主事，寮務主事と連携してことに当たる。担任会を開いて学年で連携したり，場合によっては学科主任と相談することも重要である。特に異常時の対応には迅速，適切，連携が要求されることは言うまでもない。

**（１４）　座席，ロッカー**

自教室のある１～４年までは，自教室における学生の座席は適宜席替え等を行って定めるが，年度の初めは，少しでも学生を覚えやすくするために，出席番号順に席を定めることが望ましい。座席表は担任が作成するか責任をもって学級委員等に作成させるかして，教卓の上に常備しておかなければならない。試験期間中は必ず出席番号順の座席に座らせる。また，担任指導のもとにロッカーを割り当て，適切に管理・使用させる。

**（１５）　教室の管理（諸用具，設備，清掃状況，掲示物等）**

適当な方法によってクラスで当番を決め，ＨＲ教室やトイレ等学年・学級に割り当てられた場所をきちんと清掃させる。当番や学級の役員等を利用して用具の点検もさせ，修理や補充の必要が生じた時は教務係に申し出る。期限が過ぎたものは速やかに処分する等，掲示物も適切に管理する。

**（１６）　未修得科目を持つ学生の指導**

２学年以上になると，受け持ちクラスに未修得教科を持って進級した学生がいることが多い。これらの学生ができるだけ早く単位を修得できるよう，担任はバックアップしてやることが望ましい。教科担当教員の所へ相談に行かせるなどの助言も必要であろう。未修得の教科を残したままだと，３年から４年への進級や卒業の障害ともなるので，学生によっては強力な指導が必要である。さらに，これらの学生は当該年度の単位も落としがちであるので，その面からの指導も必要となることが多い。担任はこのような学生の未修得単位数を把握しておくべきである。

**（１７）　留年学生の指導**

クラスに留年学生がいる場合は，この学生に関して色々な面から注意をしておかなければならないことが多い。

第一に，ともすれば学校を続けるという意思がくじけそうになる場合が多いことである。励ましも含めた担任の強力な指導が必要である。第二に，再度留年しないかということである。本校の規定では同一学年を２回留年できないことになっており，２回留年した学生には退学が勧奨される。しかし，前年に留年した学生は，学習面や生活面に問題がある等，留年する理由をもっており，その問題を改善しない限り再び留年する可能性が高い。第三に，留年学生は留年したという事実や年齢が上であることから，クラスに溶け込むのが難しい場合が多く，またクラスの雰囲気を乱す場合もあるので，この点にも注意を要する。

**（１８）　学級における体育館やグラウンドの使用**

ＬＨＲのレクリエーション等クラスとして体育館やグラウンドを使用する場合は，他の学級担任とも調整の上あらかじめ計画を立て，教務係やスポーツ実技担当教員に申し出て，使用許可を得なければならない。なお，学級担任は，使用後は体育館や器具の片づけをするよう学生を指導する。

**（１９）　担任会**

各学年の担任が歩調を揃え，学級あるいは学年の運営をスムーズに行うため，適宜，担任会を開いて協議したり，情報交換したりすることは重要である。必要に応じて副担任や学科担任，学科長あるいは教科担当教員等の出席を願うのも意味がある

以上，担任業務の主なものをあげたが，日々の細々した事柄を入れればその業務範囲はもっと広い。すべての事柄を記述しつくすことは難しい。この冊子に規定されていない事態に遭遇した場合は、学生のことを第一に考え、学校全体が円滑に動くことを念頭において、柔軟に対処することが重要である。



（出典　平成 22 年度教員便覧　P.4-7）

資料７－１－①－６

# 平成２２年度　前期オフィスアワー

| 学科 | 氏　名 | 曜日 | 研究室 |
|---|---|---|---|
| 機械システム工学科 | 宮田　恵守 | 月 | 3-15 |
| | 眞喜志　隆 | | 2-16 |
| | 松栄　準治 | | 2-17 |
| | 眞喜志　治 | | 3-18 |
| | 山城　光 | | 1-18 |
| | 吉永　文雄 | | 3-17 |
| | 武村　史朗 | 火 | 1-16 |
| | 真鍋　幸男 | | 2-18 |
| | 比嘉　吉一 | | 2-15 |
| | 中本　正一朗 | 木 | 3-16 |
| | 政木　清孝 | | 1-17 |
| | 鳥羽　弘康 | 金 | 1-15 |
| | 下嶋　賢 | | 2-14 |
| | | | |
| 情報通信システム工学科 | 杉本　和英 | 月 | 1-6 |
| | 石田　修己 | | 1-4 |
| | 比嘉　勝也 | | 1-5 |
| | 兼城　千波 | | 2-1 |
| | 神里　志穂子 | | 3-1 |
| | 知念　幸勇 | 木 | 2-3 |
| | 野口　健太郎 | | 2-2 |
| | 山田　親稔 | | 2-4 |
| | 金城　伊智子 | | 3-3 |
| | 高木　茂 | 金 | 3-2 |
| メディア情報工学科 | 正木　忠勝 | 月 | 3-7 |
| | バイティガ　ザカリ | | 2-5 |
| | 玉城　龍洋 | | 2-6 |
| | 太田　佐栄子 | 火 | 3-8 |
| | 角田　正豊 | 木 | 3-6 |
| | 伊波　靖 | | 2-7 |
| | 西村　篤 | | 3-9 |
| | 鈴木　大作 | | 3-4 |
| | 佐藤　尚 | | 3-5 |
| | 姉崎　隆 | 金 | 1-7 |
| | タンスリヤポン　スリヨン | | 1-8 |

| 学科 | 氏　名 | 曜日 | 研究室 |
|---|---|---|---|
| 生物資源工学科 | 山城　秀之 | 月 | 2-12 |
| | 池松　真也 | | 2-11 |
| | 平良　淳誠 | | 1-11 |
| | 田邊　俊朗 | | 2-10 |
| | 伊東　昌章 | | 2-13 |
| | 濱田　泰輔 | 火 | 3-13 |
| | 玉城　康智 | | 3-12 |
| | 磯村　尚子 | | 1-14 |
| | 三宮　一宰 | 木 | 1-12 |
| | 工藤　雄博 | | 1-13 |
| | 三枝　隆裕 | 金 | 4-12 |
| | 平山　けい | | 4-10 |
| 総合科学科 | 新川　智清 | 月 | 4-17 |
| | 青木　久美 | | 4-18 |
| | 下郡　剛 | | 4-9 |
| | 角田 ｷｬﾃｨｰ | | 4-16 |
| | 飯田　智行 | | 1-9 |
| | 成田　誠 | 火 | 4-11 |
| | 網谷　厚子 | | 4-3 |
| | 滝　雅士 | | 4-2 |
| | 木村　和雄 | | 4-8 |
| | 宮城　元 | | 3-14 |
| | 澤井　万七美 | 木 | 4-1 |
| | 名嘉山 リサ | | 4-13 |
| | 武田　ひとみ | | 4-5 |
| | 小池　寿俊 | 金 | 4-4 |
| | 大石　敏広 | | 4-15 |
| | 古屋　淳 | | 4-7 |
| | 山本　寛 | | 4-6 |
| 留学生交流促進センター | 吉川　友子 | 火 | 1-10 |

**表に示された曜日の16時30分～17時15分までは，先生方が研究室に在室しています。相談等がある学生は，気軽に来室してください。ただし，教員が寮の宿直に当たっている場合には，15分程度前には部屋を後にしますので注意してください。**
**※この曜日には，必ず在室しているということで，その他の曜日にはいないということではありません。**

（出典　学生課資料）

資料７－１－①－７

別紙１

## 学級懇談会・保護者面談及び公開授業週間の御案内（１年１組）

１　学級懇談会

（１）目　　的　　学校の教育方針や学級運営方針等に対する御家庭の御理解と御協力を賜る。
（２）日　　時　　平成２２年６月３０日（水）１４：５０～１５：４０頃まで
（３）場　　所　　講義室４－１（担任：大石　敏広）

２　保護者面談

（１）目　　的　　担任と保護者の皆様との間で，学生の学習・生活状況についての情報を交換し，指導方針に対する御理解と御協力を賜る。
（２）日　　時　　別紙２「保護者面談可能時間帯」を参照してください。
（３）場　　所　　研究室４－１５
（４）実施要領　　担任と保護者の皆様とお一人当たり１０分～２０分程度の個人面談を実施させていただきます。
（５）希望調査　　面談を御希望される保護者の方は希望日時等を平成２２年６月１４日（月）までに学生を通じまして担任へ御連絡ください。
（６）注意事項　　ア　面談希望者が多い時間帯は、話し合いのうえ調整させていただきます。その際、遠方の方を優先させて頂くことがありますので、御了承願います。
イ　面談日時が決まりましたら、学生を通して、御連絡差し上げます。

※　なお、この面談につきましては、公開授業週間以外でも随時対応させていただいております。

３　公開授業週間

沖縄工業高等専門学校では，平成２２年６月２８日（月）から７月２日（金）までの期間を公開授業週間として，自由に授業を見学いただく期間としております。

よろしければ，別紙３「平成２２年度　前学期　時間割」を参照の上，御参観ください。

別紙１

## 学級懇談会・保護者面談及び公開授業週間の御案内（２年１組）

１　学級懇談会

（１）目　　的　　学校の教育方針や学級運営方針等に対する御家庭の御理解と御協力を賜る。
（２）日　　時　　平成２２年６月３０日（水）１５：００～１５：３０頃まで
（３）場　　所　　講義室３－１（担任：山本 寛）

２　保護者面談

（１）目　　的　　担任と保護者の皆様との間で，学生の学習・生活状況についての情報を交換し，指導方針に対する御理解と御協力を賜る。
（２）日　　時　　別紙２「保護者面談希望調査」を参照してください。
（３）場　　所　　研究室４－６（山本研究室）
（４）実施要領　　面談を御希望されます保護者の方には、担任がお一人当たり１０分～２０分程度の個人面談を実施いたします。
（５）希望調査　　面談を御希望されます保護者の方は、別紙２を御参照のうえ、希望日時等を平成２２年６月１４日（月）までに学生を通じまして担任へ御連絡ください。
（６）そ の 他　　ア　面談希望者が多い時間帯は、話し合いのうえ調整させていただきます。
その際、遠方の方を優先させて頂くことがありますので、御了承下さい。
イ　面談日時が決まりましたら、学生を通して、御連絡差し上げます。

※　なお、この面談につきましては、公開授業週間以外でも随時対応させていただいております。

３　公開授業週間

沖縄工業高等専門学校では，平成２２年６月２８日（月）から７月２日（金）までの期間を公開授業週間として，自由に授業を見学いただく期間としております。

よろしければ，別紙３「平成２２年度　前学期　時間割」を参照の上，御参観ください。

別紙１

## 学科懇談会・保護者面談及び公開授業週間の御案内（３年機械システム工学科）

１　学科懇談会

（１）目　　的　　学校の教育方針や学科運営方針等に対する御家庭の御理解と御協力を賜る。
（２）日　　時　　平成２２年６月３０日（水）　１５：００　～　１５：５０
（３）場　　所　　３ＦＣＡＤ・ＣＡＭ室
（４）出欠について　別紙２「学科懇談会出席確認表・保護者面談希望調査票」に御記入の上，御提出願います。

２　保護者面談

（１）目　　的　　担任と保護者の皆様との間で，学生の学習・生活状況についての情報を交換し，指導方針に対する御理解と御協力を賜る。
（２）日　　時　　別紙２　「保護者面談可能時間帯」を参照してください。
（３）場　　所　　研究室１－１５（創造・実践棟　１階東（駐車場側））
※レストランからの廊下から入り右折後直進して下さい。
（４）実施要領　　担任と保護者の皆様とお一人当たり１０分～２０分程度の個人面談を実施させていただきます。
（５）希望調査　　担任教員の面談可能時間（別紙２「学科懇談会出席確認表・保護者面談希望調査票」参照）の中から，御希望の時間帯をお選びの上，別紙２にて，以下の要領で御提出願います。

①　提出期限　平成２２年６月１４日（月）　必着
②　提出方法　ア　メール
イ　帰省した学生に託す
ウ　ＦＡＸ
エ　郵送
③　提 出 先　〒905-2192
沖縄県名護市字辺野古 905
沖縄工業高等専門学校　３年機械システム工学科　担任　鳥羽　弘康
TEL
FAX
E-mail [redacted]
④　注意事項　ア　必ず第３希望まで御記入願います。
イ　面談希望者が多い時間帯は，遠方の方を優先させて頂きますので，御了承願います。
ウ　面談日が決まりましたら，学生を通して，御連絡を差し上げます。

３　公開授業週間

沖縄工業高等専門学校では，平成２２年６月２８日（月）から７月２日（金）までの期間を「公開授業週間」として，自由に授業を御見学いただく期間としております。

別紙１

## 学科懇談会・保護者面談及び公開授業週間の御案内（４年機械システム工学科）

１　学科懇談会

（１）目　　的　　学校の教育方針や学級運営方針等に対する御家庭の御理解と御協力を賜る。
（２）日　　時　　平成２２年７月３日（土）　１３：３０　～　１４：３０
（３）場　　所　　創造・実践棟３階　設計演習室
（４）出欠について　別紙２「学科懇談会出席確認表・保護者面談希望調査票」に御記入の上，御提出願います。

２　保護者面談

（１）目　　的　　担任と保護者の皆様との間で，学生の学習・生活状況についての情報を交換し，指導方針に対する御理解と御協力を賜る。
（２）日　　時　　別紙２　「保護者面談可能時間帯」を参照してください。
（３）場　　所　　研究室３－１８（創造・実践棟　３階東（駐車場側））
※エレベータを下りられた左手側にＵターンした後直進して下さい
（４）実施要領　　担任と保護者の皆様とお一人当たり１０分～２０分程度の個人面談を実施させていただきます。
（５）希望調査　　担任教員の面談可能時間（別紙２「学級懇談会出席確認表・保護者面談希望調査票」参照）の中から，御希望の時間帯をお選びの上，別紙２にて，以下の要領で御提出願います。

①　提出期限　平成２２年６月１４日（月）　必着
③　提出方法　ア　メール
イ　帰省した学生に託す
ウ　ＦＡＸ
エ　郵送
③　提 出 先　〒905-2192
沖縄県名護市字辺野古 905
沖縄工業高等専門学校　４年機械システム工学科　担任　眞喜志　治
TEL
FAX
E-mail [redacted]
④　注意事項　ア　必ず第３希望まで御記入願います。
イ　面談希望者が多い時間帯は，遠方の方を優先させて頂きますので，御了承願います。
ウ　面談日が決まりましたら，学生を通して，御連絡を差し上げます。

３　公開授業週間

沖縄工業高等専門学校では，平成２２年６月２８日（月）から７月２日（金）までの期間を「公開授業週間」として，自由に授業を御見学いただく期間としております。

別紙１

## 学科懇談会・保護者面談及び公開授業週間の御案内（５年生物資源工学科）

１　学科懇談会

（１）目　　的　　学校の教育方針や学級運営方針等に対する御家庭の御理解と御協力を賜る。
（２）日　　時　　平成２２年７月２日（金）　１５：００　～　１６：００
（３）場　　所　　講義室３－３
（４）出欠について　別紙２「学科懇談会出席確認表・保護者面談希望調査票」に御記入の上，御提出願います。

２　保護者面談

（１）目　　的　　担任と保護者の皆様との間で，学生の学習・生活状況についての情報を交換し，指導方針に対する御理解と御協力を賜る。
（２）日　　時　　別紙２　「保護者面談可能時間帯」を参照してください。
（３）場　　所　　研究室４－１２（創造・実践棟　４階東側（駐車場側））
（４）実施要領　　担任と保護者の皆様とお一人当たり１０分～２０分程度の個人面談を実施させていただきます。
（５）希望調査　　担任教員の面談可能時間（別紙２「学級懇談会出席確認表・保護者面談希望調査票」参照）の中から，御希望の時間帯をお選びの上，別紙２にて，以下の要領で御提出願います。

①　提出期限　　平成２２年６月１４日（月）　必着
④　提出方法　　ア　メール
　　イ　帰省した学生に託す
　　ウ　ＦＡＸ
　　エ　郵送
③　提 出 先　　〒905-2192
　　沖縄県名護市字辺野古 905
　　沖縄工業高等専門学校　５年生物資源工学　担任　三枝隆裕
　　TEL [redacted]
　　FAX
　　E-mail
④　注意事項　　ア　必ず第３希望まで御記入願います。
　　イ　面談希望者が多い時間帯は，遠方の方を優先させて頂きますので，御了承願います。
　　ウ　面談日が決まりましたら，学生を通して，御連絡を差し上げます。

３　公開授業週間

沖縄工業高等専門学校では，平成２２年６月２８日（月）から７月２日（金）までの期間を「公開授業週間」として，自由に授業を御見学いただく期間としております。

（出典　学生課資料）

資料７－１－①－８




（出典　沖縄高専ポータルウェブページ）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，準学士課程１年生と専攻科１年生の全員に対して，学習を進める上でのガイダンスを適切に実施している。その他の学年に対しても，必要に応じて学習・教育目標に関するガイダンスが実施されている。

学生に対する，相談･助言に関しては，準学士課程においては担任（正，副），学科担任，学科長，専攻科コース主任が，教員便覧に従って，丁寧な指導を実施している。さらに，科目担当教員による体制として，オフィスアワーが設定され掲示されている。オフィスアワーに限らず，教員室に相談，質問に行っており，この体制はよく機能している。その他，本校ではポータルサイトおよびメーリングリストによる連絡，指導体制も確立している。

以上により，学習を進める上でのガイダンスが整備され，適切に実施されている。また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能している。

**観点７－１－②：　自主的学習環境（例えば，自主学習スペース，図書館等が考えられる。）及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。**

（観点に係る状況）

自主的学習環境として，本校では，図書館，IT教室（情報処理センター施設），演習室，ITラウンジ，メディアコーナー，創造ホールがある。

図書館の利用については利用規程（資料７－１－②－１）が定められ，利用案内（資料７－１－②－２）を入学時のオリエンテーションで学生に配布いる。資料７－１－②－３の蔵書，貸出，入館者数によりよく利用されている。図書館では図書館所蔵の各種資料の閲覧・貸出，所蔵しない資料の取り寄せ（各大学・研究機関などとの相互貸借協力），及び電子ジャーナルの閲覧が可能である。新入生オリエンテーションでは図書館利用の説明（資料７－１－②－４）に加えて，実地トレーニングを実施している（資料７－１－②－５）。学生が自学自習できるように平日は20時まで，土曜日は17時まで開館している。さらに，ネットワークを利用した自学自習への支援として図書館内にも無線LANが整備され，全学生が所持しているノートPCのインターネット接続が可能である。

IT教室の利用については学生生活の手引き（資料７－１－②－６）により周知している。情報処理関連PCが備え付けられており，授業等で使用されていない時間に自由に学習に利用できる。

自学自習可能な演習室にはソフトウェア演習室，メディア・プログラミング演習室，メディアコンテンツ演習室があり，それぞれの目的にそったPCが整備されており，担当教員への申請により授業時間以外にも利用可能である（資料７－１－②－７）。

ITラウンジ，メディアコーナー，創造ホールは教室や実験室，演習室の間のオープンスペースであり，学習テーブル，椅子が整備されている（資料７－１－②－８）。壁や扉も無く，学科や学年を越えて利用されている。更に，いずれの場所からも無線LANの接続が可能でありネットワークを利用した学習にも広く活用されている。また，ホームルーム教室等も，放課後の自主学習スペースとして利用されている。

厚生施設は，レストランおよび売店である。レストランには寮生食堂，一般食堂，学生会室，和室が整備されており（資料７－１－②－９），有効に利用されている。食堂については寮生の給食については380席，通学生，教職員を含む一般向け60席が整備されている。メニューは寮生へは毎日の三食の栄養を考慮した給食が出食され，一般向けには定食，麺類，カレー等種類も豊富である（資料７－１－②－10）。また，売店では弁当の販売も行われている（資料７－１－②－11）。

資料７－１－②－１

# 沖縄工業高等専門学校図書館利用規程

平成１６年４月１日
規　程　第１４号
改正　平成２０年３月３１日
規　程　第３号
平成２０年９月２５日
規　程　第１５号

（目的）
第１条　この規程は、沖縄工業高等専門学校図書館規則（平成16年規則第21号。以下「規則」という。）第１０条の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校図書館（以下「図書館」という。）の利用に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）
第２条　図書館の開館時間は、月曜日から金曜日の８時４０分から２０時まで及び土曜日の９時から１７時までとする。
２　前項の規定にかかわらず、沖縄工業高等専門学校学則（平成16年学則第１号）第１５条第４号から第７号に掲げる休業日（以下「長期休業日」という。）、同条第３号及び第８号に掲げる休業日（以下「休業日」という。）、同条第２項に掲げる休業日（以下「臨時休業日」という。）は、８時４０分から１７時までとする。
３　前２項の規定にかかわらず、図書館長（以下「館長」という。）が必要と認めるときは、臨時に開館時間を変更することがある。

（休館日）
第３条　図書館の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。
(1) 日曜日
(2) 長期休業日、休業日及び臨時休業日の土曜日
(3) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する日
(4) １２月２８日から翌年１月４日まで
２　前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めるときは、休館日を変更することがある。

（利用者の範囲）
第４条　図書館を利用することができる者（以下「利用者」という。）は、次の各号に掲げる者とする。
(1) 沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）の学生
(2) 本校の教職員（非常勤職員を含む。）
(3) 図書館の利用を申し出た一般利用者（以下「一般利用者」という。）

（利用手続等）
第５条　学生及び教職員は、入館に際して学生証又は身分証明書（以下「利用証」という。）を必ず携帯し、図書館係員（以下「係員」という。）の求めがあれば、これを提示しなければならない。
２　一般利用者の利用手続等については、別に定める。

（入館心得）
第６条　利用者は、図書館内において次の事項を遵守しなければならない。

(1) 静粛に心掛けること。
(2) 図書館内で携帯電話を使用しないこと。
(3) 指定された場所以外でパソコンを使用しないこと。
(4) 秩序を乱さないこと。
(5) 飲食等をしないこと。
(6) 無断で図書等（規則第２条に規定する「図書等」をいう。以下同じ。）を図書館外へ持ち出さないこと。
(7) その他、係員の指示に従うこと。
２　館長は、前項の規定に違反する悪質な行為を行う利用者に対しては利用を禁じることができる。

（閲覧）
第７条　利用者は、図書等を閲覧するときは所定の場所で行い、閲覧後は元の位置に戻すものとする。
２　オーディオ・ビジュアル資料やディジタル資料等（以下「視聴覚資料」という。）の閲覧については、第１５条に定めるとおりとする。

（禁帯出図書等）
第８条　次に掲げる図書等は、原則として貸出を行わず図書館内での閲覧とする。
(1) 貴重図書等、取扱いに注意を要するもの
(2) 事典、辞典及び統計書等の参考図書
(3) 雑誌、新聞等の逐次刊行物
(4) 視聴覚資料
(5) その他館長が指定するもの
２　前項の規定にかかわらず、学習及び教育・研究上特段の必要があると認められる場合には、利用者（一般利用者を除く。）は次の貸出を受けることができる。
(1) 前項第２号　翌開館日を返却期限とする一夜貸出
(2) 前項第２号から第４号まで　教職員が授業等での使用のため図書館外に持ち出す必要がある場合に限り、貸出の翌日から起算して７日間（７日目が休業日、臨時休業日及び休館日に当たるときは、その翌開館日まで）を限度とする授業貸出

（学生への通常貸出）
第９条　学生に対する図書の通常貸出は、次のとおりとする。
(1) 学生は、原則として自動貸出装置により自ら貸出手続きを行うものとする。ただし、図書の付録等に関しては係員に貸出手続きを申し出るものとし、付録のみの貸出は行わないものとする。
(2) 普通図書の貸出冊数は、５冊以内とする。
(3) 多読用図書の貸出冊数は、５冊以内とする。
(4) 貸出期間は、貸出の翌日から起算して７日まで（７日目が休業日、臨時休業日及び休館日に当たるときは、その翌開館日まで）とする。返却期限日が長期休業日に当たる場合については、別途掲示する。
(5) 学生は、貸出中の図書について貸出予約をすることができる。手続きについては、原則として、図書館が提供するWebサイトにおいて学生自ら行うものとする。
(6) 学生は、貸出予約のない図書に限り貸出期間を７日まで延長できるものとし、手続は原則として自動貸出装置により学生自ら行うものとする。

（教職員への通常貸出）

第１０条　教職員に対する図書の通常貸出は、次のとおりとする。
(1) 教職員は、原則として自動貸出装置により自ら貸出手続きを行うものとする。ただし、図書の付録等に関しては係員に貸出手続きを申し出るものとし、付録のみの貸出は行わないものとする。
(2) 貸出冊数は、１０冊以内とする。
(3) 貸出期間は、貸出の翌日から起算して１４日まで（１４日目が休業日、臨時休業日及び休館日に当たるときは、その翌開館日まで）とする。返却期限日が長期休業日に当たる場合については、別途掲示する。
(4) 教職員は、貸出中の図書について貸出予約をすることができる。手続きについては、原則として、図書館が提供するWebサイトにおいて教職員自ら行うものとする。
(5) 教職員は、貸出予約のない図書に限り貸出期間を１４日まで延長できるものとし、手続は原則として自動貸出装置により教職員自ら行うものとする。

（研究貸出）
第１１条　教職員は、教員研究費や科学研究費補助金等外部から調達した助成金等により購入した図書等に限り、他の貸出とは別に研究貸出を受けることができる。ただし、この場合、冊数を制限することがある。
(1) 貸出期間は原則として１年間とし、利用終了後は速やかに図書館に返却しなければならない。
(2) 貸出期間は、１年毎に延長することができる。
(3) 研究貸出を受けた教職員は当該図書についての保管責任を負うものとし、館長の指示する時期に当該図書の検認を受けるとともに、研究貸出図書の検認報告（様式１）によりその結果を校長に報告しなければならない。
２　研究貸出では、第８条第１項第２号から同第４号までに規定する図書等ついても貸出することができる。

（返却）
第１２条　利用者は、貸出を受けた図書を返却期限までに返却しなければならない。
２　学生は卒業、退学、除籍、休学又は留学の際、教職員にあっては長期出張、退職、転出の際、貸出中の図書を図書館に返却しなければならない。
３　前項の規定にかかわらず、科学研究費補助金等外部から調達した助成金等により購入し、研究貸出していた図書等については、当該助成金交付機関が定めた取扱又は本校と助成金提供機関で締結する共同研究契約等の定めに従うものとする。

（返却督促及び貸出停止）
第１３条　返却期限を遵守しない利用者に対しては、原則として掲示物及び電子メールにより返却の督促を行う。
２　利用者が返却期限に遅れた場合には、直ちに当該利用者への貸出を停止するとともに、貸出中の図書等すべての返却が完了した日の翌日から起算して、延滞した最大期間と同期間の貸出を停止する。ただし、２ヶ月を限度とする。

（臨時の貸出中断等）
第１４条　図書の整理や検認のため、又は一時的な閲覧を希望する本校学生および本校の他の教職員の求めに応じて、さらには第１７条第２項により図書館が当該申込に応ずる場合については、係員は貸出中の図書を臨時に調査、回収又は一定期間貸出の中断を行うことができる。当該用務等の終了後、貸出中断された利用者が貸出再開を希望する場合は、当該利用者に対して貸出するものとする。

（視聴覚資料の館内閲覧）

第１５条　利用者は、視聴覚資料について次のとおり閲覧することができる。

(1) 利用者はカウンターで利用証を提示の上、閲覧の手続きを行うものとする。

(2) 利用者は、原則として図書館内AVブース、又はメディアホールのプラズマディスプレイで閲覧すること。

(3) 原則として、前号での図書館が所蔵する視聴覚資料以外の閲覧を禁ずる。

(4) 閲覧終了時には、利用者はカウンターにて返却手続きをする。

(5) 閲覧時間は、開館時間内とする。

（授業での図書館利用）

第１６条　教職員が授業で図書館の施設（メディアホールを含む。）を利用する場合には、あらかじめ館長に図書館利用願（様式２）により利用申込を行うものとする。

２　施設の利用に際しては、図書等や施設の保全に努めるとともに、図書館内では他の利用者に迷惑をかけることがないよう担当教職員は学生を指導・監督するものとする。

（他機関の図書館との相互利用）

第１７条　学生及び教職員は、学習及び教育・研究上必要がある場合には図書館を通じて他機関の図書館に対し、当該図書館が所蔵する図書の利用を申込むことができる。

２　図書館は、他機関の図書館から図書館所蔵図書の利用申込があった場合には、本校の教育・研究上支障のない範囲で、これに応ずることができる。

（転貸等の禁止）

第１８条　利用者は、貸出中の図書を他人に転貸してはならない。

（弁償）

第１９条　利用者は、図書等を損傷又は亡失した場合若しくは図書館の設備又は備品に損害を与えた場合は、図書館長が指定する図書等又は相当額で弁償しなければならない。

（雑則）

第２０条　図書等を利用者の閲覧に供するため、図書等の目録及びこの規程を常時閲覧室内に備え付けるものとする。

２　この規程に定めるもののほか、図書館利用に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附　則

この規程は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則（平２０．３．３１規程第３号）

この規程は、平成２０年４月１日から施行する。

附　則（平２０．９．２５規程第１５号）

この規程は、平成２０年１０月１日から施行する。

様式１（第１１条第１項第３号関係）

年　　月　　日

沖縄工業高等専門学校長　　殿

所属学科：

氏　　名：

利用者ID：

研究貸出図書の検認について

このことについて、実施結果を下記のとおり報告します。

記

１　検認実施月日　　年　　月　　日

２　検認実施者　　（　　）

３　研究貸出中の図書点数　　（　　）ほか（　　）点

４　異常の有無　　異常なし

異常あり（状況説明を下記に記入すること。）

---

備考

様式２（第１６条関係）

年　　月　　日

沖縄工業高等専門学図書館長　　殿

所属学科：

氏　　名：

## 図　書　館　利　用　願

私は以下の理由により図書館利用を申請しますので、ご許可願います。

１　授業名等

２　日　　時

３　利用内容

以　　上

---

年　　月　　日

申　請　者　　殿

上記の申請について承認します。

沖縄工業高等専門学校図書館長

担当処理欄

| 図　書　館　長 | 課　　長 | 係　　長 | 係 |
|---|---|---|---|
| | | | |

特記事項



（出典　沖縄工業高等専門学校図書館利用規程）

資料７－１－②－２

## 利用について

開館時間

| | | |
|---|---|---|
| 通常期 | 月～金 | ８：４０～２０：００ |
| | 土 | ９：００～１７：００ |
| 休業期 | 月～金 | ８：４０～１７：００ |

休館日：日曜・祝日・年末年始・休業期の土曜
　　一斉休業期
※休業期につきましては、図書館ホームページでご確認いただくか、図書館へお問い合わせ下さい。

貸出

| 対　象 | 貸出冊数 | 貸出期間 |
|---|---|---|
| 学　生 | 一般 ５冊<br>多読 ５冊 | １週間 |
| 教職員 | １０冊 | ２週間 |
| 学外者 | ５冊 | ２週間 |

学外利用者へ　－資料の利用･貸出について－

利用手続きカウンターにおいて「図書館利用願」に必要事項を記入して、「利用証」の交付を受けて下さい。

また、「図書館利用願」で長期の利用を申請した方は、当該年度内を有効期間とする「利用証」の交付を受けることができます。

長期利用を申請する際には、身分証（免許証等）の提示、及び利用証に使用する写真(3×2.5cm1枚)の提出をお願いします。長期利用者の「利用証」は、1年毎に有効期間の延長を行うことができます

「図書館利用証」の即日発行は平日のみです。土曜日は「利用願」の受付のみ行い、「利用証」は後日発行となります。

－メモー

図書館ホームページ
http://www1.okinawa-ct.ac.jp/toshokan/

図書館蔵書検索
http://lib.okinawa-ct.ac.jp/opc/

連絡・問い合わせ先

〒905-2192
沖縄県名護市字辺野古９０５番地
沖縄工業高等専門学校図書館
TEL：0980-55-4037
FAX：0980-55-4067
E-mail: stosyojoho@okinawa-ct.ac.jp

国立沖縄工業高等専門学校図書館
Okinawa National College of Technology Library

## 利 用 案 内



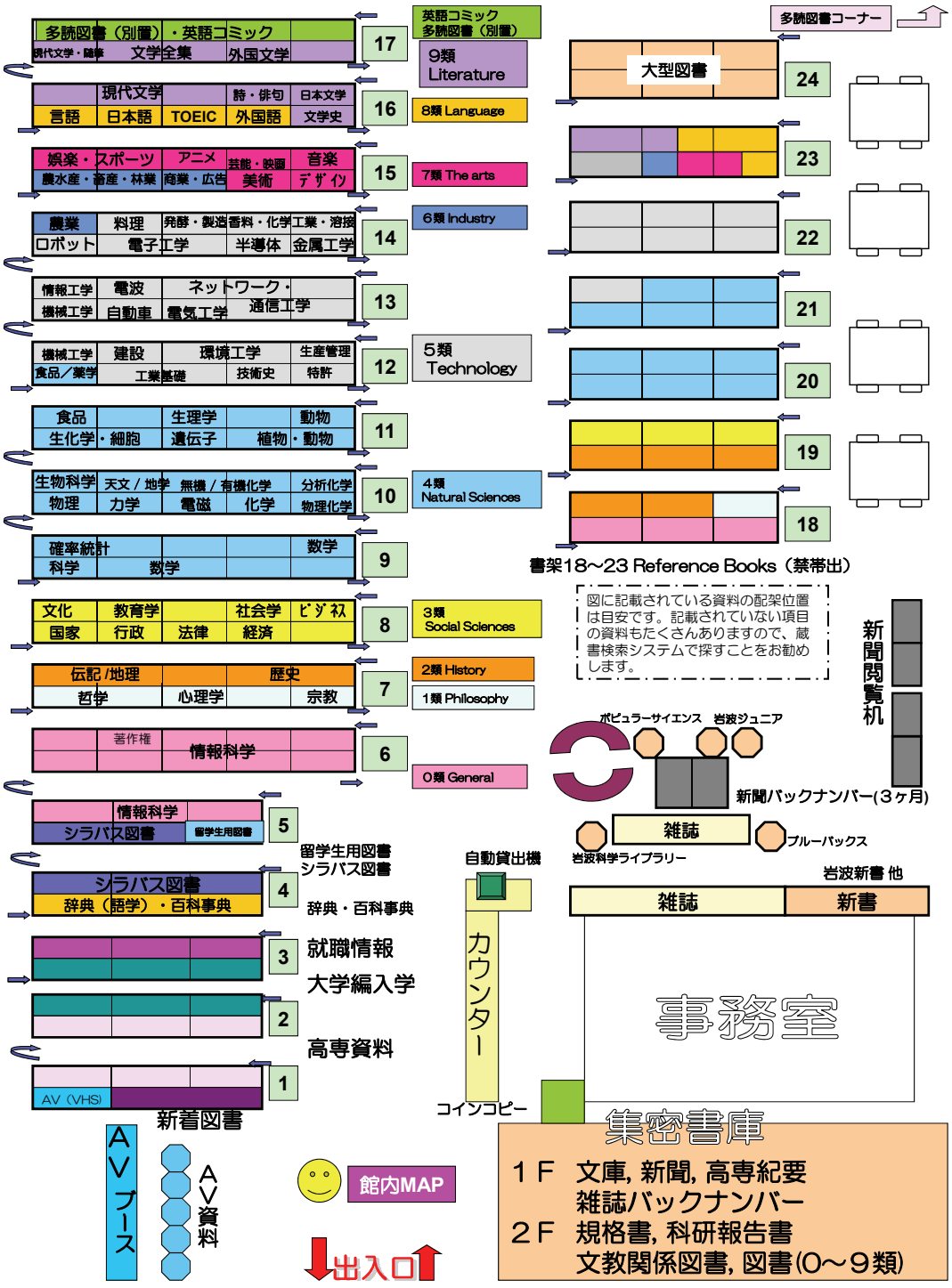
## 施　設　概　要

延面積：　740 ㎡
座席数：　108 席
所蔵可能冊数：　約9万冊

## 蔵書数（平成２２年４月現在）

| | |
|---|---|
| 図　書 | 約５万３千冊(うち外国書約1万５千８百冊) |
| 雑　誌 | 約500種（継続購入約９０種） |
| 新　聞 | 8紙 |
| 視聴覚資料 | 約１３８０点 |

## 館内資料配置図




（出典　沖縄工業高等専門学校図書館利用案内）

資料７－１－②－２



沖縄工業高等専門学校図書館
Okinawa National College of Technology Library

お知らせ

開館時間　通常期：8:40－20:00(月－金)
9:00－17:00(土)
休業期：8:40－17:00(月－金)
(休業期 2/22-4/4)

休館日　日曜・祝日・年末年始・休業期の土曜

貸出冊数　学生：5冊まで(7日間)
(学生は参考用図書に限り別途5冊まで貸出可)
教職員：10冊まで(14日間)
学外者のご利用については こちら

休館日・その他お知らせ

2010年4-6月の休館日
4月3-4日・11日・18日・25日・29日
5月2-5日・9日・16日・23日・30日
6月13日・20日・27日

その他のお知らせ
*4/30・6/18は臨時休業日のため17時閉館
*6/6(日)は試験期のため短時間館

資料を探す

蔵書OPAC (沖縄高専図書館蔵書検索)
Webcat (全国総合目録データベース)
WebcatPlus (同上 連想検索機能あり)
以下は学外から利用できません
ScienceDirect (電子ジャーナル) 説明ページ(日本語)
CiNii (データベース)
JDream (データベース)
KAKEN (データベース)
MathSciNet (データベース)
ジャパン・ナレッジ(JapanKnowledge) (データベース)
理科年表プレミアム (データベース)
琉球新報データベース (新聞記事データベース)
沖縄タイムス記事データベース (新聞記事データベース)

オンラインサービス

下記サービスを利用する際は、ユーザIDとパスワードが必要です
図書の予約・貸出状況
利用者情報変更(パスワード変更)
ILL依頼(貸借/複写)
図書購入 *教職員のみ

リンク

沖縄県内図書館横断検索 (沖縄県立図書館)
琉球大学附属図書館
名護市立中央図書館
沖縄関係リンク (琉球大学附属図書館)
国立国会図書館

電子資料9点

Copyright(C) 2003-2010 Okinawa National College of Technology Library, all rights reserved.
図書館に関するご意見・ご要望は こちらまで

〒905-2192 沖縄県名護市辺野古905番地 Tel:0980-55-4037

（出典　本校図書館ウェブページ）

資料７－１－②－３

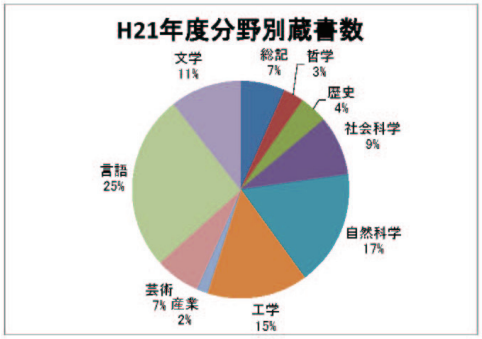
蔵書数推移（分野別）

（冊）

| | 総記 | 哲学 | 歴史 | 社会科学 | 自然科学 | 工学 | 産業 | 芸術 | 言語 | 文学 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H16 | 1,827 | 665 | 811 | 1,854 | 3,721 | 2,780 | 185 | 1,787 | 821 | 3,849 | 18,300 |
| H17 | 2,182 | 1,086 | 1,282 | 2,474 | 4,844 | 3,875 | 358 | 2,071 | 1,054 | 4,472 | 23,698 |
| H18 | 2,616 | 1,272 | 1,640 | 3,125 | 6,453 | 5,697 | 680 | 2,332 | 1,463 | 5,109 | 30,387 |
| H19 | 2,984 | 1,414 | 1,910 | 3,716 | 7,695 | 6,694 | 790 | 2,918 | 2,921 | 4,767 | 35,809 |
| H20 | 3,343 | 1,541 | 2,060 | 4,213 | 8,468 | 7,353 | 860 | 3,250 | 11,876 | 5,238 | 48,202 |
| H21 | 3,573 | 1,644 | 2,177 | 4,683 | 9,178 | 7,875 | 935 | 3,489 | 13,861 | 5,608 | 53,023 |

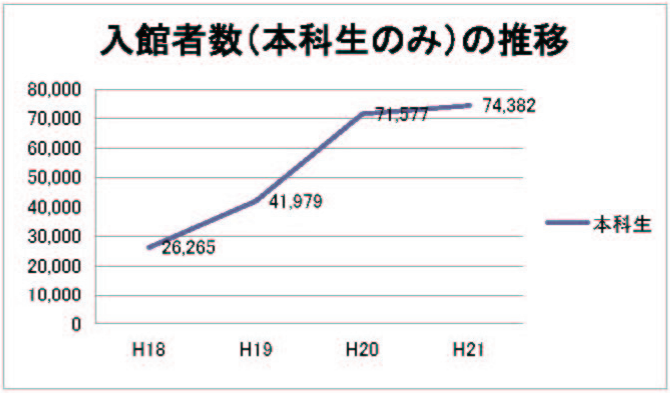
※視聴覚資料を含む

※言語分野には、多読図書（約1万冊）を含む



入館者数推移　　（人）

| | H18 | H19 | H20 | H21 |
|---|---|---|---|---|
| 本科生 | 26,265 | 41,979 | 71,577 | 74,382 |
| 専攻科生 | - | - | - | 1,884 |
| 教員 | 1,997 | 2,474 | 2,862 | 2,440 |
| 非常勤講師 | 43 | 55 | 219 | 155 |
| 技術職員 | 225 | 445 | 441 | 343 |
| 事務 | 5,028 | 5,973 | 8,131 | 7,332 |
| 非常勤(事務系) | 2,144 | 2,535 | 2,986 | 4,103 |
| 学外者 | 35 | 400 | 1,478 | 543 |
| 総　計 | 35,737 | 53,861 | 87,694 | 91,182 |

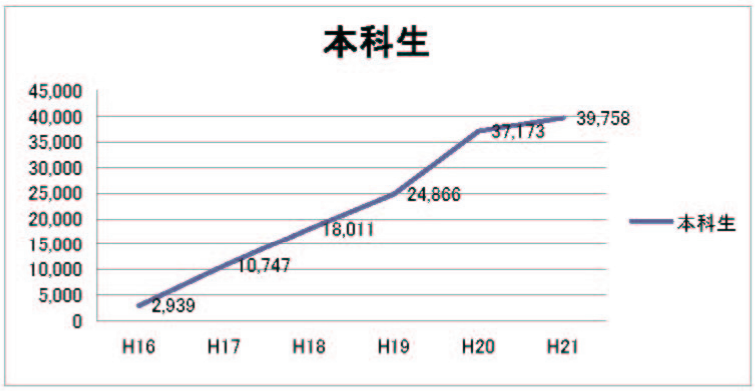


貸出冊数推移

（冊）

| | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 本科生 | 2,939 | 10,747 | 18,011 | 24,866 | 37,173 | 39,758 |
| 専攻科生 | - | - | - | - | - | 1,332 |
| 教員 | 257 | 1,020 | 2,031 | 2,747 | 2,089 | 1,560 |
| 非常勤講師 | 0 | 53 | 104 | 38 | 92 | 55 |
| 技術職員 | 11 | 180 | 161 | 163 | 295 | 158 |
| 事務 | 133 | 509 | 732 | 828 | 509 | 525 |
| 非常勤(事務系) | 180 | 108 | 147 | 345 | 490 | 1,039 |
| 学外者 | 0 | 4 | 19 | 117 | 351 | 227 |
| ILL（他機関） | - | - | - | - | 18 | 19 |
| 総　計 | 3,520 | 12,621 | 21,205 | 29,104 | 41,017 | 44,673 |

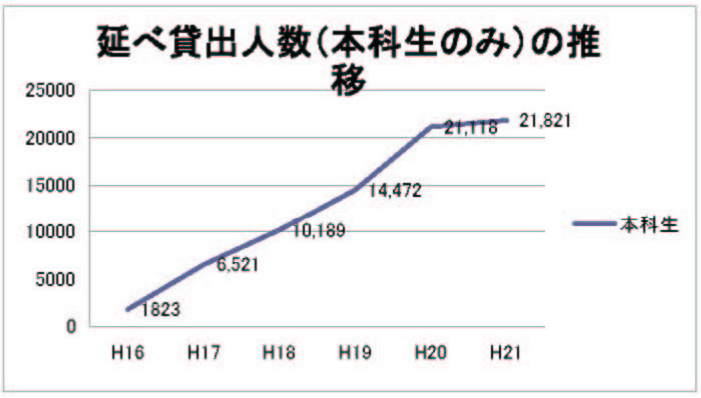
※H20より多読図書貸出を開始



延べ貸出人数推移

（人）

| | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 本科生 | 1823 | 6,521 | 10,189 | 14,472 | 21,118 | 21,821 |
| 専攻科生 | - | - | - | - | - | 731 |
| 教員 | 127 | 477 | 875 | 1,045 | 955 | 773 |
| 非常勤講師 | 0 | 23 | 35 | 17 | 45 | 21 |
| 技術職員 | 5 | 55 | 78 | 92 | 170 | 88 |
| 事務 | 69 | 303 | 400 | 429 | 344 | 275 |
| 非常勤(事務系) | 126 | 59 | 58 | 151 | 177 | 386 |
| 学外者 | - | 2 | 8 | 66 | 190 | 120 |
| ILL（他機関） | - | - | - | - | 15 | 18 |
| 総　計 | 2,150 | 7,440 | 11,643 | 16,272 | 23,014 | 24,233 |




（出典　図書情報係資料）

資料７－１－②－４

新入生オリエンテーション
対象:　新入生全員
人数:　142名
日時:　4月5日(月)10:50～11:10
場所:　視聴覚ホール
内容:　PPTを使って、図書館施設の紹介と利用案内

4月7日(水)　＜OPAC目録講習会＞

| 時間 | クラス | 参考(健康診断・歯科検診) | 担任/副担任 |
|---|---|---|---|
| 10:20～11:00 | 1－1 | 8:40～10:00 | 大石/宮城 |
| 11:10～11:50 | 1－2 | 9:20～10:40 | 武田/澤井 |
| 8:40～9:20 | 1－3 | 10:00～11:20 | 名嘉山/木村 |
| 9:30～10:10 | 1－4 | 10:40～12:00 | 青木/古屋 |

場所:IT教室＋図書館(実習)

(内容)PCを利用した目録検索と検索結果から館内で本を探す実習。

(持参するもの)学生証、筆記用具、PCにログインするためのID/パスワード

4月8日(木)　＜2年生への図書館利用講習会＞

| 時間 | クラス | 参考(健康診断・歯科検診) | 担任/副担任 | 教室 |
|---|---|---|---|---|
| 14:30～15:00 | 2－機械 | 13:00～13:30 | | |
| 15:10～15:40 | 2－情報 | 13:30～14:00 | | |
| 13:10～13:40 | 2－メディア | 14:10～14:40 | | |
| 13:50～14:20 | 2－生物 | 14:50～15:00 | | |

場所:各教室(事前にご指定ください)

(内容)学内から利用できるデータベースの紹介と簡単な実習。

(各自用意するもの)ノートパソコン、筆記用具

※各講義室へ図書館職員が出向き、図書館でサービスしている各種データベースの
プレゼンを行った後、各自、ノートパソコンからネットへ接続して「ジャパンナレッジ」を体験します。
※講師用のノートPCは持参しますが、プロジェクターへ投影できるようサポートをお願いします。
(無線LANへのアクセス権は図書館でもっています)

講習会に関する連絡先
総務課図書情報係(照屋)
内線:4037
メール:[redacted]

(出典　図書情報係資料)

資料７－１－②－４

## 沖縄高専図書館の紹介




新入生オリエンテーション
2010.4.5

## 沖縄高専図書館の紹介

これからお話すること

1. 開館時間
2. 利用のルール
3. 入館の仕方
4. 施設紹介
5. 学生会図書委員の活動
6. その他

## 開館時間

◆通常期（授業期間中）

| | |
|---|---|
| 月～金 | 8：40～20：00 |
| 土 | 9：00～17：00 |
| 日、祝日 | 休　館 |

◆長期休業期（夏休み等の休暇中）

| | |
|---|---|
| 月～金 | 8：40～17：00 |
| 土日、祝日 | 休　館 |

## 利用のルール１

みんなの図書館です。
マナーを守りましょう。




●資料は大切に扱いましょう

## 利用のルール２

◆ 図書貸出
学生　一般図書５冊まで　　７日間
＋多読図書５冊まで

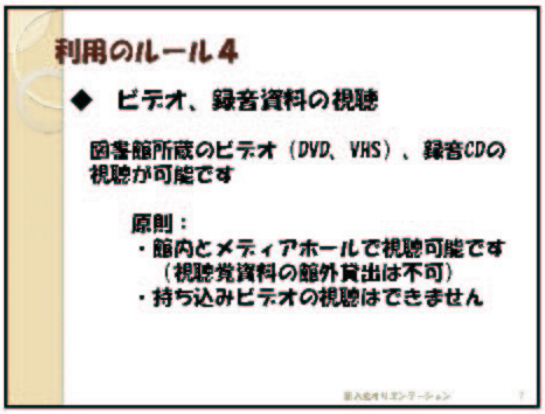
※ 貸出期間内に期間延長手続き可能
（図書館内で手続きしてください）
※ 返却期限に遅れたらペナルティ
（遅延延長日数の貸出禁止）
※ 返却督促は各人へ電子メール送付および
創造実践棟と学生寮に掲示

## 利用のルール３

◆ 雑誌

原則：図書館内で閲覧すること
図書館備え付けの雑誌は貸出しできません

※コピーをしたい場合は館内のコインコピー機を利用


利用のルール４
◆ ビデオ、録音資料の視聴
図書館所蔵のビデオ（DVD、VHS）、録音CDの視聴が可能です
原則：
・館内とメディアホールで視聴可能です
（視聴覚資料の館外貸出は不可）
・持ち込みビデオの視聴はできません


入館の仕方
図書館入口（メディア棟４階）


ゲートは右側通行です！
入館ゲートのセンサー
出口
入口


入館の際は学生証が必要です！
入館ゲートのセンサーに利用証のバーコードを読ませる
読み込みが成功すると「ピッ」と音が鳴り、履歴されます


施設紹介
視聴覚資料（ＤＶＤやＣＤなど）
DVD専用３台とVHS・DVD併用１台


開架書架


雑誌書架


レファレンスブック（事典・統計書等）コーナー


新聞、新書
最新と一つ前の新聞が閲覧台か新聞掛けにあります
雑誌はスライド棚とラウンドケースにあります
新聞のバックナンバー3ヶ月分は新聞架横棚に、それ以前のものは書庫にあります


購読新聞
琉球新報
沖縄タイムス
朝日新聞
読売新聞
日経新聞
日刊工業新聞
Daily Yomiuri
Mainichi Weekly


自動貸出機（※返却はできません）
Check out


返却はカウンターで！
Return


学生会図書委員の活動
ブック・ハンティング
学生が図書館に置きたい本を
選択できるイベントです


Halloween in Library
燃え盛む秋・・
ハロウィンの夜は
図書館で
本を探して、読んで
過ごそう！


図書館だより
校長先生への
インタビューも！
図書館だより


図書館は・・・
学習や学生生活全般に
役立つ情報源です
ご活用ください
この後、
すぐにでも
貸出できます！
Welcome
to
Our Library
４月７日(水) 午前予定
●図書館自録講習会（実習付）
各クラス４０分程度
図書館の利用でわからないこと
はお気軽に図書館カウンターで
尋ねてください。


図書館コマ送りツアー


AV資料
AV資料は貸出できません。
Audio-Visual Booth


AVブース


新着図書コーナー


高専資料コーナー
2


大学資料コーナー
2


就職情報コーナー
3


辞典・百科事典コーナー
4


シラバス図書コーナー
4


留学生用図書コーナー
5


閲覧室図書


英語コミックス
17


参考図書コーナー


多読図書コーナー


新聞閲覧机


新書コーナー
新書はスライド棚
とラウンドケース
にあります


雑誌コーナー
雑誌を読んだときは
チェック票に正の字
を記入してください


書庫入口
書庫でも自由に
入れます
書庫










（出典　新入生オリエンテーション「沖縄高専図書館の紹介」）

資料７－１－②－５

## OPACを利用して本を探す

～本日のメニュー～



1　図書館で本を探すには
2　OPACとは？
3　OPACを使ってみよう！
　・本のタイトル(題名)から探す
　・著者名から探す
4　検索結果の見方
5　図書館で本を探す（実習）

## 図書館で本を探すには

1．歩いて本を見ながら探す
2．誰か（友人・図書館職員）に聞く
3．図書館の目録を検索する
etc・・・

どれが一番良い方法？？



## OPACとは？

Online Public Access Catalog の略語。
コンピュータから図書館にある本を探すためのデータベースです。
沖縄高専図書館にある本は全てWeb経由で調べることが可能です。

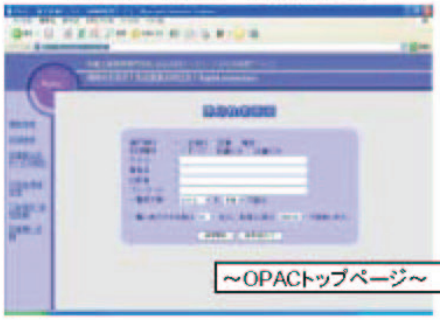
アドレス　http://lib.okinawa-ct.ac.jp/opc/

（図書館HPからもリンクしています）



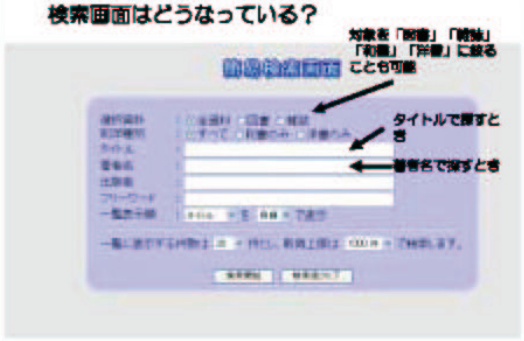
⇨ どうやって使うの？

## OPACを使ってみよう！



～OPACトップページ～

## 検索画面はどうなっている？




## 1．タイトル（題名）から探す

**タイトル入力時のワンポイントアドバイス**

・うろ覚えのタイトルは単語ごとに入力
・漢字がわからなければヨミを入力
　} 単語のヨミで検索
・ヨミで入力する際、和書の場合「て、に、を、は…」や洋書の場合「The, A, An, and, in, of…」を使わない
・曖昧な言葉には＊（アスタリスク）を使ってみる
　例：woman women どちらか分からない→wom*n
・シリーズ名とタイトルを一緒に入力しない
・AND検索（スペースで区切る）OR検索（｜で区切る）を利用
　例：沖縄　琉球　→　検索結果　36件（H22.4現在）
　　沖縄｜琉球　→　検索結果639件（同上）

## 2．著者名から探す

**著者名入力時のワンポイントアドバイス**

・姓と名の間にはスペースを入れる
・漢字がわからなければヨミを入力
・外国人が著者の場合は、なるべく原語読みの名前でも検索する
　例：シェークスピア　→　検索結果　2件（H22.4現在）
　　Shakespeare　→　検索結果９７件（　同上　）
・著者名の部分には著者だけでなく編者や訳者、人物だけでなく団体名も入力可能。（※なるべく主となる著者名を使用する）
・曖昧な言葉には＊（アスタリスク）を使ってみる
　例：文部省　→　検索結果１５件（H22.4現在）
　　文部*省　→　検索結果３７件（　同上　）

**フリーワードを使う際の注意**

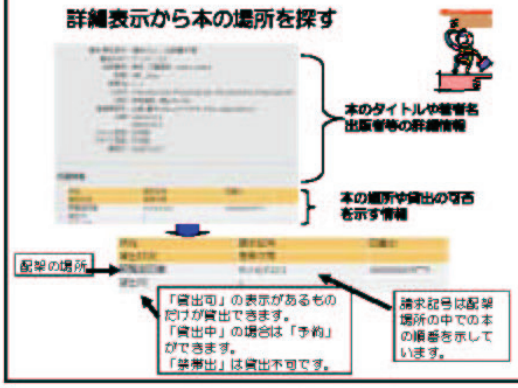
・検索語は１語まで。２語以上の掛け合わせはできません。
　例：「おきなわ」「せんそう」をタイトルで検索 → 検索結果１２件
　　「おきなわ」「せんそう」をフリーワード検索 → 検索結果なし

## 検索結果の見方

検索した結果，本が見つかった場合・・・

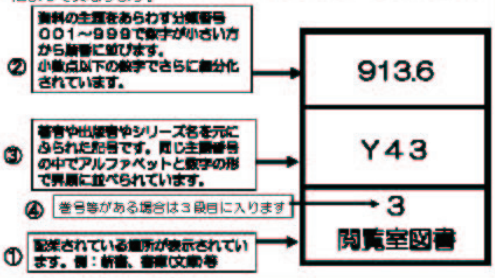



## 詳細表示から本の場所を探す




## 請求記号の見方

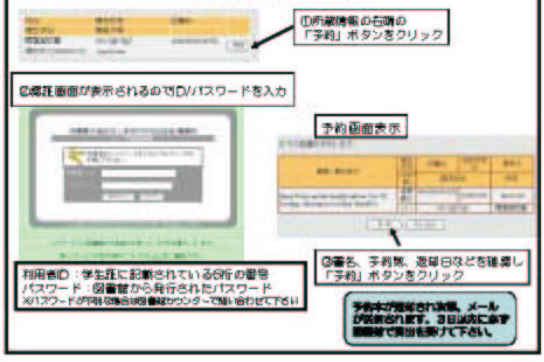
図書の背に貼られているシールに請求記号は書かれています。
棚の中で請求記号順に本は並んでいます。請求記号の付け方は図書館によって異なります。




## 実際に閲覧室の「９１３．６」の棚へ行ってみる




## 本の予約の仕方



**実際にＯＰＡＣを使ってみましょう**

1．各自、与えられた課題（本）を
検索してみましょう

2．必要な事項をメモして、実際に
本棚から本を取り出して下さい

3．職員のチェックを受けて、
ＩＤ／パスワードをもらってください

（出典　図書情報係資料）

資料７－１－②－６

## ２　情報処理センター

情報処理センターは，コンピュータ，校内ネットワーク，共有ファイルシステム，無線 LAN システムなどの管理，運用を行っています。本センターの施設として，IT 教室，ネットワーク管理室があります。IT 教室は，全学科の学生が利用可能で，定められた利用時間の範囲内で，授業等で使われていない空き時間に，自由に学習に利用することができます。この場合も教室内で飲食をしない等，情報処理センター利用規程に従ってください。

### 【本校の情報処理ネットワークを利用するに当たって守らなければならない事項等】

１．利用行為の制限

利用者は，次の各号に掲げる行為を行ってはならない。

(1) ネットワークの公共性を害するような妨害行為，教宣行為
(2) システムに侵入し改ざん・破損したり，それを企てる行為
(3) ネットワークを利用しての売買行為
(4) その他センター長が運用上問題があると認めた行為

２．データの受発信の制限

利用者は，次の各号に掲げるデータの受信及び発信を行ってはならない。

(1) 公序良俗に反するもの
(2) 他人の名誉，プライバシーを損なうおそれのあるもの
(3) 他人を誹謗若しくは中傷し，不快感を与えるおそれのあるもの
(4) 犯罪行為に結びつくおそれのあるもの
(5) その他センター長が不適当と判断するもの

３．利用許可の取り消し

センター長は次の各号の一に該当すると見られる行為があった場合には，その行為を行った者の利用許可について，本人の同意なしにこれを取り消すことができる。

(1) 上記１（利用行為）及び２（データの受発信）の制限規定に違反すること
(2) ネットワークの改ざん･破損行為若しくは運営妨害を行い又はこれを企てること
(3) 他人の情報を許可なく複写したり，改ざんしたりすること
(4) 他人のログインネームやパスワードを盗用若しくは借用すること
(5) 自分のログインネームやパスワードを他人に貸すこと
(6) その他センター長が不適当と認めた行為を行うこと



（出典　平成 22 年度　学生生活の手引き　P.42）

資料７－１－②－７

# 実験室利用について

**＜利用の注意点＞**

・ 実験や授業に無関係の学生を立ち入らせない.
・ ネットワーク利用に際し，MAC アドレスを届け出ること.
・ 他学科の学生には，机の上のネットワークを利用させない.
・ 怪我をした場合や計器が故障した場合には，すぐに教員へ連絡する.

**＜放課後の利用方法＞**

放課後に実験や授業の続きで実験室を利用する学生は，担当教員（不在の場合は情報通信システム工学科の他の教職員）に利用目的を伝え，実験室の鍵の開錠を依頼する．利用後は，担当教員に依頼して鍵の施錠を依頼する．２階の場合は，利用終了の連絡を行う.

**＜備品の持ち出し方法＞**

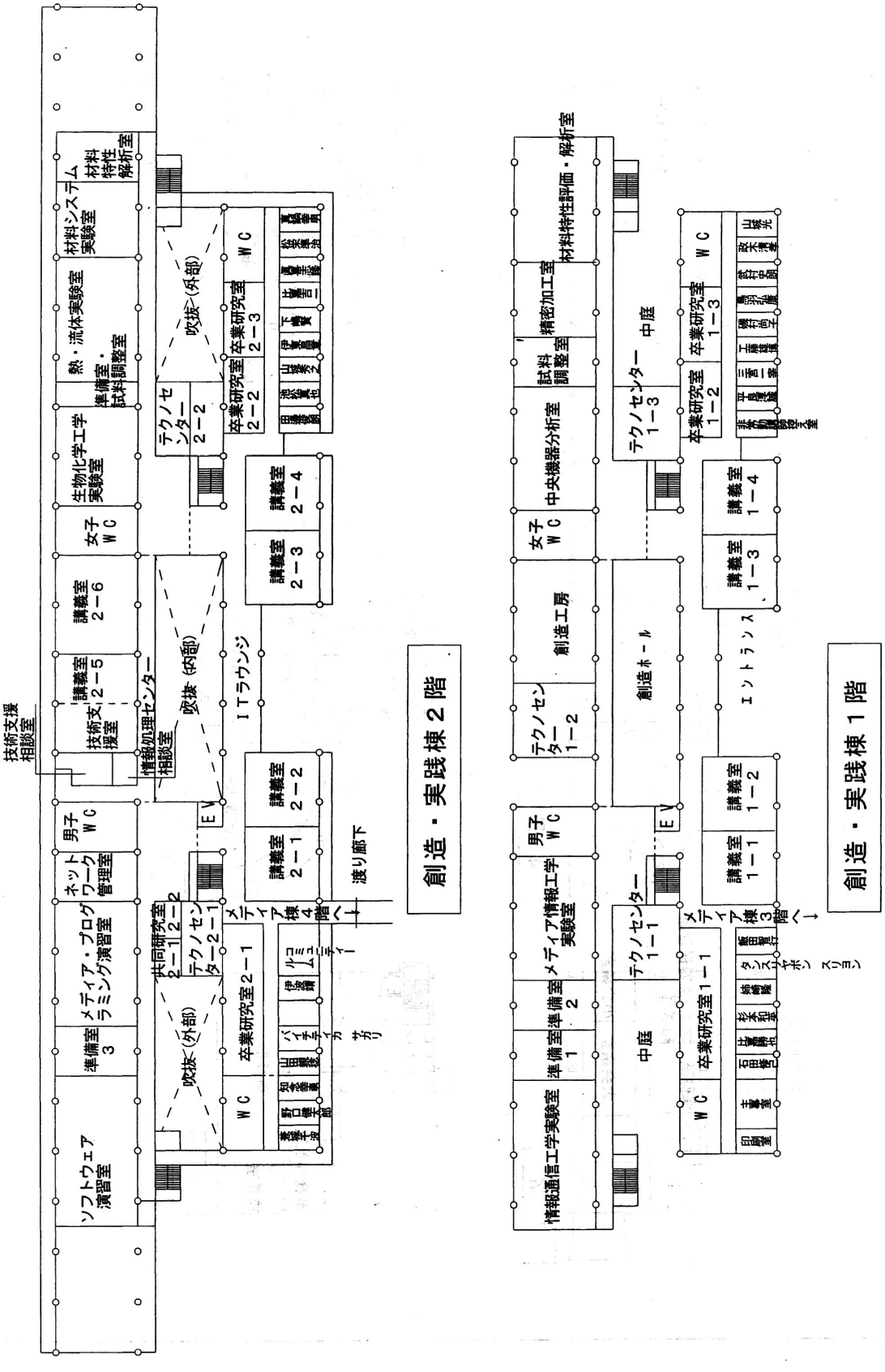
別途掲示してある物品は，氏名等を記入し持ち出しできる.

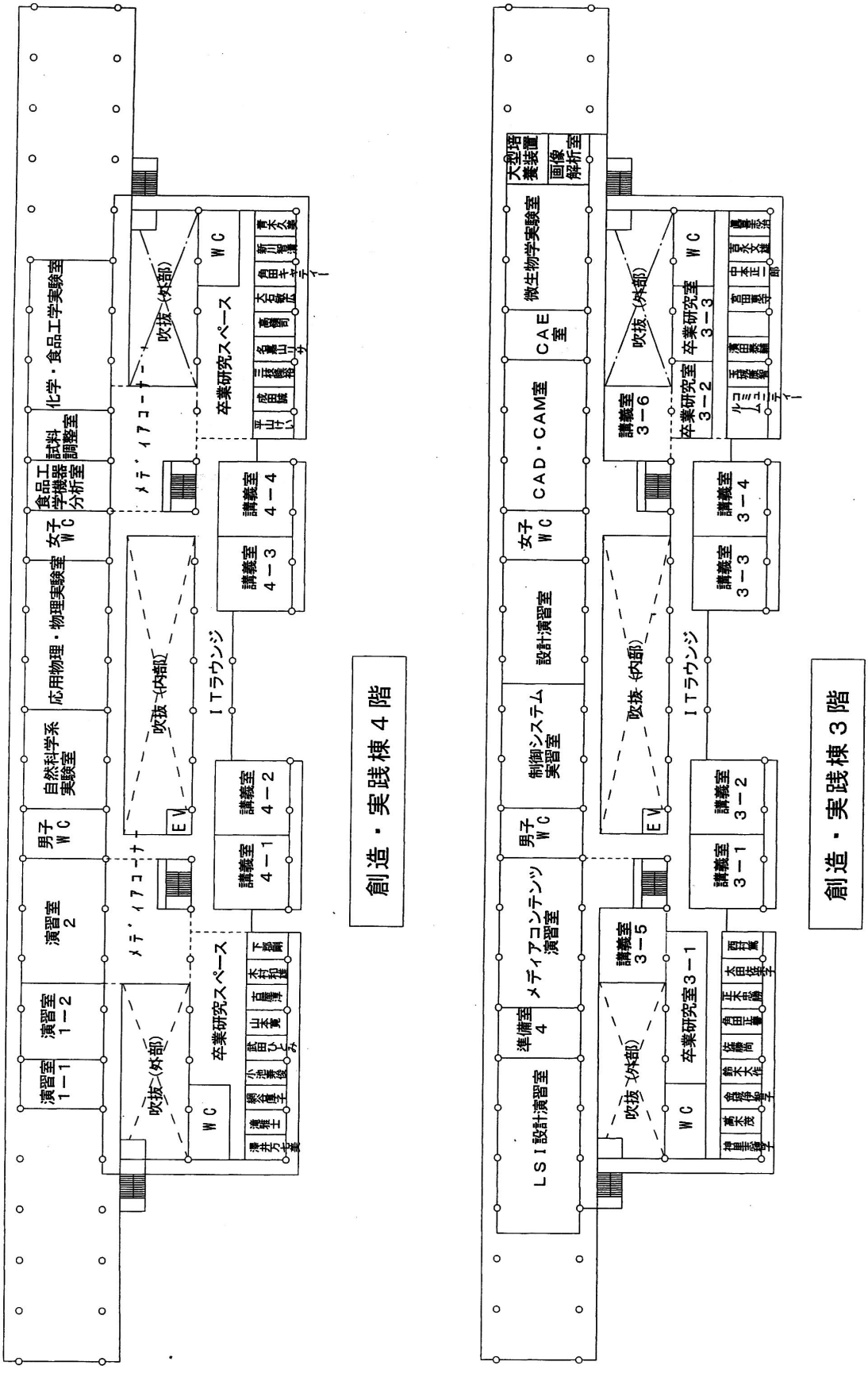
**＜連絡表＞**

| 教職員 | 神里 | 高木 | 金城 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 居室 | ３－１ | ３－２ | ３－３ | | |
| 内線 | ４１４５ | ４１４２ | ４１４１ | | |
| 教職員 | 兼城 | 野口 | 知念 | 山田 | 佐竹･比嘉修 |
| 居室 | ２－１ | ２－２ | ２－３ | ２－４ | 技術支援室 |
| 内線 | ４１４４ | ４１４６ | ４１４３ | ４１４９ | ４０６０ |
| 教職員 | 石田 | 比嘉 | 杉本 | | |
| 居室 | １－４ | １－５ | １－６ | | |
| 内線 | ４１４０ | ４１４７ | ４１７１ | | |

（出典　情報通信システム工学科資料）

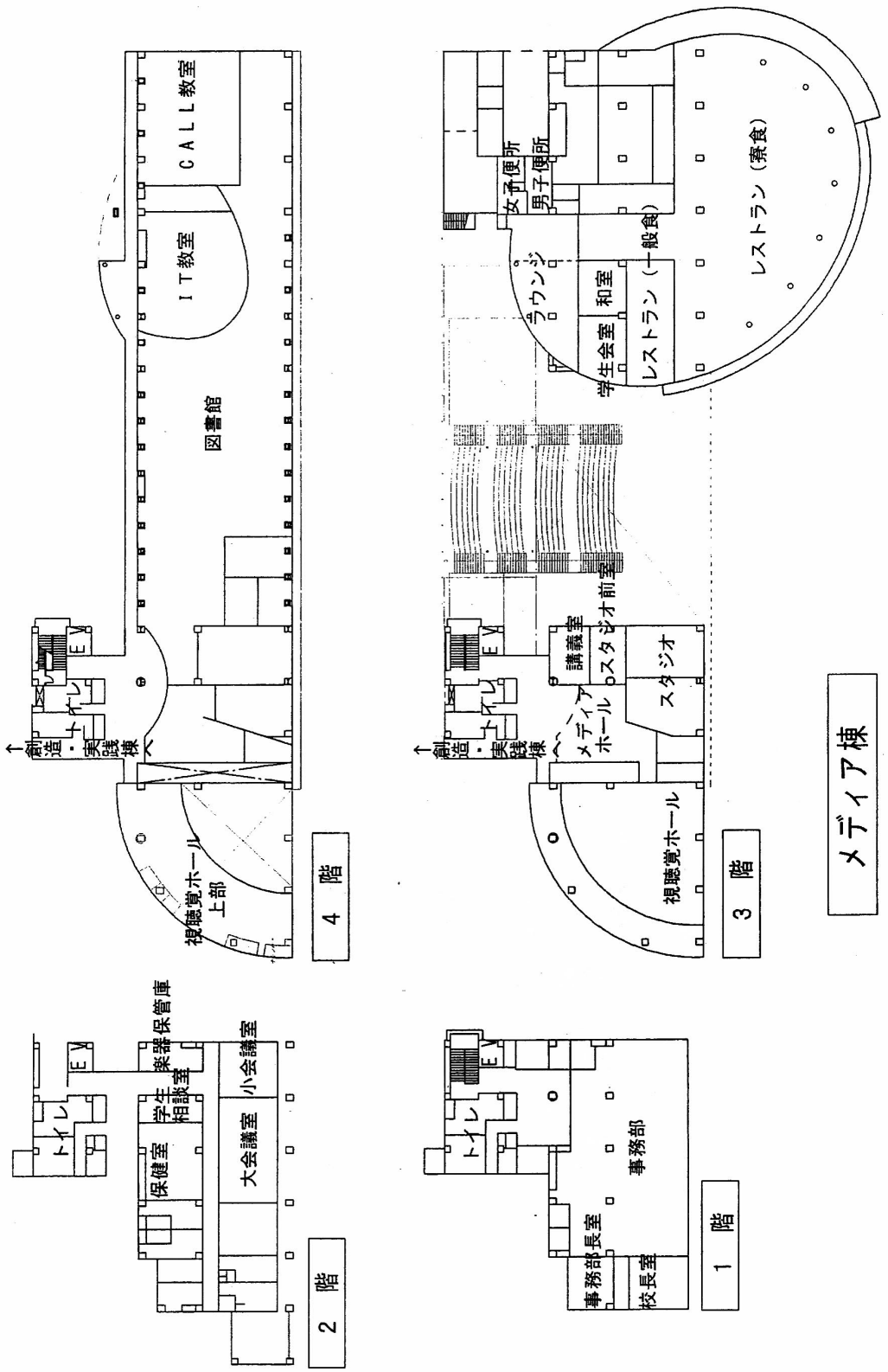
資料７－１－②－８


創造・実践棟２階
技術支援相談室
ソフトウェア演習室
準備室3
メディア・プログラミング演習室
ネットワーク管理室
男子WC
技術支援室
講義室2－5
講義室2－6
女子WC
生物化学工学実験室
準備室・試料調整室
熱・流体実験室
材料システム実験室
材料特性解析室
情報処理センター相談室
吹抜〈外部〉
吹抜〈内部〉
ITラウンジ
テクノセンター2－1
テクノセンター2－2
共同研究室2－1
共同研究室2－2
メディア棟4階へ
渡り廊下
WC
卒業研究室2－1
講義室2－1
講義室2－2
講義室2－3
講義室2－4
卒業研究室2－2
卒業研究室2－3
WC
創造・実践棟１階
情報通信工学実験室
準備室1
準備室2
メディア情報工学実験室
男子WC
テクノセンター1－1
テクノセンター1－2
創造工房
創造ホール
女子WC
中央機器分析室
試料調整室
精密加工室
材料特性評価・解析室
テクノセンター1－3
中庭
メディア棟3階へ
WC
卒業研究室1－1
講義室1－1
講義室1－2
講義室1－3
講義室1－4
卒業研究室1－2
卒業研究室1－3
WC
エントランス




（出典　学生生活の手引き　P. 140-141）

資料７－１－②－９




（出典　学生生活の手引き　P. 139）

資料７－１－②－10

# 一般食メニューと料金

ユーレストジャパン株式会社

## 朝食料金

| | |
|---|---|
| 朝食（寮食と同一） | 300円 |

## 昼食料金

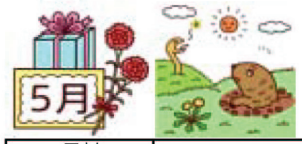
| | | | |
|---|---|---|---|
| 日替り定食 | 400円 | カレーライスセット | 350円 |
| 麺定食 | 400円 | カレーライス単品 | 300円 |
| 麺単品 | 270円 | タコライスセット | 350円 |
| 日替り麺 | 270円 | タコライス単品 | 300円 |
| 麺1.5人前 | 30円 | タコライスセット大盛 | 400円 |
| 麺2人前 | 50円 | タコライス単品大盛 | 350円 |
| サラダor小鉢 | 30円 | チャーハンセット | 250円 |
| みそ汁（ｽｰﾌﾟ） | 30円 | チャーハン単品 | 200円 |
| ライス単品 | 50円 | チャーハンセット大盛 | 250円 |
| ライス大盛 | 80円 | チャーハン単品大盛 | 300円 |

※セットはスープ（みそ汁）とサラダか小鉢が選べます。

## 夕食料金

| | |
|---|---|
| A食（寮食と同一） | 400円 |
| B食（寮食と同一） | 400円 |

※朝食・夕食は1週間前までの予約制となっており、売店にて購入していただいております。

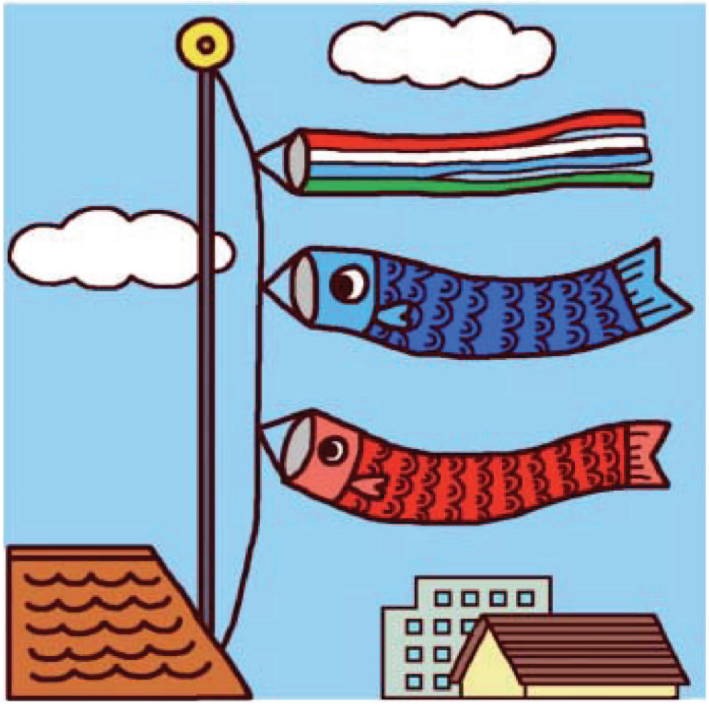



# 今週のメニュー

H22.05

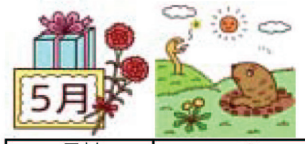
Eurest ユーレストジャパン株式会社





| 日付 | | 1 | 2 |
|---|---|---|---|
| 曜日 | | 土 | 日 |
| 朝食 | | バイキングメニュー<br>ウインナーソテー<br>根菜スープ煮<br>カニカマのマヨ和え<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>鶏肉のハチミツ焼き<br>ハッシュドポテト<br>ヨーグルト<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 |
| | エネルギー | 903 kcal | 837 kcal |
| 昼食 | | A<br>シシリアンライス | A<br>冷やしそうめん |
| | | B<br>魚のオーロラソース焼き | B<br>魚の西京焼き |
| | | A・B共通メニュー<br>スヌイ天ぷら<br>フルーツプリン<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A・B共通メニュー<br>春巻<br>果物<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 |
| | エネルギー A | 942 kcal | 923 kcal |
| | エネルギー B | 912 kcal | 924 kcal |
| 夕食 | | A<br>豚肉のおろし煮 | A<br>ミックスグリル |
| | | B<br>魚の七味焼き | B<br>魚の香草パン粉焼き |
| | | A・B共通メニュー<br>ミニメンチカツ<br>根菜煮<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A・B共通メニュー<br>小魚の唐揚げ<br>バジルスパゲティ<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 |
| | エネルギー A | 1,034 kcal | 1,064 kcal |
| | エネルギー B | 1,010 kcal | 1,031 kcal |
| 総エネルギー | 昼Aタ A | 2882 kcal | 2794 kcal |
| | 昼Aタ B | 2862 kcal | 2770 kcal |
| | 昼Bタ A | 2918 kcal | 2795 kcal |
| | 昼Bタ B | 2898 kcal | 2771 kcal |

材料の都合により一部変更になる場合がございます。



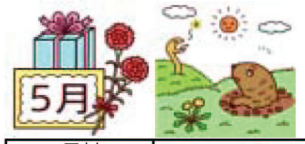

# 今週のメニュー

H22.05

Eurest ユーレストジャパン株式会社

| 日付 | | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 曜日 | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
| 朝食 | | バイキングメニュー<br>ミニオムレツ<br>ジャーマンポテト<br>コーンフレーク<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>チキンナゲット<br>三菜ツナ炒め<br>スクランブエルエッグ<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>ミニハンバーグ<br>金平ごぼう<br>カボチャ煮<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>スパイシーチキン<br>タマナーチャンプルー<br>フライドポテト<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>魚の幽庵焼き<br>野菜チャンプルー<br>納豆<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>ポーク<br>目玉焼き<br>五目豆煮<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>ミニカツ<br>豆腐チャンプルー<br>根菜サラダ<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 |
| ｴﾈﾙｷﾞｰ | バイキング | 841 kcal | 853 kcal | 867 kcal | 881 kcal | 890 kcal | 853 kcal | 890 kcal |
| 昼食 | | A<br>豚のさっぱり焼き丼 | A<br>ナシゴレン | A<br>中華丼 | A<br>ソースカツ丼 | おかわりあり<br>A<br>スパゲティミートソース | A<br>冷やしそば | A<br>玉子炒飯 |
| | | B<br>魚の中華あんかけ | B<br>魚のピカタ | B<br>魚のおろし煮 | B<br>魚のマヨ焼き | B<br>魚の煮付け | B<br>魚の生姜焼き | B<br>魚の竜田揚げ |
| | | A・B共通メニュー<br>たこ焼き<br>ババロア<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A・B共通メニュー<br>ナムル<br>プリン<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A・B共通メニュー<br>若竹煮<br>たい焼き<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A・B共通メニュー<br>厚揚げと小松菜のお浸し<br>果物<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A・B共通メニュー<br>コロッケ<br>ゼリー<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A・B共通メニュー<br>大学芋<br>ゴーヤーのお浸し<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A・B共通メニュー<br>ワンタンスープ<br>杏仁フルーツ<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 |
| ｴﾈﾙｷﾞｰ | A | 938 kcal | 946 kcal | 965 kcal | 973 kcal | 946 kcal | 934 kcal | 926 kcal |
| | B | 956 kcal | 955 kcal | 953 kcal | 946 kcal | 924 kcal | 923 kcal | 962 kcal |
| 夕食 | | A<br>鶏肉のゴマダレ焼き | A<br>ポークペッパーステーキ | A<br>回鍋肉 | A<br>牛柳川風 | A<br>リヨネーズポーク | A<br>酢鶏 | A<br>照焼きハンバーグ |
| | | B<br>ミックスフライ | B<br>魚のホイル焼き | B<br>魚の蒲焼き | B<br>魚のバター醤油焼き | B<br>魚の胡麻揚げ | B<br>魚の梅ドレソース | B<br>魚のトマトソース |
| | | A・B共通メニュー<br>煮付け<br>かに玉風<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A・B共通メニュー<br>マッシュポテト<br>ミニデザート<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A・B共通メニュー<br>ニラ玉<br>カクテキ<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A・B共通メニュー<br>イカ下足の唐揚げ<br>チリビーンズ<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A・B共通メニュー<br>ソーメンチャンプルー<br>和え物<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A・B共通メニュー<br>エビフライ<br>しらすおろし<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A・B共通メニュー<br>シマナーチャンプルー<br>おかか和え<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 |
| ｴﾈﾙｷﾞｰ | A | 1,032 kcal | 1,063 kcal | 1,028 kcal | 1,039 kcal | 1,045 kcal | 1,053 kcal | 1,045 kcal |
| | B | 1,092 kcal | 1,045 kcal | 1,049 kcal | 1,048 kcal | 1,046 kcal | 1,032 kcal | 1,030 kcal |
| 総エネルギー | 昼Aﾀ A | 2863 kcal | 2846 kcal | 2872 kcal | 2868 kcal | 2899 kcal | 2848 kcal | 2869 kcal |
| | 昼Aﾀ B | 2830 kcal | 2867 kcal | 2886 kcal | 2928 kcal | 2900 kcal | 2827 kcal | 2854 kcal |
| | 昼Bﾀ A | 2848 kcal | 2834 kcal | 2881 kcal | 2846 kcal | 2872 kcal | 2818 kcal | 2858 kcal |
| | 昼Bﾀ B | 2815 kcal | 2855 kcal | 2895 kcal | 2906 kcal | 2873 kcal | 2797 kcal | 2843 kcal |

材料の都合により一部変更になる場合がございます。



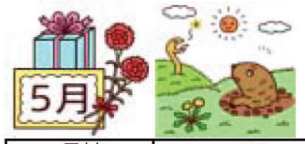

# 今週のメニュー

H22.05

Eurest ユーレストジャパン株式会社

| 日付 | | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 曜日 | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
| 朝食 | | バイキングメニュー<br>ミートボールチリソース煮<br>ホウレン草ソテー<br>フライドポテト<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>鶏肉の香り焼き<br>タマナーチャンプルー<br>マカロニサラダ<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>魚フライ<br>クーブイリチー<br>白和え<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>ハム入りスクランブル<br>野菜炒め<br>ひじき煮<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>豆腐ハンバーグ<br>筑前煮<br>チキンカツ<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>ポーク<br>人参シリシリー<br>千切りイリチー<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>魚のソテー<br>豚肉と根菜煮<br>玉子サラダ<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 |
| ｴﾈﾙｷﾞｰ | バイキング | 893 kcal | 864 kcal | 836 kcal | 846 kcal | 901 kcal | 880 kcal | 864 kcal |
| 昼食 | | おかわりあり A<br>カレーライス<br>B<br>魚の照焼き<br>A・B共通メニュー<br>クリームコロッケ<br>フルーチェ<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A<br>沖縄焼きそば<br>B<br>魚のポテサラ焼き<br>A・B共通メニュー<br>オクラのとろろ和え<br>みたらし団子<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A<br>牛丼<br>B<br>魚の味噌焼き<br>A・B共通メニュー<br>キムチ和え<br>果物<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | おかわりあり A<br>タコライス<br>B<br>魚の香草焼き<br>A・B共通メニュー<br>メンチカツ<br>フルーツポンチ<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A<br>冷やし中華<br>B<br>魚の五目あんかけ<br>A・B共通メニュー<br>餃子<br>和菓子<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A<br>豚焼肉丼<br>B<br>魚のパン粉焼き<br>A・B共通メニュー<br>ブロッコリーの胡麻和え<br>フルーツヨーグルト<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A<br>冷やしうどん<br>B<br>魚の西京焼き<br>A・B共通メニュー<br>ゴボ天<br>わらび餅<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 |
| ｴﾈﾙｷﾞｰ | A | 963 kcal | 961 kcal | 964 kcal | 972 kcal | 970 kcal | 972 kcal | 943 kcal |
| | B | 923 kcal | 988 kcal | 942 kcal | 926 kcal | 957 kcal | 920 kcal | 936 kcal |
| 夕食 | | A<br>青椒肉絲<br>B<br>魚の唐揚げ<br>A・B共通メニュー<br>お浸し<br>ミニデザート<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A<br>ポークストロガノフ<br>B<br>魚のムニエル<br>A・B共通メニュー<br>ロールキャベツ<br>芋かりんとう<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A<br>タンドリーチキン<br>B<br>魚のフリッター<br>A・B共通メニュー<br>麩イリチー<br>温野菜<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A<br>ポークステーキハワイアン<br>B<br>魚のマスタード焼き<br>A・B共通メニュー<br>冷やしスパゲティ<br>ミニデザート<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A<br>油淋鶏<br>B<br>魚のコーンマヨ焼き<br>A・B共通メニュー<br>ナーベーラーンブシー<br>和え物<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A<br>麻婆豆腐<br>B<br>八宝菜<br>A・B共通メニュー<br>小魚の唐揚げ<br>もやしの中華和え<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A<br>豚肉のジンジャーソース<br>B<br>魚の甘酢あんかけ<br>A・B共通メニュー<br>ブラジル風豆の煮込み<br>大根の梅和え<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 |
| ｴﾈﾙｷﾞｰ | A | 1,059 kcal | 1,084 kcal | 1,051 kcal | 1,082 kcal | 1,062 kcal | 1,080 kcal | 1,039 kcal |
| | B | 1,073 kcal | 1,086 kcal | 1,061 kcal | 1,067 kcal | 1,039 kcal | 1,031 kcal | 1,055 kcal |
| 総エネルギー | 昼Aﾀ A | 2919 kcal | 2909 kcal | 2851 kcal | 2849 kcal | 2946 kcal | 2932 kcal | 2846 kcal |
| | 昼Aﾀ B | 2901 kcal | 2911 kcal | 2861 kcal | 2836 kcal | 2923 kcal | 2883 kcal | 2862 kcal |
| | 昼Bﾀ A | 2879 kcal | 2936 kcal | 2829 kcal | 2803 kcal | 2927 kcal | 2880 kcal | 2839 kcal |
| | 昼Bﾀ B | 2861 kcal | 2938 kcal | 2839 kcal | 2790 kcal | 2904 kcal | 2831 kcal | 2855 kcal |

材料の都合により一部変更になる場合がございます。




# 今週のメニュー

H22.05

ユーレストジャパン株式会社

| 日付 | | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 曜日 | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
| 朝食 | | バイキングメニュー<br>チキンナゲット<br>肉野菜炒め<br>ゴボウサラダ<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>ミニハンバーグ<br>三菜ツナ炒め<br>フライドポテト<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>ミニオムレツ<br>小松菜ソテー<br>ポテトサラダ<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>鶏肉のレモン焼き<br>豆腐チャンプルー<br>納豆<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>コロッケ<br>ポーク玉子<br>金平ゴボウ<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>ボイルウインナー<br>タマナーチャンプルー<br>コーンフレーク<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>魚のバジル焼き<br>ベーコン入りスクランブル<br>ヨーグルト<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 |
| ｴﾈﾙｷﾞｰ | バイキング | 874 kcal | 919 kcal | 896 kcal | 830 kcal | 856 kcal | 832 kcal | 871 kcal |
| 昼食 | | A<br>おかわりあり<br>ハヤンライス | A<br>ソーキそば | A<br>照焼きチキン丼 | A<br>ビビンバ丼 | A<br>タンメン | A<br>鮭丼 | A<br>プルコギうどん |
| | | B<br>魚のねぎ塩焼き | B<br>魚の揚げだし | B<br>魚のチリソース | B<br>魚のチャンチャン焼き | B<br>魚の天ぷら | B<br>魚の山椒焼き | B<br>魚の薬味焼き |
| | | A・B共通メニュー<br>温泉玉子<br>プリン<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A・B共通メニュー<br>サーターアンダギー<br>ぜんざい<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A・B共通メニュー<br>もずく酢<br>ゼリー<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A・B共通メニュー<br>アメリカンドッグ<br>果物<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A・B共通メニュー<br>小龍包<br>杏仁フルーツ<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A・B共通メニュー<br>チキン唐揚げ<br>フルーツ寒天<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A・B共通メニュー<br>シュウマイ<br>ゼリー<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 |
| ｴﾈﾙｷﾞｰ | A | 956 kcal | 965 kcal | 955 kcal | 945 kcal | 983 kcal | 946 kcal | 967 kcal |
| | B | 954 kcal | 969 kcal | 961 kcal | 931 kcal | 964 kcal | 921 kcal | 913 kcal |
| 夕食 | | A<br>鶏肉の竜田揚げ | A<br>ポーククリームシチュー | A<br>牛肉のオイスターソース炒め | A<br>和風ハンバーグ | A<br>豚角煮 | A<br>鶏肉のテリマヨ焼き | A<br>豚肉のバーベキュー |
| | | B<br>魚のピザ風焼き | B<br>魚の香草パン粉焼き | B<br>魚の生姜焼き | B<br>魚の照焼き | B<br>魚の煮付け | B<br>魚のおろしポン酢ソース | B<br>エビカツ |
| | | A・B共通メニュー<br>ゴーヤーチャンプルー<br>さつま芋のレモン煮<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A・B共通メニュー<br>ペペロンチーノ<br>ミニデザート<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A・B共通メニュー<br>タコ焼き<br>根菜の和えもの<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A・B共通メニュー<br>ソーメンチャンプルー<br>酢の物<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A・B共通メニュー<br>揚げだし豆腐<br>いなむどっち<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A・B共通メニュー<br>和え物<br>五目茶巾<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A・B共通メニュー<br>野菜チャンプルー<br>白和え<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 |
| ｴﾈﾙｷﾞｰ | A | 1,063 kcal | 1,076 kcal | 1,045 kcal | 1,050 kcal | 1,062 kcal | 1,043 kcal | 1,038 kcal |
| | B | 1,054 kcal | 1,041 kcal | 1,028 kcal | 1,021 kcal | 1,090 kcal | 1,008 kcal | 1,054 kcal |
| 総ｴﾈﾙｷﾞｰ | 昼Aﾀ A | 2893 kcal | 2960 kcal | 2896 kcal | 2825 kcal | 2901 kcal | 2821 kcal | 2876 kcal |
| | 昼Aﾀ B | 2884 kcal | 2925 kcal | 2879 kcal | 2796 kcal | 2929 kcal | 2786 kcal | 2892 kcal |
| | 昼Bﾀ A | 2891 kcal | 2964 kcal | 2902 kcal | 2811 kcal | 2882 kcal | 2796 kcal | 2822 kcal |
| | 昼Bﾀ B | 2882 kcal | 2929 kcal | 2885 kcal | 2782 kcal | 2910 kcal | 2761 kcal | 2838 kcal |

材料の都合により一部変更になる場合がございます。




# 今週のメニュー

H22.05

Eurest ユーレストジャパン株式会社

| 日付 | | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 曜日 | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
| 朝食 | | バイキングメニュー<br>ミートボールケチャップ煮<br>クーブイリチー<br>さつま芋サラダ<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>ハムエッグ<br>青菜ソテー<br>ハッシュドポテト<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>チキンカツ<br>野菜炒め<br>がんも煮<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>スペイン風オムレツ<br>マーミナーチャンプルー<br>フライドポテト<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>チーズ入りスクランブル<br>ジャーマンポテト<br>春雨サラダ<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>魚のレモン焼き<br>ホットケーキ<br>オクラのおかか和え<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 | バイキングメニュー<br>野菜のｺﾝﾋﾞｰﾌﾊｯｼｭ炒め<br>ひじき煮<br>マカロニサラダ<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 |
| ｴﾈﾙｷﾞｰ | バイキング | 889 kcal | 878 kcal | 864 kcal | 921 kcal | 867 kcal | 820 kcal | 836 kcal |
| 昼食 | | おかわりあり A<br>豆入り挽き肉カレー | A<br>きつねうどん | A<br>天丼 | A<br>野菜そば | A<br>親子丼 | A<br>ゴマダレ冷やし中華 | A<br>ロコモコ丼 |
| | | B<br>魚のムニエル | B<br>魚の煮付け | B<br>魚の味噌焼き | B<br>魚の照焼き | B<br>魚の明太マヨ焼き | B<br>魚の七味焼き | B<br>魚のクリームソース |
| | | A・B共通メニュー<br>アスパラベーコン炒め<br>フルーチェ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>生野菜サラダ | A・B共通メニュー<br>ふろふき大根<br>ニラ饅頭<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A・B共通メニュー<br>もずく酢<br>果物<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A・B共通メニュー<br>オイキムチ<br>カスタードワッフル<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A・B共通メニュー<br>野菜天ぷら<br>ゴマ団子<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A・B共通メニュー<br>春巻<br>フルーツみつ豆<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 | A・B共通メニュー<br>ナムル<br>果物<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 |
| ｴﾈﾙｷﾞｰ | A | 958 kcal | 946 kcal | 981 kcal | 956 kcal | 948 kcal | 936 kcal | 950 kcal |
| | B | 943 kcal | 943 kcal | 933 kcal | 923 kcal | 965 kcal | 922 kcal | 948 kcal |
| 夕食 | | A<br>チキン南蛮 | A<br>牛焼肉風 | A<br>ポークソテーおろしソース | A<br>グリルチキンサルサソース | A<br>メンチカツ | A<br>沖縄風煮付け | A<br>豚肉の生姜焼き |
| | | B<br>魚の幽庵焼き | B<br>魚の甘酢ソース | B<br>魚のｼｰｸﾜｰｻｰｿｰｽ | B<br>魚の香り揚げ | B<br>魚のマスタード焼き | B<br>魚の蒲焼き | B<br>魚の塩焼き |
| | | A・B共通メニュー<br>レバニラ炒め<br>和え物<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A・B共通メニュー<br>クリームコロッケ<br>中身汁<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A・B共通メニュー<br>いとこ煮<br>海苔ポテト<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A・B共通メニュー<br>マカロニグラタン<br>和え物<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A・B共通メニュー<br>焼きビーフン<br>冷奴<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A・B共通メニュー<br>三色天ぷら<br>かみなりこんにゃく<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 | A・B共通メニュー<br>麻婆茄子<br>和え物<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 |
| ｴﾈﾙｷﾞｰ | A | 1,053 kcal | 1,074 kcal | 1,031 kcal | 1,065 kcal | 1,050 kcal | 1,041 kcal | 1,053 kcal |
| | B | 1,033 kcal | 1,065 kcal | 1,018 kcal | 1,055 kcal | 1,036 kcal | 1,049 kcal | 1,015 kcal |
| 総ｴﾈﾙｷﾞｰ | 昼Aﾀ A | 2886 kcal | 2898 kcal | 2910 kcal | 2959 kcal | 2865 kcal | 2797 kcal | 2839 kcal |
| | 昼Aﾀ B | 2895 kcal | 2889 kcal | 2900 kcal | 2944 kcal | 2851 kcal | 2805 kcal | 2801 kcal |
| | 昼Bﾀ A | 2871 kcal | 2895 kcal | 2862 kcal | 2926 kcal | 2882 kcal | 2783 kcal | 2837 kcal |
| | 昼Bﾀ B | 2880 kcal | 2886 kcal | 2852 kcal | 2911 kcal | 2868 kcal | 2791 kcal | 2799 kcal |

材料の都合により一部変更になる場合がございます。




# 今週のメニュー

H22.05

Eurest ユーレストジャパン株式会社

| 日付 | | 31 |
|---|---|---|
| 曜日 | | 月 |
| 朝食 | | バイキングメニュー<br>魚の照焼き<br>レンコン金平<br>ふくさ焼き<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>パン・ｼﾞｬﾑ・ﾏｰｶﾞﾘﾝ<br>牛乳orその他飲物 |
| ｴﾈﾙｷﾞｰ | バイキング | 867 kcal |
| 昼食 | | A<br>味噌カツ丼 |
| | | B<br>魚のピリ辛焼き |
| | | A・B共通メニュー<br>ゴーヤーチャンプルー<br>フルーツプリン<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物 |
| ｴﾈﾙｷﾞｰ | A | 978 kcal |
| | B | 941 kcal |
| 夕食 | | バイキングメニュー<br>ガーリックチキン<br>魚フライ<br>野菜カレー<br>麩イリチー<br>ミニデザート<br>生野菜サラダ<br>ご飯・汁物・漬け物<br>牛乳orその他飲物 |
| ｴﾈﾙｷﾞｰ | A | 1,046 kcal |
| | B | |
| 総エネルギー | 昼Aﾀ A | 2891 kcal |
| | 昼Aﾀ B | |
| | 昼Bﾀ A | 2854 kcal |
| | 昼Bﾀ B | |



JUNE

材料の都合により一部変更になる場合がございます。



（出典　学生課資料）

## 平成21年度　一般食利用者数実績（4～9月）

ユーレストジャパン株式会社

| 日＼月 | 4月 | | | 5月 | | | 6月 | | | 7月 | | | 8月 | | | 9月 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 朝食 | 昼食 | 夕食 | 朝食 | 昼食 | 夕食 | 朝食 | 昼食 | 夕食 | 朝食 | 昼食 | 夕食 | 朝食 | 昼食 | 夕食 | 昼食 | |
| 1 | － | 30 | － | 1 | 70 | 6 | 1 | 71 | 5 | 0 | 83 | 5 | － | － | － | 55 | |
| 2 | － | 46 | － | － | － | － | 1 | 66 | 4 | 0 | 80 | 5 | － | － | － | 41 | |
| 3 | － | 43 | － | － | － | － | 0 | 69 | 4 | 0 | 81 | 4 | 0 | 22 | 0 | 43 | |
| 4 | － | － | － | － | － | － | 1 | 74 | 4 | － | － | － | 0 | 19 | 0 | 38 | |
| 5 | － | － | － | － | － | － | 1 | 80 | 4 | － | － | － | 0 | 18 | 0 | － | |
| 6 | － | 98 | － | － | － | － | － | － | － | 1 | 63 | 5 | 0 | 73 | 1 | － | |
| 7 | － | 78 | － | 0 | 20 | 2 | － | － | － | 1 | 70 | 5 | 0 | 65 | 1 | 51 | |
| 8 | － | 83 | － | 1 | 80 | 4 | 2 | 63 | 4 | 0 | 60 | 5 | － | － | － | 52 | |
| 9 | － | 76 | － | － | － | － | 2 | 83 | 3 | 1 | 75 | 5 | － | － | － | 54 | |
| 10 | － | 87 | － | － | － | － | 2 | 52 | 3 | 1 | 29 | 5 | 0 | 67 | 0 | 54 | |
| 11 | － | － | － | 1 | 78 | 5 | 2 | 53 | 2 | － | － | － | 0 | 57 | 0 | 53 | |
| 12 | － | － | － | 1 | 73 | 5 | 2 | 82 | 4 | － | － | － | 0 | 54 | 0 | － | |
| 13 | 1 | 78 | 6 | 0 | 73 | 5 | － | － | － | 1 | 64 | 3 | 0 | 56 | 0 | － | |
| 14 | 1 | 93 | 6 | 1 | 77 | 5 | － | － | － | 1 | 75 | 3 | 0 | 73 | 0 | 50 | |
| 15 | 1 | 86 | 6 | 1 | 83 | 5 | 0 | 59 | 5 | 1 | 73 | 3 | － | － | － | 53 | |
| 16 | 1 | 74 | 6 | － | － | － | 0 | 83 | 5 | 1 | 73 | 3 | － | － | － | － | |
| 17 | 1 | 77 | 6 | － | － | － | 0 | 63 | 5 | 0 | 32 | 1 | 1 | 65 | 4 | － | |
| 18 | － | － | － | 1 | 82 | 6 | 0 | 70 | 5 | － | － | － | 1 | 48 | 4 | － | |
| 19 | － | － | － | 1 | 67 | 5 | 0 | 90 | 5 | － | － | － | 0 | 69 | 4 | － | |
| 20 | 1 | 76 | 6 | 0 | 71 | 6 | － | － | － | － | － | － | 1 | 62 | 4 | － | |
| 21 | 1 | 69 | 6 | 1 | 75 | 5 | － | － | － | 1 | 69 | 3 | 1 | 54 | 4 | － | |
| 22 | 1 | 80 | 6 | 1 | 75 | 5 | 1 | 73 | 5 | 0 | 72 | 5 | － | － | － | － | |
| 23 | 1 | 84 | 6 | － | － | － | 1 | 14 | 2 | 0 | 80 | 4 | － | － | － | － | |
| 24 | 1 | 76 | 6 | － | － | － | 0 | 65 | 6 | 1 | 73 | 3 | － | 40 | － | 29 | |
| 25 | － | － | － | 1 | 68 | 4 | 1 | 71 | 6 | － | － | － | － | 39 | － | 35 | |
| 26 | － | － | － | 1 | 72 | 4 | 1 | 84 | 6 | － | － | － | － | 35 | － | － | |
| 27 | 1 | 67 | 6 | 1 | 77 | 5 | － | － | － | 1 | 63 | 6 | － | 44 | － | － | |
| 28 | 1 | 66 | 6 | 1 | 71 | 4 | － | － | － | 1 | 71 | 6 | － | 41 | － | 0 | |
| 29 | － | － | － | 1 | 84 | 4 | 0 | 66 | 5 | 0 | 25 | 6 | － | － | － | 0 | |
| 30 | 1 | 83 | 6 | － | － | － | 0 | 77 | 5 | 1 | 28 | 6 | － | － | － | 0 | |
| 31 | | | | － | － | － | | | | 1 | 30 | 6 | － | 39 | － | 0 | |
| 合計 | 13 | 1550 | 78 | 15 | 1296 | 85 | 18 | 1508 | 97 | 14 | 1369 | 97 | 4 | 1040 | 22 | 608 | |
| | | 1641 | | | 1396 | | | 1623 | | | 1480 | | | 1066 | | 608 | |

## 平成21年度　一般食利用者数実績（10月～3月）

ユーレストジャパン株式会社

| 日＼月 | 10月 | | | 11月 | | | 12月 | | | 1月 | | | 2月 | | | 3月 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 朝食 | 昼食 | 夕食 | 朝食 | 昼食 | 夕食 | 朝食 | 昼食 | 夕食 | 朝食 | 昼食 | 夕食 | 朝食 | 昼食 | 夕食 | 昼食 | |
| 1 | 0 | 60 | 0 | － | － | － | 1 | 79 | 3 | － | － | － | 0 | 77 | 2 | 38 | |
| 2 | 0 | 79 | 0 | 1 | 79 | 5 | 1 | 92 | 3 | － | － | － | 0 | 67 | 2 | 33 | |
| 3 | － | － | － | － | － | － | 1 | 79 | 6 | － | － | － | 0 | 50 | 2 | 33 | |
| 4 | － | － | － | 1 | 74 | 5 | 1 | 77 | 5 | 0 | 13 | 2 | 0 | 71 | 1 | 33 | |
| 5 | 1 | 73 | 6 | 0 | 24 | 5 | － | － | － | 0 | 18 | 2 | 0 | 57 | 2 | 31 | |
| 6 | 1 | 65 | 6 | 0 | 21 | 4 | － | － | － | 0 | 67 | 2 | － | － | － | － | |
| 7 | 0 | 75 | 6 | － | － | － | 0 | 66 | 7 | 0 | 67 | 2 | － | － | － | － | |
| 8 | 1 | 72 | 6 | － | － | － | 0 | 70 | 7 | 0 | 80 | 1 | 0 | 55 | 0 | 35 | |
| 9 | 1 | 88 | 6 | 0 | 26 | 8 | 0 | 67 | 7 | － | － | － | 0 | 65 | 1 | 33 | |
| 10 | － | － | － | 1 | 55 | 6 | 0 | 75 | 7 | － | － | － | 0 | 53 | 1 | 27 | |
| 11 | － | － | － | 1 | 69 | 5 | 0 | 76 | 7 | － | － | － | － | － | － | 27 | |
| 12 | － | － | － | 1 | 70 | 5 | － | － | － | 0 | 75 | 2 | 0 | 65 | 0 | 37 | |
| 13 | 0 | 78 | 0 | 1 | 73 | 5 | － | － | － | 0 | 50 | 3 | － | － | － | － | |
| 14 | 0 | 65 | 0 | － | － | － | 0 | 56 | 6 | 0 | 76 | 3 | － | － | － | － | |
| 15 | 0 | 65 | 0 | － | － | － | 0 | 51 | 6 | 0 | 84 | 3 | 0 | 64 | 2 | 22 | |
| 16 | 0 | 71 | 0 | － | 36 | － | 0 | 69 | 6 | － | － | － | 0 | 72 | 2 | 21 | |
| 17 | － | － | － | 1 | 64 | 4 | 0 | 77 | 5 | － | － | － | 6 | 66 | 13 | 19 | |
| 18 | － | － | － | 1 | 59 | 5 | 0 | 73 | 6 | 0 | 68 | 3 | 0 | 59 | 2 | 32 | |
| 19 | 1 | 72 | 4 | 1 | 72 | 4 | － | － | － | 0 | 65 | 3 | 0 | 71 | 1 | 29 | |
| 20 | 1 | 55 | 4 | 1 | 73 | 3 | － | － | － | 0 | 56 | 3 | － | － | － | － | |
| 21 | 1 | 76 | 4 | － | － | － | 0 | 69 | 4 | 0 | 78 | 3 | － | － | － | － | |
| 22 | 1 | 74 | 4 | － | － | － | 0 | 69 | 4 | 0 | 67 | 2 | － | 19 | － | － | |
| 23 | 1 | 73 | 4 | － | － | － | 0 | 53 | 5 | － | － | － | － | 44 | － | 23 | |
| 24 | － | － | － | 1 | 57 | 10 | 0 | 61 | 6 | － | － | － | － | 30 | － | 31 | |
| 25 | － | － | － | 1 | 70 | 10 | 0 | 62 | 6 | 0 | 68 | 2 | － | 45 | － | 19 | |
| 26 | 0 | 71 | 6 | 1 | 66 | 7 | － | － | － | 0 | 64 | 3 | － | 45 | － | 23 | |
| 27 | 0 | 65 | 6 | 1 | 74 | 8 | － | － | － | 0 | 64 | 1 | － | － | － | － | |
| 28 | 0 | 81 | 5 | － | － | － | － | 9 | － | 0 | 73 | 3 | － | － | － | － | |
| 29 | 0 | 85 | 6 | － | － | － | － | － | － | 0 | 64 | 1 | | | | 19 | |
| 30 | 0 | 28 | － | 1 | 73 | 4 | － | － | － | － | － | － | | | | 21 | |
| 31 | － | － | － | | | | － | － | － | － | － | － | | | | 24 | |
| 合　計 | 9 | 1471 | 73 | 15 | 1135 | 103 | 4 | 1330 | 106 | 0 | 1197 | 44 | 6 | 1075 | 31 | 610 | |
| | | 1553 | | | 1253 | | | 1440 | | | 1241 | | | 1112 | | 610 | |

（出典　学生課資料）

資料７－１－②－11

## 平成21年度　売店弁当販売実績表

Eurest ユーレストジャパン株式会社

| 月／日 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 19 | 69 | 83 | 82 | － | － | 95 | － | 85 | － | 95 | 30 |
| 2 | 20 | － | 89 | 90 | － | － | 89 | 90 | 85 | － | 93 | 50 |
| 3 | 22 | － | 94 | 90 | 15 | 14 | － | － | 95 | － |  | 48 |
| 4 | － | － | 84 | － | 12 | 21 | － | 85 | 95 | 15 | 79 | 40 |
| 5 | － | － | 81 | － | 7 | － | 92 | 10 | － | 18 | 78 | 46 |
| 6 | 97 | － | － | 90 | 89 | － | 95 | 15 | － | 104 | － | － |
| 7 | 60 | 20 | － | 81 | 90 | 30 | 95 | － | 100 | 99 | － | － |
| 8 | 97 | 90 | 36 | 90 | － | 30 | 100 | － | 88 | 88 | 77 | 46 |
| 9 | 86 | － | 88 | 81 | － | 30 | 88 | 19 | 95 | － | 80 | 44 |
| 10 | 86 | － | 50 | 2 | 90 | 29 | － | 95 | 86 | － | 69 | 37 |
| 11 | － | 86 | 48 | － | 87 | 30 | － | 98 | 95 | － | － | 45 |
| 12 | － | 90 | 75 | － | 90 | － | － | 87 | － | 100 | 90 | 45 |
| 13 | 100 | 90 | － | 86 | 90 | － | 92 | 90 | － | 76 | － | － |
| 14 | 95 | 90 | － | 66 | 90 | 22 | 81 | 20 | 94 | 83 | － | － |
| 15 | 100 | 85 | 100 | 90 | － | 24 | 94 | 20 | 87 | 90 | 97 | 40 |
| 16 | 87 | － | 87 | 76 | － | － | 90 | 23 | 95 | － | 93 | 23 |
| 17 | 90 | － | 87 | 7 | 90 | － | － | 98 | 83 | － | 92 | 20 |
| 18 | － | 90 | 90 | － | 90 | － | － | 100 | 95 | 96 | 85 | 30 |
| 19 | － | 93 | 86 | － | 95 | － | 95 | 90 | － | 94 | 84 | 25 |
| 20 | 91 | 90 | － | － | 95 | － | 89 | 89 | － | 95 | － | － |
| 21 | 86 | 91 | － | 85 | 79 | － | 76 | － | 100 | 95 | － | － |
| 22 | 85 | 88 | 90 | 85 | － | － | 85 | － | 83 | 100 | 13 | － |
| 23 | 80 | － | 19 | 90 | － | － | 80 | － | 90 | － | 32 | 32 |
| 24 | 80 | － | 90 | 90 | 19 | 25 | － | 94 | 90 | － | 44 | 37 |
| 25 | － | 87 | 90 | － | 13 | 16 | － | 95 | 84 | 98 | 48 | 34 |
| 26 | － | 86 | 79 | － | 17 | － | 87 | 99 | － | 94 | 50 | 33 |
| 27 | 89 | 90 | － | 90 | 12 | － | 94 | 95 | － | 96 | － | － |
| 28 | 76 | 90 | － | 90 | 20 | 95 | 98 | 56 | 15 | 84 | － | － |
| 29 | 78 | 88 | 90 | 11 | － | 105 | 89 | － | － | 95 |  | 35 |
| 30 | 84 | － | 90 | 15 | － | 95 | － | 93 | － | － |  | 35 |
| 31 |  | － |  | 15 | 19 |  | － |  | － | － |  | 21 |
| 合計 | 1708 | 1513 | 1726 | 1502 | 1209 | 566 | 1804 | 1561 | 1740 | 1620 | 1299 | 796 |

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

自主的学習環境として，図書館・IT教室・演習室・オープンスペースが整備され，効果的に利用されている。図書館は，開館時間・利用案内の配布などを行っている。キャンパス生活環境として，レストランと売店が整備されている。

以上により，自主的学習環境及びキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されている。

**観点７－１－③：　学習支援に関する学生のニーズ（例えば，資格試験や検定試験受講，外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。**

（観点に係る状況）

学習支援に関するニーズは，授業アンケートの自由記述欄，オフィスアワー，担任，コース主任，科目担当教員によって把握されている（資料７－１－③－１）。また，学生の支援に関しては学生委員会，図書委員会，学生会，寮生会，給食懇談会などの会合を通しても把握されている。学生会主催のイベントについては学生委員会においても審議する（資料７－１－③－２）。資格試験受験希望者についても把握を行っている（資料７－１－③－３）。また，食事関係でもレストランに関する懇談会を行い学生のニーズを把握している（資料７－１－③－４）。

② 欠課時数が年間総授業時間数の１/３を越えている学生はその科目を履修したと認定されない。
成績評価が不可となった学生の扱いにつては第６章で述べる。

**（６） 学業成績の誤記訂正について**

学業成績に誤記入が生じた場合は、

① Campus mate での成績入力期間である場合には、訂正し、再登録する。
② 成績入力期間を過ぎている場合には、次回の成績入力期間に訂正する。
③ 後学期期末の成績通知書配布後は訂正できない。

**（７） 追認試験**

不可の成績をとった学生に対しては、追認試験を行うことができる。追認試験を行う場合は、第５章(7)追認試験実施要綱による。

**（８） 異常発生時の対応**

(A)授業中に体調不良を訴えた学生が生じた場合は、保健室(4054)と連絡をとり対処する。

(B)授業態度や出席状況に異変が見られた場合で、教科担当者だけの指導や処置では不適当と判断されるときは、学級担任、教務係と連携して指導、対処する。

**（９） 留年学生及び未修得教科を持つ学生の指導**

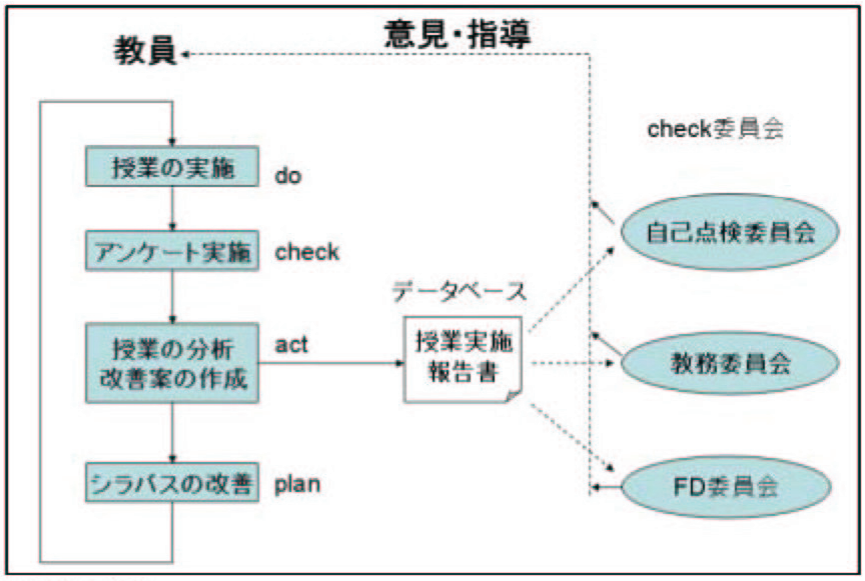
教科担当は、当該学生が 1 年間持ちこたえられるかどうか、あるいは再留年にならないよう、気を配らねばならない。低学年の場合、学級担任や総合科学科教員との連携をとりながらの指導も必要となる。

**（１０） 授業改善アンケート**

授業改善アンケートを実施し、以下の PDCA サイクルにより、授業を不断に改善すること。

PDCA（Plan·Do·Check·Act）サイクル

- 教員自らが、授業を改善するという意識で取り組む。
- 授業実施結果、アンケート結果の分析を含む授業実施報告書を作成し、データベース化する。
- 問題が発見された場合は、当該委員会から意見・指導を行う。




check 委員会の役割

- 自己点検委員会　：PDCA サイクルが機能していることの確認
- 教務委員会　：授業が適正に実施されていることの確認
- FD 委員会　：教員の教育技術の改善がなされていることの確認

授業改善アンケートの形式を示す。

授業改善のためのアンケート

このアンケートは、今後の授業改善に生かされるもので、回答結果は皆さんの成績には関与しません。より良い授業のためにみなさんのご協力をお願いします。以下の設問に、まじめに回答を選択し、率直な意見を記入してください。

設問
《学生の自己分析》
1．　この授業について、あなたの理解度は以下のどれにあてはまると思いますか？
（1．９０%以上、２．８０～９０%、３．７０～８０%、４．６０～７０%、５．６０%未満）
2．　この授業では、あなたは予習復習、課題提出などやるべきことをきちんとやりましたか？
（1．全てできた、2.ほとんどできた、３．時々できていない、４．あまりできていない、５．全くできていない）
3．　あなたはこの授業中、説明に集中し、居眠りなどせず、ノートをとるなど意欲的努力しましたか？
（1．全てできた、2.ほとんどできた、３．時々できていない、４．あまりできていない、５．全くできていない）
4．　授業で何を向上できたと思います？（複数選択可）
（1．基礎知識　２．応用力　３．スキル　４．視野の広がり　５．何もない）
5．　授業を受けるのに必要な事前学力を備えていたと思いますか？
（1．充分持っていた　２．まあまあ持っていた　３．何ともいえない　４．やや不足　５．全く不足していた）

《授業の進め方について》
6．　授業は定時に始まり、定時に終わりましたか
（1．100%定時、2．～90%定時、３．～80%定時、４．～50%定時、５．50%以下）
7．　授業中の私語や授業態度などを教員は注意しましたか？
（1．した、２．まあした　３．どちらともいえない　４．あまりしなかった、５．しなかった）
8．授業中は質問しやすく発言しやすい雰囲気で、きちんと対応してくれましたか？
（1．とてもそう思う　2.そう思う　３．どちらでもない、４．あまりそう思わない５．全くそう思わない）
9　PPT、パソコン等の IT 系教育機材の使い方について、どう感じましたか。

15

（1．もっと使った方が分かりやすい　2．　3．　ちょうど良い　4．　5．もっと板書の方が分かりやすい）

《授業内容について》
１０．　授業はシラバスに沿って計画的に行われましたか
（1．シラバス通り、2．まあまあシラバス通り、3．なんともいえない、4．少し異なる、5．全く違う）
１１．教員の説明は、言葉や論理が明瞭で、あなたにとって、理解しやすかったかったですか？
（1．理解しやすい、2.まあまあ理解しやすい　3．普通、4．やや理解しにくい　5．理解しにくい）
１２．　授業のレベルはあなたにとってどうでしたか
（1．高すぎる、2.すこし高い、3．ちょうど良い、4．少し低い、5．低すぎる）
１３．１回の授業の進み具合はあなたにとってどうでしたか？
（1．速すぎる、2.すこし速い、3．ちょうど良い、4．少し遅い、5．遅すぎる）
１４．　授業内容の豊富さはあなたにとってどうでしたか？
（1．多すぎる、2．少し多い、3．ちょうど良い、4．少し少ない、5．少なすぎる）
１５．　あたたにとって、講義と実践の割合はどう感じましたか？
(1.もっと講義が多い方が力が付く　2．3.ちょうど良い　4．　5.もっと実践が多い方が力が付く）

《自由記述》
上の質問に関すること、またはこの授業でとくによかったところ、この授業でとくに改善して欲しいところ・要望など、自由にコメントを書いてください。

---

1．実習系の安全性に関して：授業の中で危ない（怖い）ことはありましたか？
（1．全くない　2．ある）

2．実験や実習に関して：実験機器や資材の数量について
（1．充分であり満足できた　2．不足のため、遊び時間があった）

3．実験や実習に関して：充分や説明や実験マニュアルが整備されていましたかしたか。
（1．充分あった　2．あった　3．どちらともいえない　4．　あまりなかった　5．無かった）

4．実験や実習に関して：理論的な（講義系）科目との関連が感じられましたか。
（1．関連が良く分かっていた　2．どの科目と関連するのか不明だった）

### （１１）　授業実施報告書

授業改善アンケートに基づき、授業実施報告書を作成するものとする。
授業実施報告書の記述例を示す。

| 期間：21 年 4 月～21 年 9 月 | 授業名：プログラミング基礎Ⅱ（情報 2 年） | 教員名：＊＊＊ |
|---|---|---|

**授業の理念：** プログラミング言語 java の構造と文法について以下の項目を理解する。
(1) データ型, (2)条件分岐等の制御構造, (3)ファイル入出力、(4)オブジェクト指向プログラミング。
これらに基づき簡単なプログラムが作れるようになる。

**授業実施の経過：**　ほぼシラバス通り進めることができた。実践力と自主性を高めるために、授業毎に課題を出し、課題の達成度を達成度表で自己管理できるよう工夫した。

**授業改善のためのアンケート結果と分析：**

**主な項目の集計結果を示す。（講義用、回答数：24）**

| 授業は定時か | | 授業の理解度 | | 向上できたもの | | 質問しやすく、質問にきちんと対応したか | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 90%以上 | 79.2% | 90%以上 | 12.5% | 基礎知識 | 87.5% | とてもそう思う | 25% |
| 80-90% | 20.8% | 90～80% | 20.8% | 応用力 | 20.8% | そう思う | 54.2% |
| 70-80% | 0 | 80～70% | 37.5% | スキル | 37.5% | どちらでもない | 16.7& |

16

（出典　教員便覧　P. 14-16）

資料７－１－③－２

# 第８回学生委員会議事要旨

日　　時　　平成２１年６月１６日（火）　１６：４０～１８：２５
場　　所　　大会議室
出 席 者　　眞喜志教授（委員長、学生主事）、濱田教授（寮務主事）、武村准教授（学生主事補）、山田准教授（〃）、鈴木講師（〃）、三宮准教授（〃）、木村講師（〃）、南部学生課長
列 席 者　　銘苅学生係長、大里学生係長
配布資料　　（資料１）高専祭実行委員会組織図
（資料２）沖縄工業高等専門学校日本学生支援機構奨学生推薦基準の一部改正新旧対照表（抜粋）、改正（案）
（資料３）平成２１年度奨学金推薦名簿、推薦予定者一覧表、平成２１年度高等専門学校第一種奨学生及び第二種奨学生在学定期採用の推薦について（依頼文）
（資料４）コーチ委嘱依頼書
（資料５）学生によるＷｅｂフィルタリングの規制ルール取りまとめについて、学生利用ネット規制カテゴリ一覧
（資料６）平成21年度前期分宿日直割振り表

審議事項：

１．高専祭の担当について

委員長から資料１に基づき説明があり、原案どおり了承された。本日欠席の武田委員には後日確認する。

２．沖縄工業高等専門学校日本学生支援機構奨学生の推薦基準の改正について

委員長から、資料２に基づき説明があり、審議した。以下の点については確認の必要があるため、ペンディングとし、確認後に訂正して制定することが承認された。

（確認事項）

・第３（４）のエ　「又は専攻科の入学試験の成績が入学者の上位２／３以上の者」及びオの文中「学科の上位２／３」とあるのを「各コースにおける成績順位が上位２／３以上の者」として取り扱うのか確認する。

※上記の点について、委員会終了後に教務係及び主事会議で確認の上、専攻科の学力基準を「コースにおける成績順位２／３以上」として取り扱うことが、了承されたので（各委員へメールで確認）、下記のとおり原案を訂正し、制定することとなった。

（訂正後）

第３（４）

エ　専攻科第１学年に在学する者

出身学校における最終学年の学習成績が本人の属する学科の上位２／３以上の者，又は専攻科の入学試験の成績が入学したコースの入学者の上位２／３以上の者

オ　専攻科第２学年に在学する者

前年度の学年末学習成績が本人の属するコースの上位２／３以上の者

３．日本学生支援機構奨学生の推薦について

委員長から、資料３に基づき説明があり、審議の結果、原案を以下のとおり一部変更し、推薦することが承認された。

（変更点）

専攻科の第二種奨学金申請者については全員推薦する。（専攻科は推薦内示数が示されておらず、第一種で推薦した者全員が採用されるという確証もないので、「第一種で採用されなければ第二種を希望する」学生については両方で推薦する）

※委員会終了後に機構へ専攻科の採用数について問い合せたところ、以下のとおり推薦することとなった。

機構より「第一種、第二種のいずれかを希望、かつ第一種を強く希望している者には両方での推薦はできない。専攻科については特に問題がない限り、推薦者全員を採用する。」とのことであった。よって、第一種で推薦する者は第二種では推薦しない。

４．部・同好会技術指導コーチの委嘱について

委員長から、資料３に基づき説明があり、原案どおり承認された。

５．その他

・学生のＷｅｂ利用規制ルールについて

ＩＣＴ委員会から学生委員会へ依頼のあった「学生のＷｅｂ利用規制ルール」の方針について、委員長及び山田委員で案を作ることとなった。

・夏季合宿について

夏季合宿期間は８月１６日の宿泊から８月３１日の１７時までと決定した。後半の合宿（９月下旬）は２～３日しか日程が取れないため、又、その期間は３年次の研修旅行があり、宿直が不足するため、後半の合宿は行なわないこととなった。

同じクラブ内でも入退居時間が異なることや途中帰省を容認しているため、点呼簿の変更が頻繁に生じ、食事の料金計算も複雑となるので、これらの業務は各顧問で行なうなど、合宿に伴う業務の簡素化を見直すこととなった。学生係は、合宿期間中に開催される全国高専体育大会対応のため、前年度と同じやり方では合宿業務の負担が大きすぎて対応できない。また、部屋の割り振りは１～３階にクラブ単位でまとめてほしいとの要望があった。

・処分基準内規の改正

濱田委員より、今週開催される寮務委員会で処分基準内規の一部改正について審議し、７月の運営企画会議に提案する予定であるとの報告があった。学生委員会でも車輌使用違反等の処分を見直すこととなった。

・辺野古区民運動会

辺野古区民運動会に学生の引率として参加した三宮委員と木村委員より、以下の問題について報告があった。

・学生の参加名簿がなかった。予定外に当日参加した者や、途中でいなくなる者もいたので、参加者の把握ができなかった。

・参加者が参加種目や開始・終了時間などプログラムの内容を理解していなかった。

・沖縄高専の学生は参加出来る種目が少なく、待ち時間が長すぎる。

・学生会の役員が途中で帰ったので、とりまとめる者がいなかった。

・弁当や飲み物を準備していなかった。参加賞の冷えていない飲み物を学生は飲んでいた。

# 第１０回学生委員会議事要旨

日　　時　　平成２１年７月３１日（金）　１５：００～１６：２０
場　　所　　大会議室
出 席 者　　眞喜志教授（委員長、学生主事）、濱田教授（寮務主事）、
武村准教授（学生主事補）、山田准教授（〃）、鈴木講師（〃）、三宮准教授（〃）、
木村講師（〃）、武田講師（〃）、南部学生課長
列 席 者　　銘苅学生係長
配布資料　　（資料１）沖縄工業高等専門学校学生会会則新旧対照表、沖縄工業高等専門学校学生会議会細則新旧対照表、沖縄工業高等専門学校学生会会計細則新旧対照表、会則等に関する質疑及び学生会からの回答
（資料２）コーチ委嘱依頼書
（資料３）第５回高専祭企画書案
（その他）「美ら島沖縄総体２０１０」高校生一人一役活動第２回北部地区担当者及び生徒連絡会資料
諮問会議構成員（案）

審議事項：

１．学生会会則等の改正について

委員長より、資料１に基づき、学生会会則の主な改正点について説明があった。三宮委員から指摘があった点など、課題は多く残っているが、学生会長より、「今回の指摘事項を含め全体を見直し、１０月の学生会議会に於いて改正を行なう」との回答があったので、改正について承認された。

これらの規約の改正は平成１９年に制定以来、学生会内部のみで承認され、学校の承認を得られていなかった。規約が実情と異なっては学生会の運営に支障をきたすため、指摘事項等については今後見直すとの条件の下で、これまでに数回行なわれた改正を一括して認めるものである。

２．部・同好会技術指導コーチの委嘱について

委員長より、資料２に基づき説明があり、原案どおり承認された。

３．高専祭の日程について

委員長より、資料３に基づき、テーマの変更を依頼したこと、実行委員会より土曜日の午後から１．５日の日程で開催希望がある旨説明があった。

学校として公的に土曜日の午後から開催を認めた場合、代休の日程を取ることが難しいので、土曜日の高専祭はリハーサルという名目で、時間を決めて行なうとの意見が出された。

４．その他

・高専体育大会出場に係る旅費の後援会からの補助について

野球部から要望のあった外部コーチ（専攻科生）の高専体育大会の引率旅費については、１団体で外部コーチを含め引率２名までであれば問題ないが、顧問２名と外部コーチの計３名の引率の場合は予算的に厳しい。

テニス部から要望のあった「後援会の補助は、１部活１大会でははく、１学生１大会」につ

いては、大会参加者が大幅に増加すれば後援会からの補助の割合も減額になる可能性があるので、新人高専大会へどれくらいの参加者の増加が見込まれるのか、新人大会が開催される対象競技と出場可能な人数について学生係で調査することとなった。

・美ら島総体開催に向けての学校での取り組みについて（校内美化）

美ら島総体連絡会で要請のあった「月１回クリーン活動」の実施については、学生会では既に校内美化と辺野古区のゴミ拾いをそれぞれ年２回実施しているので、その他にクリーン活動を行なうかについては、学生会で検討してもらう。

来年度開催の美ら島総体には大会委員として約１６０名の学生が割り当てられているので、来年度の学校行事を立案する際には臨時休業や授業等の調整が必要である。

・懲戒処分に対する異議申立の諮問会議について

諮問会議の構成員について、対象となる学生に応じて、３パターンの案が報告された。

# 第１１回学生委員会議事要旨

日　　時　　平成２１年１０月１３日（火）　１６：４５～１８：２０
場　　所　　大会議室
出 席 者　　眞喜志教授（委員長、学生主事）、濱田教授（寮務主事）、
　　武村准教授（学生主事補）、山田准教授（〃）、鈴木講師（〃）、木村講師（〃）
列 席 者　　多和田学生課長補佐、銘苅学生係長、大里学生係員、
　　情報通信システム工学科４年次担任　比嘉勝也教授
配布資料　　（資料１）インターンシップ期間中での学生の行動について報告書
　　（資料２）授業料免除の成績基準について
　　（資料３）平成２２年度沖縄工業高等専門学校行事予定表
　　（資料４）第５回高専祭実行計画書
　　（資料５）学校前の横断報道の信号設置について
　　（資料６）７時以降の体育館使用について要望書

審議事項：

１．インターンシップ期間中での学生の行動について

委員長より、資料１に基づき経緯・状況説明があり、懲戒処分の要否について審議した。当該学生の担任より「インターンシップは授業の一貫であり、受入れ先企業に迷惑をかけた。本人は外泊手続きの必要性についても承知していながら、怠った。当該学生の行動は、今後のインターンシップ受入れや就職にも影響を及ぼすことから、正式に処分をしてほしい」と学科の意見が報告された。審議の結果、以下のとおり懲戒処分を行なうこととなった。

処分事由：沖縄高専の学生として相応しくない行為

処分内容：学生主事及び担任注意

また、受入れ先企業には本人からの詫び状も提出させることとなった。

２．授業料免除の成績基準について

委員長より、資料２に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

ただし、本取扱い対象者は、追試を受けた者に限定する。追試を受けられない者（公認欠席や病気等の理由以外で期末試験を受けなかった者）は対象外とする。また、追試はいつまでにやらなければならないという期限はなく任意なので、規則等で追試の期限を設けてほしいとの意見があった。

３．平成２２年度学校行事予定表の作成について

委員長より、資料３に基づき説明があり、高体連等の学外行事については学生係で来年度の日程を確認し、学生会には１１月末までに学生会行事について作成を依頼することとなった。１２月初めに学生委員会を開催し、行事内容について検討する。

来年度の新入生研修は１泊２日の合宿研修を行なうかどうかについては、総合科学科の意見を木村委員がとりまとめる。美ら島総体は、約１６０名の学生及び教員が動員されるので、臨時休業にしたいとの意見があった。本校の動員日程は、高校総体事務局と調整中である。

４．高専祭の日程について

委員長より、資料４に基づき説明の後、内容について確認した。

今年は、同日に開催される「久辺テクノフェスタ」に加わることで、名護市役所からの送迎バス及び、久辺エリア間の巡回バスを来場者は利用出来る。マルチメディア館等の駐車場も利用可能である。

１１月１４日（土）の終了時間は２０時となっているが、寮日課に支障が出るので、１９時に変更する。

１１月１４日・１５日は担任又は副担任のどちらかが交替で出勤し、出席確認を行なうよう依頼する。教員へのアナウンスは早めに行なう。

５．横断歩道の信号機設置について

委員長より資料５に基づき説明があり、各委員は横断歩道の必要性について学科の意見を聴取することとなった。学生係は信号設置を要請する場合の段取りについて調べる。また、本校正門からファミリーマートに向かう道路の外灯設置も要請したいとの意見があった。

６．７時以降の体育館使用について

委員長より資料６について説明があり、要望書の内容について協議した。本科の部活動は寮日課に支障がないよう７時までとなっており、専攻科生は部・同好会に入会していないことから、使用条件や安全管理体制を調整し、要望書の使用時間どおり体育館の利用を認めることが了承された。

・専攻科生が体育館を使用する場合は、その都度「施設・設備使用許可願」を１週間までに提出させる。（看護師の日程調整が必要なため）

・安全管理（ケガ対応）のため専攻科の教員を監督者として学内に待機させるか、看護師に終了時間（午後８時）まで勤務してもらうか調整する。

７．その他

・部活動・同好会活動の基本方針について

アクエリアスに基本方針（試案４）を掲載するので、各委員は一読し、次回の委員会で内容を検討する。

# 第１４回学生委員会議事要旨

日　　時　　平成２１年１２月１日（火）　１６：４５～１７：５５
場　　所　　大会議室
出 席 者　　眞喜志教授（学生委員長・学生主事）、濱田教授（寮務主事）、
武村准教授（学生主事補）、山田准教授（〃）、鈴木講師（〃）、
三宮准教授（〃）、木村講師（〃），武田講師（〃）、南部学生課長
列 席 者　　銘苅学生係長
配布資料　　（資料１）調書、沖縄工業高等専門学校学生の懲戒に関する規程、学生の処分基準内規、学生の処分歴一覧（懲戒処分）

審議事項

１．学生の処分について

眞喜志学生主事から資料１に基づき状況について説明があり，処分の要否及び種類・程度について審議した。審議の結果、ビデオの企画・撮影の中心となった３名に対し、下記のとおり処分を行なうことが承認された。[redacted]は１シーンに出演しただけなので処分としない。

①処分対象者　　[redacted]、[redacted]、[redacted]
②処分事由　　沖縄高専の学生として相応しくない悪質な行為
③懲戒処分　　学生主事及び担任注意

※専攻科学生の懲戒処分は、学則第６７条により、第５６条の規定を準用する。

また、次回の高専祭では再発防止のため、事前に企画書の提出や上映作品のチェックを行なうなど対策を講じてほしいとの要望があった。

２．その他

・保健委員の配置について

１年及び２年担任団より「ＳＨＲで担任が出欠確認を行なっているので、担任が欠席について報告し、保健委員は設置しない」との意見があったが、保健委員設置の目的は欠席者の情報を迅速に把握することなので、担任からの報告があれば保健委員を設置する必要はないと、委員会での見解が一致した。

・来年度学校行事について

委員長より、来年度は高校総体へ約１６０名学生の派遣依頼があり、１週間臨時休業となるため、高専祭は実施せず、体育祭のみ行いたいとの提案があった。また、来年度以降、体育祭と高専祭を隔年で実施することについても提案があり、高専祭実施のメリット・デメリットを挙げ、隔年による実施について次回の学生委員会（１２月１５日）で審議することとなった。

今年度の高専祭での入試説明会は９３名の中学生が参加した。高専祭における中学生へのＰＲ効果なども検討する。

（出典　平成 21 年度第８回，10 回，11 回，14 回学生委員会議事要旨）

資料７－１－③－３

学生各位
（Cc:教職員各位）

こんにちは、教務係 射手矢です。

「危険物取扱者試験」を実施している、（財）消防試験研究センターから
「臨時特定試験」について、実施希望のアンケートがきています。

この試験は、ある程度（30～40名）の人数が受験する場合、
本校で「危険物取扱者試験」を実施できるというものです。

つきましては、受験を希望する方がいましたら、５月２８日（水）までに
学生課教務係まで来てください。

なお、本アンケートで希望しても、人数が少ない等の理由で
実施されない場合がありますので、ご了承ください。

１．実施時期：７月（詳細は未定。土、日、休日に実施。）
２．試験会場：本校

【参考】通常の試験の場合
１．実施時期：　５月２５日（日）※実施済み
　　１１月　２日（日）
　　２月　１日（日）
２．試験会場：北部農林高等学校
　　沖縄国際大学
　　南部農林高等学校
　　宮古工業高等学校
　　八重山農林高等学校

※「危険物取扱者試験」については、（財）消防試験研究センターのHP等を
参考にしてください。

**********
沖縄工業高等専門学校　学生課教務係
射手矢　涼子
905-2192 沖縄県名護市辺野古905
TEL [redacted]
Emai[redacted]

To:[redacted]
Cc:[redacted]
gky[redacted]
Subject: H22年度春・情報処理技術者試験の受験を希望する学生へ

情報処理技術者試験の受験を希望する学生のみなさん

情報通信の神里です。

4月18日（日）に情報処理技術者試験が実施されます。
是非、この機会に受験することをすすめます。
（受験のメリットは本メールの最後に見てください）

沖縄高専は情報処理技術者試験に団体受験します。
団体受験を申し込んだ人は試験会場の那覇市内まで、バスで送迎します。

受験を希望する学生は下記を良く読んで手続きを行ってください。

【バスの送迎希望確認】

バスを借りるために人数確認が必要です。
試験会場までバスでの送迎を希望する学生は下記の質問にメールで回答してくださ
い。
回答先：情報通信システム工学科 神里[redacted]
>)
回答期限：2月5日（金）

---
＜バスでの送迎希望＞
希望しない・往復希望・行きのみ希望・帰りのみ希望

＜通学区分＞
通学生・寮生・4月以降は未定
---

【願書登録】期限：2月5日（金）

(1)下記URLにアクセスしてください。
http://www.jitec.jp/ap_net_dan_gansyo_h22h.html

(2)注意事項を良く読んで、ページ一番下の「同意する」をクリック

(3)「団体ID」と「団体確認用キー」を入力して。「ログイン」をクリック
　〈団体ID〉[redacted]
　〈団体確認用キー〉[redacted]

(4)試験区分を入力して、「次へ」をクリック

(5)受験地、個人情報、アンケートを入力
　・寮生は寮の住所を入れてください
寮生の住所：〒905-2171 沖縄県名護市辺野古906
・メールアドレスは学校のメールにしてください（ケイタイのメールにしないこと）
・応募確認キーは各自で決めて入力してください
・アンケートの在学中の学校は高専を選択してください
(6)団体担当者用チェック欄のチェック1に学籍番号[redacted]
・「mi」「ic」「ms」「br」は入れないこと
・チェック2、3－5は記入しないでください

(7)「次へ」をクリック

(8)内容を確認して、「申込み」をクリック

(9)終わり。確認のメールが届きます。

【受験料の支払い】
受験料 ： 5,100円（税込み）
支払期限 ：2月8日（月）
支払い方法：
情報通信の神里まで現金で持ってきてください。

※支払期限までに受験料を支払わない人は受験申し込みが無効となります。

【分からないことや困ったことがあったら】
願書登録の方法が分からない、どの試験を受けたらよいのか分からない等の
困ったことがあったら、
情報通信の神里、メディア情報工学科の正木先生，タンスリヤボン先生が対応します。

---最後に、試験のメリットを示します。----------
[
受験のメリット：
http://www.jitec.ipa.go.jp/1_08gaiyou/_index_gaiyou.html

上記のURLから一部抜粋：
・進学に有利
情報処理技術者試験の合格者に対して、入試優遇制度を実施している学校・大学が
258 校、単位認定制度を実施している学校・大学が 77 校ある。

・就職に有利
合格者には一時金・資格手当などといった報奨金制度を設ける企業や、就職の際に試
験合格を考慮する企業など、多くの企業から高い評価を受けています。
日経ソリューションビジネスが2007年10月に実施したアンケート調査（2008年版「い
る資格、いらない資格」）では、技術職に取らせたい資格の上位10位中9つを、営業
職に取らせたい資格の上位12位中7つを、情報処理技術者試験が占めました。（参考
リンク：株式会社日経BP IT Pro のサイトの記事「いる資格、いらない資格」）
]

---
沖縄工業高等専門学校　情報通信システム工学科
神里　志穂子
E-mail:[redacted]

（出典　学生通知メール）

資料７－１－③－４

第３回レストランとの懇談会メモ

日　　時：　平成２１年７月９日（木）１６時４５分　～　１９時３０分
場　　所：　学生寮Ｃ棟５階多目的室
出 席 者：　【レストラン業者側】
ユーレストジャパン株式会社沖縄高専店　伊藤店長，小野栄養士
【沖縄高専側】
濱田寮務主事，比嘉総務課長補佐（総務），鉢嶺総務課長補佐（財務）
多和田学生課長補佐，稲福寮務係長，比嘉寮務係員（記）
【寮生代表者】
男子保健衛生委員長，女子保健衛生委員長
議　　事：
（１）全国高専留学生サマープログラムに係る沖縄高専レストランの利用について
留学生交流促進センター新川教授より、資料１に基づいて説明があり以下の要望があった。
・平成２１年８月２５日（火）から２８日にかけて行われる全国高専留学生サマープログラムについて、８月２６日（水）、２７日（木）の２回、昼食を提供していただきたい。
１メニュー　５００円で７５名程。メニューは、魚を主菜として、副菜として肉を添える。（宗教上肉食がダメな留学生がいるため）。牛肉を食べられない人は現在のところ４名は確定。ラマダンの留学生でも食事が可能な人がいるため、10 食は予備として対応できるようにしてほしい。
昼食時間は、８月２６日（水）は１２：００～１３：３０
８月２７日（木）は１２：００～１４：００

（２）第２回懇談会メモ（案）確認及び改善実施状況について
濱田寮務主事より、資料２について説明があり、以下の発言があった。
・濱田寮務主事より、資料２（１）についての改善状況について確認があった。
伊藤店長より、改善しています、との説明があった。
・鉢嶺総務課長補佐より「今日初めて検食をしたが、やはりお茶は薄いのではないか？」との意見があった。
伊藤店長より、機械で給茶しているが、業者に機械を点検させたところ、故障等特に異常は無く、利用者も多くいるためタイミングによっては薄く出てしまうことがある。機械としては正常に動作しており、また、濃く出るようにできたとしても、「濃すぎる」との意見も出ることが予想され、調整は難しいとの説明があった。
・濱田寮務主事より、野菜ジュースの提供について確認があった。
伊藤店長より、野菜ジュースは種類を増やして提供しているとの説明があった。また、朝夕は必ず牛乳は提供するようにしており、また、夕食に飲み物を提供しているのは沖縄高専のみで他高専では、朝、牛乳のみ提供しているのが現状との説明があった。
・濱田寮務主事より、荷物放置についての対策・改善状況についての確認があった。
男子保健衛生委員長より、改善されている、との説明があった。
（３）メニューについて
・濱田寮務主事より、料理等に虫等が混入していた場合は、レストラン従業員に現物を見せて知らせることが重要であるので、各保健衛生委員長もその旨寮生へ周知しておくように、との発言があった。

・濱田寮務主事より男子のアンケートについて、個別に対応するので教えてほしいとの依頼についての対応について、確認があった。
男子保健衛生委員長より、アンケートの様式に誤り（名前を記入する欄が無い）があり、名前が特定できないようになっているのを改善した旨説明があった。

（４）出食形態について
発言等は無かった。

（５）設備・備品について
・濱田寮務主事より、寮給食サンプルケースの選定の進捗状況について確認があった。
伊藤店長より、選定済みである旨説明があった。
・濱田寮務主事より、レストラン出入口の傷んだ玄関マットの交換について確認があった。
寮務係より、その件についてはまだ前任者より引き継ぎを受けていないので、確認する旨回答。
→その後、寮務係より施設係に確認した結果、施設係で創造・実践棟のマット交換を計画しており、その際に併せて発注するとのこと。発注は来週以降になる予定とのこと。

（６）その他
・濱田寮務主事より、残飯（パンの食べ残し）の増加についての改善について、保健衛生委員会では何か改善案があるかどうかについて確認があった。
男子保健衛生委員長より、残飯の量についてのデータをいただければ、グラフ等を作成して、レストランの寮食メニュー表のそばに掲示して周知をしたいと考えるが、外部の方の利用もあることから、そこへの掲示は良くないとのことで、良い周知方法について他に思いつかないとの説明があった。

以上

（出典　平成21年度第３回レストランとの懇談会メモ　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

学生のニーズは，学生委員会・学生会・寮生会，および，担任コース主任・科目担当教員によって把握され，実際の対応が機能している。

以上によって，学習支援に関する学生のニーズは適切に把握されている。

**観点７－１－④：　資格試験や検定試験受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。**

（観点に係る状況）

資格試験のための支援としては，TOEIC400点以上の獲得を目指すことを準学士課程の教育の特色にしている（資料７－１－④－１）ことからTOEICのIPテストを実施（資料７－１－④－２）している。専門教育においては情報処理技術者試験，危険物取扱者の受験の支援（資料７－１－④－３，資料７－１－④－４）を行っている。

外国留学のための支援としては，留学先における履修を本校における履修とみなし，単位の修得を認定し，また，学年の途中でも各学年の課程の修了または卒業を認めることができる規則が制定されている（資料７－１－④－５）。

資料７－１－④－１

# 教育方針と特色　Policies and Features of Education

## 本　科 Departments

### 教育の方針　Basic Policies of Education

1. 個性と能力を伸長させるとともに、自立の精神、主体的な態度、幅広い豊かな教養を身につけさせ、国際社会の一員としての人間形成を促す。
To promote individual characteristics as will as competence and to foster independent-minded spirits and attitudes with cultural enrichment,prompting character formation to become a member of the international society

2. 技術の進展や産業構造の変革など今後の社会の変化に柔軟に対応できるよう、専門知識と技術の修得のほか、自己学習能力をはじめ技術者に必要な各種の基礎能力の開発と伸長に重点を置く。
To put emphasis on self-learning ability and well-rounded basic knowledge necessary for engineers in addition to specialized knowledge and technology.As the students develop this ability,they will be able to cope with the change of future society,the development of technology and the industrial structure.

### 教育の特色　Features

1. 授業時間は 100 分を基本とし、知識を学問の体系として把握できるよう、講義と演習や実験・実習を組み合わせることにより、学生を積極的に授業に参加させる。
To let students systematically grasp academic concepts based on one hundred minute classes. The students are encouraged to combine the lecture portion and experiments for the development of independent thinking and to actively participate in class.

2. 英語教育を重視し、CALL 教室や教材の充実を通して、多読・多聴の新しい試みにより、本科卒業時点で TOEIC400 点以上の獲得を目指す。
To put emphasis on English education. Through variety of materials such as utilization of the CALL lab and the new teaching method of extensive reading and listening,students aim to score 400 points on the TOEIC test upon graduating from the college.

3. 全科目において以下に示すいずれかの PBL の手法（通常の定義に対して、本校では三つに区分した）を導入し、学生が授業へ主体的に参加することで、問題解決力、自己学習力、コミュニケーション能力、表現・発表力、個人でもチームでも活躍できる能力、リーダーシップ力などの諸能力を身につけさせる。
To introduce one of the following three PBL methods in every subject for students to actively participate in class.Through this method students will develop problem-solving,self-learning,communication,presentation,individual or team-work,and leadership abilities.

| | |
|---|---|
| PBL 1 | 基礎知識の有機的理解、応用力の育成 |
| PBL 2 | 問題解決能力、幅広い統合化能力の育成 |
| PBL 3 | 創造力の育成 |

| | |
|---|---|
| PBL 1 | (process-based Learning):To foster the ability to link understanding of basic knowledge and to apply that ability to other concepts. |
| PBL 2 | (problem-based Learning):To foster problem-solving and integrating abilities in a wide capacity. |
| PBL 3 | (Project-based Learning):To foster creative ability. |

4. 企業見学、産業創造セミナー講師、インターンシップ等、産業界の協力を得て、教育・研究の両面で、産学連携を積極的に推進する。
To promote active business-academia collaboration both in education and research the college will have visiting instructors from various industries for the Industry Creation Seminar course and students will take field trips and complete internships at those various industries.

### 教育の特色　Features

1. 授業時間は 100 分を基本とし、知識を学問の体系として把握できるよう、講義と演習や実験・実習を組み合わせることにより、学生を積極的に授業に参加させる。
To let students systematically grasp academic concepts based on one hundred minute classes. The students are encouraged to combine the lecture portion and experiments for the development of independent thinking and to actively participate in class.

2. 英語教育を重視し、CALL 教室や教材の充実を通して、多読・多聴の新しい試みにより、本科卒業時点で TOEIC400 点以上の獲得を目指す。
To put emphasis on English education. Through variety of materials such as utilization of the CALL lab and the new teaching method of extensive reading and listening,students aim to score 400 points on the TOEIC test upon graduating from the college.

3. 全科目において以下に示すいずれかの PBL の手法（通常の定義に対して、本校では三つに区分した）を導入し、学生が授業へ主体的に参加することで、問題解決力、自己学習力、コミュニケーション能力、表現・発表力、個人でもチームでも活躍できる能力、リーダーシップ力などの諸能力を身につけさせる。
To introduce one of the following three PBL methods in every subject for students to actively participate in class.Through this method students will develop problem-solving,self-learning,communication,presentation,individual or team-work,and leadership abilities.

（出典　学校要覧　P. 5）

資料７－１－④－２

To: [redacted]
Cc: [redacted]
Subject: 7月24日(土)に希望者対象TOEICIPテストを実施

学生のみなさん
CC: 教職員のみなさん

英語担当の新川です。希望者対象TOEIC IPテスト実施の連絡です。

期日　7月24日(土)午前中3時間程度
場所　本校(希望者の数により、受験教室を確定します。)
申込　後日連絡します。

テスト実施日まで3ヶ月余りあります。編入試験や就職試験あるいは
自分の英語力を確かめるために、目標を立てて取り組んでみませんか。
多くの学生のみなさんが受験することを期待します。

**********
新 川 智 清 (ARAKAWA Tomokiyo)

沖縄工業高等専門学校
総合科学科(英語)

〒905-2192
沖縄県名護市字辺野古905
Tel [redacted]
Fax [redacted]
ema [redacted]
http://www.okinawa-ct.ac.jp/

To: [redacted]
Subject: Fwd: 7月24日（土）に希望者対象TOEICIPテストを実施

学生のみなさん、教職員のみなさん

英語担当の新川です。4/20付けで以下のメールを送信しました。
受験申込日の連絡です。

6/21(月)～6/24(木)

7/24(土)の受験日まで2か月と2週間です。対策の時間は十分あります。
計画的な勉強の継続を！

※ 次に挙げる3名の学生のTOEICの点数の伸びを参考にしてください。

左の数字は、4年次のIPテスト（去年12/17実施）、
右の数字は公開テスト（今年3/14実施）の点数です。

5年ic 270 ⇒ 440
5年ic 255 ⇒ 550
5年ms 360 ⇒ 615

4ヶ月の間で飛躍的に点数を伸ばした理由を尋ねたところ、学校の授業
以外に特別に何かをやったわけではなく、「英語に対する意識の高揚」と
「受験時の集中力」の結果だと2人の学生が話してくれました。

申込が近づいたら、再度連絡します。

==========
Tomokiyo Arakawa さんのコメントを転送します:
学生のみなさん
CC: 教職員のみなさん

英語担当の新川です。希望者対象TOEIC IPテスト実施の連絡です。

期日　7月24日（土）午前中3時間程度
場所　本校（希望者の数により、受験教室を確定します。）
申込　後日連絡します。

テスト実施日まで3ヶ月余りあります。編入試験や就職試験あるいは
自分の英語力を確かめるために、目標を立てて取り組んでみませんか。
多くの学生のみなさんが受験することを期待します。

**********
新川 智清 (ARAKAWA Tomokiyo)

沖縄工業高等専門学校
総合科学科（英語）

〒905-2192
沖縄県名護市字辺野古905
Tel [redacted]
Fax [redacted]
ema [redacted]
http://www.okinawa-ct.ac.jp/

（出典　学生通知メール）

資料７－１－④－３

学生各位
（Cc:教職員各位）

こんにちは、教務係 射手矢です。

「危険物取扱者試験」を実施している、（財）消防試験研究センターから
「臨時特定試験」について、実施希望のアンケートがきています。

この試験は、ある程度（30～40名）の人数が受験する場合、
本校で「危険物取扱者試験」を実施できるというものです。

つきましては、受験を希望する方がいましたら、５月２８日（水）までに
学生課教務係まで来てください。

なお、本アンケートで希望しても、人数が少ない等の理由で
実施されない場合がありますので、ご了承ください。

１．実施時期：７月（詳細は未定。土、日、休日に実施。）
２．試験会場：本校

【参考】通常の試験の場合
１．実施時期：　５月２５日（日）※実施済み
　　１１月　２日（日）
　　２月　１日（日）
２．試験会場：北部農林高等学校
　　沖縄国際大学
　　南部農林高等学校
　　宮古工業高等学校
　　八重山農林高等学校

※「危険物取扱者試験」については、（財）消防試験研究センターのHP等を
参考にしてください。

**********
沖縄工業高等専門学校　学生課教務係
射手矢　涼子
905-2192 沖縄県名護市辺野古905
TEL:[redacted]
Email[redacted]

To:[redacted]
Cc:[redacted]
gky[redacted]
Subject: H22年度春・情報処理技術者試験の受験を希望する学生へ

情報処理技術者試験の受験を希望する学生のみなさん

情報通信の神里です。

4月18日（日）に情報処理技術者試験が実施されます。
是非、この機会に受験することをすすめます。
（受験のメリットは本メールの最後に見てください）

沖縄高専は情報処理技術者試験に団体受験します。
団体受験を申し込んだ人は試験会場の那覇市内まで、バスで送迎します。

受験を希望する学生は下記を良く読んで手続きを行ってください。

【バスの送迎希望確認】

バスを借りるために人数確認が必要です。
試験会場までバスでの送迎を希望する学生は下記の質問にメールで回答してくださ
い。
回答先：情報通信システム工学科 神里[redacted]
>）
回答期限：2月5日（金）

---
＜バスでの送迎希望＞
希望しない・往復希望・行きのみ希望・帰りのみ希望

＜通学区分＞
通学生・寮生・4月以降は未定
---

【願書登録】期限：2月5日（金）

(1)下記URLにアクセスしてください。
http://www.jitec.jp/ap_net_dan_gansyo_h22h.html

(2)注意事項を良く読んで、ページ一番下の「同意する」をクリック

(3)「団体ID」と「団体確認用キー」を入力して。「ログイン」をクリック
　〈団体ID〉[redacted]
　〈団体確認用キー〉[redacted]

(4)試験区分を入力して、「次へ」をクリック

(5)受験地、個人情報、アンケートを入力
　・寮生は寮の住所を入れてください
寮生の住所：〒905-2171 沖縄県名護市辺野古906
・メールアドレスは学校のメールにしてください（ケイタイのメールにしないこと）
・応募確認キーは各自で決めて入力してください
・アンケートの在学中の学校は高専を選択してください
(6)団体担当者用チェック欄のチェック1に学籍番号[redacted]を入力
・「mi」「ic」「ms」「br」は入れないこと
・チェック2、3－5は記入しないでください

(7)「次へ」をクリック

(8)内容を確認して、「申込み」をクリック

(9)終わり。確認のメールが届きます。

【受験料の支払い】
受験料 ： 5,100円（税込み）
支払期限 ：2月8日（月）
支払い方法：
情報通信の神里まで現金で持ってきてください。

※支払期限までに受験料を支払わない人は受験申し込みが無効となります。

【分からないことや困ったことがあったら】
願書登録の方法が分からない、どの試験を受けたらよいのか分からない等の
困ったことがあったら、
情報通信の神里、メディア情報工学科の正木先生，タンスリヤボン先生が対応します。

---最後に、試験のメリットを示します。----------
{
受験のメリット：
http://www.jitec.ipa.go.jp/1_08gaiyou/_index_gaiyou.html

上記のURLから一部抜粋：
・進学に有利
情報処理技術者試験の合格者に対して、入試優遇制度を実施している学校・大学が
258 校、単位認定制度を実施している学校・大学が 77 校ある。

・就職に有利
合格者には一時金・資格手当などといった報奨金制度を設ける企業や、就職の際に試
験合格を考慮する企業など、多くの企業から高い評価を受けています。
日経ソリューションビジネスが2007年10月に実施したアンケート調査（2008年版「い
る資格、いらない資格」）では、技術職に取らせたい資格の上位10位中9つを、営業
職に取らせたい資格の上位12位中7つを、情報処理技術者試験が占めました。（参考
リンク：株式会社日経BP IT Pro のサイトの記事「いる資格、いらない資格」）
}

---
沖縄工業高等専門学校　情報通信システム工学科
神里　志穂子
E-mail:[redacted]

（出典　学生通知メール）

資料７－１－④－４

# 資格取得支援

- 情報処理技術者試験の資格取得を支援
- 学校を通した団体申し込み
- 後援会の支援による受験会場（那覇）まで、バスで送迎

平成20年度　情報処理技術者試験受験実績

| | 受験者数 | 合格者数 |
|---|---|---|
| 初級シスアド | 53 | 13 |
| 基本情報 | 72 | 15 |
| ソフトウェア開発 | 13 | 4 |
| 情報セキュアド | 4 | 1 |
| エンベデッド | 1 | 1 |
| ネットワーク | 1 | 0 |

スライド２２：資格取得支援（１）

（出典　平成 21 年度参与の会報告書　P. 20）

資料７－１－④－５

（留学）
**第３７条**　校長は、教育上有益と認めるときは、学生が外国の高等学校又は大学に留学することを許可することができる。
２　校長は、前項の規定により留学することを許可された学生について、外国の高等学校又は大学における履修を本校における履修とみなし、３０単位を超えない範囲で単位の修得を認定することができる。
３　校長は、前項の規定により単位の修得を認定された学生について、学年の途中においても、各学年の課程の修了又は卒業を認めることができる。
４　前３項に関し必要な事項は、別に定める。

（出典　沖縄工業高等専門学校学則　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，TOEICのIPテストを実施している。また，資格取得についての支援体制がとられ，さらに外国留学のための支援としては，単位の認定のための規則が制定されている。以上により，資格試験や検定試験のための支援体制が整備され，機能している。

**観点７－１－⑤：　特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば，留学生，編入学生，社会人学生，障害のある学生等が考えられる。）への学習支援体制が整備されているか。また，必要に応じて学習支援が行われているか。**

（観点に係る状況）

留学生に対しては，指導教員や留学生相談員（以下「チューター」という）による支援体制を整えている（資料７－１－⑤－１，資料７－１－⑤－２）。留学生に対する時間割を編成し，日本語能力の向上や専門科目の補習を目的とした学習支援が行われている（資料７－１－⑤－３）。

編入生に対しては本校における編入学年前の全教科目及び特別活動の単位は，出身高等学校等において修得したものとして編入学時に認定する体制（資料７－１－⑤－４），受入学科が当該編入学生に学修の必要があると認める科目等がある場合には，その学修計画を作成し，指導する体制を整えている（資料７－１－⑤－４）。

障害のある学生が入学したときには担任と学生相談室が連携して支援をするようにという指示（資料７－１－⑤－５，資料７－１－⑤－６，資料７－１－⑤－７）があり支援が行われている。

資料７－１－⑤－１

# 沖縄工業高等専門学校外国人留学生規程

平成２０年４月１６日
規　程　第　５　号
改正　平成２１年１１月４日
規　程　第　１２　号

（趣旨）
第１条　この規程は、沖縄工業高等専門学校学則（平成16年学則第1号。以下「学則」という。）第５０条第３項及び沖縄工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則（平成16年規則第22号。以下「規則」という。）第１４条の４第２項の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）に受入れる外国人留学生（以下「留学生」という。）の入学、課程の修了及び卒業の認定等に関し必要な事項を定めるものとする。

（入学及び入学の時期等）
第２条　留学生の入学については、留学生が入学を希望する学科の当該学年の在学生数その他の状況に応じて、校長が決定する。
２　留学生の受入学年については、当該留学生の母国等での修得科目等を勘案して、校長が決定するものとする。
３　留学生の入学の時期は、原則として学年の始めとする。
４　留学生の受入時にあたって受入学年前の本校における学年の科目については、すべて修得したものとみなす。

（検定料、入学料、授業料及び検定料）
第３条　留学生に係る検定料、入学料、授業料及び寄宿料の額及び徴収方法は、独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則（平成１６年国立高等専門学校機構規則第３５号）の定めるところによる。
２　国費外国人留学生制度実施要項（昭和２９年文部大臣裁定）に基づく国費外国人留学生については、検定料、入学料及び授業料を徴収しないものとする。

（認定会議）
第４条　留学生の学年の課程の修了及び卒業の認定は、課程の修了及び卒業に関する認定会議の議を経て校長がこれを行う。

（卒業に必要な単位数）
第５条　留学生の卒業の認定にあたっては、学則第３８条第２項に規定する学則別表第３に定める単位数を修得していること、かつ、当該受入学科が作成する開設計画又は学修計画に定める科目を履修していることを基準とする。
２　前項において、修得すべき単位数は、当該留学生の入学時に修得したものとみなした単位数を含めて、一般科目８０単位以上、専門科目８７単位以上の合計１６７単位以上とする。

（特別な理由がある場合）
第６条　留学生の卒業認定にあたって、校長が特別な理由があると認めた者については、前条の規定にかかわらず認定会議の審議を経た上で、校長がこれを総合的に判定する。

（指導教員）
第７条　留学生の修学並びに生活の指導及び助言にあたるため、留学生指導教員（以下「指導教員」という。）を置く。
２　指導教員は、当該学科長の推薦に基づき、校長が任命する。
３　指導教員の任期は、１年とする。ただし、再任を妨げない。
４　指導教員は、校長又はその他の者に対して、留学生に関する必要な事項について意見を述べることができるものとする。

（留学生相談員）
第８条　留学生の学習上の援助及び日常生活の助言を行うため、留学生相談員（以下「チューター」という。）を置く。
２　チューターは、学生の中から、当該学科長の推薦（別紙様式１）に基づき校長が委嘱する。
３　チューターの任期は、１年とする。ただし、再任を妨げない。
４　チューターは、適宜、留学生の相談に応ずるとともに、必要に応じて指導教員に連絡し、その指示を受けるものとする。
５　指導教員は、校長に対してチューターの相談状況（別紙様式２）を報告するものとする。

（事務処理）
第９条　留学生に関する事務は、学生課が行うものとする。

（雑則）
第１０条　この規程に定めるもののほか留学生に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附　則
この規程は、平成２０年４月１６日から施行し、平成２０年４月１日から適用する。

附　則
この規程は、平成２１年１１月４日から施行し、平成２１年１０月１日から適用する。

（出典　沖縄工業高等専門学校外国人留学生規程）

資料７－１－⑤－２

チューターについて

外国人留学生のチューターに任命された学生は、下記のことに注意して留学生へ指導を行って下さい。

１．チューターとは

□　高専や大学に在学する外国人留学生に対して、指導教員の指導のもとに、教育・研究について個別の課外活動を行い、留学生の学習・研究効果の向上を図ることを目的としています。

□　チューターの主な仕事は、学習・研究指導（予習・復習の手伝い等）を中心に、日本語指導、

50

日常の世話（学内外の案内、学寮での生活指導、買い物への付き添い等）を行うことになっています。

２．指導上の注意事項

□　担当の留学生とできるだけ多く会話をすることにより、留学生が本校の授業や学寮での生活に早く慣れるようにして下さい。特に本校へ入学したばかりの３年生には、学校や学寮での規則等をよく説明しておいて下さい。また、留学生は、日本人の学生と違い様々な拘束がありますので、分からない事があれば指導教員または学生課へ尋ねて下さい。（例えば、留学生は３年生は勿論のこと、４・５年生であっても無許可でアルバイトをすることは、法律でも禁止されています。）

□　留学生との間にトラブル等が発生した場合は、すぐに指導教員へ連絡して下さい。

□　チューターは、毎月の留学生への指導状況を報告する必要があります。報告は別添の「外国人留学生指導報告書」に記入し 、翌月５日までに学生係へ提出して下さい。報告書記入上の注意「内容」の欄は、できるだけ具体的に記入し、時間は１時間単位で記入して下さい。指導報告書には、留学生本人と指導教員の印を貰って来てください。

（出典　教員便覧　P.50-51）

資料７－１－⑤－３

①外国人留学生については、下記授業科目に対し特別カリキュラムを設定することができる。

国語Ⅱ（２単位、３年）　→　国語Ⅱ（２単位、３年）、または、日本語（２単位、３年）
　　注）デフォルトは日本語とする。

地理学概論（２単位、３年）　→　地理学概論（２単位、３年）、または、日本事情（２単位、３年）

文学概論Ⅰ（１単位、４年）→文学概論Ⅰ（１単位、４年）、または、日本語（１単位、４年）

地域文化論（１単位、４年）　→　地域文化論（１単位、４年）、または、日本事情（１単位、４年）

文学概論Ⅱ（１単位、５年）→文学概論Ⅱ（１単位、５年）、または、日本語（１単位、５年）

①　３年次は特に事情がなければ、デフォルトの科目をとらせることとする。
②　４，５年次にどちらをとるかは、科目担当教員と本人の希望によって決める。
③　日本語、日本事情は、学内に指導できる教員がいない場合は非常勤とする。
④　日本語、日本事情の開設時間や時期は弾力的に運用することとする（ただし時間数は確保する）。

（出典：教員便覧　P.49）

資料７－１－⑤－４

# 沖縄工業高等専門学校編入学生規程

［平成２０年４月１６日
規　程　第　６　号］
改正　平成２０年１２月１７日
規　程　第　１９　号

（趣旨）
第１条　この規程は、沖縄工業高等専門学校学則（平成１６年学則第１号。以下「学則」という。）第２６条及び沖縄工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則（平成16年規則第22号）第１４条の２第２項の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）に受入れる編入学生（以下「編入学生」という。）の入学、課程の修了及び卒業の認定等に関し必要な事項を定めるものとする。

（受入学年）
第２条　本校に編入学を希望する者があるときは、教育上支障がないと認められる場合において、選考の上、第３学年又は第４学年に限り、編入学を許可することがある。

（編入学資格）
第３条　本校に編入学することができる者は、次の各号の一に該当するものとする。
(1)　高等学校を卒業した者
(2)　中等教育学校を卒業した者
(3)　文部科学大臣の定めるところにより、前２号と同等以上の学力があると認められた者

（選考の方法）
第４条　校長は、編入学志願者について、学力検査の成績、面接評価及び出身学校長から送付された調査書その他必要な書類等に基づき編入学者の選考を行う。

（編入学の許可）
第５条　校長は、前条の選考によって合格した者に対して編入学を許可するものとする。

（既修得単位の認定）
第６条　編入学を許可された者の本校における編入学年前の全教科目及び特別活動の単位は、出身高等学校等において修得したものとして編入学時に認定する。

（編入学の時期）
第７条　編入学を許可された者は、次年度の学年の始めに編入学するものとする。

（学修計画）
第８条　受入学科が当該編入学生に学修の必要があると認める科目等がある場合には、その学修計画を作成し、指導するものとする。
２　前項に規定する学修計画は、当該編入学生の選考にあたって、学科長から校長に提出して承認を得るものとする。

（認定会議）
第９条　編入学生の学年の課程の修了及び卒業の認定は、課程の修了及び卒業に関する認定会議の議を経て校長がこれを行う。

（卒業に必要な単位数）
第１０条　編入学生の卒業の認定にあたっては、学則第３８条第２項に規定する学則別表第３に定める単位数を修得していることとする。

（特別な理由がある場合）
第１１条　編入学生の卒業の認定にあたって、校長が特別な理由があると認めた者については、

前条の規定にかかわらず認定会議の審議を経た上で、校長がこれを総合的に判定するものとする。

（雑則）

第１２条　この規程に定めるもののほか編入学生に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附　則

この規程は、平成２０年４月１６日から施行する。

附　則（平２０．１２．１７規程第１９号）

この規程は、平成２０年１２月１７日から施行する。



（出典　沖縄工業高等専門学校編入学生規程）

資料７－１－⑤－５

# 沖縄工業高等専門学校学生相談室規程

［平成１６年４月１日
規　程　第１６号］
改正　平成１９年３月３０日
規　程　第３号
平成２０年７月１６日
規　程　第１０号

（設置）
第１条　この規程は、沖縄工業高等専門学校学則（平成１６年学則第１号）第１１条の３第２項の規定に基づき沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）に置く学生相談室（以下「相談室」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（目的）
第２条　相談室は、本校学生の相談に応じ、問題解決に必要な助言及び指導を行うことを目的とする。

（業務）
第３条　相談室においては、次の各号に掲げる業務を行う。
(1) 学生の就学、その他個人的問題に関する助言及び指導
(2) 学生の精神衛生に関する助言及び指導
(3) 学生の健康に関する助言及び指導
(4) 相談活動に関する調査研究
(5) その他学生相談に関する必要な業務

（組織）
第４条　相談室に、次の各号に掲げる職員を置く。
(1) 相談室長
(2) 相談員
(3) 補助相談員

（相談室長）
第５条　相談室長は、本校の教授または准教授の中から校長が選任する。
２　相談室長の任期は２年とし、再任を妨げない。
３　前項の相談室長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（相談員）
第６条　相談員は、各学科、総合科学科から選出された専任教員各１名を校長が任命する。
２　相談員の任期は１年とし、再任を妨げない。
３　前項の相談員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
４　校長は、必要に応じて、本校職員以外の者を相談員として委嘱することができる。

（補助相談員）
第７条　補助相談員は、学生課所属の看護師をもって充てる。

（委員会の設置）
第８条　相談室の運営に関する事項を審議するため、本校に学生相談室運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（委員会の組織）
第９条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 相談室長
(2) 相談員
(3) 学生課長
(4) 看護師
２　委員会に委員長を置き、相談室長をもって充てる。
３　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した者がその職務を代行する。
４　委員長は、必要に応じて委員会を招集し、議長となる。

（委員以外の者の出席）
第１０条　委員長は、必要があると認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

（協議事項の報告）
第１１条　委員長は委員会で協議した事項を総括して、校長に報告する。

（秘密の保持）
第１２条　相談室職員は、業務上知り得た個人的な秘密を他に漏らしてはならない。

（事務）
第１３条　相談室及び委員会に関する事務は、学生課において処理する。

（雑則）
第１４条　この規程に定めるもののほか、相談室に関し必要な事項は校長が別に定める。

附　則
この規程は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則（平１９．３．３０規程第３号）
この規程は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則（平２０．７．１６規程第１０号）
この規程は、平成２０年７月１６日から施行する。

（出典　沖縄工業高等専門学校学生相談室規程）

資料７－１－⑤－６

平成２２年度　学生相談室運営委員会委員（９人）

| 所　属 | 職　名 | 氏　名 | 任　期 | 内線番号 | 区分 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| メディア | 准教授 | 西村　篤 | 22.4～23.3 | [redacted] | | 委員長 |
| 機　械 | 准教授 | 比嘉　吉一 | 22.4～23.3 | | | |
| 情報通信 | 教　授 | 石田　修己 | 22.4～23.3 | | | |
| メディア | 准教授 | ﾀﾝｽﾘﾔﾎﾞﾝ・ｽﾘﾖﾝ | 22.4～23.3 | | | |
| 生物資源 | 助　教 | 磯村　尚子 | 22.4～23.3 | | | |
| 総合科学 | 准教授 | 澤井　万七美 | 22.4～23.3 | | | |
| 事務部 | 学生課長 | 南部　元義 | 22.4～23.3 | | | |
| 事務部 | 看護師 | 武村　クニ子 | 22.4～23.3 | | | |
| 総合科学 | 教　授 | 小池　寿俊 | 22.4～23.3 | | | |

（出典　学生相談室資料）

資料７－１－⑤－７

資料5−2

平成22年4月21日

沖縄工業高等専門学校
教職員各位

校長　伊東　繁

特別支援への理解と協力のお願い

平成22年度入学生に発達障害を持った学生が居ります。この学生については、平成22年度入試の出願段階より支援に関する相談を受けていた旨の報告を受けています。

本校としては、この学生の修学と卒業後の自立に向けて、出来る限り本質的かつ具体的な支援をすることとします。

校長としては、本校に特別支援に関する既存の制度がないことから、学生相談室長に、本件への対応のための学内調整、ならびに特別支援の制度化の推進を指示しました。

今後、学生相談室を通じて特別支援に関する個別の依頼がありましたら、各位のご理解と積極的なご協力を願います。

なお、個別の依頼を受けた際に知り得た学生の個人情報（誰がどのような障害を持っているかなどを含め）については、学生や学外の者への漏えいがないように十分ご注意願います。教職員間の情報共有は必要に応じて行い、迅速かつ適切な対応を心掛けて下さい。

本件に関する、意見・質問等があれば、学生相談室長（西村准教授）までお尋ね下さい。

以上

# 沖縄高専における特別支援ビジョンと具体案

平成22年4月28日

教員会議資料

学生相談室長・西村篤

資料5－1

1

## ビジョン（１）支援の目的

- 障害学生の自立
  - 「自立のために最も必要な能力は、自分の障害の状態や、何が出来て何が出来ないかを、周りの人にわかりやすく説明できる能力」
- 障害学生との共学が周りの学生を育てる
  - 経費適用の根拠にもなる
- 障害学生への対応が組織全体のスキルアップに繋がる

2010/4/28　沖縄工業高等専門学校・学生相談室　2

## ビジョン（２）基本理念

- ノーマライゼーション社会の実現に向けて
  - 健常者中心に設計された既存の制度の問題点に目を向ける必要
- 修学のための本質的かつ具体的な支援を
  - 一般的なバリアフリー化ではなく、具体的ニーズに対応するための重点的な整備が大切

2

2010/4/28　沖縄工業高等専門学校・学生相談室　3

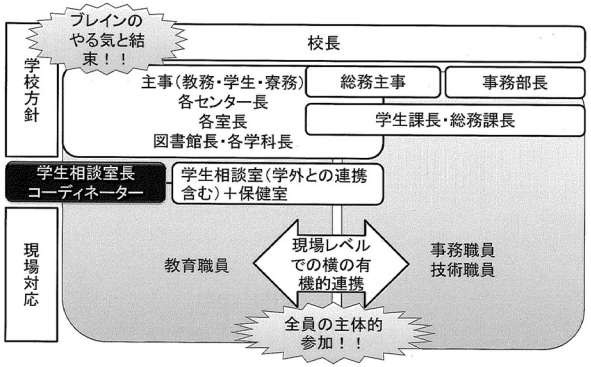
## ビジョン（３）支援の実際

- 支援は全学体制で！
- 窓口は一元化！
- 障害学生の主体的関わりを重視
- 学校の個性を生かした支援体制
  - 「他校の模倣ではなく、目の前の学生と話あい、知恵を出し合って、他の学生と同じように修学できるよう支援する。」

3

2010/4/28　沖縄工業高等専門学校・学生相談室　4

## 学内制度の整備（2）組織






## 本校ではまず何が必要か？
## 制度化の22年度重点課題

- 学生相談室を特別支援のコアに
  - 窓口の一元化
  - 相談室長がコーディネーター
- 支援申し込み手続きの規則化
  - 学生からの支援申し込みの手続き
  - 支援決定後の依頼手続き
- 並行してスタッフの意識と技術の向上を急ぐ
  - 「気になる学生」事例収集＞教員の気づき力向上
  - 専門家を招いて研修会

まずは
入口から

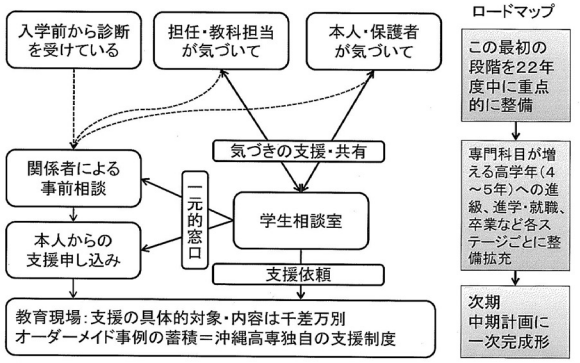


## 現時点での具体的ニーズと取り組み

- 特別支援対象学生（平成22年度入学生）
- 本人・教員の気づきの段階
  - 発達障害の可能性がある学生（少なくない）
  - 身体障害・疾病
- 他にも？「気になる学生」事例収集
  - 目的＝教員の気づきの力の向上
  - 何か問題を抱えているかも？支援すればうまくいくかも？という気持ちを持って学生に接することが大切。
  - 活用案1：典型的な事例について専門家の意見を聞く、教員同士の意見交換、など。
  - 活用案2：個別的・緊急的な事例は相談室がフォロー
- 学内研修会等の充実



## 学内制度の整備（1）支援の流れ



## 参考文献

1. 鳥山由子（著）「高等教育における障害学習支援の基本的な考え方」（日本学生支援機構『教職員のための障害学生修学支援ガイド』p.4-8）

8



（出典　運営企画会議資料　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

留学生に対しては，指導教員やチューターによる支援体制を作り，留学生に対する時間割を編成して，日本語能力の向上などに向けて，学習支援が行われている。また，障害のある学生に対しては学生相談室を中心とした支援体制が整備されている。

以上により，特別な支援を行うことが必要と考えられる者への学習支援体制が整備され，必要に応じて学習支援が行われている。

**観点７－１－⑥：　学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され，機能しているか。**

（観点に係る状況）

クラブ活動等の課外活動に対する支援としては，教員による人的支援，後援会による資金面での支援，活動場所などの支援体制を整えている。

教員による人的支援としては,クラブ顧問を担当する教員が配置され支援体制が整備されており(資料７－１－⑥－１），実際に機能している。資金面における支援としては，後援会による補助の体制が整備され機能している（資料７－１－⑥－２）。施設面の支援としては，部室が提供され（資料７－１－⑥－３），支援体制が整備されると共に，部室の利用状況から見て良く機能している。健康面の対応としてAEDの配備も整えている（資料７－１－⑥－４）。

全国高等専門学校ロボットコンテスト，プログラミングコンテストに対しても顧問教員の配置，資金面での支援，活動場所の提供等支援体制をとっている（資料７－１－⑥－５）。

資料７－１－⑥－１

平成22年度顧問配置

| | 団体名 | 区分 | 局 | H22顧問 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ハンドボール部 | 部 | 体育局 | 三枝 | 三宮 | | |
| 2 | 弓道部 | 部 | 体育局 | 兼城 | 眞喜志隆 | | |
| 3 | 水泳部 | 部 | 体育局 | 知念 | 澤井 | 杉本 | 大石 |
| 4 | 男子バレー部 | 部 | 体育局 | 下郡 | 山城光 | | |
| 5 | ダンス部 | 部 | 体育局 | 武田 | | | |
| 6 | 女子バスケ部 | 部 | 体育局 | 金城 | 神里 | | |
| 7 | 硬式テニス部(男女) | 部 | 体育局 | 下嶋 | 野口 | 鈴木 | 玉城龍洋 |
| 8 | 男子バスケ部 | 部 | 体育局 | 鳥羽 | 伊波 | 比嘉勝也 | 山城秀 |
| 9 | サッカー部 | 部 | 体育局 | バイティガ | 眞喜志治 | | |
| 10 | 陸上競技部 | 部 | 体育局 | 磯村 | 濱田 | | |
| 11 | 硬式野球部 | 部 | 体育局 | 比嘉吉一 | 山田 | 池松 | 飯田 |
| 12 | 卓球部 | 部 | 体育局 | 玉城康智 | 成田 | 田邊 | |
| 13 | バドミントン部 | 部 | 体育局 | 工藤 | 政木 | 木村 | 宮田 |
| 14 | ソフトテニス同好会 | 同好会 | 体育局 | 平良 | | | |
| 15 | 剣道同好会 | 同好会 | 体育局 | 滝 | 伊東 | | |
| 16 | アメフト同好会 | 同好会 | 体育局 | 小池 | | | |
| 17 | フットサル同好会 | 同好会 | 体育局 | ジョンソン | | | |
| 18 | 文芸部 | 部 | 文化局 | 網谷 | | | |
| 19 | デジタルアート部 | 部 | 文化局 | スリヨン | | | |
| 20 | 総合美術部 | 部 | 文化局 | 青木 | | | |
| 21 | 軽音楽部 | 部 | 文化局 | 山本 | | | |
| 22 | 吹奏楽部 | 部 | 文化局 | 西村 | | | |
| 23 | 航空宇宙同好会 | 同好会 | 文化局 | 古屋 | | | |
| 24 | 映画研究同好会 | 同好会 | 文化局 | 名嘉山 | | | |
| 25 | サイエンスサークル | 同好会 | 文化局 | 平山 | | | |
| 26 | ロボット制作委員会 | 委員会 | | 武村 | 姉崎 | | |
| 27 | ICT委員会 | 委員会 | | 正木 | 佐藤 | | |
| 28 | 自転車同好会 | 同好会 | 体育局 | 宮城 | | | |

（出典　学生課資料）

資料７－１－⑥－２

H22レンタカー等利用について（実施額）

| 部 | 車種 | レンタカー代 | ガソリン代 | 高速代 | 利用日 |
|---|---|---|---|---|---|
| バドミントン① | エスティマ | ¥0 | ¥0 | ¥0 | 5/29（土）、5/30（日） |
| バドミントン② | セレナ | ¥0 | ¥0 | ¥0 | 5/29（土）、5/30（日） |
| 剣道 | 後援会車 | ¥0 | ¥0 | ¥0 | 5/29（土）、5/30（日） |
| 硬式テニス | スクールバス | ¥0 | ¥0 | ¥0 | 5/29（土）、5/30（日） |
| 卓球① | レンタカー（アイシス） | ¥16,800 | ¥4,022 | ¥2,600 | 5/29（土）、5/30（日） |
| 卓球② | レンタカー（アイシス） | ¥16,800 | ¥3,617 | ¥2,800 | 5/29（土）、5/30（日） |
| バスケット（男） | レンタカー（アイシス） | ¥16,800 | ¥3,102 | ¥1,800 | 5/29（土）、5/30（日） |
| バスケット（女） | レンタカー（アイシス） | ¥8,400 | ¥2,213 | ¥1,450 | 5/29（土） |
| サッカー、ハンドボール | レンタルバス（大型） | ¥58,000 | ¥0 | ¥4,400 | 5/29（土 |
| サッカー | レンタルバス（大型） | ¥58,000 | ¥0 | ¥2,300 | 5/30（日） |
| 陸上競技 | セレナ | ¥0 | ¥0 | ¥0 | 5/31（月）・6/1（火） |
| バドミントン | 後援会車 | ¥0 | ¥0 | ¥0 | 5/31（月） |
| バドミントン | エスティマ | ¥0 | ¥0 | ¥0 | 6/1（火）・6/2（水） |
| 硬式テニス | エスティマ | ¥0 | ¥0 | ¥0 | 5/31（月） |
| 硬式テニス | 後援会車 | ¥0 | ¥0 | ¥0 | 6/1（火）・6/2（水） |
| | | ¥174,800 | ¥12,954 | ¥15,350 | |

| 合計金額 | ¥203,104 |
|---|---|

H21九州沖縄地区高専体育大会旅費後援会支出総額

| | 学生旅費補助 | 教員旅費 | 総額 |
|---|---|---|---|
| バドミントン部（男女） | 132,224 | 95,840 | 228,064 |
| ハンドボール部 | 231,392 | 95,840 | 327,232 |
| 男子バスケットボール部 | 214,864 | 95,840 | 310,704 |
| 女子バスケットボール部 | 181,808 | 47,920 | 229,728 |
| 硬式野球部 | 466,820 | 238,950 | 705,770 |
| 卓球部（男女） | 231,392 | 95,840 | 327,232 |
| 男子バレーボール部 | 165,280 | 95,840 | 261,120 |
| 剣道同好会 | 53,520 | 49,000 | 102,520 |
| テニス部（男女） | 198,000 | 112,400 | 310,400 |
| 陸上同好会（男女） | 295,800 | 104,400 | 400,200 |
| 計 | 2,171,100 | 1,031,870 | 3,202,970 |

2009.09.08 学生係作成

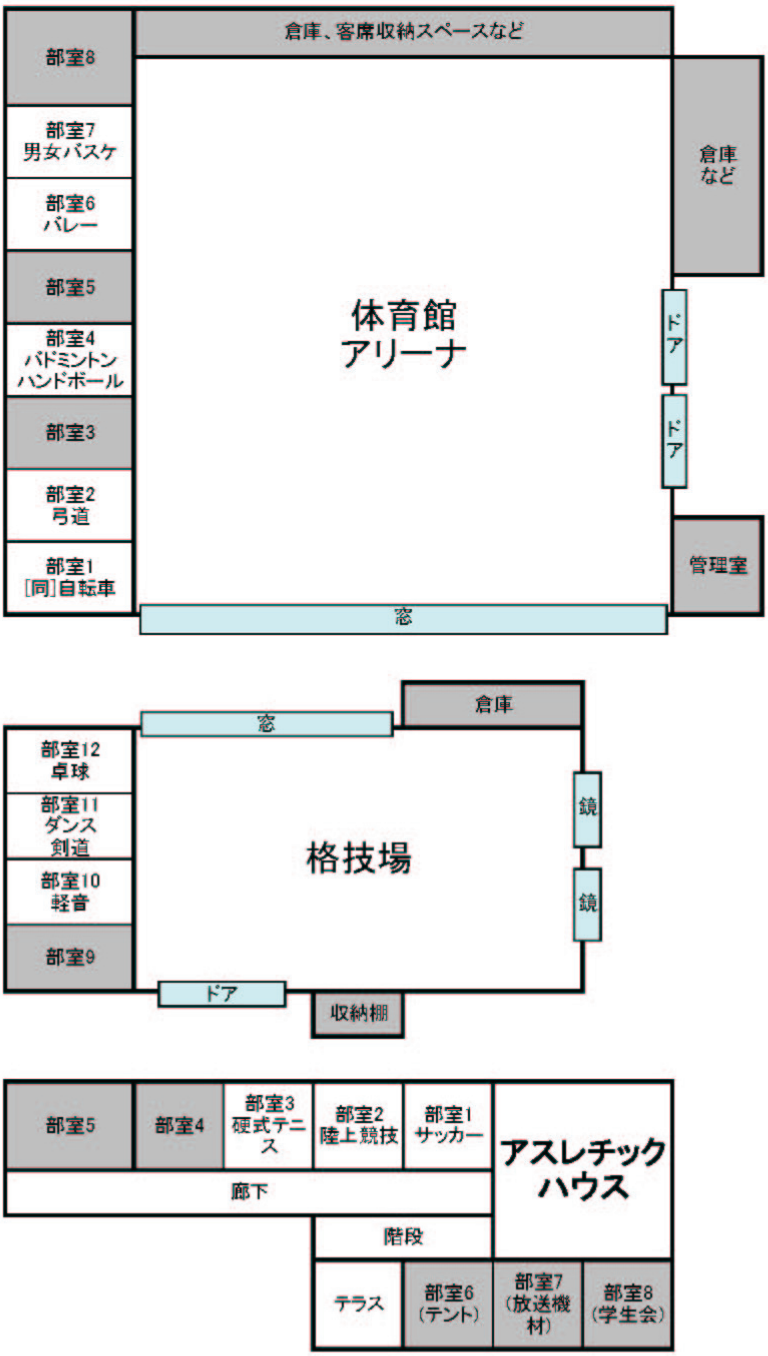
## 平成21年度全国高専体育大会派遣旅費等後援会支出総額

| | 学生旅費補助 | 引率教職員旅費 | 旅費振込手数料 | 引率教員キャンセル料 | 総額 |
|---|---|---|---|---|---|
| 卓球部 | 24,860 | 73,130 (日当込み) | | | 97,990 |
| 陸上同好会 | 30,180 | 90,830 (日当込み) | 630 | 840 | 122,480 |
| 合計 | 55,040 | 163,960 (日当込み) | 630 | 840 | **220,470** |

※卓球部については，旅費の支払いで銀行振込がないため，振込手数料が発生しませんでした。

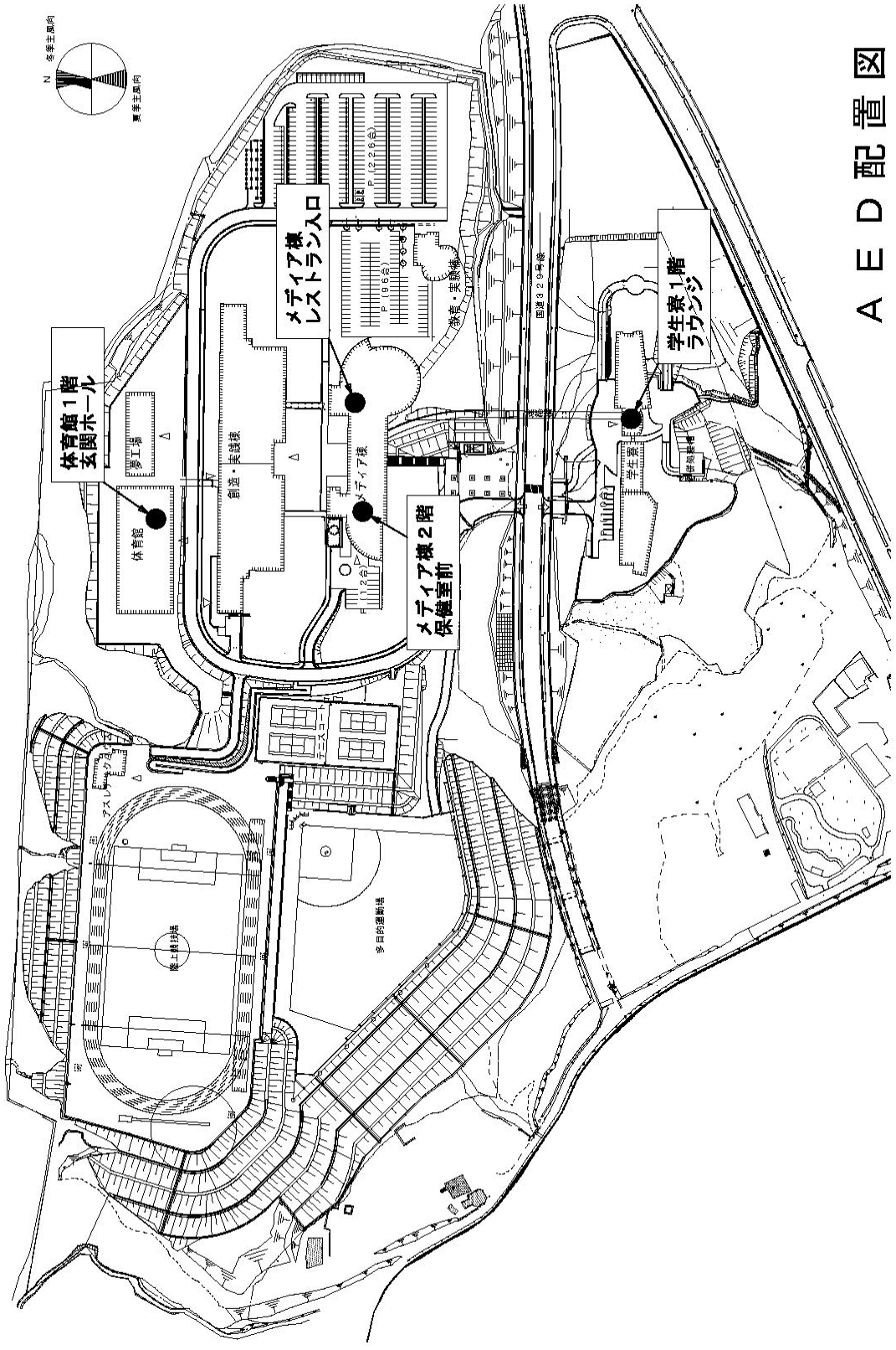
（出典　学生課資料）

資料７－１－⑥－３




（出典　学生会資料）

資料７－１－⑥－４




（出典　総務課資料）

資料７－１－⑥－５

平成21年11月24日（学生係作成）

# ロボコン2009全国大会派遣旅費後援会支出総額

| | 後援会予算より支出 | | | 寄付金より支出 | 後援会予算・寄付金 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 旅費 | 振込手数料 | 総額 | 旅費 | 総額 |
| 学生（選手団） | 164,480 | 840 | 165,320 | 164,480 | 329,800 |
| 学生（応援団） | 0 | 0 | 0 | 249,312 | 249,312 |
| 引率（武村史朗） | 77,260 | 0 | 77,260 (日当込み) | 0 | 77,260 |
| 引率（姉崎隆） | 59,210 | 0 | 59,210 (日当込み) | 0 | 59,210 |
| 引率（饒平名知真） | 0 | 0 | 0 | 58,350 (日当込み) | 58,350 |
| 合計 | 300,950 | 840 | **301,790** | **472,142** | **773,932** |

※選手団については，宿泊費の支払いが銀行振込となるため、振込手数料が発生します。

平成21年11月13日（学生係作成）

## プログラミングコンテスト派遣旅費計算書

### ●学生旅費

| 団体名 | 人数 | 日程 | 泊数 | 旅費 | | | 合計（全員） | 後援会補助額（4割） | | | 合計（全員） | 学生負担額（6割） | | | 合計（全員） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 宿泊費 | 交通費 | 合計 | | 宿泊費 | 交通費 | 合計 | | 宿泊費 | 交通費 | 合計 | |
| 学生 | 10 | 10/16(金)～10/19(月) | 3泊 | 21,590 | 33,190 | 54,780 | 547,800 | 8,636 | 13,276 | 21,912 | 219,120 | 12,954 | 19,914 | 32,868 | 328,680 |
| | | | | | | | | | | | **219,120** …① | | | | **328,680** |

### ●引率教員旅費

| 氏名 | 人数 | 日程 | 泊数 | 旅費（後援会補助額） | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 宿泊費 | 交通費 | 日当 | |
| 正木忠勝 | 1 | 10/16(金)～10/19(月) | 3泊 | 21,590 | 34,350 | 4,400 | 60,340 |
| 金城伊智子 | 1 | 10/16(金)～10/19(月) | 3泊 | 23,740 | 33,190 | 4,400 | 61,330 |
| | | | | | | | **121,670** …② |

| 後援会補助額合計（①+②） | 340,790 |
|---|---|

平成21年12月4日（学生係作成）

## パソコン甲子園派遣旅費計算書

### ●学生旅費

| 団体名 | 人数 | 日程 | 泊数 | 旅費（1人あたり） | | | | 合計（全員） | 後援会補助額（4割） | 合計（全員） | 学生負担額（6割） | 合計（全員） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 交通費 | 宿泊費 | 主催者補助 | 合計 | | 1人当たり旅費 | | 1人当たり旅費 | |
| 学生 | 2 | 11/13(金)～11/16(月) | 3泊 | 45,000 | 0 | -45,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | | | | | | **0** …① | | **0** |

※交通費として主催者より1人45，000円の旅費補助あり。
※宿泊費は主催者が負担。

### ●引率教員旅費

| 氏名 | 人数 | 日程 | 泊数 | 旅費（後援会補助額） | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 交通費 | 宿泊費 | 主催者補助 | 日当 | |
| タンスリヤポンスリヨン | 1 | 11/13(金)～11/16(月) | 3泊 | 49,110 | 0 | -46,980 | 4,400 | 6,530 |
| | | | | | | | | **6,530** …② |

※交通費として主催者より46，980円の旅費補助あり。
※宿泊費は主催者が負担。

| 後援会補助額合計（①+②） | 6,530 |
|---|---|

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

クラブ顧問を担当する教員が配置され人的支援体制が整備され，機能している。資金面における支援としては，後援会による補助の体制が整備され機能している。また，部室が用意され良く利用されている。

以上により，学生のクラブ活動等の課外活動に対する支援体制が整備され，機能している。

**観点７－２－①：　学生の生活や経済面に係る指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。**

（観点に係る状況）

学生の生活や経済面に係る指導・相談・助言を行う体制については「学生生活の手引き」に記載（資料７－２－①－１）されている。学生の指導は，学級担任（１・２年生）および学科担任（３～５年生）がこれに当たり学生主事が統括している（資料７－２－①－２）。担任・学級指導教員による生活指導は，必要に応じて保護者とも緊密に連携をとり，きめ細かく行っている。

精神面での相談・助言をする体制として学生相談室が設置されている。学生からの相談は相談員が受けるほか，嘱託のカウンセラーが定期的に来校し対応している（資料７－２－①－３，資料７－２－①－４）。また，「学生相談室利用案内」が学生に配布され周知されている（資料７－２－①－５）。資料７－２－①－６から，学生相談室は有効に機能している。さらに，各教員は学生からの質問，相談に対応するためにオフィスアワーを設定し，全教員が学生の相談を受ける体制を整えている（資料７－２－①－７，資料７－２－①－８）。

健康面での相談・助言をする体制としては，保健室を整備し，常時看護師２名が健康に関する相談にあたっている（資料７－２－①－９）。

キャンパスハラスメントに関しては防止及び対策等に関するガイドラインと相談・苦情処理体制が整備されている（資料７－２－①－10，資料７－２－①－11）。特にセクシャルハラスメントに関しては「学生生活の手引き」に掲載され，学生に周知されている（資料７－２－①－12）。

経済面の支援としては，学生への奨学金に関する情報の提供や説明（資料７－２－①－13，資料７－２－①－14，資料７－２－①－15，資料７－２－①－16）と授業料免除の体制（資料７－２－①－17）が整備され，「学生生活の手引き」に記載されている（資料７－２－①－18）。また，毎年の申請時期に授業料免除説明会を開催することで学生に周知している（資料７－２－①－19）。その結果，奨学金及び授業料免除の利用実績が高く，学生は有効に支援を利用していることが過去のデータからも分かる（資料７－２－①－20）。

就職等に係る指導・相談・助言を行う体制として進路委員会が設置されており，就職紹介などの体制が規則（資料７－２－①－21）に定められている。学生には定期的に就職情報を学内メールで提供する（資料７－２－①－22）など，実際に機能し高い実績をあげている。その他，就職に関する情報は，学内共有ファイルサーバを活用して提供している。進学に関しては本校図書館で大学等の進路情報が常に公開されている。

資料７－２－①－１

# Ⅶ　学生生活に関すること

## １　学校行事

高等専門学校は「専門の学芸」を深く学び，「職業に必要な能力」を修得する高等教育機関です。そして同時に学生の皆さんが「全人格的に発達する」生活空間としての役目も担っています。そのために，沖縄高専では，日々の学習の他に学校行事が多く実施され，心身ともに健康な発達ができるように工夫されています。高専祭（中学校の文化祭に相当）を始めとする校内行事の多くは学習活動の一環であり「特別活動」に含まれるものとして出席の確認もしています。日常の授業と同等の大切な学習活動ですから，各行事の趣旨をよく理解して積極的に参加してください。

また，それぞれの学校行事は，学生全員が参加するもの，ある特定の学年だけが参加するもの，ある学科だけで行われるものなどに分かれています。詳しくは学校行事が近づくと担任から連絡があります。

## ２　掲示板・連絡方法

学生への連絡は，原則として**掲示板，電子メールもしくは「沖縄高専ポータルサイト」**（http://portal.okinawa-ct.ac.jp/）によって行います。大事なことは必ず掲示しますので，うっかり見落として後に支障をきたすことのないよう，毎日確認する習慣をつけてください。特に緊急を要する連絡事項等は電子メールで通知することがありますので，注意してください。

掲示板は，**創造・実践棟１階及び２階講義室の横**に設置されています。１階の掲示板は，教職員から学生への連絡として使用し，２階の掲示板は，基本的には学生からの連絡用としますが，教職員からの連絡用として使用する場合もありますので注意してください。必要に応じてホームルームに掲示することもあります。掲示板で確認してもわからないことは直接担当窓口で尋ねてください。

また，本校では電話での学生個人の呼び出しは緊急時以外応じられません。保護者にもそのように説明しておいてください。

## ３　保健室

メディア棟２階にあり，以下の項目に関する業務を行っています。

・通学途中や校内におけるけがや病気の応急処置
・定期健康診断
・健康診断証明書の発行（進学，就職，スポーツ大会の参加）
・環境安全衛生検査（飲料水，プール，空気，照度等）
・健康相談，学生相談窓口
・日本スポーツ振興センター災害共済給付請求手続き
・その他

## ４　学生相談室

学生相談室は，一人一人が充実した学生生活を送れるようにサポートしていくところです。場所はメディア棟２階の保健室の隣で，そこから入ることができます。メンバーは各学科の相談員の先生方，保健室の看護師さん，臨床心理士の資格をもつ非常勤のカウンセラーの先生方（２名）です。困ったことがありましたら，気軽に話に来てください。

誰かに相談や話をするだけで，悩みが解消したり気持ちが楽になったりするものです。話の内容は，

・勉強がよく分からない
・なんとなくやる気がでない
・将来が不安，進路に迷っている
・最近体調がすぐれない
・好きな人ができて気になる
・家族や友達とうまくいかない
・友達のことが心配
・無性におしゃべりがしたい

など，なんでもかまいません。

相談員やカウンセラーの先生方の情報や来校予定日は，保健室前に掲示してあります。カウンセラーの先生に話を聞いてもらいたい人は，保健室の看護師さんに声をかけてみてください。

## ５　オフィスアワーについて

**オフィスアワー**とは，各教員が学生のために確保する時間帯のことで，学習はもちろん生活に関する事などの相談に応じます。この制度を積極的に利用して教員とコミュニケーションを図り，学生が大きく成長することを願っています。

オフィスアワーの時間帯は各教員によって異なりますので，教員研究室入り口や掲示板などで，オフィスアワーの時間帯を確認してください。もちろん，オフィスアワーの時間帯以外でも相談に訪れても構いません。

## ６　独立行政法人日本スポーツ振興センター「災害共済給付制度」について

学校管理下において学生が災害（負傷，疾病，障害又は死亡）にあった場合，その医療費や見舞金の給付を行う制度です。本校では実験・実習が多くあるため，全学生が加入することとしています。災害に遭い，医療機関を受診した場合は，保健室までお問い合わせください。※　学校管理下とは

①　授業中（特別活動中を含む）
②　学校の教育計画に基づく課外指導中
③　休憩時間中及び学校の定めた特定時間中
④　通常の経路及び方法による通学（登下校）中
⑤　寄宿舎にあるとき
⑥　技能教育のための施設で教育を受けているとき

## ７　学校生活上のきまり・注意点

皆さんは，本校に入学したその日から「沖縄高専の学生」として社会の人々から扱われます。一人一人が全く違った人格を持った人間であることは当然ですが，それと同時に，学ぶことを自分の生き方として選択した「**学生**」である本校の一員になったわけです。小学生を「児童」と呼び，中学・高校生を「生徒」と呼んで，ほぼ全面的に学校の保護下におくこととは全く異なった世界が，皆さんの所属する「高等専門学校」です。本校では皆さん一人一人が「学生」として，自分自身の行動に責任を持つことになります。

言うまでもなく，学校は学生のために存在します。そして，主たる構成員である学生の行動によって，その学校の評価は決まります。沖縄高専は皆さんのための学校であると同時に，これから入学してくる後輩達のための学校でもあります。ここでは，沖縄高専の学生として日常の学校生活のなかで最低限注意してほしいことを説明します。

ここに書かれていることは，学生として必ず守るべき**最低限度のマナー**です。

**〇服装について**

沖縄高専では特に制服を定めていません。これは，学生である皆さんを一人の大人として扱っているからです。そのため皆さんの行動には責任が伴います。**常に沖縄高専の学生にふさわしい服装や頭髪等の身だしなみを心がけ，過度な毛染めや化粧はやめましょう。**

なお，学外を訪問（見学）する際は，**清潔感があり端正な服装**を心がけてください。半ズボンやサンダル履きなど，相手への礼儀を失し不快感を与える格好はしてはいけません。また，場所によっては安全に配慮した服装を心がけましょう。

**〇礼儀について**

学生は，教職員に対してはもちろん学生相互間においても礼儀正しくしてください。特に，学外を訪問（見学）する際や高専来校者に対しては，礼儀を失しないよう心がけてください。

**〇学生証について**

学生証は，校内において，つりさげ名札などを利用して**常に見やすい位置に着用**しなければなりません。また，学生の身分を証明するものですから，**校外でも常時携帯**しなければなりません。学生証のＩＣチップは寮を含む校舎入退館のセキュリティシステム認証に使用しますし，バーコードは図書館での図書の貸出に使用します。このように，学生証は学校生活の様々な場面で使用しますので，取扱に十分注意し紛失しないように気を付けてください。万が一，紛失したり，使用できなくなった場合には，すみやかに学生課教務係へ届け出て，学生証の再発行を受けてください。ただし，その費用は**個人負担**になりますので注意してください。

**〇通学について**

①自動車等による通学（許可制）

車両（普通乗用車，自動二輪車及び原動機付自転車）を運転して通学することを希望する３年次以上の学生（寮生を除く）は，年度ごとに「車両通学許可願」を，学科担任を経て学生課学生係に提出し，校長の許可を得なければなりません。

車両通学に関する詳細については，「沖縄工業高等専門学校学生の車両等使用に関する内規」に定められています。また，許可申請の手続きについては，学生課学生係に問い合わせてください。

② 自転車による通学（届出制）

自転車で通学することを希望する３年次以上の学生（寮生を除く）は，年度ごとに「自転車通学届」を，学科担任を経て学生課学生係に提出し，校長の承認を得なければなりません。

自転車通学に関する詳細については，「沖縄工業高等専門学校学生の車両等使用に関する内規」に定められています。また，届出の手続きについては，学生課学生係に問い合わせてください。

③バスによる通学

バスターミナル等で定期券を購入する場合，学生証を提示のうえ学割定期券・回数券を購入することができます。

④保護者による送迎，徒歩での通学

交通安全，身の安全に十分気をつけて登下校してください。保護者等による送迎の場合，交通の妨げにならないように校内駐車場において，乗降車してください。

**〇校舎への入退館について**

皆さんの安全を守るため，沖縄高専の寮を含む校舎の出入り口は，**セキュリティシステムによって管理**されています。開放時間が決まっている出入り口や，教職員・学生の区分によって入退館が制限されている出入り口，赤外線センサーが稼働している出入り口があります。常にセキュリティシステムの認証に用いられる**学生証を携帯**し，定められた出入り口を利用してください。

**〇教室及び共同施設を使用するには…**

授業以外で教室，体育館，グラウンドなどの校内の施設を学生が使用する場合，事故があったときの対処や校内施設の利用状況の把握のため，**「施設・設備等使用許可願」**を学生課学生係に提出してください。**教室は原則１７時に施錠します**ので，１７時以降に教室を使用する学生団体は必ず使用許可を得て使用してください。

（出典　学生生活の手引き　P.25-28　抜粋）

資料７－２－①－２

## 第１章　担任業務

本校では，1~ ２年の学級は混合クラスにより編成されており，各学級に対して１名の学級担任と１名の学級副担任をおく。また，１~ ２年では各専門学科の学生からなるクラスに対して１名の学科担任をおく。学級担任は各学級とその学生を指導し，学級副担任はそれを補佐する。学科担任は主に専門学科の立場から学生を指導する（進路、専門学科の学修内容等)。３~ ５年の学級は学科ごとに編成され，各学級に対して１名の学科担任と１名の学科副担任をおく。３~ ５年では学科担任は１~ ２年における学級担任の役割も担う。学級副担任はそれを補佐する。以下，担任（１~ ２年では学級担任、３~ ５年では学科担任を意味する）の役割や業務について述べる。

担任は，学生と学校側をつなぐ重要なパイプ役であり，学生指導の直接責任を負う。担任は，第２章以下の全てについても熟知し学級指導にあたることが望ましい。常に学級に目を向け適切な指導により学級全体を健全な状態に保つことが重要である。

教務主事，学生主事，寮務主事、学生相談室、事務等とは連絡を密にし，学級あるいは学生に異常が生じた場合は，必要に応じてこれらと連絡を取り合い，速やかに対処しなければならない。また，保護者との連携も重要である。

中間試験や期末試験の終了後，成績一覧表をもとに学生と個別に懇談し，学業面に重点をおいた指導をすることも重要である。

担任の業務は前年度末に新年度の公務分掌として発表された時点から始まる。受け持ち学級に必要な資料，情報を取り入れて準備し，教務係から資料を受け取り，学級担任としても一年間が始まる。

受け持ち学級及びその個々の学生の指導と把握が担任業務の全であるが，以下にその主なものをあげる。

### （１）　学級役員の指導

前学期または後学期早々に，ＬＨＲ等を利用して学級の役員を選出し，それらの役員に対して役目の内容を指導し役割を全うさせなければならない。

入学直後の新入生に対しては，学級の学生間の自薦･他薦では委員が決まらない可能性もあるので，中学校での活動等を参考に担任による指名等も考えておいて良い。

また，１年生の後学期以降の学級委員選出にあたっては選ばれた役員は勿論のこと，選ぶ側の学生の指導も事前にしておかないと，担任が後で苦労することがある。

### （２）　ショートホームルーム（ＳＨＲ）

1~ ３年までの学級では，担任は毎朝８時３０分から８時４０分まで（定期試験期間中は時間帯が変わる場合もある）の１０分間，ショートホームルーム（ＳＨＲ）を行う。１~ ２年は学級担任が行い（必要な場合には、学科毎に構成し学科担任が行うことも可能)、３年は学科担任が行う。ＳＨＲでの主な仕事は出欠の確認であるが，学生に学校生活に関する諸連絡や諸注意を伝達する場でもある。なお，必要に応じて，ＳＨＲに来ていない学生について，学生寮事務室や保護者に連絡して異状がないか確認する。

### （３）　出欠状況の把握

担任は１日の最初に行われるＳＨＲで出欠をとる。その後、クラス単位で行われる授業では、科目

担当の教員が電子出席簿(Campusmate の出欠情報登録)に記入を行う。

欠席日数を計算する上での欠席とは、ＳＨＲを含めその日の授業すべてを欠課した場合をいう。授業が全て休講となった場合は、その日は授業日とはするが、SHR は不要である。学生は出席したものと扱う。

出欠状況は学生の生活や勉学の状況を反映するものである。欠席・欠課・遅刻・早退が多い学生については、理由などを把握し適切に指導することが大事である。また、場合によっては科目担当や保護者とも連絡を取る。

欠席・欠課等については，できるだけ事前に担任に連絡するよう指導し，事後になった場合も速やかにこれらの届けを提出するように指導する。

欠課時間数が総授業時間数の 1/３を超えると，その科目は未履修となり，原級留置となる。欠課の多い学生についてはこの点を良く注意しておくこと。特に半期のみに開講される１単位の授業については気を配っておく必要がある。

**（４）　学級日誌の点検**

日直には毎日学級日誌を記入させ，それを点検することによって，その日の学級の動向や授業の様子等を知ることができる。電子出席簿(Campusmate の出欠情報登録)の補助ともなるので，特に授業ごとの出欠状況は正確に記入するように指導する。

**（５）　特別活動指導記録**

本校において，１~ ３年の特別活動（ＬＨＲ）は進級の要件ともなっている重要な活動である。どのような指導を行ったかを特別活動指導記録として記録しておく必要がある。これは同僚の担任や再び自分が担任となる場合にも役立つ。

**（６）個人面談**

新たに学級を受け持って，できるだけ速やかに行いたい担任の重要業務の一つが，学生との個人面談である。空き時間や放課後を利用してクラス全員と面談するのであるから，２~ ３週間かけての業務である。１年生の場合４月入学直後は多忙で時間を取るのは難しいが，前学期中間試験頃までには最初の面談を行っておきたい。これによってお互いを知り，理解しあってコミュニケーションを深めることができ，いざと言う場合の指導に効果を発する。はじめに述べたように，試験終了ごとや適宜必要に応じての面談も教育上有効である。労苦と時間のかかる大仕事であるが，ぜひ実行されたい。

**（７）　保護者との学級懇談会・面談**

クラスの保護者全員を対象とした学級懇談会を年に１回実施する。そこでは保護者に対する全体的な注意や学級の様子等を伝え，学校の運営や学生の指導への理解や協力をお願いする。また、学級懇談会は保護者相互の情報交換の場を提供するものでもある。懇談の内容は学年によって変化すると考えられる。例えば低学年においては、生活指導、精神面、進級問題など基本的な問題についての懇談、高学年においては、研修旅行、インターンシップ、進学、就職などについての懇談が入ってくるであろう。懇談のテーマや方法などは担任相互で話し合って、改善していくのが良いであろう。

また同時期に保護者と個別の面談を実施し，主に個々の学生の状況について情報の授受を行う。ここで保護者と良好な関係を築いておくことは，その後の学生に指導においても重要な役割を果たす。このように保護者との面談は非常に重要なものであるから，保護者の希望を調査・調整して面談の計画

を立てる必要がある。

**（８）学生所見の入力，学生指導要録の記入**

各期末試験終了後，教務システムを通じて学級の個々の学生の所見を入力する。この所見は保護者に送付する学生の個人成績表にも記載されるため，後述する保護者との面談と並んで，保護者に個々の学生の様子を伝える貴重な機会となる。年度終了時には，教務システムを通じて学級の個々の学生の指導要録用の所見等と調査書用の所見等を入力する。（検討中）

**（９）諸連絡の伝達**

学級担任は，学生と学校側をつなぐ重要なパイプ役であり，例えば，定期試験に際しての諸注意，学校行事，緊急連絡，その他，学生と学校との間の情報の伝達がスムーズに行くよう配慮すること。

**（１０）諸行事の指導・引率**

高専祭，体育祭，合宿研修等の行事の際には，担任は学生を指導し助言を与え，必要によっては引率を行う。このような教室外での活動の場では，普段は気付きにくい学生の一面を見ることができる機会でもある。こういう時にクラスの手綱を緩めず，そして親しみをプラスするのも担任の重要な責務である。

**（１１）　諸願・諸届の確認**

欠席・欠課届等は必ず提出させる。これら諸願，諸届にはそれぞれ締切日や提出期間が定められているので注意し，それを厳守させる。これらに関しては担任としてももらさずチェック，確認しておく必要がある。

**（１２）　選択科目の履修について**

１～４年までの学生には１１～１月頃，次年度の選択科目履修についての調査が教務委員会を通じて行われる。担任は，調査の確認や人数調整等，関係教科主任や学科主任に協力する。また，留年となった学生に，年度末までに受講科目の決定をさせる。

**（１３）　異常発生時の対応**

クラスに異常が発生したら必要に応じ，教務主事，学生主事，寮務主事と連携してことに当たる。担任会を開いて学年で連携したり，場合によっては学科主任と相談することも重要である。特に異常時の対応には迅速，適切，連携が要求されることは言うまでもない。

**（１４）　座席，ロッカー**

自教室のある１～４年までは，自教室における学生の座席は適宜席替え等を行って定めるが，年度の初めは，少しでも学生を覚えやすくするために，出席番号順に席を定めることが望ましい。座席表は担任が作成するか責任をもって学級委員等に作成させるかして，教卓の上に常備しておかなければならない。試験期間中は必ず出席番号順の座席に座らせる。また，担任指導のもとにロッカーを割り当て，適切に管理・使用させる。

**（１５）　教室の管理（諸用具，設備，清掃状況，掲示物等）**

適当な方法によってクラスで当番を決め，ＨＲ教室やトイレ等学年・学級に割り当てられた場所をきちんと清掃させる。当番や学級の役員等を利用して用具の点検もさせ，修理や補充の必要が生じた時は教務係に申し出る。期限が過ぎたものは速やかに処分する等，掲示物も適切に管理する。

**（１６）　未修得科目を持つ学生の指導**

２学年以上になると，受け持ちクラスに未修得教科を持って進級した学生がいることが多い。これらの学生ができるだけ早く単位を修得できるよう，担任はバックアップしてやることが望ましい。教科担当教員の所へ相談に行かせるなどの助言も必要であろう。未修得の教科を残したままだと，３年から４年への進級や卒業の障害ともなるので，学生によっては強力な指導が必要である。さらに，これらの学生は当該年度の単位も落としがちであるので，その面からの指導も必要となることが多い。担任はこのような学生の未修得単位数を把握しておくべきである。

**（１７）　留年学生の指導**

クラスに留年学生がいる場合は，この学生に関して色々な面から注意をしておかなければならないことが多い。

第一に，ともすれば学校を続けるという意思がくじけそうになる場合が多いことである。励ましも含めた担任の強力な指導が必要である。第二に，再度留年しないかということである。本校の規定では同一学年を２回留年できないことになっており，２回留年した学生には退学が勧奨される。しかし，前年に留年した学生は，学習面や生活面に問題がある等，留年する理由をもっており，その問題を改善しない限り再び留年する可能性が高い。第三に，留年学生は留年したという事実や年齢が上であることから，クラスに溶け込むのが難しい場合が多く，またクラスの雰囲気を乱す場合もあるので，この点にも注意を要する。

**（１８）　学級における体育館やグラウンドの使用**

ＬＨＲのレクリエーション等クラスとして体育館やグラウンドを使用する場合は，他の学級担任とも調整の上あらかじめ計画を立て，教務係やスポーツ実技担当教員に申し出て，使用許可を得なければならない。なお，学級担任は，使用後は体育館や器具の片づけをするよう学生を指導する。

**（１９）　担任会**

各学年の担任が歩調を揃え，学級あるいは学年の運営をスムーズに行うため，適宜，担任会を開いて協議したり，情報交換したりすることは重要である。必要に応じて副担任や学科担任，学科長あるいは教科担当教員等の出席を願うのも意味がある

以上，担任業務の主なものをあげたが，日々の細々した事柄を入れればその業務範囲はもっと広い。すべての事柄を記述しつくすことは難しい。この冊子に規定されていない事態に遭遇した場合は、学生のことを第一に考え、学校全体が円滑に動くことを念頭において、柔軟に対処することが重要である。

7

（出典　教員便覧　P.４－７）

資料７－２－①－３

# 平成２２年度　学生相談室運営委員会委員（９人）

| 所　　属 | 職　　名 | 氏　　名 | 任　期 | 内線番号 | 区分 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| メディア | 准教授 | 西村　篤 | 22 .4～23.3 | [redacted] | | 委員長 |
| 機　　械 | 准教授 | 比嘉　吉一 | 22 .4～23.3 | | | |
| 情報通信 | 教　授 | 石田　修己 | 22 .4～23.3 | | | |
| メディア | 准教授 | ﾀﾝｽﾘﾔﾎﾞﾝ・ｽﾘﾖﾝ | 22 .4～23.3 | | | |
| 生物資源 | 助　教 | 磯村　尚子 | 22 .4～23.3 | | | |
| 総合科学 | 准教授 | 澤井　万七美 | 22 .4～23.3 | | | |
| 事 務 部 | 学生課長 | 南部　元義 | 22 .4～23.3 | | | |
| 事 務 部 | 看 護 師 | 武村　クニ子 | 22 .4～23.3 | | | |
| 総合科学 | 教　授 | 小池　寿俊 | 22 .4～23.3 | | | |

（出典　学生課資料）

資料７－２－①－４

# 沖縄工業高等専門学校学生相談室規程

［平成１６年４月１日
規　程　第１６号］
改正　平成１９年３月３０日
規　程　第３号
平成２０年７月１６日
規　程　第１０号
平成２２年３月１７日
規　程　第２号

（設置）
第１条　この規程は、沖縄工業高等専門学校学則（平成１６年学則第１号）第１１条の３第２項の規定に基づき沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）に置く学生相談室（以下「相談室」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（目的）
第２条　相談室は、本校学生の相談に応じ、問題解決に必要な助言及び指導を行うことを目的とする。

（業務）
第３条　相談室においては、次の各号に掲げる業務を行う。
(1) 学生の就学、その他個人的問題に関する助言及び指導
(2) 学生の精神衛生に関する助言及び指導
(3) 学生の健康に関する助言及び指導
(4) 相談活動に関する調査研究
(5) その他学生相談に関する必要な業務

（組織）
第４条　相談室に、次の各号に掲げる職員を置く。
(1) 相談室長
(2) 相談員
(3) 補助相談員

（相談室長）
第５条　相談室長は、本校の教授または准教授の中から校長が選任する。
２　相談室長の任期は２年とし、再任を妨げない。
３　前項の相談室長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（相談員）
第６条　相談員は、各学科、総合科学科から選出された専任教員各１名を校長が任命する。
２　相談員の任期は１年とし、再任を妨げない。
３　前項の相談員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
４　校長は、必要に応じて、本校職員以外の者を相談員として委嘱することができる。

（出典　沖縄工業高等専門学校学生相談室規定　抜粋）

資料７－２－①－５



## 特別支援について

すべての学生がそれぞれに異なる個性を持っています。病気や障碍もそのひとつです。自分が周りのみんなとは違うということで悩んでいませんか？　みんなと違う個性を持っていることは恥ずかしいことだと思っていませんか？　このような悩みがもとで、学校生活がうまく行かなくなっていると感じた時は、学生相談室に相談して下さい。相談室では、学生が自分の個性を良い方向に活かして、未来を自ら開拓するための支援について一緒に考えます。

## ハラスメント防止について

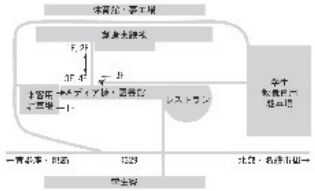
友人やクラスメイトからのいじめ、性的いやがらせ、先輩や教員など強い立場の人からの強要、本人が嫌がっているのに繰り返しこのような行為を行うことは重大な人権侵害です。自分一人で解決できないときは、勇気を持って学生相談室に相談してください。

## 平成22年度学生相談室

室長（併任）
　准教授　西村 篤（メディア）
相談員（併任）
　准教授　比嘉 吉一（機械）
　教　授　石田 修己（情報）
　准教授　タンスリヤポン Ｓ.（メディア）
　助　教　磯村 尚子（生物）
　准教授　澤井 万七美（総合）
支援担当（併任）
　教　授　小池 寿俊（総合）
カウンセラー（嘱託）
　臨床心理士　國井 昭男
　臨床心理士　宮城 桂
保健室担当
　看護師　武村 クニ子
　看護師　岸本 尚子（非常勤）

## 学生相談室へのアクセス

学生相談室はメディア棟２階の保健室となりにあります。入り口は保健室内にありますので、まずは保健室へお越し下さい。



# 平成２２年度
# 学生相談室
# 利用案内

独立行政法人国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校







# より充実した学生生活を自らの手でつかもう

## 学生相談室とは？

学生相談室は、学生一人一人がより充実した学生生活を送ることを、学生の人権を守るという視点からサポートするための組織です。そのために、学生相談室では「学生相談」および「特別支援」という２つの役割を担っています。

相談室を一度も利用したことがない人でも、きっと何らかの形で、誰かに相談しているし、誰かの支援を受けています。学生相談室のことは、その「誰か」がわからなくなったり、積っていた「誰か」を失ってしまった時に思い出してください。

勉強、進路、恋愛、健康、対人関係、家族についてなど、相談の内容は問いません。困った時は気軽に相談室へ来てください。学生のことで悩んでいる保護者や教員も利用できます。

相談内容の秘密は、「職員に守秘義務を課す」という規則によって守られています。

## カウンセラー（嘱託）による相談

学生相談室では、学外から専門家の先生をお招きして、学生との相談にあたってもらっています。専門家といっても、相談の内容は限定しません。相談内容の秘密も保護されます。

カウンセラーによる相談は保健室が予約を受け付けています。保健室に来て看護師に声をかけるか、メールで連絡して下さい。

**平成22年度カウンセラー来校予定**

| 氏名 | 曜日 | 時間 |
|---|---|---|
| 國井 昭男 | 月 | 15:30～18:30 |
| 宮城 桂 | 木 | 15:00～18:00 |

来校日は変更になる場合があります。できるだけ保健室で予約をしてから利用して下さい。予約依頼のメールは次のアドレスに送ってください。メールは保健室に所属する看護師２名のみが受け取ります。

hoken@okinawa-ct.ac.jp

## 相談員（本校教員）による相談

学生にとってより身近な相談窓口として、学生相談室では各学科から１名の教員を相談員として配置しています。学生相談室を利用しようか迷っている、といった相談も、授業で会ったことのある先生なら話しやすいかも知れません。気軽に、研究室を訪ねるか、メールで連絡をとってみて下さい。

**平成22年度相談員一覧**

| 氏名 | 学科 | 研究室 | アドレス |
|---|---|---|---|
| 比嘉 吉一 | 機械 | 2-15 | y.higa |
| 石田 修己 | 情報 | 1-4 | ishida |
| タンスリヤポン・スリヨン | メディア | 1-8 | suriyon |
| 磯村 尚子 | 生物 | 1-14 | iso |
| 澤井 万七美 | 総合 | 4-1 | sawai |

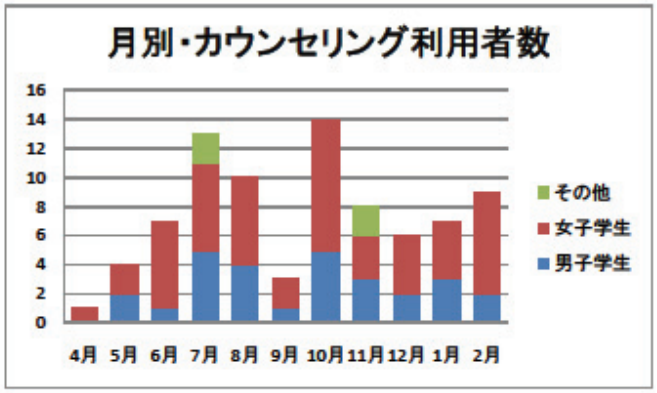
アドレスには@okinawa-ct.ac.jpを追加して下さい。

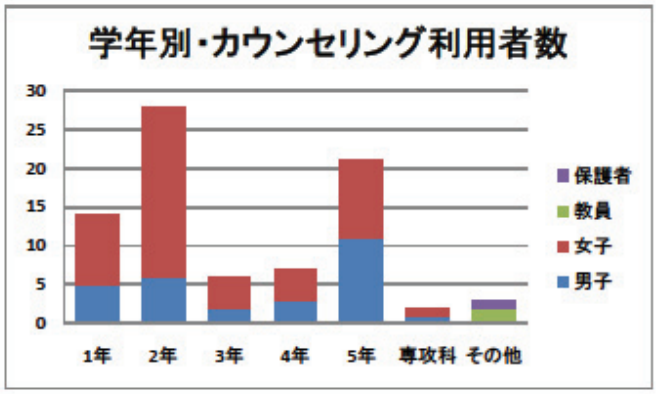
（出典　学生相談室利用案内）

資料７－２－①－６

## H21年度　学生相談室　カウンセリング利用者数・学年男女別

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 延べ人数 | 実人数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年 | 男子 | | | | 2 | 2 | | 1 | | | | | 5 | 3 |
| | 女子 | | | 3 | 3 | 1 | | | | | | 2 | 9 | 5 |
| 2年 | 男子 | | | | | | | 1 | | 1 | 2 | 2 | 6 | 2 |
| | 女子 | | 1 | 3 | 2 | 2 | 1 | 3 | 2 | 3 | 2 | 3 | 22 | 2 |
| 3年 | 男子 | | | | | | | | 1 | 1 | | | 2 | 1 |
| | 女子 | | 1 | | 1 | 2 | | | | | | | 4 | 2 |
| 4年 | 男子 | | | 1 | 1 | | | 1 | | | | | 3 | 3 |
| | 女子 | 1 | | | | | 1 | | | | | 2 | 4 | 2 |
| 5年 | 男子 | | 1 | | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | | 1 | | 11 | 4 |
| | 女子 | | | | | 1 | | 6 | 1 | 1 | 1 | | 10 | 3 |
| 専攻科1年 | 男子 | | 1 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| | 女子 | | | | | | | | | | 1 | | 1 | 1 |
| その他 | 教員 | | | | 2 | | | | 1 | | | | 3 | 2 |
| | 保護者 | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 1 |
| 合計 | 男子学生 | 0 | 2 | 1 | 5 | 4 | 1 | 5 | 3 | 2 | 3 | 2 | 28 | 14 |
| | 女子学生 | 1 | 2 | 6 | 6 | 6 | 2 | 9 | 3 | 4 | 4 | 7 | 50 | 15 |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 4 | 3 |
| | 全体 | 1 | 4 | 7 | 13 | 10 | 3 | 14 | 8 | 6 | 7 | 9 | 82 | 32 |




（出典　学生課資料）

資料７－２－①－７

# 平成２２年度　前期オフィスアワー

| 学科 | 氏　名 | 曜日 | 研究室 |
|---|---|---|---|
| 機械システム工学科 | 宮田　恵守 | 月 | 3-15 |
| | 眞喜志　隆 | | 2-16 |
| | 松栄　準治 | | 2-17 |
| | 眞喜志　治 | | 3-18 |
| | 山城　光 | | 1-18 |
| | 吉永　文雄 | | 3-17 |
| | 武村　史朗 | 火 | 1-16 |
| | 真鍋　幸男 | | 2-18 |
| | 比嘉　吉一 | | 2-15 |
| | 中本　正一朗 | 木 | 3-16 |
| | 政木　清孝 | | 1-17 |
| | 鳥羽　弘康 | 金 | 1-15 |
| | 下嶋　賢 | | 2-14 |
| | | | |
| 情報通信システム工学科 | 杉本　和英 | 月 | 1-6 |
| | 石田　修己 | | 1-4 |
| | 比嘉　勝也 | | 1-5 |
| | 兼城　千波 | | 2-1 |
| | 神里　志穂子 | | 3-1 |
| | 知念　幸勇 | 木 | 2-3 |
| | 野口　健太郎 | | 2-2 |
| | 山田　親稔 | | 2-4 |
| | 金城　伊智子 | | 3-3 |
| | 高木　茂 | 金 | 3-2 |
| メディア情報工学科 | 正木　忠勝 | 月 | 3-7 |
| | バイティガ　ザカリ | | 2-5 |
| | 玉城　龍洋 | | 2-6 |
| | 太田　佐栄子 | 火 | 3-8 |
| | 角田　正豊 | 木 | 3-6 |
| | 伊波　靖 | | 2-7 |
| | 西村　篤 | | 3-9 |
| | 鈴木　大作 | | 3-4 |
| | 佐藤　尚 | | 3-5 |
| | 姉崎　隆 | 金 | 1-7 |
| | タンスリヤポン　スリヨン | | 1-8 |

| 学科 | 氏　名 | 曜日 | 研究室 |
|---|---|---|---|
| 生物資源工学科 | 山城　秀之 | 月 | 2-12 |
| | 池松　真也 | | 2-11 |
| | 平良　淳誠 | | 1-11 |
| | 田邊　俊朗 | | 2-10 |
| | 伊東　昌章 | | 2-13 |
| | 濱田　泰輔 | 火 | 3-13 |
| | 玉城　康智 | | 3-12 |
| | 磯村　尚子 | | 1-14 |
| | 三宮　一宰 | 木 | 1-12 |
| | 工藤　雄博 | | 1-13 |
| | 三枝　隆裕 | 金 | 4-12 |
| | 平山　けい | | 4-10 |
| 総合科学科 | 新川　智清 | 月 | 4-17 |
| | 青木　久美 | | 4-18 |
| | 下郡　剛 | | 4-9 |
| | 角田 キャティー | | 4-16 |
| | 飯田　智行 | | 1-9 |
| | 成田　誠 | 火 | 4-11 |
| | 網谷　厚子 | | 4-3 |
| | 滝　雅士 | | 4-2 |
| | 木村　和雄 | | 4-8 |
| | 宮城　元 | | 3-14 |
| | 澤井　万七美 | 木 | 4-1 |
| | 名嘉山　リサ | | 4-13 |
| | 武田　ひとみ | | 4-5 |
| | 小池　寿俊 | 金 | 4-4 |
| | 大石　敏広 | | 4-15 |
| | 古屋　淳 | | 4-7 |
| | 山本　寛 | | 4-6 |
| 留学生交流促進センター | 吉川　友子 | 火 | 1-10 |

表に示された曜日の16時30分～17時15分までは，先生方が研究室に在室しています。相談等がある学生は，気軽に来室してください。ただし，教員が寮の宿直に当たっている場合には，15分程度前には部屋を後にしますので注意してください。
※この曜日には，必ず在室しているということで，その他の曜日にはいないということではありません。

（出典　学生課資料）

資料７－２－①－８

## ５　オフィスアワーについて

オフィスアワーとは，各教員が学生のために確保する時間帯のことで，学習はもちろん生活に関する事などの相談に応じます。この制度を積極的に利用して教員とコミュニケーションを図り，学生が大きく成長することを願っています。

オフィスアワーの時間帯は各教員によって異なりますので，教員研究室入り口や掲示板などで，オフィスアワーの時間帯を確認してください。もちろん、オフィスアワーの時間帯以外でも相談に訪れても構いません。



（出典　学生生活の手引き　P.26 抜粋）

資料７－２－①－９

８．１６　保健室

（１）現状と利用状況

平成19年4月より保健室は2人体制となり、今年度も看護師2名（1名は非常勤）で学生の健康診断や傷病者の応急処置などの健康管理、感染症対策、保健教育、学生寮の健康相談、学生相談室でのインテーカーとしての役割を担っている。その他、日本スポーツ振興センターへの災害給付手続きや環境衛生検査などの業務を行っいる。

保健室利用延べ件数

| | | 内科的 | 外科的 | 測定 | 証明 | 他 | 相談 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成21年度 | 1年 | 130 | 44 | 7 | 0 | 27 | 2 | 210 |
| | 2年 | 156 | 38 | 9 | 0 | 42 | 3 | 248 |
| | 3年 | 180 | 48 | 15 | 0 | 76 | 5 | 324 |
| | 4年 | 232 | 35 | 32 | 15 | 61 | 3 | 378 |
| | 5年 | 167 | 26 | 37 | 47 | 71 | 5 | 353 |
| | 専攻科1年 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 |
| | その他 | 1 | 5 | 13 | 0 | 13 | 1 | 33 |
| | 教職員 | 38 | 12 | 5 | 0 | 11 | 6 | 72 |
| | 合計 | 904 | 208 | 118 | 63 | 302 | 25 | 1620 |
| | % | 52.8% | 16.7% | 6.9% | 0.0% | 15.3% | 8.3% | 100% |

日本スポーツ振興センターへの災害給付手続き

| | 1学年 | 2学年 | 3学年 | 4学年 | 5学年 | 専攻科1年 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成21年度 | 5 | 5 | 8 | 4 | 2 | 0 | 24 |

（２）結果及び評価と改善

１、定期健康診断の結果は、2週間以内に知らせる義務があり今年度も、保健室でカルテより個人票に転記し、個別に保健指導を行いながら配布した。しかし数回のメール連絡を行うが、受け取りにくる学生は3分の1程の学生しか来室がなかった。個人票の残りと、検診センターからの個人通知書を成績表と郵送で通知した。個人票への転記と受け取りに来ない学生へのメールに費やす時間は大きく、検診センターからも個人通知が来て保護者へ郵送するので、個人票への転記に無駄を感じた、次年度は検診センターからの結果通知を2週間以内に届けてもらう事で業務の改善を行う。

２、保健室利用者数は、毎年外科的対応に比べ内科的対応が全体の50%を占め圧倒的に多い、寮生活の学生が多く、体調不良時は保健室で休養せざるを得ない事も要因の一つであろうと考える。保健室には現在ベッドが3台、新型インフルエンザ大流行でベッドはその対応に使われた事もあり、相談室のソファーも使う事が度々あった。そのため寝具不足（寝具の契約は3床）が生じ、学生への支援が充分とは言い難い状況がある。次年度は簡易ベッドの使用も考慮し、寝具の契約を2床増で学生の健康管理をサポートしていきたい。 但し、簡易ベッドの利用には設置場所に問題があり、当面相談室の空き時間帯に限り使用する事を考えているが、本来の姿ではない。また、インフルエンザ等の感染者のベッドは他の学生の休養と別に隔離された所があると望ましい。次に、相談の件数には健康相談とメンタルな相談が含まれており、利用者の1割弱に当たる。また、隣接する学生相談室でのカウンセリングも保健室がインテーカーとなり、両者とも来室しやすい環境作りに配慮が必要となる。（文責：武村）

（出典　学生課資料）

資料７－２－①－10

## キャンパス・ハラスメント防止委員会委員長

キャンパス・ハラスメント防止委員会委員長とは、キャンパス・ハラスメントの防止を図るために、研修や啓蒙活動の企画や実施、相談体制や苦情処理体制、環境改善等について審議する委員会の委員長のことです。

生物資源工学科　教授　平山　けい

## 相談員　一覧

相談員とは、キャンパス・ハラスメントに関する苦情の受付や相談に対応するため、校長から任命された本校教職員のことです。

（任期：H21.6.1～H23.3.31）

| 所属 | 姓 | 名 | TEL（直通） | メールアドレス |
|---|---|---|---|---|
| 総合科学科 | 青木 | 久美 | 0980-55-4231 | aoki@okinawa-ct.ac.jp |
| 総合科学科 | 古屋 | 淳 | 0980-55-4238 | jfuruya@okinawa-ct.ac.jp |
| 機械システム工学科 | 武村 | 史朗 | 0980-55-4137 | takemura@okinawa-ct.ac.jp |
| 情報通信システム工学科 | 兼城 | 千波 | 0980-55-4144 | chinami@okinawa-ct.ac.jp |
| メディア情報工学科 | タンスリヤポン | スリヨン | 0980-55-4180 | suriyon@okinawa-ct.ac.jp |
| 生物資源工学科 | 磯村 | 尚子 | 0980-55-4135 | iso@okinawa-ct.ac.jp |
| 総務課（総務系） | 照屋 | ひとみ | 0980-55-4037 | teruya@okinawa-ct.ac.jp |
| 総務課（財務系） | 鈴木 | 樓 | 0980-55-4014 | ksuzuki@okinawa-ct.ac.jp |
| 学生課 | 銘苅 | 真理 | 0980-55-4032 | mari@okinawa-ct.ac.jp |
| 技術支援室 | 佐竹 | 卓彦 | 0980-55-4060 | satake@okinawa-ct.ac.jp |
| 【以下は役職指定】 | | | | |
| 人事係長 | 知念 | 芳和 | 0980-55-4240 | yoshikaz@okinawa-ct.ac.jp |
| 看護師 | 武村 | クニ子 | 0980-55-4240 | hoken-ta@okinawa-ct.ac.jp |

（出典　キャンパスハラスメント防止委員会資料）

資料７－２－①－11

## 沖縄工業高等専門学校キャンパス・ハラスメントの防止及び対策等に関するガイドライン

**第１ 目的**

沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、学生、教職員及びその他すべての本校構成員に対し、修学、就労、教育又は研究に関わる基本的人権を守る責務を負っており、この人権を著しく損なう各種のハラスメントを決して容認することはできない。本校は可能な限りハラスメントの防止と対策について、その責務を果たさなければならず、同時に本校を構成するすべての人々に、この問題を理解させ、ハラスメントを行わない、行わせない努力が求められる。こうした目的の実現のためにこのガイドラインを定める。

**第2 ハラスメントの定義**

ハラスメントとは、相手の意に反する言動によって、相手の人格を傷つけ、人権を侵害する行為である。本校では、修学上、就労上、教育上及び研究上或いは学生生活における関係を利用してなされるいやがらせやいじめ行為をハラスメントと定義し、具体例を「別紙１ 各種ハラスメントの具体的例示」に示す。

**第3 ガイドラインの対象**

(1) ガイドラインは、本校の学生（本科生、専攻科生、本校で教育を受けるあらゆる立場の者）、本校の全教職員（非常勤講師及び非常勤職員等含む。）及び客員研究員のほか、委託及び派遣契約等により本校において就労する者を対象とする。

(2) ガイドラインは、本校のキャンパスの内外、授業、研究、課外活動及び勤務等の時間の内外を問わず、本校の学生、教職員等の間におけるハラスメントのすべてを対象とする。

**第4 防止のための施策と体制**

本校は、ハラスメントの発生を防止するために、次のような措置を講ずるものとする。

(1) ハラスメントの防止に関する全学的機関として、キャンパス・ハラスメント防止委員会（以下「防止委員会」という。）を設置する。

(2) ハラスメント防止のための広報・啓発活動並びに研修の企画及び実施を行う。

(3) ハラスメントが発生しないような環境を整備する。

(4) その他ハラスメント防止のために必要な事項を行う。

**第5 相談体制と被害の救済申立てへの対応**

(1) 本校は、ハラスメントに関して相談を希望する学生、教職員及び関係者（以下「相談者」という。）が安心して相談をし、被害を訴えることができるように、相談員を配置する。　(学生に関しては学生相談室経由)

(2) 本校は、被害の救済の申立てに対応するため、必要に応じて防止委員会の下にキャンパス・ハラスメント調査委員会（以下「調査委員会」）を設置する。

(3) 相談員及び被害の救済の申立てについては、「別紙２ 沖縄工業高等専門学校キャンパス・ハラスメント対応フロー図」により、全校的な体制をもって対応する。

**第5 委員会等**

防止委員会、相談員並びに調査委員会に関し必要な事項は、別に定める。

**第6 ガイドライン等の見直し**

防止委員会は、このガイドライン等の年度ごとの運用状況を勘案し、必要があれば見直しを行うものとする。

附　則　本ガイドラインは、平成２１年３月１８日から施行する。

**別紙1　各種ハラスメントの具体的例示**

ハラスメントには多様な形態があるが、以下にその主な具体例を示す。

**１．セクシャル・ハラスメント**

⑴性的欲求に対する服従又は拒否を理由に、利益又は不利益を与え、あるいはそれを示唆すること。

① 個人的な性的欲求への服従又は拒否を、就学上、研究上、就労上の指導、評価、学業成績等に反映させること。

② 就学上、研究上、就労上又は学生生活における利益又は不利益を条件として、性的働きかけをすること。

⑵明確な利益又は不利益の提示は伴わないが、相手の望まない性的言動を行うこと、又はそれを求めること。

① 執拗若しくは強制的な性的行為への誘い、あるいは交際の働きかけをすること。

② 強引な接触や性的行為を行うこと。

③ 性的魅力をアピールするような服装や振る舞いを要求すること。

⑶性的言動や性にかかわる掲示、性差別的な発言等により、不快の念を抱かせるような環境をつくること。

① 性的な意図をもって、身体への一方的な接近又は接触などを行うこと。

ア 相手の身体を上から下まで長い間じろじろ眺め又は目で追ったりすること。

イ 相手の身体の一部（肩、背中、腰、頬、髪等）に意識的に触れること。

② 性的な面で、不快感をもよおすような話題、行動及び状況をつくること。

ア クラブ部室又は研究室等にポルノ写真、わいせつ図画などを貼る等の扇情的な雰囲気をつくること。

イ 卑猥な絵画、映像又は文章等を見ることを強要すること。

ウ コンパ、親睦会のつきあい等において集団で下品な行動をとること。

エ 性に関する悪質な冗談やからかいを行うこと。

オ 相手が返答に窮するような性的又は下品な冗談をいうこと。

カ 相手が不快感を表明しているにもかかわらず、その場からの離脱を妨害すること。

キ 意図的に性的な噂を流すこと。

ク 個人的な性的経験を尋ねること、あるいは経験談を話すこと又は聞くことを強要すること。

③ 性的特徴を理由とする蔑視的な発言を行うこと。

ア 性的理由のみによって、性格、能力、行動及び傾向等において劣っている、あるいは望ましくないと決めつけること。

イ 「権利を主張する女性は、性的魅力に乏しい」等、個人の主張や意見を、性的属 性に結びつけること。

ウ 相手の望まない（おじさん、おばさん、坊や、おねえちゃん）等の呼称を蔑視的に使用すること。

**２．アカデミック・ハラスメント等（パワーハラスメント含む）**

⑴学生の人権、人間性を無視する指導や、学生に対して嫌がらせ（ハラスメント）行為を行うこと。学生に対する嫌がらせ（ハラスメント）行為とは、教員の立場や権力の濫用に起因する態度、言葉、処遇によって被権力の立場にある学生の勉学、研究、日常生活に理不尽な支障をきたす行為を指します。

① 学生に、体罰を与えたり暴言を吐いたりすること。

② 学生に対して客観性、公平性に欠けた理由により退学・留年勧奨、研究・教育指導拒否、を行うこと。

③ 研究会や指導を名目に、学生を不必要に学外や深夜に呼び出すこと。

④ 学生や保護者などとの十分な話し合いを持つことなく、学生の意思に沿わないような進路を押し付けること。

⑤ 学生に対して、客観性、公平性に欠ける成績評価をすること。

⑥ 学生の成績の良し悪しにより差別的処遇を行うこと。

⑦ 指導教官が学生の必要な書類に客観性、公平性に欠けた理由により印鑑を押さないこと。

⑧ 学生の性別により差別的扱いをすること。

⑨ 心身に障害を持つ学生に対して差別的扱いをすること。

(2) 他の教職員の人権や人間性を無視する言動や嫌がらせ（ハラスメント）行為を行うこと。職務上の上下関係に起因する権力の濫用に起因する態度、言葉、処遇を行い、被権力の立場にある教職員の教育、研究、日常業務に理不尽な支障をきたす行為を指します。また、こういった行為は職務上の上下関係に起因しない場合でも該当します。

① 他の教職員に対して、教育・研究妨害を行うこと。

② 客観性、公平性に欠けた理由により昇任差別、退職勧奨などを行うこと。

③ 他の教職員に対して、対等な人格であるという視点が欠如した差別的言動を行うこと。

④ 他の教職員に対して、性別による差別的扱いや言動を行うこと。

⑤ 心身に障害のある他の教職員に対して差別的扱いや言動を行うこと。

⑥ 他の教職員の日常業務に支障をきたすような職務以外の用事による接触を行うこと（電子メールなどによる接触も含む）。

⑦ 職場の環境を悪化させるような行為(騒音など)を行うこと。

⑧ 断りにくい立場にある者を、飲み会にしきりに誘ったり、飲み会の席で飲酒を無理強いしたりすること。

(3) 他の学生や教職員の人権やプライバシーの侵害につながる情報を流すこと（インターネットを利用しての行為を含む。）。

① 学生や教職員、学校に関する中傷や侮蔑、無責任なうわさを流すこと。

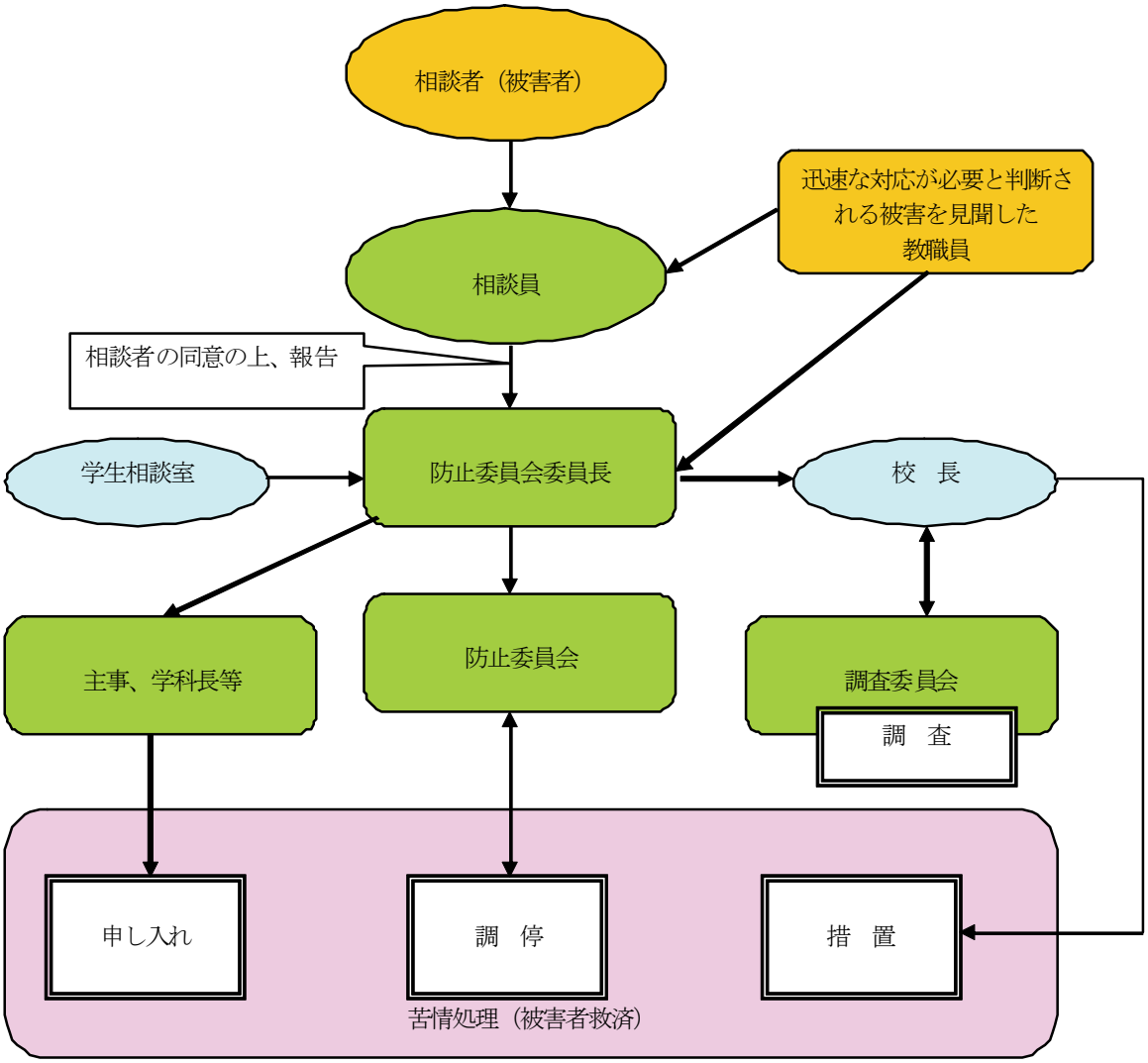
② 学生や教職員のプライバシーに関する情報を無断で流すこと。

③ 職務上知り得た個人情報を勝手に漏洩すること。

④ 特定の個人に関する情報を無断で掲示したり、差別的な落書きを行ったりすること。

⑤ 特定の個人の容姿を褒めたり、けなしたりなど、身体的特徴を話題にすること。

**別紙2　沖縄工業高等専門学校キャンパス・ハラスメント対応フロー図**




**申し入れ**

行為者とされる者に対して（必要な場合は関係者にも）事実関係を確認の上、問題とされる行為があった場合はその行為を止めるよう、行為者に申し入れるものです。

**調停**

防止委員会委員３名が調停員となり、被害者及び行為者の双方の話し合いで紛争を解決する方法です。調停委員は、当事者間の話し合いに立ち会い、調停案を作成します。

**調査・措置**

キャンパス・ハラスメントの被害者が学校に対して行為者に何らかの措置を取ることを求める手続きです。

## 沖縄工業高等専門学校防止委員会

構成員

(1) 総務主事，教務主事，学生主事及び寮務主事
(2) 各学科長及び総合科学科長
(3) 学生相談室長
(4) 事務部長
(5) その他校長が必要と認めた者

## 沖縄工業高等専門学校　相談員

構成員

(1) 教員のうちから校長が指名した者　　男女各若干名
(2)職員のうちから校長が指名した者　　男女各若干名
(3)看護師
(4)総務課人事係長
(5)その他校長が必要と認めた者　若干名

## 相談・苦情処理体制　及び　手続の流れ等について

### キャンパス・ハラスメントに関する相談体制

本校では、キャンパス・ハラスメントに関する相談に対応するために相談員を置きます。相談員は、キャンパス・ハラスメントについての相談活動を行い、相談者を援助します。相談員については、毎年度、掲示、学生便覧、ホームページ等で周知します。相談員へは、被害者以外の者でも相談できます。相談者は最も相談しやすい相談員を選択できます。相談員は、問題解決に当たって、常に相談者の意思を確認し、プライバシーを保護し、人権の尊重に充分に配慮します。相談者は、相談に当たって、付添い人を同席させることもできます。また、相談者は、問題解決の進捗状況について、相談員から適宜報告を受けることができます。なお、相談者が相談員の対応に納得がいかない時は、別の相談員に相談することができます。

キャンパス・ハラスメントの相談の過程で、虚偽の申し立てや証言をした場合は、虚偽の申し立てによる人権侵害としてキャンパス・ハラスメントの行為者に該当する場合があります。

### キャンパス・ハラスメントに関する苦情処理体制

本校におけるキャンパス・ハラスメントの防止等を行うために、キャンパス・ハラスメント防止委員会（以下「防止委員会」という。）を設置します。

相談員の役割は、相談者から話を受容的に聴いて内容を整理し、解決法を探すことであり、調査をしたり、調停をしたりして、紛争解決を行うことではありません。

相談員は、相談者が被害の救済、相手方との間での問題解決など苦情処理を望む場合には、相談者の同意を得た上で、キャンパス・ハラスメント防止委員会委員長（以下「防止委員会委員長」という。）に報告します。

苦情処理の方法には、「申し入れ」、「調停」及び「調査・措置」があり、相談者はどの方法を選択するか相談員と話し合います。相談員は、相談者の相談内容及び希望する苦情処理の方法を防止委員会委員長へ報告します。

(1) 申し入れは、行為者とされる者に対して（必要な場合は関係者にも）事実関係を確認の上、問題とされる行為があった場合はその行為を止めるよう、行為者に申し入れるものです。防止委員会委員長は、主事、学科長、専攻科長、事務部長又は課長に事実関係の確認及び行為者への申し入れを依頼する。

防止委員会委員長は、申し入れの内容について被害者又は行為者が納得できない場合は、「調停」又は「調査・措置」の手続へと進むため防止委員会へ報告します。この場合、被害者が特に希望する場合は被害者の氏名を明らかにしないで報告するものとします。

(2) 調停は、防止委員会委員３名が調停員となり、被害者及び行為者の双方の話し合いで紛争を解決する方法です。調停委員は、当事者間の話し合いに立ち会い、調停案を作成します。調停が成立したときは合意事項を文書で当事者に確認の上、防止委員会に報告します。

調停に当たって、当事者はいつでも調停を打ち切ることができます。また、調停委員が、適当な期間が経過しても合意が成立する見込みがないと判断した場合は、調停不成立として調停を終了させることができます。調停の打ち切り、または不成立になった場合は、被害者は防止委員会に「調査・措置」を申し立てることができます。

(3) 調査・措置は、キャンパス・ハラスメントの被害者が学校に対して行為者に何らかの措置を取ることを求める手続きです。

① 調査

校長は、被害者から、行為者に対して何らかの措置を望む申し立てが行なわれた場合は、キャンパス・ハラスメント調査委員会（以下「調査委員会」という。）を設置します。調査委員会には、必要に応じて外部から弁護士などの専門家を加えるなど、委員会の客観性・公平性の確保に配慮します。調査委員会が当事者又は関係者から事情聴取を行う場合は、当事者等のプライバシーに充分に配慮します。行為

者とされる者が一定期間内（原則として事情聴取要請後２週間以内）に事情聴取に応じなかった場合には，被害者の主張を重視します。
被害者が調査委員会の調査を受ける場合は被害者が希望する第三者の同席を求めることができます。なお，調査の過程で，当事者等が虚偽の申し立てや証言をした場合は，虚偽の申し立てによる人権侵害としてキャンパス・ハラスメントの行為者に該当する場合があります。また，行為者とされる者には，充分な弁明の機会が与えられます。調査委員会は，設置された日から２ヶ月以内をめどに調査を終了し，結果を直に防止委員会及び校長へ報告します。

② 措置
校長は，調査委員会からの報告を受け，被害者の不利益の回復，環境の改善，行為者に対する指導等の措置を決定します。措置が決定されたら，直ちに当事者にその結果が通知されます。当事者は決定された措置に不服のある場合は，校長に異議の申立てを行うことができます。

**特別な場合の相談**

本校教職員が，被害者から相談を受け，又は被害を直接見聞した場合において，その被害が重大であり学校として迅速な対応が必要と判断した場合は，その教職員は，被害者の意思にかかわらず，相談員又は防止委員会委員長へ被害の内容を報告しなければなりません。この場合，被害者の氏名を明らかにしないことを原則とします。

**校長への報告**

防止委員会委員長は，「申し入れ」及び「調停」を行った場合は，その内容を速やかに校長へ報告するものとする。

（出典　キャンパスハラスメント防止委員会資料）

資料７－２－①－12

**○セクシャル・ハラスメント等の防止について**

一般に，相手を不快にさせる性的な言動のことをセクシャル・ハラスメントと言います。このような行為は，単に相手を不快にさせるだけでなく，個人の尊厳や名誉を著しく傷つけることにもつながります。

皆さんが，卑猥な雑誌，写真、記事等を学校内に持ち込んで見たり，又は他人に見せたりすることなども，セクシャル・ハラスメントに相当する行為となります。

また，暴力やいじめなども絶対に許されない行為であり，これらについても，学校として学生を厳しく指導します。学生諸君は，このような行為を行うことのないよう十分に留意して，楽しい学校生活を送ることを期待しています。

万が一、嫌がらせ（ハラスメント）行為を受けた場合は、一人で悩まず、担任や学生相談室に相談しましょう。

**○事故防止・災害防止**

〔放課後・クラブ活動〕

放課後やクラブ活動中，あるいは休日における施設，設備の利用については，規則を遵守し，安全，事故防止に留意してください。

〔火災・地震発生時の注意〕

以下の事項に注意してください。

【火　災】

①非常放送（火災の発生現場・状況・避難指示等）をよく聞いたのち，教員（放課後はクラブ指導教員又はクラブ部長等）の指示に従って避難する。

②窓を閉め，障害物は撤去する。

③火災発生場所から遠ざかり風上へ避難する。

④あわてずに，私語を発せず，身体の弱い学生や女子学生を先に避難させる。

⑤煙を吸わないようにハンカチ等を口にあて，姿勢を低くする。

⑥避難場所（グランド）に避難し，点呼を受ける。

【地　震】

①地震発生時の指示（非常放送）をよく聞く。

②避難の際は，カバン等で頭部を保護する。

③大きな地震の場合は，教員の指示に従って避難する。

## ８　授業料等の減免及び各種奨学金制度について

授業料等の減免や各種奨学金の申請は、所定の期間内に行なう必要があり、期間を過ぎると受付けできません。申請方法・受付期間の案内は、電子メール、掲示等で通知しますので、見落としのないように注意してください。

**○入学料について**

(1) 入学料の免除

入学前１年以内において，入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し，又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合，その他特別な事情により入学料の納付が著しく困難であると認められる場合には，本人の申請に基づき選考の上，**入学料の全額若しくは半額を免除**することがあります。

（出典　学生生活の手引き　P.31）

資料７－２－①－13

# *高等専門学校奨学金を希望する皆さんへ*
# *［予約採用］*

第一種奨学金（無利子）

独立行政法人 日本学生支援機構
http://www.jasso.go.jp/saiyou/kousen.html

**日本学生支援機構では，高等専門学校に進学後，奨学金を希望する人を対象に，進学前に予約採用候補者の募集をしています。申込資格及び申込時期等は下記のとおりです。**

記

１．　申込資格

中学校，中等教育学校の前期課程並びに盲・ろう・養護学校の中等部（以下「中学校」という。）の第 3 学年に在学し，平成 22 年 4 月に高等専門学校へ進学する希望を持っている人で，人物・学業ともに優れ，健康上修学に支障がなく，経済的理由により修学が困難な人。外国籍の人は中学校に相談してください。

２．　申込時期

10 月初旬 ～ 11 月末。詳細は在学する中学校に確認してください。

３．　申込手続

(1) 現在通っている中学校を通じ，申込書類一式（申込案内，申込書等）を「日本学生支援機構」に請求してください。
(2) 申込案内に従って必要書類を整え，現在通っている中学校に提出してください。

４．　申込から奨学金振込まで

(1) 中学校長の推薦を受け，選考の結果「予約採用候補者」として決定します。
　＊ 申込者が全て候補者となるわけではありません。
(2) 高等専門学校へ進学後，所定の手続を経て，奨学金の振込が開始されます。

５．　貸与月額

進学後，毎月貸与される額は次表のとおりです。（平成 21 年度現在）

| 区　分 | 自宅通学 | 自宅外通学 |
|---|---|---|
| 国公立 | 21,000 円<br>又は 10,000 円 | 22,500 円<br>又は 10,000 円 |

（出典　奨学金募集要項）

資料７－２－①－14

## １ 日本学生支援機構奨学金

学業成績が優秀で健康であり，かつ，経済的に学費の支弁が困難であると認められた者は，選考の上，学校から日本学生支援機構に奨学生として推薦され，日本学生支援機構での審査を経て奨学生として採用されます。

奨学生の募集は４月以降に行う予定です。申請手続きの前に説明会を開催しますので，希望者は必ず出席してください。説明会の詳しい日時，場所等については，後日掲示板等で連絡します。

なお，平成 21 年度における国公立の高等専門学校に在籍している学生への第一種奨学金貸与月額は次のとおりです。

○　第一種奨学金（無利息）

| 学年 | 貸　与　月　額 | |
|---|---|---|
| | 自宅通学 | 自宅外通学※ |
| 1年～3年 | 21,000円 | 22,500円 |
| | 10,000円 | |
| 4年・5年 | 45,000円 | 51,000円 |
| | 30,000円 | |

※寮生の場合，「自宅外通学」に該当します。

## ２ (財)沖縄県国際交流・人材育成財団奨学金

国内の高等専門学校に在学する沖縄県出身の学生で，学業，人物ともに優秀で，かつ健康であり，経済的に学費の支弁が困難であると認められた者に対して，選考の上，奨学金が無利息で貸与されます。ただし，日本学生支援機構，地方公共団体又は民間育英団体等から奨学金の貸与を受けている者は対象になりません。

沖縄高専に在学する学生の場合，奨学金貸与月額は，**21,000円**（参考：平成 21 年度）です。また，出願書類の受付期間は例年３月中旬から４月中旬までとなっています。

なお，応募希望者は各自で(財)沖縄県国際交流・人材育成財団へ直接出願してください（募集要項は学生課学生係でも配布しています）。

※　財団への出願時に父母の住民票から転出している場合は，居住先（学生寮）の住民票抄本（本籍地記載）も提出することになりますので，住民票の発行をスムーズにするため４月５日（月）までに学生課学生係までご連絡ください。

## ３ その他の奨学金制度

地方公共団体（市町村）や民間育英団体等があります。これら奨学金の募集については，奨学団体から募集があり次第，掲示板等で通知します。

※　その他奨学金制度に関しては，学生課学生係までお問い合わせください。

【奨学金等についての問合せ先】

沖縄工業高等専門学校　学生課学生係
TEL：[redacted]
E-ma

（出典　平成 22 年入試説明会配布資料）

資料７－２－①－15

# 「天野工業技術研究所奨学金奨学生候補者」の募集について

下記のとおり、平成22年度「天野工業技術研究所奨学金奨学生候補者」を募集します。
申請を希望する場合は、提出期限までに必要書類を学生課学生係へ提出ください。

１．平成22年度奨学生

（１）対象者

平成22年度において第5学年に在学し、人物、学業ともに優れ、かつ、経済的理由により修学が困難と認められる者のうち、次の各号の基準をすべて満たすもの。

①第４学年の学年末の学業成績が所属学科内の上位４分の１以内である者

②直近３年間において懲戒処分を受けていない者

③平成21年度後期授業料免除において授業料の全額免除を受けた者

（２）推薦限度数　２名（順位を付して推薦します）

（３）奨学金の給付額

年額２０万円（全額給付。返還不要）

（４）提出書類

①天野工業技術研究所奨学金給付申請書

②推薦する候補者の口座振込依頼書※

（※推薦対象者および採用者に選考されなかった場合には、当該書類は破棄します。）

（５）提出期限

平成22年４月９日（金）

※申請者の「推薦調書」の作成を学科担任に依頼しますので、できるだけ早めに提出してください。

（６）その他

・申請〆切り後、３名以上の学生から申請があった場合は、学生委員会での審議により推薦対象者２名を決定します。

・推薦対象者２名のうち、上位の１名は原則として奨学生として採用されますが、もう１名については、各高専から推薦された者の中から、経済的困窮度の高い順に選考・決定されます。

（出典　平成22年天野工業技術研究所奨学金奨学生候補者募集資料）

資料７－２－①－16

**○奨学金制度について**

学業が優秀であって，学業を続ける希望を持ちながら経済的な理由によって学業を続けることを断念しなければならない者に対して，奨学金を貸与して学業を続けることを支援する制度です。

(1) 日本学生支援機構（旧日本育英会）

**第一種奨学金（無利息）**は，学業成績が優秀で健康であり，かつ経済的に学費の支弁が困難であると認められた者は選考の上，日本学生支援機構に奨学生として推薦します。日本学生支援機構で審査の上，奨学生として採用されます。

なお，**第二種奨学金（利息付）**は，４・５年生及び専攻科生が対象となります。

また、第一種奨学金と第二種奨学金の貸与を併せて受けることができます。

平成２１年度の日本学生支援機構の奨学金貸与額は，次のとおり選択できます。

○ 第一種奨学金

| 区　分 | 貸与額（月額）：１～３年次 | 貸与額（月額）：４～５年次及び専攻科生 |
|---|---|---|
| 自宅通学者 | 21,000 円または 10,000 円 | 45,000 円または 30,000 円 |
| 自宅外通学者 | 22,500 円または 10,000 円 | 51,000 円または 30,000 円 |

○ 第二種奨学金（４・５年生及び専攻科生対象）

貸与月額　30,000 円<br>50,000 円<br>80,000 円<br>100,000 円<br>120,000 円　｝左記の中から本人の希望により選択します。

※奨学生の募集は４月に行います。申請の手続きについて説明会を開きますので，申請希望者は出席してください。説明会の詳しい日時，場所等については，掲示板及び電子メール等で連絡します。

(2) 沖縄県国際交流・人材育成財団

国内の高等専門学校に在学する沖縄県出身の学生で，学業，人物ともに優秀で，かつ健康であり，経済的理由により学費の支弁が困難であると認められる者に対して，選考の上**奨学金を無利息で貸与**します。ただし，日本学生支援機構，地方公共団体又は民間育英団体等から奨学金の貸与を受けている者は対象になりません。

県内の国立高等専門学校に在学する学生の平成２１年度の奨学金貸与月額は，21,000 円となっています。

奨学生の募集は３月中旬から４月中旬頃です。希望者は学生課学生係へ問い合わせてください。応募は沖縄県国際交流・人材育成財団へ直接出願することになります。

(3) その他の奨学金制度

地方公共団体（市町村）や民間育英団体等があります。これらの募集については，奨学団体から募集があり次第，掲示板等で連絡します。

※その他詳しい内容等については，学生課学生係に相談してください。

（出典　学生生活の手引き　P. 32）

資料７－２－①－17

# 沖縄工業高等専門学校入学料、授業料の免除及び徴収猶予並びに寄宿料の免除に関する規程

［平成１６年 ４ 月 １ 日
規　程　第　９　号］

## 第１章　総則

（趣旨）

第１条　沖縄工業高等専門学校学則（平成16年学則第1号。以下「学則」という。）第４７条の規定に基づく入学料、授業料の免除及び徴収猶予（月割分納を含む。）並びに寄宿料の免除に関する取扱いに関しては、他の法令に定めるもののほかこの規程の定めるところによる。

## 第２章　入学料の免除

（免除の資格）

第２条　入学料の免除は、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）に入学する者（研究生、聴講生及び科目等履修生として入学する者を除く。以下同じ。）であって、次の各号の一に該当する特別な事情により納付が著しく困難であると認められる者について、本人の申請に基づき選考の上、独立行政法人国立高等専門学校機構理事長の承認を得て校長が許可する。

(1) 入学前１年以内において、本校に入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、又は本校に入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合

(2) 前号に準ずる場合であって、校長が相当と認める事由がある場合

２　前項に定めるもののほか、次の各号に掲げる未納の入学料についてもこれを免除することができる。

(1) 入学科の免除又は徴収猶予を申請した者について、免除又は徴収猶予を許可し又は不許可とするまでの徴収を猶予している期間内において死亡したことにより学籍を除いた場合

(2) 免除若しくは徴収猶予を不許可とした者又は半額免除を許可した者について、免除若しくは徴収猶予の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して１４日以内に死亡したことにより学籍を除いた場合

(3) 免除若しくは徴収猶予を不許可とした者又は半額免除を許可した者であって、免除若しくは徴収猶予の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して１４日以内に入学料を納付しないことにより学籍を有しないこととなる場合

(4) 徴収猶予を許可した者であって、徴収猶予期限までに入学料を納付しないことにより学籍を有しないこととなる場合

（免除の額）

第３条　免除の額は、原則として入学料の全額又は半額とする。

（免除の手続）

第４条　入学料の免除を受けようとする者は、入学手続き終了の日までに次の書類をもって校長に願い出なければならない。

(1) 入学料免除願（様式第１号）

(2) 家庭調書（様式第２号）

(3) 市区町村長が発行する所得証明書（様式第３号）

(4) 学資の支弁が困難であることを認定できる市区町村長の証明書（被災により納付が著し

く困難であることを認定できる市区町村長の証明書又はそれにかわる証明書）
(5) その他校長が必要と認める書類

## 第３章　入学料の徴収猶予

（徴収猶予）
第５条　入学料の徴収猶予は、本校に入学する者であって、次の各号の一に該当する場合に、本人の申請に基づき選考の上、校長が許可する。
(1) 経済的理由により、納付期限までに入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合
(2) 入学前１年以内において、学資負担者が死亡し、又は本校に入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに入学料の納付が困難であると認められる場合
(3) その他やむを得ない事情があると認められる場合
２　前項に定めるもののほか、入学料の免除又は徴収猶予を許可し又は不許可とするまでの間は、免除又は徴収猶予の申請をした者に係る入学料の徴収を猶予する。

（徴収猶予の手続）
第６条　入学料の徴収猶予を受けようとする者は、入学手続き終了の日までに次の書類をもって校長に願い出なければならない。ただし、免除の申請をした者については、免除の不許可又は半額免除の許可の告知を受けた日から起算して１４日以内に徴収猶予の申請を行うことができる。
(1) 入学料徴収猶予願（様式第４号）
(2) 家庭調書（様式第２号）
(3) 市区町村長が発行する所得証明書（様式第３号）
(4) 学資の支弁が困難であることを認定できる市区町村長の証明書（被災により納付が著しく困難であることを認定できる市区町村長の証明書又はそれにかわる証明書）
(5) その他校長が必要と認める書類

（徴収猶予の期限）
第７条　入学料徴収猶予の期限は、当該入学に係る年度の９月末日とする。ただし、特に必要がある時には、徴収猶予の期限を翌年２月末日まで延長することがある。

第８条　入学料の免除若しくは徴収猶予を不許可とされた者又は半額免除を許可された者（第６条ただし書きにより徴収猶予の申請をした者を除く。）は、免除若しくは徴収猶予の不許可又は半額免除の許可の告知を受けた日から起算して１４日以内に入学料の全額又は半額を納付しなければならない。

## 第４章　授業料の免除

（経済的理由による免除）
第９条　授業料の免除は、経済的理由により納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる学生について、本人の申請に基づき選考の上、校長が許可する。

（災害等による免除）
第１０条　次の各号の一に該当する特別な事情により授業料の納付が著しく困難であると認められる場合は、本人の申請に基づき選考の上、校長が当該事由の発生した日の属する期の翌期に納付すべき授業料の免除を許可する。ただし、当該事由発生の時期が当該期の授業料の

納期限以前であり、かつ、当該学生が当該期分の授業料を納付していない場合においては、当該期分の授業料を免除することがある。
(1) 授業料の各期ごとの納期前６月以内（新入学者に対する入学した日の属する期分の免除に係る場合は、入学前１年以内）において、学資負担者が死亡し、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合
(2) 前号に準ずる場合であって、校長が相当と認める事由がある場合

（免除の手続）
第１１条　授業料の免除を受けようとする者は、次の書類をもって校長に願い出なければならない。
(1) 授業料免除願（様式第５号）
(2) 家庭調書（様式第２号）
(3) 市区町村長が発行する所得証明書（様式第３号）
(4) 学資の支弁が困難であることを認定できる市区町村長の証明書（被災により納付が著しく困難であることを認定できる市区町村長の証明書又はそれにかわる証明書）
(5) その他校長が必要と認める書類

（免除の額）
第１２条　授業料免除の総額は、当該年度の学生（休学中の者を除く。）に係る授業料収入予定額の範囲内で、毎年度当初独立行政法人国立高等専門学校機構から通知を受けた額を超えないものとする。

（免除の取扱い）
第１３条　授業料免除の取扱いは、年度を二期に分けた区分によるものとし、各期ごとの授業料の納期限までに受理した願い出に対して、当該期分の授業料について許可し、免除の額は全額又は半額とする。
２　免除の許可は当該期限りとし、当該年度内の翌期及び次年度については、改めて申請しなければならない。

（免除の取消し）
第１４条　授業料の免除を許可された者で、その許可の決定後免除の理由が消滅した者については、校長が許可の取消しをする。

（休学による免除）
第１５条　学生が休学の許可を受けた場合は、次の算式により算定した授業料の全額を免除するものとする。

$$\text{授業料年額} \times \frac{\text{休学当月の翌月から復学当月の前月までの月数}}{12}$$

（死亡等による免除）
第１６条　学生が次の各号の一に該当する場合は、未納の授業料の全額を免除することがある。
(1) 死亡又は行方不明のために除籍された場合
(2) 授業料の未納を理由に除籍された場合
(3) 入学料の免除を不許可とした者又は半額免除を許可した者であって、第８条に定める期間内に入学料を納付しないことにより学籍を有しないこととなる場合

（徴収猶予中の退学者についての免除）
第１７条　授業料の徴収猶予を許可された者が、願い出により退学を許可された場合は、月割

計算により退学の翌月以降に納付すべき授業料の全額を免除することがある。

## 第５章　授業料の徴収猶予

（徴収猶予）

第１８条　授業料の徴収猶予は、学生が次の各号の一に該当する場合に、原則として本人の申請に基づき選考の上、校長が許可する。

(1) 経済的理由により納付期限までに授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合

(2) 行方不明の場合

(3) 学生又は学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに授業料の納付が困難であると認められる場合

(4) その他やむを得ない事情があると認められる場合

（徴収猶予の手続）

第１９条　授業料の徴収猶予を受けようとする者は、次の書類をもって校長に願い出なければならない。

(1) 授業料徴収猶予願（様式第６号）

(2) 家庭調書（様式第２号）

(3) 市区町村長が発行する所得証明書（様式第３号）

(4) 学資の支弁が困難であることを認定できる市区町村長の証明書（被災により納付が著しく困難であることを認定できる市区町村長の証明書又はそれにかわる証明書）

(5) その他校長が必要と認める書類

（徴収猶予の取扱い）

第２０条　授業料徴収猶予の取扱いは、年度を二期に分けた区分によるものとし、各期ごとの授業料の納期限までに受理した願い出に対して、当該期分の授業料について許可するものとする。

（徴収猶予の期限）

第２１条　授業料徴収猶予の期限は、前期分は９月末日、後期分は２月末日とする。

（月額分納）

第２２条　特別の事情があると認められる場合には、月割分納を許可することがある。

２　月割分納額は、授業料の年額の１２分の１に相当する額とする。

３　月割分納の納期は毎月末日までとする。ただし、休業期間中の分は、当該休業期間開始前に納付するものとする。

（月額分納の手続）

第２３条　月割分納許可を受けようとする者は、次の書類をもって校長に願い出なければならない。

(1) 授業料月割分納願（様式第７号）

(2) 家庭調書（様式第２号）

(3) 市区町村長が発行する所得証明書（様式第３号）

(4) 学資の支弁が困難であることを認定できる市区町村長の証明書（被災により納付が著しく困難であることを認定できる市区町村長の証明書又はそれにかわる証明書）

(5) その他校長が必要と認める書類

（月額分納の取扱い）
第２４条　月割分納の取扱いは、第２０条に準ずる。

（徴収猶予の取消し）
第２５条　授業料の徴収猶予を許可された者で、その許可の決定後に徴収猶予の理由が消滅した者については、校長が許可の取消しをする。

第６章　寄宿料の免除

（死亡等による免除）
第２６条　学生寮に入寮している学生が次の各号の一に該当する場合は、未納の寄宿料の全額を免除することがある。
(1) 死亡又は行方不明のため除籍された場合
(2) 授業料の未納を理由に除籍された場合
(3) 入学料の免除を不許可とした者又は半額免除を許可した者であって、第８条に定める期間内に入学料を納付しないことにより学籍を有しないこととなる場合

（災害等による免除）
第２７条　学生寮に入寮している学生又はその学資負担者が風水害等の災害を受け、寄宿料の納付が著しく困難であると認められる場合は、本人の申請に基づき選考の上、校長が災害の発生した日の属する月の翌月から起算して６月間の範囲内において寄宿料の全額免除を許可することがある。
２　校長が必要と認める期間が翌年度にわたる場合は、翌年度の当初改めて申請しなければならない。

（免除の手続）
第２８条　前条により寄宿料の免除を受けようとする者は、次の書類をもって校長に願い出なければならない。
(1) 寄宿料免除願（様式第８号）
(2) 家庭調書（様式第２号）
(3) 被災により納付が著しく困難であることを認定できる市区町村長の証明書又はそれにかわる証明書
(4) その他校長が必要と認める書類

第７章　雑則

（雑則）
第２９条　納付済の授業料、寄宿料を免除、徴収猶予の対象として還付することはしない。

附　則
この規程は、平成１６年４月１日から施行する。



（出典　沖縄工業高等専門学校入学料，授業料の免除及び徴収猶予並びに寄宿寮の免除に関する規定）

**○セクシャル・ハラスメント等の防止について**

一般に，相手を不快にさせる性的な言動のことをセクシャル・ハラスメントと言います。このような行為は，単に相手を不快にさせるだけでなく，個人の尊厳や名誉を著しく傷つけることにもつながります。

皆さんが，卑猥な雑誌，写真、記事等を学校内に持ち込んで見たり，又は他人に見せたりすることなども，セクシャル・ハラスメントに相当する行為となります。

また，暴力やいじめなども絶対に許されない行為であり，これらについても，学校として学生を厳しく指導します。学生諸君は，このような行為を行うことのないよう十分に留意して，楽しい学校生活を送ることを期待しています。

万が一、嫌がらせ（ハラスメント）行為を受けた場合は、一人で悩まず、担任や学生相談室に相談しましょう。

**○事故防止・災害防止**

〔放課後・クラブ活動〕

放課後やクラブ活動中，あるいは休日における施設，設備の利用については，規則を遵守し，安全，事故防止に留意してください。

〔火災・地震発生時の注意〕

以下の事項に注意してください。

【火　災】

①非常放送（火災の発生現場・状況・避難指示等）をよく聞いたのち，教員（放課後はクラブ指導教員又はクラブ部長等）の指示に従って避難する。

②窓を閉め，障害物は撤去する。

③火災発生場所から遠ざかり風上へ避難する。

④あわてずに，私語を発せず，身体の弱い学生や女子学生を先に避難させる。

⑤煙を吸わないようにハンカチ等を口にあて，姿勢を低くする。

⑥避難場所（グランド）に避難し，点呼を受ける。

【地　震】

①地震発生時の指示（非常放送）をよく聞く。

②避難の際は，カバン等で頭部を保護する。

③大きな地震の場合は，教員の指示に従って避難する。

## ８　授業料等の減免及び各種奨学金制度について

授業料等の減免や各種奨学金の申請は、所定の期間内に行なう必要があり、期間を過ぎると受付けできません。申請方法・受付期間の案内は、電子メール、掲示等で通知しますので、見落としのないように注意してください。

**○入学料について**

(1) 入学料の免除

入学前１年以内において，入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し，又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合，その他特別な事情により入学料の納付が著しく困難であると認められる場合には，本人の申請に基づき選考の上，**入学料の全額若しくは半額を免除**することがあります。

(2) 入学料の徴収猶予
次のいずれかに該当する場合に，本人の申請に基づき選考の上，**入学料の納付期限を延長**することがあります。
①経済的理由により，納付期限までに入学料の納付が困難であり，かつ，学業優秀と認められる場合
②入学前１年以内において，学資負担者が死亡し，又は本校に入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け，納付期限までに入学料の納付が困難であると認められる場合
③その他やむを得ない事情があると認められる場合
(3) 高等学校等就学支援金制度による助成（平成２２年３月現在国会審議中制度）
平成２２年４月に導入予定の高等学校等就学支援金制度により、本校在籍期間が３６ヶ月以内の１年生～３年生には、就学支援金として、年額１１８，８００円が助成されます（学生本人の申請により助成）。
また、低所得世帯の学生については、上記金額を１．５倍又は約２倍した額が助成されます。

**○授業料について**
(1) 授業料の免除
経済的理由により授業料の納付が困難であり，かつ，学業優秀と認められる場合又は休学，死亡等その他やむを得ない事情があると認められる場合には，本人の申請に基づき選考の上，**授業料の全部若しくは一部を免除**することがあります。
(2) 授業料の徴収猶予及び月割納付
特別な事情により授業料が期日までに納付できない場合は，本人の申請に基づき選考の上，**授業料の徴収を猶予し，又は月割納付を許可**することがあります。

**○寄宿料について**
**(1) 寄宿料の免除**
寮生又はその学資負担者が風水害等の災害を受け，寄宿料の納付が著しく困難であると認められる場合は，本人の申請に基づき選考の上，**災害の発生した日の属する月の翌月から起算して６ヶ月間の範囲内において寄宿料の全額を免除**することがあります。

**○上記制度の申請時期**
① 入学料免除及び徴収猶予
入学手続き時
② 授業料免除，徴収猶予及び月割納付
前期分：２月頃～４月上旬
後期分：８月頃～１０月上旬
※詳しい申請期間，申請書類の配付、説明会の開催等の詳細については，おって電子メール及び掲示板等で通知します。授業料免除等を申請する予定の学生は，学校からの通知に留意して下さい。
※１年生前期分については，入学前の入学説明会の際に新入生及び保護者を対象とした説明を行います。
③ 寄宿料の免除
その都度
※各種免除制度についての詳しい内容については，①及び②に関しては学生課学生係、③に関しては寮務係に相談してください。

（出典　学生の手引き P.31　抜粋）

資料７－２－①－19

平成22年　1月26日

学　生　諸　君

学　生　課　長

平成22年度前期分授業料免除説明会について（通知）

このことについて，下記のとおり開催しますのでお知らせします。

当日は授業料免除申請に際しての留意事項について説明すると共に，申請書類の配布を行います。申請を希望する学生は必ず出席してください。

記

日時　平成22年　2月　3日（水）　16時45分～17時45分

会場　視聴覚ホール　（メディア棟3階）

対象　・平成22年度本科2～5年次進級学生，専攻科2年次進級学生

・平成22年度本校専攻科入学学生

※申請書類は授業料免除説明会でのみ配布を行います。やむを得ない事情で出席できない学生は，2月3日（水）16時45分までに必ず学生係にメールで連絡してください。

※説明会の始めに出席を取りますので，遅刻しないようにしてください。

【問い合わせ先】

学生課学生係

E-mail [redacted]

TEL : [redacted]

（出典　学生課資料）

資料７－２－①－20

◇平成16年度奨学金受給実績

| 区分 | | | 本科 | | | | | 専攻科 | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 1年 | 2年 | |
| 支援機構学生 | 第一種奨学金 | 自宅通学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 自宅外通学 | 37 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 37 |
| | 第二種奨学金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他機関 | | | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 計 | | | 42 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 42 |
| 在学生数 | | | 175 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 175 |
| 全学生に占める割合 | | | 24% | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 24% |

◇平成17年度奨学金受給実績

| 区分 | | | 本科 | | | | | 専攻科 | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 1年 | 2年 | |
| 支援機構学生 | 第一種奨学金 | 自宅通学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 自宅外通学 | 34 | 37 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 71 |
| | 第二種奨学金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他機関 | | | 3 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 |
| 計 | | | 37 | 43 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 80 |
| 在学生数 | | | 166 | 172 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 338 |
| 全学生に占める割合 | | | 22% | 25% | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 24% |

◇平成18年度奨学金受給実績

| 区分 | | | 本科 | | | | | 専攻科 | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 1年 | 2年 | |
| 支援機構学生 | 第一種奨学金 | 自宅通学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 自宅外通学 | 29 | 45 | 34 | 0 | 0 | 0 | 0 | 108 |
| | 第二種奨学金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他機関 | | | 3 | 4 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12 |
| 計 | | | 32 | 49 | 39 | 0 | 0 | 0 | 0 | 120 |
| 在学生数 | | | 168 | 162 | 167 | 0 | 0 | 0 | 0 | 497 |
| 全学生に占める割合 | | | 19% | 30% | 23% | 0% | 0% | 0% | 0% | 24% |

◇平成19年度奨学金受給実績

| 区分 | | | 本科 | | | | | 専攻科 | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 1年 | 2年 | |
| 支援機構学生 | 第一種奨学金 | 自宅通学 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | | 自宅外通学 | 15 | 39 | 46 | 32 | 0 | 0 | 0 | 132 |
| | 第二種奨学金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他機関 | | | 3 | 4 | 3 | 6 | 0 | 0 | 0 | 16 |
| 計 | | | 18 | 43 | 49 | 41 | 0 | 0 | 0 | 151 |
| 在学生数 | | | 166 | 168 | 161 | 158 | 0 | 0 | 0 | 653 |
| 全学生に占める割合 | | | 11% | 26% | 30% | 26% | 0% | 0% | 0% | 23% |

◇平成20年度奨学金受給実績

| 区分 | | | 本科 | | | | | 専攻科 | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 1年 | 2年 | |
| 日本学生支援機構 | 第一種奨学金 | 自宅通学 | 0 | 0 | 0 | 6 | 15 | 0 | 0 | 21 |
| | | 自宅外通学 | 26 | 37 | 41 | 39 | 35 | 0 | 0 | 178 |
| | 第二種奨学金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 4 |
| その他機関 | | | 1 | 5 | 3 | 3 | 5 | 0 | 0 | 17 |
| 計 | | | 27 | 42 | 44 | 48 | 59 | 0 | 0 | 220 |
| 在学生数 | | | 172 | 158 | 164 | 181 | 145 | 0 | 0 | 820 |
| 全学生に占める割合 | | | 16% | 27% | 27% | 27% | 41% | 0% | 0% | 27% |

◇平成21年度奨学金受給実績

| 区分 | | | 本科 | | | | | 専攻科 | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 1年 | 2年 | |
| 日本学生支援機構 | 第一種奨学金 | 自宅通学 | 0 | 0 | 4 | 9 | 4 | 7 | 0 | 24 |
| | | 自宅外通学 | 53 | 40 | 43 | 45 | 51 | 4 | 0 | 236 |
| | 第二種奨学金 | | 0 | 0 | 0 | 12 | 6 | 9 | 0 | 27 |
| その他機関 | | | 1 | 1 | 4 | 3 | 3 | 0 | 0 | 12 |
| 計 | | | 54 | 41 | 51 | 69 | 64 | 20 | 0 | 299 |
| 在学生数 | | | 171 | 156 | 162 | 179 | 145 | 28 | 0 | 841 |
| 全学生に占める割合 | | | 32% | 26% | 31% | 39% | 44% | 71% | 0% | 36% |

◆日本学生支援機構奨学金　第一種及び第二種奨学金貸与月額表

| 学年 | | 第一種奨学金 | | 第二種奨学金 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 自宅通学 | 自宅外通学 | 自宅通学 | 自宅外通学 |
| 本科 | 1年 | 21,000円又は10,000円 | 22,500円又は10,000円 | | |
| | 2年 | | | | |
| | 3年 | | | | |
| | 4年 | 45,000円又は30,000円 | 51,000円又は30,000円 | 30,000円・50,000円・80,000円・100,000円・ 120,000円から選択 | |
| | 5年 | | | | |
| 専攻科 | 4年 | 45,000円又は30,000円 | 51,000円又は30,000円 | 30,000円・50,000円・80,000円・100,000円・ 120,000円から選択 | |
| | 5年 | | | | |

★その他の奨学金（貸与）

【沖縄県国際交流・人材育成財団】

| | 学科 | 貸与月額 | 貸与期間 | 貸与始期 | 採用学年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 16 | 情報 | ¥21,000 | 5年間* | 2004.4 | 1 |
| | 情報 | ¥21,000 | 5年間 | 2004.4 | 1 |
| | メディア | ¥21,000 | 5年間 | 2004.4 | 1 |
| 17 | メディア | ¥21,000 | 5年間* | 2005.4 | 1 |
| | 情報 | ¥21,000 | 5年間 | 2005.4 | 1 |
| | 生物 | ¥21,000 | 5年間 | 2005.4 | 1 |
| 18 | メディア | ¥21,000 | 5年間 | 2006.4 | 1 |
| | 機械 | ¥21,000 | 5年間 | 2006.4 | 1 |
| | 生物 | ¥21,000 | 5年間 | 2006.4 | 1 |
| 19 | 生物 | ¥21,000 | 5年間 | 2007.4 | 1 |
| | 生物 | ¥21,000 | 5年間 | 2007.4 | 1 |
| 20 | メディア | ¥21,000 | 5年間 | 2008.4 | 1 |
| | メディア | ¥21,000 | 5年間 | 2008.4 | 2 |

*退学により期間満了前に貸与終了

【あしなが育英会】

| | 学科 | 貸与月額 | 貸与期間 | 貸与始期 | 採用学年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 16 | 情報 | ¥25,000 | 5年間 | 2004.4 | 1 |
| | 生物 | ¥25,000 | 5年間 | 2004.4 | 1 |

★その他の奨学金（給付）

【オグレスビー氏奨学金】

| | 学科 | 給付額 | 学年 |
|---|---|---|---|
| 17 | 情報 | ¥50,000 | 2 |
| 18 | 情報 | ¥50,000 | 2 |
| 19 | 生物 | ¥50,000 | 2 |
| 20 | メディア | ¥50,000 | 2 |

【天野奨学金】

| | 学科 | 給付額 | 学年 |
|---|---|---|---|
| 19 | 情報 | ¥200,000 | 4 |
| 20 | メディア | ¥200,000 | 5 |
| 21 | 生物 | ¥200,000 | 5 |

【古岡奨学金】

| | 学科 | 給付額(年額) | 給付期間 | 貸与始期 | 採用学年 |
|---|---|---|---|---|---|

☆【沖縄工業高等専門学校奨学基金】

| 年度 | 学科 | 貸与額 | 学年 | 交付年月日 | 貸与額内訳 |
|---|---|---|---|---|---|
| 19 | 生物 | ¥122,100 | 3 | 平成19年10月5日 | 前期授業料117,300円、寄宿料4,800円 |
| | メディア | ¥191,422 | 2 | 平成20年3月28日 | 後期授業料117,300円、寄宿料4,200円、寮管理費69,922円 |
| 20 | 情報 | ¥117,300 | 3 | 平成20年9月30日 | 前期授業料117,300円 |
| | 機械 | ¥117,300 | 5 | 平成21年3月18日 | 後期授業料117,300円 |
| | 生物 | ¥103,238 | 3 | 平成21年3月31日 | 後期授業料半額58,650円、寮管理費34,228円、寄宿料9,600円、スポーツ振興センター共済掛金760円 |
| | メディア | ¥141,367 | 2 | 平成21年3月31日 | 後期授業料117,300円、寄宿料4,800円、寮管理費19,262円 |
| 21 | 生物 | ¥117,300 | 3 | 平成21年9月29日 | 前期授業料117,300円 |

平成 21 年度授業料免除実績

| 区分 | | 本科 | | | | | 専攻科 | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 1年 | 2年 | |
| 全額免除 | 前期 | 13 | 11 | 6 | 10 | 2 | 2 | 0 | 44 |
| | 後期 | 15 | 10 | 6 | 12 | 2 | 1 | 0 | 46 |
| 半額免除 | 前期 | 16 | 13 | 9 | 15 | 7 | 1 | 0 | 61 |
| | 後期 | 7 | 8 | 7 | 11 | 7 | 1 | 0 | 41 |
| 在学者数 | | 172 | 158 | 164 | 181 | 145 | 28 | 0 | 842 |

（出典　学生課資料）

資料７－２－①－21

# 沖縄工業高等専門学校進路委員会規則

平成２０年３月２５日
規　則　第　３　号

（設置）
第１条　沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校学生のインターンシップ並びに学生及び卒業生（以下「学生等」という。）の進学・就職に関する事項を審議するため、沖縄工業高等専門学校進路委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。
(1) 学生のインターンシップに必要な調査及び資料収集に関する事項
(2) 学生のインターンシップの開拓に関する事項
(3) 学生のインターンシップについて各学科間の連絡調整に関する事項
(4) 学生等の進学・就職に必要な調査及び資料収集に関する事項
(5) 学生等の就職先の開拓に関する事項
(6) 学生等の就職先の斡旋に関する事項
(7) 学生等に対する進路指導に関する事項
(8) 学生等の進学・就職について各学科間の連絡調整に関する事項
(9) その他学生のインターンシップ及び学生等の進学・就職に関する事項

（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 教務主事
(2) 各学科（総合科学科を含む。）所属教員　各１名
(3) 学生課長
(4) その他校長が必要と認めた者
２　前項第２号及び第４号に規定する委員の任期は１年とし、再任を妨げない。
３　前項の委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き、前条第１項第２号及び第４号の委員の中から、委員の互選によって定める。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した者が、その職務を代行する。

（委員以外の者の出席）
第５条　委員長は、必要があると認めた場合は委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を求めることができる。

（専門部会）
第６条　委員会は、必要に応じて専門部会を置くことができる。
２　専門部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

（報告）

（出典　沖縄工業高等専門学校進路委員会規則　抜粋）

資料７－２－①－22

【就職】就職情報の更新について(2010.6.16)　　mailbox:///C|/Users/Tama7/AppData/Roaming/Thunderbird/Prof...

**Subject:** 【就職】就職情報の更新について(2010.6.16)
**From:** 学生課学生係 <[redacted]>
**Date:** Wed, 16 Jun 2010 23:15:58 +0900
**To:** 専攻科all <[redacted]>, 本科all(専攻科除く) <[redacted]>
**CC:** 教員all <[redacted]>, 学生係 <[redacted]>

学生の皆さんへ

学生課学生係です。

下記に掲載中の平成23年3月卒業生向けの「就職情報」を更新しました。

¥¥leo¥public¥事務¥就職情報¥H23年度（H23.3月卒業向け）就職情報

追加項目は次のとおりです。

◇求人票一覧

平成23年度採用求人票（平成23年3月卒業予定者向け）

県内企業　230023　株式会社EM研究機構

県外企業　231218　和興エンジニアリング株式会社
　　231219　シチズンマイクロ株式会社

また、下記企業についても一部情報を追加しました。

231136　DIC株式会社（旧・大日本インキ化学工業）（求人票更新・応募〆切6/21）

本校図書館内就職コーナーでは，掲載企業の会社案内等も供覧中です（一部企業除く）。併せて就職活動等にお役立てください。

学外からの閲覧には、本校の教育支援ポータルサイト
(https://portal.okinawa-ct.ac.jp/portal/html/)をご利用ください。
求人一覧表を掲載しています。

**********
沖縄工業高等専門学校　学生課学生係　大里
905-2192 沖縄県名護市辺野古905番地
TEL：0980-55-4032　　FAX：0980-55-4012
e-mail：ggakusei@okinawa-ct.ac.jp
**********
[redacted]

1 / 1　　2010/06/25 14:46

（出典　就職情報の更新についてのメール）

（分析結果とその根拠理由）

学級担任・学科担任を中心にきめ細かく生活指導を行っている。健康面での相談・助言は保健室の看護師が常時対応し有効に利用されている。精神面での相談・助言は学生相談室が対応している。学生相談室はカウンセラーへの相談など有効に利用されている。キャンパスハラスメントに対しては相談窓口が設置されており，「学生生活の手引き」に記載することによりハラスメント防止と相談方法が学生へ周知されている。

経済面の支援として，奨学金および授業料免除に関する体制が整備されている。これらに関しては，学生に配布する「学生生活の手引き」や説明会を開催することで学生に周知している。奨学金及び授業料免除の利用実績は高く，学生は有効に支援を利用している。

就職等に係る指導・相談・助言を行う体制として進路委員会が設置されており，就職紹介などの体制が規則に定められている。就職情報は電子メールおよび学内ファイルサーバなどを利用して学生に提供されている。進学に関しては本校図書館で大学等の入試情報が常に公開されている。

以上により，学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能している。

**観点７－２－②：　特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば留学生，障害のある学生等が考えられる。）への生活支援等を適切に行うことができる状況にあるか。また，必要に応じて生活支援等が行われているか。**

（観点に係る状況）

本校では外国人留学生規定（資料７－２－②－１）に従った形で指導教員とチューターが中心となって，留学生に対する支援を行っている。チューターとなる学生には事前にチューターの役割を説明し（資料７－２－②－２），勉学，生活の両面で留学生の支援を行う体制となっている。チューターの行った留学生への支援内容については，毎月報告書を提出させ，支援内容の確認とチューターへの謝金支払いの根拠としている（資料７－２－②－３）。

さらに，留学生の生活支援のために学生寮を整備しており，生活習慣の違いや宗教上の理由で学生食堂や浴室を利用できない留学生のために調理設備を完備した補食室とシャワー室を設置している。（資料７－２－②－４）。また，留学生に対して，「寮生活の手引き」の英語版を作成して配布し，学生寮での生活が円滑となるよう配慮している（資料７－２－②－５）。

障害を持つ学生の支援は学生相談室が中心となって対応しており，学生相談室による特別支援の体制がとられている（資料７－２－②－６，資料７－２－②－７）。

また，学内の施設のバリアフリー化を進めており，車椅子でも利用可能なエレベーターやトイレ（資料７－２－②－８）を整備している。

資料７－２－②－１

# 沖縄工業高等専門学校外国人留学生規程

平成２０年４月１６日
規　程　第　５　号
改正　平成２１年１１月４日
規　程　第　１２　号

（趣旨）
第１条　この規程は、沖縄工業高等専門学校学則（平成16年学則第1号。以下「学則」という。）第５０条第３項及び沖縄工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則（平成16年規則第22号。以下「規則」という。）第１４条の４第２項の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）に受入れる外国人留学生（以下「留学生」という。）の入学、課程の修了及び卒業の認定等に関し必要な事項を定めるものとする。

（入学及び入学の時期等）
第２条　留学生の入学については、留学生が入学を希望する学科の当該学年の在学生数その他の状況に応じて、校長が決定する。
２　留学生の受入学年については、当該留学生の母国等での修得科目等を勘案して、校長が決定するものとする。
３　留学生の入学の時期は、原則として学年の始めとする。
４　留学生の受入時にあたって受入学年前の本校における学年の科目については、すべて修得したものとみなす。

（検定料、入学料、授業料及び検定料）
第３条　留学生に係る検定料、入学料、授業料及び寄宿料の額及び徴収方法は、独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則（平成１６年国立高等専門学校機構規則第３５号）の定めるところによる。
２　国費外国人留学生制度実施要項（昭和２９年文部大臣裁定）に基づく国費外国人留学生については、検定料、入学料及び授業料を徴収しないものとする。

（認定会議）
第４条　留学生の学年の課程の修了及び卒業の認定は、課程の修了及び卒業に関する認定会議の議を経て校長がこれを行う。

（卒業に必要な単位数）
第５条　留学生の卒業の認定にあたっては、学則第３８条第２項に規定する学則別表第３に定める単位数を修得していること、かつ、当該受入学科が作成する開設計画又は学修計画に定める科目を履修していることを基準とする。
２　前項において、修得すべき単位数は、当該留学生の入学時に修得したものとみなした単位数を含めて、一般科目８０単位以上、専門科目８７単位以上の合計１６７単位以上とする。

（特別な理由がある場合）
第６条　留学生の卒業認定にあたって、校長が特別な理由があると認めた者については、前条の規定にかかわらず認定会議の審議を経た上で、校長がこれを総合的に判定する。

（出典　沖縄工業高等専門学校外国人留学生規程　抜粋）

資料７－２－②－２

チューターの皆さんへ

１．チューターは、以下の物を速やかに留学生交流促進センターへ提出してください。
①学生証（給与システムに生年月日等を登録するためにコピーを取ります）
②学生本人名義の「給与の口座振込申出書」とキャッシュカード（又は通帳）の写し
③「平成２１年分給与所得者の扶養控除等申告書」　＊こちらに申告書あり

２．チューターの主な仕事は、学習・研究指導（予習・復習・試験勉強の手伝い等）を中心に日本語指導、日常生活の助言等を行なうことです。

３．チューターは、月末に「外国人留学生指導報告書（別紙様式２）」を作成し、外国人留学生、指導教員及びチューター本人の確認の印を捺印（留学生はサイン可）の上、留学生交流促進センターが指定する提出日までに（通常は毎月２５日）に必ず提出してください。

４．留学生交流促進センターで報告書を確認し、チューター謝金の振り込み手続きを行ないます。謝金は、毎月１７日（週末にかかる場合はその前日）に振り込まれます。

５．チューター実施時間数
毎月１５時間程度

※９月と３月は、休業期間のため実施しない。

※複数のチューターで同時に指導を行なわず、１対１で行なってください。実施時間が重複しないようにご注意ください。

６．チューター謝金単価
１時間当たり　８００円（専攻科生は別単価・８６０円）

７．チューターの実施内容
チューターの業務は、留学生の学習上の援助や日常生活の助言や手助けをすることです。報告書には、以下のような内容を記入ください。
また、実施時間は、１時間単位（〇〇分と記入しない。１時間以上）で行なってください。時間帯は、夕食を食べながら会話しても構いませんが、複数のチューターが同時に重複しないよう、別々の時間帯に行なってください。ただし、映画を見ている時間やゲームで遊んでいる時間などは、実施時間にカウントしないでください。

・学習上の援助とは、授業の予習・復習や試験対策を行なったり、授業が難しかったか感想を聞いたり、授業の内容について話題や、授業中に先生が話した連絡事項等（宿題をいつまでに提出、試験がいつにあるかなど）の確認を行なったり、会話をすることです。
・日常生活の助言や手助けとは、普段の日常会話で結構です。留学生の興味ある話題について話をしたり、相談に乗ったり、質問等があれば一緒に調べてアドバイスをしてください。部活動に関することや、寮の規則、学校行事、携帯電話やパソコン等の購入・修理の相談、アルバイト探しについての相談、出身国の話、夏休みの計画、ニュースやテレビ番組や映画の感想、話題は何でも構いません。出来る限り留学生と会話をするように気配りをしてあげてください。会話をすることで、留学生にとっては日本語の上達になります。
・留学生が役所等へ手続きに一人では不安なので、一緒に行ってもらいたいなどと相談があった場合、もし可能であれば、一緒に行って手伝ってあげてください。報告書には「市役所で○○の手続きを行なった」「銀行でキャッシュカードの申請手続きを行なった」などと記入してください。
その際には、月間時間数を大幅に超えないように気をつけてください。

その他に報告書の書き方など、不明な点があれば、留学生交流促進センターまでお問い合わせください。

（出典　学生課資料）

資料７－２－②－３

別紙様式２

（6月　表）

平成２２年度　外国人留学生指導報告書（５月２５日～６月２４日分）

沖縄工業高等専門学校長　殿

外国人留学生 [redacted] 工学科・コース [redacted] 年　氏名 [redacted] [redacted]
（専攻科の場合はコース名を記載）

留学生相談員 [redacted] 工学科・コース [redacted] 年　氏名 [redacted] [redacted]
（専攻科の場合はコース名を記載）

| 指導月日/実施時間帯 | 時間数 | 内　容 | サイン | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 5月26日（水）<br>実施時間帯<br>21:00～23:00 | 2 | ラウンジで微積分Ⅱの小テストに向けて勉強会 | [redacted] | 使用許可を貰った。 |
| 5月31日（月）<br>実施時間帯<br>16:40～17:40 | 1 | 高校総体のことについて，話した | [redacted] | 放課後 |
| 6月7日（月）<br>実施時間帯<br>16:00～17:00 | 1 | 微積分Ⅱのテスト勉強を一緒に行った | [redacted] | 放課後 |
| 6月8日（火）<br>実施時間帯<br>16:00～17:00 | 1 | テストの手応えはどうだったかや答え合わせをしながら会話をした。 | [redacted] | 放課後 |
| 6月10日（木）<br>実施時間帯<br>17:00～18:00 | 1 | コンピュータアーキテクチャのテスト勉強を一緒にした。 | [redacted] | 放課後 |
| 6月14日（月）<br>実施時間帯<br>17:00～18:00 | 1 | アルゴリズムとデータ構造の授業で出た課題を一緒に行った。 | [redacted] | 放課後 |
| 6月[redacted]日（月）<br>実施時間帯<br>17:00～18:00 | 1 | アルゴリズムとデータ構造の授業で出た課題を一緒に行った。 | [redacted] | 放課後 |
| 6月[redacted]日（月）<br>実施時間帯<br>18:00～19:00 | 1 | 回路シュミレータ「Micro Cap」の使い方を教えた。 | [redacted] | 放課後 |
| 6月22日（火）<br>実施時間帯<br>17:00～19:00 | 2 | レポートに使うグラフ作成ソフト「gnuplot[redacted]」の使い方を教えた | [redacted] | 放課後 |

＊裏ページに続く

（6月　裏）

| 指導月日/実施時間帯 | 時間数 | 内　　容 | サイン | 備 考 |
|---|---|---|---|---|
| 月　日（　）<br>実施時間帯<br>：　～　： | | | | |
| 月　日（　）<br>実施時間帯<br>：　～　： | | | | |
| 月　日（　）<br>実施時間帯<br>：　～　： | | | | |
| 月　日（　）<br>実施時間帯<br>：　～　： | | | | |
| 月　日（　）<br>実施時間帯<br>：　～　： | | | | |
| 月　日（　）<br>実施時間帯<br>：　～　： | | | | |
| 計 | | 8 日　11 時間 | | |

上記のとおり報告します。

平成22年 6月24日

指導教員　　所属：[redacted]

＊　外国人留学生指導報告書（以下 報告書）には実施の度に留学生よりサインをもらうこと。
＊　チューター（相談員）は一人当たり毎月１５時間平均で実施すること。
＊　報告書は毎月２５日（週末に当たる際にはその前の平日）に相談員本人が提出のこと。その際に翌月分の報告書用紙を配布する。（学校の休業期間や突然の閉校などにより変更の可能性あり）
＊　押印のある原本が提出された後、謝金支払への手続きとなる。

（以下事務処理用）

(1)必要があるときは、所要の変更を加えることができる。
(2)実施完了チェックは、留学生交流促進センターの教職員が確認し押印又は署名すること。

| 実施完了チェック |
|---|
| |

（出典　学生課資料）

資料７－２－②－４

# 留学生施設





留学生用補食室

# 留学生施設





シャワー室

（出典　学生課資料）

資料７－２－②－５

**Table of Contents**

New Students – Before Moving in ---------- P1
Purpose of the Student Dormitory
Preparing for Dormitory Living
Health
Moving in ---------- P2
Items needed for dormitory life
Prohibited items
Prohibition of Vehicles (Cars, Motorcycles, Scooters) and Bicycles
Dormitory facilities and equipment
Fees ---------- P6
Entrance fee
Dormitory administration fee
Meal expenses
Method of Payment
Primary fees at the Student Dormitory
Daily Rules ---------- P8
Schedule
Going Out
Returning home / Staying out
Doors Locked, Lights Out, Sleep
Use of Facilities and Equipment
Card keys, Room keys
Dormitory Guidance
Student Dorm Leaders/ Group Leaders
Resident's association
Cleaning / Meals
Health / Hygiene
Disaster and Safety
Sending and Receiving Mail
Cautions
Moving in and out of the Dormitory
Main Types of Forms ---------- P14
Room Floor Plan(Double Room) ---------- P16
Student Dormitory Evacuation route ---------- P17
Okinawa National College of Technology Dormitory Administration Regulations
---------- P19

New Students – Before Moving In –

Purpose of the Student Dormitory

The Okinawa College of Technology Dormitory's purpose is to provide a facility that "enables a complete learning environment, provides the basic necessities for living and nurtures students' sociability." It is not a facility whose sole purpose is to lessen the commute to and from school for students. The complete dormitory system for 1st and 2nd year students is considered to be an important aspect of living in the dormitory and studying at the school.

Through the communal living at the dormitory, students learn to be independent, take responsibility for their actions, respect and help other residents, and forge lifelong friendships.

Preparing for Dormitory Living

Because the dormitories are both a place of learning and residence, there are a number of rules. When living at the dormitory you will not be able to lead the same lifestyle that you are used to at home. Residents are expected to obey the rules of the school and the dormitory as well as help each other to attain a harmonious communal living environment. Students are expected make an effort to lead an autonomous dormitory lifestyle.

The Okinawa College of Technology is only in its 4th year of operation. There are a number of matters concerning dormitory lifestyle that still need to be decided by students and teaching staff combined. As you begin your new life as a dormitory resident, understand and accept responsibility for the rules that have been instituted for you by senior students of earlier years and also realize that it is you that makes the Okinawa College of Technology student dormitory.

Health

You are about to embark on your new life as a dormitory resident and as such there are going to be some big changes in your living environment. Please bear the following points in mind:

① Take care of yourself before you move in.
② If you need health care at a hospital after moving in to the dormitory, remember to complete an "Resident's Statement".
③ Please complete a "Resident's Statement" if you have any special conditions or illnesses.
④ Please complete a "Resident's Statement"if you need to take medicine on a regular basis after moving in.

□ Please keep this "Dormitory Guide" in a safe, easily accessible place once you have moved in.

Moving In

Items needed for dormitory life

The majority of the items that you will need to bring with you in order to lead an independent lifestyle while living at the dormitory are listed below.　Please ensure you obey the following points when bringing these items to the dormitory.

| Needed Item | Points to remember |
|---|---|
| Personal Seal | 認印（Your own personal seal, a stock seal is not permissible）<br>※required for application and notification forms, and for receiving mail etc |
| Personal Care and bathing items | Wash bowl, Cup, Toothbrush, Towel, Soap, Shampoo etc |
| Padlock | Must be at least 3mm in diameter, and approximately 25mm high by 35mm wide (used for your closet)<br>※Two are needed.　One also for your school locker. |
| Bedding | Duvet, Mattress futon, Blanket, Pillow, Sheets, Mattress (this can be lent to those wishing to use a tatami mat)<br>※for hygiene reasons, students are expected to take bedding home during extended vacations. |
| Consumables | Trash can, cleaning products (cleaning cloths etc for room), clothes hangers, slippers, laundry basket, laundry powder, flashlight, umbrella |
| Other | Enkaku Insurance(Insurance for family living separately)<br>Cold medicine, Stomach medicine, Aspirin (or like painkillers)<br>Any medicines needed for existing conditions or illnesses should be brought with you |

※ Personal items brought with you must be stored in your own room.

Prohibited Items

The majority of your dormitory life will be spent in a group environment. In order to preserve this group environment and to avoid overuse of electricity, fire hazards, and other non-desirable outcomes, the following items may not be brought to or used in the dormitory. If these items are brought to the dormitory they will be confiscated, held at the dormitory office and sent back to the student's home postage due. Depending on the item, disciplinary action may be needed and a student's place in the dormitory may be jeopardized when it is time for re-application for residence.

| Type | Item |
|---|---|
| Electrical Goods | Refrigerators, Televisions, VCRs, Game consoles, Large stereos etc. Other items which require more than 1000w or 10A to run. |
| Thermo-electric goods | Electric Pots, Cooking Tables, Toasters, Stoves, Irons, Kotatsu, Electric Blankets, Futon Dryers, any product that runs on gas or oil based products that have the potential to cause a fire. |
| Communication products | All items prohibited by the Information Processing Center. |
| Other | Percussion instruments, 花札, Majon boards etc, and other items that may cause disruption to normal dormitory living.<br>Table top cookers, Lighters and other items that may cause a fire. |

※ Items that are not banned may be used and stored in your own room.

Prohibition of Vehicles (Cars, Motorcycles, Scooters) and Bicycles

In accordance with the regulations governing Okinawa College of Technology Student use of vehicles, it is prohibited for a dormitory student to possess a vehicle or bicycle. Neither may be brought to the dormitory.

Dormitory Facilities and Equipment

The dormitory is a communal living facility and therefore has rooms and equipment that must be shared. Students should take care to keep these communal areas clean and tidy and use them responsibly.
Students should also take care not to move or dirty the beds and desks that are in their rooms.

| Location | Equipment |
|---|---|
| Room (approx 17.5 $m^2$) | Desk (light), chair, bed, air conditioner, storage (closet, bookcases), shoe box, closet safe (for valuables). |
| Toilet / washstand | Located on each floor |
| Bath / shower room | There is a dryer located in the changing room (bathroom only).<br>※ Please keep the bathroom clean. Cleaning should be carried out on a roster system. |
| Laundry | Automatic washing machine, dryer, iron, and ironing board. |
| Kitchenette | Refrigerator, IH cooking heater, fry pan, IH pots, kettle, microwave oven, toaster, waste disposal unit, water dispenser<br>※ Please take when using this equipment, especially the IH heater and the microwave oven. Make sure you clean up after using the kitchenette. |
| Lounge (study room) | Television, VCR / DVD player etc. Desks, Chairs, Information socket |
| Restaurant | Located over the bridge on the school grounds.<br>※ Three well balanced nutritional meals are served each day. |

| | |
|---|---|
| Office | The first floor of the communal building is where mail and packages are distributed, are notices to students are given, and where students should submit any notification forms they have. As a general rule however, all of these services conclude each day at 20:00. There will be a student affairs staff member present during the day and the teacher on duty that day will be present at night and on holidays (during the night however the duty staff will be in the back office). |
| Security Office | First floor communal building<br>※ Security and safety control systems are located here. There is also a security guard on duty during the night. Security guards are also patrolling the dormitory and school grounds. |
| Night office 2 | Located on the 5th floor of the communal building.: The on-duty teaching staff may be found here during the night. |
| Counseling room | Located on the 5th floor of the communal building: On-duty teaching staff may be found here until 20:10 in the evening. |
| Public phone | Located in the lobby on the first floor. |
| Vending machines | Located in the lobby on the first floor and in front of the multi-purpose room on the 5th floor. |

Fees

When moving in to the dormitories, in addition to your room rent, students are expected to cover the costs associated with meals and other expenses necessary for daily living.

Entrance Fee

The dormitory entrance fee is used to purchase items needed upon moving in.

Dormitory Administration Fee

The administration fee is used to cover communal expenses including electricity, water, fuel (boiler costs etc), and consumables (toilet paper etc). The costs of electricity, water, fuel, and consumables are divided evenly among all residents.

Meal expenses

Meal expenses are made up of costs for ingredients and preparation related expenses. Meal expenses are paid directly to the catering company responsible for providing the meals.

※ For students who are returning home and will therefore miss more than three meals, a Meal Absence form should be submitted indicating your intent by 20:00 no less than 2 working days before your absence. Students may be reimbursed by the catering contractor for the number of the meals they miss (e.g. If a student will be absent from meals from Friday to Sunday, notification must be submitted by Tuesday. The student will then be reimbursed for a total of 7 meals.)
The amount accrued for the semester will be transferred to a designated account at the end of that semester.

Method of Payment

Boarding fees, meals, and administration fees will be collected via automatic payment from a designated bank account so please ensure that the correct amount is deposited into the account no later than the day prior to the payment date.
In the event that there are insufficient funds in the account, payment in full is required the following month.

Primary fees at the Student Dormitory

| Expense | Amount | Payment Due | Person in Charge | Notes |
|---|---|---|---|---|
| Boarding fees | Single room 4,800 yen Double room 4,200 yen | April and October (date to be advised) | Accounting Section | |
| Entrance fee | 3,000 yen | (date to be advised) | Student Affairs Section | Exempt for returning residents |
| Administration fee | 3,000 yen / mth | Designated day each month | Student Affairs Section | Not collected in September |
| Electricity | Calculated based on usage | Designated day each month | Student Affairs Section | Based on usage. Deducted at the same time as administration fee. |
| Meals | 935 yen/day | Designated day each month | Student Affairs Section | Will vary depending on the number of meals each month |
| Bedding rental | 14,700 yen/mth | Designated date | Student Affairs Section | Optional. Amount to be transferred directly to bedding rental company. |

Daily Rules

Schedule

The following schedule has been created to assist students to lead a healthy lifestyle.

Daily Schedule

| | Weekday (Mon-Fri) | Weekend / holidays | Notes |
|---|---|---|---|
| Wake up | 7:00 □ | 7:30 □ | |
| Roll call | 7:10 | 7:40 | Roll call in front of each room |
| Wash / clean | 7:20 – 7:30 | 7:50 – 8:00 | Rooms are cleaned each day |
| Breakfast | 7:30 – 8:20 | 8:00 – 9:00 | |
| Go to school | 8:20 – 8:30 □ | | Students may not stay in their rooms even if they have no scheduled class |
| Class | 8:30 – 15:00 | | |
| Lunch | 12:10 – 13:00 | 12:00 – 13:00 | |
| Dinner | 17:00 – 20:00 | 17:00 – 20:00 | |
| Bath | 17:00 – 20:30 | 17:00 – 20:30 | |
| Curfew | 20:10 | 20:10 | Dormitory doors are closed |
| Roll call | 20:40 □ | 20:40 □ | Roll call in front of each room |
| Cleaning | 20:40 – 21:00 □ | 20:40 – 21:00 □ | |
| Private study | 21:00 – 23:00 | 21:00 – 23:00 | Silent study time |
| Lights out | 23:30 | 23:30 | |

－ 8 －

（出典　寮生活の手引き・英語版）

資料７－２－②－６

平成２２年度　学生相談室運営委員会委員（９人）

| 所　属 | 職　名 | 氏　名 | 任　期 | 内線番号 | 区分 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| メディア | 准教授 | 西村　篤 | 22.4～23.3 | [redacted] | | 委員長 |
| 機　械 | 准教授 | 比嘉　吉一 | 22.4～23.3 | | | |
| 情報通信 | 教　授 | 石田　修己 | 22.4～23.3 | | | |
| メディア | 准教授 | ﾀﾝｽﾘﾔﾎﾞﾝ・ｽﾘﾖﾝ | 22.4～23.3 | | | |
| 生物資源 | 助　教 | 磯村　尚子 | 22.4～23.3 | | | |
| 総合科学 | 准教授 | 澤井　万七美 | 22.4～23.3 | | | |
| 事務部 | 学生課長 | 南部　元義 | 22.4～23.3 | | | |
| 事務部 | 看護師 | 武村　クニ子 | 22.4～23.3 | | | |
| 総合科学 | 教　授 | 小池　寿俊 | 22.4～23.3 | | | |

（出典　学生相談室資料）

資料７－２－②－７

資料5-2

平成22年4月21日

沖縄工業高等専門学校
教職員各位

校長　伊東　繁

特別支援への理解と協力のお願い

[redacted]相談を受けていた旨の報告を受けています。

本校としては、この学生の修学と卒業後の自立に向けて、出来る限り本質的かつ具体的な支援をすることとします。

校長としては、本校に特別支援に関する既存の制度がないことから、学生相談室長に、本件への対応のための学内調整、ならびに特別支援の制度化の推進を指示しました。

今後、学生相談室を通じて特別支援に関する個別の依頼がありましたら、各位のご理解と積極的なご協力を願います。

なお、個別の依頼を受けた際に知り得た学生の個人情報（誰がどのような障害を持っているかなどを含め）については、学生や学外の者への漏えいがないように十分ご注意願います。教職員間の情報共有は必要に応じて行い、迅速かつ適切な対応を心掛けて下さい。

本件に関する、意見・質問等があれば、学生相談室長（西村准教授）までお尋ね下さい。

以上

# 沖縄高専における特別支援ビジョンと具体案

平成22年4月28日
教員会議資料
学生相談室長・西村篤

資料5－1

1

## ビジョン（１）支援の目的

- 障害学生の自立
  - 「自立のために最も必要な能力は、自分の障害の状態や、何が出来て何が出来ないかを、周りの人にわかりやすく説明できる能力」
- 障害学生との共学が周りの学生を育てる
  - 経費適用の根拠にもなる
- 障害学生への対応が組織全体のスキルアップに繋がる



## ビジョン（２）基本理念

- ノーマライゼーション社会の実現に向けて
  - 健常者中心に設計された既存の制度の問題点に目を向ける必要
- 修学のための本質的かつ具体的な支援を
  - 一般的なバリアフリー化ではなく、具体的ニーズに対応するための重点的な整備が大切

2

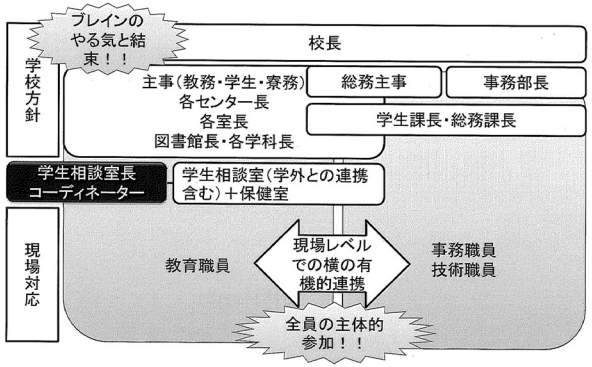


## ビジョン（３）支援の実際

- 支援は全学体制で！
- 窓口は一元化！
- 障害学生の主体的関わりを重視
- 学校の個性を生かした支援体制
  - 「他校の模倣ではなく、目の前の学生と話あい、知恵を出し合って、他の学生と同じように修学できるよう支援する。」

3

## 学内制度の整備（2）組織






## 本校ではまず何が必要か？
## 制度化の22年度重点課題

- 学生相談室を特別支援のコアに
  - 窓口の一元化
  - 相談室長がコーディネーター
- 支援申し込み手続きの規則化
  - 学生からの支援申し込みの手続き
  - 支援決定後の依頼手続き

まずは
入口から

- 並行してスタッフの意識と技術の向上を急ぐ
  - 「気になる学生」事例収集＞教員の気づき力向上
  - 専門家を招いて研修会

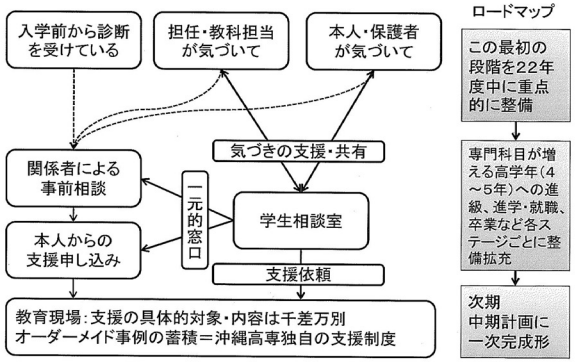


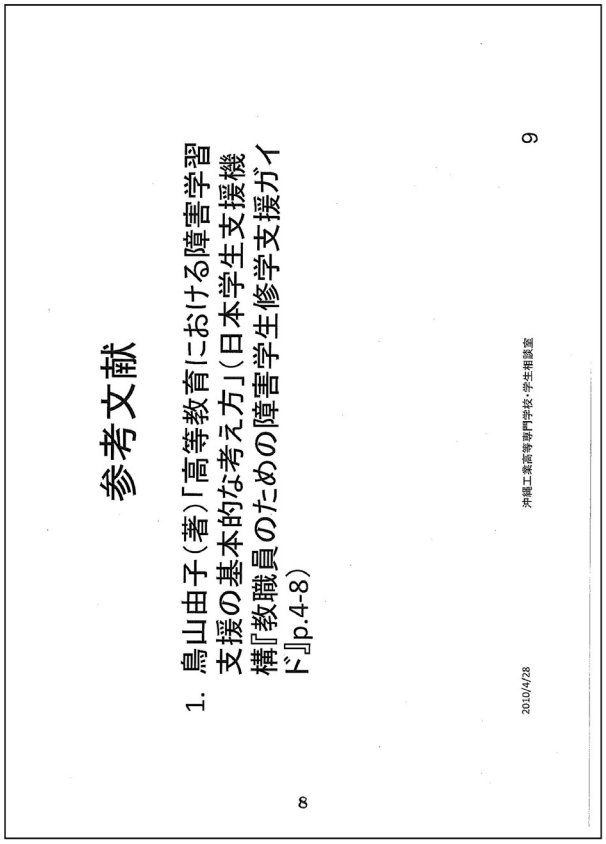
## 現時点での具体的ニーズと取り組み

- 特別支援対象学生（平成22年度入学生）
- 本人・教員の気づきの段階
  - 発達障害の可能性がある学生（少なくない）
  - 身体障害・疾病
- 他にも？「気になる学生」事例収集
  - 目的＝教員の気づきの力の向上
  - 何か問題を抱えているかも？支援すればうまくいくかも？という気持ちを持って学生に接することが大切。
  - 活用案1：典型的な事例について専門家の意見を聞く、教員同士の意見交換、など。
  - 活用案2：個別的・緊急的な事例は相談室がフォロー
- 学内研修会等の充実



## 学内制度の整備（1）支援の流れ





# 参考文献

1. 鳥山由子（著）「高等教育における障害学習支援の基本的な考え方」（日本学生支援機構『教職員のための障害学生修学支援ガイド』p.4-8）

8

2010/4/28　沖縄工業高等専門学校・学生相談室　9

（出典　運営企画会議資料　抜粋）

資料７－２－②－８

# バリアフリー施設





エレベータ

# バリアフリー施設





トイレ（１階学生寮事務室横）

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

外国人留学生には指導教員とチューターが中心となって勉学，生活の両面で支援を行っている。さらに，留学生の生活支援のために学生寮を整備しており，生活習慣の違いや宗教上の理由に配慮した設備を設置している。また，学生寮の手引きの英語版を作成して配布し，学生寮での生活が円滑となるよう配慮している。

障害を持つ学生の支援は学生相談室が中心となって対応しており，学生相談室による特別支援の体制がとられている。学内の施設のバリアフリー化が進められている。

以上から，特別な支援を行うことが必要と考えられる者への生活支援等を適切に行うことができる状況にあり，必要に応じて生活支援等が行われている。

**観点７－２－③：　学生寮が整備されている場合には，学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。**

（観点に係る状況）

本校には「学習の充実を図り，基本的な生活態度や社会性を身につけ人間的成長を促進させる」ことを目的として学生寮を設置しており，平成 21 年 10 月現在 552 名の学生が入寮している（資料７－２－③－１）。学生寮を管理運営するために学生寮管理運営規則が定められ（資料７－２－③－２），それに従った管理体制が整備されており，夜間や休日の昼間に発生する緊急事態に対応するため宿日直が行われている（資料７－２－③－３）。

学生寮には学生に対する生活と勉学を支援するための居室や浴室，捕食室が整備されている（資料７－２－③－４）。学生からの様々な相談に応じるための相談室も整備されている（資料７－２－③－５）。

学生に対しては「寮生活の手引き」を配布し（資料７－２－③－６），学生寮における円滑な集団生活を送るための心構えや規則を周知している。また，決められた日課に従った規則正しい生活習慣と学習習慣を身につけるため寮日課を定めている（資料７－２－③－７）。特に毎日 21:00～23:00 までは学習時間帯として寮日課で定め，自室内で静かに学習するよう指導をしている。

資料７－２－③－１

# 学生寮 Dormitory

平成 21 年 5 月 1 日現在　As of May 1, 2009

本校には約 560 人収容できる学生寮があります。
１・２年生は全寮制、３年生以上は入寮希望者の中から選考により入寮が許可されます。また、原則として１年生は２人部屋、２年生以上が１人部屋に入ることになります。
本校の学生寮は単に通学の便宜を図るためだけでなく、「学習の充実を図り、基本的な生活態度や社会性を身につけ人間的成長を促進させる」ことを目的とした教育施設としての役割も果たしています。
カードキー、防犯カメラ、赤外線センサーなどの警備設備のほか、当直教職員２名と守衛が寮内の安全を保持しています。

Okinawa National College of Technology has housing for about 560 students. It is mandatory for first- and second-year students to live in the dormitory. Third-year students and older can live in the dorm on a voluntary basis, but the number of rooms available for these applicants is limited. Double rooms are generally assigned to first-year students and single rooms are for second-year students and older. Living in the dormitory makes it easy to attend classes and study in the quiet atmosphere. The dormitory is also an educational facility for students to learn the basic attitude of how to live together, cooperate with other students, and promote personal growth. In addition to card keys, crime-protection cameras and infrared sensors, two faculty members,and security guards stay there at night to assure safety for the students in the dormitories.

## 学生寮経費 Dormitory Expenses

| | | | |
|---|---|---|---|
| 寄宿料 Boarding Fees | （２人部屋）Double Rooms | 月額 Monthly | 700 円 |
| | （１人部屋）Single Rooms | | 800 円 |
| 給食費（３食）Meal 3 Meals | | 日額 One Day | 930 円 |

1　このほか寮管理費（光熱費、消耗品費等）がかかります。
The dormitory management bills (heating, lighting and supplies expenses, etc.) will be charged in addition to the regular fees.
2　寄宿料は年２回（前期・後期）、６カ月分をまとめて徴収します。
Boarding fees are collected twice a year.

## 収容定員と入寮者数 Admission Capacity and Present Number

| | | | 男子寮 Male Dormitory | 女子寮 Female Dormitory | 計 Total |
|---|---|---|---|---|---|
| 入寮者数 Number of Boarders | 本科 | １年 1st | 126 | 46 | 172 |
| | | ２年 2nd | 129 | 28 | 157 |
| | | ３年 3rd | 88 | 25 | 113 |
| | | ４年 4th | 50 | 33 | 83 |
| | | ５年 5th | 20 | 11 | 31 |
| | 専攻科 | １年 1st | 2 | 0 | 2 |
| | 計 Total | | 415 | 143 | 558 |

## 学科別入寮状況 Students in Dormitories by Departments

| 学科 Departments | 学年 Year | 男子寮 Male Dormitory | 女子寮 Female Dormitory | 計 Total |
|---|---|---|---|---|
| 機械システム工学科 Mechanical Systems Engineering | １年 1st | 42 | 1 | 43 |
| | ２年 2nd | 33 | 5 | 38 |
| | ３年 3rd | 22 | 1 | 23 |
| | ４年 4th | 15 | 1 | 16 |
| | ５年 5th | 6 | 0 | 6 |
| 情報通信システム工学科 Information and Communication Systems Engineering | １年 1st | 35 | 9 | 44 |
| | ２年 2nd | 37 | 2 | 39 |
| | ３年 3rd | 27 | 3 | 30 |
| | ４年 4th | 19 | 5 | 24 |
| | ５年 5th | 4 | 2 | 6 |
| メディア情報工学科 Media Information Engineering | １年 1st | 25 | 18 | 43 |
| | ２年 2nd | 29 | 13 | 42 |
| | ３年 3rd | 19 | 11 | 30 |
| | ４年 4th | 13 | 11 | 24 |
| | ５年 5th | 7 | 4 | 11 |
| 生物資源工学科 Biorasources Enginnering | １年 1st | 24 | 18 | 42 |
| | ２年 2nd | 30 | 8 | 38 |
| | ３年 3rd | 20 | 10 | 30 |
| | ４年 4th | 3 | 16 | 19 |
| | ５年 5th | 3 | 5 | 8 |
| 専攻科 Advanced Course | １年 1st | 2 | 0 | 2 |
| 計 Total | | 415 | 143 | 558 |

## 居室数 Number of Rooms

| | 男子寮 Male Dormitory | 女子寮 Female Dormitory |
|---|---|---|
| １人部屋 Single Rooms | 300 室 | 104 室 |
| ２人部屋 Double Rooms | 60 室 | 20 室 |
| 合計 Total | 360 室 | 124 室 |



居室　Dorm　Room

## レストラン Cafeteria

晴れた日にはきれいな太平洋の眺めも楽しめるレストランは、全 380 席の寮生食堂のほか、教職員や寮生以外の学生のための一般食堂があります。ほかに学生会室、和室があり、学生が集まる憩いの場所になっています。

The 380-seat cafeteria with a scenic view of the Pacific Ocean serves students, faculty members and visitors. The student council room and tatami room located in the cafeteria are the places for students to rest and relux.



昼食時間　Lunch Time

26

（出典　2009学校要覧　P. 26）

資料７－２－③－２

# 沖縄工業高等専門学校学生寮管理運営規則

平成１６年４月１日
規　則　第１９号
改正　平成１９年３月３０日
規　則　第７号
平成２１年３月１８日
規　則　第１０号
平成２１年７月１５日
規　則　第１４号

（趣旨）
第１条　この規則は、沖縄工業高等専門学校学則（平成16年学則第１号。以下「学則」という。）第６９条第３項の規定に基づき、学生寮の管理運営について、その円滑かつ適正な運用を図るため必要な事項を定めるものとする。

（目的）
第２条　学生寮は、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育施設であって、学生に対して学校生活への適応を促進するとともに、共同生活を営むことにより友情、互助、寛容等の精神を養い、人間的成長を助長することを目的とする。

（遵守義務）
第３条　寮生は、本校の諸規則、寮生心得及び教職員の指示に基づき行動しなければならない。

（管理運営）
第４条　学生寮の管理運営責任者は、校長とする。
２　寮務主事は、校長の命を受け、学生主事と常に緊密な連絡を保ち、寮務主事補の協力を得て学生寮における教育及び生活指導の業務を掌理する。
３　学生寮の管理運営に関する事務は、事務部の所掌とする。

第５条　学生寮の管理及び寮生の生活指導を行うため、学生寮に当直教職員を置く。

第６条　寮生の日常生活の世話及び相談に対処するため、学生寮に指導員を置く。

第７条　低学年寮生に対する指導を補助させるため、学生寮に指導寮生及び班長を置く。
２　前項に規定する指導寮生及び班長の選考、任期等については、別に定める。

（会議）
第８条　学生寮の管理運営に関し具体的事項を審議するため、本校に沖縄工業高等専門学校学生寮委員会（次項において学生寮委員会という。）を置く。
２　学生寮委員会に関する事項は、別に定める。

（入寮）
第９条　学生寮には、本校の学生に限り入寮させる。

第１０条　本校に入学を許可された第１学年及び第２学年の学生は、在学期間中、学生寮に入寮して教育を受けるものとする。
２　入寮に際しては、保証人連署の入寮誓約書（様式第１号）を提出しなければならない。

第１１条　第３学年以上の学生で、第２学年に引き続き在寮を希望する者又は新たに入寮を希望する者は、所定の入寮希望者募集期間に保証人連署の入寮願（様式第２号）及び入寮誓約

（出典　沖縄工業高等専門学校学生寮管理運営規則　抜粋）

資料７－２－③－３

沖縄工業高等専門学校

## 1. 学寮の指導体制（平成２１年度）

(1) 寮務一般

寮務主事１名，寮務主事補６名

(2) 学生寮委員会の構成

| | |
|---|---|
| 寮務主事（委員長） | １名 |
| 寮務主事補 | ６名 |
| 学生主事 | １名 |
| 学生課長 | １名 |

(3) 宿日直

宿直：２名（教員，職員各１名（男性２名，または男女各１名）で輪番制）

勤務時間　１７時００分～翌８時３０分

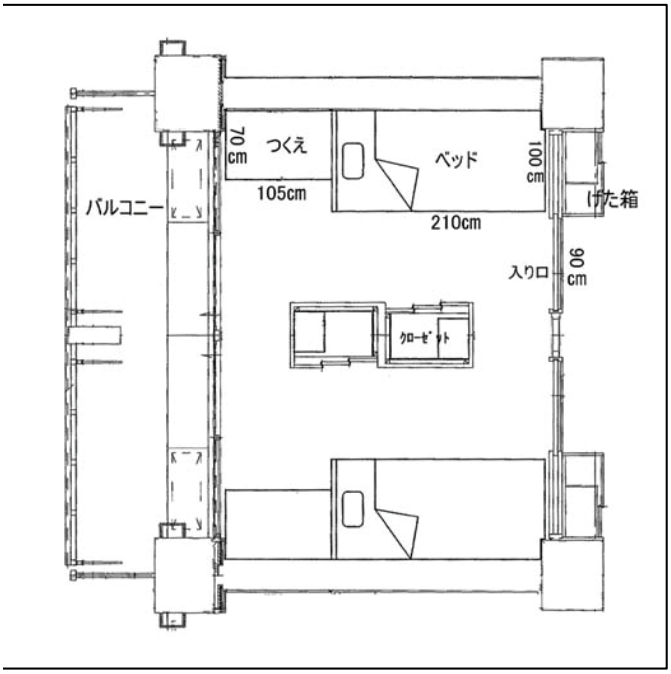
日直：２名（教員，職員各１名（男性２名，または男女各１名）で輪番制）

勤務時間　８時３０分～１７時００分

（出典　学生課資料　抜粋）

資料７－２－③－４

## 居室平面図（２人部屋）






※　１人分の部屋のスペースは約 5.5 畳です。（＝２人部屋約 11 畳）

## 浴　室



## 補 食 室



（出典　寮生活の手引き　P. 13）

資料７－２－③－５

# 学生相談室





（出典　学生課資料）

資料７－２－③－６

# 目　　次

**新入学生の皆さんへ－入寮の前に**　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
学生寮の目的
寮生活の心構え
健康管理

**入寮に当たって**　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
寮生活における必需品
持ち込み及び使用を禁止しているもの
車両等（普通自動車・自動二輪車及び原動機付自転車）並びに自転車の持込禁止について
寮の施設・設備

**諸経費について**　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
学生寮で生活するに当たっての必要な経費等について
入寮費
寮管理費
給食費
納入方法
学生寮の主な必要経費

**日常生活とルール**　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
日課
外出
帰省・外泊
施錠・消灯・就寝
施設・設備等の使用
カードキー・居室の鍵
寮生の指導
指導寮生・班長
寮生会
清掃
食事
保健・衛生
防災・安全
郵便物等の受け取り
特に注意すべき事項
入寮・退寮について

**主な提出書類**　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
**居室平面図**　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
**学生寮避難経路図**　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

**沖縄工業高等専門学校学生寮管理運営規則**　・・・・・・・・・・・・・・16
**沖縄工業高等専門学校寮生心得**　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
**沖縄工業高等専門学校寮生の処分に関する規程**　・・・・・・・・・・・・34
**学生の処分基準内規**　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
**医療機関一覧，学生寮関係職員**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

（出典　寮生活の手引き　目次）

資料７－２－③－７

# 日常生活とルール

## 日課

毎日規則正しい生活が送れるように，次の日課に従って生活します。

### 日　課　表

| 事　項 | 時　　間 | 備　　考 |
|---|---|---|
| 起　床 | 7:00　※ | |
| 点　呼 | 7:10 | 居室前で点呼 |
| 洗面・清掃 | 7:20 ～ 7:30 | 居室の清掃は毎日 |
| 朝　食 | 7:30 ～ 8:20 | |
| 登　校 | 8:20 ～ 8:30　※ | 休講の場合も登校し，寮内に残らないこと。 |
| 施　錠 | 8:30 ～ 15:00 | （学生休業日を除く。） |
| 昼　食 | 12:10 ～ 13:00 | 学生休業日は12:00～ |
| 夕　食 | 18:00 ～ 20:00 | |
| 入　浴 | 17:00 ～ 20:30 | |
| 門　限 | 20:10 | 玄関施錠，閉門 |
| 点　呼 | 20:40　※ | 居室前で点呼 |
| 清　掃 | 20:40 ～ 21:00　※ | |
| 学習時間帯 | 21:00 ～ 23:00 | 静粛時間 |
| 完全消灯 | 23:30 | |

※印は音楽が放送されます。

（出典　寮生活の手引き　P.７　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

本校は「学習の充実を図り，基本的な生活態度や社会性を身につけ人間的成長を促進させる」ことを目的として学生寮を設置しており，規則に従い学生寮を管理運営している。学生寮には学生の生活と勉学を支援するための居室や浴室，捕食室が整備され，学生からの様々な相談に応じるための相談室も整備されている。

学生には「寮生活の手引き」を配布し，学生寮における円滑な集団生活を送るための心構えや規則を周知している。また，規則正しい生活習慣と学習習慣を身につけるため寮日課を定めている。

以上から，学生寮は学生の生活及び勉学の場として有効に機能している。

**観点７－２－④：　就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され，機能しているか。**

（観点に係る状況）

本校では就職や進学の進路指導を統括するため進路委員会を設置している（資料７－２－④－１）。進路委員会は学生の進路に関する事項を審議している（資料７－２－④－２，資料７－２－④－３）。また，進学や就職に関する事務手続きを定め（資料７－２－④－４，資料７－２－④－５），学内の共有ファイルサーバーを用いて学生に周知している（資料７－２－④－６）。

進路委員会は企業採用担当者との面談を行っており，就職先の開拓にも努めている（資料７－２－７）。収集した進学や就職の情報は図書館に閲覧コーナーを設けている他，学内においては学内のネットワーク設備を活用し，共有ファイルサーバーを用いたデータベースシステムによって学生へ情報提供している（資料７－２－④－８，資料７－２－④－９，資料７－２－④－10，資料７－２－④－11）。このシステムは学生が自宅にいるときは本校のポータルサイトから就職，進学情報が得られるようになっている（資料７－２－④－12）。

また，地元への就職を支援するため沖縄県工業連合会の協力を得て，本校の学生を対象とした県内企業合同説明会を毎年１月に実施し，４年生全員を参加させている（資料７－２－④－13）。さらに，本校は離島県に設置されているため，県外企業の就職情報を得るのが困難であるため，県外の企業を含めた合同企業説明会を業者に依頼して学内で開催している（資料７－２－④－14）。

さらに，企業の方から申し出があった場合には放課後の空き教室を企業に貸し出す形で個別の企業説明会を随時実施している（資料７－２－④－15）進学に対しても同様に大学毎に個別に学校説明会を学内で実施している（資料７－２－④－16）。

以上のような進路指導体制に加え，本科においては５年担任，卒業研究指導担当教員が専攻科においては特別研究指導教員が個別の学生に対してきめ細かな進路指導をしており，その結果として高い就職率と進学率を実現している（資料７－２－④－17）。

資料７－２－④－１

## 沖縄工業高等専門学校進路委員会規則

平成２０年３月　２５　日
規　則　第　３　号

（設置）
第１条　沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校学生のインターンシップ並びに学生及び卒業生（以下「学生等」という。）の進学・就職に関する事項を審議するため、沖縄工業高等専門学校進路委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。
(1) 学生のインターンシップに必要な調査及び資料収集に関する事項
(2) 学生のインターンシップの開拓に関する事項
(3) 学生のインターンシップについて各学科間の連絡調整に関する事項
(4) 学生等の進学・就職に必要な調査及び資料収集に関する事項
(5) 学生等の就職先の開拓に関する事項
(6) 学生等の就職先の斡旋に関する事項
(7) 学生等に対する進路指導に関する事項
(8) 学生等の進学・就職について各学科間の連絡調整に関する事項
(9) その他学生のインターンシップ及び学生等の進学・就職に関する事項

（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 教務主事
(2) 各学科（総合科学科を含む。）所属教員　各１名
(3) 学生課長
(4) その他校長が必要と認めた者
２　前項第２号及び第４号に規定する委員の任期は１年とし、再任を妨げない。
３　前項の委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き、前条第１項第２号及び第４号の委員の中から、委員の互選によって定める。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した者が、その職務を代行する。

（委員以外の者の出席）
第５条　委員長は、必要があると認めた場合は委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を求めることができる。

（専門部会）
第６条　委員会は、必要に応じて専門部会を置くことができる。
２　専門部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

（報告）

（出典　進路説明会規則　抜粋）

資料７－２－④－２

平成 21 年 2 月 6 日

就職・進学における推薦に関する申し合わせ

進路委員会

１．就職活動に関する推薦書について

（１）学科あるいは校長からの推薦によって就職内定（内々定）した学生に対しては内定（内々定）辞退させないよう指導することとする。

（２）推薦書を発行する場合は必ず事前に、学生からの推薦願を提出させることとする。また、推薦願には保護者の同意を必要とすること。

（３）推薦書は学校推薦と教授推薦の 2 種類とする。学校推薦は校長が作成し、教授推薦は学科長が作成する。教授推薦の作成時期について制限は設けないが、学校推薦については「大学、短期大学及び高等専門学校卒業予定者に係る就職について（申合せ)」を遵守する意味から、7 月 1 日以降に作成することとする。

（４）同一学生に同時に 2 通の推薦書を出さない。
一人の学生が 2 社以上の企業に推薦を希望する場合は、先に推薦した企業からの不採用の通知を受けて、発行することとする。

（５）推薦書とは別に指導教員等が学生の志望する企業に人物紹介書等を作成することは容認するが、企業に対し推薦ではない、すなわち内定（内々定）後の辞退がありうることを誤解の無いよう伝えた上で作成すること。

２．進学に関する推薦書について

（１）校長からの推薦によって進学先に合格した学生に対しては、入学辞退させないよう指導することとする。

（２）推薦書を発行する場合は必ず事前に、学生からの推薦願を提出させることとする。また、推薦願には保護者の同意を必要とすること。

（３）同一学生に同時に 2 通の推薦書を出さない。
一人の学生が複数の学校に対して推薦を希望する場合は、先に推薦した学校からの不合格の通知を受けて、発行することとする。

（４）推薦願の提出前には学生が志望学校の求める学力レベルに達していることを十分確認する等、事前に指導するものとする。

（出典　推薦に関する申し合わせ）

資料７－２－④－３

平成２０年４月３０日

入社承諾書等の提出に係わる学生への就職指導に関する申し合わせ

進路委員会

採用内定通知を出した企業の多くは、入社承諾書／入社確約書／内定承諾書などの名目で入社意思を書面で確認している。これらの書類に関しては法的拘束力は無いと一般的には言われているが、入社承諾書等の提出後に学生が内定辞退することは本校と企業との信頼関係を損ないかねず、次年度以降の本校への募集に影響がでないとは言い切れない。

そこで、入社承諾書等について指導教員は学生に対して以下の様な指導を行うこととする。

１．内定通知後に企業から署名や押印のある書類の提出を求められた場合は、保護者及び指導教員と充分に相談すること。

２．複数の企業から内定通知がある場合でも、入社承諾書を提出するのは１社のみにすること。

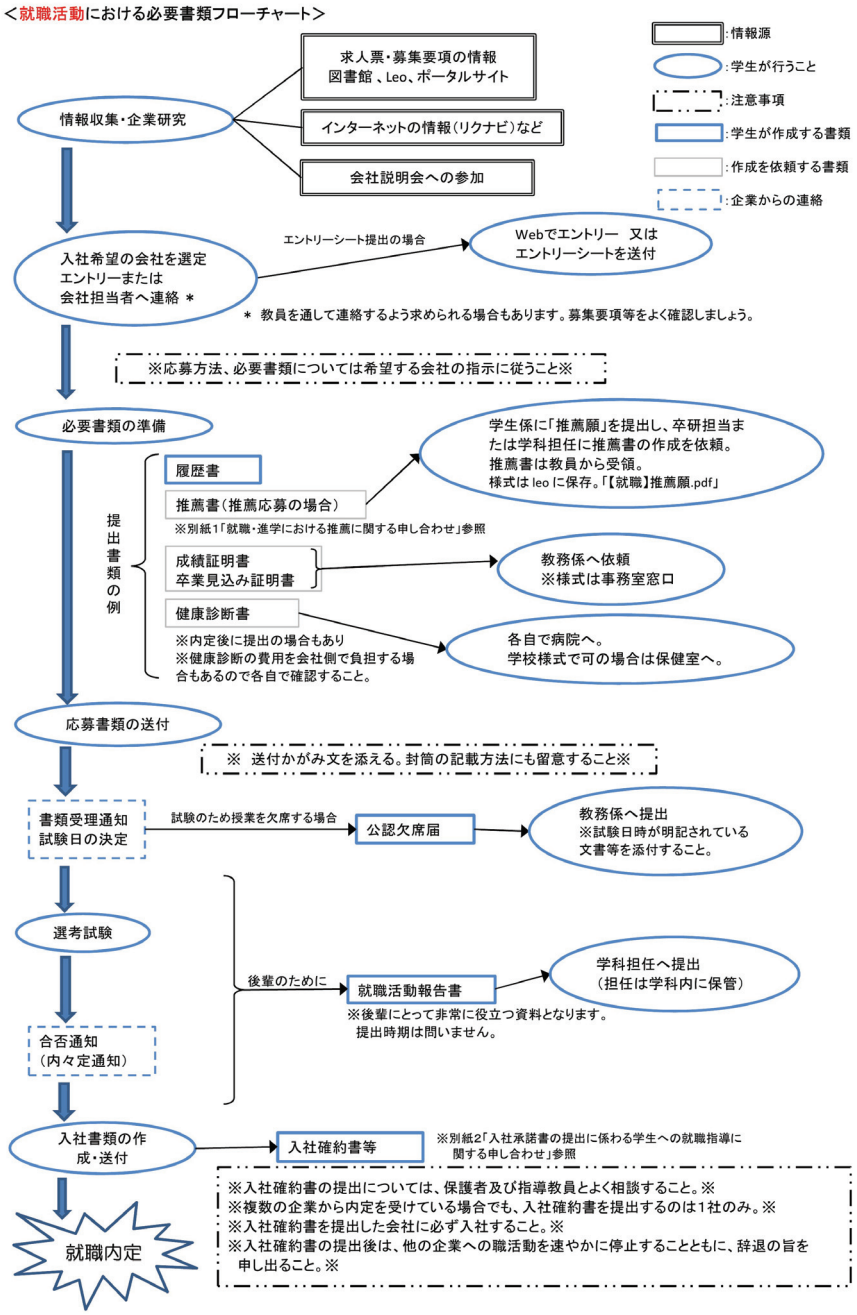
３．内定企業に入社承諾書等を提出した場合は、その企業に必ず入社すること。

４．内定企業への入社承諾書等の提出以降、他の企業への就職活動を速やかに停止するとともに辞退を申し出ること。

以　上

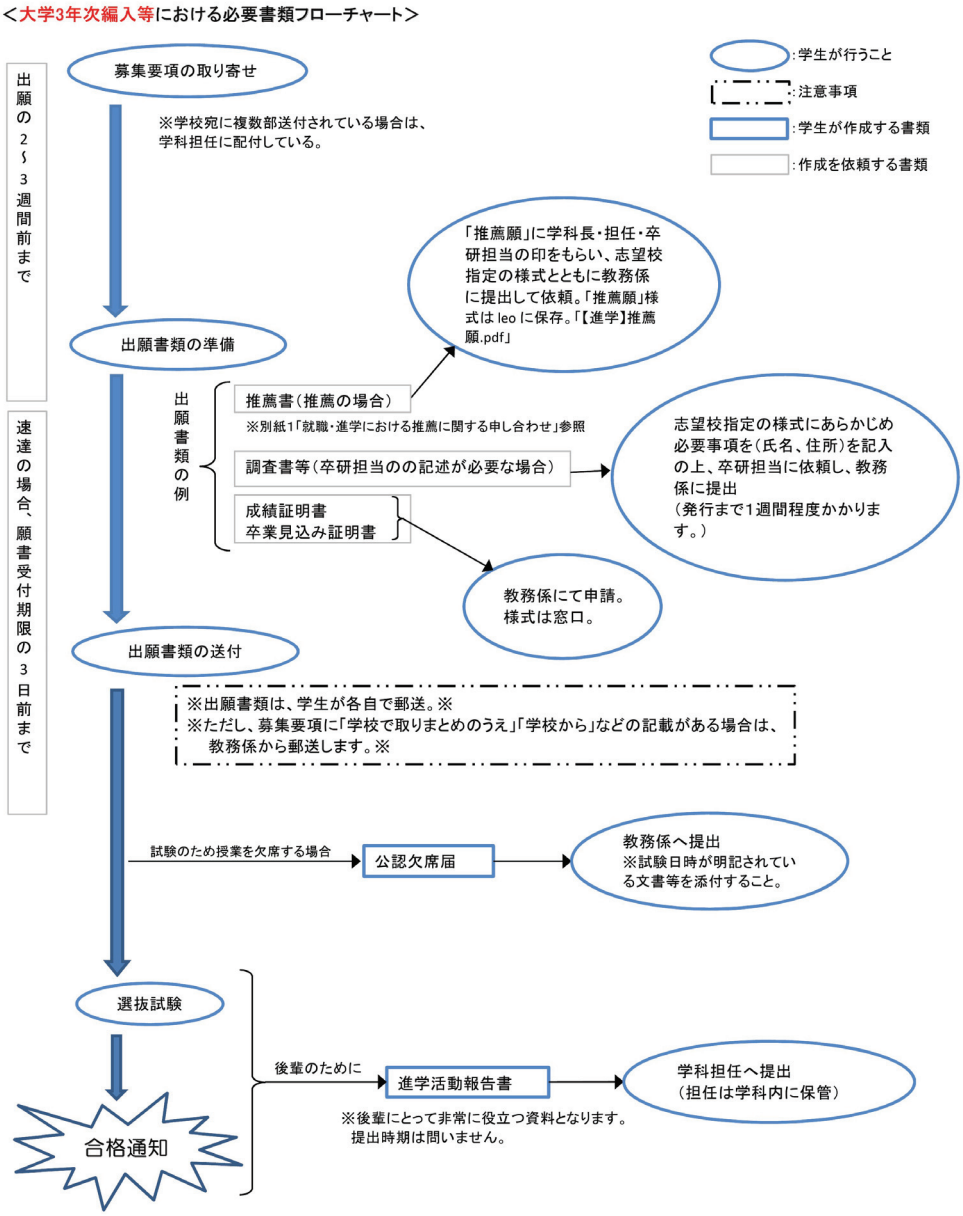
（出典　入社承諾書等の提出に係わる学生への就職指導に関する申し合わせ）

資料７－２－④－４



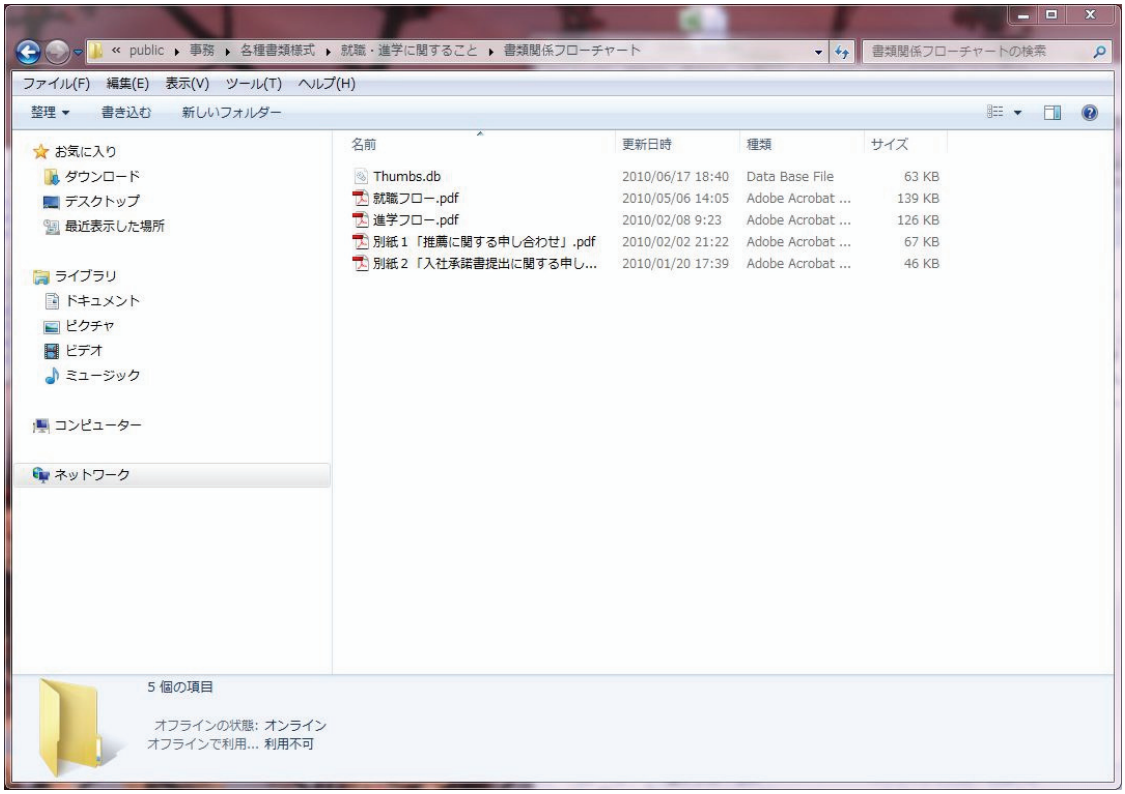

（出典　就職活動における必要書類フローチャート）

資料７－２－④－５




（出典　大学３年次編入における必要書類フローチャート）

資料７－２－④－６




（出典　学内共有ファイルサーバー）

資料７－２－④－７

[redacted]先生

学生係の[redacted]です。

(株)[redacted]より面談の申込みが
あり、[redacted]先生と[redacted]先生に対応していただくことに
なっていますが、先方が[redacted]先生にもお会いしたいとのことです。
下記日時での先生のご都合はいかがでしょうか？

日時：平成２２年２月５日（金）１５：００～１６：００

なお、採用の挨拶も兼ねてということなので、同社から内定を
受けている[redacted]さんと[redacted]も最初の 10 分程度同席します。

--
**********

沖縄工業高等専門学校　学生課学生係　大里
905-2192 沖縄県名護市辺野古 905 番地
TEL：0980-55-4032　　FAX：0980-55-4012
e-mail：ggakusei@okinawa-ct.ac.jp
**********

（出典　企業採用担当者との面談に関する連絡メール）

資料７－２－④－８

学生の皆さんへ

学生課学生係です。

下記に掲載中の平成 23 年 3 月卒業生向けの「就職情報」を更新しました。

¥¥leo¥public¥事務¥就職情報¥H23 年度（H23.3 月卒業向け）就職情報

追加項目は次のとおりです。

◇求人票一覧

平成 23 年度採用求人票（平成 23 年 3 月卒業予定者向け）

県内企業　230013
[redacted]
230014

県外企業　231201
[redacted]
231202
231203
231204
231205

また、下記企業に関しても一部情報を追加しました。

231070 [redacted]

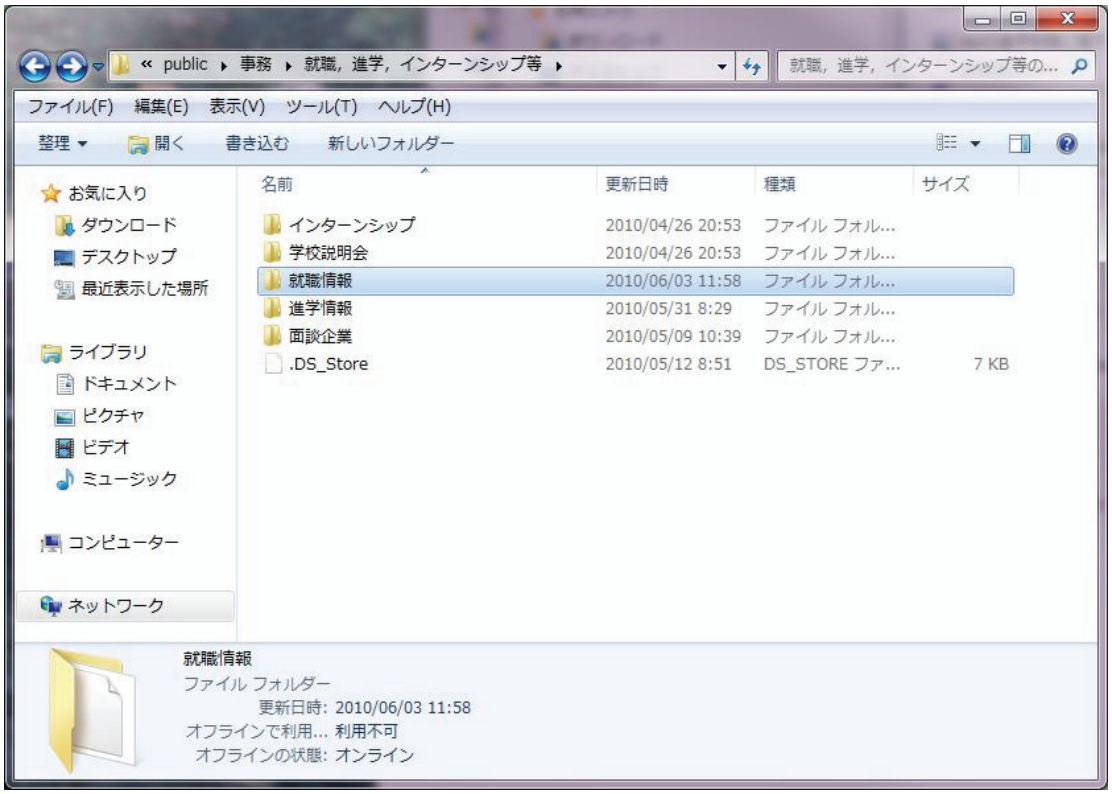
本校図書館内就職コーナーでは，掲載企業の会社案内等も供覧中です（一部企業除く）。併せて就職活動等にお役立てください。

学外からの閲覧には、本校の教育支援ポータルサイト
(https://portal.okinawa-ct.ac.jp/portal/html/)をご利用ください。
求人一覧表を掲載しています。

**********
沖縄工業高等専門学校　学生課学生係　[redacted]
905-2192 沖縄県名護市辺野古 905 番地
TEL：0980-55-4032　　FAX：0980-55-4012
e-mail：ggakusei@okinawa-ct.ac.jp
**********

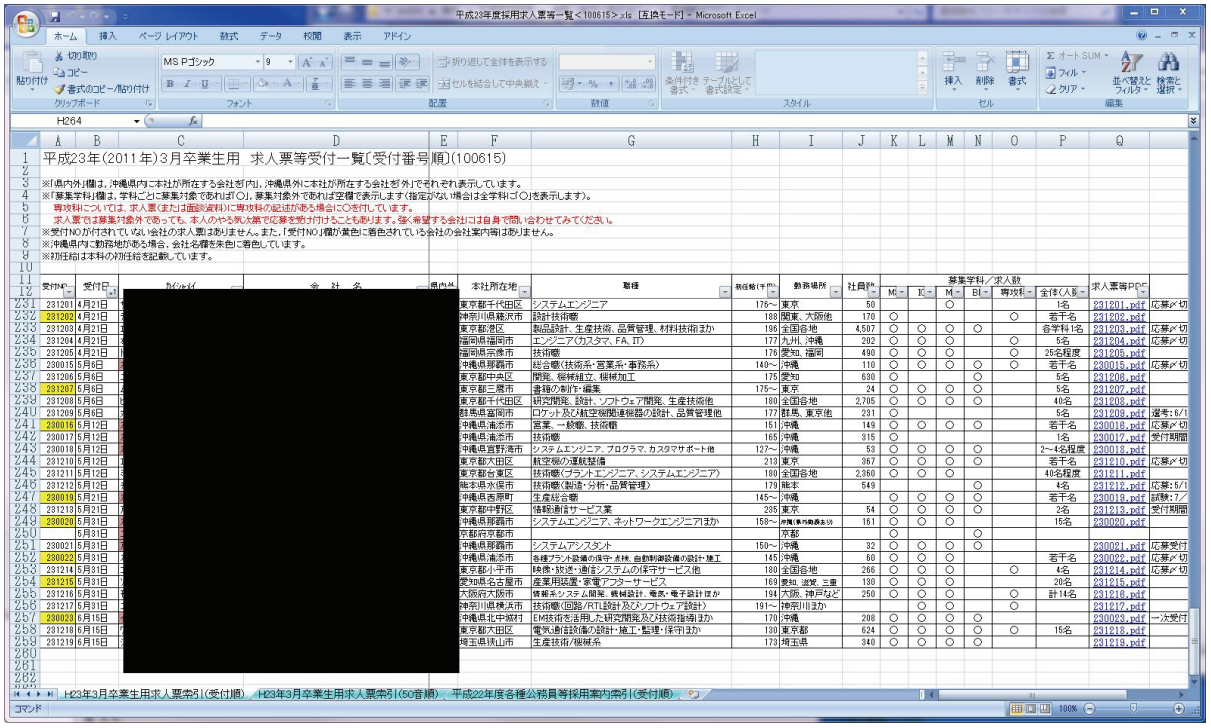
（出典　学生への就職情報更新通知メール）

資料７－２－④－９




（出典　学内共有ファイルサーバー）

資料７－２－④－10



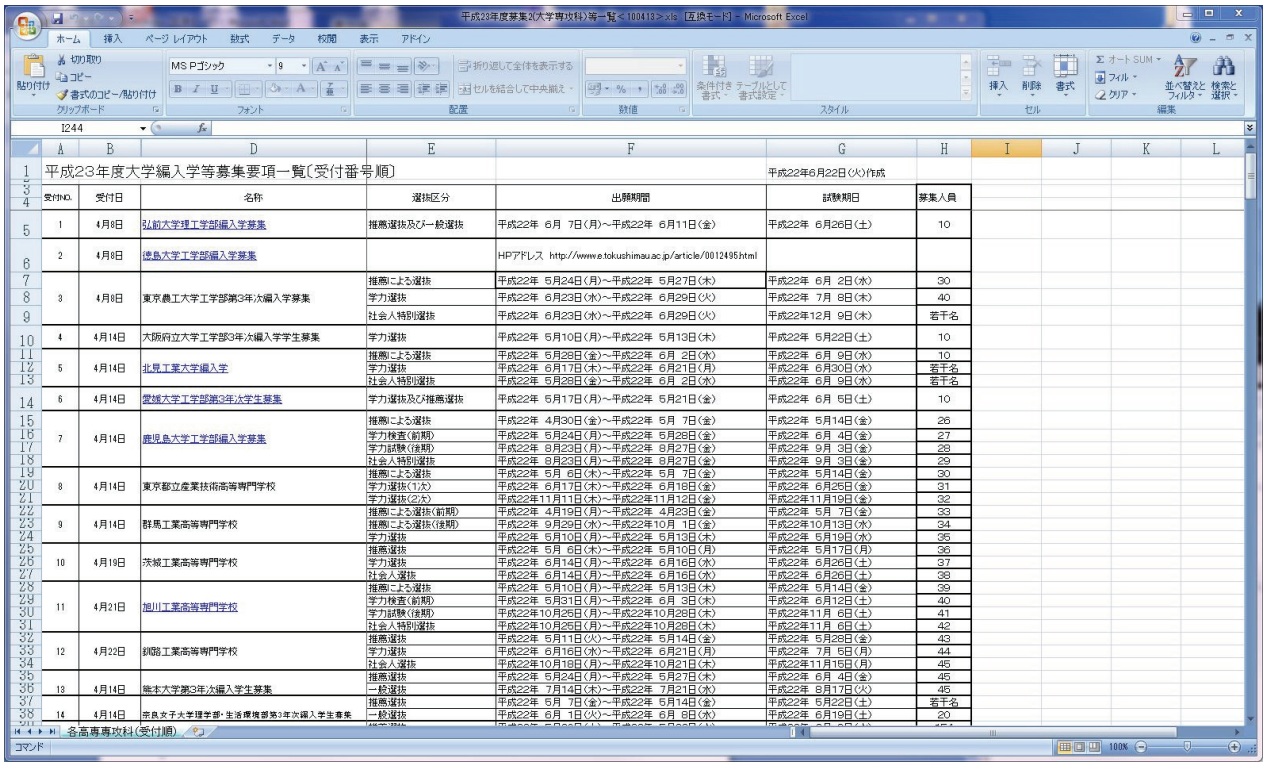
平成23年(2011年)3月卒業生用　求人票等受付一覧(受付番号順)(100615)

※「県内外」欄は、沖縄県内に本社が所在する会社が「内」、沖縄県外に本社が所在する会社が「外」でそれぞれ表示しています。
※「募集学科」欄は、学科ごとに募集対象であれば「○」、募集対象外であれば空欄で表示します(指定がない場合は全学科に「○」を表示します)。
専攻科については、求人票(または面談資料)に専攻科の記述がある場合に○を付しています。
求人票では募集対象外であっても、本人のやる気次第で応募を受け付けることも可能です。強く希望する会社には自身で問い合わせてみてください。
※受付NOが付されていない会社の求人票はありません。また、「受付NO」欄が黄色に着色されている会社の会社案内等はありません。
※沖縄県内に勤務地がある場合、会社名欄を朱色に着色しています。
※初任給は本科の初任給を記載しています。

| 受付NO | 受付日 | 県内外 | 会社名 | 本社所在地 | 職種 | 初任給(千円) | 勤務場所 | 社員数 | 募集学科／求人数 M1 | M2 | M4 | B1 | 専攻科 | 全体(人数) | 求人票等PDF |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 231201 | 4月21日 | [redacted] | | 東京都千代田区 | システムエンジニア | 176～ | 東京 | 50 | | | ○ | | | 1名 | 231201.pdf 応募〆切 |
| 231202 | 4月21日 | | | 神奈川県横浜市 | 設計技術職 | 188 | 関東、大阪他 | 170 | ○ | | | | ○ | 若干名 | 231202.pdf |
| 231203 | 4月21日 | | | 東京都港区 | 製品設計、生産技術、品質管理、材料技術ほか | 196 | 全国各地 | 4,507 | ○ | ○ | ○ | | | 各学科1名 | 231203.pdf 応募〆切 |
| 231204 | 4月21日 | | | 福岡県福岡市 | エンジニア(カスタマ、FA、IT) | 177 | 九州、沖縄 | 202 | ○ | ○ | ○ | | ○ | 5名 | 231204.pdf 応募〆切 |
| 231205 | 4月21日 | | | 福岡県宗像市 | 技術職 | 176 | 愛知、福岡 | 490 | ○ | ○ | ○ | | ○ | 25名程度 | 231205.pdf |
| 230015 | 5月6日 | | | 沖縄県那覇市 | 総合職(技術系・営業系・事務系) | 149～ | 沖縄 | 110 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 若干名 | 230015.pdf 応募〆切 |
| 231206 | 5月6日 | | | 東京都中央区 | 開発、精密組立、機械加工 | 175 | 愛知 | 630 | ○ | ○ | | ○ | | 5名 | 231206.pdf |
| 231207 | 5月6日 | | | 東京都三鷹市 | 書籍の制作・編集 | 175～ | 東京 | 24 | ○ | ○ | ○ | ○ | | 5名 | 231207.pdf |
| 231208 | 5月6日 | | | 東京都千代田区 | 研究開発、設計、ソフトウェア開発、生産技術他 | 180 | 全国各地 | 2,705 | ○ | ○ | ○ | ○ | | 40名 | 231208.pdf |
| 231209 | 5月6日 | | | 群馬県富岡市 | ロケット及び航空機関連機器の設計、品質管理他 | 177 | 群馬、東京他 | 231 | ○ | | | | | 5名 | 231209.pdf 選考:6/1 |
| 230016 | 5月12日 | | | 沖縄県浦添市 | 営業、一般職、技術職 | 151 | 沖縄 | 149 | ○ | ○ | ○ | ○ | | 若干名 | 230016.pdf 応募〆切 |
| 230017 | 5月12日 | | | 沖縄県浦添市 | 技術職 | 165 | 沖縄 | 315 | ○ | | | ○ | | 1名 | 230017.pdf 受付期間 |
| 230018 | 5月12日 | | | 沖縄県宜野湾市 | システムエンジニア、プログラマ、カスタマサポート他 | 127～ | 沖縄 | 53 | ○ | ○ | ○ | ○ | | 2～4名程度 | 230018.pdf |
| 231210 | 5月12日 | | | 東京都大田区 | 航空機の運航整備 | | 219 東京 | 367 | ○ | ○ | ○ | ○ | | 若干名 | 231210.pdf 応募〆切 |
| 231211 | 5月12日 | | | 東京都台東区 | 技術職(プラントエンジニア、システムエンジニア) | 180 | 全国各地 | 2,360 | ○ | ○ | ○ | | | 40名程度 | 231211.pdf |
| 231212 | 5月12日 | | | 熊本県水俣市 | 技術職(製造・分析・品質管理) | 179 | 熊本 | 549 | | | | ○ | | 4名 | 231212.pdf 応募:5/1 |
| 230019 | 5月21日 | | | 沖縄県西原町 | 生産総合職 | 146～ | 沖縄 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | 若干名 | 230019.pdf 試験:7/ |
| 231213 | 5月21日 | | | 東京都中野区 | 情報通信サービス業 | 235 | 東京 | 54 | ○ | ○ | ○ | ○ | | 2名 | 231213.pdf 受付期間 |
| 230020 | 5月31日 | | | 沖縄県那覇市 | システムエンジニア、ネットワークエンジニアほか | 158～ | 沖縄(県内勤務優先) | 161 | ○ | ○ | ○ | | | 15名 | 230020.pdf |
| | 5月31日 | | | 京都府京都市 | | | 京都 | | ○ | | | ○ | | | |
| 230021 | 5月31日 | | | 沖縄県那覇市 | システムアシスタント | 150～ | 沖縄 | 32 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 230021.pdf 応募受付 |
| 230022 | 5月31日 | | | 沖縄県浦添市 | 各種プラント設備の保守・点検、自動制御設備の設計・施工 | 145 | 沖縄 | 60 | ○ | ○ | ○ | | | 若干名 | 230022.pdf 応募〆切 |
| 231214 | 5月31日 | | | 東京都小平市 | 映像・放送・通信システムの保守サービス他 | 180 | 全国各地 | 266 | ○ | ○ | ○ | | ○ | 4名 | 231214.pdf 応募〆切 |
| 231215 | 5月31日 | | | 愛知県名古屋市 | 産業用設置・家電アフターサービス | 169 | 愛知、滋賀、三重 | 130 | ○ | ○ | ○ | | | 20名 | 231215.pdf |
| 231216 | 5月31日 | | | 大阪府大阪市 | 情報系システム開発、機械設計、電気・電子設計ほか | 194 | 大阪、神戸など | 250 | ○ | ○ | ○ | | ○ | 計14名 | 231216.pdf |
| 231217 | 5月31日 | | | 神奈川県横浜市 | 技術職(回路/RTL設計及びソフトウェア設計) | 191～ | 神奈川ほか | | | | ○ | | ○ | | 231217.pdf |
| 230023 | 6月15日 | | | 沖縄県北中城村 | EM技術を活用した研究開発及び技術指導ほか | 170 | 沖縄 | 200 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 230023.pdf 一次受付 |
| 231218 | 6月15日 | | | 東京都大田区 | 電気通信設備の設計・施工・監理・保守ほか | 180 | 東京都 | 624 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 15名 | 231218.pdf |
| 231219 | 6月15日 | | | 埼玉県狭山市 | 生産技術/保全系 | 173 | 埼玉県 | 940 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 231219.pdf |

（出典　就職情報データベースファイル）

資料７－２－④－11



平成23年度大学編入学等募集要項一覧(受付番号順)

平成22年6月22日(火)作成

| 受付NO. | 受付日 | 名称 | 選抜区分 | 出願期間 | 試験期日 | 募集人員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 4月8日 | 弘前大学理工学部編入学募集 | 推薦選抜及び一般選抜 | 平成22年 6月 7日(月)～平成22年 6月11日(金) | 平成22年 6月26日(土) | 10 |
| 2 | 4月8日 | 徳島大学工学部編入学募集 | | HPアドレス http://www.e.tokushima-u.ac.jp/article/0012495.html | | |
| 3 | 4月8日 | 東京農工大学工学部第3年次編入学募集 | 推薦による選抜 | 平成22年 5月24日(月)～平成22年 5月27日(木) | 平成22年 6月 2日(水) | 30 |
| | | | 学力選抜 | 平成22年 6月23日(水)～平成22年 6月29日(火) | 平成22年 7月 8日(木) | 40 |
| | | | 社会人特別選抜 | 平成22年 6月23日(水)～平成22年 6月29日(火) | 平成22年12月 9日(木) | 若干名 |
| 4 | 4月14日 | 大阪府立大学工学部3年次編入学学生募集 | 学力選抜 | 平成22年 5月10日(月)～平成22年 5月13日(木) | 平成22年 5月22日(土) | 10 |
| 5 | 4月14日 | 北見工業大学編入学 | 推薦による選抜 | 平成22年 5月28日(金)～平成22年 6月 2日(水) | 平成22年 6月 9日(水) | 10 |
| | | | 学力選抜 | 平成22年 6月17日(木)～平成22年 6月21日(月) | 平成22年 6月30日(水) | 若干名 |
| | | | 社会人特別選抜 | 平成22年 5月28日(金)～平成22年 6月 2日(水) | 平成22年 6月 9日(水) | 若干名 |
| 6 | 4月14日 | 愛媛大学工学部第3年次学生募集 | 学力選抜及び推薦選抜 | 平成22年 5月17日(月)～平成22年 5月21日(金) | 平成22年 6月 5日(土) | 10 |
| 7 | 4月14日 | 鹿児島大学工学部編入学募集 | 推薦による選抜 | 平成22年 4月30日(金)～平成22年 5月 7日(金) | 平成22年 5月14日(金) | 26 |
| | | | 学力検査(前期) | 平成22年 5月24日(月)～平成22年 5月28日(金) | 平成22年 6月 4日(金) | 27 |
| | | | 学力試験(後期) | 平成22年 8月23日(月)～平成22年 8月27日(金) | 平成22年 9月 3日(金) | 28 |
| | | | 社会人特別選抜 | 平成22年 8月23日(月)～平成22年 8月27日(金) | 平成22年 9月 3日(金) | 29 |
| 8 | 4月14日 | 東京都立産業技術高等専門学校 | 推薦による選抜 | 平成22年 5月 6日(木)～平成22年 5月 7日(金) | 平成22年 5月14日(金) | 30 |
| | | | 学力選抜(1次) | 平成22年 6月17日(木)～平成22年 6月18日(金) | 平成22年 6月25日(金) | 31 |
| | | | 学力選抜(2次) | 平成22年11月11日(木)～平成22年11月12日(金) | 平成22年11月19日(金) | 32 |
| 9 | 4月14日 | 群馬工業高等専門学校 | 推薦による選抜(前期) | 平成22年 4月19日(月)～平成22年 4月23日(金) | 平成22年 5月 7日(金) | 33 |
| | | | 推薦による選抜(後期) | 平成22年 9月29日(水)～平成22年10月 1日(金) | 平成22年10月13日(水) | 34 |
| | | | 学力選抜 | 平成22年 5月10日(月)～平成22年 5月13日(木) | 平成22年 5月19日(水) | 35 |
| 10 | 4月19日 | 茨城工業高等専門学校 | 推薦選抜 | 平成22年 5月 6日(木)～平成22年 5月10日(月) | 平成22年 5月17日(月) | 36 |
| | | | 学力選抜 | 平成22年 6月14日(月)～平成22年 6月16日(水) | 平成22年 6月26日(土) | 37 |
| | | | 社会人選抜 | 平成22年 6月14日(月)～平成22年 6月16日(水) | 平成22年 6月26日(土) | 38 |
| 11 | 4月21日 | 旭川工業高等専門学校 | 推薦による選抜 | 平成22年 5月10日(月)～平成22年 5月13日(木) | 平成22年 5月14日(金) | 39 |
| | | | 学力検査(前期) | 平成22年 5月31日(月)～平成22年 6月 3日(木) | 平成22年 6月12日(土) | 40 |
| | | | 学力試験(後期) | 平成22年10月25日(月)～平成22年10月28日(木) | 平成22年11月 6日(土) | 41 |
| | | | 社会人特別選抜 | 平成22年10月25日(月)～平成22年10月28日(木) | 平成22年11月 6日(土) | 42 |
| 12 | 4月22日 | 釧路工業高等専門学校 | 推薦選抜 | 平成22年 5月11日(火)～平成22年 5月14日(金) | 平成22年 5月28日(金) | 43 |
| | | | 学力選抜 | 平成22年 6月16日(水)～平成22年 6月21日(月) | 平成22年 7月 5日(月) | 44 |
| | | | 社会人選抜 | 平成22年10月18日(月)～平成22年10月21日(木) | 平成22年11月15日(月) | 45 |
| 13 | 4月14日 | 熊本大学第3年次編入学生募集 | 推薦選抜 | 平成22年 5月24日(月)～平成22年 5月27日(木) | 平成22年 6月 4日(金) | 45 |
| | | | 一般選抜 | 平成22年 7月14日(木)～平成22年 7月21日(水) | 平成22年 8月17日(火) | 45 |
| 14 | 4月14日 | 奈良女子大学理学部・生活環境部第3年次編入学生募集 | 推薦選抜 | 平成22年 5月 7日(金)～平成22年 5月14日(金) | 平成22年 5月22日(土) | 若干名 |
| | | | 一般選抜 | 平成22年 6月 1日(火)～平成22年 6月 8日(水) | 平成22年 6月19日(土) | 20 |

（出典　進学情報データベースファイル）

資料７－２－④－12




（出典　沖縄高専ポータル）

資料７－２－④－13

沖縄高専の学生を対象とした「県内企業合同説明会」

日時：平成２１年１月７日 15:00～17:00
場所：沖縄産業支援センター
司会：沖縄県工業連合会
　　事務局長　桑江　修

# 会 次 第

１．開　　会

２．あいさつ
沖縄工業高等専門学校産学連携協力会
　会長　島袋　周仁

沖縄工業高等専門学校
　校長　糸村　昌祐

３．県内企業合同説明会の進め方について
①参加企業及びレイアウトについて
②説明（対応）方法について
③終了等について

４．「県内企業合同説明会」

５．閉　　会
沖縄県情報通信関連産業団体連合会
　会長　大城　弘道

沖縄高専の学生を対象とした「県内企業合同説明会」参加企業（一覧）

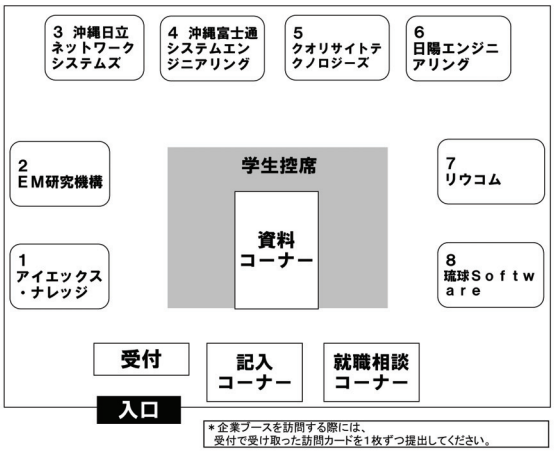
| 業　種 | 参加社数 | 会場名 | ブースNo |
|---|---|---|---|
| 食品・酒類 | 4社 | 大ホール | 1～4 |
| エネルギー | 2社 | 〃 | 5～6 |
| 窯業・土石・鉄鋼・機械・金属・建設・設備工事 | 8社 | 〃 | 7～14 |
| 情報産業 | 19社 | 観光物産展示場 | 1～19 |
| 合計 | 33社 | | |

（出典　沖縄高専の学生を対象とした「県内企業合同説明会」資料　抜粋）

資料７－２－④－14

**沖縄高専　学内合同企業説明会**
**参加企業ガイド**
日時／平成２２年4月１４日（水）　１３:３０～１６:００
会場／体育館

**●会場レイアウト**　各企業の情報は裏面をご覧ください。→→→→→→→→→




＊企業ブースを訪問する際には、
受付で受け取った訪問カードを１枚ずつ提出してください。

**●合同企業説明会の心得**

| | |
|---|---|
| その1 マナーを守ろう！ | その2 ブース巡りは一人で行動しよう！ |
| 人事担当者は、あなたが周囲への気遣いができるかなどの礼儀正しさも見ています。周りには同じように就職活動を頑張っている学生(仲間)がいます。きちんと順番を守り、席とりや私語は慎むようにしましょう。 | 限られた時間の中、多くの企業ブースを訪問するには単独行動がおすすめです。友達の好みの企業に合わせるのではなく、独自の視点で行動することできっと新たな発見があるはずです。 |
| その3 記者になったつもりでメモを取ろう！ | その4 空いている企業ブースにすぐ飛び込もう！ |
| "なるほど！"と思ったキーワードをたくさんメモしよう。生の話から得た情報はエントリーシートや履歴書を書く際に大いに役立ちます。特に志望動機は、自分なりの言葉を使って思いを表現することが重要です。 | 空いている企業ブースは人事担当者とじっくり話しができる大チャンスです。一つでも多くの企業の話しを聞いて視野を広げ自分なりの「モノサシ」を作りましょう。 |

（出典　沖縄高専　学内合同企業説明会参加企業ガイド　抜粋）

資料７－２－④－15

４年次、専攻科学生　各位

下記のとおり会社説明会が開催されます。（2010.4.21 現在）
事前の参加申込みは不要ですので、奮ってご参加ください。
なお、この情報は掲示板およびポータルサイトにも掲載しています。

記

１．会社名：[redacted]
　日　時：平成２２年　４月２７日（火）１６時４０分～１９時００分
　会　場：１－３講義室（創造・実践棟１階）
　対　象：情報通信、メディア情報
　企業ＨＰ [redacted]

２．会社名：[redacted]
　日　時：平成２２年　５月１３日（木）１６時４０分～20 時００分
　会　場：１－２講義室（創造・実践棟１階）
　対　象：全学科対象（専攻科含む）
　企業ＨＰ [redacted]
　備　考：説明会終了後、希望者に第１次選考を実施します。
　　参加希望者は、５月１１日までにリクナビにエントリーしてください。

３．会社名：[redacted]
　日　時：平成２２年　５月２１日（金）１６時４０分～１９時００分
　会　場：１－３講義室（創造・実践棟１階）
　対　象：全学科
　企業ＨＰ [redacted]

**********

沖縄工業高等専門学校　学生課学生係 [redacted]
905-2192 沖縄県名護市辺野古 905 番地
TEL：0980-55-4032　　FAX：0980-55-4012
e-mail：ggakusei@okinawa-ct.ac.jp

**********

（出典　学内における個別会社説明会案内メール）

資料７－２－④－16

専攻科及び５年生の学生の皆さんへ

学生課教務係です。

１月２７日（水）の１５時より、九州大学の[redacted]が来校され創造・実践棟１－１講義室にて学校説明会を開催します。

来年度、大学院進学を希望する専攻科生及び５年生で興味のある学生は良い機会ですので参加するようにしてください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

〒905-2192

名護市字辺野古９０５番地

沖縄工業高等専門学校

学生課教務係長 [redacted]

ＴＥＬ　0980-55-4028

ＦＡＸ　0980-55-4012

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（出典　学内における大学説明会案内メール）

資料７－２－④－17

**◆平成22年3月卒業生の進路状況◆**

| | 機械 | 情報 | メディア | 生物 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 卒業者 | 35<br>(0) | 35<br>(9) | 33<br>(8) | 39<br>(19) | 142<br>(36) |
| 進学者数 | 19<br>(0) | 17<br>(6) | 11<br>(2) | 29<br>(14) | 76<br>(22) |
| 就職者数 | 16<br>(0) | 18<br>(3) | 22<br>(6) | 10<br>(5) | 66<br>(14) |

（　）は女子で内数

◎進学状況

| | | 機械 | 情報 | メディア | 生物 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 進学状況 | 進学希望者 | 19 | 17 | 11 | 29 | 76 |
| | 進学者数 | **19** | **17** | **11** | **29** | **76** |
| | 進学決定率<br>（進学者数/進学希望者 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | **100.0%** |
| | 沖縄高専専攻科 | 12 | 10 | 4 | 11 | 37 |
| | 大学3年次編入等 | 6 | 7 | 7 | 18 | 38 |
| | 進学先※ | 豊橋技術科学大学(5)<br>京都工芸繊維大学 | 福井大学<br>豊橋技術科学大学(2)<br>奈良女子大学<br>宮崎大学(2)<br>首都医校 | 電気通信大学<br>琉球大学(3)<br>札幌市立大学<br>デジタルハリウッド東京<br>デジタルアーツ東京 | 新潟大学<br>長岡技術科学大学(2)<br>筑波大学<br>静岡大学(2)<br>岐阜大学(3)<br>豊橋技術科学大学<br>佐賀大学(2)<br>鹿児島大学<br>琉球大学(3)<br>武蔵野大学<br>首都医校 | |
| | 沖縄高専研究生 | 1 | | | | 1 |

◎就職状況

| | | 機械 | 情報 | メディア | 生物 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 就職状況 | 就職希望者数 | 16 | 18 | 22 | 10 | 66 |
| | 就職者数 | **16** | **18** | **22** | **10** | **66** |
| | 就職率<br>（就職者数/就職希望者 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | **100.0%** |
| | 就職先企業名※<br>（県内）<br>県内に本社の<br>ある企業 | サンシャイン | 沖縄電力(2)<br>インデックス沖縄<br>沖縄菱電ビルシステム<br>開邦工業 | 沖電グローバルシステムズ<br>沖縄クロスヘッド<br>沖縄テクノス<br>沖縄富士通システムエンジニアリング<br>沖縄日立ネットワークシステムズ<br>シュガートレイン<br>ハーベル(2) | 沖縄コカ・コーラボトリング<br>サウスプロダクト<br>EM研究機構 | |
| | | 計　1　名<br>就職者に占める割合　6　% | 計　5　名<br>就職者に占める割合　28　% | 計　8　名<br>就職者に占める割合　36　% | 計　3　名<br>就職者に占める割合　30　% | 県内計　17　名<br>就職者に占める割合　26　% |
| | 就職先企業名※<br>（県外）<br>県外に本社の<br>ある企業 | アイシン精機<br>IHIエアロスペース・エンジニアリング<br>岩谷マテリアル<br>大阪ガス<br>カンメタエンジニアリング<br>神崎高級工機製作所<br>大和製罐<br>中部電力<br>東京電力<br>日陽エンジニアリング<br>富士通ミッションクリティカルシステムズ<br>前田道路<br>三菱重工神戸造船所<br>三菱重工長崎研究所<br>明治乳業 | 出光興産<br>NTTネオメイト(2)<br>コベルコシステム<br>新日鉄(2)<br>◎タップ<br>千代田計装<br>中部電力<br>デンソーテクノ<br>日本空港テクノ<br>富士通<br>ムラテックCCS | アイエックス・ナレッジ<br>アプリックス<br>◎安藤証券<br>映像センター<br>エヌアイシー・ソフト<br>国立印刷局<br>東海鉄工(2)<br>トヨタコミュニケーションシステム<br>ハンモック<br>ピクシブ<br>富士通アドバンストソリューションズ(2)<br>安川エンジニアリング | 花王(2)<br>三洋化成(2)<br>サントリープロダクツ<br>ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング<br>雪印 | |
| | | 計　15　名<br>就職者に占める割合　94　% | 計　13　名<br>就職者に占める割合　72　% | 計　14　名<br>就職者に占める割合　64　% | 計　7　名<br>就職者に占める割合　70　% | 県外計　49　名<br>就職者に占める割合　74　% |
| | 求人数<br>（求人票の送付の<br>あった企業の数） | 322 | 319 | 288 | 199 | 1128 |

※　同一企業に複数名の学生が就職した場合，または同一の進学先に複数名の学生が進学した場合、その人数をかっこ(　)内に示しています。

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

進路指導を統括するための進路委員会を設置している。学生への進路情報の提供は学内のセットワーク設備を活用した仕組みが構築されている。また，学生に対しては学内において企業説明会や大学説明会を開催している。個別の学生に対する進路指導は，本科においては５年担任，卒業研究指導担当教員が，専攻科においては特別研究指導教員が対応しており，その結果として高い就職率と進学率を実現している。

以上により，就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され，機能している。

## 基準７　学生支援等

### （２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

学習を進める上でのガイダンスやオリエンテーションは入学前から実施され，各学年においても遺漏無く行われている。PC利用のガイダンスや図書館の利用説明に関しては特に丁寧に行われている。校内には，学生自身が自由に利用できるスペースが多く，自学自習の場として活用されている。特別支援を含む学生相談の体制がきちんと整備され，学習面，生活面双方で実働している。各学生の学習や資格取得に対するニーズへの対応も優れている。課外活動に対する支援は教職員の人的支援および経済的支援により文科系および体育系において成果を挙げている。学生寮は生活の場のみならず学習の場として有効に機能している。進路指導がきめ細かく行われ，就職率，進学率が高い。

（改善を要する点）

特になし。

### （３）基準７の自己評価の概要

学習を進める上でのガイダンスは入学前から必要に応じて適切に整備され，適切に実施されている。オフィスアワーや担任教員による相談や助言の体制も整備され機能している。自主的学習環境では図書館，メディアコーナー，ITラウンジの公共スペースはもとより演習室，IT教室も開放され効果的に利用されている。レストラン，売店などの厚生施設も整い，効果的に利用されている。学習支援に関しては授業アンケートにより直接ニーズを把握されている。また，学生委員会や学生寮委員会により学生の代表の意見も把握する体制も整っている。資格試験や検定試験の受験に関して担当教員および学生課による支援体制が整備され，効果的に機能している。外国留学後の支援についても体制が整えられている。留学生，編入生に対する支援の制度はもとより，特別支援が必要な学生への支援体制も整えられ，必要に応じて機能している。課外活動についても積極的な支援体制を整備し，人的支援，経済的支援により成果を挙げている。

学生の生活や経済面に係る指導・相談・助言は，学級担任および学科担任が当たり，必要に応じて保護者とも緊密に連携をとり，きめ細かく行っている。健康面や精神面での相談・助言をする体制としては，それぞれ保健室と学生相談室が設置されており，有効に活用されている。学生寮は，生活の場であるばかりでなく勉学の場としてもよく機能している。また，奨学金・授業料免除の経済面での支援が積極的に活用されている。就職や進学に関しては進路委員会を中心に指導・支援が行われ，学内で会社説明会や大学説明会を開催するなど，学生に対する進路指導を行っている。さらに担当教員らのきめ細かい指導により高い就職率，進学率が継続している。

## 基準８　施設・設備

### （１）観点ごとの分析

**観点８－１－①：　学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば，校地，運動場，体育館，教室，研究室，実験・実習室，演習室，情報処理学習のための施設，語学学習のための施設，図書館等，実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され，有効に活用されているか。また，施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。**

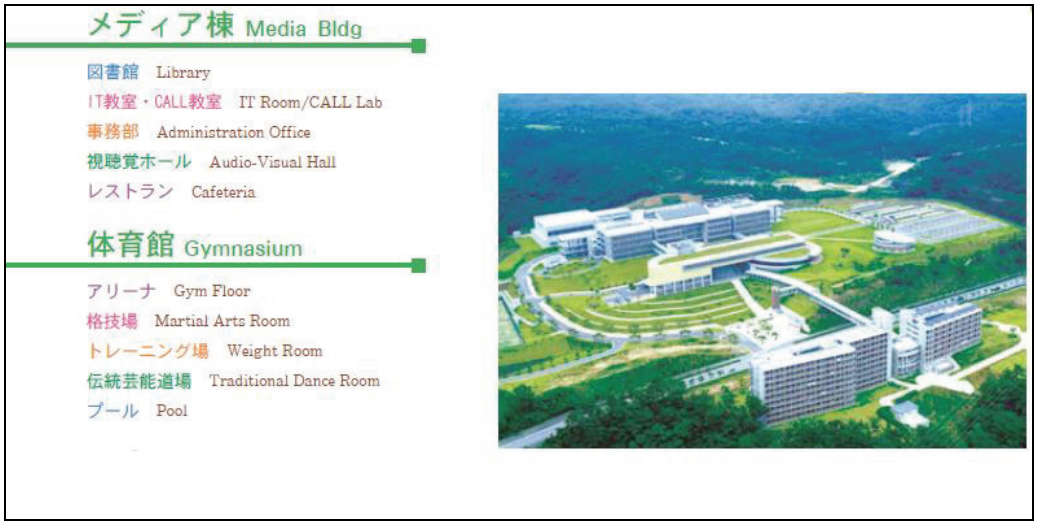
（観点に係る状況）

本校の施設・設備は，教育内容を達成するため総面積156.056 ㎡の敷地に創造・実践棟，メディア棟，体育館，学生寮などの建物に各教室，演習及び実験室，図書館，IT教室，CALL教室，事務部，視聴覚ホール，レストラン，アリーナ，格技場，トレーニング場，伝統芸能場，プールなどの施設を備えている（資料８－１－①－１）。用途別では，所有地及び建物面積は教育課程の実現にふさわしいものとなっている（資料８－１－①－２）。また本校の特徴となる教育施設として，夢工場や教育実践棟などがある。

各教室，演習室，実習室は十分活用されており（資料８－１－①－３，資料８－１－①－４），特に教室では７割近い稼動率となっている。また，ここに記入されている講義以外でも特別研究や創造研究などで空いている教室の利用がある。さらに，本校は専攻科が平成21年度から設置されたが，専攻科棟が出来ておらず，専攻科の学生が主として利用できる講義室や実験室が出来ていない。そのため，専攻科生の講義や実験に対する講義室の確保が難しい状況である。

各学科で管理している設備に関しては，教育への利用だけでなく年に１度開催される企業の方を対象とした施設見学会において紹介し，教育や研究の連携が図られるよう取り組んでいる（資料８－１－①－５）。また，施設・設備のバリアフリー化の一環として，スロープ，身体障害者用トイレ，スライドドア，エレベータが設置されている。

資料８－１－①－１




（出典　平成21度学校要覧　P. 41　抜粋）

資料８－１－①－２

## 土地 Land

| 総面積 Total Land Area | 使用区分 Clasification | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 校舎等 Total Land Area | 屋外運動場 Athletic Fields | 学生寮 Dormitory | その他 Others | 計 Total |
| 156.056 ㎡ | 49.100 ㎡ | 36.100 ㎡ | 11.600 ㎡ | 59.256 ㎡ | 156.056 ㎡ |

## 建物 Buildings

| 区分 Classification | 名称 Name | | 構造 Structure | 延面積 Total Area |
|---|---|---|---|---|
| 校舎等施設 College Buildings | 創造・実践棟 | Invention & production Bldg | R4 | 12.795 ㎡ |
| | メディア棟 | Madia Bldg | R4 | 5.023 ㎡ |
| | 夢工場 | Dream Factory | S2 | 665 ㎡ |
| | 教育・実験棟 Education & Research Center for Subtropical Resources | | S1 | 498 ㎡ |
| 体育施設 Athletic Facilities | 体育館 | Gymnasium | R2 | 2.707 ㎡ |
| | アスレチックハウス | Athletic House | R2 | 256 ㎡ |
| 学生寮施設 Dormitory Facilities | 学生寮 | Dormitory | R9 | 10.457 ㎡ |
| 合計 Total | | | | 32.401 ㎡ |

（出典　平成21度学校要覧　P. 41抜粋）

# 平成21年度　前学期　使用教室別時間割

（更新：平成21年7月27日）

| | 曜日 | 月 | | | | 火 | | | | 水 | | | | 木 | | | | 金 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 教室名＼時限 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| | | 8:40～10:20 | 10:30～12:10 | 13:00～14:40 | 14:50～16:30 | 8:40～10:20 | 10:30～12:10 | 13:00～14:40 | 14:50～16:30 | 8:40～10:20 | 10:30～12:10 | 13:00～14:40 | 14:50～16:30 | 8:40～10:20 | 10:30～12:10 | 13:00～14:40 | 14:50～16:30 | 8:40～10:20 | 10:30～12:10 | 13:00～14:40 | 14:50～16:30 |
| 創造実践棟1階 | 講義室1-1(C4年H R) | 電磁気学(C4年) | | 地球科学(C4年) | 応用数学(C4年) | 通信工学(C4年) | 環境生命科学(M1・2)・M4年 | | | 科学技術英語(C4年) | 集積回路(C4年) | | △インターンシップ | 国語(C4年) | | 制御工学(C4年) | | | 応用物理(C4年) | 集積回路(C4年) | |
| | 講義室1-2(M4年HR) | | 社会科学(M4年) | | | 応用物理(M4年) | | 環境ネットワーキング(M4年) | | 国語(M4年) | 応用数学(M4年) | 科学技術英語(M4年) | △インターンシップ | | OSとコンパイラ(M4年) | | | | 確率・統計(M4年) | | (選択)生命科学(B4年) |
| | 講義室1-3(BR4年HR) | (選択)情報通信理論学(B4年) | 生物資源利用学(B4年) | 生物工学・生物工学実験(BR4年) | | 応用数学(BR4年) | 科学技術英語(BR4年) | 国語 | | 生理学・生理学実験(BR4年) | | 社会科学(B4年) | △インターンシップ | 遺伝子工学・遺伝子工学実験（BR4年） | | 英語(BR4年) | | 環境分析学(BR4年) | (選択)生命科学(B4年) | 確率・統計(BR4年) | |
| | 講義室1-4(MS4年HR) | 応用数学(MS4年) | (選択)材料科学(M4年) | 機械力学(MS4年) | ▽機械力学(MS4年) | | (選択)通信伝送方式(M4年) | 地球科学(MS4年) | | 制御工学(MS4年) | 流体工学(MS4年) | | △インターンシップ | 機械システム工学実験(MS4年) | ▽機械システム工学実験 | 国語(MS4年) | | 科学技術英語(MS4年) | 総合構造設計(MS4年) | 熱工学(MS4年) | ▽熱工学(MS4年) |
| 創造実践棟2階 | 講義室2-1(C3年H R) | 微積分Ⅱ | | 電子回路Ⅱ(C3年) | | | | 産業創造セミナー(C3年) | ドイツ語Ⅰ | | 電気回路Ⅱ(C3年) | 微積分Ⅱ | △LHR | 電子回路(C3年) | コンピュータ・ネットワーク(C3年) | | | 計測工学(C3年) | 環境科学(C3年) | | 国語Ⅱ |
| | 講義室2-2(M3年HR) | | | | | 英語 | 微積分Ⅱ | 産業創造セミナー(M3年) | フランス語Ⅰ | 離散数学(M3年) | 国語Ⅱ | 社会科学Ⅰ | △LHR | ネットワークプログラミング(M3年) | 微積分Ⅱ | | | | | (選択)工学応用(M3年) | 選択)アナログ回路(M3年) |
| | 講義室2-3(BR3年HR) | 発酵学(BR3年) | 環境学(BR3年) | | | 微積分Ⅱ | | 産業創造セミナー(B3年) | スペイン語Ⅰ | 社会科学Ⅱ | 応用物理(BR3年) | 国語Ⅱ | △LHR | 生物有機化学(BR3年) | | 微積分Ⅱ | | 環境科学(BR3年) | (選択)工学応用(BR3年) | 生化学・生化学実験(BR3年) | |
| | 講義室2-4(MS3年HR) | 機械材料(MS3年) | 微積分Ⅱ | | 電気・電子工学(MS3年) | 材料加工システム(MS3年) | ▽材料加工システム | 産業創造セミナー(MS3年) | | 機械材料(MS3年) | 微積分Ⅱ | 英語 | △LHR | 選択)生命科学(M3・4年)・(選択)創造科学(1年) | 材料力学設計(M3年) | 社会科学Ⅱ | | 応用物理(MS3年) | 国語Ⅱ | | |
| | 講義室2-5 | | | | | (選択)同位元素利用学(BR5年) | | | 選択)輸送現象論(専)(M5) | | | | | | 選択)生体工学特論(専)(M5) | | | | | | |
| | 講義室2-6 | 食品製造学(BR5年) | 選択)環境リサイクル学(B5年) | 選択)材料強度学(専)(M5年) | | | 選択)創造ものづくり(M5年) | 食品プロセス工学(B5年) | 選択)生物資源利用学(B5年) | 科学技術英語(MS5年) | | | | (選択)細胞工学(BR5年) | | | | 食品プロセスエ学(B5年) | 科学技術英語(B5年) | 特許法・法学(M5・B5年) | 特許法・法学(M5・B5年) |
| 創造実践棟2階 | 講義室3-1(2年1組) | | 生物 | 物理 | | 機械設計基礎学(M5.2年) | ▽機械設計基礎学(M5.2年) | 微積分Ⅰ | | 国語Ⅰ | | 線形代数 | △LHR | 社会科学Ⅰ | 英語 | 微積分Ⅰ | 中国語Ⅱ | | | | |
| | 講義室3-2(2年2組) | 生物 | | 線形代数 | | 計算機工学(C2年) | ネットワーク概論(C2年) | 物理 | 微積分Ⅰ | 社会科学Ⅰ | | | △LHR | 英語 | 微積分Ⅰ | 国語Ⅰ | 沖縄方言Ⅱ | 電気回路Ⅱ(C2年) | | | |
| | 講義室3-3(2年3組) | 国語Ⅰ | 物理 | 微積分Ⅰ | | | | | 線形代数 | 微積分Ⅰ | 創造演習(BR2年) | 英語 | △LHR | | 生物 | 社会科学Ⅰ | 韓国語Ⅱ | 科学技術英語(C5年) | | 生物分析化学(B5年) | |
| | 講義室3-4(2年4組) | 物理 | 微積分Ⅰ | 国語Ⅰ | | 微生物学(英語B2年) | 有機・物理化学(B2年) | 線形代数 | | 英語 | 材料力学設計(MS2年) | 微積分Ⅰ | △LHR | 生物 | 社会科学Ⅰ | | | 有機・物理化学(B2年) | 微生物学・実験B2年) | 科学技術英語(MS年) | |
| | 講義室3-5 | 情報セキュリティ(M5年) | コンピュータネットワーク(M5年) | | | 電子回路と集積回路Ⅱ(C5年) | | 科学技術文章(C5年) | | | 科学技術文章(BR5年) | | | 情報理論(C5年) | 選択)先進電力工学(M5年) | | | 一般選択日本語ライティング(専)(M5年) | 科学技術文章(M5年) | 専門共通講義特論(専)(M5) | 選択)材料物理(専)(M5) |
| | 講義室3-6 | 選択)海洋環境観測(専)(専)(M5) | GPS応用特論 GPS特論 (専・M・B 共通 | 科学技術文章(MS5年) | | 熱流体 機器(MS5年) | CAE(MS5年) | 計測工学(MS5年) | システム制御論(M5年) | | 選択)生産工学(M5年) | | | 応用数学Ⅱ(MS5年) | 選択)機械環境制御(専)(専)(M5) | | | メカトロニクス工学(B5年) | マイクロニクス工学(M5年) | 選択)分子生物学(M5年) | 選択)エネルギー変換(M5年) |
| | 準備室4 | | | 選択)システム設計論(土木(専)(専)) | | | | 選択)応用エネルギー(専)(専) | | | | | | 選択)マイクロ・波工学(専)(専) | 選択)データベース(B5年) | | | | 電波電波学(C5年) | | |
| 創造実践棟3階 | 講義室4-1(1年1組) | 国語Ⅰ | 英語 | 沖縄高専セミナー | | | 基礎数学Ⅱ | 計算機工学(C1年) | | 基礎数学Ⅰ | 英語 | | △LHR | 基礎数学Ⅱ | | 物理 | | 化学 | 基礎数学Ⅰ | | |
| | 講義室4-2(1年2組) | 英語 | 国語Ⅰ | 沖縄高専セミナー | | 基礎数学Ⅱ | | | | 英語 | 化学 | 基礎数学Ⅰ | △LHR | | | 基礎数学Ⅱ | | 基礎数学Ⅰ | | | 物理 |
| | 講義室4-3(1年3組) | 基礎数学Ⅱ | 英語 | 沖縄高専セミナー | | 国語Ⅰ | 基礎数学Ⅰ | | | | | 基礎数学Ⅰ | △LHR | 化学 | 物理 | | | 英語 | | | 基礎数学Ⅰ |
| | 講義室4-4(1年4組) | | 基礎数学Ⅰ | 沖縄高専セミナー | | 基礎数学Ⅰ | 国語Ⅰ | バイオ基礎実験(B1年) | マ・バイオ基礎実験(B1年) | 基礎数学Ⅱ | | 物理 | △LHR | 選択)応用微生物学(専)(専) | 英語 | 基礎数学Ⅰ | | | 英語 | プログラミング(EB1年) | 化学 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| メディア棟 | 視聴覚ホール | | | | 技術者倫理(5年) | | | 産業創造セミナー(M1年) | | | | | △インターンシップ・しお | | | | | | | | |
| | スタジオ | | | | | | | | | (選択)メディアコンテンツ応用(M5年) | | | | | | | | | | | |
| | 新設講義室＊ | | | | | | | | | (選択)メディアコンテンツ応用(M5年) | | | | | | | | | | | |
| | IT教室 | | 英語(C4年) | | コンピュータネットワーク(M3年) | 情報 技術の基礎(1年1組) | 情報技術の基礎(1年2組) | 実用英語(C4年) | 実用英語(MS4年) | 情報 技術の基礎(1年1組) | 情報技術の基礎(1年2組) | 英語(MS4年) | | 情報技術の基礎(1年3組) | 情報技術の基礎(1年4組) | 実用英語(1年3組) | | 情報技術の基礎(1年4組) | 情報技術の基礎(1年3組) | | 実用英語(1年1組) |
| | CALL教室 | 実用英語(1年4組) | 実用英語(M3年) | 英語(BR3年) | | 実用英語(1C3年) | 実用英語(B R3年) | 実用英語(M5年) | 実用英語(2年1組) | 実用英語(BR5年) | 実用英語(1C5年) | 実用英語(2年2組) | | 実用英語(2年3組) | 実用英語(MS5年) | 実用英語(2年4組) | 実用英語(MS3年) | 英語(M4年) | 実用英語(1年2組) | 実用英語(M4年) | 実用英語(B R4年) |
| | 図書館 | | | 英語(BR3年) | | 英語(M3年) | | | | 英語(2年4組) | | | | 英語(2年2組) | 英語(2年1組) | 英語(2年3組・MS3) | | 英語(M4年) | | | |
| 創造実践棟1階 | 情報通信工学実験室 | | 情報通信工学実 験B(C3年) | 沖縄高専セミナー(1C1 年) | | | | 計算機工学(1C1年) | | (専門共通必修)創造システム工学実験(専1年) | | | | 電子回路(1C3年) | 情報 通信工学実験B(C3年) | | | 計測工学(1C3年) | 情報 通信工学実験B(C3年) | 創造演習(2C2年) | 選択)アナログ回路(M3年) |
| | ネットワーク演習室 | 情報セキュリティ(M5年) | コンピュータネットワーク(M5年) | | | ディジタル回路(M2年) | | | | | | | | 選択)ネットワーキング(M4年) | | | | | | 創造演習(M2年) | 選択)システム物理(専)(M4 |
| | 創造工房 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 創造演習(M2年) | |
| 創造実践棟2階 | ソフトウェア演習室 | ソフトウェア開発実習(1C5年) | | 選択)組み込みシステム(C3年) | 選択)ディレーティングシステム(C3年) | 計算機工学(C2年) | アルゴリズムとデータ構造(C2年) | | アルゴリズムとデータ構造(C2年) | | | | | (選択)CISC用)(C3年) | プログラミング基礎(C2年) | | | | | 選択)ディレーティングシステム(C4年) | プログラミング 基礎(C1年) | |
| | メディア・プログラミング演習室 | モバイル通信方式(B4年) | | 沖縄高専セミナー(M1年) | | 選択)Web システム(PHP)(専・M・B共 | プログラミング(M2年) | | バイオ情報工学実験(M4年) | | プログラミング(M2年) | | | 選択)ハードウェア応用(1年)(M1年) | OSとコンパイラ(M4年) | | | プログラミング(M3年) | ハイブリッド情報工学実験(B M1年) | プログラミング(M1年) | |
| | 生物化学工学実験室 | 食品製造学(B5年) | | | | | | | 選択)生物資源利用学(B5年) | | | | | 遺伝子工学・遺伝子工学実験（BR4年） | | | | | | 生化学・生化学実験(B R3年) | |
| | 熱・流体実験室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 材料システム実験室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 創造実践棟3階 | LSI設計演習室 | 電磁気学(C4年) | | 電子回路Ⅱ(C3年) | | 電子回路と集積回路Ⅱ(C5年) | | 選択)情報デバイス(B1年) | | | 電気回路Ⅱ(C3年) | | | | | | | 電気回路Ⅱ(C2年) | | | |
| | メディアコンテンツ演習室 | コンピュータグラフィックス(M5年) | | メディア情報 工学実験B(M5年) | | コンピュータグラフィックス(M4年) | 選択)計算機科学特論(専)(M4 | メディアコンテンツ基礎(M1年) | ヴァイブコンテンツ基礎(B4年) | | | | | | 選択)プログラミング(B4年) | | | メディア情報工学実験(M2年) | | | |
| | 制御システム実習室 | 機械システム工学実験(M5年) | 情報 通信工学実験B(C3年)・情報システム工学実験(B4・C3年) | | | | 選択)制御ロボット(B4年) | | | | | | | 機械システム工学実験(M5年) | ▽機 械システム工学実験 | | | メカトロニクス工学 実験(B5年) | 情報通 工学実験B(C3年)・マイコン(C3年) | | |
| | 設計演習室 | | | | | 機械設計基礎学(M5.2年) | ▽機械設計基礎学(2 | | | | | | | | | | | | 創造演習(M2年) | 機械設計基礎学(M4年) | |
| | CAD・CAM室 | 機械システム工学実験(M5年) | ▽機械システム工学実験(M5年) | CAD(MS3年) | 電気・電子工学(MS3 年) | CAM(MS4 年) | | 産業創造セミナー(M3年) | | | | | | | | | | プログラミング(MS2年) | 総合構造設計(MS4年) | 選択)プログラミング(M3年) | |
| | CAE室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 微生物学実験室 | 発酵学(BR3年) | 選択)環境リサイクル学(B5年) | 高専切ミナー(B4年)＞生物工学・生物工学実験(BR4年) | | 微生物学(実験B2年) | 選択)化学および生物実験(M4年) | | | | 創造演習(BR2年) | | | 選択)化学および生物実験(M3年) | | | | 環境分析学(B4年) | 微生物学・実験B2年) | 生物分析化学(B5年) | |
| 創造実践棟4階 | 演習室2 | | | | | | | | | | | | | | | | デザイン | | | | |
| | 物理科学実験室 | 物理(2年4組) | 物理(2年3組) | 物理(2年1組) | | 応用物理(M4年) | | 物理(2年2組) | | | 応用物理(BR3年) | 物理(1年4組) | | | 物理(1年3組) | 物理(1年1組) | | 応用物理(MS3年) | 応用物理(C4年) | | 物理(1年2組) |
| | 自然科学系実験室 | 生物(2年2組) | 生物(2年1組) | | | 選択)創造科学(専)(M4年) | 選択)生命科学(M1・2)・M4年・(選択)創造科学(専)(M4年) | | | | 創造演習(BR2年) | | | 生物(2年4組) | 生物(2年3組) | | | | 選択)生命科学(B4年) | | 選択)生命科学(M4年) |
| | 化学・食品工学実験室 | | 環境学(BR3年) | 生物工学・生物工学実験(BR4年) | | | バイオ基礎実験(B1年) | マ・バイオ基礎実験(B1年) | | 生理学・生理学実験(BR4年) | | | | (選択)細胞工学(BR5年) | | | | | | | |
| | アリーナ・格技場・陸上競技場・テニスコート・多目的グラウンド | スポーツ実技(2年1組) | スポーツ実技(2年2組) | | | | | スポーツ実技(2年3組) | スポーツ実技(2年4組) | | スポーツ実技(1年3組) | スポーツ実技(1年1組) | | スポーツ実技(1年4組) | スポーツ実技(1年2組) | スポーツ実技(M3年) | スポーツ実技(BR3年) | | | スポーツ実技(C3年) | スポーツ実技(M3年) |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 講義室5(夢工場2階) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 夢工場 | | | 沖縄高専セミナー(MS1年) | | 材料加工システム(M3年) | ▽材料加工システム | (MS)材料加工システム | ▽(MS)材料加工システム | (専門共通必修)創造システム工学実験(専1年) | | | | 機械システム工学実験(M5年) | ▽機 械システム工学実験 | | | | | 材料加工システム(B5年) | ▽材料加工システム |
| | 温室セミナー室 | | | | | 選択)創造科学(専)(M4年) | 選択)生命科学(M1・2)・M4年・(選択)創造科学(専)(M4年) | | | | | | | | | | | | | | |

備考　○印は、非常勤講師です。
△印は、50分授業前半です。
▽印は、50分授業後半です。
OH　は、オフィスアワーです。

＊　新設講義室はメディア棟3階メディアホール内（視聴覚ホール前）に新設された講義室

（出典　学生課資料）

# 平成21年度　後学期　使用教室別時間割

（更新：平成21年10月5日）

| | 曜日 | 月 | | | | 火 | | | | 水 | | | | 木 | | | | 金 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 教室名＼時限 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| | | 8:40～10:20 | 10:30～12:10 | 13:00～14:40 | 14:50～16:30 | 8:40～10:20 | 10:30～12:10 | 13:00～14:40 | 14:50～16:30 | 8:40～10:20 | 10:30～12:10 | 13:00～14:40 | 14:50～16:30 | 8:40～10:20 | 10:30～12:10 | 13:00～14:40 | 14:50～16:30 | 8:40～10:20 | 10:30～12:10 | 13:00～14:40 | 14:50～16:30 |
| 創造実践1棟1階 | 講義室1-1(1C4年HR) | 通信工学Ⅰ(1C4年) | 社会科学Ⅱ(1C4年) | 電磁気学(1C4年) | | 応用物理(1C4年) | (選択)数学演習(1C4年) | 集積回路(1C4年) | 英語演習(MS・1C4年 | 集積回路(1C4年) | | 科学技術文章(1C4年) | △インターンシップ | 信号処理(1C4年) | | 科学技術英語(1C4年) | | | 応用数学(1C4年) | 確率・統計3(C4年) | |
| | 講義室1-2(MI4年HR) | アルゴリズムとデータ構造(MI4年) | 応用物理(MI4年) | 応用数学(MI4年) | (選択)ネットワーキング(TIM4年) | | 地球科学(MI4年) | | | | 情報理論(MI4年) | 科学技術英語(MI4年) | △インターンシップ | | ネットワーキング(MI4年) | (選択)英語演習(MI・BR4年) | 科学技術文章(MI4年) | OSとコンパイラ(MI4年) | 数学演習(MI4年) | (選択)デバイス・プロセス(MI・BR4年) | |
| | 講義室1-3(BR4年HR) | 環境分析学(BR4年) | 応用数学(BR4年) | 遺伝子工学・遺伝子工学実験（BR4年） | | 生理学・生理学実験(BR4年) | | 地球科学(BR4年) | | （選択）環境保全学(BR4年) | | | △インターンシップ | 生物工学・生物工学実験(BR4年) | | | 科学技術英語(BR4年 | 生物資源利用学(BR4年) | 数学演習(BR4年) | (選択)生物資源管理学(BR4年) | 科学技術文章(BR4年 |
| | 講義室1-4(MS4年HR) | 機械力学(MS4年) | ▽機械力学(MS4年) | 科学技術英語(MS4年) | | 制御工学(MS4年) | (選択)数学演習(MS4年) | 流体工学(MS4年) | ドイツ語Ⅱ | 応用数学(MS4年) | (選択)材料科学(MS4年) | 社会科学Ⅲ(MS4年) | △インターンシップ | 機械システム工学実験(MS4年) | ▽機械システム工学実験 | 科学技術文章(MS4年) | | 総合構造設計(MS4年) | 確率・統計(MS4年) | 熟工学(MS4年) | ▽熟工学(MS4年) |
| 創造実践1棟2階 | 講義室2-1(1C3年HR) | 微積分Ⅱ | | | 電子回路Ⅱ(1C3年) | | 電気回路Ⅱ(1C3年) | 産業創造セミナー(1年) | 健康科学 | 電子回路(1C3年) | エンピュータアーキテクチャ(1C3年) | 微積分Ⅱ | △LHR | 離散数学(MI3年) | | | | 計測工学(1C3年) | | 国語Ⅰ | 準導体工学(1C3年) |
| | 講義室2-2(MI3年HR) | エンピュータアーキテクチャ(MI3年) | | | 環境科学(MI3年) | 健康科学 | 微積分Ⅱ | 産業創造セミナー(MI3年) | | 科学技術英語(MI3年) | 国語Ⅰ | 社会科学Ⅱ | △LHR | | | 微積分Ⅱ | 英語 | | | | (選択)アナログ回路(MI3年) |
| | 講義室2-3(BR3年HR) | 応用物理(BR3年) | 健康科学 | | 発酵学(BR3年) | 微積分Ⅱ | 応用物理(MS3年) | 産業創造セミナー(BR3年) | | | 社会科学Ⅰ | 国語Ⅰ | △LHR | 生化学・生化学実験(BR3年) | | 微積分Ⅱ | | 生物有機化学(BR3年) | | 環境学実験(BR3年) | |
| | 講義室2-4(MS3年HR) | 健康科学 | 微積分Ⅱ | | 科学技術英語(MS3年) | 機械材料(MS3年) | 応用物理(MS3年) | 産業創造セミナー(MS3年) | 選択 化学及び生物実験(MS3年 | 機械加工システムⅡ(MS3年) | ▽機械加工システムⅡ(MS3年) | 英語 | △LHR | 微積分Ⅱ | 材料力学設計(MS3年) | 社会科学Ⅱ | | 環境科学(MS3年) | 国語Ⅰ | 電気・電子工学(MS3年) | |
| | 講義室2-5 | | | | | | (選択)食品化学(準1年BR | | | | | | | | | | | | (選択)流体工学概論(準1年BS | (選択)数学通論(準1年) | |
| | 講義室2-6 | (選択)タンパク質工学(BR5年) | | | | (選択)資源リサイクル学(BR5年) | | 食品製造学(BR5年) | 食品プロセス工学(BR5年) | (一般選択 環境配慮学(準1年BR) | | | | 科学技術英語(BR5年) | 国語Ⅱ(BR5年) | | | 食品プロセス工学(BR5年) | (選択)生物資料利用学(BR5年) | (選択)生物資料利用学(BR5年) | |
| 創造実践1棟1階 | 講義室3-1(2年1組) | | 生物 | 英語 | 物理 | 機械設計基礎学(MS2年) | ▽機械設計基礎学 | 微積分Ⅰ | | 国語Ⅱ | | 線形代数 | △LHR | 社会科学Ⅰ | | 微積分Ⅰ | | | | | |
| | 講義室3-2(2年2組) | 生物 | | 線形代数 | 英語 | 計算機工学(3C2年) | ネットワーク概論(3C2年) | 物理 | 微積分Ⅰ | 社会科学Ⅰ | | | △LHR | 英語 | 微積分Ⅰ | 国語Ⅱ | | 電気回路(3C2年) | | | |
| | 講義室3-3(2年3組) | 国語Ⅱ | 物理 | 科学技術英語(MS5年) | 微積分Ⅰ | | | | 線形代数 | 微積分Ⅰ | 創造演習(BR2年) | 英語 | △LHR | | 生物 | 社会科学Ⅰ | | 科学技術英語(3C5年) | 科学技術英語(MS5年) | 生物分析化学(BR2年) | |
| | 講義室3-4(2年4組) | 微積分Ⅰ | 国語Ⅱ | 物理 | | 微生物学・実験(BR2年) | 有機・物理化学(BR2年) | 線形代数 | | 英語 | 材料力学設計(MS2年) | 微積分Ⅰ | △LHR | 生物 | 社会科学Ⅰ | | | 有機・物理化学(BR2年) | 微生物学・実験(BR2年) | | |
| | 講義室3-5 | | | (選択)通信法規(3C5年) | (選択)コンパイラ(3C5年) | (選択)集積回路 工学(3C5年) | (選択)人工知能(3C5年) | 選択 制御システムシミュレーション(MI4年) | 国語Ⅰ(3C5年) | | 国語Ⅰ(MI5年) | | | 電子回路と集積回路Ⅲ(1C5年) | | 科学技術英語(3C3年) | | 実用英語(専1年) | 通信工学(3C5年) | | |
| | 講義室3-6 | | | (一般選択 環境安全(衛生)専1年) | | 熱流体 機器(MS5年) | CAE(MS5年) | 計測工学(MS5年) | 知能制御論(MS5年) | 国語Ⅰ（MS5年） | | | | 応用数学Ⅱ(MS5年) | (選択)生産工学(MS5年) | | | メカトロニクス工学(MI5年) | マイクロトニクス工学(MI5年) | (選択)エネルギー変換工学(MI5年) | |
| | 準備室4 | (選択)環境処理 特論(専1年1C | (選択)数理計画(応用(専1年2C) | | | (選択)半導体 物性工学(専1年1C | | | | | | | | | | | | | | | |
| 創造実践1棟1階 | 講義室4-1(1年1組) | 国語Ⅰ | 化学 | 沖縄高専セミナー | | | 基礎数学Ⅱ | | 計算機工学(1C1年) | 英語 | 基礎数学Ⅰ | | △LHR | | 基礎数学Ⅱ | 中国語Ⅰ | 社会科学Ⅱ(1C3年) | 物理 | 基礎数学Ⅰ | | |
| | 講義室4-2(1年2組) | | 国語Ⅰ | 沖縄高専セミナー | | 基礎数学Ⅱ | | | | 化学 | 英語 | 基礎数学Ⅰ | △LHR | 基礎数学Ⅰ | | 沖縄方言Ⅰ | | 基礎数学Ⅰ | 物理 | | |
| | 講義室4-3(1年3組) | 基礎数学Ⅱ | 化学 | 沖縄高専セミナー | | 国語Ⅰ | 基礎数学Ⅰ | | | | | 物理 | △LHR | 基礎数学Ⅰ | | | | 英語 | 基礎数学Ⅱ | | |
| | 講義室4-4(1年4組) | 化学 | | 沖縄高専セミナー | | 基礎数学Ⅰ | 国語Ⅰ | (BR)バイオ基礎実験 | ▽(BR)バイオ基礎実験 | 物理 | | 基礎数学Ⅱ | △LHR | | 基礎数学Ⅰ | 韓国語Ⅰ | | 基礎数学Ⅱ | 英語 | プログラミング(BR1年) | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| メディア棟 | 視聴覚ホール | | | | | | | 産業創造 特論(BR・MS3年) | | | | | △インターンシップ・LHR | | | 音楽 | | | | | |
| | スタジオ | | | | | | | | | | | | | (選択)メディアコンテンツ応用(MI5年) | | | | | | | |
| | 新講義室＊ | | | | | 選択メディアコンテンツ特論 準1年 | | | | | | | | (選択)メディアコンテンツ応用(MI5年) | | | | | | | |
| | IT教室 | | 実用英語(1年4組) | 実用英語(BR3年) | 実用英語(3C4年) | 情報技術の基礎(1年1組) | 情報技術の基礎(1年2組) | 実用英語(TOEIC)(MI3年 | | 情報技術の基礎(1年3組) | 情報技 術の基礎(1年4組) | 実用英語(TOEIC)BR4年 | | 実用英語(1年1組) | 英語(2年1組) | 英語(BR3年) | 実用英語(MS4年) | コンピュータネットワーク(MI3年) | | | |
| | CALL教室 | 実用英語(1年2組) | 実用英語(MI5年) | 英語(2年3組) | 英語(2年4組) | 実用英語(3C3年) | 科学技術英語(BR3年) | 実用英語(3C5年) | 実用英語(2年1組) | 実用英語(BR5年) | 実用英語(MS5年) | 実用英語(2年2組) | | 実用英語(2年3組) | 英語(2年1組) | 英語(2年4組) | 実用英語(MS3年) | | 英語(1C3年) | 実用英語(MI3年) | |
| | 図書館 | | | 英語(2年1組、3組) | 英語(2年2組、4組) | | | | | 英語(2年4組) | | 英語(2年3組、MS3年) | | 英語(2年2組) | 英語(2年1組) | 英語(BR3年) | 英語(MI3年) | | 英語(1C3年) | | |
| 創造実践1棟1階 | 情報通信工学実験室 | | 情報通信工学実験B(3C3年) | 沖縄高専セミナー(1C1年) | | | | | 計算機工学(1C1年) | 電子回路(1C3年) | 創造演習\(2年) | | | | 情報通信 工学実験B(3C4年) | | | 計測工学(1C3年) | 情報通信工学実験B(3C2年) | 情報通信工学実験B(1C1年) | (選択)アナログ回路(MI3年) |
| | ネットワーク演習室 | | | (選択)ネットワーキング(TIM4年) | | ディジタル回路(MI2年) | | | | (専門共通必修)創造システム工学実験(専2年) | | | | | (選択)ネットワーキング(TIM4年) | | | | | 創造演習(MI2年) | |
| | 創造工房 | | | | | | (選択)食品化学(準1年BR | | | | | | | | | | | 創造演習(MS2年) | | | |
| 創造実践1棟1階 | ソフトウェア演習室 | ソフトウェア開発実習(3C5年) | | (選択)オペレーティングシステム(3C5年 | | 計算機工学(3C2年) | 選択 シミュレーション工学(準1年 | プログラミング基礎(3C2年) | (選択)IT応 用(MI3年) | (選択)プログラミング(BR3年) | アルゴリズム データ構造(3C3年) | | | アルゴリズム データ構造(3C3年) | | | | (選択)オペレーティングシステム(3C4年) | (選択)IT 応用(BR3年) | プログラミング基礎(3C2年) | ネットワーク セキュリティー(3C3年) |
| | メディア・プログラミング演習室 | アルゴリズムとデータ構造(MI4年) | | プログラミング(MI3年) | 沖縄高専セミナー(MI1年) | パターン情報工学実験(MI4年) | ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ言ﾑ(MI2年) | (選択)ディジタル・システム設計(MI3年) | | 信号処理とメディア通信(MI3年) | プログラミング言ﾑ(MI2年) | | | (選択)ソフトウェア応用(MI4年) | モバイル通信方式(MI3年) | | | OSとコンパイラ(MI4年) | パターン情報工学実験(MI4年) | プログラミング(MI1年) | (選択)セキュリティ応用(MI4年) |
| | 生物化学工学実験室 | | | 遺伝子工学・遺伝子工学実験（BR4年） | | | 食品製造学(BR5年) | | | (専門共通必修)創造システム工学実験(専2年) | | | | 生化学・生化学実験(BR3年) | | | | | | | |
| | 熱・流体実験室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 材料システム実験室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 創造実践1棟1階 | LSI設計演習室 | | | 電磁気学(1C4年) | 電子回路Ⅱ(3C3年) | | 電気回路Ⅱ(3C3年) | | | | (選択)CAD技術(3C5年) | | | 電子回路と集積回路Ⅲ(1C5年) | | | | 電気回路(3C2年) | | | |
| | メディアコンテンツ演習室 | | メディア情報工学実験Ⅱ(MI3年) | | (選択)データベース(MI5年) | | | メディアコンテンツ基礎(MI3年) | ▽メディアコンテンツ基礎 | | | | | | | | | メディア情報工学実験Ⅰ(MI2年) | | | |
| | 制御システム実習室 | 機械システム工学実験Ⅰ(MS3年) | 情報処理工学実験Ⅱ(3年)<br>プログラミング工学実験(MI3年) | | | | (選択)人工知能(3C5年) | | | 選択)マルチメディア処理(3C5年 | | | | 機械システム工学実験Ⅰ(MS3年) | ▽機械システム工学実験 | | | メカトロニクス工学(MS5年) | 情報処理工学実験<br>マイクロコンピュータ | | |
| | 設計演習室 | | | 沖縄高専セミナー(MS1年) | | 機械設計基礎学(MS2年) | ▽機械設計 基礎学 | | | | | | | | | | | 創造演習(MS2年) | | 機械設計基礎学(MS1年) | |
| | CAD・CAM室 | 機械システム工学実験Ⅰ(MS3年) | ▽機械システム工学実験(MS3年) | CAD(MS3年) | CAM(MS4年) | | | 産業創造セミナー(MS2年) | | | | | | | | | | 総合構造設計(MS4年) | プログラミング(MS3年) | 電気・電子工学(MS3年) | (選択)プログラミング(1MS3年) |
| | CAE室 | | | | | | | 選択 制御システムシミュレーション(MI4年) | | | | | | | | | | | | | |
| | 微生物学実験室 | 環境分析学(BR4年) | | (選択)資源リサイクル学(BR5年) | 発酵学(BR3年) | 微生物学・実験(BR2年) | | | 選択 化学及び生物実験(MS3年 | | 創造演習(BR2年) | | | (選択)創造学(準1年BR | | | | | 微生物学・実験(BR2年) | 生物分析化学(BR2年) | (選択)生物資料利用学(MI4年) | |
| | 演習室2 | | | | | | | | | | | | | | | 美術 | | | | | |
| 創造実践1棟1階 | 物理科学実験室 | 応用物理(BR3年) | 応用物理(MI4年) | 物理(2年4組) | 物理(2年1組) | 応用物理(3C4年) | 応用物理(MS3年) | 物理(2年2組) | | 物理(1年4組) | | 物理(1年3組) | | | (選択)物理学特論(準1年) | | | 物理(1年1組) | 物理(1年2組) | | |
| | 自然科学系実験室 | 生物(2年2組) | 生物(2年1組) | 沖縄高専セミナー(BR1年) | | | | | | | 創造演習(BR2年) | | | 生物(2年4組) | 生物(2年3組) | | | | | | |
| | 化学・食品工学実験室 | (選択)タンパク質工学(BR5年) | | 沖縄高専セミナー(BR1年) | | 生理学・生理学実験(BR4年) | | (BR)バイオ基礎実験 | ▽(BR)バイオ基礎実験 | | | | | 生物工学・生物工学実験(BR4年) | | | | | | 環境学実験(BR3年) | |
| | アリーナ・格技場・陸上競技場・テニスコート・多目的グラウンド | スポーツ実技(2年1組) | スポーツ実技(2年2組) | | | | スポーツ実技(MS・1C4年) | スポーツ実技(2年3組) | スポーツ実技(2年4組 | | スポーツ実技(1年3組) | スポーツ実技(1年1組 | | スポーツ実技(1年4組) | スポーツ実技(1年2組 | | | | スポーツ実技(BR・BR4年) | スポーツ実技(5年) | スポーツ実技(5年) | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 講義室5(夢工場2階) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 夢工場 | | | 沖縄高専セミナー(MS1年) | | | | (MS)材料加工シス | ▽(MS)材料加工シス | 機械加工システムⅡ(MS3年) | ▽機械加工システムⅡ(MS3年) | | | 機械システム工学実験(MS4年) | ▽機械システム工学実験 | | | | | 材料加工システムⅡ(MS2年) | ▽材料加工シス |
| | 温室セミナー室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

備考
○印は，非常勤講師です。
△印は，50分授業前半です。
▽印は，50分授業後半です。
OH　は，オフィスアワーです。

＊　新設講義室はメディア棟3階メディアホール内（視聴覚ホール前）に新設された講義室



（学生配布資料）　無断転載禁止

資料８－１－①－５

# 沖縄工業高等専門学校学科概要等

## ○情報通信システム工学科の学科概要

本学科では、コンピュータのソフト作成と応用技術、ネットワーク・通信技術、LSI 分野におけるソフト・ハードの設計・開発技術の 3 つを柱に創造的・実践的技術者の育成を目指しております。また、研究面においても多岐にわたる専門分野の教員が、コンピュータ応用技術、ヒューマンインタフェース技術、音声合成・認識技術、画像認識・処理技術、人工知能プログラム、光通信技術、無線通信技術、高周波回路技術などの基礎・応用などの研究を行っております。設備面では、FPGA・DSP 設計ツール、LSI 設計 EDA、高速デジタル無線信号解析装置、高周波アナログ信号解析装置、回路試作設備などを整備・拡充しております。IT 分野のみならず、様々な産業分野にも応用できる地域密着型技術シーズの拡大と深耕を目指しております。

**【主要設備一覧】**

| 設備等名称 | メーカ・型式 | 主 仕 様 | 特 徴 ・ 用 途 |
|---|---|---|---|
| パターンジェネレータ | Agilent　N4902B | 13Gb/s、<br>SONET/SDH | ・高速デジタル変調<br>・光通信、デジタル LSI |
| サンプリングオシロスコープ | Agilent　86100C | 電気:20GHz,<br>CDR、ジッタ解析機能付<br>光:9GHz | ・高速デジタル変調<br>・光通信、デジタル LSI |
| 符号誤率測定器 | Agilent　N4902B | 13Gb/s<br>SDH、10G　Ether | ・高速デジタル変調<br>・光通信、デジタルLSI |
| ベクトル信号発生器 | Agilent　E4438C | 250kHz～6GHz、<br>WLAN(11a/b/g),WCDMA,<br>WIMAX(16e)変調 | ・アナログ、デジタル変調<br>・無線通信<br>・RF　LSI |
| ベクトル信号アナライザ | Agilent　89600S | WLAN(11a/b/g)、<br>WCDMA、WIMAX(16e)<br>復調解析、 | ・アナログ、デジタル復調<br>・無線通信<br>・RF　LSI |
| パワーメータ | Agilent<br>E4418A/E9300B | 18GHz、<br>－30～+40dBm | ・無線送受信機器<br>・無線通信 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 半導体素子パラメータ解析装置 | Agilent　4157b | 10fA、<br>0.5uV | ・半導体 DC 評価 |
| LCR メータ | Agilent　4284A | 20Hz～1MHz | ・電子部品測定 |
| デジタル信号発生器 | Agilent　81130 | 2ch,<br>660MHz | ・デジタル LSI 評価 |
| ネットワークアナライザ | Agilent　N5230A | 10M～26GHZ<br>2x2 ポート<br>（差動入出力対応）<br>タイムドメイン機能 | ・アナログ LSI 評価<br>・無線通信 |
| リアルデジタルオシロスコープ | Agilent　DS081204A | 12GHz ダイレクト<br>40Ghz サンプリング | ・デジタル LSI 評価 |
| ミクスドシグナルオシロスコープ | Agilent　MS06104A | 4+16ch、<br>1GHz | ・デジタル LSI 評価<br>・FPGA 設計 |
| スペクトラムアナライザ | Agilent　E4407B | 26.5GHz<br>−151dBm(10Hz) | ・アナログ LSI 評価<br>・無線通信 |
| スペクトラムアナライザ | Agilent　E4440A | 26.5GHz，20MHz BW<br>−167dBm(1Hz), NF | ・アナログ LSI 評価<br>・無線通信 |
| 多 Ch ロジックアナライザ | Agilent　16902A | 68ch<br>600Mb/s | ・デジタル LSI 評価 |
| アナログ信号発生器 | E8257D-520、 | 250kHz-20GHz | ・アナログ回路評価 |
| 光コンポーネントアナライザ | Agilent<br>N4373A | 26.5GHz<br>波長 1.3um，1.55um | ・光通信 |
| 光パワーメータ | Agilent 8163B | 800～1700nm<br>−110dBm，60dB Att | ・光通信 |
| 光ファイバ融着装置 | Furukawa<br>AWAS122M4 | SMF | ・光通信 |
| 光スペクトルアナライザ | YOKOGAWA<br>AQ6319, | 600～1700nm,10pm | ・光通信 |
| ウエファプローバステーション | Cascade　Summit 9000 | 6 inch<br>40GHz，2 端子 | ・半導体 RF 評価 |
| ワイヤーボンダー | WestBond 7700E | US/TC | ・半導体実装 |
| 共晶ダイボンダ | WestBond 7316C | 熱、加重、スクラブ、3 軸マニュピレータ、AuSn | ・半導体実装 |
| 回路基板加工機 | PROTOMATE　S62 LPKF | 62000rpm,<br>0.15mm | ・基板加工 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| スルーホール加工機 | LPKF MINICONTAC3, | 0.3mm | ・基板加工 |
| 半田印刷機 | LPKF ZELPRINT LT-300, | | ・基板実装 |
| リフロー | LPKF ZELFLOW R04, | | ・基板実装 |
| 精密卓上旋盤 | USL5B | | ・外囲器加工 |
| 卓上フライス盤 | 80-S | | ・外囲器加工 |
| ワークステーション | SunBlade1500 、SunFireV240 | Solaris10,UltarSpark3i, 1.5GHz | ・計算サーバ<br>・VDEC |
| ワークステーション | Dell Precision 690 | WinXP64,Xeon5150x2, 4GB | ・計算サーバ |
| RAID UNIT | SunStorage3310 | Sun Store Edge | ・ファイルサーバ |
| 回路シミュレータ | Agilent ADS2005A | Windows | ・MMIC 回路、通信システム設計 |
| 回路シミュレータ | HFSS Ver10 | Windows | ・電磁界回路設計 |
| 回路シミュレータ | AWR Microwave Office 2007 | Windows | ・高周波回路設計 |
| 回路シミュレータ | Cadence PCB Designer | Windows | ・アナログ回路設計 |
| 回路シミュレータ | Altium Designer | Windows | ・FPGA,回路基板設計 |
| 回路基板 CAD | Mentor PADS PACK B+ ［2007］F、HyperLynx GHx(F) | Windows | ・回路基板 CAD<br>・基板伝送シミュレーション |
| 3D CAD | Solidworks 2008 | Windows | ・3G レイアウト CAD |
| 回路学習機 | Maxitronix Electronic Lab 500 in 1, | 500 種類の回路対応 | ・回路学習 |
| 気象衛星受信システム | TimeStep、グリッドパラボラアンテナ | NOAA 気象衛星 | ・HRPT 画像受信 |
| 眼球運動計測装置 | NAC | 両眼計測 | 人間の視線の動きを計測する |
| 3次元運動計測装置 | ライブラリ | 3台計測,<br>最大 120 フレーム/秒 | モーションキャプチャ |
| 数値解析ソフトウェア | MATLAB・サイバネットシステム | ソフトウェア | 信号処理、通信、画像処理などの数値解析 |
| ネットワークシミュレータ | QualNet・構造計画研究所 | ソフトウェア | シミュレーションによるネットワーク解析 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ネットワークシミュレータ | Network Visualizer・デジタルアーキテクト | ソフトウェア | シミュレーションによるネットワーク解析 |
| マルチメディア通信学習装置 | 岩通計測・シスコシステムズ・NTT | | 通信・ネットワークに関する実習装置一式 |
| ネットワークアナライザ | Agilent N5230A | 10M～20GHz | ・無線回路評価<br>・無線通信 |
| ネットワークアナライザ | Agilent N5230A | 10M～20GHz | ・電波伝搬特性評価<br>・無線通信 |
| スペクトルアナライザ | Agilent N1996A | 100kHz～6GHz<br>可搬形 | ・電波伝搬特性評価<br>・無線通信 |
| ワークステーション | Sun Fire V215<br>Sun Fire X2100 | UltraSPARC IIIi,<br>Solaris10, Sun Ray<br>AMD Opteron, N1 Grid Engine | ・並列分散実験システム |
| フォトリソグラフィー装置 | ミカサ MA-10 | | ・集積回路、半導体素子、マイクロマシン製作 |
| 電気炉 | 島津理化 | Max1200℃ | ・半導体素子製作用（ドライ・ウェット兼用） |
| 真空蒸着装置 | ULVAC | ヒーター加熱 | ・半導体素子製作用 |
| 純水製造装置 | 島津理化 | 蒸留・イオン交換 | ・半導体素子製作用 |
| 真空内微小電流測定システム | | 真空度～10－6Pa<br>1000V, pA オーダー（3 系統） | ・電子電界放出測定 |
| 回路シミュレータ | MicroCAP | Windows | アナログ・デジタル回路 |
| ネットワークアナライザ | Agilent E5061 | 300kHz-1.5GHz | ・アナログ LSI 評価<br>・半導体評価 |
| オシロスコープ | Agilent MSO6104A | 1.0GHz 1Gb/s | ・アナログ LSI 評価<br>・半導体評価 |
| シグナルジェネレータ | Agilent N5181A | 300kHz-3GHz | ・アナログ LSI 評価<br>・無線通信<br>・半導体評価 |
| スペクトルアナライザ | Agilent E4442A | 3Hz-6.6GHz | ・無線回路評価<br>・無線通信 |
| 半波長ダイポール空中線 | 共立電子 KBA-511A | 25MHz-500MHz | ・電波伝搬特性評価 |
| 広帯域信号発生装置 | Agilent N5181A-506 | 100kHz-6GHz | ・電波伝搬特性評価<br>・無線通信 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 光干渉測定装置 | 駿河精機 | | ・マッハツェンダー干渉<br>・マイケルソン干渉 |
| | | | |

（出典　平成21年情報通信システム工学科度施設見学会資料）

（分析結果とその根拠理由）

教室，実験室，図書室，情報関連施設等，本校の学習・教育目標を達成するに必要な施設，設備は整備されているといえる。しかし，教室や設備の稼働率を数値として把握しておらず，今後その分析を行い講義室の確保や利用率の向上に取り組む必要がある。また，専攻科棟の設置に関しては，専攻科の学生がメインで利用できる講義室や実験室の確保のため，22年度から工事を着工する予定である。バリアフリー化への配慮という点では，その設備として，スロープ，身体障害者用トイレ，スライドドア，エレベータが設置されている。以上のことから，本校の施設及び設備については，各組織の管理の下に，整備されており有効に活用されている。

**観点８－１－②：　教育内容，方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。**

（観点に係る状況）

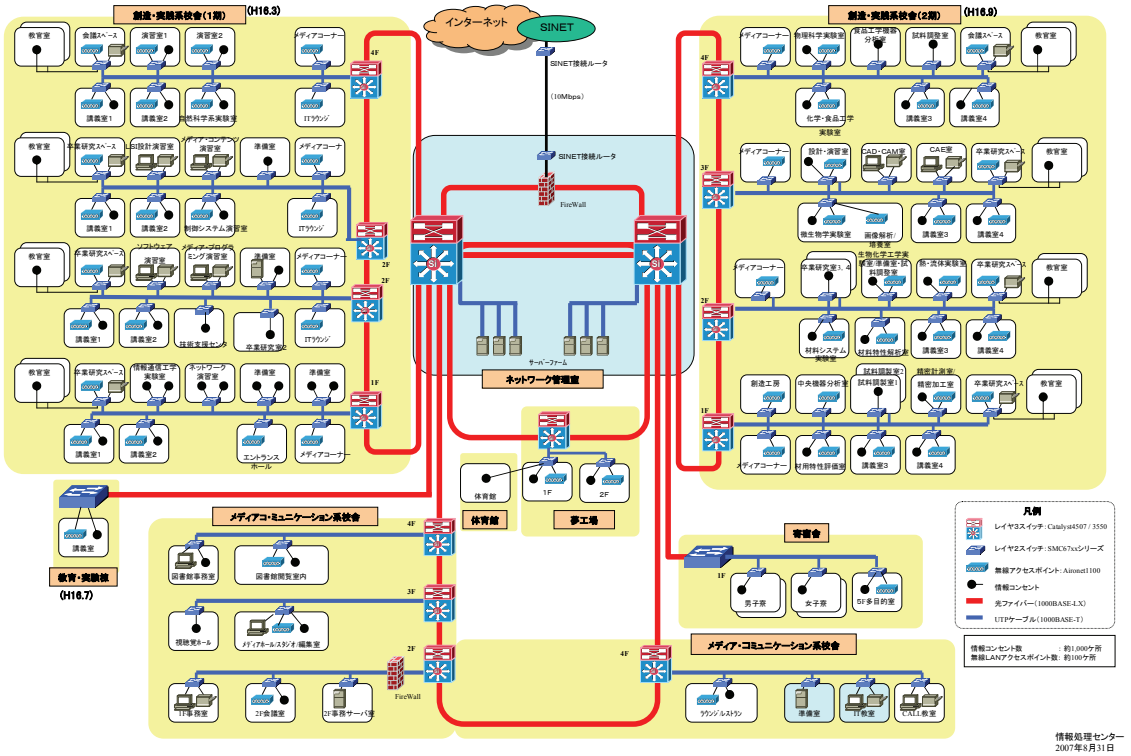
校内ネットワークシステムは，創造・実践棟とメディア棟内を光ケーブルにて，ループ構成をとっており，夢工場，学生寮，教育・実験棟にも光ケーブルで接続されている（資料８－１－②－１）。校内ネットワークの管理は，情報処理センターが行っており，コンピュータ，ネットワーク，共有ファイルシステム，無線LANシステムなどの管理，サービスを行っている。校内情報処理センターの施設として，IT 教室（資料８－１－②－２），ネットワーク管理室（資料８－１－②－３）がある。また，その利用は，「沖縄工業高等専門学校情報処理ネットワーク利用規則」に従っている（資料８－１－②－４）。学生は，教室などでは無線LANのスポットを利用，実験室や学生寮からは，情報コンセントを利用することで，校内のどこからでも各自のノートパソコンを用いて，ネットワークを利用し学習することができるようになっている。本校では，入学時に各自のノートパソコンを準備してもらい，それを教育に利用しているため，入学時にネットワーク利用申請書を提出してもらい（資料８－１－②－５，資料８－１－②－６，資料８－１－②－７），その利用規則に関しては，「学生生活の手引き」で学生に周知している（資料８－１－②－８）。教職員に関してもネットワークを利用する場合は，ネットワーク利用申請書，コンピュータ接続許可書，通信機器接続許可書などの申請を行い利用することになっている（資料８－１－②－５，資料８－１－②－６，資料８－１－②－７）。

情報ネットワークのセキュリティに関しては，ネットワークを利用するすべてのパソコンにウィルス対策ソフトを入れるよう指導しており，ウィルス対策ソフトの更新は，パソコンを起動した状態で，正午にネットワークに繋いでいると，自動アップデートをかけるようになっている。また，「情報技術の基礎」の科目を全学科の1年生に必修科目として定めており，その講義の中でもセキュリティや情報倫理教育がなされている（資料８－１－②－９）。

ネットワークの教育の利用に関しては，本校では，e-learningのシステムとしてBlackboardを導入しており，講義や実験の資料の提供，試験などに利用している．講義資料などをe-learningで提供することにより，学生は寮や学外からでも資料を得ることができ，予習や課題の提出を行う事が可能になっている（資料８－１－②－10）。さらに，インターンシップの情報や進学・就職に関する情報などを提供できるように，学生向けのポータルサイトを導入しており，学生はインターンシップ先や学外からメールの確認や各種情報を得ることができるようになっている（資料８－１－②－11）。

資料８－１－②－１

国立沖縄工業高等専門学校　校内ネットワークシステム全体概略図



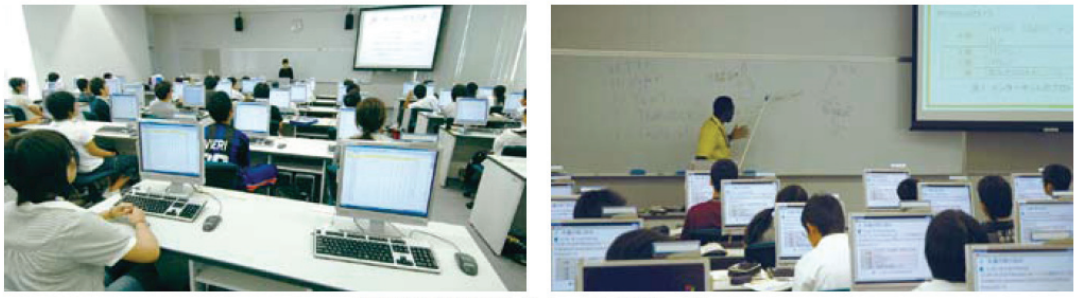

（出典　情報処理センター資料）

資料８－１－②－２

## IT教室　IT Room

情報化社会に対応するために、学生一人ひとりがコンピュータを活用できることを目的として、最新のパーソナルコンピュータとサーバシステムを整備し、全学科共通科目「情報技術の基礎」において情報リテラシや情報理論とネットワークを利用する上でのセキュリティとマナー等の教育を行っています。

In order to have each student cope with the growing society of information technology,Basic Information Technology course teaches commputer literacy and theory as well as security and netiquette in utilizing the network,a common subject in all departments,with the newest server system and the latest computers in the IT room.



情報技術の基礎の授業　Fundamentals of IT Science Class

（出典　平成21度学校要覧　P. 31　抜粋）

資料８－１－②－３

## 情報処理センター Information Processing Center

校内ネットワークシステムは、創造･実践棟とメディア棟内を光ケーブルにて、ループ構成をとっています。また、夢工場、学生寮、教育・実験棟にも光ケーブルで接続されています。

情報処理センターは、コンピュータ、ネットワーク、共有ファイルシステム、無線 LAN システムなどの管理、サービスを行っています。本センターの施設として、IT 教室、ネットワーク管理室があります。

Canpus Information Network system consists of loop-structured optical fiber between all the buildings on campus. The Information Processing Center provides the management and support services for computers, networks, file servers, and wireless LAN. The IT room and the server room belong to the Information Processing Center.



ネットワーク管理室　Network Control Room



（出典　平成21度学校要覧　P. 29　抜粋）

資料８－１－②－４

# 沖縄工業高等専門学校情報処理ネットワーク利用規則

［平成１６年 ４ 月 １ 日
規　則　第 １７ 号］
改正　平成１９年１２ 月１９日
規　則　第 １１ 号
平成２１年１０月２１日
規　則　第 １８ 号

（ネットワークの設置）
第１条　沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、教育・研究の推進を図るため、全校で利用可能な校内ネットワークを設置する。

（管理・運営）
第２条　ネットワークは、基幹ネットワーク（以下「基幹部分」という。）及び本校の各学科等に配置した支線ネットワーク（以下「支線部分」という。）により構成する。
２　基幹部分の管理・運営については、沖縄工業高等専門学校情報処理センター規則（平成16年規則第16号）第５条第１項第１号及び第４号の規定に基づき、情報処理センター（以下「センター」という。）が行うものとする。
３　支線部分の管理については、当該学科等が行うものとし、センターは技術的支援を行うものとする。
４　前項の当該学科等が管理する支線の範囲については、別に定める。

（利用者）
第３条　ネットワークを利用できる者は、次に掲げる者とする。
(1) 本校の教職員（非常勤職員を含む。）
(2) 本校の学生
(3) その他校長が利用を認めた者

（利用手続）
第４条　ネットワークの利用を希望する場合は、ネットワーク利用申請書（別紙第１号様式）をセンター長に提出し、その許可を受けなければならない。

（利用負担金）
第５条　ネットワークの利用者は、処理に必要な経費を負担しなければならない。
２　経費については、センター長が別に定める。

（コンピュータ等の接続）
第６条　ネットワークにコンピュータを接続する場合はコンピュータ接続許可願（別紙第２号様式）を、ルータやスイッチなどの通信機器等を接続する場合は通信機器接続許可願（別紙第３号様式）をセンター長に提出し、その許可を受けなければならない。
２　センター長は、前項により接続を許可したコンピュータ、通信機器等に対し、必要があるときにはＩＰアドレスを割り付けるものとする。
３　ネットワークを利用しなくなるなど不要になったＩＰアドレスは、直ちに、センター長に返却するものとする。
４　ネットワークへの機器接続の変更又は前項に規定する接続の取り消しを行う場合には、第１項に準じてセンター長に申し出るものとする。

（利用行為の制限）
第７条　利用者は、次の各号に掲げる行為を行ってはならない。
(1) ネットワークの公共性を害するような妨害行為、教宣行為
(2) システムに侵入し改ざん・破損したり、それを企てる行為
(3) ネットワークを利用しての売買行為
(4) 無線ＬＡＮアクセスポイント、ＰＬＣアダプタ等を許可なく設置する行為
(5) ウイルス対策ソフトの機能を停止する行為
(6) ファイル共有ソフトを許可なくインストールする行為
(7) 教育・研究用共有ファイルサーバを教育又は研究とは無関係の用途に使用する行為
(8) 教育・研究用共有ファイルサーバのデータを改ざん・破損したり、それを企てる行為
(9) その他センター長が運用上問題があると認めた行為

（データの受発信の制限）
第８条　利用者は、次の各号に掲げるデータの受信及び発信を行ってはならない。
(1) 公序良俗に反するもの
(2) 他人の名誉、プライバシーを損なうおそれのあるもの
(3) 他人を誹謗若しくは中傷し、不快感を与えるおそれのあるもの
(4) 犯罪行為に結びつくおそれのあるもの
(5) その他センター長が不適当と判断するもの

（利用料金の徴収）
第９条　第７条及び前条に違反したと認められる行為があり、その行為に対する利用料等について請求があった場合には、当該利用者からその請求額を徴収するものとする。

（利用許可の停止又は取り消し）
第１０条　センター長は次の各号の一に該当すると見られる行為があった場合には、その行為を行った者の利用許可について、本人の同意なしにこれを停止又は取り消すことができるものとする。
(1) 第６条から第８条までの規定に違反すること
(2) ネットワークの改ざん・破損行為若しくは運営妨害を行い又はこれを企てること
(3) 他人の情報を許可なく複写したり、改ざんしたりすること
(4) 他人のログインネームやパスワードを詐称、盗用又は借用すること
(5) 自分のログインネームやパスワードを他人に貸すこと
(6) その他センター長が不適当と認めた行為を行うこと

（利用許可の再交付）
第１１条　前条により利用許可を停止又は取り消されたものであっても、センター長が再行為を行わないと認め、かつ、センター運営委員会で認められたものに対しては、再度利用許可を与えることができる。

（雑則）
第１２条　この規則に定めるもののほか、ネットワーク利用に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

（出典　沖縄工業高等専門学校情報処理ネットワーク利用規則　抜粋）

資料８－１－②－５

別紙第１号様式

# ネットワーク利用申請書

情報処理センター長　　殿

申請者名：

| | |
|---|---|
| 申　　請　　日 | 平成　　年　　月　　日 |
| 氏　名（漢字） | |
| 氏　名（ローマ字）※1 | |
| 所　属（学科、課・係） | |
| 連絡先（内線番号） | |
| 希望ユーザＩＤ※2 | |

－記入上の注意－

※１　ローマ字では、苗字、名前、の順でお願いします。

※２　希望ユーザＩＤは、先頭が小文字の英字で、３文字以上８文字以内の英数小文字と記号を組み合わせたものでお願いします。また、使える記号は、" －"（ハイフン）、" _"（アンダーバー）、" ."（ドット）に限らせていただきます。（最初と最後の文字に記号は不可とします。）

・希望ユーザＩＤがメールアドレスのxxx@okinawa-ct.ac.jpのxxxになります。
・希望ユーザＩＤが他の方と重なるようでしたら、情報処理センターより連絡をいたします。
・希望ユーザＩＤは教職員のみ記入してください。

（出典　ネットワーク利用申請書）

資料８－１－②－６

別紙第２号様式

# コンピュータ接続許可願

平成　　年　　月　　日

情報処理センター長　殿

ＬＡＮへの機器接続について、次のとおり申し込みます。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 新　規 | 変　更 | 取　消 | | |
| 2 | 申込者 | 所　属 | | | |
| | | 氏　名 | | | |
| | | メールアドレス | | | |
| 3 | 機器管理者 *申込者と同一の場合は記入不要 | 所　属 | | | |
| | | 氏　名 | | | |
| | | メールアドレス | | | |
| 4 | 設置場所（部屋名、内線） | | | | |
| 5 | 使用者区分（該当欄に○） | 教職員本人のみ | 学生のみ | 不特定 | |
| 6 | 接続機器（名称・型番等） | | | | |
| 7 | ＭＡＣアドレス | | | | |
| 8 | 使用ＯＳ（バージョン） | | | | |
| 9 | コンピュータ名 | *当センターで記入します。 | | | |
| 10 | ＩＰアドレス | *当センターで記入します。 | | | |
| 11 | 接続理由 | | | | |

－記入上の注意－

１には、該当する欄に○を付してください。
２には、既にＬＡＮを利用している場合のみ、メールアドレスを記入してください。
３では、申込者と同一である場合には記入不要です。
５には、セキュリティ確保のため使用者の区分を明記してください。
６及び７では、機種を特定するために使います。
９及び１０は、当センターで記入します。
１１では、詳細を明確に記入してください。

（出典　コンピュータ接続許可願）

資料８－１－②－７

別紙第３号様式

# 通信機器接続許可願

平成　　年　　月　　日

情報処理センター長　殿

ＬＡＮへの機器接続について、次のとおり申し込みます。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 新　規 | 変　更 | 取　消 | | |
| 2 | 申込者 | 所　属 | | | |
| | | 氏　名 | | | |
| | | メールアドレス | | | |
| 3 | 機器管理者<br>＊申込者と同一である場合は記入不要です。 | 所　属 | | | |
| | | 氏　名 | | | |
| | | メールアドレス | | | |
| 4 | 設置場所（部屋名、内線） | | | | |
| 5 | 使用者区分（該当欄に○） | 教職員本人のみ | 学生のみ | 不特定 | |
| 6 | 接続機器（名称・型番等） | | | | |
| 7 | ＭＡＣアドレス | | | | |
| 8 | ＩＰアドレス | ＊当センターで記入します。 | | | |
| 9 | 接続理由 | | | | |

－記入上の注意－

１には、該当する欄に○を付してください。
２には、既にＬＡＮを利用している場合のみ、メールアドレスを記入してください。
３では、申込者と同一である場合には記入不要です。
５には、セキュリティ確保のため使用者の区分を明記してください。
６及び７では、機種を特定するために使います。
８のＩＰアドレス欄は、当センターで記入します。
９では、詳細を明確に記入してください。

（出典　通信機器接続許可願）

資料８－１－②－８

# Ｘ　校内ネットワークと情報処理センターについて

## １　校内ネットワーク

沖縄高専では，学生や教職員の教育や研究等に使用するために校内ネットワークが整備されています。そのため，教室や寮内の居室等いたるところに無線ＬＡＮアクセスポイントや情報コンセントが用意されています。それらを利用して，皆さんは各自で所持しているノートパソコンを校内ネットワークに接続することができます。ただし，校内ネットワークを利用する際には，本校ネットワーク利用規程に従ってください。

## ２　情報処理センター

情報処理センターは，コンピュータ，校内ネットワーク，共有ファイルシステム，無線 LAN システムなどの管理，運用を行っています。本センターの施設として，IT 教室，ネットワーク管理室があります。IT 教室は，全学科の学生が利用可能で，定められた利用時間の範囲内で，授業等で使われていない空き時間に，自由に学習に利用することができます。この場合も教室内で飲食をしない等，情報処理センター利用規程に従ってください。

**【本校の情報処理ネットワークを利用するに当たって守らなければならない事項等】**

１．利用行為の制限

利用者は，次の各号に掲げる行為を行ってはならない。

(1) ネットワークの公共性を害するような妨害行為，教宣行為

(2) システムに侵入し改ざん・破損したり，それを企てる行為

(3) ネットワークを利用しての売買行為

(4) その他センター長が運用上問題があると認めた行為

２．データの受発信の制限

利用者は，次の各号に掲げるデータの受信及び発信を行ってはならない。

(1) 公序良俗に反するもの

(2) 他人の名誉，プライバシーを損なうおそれのあるもの

(3) 他人を誹謗若しくは中傷し，不快感を与えるおそれのあるもの

(4) 犯罪行為に結びつくおそれのあるもの

(5) その他センター長が不適当と判断するもの

３．利用許可の取り消し

センター長は次の各号の一に該当すると見られる行為があった場合には，その行為を行った者の利用許可について，本人の同意なしにこれを取り消すことができる。

(1) 上記１（利用行為）及び２（データの受発信）の制限規定に違反すること

(2) ネットワークの改ざん・破損行為若しくは運営妨害を行い又はこれを企てること

(3) 他人の情報を許可なく複写したり，改ざんしたりすること

（出典　平成22年度学生生活の手引き　P. 42）

資料８－１－②－９

| 科目名 | 情報技術の基礎 | 英文表記 | Fundamentals of IT | 2010 年 2月 24日 |
|---|---|---|---|---|
| 教員名 | バイティカ　ザカリ・佐藤　尚 | | 作　成 | |
| 技術支援 | | | | |

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業形態 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 全学科 | 1年 | 必修 | 履修 | 3単位 | 講義形式 | 通年 |

| | |
|---|---|
| 目　標 | ・　コンピュータリテラシについて習得する。<br>・　情報処理・通信に関する基礎知識・技術について理解する。<br>・　社会における情報化の進展と情報の重要性や倫理について理解を深める。<br>・　情報及び情報手段を活用する能力を会得する。 |

| 高専目標 | (1) | (2) | (3) | (4) | JABEE プログラム名称 | メディア情報工学プログラム |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ◎ | ○ | | ○ | JABEE プログラム教育目標 | (A-2, 3), (B-1, 2, 3), (C-1, 2, 4) |

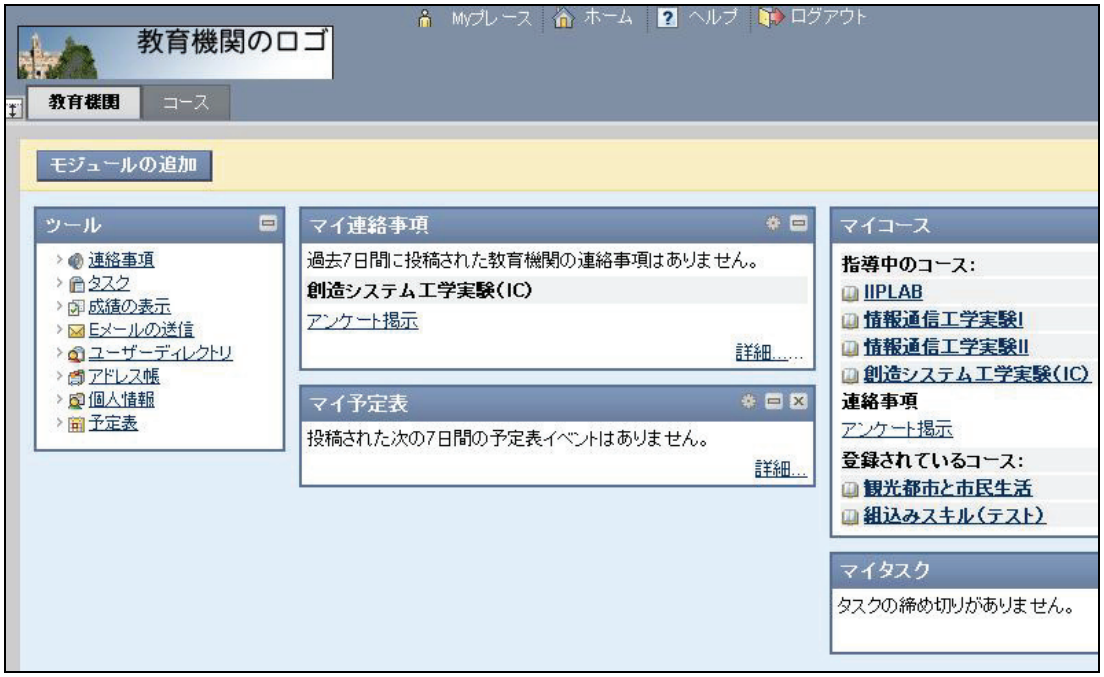
| | |
|---|---|
| 授業重要，方　針，履修上の注意 | 表計算，プレゼンテーション，電子メール，Web ブラウザなどの実習を通してコンピュータリテラシを習得する。次に，コンピュータの構成と動作，通信システムとネットワーク構成，情報セキュリティ技術，情報社会の進展とその影響・課題，情報社会での個人の責任など情報処理と情報通信に関わる基礎的知識と基本技術を学ぶ。 |
| 評価方法 | 前学期：定期試験 70%＋レポートおよび短学習への取組み方・実習課題・発表の様子等 30%で評価する。<br>後学期：定期試験 60%＋レポートおよび短学習への取組み方・実習課題・発表の様子等 40%で評価する。 |
| 教科書・教材 | 高校情報A |
| 参考図書 | 学生のための情報リテラシ，<br>（他にも参考図書や様々様々様々のキーワード：情報リテラシ） |
| 関連科目（学年） | |

| 授業項目 | 時間 | 授業内容 |
|---|---|---|
| ガイダンス | 2 | OS の基本操作と沖縄高専におけるネットワークの利用について理解を深める。また，教科内容や授業の進め方・評価方法を説明し，実習室使用上の留意点及び実習用機器の利用法について理解する。 |
| プレゼンテーションソフト | 10 | プレゼンテーションの基本を理解し，そのソフトウエアを利用した課題の作成と発表を行うことでプレゼンテーション能力を身につける。 |
| 情報モラル | 4 | 学内ネットワークを利用する際に注意すべきルールやマナーとセキュリティについて理解を深める。 |
| 情報とネットワークの活用 1<br>情報の検索と収集 | 4 | インターネットの基本的な仕組みと，Web ページの閲覧方法を理解し，検索エンジンの種類について，ディレクトリ型とロボット型の違いと特徴を理解する。 |
| 情報とネットワークの活用 2<br>情報の伝達と取り決め | 6 | 電子メールを用いた情報の受発信と，異なるソフト同士におけるデータのやり取りを通した情報の加工・再利用について理解する。 |
| 情報とネットワークの活用 3<br>ネットワーク利用の心がまえ | 4 | 情報の信憑性と信頼性，個人情報保護や知的財産権・著作権等について理解する。更にネットワークを利用する上で必要最小限のマナーやセキュリティについて理解を深める。加えて，知的財産権について理解する。 |
| 前学期中間試験 | 2 | 前学期中間試験を行う。 |
| 情報モラルとネットワーク利用についての復習 | 2 | 情報の収集や発信，そして加工をする上で注意すべき点について復習する。 |
| 問題解決と情報活用（問題解決の工夫・実践） | 14 | 問題解決の基礎や解決までの手順を理解する。表計算を中心に文字，表，グラフによる表現を学び，得られた情報の分析方法・技術について理解を深める。 |
| マルチメディア作品の制作（WEB ページ制作） | 10 | HTML による WEB ページ基本制作を理解して情報発信について理解を深める。(PBL1) |
| 前学期期末試験 | [1] | 前学期期末試験を行う。 |
| マルチメディアの活用（周辺機器の取り扱い） | 4 | 情報機器の取り扱い，コンピュータとそれらに接続されている周辺機器について学習する。 |
| 情報機器の発達と仕組み 1<br>メディアの仕組み | 18 | 記録メディアの発達と仕組み，通信の発達とコンピュータの発達の過程を理解し，アナログとディジタルの意味，情報の単位などの情報学の基本を学習する。また，基本的なアニメーションの制作を通して，動画のしくみについて理解を深める。(PBL1) |
| 情報機器の発達と仕組み 2<br>コンピュータネットワークの仕組み | 4 | コンピュータの基本的な動作の仕組みを理解する。インターネットと LAN の仕組みについて理解する。 |
| 情報機器の発達と仕組み 3<br>情報の歴史その未来 | 6 | コンピュータやネットワーク，メディアの歴史について解説して現在直面している問題について理解する。 |
| 後学期期末試験 | [2] | 後学期期末試験を行う。 |
| 学習時間合計 | 90 | 実時間合計　75 |

学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など）

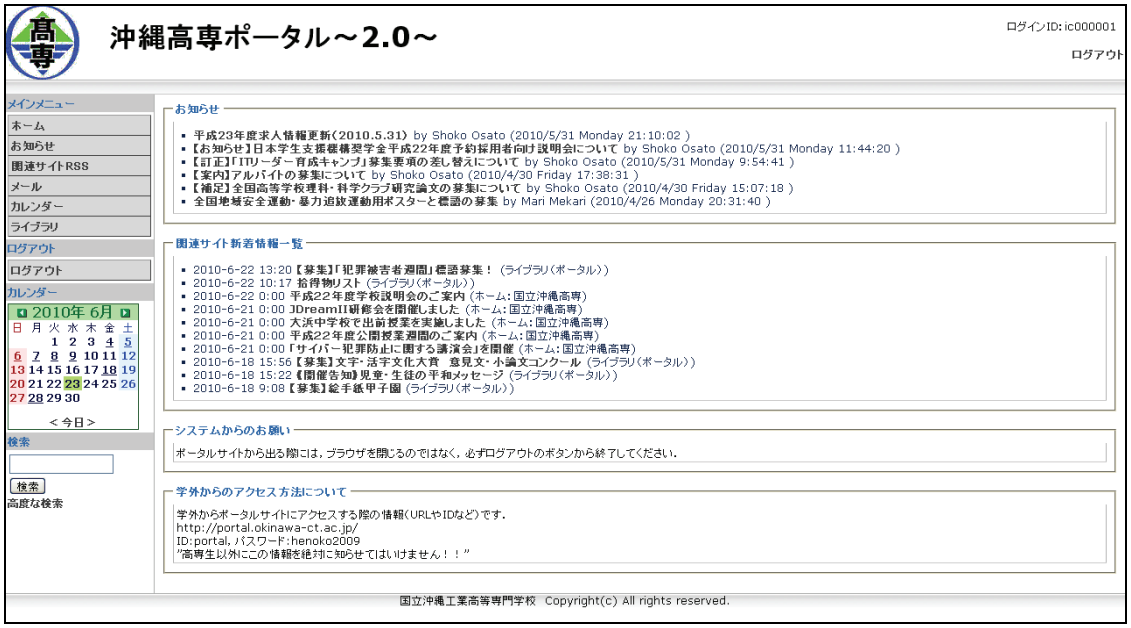
（出典　シラバス）

資料８－１－②－10




（出典　Blackboard e-learningシステム）

資料８－１－②－11






（出典　ポータルサイト）

（分析結果とその根拠理由）

学内LANによる情報ネットワークが構築され，講義室，実験室，卒研室，図書館，学生寮，ラウンジなどにおいて，学生が利用できるようになっている。この情報ネットワークは，本校の教育課程を実現するためのニーズを満たしており，学生の学習に関するニーズも満たしている。また，ウィルス対策ソフトの自動アップデートを毎日同時刻に提供することにより，セキュリティ対策の取組みの一つとしている。教育的な取り組みとして，e-learningとポータルサイトを導入することにより，講義資料の提供や進学・就職の情報など学生に有用な情報の提供がなされている。

以上により，教育内容・方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されている。

**観点８－２－①：　図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され，有効に活用されているか。**

（観点に係る状況）

本校の図書館は，教育・研究を支援する拠点の一つとして機能している。館内には情報学，工学，自然科学等の専門書を中心として，学術雑誌，文庫本，DVD ，CD-ROM などの視聴覚資料，全国の高等専門学校関連資料などを所蔵し，視聴覚ソフトについては館内のAV ブースやメディアホールの大型スクリーンで視聴することができるようになっている。開架閲覧室は，740 ㎡（100 席）あり，広いスペースで図書の閲覧や学習ができるようになっている。また，平成20 年度より土曜日の開館も開始され，学外の人も利用可能になっている（資料８－２－①－１）。

蔵書数は，53,023冊あり，年度進行に合わせて自然科学や工学の専門書の蔵書が増えてきている（資料８－２－①－２，資料８－２－①－３）。本校では，英語の講義に多読を取り入れており，その管理も図書館で行っているため，多読用の図書１万冊を除いた場合の蔵書数は43,023冊（資料８－２－①－４，資料８－２－①－５）である。

図書館利用に関する情報は，「学生生活の手引き」に書かれており，貸出冊数は一般図書５冊以内，多読図書５冊以内，貸出期間は１週間となっている。貸出冊数の推移に関しては，本校では平成 20 年に本科５年生まで揃ったことから，それまでも貸出冊数が伸びてきていたが，平成 21 年でも利用冊数は増えている（資料８－２－①－６，資料８－２－①－７）。貸出人数の推移に関しても同様に伸びている（資料８－２－①－８）。

入館者数に関しては，平成 18 年度に比べて平成 21 年度は，約３倍になっており図書館を利用する学生や教職員が確実に増えている様子がみえる（資料８－２－①－９）。

近年，電子資料の充実も図られ，オンライン蔵書検索システムの他，国内論文データベース（CiNii），電子ジャーナル（ScienceDirect），県内２紙の新聞記事検索データベース等を全教職員・学生が利用できる環境が提供されている（資料８－２－①－10）。電子資料の利用状況に関しては，ScienceDirect やCiNii の利用が増えている（資料８－２－①－11）。これは，専門分野の勉強や研究などに関して利用できるよう，図書館の方で卒研生や専攻科生向けに利用講習会などをおこなっていることも利用が伸びている要因である。

本校は，開学して７年目ということもあり，図書の蔵書数は多いほうではない。図書購入に関しては，年度ごとに予算が組まれており，必要な専門図書などの充実が図れるよう取り組んでいる（資料８－２－①－12）。教職員の選定図書だけでなく学生の希望する図書も購入するために，本校では，リクエストカードやブックハンティングなどを行い，図書の充実に努めている（資料８－２－①－13，資料８－２－①－14）。

資料８－２－①－１

# 図書館 Library

図書館は、本校の教育・研究を支援する拠点の一つとして機能しています。
館内には情報学、工学、自然科学等の専門書を中心として、学術雑誌、文庫本、DVD や CD-ROM などの視聴覚資料、全国の高等専門学校関連資料などを所蔵し、視聴覚ソフトについては館内の AV ブースやメディアホールの大型スクリーンで視聴することができます。
その他、県内や全国の高専・大学図書館等の高等教育機関と相互協力による資料提供も可能です（ただし、これを利用できるのは本校所属の学生、教職員等に限定しています）。
近年電子資料の充実も図られ、オンライン蔵書検索システムの他、国内論文データベース（CiNii）、電子ジャーナル（ScienceDirect）、県内２紙の新聞記事検索データベース等を全教職員・学生が利用できる環境が提供されました。
平成 20 年度より土曜日の開館も開始され、地域住民にも利用しやすくなりました。今後、学外一般の方々への蔵書の公開等を一層推進していく予定です。

## 開館時間 Hours

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 通常期 Regular Hours | 月～金 Mon.-Fri. | 8 時 40 分～ 20 時 8:40am-8pm | 土 Sat. | 9時～17時 9am-5pm |
| 休業期・臨時休業日 Vacation Hours | 月～金 Mon.-Fri. | 8 時 40 分～ 17 時 8:40am-5pm | 土 Sat. | 休館 |

## 休館日 Days Closed

日曜・祝日　Sun, Public Holidays
開校記念日　Founding of the College Anniversary
年末年始　Winter Break
休業期の土曜　Sat. in Vacation Hours

## 施設 Facilities

開架閲覧室　740 ㎡（100 席　うちキャレル 18 席）
Open-Stack Reading Room　100 Seats
AV ブース　AV Booth …… 4 席　4 Seats
メディア・ホール　Media Hall
入館制御システム　Admission Control System
自動貸出機　Self Borrowing Machine
ブックディテクションシステム　Book Detection System(Anti-Theft System)
書庫　Stacks
コンピュータサーバー室　Computer Server Room
蔵書検索用ノートブック型パソコン　Information Retrieval Laptop Computers

（出典　平成21度学校要覧　P. 27　抜粋）

資料８－２－①－２

蔵書数推移（分野別）

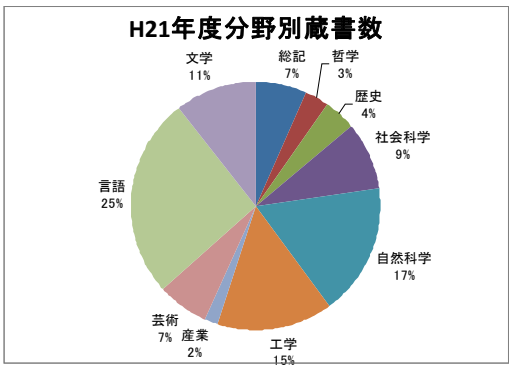
（冊）

| | 総記 | 哲学 | 歴史 | 社会科学 | 自然科学 | 工学 | 産業 | 芸術 | 言語 | 文学 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H16 | 1, 827 | 665 | 811 | 1, 854 | 3, 721 | 2, 780 | 185 | 1, 787 | 821 | 3, 849 | 18, 300 |
| H17 | 2, 182 | 1, 086 | 1, 282 | 2, 474 | 4, 844 | 3, 875 | 358 | 2, 071 | 1, 054 | 4, 472 | 23, 698 |
| H18 | 2, 616 | 1, 272 | 1, 640 | 3, 125 | 6, 453 | 5, 697 | 680 | 2, 332 | 1, 463 | 5, 109 | 30, 387 |
| H19 | 2, 984 | 1, 414 | 1, 910 | 3, 716 | 7, 695 | 6, 694 | 790 | 2, 918 | 2, 921 | 4, 767 | 35, 809 |
| H20 | 3, 343 | 1, 541 | 2, 060 | 4, 213 | 8, 468 | 7, 353 | 860 | 3, 250 | 11, 876 | 5, 238 | 48, 202 |
| H21 | 3, 573 | 1, 644 | 2, 177 | 4, 683 | 9, 178 | 7, 875 | 935 | 3, 489 | 13, 861 | 5, 608 | 53, 023 |

※視聴覚資料を含む
※言語分野には、多読図書（約1万冊）を含む

（出典　図書情報係資料）

資料８－２－①－３




（出典　図書情報係資料）

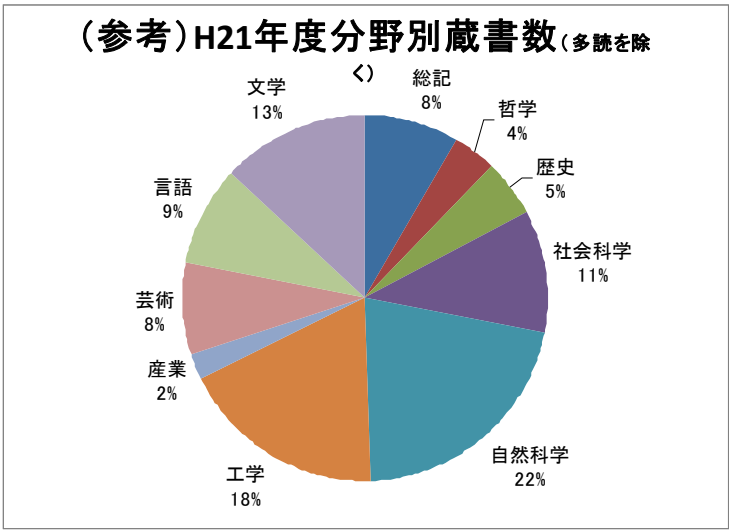
資料８－２－①－４

(参考) 多読図書を1万冊として差し引くと

| | 総記 | 哲学 | 歴史 | 社会科学 | 自然科学 | 工学 | 産業 | 芸術 | 言語 | 文学 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H21(参考) | 3,573 | 1,644 | 2,177 | 4,683 | 9,178 | 7,875 | 935 | 3,489 | 3,861 | 5,608 | 43,023 |

（出典　図書情報係資料）

資料８－２－①－５




（出典　図書情報係資料）

資料８－２－①－６

貸出冊数推移

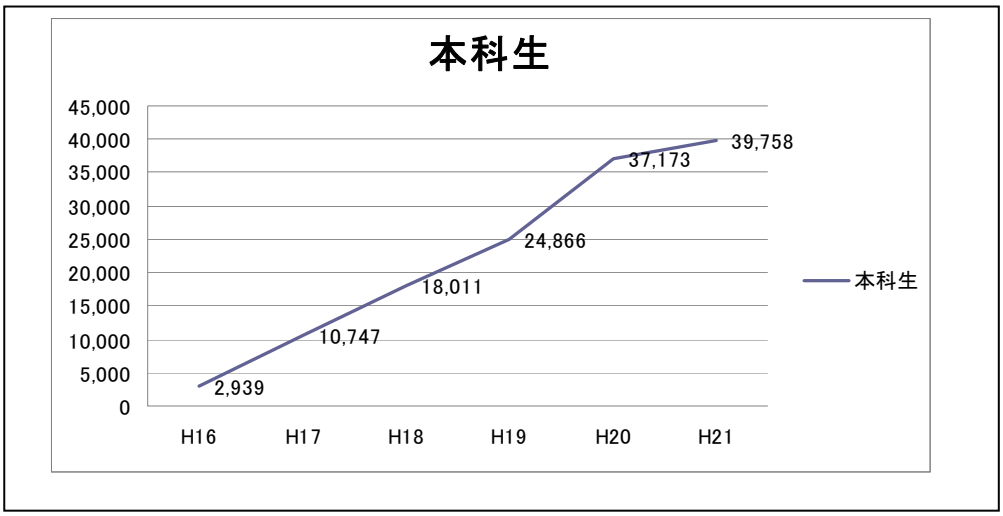
（冊）

| | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 本科生 | 2,939 | 10,747 | 18,011 | 24,866 | 37,173 | 39,758 |
| 専攻科生 | － | － | － | － | － | 1,332 |
| 教員 | 257 | 1,020 | 2,031 | 2,747 | 2,089 | 1,560 |
| 非常勤講師 | 0 | 53 | 104 | 38 | 92 | 55 |
| 技術職員 | 11 | 180 | 161 | 163 | 295 | 158 |
| 事務 | 133 | 509 | 732 | 828 | 509 | 525 |
| 非常勤(事務系) | 180 | 108 | 147 | 345 | 490 | 1,039 |
| 学外者 | 0 | 4 | 19 | 117 | 351 | 227 |
| ILL（他機関） | － | － | － | － | 18 | 19 |
| 総　　計 | 3,520 | 12,621 | 21,205 | 29,104 | 41,017 | 44,673 |

※H20より多読図書貸出を開始

（出典　図書情報係資料）

資料８－２－①－７




（出典　図書情報係資料）

資料８－２－①－８

延べ貸出人数推移

（人）

| | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 本科生 | 1823 | 6,521 | 10,189 | 14,472 | 21,118 | 21,821 |
| 専攻科生 | － | － | － | － | － | 731 |
| 教員 | 127 | 477 | 875 | 1,045 | 955 | 773 |
| 非常勤講師 | 0 | 23 | 35 | 17 | 45 | 21 |
| 技術職員 | 5 | 55 | 78 | 92 | 170 | 88 |
| 事務 | 69 | 303 | 400 | 429 | 344 | 275 |
| 非常勤(事務系) | 126 | 59 | 58 | 151 | 177 | 386 |
| 学外者 | － | 2 | 8 | 66 | 190 | 120 |
| ILL（他機関） | － | － | － | － | 15 | 18 |
| 総　　計 | 2,150 | 7,440 | 11,643 | 16,272 | 23,014 | 24,233 |

（出典　図書情報係資料）

資料８－２－①－９

**入館者数推移**　　（人）

| | H18 | H19 | H20 | H21 |
|---|---|---|---|---|
| 本科生 | 26,265 | 41,979 | 71,577 | 74,382 |
| 専攻科生 | － | － | － | 1,884 |
| 教員 | 1,997 | 2,474 | 2,862 | 2,440 |
| 非常勤講師 | 43 | 55 | 219 | 155 |
| 技術職員 | 225 | 445 | 441 | 343 |
| 事務 | 5,028 | 5,973 | 8,131 | 7,332 |
| 非常勤(事務系) | 2,144 | 2,535 | 2,986 | 4,103 |
| 学外者 | 35 | 400 | 1,478 | 543 |
| 総　　計 | 35,737 | 53,861 | 87,694 | 91,182 |

（出典　図書情報係資料）

資料８－２－①－10

図書館ホームページ



# 沖縄工業高等専門学校図書館
Okinawa National College of Technology Library

## お知らせ

| | |
|---|---|
| 開館時間 | 通常期：8:40－20:00(月－金)<br>9:00－17:00(土)<br>休業期：8:40－17:00(月－金)<br>(休業期: 2/22-4/4) |
| 休館日 | 日曜・祝日・年末年始・休業期の土曜 |
| 貸出冊数 | 学生：5冊まで(7日間)<br>(学生は多読用図書に限り別途5冊まで貸出可)<br>教職員：10冊まで(14日間)<br>学外者のご利用についてはこちら |

## 休館日・その他お知らせ

2010年4-6月の休館日
4月3-4日・11日・18日・25日・29日
5月2-5日・9日・16日・23日・30日
6月13日・20日・27日

その他のお知らせ
*4/30・6/18は臨時休業日のため17時閉館
*6/6(日)は試験期のため臨時開館

## 資料を探す

蔵書OPAC (沖縄高専図書館蔵書検索)
Webcat (全国総合目録データベース)
WebcatPlus (同上連想検索機能あり)
以下は学外から利用できません
ScienceDirect (電子ジャーナル) 説明ページ(日本語)
CiNii (データベース)
JDream (データベース)
KANON (データベース)
MathSciNet (データベース)
ジャパン・ナレッジ(JapanKnowledge) (データベース)
理科年表プレミアム (データベース)
琉球新報データベース (新聞記事データベース)
沖縄タイムス記事データベース (新聞記事データベース)

## オンラインサービス

下記サービスを利用する際は,ユーザIDとパスワードが必要です
図書の予約・貸出状況
利用者情報変更(パスワード変更)
ILL依頼(貸借/複写)
図書購入 *教職員のみ

## リンク

沖縄県内図書館横断検索 (沖縄県立図書館)
琉球大学附属図書館
名護市立中央図書館
沖縄関係リンク (琉球大学附属図書館)
国立国会図書館

電子資料9点

Copyright(C) 2003-2010 Okinawa National College of Technology Library, all rights reserved.
図書館に関するご意見・ご要望はこちらまで

〒905-2192 沖縄県名護市辺野古905番地　Tel:0980-55-4037

（出典　本校図書館ホームページ）

資料８－２－①－11

| | | 2007年<br>1月～12月 | 2008年<br>1月～12月 | 2009年<br>1月～12月 |
|---|---|---|---|---|
| ScienceDirect | Requests for full-text documents | 938 | 1,666 | 3,241 |
| | Requests for all pages | 4,232 | 5,846 | 11,259 |
| | Total Searches Run | 481 | 1,072 | 2,506 |
| CiNii | 検索回数 | 1,004 | 3,413 | 6,245 |
| | 詳細表示 | 1,949 | 4,545 | 7,112 |
| | 定額許諾コンテンツ利用 | 190 | 656 | 1,283 |
| 理科年表*1 | アクセス数 | － | － | 280 |
| 沖縄タイムス*1 | 記事アクセス数 | － | － | 500 |
| 琉球新報 | 記事アクセス数 | － | － | 1,108 |
| Japan Knowledge *2 | 検索回数 | － | － | 391 |
| | 本文参照回数 | － | － | 640 |
| JDreamII | 検索回数 | 472 | 1,171 | 749 |
| MathSciNet | ログイン回数 | 2,711 | 1,859 | 1,600 |
| | 検索回数 | 3,363 | 2,476 | 2,100 |
| KANON *3 | 論文検索回数 | 194 | 162 | 95 |
| | 雑誌検索回数 | 0 | 9 | 3 |
| | 詳細表示回数 | 45 | 90 | 17 |

*1）理科年表、沖縄タイムス＝2009年4月以降のデータのみ。

*2)JapanKnowledge＝2009年4月利用開始

*3)KANON=2008年12月でデータ更新中止

（出典　図書情報係資料）

資料８－２－①－12

(参考) 2009年度学生用図書予算執行状況:1,256万円

| 内容 | 経費（円） | 備考 |
|---|---|---|
| 教員選定学生用図書 | 6,890,076 | 10万円×61名+前年度発注分 |
| 技術支援室推薦学生用図書 | 838,645 | 10万円×8名+前年度発注分 |
| シラバス掲載図書 | 178,806 | |
| ブックハンティング(BH)+学生リクエスト | 484,123 | BH38万円＋リクエスト10万円 |
| 図書館選定図書　（継続図書・基本図書等） | 2,320,564 | |
| 図書合計 | 10,712,214 | |
| 雑誌合計 | 1,851,592 | |
| **総計** | **12,563,806** | |

※H22年度第1回図書委員会資料より

（出典　図書情報係資料）

資料８－２－①－13

## リクエスト（予約）カード

申込日 :　　年　　月　　日
受付者 :

※太枠の中に記入して下さい。リクエスト用紙一枚につき、一点の記入です。
※視聴覚資料・雑誌等のリクエスト受付はできません。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 書名 | | | |
| 著者名 | | | |
| 出版社 | | 出版年 | その他（価格・ISBN等） |
| | | | |
| 利用者情報 | | | |
| 学籍番号 | | | |
| フリガナ<br>名前 | | 電話 | 自宅:（　　）－　　－<br>携帯:（　　）－　　－ |
| （推薦理由） | | | |
| ※図書が購入されたら　（連絡する・連絡の必要はない）<br>連絡方法　　□電話（自宅・携帯）□Eメール （アドレス:　　） | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 連絡 | ／ | 電話（本人・伝言・留守電）・Eメール・その他（　　） | | |
| 取り置き期限 | ／ | 担当 | | ・備考 |
| 貸出・取消 | ／ | 担当 | | |


## リクエスト（予約）カード

申込日 :　　年　　月　　日
受付者 :

※太枠の中に記入して下さい。リクエスト用紙一枚につき、一点の記入です。
※視聴覚資料・雑誌等のリクエスト受付はできません。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 書名 | | | |
| 著者名 | | | |
| 出版社 | | 出版年 | その他（価格・ISBN等） |
| | | | |
| 利用者情報 | | | |
| 学籍番号 | | | |
| フリガナ<br>名前 | | 電話 | 自宅:（　　）－　　－<br>携帯:（　　）－　　－ |
| （推薦理由） | | | |
| ※図書が購入されたら　（連絡する・連絡の必要はない）<br>連絡方法　　□電話（自宅・携帯）□Eメール （アドレス:　　） | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 連絡 | ／ | 電話（本人・伝言・留守電）・Eメール・その他（　　） | | |
| 取り置き期限 | ／ | 担当 | | ・備考 |
| 貸出・取消 | ／ | 担当 | | |


（出典　リクエスト（予約）カード）

資料８－２－①－14

## ブックハンティングの実施について（報告）

日時：平成21年12月6日（日） 12時45分～17時45分
場所：ジュンク堂書店（14時00分～16時00分）
参加者：学生図書委員（学生会図書委員　19名）

引率（教職員）：計4名

- 山城図書館長（機械）
- 照屋係長・又吉・津波古（図書情報係）

（ジュンク堂往復にはスクールバスを利用。）

予算：1クラスあたり2万円（20名×2万円＝40万円）
（ 購入冊数：328冊　　購入額：383，395円(税込））

[実施の流れ]

1 前日まで

① 学生図書委員は、事前に各クラスで購入希望の本を募り、リストを作成する。
② リストの中で既に図書館にある本、他のクラスの希望の本と重複がないか確認する。
③ 確認が済んだリストを書店へ発注し、図書館へ納品してもらう。
④ 受入作業を行ったあと、学生図書委員はクラスで選んだ本の中から、1点以上選んでブックレビューを書く。

2 当日

① 学生図書委員はクラスで希望があった本の他、書店に並んでいる本から購入図書を選択しリストを作成する。
② 購入リストを書店に渡し、購入希望図書リスト一覧を図書館に送信してもらう。

3 後日

① 当日選択分図書の購入リストの中から、店頭で選んだ本の中に既に所蔵されているものがないか等を図書館職員が確認。確認が済み次第発注し、図書館へ納品してもらう。
② 受付作業を行った後、まとめて新着図書コーナーに配架する。ブックレビューを本と一緒に掲示して他の学生に見てもらう。その際、コーナーのデコレーションは学生図書委員が主に行う。
③ コーナーの設置期間は、1月15日（金）15時までとする。

（出典　図書情報係資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の図書館には，図書・学術雑誌・視聴覚資料などが系統的に整備されており，電子ジャーナルも利用することができる。また，入学時に学生には利用講習会を行い，さらに，卒研生と専攻科生には希望があれば随時図書館でおこなっており，論文の検索などに役立てている。蔵書，図書貸出，図書館利用者も年々増加しており，図書館の果たす役割は大きくなっている。リクエストカードやブックハンティングなど学生希望図書を導入する制度があり，学生の希望を反映した図書の整備が行われている。

以上により，図書・学術雑誌・視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され，有効に活用されている。

### （２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

情報ネットワークの利用に関しては，利用に関する申請書を事前に提出してもらい，利用規則に関して毎年度学生に配布される「学生生活の手引き」で周知している。また，毎日ウィルス対策ソフトのアップデートを自動で行うなどセキュリティに配慮した体制が整っている。図書館については，自然科学工学系の専門書を多く揃え，多読図書の貸出，電子ジャーナルの利用法や検索方法に関して講習会を行うなど図書館利用を促す取り組みが積極的になされている。また，図書の選定についても，学生及び教員の意見を反映するシステムがとられている。

（改善を要する点）

教室や設備の稼働率を数値として把握しておらず，今後その分析を行い講義室の確保や利用率の向上に取り組む必要がある。専攻科の学生が主として利用できる講義室や実験室の確保を行う必要がある。

### （３）基準８の自己評価の概要

本校では，教室，実験室，図書室，研究実践棟，夢工場など，学習・教育目標を達成するのに必要な施設，設備は整備されていると言える。また，ネットワーク利用の充実のために，学内のどこからでも無線LANや情報コンセントを利用して学内，学外へのアクセスを可能としている。セキュリティの確保に関しては，ウィルス対策ソフトの自動アップデートを毎日行うよう講じている。

図書館に関しては，学生および職員のニーズにあった図書，学術図書，視聴覚資料などの教育上必要な資料が備えられている。また，電子システムの導入により貸出・返却・蔵書検索等が容易になり，学生，教職員とも有効に活用している。図書の蔵書や利用者数に関しては，年々増加している。

## 基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム

### （１）観点ごとの分析

**観点９－１－①：　教育の状況について，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され，評価を適切に実施できる体制が整備されているか。**

（観点に係る状況）

シラバス，試験問題，採点された試験答案，解答例，小テスト，レポート等の成績評価資料の保管は自己点検・評価委員会とJABEE委員会が協力しながら実施している（資料９－１－①－１，資料９－１－①－２，資料９－１－①－３）。成績評価資料は全て電子化した後，学内のファイルサーバーに保管をしている（資料９－１－①－４，資料９－１－①－５，現地閲覧資料参照）。

学校要覧，学生生活の手引き，教員便覧，科目系統図，科目目標対応表，各委員会の議事録，教員による授業報告書等の教育活動によって生じる資料は全て遺漏の無いよう適切に保管されている（現地閲覧資料参照）。

教員の教育活動は教務委員会，自己点検・評価委員会，FD委員会が授業実施報告書をもとに評価を行っている（資料９－１－①－６）。また，教員の評価においても教育活動を主眼においた評価の実施も行われている（資料９－１－①－７）。

自己点検・評価委員会では学校の活動全般について自己点検を行い，自己点検評価書を作成し（資料９－１－①－８，資料９－１－①－９），広く社会に公開している（資料９－１－①－10）。また，自己点検評価報告書を元に外部評価である参与の会を開催し（資料９－１－①－11），意見を徴集し，教育活動の改善に結びつけている（資料９－１－①－12）。

資料９－１－①－１

教員各位
教務係殿、総務係殿

正木＠自己点検評価委員会です。

今年度の成績評価資料保存の準備ができました。

下記のそれぞれの担当科目のフォルダに成績評価資料の
保存をお願いします。

¥¥aquarius.okinawa-ct.ac.jp¥public¥FD¥成績評価資料¥平成 21 年度

保存方法については本メールの添付ファイルや
各フォルダ内に用意していてある pdf ファイルをご参照ください。

その他、ご不明な点がありましたら正木まで問い合わせください。

==========
正木忠勝
国立沖縄工業高等専門学校　メディア情報工学科
〒905-2192 沖縄県名護市辺野古 905 番地
TEL　　FAX
==========

（出典　自己点検・評価委員会送信メール）

資料９－１－①－２

教員各位　(CC.総務係，教務係)

比嘉@情報通信_JABEE 委員です。

平成 22 年度の成績保存のファルダを下記のところに作成いたしました。

¥¥Aquarius.ad.okinawa-ct.ac.jp¥public¥FD¥成績評価資料¥平成 22 年度

中間試験を実施された教員の方は,上記の担当科目のフォルダに成績等の
資料の保存をお願いいたします。

保存は 7 月末までにお願いいたします。

本年度は認証評価、来年度は JABEE 審査受審の年となっております。

両審査とも成績保存は重要な審査項目となっております。教員の皆さんの
ご協力が必要となっております。

何卒よろしくお願いいたします。

_/_/_/

資料９－１－①－３

平成 20 年 7 月 16 日

# 平成２０年度　成績評価資料の保存について（案）

自己点検・評価委員会　正木忠勝
JABEE 対応委員会　山城秀之

## 1. 基本方針

昨年までの成績評価資料保存の試行をふまえて、2 期生の JABEE 対象学年への進級を踏まえて、JABEE 審査、認証評価に対応した成績評価資料保存を JABEE 対応委員会と自己点検評価委員会が連携して行う。

今年度は昨年度の方法から以下の点を変更・改善する。

（1）全科目を対象とする

昨年度までは各教員あたり１科目を成績評価資料保存対象としていたが、今年度から全科目を対象とする。

（2）成績評価に用いる全ての資料を保存対象とする

小テストやレポートなど成績評価に用いる全ての資料を保存対象とする

（3）原則として保存資料を電子化する

保存形態は昨年度までの紙媒体を基本とするが、テストの答案等をスキャナで電子化したものの保管形態を基本とする。

電子化した資料は CD-R 等に記録し成績資料保管室の各科目のバインダーに保存する。

## 2. 保存すべき成績評価資料

（1）成績評価資料保存チェックシート

（2）シラバス

新年度開始前に作成したものではなく、実績にしたがって修正したものを年度末に保存する

（3）成績評価表

学年末の総合評価の算出根拠となる一クラス分の評価表。成績評価対象となる試験の結果、小テストの点数、レポートの点数の他、総合成績に占めるそれぞれの

（出典　自己点検・評価委員会資料　抜粋）

資料９－１－①－４

平成 21 年 8 月 28 日

成績評価資料保存方法

自己点検評価委員会

1　定期試験

実施した中間試験・期末試験全てについて、以下のものを電子化した上保存してください

・試験問題
・模範解答
・答案（全学生のもの）

2　小テスト

実施した全ての小テストについて、以下のものを電子化した上保存してください
複数回、小テストを実施した場合は、適宜フォルダを作成してください

・試験問題
・模範解答
・答案（全学生のもの）

3　レポート

実施したすべてのレポートについて、以下のものを電子化した上保存してください
複数回、レポートを実施した場合は、適宜フォルダを作成してください

・レポート課題
・全ての学生のレポート

CAD のようにファイル内容の確認に特別な環境（ソフト）が必要な場合は、
保存の対象から除外し、点数化した成績表（書式は特に定めない）のみを「成績評価表」
フォルダに保存してください（様式自由）。

4　ノート（ノートを成績評価に用いる場合）

当該ノートが反映される成績（前期期末、後期期末など）が確定した時点で、
最上位２名、ボーダーの前後それぞれ２名（60 点以上で最も点数の低い 2 名と 59 点
以下で最も点数の高い 2 名）の 6 名分のノートを電子化した上、「その他」フォルダに
保存してください。成績に 60 点以下の者がいない場合は 4 名分となります。
その他の学生については保存の必要はありません。点数化した成績表（書式は特に定めない）を
「成績評価表」フォルダに保存してください。

5　成績一覧表

各科目の「成績評価表」フォルダに予め用意してある成績一覧表.xls に必要事項を記入してください。

6　成績評価資料保存チェックシート

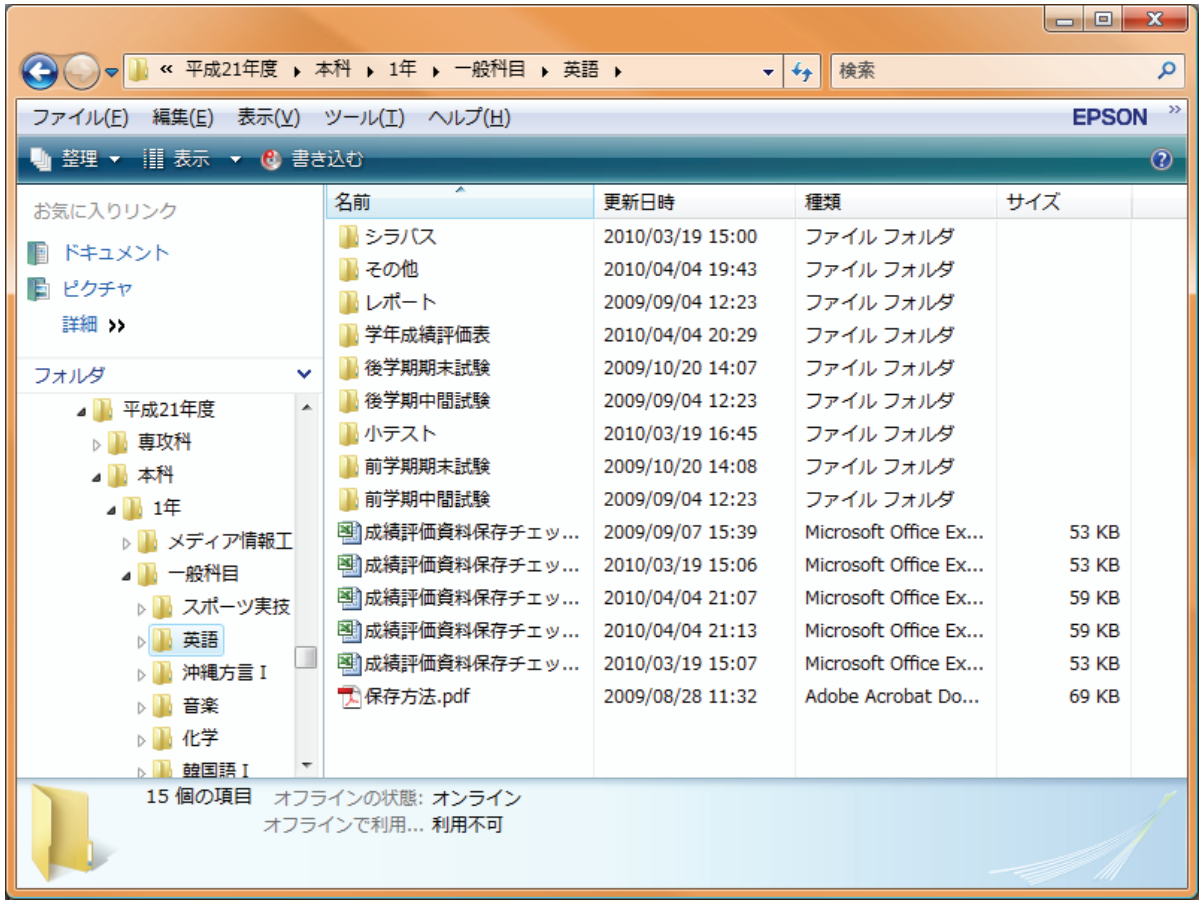
各科目毎に要してある「成績評価資料保存チェックシート.xls」に保存状況を記入してください。

7　シラバス

すべての授業が終了した時点で授業の実施実績に修正したシラバスを保存してください。

（出典　自己点検・評価委員会資料）

資料９－１－①－５




（出典　ファイルサーバーファイル一覧）

資料９－１－①－６

check 委員会の役割

- 自己点検委員会　　：PDCA サイクルが機能していることの確認
- 教務委員会　　：授業が適正に実施されていることの確認
- FD 委員会　　：教員の教育技術の改善がなされていることの確認

授業改善アンケートの形式を示す。

## 授業改善のためのアンケート

このアンケートは、今後の授業改善に生かされるもので、回答結果は皆さんの成績には関与しません。より良い授業のためにみなさんのご協力をお願いします。以下の設問に、まじめに回答を選択し、率直な意見を記入してください。

設問

《学生の自己分析》

１．　この授業について、あなたの理解度は以下のどれにあてはまると思いますか？
（１．９０%以上、２．８０～９０%、３．７０～８０%、４．６０～７０%、５．６０%未満）

２．　この授業では、あなたは予習復習、課題提出などやるべきことをきちんとやりましたか？
（１．全てできた、2.ほとんどできた、３．時々できていない、４．あまりできていない、５．全くできていない）

３．　あなたはこの授業中、説明に集中し、居眠りなどせず、ノートをとるなど意欲的努力しましたか？
（１．全てできた、2.ほとんどできた、３．時々できていない、４．あまりできていない、５．全くできていない）

４．　授業で何を向上できたと思います？（複数選択可）
（１．基礎知識　２．応用力　３．スキル　４．視野の広がり　５．何もない）

５．　授業を受けるのに必要な事前学力を備えていたと思いますか？
（１．充分持っていた　２．まあまあ持っていた　３．何ともいえない　４．やや不足　５．全く不足していた）

《授業の進め方について》

６．　授業は定時に始まり、定時に終わりましたか
（１．100%定時、2. ～90%定時、３．～80%定時、４．～50%定時、５．50%以下）

７．　授業中の私語や授業態度などを教員は注意しましたか？
（１．した、２．まあした　３．どちらともいえない　４．あまりしなかった、５．しなかった）

８．授業中は質問しやすく発言しやすい雰囲気で、きちんと対応してくれましたか？
（１．とてもそう思う　2.そう思う　３．どちらでもない、４．あまりそう思わない５．全くそう思わない）

９　PPT、パソコン等の IT 系教育機材の使い方について、どう感じましたか。
(１．もっと使った方が分かりやすい　２．　３．　ちょうど良い　４．　５．もっと板書の方が分かりやすい)

《授業内容について》

１０．　授業はシラバスに沿って計画的に行われましたか
（１．シラバス通り、2. まあまあシラバス通り、３．なんともいえない、４．少し異なる、５．全く違う）

１１．教員の説明は、言葉や論理が明瞭で、あなたにとって、理解しやすかったかったですか？
（１．理解しやすい、2.まあまあ理解しやすい　３．普通、４．やや理解しにくい　５．理解しにくい）

１２．　授業のレベルはあなたにとってどうでしたか
（１．高すぎる、2.すこし高い、３．ちょうど良い、４．少し低い、５．低すぎる）

１３．１回の授業の進み具合はあなたにとってどうでしたか？
（１．速すぎる、2.すこし速い、３．ちょうど良い、４．少し遅い、５．遅すぎる）

１４．　授業内容の豊富さはあなたにとってどうでしたか？
（１．多すぎる、２．少し多い、３．ちょうど良い、４．少し少ない、５．少なすぎる）

１５．　あたたにとって、講義と実践の割合はどう感じましたか？
(1.もっと講義が多い方が力が付く　２．3.ちょうど良い　　４．　5.もっと実践が多い方が力が付く)

《自由記述》

上の質問に関すること、またはこの授業でとくによかったところ、この授業でとくに改善して欲しいところ・要望など、自由にコメントを書いてください。

---

１．実習系の安全性に関して：授業の中で危ない（怖い）ことはありましたか？
（１．全くない　２．ある）

２．実験や実習に関して：実験機器や資材の数量について
（１．充分であり満足できた　２．不足のため、遊び時間があった）

３．実験や実習に関して：充分や説明や実験マニュアルが整備されていましたかしたか。
（１．充分あった　２．あった　３．どちらともいえない　４．　あまりなかった　５．無かった）

４．実験や実習に関して：理論的な（講義系）科目との関連が感じられましたか。

（出典　教員便覧　P. 15）

資料９－１－①－７

# 沖縄工業高等専門学校における教員評価実施要領

平成２２年１月２０日
校　長　裁　定

１．教員評価については、以下の評価資料に基づき実施する。
Ⅰ 教員顕彰実施要項（機構本部制定）のうち「教員の教育業績等評価」を沖縄高専版に若干変更したもの（添付資料「教員の教育業績等評価（沖縄高専版）」）
Ⅱ 教員の研究業績評価（添付資料「教員の研究業績評価」）
Ⅲ 追加評価項目（添付資料「教員の追加評価項目」）
Ⅳ 評価項目読替（添付資料「教員の教育研究業績等評価項目読替」）

２．前掲の資料に基づいて実施する教員評価は下記の事項に利用する
（１）総合評価
（２）教員顕彰
（３）研究費配分
（４）昇任判定（教授、准教授、講師への昇任）
（５）運営管理貢献度評価
（６）課外活動貢献度評価
（７）その他校長が必要に応じて実施する事項

３．評価期間
前年９月１日より当該年８月 31 日までの間に公表、承認を受けた事項を対象とする。

４．評価方法について
４－１．総合評価
（１）総合評価結果の利用については校長が決定する。
（２）Ⅰ「教員の教育業績等評価」、Ⅱ「教員の研究業績評価」、Ⅲ「教員の追加評価項目」およびⅣ「教員の教育研究業績等項目読替」に基づき評価する。
（３）Ⅰ「教員の教育業績等評価」に変更があった場合は、必要に応じて、Ⅲ「教員の追加評価項目」およびⅣ「教員の教育研究業績等項目読替」を修正して総合評価を行う。
（４）各評価資料に定められた評点をそのまま利用する。
（５）ⅠからⅢの各評価項目については、Ⅳ「教員の教育研究業績等項目読替」に基づき、教育、研究、地域貢献および運営管理分野に振分け、各分野ごとの積算点を求める。
（６）四分野（教育、研究、地域貢献、運営管理）ごとの積算点を、５項に記述する学生による教員評価点と教員による相互評価点を用いた下記算出式により各分野の評点を求める。
教育分野評点＝（教育分野積算点）×（学生による教員評価点）×（教員による教育分野相互評価点）
研究分野評点＝（研究分野積算点）

地域貢献分野評点＝（地域貢献分野積算点）×（教員による地域貢献分野相互評価点）

運営管理分野評点＝（運営管理分野積算点）×（教員による運営管理分野相互評価点）

（７）四分野ごとの評点において、各分野での最高評点を１００％として、各教員の評点を再計算する。

【例】教育分野の最高得点者　A教員の評点が 80 点だった場合。

B教員の教育分野　60 点　→　100　×　(60/80)　＝　75 点　に再計算する。

（８）各分野において換算した評点をもとに、次の配分で積算した総和をもって総合評価とする。

６０％教育＋１０％研究＋１０％地域貢献＋２０％運営管理

４－２．教員顕彰

（１） 教員顕彰への推薦者選抜のために利用する。

（２） Ｉ「教員の教育業績等評価」資料に基づき評価する。

４－３．研究費配分

（１） 教員への研究費配分のために利用する。

（２） 本文書 4. 評価方法について、4-1. 総合評価(7)項に記載の四分野の評点のうち研究分野評点、地域貢献分野評点および運営管理分野評点の三分野の和をもって評価する

（３） 各教員への均等配分研究費を 10 万円とし、研究費の残額を以下の配分率で配分する

（４） 評点順に上位から 1/4 名程度までの教員を第一グループ、上位 2/4 名程度から第一グループを除いた教員を第二グループ、上位 3/4 名程度までから第一、第二グループを除いた教員を第三グループ、残りの教員を第四グループとする。

（５） 第一グループに研究予算の 58%、第二位グループに 28%、第三位グループに 14%を配分し、第四グループには加算配分を行わない。

（６） 同一グループ内での配分額は均等とし、千円未満は切り捨てとする。

（７） 新規採用教員については、採用された年度を含めた 3 年間については、第二グループの研究予算を配分する。（中途採用の場合は、月割りで按分する。）

４－４．昇任判定

（１） 教員の昇任判定参考資料として利用する。

（２） 「沖縄工業高等専門学校教員選考委員会規程」に基づく選考委員会において昇任適任者を推薦する。

（３） 次の三項目の総合点を選考委員会における参考資料とする。

4-1 項の総合評価点

校長裁量 0 点から 50 点

選考委員会による評価（選考委員 1 名の持ち点を 10 点とする。）

４－５．運営管理貢献度評価

（１） 運営管理業務の平準化のために利用する。

（２） Ｉ「教員の教育業績等評価」資料の評価項目のうち教員のⅣ「教員の教育研究業績等項目読替」資料において運営管理に指定された項目のうち自己評価係数と点数制限を除いた積算値を評価点とする。

４－６．課外活動貢献度評価

（１）　課外活動業務の平準化のために利用する。

（２）　Ⅰ「教員の教育業績等評価」資料の評価項目のうち教員のⅣ「教員の教育研究業績等項目読替」資料において課外活動に指定された項目の積算点に、５項に記述する学生による教員の評価点を乗じたものを評価点とする。

５．学生による教員の評価点および教員による相互評価点

５－１．学生による教員評価点

（１）　Ⅰ「教員の教育業績等評価」第３部において得た学生による教員の評価順位データを用いる。

（２）　各学科上位 1/3 名程度に評価点 1.2、下位 1/3 名程度に評価点 0.8、残りの教員に 1.0 を配する。

５－２．教員による相互評価点

（１）　Ⅰ「教員の教育業績等評価」第２部において得た教育分野、地域貢献分野、運営管理分野ごとの教員による相互評価順位データを用いる。

（２）　教育分野の順位の上位 1/3 名程度に評価点 1.2、下位 1/3 名程度に評価点 0.8、残りの教員に 1.0 を配する。

（３）　地域貢献分野の順位の上位 1/3 名程度に評価点 1.2、下位 1/3 名程度に評価点 0.8、残りの教員に 1.0 を配する。

（４）　運営管理分野の順位の上位 1/3 名程度に評価点 1.2、下位 1/3 名程度に評価点 0.8、残りの教員に 1.0 を配する。

（出典　総務課資料）

資料９－１－①－８

# 自 己 点 検・評 価 報 告 書

## －第３報－

平成２２年１月

独立行政法人国立高等専門学校機構

沖縄工業高等専門学校

# 目　　次

まえがき ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅰ　社会的説明責任 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

Ⅱ　教育研究組織
　１　学科構成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
　２　体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　３　産学連携 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

Ⅲ　教員及び教育支援者
　１　教員の交流 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
　２　教員配置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
　３　人事制度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

Ⅳ　学生の受入
　１　入学者選抜に対する改善 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
　２　入学志願者確保 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

Ⅴ　教育内容及び方法、成果
　１　教育方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３
　２　低学年に対する教育 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １５
　３　多様な教育形態の検討 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １６
　４　教育システム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８

Ⅵ　学生支援等
　１　学生に対する教育支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８
　２　進路支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８
　３　生活指導 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３０

（出典　自己点検・評価委員会資料　抜粋）

資料９－１－①－９

# 沖縄工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則

（設置）

第１条　沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校における自己点検・評価に　関する事項を審議するため、沖縄工業高等専門学校自己点検・評価委員会（以下「委員　会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 自己点検・評価の基本方針に関する事項

(2) 教育研究プログラムの総合評価に関する事項

(3) 自己点検・評価報告書の定期的な作成と公開に関する事項

(4) 自己点検・評価報告書の結果に基づく改善に関する事項

(5) 学外者による自己点検・評価結果等の検証に関する事項

(6) 認証評価機関による認証評価に関する事項

(7) その他自己点検・評価に関する事項

（略）

（報告）

第７条　委員長は、委員会での審議結果を校長に報告するものとする。

（略）

（出典　沖縄工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則　抜粋）

資料９－１－①－10




（出典　本校ウェブページ）

資料９－１－①－11

## １．参与の会日程表

Ⅰ．日　　時　　平成２２年２月１８日（木）　　１４：００～１７：００

Ⅱ．場　　所　　沖縄工業高等専門学校　メディア棟２階　会議室

Ⅲ．会次第

| | 予定時刻 |
|---|---|
| （１）開　　会 | １４：００ |
| （２）校長挨拶 | |
| （３）参与紹介及び本校出席者紹介 | |
| （４）会長選出 | |
| （５）学校施設説明 | １４：２０ |
| （６）施設見学 | １４：３０ |
| 休　　憩 | １５：００ |
| （７）学校概要説明 | １５：１０ |
| （８）意見交換 | １６：００ |
| （９）閉　　会 | １７：００ |

配布資料

①平成２１年度沖縄工業高等専門学校第１回参与の会冊子
②事前質問事項に対する回答
③学校施設説明資料
④学校概要説明資料
⑤自己点検・評価報告書　－第３報－
⑥自己点検・評価報告書（第３報）資料集
⑦国立沖縄高専パンフレット
⑧学生生活の手引き　平成２１年度
⑨沖縄工業高等専門学校学校要覧　２００９

(出典　総務課資料　抜粋)

資料９－１－①－12

# 平成２１年度

# 参与の会報告書

平成２２年２月１８日（木）

沖 縄 工 業 高 等 専 門 学 校

(出典　平成21年度参与の会報告書　抜粋)

（分析結果とその根拠理由）

教育活動の実態を示すデータや資料は適切に保管されている。また，それを評価するために教務委員会，自己点検・評価委員会，FD委員会が活動している。また，自己点検・評価委員会では自己評価書を作成し社会に広く公表するとともに，これを元にした外部評価である参与の会を開催している。

以上のことより，教育の状況に関しては教育活動の実態を示すデータや資料を適切に収集・保管しており，適切な評価を実施する体制は整備されている。

**観点９－１－②：　学生の意見の聴取（例えば，授業評価，満足度評価，学習環境評価等が考えられる。）が行われており，教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。**

（観点に係る状況）

平成16年度から教育の質の向上及び継続的な教育改善を目的として，学生による授業改善アンケートとその分析を行っており（資料９－１－②－１，資料９－１－②－２，資料９－１－②－３），それに対する教員の自己点検・評価として授業実施報告書（資料９－１－②－４）を作成している。また，卒業時にアンケートを実施している（資料９－１－②－５，資料９－１－②－６，資料９－１－②－７）。

また，学生の意見は特別活動や学級日誌等（資料９－１－②－８）を通じて担任が日常的に収集している。また，授業等に関する学生からの要望はオフィスアワー等により，全教員が直接学生から聴取している（資料９－１－②－９）。学生からあげられた意見は学生委員会（資料９－１－②－10）や学科会議等で適宜，審議している。

学生相談室においても学生からの要望や意見を受け付けており（資料９－１－②－11），聴取された意見等は関係部署で適切に対処されている。

② 欠課時数が年間総授業時間数の１/３を越えている学生はその科目を履修したと認定されない。
成績評価が不可となった学生の扱いにつては第６章で述べる。

**（６） 学業成績の誤記訂正について**

学業成績に誤記入が生じた場合は、

① Campus mate での成績入力期間である場合には、訂正し、再登録する。
② 成績入力期間を過ぎている場合には、次回の成績入力期間に訂正する。
③ 後学期期末の成績通知書配布後は訂正できない。

**（７） 追認試験**

不可の成績をとった学生に対しては、追認試験を行うことができる。追認試験を行う場合は、第５章(7)追認試験実施要綱による。

**（８） 異常発生時の対応**

(A)授業中に体調不良を訴えた学生が生じた場合は、保健室(4054)と連絡をとり対処する。

(B)授業態度や出席状況に異変が見られた場合で、教科担当者だけの指導や処置では不適当と判断されるときは、学級担任、教務係と連携して指導、対処する。

**（９） 留年学生及び未修得教科を持つ学生の指導**

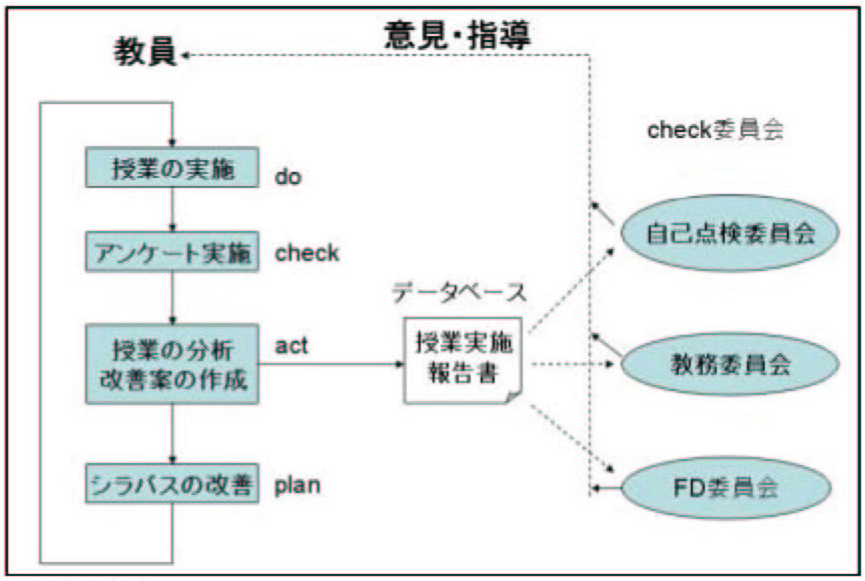
教科担当は、当該学生が 1 年間持ちこたえられるかどうか、あるいは再留年にならないよう、気を配らねばならない。低学年の場合、学級担任や総合科学科教員との連携をとりながらの指導も必要となる。

**（１０） 授業改善アンケート**

授業改善アンケートを実施し、以下の PDCA サイクルにより、授業を不断に改善すること。

PDCA（Plan·Do·Check·Act）サイクル

- 教員自らが、授業を改善するという意識で取り組む。
- 授業実施結果、アンケート結果の分析を含む授業実施報告書を作成し、データベース化する。
- 問題が発見された場合は、当該委員会から意見・指導を行う。




check 委員会の役割

- 自己点検委員会　：PDCA サイクルが機能していることの確認
- 教務委員会　：授業が適正に実施されていることの確認
- FD 委員会　：教員の教育技術の改善がなされていることの確認

授業改善アンケートの形式を示す。

授業改善のためのアンケート

このアンケートは、今後の授業改善に生かされるもので、回答結果は皆さんの成績には関与しません。より良い授業のためにみなさんのご協力をお願いします。以下の設問に、まじめに回答を選択し、率直な意見を記入してください。

設問

《学生の自己分析》

1．　この授業について、あなたの理解度は以下のどれにあてはまると思いますか？
（1．９０%以上、2．８０～９０%、3．７０～８０%、4．６０～７０%、5．６０%未満）

2．　この授業では、あなたは予習復習、課題提出などやるべきことをきちんとやりましたか？
（1．全てできた、2.ほとんどできた、3．時々できていない、4．あまりできていない、5．全くできていない）

3．　あなたはこの授業中、説明に集中し、居眠りなどせず、ノートをとるなど意欲的努力しましたか？
（1．全てできた、2.ほとんどできた、3．時々できていない、4．あまりできていない、5．全くできていない）

4．　授業で何を向上できたと思います？（複数選択可）
（1．基礎知識　2．応用力　3．スキル　4．視野の広がり　5．何もない）

5．　授業を受けるのに必要な事前学力を備えていたと思いますか？
（1．充分持っていた　2．まあまあ持っていた　3．何ともいえない　4．やや不足　5．全く不足していた）

《授業の進め方について》

6．　授業は定時に始まり、定時に終わりましたか
（1．100%定時、2．～90%定時、3．～80%定時、4．～50%定時、5．50%以下）

7．　授業中の私語や授業態度などを教員は注意しましたか？
（1．した、2．まあした　3．どちらともいえない　4．あまりしなかった、5．しなかった）

8．授業中は質問しやすく発言しやすい雰囲気で、きちんと対応してくれましたか？
（1．とてもそう思う　2.そう思う　3．どちらでもない、4．あまりそう思わない5．全くそう思わない）

9　PPT、パソコン等の IT 系教育機材の使い方について、どう感じましたか。

15

（1．もっと使った方が分かりやすい　2．　3．　ちょうど良い　4．　5．もっと板書の方が分かりやすい）

《授業内容について》
１０．　授業はシラバスに沿って計画的に行われましたか
（1．シラバス通り、2．まあまあシラバス通り、3．なんともいえない、4．少し異なる、5．全く違う）
１１．教員の説明は、言葉や論理が明瞭で、あなたにとって、理解しやすかったかったですか？
（1．理解しやすい、2.まあまあ理解しやすい　3．普通、4．やや理解しにくい　5．理解しにくい）
１２．　授業のレベルはあなたにとってどうでしたか
（1．高すぎる、2.すこし高い、3．ちょうど良い、4．少し低い、5．低すぎる）
１３．１回の授業の進み具合はあなたにとってどうでしたか？
（1．速すぎる、2.すこし速い、3．ちょうど良い、4．少し遅い、5．遅すぎる）
１４．　授業内容の豊富さはあなたにとってどうでしたか？
（1．多すぎる、2．少し多い、3．ちょうど良い、4．少し少ない、5．少なすぎる）
１５．　あたたにとって、講義と実践の割合はどう感じましたか？
(1.もっと講義が多い方が力が付く　2．3.ちょうど良い　4．　5.もっと実践が多い方が力が付く）

《自由記述》
上の質問に関すること、またはこの授業でとくによかったところ、この授業でとくに改善して欲しいところ・要望など、自由にコメントを書いてください。

---

1．実習系の安全性に関して：授業の中で危ない（怖い）ことはありましたか？
（1．全くない　2．ある）

2．実験や実習に関して：実験機器や資材の数量について
（1．充分であり満足できた　2．不足のため、遊び時間があった）

3．実験や実習に関して：充分や説明や実験マニュアルが整備されていましたかしたか。
（1．充分あった　2．あった　3．どちらともいえない　4．　あまりなかった　5．無かった）

4．実験や実習に関して：理論的な（講義系）科目との関連が感じられましたか。
（1．関連が良く分かっていた　2．どの科目と関連するのか不明だった）

### （１１）　授業実施報告書

授業改善アンケートに基づき、授業実施報告書を作成するものとする。

授業実施報告書の記述例を示す。

| 期間：21 年 4 月～21 年 9 月 | 授業名:プログラミング基礎Ⅱ(情報２年) | 教員名：＊＊＊ |
|---|---|---|

**授業の理念：**プログラミング言語 java の構造と文法について以下の項目を理解する。
(1) データ型, (2)条件分岐等の制御構造, (3)ファイル入出力、(4)オブジェクト指向プログラミング。
これらに基づき簡単なプログラムが作れるようになる。

**授業実施の経過：**　ほぼシラバス通り進めることができた。実践力と自主性を高めるために、授業毎に課題を出し、課題の達成度を達成度表で自己管理できるよう工夫した。

**授業改善のためのアンケート結果と分析：**

**主な項目の集計結果を示す。(講義用、回答数：24)**

| 授業は定時か | | 授業の理解度 | | 向上できたもの | | 質問しやすく、質問にきちんと対応したか | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 90%以上 | 79.2% | 90%以上 | 12.5% | 基礎知識 | 87.5% | とてもそう思う | 25% |
| 80-90% | 20.8% | 90～80% | 20.8% | 応用力 | 20.8% | そう思う | 54.2% |
| 70-80% | 0 | 80～70% | 37.5% | スキル | 37.5% | どちらでもない | 16.7& |

16

（出典　教員便覧　P. 14-16）

資料９－１－②－２

学生のみなさんへ

校長　　糸　村　昌　祐

今後の授業改善に役立てるため、各受講科目（後期開講科目）について授業改善アンケートを実施します。
アンケートは、１月２５日（月）から２月１９日（金）の各科目の講義時間内に行いますので、この期間は、各自パソコンを持参して授業を受けるようにしてください。
なお、実施期間中には、授業変更等も予想されること及びLANの不具合などにより、講義時間内にアンケートを回答できない場合も想定されますので、その際には、休み時間等を利用してアンケートに答えてください。
また、アンケートは、今後の授業改善に生かされるもので、回答結果は皆さんの成績に影響を与えるものではありませんので、アンケート実施期間内に、全ての科目について、回答を済ませるようにしてください。

（アンケート実施手順など）
下記のアドレスにアクセスして、アンケートの回答を行って下さい。
https://learn.okinawa-ct.ac.jp/

ユーザ名：メールのアカウント名（ms学籍番号、ic学籍番号、mi学籍番号、br学籍番号）
パスワード：各自メールのパスワード

アンケートの入力手順については、
¥¥leo¥public¥事務¥授業改善アンケート
にある「授業アンケート入力方法」のファイルを参照してください。

☆☆☆★★☆☆☆★★☆☆☆★★☆☆☆★★
国立沖縄工業高等専門学校
総務課　総務係
〒905-2192
沖縄県名護市字辺野古905番地
Tel:　　fax：
メールアドレス
★★★☆☆★★★☆☆★★★☆☆★★★☆☆

（出典　総務課送信メール）

資料９－１－②－３

アセスメントの統計: 後期:授業改善のためのアンケート(座学用)

[redacted]

プログラミングI-MI (091231105) > コントロールパネル > 成績センタ > 項目オプション > アセスメントの統計: 後期:授業改善のためのアンケート(座学用)

## アセスメントの統計: 後期:授業改善のためのアンケート(座学用)

統計は採点オプション (最終作業、最初の作業、最終得点の作業、平均得点) で使用した試行回数のみに基づいて算出されます。[平均得点] が採点オプションの場合、すべての試行回数が統計に含まれます。

名前　後期:授業改善のためのアンケート(座学用)

試行回数　23 (このアセスメントの24試行の合計回数)

手順

問題1　評価尺度/リッカート

あなたの理解度は以下のどれにあてはまると思いますか？

| 解答 | パーセント解答 |
|---|---|
| 1. 90%以上 | 34.783% |
| 2. 90%から80% | 52.174% |
| 3. 80%から70% | 13.043% |
| 4. 70%から60% | 0% |
| 5. 60%未満 | 0% |
| *未解答* | 0% |

問題2　評価尺度/リッカート

予習・復習，課題提出などやるべきことをきちんとやりましたか？

| 解答 | パーセント解答 |
|---|---|
| 1. 全てできた | 39.13% |
| 2. ほとんどできた | 43.478% |
| 3. 時々できていない | 17.391% |
| 4. あまりできていない | 0% |
| 5. 全くできていない | 0% |
| *未解答* | 0% |

問題3　評価尺度/リッカート

居眠り・雑談などせず説明に集中し，分らない箇所は質問するなど意欲的に努力しましたか？

| 解答 | パーセント解答 |
|---|---|
| 1. 全てできた | 30.435% |
| 2. まあまあできた | 60.87% |
| 3. どちらともいえない | 8.696% |
| 4. ややできていない | 0% |
| 5. 全くできていない | 0% |
| *未解答* | 0% |

問題4　複数解答

授業で何を向上できたと思いますか？ (複数選択可)

（出典　授業改善のためのアンケート結果　抜粋）

資料９－１－②－４

**沖縄工業高等専門学校　授業実施報告書　提出年月日：2010 年 5 月 21 日**

| 期間：２１年１０月から<br>２１年２月 | 授業名： | 教員名： |
|---|---|---|

**授業の理念：**

近年、携帯電話を中心としたワイヤレスデータ通信を取り巻く技術は急速な進歩を遂げ、その重要性は益々高まる一方である。本講義では、携帯電話の端末や基地局などのネットワーク機器を含めた設備全体のしくみを始め、モバイルデータ通信の基礎や提供されるサービスの概要を理解することを目標とする。

**授業実施の経過：**

シラバスに記載した授業項目に従い計画通りに実施できた。携帯電話の基本的な構造やネットワーク構成、ディジタル変調や多重化技術などの基礎知識の習得ができるよう構成し実施した。また、PBL 形式の学習形態により、サービスと技術の関連付けの理解の向上が図れるよう工夫した。

**授業改善のためのアンケート結果　：**

**講義用　回答数：14　回収率：33%**

| 授業は定時か | | 授業の理解度 | | 向上できたもの | | 質問しやすく、質問にきちんと対応したか | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 90%以上 | 71.4 | 90%以上 | 50.0 | 基礎知識 | 100.0 | とてもそう思う | 42.9 |
| 80-90% | 28.6 | 90～80% | 35.7 | 応用力 | 21.4 | そう思う | 42.9 |
| 70-80% | 0 | 80～70% | 7.2 | スキル | 14.3 | どちらでもない | 14.2 |
| 70-60% | 0 | 70%～60% | 7.1 | 視野の広がり | 35.7 | あまりそう思わない | 0 |
| 60%未満 | 0 | 60%未満 | 0 | 何もない | 0 | 全くそう思わない | 0 |

| .シラバスに沿って行われたか | | 授業は理解しやすかったか | | 授業のレベルはどうでしたか | |
|---|---|---|---|---|---|
| シラバス通り | 57.2 | 理解しやすい | 42.9 | 高すぎる | 0 |
| まあシラバス通り | 35.7 | まあ理解しやすい | 50.0 | 少し高い | 7.1 |
| なんともいえない | 7.1 | 普通 | 7.1 | ちょうど良い | 92.9 |
| 少し異なる | 0 | やや理解しにくい | 0 | 少し低い | 0 |
| 全く違う | 0 | 理解しにくい | 0 | 低すぎる | 0 |

| 1 回の授業の進み具合 | | 授業内容の豊富さ | | .講義と実践の割合 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 速すぎる | 0 | 多すぎる | 0 | 講義をもっと多く | 0 |
| 少し速い | 14.3 | やや多い | 7.1 | ちょうど良い | 92.9 |
| ちょうど良い | 85.7 | ちょうど良い | 92.9 | 実践をもっと多く | 7.1 |
| 少し遅い | 0 | やや少ない | 0 | | |
| 遅すぎる | 0 | 少なすぎる | 0 | | |

| | |
|---|---|
| 良かった点 | 教員の企業時代の話が色々と聞けて良かった。演習問題の実施。ペースがゆっくりで分かりやすくノートを取っている学生に合わせてくれた。質問にも分かりやすく答えてくれた。PPT の資料が分かりやすい。モバイルの基礎知識が学べた。 |
| 改善して欲しい点 | スライドが早くノートを取るのが大変だった。学生がもっと授業に参加できる形式ならより理解が深まる。 |

**成績分布データ：**

前期得点の最高点は 96 点、最低点は 49 点、平均は 85.4 点であった。分布は以下の通りである。

S:16 人　　A:20 人　　B：2 人　　C:2 人　　F:2 人

**分析：**

できるだけ幅広く内容を構成することにより基本知識の習得と視野の広がりが図れたと思われる。
留学生の定期試験における成績不振が懸念されるため、授業中の理解度不足を補うための対策としてノート PC の持ち込みによる翻訳ソフトの使用を許可すると共に、定期試験において試験問題と回答用紙にルビをつけるなどの対応を行った結果、理解度が向上した。

**次年度についての展望：**

PBL 形式の授業において、サービスと技術の関連付けの理解を深められるよう 2 回の授業を割り当てたが、結果的に時間不足となり、十分な調査と資料のまとめができなかったように思われる。次年度では、今年度より割り当てる時間を増やし、学生が十分な学習時間を確保できるように配慮したい。

（出典　総務課資料　抜粋）

資料９－１－②－５

第５学年各学科担任　各位

総　　務　　係

平素よりお世話になっております。
先般開催されました授業評価に関する検討部会・教育方法等の改善に関する検討部会において、別添の内容により卒業生へのアンケート調査を実施することとなりました。
なお、卒業時アンケートは、兼城先生のご厚意によりブラックボードを利用した調査が行えることとなりましたので、授業改善アンケートと同様な調査を行います。
つきましては、２月１日から２月１０日の間のＨＲ等において、下記内容をご説明の上、アンケートを実施くださるようお願い申し上げます。
実施期間終了後、アンケート結果を総務係にて取りまとめますので、後日各学科の集計結果をお知らせいたします。
年度末のお忙しい折に申し訳ございませんが、ご協力方よろしくお願いいたします。

【調査目的等】

本アンケートは、本科卒業予定の学生に、これまでの５年間を振り返ってもらい、高専生活全般をどのように感じており、どのような点を改善して欲しいのかなどを満足度として調査し、学生一人一人の意見から今後の沖縄高専における教育・研究活動及び管理運営に反映させていくことを目的に実施するものです。
なお、調査結果については、担当部署で集計後、各種委員会等において分析し、今後の沖縄高専の諸活動に反映させます。

**（アンケート実施手順など）**
**下記のアドレスにアクセスして、アンケートの回答を行って下さい。**
https://learn.okinawa-ct.ac.jp/

**ユーザ名：メールのアカウント名（ms 学籍番号、ic 学籍番号、mi 学籍番号、br 学籍番号）**
**パスワード：各自メールのパスワード**

**アンケートの入力手順については、授業改善アンケートと同様です。**
**「科目名：ＳＨＲ（学科名）」＞アンケート＞卒業時アンケート**

（出典　総務係からの卒業生アンケート実施に関するメール　抜粋）

資料９－１－②－６

# 平成 22 年 3 月卒業生アンケート（全 2 頁）

学科：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　年月日：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

**各項目ついて、あてはまる番号を右の□内に記入して下さい**

**１０．　高専生活全体の満足度はどうでしたか**

大変満足　　どちらともいえない　　全く不満

5----------4----------3----------2----------1　　□

**１１．　沖縄高専を後輩にも勧めたいと思いますか**

是非勧めたい　　どちらともいえない　　全く勧められない

5----------4----------3----------2----------1　　□

**１２．　沖縄高専に入学してよかったと思っていますか**

大変良かった　　どちらともいえない　　全く良くなかった

5----------4----------3----------2----------1　　□

**１３．　専門知識が身についたと思いますか**

大変ついた　　どちらともいえない　　全くつかなかった

5----------4----------3----------2----------1　　□

**１４．　語学（英語）力がついたと思いますか**

大変ついた　　どちらともいえない　　全くつかなかった

5----------4----------3----------2----------1　　□

**１５．　数学・物理・化学等の技術系基礎知識がついたと思いますか**

大変ついた　　どちらともいえない　　全くつかなかった

5----------4----------3----------2----------1　　□

**１６．　社会・国語等の文科系教養が身についたと思いますか**

大変ついた　　どちらともいえない　　全くつかなかった

5----------4----------3----------2----------1　　□

**１７．　課外活動（クラブ、コンテスト等）に満足できましたか**

大変満足　　どちらともいえない　　全く不満

5----------4----------3----------2----------1　　□

**１８．　寮生活全体の満足度はどうでしたか**

大変満足　　どちらともいえない　　全く不満

5----------4----------3----------2----------1　　□

**１０．　混合学級は有意義でしたか**

大変有意義　　どちらともいえない　　無意義

5----------4----------3----------2----------1　　□

**１１．　進路に満足していますか**

大変満足　　どちらともいえない　　全く不満
5----------4----------3----------2----------1

**１２．　自由記述１　以下の観点から、自由に記述してください**

**沖縄高専で学んだ専門技術を今後どのように活かしていこうと考えていますか？**

**沖縄高専で学んだ専門技術のうち、足りないと思ったものはどのようなことでしょうか？**

**沖縄高専の卒業生として自分が誇れるものは何でしょうか？**

**沖縄高専の後輩にこれだけは伝えたいという『おもい』はありますか？それはどんなことでしょうか？**

**１３．　自由記述２**

**沖縄高専の良いと感じた点はありますか**

**１４．　自由記述３**

**沖縄高専の改善してほしい点はありますか**

（出典　卒業生アンケート　抜粋）

資料９－１－②－７

| | 項目 | 平均 | 機械 | 情報 | メディア | 生物 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 高専生活全体の満足度はどうでしたか | 3.90 | 3.89 | 3.94 | 3.55 | 4. |
| 2 | 沖縄高専を後輩にも勧めたいと思いますか | 3.43 | 3.63 | 3.54 | 2.91 | 3. |
| 3 | 沖縄高専に入学してよかったと思っていますか | 4.10 | 4.06 | 4.14 | 3.73 | 4. |
| 4 | 専門知識が身についたと思いますか | 4.13 | 4.29 | 4.11 | 3.91 | 4. |
| 5 | 語学(英語)力がついたと思いますか | 2.37 | 2.37 | 2.77 | 2.36 | 1. |
| 6 | 数学・物理・化学等の技術系基礎知識がついたと思いますか | 3.63 | 3.86 | 3.86 | 3.21 | 3. |
| 7 | 社会・国語等の文科系教養が身についたと思いますか | 2.79 | 2.80 | 2.86 | 2.91 | 2. |
| 8 | 課外活動(クラブ・コンテスト等)に満足できましたか | 3.72 | 3.89 | 3.94 | 3.30 | 3. |
| 9 | 寮生活全体の満足度はどうでしたか | 2.84 | 2.94 | 2.71 | 2.86 | 2. |
| 10 | 混合学級は有意義でしたか | 4.33 | 4.31 | 4.34 | 4.45 | 4. |
| 11 | 進路に満足していますか | 4.03 | 3.97 | 4.23 | 3.73 | 4. |

（出典　総務係資料）

資料９－１－②－８

平成 20 年 2 月 15 日（金）天気 曇り　　確認印

| 日誌 | 時限 | SHR | 1 | 2 | 3 | 4 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 授業科目 | | 信号処理 | 確率・統計 | | |
| | 担当教員 | | 野口 | 石嶋 | | |
| 欠課・欠席者氏名 | | | | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 行事 | 特になし。 | 伝達事項 | 来週から期末テスト |
| 日直 | [redacted] | 明日 | [redacted] |
| 感想・希望・意見 | Black Boardの授業アンケートが先生によって時間をとってくれる先生と取ってくれない先生がいるので、どのアンケートをやってないのか分かりにくいです。その辺は改善して欲しいです。 | | |

（出典　学級日誌　抜粋）

資料９－１－②－９

# 平成２２年度　前期オフィスアワー

| 学科 | 氏　名 | 曜日 | 研究室 |
|---|---|---|---|
| 機械システム工学科 | 宮田　恵守 | 月 | 3-15 |
| | 眞喜志　隆 | | 2-16 |
| | 松栄　準治 | | 2-17 |
| | 眞喜志　治 | | 3-18 |
| | 山城　光 | | 1-18 |
| | 吉永　文雄 | | 3-17 |
| | 武村　史朗 | 火 | 1-16 |
| | 真鍋　幸男 | | 2-18 |
| | 比嘉　吉一 | | 2-15 |
| | 中本　正一朗 | 木 | 3-16 |
| | 政木　清孝 | | 1-17 |
| | 鳥羽　弘康 | 金 | 1-15 |
| | 下嶋　賢 | | 2-14 |
| | | | |
| 情報通信システム工学科 | 杉本　和英 | 月 | 1-6 |
| | 石田　修己 | | 1-4 |
| | 比嘉　勝也 | | 1-5 |
| | 兼城　千波 | | 2-1 |
| | 神里　志穂子 | | 3-1 |
| | 知念　幸勇 | 木 | 2-3 |
| | 野口　健太郎 | | 2-2 |
| | 山田　親稔 | | 2-4 |
| | 金城　伊智子 | | 3-3 |
| | 高木　茂 | 金 | 3-2 |
| メディア情報工学科 | 正木　忠勝 | 月 | 3-7 |
| | パイティガ　ザカリ | | 2-5 |
| | 玉城　龍洋 | | 2-6 |
| | 太田　佐栄子 | 火 | 3-8 |
| | 角田　正豊 | 木 | 3-6 |
| | 伊波　靖 | | 2-7 |
| | 西村　篤 | | 3-9 |
| | 鈴木　大作 | | 3-4 |
| | 佐藤　尚 | | 3-5 |
| | 姉崎　隆 | 金 | 1-7 |
| | タンスリヤポン　スリヨン | | 1-8 |

| 学科 | 氏　名 | 曜日 | 研究室 |
|---|---|---|---|
| 生物資源工学科 | 山城　秀之 | 月 | 2-12 |
| | 池松　真也 | | 2-11 |
| | 平良　淳誠 | | 1-11 |
| | 田邊　俊朗 | | 2-10 |
| | 伊東　昌章 | | 2-13 |
| | 濱田　泰輔 | 火 | 3-13 |
| | 玉城　康智 | | 3-12 |
| | 磯村　尚子 | | 1-14 |
| | 三宮　一宰 | 木 | 1-12 |
| | 工藤　雄博 | | 1-13 |
| | 三枝　隆裕 | 金 | 4-12 |
| | 平山　けい | | 4-10 |
| 総合科学科 | 新川　智清 | 月 | 4-17 |
| | 青木　久美 | | 4-18 |
| | 下郡　剛 | | 4-9 |
| | 角田 ｷｬﾃｨｰ | | 4-16 |
| | 飯田　智行 | | 1-9 |
| | 成田　誠 | 火 | 4-11 |
| | 網谷　厚子 | | 4-3 |
| | 滝　雅士 | | 4-2 |
| | 木村　和雄 | | 4-8 |
| | 宮城　元 | | 3-14 |
| | 澤井　万七美 | 木 | 4-1 |
| | 名嘉山　リサ | | 4-13 |
| | 武田　ひとみ | | 4-5 |
| | 小池　寿俊 | 金 | 4-4 |
| | 大石　敏広 | | 4-15 |
| | 古屋　淳 | | 4-7 |
| | 山本　寛 | | 4-6 |
| 留学生交流促進センター | 吉川　友子 | 火 | 1-10 |

**表に示された曜日の16時30分～17時15分までは，先生方が研究室に在室しています。相談等がある学生は，気軽に来室してください。ただし，教員が寮の宿直に当たっている場合には，15分程度前には部屋を後にしますので注意してください。**
**※この曜日には，必ず在室しているということで，その他の曜日にはいないということではありません。**

（出典　学生課資料）

資料９－１－②－10

# 第１回学生委員会議事要旨

日　　時　　平成２２年４月６日（火）　１３：００～１３：２５
場　　所　　大会議室
出 席 者　　眞喜志教授（委員長、学生主事）、網谷教授（寮務主事）、神里准教授（学生主事補）、玉城准教授（〃）、三宮准教授（〃）、下郡准教授（〃）、飯田講師（〃）、南部学生課長
欠 席 者　　武村准教授（学生主事補）
列 席 者　　銘苅学生係長
配布資料　　（資料１）沖縄工業高等専門学校学生委員会規則一部改正案、新旧対照表
　　（資料２）学生委員会委員の時間割表

審議事項

１．学生主事補の担当業務について

委員長から学生主事補の担当業務内容について説明の後、以下のとおり学生主事補の各担当を決定した。

・学生会担当・・・三宮准教授
・部・同好会担当・・・下郡准教授
・車輌通学担当・・・武村准教授
・高専祭担当・・・玉城准教授
・美ら島総体（カヌー）担当・・・飯田講師
・美ら島総体（剣道）担当・・・神里准教授

美ら島総体終了後は、飯田講師は主に平成２３年度に開催される九州地区高専体育大会（野球競技）運営担当、神里準教授は高専際担当のサポートに回ることとなった。

２．沖縄工業高等専門学校学生委員会規則の一部改正について

委員長が資料１に基づき、規則の改正理由及び内容について説明を行い、原案どおり承認された。

※条文の文言は学生課内（決裁）で確認の上、以下のとおり訂正した。

第７条　第３条第３号、第４号及び第５号に掲げる委員は、やむを得ない理由で委員会に出席できないときは、第３号及び第４号の委員については当該委員が所属する学科の教員、また、第５号の委員については学生課の職員を代理として出席させることができる。代理人は委員と同様に発言し、議決に参加することができる。

３．その他

・学生委員会の定例開催日について

学生委員会の定例開催日を前期は火曜日の１３時とし、緊急の議題がある場合はその都度委員の日程を調整し臨時で開催することが確認された。また、後期の定例開催日は、委員の授業時間割で空いている時間帯がないため、適宜日程を調整し開催する。

第２回の学生委員会は４月１６日（金）の１６時４５分から開催するとの連絡があった。

（出典　学生委員会議事要旨）

資料９－１－②－11

# 沖縄工業高等専門学校学生相談室規程

［平成１６年４月１日
規　程　第１６号］

改正　平成１９年３月３０日
規　程　第３号
平成２０年７月１６日
規　程　第１０号
平成２２年３月１７日
規　程　第２号

（設置）
第１条　この規程は、沖縄工業高等専門学校学則（平成１６年学則第１号）第１１条の３第２項の規定に基づき沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）に置く学生相談室（以下「相談室」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（目的）
第２条　相談室は、本校学生の相談に応じ、問題解決に必要な助言及び指導を行うことを目的とする。

（業務）
第３条　相談室においては、次の各号に掲げる業務を行う。
(1) 学生の就学、その他個人的問題に関する助言及び指導
(2) 学生の精神衛生に関する助言及び指導
(3) 学生の健康に関する助言及び指導
(4) 相談活動に関する調査研究
(5) その他学生相談に関する必要な業務

（組織）
第４条　相談室に、次の各号に掲げる職員を置く。
(1) 相談室長
(2) 相談員
(3) 補助相談員

（相談室長）
第５条　相談室長は、本校の教授または准教授の中から校長が選任する。
２　相談室長の任期は２年とし、再任を妨げない。
３　前項の相談室長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（相談員）
第６条　相談員は、各学科、総合科学科から選出された専任教員各１名を校長が任命する。
２　相談員の任期は１年とし、再任を妨げない。
３　前項の相談員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
４　校長は、必要に応じて、本校職員以外の者を相談員として委嘱することができる。

（出典　沖縄工業高等専門学校学生相談室規程　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

教育の質及び改善を目的として学生による授業改善アンケートを実施し，それを元に教員が自己点検・評価として授業実施報告書を作成している。また，卒業時に学生にアンケートを実施している。その他，担任を窓口とした意見聴取が日常的に行われており，学生委員会や学科会議等で適宜，審査している。また，学生相談室も意見聴取の仕組みとして機能している。

以上の事から，学生の意見の聴取が行われており，教育の状況に関する自己点検・評価が適切に評価されている。

**観点９－１－③：　学外関係者（例えば，卒業（修了）生，就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が，教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。**

（観点に係る状況）

本校は４年次にインターンシップを必修科目として開設しているが，企業等での実習後にインターンシップ先の担当者から学生に対する意見を求めている（資料９－１－③－１）。

本校は平成21年３月に第１回卒業式を挙行し，開校以来最初の卒業生を社会に送り出した。卒業後１年を経過した今年度に卒業生，就職先担当者，進学先担当者に対するアンケートを実施した（資料９－１－③－２）。

学生の保護者からの意見については後援会を通じた意見聴取（資料９－１－③－３）や担任が中心となった３者面談等を通じた聴取（資料９－１－③－４）が行われている。

また，自己点検・評価委員会が作成した自己点検評価報告書を元にした外部評価（参与の会）を開催し，学外関係者の意見聴取を行い，報告書を作成することによって自己点検・評価を行っている（資料９－１－③－５）。

資料９－１－③－１

別紙資料　4

インターンシップ学生評価書

沖縄工業高等専門学校インターンシップ学生評価書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 学生番号 | [redacted] | 氏名 | [redacted] |
| 実習先名 | [redacted] | | |
| 実習担当者名 | [redacted] | 住所<br>TEL | [redacted] |

＊学生に対する項目別評価

| | 大変良い | 良い | 普通 | やや劣る | 劣る |
|---|---|---|---|---|---|
| (1) 言葉づかい | | ○ | | | |
| (2) 挨拶 | ○ | | | | |
| (3) 返事 | ○ | | | | |
| (4) 笑顔 | ○ | | | | |
| (5) 服装 | | ○ | | | |
| (6) 向上心 | | ○ | | | |
| (7) 積極性 | | ○ | | | |
| (8) 協調性 | ○ | | | | |
| (9) 機転 | ○ | | | | |
| (10) 勤務態度 | ○ | | | | |
| (11) 仕事の理解度 | | ○ | | | |
| (12) 全体評価 | | ○ | | | |

＊学生の勤務状況に対するコメント

本コメントを高専教育活動広報のため第三者に公表して宜しいでしょうか？

（ 可 ）　不可　　企業名をふせれば可

13名のインターン生の中、女性1名だけでしたが、気遅れすることなく周囲を巻き込んでいた。年上の大学生にも、自分の意志をしっかり伝えるなど、存在感があった。

全体を仕切る「お母さん」キャラでありながら、屈託のない笑顔と素直な言動は、誰からも好かれる人物だと思います。

10

（出典　学生課資料）

資料９－１－③－２

平成 22 年 6 月　　日

＜企業名差込＞
　人事担当部長　　様

沖縄工業高等専門学校
進路委員長　伊波　靖

「本校卒業生に関するアンケート調査」ご協力のお願い

拝啓　時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。また、本校卒業生の就職採用に際しましては格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本校では今年 3 月に第 2 期卒業生を無事送り出しました。第 1 期卒業生においては、御社に入社させていただて 1 年が経過し、上司の方々のご指導を賜りながら社会人としての生活に馴染んできた頃かと思います。

この度、本校の教育方針や卒業生の能力に関して、卒業生の進路先であります企業様から貴重なご意見を頂戴したいと考え、アンケート調査を実施させて頂くことと致しました。

つきましては､平成 21 年 4 月に御社に入社いたしました本校の下記卒業生につきまして、別紙アンケートへご協力いただきたくお願い申し上げます。

回答につきましては、集計の関係上、誠に勝手ながら期限を平成 22 年 7 月 23 日（金）とさせていただきます。ご多忙のところ甚だ恐縮ではありますが、何とぞご高配賜りますようお願い致します。

なお、ご回答結果は統計的に処理して本校の改善に活用させていただきますが、目的外の事に利用することはございません。

また、本校の教育方針については卒業生自身からも意見を求めたいと考えております。重ねてお手数をお掛けいたしますが、同封いたしました卒業生あての封筒を、下記卒業生にお渡しくださいますようお取り計らい願えれば幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

敬具

記

【本校卒業生】　＜卒業生氏名差込＞　（平成 21 年 4 月入社）

【回答方法】下記のいずれかによりご回答くださいますようお願いいたします。
①FAX にて送信
送信票不要です。FAX 番号 [redacted]

平成 22 年 6 月　　日

＜大学名差込＞
　＜学部名差込＞学部長　　殿

沖縄工業高等専門学校
進路委員長　伊波　靖

「本校卒業生に関するアンケート調査」ご協力のお願い

拝啓　時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。また、本校卒業生の編入学等進学に際しましては格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本校では今年 3 月に無事第 2 期卒業生を送り出し、第 1 期卒業生においては、貴大学に入学して 1 年が経過した現在、大学生活にも慣れ、研究に取り組む毎日を過ごしていることと思います。

さて、この度本校の教育方針や卒業生の能力に関して、卒業生の進路先であります大学様から貴重なご意見を頂戴したいと考え、アンケート調査を実施させて頂くことと致しました。

つきましては、平成 21 年 4 月に貴大学に入学いたしました下記卒業生につきまして、別紙アンケートへご協力くださいますようお願い申し上げます。

回答につきましては、集計の関係上、誠に勝手ながら期限を平成 22 年 7 月 23 日（金）とさせていただきます。ご多忙のところ甚だ恐縮ではありますが、何とぞご高配賜りますようお願い申し上げます。

なお、ご回答結果は統計的に処理して本校の改善に活用させていただきますが、目的外の事に利用することはございません。

敬具

記

【本校卒業生】　＜卒業生氏名差込＞　（平成 21 年 4 月・3 年次編入学）

【回答方法】下記のいずれかによりご回答くださいますようお願いいたします。

①FAX [redacted]

②同封の返信用封筒にて返送

③電子メールにより回答

メールアドレス：[redacted]

なお、本アンケート用紙は本校ホームページからのダウンロードが可能です.

ホームページ URL　http://www.okinawa-ct.ac.jp/

平成 22 年 6 月　　日

平成 21 年 3 月卒業生
＜卒業生氏名差込＞　　様

沖縄工業高等専門学校
進路委員長　伊波　靖

「教育方法等に関するアンケート調査」ご協力のお願い

本校を卒業し、はや１年が経過しましたが、新しい環境での生活は順調でしょうか。
この度、本校の教育方法等の改善を目的に、卒業生の皆さんから貴重な意見を頂きたく、アンケート調査を実施することとしました。
つきましては、下記のとおり別紙アンケートへご協力くださいますようお願いします。回答につきましては、集計の関係上、勝手ながら期限を平成 22 年 7 月 23 日（金）とさせていただきます。お忙しいところ申し訳ありませんが、どうぞよろしくお願いいたします。
なお、現住所が不明な卒業生につきましては、本依頼文をご実家に送付していますので、お手数とは存じますが、本人にお渡しくださいますようお取り計らい願います。

記

【回答方法】下記のいずれかにより回答をお願いします。
（※本校メディア棟１階事務室学生課に直接持参いただいてもかまいません。）
①FAX [redacted]
②電子メールにより回答
メールアドレス：[redacted]
なお、本アンケート用紙は本校ホームページからのダウンロードが可能です.
ホームページ URL　http://www.okinawa-ct.ac.jp/

以上

【本件に関する問い合わせ先】
沖縄工業高等専門学校　学生課学生係
TEL：[redacted]
E-mail：[redacted]

平成 22 年 6 月　　日

＜企業名差込＞
　人事担当部長　　様

沖縄工業高等専門学校
進路委員長　伊波　靖

「本校卒業生に関するアンケート調査」ご協力のお願い

拝啓　時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。また、日頃より本校学生の進路、学校運営等に関しまして、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

平成 21 年度 4 月に御社に入社いたしました第 1 期卒業生につきましては、入社後 1 年を待たずに退社という結果となり、採用担当および所属部署の方々には多大なるご迷惑をお掛けいたしましたこと心よりお詫び申し上げます。

この度、本校の教育方針や卒業生の能力に関して、卒業生の進路先であります企業様から貴重なご意見を頂戴したいと考え、アンケート調査を実施させて頂くことと致しました。

つきましては、平成 21 年 4 月に御社に入社させていただきました下記卒業生につきまして、別紙アンケートへご協力くださいますようお願い申し上げます。

回答につきましては、集計の関係上、誠に勝手ながら期限を平成 22 年 7 月 23 日（金）とさせていただきます。ご多忙のところ甚だ恐縮ではありますが、何とぞご高配賜りますようお願い申し上げます。

なお、ご回答結果は統計的に処理して本校の改善に活用させていただきますが、目的外の事に利用することはございません。

敬具

記

【本校卒業生】　＜卒業生氏名差込＞　（平成 21 年 4 月入社）

【回答方法】下記のいずれかによりご回答くださいますようお願いいたします。

①FAX にて送信
　送信票不要です。FAX 番号 : [redacted]

②同封の返信用封筒にて返送

以上

（出典　進路委員会送信メール）

# 平成２２年度支部会開催日程表（案）

5月17日

| 支部名 | 開催日 | 支部人数（名） | 会場(住所） | 時間（受付時間） | 後援会側担当 | 教員出席者 | 支部区域 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 北部 | 5月8日（土） | 153 | 名護中央公民館（2階）第1・2研修室 | 15:00～ | 中本 | 眞喜志学生主事 | 名護市、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁<br>伊江村、本部町、宜野座村、金武町、恩納<br>伊平屋村、伊是名村、南大東村、沖縄県外 |
| うるま | 5月18日（火） | 100 | うるま市健康福祉センター「うるみん」<br>3階　大ホール | 20:00～ | 目取真 | 網谷寮務主事 | うるま市 |
| 沖縄 | 5月8日（土） | 179 | 北谷ニライセンター講習室 | 14:00～ | 親里 | 網谷寮務主事 | 沖縄市、読谷村、嘉手納町、北谷町 |
| 浦添 | 5月8日（土） | 123 | 宜野湾市中央公民館 | 15:00～17:00 | 石垣 | 松栄総務主事 | 北中城村、中城村、浦添市、西原町<br>宜野湾市 |
| 那覇 | 5月23日（日） | 142 | 若狭公民館 | 13:00～ | 賀数 | 校長 | 那覇市 |
| 南部 | 4月23日（土） | 138 | 八重瀬町中央公民館 | 16:00～18:00 | 馬場 | 網谷寮務主事 | 豊見城市、糸満市、八重瀬町、南風原町<br>与那原町、南城市、久米島町、座間味村、<br>渡嘉敷村、粟国村、渡名喜村 |
| 宮古 | | 20 | | | | | 宮古島市、多良間村 |
| 八重山 | 5月9日（日） | 28 | | | 山田 | | 石垣市、八重山郡 |
| | 合計 | 883 | | | | | |

※　空白４月９日現在未定となっております。

（出典　総務課資料）

資料９－１－③－４

平成21年度
## ２年生　学級懇談会

国立沖縄工業高等専門学校
平成21年7月1日（水）
15：10～16：00

## 本日の内容

1. 担任団紹介
2. クラスの状況報告
3. 2年次での進路指導の取り組み
4. 本校の進路状況について
5. 保護者の皆様から

## ５．保護者の皆様から

どうぞお声をお聞かせください。

（出典　保護者懇談会資料　抜粋）

資料９－１－③－５

平成２１年度

# 参与の会報告書

平成２２年２月１８日（木）

沖 縄 工 業 高 等 専 門 学 校

(出典　平成21年度参与の会報告書　抜粋)

（分析結果とその根拠理由）

学外関係者からの意見聴取はインターンシップ先担当者，卒業生，就職先担当者，進学先担当者，保護者から意見聴取が行われている。外部評価による参与の会委員から聴取された意見については，報告書を作成することによって自己点検・評価に適切な形で反映されている。

**観点９－１－④：　各種の評価（例えば，自己点検・評価，教員の教育活動に関する評価，学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるようなシステムが整備され，教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。**

（観点に係る状況）

FD委員会が学生を対象に授業改善のためのアンケートを実施し（資料９－１－④－１，資料９－１－④－２），その結果を元に担当教員が授業実施報告書を作成する（資料９－１－④－３，現地閲覧資料参照）。この授業実施報告書を元にして教務委員会，自己点検・評価委員会，FD委員会がその内容を検討し，その結果を担当教員に意見・指導する仕組みがある（資料９－１－④－４）。

これらを受け，教務委員会では毎年，教育課程の見直しについて審議し，見直しを行っている（資料９－１－④－５）。

資料９－１－④－１

学生のみなさんへ

校長　　糸　村　昌　祐

今後の授業改善に役立てるため、各受講科目（後期開講科目）について授業改善アンケートを実施します。
アンケートは、１月２５日（月）から２月１９日（金）の各科目の講義時間内に行いますので、この期間は、各自パソコンを持参して授業を受けるようにしてください。
なお、実施期間中には、授業変更等も予想されること及びLANの不具合などにより、講義時間内にアンケートを回答できない場合も想定されますので、その際には、休み時間等を利用してアンケートに答えてください。
また、アンケートは、今後の授業改善に生かされるもので、回答結果は皆さんの成績に影響を与えるものではありませんので、アンケート実施期間内に、全ての科目について、回答を済ませるようにしてください。

（アンケート実施手順など）
下記のアドレスにアクセスして、アンケートの回答を行って下さい。
https://learn.okinawa-ct.ac.jp/

ユーザ名：メールのアカウント名（ms学籍番号、ic学籍番号、mi学籍番号、br学籍番号）
パスワード：各自メールのパスワード

アンケートの入力手順については、
¥¥leo¥public¥事務¥授業改善アンケート
にある「授業アンケート入力方法」のファイルを参照してください。

☆☆☆★★☆☆☆★★☆☆☆★★☆☆☆★★
国立沖縄工業高等専門学校
総務課　総務係
〒905-2192
沖縄県名護市字辺野古905番地
Tel:　　fax：
メールアドレス
★★★☆☆★★★☆☆★★★☆☆★★★☆☆

（出典　総務課送信メール）

資料９－１－④－２

アセスメントの統計: 後期:授業改善のためのアンケート(座学用)　正本

プログラミングI-MI (091231105) > コントロールパネル > 成績センタ > 項目オプション > アセスメントの統計: 後期:授業改善のためのアンケート(座学用)

## アセスメントの統計: 後期:授業改善のためのアンケート(座学用)

統計は採点オプション (最終作業、最初の作業、最終得点の作業、平均得点) で使用した試行回数のみに基づいて算出されます。[平均得点] が採点オプションの場合、すべての試行回数が統計に含まれます。

名前　後期:授業改善のためのアンケート(座学用)

試行回数　23 (このアセスメントの24試行の合計回数)

手順

問題1　評価尺度/リッカート

あなたの理解度は以下のどれにあてはまると思いますか？

| 解答 | パーセント解答 |
|---|---|
| 1. 90%以上 | 34.783% |
| 2. 90%から80% | 52.174% |
| 3. 80%から70% | 13.043% |
| 4. 70%から60% | 0% |
| 5. 60%未満 | 0% |
| *未解答* | 0% |

問題2　評価尺度/リッカート

予習・復習，課題提出などやるべきことをきちんとやりましたか？

| 解答 | パーセント解答 |
|---|---|
| 1. 全てできた | 39.13% |
| 2. ほとんどできた | 43.478% |
| 3. 時々できていない | 17.391% |
| 4. あまりできていない | 0% |
| 5. 全くできていない | 0% |
| *未解答* | 0% |

問題3　評価尺度/リッカート

居眠り・雑談などせず説明に集中し，分らない箇所は質問するなど意欲的に努力しましたか？

| 解答 | パーセント解答 |
|---|---|
| 1. 全てできた | 30.435% |
| 2. まあまあできた | 60.87% |
| 3. どちらともいえない | 8.696% |
| 4. ややできていない | 0% |
| 5. 全くできていない | 0% |
| *未解答* | 0% |

問題4　複数解答

授業で何を向上できたと思いますか？ (複数選択可)

（出典　授業改善のためのアンケート結果　抜粋）

資料９－１－④－３

**沖縄工業高等専門学校　授業実施報告書　提出年月日：2010 年 5 月 21 日**

| 期間：２１年１０月から<br>２１年２月 | 授業名： | 教員名： |
|---|---|---|

**授業の理念：**

近年、携帯電話を中心としたワイヤレスデータ通信を取り巻く技術は急速な進歩を遂げ、その重要性は益々高まる一方である。本講義では、携帯電話の端末や基地局などのネットワーク機器を含めた設備全体のしくみを始め、モバイルデータ通信の基礎や提供されるサービスの概要を理解することを目標とする。

**授業実施の経過：**

シラバスに記載した授業項目に従い計画通りに実施できた。携帯電話の基本的な構造やネットワーク構成、ディジタル変調や多重化技術などの基礎知識の習得ができるよう構成し実施した。また、PBL 形式の学習形態により、サービスと技術の関連付けの理解の向上が図れるよう工夫した。

**授業改善のためのアンケート結果　：**

**講義用　回答数：14　回収率：33%**

| 授業は定時か | | 授業の理解度 | | 向上できたもの | | 質問しやすく、質問にきちんと対応したか | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 90%以上 | 71.4 | 90%以上 | 50.0 | 基礎知識 | 100.0 | とてもそう思う | 42.9 |
| 80-90% | 28.6 | 90～80% | 35.7 | 応用力 | 21.4 | そう思う | 42.9 |
| 70-80% | 0 | 80～70% | 7.2 | スキル | 14.3 | どちらでもない | 14.2 |
| 70-60% | 0 | 70%～60% | 7.1 | 視野の広がり | 35.7 | あまりそう思わない | 0 |
| 60%未満 | 0 | 60%未満 | 0 | 何もない | 0 | 全くそう思わない | 0 |

| .シラバスに沿って行われたか | | 授業は理解しやすかったか | | 授業のレベルはどうでしたか | |
|---|---|---|---|---|---|
| シラバス通り | 57.2 | 理解しやすい | 42.9 | 高すぎる | 0 |
| まあシラバス通り | 35.7 | まあ理解しやすい | 50.0 | 少し高い | 7.1 |
| なんともいえない | 7.1 | 普通 | 7.1 | ちょうど良い | 92.9 |
| 少し異なる | 0 | やや理解しにくい | 0 | 少し低い | 0 |
| 全く違う | 0 | 理解しにくい | 0 | 低すぎる | 0 |
| 1 回の授業の進み具合 | | 授業内容の豊富さ | | .講義と実践の割合 | |
| 速すぎる | 0 | 多すぎる | 0 | 講義をもっと多く | 0 |
| 少し速い | 14.3 | やや多い | 7.1 | ちょうど良い | 92.9 |
| ちょうど良い | 85.7 | ちょうど良い | 92.9 | 実践をもっと多く | 7.1 |
| 少し遅い | 0 | やや少ない | 0 | | |
| 遅すぎる | 0 | 少なすぎる | 0 | | |

| | |
|---|---|
| 良かった点 | 教員の企業時代の話が色々と聞けて良かった。演習問題の実施。ペースがゆっくりで分かりやすくノートを取っている学生に合わせてくれた。質問にも分かりやすく答えてくれた。PPT の資料が分かりやすい。モバイルの基礎知識が学べた。 |
| 改善して欲しい点 | スライドが早くノートを取るのが大変だった。学生がもっと授業に参加できる形式ならより理解が深まる。 |

**成績分布データ：**

前期得点の最高点は 96 点、最低点は 49 点、平均は 85.4 点であった。分布は以下の通りである。

S:16 人　　A:20 人　　B：2 人　　C:2 人　　F:2 人

**分析：**

できるだけ幅広く内容を構成することにより基本知識の習得と視野の広がりが図れたと思われる。
留学生の定期試験における成績不振が懸念されるため、授業中の理解度不足を補うための対策としてノート PC の持ち込みによる翻訳ソフトの使用を許可すると共に、定期試験において試験問題と回答用紙にルビをつけるなどの対応を行った結果、理解度が向上した。

**次年度についての展望：**

PBL 形式の授業において、サービスと技術の関連付けの理解を深められるよう 2 回の授業を割り当てたが、結果的に時間不足となり、十分な調査と資料のまとめができなかったように思われる。次年度では、今年度より割り当てる時間を増やし、学生が十分な学習時間を確保できるように配慮したい。

（出典　総務課資料　抜粋）

資料９－１－④－４

check 委員会の役割

- 自己点検委員会　　：PDCA サイクルが機能していることの確認
- 教務委員会　　：授業が適正に実施されていることの確認
- FD 委員会　　：教員の教育技術の改善がなされていることの確認

授業改善アンケートの形式を示す。

## 授業改善のためのアンケート

このアンケートは、今後の授業改善に生かされるもので、回答結果は皆さんの成績には関与しません。より良い授業のためにみなさんのご協力をお願いします。以下の設問に、まじめに回答を選択し、率直な意見を記入してください。

設問
《学生の自己分析》
１．　この授業について、あなたの理解度は以下のどれにあてはまると思いますか？
（１．９０%以上、２．８０～９０%、３．７０～８０%、４．６０～７０%、５．６０%未満）
２．　この授業では、あなたは予習復習、課題提出などやるべきことをきちんとやりましたか？
（１．全てできた、2.ほとんどできた、３．時々できていない、４．あまりできていない、５．全くできていない）
３．　あなたはこの授業中、説明に集中し、居眠りなどせず、ノートをとるなど意欲的努力しましたか？
（１．全てできた、2.ほとんどできた、３．時々できていない、４．あまりできていない、５．全くできていない）
４．　授業で何を向上できたと思います？（複数選択可）
（１．基礎知識　２．応用力　３．スキル　４．視野の広がり　５．何もない）
５．　授業を受けるのに必要な事前学力を備えていたと思いますか？
（１．充分持っていた　２．まあまあ持っていた　３．何ともいえない　４．やや不足　５．全く不足していた）

《授業の進め方について》
６．　授業は定時に始まり、定時に終わりましたか
（１．100%定時、2. ～90%定時、３．～80%定時、４．～50%定時、５．50%以下）
７．　授業中の私語や授業態度などを教員は注意しましたか？
（１．した、２．まあした　３．どちらともいえない　４．あまりしなかった、５．しなかった）
８．授業中は質問しやすく発言しやすい雰囲気で、きちんと対応してくれましたか？
（１．とてもそう思う　2.そう思う　３．どちらでもない、４．あまりそう思わない５．全くそう思わない）
９　PPT、パソコン等の IT 系教育機材の使い方について、どう感じましたか。
(１．もっと使った方が分かりやすい　２．　３．　ちょうど良い　４．　５．もっと板書の方が分かりやすい)

《授業内容について》
１０．　授業はシラバスに沿って計画的に行われましたか
（１．シラバス通り、2. まあまあシラバス通り、３．なんともいえない、４．少し異なる、５．全く違う）
１１．教員の説明は、言葉や論理が明瞭で、あなたにとって、理解しやすかったかったですか？
（１．理解しやすい、2.まあまあ理解しやすい　３．普通、４．やや理解しにくい　５．理解しにくい）
１２．　授業のレベルはあなたにとってどうでしたか
（１．高すぎる、2.すこし高い、３．ちょうど良い、４．少し低い、５．低すぎる）
１３．１回の授業の進み具合はあなたにとってどうでしたか？
（１．速すぎる、2.すこし速い、３．ちょうど良い、４．少し遅い、５．遅すぎる）
１４．　授業内容の豊富さはあなたにとってどうでしたか？
（１．多すぎる、２．少し多い、３．ちょうど良い、４．少し少ない、５．少なすぎる）
１５．　あたたにとって、講義と実践の割合はどう感じましたか？
(1.もっと講義が多い方が力が付く　２．3.ちょうど良い　４．　5.もっと実践が多い方が力が付く)

《自由記述》
上の質問に関すること、またはこの授業でとくによかったところ、この授業でとくに改善して欲しいところ・要望など、自由にコメントを書いてください。

---
１．実習系の安全性に関して：授業の中で危ない（怖い）ことはありましたか？
（１．全くない　２．ある）

２．実験や実習に関して：実験機器や資材の数量について
（１．充分であり満足できた　２．不足のため、遊び時間があった）

３．実験や実習に関して：充分や説明や実験マニュアルが整備されていましたかしたか。
（１．充分あった　２．あった　３．どちらともいえない　４．　あまりなかった　５．無かった）

４．実験や実習に関して：理論的な（講義系）科目との関連が感じられましたか。

（出典　教員便覧　P. 15）

資料９－１－④－５

メディア情報工学科（平成22年度1．2年生）

| 授業科目 | | | 単位数 | 学年別配当 | | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | |
| 必修 | 全学共通専門科目群 | 沖縄高専セミナー | 4 | 4 | | | | | |
| | | 情報技術の基礎 | 3 | 3 | | | | | |
| | | 創造演習 | 2 | | 2 | | | | |
| | | 産業創造セミナー | 2 | | | 2 | | | |
| | | インターンシップ | 3 | | | | 3 | | |
| | 基礎科目群 | 離散数学 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 応用数学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 応用物理 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 情報理論 | 2 | | | | | 2 | |
| | | プログラミングⅠ | 2 | 2 | | | | | |
| | | コンピュータアーキテクチャ | 2 | | | 2 | | | |
| | メディア・コンテンツ群 | メディアコンテンツ基礎 | 3 | 3 | | | | | |
| | | メディア情報工学実験Ⅰ | 4 | | 4 | | | | |
| | | コンピュータグラフィックスⅠ | 4 | | | | 4 | | |
| | | コンピュータグラフィックスⅡ | 2 | | | | | 2 | |
| | | メディア情報工学実験Ⅱ | 2 | | | 2 | | | |
| | ソフトウェア群 | プログラミングⅡ | 4 | | 4 | | | | |
| | | プログラミングⅢ | 2 | | | 2 | | | |
| | | アルゴリズムとデータ構造 | 2 | | | 2 | | | |
| | | メディア情報工学実験Ⅳ | 2 | | | | 2 | | |
| | | OSとコンパイラ | 4 | | | | 4 | | |
| | ハードウェア群 | ディジタル回路 | 2 | | 2 | | | | |
| | | メディア情報工学実験Ⅲ | 2 | | | 2 | | | |
| | ネットワーク群 | 通信工学 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 情報セキュリティ | 2 | | | | | 2 | |
| | | コンピュータネットワークⅠ | 2 | | | 2 | | | |
| | | コンピュータネットワークⅡ | 2 | | | | | 2 | |
| | 共通群 | 卒業研究 | 6 | | | | | 6 | |
| | 修得単位計 | | 73 | 12 | 12 | 18 | 17 | 14 | |
| 選択 | 基礎科目群 | 化学及び化学実験法 | 2 | | | | 2 | | |
| | コンテンツ群 | メディアコンテンツ応用 | 2 | | | | | 2 | |
| | ソフトウェア群 | データベース | 2 | | | | | 2 | |
| | | オブジェクト指向言語Ⅰ | 2 | | | | 2 | | |
| | | オブジェクト指向言語Ⅱ | 2 | | | | | 2 | |
| | | 組み込みソフトウェア | 2 | | | | | 2 | |
| | | 計算機科学 | 2 | | | | 2 | | |
| | ハードウェア群 | ディジタルシステム設計 | 2 | | | | 2 | | |
| | | アナログ回路 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 制御とロボット | 2 | | | | | 2 | |
| | ネットワーク群 | 光通信方式 | 2 | | | | | 2 | |
| | | ネットワーキングⅠ | 2 | | | | 2 | | |
| | | ネットワーキングⅡ | 2 | | | | 2 | | |
| | | 信号処理とメディア通信 | 2 | | | | | 2 | |
| | 共通群 | 創造研究＊ | 5 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | ＊ 各学年毎に単位取得可（最大5単位）。 |
| | 開設単位計 | | 33 | 1 | 1 | 1 | 15 | 15 | |
| | 修得単位計 | | 14 | | | | 6 | 8 | |
| 開設単位合計 | | | 106 | 13 | 13 | 19 | 32 | 29 | |
| 修得単位合計 | | | 87 | 12 | 12 | 18 | 23 | 22 | |

メディア情報工学科(平成22年度5年生)

| | | 授業科目 | 単位数 | 学年別配当 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 必修 | 全学共通専門科目 | 沖縄高専セミナー | 4 | 4 | | | | | |
| | | 情報技術の基礎 | 3 | 3 | | | | | |
| | | 創造演習 | 2 | | 2 | | | | |
| | | 産業創造セミナー | 2 | | | 2 | | | |
| | | インターンシップ | 3 | | | | 3 | | |
| | 基礎科目群 | 応用線形代数 | 1 | | | 1 | | | |
| | | 離散数学 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 応用数学 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 応用物理 | 2 | | | | 2 | | |
| | | プログラミングⅠ | 2 | 2 | | | | | |
| | | コンピュータアーキテクチャ | 2 | | | 2 | | | |
| | メディア・コンテンツ群 | メディアコンテンツ基礎 | 3 | 3 | | | | | |
| | | メディア情報工学実験Ⅰ | 4 | | 4 | | | | |
| | | コンピュータグラフィックスⅠ | 3 | | | | 3 | | |
| | | コンピュータグラフィックスⅡ | 2 | | | | | 2 | |
| | ソフトウェア群 | プログラミングⅡ | 2 | | 2 | | | | |
| | | プログラミングⅢ | 2 | | 2 | | | | |
| | | プログラミングⅣ | 2 | | | 2 | | | |
| | | アルゴリズムとデータ構造 | 2 | | | | 2 | | |
| | | メディア情報工学実験Ⅱ | 2 | | | 2 | | | |
| | | OSとコンパイラ | 4 | | | | 4 | | |
| | ハードウェア群 | ディジタル回路 | 2 | | 2 | | | | |
| | | メディア情報工学実験Ⅲ | 2 | | | 2 | | | |
| | ネットワーク群 | モバイル通信方式Ⅰ | 2 | | | 2 | | | |
| | | 情報理論 | 2 | | | | 2 | | |
| | | 情報セキュリティ | 2 | | | | | 2 | |
| | | コンピュータネットワークⅠ | 2 | | | 2 | | | |
| | | コンピュータネットワークⅡ | 2 | | | | | 2 | |
| | | 信号処理とメディア通信 | 2 | | | | | 2 | |
| | | メディア情報工学実験Ⅳ | 2 | | | | 2 | | |
| | 共通群 | 卒業研究 | 6 | | | | | 6 | |
| | 修得単位計 | | 75 | 12 | 12 | 17 | 20 | 14 | |
| 選択 | 基礎科目群 | 化学及び化学実験法 | 2 | | | | 2 | | |
| | メディアコンテンツ群 | メディアコンテンツ応用 | 2 | | | | | 2 | |
| | ソフトウェア群 | データベース | 2 | | | | | 2 | |
| | | ソフトウェア応用Ⅰ | 2 | | | | 2 | | |
| | | ソフトウェア応用Ⅱ | 2 | | | | | 2 | |
| | | IT応用 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 組み込みソフトウェア | 2 | | | | | 2 | |
| | ハードウェア群 | ディジタルシステム設計 | 2 | | | | | 2 | |
| | | アナログ回路 | 2 | | | 2 | | | |
| | | 制御とロボット | 2 | | | | | 2 | |
| | ネットワーク群 | 光通信方式 | 2 | | | | | 2 | |
| | | ネットワーキングⅠ | 2 | | | | 2 | | |
| | | ネットワーキングⅡ | 2 | | | | 2 | | |
| | 共通群 | 創造研究＊ | 5 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | ＊ 各学年毎に単位取得可(最大5単位)。 |
| | 開設単位計 | | 31 | 1 | 1 | 5 | 9 | 15 | |
| | 修得単位計 | | 12 | | | 1 | 3 | 8 | |
| 開設単位合計 | | | 106 | 13 | 13 | 22 | 29 | 29 | |
| 修得単位合計 | | | 87 | 12 | 12 | 18 | 23 | 22 | |

(出典　学生課資料　抜粋)

（分析結果とその根拠理由）

本校ではFD委員会，自己点検・評価委員会，教務委員会が中心となって教育の質の向上，改善を行うシステムが整備されており，教務委員会において教育課程の見直しが行われている。

以上のことから，評価結果を教育の質の向上，改善に結びつけられるようなシステムがあり，授業方法の改善及びカリキュラムの見直しに継続的な方策が講じられている。

**観点９－１－⑤：　個々の教員は，評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図るとともに，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っているか。また，個々の教員の改善活動状況を，学校として把握しているか。**

（観点に係る状況）

FD委員会が学生を対象に授業改善のためのアンケートを実施し（資料９－１－⑤－１，資料９－１－⑤－２），その結果を元に担当教員が授業実施報告書を作成し，総務課に提出する（資料９－１－⑤－３，現地閲覧資料参照)。授業実施報告書には次年度に向けての改善を記述する項目があり，各科目の改善点について学校として把握している。

各教員はこの授業実施報告書の作成を通して自己点検・評価を行っており，その結果として，個別の科目において，実際に授業内容の改善に取り組んでいる。たとえば，１年次の沖縄高専セミナーでは，担当教員や学生からの意見を反映して，平成21年度の授業の内容を大きく変更した（資料９－１－⑤－４)。

資料９－１－⑤－１

学生のみなさんへ

校長　　糸　村　昌　祐

今後の授業改善に役立てるため、各受講科目（後期開講科目）について授業改善アンケートを実施します。
アンケートは、１月２５日（月）から２月１９日（金）の各科目の講義時間内に行いますので、この期間は、各自パソコンを持参して授業を受けるようにしてください。
なお、実施期間中には、授業変更等も予想されること及びLANの不具合などにより、講義時間内にアンケートを回答できない場合も想定されますので、その際には、休み時間等を利用してアンケートに答えてください。
また、アンケートは、今後の授業改善に生かされるもので、回答結果は皆さんの成績に影響を与えるものではありませんので、アンケート実施期間内に、全ての科目について、回答を済ませるようにしてください。

（アンケート実施手順など）
下記のアドレスにアクセスして、アンケートの回答を行って下さい。
https://learn.okinawa-ct.ac.jp/

ユーザ名：メールのアカウント名（ms学籍番号、ic学籍番号、mi学籍番号、br学籍番号）
パスワード：各自メールのパスワード

アンケートの入力手順については、
¥¥leo¥public¥事務¥授業改善アンケート
にある「授業アンケート入力方法」のファイルを参照してください。

☆☆☆★★☆☆☆★★☆☆☆★★☆☆☆★★
国立沖縄工業高等専門学校
総務課　総務係
〒905-2192
沖縄県名護市字辺野古905番地
Tel:　　fax：
メールアドレス
★★★☆☆★★★☆☆★★★☆☆★★★☆☆

（出典　総務課送信メール）

資料９－１－⑤－２

アセスメントの統計: 後期:授業改善のためのアンケート(座学用)　正本

プログラミングI-MI (091231105) > コントロールパネル > 成績センタ > 項目オプション > アセスメントの統計: 後期:授業改善のためのアンケート(座学用)

## アセスメントの統計: 後期:授業改善のためのアンケート(座学用)

統計は採点オプション (最終作業、最初の作業、最終得点の作業、平均得点) で使用した試行回数のみに基づいて算出されます。[平均得点] が採点オプションの場合、すべての試行回数が統計に含まれます。

名前　後期:授業改善のためのアンケート(座学用)

試行回数　23 (このアセスメントの24試行の合計回数)

手順

問題1　評価尺度/リッカート

あなたの理解度は以下のどれにあてはまると思いますか？

| 解答 | パーセント解答 |
|---|---|
| 1. 90%以上 | 34.783% |
| 2. 90%から80% | 52.174% |
| 3. 80%から70% | 13.043% |
| 4. 70%から60% | 0% |
| 5. 60%未満 | 0% |
| *未解答* | 0% |

問題2　評価尺度/リッカート

予習・復習，課題提出などやるべきことをきちんとやりましたか？

| 解答 | パーセント解答 |
|---|---|
| 1. 全てできた | 39.13% |
| 2. ほとんどできた | 43.478% |
| 3. 時々できていない | 17.391% |
| 4. あまりできていない | 0% |
| 5. 全くできていない | 0% |
| *未解答* | 0% |

問題3　評価尺度/リッカート

居眠り・雑談などせず説明に集中し，分らない箇所は質問するなど意欲的に努力しましたか？

| 解答 | パーセント解答 |
|---|---|
| 1. 全てできた | 30.435% |
| 2. まあまあできた | 60.87% |
| 3. どちらともいえない | 8.696% |
| 4. ややできていない | 0% |
| 5. 全くできていない | 0% |
| *未解答* | 0% |

問題4　複数解答

授業で何を向上できたと思いますか？ (複数選択可)

（出典　授業改善のためのアンケート結果　抜粋）

資料９－１－⑤－３

**沖縄工業高等専門学校　授業実施報告書　提出年月日：**

| 期間： | 授業名： | 教員名： |
|---|---|---|

**授業の理念：**

**授業実施の経過：**

**授業改善のためのアンケート結果　：**

**講義用　回答数：　回収率：**

| 授業は定時か | | 授業の理解度 | | 向上できたもの | | 質問しやすく、質問にきちんと対応したか | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 90%以上 | | 90%以上 | | 基礎知識 | | とてもそう思う | |
| 80-90% | | 90～80% | | 応用力 | | そう思う | |
| 70-80% | | 80～70% | | スキル | | どちらでもない | |
| 70-60% | | 70%～60% | | 視野の広がり | | あまりそう思わない | |
| 60%未満 | | 60%未満 | | 何もない | | 全くそう思わない | |

| .シラバスに沿って行われたか | | 授業は理解しやすかったか | | 授業のレベルはどうでしたか | |
|---|---|---|---|---|---|
| シラバス通り | | 理解しやすい | | 高すぎる | |
| まあシラバス通り | | まあ理解しやすい | | 少し高い | |
| なんともいえない | | 普通 | | ちょうど良い | |
| 少し異なる | | やや理解しにくい | | 少し低い | |
| 全く違う | | 理解しにくい | | 低すぎる | |

| 1回の授業の進み具合 | | 授業内容の豊富さ | | .講義と実践の割合 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 速すぎる | | 多すぎる | | 講義をもっと多く | |
| 少し速い | | やや多い | | ちょうど良い | |
| ちょうど良い | | ちょうど良い | | 実践をもっと多く | |
| 少し遅い | | やや少ない | | | |
| 遅すぎる | | 少なすぎる | | | |

| | |
|---|---|
| 良かった点 | |
| 改善して欲しい点 | |

**成績分布データ：**

**分析：**

**次年度についての展望：**

（出典　総務課資料　抜粋）

資料９－１－⑤－４

| 科目名 | 沖縄高専セミナー | 英文表記 | ONCT　Seminar |
|---|---|---|---|

**教員名：** 機械【山城，眞喜志，比嘉，鳥羽】，情報【鈴木，野崎】，生物【平良，工藤，三枝，濱田】
メディア【角田，姉崎，タンスリヤボン，バイティガ，小早川】
**技術支援：**中尾，比嘉修，釣

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業方法 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 全学科 | １年 | 必修 | 履修 | ４単位 | 講義 | 通年 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| **目　標** | 1.全学科の概要を理解する事により，専門の異なる人の考え方を理解する。<br>2.各専門学科に関連する身近な商品（工業製品）の考え方を学び，技術に対する幅広い興味と視点を醸成し，今後学習する授業科目の意義と位置づけを理解する。<br>3.企業見学などを通じて産業社会を理解する。<br>4.PBL 授業を通じて自己学習力，発表能力を身につける。 | | |
| **高専目標** | ②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧ | **JABEE プログラム名称** | |
| | | **JABEE プログラム教育目標** | |
| **授業概要、方針、履修上の注意** | 各専門学科で学ぶ授業科目の構成と概要を理解する。<br>各専門学科に関連する身近な商品を分解（一部は組立）または解析しながら，その構造と構成技術を理解する。<br>各自が興味を感じた技術を調査し，その結果を発表する。<br>異分野を含めた沖縄県の企業を調査・見学し，社会構造と産業の実態を理解し，幅広い視野を育成する。　（＊各学級同時開講方式） | | |
| **評価方法** | ミニ概論レポート：５％、企業見学レポート：１０％、講演会レポート：５％、各学科固有技術に関するレポート・発表：８０％。（試験は実施しない。） | | |
| **教科書・教材** | 各学科にて作成のテキスト、電子ファイル | | |
| **参考図書** | サイクル・サイエンス（小島千明著，コロナ社），これでわかる自転車技術（特許庁編，出版社：発明協会），デジカメ解体新書（東陽一著，CQ 出版社），インターネット（出版社：岩波書店　岩波新書） | | |
| **関連科目（学年）** | 情報技術の基礎（本科１年）<br>（第 5 週までには Word，インターネットの初歩，9 週までに Power　Point を完了していること） | | |

**授　業　計　画**

| 授　業　項　目 | 時間 | 授　業　内　容 |
|---|---|---|
| ミニ概論 | 4 | 高専セミナーのガイダンスと学科見学 |
| 専門学科のミニ概論 | 8 | 学生が所属する学科及び他学科での，技術の基本的考え方と技術常識を習得し，異分野を理解する。　（2時間／学科） |
| 自転車の技術<br>（機械システム工学科） | 24 | ・授業の狙い説明，自転車の歴史と文化，自転車の分解・組立<br>・自転車の構造と材料，製造法<br>・自転車の運動力学と駆動<br>・自転車の効率，電動アシスト自転車<br>・調査結果の中間発表・指導，最終発表・講評 |
| デジタルカメラの技術<br>（情報通信システム工学科） | 24 | ・授業の狙い，従来カメラと情報機器としてのデジタルカメラの説明<br>・デジタルカメラの構造と構成1（入力，出力部）の講義、デジカメ実習<br>・構成2（CPU,LSI,画像処理部）の講義、技術調査、デジカメ実習<br>・構成3（周辺装置）の講義，新商品の仕様書作成，デジカメ実習<br>・発表準備，発表会，講評 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| **第１回企業調査，見学** | 8 | 授業内容に関連する企業の事前調査と見学を行い，レポートを提出。 | |
| **情報を伝える技術**<br>**（メディア情報工学科）** | 24 | ・授業の狙いの説明<br>・コンテンツ制作、コンピュータの構成、インターネットの仕組みなど情報を伝えるための最新技術を理解する。<br>・レポート作成 | |
| 第２回企業調査，見学<br>レポート作成 | 4 | 授業内容に関連する企業の事前調査と見学を行い，レポートを提出。<br>また，これまでの授業で興味有る技術と企業調査・見学結果を総合レポートとしてまとめ，提出する。 | |
| **無菌包装食品の技術**<br>**（生物資源工学科）** | 24 | ・授業の狙いの説明<br>・無菌包装された食品（缶詰、瓶詰、PET、紙容器、レトルト包装など）を対象として、グループ別に食品名または容器名で調査課題を設定する。文献調査の方法を学び、設定課題について製造から衛生管理等まで多面的に調査を行う。<br>・中間発表を行い、再調査課題を設定する。<br>・グループ毎に最終発表を実施する。 | |
| **学習時間合計** | 120 | **実時間** | 100 |
| **学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など）** | | | |

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。（５０分＝１、１００分＝２）
通年は２ページ、半期は１ページ以内におさめる。

| 科目名 | 沖縄高専セミナー | 英文表記 | ONCT　Seminar | H21 年 3 月 23 日 作　成 |
|---|---|---|---|---|
| 教員名：機械【山城，眞喜志，比嘉，鳥羽】,情報【比嘉，兼城】，メディア【姉崎，伊波，西村，正木，角田，タンスリヤボン】，生物【伊東，三宮、磯村、池松、平山、平良（淳）】<br>技術指導：比嘉信，釣 | | | | |

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業形態 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 全学科 | １年 | 必修 | 履修 | ４単位 | 講義 | 通年 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 目　標 | 1.全学科の概要を理解する事により，専門の異なる人の考え方を理解する。<br>2.各専門学科に関連する身近な商品（工業製品）の考え方を学び，技術に対する幅広い興味と視点を醸成し，今後学習する授業科目の意義と位置づけを理解する。<br>3.企業見学などを通じて産業社会を理解する。<br>4.PBL 授業を通じて自己学習力，発表能力を身につける。 | | |
| 高専目標 | ②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧ | JABEE プログラム名称 | |
| | | JABEE プログラム教育目標 | |
| 授業概要、方針、履修上の注意 | 各専門学科で学ぶ授業科目の構成と概要を理解する。<br>各専門学科に関連する身近な商品を分解（一部は組立）または解析しながら，その構造と構成技術を理解する。<br>各自が興味を感じた技術を調査し，その結果を発表する。<br>異分野を含めた沖縄県の企業を調査・見学し，社会構造と産業の実態を理解し，幅広い視野を育成する。　（＊各学級及び各学科同時開講方式） | | |
| 評価方法 | ミニ概論レポート：５%、企業見学レポート：１０%、各学科固有技術に関するレポート・発表：８５%（前期４０%、後期４５%）。（試験は実施しない。） | | |
| 教科書・教材 | 各学科にて作成のテキスト、電子ファイル | | |
| 参考図書 | サイクル・サイエンス（小島千明著，コロナ社），これでわかる自転車技術（特許庁編，出版社：発明協会），デジカメ解体新書（東陽一著，CQ 出版社），インターネット（出版社：岩波書店　岩波新書） | | |
| 関連科目（学年） | 情報技術の基礎（本科１年） | | |

授　業　計　画

| 授　業　項　目 | 時間 | 授　業　内　容 |
|---|---|---|
| 【前期】混合クラス<br>ミニ概論 | 4 | 高専セミナーおよび各学科のガイダンスと学科見学 |
| 自転車の技術<br>（機械システム工学科） | 12 | ・授業の狙い説明，自転車の分解・組立<br>・自転車の構造と構成部品<br>・電動アシスト自転車<br>・調査結果の発表・講評 |
| デジタルカメラの技術<br>（情報通信システム工学科） | 12 | ・授業の狙い，従来カメラと情報機器としてのデジタルカメラの説明<br>・デジタルカメラの構造と構成1（入力，出力部）の講義，デジカメ実習<br>・構成2（CPU,LSI,画像処理部）の講義、技術調査、デジカメ実習<br>・構成3（周辺装置）の講義，新商品の仕様書作成，デジカメ実習<br>・発表準備，発表会，講評 |
| 第１回企業調査，見学 | 4 | 授業内容に関連する企業の事前調査と見学を行い，レポートを提出。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| **情報を伝える技術**<br>**（メディア情報工学科）** | 12 | ・授業の狙いの説明<br>・コンテンツ制作、コンピュータの構成、プログラミング技術など情報を伝えるための最新技術を理解する。<br>・レポート作成 | |
| **食品製造の技術**<br>**（生物資源工学科）** | 12 | ・授業の狙いの説明<br>・オリオンビール名護工場の見学<br>・食品製造を対象として、グループ別に製造手法、製造機械等興味をもった項目を調査課題として設定する。文献調査の方法を学び、設定課題について多面的に調査を行う。<br>・グループ毎に最終発表を実施する。 | |
| 第２回企業調査，見学<br>レポート作成 | 4 | 授業内容に関連する企業の事前調査と見学を行い，レポート提出。<br>また，これまでの授業で興味有る技術と企業調査・見学結果を総合レポートとしてまとめ，提出する。 | |
| 【後期】学科別クラス<br><br>（機械システム工学科）<br>材料力学の基礎<br>施設見学 | 60 | ・質点系の力学に関する授業および演習<br>・剛体の力学に関する授業および演習<br>・力学に関する実験<br>・機械工学関連の施設見学 | |
| （情報通信システム工学科）<br>電気・電子回路の基礎 | | ・電気数学の基礎の講義と演習<br>・電気・電子回路の構成と測定法の演習<br>・回路シミュレーターによる電気・電子回路の動作検証の演習 | |
| （メディア情報工学科）<br>プログラミングの基礎<br>IT 技術者資格 | | ・プログラミングに関する授業および演習<br>・基本情報技術者試験の概要説明と演習 | |
| （生物資源工学科）<br>化学の基礎<br>生物の基礎 | | ・溶液の化学に関する授業および演習<br>・身近な化学に関する授業および演習<br>・環境と動物の反応に関する授業および演習<br>・遺伝情報とその発現に関する授業および演習 | |
| **学習時間合計** | **120** | **実時間** | **100** |

**学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など）**

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

学生による授業改善のためのアンケートを実施し，その結果を元に各教員が授業実施報告書を作成し，総務課に提出している。各教員は授業実施報告書に従い，実際に授業内容の改善を行っている。

以上のことから，各教員は評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図るとともに，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っている。また，個々の教員の改善活動状況を，学校として把握している。

**観点９－１－⑥：　研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。**

（観点に係る状況）

本校の教員は様々な研究活動をしているが，その一部は，研究により得られた知見や成果が教育内容の改善に活かされている（資料９－１－⑥－１，資料９－１－⑥－２）。

また，本科の卒業研究や専攻科の特別研究において，教員の研究の一部を分担したり，産学連携に関わるテーマ（資料９－１－⑥－３，資料９－１－⑥－４）があり，教員の研究活動が学生の実践教育に寄与している。

資料９－１－⑥－１

# 論文集「高専教育」

| 実施年 | 担当校 | テーマ | 投稿者 |
|---|---|---|---|
| H19年 | 福井高専 | 複合融合教育を目指した「生物とIT応用」の授業例 | 高木　茂 |
| | | フリーソフトを活用した回路教育 | 知念幸勇 |
| | | 工学実験の教育法をカイゼンするための試み<br>－工学実験を要領よく行う学生の特徴－ | 野口健太郎 |
| | | 工学実験の教育法をカイゼンするための試み<br>－機器の取扱いに着目した手先軌道解析と特徴抽出－ | 神里志穂子 |
| | | フォニックス学習による英語学習の効率化 | 水野正志 |
| | | 五感と思考力を目覚めさせるバイオテクノロジー導入教育 | 平山けい |
| | | PBLを導入した国語の授業Ⅱ　－パネルディスカッション－ | 望月　謙二 |
| | | 自学自習姿勢を身につける国語教育の実践<br>－学生自身の作問による漢字小テストの試みとその効果－ | 滝　雅士 |
| H20年 | 木更津高専 | 沖縄高専における「必修科目インターシップ」実現への取り組み | 高木　茂 |
| | | 工学実験の教育法をカイゼンするための試み　-他変量解析に基づくアンケートの解析ー | 野崎真也 |
| | | 「科学技術文章」の指導と評価に関する一考察 | 網谷厚子 |
| | | なぜ技術者は“技術倫理”に従うべきか | 大石敏弘 |
| H21年 | 松江高専 | 島嶼県沖縄における中学校への出前授業の実践と課題 | 野口健太郎 |
| | | 卒業研究における地域支援の取り組み　―特別支援学校とのスイッチ教材開発を通じて― | 佐竹卓彦 |

（出典　総務課資料　抜粋）

資料９－１－⑥－２

## 九州沖縄地区教員教育研究集会

| 実施年度 | 担当校 | テーマ | 参加者 |
|---|---|---|---|
| H19年 | 鹿児島高専 | 高専における地域連携 | 松栄準治<br>池松真也 |
| H20年 | 佐世保高専 | 高専における学級担任の役割 | 西村　篤<br>澤井万七美 |
| H21年 | 大分高専 | 学力に幅のある学生をいかに教育すべきか | 比嘉勝也<br>眞喜志　治 |

## 高専機構主催教員教育研究集会

| | | | |
|---|---|---|---|
| H20年 | 東京高専 | 沖縄高専における「必修科目インターンシップ」実現への取り組み | 高木　茂 |
| | | 工学実験のカイゼンの取組みから見る実験指導について | 野口健太郎 |
| | | 輝け！高専女子学生　―本校における学生支援の現状と問題点の一考察― | 平山けい |
| H21年 | 東京高専 | PDAを利用した学生支援システムの構想 | 山田親稔 |

（出典　総務課資料　抜粋）

資料９－１－⑥－３

（新聞記事掲載のため削除）

（出典　総務課資料）

資料９－１－⑥－４



# 沖縄高専
## 情報通信システム工学科

MENU

- ホーム
- お知らせ
- 学科紹介
- 学生の活動
- 学生の声
- 進路実績
- 授業紹介
- 教員紹介

リンク

沖縄高専トップページ

### 1月26日：卒業研究の取材

１月２６日付の沖縄タイムスに，情報通信システム工学科の卒業研究の取組みとして，桜野特別支援学校の児童・生徒が利用するジョイスティック型マウスやスイッチ教材や電動箱車などの自立活動支援機器開発の記事が掲載されました．
(詳細は１月２６日付沖縄タイムスをご覧ください．)



取材されている風景写真

次の記事：5年生卒業研究発表会スケジュール
前の記事：電気学会・電子情報通信学会九州支部合同講演会で奨励賞

（出典　本校ホームページ）

（分析結果とその根拠理由）

教員の研究活動が教育内容の改善に繋がったり，卒業研究や特別研究に繋がっている例がいくつか見られる。このことから研究活動が教育の質の改善に寄与している。

**観点９－２－①：　ファカルティ・ディベロップメントについて，組織として適切な方法で実施されているか。**

（観点に係る状況）

本校ではFD委員会がファカルティ・ディベロップメントに関する審議・検討を行っており，具体的な推進はFD委員会内に設けられたワーキンググループによって実施されている（資料９－２－①－１，資料９－２－①－２）。

FD委員会の活動以外にも，教員が参加する様々な研修を通して教員の資質向上が図られている（資資料９－２－①－３，資料９－２－①－４，資料９－２－①－５）。

学内においても研修会が行われており，多くの教員が聴講している（資料９－２－①－６，資料９－２－①－７，資料９－２－①－８，資料９－２－①－９）。

また，本校の教員による教育・研究情報交流会を年１回実施しており，教員が研究発表を行い教員の資質向上と教育内容の改善に寄与している（資料９－２－①－10）。

資料９－２－①－１

# 沖縄工業高等専門学校ＦＤ委員会規則

平成１７年８月５日
規　則　第９号
改正　平成１９年３月３０日
規　則　第３号

（設置）
第１条　沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校及び本校の教員が教員個々の質的向上（教育、研究、学校運営、社会貢献等の専門的能力の開発）を図るために組織的に取組む活動（ファカルティ・ディベロップメント。以下「ＦＤ」という。）を推進することを目的として、沖縄工業高等専門学校ＦＤ委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は、前条に規定するＦＤの目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を審議するとともに、ＦＤを推進するための活動を行う。
(1) ＦＤ推進のための企画及び実施に関すること。
(2) ＦＤに関する情報の収集及び提供に関すること。
(3) その他ＦＤの推進に関すること。

（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 校長
(2) 総務主事、教務主事、学生主事及び寮務主事
(3) 各学科長
(4) 事務部長
(5) 総務課長及び学生課長
(6) その他校長が必要と認めた者
２　前項第６号に規定する委員の任期は２年とし、再任を妨げない。
３　前項の委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した者がその職務を代行する。

（委員以外の者の出席）
第５条　委員長は、必要があると認めた場合は委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を求めることができる。

（専門部会）
第６条　委員会は、必要に応じて専門部会を置くことができる。
２　専門部会に関し必要な事項は、別に定める。

（事務）
第７条　委員会に関する事務は、総務課及び学生課において処理する。

（雑則）
第８条　この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

（出典　沖縄工業高等専門学校FD委員会規則　抜粋）

資料９－２－①－２

## ＦＤの進め方について

今後のＦＤ活動を推進するため、ＦＤ委員会の下に次の４部会を設置する。

### １．授業評価に関する検討部会

（主な検討事項）

・学生による授業評価、教員による授業評価、学生の達成度評価
・学生に対するアンケート調査、学生の意見聴取
・授業評価、アンケート調査の分析・公表

### ２．教育方法等の改善に関する検討部会

（主な検討事項）

・教育方法等（授業方法の改善、学業評価方法の在り方、教育機器の利用方法等）の研究、研修
・授業改善の取組事例の公表
・科目間（一般科目・専門科目、基礎科目・応用科目など）ネットワークの構築

### ３．教員表彰に関する検討部会

（主な検討事項）

・教員の教育上の指導能力に関する評価
・教育優秀教員の表彰
・教員の顕彰（教育、学生指導、研究活動、地域貢献、管理運営）

### ４．ＦＤの推進・在り方に関する検討部会

（主な検討事項）

・新任教員への指導、理念・目標の紹介、教育制度の理解支援
・教育活動の実態収集
・教員へのフィードバックと改善のための評価活動
・各種委員会における全学的なＦＤの役割・業務

【各部会の委員構成】

○授業評価に関する検討部会及び教育方法等の改善に関する検討部会

**部会長：高木教務主事**
**構成員：山城(光)教授、比嘉(勝)教授、角田教授、平山教授、網谷教授、成田教授**

○教員表彰に関する検討部会及びＦＤの推進・在り方に関する検討部会

**部会長：松栄総務主事**
**構成員：高木教務主事、比嘉(吉)准教授、知念教授、正木教授、山城(秀)教授、成田教授**

（出典　FD委員会資料）

資料９－２－①－３

○高等専門学校新任教員研修会参加者　一覧

| 年　度 | 所 属 学 科 | 職　名 | 氏　　名 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 平成１６年度 | 機械システム工学科 | 教授 | 眞喜志　隆 | |
| | 情報通信システム工学科 | 教授 | 高木　　茂 | |
| | メディア情報工学科 | 教授 | 正木　忠勝 | |
| | 生物資源工学科 | 教授 | 平山　けい | |
| | 総合科学科 | 准教授 | 森田　正亮 | |
| | 総合科学科 | 准教授 | 青木　久美 | |
| 平成１７年度 | 情報通信システム工学科 | 教授 | 知念　幸勇 | |
| | メディア情報工学科 | 准教授 | 西村　　篤 | |
| | 生物資源工学科 | 准教授 | 玉城　康智 | |
| | 総合科学科 | 准教授 | 澤井　万七美 | |
| | 総合科学科 | 講師 | 古屋　　淳 | |
| 平成１８年度 | 機械システム工学科 | 教授 | 宮田　恵守 | |
| | 機械システム工学科 | 教授 | 中本　正一朗 | |
| | 生物資源工学科 | 教授 | 山城　秀之 | |
| | 機械システム工学科 | 准教授 | 吉永　文雄 | |
| | 生物資源工学科 | 准教授 | 田邊　俊朗 | |
| | 総合科学科 | 講師 | 木村　和雄 | |
| 平成１９年度 | 情報通信システム工学科 | 教授 | 石田　修己 | |
| | 機械システム工学科 | 准教授 | 政木　清孝 | |
| | 情報通信システム工学科 | 准教授 | 兼城　千波 | |
| | メディア情報工学科 | 准教授 | 姉崎　　隆 | |
| | 生物資源工学科 | 准教授 | 三宮　一宰 | |
| | メディア情報工学科 | 講師 | タンスリヤボン　スリヨン | |
| 平成２０年度 | 総合科学科 | 教授 | 成田　誠 | |
| | 総合科学科 | 教授 | 網谷　厚子 | |
| | 機械システム工学科 | 准教授 | 鳥羽　弘康 | |
| | メディア情報工学科 | 准教授 | 小早川　倫広 | |
| 平成２１年度 | メディア情報工学科 | 講師 | 鈴木　大作 | |
| | 情報通信システム工学科 | 助教 | 金城　伊智子 | |
| | 生物資源工学科 | 助教 | 磯 村　尚子 | |

（出典　総務課資料）

資料９－２－①－４

# 平成２０年度沖縄工業高等専門学校新採用教員研修実施要領

１　目　　的

この研修は、高等専門学校制度及び業務内容を理解させ、今後の業務遂行の上での基礎知識を養成することを目的とする。

２　期　　日　　平成２０年４月２日（水）　～　３日（木）（２日間）

※　４月２日（水）　９：００　～　１７：００

４月３日（木）　９：００　～　１６：００

３　場　　所　　メディア棟２階　大会議室

４　対 象 者　　平成１９年度新採用教員研修の実施後に本校に採用された教員

５　日　　程

【４月２日（水）】

| 時　　間 | 講　義　内　容 | 講　　師 |
|---|---|---|
| 9:00 ～ 9:45 | 高専制度、組織・運営等 | 糸村校長 |
| 9:50 ～10:20 | 設置関係、中期計画、将来計画等 | 真鍋副校長(総務主事) |
| 10:25 ～10:55 | 専攻科設置関係 | 知念(幸)専攻科設置検討委員会委員長 |
| 11:00 ～11:30 | ＪＡＢＥＥ対応関係 | ＪＡＢＥＥ対応委員会委員長 |
| 11:35 ～12:05 | 自己点検・評価、機関別認証評価関係 | 正木自己点検・評価委員会委員長 |
| 13:00 ～13:45 | 教務関係 | 高木副校長(教務主事) |
| 13:50 ～14:35 | 学生関係 | 眞喜志隆学生主事 |
| 14:40 ～15:25 | 学生寮関係 | 濱田寮務主事 |
| 15:30 ～17:00 | ネットワーク関係設定説明等 | 水野情報処理ｾﾝﾀｰ長 |

（出典　総務課資料）

資料９－２－①－５

## 九州沖縄地区教員教育研究集会

| 実施年度 | 担当校 | テーマ | 参加者 |
|---|---|---|---|
| H19年 | 鹿児島高専 | 高専における地域連携 | 松栄準治<br>池松真也 |
| H20年 | 佐世保高専 | 高専における学級担任の役割 | 西村　篤<br>澤井万七美 |
| H21年 | 大分高専 | 学力に幅のある学生をいかに教育すべきか | 比嘉勝也<br>眞喜志　治 |

## 高専機構主催教員教育研究集会

| | | | |
|---|---|---|---|
| H20年 | 東京高専 | 沖縄高専における「必修科目インターンシップ」実現への取り組み | 高木　茂 |
| | | 工学実験のカイゼンの取組みから見る実験指導について | 野口健太郎 |
| | | 輝け！高専女子学生　―本校における学生支援の現状と問題点の一考察― | 平山けい |
| H21年 | 東京高専 | PDAを利用した学生支援システムの構想 | 山田親稔 |

（出典　総務課資料）

資料９－２－①－６

## 学生のメンタルヘルス等に関する講習会の実施及び参加状況調査

該当する項目の○印を記入して下さい。

| 講習会名称 | 実施年月日 | | | | | | | 実施日数 | 講習会の内容を具体的に記載して下さい。 | 既存、新規の別 | | 参加者数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 年 | 月 | 日 | ～ | 年 | 月 | 日 | | | 既存 | 新規 | 高専教員 | 高専職員 | 高専学生 | その他 | 合計 |
| 性に関する講演 | 21 | 6 | 3 | ～ | 21 | 6 | 3 | 1 | 看護専門学校講師を招いて男女交際のあり方や性に関する正しい知識を習得させる目的で講演を行った。 | ○ | | 5 | 4 | 172 | | 181 |
| 発達障害に関する講演 | 22 | 3 | 11 | ～ | 22 | 3 | 11 | 1 | 発達障害について基礎知識と対応方法についてカウンセラーによる講演を行った。 | ○ | | 19 | 17 | | | 36 |
| 性に関する講演会 | 20 | 6 | 25 | ～ | 20 | 6 | 25 | 1 | 看護専門学校教諭を招いて、学生の男女交際のあり方や性に関する正しい知識を習得させる目的で講演を行なった。 | | ○ | 5 | 3 | 173 | | 181 |
| AED講習会 | 20 | 7 | 11 | ～ | 21 | 2 | 5 | 2 | 心肺蘇生法、AEDの使用に関する知識を深めることを目的に救命救急の医師等による実技指導をおこなった。 | | ○ | 6 | 14 | 53 | | 73 |
| スポーツ障害予防に関する講演会 | 20 | 7 | 23 | ～ | 20 | 7 | 23 | 1 | スポーツの安全に関する意識向上を目的に整形外科医師を招いて講演をおこなった。 | | ○ | | 3 | 35 | | 38 |
| 自殺予防に関する講演会・ロールプレイ | 20 | 12 | 24 | ～ | 21 | 3 | 25 | 2 | 学生の危機を早期段階で認知し、予防措置を講ずることを目的に精神科医師を招いて、講演及びカウンセリングのロールプレイを行なった。 | ○ | | | 21 | 33 | | 54 |
| 過呼吸症候群に関する講習会 | 19 | 9 | 25 | ～ | 19 | 9 | 25 | 1 | 教職員を対象に過換気の発作を起こす学生についての講習会を行なった。 | | ○ | 25 | 5 | | | 30 |
| 発達障害に関する講習会 | 20 | 3 | 14 | ～ | 20 | 3 | 14 | 1 | 教職員を対象に発達障害についての講習会を行なった。 | | ○ | 16 | 7 | | | 23 |
| 命の大切さ講演会 | 20 | 1 | 30 | ～ | 20 | 1 | 30 | 1 | １年生を対象に自殺防止に向け、専門家を招いて講演会を行なった。 | | ○ | 35 | 4 | 165 | | 204 |
| リラクゼーション講演及び心身の健康調査アンケート | 18 | 6 | 7 | ～ | 18 | 7 | 5 | 3 | 非常勤カウンセラーの臨床心理士が１年生～３年生の学生（学年毎）を対象に、リラクゼーション法や学生相談室の利用について講演会を行った。 | | ○ | 13 | 2 | 495 | | 510 |
| ソーシャルスキルズトレーニング「いいとこ探し」 | 18 | 6 | 28 | ～ | 18 | 6 | 28 | 1 | 新入生を対象に、各学級においてクラスメイトの「良いところ」をお互いに探すというソーシャルスキルズトレーニングを実施した。 | ○ | | 4 | | 168 | | 172 |
| 私たちの身体と心～性について考えよう～ | 18 | 12 | 13 | ～ | 18 | 12 | 13 | 1 | 非常勤カウンセラーが1年生を対象に、思春期における心身の健康と性について講演を行った。 | ○ | | 4 | 1 | 166 | | 171 |
| 学生相談を振り返って | 19 | 3 | 27 | ～ | 19 | 3 | 27 | 1 | 非常勤カウンセラーが教職員を対象に、平成１８年度の学生相談事例を紹介し、今後の学生相談のあり方や注意点について講演を行った。 | | ○ | 35 | 15 | | | 50 |
| カウンセラーの講演会「学生生活とメンタルヘルス」 | 18 | 3 | 9 | ～ | 18 | 3 | 9 | 1 | 教職員を対象に行い、認知療法に基づき感情や行動の関係、スキーマによる心のあり方についての講演を実施した。 | | ○ | 13 | 8 | 0 | 0 | 21 |

（出典　総務課資料）

資料９－２－①－７

平成２２年５月１４日

教職員　各位

専　攻　科　長

学位認証に関わる講習会について（通知）

本校では、今年度専攻科第一期生が学位申請を実施する予定となっています。学位申請については、今回が初回ということもあり、学位申請手続きに関して玉城龍洋準教授に講習会をお願いし、下記のとおり開催しますのでご出席くださいますようお願いします。

記

日　時：平成２２年５月２０日（木）１３：３０～１４：３０
場　所：メディア棟３階　視聴覚ホール
説明者：メディア情報工学科　玉城龍洋准教授
内　容：１．学位申請手続きと注意点
　　２．申請技術レポートと試験での注意点

平成２２年５月１４日

教職員　各位
専攻科２年生へ

専　攻　科　長

学位認証に係る学位申請に関する講演会の開催について（通知）

本校では、今年度専攻科第一期生が学位申請を実施する予定となっています。学位申請については、今回が初回ということもあり、学位申請手続きに関して経験豊富な久留米高専の教員（２名）を招聘し、講演会を下記のとおり開催しますのでご出席くださいますようお願いします。

記

日　時：平成２２年５月２８日（金）１５：００～１８：００
場　所：メディア棟３階　視聴覚ホール
講演者：久留米高専　生物応用化学　伊藤　義文 教授
　　教務主事　　泉本　英次 教授
内　容：１．学位申請手続きと注意点
　　２．申請技術レポートと試験での注意点
　　３．大学院進学について

（出典　総務課送信メール）

資料９－２－①－８

## JDreamII 研修会　実施要領

１　趣旨

JDreamII は、国内最大級の科学技術文献データベースである。国内外の科学技術や医学・薬学関係の学術論文や解説的記事等の文献情報を収録しており、そのほとんどには抄録がついている。さらに、海外文献の場合は、日本語訳も付されて収録されているため日本語での検索が可能であり、学生が初めて学術論文の検索をするには最適なデータベースであるといえる。

今回の研修会は、提供元の科学技術振興機構から講師を招き、5 年生および専攻科生を主な対象とし、卒業研究に役立てることを目的として実施するものである。

また、研修の最後には、本校における ILL サービスの紹介も行い、JDreamII を使った文献検索から論文入手までを一貫して学ぶことができる実践的な内容とする。

２　講師

講師　：独立行政法人　科学技術振興機構　のぎ田　めぐみ氏

３　日時

平成２２年６月１６日（水）　　１３時００分　～　１４時４０分

４　場所

沖縄工業高等専門学校　メディア棟３階　視聴覚ホール（定員 200 名）

５　対象

沖縄工業高等専門学校　学生（５年次）、専攻科生および教職員

６　進行要領（進行：照屋図書情報係長）

| | |
|---|---|
| （１）開催挨拶（伊東校長） | 13:00 ～ 13:03 |
| （２）講師の紹介（照屋図書情報係長） | 13:03 ～ 13:05 |
| （３）研修会（講師） | 13:05 ～ 14:35 |
| （４）ILL サービスについて（照屋図書情報係長） | 15:35 ～ 15:39 |
| （５）閉会挨拶（照屋図書情報係長） | 14:39 ～ 14:40 |

７　その他

・当日は、資料（レジメ等）を配付する。

（出典　総務課資料）

資料９－２－①－９

**平成２１年度**

**沖縄工業高等専門学校知的財産セミナー実施要領**

１．趣　　旨：

企業や大学・高専における知的財産(権)については、産学の付加価値と競争力を高めるためにますます重要なものとして取り扱われてきている。特に企業においては、商品開発や研究活動が商品の差別化や研究業績を示すうえで重要な要素となり、これら開発研究により得られた成果を工業所有権として保護することが大切である。このように工業所有権（知的財産権）は、企業戦略の大きな柱となっていて、本年度企業に就職する学生にとって実社会で直面する技術である。そこで、工業所有権について権利獲得に繋がる技術はどのようなものかを分かり易く解説していただく特許セミナー（講演会）を開催し、本年度卒業予定者及び教職員に対して周知するものである。

なお、講演会の開催に当たっては、学外の企業等関係者（産学連携協力会会員など）に聴講者として参加いただくよう併せて案内することとする。

２．日　　時：平成２２年１月６日（水）　１４時００分 ～ １６時００分

３．場　　所：沖縄工業高等専門学校　メディア棟３階　視聴覚ホール

４．講　　師：国立大学法人　山口大学
産学公連携･イノベーション推進機構　知的財産部門長　佐田洋一郎

５．演　　題：「ゼロから学べる知的財産」
～高専学生が知っておきたい知的財産権の知識～

６．対　　象：沖縄工業高等専門学校学生・教職員及び産学連携協力会会員

７．進行要領

（１）講師の紹介（松栄地域共同テクノセンター長）　14:00～14:05

（２）講演「特許入門」　14:05～15:45
（講師：国立大学法人　山口大学
産学公連携･イノベーション推進機構　知的財産部門長　佐田洋一郎）

（３）質疑応答　15:45～16:00

８．そ の 他

・当日は、資料を配付する。

（出典　総務課資料）

資料９－２－①－10

平成２１年度沖縄工業高等専門学校教育・研究情報交流会実施要領

１．日　　時　：　平成２２年 ３ 月５日（金）　１４：００ ～１５：３５

２．場　　所　：　沖縄工業高等専門学校　メディア棟３階　視聴覚ホール

３．実施要領

(1) テーマ　：　国際的会議での研究発表について

平成１９年度及び平成２１年度に沖縄工業高等専門学校国際会議発表支援制度を活用して発表された研究内容の発表を行う。

(2) プログラム

① 開会挨拶（５分：14:00～14:05）

沖縄工業高等専門学校研究推進委員会委員長　　三　枝　隆　裕

② 発 表 Ⅰ（１５分：14:05～14:20）

「The significance of participation and initiative of local residents in Soundscape design」

サウンドスケープデザインにおける住民の参加と主体性の重要性

沖縄工業高等専門学校メディア情報工学科　准教授　　西　村　　篤

③ 発 表 Ⅱ（１５分：14:20～14:35）

「AN RCE CALCULATION MODEL FOR ROF OF WIMAX 」

WiMAX の光無線システムにおける相対コンスタレーションエラーの計算モデル

沖縄工業高等専門学校情報通信システム工学科　教授　　知　念　幸　勇

④ 発 表 Ⅲ（１５分：14:35～14:50）

「Development Aid as a Foundation of Japan’s Foreign and Security Policy: Re-examining the Roles and Significance of Aid」

日本の外交安全保障政策の柱としての開発援助 － その役割と重要性の再考

沖縄工業高等専門学校総合科学科　講師　　高　嶺　　司

⑤ 発 表 Ⅳ（１５分：14:50～15:05）

「Global properties of expanding spacetimes with cylindrical gravitational waves」

円筒対称重力波を伴う膨張時空の大域的性質

沖縄工業高等専門学校総合科学科　教授　　成　田　　誠

（出典　平成21年度沖縄工業高等専門学校教育研究情報交流会実施要領　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

FD委員会が中心となって，教員の資質向上の取り組みが継続的になされている。また，学内外で行われる研修会や講演会の参加を通してファカルティ・ディベロップメントが実施されている。

以上のことから，ファカルティ・ディベロップメントが組織として適切な方法で実施されている。

**観点９－２－②：　ファカルティ・ディベロップメントが，教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。**

（観点に係る状況）

FD委員会は教育改善活動の一つとして，教育改善のための討論会を実施している（資料９－２－②－１）。その結果は運営企画会議において報告され（資料９－２－②－２），教育の質の向上や教育の改善に結びつけられている。たとえば，昨年度末に実施された教育改善のための討論会において，低学年でのキャリア教育や学年をまたがった学生の交流の重要性がとりあげられた。その結果をふまえて，今年度の２年次の特別活動において，学年間の交流やキャリア教育のための講話が昨年度より多く計画されている（資料９－２－②－３）。

また，FD委員会が学生を対象に授業改善のためのアンケートを実施し（資料９－２－②－４，資料９－２－②－５），その結果を元に担当教員が授業実施報告書を作成している。各教員はこの授業実施報告書の作成を通して自己点検・評価を行っており，その結果として，個別の科目において，実際に授業内容の改善に取り組んでいる。たとえば，１年次の沖縄高専セミナーでは，担当教員や学生からの意見を反映して，平成21年度の授業の内容を大きく変更した（資料９－２－②－６）。

資料９－２－②－１

資料2

平成２１年度第３回沖縄工業高等専門学校
授業評価に関する検討部会・教育方法等の改善に関する検討部会議事要旨（案）

Ⅰ．日　　時　　平成２２年 ３ 月 ５ 日（金）　１５時００分 ～ １５時３５分

Ⅱ．場　　所　　メディア棟２階　大会議室

Ⅲ．出 席 者　　高木委員長、山城（光）、比嘉（勝）、角田及び平山の各委員
　　欠 席 者　　成田及び網谷の各委員
　　陪席：真志喜総務課長、宮成総務係長

Ⅳ．議　　題
（１）平成２１年度第２回授業評価に関する検討部会・教育方法等の改善に関する検討部会議事要旨の確認について
（２）卒業生アンケート結果について
（３）教育改善のための討論会について
（４）その他
① 授業改善アンケートについて
② 次年度の委員について

Ⅴ．議事概要

（１）平成２１年度第２回授業評価に関する検討部会・教育方法等の改善に関する検討部会議事要旨の確認について
前回の議事要旨を確認し、問題点等があれば事務局へ連絡することとした。

（２）卒業生アンケート結果について
高木委員長から、資料に基づき卒業生アンケート結果について説明の後、種々意見交換が行われ、各委員から次のような発言があった。
・アンケート結果については、校長に報告の後、早急に教職員へ周知すべきである。
・各学科等において１ヶ月程度を目処にアンケート結果について検討し、今後の取り組み等の報告を求めること。
・アンケート結果から次のような意見があった。
○語学力がついたとは思っていない学生が多いと判断される。
○混合学級は有意義だと判断される。
○寮生活に不満があったと判断される。

（３）教育改善のための討論会について
高木委員長から、教育改善のための討論会について、審議願いたい旨の提案があり、種々意見交換が行われた結果、次のような事項を確認した。
・討論会のメモを来週中に総務係に提出願いたいこと。
・提出されたメモの文頭にテーマの集計結果をつけて、全教員に周知すること。
・次回以降の討論会のために、今回の討論会に参加された方から意見を徴し、結果を教員に周知すること。
・参加人数は少なくてもよいが、テーマ別に会場を分けてほしいとの要望があったこと。

（４）その他

① 授業改善アンケートについて

高木委員長から、平成21年度授業改善アンケート及び平成22年度授業改善アンケートの公表方法について次のような発言があった。

・平成21年度授業改善アンケートについては、授業実施報告書を学内の教職員に公表する。

・平成22年度授業改善アンケートについては、冊子等に取りまとめ学外に対しても公表する。

② 次年度の委員について

高木委員長から、次年度の委員については、現委員に継続願いたい旨の発言があった。

Ⅵ. 配布資料

（１）平成２１年度第２回沖縄工業高等専門学校授業評価に関する検討部会・教育方法等の改善に関する検討部会議事要旨（案）

（２）卒業生アンケート

（３）2010／03／04討論会メモ【追加資料】

（以上）

（出典　学生課資料）

資料９－２－②－２

## 平成２１年度第１１回沖縄工業高等専門学校運営企画会議議事次第

１．日　　時　　平成２２年 ３ 月１７日（水）　　１５：００ ～

２．場　　所　　メディア棟２階　大会議室

３．議　　題

（１）平成２１年度第１０回運営企画会議議事要旨の確認について（資料１）

（２）沖縄工業高等専門学校の目的・目標の改定について（資料２）

（３）沖縄工業高等専門学校学則等の一部改正等について（資料３）

（４）平成２２年度沖縄工業高等専門学校行事予定表（案）について（資料４）

（５）平成２２年度沖縄工業高等専門学校各種委員会等について（資料５）

（６）平成２２年度沖縄工業高等専門学校時間割について（資料６）

（７）沖縄工業高等専門学校研究生の受け入れについて（資料７）

（８）第１回教育改善のための討論会及び卒業生アンケート結果について（資料８）

（９）平成２２年度沖縄工業高等専門学校産学連携協力会理事会・総会・懇親会の実施について（資料９）

(10) 平成２２年度学生定期健康診断及び歯科検診について（資料 10）

(11) 高等学校等就学支援金制度の概要について（資料 11）

(12) 高等専門学校におけるキャリア教育・職業教育の現状と課題について（資料 12）

(13) 平成２１年度学生相談室カウンセリング利用状況について（資料 13）

(14) 平成２１年度数学・学習到達度試験の結果について（資料 14）

(15) 沖縄工業高等専門学校各種委員会等報告（資料 15）

(16) その他
① 教員人事について
② 始業式について
③ 感謝状の授与について（資料 16）
④ その他

（1／2）

４．資　　料

① 平成２１年度第１０回沖縄工業高等専門学校運営企画会議議事要旨（案）
② 沖縄高専の目的目標改定案
③ 沖縄工業高等専門学校学則等の一部改正等について
沖縄工業高等専門学校学則（一部改正案）
沖縄工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則（一部改正案）
沖縄工業高等専門学校動物実験等に関する規則（制定案）
沖縄工業高等専門学校入試委員会規則（一部改正案）
沖縄工業高等専門学校学生相談室規程（一部改正案）
④ 平成２２年度沖縄工業高等専門学校行事予定表(案)
⑤ 平成２２年度沖縄工業高等専門学校各種委員会等一覧
⑥ 平成２２年度　前学期　時間割
平成２２年度　後学期　時間割
⑦ 平成２１・２２年度沖縄工業高等専門学校研究生一覧
⑧ 第１回教育改善のための討論会及び卒業生アンケート結果報告書
⑨ 平成２２年度沖縄工業高等専門学校産学連携協力会理事会・総会・懇親会実施要領
⑩ 平成２２年度　学生定期健康診断および歯科検診について
⑪ 高等学校等就学支援金制度の概要について
平成２２年度前期の授業料の徴収について（通知）
○就学支援金制度に伴う授業料の徴収猶予の特例措置について
⑫ 中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会（第２０回）議事次第
高等専門学校におけるキャリア教育・職業教育の現状と課題
―――専攻科の課題を中心として―――
⑬ H21年度　学生相談室　カウンセリング利用者数・学年男女別　他
⑭ 数学・学習到達度試験について（平均点）
⑮ 各種委員会等報告資料
⑯ 沖縄工業高等専門学校感謝状授与候補者推薦書

（2／2）

（出典　総務課資料）

資料９－２－②－３

# 2009年度　2年LHR計画

★前期　進路に関する講演会（外部講師　1回、内部　1回）、学科別LHR（卒業までの道のり・専攻科生による卒研モデル）、学生主事講話
★後期　＜案＞進路に関する講演会（OBまたは5年生　2回）、卒業までの道のり（学科別　上級生との懇談会）、教務主事講話

【前期】

| 回 | 月 | 日 | 曜 | 内容 | 担当者 | 場所 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 4 | 2 | | 担任会議（担任団顔合わせ、旧1年担任からの申し送り） | | | |
| 1 | 4 | 8 | 水 | 役員選出・役割分担、生活諸注意 | 主担任 | 各HR | |
| 2 | 4 | 9 | 木 | 健診場所・図書館にて出欠把握 | 主担任 | | 健康診断・歯科検診・図書館講習会 |
| 3 | 4 | 15 | 水 | 体育祭（4／29）話し合い | 主担任 | 各HR | 放課後：合同企業説明会（上級生向け） |
| 4 | 4 | 22 | 水 | 交通安全講習会 | 外部講師 | アリーナ | |
| 5 | 5 | 8 | 金 | 進路に関する講話（インターンシップとは　等） | 進路委員会（正木先生） | 視聴覚ホール | 水曜日の授業 |
| 6 | 5 | 13 | 水 | （案：学科別①　卒業までの道のり） | （学科担任） | | 1年生：薬物に関する講習会／4年生：インターンシップ企業説明会／放課後：学生会議会 |
| 7 | 5 | 20 | 水 | （案：1・2組合同レクリエーション／3・4組　担任裁量） | 主担任 | 体育館（予約済） | 1年生：性に関する講習会／地域清掃 |
| 8 | 5 | 27 | 水 | （案：3・4組合同レクリエーション／1・2組　担任裁量） | 主担任 | 体育館（予約済） | 放課後：AED講習会 |
| 9 | 6 | 3 | 水 | クラス対応（試験前につき自習など） | 主担任 | 各HR | 定期試験前／4年生：性に関する講習会 |
| **前学期中間試験** | | | | | | | |
| 10 | 6 | 17 | 水 | （案：学科別②　専攻科生による卒研モデル披露） | （学科担任） | | 視聴覚ホール1年使用 |
| | | | | 担任会議（中間試験・追認試験の結果を踏まえた情報交換、学科別LHRでの学生の反応、7月保護者懇談会に向けて） | | | |
| 11 | 6 | 24 | 水 | クラスマッチ（7／22）話し合い<br>（この日までに種目がわかれば） | 主担任 | 各HR | 視聴覚ホール1年使用 |
| | 7 | 1 | 水 | 学級懇談会（必要に応じ保護者面談） | | | 寮祭・公開授業週間 |
| 12 | 7 | 15 | 水 | 進路に関する講演会 | 外部講師 | 視聴覚ホール | 毎日コミュニケーションズ（昨年度も依頼、無料） |
| 13 | 7 | 22 | 水 | 学生主事講話　夏休みを控えて | 学生主事 | 視聴覚ホール | 放課後：クラスマッチ |
| 14 | 7 | 29 | 水 | 高専祭準備（役割分担など話し合い） | 主担任 | 各HR | 視聴覚ホール1年使用 |
| 15 | 8 | 5 | 水 | クラス対応（試験前につき自習など） | 主担任 | 各HR | 定期試験前 |
| **前学期期末試験** | | | | | | | |
| | | | | 担任会議（保護者呼び出し・進路変更推奨要の学生などについて情報交換） | | | |

【後期】

| 回 | 月 | 日 | 曜 | 内容 | 担当者 | 場所 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 担任会議（後期LHR擦り合わせ、学生などについて情報交換） | | | |
| 16 | 9 | 30 | 水 | 役員改選・高専祭準備 | 主担任 | 各HR | |
| 17 | 10 | 7 | 水 | 高専祭準備 | 主担任 | 各HR | |
| 18 | 10 | 21 | 水 | 高専祭準備 | 主担任 | 各HR | |
| 19 | 10 | 28 | 水 | 高専祭準備 | 主担任 | 各HR | |
| 20 | 11 | 4 | 水 | 高専祭準備 | 主担任 | 各HR | 校内美化 |
| 21 | 11 | 11 | 水 | 高専祭準備 | 主担任 | 各HR | |
| | 11 | 14 | 土 | 高専祭準備 | | | |
| | 11 | 15 | 日 | 高専祭 | | | |
| 22 | 11 | 18 | 水 | （案：高専祭振り返り） | 主担任 | 各HR | 学生会選挙 |
| 23 | 11 | 25 | 水 | クラス対応（試験前につき自習など） | 主担任 | 各HR | 定期試験前 |
| **後学期中間試験** | | | | | | | |
| 24 | 12 | 3 | 木 | | | 視聴覚ホール | 水曜日の授業 |
| | | | | 担任会議（中間試験・追認試験の結果を踏まえた情報交換） | | | |
| 25 | 12 | 9 | 水 | 学科別③　上級生（4or5年生）に聞く：就職／進学の決め手、親睦会など | （学科担任） | | 学生集会 |
| 26 | 12 | 16 | 水 | クラスマッチ（1／13）話し合い<br>（この日までに種目がわかれば） | 主担任 | 各HR教室 | 学生会議会 |
| 27 | 1 | 6 | 水 | | | | |
| | 1 | 13 | 水 | | | | 予備日・クラスマッチ |
| 28 | 1 | 20 | 水 | 交流戦 | | | |
| 29 | 1 | 27 | 水 | 交流戦 | | | |
| | | | | 担任会議（保護者呼び出し・進路変更推奨要の学生などについて情報交換） | | | |
| 30 | 2 | 3 | 水 | クラス対応（試験前につき自習など） | 主担任 | 各HR教室 | 定期試験前／学生会議会 |
| **後学期期末試験** | | | | | | | |
| 31 | 2 | 19 | 水 | 1年間の振り返り・1人暮らしや自動車通学等に関する注意など | 主担任 | 各HR教室 | 後学期　試験返却　最終日にLHRを入れる？ |
| | | | | 担任会議（担任からの申し送り） | | | |

## 2010年度　2年LHR計画

★前期　進路に関する講演会（外部講師　1回、内部　1回）、学科別LHR（卒業までの道のり・専攻科生による卒研モデル）、学生主事講話
★後期　＜案＞進路に関する講演会（OBまたは5年生　2回）、卒業までの道のり（学科別　上級生との懇談会）、教務主事講話

【前期】

| 回 | 月 | 日 | 曜 | 内容 | 担当者 | 場所 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 4 | 2 | 金 | 担任会議（担任団顔合わせ、旧1年担任からの申し送り） | | | |
| 1 | 4 | 7 | 水 | 役員選出・役割分担、生活諸注意 | 主担任 | 各HR | |
| | 4 | 8 | 木 | | 主担任 | | 健康診断・歯科検診 |
| 2 | 4 | 14 | 水 | クラス企画 | 主担任 | 各HR | 午後：合同企業説明会（上級生向け）/部活動紹介 |
| 3 | 4 | 21 | 水 | 交通安全講習会(1-3年) | 外部講師 | アリーナ | |
| 4.5 | 4 | 28 | 水 | 美ら島総体補助員業務説明会(1-3年)(100分) | | アリーナ | |
| 6 | 5 | 12 | 水 | 学科別 | 学科担任 | | 放課後：学生会議会 |
| 7 | 5 | 19 | 水 | 進路に関する講話（インターンシップとは　等） | 進路委員会（伊波先生） | 視聴覚ホール(予約済) | 地域清掃 |
| 8 | 5 | 26 | 水 | クラス対応(学生相談室のアンケート:Hyper Q-U) | 主担任 | 各HR | 1年生:薬物に関する講習会 |
| 9 | 6 | 2 | 水 | クラス対応（試験前につき自習など） | | | 定期試験前 |
| **前学期中間試験** | | | | | | | |
| 10 | 6 | 9 | 水 | クラス企画 | 主担任 | 各HR | |
| | | | | 担任会議（中間試験・追認試験の結果を踏まえた情報交換、学科別LHRでの学生の反応、7月保護者懇談会に向けて） | | | |
| 11 | 6 | 16 | 水 | クラスマッチ（7／14）話し合い（この日までに種目がわかれば） | 主担任 | 各HR | |
| 12 | 6 | 30 | 水 | 学科別 | 学科担任 | | 学級懇談会(必要に応じて保護者面談)、公開授業週間 |
| 13 | 7 | 7 | 水 | クラス企画 | 主担任 | 各HR | 七夕企画 |
| 14 | 7 | 14 | 水 | 学生主事講話　夏休みを控えて | 学生主事 | 視聴覚ホール(予約済) | 放課後：クラスマッチ |
| 15 | 7 | 21 | 水 | クラス企画 | 主担任 | 各HR | |
| 16 | 7 | 28 | 水 | クラス対応（試験前につき自習など） | 主担任 | 各HR | 定期試験前 |
| **前学期期末試験** | | | | | | | |
| | | | | 担任会議（保護者呼び出し・進路変更推奨要の学生などについて情報交換） | | | |

【後期】

| 回 | 月 | 日 | 曜 | 内容 | 担当者 | 場所 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 10 | ? | | 担任会議（後期LHR擦り合わせ、学生などについて情報交換） | | | |
| 17 | 10 | 6 | 水 | 役員改選・高専祭準備 | 主担任 | 各HR | |
| 18 | 10 | 13 | 水 | 学科別 | 学科担任 | | |
| 19 | 10 | 20 | 水 | 高専祭準備 | 主担任 | 各HR | |
| 20 | 10 | 27 | 水 | 高専祭準備 | 主担任 | 各HR | |
| 21 | 11 | 10 | 水 | 高専祭準備 | 主担任 | 各HR | |
| | 11 | 13 | 土 | 高専祭準備 | | | |
| | 11 | 14 | 日 | 高専祭 | | | |
| 22 | 11 | 17 | 水 | 教務主事講話 | 教務主事 | 視聴覚ホール(予約済) | |
| 23 | 11 | 24 | 水 | クラス対応（試験前につき自習など） | 主担任 | 各HR | 定期試験前 |
| **後学期中間試験** | | | | | | | |
| 24 | 12 | 8 | 水 | クラスマッチ（1／19）話し合い（この日までに種目がわかれば） | 主担任 | 各HR | |
| 25 | 12 | 15 | 水 | 学科別 | 学科担任 | | 学生会議会 |
| | | | | 担任会議（中間試験・追認試験の結果を踏まえた情報交換） | | | |
| 26 | 12 | 22 | 水 | クラス企画 | 主担任 | 各HR | 寮清掃 |
| 27 | 1 | 12 | 水 | クラス企画 | 主担任 | 各HR | |
| 28 | 1 | 19 | 水 | ??? | | 視聴覚ホール(予約済) | 放課後：クラスマッチ |
| 29 | 1 | 26 | 水 | クラス企画 | 主担任 | 各HR | |
| 30 | 2 | 2 | 水 | 合同レクリエーション(100分) | 主担任 | アリーナ・格技場（予約済） | |
| | | | | 担任会議（保護者呼び出し・進路変更推奨要の学生などについて情報交換） | | | |
| 31 | 2 | 9 | 水 | クラス対応（試験前につき自習など） | | | 定期試験前 |
| **後学期期末試験** | | | | | | | |
| 32 | 2 | 23 | 水 | 1年間の振り返り・1人暮らしや自動車通学等に関する注意など | 主担任 | 各HR教室 | 後学期　試験返却　最終日にLHRを入れる？ |
| | | | | 担任会議（担任からの申し送り） | | | |

黒字はおおよそ確定(昨年度を踏襲)
赤字は暫定(先方に確認済み)
緑字は案

（出典　２学年担任資料）

資料９－２－②－４

学生のみなさんへ

校長　　糸　村　昌　祐

今後の授業改善に役立てるため、各受講科目（後期開講科目）について授業改善アンケートを実施します。
アンケートは、１月２５日（月）から２月１９日（金）の各科目の講義時間内に行いますので、この期間は、各自パソコンを持参して授業を受けるようにしてください。
なお、実施期間中には、授業変更等も予想されること及びLANの不具合などにより、講義時間内にアンケートを回答できない場合も想定されますので、その際には、休み時間等を利用してアンケートに答えてください。
また、アンケートは、今後の授業改善に生かされるもので、回答結果は皆さんの成績に影響を与えるものではありませんので、アンケート実施期間内に、全ての科目について、回答を済ませるようにしてください。

（アンケート実施手順など）
下記のアドレスにアクセスして、アンケートの回答を行って下さい。
https://learn.okinawa-ct.ac.jp/

ユーザ名：メールのアカウント名（ms学籍番号、ic学籍番号、mi学籍番号、br学籍番号）
パスワード：各自メールのパスワード

アンケートの入力手順については、
¥¥leo¥public¥事務¥授業改善アンケート
にある「授業アンケート入力方法」のファイルを参照してください。

☆☆☆★★☆☆☆★★☆☆☆★★☆☆☆★★
国立沖縄工業高等専門学校
総務課　総務係
〒905-2192
沖縄県名護市字辺野古905番地
Tel:　　fax：
メールアドレス
★★★☆☆★★★☆☆★★★☆☆★★★☆☆

（出典　総務課送信メール）

資料９－２－②－５

アセスメントの統計: 後期:授業改善のためのアンケート(座学用)



プログラミングI-MII (091231105) > コントロールパネル > 成績センタ > 項目オプション > アセスメントの統計: 後期:授業改善のためのアンケート(座学用)

## アセスメントの統計: 後期:授業改善のためのアンケート(座学用)

統計は採点オプション (最終作業、最初の作業、最終得点の作業、平均得点) で使用した試行回数のみに基づいて算出されます。[平均得点] が採点オプションの場合、すべての試行回数が統計に含まれます。

名前　後期:授業改善のためのアンケート(座学用)

試行回数　23 (このアセスメントの24試行の合計回数)

手順

問題1　評価尺度/リッカート

あなたの理解度は以下のどれにあてはまると思いますか？

| 解答 | パーセント解答 |
|---|---|
| 1. 90%以上 | 34.783% |
| 2. 90%から80% | 52.174% |
| 3. 80%から70% | 13.043% |
| 4. 70%から60% | 0% |
| 5. 60%未満 | 0% |
| *未解答* | 0% |

問題2　評価尺度/リッカート

予習・復習，課題提出などやるべきことをきちんとやりましたか？

| 解答 | パーセント解答 |
|---|---|
| 1. 全てできた | 39.13% |
| 2. ほとんどできた | 43.478% |
| 3. 時々できていない | 17.391% |
| 4. あまりできていない | 0% |
| 5. 全くできていない | 0% |
| *未解答* | 0% |

問題3　評価尺度/リッカート

居眠り・雑談などせず説明に集中し，分らない箇所は質問するなど意欲的に努力しましたか？

| 解答 | パーセント解答 |
|---|---|
| 1. 全てできた | 30.435% |
| 2. まあまあできた | 60.87% |
| 3. どちらともいえない | 8.696% |
| 4. ややできていない | 0% |
| 5. 全くできていない | 0% |
| *未解答* | 0% |

問題4　複数解答

授業で何を向上できたと思いますか？ (複数選択可)

（出典　授業改善のためのアンケート結果　抜粋）

資料９－２－②－６

| 科目名 | 沖縄高専セミナー | 英文表記 | ONCT　Seminar |
|---|---|---|---|

**教員名：** 機械【山城，眞喜志，比嘉，鳥羽】，情報【鈴木，野崎】，生物【平良，工藤，三枝，濱田】
メディア【角田，姉崎，タンスリヤボン，バイティガ，小早川】
**技術支援：**中尾，比嘉修，釣

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業方法 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 全学科 | １年 | 必修 | 履修 | ４単位 | 講義 | 通年 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| **目　標** | 1.全学科の概要を理解する事により，専門の異なる人の考え方を理解する。<br>2.各専門学科に関連する身近な商品（工業製品）の考え方を学び，技術に対する幅広い興味と視点を醸成し，今後学習する授業科目の意義と位置づけを理解する。<br>3.企業見学などを通じて産業社会を理解する。<br>4.PBL 授業を通じて自己学習力，発表能力を身につける。 | | |
| **高専目標** | ②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧ | **JABEE プログラム名称** | |
| | | **JABEE プログラム教育目標** | |
| **授業概要、方針、履修上の注意** | 各専門学科で学ぶ授業科目の構成と概要を理解する。<br>各専門学科に関連する身近な商品を分解（一部は組立）または解析しながら，その構造と構成技術を理解する。<br>各自が興味を感じた技術を調査し，その結果を発表する。<br>異分野を含めた沖縄県の企業を調査・見学し，社会構造と産業の実態を理解し，幅広い視野を育成する。　（＊各学級同時開講方式） | | |
| **評価方法** | ミニ概論レポート：５％、企業見学レポート：１０％、講演会レポート：５％、各学科固有技術に関するレポート・発表：８０％。（試験は実施しない。） | | |
| **教科書・教材** | 各学科にて作成のテキスト、電子ファイル | | |
| **参考図書** | サイクル・サイエンス（小島千明著，コロナ社），これでわかる自転車技術（特許庁編，出版社：発明協会），デジカメ解体新書（東陽一著，CQ 出版社），インターネット（出版社：岩波書店　岩波新書） | | |
| **関連科目（学年）** | 情報技術の基礎（本科１年）<br>（第 5 週までには Word，インターネットの初歩，9 週までに Power　Point を完了していること） | | |

**授　業　計　画**

| 授　業　項　目 | 時間 | 授　業　内　容 |
|---|---|---|
| ミニ概論 | 4 | 高専セミナーのガイダンスと学科見学 |
| 専門学科のミニ概論 | 8 | 学生が所属する学科及び他学科での，技術の基本的考え方と技術常識を習得し，異分野を理解する。　（2時間／学科） |
| 自転車の技術<br>（機械システム工学科） | 24 | ・授業の狙い説明，自転車の歴史と文化，自転車の分解・組立<br>・自転車の構造と材料，製造法<br>・自転車の運動力学と駆動<br>・自転車の効率，電動アシスト自転車<br>・調査結果の中間発表・指導，最終発表・講評 |
| デジタルカメラの技術<br>（情報通信システム工学科） | 24 | ・授業の狙い，従来カメラと情報機器としてのデジタルカメラの説明<br>・デジタルカメラの構造と構成1（入力，出力部）の講義、デジカメ実習<br>・構成2（CPU,LSI,画像処理部）の講義、技術調査、デジカメ実習<br>・構成3（周辺装置）の講義，新商品の仕様書作成，デジカメ実習<br>・発表準備，発表会，講評 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| **第１回企業調査，見学** | 8 | 授業内容に関連する企業の事前調査と見学を行い，レポートを提出。 | |
| **情報を伝える技術**<br>**（メディア情報工学科）** | 24 | ・授業の狙いの説明<br>・コンテンツ制作、コンピュータの構成、インターネットの仕組みなど情報を伝えるための最新技術を理解する。<br>・レポート作成 | |
| 第２回企業調査，見学<br>レポート作成 | 4 | 授業内容に関連する企業の事前調査と見学を行い，レポートを提出。<br>また，これまでの授業で興味有る技術と企業調査・見学結果を総合レポートとしてまとめ，提出する。 | |
| **無菌包装食品の技術**<br>**（生物資源工学科）** | 24 | ・授業の狙いの説明<br>・無菌包装された食品（缶詰、瓶詰、PET、紙容器、レトルト包装など）を対象として、グループ別に食品名または容器名で調査課題を設定する。文献調査の方法を学び、設定課題について製造から衛生管理等まで多面的に調査を行う。<br>・中間発表を行い、再調査課題を設定する。<br>・グループ毎に最終発表を実施する。 | |
| **学習時間合計** | 120 | **実時間** | 100 |
| **学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など）** | | | |

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。（５０分＝１、１００分＝２）
通年は２ページ、半期は１ページ以内におさめる。

| 科目名 | 沖縄高専セミナー | 英文表記 | ONCT　Seminar | H21 年 3 月 23 日 作　成 |
|---|---|---|---|---|
| 教員名：機械【山城，眞喜志，比嘉，鳥羽】,情報【比嘉，兼城】，メディア【姉崎，伊波，西村，正木，角田，タンスリヤボン】，生物【伊東，三宮、磯村、池松、平山、平良（淳）】<br>技術指導：比嘉信，釣 | | | | |

| 対象学科 | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業形態 | 授業期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 全学科 | １年 | 必修 | 履修 | ４単位 | 講義 | 通年 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 目　標 | 1.全学科の概要を理解する事により，専門の異なる人の考え方を理解する。<br>2.各専門学科に関連する身近な商品（工業製品）の考え方を学び，技術に対する幅広い興味と視点を醸成し，今後学習する授業科目の意義と位置づけを理解する。<br>3.企業見学などを通じて産業社会を理解する。<br>4.PBL 授業を通じて自己学習力，発表能力を身につける。 | | |
| 高専目標 | ②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧ | JABEE プログラム名称 | |
| | | JABEE プログラム教育目標 | |
| 授業概要、方針、履修上の注意 | 各専門学科で学ぶ授業科目の構成と概要を理解する。<br>各専門学科に関連する身近な商品を分解（一部は組立）または解析しながら，その構造と構成技術を理解する。<br>各自が興味を感じた技術を調査し，その結果を発表する。<br>異分野を含めた沖縄県の企業を調査・見学し，社会構造と産業の実態を理解し，幅広い視野を育成する。　（＊各学級及び各学科同時開講方式） | | |
| 評価方法 | ミニ概論レポート：５%、企業見学レポート：１０%、各学科固有技術に関するレポート・発表：８５%（前期４０%、後期４５%）。（試験は実施しない。） | | |
| 教科書・教材 | 各学科にて作成のテキスト、電子ファイル | | |
| 参考図書 | サイクル・サイエンス（小島千明著，コロナ社），これでわかる自転車技術（特許庁編，出版社：発明協会），デジカメ解体新書（東陽一著，CQ 出版社），インターネット（出版社：岩波書店　岩波新書） | | |
| 関連科目（学年） | 情報技術の基礎（本科１年） | | |

**授　業　計　画**

| 授　業　項　目 | 時間 | 授　業　内　容 |
|---|---|---|
| 【前期】混合クラス<br>ミニ概論 | 4 | 高専セミナーおよび各学科のガイダンスと学科見学 |
| 自転車の技術<br>（機械システム工学科） | 12 | ・授業の狙い説明，自転車の分解・組立<br>・自転車の構造と構成部品<br>・電動アシスト自転車<br>・調査結果の発表・講評 |
| デジタルカメラの技術<br>（情報通信システム工学科） | 12 | ・授業の狙い，従来カメラと情報機器としてのデジタルカメラの説明<br>・デジタルカメラの構造と構成1（入力，出力部）の講義、デジカメ実習<br>・構成2（CPU,LSI,画像処理部）の講義、技術調査、デジカメ実習<br>・構成3（周辺装置）の講義，新商品の仕様書作成，デジカメ実習<br>・発表準備，発表会，講評 |
| 第１回企業調査，見学 | 4 | 授業内容に関連する企業の事前調査と見学を行い，レポートを提出。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| **情報を伝える技術**<br>**（メディア情報工学科）** | 12 | ・授業の狙いの説明<br>・コンテンツ制作、コンピュータの構成、プログラミング技術など情報を伝えるための最新技術を理解する。<br>・レポート作成 | |
| **食品製造の技術**<br>**（生物資源工学科）** | 12 | ・授業の狙いの説明<br>・オリオンビール名護工場の見学<br>・食品製造を対象として、グループ別に製造手法、製造機械等興味をもった項目を調査課題として設定する。文献調査の方法を学び、設定課題について多面的に調査を行う。<br>・グループ毎に最終発表を実施する。 | |
| 第２回企業調査，見学<br>レポート作成 | 4 | 授業内容に関連する企業の事前調査と見学を行い，レポート提出。<br>また，これまでの授業で興味有る技術と企業調査・見学結果を総合レポートとしてまとめ，提出する。 | |
| 【後期】学科別クラス<br><br>（機械システム工学科）<br>材料力学の基礎<br>施設見学 | 60 | ・質点系の力学に関する授業および演習<br>・剛体の力学に関する授業および演習<br>・力学に関する実験<br>・機械工学関連の施設見学 | |
| （情報通信システム工学科）<br>電気・電子回路の基礎 | | ・電気数学の基礎の講義と演習<br>・電気・電子回路の構成と測定法の演習<br>・回路シミュレーターによる電気・電子回路の動作検証の演習 | |
| （メディア情報工学科）<br>プログラミングの基礎<br>IT 技術者資格 | | ・プログラミングに関する授業および演習<br>・基本情報技術者試験の概要説明と演習 | |
| （生物資源工学科）<br>化学の基礎<br>生物の基礎 | | ・溶液の化学に関する授業および演習<br>・身近な化学に関する授業および演習<br>・環境と動物の反応に関する授業および演習<br>・遺伝情報とその発現に関する授業および演習 | |
| **学習時間合計** | **120** | **実時間** | **100** |

**学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など）**

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

FD委員会が中心として実施されているファカルティ・ディベロップメントの活動が有効に機能し，実際に教育改善に結びつけることができている。

以上のことから，ファカルティ・ディベロップメントが教育の質や向上，授業改善に寄与している。

### （２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

教育活動の実態を示すデータや資料は適切に保管されている。教育の質及び改善を目的とした学生による授業改善アンケートを実施し，それを元に各教員が自己点検・評価として授業実施報告書を作成，授業内容の改善を行っている。インターンシップ先担当者，卒業生，就職先担当者，進学先担当者，保護者，外部評価による参与の会委員からの意見は，報告書を作成することによって自己点検・評価に適切な形で反映されている。FD委員会，自己点検・評価委員会，教務委員会が中心となって教育の質の向上，改善を行うシステムが整備されている。FD委員会が中心となって，教員の資質向上の取り組みが継続的になされている。

（改善を要する点）

該当なし

### （３）基準９の自己評価の概要

FD委員会，自己点検・評価委員会，教務委員会が中心となって教育の質の向上，改善を行うシステムが整備されており，教務委員会において教育課程の見直しが行われている。

教育活動の実態を示すデータや資料は適切に保管され，それを評価するために教務委員会，自己点検・評価委員会，FD委員会が活動している。また，自己点検・評価委員会では自己評価書を作成し社会に広く公表するとともに，これを元にした外部評価である参与の会を開催している。

教育の質及び改善を目的として学生による授業改善アンケートを実施し，それを元に各教員が自己点検・評価として授業実施報告書を作成し，これにしたがい実際に授業内容の改善を行っている。また，担任制度，学生委員会，学生相談室など意見聴取の仕組みが機能している。

学外関係者からの意見聴取は上述の参与の会以外に，インターンシップ先担当者，卒業生，就職先担当者，進学先担当者，保護者から意見聴取が行われている。

教員の研究活動が教育内容の改善や，卒業研究，特別研究につながっている例がある。

FD委員会が中心となって，教員の資質向上の取り組みが継続的になされ，実施されているファカルティ・ディベロップメントの活動が有効に機能し，実際に教育改善に結びつけることができている。また，学内外で行われる研修会や講演会の参加を通してファカルティ・ディベロップメントが実施されている。

## 基準10　財務

### （１）観点ごとの分析

**観点10－１－①：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また，債務が過大ではないか。**

（観点に係る状況）

本校の資産は，平成16年４月の法人化の際に国から出資・承継された土地及び建物・構築物等(資料10－１－①－１)であり，教育研究活動を将来に渡って適切かつ安定して遂行するため，高等専門学校設置基準に基づいて整備されている。資産状況は貸借対照表(資料10－１－①－２)の通りである。

資料10－１－①－１

現物出資財産受渡証書

受渡　　平成１６年４月１日

渡　　文部科学省所管国有財産部局長
　　沖縄工業高等専門学校長　　糸　村　昌　祐

受　　独立行政法人国立高等専門学校機構
　　理　事　長　　内　藤　喜　之

次のとおり、国有財産の受渡しを了した。

| 所在地 | 区分 | 数量 | 台帳価格 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 沖縄県名護市<br>字辺野古905番地　外 | 土地 | 21,851.49㎡ | 308,871,380円 | 内訳は別表のとおり |
| | 立木竹（樹木） | 302本 | 142,500,750円 | |
| | （立木） | ㎥ | 円 | |
| | （竹） | 束 | 円 | |
| | 建物 | 建 10,483.01㎡<br>延 22,245.48㎡ | 4,785,928,440円 | |
| | 工作物 | 一式 | 2,880,565,784円 | |
| | 船舶（汽船） | 隻 | 円 | |
| | （雑船） | 隻 | 円 | |
| | 航空機 | 機 | 円 | |
| | 地上権等（地上権） | ㎡ | 円 | |
| | （地役権） | ㎡ | 円 | |
| | （鉱業権） | ㎡ | 円 | |
| | 計 | | 8,117,866,354円 | |

(出典　総務課資料)

資料 10－１－①－２

平成16年度貸借対照表(抜粋)

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| [資産の部] | | | | | |
| 固定資産 | | | | | |
| 有形固定資産 | | | | | |
| 建物 | | | | | |
| | 建物 | 6,943,547,400 | | | |
| | 建物附属設備 | 2,188,550,448 | 9,132,097,848 | | |
| | 建物減価償却累計額 | | −260,125,593 | 8,871,972,255 | |
| 構築物 | | | 1,700,830,452 | | |
| | 構築物減価償却累計 | | −89,389,588 | 1,611,440,864 | |
| 車両運搬具 | | | 19,336,639 | | |
| | 車両運搬具減価償却累計額 | | −3,514,649 | 15,821,990 | |
| 工具器具備品 | | | 1,018,099,837 | | |
| | 工具器具備品減価償却累計額 | | −84,588,493 | 933,511,344 | |
| 土地 | | | | 880,285,000 | |
| | | 有形固定資産合計 | | | 12,313,031,453 |
| [負債の部] | | | | | |
| 流動負債 | | | | | |
| 預り寄附金 | | | | 7,121,773 | |
| 未払金 | | | | 678,676 | |
| 未払費用 | | | | | |
| | 給与 | | 1,681,936 | | |
| | 法定福利費 | | 454,810 | | |
| | 賃借料 | | 1,492,785 | | |
| | 水道光熱費 | | 1,636,601 | | |
| | その他未払費用 | | 1,464,286 | 6,730,418 | |
| 預り金 | | | | | |
| | その他預り金 | | 724,417 | 724,417 | |
| | | 流動負債合計 | | | 15,255,284 |
| 固定負債 | | | | | |
| 資産見返運営費交付金等 | | | | | |
| | 資産見返運営費交付 | 602,826,709 | 602,826,709 | | |
| 資産見返寄附金 | | | 3,504,301 | | |
| 資産見返物品受贈額 | | | 457,165,639 | | |
| | | 固定負債合計 | | | 1,063,496,649 |
| | | [負債の部]合計 | | | 1,078,751,933 |

平成17年度貸借対照表（抜粋）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ［資産の部］ | | | | | |
| 固定資産 | | | | | |
| 有形固定資産 | | | | | |
| 建物 | | | | | |
| | 建物 | 6,983,775,000 | | | |
| | 建物附属設備 | 2,230,611,348 | 9,214,386,348 | | |
| | 建物減価償却累計額 | | −571,806,514 | 8,642,579,834 | |
| 構築物 | | | 1,742,783,832 | | |
| | 構築物減価償却累計額 | | −186,177,782 | 1,556,606,050 | |
| 車両運搬具 | | | 19,336,639 | | |
| | 車両運搬具減価償却累計額 | | −7,029,298 | 12,307,341 | |
| 工具器具備品 | | | 1,414,653,241 | | |
| | 工具器具備品減価償却累計額 | | −270,999,481 | 1,143,653,760 | |
| 土地 | | | | 880,285,000 | |
| | | 有形固定資産合計 | | | 12,235,431,985 |
| ［負債の部］ | | | | | |
| 流動負債 | | | | | |
| 預り寄附金 | | | | 7,737,217 | |
| 未払金 | | | | 95,740,762 | |
| 未払費用 | | | | | |
| | 給与 | | 3,323,580 | | |
| | 法定福利費 | | 304,299 | | |
| | 賃借料 | | 1,607,523 | | |
| | 水道光熱費 | | 2,967,724 | | |
| | その他未払費用 | | 4,340,446 | 12,543,572 | |
| 預り金 | | | | | |
| 社会保険料 | | | 88,931 | | |
| 源泉所得税等 | | | 83,480 | | |
| その他預り金 | | | 4,184,923 | 4,357,334 | |
| | | 流動負債合計 | | | 120,378,885 |
| 固定負債 | | | | | |
| 資産見返負債 | | | | | |
| 資産見返運営費交付金等 | | | | | |
| | 資産見返運営費交付金 | 874,776,479 | 874,776,479 | | |
| 資産見返寄附金 | | | 2,918,792 | | |
| 資産見返物品受贈額 | | | 317,757,868 | 1,195,453,139 | |
| | | 固定負債合計 | | | 1,195,453,139 |
| | | ［負債の部］合計 | | | 1,315,832,024 |

H18貸借対照表(抜粋)

| 勘定科目表示名称 | | | 明細金額 | 金額 | 合計金額金額 |
|---|---|---|---|---|---|
| [資産の部] | | | | | |
| 有形固定資産 | | | | | |
| 建物 | | | | | |
| | 建物 | 6,983,775,000 | | | |
| | 建物附属設備 | 2,230,611,348 | 9,214,386,348 | | |
| | 建物減価償却累計額 | | -883,256,187 | 8,331,130,161 | |
| 構築物 | | | 1,747,901,532 | | |
| | 構築物減価償却累計額 | | -282,845,669 | 1,465,055,863 | |
| 車両運搬具 | | | 19,336,639 | | |
| | 車両運搬具減価償却累計額 | | -10,543,947 | 8,792,692 | |
| 工具器具備品 | | | 1,719,647,972 | | |
| | 工具器具備品減価償却累計額 | | -532,016,855 | 1,187,631,117 | |
| 土地 | | | | 1,119,299,000 | |
| | | 有形固定資産合計 | | | 12,111,908,833 |
| [負債の部] | | | | | |
| 流動負債 | | | | | |
| 運営費交付金債務 | | | | 3,457,876 | |
| 預り寄附金 | | | | 9,148,075 | |
| 前受受託研究費等 | | | | 1,200,000 | |
| 未払金 | | | | 44,673,845 | |
| 未払費用 | | | | | |
| | 給与 | | 3,040,135 | | |
| | 法定福利費 | | 436,200 | | |
| | 賃借料 | | 1,485,960 | | |
| | 水道光熱費 | | 4,175,725 | | |
| | その他未払費用 | | 3,843,922 | 12,981,942 | |
| 預り金 | | | | | |
| | 社会保険料 | | 142,169 | | |
| | 源泉所得税等 | | 13,792 | | |
| | その他預り金 | | 20,930,342 | 21,086,303 | |
| | | 流動負債合計 | | | 92,548,041 |
| 固定負債 | | | | | |
| 資産見返負債 | | | | | |
| 資産見返運営費交付金等 | | | | | |
| | 資産見返運営費交付金 | 984,702,579 | 984,702,579 | | |
| 資産見返寄附金 | | | 4,781,883 | | |
| 資産見返物品受贈額 | | | 248,800,900 | | |
| | | 固定負債合計 | | | 1,238,285,362 |
| | | [負債の部]合計 | | | 1,330,833,403 |

平成19年度貸借対照表（抜粋）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| [資産の部] | | | | | |
| 固定資産 | | | | | |
| 有形固定資産 | | | | | |
| 建物 | | | | | |
| | 建物 | 7,010,055,603 | | | |
| | 建物附属設備 | 2,319,616,994 | 9,329,672,597 | | |
| | 建物減価償却累計額 | | −1,196,611,682 | 8,133,060,915 | |
| 構築物 | | | 1,747,901,532 | | |
| | 構築物減価償却累計額 | | −379,627,672 | 1,368,273,860 | |
| 車両運搬具 | | | 19,336,639 | | |
| 車両運搬具減価償却累計額 | | | −14,058,596 | 5,278,043 | |
| 工具器具備品 | | | 2,052,158,248 | | |
| 工具器具備品減価償却累計額 | | | −848,530,341 | 1,203,627,907 | |
| 土地 | | | | 1,358,313,000 | |
| | | 有形固定資産合計 | | | 12,068,553,725 |
| [負債の部] | | | | | |
| 流動負債 | | | | | |
| 預り寄附金 | | | | 14,184,066 | |
| 前受受託研究費等 | | | | 3,640,000 | |
| 未払金 | | | | 375,900,761 | |
| 未払費用 | | | | | |
| | 給与 | | 3,252,048 | | |
| | 賃借料 | | 1,132,635 | | |
| | 水道光熱費 | | 4,894,036 | | |
| | その他未払費用 | | 2,188,216 | 11,466,935 | |
| 預り金 | | | | | |
| | 源泉所得税 | | 23,644 | | |
| | その他預り金 | | 28,374,534 | 28,398,178 | |
| | | 流動負債合計 | | | 433,589,940 |
| 固定負債 | | | | | |
| 資産見返負債 | | | | | |
| 資産見返運営費交付金等 | | | | | |
| | 資産見返運営費交付金 | 1,162,132,899 | | | |
| | 資産見返授業料 | 4,899,163 | 1,167,032,062 | | |
| 資産見返寄附金 | | | 12,009,357 | | |
| 資産見返物品受贈額 | | | 181,625,507 | | |
| | | 固定負債合計 | | | 1,360,666,926 |
| | | [負債の部]合計 | | | 1,794,256,866 |

平成20年度貸借対照表（抜粋）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| [資産の部] | | | | | |
| 固定資産 | | | | | |
| 有形固定資産 | | | | | |
| 建物 | | | | | |
| | 建物 | 7,012,252,887 | | | |
| | 建物附属設備 | 2,321,268,524 | 9,333,521,411 | | |
| | 建物減価償却累計額 | | −1,514,845,515 | 7,818,675,896 | |
| 構築物 | | | 1,750,100,582 | | |
| | 構築物減価償却累計額 | | −476,340,230 | 1,273,760,352 | |
| 車両運搬具 | | | 19,336,639 | | |
| | 車両運搬具減価償却累計額 | | −17,188,956 | 2,147,683 | |
| 工具器具備品 | | | 2,237,316,770 | | |
| | 工具器具備品減価償却累計額 | | −1,219,289,671 | 1,018,027,099 | |
| 土地 | | | | 1,597,327,000 | |
| | | 有形固定資産合計 | | | 11,709,938,030 |
| [負債の部] | | | | | |
| 流動負債 | | | | | |
| 預り寄附金 | | | | 17,580,780 | |
| 未払金 | | | | 145,669,404 | |
| 未払費用 | | | | | |
| 給与 | | | 3,728,270 | | |
| | 法定福利費 | | 121,582 | | |
| | 賃借料 | | 1,497,195 | | |
| | 水道光熱費 | | 5,212,532 | | |
| | その他未払費用 | | 7,715,900 | 18,275,479 | |
| 預り金 | | | | | |
| | 源泉所得税 | | 9,936 | | |
| | 職員宿舎貸付料 | | 16,094 | | |
| | その他預り金 | | 25,405,838 | 25,431,868 | |
| | | 流動負債合計 | | | 206,957,531 |
| 固定負債 | | | | | |
| 資産見返負債 | | | | | |
| 資産見返運営費交付金等 | | | | | |
| | 資産見返運営費交付金 | 1,030,703,835 | | | |
| | 資産見返授業料 | 10,571,900 | 1,041,275,735 | | |
| 資産見返寄附金 | | | 8,620,121 | | |
| 資産見返物品受贈額 | | | 118,353,589 | | |
| | | 固定負債合計 | | | 1,168,249,445 |
| | | [負債の部]合計 | | | 1,375,206,976 |

(出典　総務課資料)

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育研究活動を安定して遂行できる土地，建物及び工具器具備品等の資産を有しその増減及び異動の管理を適切に行っている。

また，財務諸表により財政状況及び運営状況を明らかにしているとおり長期借入金等の過大な債務はなく健全な運営を行っている。

**観点10－１－②：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための，経常的収入が継続的に確保されているか。**

（観点に係る状況）

高専機構から配分される運営費交付金及び授業料収入等を教育研究活動の基本財源とし，これらに寄付金，共同研究，受託研究，科学研究費補助金などの外部資金の獲得により収入を確保している（資料10－１－②－１，資料10－１－②－２，資料10－１－②－３）。

資料10－１－②－１

収入の状況（5年間）

単位:円

| 区　分 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 運営費交付金 | 1,444,339,000 | 1,444,098,161 | 1,209,874,645 | 1,580,147,206 | 1,178,632,023 |
| 施設整備費補助金 | 11,550,000 | 21,851,550 | 239,014,000 | 239,014,000 | 239,014,000 |
| 自己収入 | 67,673,058 | 104,023,715 | 137,491,574 | 172,442,990 | 206,091,349 |
| （授業料） | 36,005,000 | 72,647,800 | 107,153,550 | 141,483,350 | 173,193,450 |
| （入学料） | 14,466,600 | 14,043,600 | 13,959,000 | 14,128,200 | 13,874,400 |
| （検定料） | 7,689,000 | 5,379,000 | 4,422,000 | 3,663,000 | 4,867,500 |
| （講習料） | 0 | 0 | 0 | 0 | 58,800 |
| （雑収入） | 9,512,458 | 11,953,315 | 11,957,024 | 13,168,440 | 14,097,199 |
| 合　計 | 1,523,562,058 | 1,569,973,426 | 1,586,380,219 | 1,991,604,196 | 1,623,737,372 |

（出典　総務課資料）

資料 10－１－②－２

## 科学研究費採択状況

| 年度 | 申請・交付状況 | 合計 | (A) | (B) | | (C) | 萌芽 | (A) | (B) | スタートアップ | 新学術領域 | 特定領域 | 特別研究促進費 | 奨励 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 一般 | 一般 | 海外学術調査 | 一般 | | | | | | | | |
| H15 | 申請 | 3 | | 1 | | 1 | 1 | | 0 | | | | | |
| | 内定 | 2 | | 1 | | 1 | 0 | | 0 | | | | | |
| | 決定 | 3(1) | | 1 | | 1 | 0 | | 1(1) | | | | | |
| | 交付金額（千円） | 8,100 | | 4,400 | | 3,000 | | | 700 | | | | | |
| H16 | 申請 | 10(3) | | 1(1) | | 7(2) | | | 1 | | | 1 | | |
| | 内定 | 5(3) | | 1(1) | | 4(2) | | | 0 | | | 0 | | |
| | 決定 | 5(3) | | 1(1) | | 4(2) | | | 0 | | | 0 | | |
| | 交付金額（千円） | 12,200 | | 6,800 | | 5,400 | | | | | | | | |
| H17 | 申請 | 24(3) | | 3(1) | | 11(2) | 1 | | 5 | | | 1 | | 3 |
| | 内定 | 5(3) | | 1(1) | | 3(2) | 0 | | 0 | | | 0 | | 1 |
| | 決定 | 7(5) | | 1(1) | | 3(2) | 0 | | 2(2) | | | 0 | | 1 |
| | 交付金額（千円） | 9,250 | | 2,500 | | 4,000 | | | 2,000 | | | | | 750 |
| H18 | 申請 | 39(1) | | 3 | | 17(1) | 2 | | 10 | | | | | 7 |
| | 内定 | 8(1) | | 0 | | 3(1) | 0 | | 4 | | | | | 1 |
| | 決定 | 9(1) | | 0 | | 4(1) | 0 | | 4 | | | | | 1 |
| | 交付金額（千円） | 14,060 | | | | 6,900 | | | 6,400 | | | | | 760 |
| H19 | 申請 | 59(7) | | 2 | | 19(3) | 11 | 1 | 11(4) | 2 | | | 1 | 12 |
| | 内定 | 16(7) | | 0 | | 6(3) | 0 | 0 | 5(4) | 0 | | | 0 | 5 |
| | 決定 | 17(7) | | 0 | | 6(3) | 0 | 0 | 6(4) | 0 | | | 0 | 5 |
| | 交付金額（千円） | 18,960 | | | | 9,490 | | | 5,700 | | | | | 3,770 |
| H20 | 申請 | 66(7) | | 4 | | 25(3) | 7 | | 16(4) | 3 | | | | 11 |
| | 内定 | 12(7) | | 0 | | 4(3) | 0 | | 7(4) | 0 | | | | 1 |
| | 決定 | 11(7) | | 0 | | 4(3) | 0 | | 6(4) | 0 | | | | 1 |
| | 交付金額（千円） | 13,830 | | | | 4,290 | | | 8,970 | | | | | 570 |
| H21 | 申請 | 69(5) | | | 1 | 34(3) | 5 | | 16(2) | 1 | | | | 12 |
| | 内定 | 13(5) | | | 0 | 6(3) | 0 | | 3(2) | 0 | | | | 4 |
| | 決定 | 10(3) | | | 0 | 5(2) | 0 | | 2(1) | 0 | | | | 3 |
| | 交付金額（千円） | 9,990 | | | | 5,980 | | | 2,470 | | | | | 1,540 |
| H22 | 申請 | 59(5) | | 2 | | 27(5) | 7 | | 15 | | | | | 8 |
| | 内定 | 11(5) | | 0 | | 6(5) | 0 | | 2 | | | | | 3 |
| | 決定 | | | | | | | | | | | | | |
| | 交付金額（千円） | 11,580 | | | | 6,370 | | | 3,510 | | | | | 1,700 |

※()内数字は、継続分で内数。
※分担金は除く。
※交付決定前に他機関へ転出した研究者の決定件数・交付金額は除く。
※交付決定前に本校へ転入した研究者の申請件数・内定件数は除く。

（出典　総務課資料）

資料 10－１－②－３

外部資金受入状況

| | 平成16年度 | | 平成17年度 | | 平成18年度 | | 平成19年度 | | 平成20年度 | | 平成21年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 件数 | 金 額 | 件数 | 金 額 | 件数 | 金 額 | 件数 | 金 額 | 件数 | 金 額 | 件数 | 金 額 |
| 共同研究 | 1 | 1,000,000 | 3 | 1,300,000 | 8 | 8,715,600 | 12 | 11,075,250 | 16 | 13,375,352 | 12 | 4,925,000 |
| 受託研究 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 2,027,000 | 4 | 2,990,000 | 8 | 10,458,318 | 11 | 18,900,763 |
| 寄附金 | 1 | 1,000,000 | 4 | 2,413,210 | 13 | 3,331,400 | 12 | 7,974,717 | 18 | 6,972,707 | 16 | 9,820,000 |
| 受託事業 | 0 | 0 | 1 | 15,159 | 1 | 17,621 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2,979,000 |
| 合計 | 2 | 2,000,000 | 8 | 3,728,369 | 27 | 14,091,621 | 28 | 22,039,967 | 42 | 30,806,377 | 40 | 36,624,763 |

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

運営費交付金は，事業年度毎に国立高等専門学校機構から配分されている。学生定員は充足し，授業料・入学料・検定料の自己収入も確保されており，教育研究活動を安定的に行うための経常的収入が継続的に確保されている。また，文部科学省をはじめ日本学術振興会，その他の機関が行っている各種公募型競争的資金などに応募するなど外部資金獲得へ積極的に取り組んでいる。また，学内組織の地域共同テクノセンターと地域企業を主な会員とする産学連携協力会の共催による施設見学会や沖縄高専フォーラム等を開催し，研究シーズの紹介を通して技術相談などを行い，地域産業界との連携を促進し，外部資金の獲得に役立たせている。

**観点10－２－①：　学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示されているか。**

（観点に係る状況）

本校の事業年度の収支計画については,平成16～19年度は校長と事務部財務担当者で原案を作成し，運営企画会議での審議・了承を経て教員会議で報告されていた。

平成19年度に予算配分委員会規則（資料10－２－①－１）が制定され，平成20年度から予算配分委員会で審議し（資料10－２－①－２），校長へ答申，運営企画会議での審議・了承を経て教員会議で報告されている（現地閲覧資料参照）。

資料10－２－①－１

**沖縄工業高等専門学校予算配分委員会規則**

平成２０年３月２５日
規　則　第　２　号

（設置）
第１条　沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校の予算配分に関する事項を審議するため、沖縄工業高等専門学校予算配分委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）
第２条　委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。
(1) 予算配分の基本方針に関すること
(2) 各年度の予算配分（案）の作成に関すること
(3) その他予算に関すること

（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。
(1) 総務主事
(2) 各学科（総合科学科を含む。）所属教員　各１名
(3) 事務部長
(4) 総務課長
(5) 総務課課長補佐（財務担当）
(6) その他校長が必要と認めた者
２　前項第２号及び第６号に規定する委員の任期は２年とし、再任を妨げない。
３　前項の委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き、総務主事をもって充てる。
２　委員長は、委員会を召集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

（委員以外の者の出席）
第５条　委員長は、必要があると認めた場合は委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を求めることができる。

（専門部会）
第６条　委員会は、必要に応じて専門部会を置くことができる。
２　専門部会に関し必要な事項は、別に定める。

（報告）
第７条　委員長は、委員会での審議結果を校長に報告するものとする。

（事務）
第８条　委員会に関する事務は、総務課において処理する。

（雑則）
第９条　この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

－ 1 －

（出典　予算配分委員会規則）

資料 10－２－①－２

平成 20 年度予算配分委員会開催状況

| 開催日 | 議　　題 |
|---|---|
| 20.５.16 | （１）平成 20 年度予算配分について<br>（２）その他<br>①平成 20 年度コピー機・印刷機・プリンターの保守及び消耗品について |
| 20.５.30 | （１）前回議事要旨の確認<br>（２）平成 20 年度予算配分について<br>（３）その他<br>①平成 20 年度コピー機・印刷機・プリンターの保守及び消耗品について |

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

予算配分委員会において各学科及び各委員会等の事業計画に関する要求と，前年度の決算及び運営費交付金や自己収入を関連づけて審議し，策定することで適正な収支計画を立案している。予算案は，運営企画会議及び教員会議に報告することによって関係者に明示している。

**観点10－２－②：　収支の状況において，過大な支出超過となっていないか。**

（観点に係る状況）

予算に基づく計画的な執行を行っており(資料 10－２－②－１)，財務会計システムにより常に予算を把握しながら執行を行っている。また，各教員もシステム上で教育研究費等の使用状況，残高が確認できることから過大な支出は発生せず，適切な予算計画と経費支出に努めており支出超過は生じていない。

資料 10－２－②－１

平成16～20年度 決算

| 区　　分 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 収 入 | | | | | |
| 運営費交付金 | 1,444,339,000 | 1,444,098,161 | 1,209,874,645 | 1,580,147,206 | 1,178,632,023 |
| 施設整備費補助金 | 11,550,000 | 21,851,550 | 239,014,000 | 239,014,000 | 239,014,000 |
| 国立大学財務・経営センター施設費交付事業費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 自己収入 | 67,673,058 | 104,023,715 | 137,491,574 | 172,442,990 | 206,091,349 |
| 授業料収入 | 36,005,000 | 72,647,800 | 107,153,550 | 141,483,350 | 173,193,450 |
| 入学金収入 | 14,466,600 | 14,043,600 | 13,959,000 | 14,128,200 | 13,874,400 |
| 検定料収入 | 7,689,000 | 5,379,000 | 4,422,000 | 3,663,000 | 4,867,500 |
| 雑収入 | 9,512,458 | 11,953,315 | 11,957,024 | 13,168,440 | 14,155,999 |
| 産学連携等研究収入 | 1,000,000 | 16,459,295 | 28,364,022 | 16,008,299 | 27,149,365 |
| 寄附金収入 | 1,300,118 | 2,413,247 | 3,331,400 | 7,974,717 | 6,972,707 |
| その他補助金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 目的積立金取崩 | 0 | | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 1,525,862,176 | 1,588,845,968 | 1,618,075,641 | 2,015,587,212 | 1,657,859,444 |
| 支 出 | | | | | |
| 業務費 | 1,511,617,220 | 1,548,121,867 | 1,343,947,870 | 1,750,813,640 | 1,384,139,120 |
| 教育研究経費(教育研究支援経費を | 1,341,668,510 | 1,411,697,474 | 1,218,265,517 | 1,634,983,427 | 1,278,131,234 |
| 一般管理費 | 169,948,710 | 136,424,393 | 125,682,353 | 115,830,213 | 106,007,886 |
| 施設整備費 | 11,550,000 | 21,851,550 | 239,014,000 | 239,014,000 | 239,014,000 |
| 長期借入金償還金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 産学連携等研究経費 | 1,000,000 | 16,459,295 | 28,364,022 | 16,008,299 | 27,149,365 |
| 寄附金事業費 | 0 | 1,795,947 | 1,920,542 | 2,938,726 | 3,575,993 |
| その他補助金 | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 1,524,167,220 | 1,588,228,659 | 1,613,246,434 | 2,008,774,665 | 1,653,878,478 |

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

財務会計システムにより常に予算を把握しながら執行を行っているため収支の状況において，過大な支出超過となっていない。

**観点10－２－③：　学校の目的を達成するため，教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し，適切な資源配分がなされているか。**

（観点に係る状況）

学内の予算配分では，限られた資源を効率的に配分するため，教育研究費を確保するとともに各学科及び教育研究施設等へ毎事業年度の状況に応じて重点配分している(現地閲覧資料参照)。

また，実験実習等に要する設備の整備費として平成 15 年度から 20 年度にかけ，国から予算措置がされておりこれらの配分については，各学科等からの整備計画を踏まえて校長が精査のうえ配分を決定し大型設備等の充実に充てている（現地閲覧資料参照）。

教育研究活動に関する予算配分については，平成 20 年度予算配分方針（現地閲覧資料参照）に示す。

（分析結果とその根拠理由）

学内の予算配分では，教育研究活動に重点的に配分し，その質の向上と充実した教育環境の整備を行っている。また毎事業年度の状況に応じて重点配分しており適切な資源配分がなされている。

**観点10－３－①：　学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。**

（観点に係る状況）

高専機構全体の財務諸表が，独立行政法人国立高等専門学校機構のウェブサイト（http://www.kosen-k.go.jp/information.html）で公表されている（資料 10－３－①－１）。

資料10－３－①－１




（出典　独立行政法人国立高等専門学校機構のウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

財務諸表は，高専機構のウェブサイト上で公表されている。多くのステークホルダーや一般に公表するメデイアとしてもっとも有効な手段で適切に公表されている。

**観点10－３－②：　財務に対して，会計監査等が適正に行われているか。**

（観点に係る状況）

本校は平成 18 年２月に，会計検査院による会計実地検査を受検している。また，平成 19 年 12 月には高専機構本部による内部監査を受検している（資料 10－３－②－１）。

なお，会計事務内部監査要領（資料 10－３－②－２）に基づく内部監査の実施や，平成 21 年度には熊本高専から監査員を派遣して会計監査を行ってもらう（資料 10－３－②－３）など，財務事務の適性化を図っている。

資料 10－３－②－１

**会計実地検査について**

【検査日程】

○ 検 査 日：平成１８年２月１５日（水）
○ 検 査 官：会計検査院第４局上席調査官　副　長　高野　勝
　　調査官補　栗原　誠
○ 検査会場：国立沖縄工業高等専門学校大会議室

| | |
|---|---|
| 9:30 | 首里駅着（副長・調査官補） |
| 10:30 | 沖縄高専着　※校長室案内 |
| 10:45 | 検査会場案内 |
| 11:00 | 検査開始 |
| 12:00 | 昼食（高専レストラン） |
| 13:00 | 検査開始 |
| 16:00 | 検査終了 |
| 16:10 | 沖縄高専発 → 首里駅 （首里駅着　17:20 予定） |

【検査内容等】

（調書）

１．業務概況
２．年度計画に対する執行状況
３．合計残高試算表（実地検査実施月の２ヶ月前）
４．物品の購入等に関する調書
５．工事調書
６．受託研究等調書
７．民間等との共同研究等調書
８．寄附金調書
９．補助金調書
１０．不動産取得等に関する調書
１１．特許権等に関する調書

・ 調書の作成年度は ９．補助金調書については平成１５年度以降、その他の調書については１．業務概要及び３合計残高試算表を除き過去２カ年分。

（検査重点事項）

・補助金（科学研究費補助金）
　＊他機関の例によると備品の確認まで行われるそうです。
・独立行政法人移行時の承継財産及び移行後の追加出資財産。
・旅費の証拠書類等との照合
　＊昨年度他機関において、業者発行の請求書と航空券半券の料金区分の違いを指摘された。

平成１９年度　監査事項について
（監査対象校：沖縄工業高等専門学校）

| 監査事項 | 事前提出資料 | 監査当日提出資料 | 監査担当 |
|---|---|---|---|
| 【1　教育研究活動について】 | | | 都河監事 |
| （1）ミッションまたは教育カリキュラムについて<br>・中長期目標<br>・一般教養科目の位置づけ<br>・独創的な活動<br>（例：中学生に対する魅力ある教育の広報、ＨＰの工夫等）<br>・少子化対策 | － | ・左記項目に係る説明資料 | |
| （2）学生へのメンタルケア、セクハラ等の対応策について<br>・学生相談室（この１年での事件等の有無、ある場合の対応）<br>・途中退学がいないか（ある場合、退学理由等） | － | ・左記項目に係る説明資料 | |
| （3）全寮制の場合、学校生活と寮生活の振り分けについて<br>・プライバシーの問題への対応等<br>・メンター制度（上級生等が助言者・相談員として、寮生を支援する制度）の有無 | － | ・左記項目に係る説明資料 | |
| （4）卒業後のフォロー<br>・0Bや0Gの活用等（卒業中学へのリクルート等） | － | ・左記項目に係る説明資料 | |
| （5）その他<br>・職位別男女の割合（教員・事務員とも） | － | ・様式１ | |
| 【2　会計経理（契約等）の実施状況について】 | | | 須磨補佐 |
| （1）財務事項に係る内部統制の状況<br>・会計機関について<br>・財務事項に関する決裁手続き等について<br>・現金預金の取扱い等について<br>・物品の発注及び検収について | （締切：11月30日）<br>・事務部組織図<br>（下記※１参照）<br>・財務業務フロー図<br>（下記※２参照）<br>・財務関連規程<br>（専決規定、内規） | ・直近月度の合計残高試算表<br>・１９年度総勘定元帳ファイル<br>・１９年度仕訳伝票綴り<br>・１９年度証憑綴り<br>（請求書、領収証等）<br>・１８年度仕訳照合表<br>又は会計伝票綴り<br>・18～19年度財務関係原義書綴り<br>・18～19年度契約書綴り<br>・通帳（直近時まで記帳すること）<br>・会計機関任免関連<br>・18～19年度現金出納簿、領収証書(控)<br>・金庫閉鎖点検確認簿<br>・財務会計システム接続用パソコン<br>（監査会場へ設置可能な場合）<br>・様式２、様式３<br>・学生名簿、授業料台帳<br>（下記※３） | |
| （2）その他<br>・役務等契約について<br>・ＯＡ関連機器の調達、賃貸借について<br>・通信回線料等について<br>・物品の管理状況について<br>・財源別予算管理について<br>・財務会計システムの利用状況について<br>・預り金について | | | |
| 【3　産学連携・地域連携等の状況について】 | | | 都河監事<br>長井係員 |
| （1）外部資金の導入状況について<br>・外部との相談体制<br>・資金管理体制（受入手続、執行手続、不正防止対策等）<br>・申請促進のための取り組み状況（説明会の開催等） | － | ・様式４、様式５、様式６、様式７<br>・外部資金関連規程<br>・左記項目に係る説明資料 | |
| （2）企業等との連携状況について<br>・地域共同テクノセンターの活動状況、稼働状況<br>・企業等の連携した取り組みの状況 | － | ・様式８<br>・左記項目に係る説明資料 | |
| （3）公開講座の実施状況について<br>・実施状況及び受講者の満足度の状況 | － | ・様式９<br>・左記項目に係る説明資料 | |
| （4）インターンシップの実施状況について | － | ・平成１８年度事業報告書作成のための調査（平成１９年４月１１日付け）のインターンシップ部分の回答 | |

（出典　総務課資料）

資料 10－３－②－２

## 沖縄工業高等専門学校会計事務内部監査要領

（平成２０年　３月３１日制定）

（趣旨）
第１条　この要領は、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第 45 条第２項の規定に基づく内部監査（以下「監査」という。）の実施について必要な事項を定め、もって会計経理事務の適正化を図ることを目的とするものである。

（監査実施責任者）
第２条　校長は、事務部長に監査を実施させるものとする。

（監査員）
第３条　監査員は、校長が任命する。監査員は、総務課の職員のほか、必要に応じて総務課以外の職員等から、監査員を命ずるものとする。
２　監査員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

（監査時期）
第４条　定期監査は、毎会計年度１回実施するものとし、特に必要があるときは、臨時に監査を実施することができる。

（監査事項）
第５条　監査は、次に掲げる事項について実施するものとする。
（１）会計経理に関する法令等の適用に関する事項
（２）予算決算に関する事項
（３）収入、支出に関する事項
（４）債権に関する事項
（５）物品に関する事項
（６）不動産に関する事項
（７）契約に関する事項
（８）旅費に関する事項
（９）外部資金、科学研究費に関する事項
（１０）帳簿及び証拠書類に関する事項
（１１）その他、校長が必要と認める事項

（監査の実施）
第６条　事務部長は、監査の都度実施細目を定め、これにより監査を実施するものとする。
２　事務部長は、監査を実施しようとするときは、あらかじめ監査を受ける組織の長にその期日及び監査員の氏名その他必要な事項を通知するものとする。

（出典　会計事務内部監査要領　抜粋）

資料 10－３－②－３

熊本高専管理 第 19 号
平成２１年 11 月 16 日

沖縄工業高等専門学校
事務部長　与那覇　明弘　殿

熊本高等専門学校
事務部長　山代　文雄

平成２１年度高専相互会計内部監査の実施について（依頼）

このことについて、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第４５条、独立行政法人国立高等専門学校機構における研究費等の管理・監査の実施方針第１１の２及び平成２１年１０月６日付け高機財第３８号に基づき、貴高専にかかる平成２１年度高専相互会計内部監査を下記のとおり実施させていただきたいと存じますのでよろしくお願い致します。

記

１．監査実施期日　　平成２１年１１月３０日（月）～１２月１日（火）

２．監　査　員　　管理課課長補佐　野口　正明
管理課財務係長　野田　俊夫
管理課主任（施設企画担当）本田　護

問い合わせ先
熊本高等専門学校（熊本キャンパス）
管理課課長補佐　野口　正明
096-242-6162（ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ）

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

内部監査をはじめ会計検査院の検査も受検しており必要と認められる監査，検査等が適正に行われている。

### （２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

学習・教育目標を達成するための限りある原資を効率的に活用するため予算の重点配分や，外部資金の獲得の努力を行っている。

（改善を要する点）

文部科学省や日本学術振興会の科学研究費補助金あるいは，各種団体の教育・研究助成等の申請及び採択率を上げるための取組みを一層強化する必要がある。

### （３）基準10の自己評価の概要

本校が中期計画で掲げている教育研究活動を，将来にわたって適切かつ安定して遂行するために必要な土地，建物，施設，設備，備品等の資産を有している。

資金面では運営費交付金が安定的に配分され自己収入の源である学生数も安定しており，入学料，検定料，授業料を確保している。また，外部資金の獲得に向けても取組みを強化しており安定して事業を行える財務基盤を有している。

予算配分については，限られた予算をより効果的に配分するため，校長のリーダーシップのもとで教育研究費や学生支援のための経費に重点配分を行っている。このことは，教育研究活動の活性化とその環境整備の向上に有効な配分となっている。

また，財務会計処理に関する監査においては，内部監査規則に基づく監査が行われており適正な財務会計処理を行っている。

## 基準11　管理運営

### （１）観点ごとの分析

**観点11－１－①：　学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，校長のリーダーシップの下で，効果的な意思決定が行える態勢となっているか。**

（観点に係る状況）

本校の目的を達成するために，校長を補佐する総務主事，教務主事，学生主事，寮務主事を置き，各主事は校長の命を受け，その責務を遂行すべく，その役割について明確に規定されている（資料11－１－①－１）。

本校においては，校長の下に専攻科長，各学科長，図書館長，情報処理センター長，地域共同テクノセンター長，学生相談室長，技術支援室長等を置き，それぞれの組織における管理・運営に携わっている（資料11－１－①－２，資料11－１－①－３）。

本校の目的を達成するとともに円滑な学校運営を図るため，運営企画会議，教員会議，課程の修了及び卒業に関する認定会議を置き，また，管理運営，教育研究における基本的な事項及び方針を審議するため総務委員会をはじめとする各種委員会を組織し，校長を補佐する体制が整備されている（資料11－１－①－３）。

各委員会等で審議された重要事項や，本校の管理運営に関する諸問題については，校長を主宰とする「運営企画会議」で審議され，校務の円滑な運営が図られている（資料11－１－①－４）。運営企画会議の審議を経て，最終的に校長が意志決定した事項については，教員会議などを通じて周知される（資料11－１－①－５）。

資料 11－１－①－１

沖縄工業高等専門学校学則（第９条抜粋）

（主事）

第９条　本校に、総務主事、教務主事、学生主事及び寮務主事を置く。

２　総務主事は、校長の命を受け、学校の管理運営の企画立案その他校務に関すること（教務主事、学生主事及び寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。

３　教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。

４　学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。

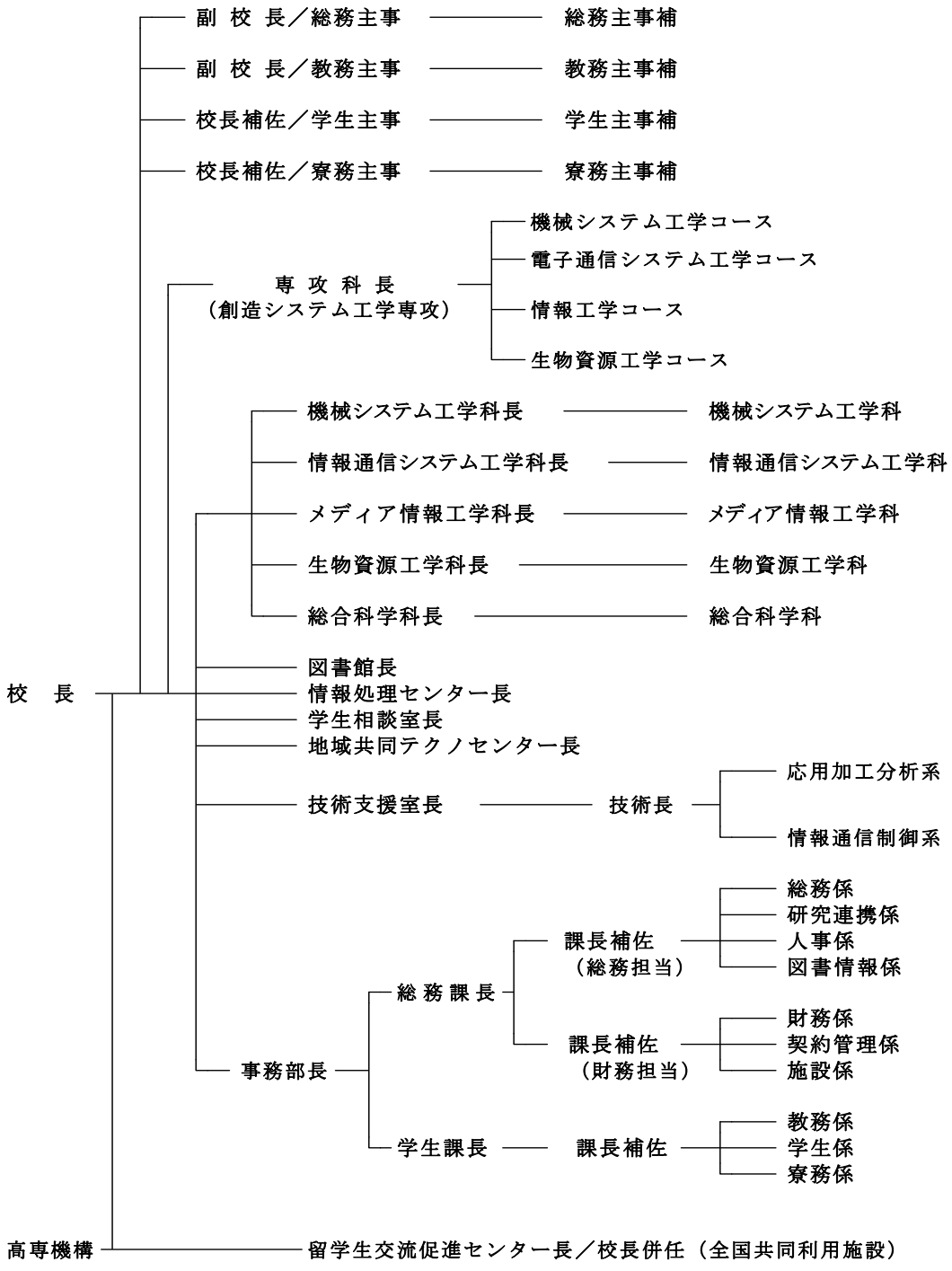
５　寮務主事は、校長の命を受け、学生寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。

（出典　沖縄工業高等専門学校学則　抜粋）

資料11－１－①－２

# Ⅴ　沖縄高専の組織

## １　組織図




（出典　学生生活の手引き　P. 7）

資料11－１－①－３

# 沖 縄 工 業 高 等 専 門 学 校 運 営 組 織 規 則

## 第１章　総則

（趣旨）

第１条　この規則は、沖縄工業高等専門学校学則（平成１６年学則第１号。以下「学則」という。）第１１条の４の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）の円滑な運営を図るため、本校の運営組織について必要な事項を定めるものとする。

（教員）

第２条　この規則において教員とは、学則第６条第１項に定める教授、准教授、専任講師、助教及び助手をいう。

２　教員の職務は、学校教育法（昭和２２年法律第２６号）その他の法令の定めによるほか、校長が定めるものとする。

３　第１項に規定する教員は、校長が任命する。

（客員教授等）

第２条の２　校長は、本校の常勤の教員以外の職員に対して客員教授、客員准教授又は客員研究員を称せしめることができる。

２　客員教授、客員准教授及び客員研究員に関して必要な事項は、別に定める。

## 第２章　校務分掌

（副校長）

第３条　学則第８条に定める副校長は、教授をもって充てる。

２　副校長の任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、副校長に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

（主事）

第４条　学則第９条に定める総務主事、教務主事、学生主事及び寮務主事（以下「主事」という。）のうち、総務主事及び教務主事は教授を、学生主事及び寮務主事は教授又は准教授をもって充てる。

２　主事の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、主事に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

（学科長）

第５条　学則第５条に定める学科及び総合科学科（学則第１８条に定める一般科目担当の教員組織をいう。以下同じ。）に、学科長を置き、当該学科の教授をもって充てる。

２　学科長は、校長の命を受け、当該学科の教育研究及び運営に関する業務を掌理するとともに、学科間の連絡調整に当たる。

３　学科長の任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、学科長に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

（専攻科長）

第５条の２　専攻科に、専攻科長を置く。

２　専攻科長は、校長の名を受け、専攻科の管理運営に関する業務を統括する。

３　専攻科長は、教授をもって充てる。

４　専攻科長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、専攻科長に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

（図書館長）

第６条　図書館に、図書館長（以下「館長」という。）を置く。

２　館長は、校長の命を受け、図書館の管理運営に関する業務を統括する。

３　館長は、教授又は准教授をもって充てる。

４　館長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、館長に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

（センター長）

第７条　情報処理センター及び地域共同テクノセンターに、それぞれ情報処理センター長及び地域共同テクノセンター長（以下「センター長」という。）を置く。

２　センター長は、校長の命を受け、当該センターの管理運営に関する業務を統括する。

３　センター長は、教授又は准教授をもって充てる。

４　センター長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、センター長に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

（室長）

第８条　技術支援室及び学生相談室に、それぞれ技術支援室長及び学生相談室長（以下「室長」という。）を置く。

２　室長は、校長の命を受け、当該室の管理運営に関する業務を統括する。

３　室長は、教授又は准教授をもって充てる。

４　室長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、室長に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

（学内施設の長）

第８条の２　夢工場、教育・実験棟及び体育館の適切な管理運営を行うため、それぞれの学内施設に施設長（以下「施設長」という。）を置く。

２　施設長は、校長の命を受け、当該施設の管理運営に関する業務を統括する。

３　施設長は、教授又は准教授若しくは専任講師をもって充てる。

４　施設長の任期・任命等に関し、必要な事項は校長が別に定める。

（主事補）

第９条　本校に、主事の職務を補佐するため、総務主事補、教務主事補、学生主事補及び寮務主事補（以下「主事補」という。）を置く。

２　主事補は、教授又は准教授若しくは専任講師をもって充てる。

３　主事補の任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、主事補に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

（コース主任及びコース副主任）

第９条の２　専攻科の各コースごとに、専攻科長の職務を補佐するため、コース主任及びコース副主任を置く。

２　コース主任は、各コースの基礎となる学科の学科長をもって充てる。

３　コース副主任は、各コースの基礎となる学科の教授又は准教授若しくは専任講師をもって充てる。

４　コース副主任の任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、コース副主任に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

（学年主任、学科担任及び学級担任）

第１０条　本校の各学年、各学科（総合科学科を除く、各学年ごとに編成する各学科をいう。以下同じ。）及び各学級（第１学年及び第２学年において編成する学級をいう。以下同じ。）ごとに、それぞれ学年主任、学科担任及び学級担任（以下「学年主任等」という。）を置く。

２　学年主任は、当該学年の運営に関し、主事、学科長、学級担任、学科担任及び他の学年主任との連絡調整を行う。

３　学科担任は、主事、学科長、学年主任、学級担任及び他の学科担任との密接な連携のもとに、当該学科の学生の学習指導、生活指導に関することを行う。

４　学級担任は、主事、学科長、学年主任、学科担任及び他の学級担任との密接な連携のもとに、当該学級の学生の学習指導、生活指導その他学級運営に関することを行う。

５　学年主任等は、教授又は准教授若しくは専任講師をもって充てる。

６　学年主任等の任期については、校長が別に定める。

## 第３章　会議及び委員会

（会議）

第１１条　本校に、本校の目的（学則第１条に規定する目的をいう。）を達成するとともに円滑な学校運営を図るため、運営企画会議、学科長会議、専攻科会議、教員会議、課程の修了及び卒業に関する認定会議を置く。

２　会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

（委員会）

第１２条　本校に、校長の諮問に応じ、本校の管理運営、教育研究における基本的な事項及びその方

針を審議するため、別表１に定める委員会を置き、別表２に掲げる委員をもって構成する。
２　委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

第４章　雑則

（規則の取扱い）
第１３条　この規則の取扱いに関し疑義が生じた場合には、当該業務又は事務の担当教員又は事務部長若しくは担当課長の申し出に基づき、校長が決定する。

（雑則）
第１４条　この規則に定めるもののほか、本校の運営組織に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附　則
１　この規則は、平成１６年４月１日から施行する。
２　第９条第１項に規定する主事補については、第９条第２項の規定にかかわらず、当分の間、助手以上の教員をもって充てるものとする。

附　則（平１７．１０．２０規則第１０号）
この規則は、平成１７年１０月２０日から施行する。

附　則（平１８．２．２８規則第１号）
この規則は、平成１８年２月２８日から施行する。

附　則（平１８．３．３１規則第３号）
この規則は、平成１８年４月１日から施行する。

附　則（平１８．４．２５規則第１６号）
この規則は、平成１８年４月２５日から施行する。

附　則（平１９．３．３０規則第１号）
１　この規則は、平成１９年４月１日から施行する。
２　この規則施行後最初に選考される第７条に規定する地域共同テクノセンター長は、改正前の地域連携推進室長とし、その任期は、改正前の地域連携推進室長としての任期の残任期間と同一の期間とする。

附　則（平２０．３．３１規則第７号）
１　この規則は、平成２０年４月１日から施行する。
２　第８条の２第１項に規定する施設長については、当分の間、夢工場については機械システム工学科、教育・実験棟については生物資源工学科、体育館については総合科学科において選出し、その

管理運営を行うものとする。

3　第１０条第１項に規定する学年主任等については、同条第５項の規定にかかわらず、助教以上の教員をもって充てるものとする。

4　前項の規定については、平成１９年４月１日から適用するものとする。

附　則（平２１．２．１８規則第１号）

この規則は、平成２１年４月１日から施行する。

別表１（第１２条第１項関係）

| 委　員　会　名 | 所　　掌　　事　　項 |
|---|---|
| 総務委員会 | 本校の組織編制、人事計画、将来計画、中期計画及び年度計画、情報公開に関する事項 |
| 広報委員会 | 広報誌の編集及び発行、公式ホームページによる情報公開に関する事項 |
| 教務委員会 | 教育課程の編成及び実施、指導要録、学校行事、学生の進学に関する事項 |
| ＦＤ委員会 | 本校の教員が教育の質的向上を図るために組織的に取り組む活動の推進に関する事項 |
| 入試委員会 | 入学者の選抜方法、入学者選抜の実施計画に関する事項 |
| 学生委員会 | 学生の健康及び福祉、課外活動、学生会活動に関する事項 |
| 学生寮委員会 | 学生の入寮・退寮、寮生の生活指導・補導、福祉厚生・保健衛生及び経費に関する事項 |
| 図書委員会 | 図書館の運営、図書館に関する規則の制定及び改廃、図書館資料の収集・選定及び利用、図書館の電子化に関する事項 |
| 施設・環境ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ委員会 | 施設の将来計画・全体計画、施設の管理運営、施設の点検・評価及びこれに基づく施設の有効活用、環境マネジメントの策定及び実施 に関する事項 |
| 安全衛生委員会 | 教職員の危険の防止及び健康障害の防止・健康の保持増進のための基本対策、労働災害の原因・再発防止対策に関する事項 |
| 研究推進委員会 | 研究機関等との共同・受託研究等の推進、研究環境の整備、実験廃棄物等の管理及び処理、学生の実験実習等の安全管理に関する事項 |
| 専攻科設置検討委員会 | 専攻科における教育課程の編成、入学定員及び修了要件、授業科目の担当教員、専攻科の規則、専攻科認定申出書に関する事項 |
| ＪＡＢＥＥ対応委　員　会 | ＪＡＢＥＥプログラム認定申請に必要な資料等の収集及び保存、ＪＡＢＥＥプログラムに関する調査研究及びその実施に関する事項 |
| 自己点検・評価委　員　会 | 自己点検・評価の基本方針、教育研究プログラムの総合評価、自己点検・評価報告書の定期的な作成と公表、外部評価に関する事項 |
| 職員レクリエーション委　員　会 | レクリエーション活動の企画、運営及び実施、レクリエーション活動の経費に関する事項 |
| 知的財産委員会 | 発明等の特許性及び市場性の評価並びに帰属に関する事項 |
| 外部資金受入委員会 | 外部からの寄附金の受入れ、受託研究の受入れ、共同研究の受入れに関する事項 |

| | |
|---|---|
| 進 路　委 員 会 | 学生のインターンシップに関する事項、学生等の進学及び就職に関する事項 |
| 予算配分委員会 | 予算配分の基本方針、各年度の予算配分（案）の作成、その他予算に関する事項 |
| 情報処理センター運 営 委 員 会 | センターの運営方針、利用計画、予算に関する事項 |

| 委　員　会　名 | 所　　掌　　事　　項 |
|---|---|
| 地域共同テクノセンター運営委員会 | 地域共同テクノセンターの運営方針、事業計画に関する事項 |
| 技術支援室運営委員会 | 技術支援室の管理運営の基本方針、業務及び年間業務計画、技術職員の研修に関する事項 |
| 学生相談室運営委員会 | 学生相談室の運営方針、事業計画に関する事項 |
| 遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会 | 実験に関する規則等の制定改廃、実験計画の法律等との適合性、実験に係る教育訓練・健康管理、事故発生の際の必要な処置・改善策 |

（出典　沖縄工業高等専門学校運営組織規則）

資料11－１－①－４

## 沖縄工業高等専門学校運営企画会議規則

（設置）

第１条　沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、運営企画会議を置く。

（目的）

第２条　運営企画会議は，本校の管理運営に関する諸問題について検討し、校務の円滑なる運営を図ることを目的とする。

（構成員）

第３条　運営企画会議の構成員は、次の各号に掲げる者とする。

⑴ 校長

⑵ 副校長

⑶ 総務主事、教務主事、学生主事及び寮務主事

⑷ 図書館長

⑸ 地域共同テクノセンター長、情報処理センター長及び技術支援室長

⑹ 学生相談室長

⑺ 機械システム工学科長、情報通信システム工学科長、メディア情報工学科長、生物資源　　工学科長及び総合科学科長

⑻ 事務部長

⑼ 総務課長及び学生課長

２　校長が必要と認めたときは、前項各号に掲げた者以外の者が出席できるものとする。

（会議）

第４条　運営企画会議は、校長が招集し、主宰する。

２　運営企画会議は、原則として毎月１回開催するものとする。

（事務）
第５条　運営企画会議に関する事務は、総務課において処理する。

附　則
この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則（平１７．４．１規則第２号）
この規則は、平成１７年４月１日から施行する。

附　則（平１８．３．３１規則第１４号）
この規則は、平成１８年４月１日から施行する。

附　則（平１９．３．３０規則第３号）
この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則（平２０．７．１６規則第１０号）
この規則は、平成２０年７月１６日から施行し、平成２０年４月１日から適用する。

（出典　沖縄工業高等専門学校運営企画会議規則）

資料11－１－①－５

平成２１年度第８回沖縄工業高等専門学校教員会議議事要旨（抜粋）

Ⅰ　日　時　：　平成２２年１月２７日（水）　１６時４５分 ～１９時００分

Ⅱ　場　所　：　視聴覚ホール

Ⅲ　出席者　：　校長以下　５３名[redacted]

欠席者　：[redacted]

Ⅳ　事項

（１）平成２１年度沖縄工業高等専門学校卒業式及び平成２２年度沖縄工業高等専門学校入学式について
（２）沖縄工業高等専門学校参与の会の開催について
（３）沖縄工業高等専門学校における教員評価について
（４）平成２３年度沖縄工業高等専門学校専攻科入学者選抜試験について
（５）第５回沖縄高専北部地域産学連携フォーラムの実施について
（６）沖縄工業高等専門学校国際会議発表支援制度実施要項等の一部改正について
（７）教員研究費の追加配分等について
（８）その他
①全体集会について
②高校総体について
③平成２２年度クラブ顧問の依頼について
④卒業式について
⑤教室等の確保について
⑥春季閉寮期間中における寮施設の使用について
⑦平成２２年３月卒業生アンケートの実施について
⑧教育改善の討論会の実施について

[redacted]

Ⅴ　議事概要

（１）平成２１年度沖縄工業高等専門学校卒業式及び平成２２年度沖縄工業高等専門学校入学式について

校長から、資料に基づき平成２１年度卒業式及び平成２２年度入学式について、日時及び式次第等の説明があった。なお、卒業式等に関連して次のような発言があった。

・卒業証書は全員に授与すること。
・来賓予定者には後日依頼を行うこと。
・学科別懇談会の会場は、現在調整していること。
・入学式は、学生の入寮日等を考慮し、平成２２年度は日曜日としたこと。
・入学式終了後は、入寮式が予定されていること。

（略）

資料１

平成２１年度沖縄工業高等専門学校卒業式及び
平成２２年度沖縄工業高等専門学校入学式要項

【卒業式】
日　時　平成２２年　３　月２０日（土）　１４時から１５時３０分
場　所　沖縄工業高等専門学校　体育館
式次第
（１）開式の辞
（２）卒業証書授与
（３）校長告辞
（４）来賓祝辞（名護市長、産学連携協力会会長、後援会会長）≪予定≫
（５）祝電披露
（６）在校生送辞（学生会長）
（７）卒業生答辞（メディア情報工学科学生）
（８）学生表彰
（９）校歌斉唱
(10) 閉式の辞
――――― 終了後 ―――――
【卒業生を送る会】３０分
・壁画の制作
・カラーセロファン製のステンドグラスの制作
・ビデオ作品の制作

【学科別懇談会】３０分
機械システム工学科　：
情報通信システム工学科　：　会場調整中
メディア情報工学科　：
生物資源工学科　：

【入学式】
日　時　平成２２年　４　月　４　日（日）　１０時から１１時
場　所　沖縄工業高等専門学校　体育館
式次第
（１）開式の辞
（２）入学許可宣言
（３）校長告辞
（４）来賓祝辞（名護市長、産学連携協力会会長、後援会会長）≪予定≫
（５）入学生代表宣誓
（６）入学生歓迎の辞（学生会長）
（７）閉式の辞

(出典　教員会議資料)

（分析結果とその根拠理由）

校長の命を受けた４主事は所掌事項について掌理し，校長を補佐しており，また専攻科長，各学科長等が配置され，各種委員会等の組織も整備されている。校長は，管理運営に関する諸問題，校務の円滑な運営を図るために運営企画会議，各種委員会等に諮問し，最終的に効果的な意志決定が行える態勢になっている。

以上のことから，本校の目的を達成するために校長，各主事，委員会等の役割が明確であり，校長のリーダーシップの下で，効果的な意志決定が行える態勢となっている。

**観点11－１－②：　管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動しているか。**

（観点に係る状況）

校長の諮問に応じ，本校の管理運営，教育研究における基本的な事項及びその方針を審議するため，各種委員会を設け，それぞれの専門的分野について検討し，計画・実施しており，また事務部の担当部課長が関係委員会の構成員となるとともに，担当係が各委員会の事務を処理している（資料11－１－②－１）。事務組織については，事務部長の下に，総務課，学生課を置き，規程により職務内容，事務分掌を定めている（資料11－１－②－２，資料11－１－②－３）。

技術職員については，技術支援室に，応用加工分析系及び情報通信制御系の２つの分野を置き，業務を分担して行い，教員と協力しながら学生の指導にあたっている（資料11－１－②－４）。

資料11－１－②－１

沖縄工業高等専門学校運営組織規則（抜粋）

別表２（第１２条第１項関係）

| 委　員　会　名 | 構　　成　　員 | 担　当　課 |
|---|---|---|
| 総務委員会 | ◎ 総務主事<br>総務主事補<br>総務課長<br>その他校長が必要と認めた者 | 総務課 |
| 広報委員会 | 総務主事、教務主事、学生主事及び寮務主事<br>総務課長及び学生課長<br>その他校長が必要と認めた者 | 総務課 |
| 教務委員会 | ◎ 教務主事<br>教務主事補<br>学生課長<br>その他校長が必要と認めた者 | 学生課 |
| ＦＤ委員会 | ◎ 校長<br>総務主事、教務主事、学生主事及び寮務主事<br>各学科長<br>事務部長<br>総務課長及び学生課長<br>その他校長が必要と認めた者 | 総務課<br>学生課 |
| 入試委員会 | 教務主事<br>各学科（総合科学科を除く。）所属教員　各１名<br>総合科学科所属教員　２名<br>学生課長<br>その他校長が必要と認めた者 | 学生課 |
| 学生委員会 | ◎ 学生主事<br>学生主事補<br>寮務主事<br>学生課長<br>その他校長が必要と認めた者 | 学生課 |
| 学生寮委員会 | ◎ 寮務主事<br>寮務主事補<br>学生主事<br>学生課長<br>その他校長が必要と認めた者 | 学生課 |

| 委　員　会　名 | 構　　成　　員 | 担　当　課 |
|---|---|---|
| 図書委員会 | ◎ 図書館長<br>各学科（総合科学科を除く。）所属教員　各１名<br>総合科学科所属教員　２名<br>技術支援室所属職員　１名<br>総務課長及び学生課長 | 総務課 |
| 施設・環境マネジメント委員会 | 総務主事、教務主事、学生主事及び寮務主事<br>各学科長<br>図書館長、情報処理センター長、地域共同テクノセンター長及び技術支援室長<br>事務部長<br>総務課長及び学生課長<br>その他校長が必要と認めた者 | 総務課 |
| 安全衛生委員会 | ◎ 事務部長<br>産業医<br>衛生管理者<br>安全管理者<br>教員のうちから校長が指名する者<br>安全・衛生に関する経験を有する者のうちから校長が指名する者 | 総務課 |
| 研究推進委員会 | 地域共同テクノセンター長及び技術支援室長<br>各学科（総合科学科を含む。）所属教員　各１名<br>総務課長<br>その他校長が必要と認めた者 | 総務課 |
| 専攻科設置検討委員会 | 総務主事<br>各学科（総合科学科を含む。）所属教員　各１名<br>総務課長<br>その他校長が必要と認めた者 | 総務課 |
| ＪＡＢＥＥ対応委員会 | 総務主事<br>各学科（総合科学科を含む。）所属教員　各１名<br>総務課長<br>その他校長が必要と認めた者 | 総務課 |
| 自己点検・評価委員会 | 総務主事<br>各学科（総合科学科を含む。）所属教員　各１名総務課長<br>その他校長が必要と認めた者 | 総務課 |

| 委　員　会　名 | 構　　成　　員 | 担　当　課 |
|---|---|---|
| 職員レクリエーション委員会 | 各学科（総合科学科を含む。）から選出された教員　各１名<br>技術支援室から選出された職員　１名<br>総務課長<br>その他校長が必要と認めた者 | 総務課 |
| 知的財産委員会 | ◎ 地域共同テクノセンター長<br>技術支援室長<br>各学科（総合科学科を除く。）所属教員　各１名<br>事務部長<br>総務課長<br>その他校長が指名した者 | 総務課 |
| 外部資金受入委員会 | 総務主事<br>教務主事<br>◎ 地域共同テクノセンター長<br>技術支援室長<br>事務部長<br>総務課長 | 総務課 |
| 進路委員会 | 教務主事<br>各学科（総合科学科を含む。）所属教員　各１名<br>学生課長<br>その他校長が必要と認めた者 | 学生課 |
| 予算配分委員会 | ◎ 総務主事<br>各学科（総合科学科を含む。）所属教員　各１名<br>事務部長<br>総務課長<br>総務課課長補佐（財務担当）<br>その他校長が必要と認めた者 | 総務課 |
| 情報処理センター運営委員会 | ◎ センター長<br>副センター長<br>各学科（総合科学科を含む。）所属教員　各１名<br>総務課長<br>情報担当技術員 | 総務課 |

| 委　員　会　名 | 構　　成　　員 | 担　当　課 |
|---|---|---|
| 地域共同テクノセンター運営委員会 | ◎ センター長<br>副センター長<br>技術支援室長<br>各学科（総合科学科を含む。）所属教員　各１名<br>総務課長<br>その他校長が指名する者 | 総務課 |
| 技術支援室運営委員会 | ◎ 室長<br>技術長<br>技術主査<br>各学科（総合科学科を含む。）所属教員　各１名<br>総務課長及び学生課長<br>その他校長が指名する者 | 総務課 |
| 学生相談室運営委員会 | ◎ 相談室長<br>相談員<br>学生課長<br>看護師 | 学生課 |
| 遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会 | 実験に携わる専任教員　若干名<br>前号以外の自然科学系の専任教員　１名<br>人文・社会系の専任教員　１名<br>総務課長<br>本校に所属しない学識経験者　１名<br>その他校長が必要と認める者　若干名 | 総務課 |

（注）１．構成員欄の◎は、委員長を示す。

２．広報、入試、施設・環境マネジメント、研究推進、専攻科設置検討、JABEE 対応、自己点検・評価の各委員会の委員長は、校長が指名する。

３．進路委員会、職員レクリエーション委員会及び遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会委員長は、委員の互選により選出する。

（出典　沖縄工業高等専門学校運営組織規則　抜粋）

資料11－１－②－２

# 沖 縄 工 業 高 等 専 門 学 校 事 務 組 織 規 則

（目的）

第１条　この規則は、沖縄工業高等専門学校学則（平成１６年学則第１号）第１１条の４の規定　に基づき、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）事務部の事務組織及び課の所掌　事務について定めるものとする。

（組織）

第２条　本校事務部に総務課及び学生課を置く。

２　総務課に次の７係を置く。

(1) 総務係

(2) 研究連携係

(3) 人事係

(4) 図書情報係

(5) 財務係

(6) 契約管理係

(7) 施設係

３　学生課に次の３係を置く。

(1) 教務係

(2) 学生係

(3) 寮務係

（事務部長）

第３条　事務部に事務部長を置き、事務職員をもって充てる。

２　事務部長は、校長の命を受け、事務部の事務を処理する。

（課長）

第４条　課に課長を置き、事務職員をもって充てる。

２　課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。

（課長補佐）

第５条　課に課長補佐を置くことができる。

２　課長補佐は事務職員をもって充てる。

３　課長補佐は、上司の命を受け、校務の連絡調整及び課の事務を処理する。

（専門員）

第５条の２　課に専門員を置くことができる。

２　専門員は事務職員をもって充てる。

３　専門員は、上司の命を受け、特に高度の専門的知識若しくは経験を必要とする特定の分野の事務

を直接処理するとともに、専門的見地から課長を補佐する。

（専門職員）

第５条の３　課に専門職員を置くことができる。

２　専門職員は事務職員又は技術職員をもって充てる。

３　専門職員は、上司の命を受け、特に高度の専門的知識若しくは経験を必要とする特定又は一定範囲の分野の事務を処理する。

（係長）

第６条　係に係長を置き、事務職員又は技術職員をもって充てる。

２　係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

（主任）

第７条　係に主任を置くことができる。

２　主任は、事務職員又は技術職員をもって充てる。

３　主任は、上司の命を受け、係の事務のうち特定の事務を処理する。

（総務課の所掌事務）

第８条　総務課においては、次の事務をつかさどる。

(1) 本校の事務に関し、総括し及び連絡調整すること。

(2) 将来計画及び自己点検・評価に関すること。

(3) 儀式、その他の会議に関すること。

(4) 渉外事務に関すること。

(5) 公印の管守に関すること。

(6) 公文書類の接受、発送及び整理保管に関すること。

(7) 調査統計その他諸報告及び記録の作成に関すること。

(8) 情報公開に関すること。

(9) 学術助成及び研究協力に関すること。

(10) 共同研究、受託研究及び外部資金の受入れ及び経理に関すること。

(11) 科学研究費補助金の申請、報告及び経理に関すること。

(12) 地域連携、公開講座等に関すること。

(13) 職員の任免、分限、懲戒、服務等に関すること。

(14) 職員の給与に関すること。

(15) 職員の定員に関すること。

(16) 職員の出張、研修及び勤務評定に関すること。

(17) 職員の健康管理、福祉及び災害補償に関すること。

(18) 共済組合及び退職手当に関すること。

(19) 栄典及び表彰に関すること。

(20) 人事記録に関すること。

(21) 海外渡航に関すること。
(22) 図書館資料の受入並びに整理及び保存等に関すること。
(23) 図書館資料の閲覧、貸出等利用に関すること。
(24) 図書館資料の検索指導及び読書相談等参考奉仕に関すること。
(25) 事務用電子計算機の管理及び運用に関すること。
(26) 事務情報化の推進に関すること。
(27) 会計経理に関する法令等の適用に関すること。
(28) 予算決算に関すること。
(29) 収入支出に関すること。
(30) 債権に関すること。
(31) 旅費及び謝金に関すること。
(32) 帳簿及び証拠書類に関すること。
(33) 物品の管理等に関すること。
(34) 契約に関すること。
(35) 土地建物の借入に関すること。
(36) 職員宿舎に関すること。
(37) 施設整備の計画に関すること。
(38) 営繕工事に関すること。
(39) 土地、建物及び工作物等の維持保全に関すること。
(40) 学校環境の整備保全に関すること。
(41) 財産の貸付に関すること。
(42) その他、他の課の所掌に属さない事務に関すること。

（学生課の所掌事務）
第９条　学生課においては、次の事務をつかさどる。
(1) 入学者の選抜に関すること。
(2) 学生の修学指導に関すること。
(3) 教育課程の編成及び授業に関すること。
(4) 学生の学業成績の整理及び記録に関すること。
(5) 学生の学籍に関すること。
(6) 学生の実習に関すること。
(7) 学生の課外教育に関すること。
(8) 学生及び学生団体の指導監督に関すること。
(9) 学生に対する奨学金、授業料の減免、猶予及び経済援助に関すること。
(10) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関すること。
(11) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。
(12) 学生に対する職業相談及び就職あっせんに関すること。
(13) 学生旅客運賃割引証に関すること。

(14) 学生寮の管理運営に関すること。
(15) 学生の入退寮に関すること。
(16) 寮生の生活相談に関すること。
(17) その他教務、学生補導及び寮務の事務に関すること。

（事務の分掌）
第１０条　課の事務分掌については、別に定める。

附　則
１　この規則は、平成１６年４月１日から施行する。
２　沖縄工業高等専門学校事務組織規則（平成１４年規則第２号）は、廃止する。

附　則（平１８．３．３１規則第５号）
この規則は、平成１８年４月１日から施行する。

附　則（平１９．３．３０規則第２号）
この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則（平２０．８．２０規則第１３号）
この規則は、平成２０年８月２０日から施行し、平成２０年７月１日から適用する。

（出典　沖縄工業高等専門学校事務組織規則）

資料11－１－②－３

沖 縄 工 業 高 等 専 門 学 校 事 務 分 掌 規 程

（趣旨）
第１条　この規程は、沖縄工業高等専門学校事務組織規則（平成１６年規則第２号。以下「規則」　という。）第１０条の規定に基づき、各課に置く係等の事務分掌を次のとおり定める。

（総務課）
第２条　総務課に、その課の事務を分掌させるため、課長、課長補佐（総務担当）、課長補佐（財務担当）及び規則第２条第２項に定める７係を置く。
２　課長においては、次の事務をつかさどる。
(1) 総務事務（総務、財務）の総括に関すること。
(2) 将来計画に関すること。
３　課長補佐（総務担当）については、次の事務をつかさどる。
(1) 校務事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。

(2) 総務事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。
(3) 自己点検・評価及び外部評価に関すること。
(4) ＪＡＢＥＥ受審に関すること。
(5) 事務改善及び事務情報化の推進に関すること。
(6) その他課の所掌事務のうち、特に上司の命を受けた事項に関すること。

4　課長補佐（財務担当）については、次の事務をつかさどる。
(1) 財務事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。
(2) 予算及び決算に関すること。
(3) 資産及び物品の管理に関すること。
(4) 施設計画に関すること。
(5) その他課の所掌事務のうち、特に上司の命を受けた事項に関すること。

5　総務係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 儀式、その他諸行事に関すること。
(2) 会議等に関すること。
(3) 渉外事務に関すること。
(4) 公印の管守（財務係の所掌に属するものを除く。）に関すること。
(5) 公文書類の接受、発送及び整理保管に関すること。
(6) 学則その他諸規則等の制定及び改廃に関すること。
(7) 広報及び情報公開に関すること。
(8) 事務職員及び技術職員の宿日直に関すること。
(9) 学校要覧及び職員録等の発行に関すること。
(10) 共用車の維持及び運用に関すること。
(11) 調査統計その他諸報告及び記録の作成に関すること。
(12) その他、他の課及び総務課事務で他の係の所掌に属さない事務に関すること。

6　研究連携係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 共同研究、受託研究及び外部資金に関すること。
(2) 科学研究費補助金の申請及び報告に関すること。
(3) 学術研究助成金の申請に関すること。
(4) 産学官及び地域との連携事業の推進及び実施に関すること。
(5) 知的財産権に関すること。
(6) 学術団体等との連絡・調整に関すること。
(7) 地域共同テクノセンターの事務に関すること。
(8) 公開講座及び学校開放事業等の企画・立案に関すること。
(9) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
(10) その他研究協力に関すること。

7　人事係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 職員の任免、分限及び懲戒に関すること。

(2) 職員の服務、勤務時間及び休暇に関すること。
(3) 職員の給与に関すること。
(4) 職員の定員に関すること。
(5) 職員の出張及び研修に関すること。
(6) 職員の勤務評定に関すること。
(7) 職員の能率及び健康管理に関すること。
(8) 職員の福祉及び災害補償に関すること。
(9) 共済組合及び退職手当に関すること。
(10) 栄典及び表彰に関すること。
(11) 人事記録に関すること。
(12) 海外渡航に関すること。
(13) 職員の身分証明等に関すること。
(14) 職員団体に関すること。
(15) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
(16) その他人事に関すること。

8　図書情報係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 図書館資料（以下「図書」という。）の選定、受入及び管理に関すること。
(2) 図書の目録、分類及び記録に関すること。
(3) 図書の整備及び保全に関すること。
(4) 図書の閲覧、貸出及び保存に関すること。
(5) 情報検索案内及び図書の利用・検索法等の相談・指導に関すること。
(6) 図書の複写及び相互貸借等、他図書館との相互利用に関すること。
(7) 寄贈図書に関すること。
(8) 紀要の編集及び配布に関すること。
(9) 事務用電子計算機の管理及び運用に関すること。
(10) 事務用電子計算機による事務処理に必要なシステムの開発・支援に関すること。
(11) 事務用電子計算機に係る知識及び技術の普及に関すること。
(12) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
(10) その他図書館に関すること。

9　財務係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 財務経理に関する法令等の適用に関すること。
(2) 財務会計の諸規程に関すること
(3) 財務に属する公印の管守に関すること。
(4) 予算に関すること。
(5) 財務諸表及び決算報告書の作成、その他決算に関すること。
(6) 収入及び支出に関すること。
(7) 債権の管理に関すること。

(8) 教職員等の給与の支払いに関すること。
(9) 退職手当の支払いに関すること。
(10) 現金、小切手、預貯金通帳及び有価証券等の保管に関すること。
(11) 科学研究費補助金等外部資金の経理に関すること。
(12) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
(13) その他財務事務で、他の係の所掌に属さない事務に関すること。

１０　施設係

(1) 施設整備の計画に関すること。
(2) 営繕工事の企画及び設計に関すること。
(3) 営繕工事等の契約及び施行に関すること。
(4) 学校環境の整備保全に関すること。
(5) 土地建物の借入に関すること。
(6) 職員宿舎の入退去に関すること。
(7) 不動産の管理に関すること。
(8) 電気、ガス、水道、電話、空調機等附帯設備の管理に関すること。
(9) 建物及び附帯設備等の保守契約に関すること。
(10) 不動産の貸付に関すること。
(11) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
(12) その他施設に関すること。

１１　契約管理係においては、次の事務をつかさどる。

(1) 物品の管理に関すること。
(2) 物品の貸付に関すること。
(3) 物品の購入、役務及び売払いの契約に関すること。
(4) 購入物品及び役務の検収に関すること。
(5) 物品の寄付採納（図書館資料を除く。）に関すること。
(6) 旅費の経理に関すること。
(7) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
(8) その他契約管理に関すること。

（学生課）

第３条　学生課に、その課の事務を分掌させるため、課長、課長補佐及び規則第２条第３項に定める３係を置く。

２　課長においては、次の事務をつかさどる。

(1) 学生事務の総括に関すること。
(2) 教育課程、入試改善の将来構想に関すること。

３　課長補佐については、次の事務をつかさどる。

(1) 学生事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。
(2) 入学者選抜に関する企画、立案及び実施に関すること。

(3) 教育課程の編成に関すること。
(4) 就職及び進路指導に関すること。
(5) その他課の所掌事務のうち、特に上司の命を受けた事項に関すること。

4　教務係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 学生の募集及び入学者の選抜に関すること。
(2) 学生の修学指導に関すること。
(3) 教育課程に関すること。
(4) 授業及び試験に関すること。
(5) 学生の学業成績及び学籍簿の整理・保管に関すること。
(6) 学生の入学、卒業、休学、除籍、転学、退学等に関すること。
(7) 学生の身分、学業成績及び卒業等の諸証明に関すること。
(8) 学生便覧の作成及び配布に関すること。
(9) 教科書及び教材に関すること。
(10) 入学料及び授業料の債権の発生通知に関すること。
(11) 各学科及び教室事務に関すること。
(12) 学生の出欠簿に関すること。
(13) 学生の学外実習に関すること。
(14) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
(15) その他学生課事務で、他の係の所掌に属さない事務に関すること。

5　学生係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 学生の課外教育に関すること。
(2) 学生の表彰及び懲戒に関すること。
(3) 学生及び学生団体の指導監督に関すること。
(4) 学生の入学料及び授業料の減免、徴収猶予等に関すること。
(5) 奨学生に関すること。
(6) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関すること。
(7) 学生に対する職業相談及び就職あっせんに関すること。
(8) 学生のアルバイト及び下宿あっせんに関すること。
(9) 学生の旅客運賃割引証及び通学証明書に関すること。
(10) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
(11) その他学生の厚生補導に関すること。

6　寮務係においては、次の事務をつかさどる。
(1) 学生寮の管理運営に関すること。
(2) 学生の入退寮に関すること。
(3) 寮生の生活相談に関すること。
(4) 寮生の異動に係る諸証明に関すること。
(5) 寮生の厚生事業に関すること。

(6) 寮生の保健衛生及び給食・栄養管理に関すること。
(7) 寄宿料の債権発生通知に関すること。
(8) 寄宿料の免除に関すること。
(9) 学生寮の宿日直（他の課の所掌に属するものを除く。）に関すること。
(10) 学生の生活相談に関すること。
(11) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。
(12) 独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度及び傷害保険に関すること。
(13) 外国人留学生に関すること。
(14) 所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。
(15) その他学生の生活相談及び学生寮に関すること。

附　則

この規程は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則（平２０．８．２０規程第１３号）

この規程は、平成２０年８月２０日から施行し、平成２０年７月１日から適用する。

（出典　沖縄工業高等専門学校事務分掌規程）

資料11－１－②－４

沖縄工業高等専門学校技術支援室規則（抜粋）

（趣旨）
第１条　この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（規則第４号）第１２条第９項及び沖縄工業高等専門学校学則（平成１６年学則第１号）第１１条の２第２項の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校技術支援室（以下「技術支援室」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（目的）
第２条　技術支援室は、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）における技術に関する教育研究活動等を支援し、教育研究等に関する技術的専門業務を組織的かつ効率的・効果的に処理するとともに、技術職員（施設系技術職員を除く。以下同じ。）の能力及び資質の向上を図り、もって教育研究支援体制の充実に資することを目的とする。

（組織）
第３条　技術支援室に、次の各号に掲げる職員を置く。
(1) 室長
(2) 技術長
(3) 技術主査
(4) 技術専門職員及び技術職員
２ 前項に定める職員のほか、技術専門員を置くことができる。

（室長）
第４条　室長は、校長の命を受け、技術支援室の管理運営に関する業務を統括する。
２ 室長の任命に関し必要な事項は、別に定める。

（技術長）
第４条の２　技術長は、上司の命を受け、室長の職務を補佐し、技術支援室の業務及び運営を総括する。
２ 技術長は本校の技術専門員又は技術専門職員の中から実務経験、業務実績等に基づき、校長が任命する。

（技術主査）
第４条の３ 技術主査は、上司の命を受け、技術長の職務を補佐し、第５条に定める当該分野の業務及び運営を総括する。
２ 技術主査は、各分野相互の連絡調整に当たるとともに、当該分野所属の技術職員に対して技術的な指導及び育成に当たる。
３ 技術主査は技術専門職員をもって充て、本校の技術専門職員の中から技術長が推薦し、校長が任命する。
４ 技術主査の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（技術専門職員及び技術職員）
第４条の４　技術専門職員及び技術職員は、第５条に定める当該分野に係る業務を行う。
２　技術専門職員は、技術職員のうち高度の専門的な技術を有することが客観的に明らかなものについて選考する。
３　技術専門職員の選考に関し必要な事項は、別に定める。

（業務）
第５条　技術支援室に、応用加工分析系及び情報通信制御系の２つの技術分野を置き、次に掲げる業務を分担して行う。
(1) 教育研究等に関する技術支援の年間業務計画の策定に関すること。
(2) 学生の実験・実習及び卒業研究・特別研究等の技術的指導に関すること。
(3) 教育教材に関する技術開発及び技術支援に関すること。
(4) 教員の教育研究活動への技術支援に関すること。
(5) 学生の課外活動の技術的支援に関すること。
(6) 校内共同利用施設の維持管理に関すること。
(7) 実験室等の設備・備品等の維持管理の支援に関すること。
(8) 技術の継承及び保存、技術向上、技術教育及び技術研究に関すること。
(9) 産学官及び地域との連携、公開講座、体験入学等に関する技術支援及び技術協力に関すること。
(10) その他本校の学校業務及び技術業務に関すること。

（運営委員会）
第６条　技術支援室に、技術支援室の運営に関する事項を審議するため、沖縄工業高等専門学校技術支援室運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。
２　運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

（業務報告）
第７条　室長は、技術支援室の活動実績、技術の向上、技術の継承の状況、及び技術職員の活動結果を、毎年度末に校長に報告するものとする。

（研修の実施）
第８条　技術専門職員及び技術職員に、その職務と責任の遂行に必要な知識技術等を習得させ、その他その遂行に必要な技術職員の能力、資質等を向上させるため、研修を実施するものとする。

（事務）
第９条　技術支援室に関する事務は、事務部において処理する。
（以下　略）

（出典　沖縄工業高等専門学校技術支援室規則　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

管理運営に関する各種委員会の役割は，明確に規定され，分掌された事項毎に適切に活動している。審議結果は，運営企画会議に付議され，学校の意志決定となる。

事務組織及び事務分掌についても，事務部長の下，規程に従い適切に処理している。事務職員も，各種委員会の構成員や陪席者として意志決定に参画している。

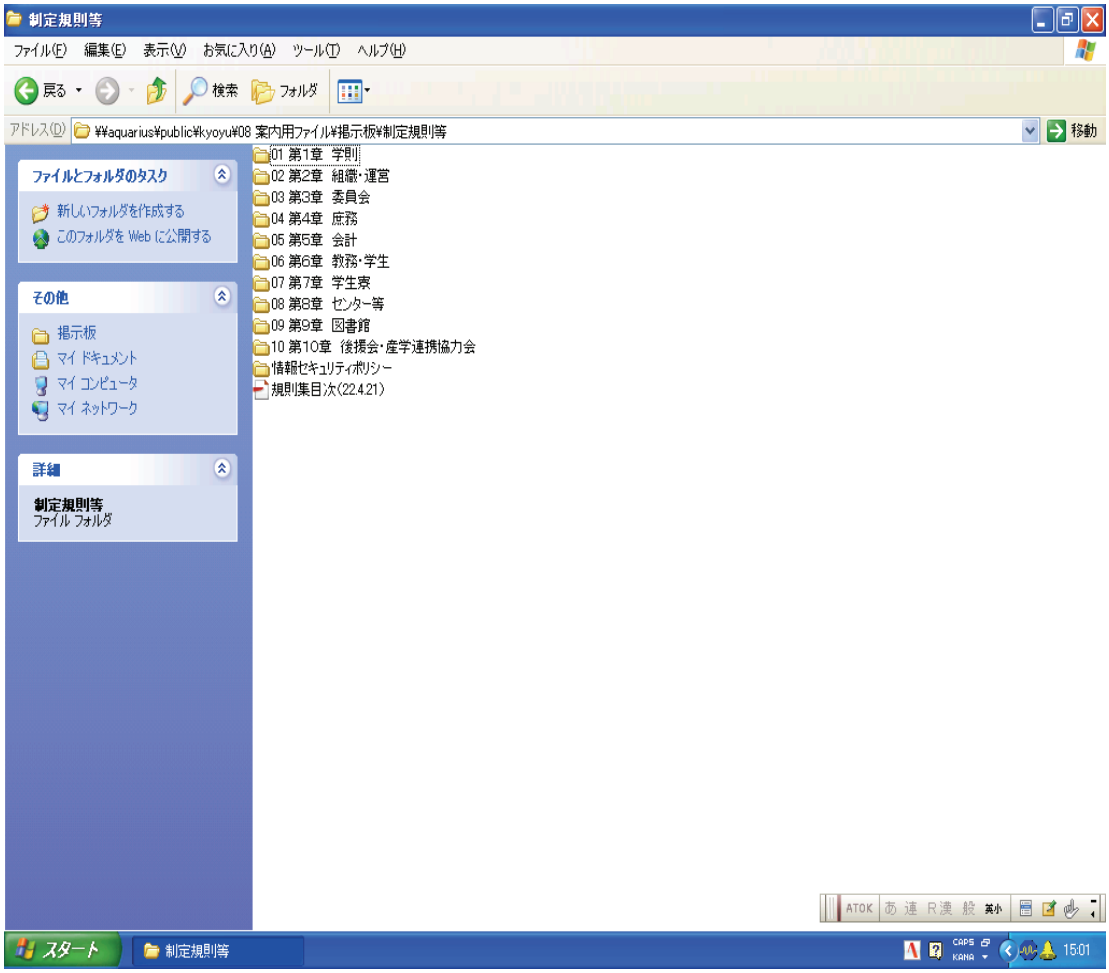
以上のことから管理運営に関する各種委員会及び事務組織は適切に役割を分担し，効果的に活動している。

**観点11－１－③：　管理運営の諸規定が整備されているか。**

（観点に係る状況）

管理運営のための諸規定は，「沖縄工業高等専門学校学則」，「沖縄工業高等専門学校運営組織規則」，「沖縄工業高等専門学校運営企画会議規則」等のほか各種委員会規則等が整備されており，学内のネットワークを介し、全教職員が閲覧できる（資料11－１－③－１）。改正の必要があれば運営企画会議で審議し，校長決裁を経て制定される。

資料11－１－③－１




**沖 縄 工 業 高 等 専 門 学 校 規 則 集（平成22年4月21日現在）**

**第１章　学則**

**１．沖縄工業高等専門学校学則（平成16年学則第1号）**

**第２章　組織・運営**

**１．沖縄工業高等専門学校運営組織規則（平成16年規則第1号）**

２．沖縄工業高等専門学校事務組織規則（平成16年規則第2号）
３．沖縄工業高等専門学校事務分掌規程（平成16年規程第2号）
４．沖縄工業高等専門学校運営企画会議規則（平成16年規則第3号）
５．沖縄工業高等専門学校図書館規則（平成16年規則第21号）
６．沖縄工業高等専門学校参与の会規則（平成17年規則第12号）
７．沖縄工業高等専門学校に置く学科の人材育成上の目的及び教育目標に関する規程
（平成20年規程第1号）

第３章　委員会

１．沖縄工業高等専門学校総務委員会規則（平成16年規則第12号）
２．沖縄工業高等専門学校広報委員会規則（平成16年規則第9号）
３．沖縄工業高等専門学校教務委員会規則（平成16年規則第7号）
４．沖縄工業高等専門学校ＦＤ委員会規則（平成17年規則第9号）
５．沖縄工業高等専門学校入試委員会規則（平成16年規則第18号）
６．沖縄工業高等専門学校学生委員会規則（平成16年規則第8号）
７．沖縄工業高等専門学校学生寮委員会規程（平成16年規則第3号）
８．沖縄工業高等専門学校図書委員会規程（平成16年規程第4号）
９．沖縄工業高等専門学校施設・環境マネジメント委員会規則（平成17年規則第1号）
10．沖縄工業高等専門学校研究推進委員会規則（平成18年規則第6号）
11．沖縄工業高等専門学校専攻科設置検討委員会規則（平成18年規則第7号）
12．沖縄工業高等専門学校ＪＡＢＥＥ対応委員会規則（平成18年規則第8号）
13．沖縄工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則（平成18年規則第9号）
14．沖縄工業高等専門学校職員レクリエーション委員会規程（平成17年規程第3号）
15．沖縄工業高等専門学校知的財産委員会規程（平成18年規程第1号）
16．沖縄工業高等専門学校外部資金受入委員会規則（平成16年規則第5号）
17．【廃止】沖縄工業高等専門学校教員選考委員会規則（平成16年規則第13号）
18．沖縄工業高等専門学校予算配分委員会規則（平成20年規則第2号）
19．沖縄工業高等専門学校進路委員会規則（平成20年規則第3号）
20．沖縄工業高等専門学校国際交流委員会規則（平成21年規則第8号）

第４章　庶務

１．沖縄工業高等専門学校法人文書管理規程（平成16年規程第5号）
２．沖縄工業高等専門学校公印規程（平成16年規程第2号）
３．沖縄工業高等専門学校学生寮宿日直規則（平成16年規則第11号）
４．沖縄工業高等専門学校自動車管理規則（平成16年規則第15号）
５．沖縄工業高等専門学校における自動車運転業務に従事する教職員の専任に関する内規
（平成16年制定）
６．沖縄工業高等専門学校受託研究取扱規則（平成17年規則第7号）
７．沖縄工業高等専門学校共同研究取扱規則（平成17年規則第8号）
８．沖縄工業高等専門学校寄附金取扱規程（平成16年規程第7号）

９．沖縄工業高等専門学校安全衛生管理規程（平成16年規程第6号）
10．沖縄工業高等専門学校客員教授等選考規程（平成17年規程第5号）
11．私事渡航について（平成17年校長裁定）
12．台風来襲の場合における職員の勤務及び休暇の取扱いについて（平成15年制定）
13．「台風来襲の場合における職員の勤務及び休暇の取扱い」に関する申合せ（平成15年制定）
14．沖縄工業高等専門学校における旧姓使用取扱要項（平成16年制定）
15．沖縄工業高等専門学校知的財産権取扱規則（平成18年規則第2号）
16．沖縄工業高等専門学校における外部資金等に係る間接経費の取扱いについて（平成18年制定）
17．沖縄工業高等専門学校国際会議発表支援制度実施要項（平成18年校長裁定）
18．沖縄工業高等専門学校文書処理規則（平成16年規則第10号）
19．沖縄工業高等専門学校学内規則の基準に関する規則（平成16年規則第14号）
20．沖縄工業高等専門学校紀要発行規程（平成18年規程第7号）
21．沖縄工業高等専門学校研究紀要投稿編集要領（平成18年制定）
22．「沖縄工業高等専門学校国際会議発表支援制度実施要項」に関する申合せ（平成18年制定）
23．沖縄工業高等専門学校教職員の自家用自動車の業務使用に関する申合せ(平成18年制定)
24．沖縄工業高等専門学校受託試験取扱規則（平成18年規則第21号）
25．沖縄工業高等専門学校教育研究活動の情報交流に関する申合せ（平成19年制定）
26．沖縄工業高等専門学校身分証明書取扱要項（平成16年制定）
27．個人情報保護管理体制に関する申合せ（平成19年制定）
28．沖縄工業高等専門学校の入学式及び卒業式の日程等に関する申合せ（平成20年制定）
29．沖縄工業高等専門学校公開講座等規則（平成20年規則第4号）
30．沖縄工業高等専門学校遺伝子組換え生物等使用安全管理規則（平成20年規則第5号）
31．沖縄工業高等専門学校外国人研究員受入規則（平成20年規則第15号）
32．沖縄工業高等専門学校感謝状贈呈規程（平成21年規程第4号）
33．沖縄工業高等専門学校キャンパス・ハラスメントの防止等に関する規則（平成21年規則第12号
34．沖縄工業高等専門学校教員選考規則（平成21年規則第15号）
35．沖縄工業高等専門学校教員選考委員会規則（平成21年規則第16号）
36．沖縄工業高等専門学校動物実験等に関する規則（平成22年規則第3号）

第５章　会計

１．沖縄工業高等専門学校における会計機関の補助者の指定に関する規程(平成16年規程第10号)
２．沖縄工業高等専門学校における物品管理事務取扱規程（平成16年規程12号）
３．沖縄工業高等専門学校における政府調達相談者の職位指定に関する規程(平成16年規程第11号)

４．沖縄工業高等専門学校教育研究施設等の有効活用に関する規程（平成17年規程第6号）
５．沖縄工業高等専門学校教育研究施設等の有効活用に関する申合わせ（平成17年制定）
６．沖縄工業高等専門学校防火管理規則（平成16年規則第23号）
７．沖縄工業高等専門学校における毒物及び劇物の管理に関する規則(平成16年規則第20号)
８．沖縄工業高等専門学校授業料債権等の未納督促手続要項（平成16年制定）
９．沖縄工業高等専門学校旅費支給要領（平成17年制定）
10．沖縄工業高等専門学校施設一時使用規則（平成17年規則第4号）
11．学会等（学会、大会、発表会等）参加費・会費及び年会費等の支出の取扱いについて（平成17年校長裁定）
12．【廃止】文部科学省共済組合沖縄工業高等専門学校支部事務取扱要項（平成17年制定）
13．沖縄工業高等専門学校施設一時使用料算定基準（平成18年制定）
14．【廃止】沖縄工業高等専門学校臨時雇用支給基準（平成18年制定）
15．【廃止】沖縄工業高等専門学校謝金支給事務取扱要領（平成18年制定）
16．沖縄工業高等専門学校職員宿舎貸与選考等基準（平成19年制定）
17．沖縄工業高等専門学校総合評価審査委員会規程（平成19年規程第10号）
18．沖縄工業高等専門学校構内交通規制に関する申合せ（平成１９年制定）
19．沖縄工業高等専門学校会計事務内部監査要領（平成２０年制定）
20．指定車を使用した場合の旅費算定に関する申合せ（平成２０年制定）
21-1．物品購入等契約に係る公正入札調査委員会の設置について（平成１９年制定）
21-2．物品購入等契約に係る公正入札調査委員会の運営等に関する取扱い（平成１９年制定）
22．沖縄工業高等専門学校金庫管守取扱要項（平成１９年制定）
23．競争的資金に係る間接経費の運用に関する申合せ（平成２０年制定）
24．沖縄工業高等専門学校電子入札システム官職規程（平成２０年制定）
25．沖縄工業高等専門学校における文部科学省電子入札システム運用規程（平成２０年制定）
26．沖縄工業高等専門学校臨時雇用支給基準を廃止する基準（平成２１年制定）
27．沖縄工業高等専門学校謝金支給事務取扱要領を廃止する要領（平成２１年制定）

第６章　教務・学生

１．沖縄工業高等専門学校学生準則（平成16年規則第4号）
２．沖縄工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則（平成16年規則第22号）
３．沖縄工業高等専門学校追認試験に関する規程（平成16規程第13号）
４．沖縄工業高等専門学校入学料、授業料の免除及び徴収猶予並びに寄宿料の免除に関する規程（平成16年規程第9号）
５．沖縄工業高等専門学校入学料徴収猶予選考基準（平成16年制定）
６．沖縄工業高等専門学校授業料免除及び徴収猶予選考基準（平成16年制定）
７．公認欠席に関する申合せ（平成17年制定）
８．沖縄工業高等専門学校学生の懲戒に関する規程（平成17年規程第1号）

９．学生の処分基準内規（平成17年校長裁定）
10．沖縄工業高等専門学校体育館トレーニング場の取扱いについて（平成17年制定）
11．部及び同好会顧問としての職務について（平成17年校長裁定）
12．沖縄工業高等専門学校課外活動部室使用内規（平成18年制定）
13．沖縄工業高等専門学校における部及び同好会活動の朝練習取扱いについて（平成18年校長裁定）
14．対外試合又は校外部活動について（平成17年校長裁定）
15．暴風警報発令に伴う授業の取扱いに関する申合せ（平成16年制定）
16．出欠席等に関する内規（平成16年制定）
17．定期試験及び中間試験期間に係る部及び同好会の活動の取扱い（平成18年校長裁定）
18．沖縄工業高等専門学校オグレスビー氏委託給与奨学生選考内規（平成18年制定）
19．沖縄工業高等専門学校学生の車両等使用に関する内規（平成18年校長裁定）
20．沖縄工業高等専門学校アルバイトに関する内規（平成18年校長裁定）
21．沖縄工業高等専門学校学生会の部・同好会の技術指導コーチ制度実施要項（平成18年制定）
22．沖縄工業高等専門学校水泳プール使用要項（平成18年制定）
23．他の教育機関へ進路変更するために退学を希望する者の学年修了及び成績証明書発行に関する申合わせ（平成18年制定）
24．【廃止】他高等専門学校からの転入学希望者の受け入れに関する申合わせ（平成19年制定）
25．【廃止】転科に関する申合わせ（平成19年制定）
26．沖縄工業高等専門学校奨学基金運用規則（平成19年規則第9号）
27．沖縄工業高等専門学校奨学基金貸与規程（平成19年規程第9号）
28．沖縄工業高等専門学校学生表彰規程（平成１９年規程第１１号）
29．沖縄工業高等専門学校休業日の部・同好会活動の取扱いについて（平成２０年制定）
30．沖縄工業高等専門学校外国人留学生規程（平成２０年規程第５号）
31．沖縄工業高等専門学校編入学生規程（平成２０年規程第６号）
32．沖縄工業高等専門学校転入生規程（平成２０年規程第７号）
33．沖縄工業高等専門学校転科生規程（平成２０年規程第８号）
34．沖縄工業高等専門学校職業紹介業務運営規程（平成１９年規程第５号）
35．沖縄工業高等専門学校職業紹介における個人情報適正管理規程（平成１９年規程第６号）
36．沖縄工業高等専門学校学則の一部を改正する学則の施行に伴う移行措置に関する規則（平成１９年規則第８号）
37．沖縄工業高等専門学校学生相談室規程（平成１６年規程第１６号）
38．沖縄工業高等専門学校学生表彰細則（平成２０年細則第１号）
39．沖縄工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則（平成２１年規則第２号）
40．沖縄工業高等専門学校退学者の再入学に関する規程（平成２１年規程第３号）
41．沖縄工業高等専門学校研究生規則（平成２２年規則第１号）
42．沖縄工業高等専門学校入学料免除選考基準（平成２２年制定）

第７章　学生寮
１．沖縄工業高等専門学校学生寮管理運営規則（平成16年規則19号）
２．沖縄工業高等専門学校学生寮高学年生入寮選考内規（平成18年校長裁定）
３．沖縄工業高等専門学校寮生の処分に関する規程（平成17年規程第2号）
４．沖縄工業高等専門学校寮生心得（平成16年制定）
５．沖縄工業高等専門学校合宿等にかかる学生寮の使用心得（平成17年制定）
第８章　センター等
１．沖縄工業高等専門学校情報処理センター規則（平成16年規則第16号）
２．沖縄工業高等専門学校情報処理センター運営委員会規程（平成16年規程第8号）
３．沖縄工業高等専門学校情報処理ネットワーク利用規則（平成16年規則第17号）
４．沖縄工業高等専門学校ＩＴ教室利用要項（平成18年制定）
５．沖縄工業高等専門学校情報セキュリティ基本方針（平成18年制定）
６．沖縄工業高等専門学校情報セキュリティ対策基準（平成18年制定）
７．沖縄工業高等専門学校技術支援室規則（平成20年規則第6号）
８．沖縄工業高等専門学校技術支援室運営委員会規程（平成20年規程第2号）
９．沖縄工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則（平成19年規則第6号）
10．沖縄工業高等専門学校地域共同テクノセンター運営委員会規程（平成19年規程第4号）
11．沖縄工業高等専門学校技術支援センターの改組に伴う関係規則の整備に関する規則
（平成２０年規則第１０号）
12．沖縄工業高等専門学校技術支援センターの改組に伴う関係規程の整備に関する規程
（平成２０年規程第９号）
第９章　図書館
１．沖縄工業高等専門学校図書館利用規程（平成16年規程第14号）
２．沖縄工業高等専門学校図書館文献複写規程（平成16年規程第15号）
３．沖縄工業高等専門学校図書館一般利用者利用要項（平成16年制定）
第１０章　後援会・産学連携協力会
１．沖縄工業高等専門学校後援会会則（平成16年制定）
２．沖縄工業高等専門学校産学連携協力会会則（平成16年制定）
３．沖縄工業高等専門学校産学連携協力会職員雇用規則（平成17年制定）

(出典　共有ファイルサーバー)

（分析結果とその根拠理由）

管理運営のための諸規定が適切に定められており，規則集として整備されている。

**観点11－２－①：　外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。**

（観点に係る状況）

本校における管理運営，教育研究活動等の状況について，評価，助言又は勧告を得るため，平成17年に沖縄工業高等専門学校参与の会規則を制定した（資料11－２－①－１）。学年進行の終了した平成21年度に第１回の参与の会を開催し，施設見学，質疑応答が行われた（資料11－２－①－２）。外部評価の際に頂いた意見・提言は，参与の会報告書としてまとめられ，適切な形で管理運営に反映されている（資料11－２－①－３）。

資料11－２－①－１

# 沖 縄 工 業 高 等 専 門 学 校 参 与 の 会 規 則

（趣旨）

第１条　この規則は、沖縄工業高等専門学校学則（平成１６年学則第１号）第７条の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校参与の会（以下「参与の会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第２条　参与の会は、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）の管理運営、教育研究活動等の状況について評価、助言又は勧告を行い、本校での自己点検・評価に関する活動を支援することを目的とする。

（任務）

第３条　参与の会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項について外部評価を実施するものとする。

(1) 本校の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画等に関する事項

(2) 本校の教育研究活動等の状況について本校が行う自己点検・評価に関する事項

(3) その他本校の管理運営に関する事項

（組織）

第４条　参与の会は、高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有し、本校の発展に理解ある次の各号に掲げる学外者の中から、校長が委嘱した若干名の参与をもって組織する。

(1) 経済・産業界の関係者

(2) 技術者教育関係機関の職員又は経験者

(3) 大学又は高等専門学校等の教育研究機関の教員又は経験者

(4) 本校の所在する地域の関係者

(5) その他高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者

（任期）

第５条　参与の任期は２年とし、再任を妨げない。

２　前項の参与に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（会長）

第６条　参与の会に会長を置き、校長が指名する。

２　会長に事故等があるときは、校長が指名する参与がその職務を代行する。

（運営）

第７条　参与の会の会議は、校長が招集し、会長がその議長となる。

２　会長が必要と認めたときは、参与以外の者を会議に出席させ、意見を聴取することができる。

（事務）

第８条　参与の会の事務は、総務課において処理する。

（雑則）

第９条　この規則に定めるもののほか、参与の会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附　則

この規則は、平成１７年１１月１日から施行する。

附　則（平１９．３．３０規則第３号）

この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

（出典　沖縄工業高等専門学校学校参与の会規則）

資料11－２－①－２

参与の会日程及び会次第

Ⅰ．日　　時　　平成２２年2月１８日（木）　　１４：００～１７：００

Ⅱ．場　　所　　沖縄工業高等専門学校　メディア棟２階　会議室

Ⅲ．会次第　　予定時刻

| | |
|---|---|
| （1）開　　会 | １４：００ |
| （2）校長挨拶 | |
| （3）参与紹介及び本校出席者紹介 | |
| （4）会長選出 | |
| （5）学校施設説明 | １４：２０ |
| （6）施設見学 | １４：３０ |
| 休　　憩 | １５：００ |
| （7）学校概要説明 | １５：１０ |
| （8）意見交換 | １６：００ |
| （9）閉　　会 | １７：００ |

（出典　平成21年度参与の会報告書　P.２抜粋）

資料11－２－①－３

参与からの質問・提言等に対する回答及び今後の対応等

**参与からの提言等**

| | | 参与からの提言等 | 提言に対する<br>今後の対応等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 高専のＰＲ | 入試倍率が下がってきているが、単純に理科離れと片付けるのでなく、学校説明会や中学校訪問等の他にもっと高専の魅力を中学校側にＰＲする必要があるのではないか。 | これまで、学校説明会、中学校訪問等による入学志願者確保の取り組みをしておりましたが、不十分と言える点があったかと思います。今後、学内で高専の魅力をＰＲする方法について検討させて頂きます。 |
| 2 | 自己評価の方法 | 今回の自己評価では、数値目標あるいは他との比較検討などによる分析・評価がちょっと弱いと思いますので、今後、自己評価に際しては改善検討したらどうかと思います | 今回の自己評価では目標に対する達成度や結果に対する対応をご審議いただくという内容には必ずしもなっておりませんでした。ご提言を受けて、次回以降の参与の会でご報告する自己点検については改善を検討させて頂きます。 |

（出典　平成21年度参与の会報告書　P.68抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

本校では管理運営，教育研究活動等の状況について助言・提言を得るために外部有識者による参与の会を実施し，参与の会報告書としてまとめられている。外部評価での意見・提言を受け，本校の管理運営に反映されている。

**観点11－３－①：　自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，それらの評価結果が公表されているか。**

（観点に係る状況）

本校の管理運営，教育研究活動等に対する自己点検・評価は，沖縄工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則に規定されており（資料11－３－①－１），総合的な自己点検・評価を実施し，自己点検・評価報告書として公表されている（資料11－３－①－２）。平成22年２月には，第三者評価として本校の管理運営，教育研究活動等の状況について助言・提言等を得る目的で，「参与の会」を開催し，外部有識者から意見を聞き，「参与の会報告書」としてまとめ学内及び関係機関など広く公表されている（資料11－３－①－３，資料11－３－①－４，資料11－３－①－５）。

資料11－３－①－１

沖縄工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則

（設置）

第１条　沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校における自己点検・評価に関する事項を審議するため、沖縄工業高等専門学校自己点検・評価委員会（以下「委員　会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 自己点検・評価の基本方針に関する事項
(2) 教育研究プログラムの総合評価に関する事項
(3) 自己点検・評価報告書の定期的な作成と公開に関する事項
(4) 自己点検・評価報告書の結果に基づく改善に関する事項
(5) 学外者による自己点検・評価結果等の検証に関する事項
(6) 認証評価機関による認証評価に関する事項
(7) その他自己点検・評価に関する事項

(略)

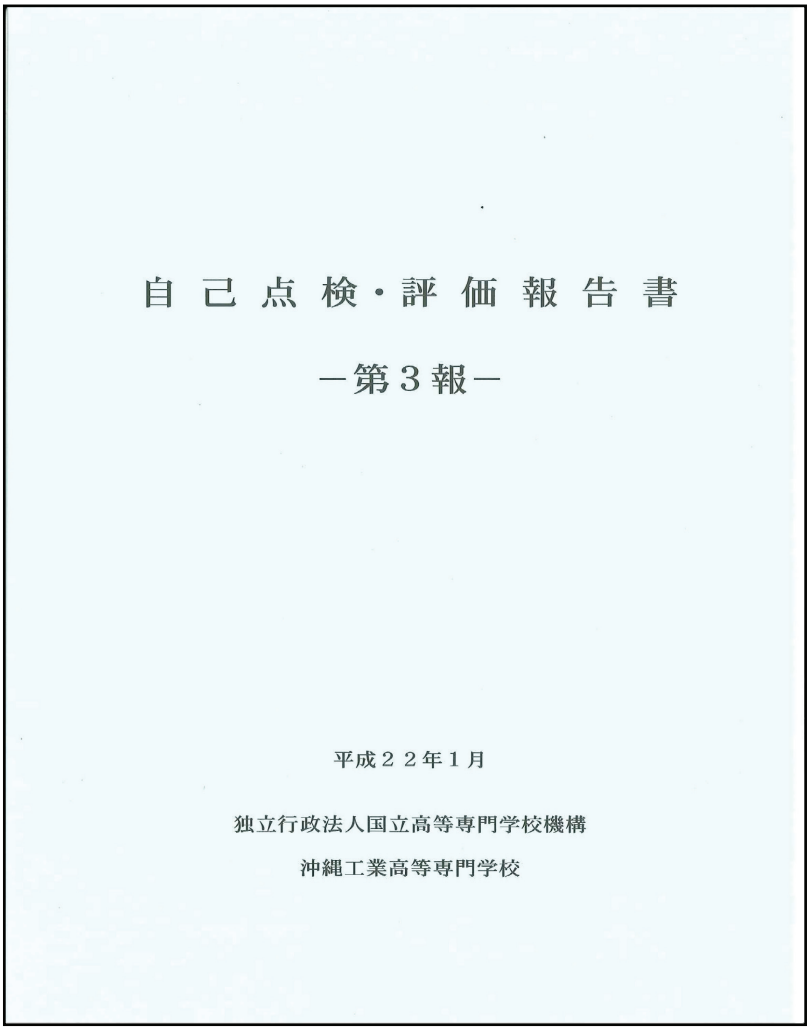
（報告）

第７条　委員長は、委員会での審議結果を校長に報告するものとする。

（略）

（出典　自己点検・評価委員会規則　抜粋）

資料11－３－①－２



自 己 点 検・評 価 報 告 書

－第３報－

平成２２年１月

独立行政法人国立高等専門学校機構

沖縄工業高等専門学校

(出典　自己点検・評価報告書－第３報－　抜粋)

資料11－３－①－３

平成２１年度

# 参与の会報告書

平成２２年２月１８日（木）

沖 縄 工 業 高 等 専 門 学 校

（出典　平成21年度参与の会報告書　抜粋）

資料11－３－①－４




(出典　本校ウェブページ)

資料11－３－①－５

## 自己点検・評価書第3報、平成 21 年度参与の会報告書配布先一覧

| 配布先 | 部数 | 備考 |
|---|---|---|
| 文部省高等教育局専門教育課 | 3 | |
| 機構本部 | 3 | |
| 琉球大学 | 2 | |
| 長岡技術科学大学 | 1 | |
| 豊橋技術科学大学 | 1 | |
| 各高専(国立・公立・私立) | 61 | 国立 54、公立 4、私立 3 |
| 教職員 | 83 | 校長 1、教員 65、事務部長 1、課長 2、補佐 3、各係 10、支援室 1 |
| 沖縄総合事務局 | 1 | |
| 沖縄県教育庁 | 1 | |
| 名護市役所 | 3 | |
| 県内図書館 | 4 | 沖縄県立図書館・那覇市立中央図書館・沖縄市立図書館・名護市立中央図書館 |
| 参与 | 7 | |
| 予備 | 30 | |
| 合計 | 200 | |

(出典　総務課資料)

（分析結果とその根拠理由）

自己点検評価，有識者による外部評価が行われており評価結果は，報告書としてまとめられ公表されている。

以上のことから，自己点検・評価が本校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，それらの評価結果が公表されている。

**観点11－３－②：　評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され，有効に運営されているか。**

（観点に係る状況）

自己点検・評価，外部評価の評価結果は報告書としてまとめられ，公表されるとともに教職員へ配布され，意識高揚を計っている。また，自己点検・評価，外部評価の結果を受け（資料 11－３－②－１）その結果は，自己点検・評価委員会で検証し，審議結果は，校長に報告され学校運営に対するフィードバックの取組みがなされている（資料 11－３－②－２）。

資料 11－３－②-１

平成２１年度参与の会報告書

**参与からの提言等**

| | | 参与からの提言等 | 提言に対する<br>今後の対応等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 高専のＰＲ | 入試倍率が下がってきているが、単純に理科離れと片付けるのでなく、学校説明会や中学校訪問等の他にもっと高専の魅力を中学校側にＰＲする必要があるのではないか。 | これまで、学校説明会、中学校訪問等による入学志願者確保の取り組みをしておりましたが、不十分と言える点があったかと思います。今後、学内で高専の魅力をＰＲする方法について検討させて頂きます。 |
| 2 | 自己評価の方法 | 今回の自己評価では、数値目標あるいは他との比較検討などによる分析・評価がちょっと弱いと思いますので、今後、自己評価に際しては改善検討したらどうかと思います | 今回の自己評価では目標に対する達成度や結果に対する対応をご審議いただくという内容には必ずしもなっておりませんでした。ご提言を受けて、次回以降の参与の会でご報告する自己点検については改善を検討させて頂きます。 |

(出典　平成21年度参与の会報告書　Ｐ．68抜粋)

資料11－３－②－２

**平成２２年度第１回沖縄工業高等専門学校広報委員会専門部会議事要旨（抜粋）**

Ⅰ．日　　時　　平成２２年 ５ 月１７日（月）　１７時３０分 ～ １８時２０分

Ⅱ．場　　所　　大会議室

Ⅲ．出 席 者　　伊波委員長、眞喜志（治）、山田、正木、工藤、青木、武田及び真志喜の各委員
[redacted]

Ⅳ．議　　題
（１）平成２１年度第３回広報委員会専門部会議事要旨の確認について
（２）平成２２年度広報委員会専門部会委員について
（３）広報委員会専門部会における年間業務及び役割分担について
（４）各学科のWebページの充実に向けた取り組みについて
（５）平成２２年度沖縄工業高等専門学校学校要覧について
（６）平成２２年度沖縄高専だよりについて
（７）平成２２年度沖縄工業高等専門学校校報について
（８）ＯＴＶキャンパス情報について
（９）その他
　①　ＨＰのアクセスカウンターについて

Ⅴ．議事概要

（略）

（４）各学科のWebページの充実に向けた取り組みについて
　委員長から、各学科のWebページの充実に向けた取り組みについて次のような発言があった。
・教務主事から、受験生確保の点からも各学科のＨＰを充実させ情報を発信して欲しいとの要望を受けていること。
・次回の会議（６月中旬予定）では、各学科のWebページの充実について方法論を含めて検討すること。

（略）

（８）ＯＴＶキャンパス情報について
　事務方から、ＯＴＶキャンパス情報について次のような報告があった。
・ＯＴＶキャンパス情報については、一昨年から行っている。
・ＯＴＶの担当者が今年から変わったため今年度実施されるかは未定である。今後ＯＴＶと調整する。
・ＯＴＶがキャンパス情報を実施しない場合は、学校紹介ＤＶＤなどを作成してはどうか。

　引き続き工藤委員から、本件に関する入試委員会での議論について次のような報告があり、今後、引き続き検討することとした。
・ＯＴＶのキャンパス情報は、無いよりはあったほうがよいのではないか。
・ＤＶＤの作成は、メディア情報工学科及び情報通信システム工学科の学生に作成を依頼してはどうか。

（略）

（出典　広報委員会専門部会議事要旨　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

評価結果は、報告書としてまとめられ，公表され，自己点検・評価・外部評価の結果は、自己点検・評価委員会で検証され，学校運営にフィードバックされている。

### （２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

該当なし。

（改善を要する点）

該当なし。

### （３）基準11の自己評価の概要

学校の目的を達成するために，校長のリーダーシップの下，管理運営が行われており，それを補佐する総務主事，教務主事，学生主事，寮務主事を置き，各主事は校長の命を受けて定められた業務を行う。専攻科長，各学科長，総合学科長，図書館長，情報処理センター長，地域共同テクノセンター長，学生相談室長，技術支援室長等を配置し，それぞれの組織における管理・運営に携わっている。

また，円滑な学校運営を図るため，運営企画会議，学科長会議，専攻科会議，教員会議，課程の修了及び卒業に関する認定会議，また，管理運営，教育における基本的な事項を審議するため各種委員会を組織し，校長を補佐する体制が整備されている。

本校の管理運営に関する重要事項は，校長を主宰とする運営企画会議で審議を経て最終的に校長により意志決定がなされ教員会議などを通じて周知される。

各種委員会は校長の諮問に応じ，管理運営，教育研究に関する諸問題を審議し，事務部の担当部課長が関係委員会の構成員となるとともに，担当係が各委員会の事務を処理している。

事務組織は，事務部長の下，総務課，学生課を置き，規程により職務内容，事務分掌が定められている。技術職員については，技術支援室に，応用加工分析系及び情報通信制御系の２つの分野が置かれ，業務を分担して行い，教員と協力し学生の指導にあたっている。

管理運営のための諸規定は適切に定められており，規則集として整備されている。

外部有識者の意見を聴取するため参与の会が設置され，参与の会での外部評価委員からの意見・提言等は，参与の会報告集として公表されている。

自己点検・評価，外部評価が本校の活動の総合的な状況に対して行われ，評価結果は，報告書としてまとめられ公表されている。